2024 年度

事業報告書

2025 年 3 月 27 日

社会福祉法人どろんこ会

目　次

1. 朝霞どろんこ保育園
2. 日高どろんこ保育園
3. メリー★ポピンズ 東武練馬ルーム
4. 鶴見どろんこ保育園
5. 越谷どろんこ保育園
6. 志木どろんこ保育園
7. 板橋仲町どろんこ保育園
8. P'S スマイル保育園
9. 三原どろんこ保育園
10. メリー★ポピンズ アトレ大森ルーム
11. 市川どろんこ保育園
12. 新座どろんこ保育園
13. 仲町どろんこ保育園
14. 新羽どろんこ保育園
15. 清瀬どろんこ保育園
16. 美しが丘どろんこ保育園
17. 大豆戸どろんこ保育園
18. 草加松原どろんこ保育園
19. 越谷レイクタウンどろんこ保育園
20. 駒沢どろんこ保育園
21. メリー★ポピンズ 清瀬ルーム
22. メリー★ポピンズ ラスカ茅ヶ崎ルーム
23. つくばどろんこ保育園
24. 岩切どろんこ保育園
25. メリー★ポピンズ エスパル仙台ルーム
26. 東寺尾どろんこ保育園
27. 船橋どろんこ保育園
28. 浦安どろんこ保育園
29. ふじみ野どろんこ保育園
30. 武蔵野どろんこ保育園
31. メリー★ポピンズ 市川ルーム
32. 若林どろんこ保育園

33. 中目黒どろんこ保育園
34. 船橋どろんこ保育園分園
35. 南魚沼どろんこ保育園
36. 和光どろんこ保育園
37. 三鷹どろんこ保育園
38. 万博公園どろんこ保育園
39. メリー★ポピンズ 桶川ルーム
40. 北千住どろんこ保育園
41. 一宮どろんこ保育園
42. 郡山どろんこ保育園
43. 学園の森どろんこ保育園
44. 中里どろんこ保育園
45. メリー★ポピンズ アトレ川崎ルーム
46. 宮下どろんこ保育園
47. つつじヶ丘どろんこ保育園
48. 春日どろんこ保育園
49. 前原どろんこ保育園
50. 石川どろんこ保育園
51. 馬場どろんこ保育園
52. 読売ランド前どろんこ保育園
53. 守谷どろんこ保育園
54. メリー★ポピンズ 登戸ルーム
55. メリー★ポピンズ 川崎西口ルーム
56. 八山田どろんこ保育園
57. 三筑どろんこ保育園
58. メリー★ポピンズ 南砂ルーム
59. メリー★ポピンズ 松山ルーム
60. 篠栗どろんこ保育園
61. 内箕輪どろんこ保育園
62. メリー★ポピンズ 海老名ルーム
63. 香取台どろんこ保育園
64. 東大和どろんこ保育園
65. 見附どろんこ保育園
66. 袖ケ浦どろんこ保育園
67. 西崎どろんこ保育園
68. 発達支援つむぎ 荻窪ルーム

69. 発達支援つむぎ 吉祥寺ルーム
70. 発達支援つむぎ 阿佐ヶ谷ルーム
71. 発達支援つむぎ 駒沢ルーム
72. 発達支援つむぎ 目白ルーム
73. 発達支援つむぎ 横浜西口ルーム
74. 発達支援つむぎ ふじみ野ルーム
75. 発達支援つむぎ 池尻ルーム
76. 発達支援つむぎ 横浜東口ルーム
77. 発達支援つむぎ 府中ルーム
78. 発達支援つむぎ 桶川ルーム
79. 発達支援つむぎ 北千住ルーム
80. 発達支援つむぎ 調布ルーム
81. 発達支援つむぎ つつじヶ丘ルーム
82. 発達支援つむぎ 宮下ルーム
83. 子ども発達支援センターつむぎ 浦和美園
84. 発達支援つむぎ 八山田ルーム
85. 発達支援つむぎ 新羽ルーム
86. 発達支援つむぎ 生田ルーム
87. 発達支援つむぎ 武蔵野ルーム
88. 発達支援つむぎ 内箕輪ルーム
89. 発達支援つむぎ 海老名ルーム
90. 発達支援つむぎ 香取台ルーム
91. 発達支援つむぎ 北朝霞ルーム
92. 発達支援つむぎ 田無ルーム
93. 子ども発達支援センターつむぎ 東大和
94. 発達支援つむぎ 見附ルーム
95. 発達支援つむぎ 袖ケ浦ルーム
96. 発達支援つむぎ 前原ルーム
97. 発達支援つむぎ 篠栗ルーム

２０２４年度　朝霞どろんこ保育園　事業報告書
（保育所における自己評価）

１．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

生活力を体得し、自分で考え、選択し、行動することのできる心身ともに豊かでたくましく生きる力のある子どもを育成するため、園周辺地域の恵まれた自然環境を活かした活動を実施した。
畑仕事、畑で取れた野菜の加工、飼育している鶏やヤギの世話、焚き火体験、黒目川での川遊びなどを日常的に実施し、その体験の中で子ども達が日々挑戦し目の前の壁を乗り越えながら、生きる力を自ら育てていく姿が多く見られた。

スタッフ育成については、子どもの生涯にわたる人格形成にとって乳幼児期の保育が、極めて重要な時期であることを一人ひとりが深く理解するため、園内研修や外部研修への参加を積極的に行った。

地域交流については、近隣保育園や小学校、その他福祉施設、地域の子育て世帯など、前年度と比較し交流の機会が増えた。園児・保護者・職員・地域・行政が相互的かつ協同的に子育てに携わり、朝霞どろんこ保育園が、地域が一体となった子育て環境の場として、地域に貢献できた１年となった。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

１	計画・ねらい	いつ来ても居心地が良い施設環境をつくる。
	実践結果	接遇において、気持ちが良い挨拶や美観が保たれていることが基本である事を共通認識とし、スタッフ全員で取り組んで行った。 子ども、保護者、施設利用者に対して受容的に関わることを心がけ、風通しの良い、活気ある園内環境を目指した。
	次年度方向性	園内の美観や接遇を更に高い水準で保ち、安全で安心感のある保育を実践していく。
２	計画・ねらい	園内研修を通し、互いが学び合う集団となる。
	実践結果	保育を通して法人理念についての理解を深めながら、個別に設定した目標達成に向けスタッフ１人ひとりが真摯に取り組んで行った。 法人が運営している研修動画コンテンツを園会議に取り入れる目標については、達成率は70%程度となった。
	次年度方向性	園会議のテーマに沿って研修動画コンテンツを積極的に取り入れる仕組みをつくる。施設長、主任、リーダーが個人と園全体の課題に対して改善に向け進捗状況を共有する時間をもつ。
３	計画・ねらい	怪我・ご意見のケーススタディ研修 自園の環境の中で発生しやすい怪我の分析と改善案の策定。保護者、地域からいただく貴重なご意見の根幹や背景の理解。
	実践結果	安全対策係を中心に自園で起きたヒヤリハット、インシデント、通院事故事例を集計し園内研修に活用した。事故が発生しやすい場所や時間帯、学年、怪我内容など、集計を分析する事で見えてくる傾向をスタッフ全員で共有し、事故防止策を話し合った。

	次年度方向性	引き続き園内研修で事故記録事例の集計と分析を行い、今年度同様に重大事故0件を継続する。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保育園での日常から、子どもたちのありのままの姿や成長をわかりやすく伝え続けることで、保護者の安心と信頼関係をつくる。
	実践結果	毎日のお迎え対応を中心に、保護者面談、懇談会、連絡帳、タイムライン、園ブログ、運動会、生活発表会を活用し、子ども達の姿を伝えた。 面談では、保護者の話を傾聴し、困りごとやニーズや、背景について聞き取りを行った。
	次年度方向性	ポートフォリオやドキュメンテーションなども活用し、子どもの成長の過程を更に分かりやすく伝えていきたい。
2	計画・ねらい	目で見て安心できる保育環境を整備する。
	実践結果	初めて園を訪問する保護者の目線となり、清掃や整理整頓を実施した。掃除分担表については、法人内のスーパーバイザーの提案を参考にしながら定期的に改修し、スタッフ全員が役割を明確にして、被っている個所や漏れがないよう清掃を行った。
	次年度方向性	清掃の実施状況を参照し、清掃が滞っていた個所は、新たに日時を設定し、漏れなく計画的に清掃を実施する。
3	計画・ねらい	個別面談の利用促進
	実践結果	子育てのパートナーとしての信頼関係を構築すべく、保護者が「面談したい」と感じたときに、即時対応できるよう柔軟にスタッフ体制を変更した。
	次年度方向性	個人面談が十分に浸透するよう、懇談会等の機会を通して保護者へ発信し、今年度以上に面談の機会をつくるようにする。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	潜在的ニーズへの働きかけ
	実践結果	保育園見学や出前保育、自治体が発信しているSNSと連動した広報活動により、地域の子育て世帯の来訪が増えた。
	次年度方向性	自治体を活用した広報活動に加え、地域子育て支援拠点事業を利用したことがない家庭に対し、利用のしやすさを顕示していく。
2	計画・ねらい	地域子育て世帯への育児相談
	実践結果	イベントの参加を通して、発達や離乳食等に関する悩みを保護者同士で話し合ったり、子育て支援員に気軽に相談したりする機会を提供することができた。
	次年度方向性	育児相談について、子育て支援員だけでなく、保育士、看護師、調理職員、嘱託医など多角的な視点から気軽に相談できる機会を提供する。
3	計画・ねらい	自園の環境を活かした支援活動

	実践結果	鶏やヤギの世話、どろんこ遊び、野菜の収穫、かまど調理、焚火など季節毎に朝霞どろんこ保育園ならではの環境を活かした体験活動を実施することができた。
	次年度方向性	今度同様、自園の環境を活かしたイベントを展開し、参加家庭に子育ての楽しさや地域とのつながりを感じてもらう。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	スタッフの人間力育成
	実践結果	園で発生した怪我や利用者からいただいたご意見ご提案を積極的に園会議で取り上げ、改善案を検討し、話し合った。経験を活かし次につなげていくマインドが、スタッフ全員に少しずつ浸透していった。
	次年度方向性	研修動画(園長大学®保育士大学)を活用する。日々の学びや挑戦し続ける事を楽しみ、スタッフ全員の人間力を磨いていく。
2	計画・ねらい	チーム保育
	実践結果	心理的安全性の高い環境のもと、クラス担当や立場、役職を越え全スタッフがすべての児童を把握し、一つのチームとして保育を行っていった。
	次年度方向性	自園のスタッフだけではなく、園に関わるステークホルダー全員で保育の質向上に向け協働していく。
3	計画・ねらい	就学後の子ども達の未来を想像しながら保育計画を立案する。
	実践結果	小学校見学、小学校職員や小学生との交流を通し、小学校の様子や就学後の子ども達の姿から保育計画を立案し、随時加筆修正を行った。
	次年度方向性	次年度も小学校との交流を継続しながら「乳幼児期の子ども達が将来を生きるために必要な力は何か」を話し合い、保育計画に活かしていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食の循環を知る機会を生活の中に取り入れる。
	実践結果	畑仕事と生き物(ヤギ、鶏)世話を連動し、畑のたい肥作りを行った。鶏卵や収穫した野菜を使った自園調理、地域への卵販売を実施した。また梅ジュース作り、味噌作り、たくあん作り等の食材加工、魚の解体を通して食の循環を知る機会を積極的に生活の中に取り入れた。
	次年度方向性	近隣園に対し、鶏やヤギの世話を体験する機会をつくる。ISO14001の環境目標を継続して達成するため、生き物の飼育、畑仕事の意義をスタッフ全員でより深く掘り下げて理解していく。
2	計画・ねらい	給食残渣、調理過程で発生した生ごみの削減と活用。
	実践結果	給食会議で話し合い、給食残渣を定期的に測定し記録検証を行った。改善案を料理や給食に取り入れていく事で、給食残渣が順調に減少していった。
	次年度方向性	スタッフによる丁寧な給仕、また今年度同様にコンポストを使用し、調理過程で発生した生ごみや残渣を減らしていく。
3	計画・ねらい	樹木や木材に親しむ体験。

	実践結果	自園だけではなく、系列保育園や近隣施設、地域の子育て世帯に園庭を利用していただき、焚き火や果樹に親しむ機会を提供できた。
	次年度方向性	広報活動により、地域の子ども達が日常的に樹木や木材に親しむ体験ができる機会をつくる。

〈6〉遊び環境の探求

1	計画・ねらい	遊びの大切さを理解する。
	実践結果	室内や園庭の遊び環境について園会議で話し合い、定期的に環境の再構成を行った。また保護者懇談会や保育参加を通して遊びで育つ力や学びに繋がる様子を保護者に伝えていった。
	次年度方向性	法人の動画コンテンツを活用し、園内研修で遊びと遊び環境について学ぶ機会をつくる。
2	計画・ねらい	主体的、対話的で深い学びに繋がる遊び環境の探求
	実践結果	朝の会、帰りの会で子どもの言葉に耳を傾け、子どものやりたい活動の保障と子ども達が個別面と集団面で遊び込むことができる環境の両立をスタッフ間で模索していった。
	次年度方向性	引き続き遊びゾーン等の環境を整え、少しずつ多様な素材を用意していく。次年度も帰りの会で活動の振り返り時間をつくり、遊びの継続と深まりを促し学びに繋げていく。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半：4~9月	32人	90人	90人	114人	102人	144人	572人
年度後半：10~3月	36人	90人	90人	123人	96人	144人	579人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	216人	240人	245人	309人	266人	261人	338人	294人	313人	311人	298人	315人	3406人
うち0歳児	0人	0人	1人	0人	8人	6人	8人	15人	11人	16人	10人	17人	92人

（解説）前年度と比較し０歳児の延長保育利用は約５０％程度減少傾向となった。

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	1人	2人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	3人
うち0歳児	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人

（解説）６月以降の一時保育利用者はなし

〈2〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　（３月１日時点）

常勤スタッフ	保育士	15人	看護師	1人	栄養士	2人	調理員等	1人
	事務	1人	言語聴覚士	0人	臨床心理士	0人	再雇用スタッフ	0人
パートスタッフ	保育士	2人	子育て支援員	2人	用務	1人	学生アルバイトスタッフ	1人

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	コンピテンシー。 保育の質向上、改善に向けての勉強会。 園内研修（グループワーク・ロールプレイング） 各月のねらいについて共有・各担当者からの報告、共有。
給食運営会議	月1回	食育活動の実施内容確認と振り返り。 配膳下膳の流れ、喫食状況の確認。 給食残渣の報告と改善策の立案。

事故防止委員会	月1回	自園及び系列園で発生した事故の検証、対策立案。 ヒヤリハット・インシデントの分析と改善計画の策定。
ケース会議	月1回	要支援児個別計画の振り返り及び省察と見直し。
リーダー会議	月1回	各クラスの保育内容の振り返り。園内連携、園全体の課題共有と対策立案。
乳児幼児連絡会	毎日	本日のねらい、アレルギー除去食、ケガ及び子どもの姿を共有。

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
食育会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長
主任会議	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	身体測定・定期健康診断の実施、施設清掃と衛生管理にかかる消耗品及び備品の管理、感染症予防対策の園内共有。 年間保健計画の振り返りを看護師、施設長とともに実施した。 次年度は年間を通して養護の観点から衛生管理に努めていく。
安全対策係	ハザードマップの更新、施設内外の設備点検及び事故防止会議を実施した。インシデント報告に対してヒヤリハットの件数が少なかったので、次年度はスタッフが報告しやすい仕組みをつくっていく。
防火管理者	実施した避難訓練及び消火訓練・防災自主点検の実施管理を行った。消防署との連携窓口業務を行った。次年度は消防士立ち合いでの避難訓練実施を検討したい。
食品衛生管理係	給食残渣の確認。食品の品質衛生管理。食育会議の開催責任者。次

	年度は給食に立ち会いながらスタッフに対し、食品衛生指導を行っていきたい。
畑係	年間農業計画に基づいて畑状況の管理、草刈り、道具類の維持補充、園会議にて畑活動の課題と改善案を共有した。堆肥作りに際し、生き物係と更なる連携をとっていきたい。
生き物係	ヤギ・ニワトリ等、生き物の健康管理、子ども達や職員の飼育活動の把握や課題検討における責任者を担った。今年度はニワトリが90羽以上となり、近隣園スタッフと協力しながら飼育活動を行った。

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	前年度の反省を活かし、園主導になりすぎないよう保護者と協同して準備・進行を行った。
彩夏祭係	保護者が主体となり予行練習等の準備、当日の進行を行った。8月開催のため、予行練習から熱中症に留意しながら実施した。

4. 保育支援

〈1〉保育･保育参加･保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	ご意見ご要望は即応を心がけ、真摯かつ誠実に保護者の気持ちに寄り添いながら対応した。 お子様の発達や園の様子で気になる様子があれば、随時保護者面談および発達相談を実施した。 子どもの発達、興味関心に合わせ保育内容や環境の再構成を行った。園周辺環境を活かした活動を年間行事計画に取り入れ、タイムラインやお迎え伝達、ブログ等での発信を行った。
保育参加	4～3月まで　合計24名　が参加済み　　（3月1日時点） ・各学年では、5歳児保護者の参加が最も多かった。
保護者面談および発達相談	4～3月まで　合計10名　が参加済み　　（3月1日時点） ・主な相談内容：発達について、園生活の中での友だち関係。

〈2〉計画した年間行事の振返り

・別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

Ｉ	計画・ねらい	人や食材との関わりから、食べる意欲を育てる。
	実践結果	畑仕事が充実し、子ども自ら育てた野菜を収穫して実際に食す事で、食に対する興味関心や意欲につなげていった。 給食時は全スタッフが連携し合い丁寧に関わった。食の豊かさを実感するとともに、人と食卓を囲むことの喜びを感じられるよう配慮した。
	次年度方向性	一人ひとりの喫食状況を把握しながらより丁寧に食事提供を行うことで、残食減にもつなげていく。
2	計画・ねらい	食の循環を理解し、実感することで生命の尊さを頭と心で理解する。
	実践結果	自園の環境を活かし、生き物の世話・畑仕事・堆肥作り・魚を解体して食す等の体験を通して、食のサイクルや命の尊さを頭と心で理解しながら学んでいった。
	次年度方向性	朝霞どろんこの環境を活かした食育体験を近隣園と合同で実践する。鶏の飼育や卵の販売を子どもたちが関わり食のサイクルを理解していく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月10日／10月28日に実施
歯科検診	6月3日に朝霞どろんこ保育園にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 6月に朝霞どろんこ保育園にて手洗い指導を実施 ② 8月26日に朝霞どろんこ保育園にて看護師による熱中症についての指導を実施 ③ 9月25日に朝霞どろんこ保育園にて服部歯科医院による歯磨き指導を実施 ④ 12月10日11日、5歳児対象に性教育を実施
流行した感染症	① 2月に新型コロナウイルス感染症、園児3名・スタッフ1名に蔓延しに蔓延し、2月末に終息。
発作・痙攣等の対応	なし

エピペン使用できるスタッフの状況	2024年3月21日に朝霞どろんこ保育園にてエピペン研修をスタッフ計18名が受講し習得済み。 本日時点で、在籍スタッフ23名のうち、20名が使用可能。
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	2024年5月17日に朝霞どろんこ保育園にてエピペン研修をスタッフ計19名が新たに受講し習得済み 本日時点で、在籍スタッフ23名のうち、20名が使用可能。
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行い、消毒・換気をこまめに実施した。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（法定1回/3年）	業者による対象物の法定点検 2023年実施済み ※対象物がない園及び JW 園は削除すること
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月 ⇒4月、10月に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日　実施済み
	児童健康診断	内科健診　各年2回／6月10日、10月28日 歯科健診　各年1回／6月3日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時 ⇒4月19日、10月18日に実施済み

	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間　実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	遊び込める環境の整備
	実践結果	園会議で遊び環境について話し合いを行い、定期的に環境の再構成を行った。また系列園の施設長に保育を公開し、客観的な意見を取り入れながら環境を整えていった。スタッフの介入については、子どもの集中が途切れないよう言葉がけのタイミングや声のトーンに配慮し、遊びに没頭できる関わり方を話し合い実践していった。
	次年度方向性	子どもの遊びや興味関心についてマインドマップを使って共有し、発達に合わせた遊び環境を再構築していく。廃材や様々な素材を用意し、安全に遊び込める環境を整えていく。
2	計画・ねらい	主体性と協働性を育む園庭環境の整備・改良
	実践結果	大規模な園庭改良の実施は行わなかったが、石の除去や老朽化した手作り遊具の解体、撤去を行い、園庭遊びが安全な環境で充実するよう整備した。 火の特質、有用性、危険性を知り、子ども自身が活用方法を考えられるように、焚火等の機会を増やした。
	次年度方向性	園庭の土入れを行い、園庭改良をしていく。冬季の焚火を充実させ、5歳児クラスは火おこしに挑戦する。
3	計画・ねらい	異年齢交流の推進
	実践結果	全スタッフが園児一人ひとりの特性や配慮点を共有し、子どもたちが安心して異年齢交流ができるよう体制を整えた。 年度後半より異年齢で戸外活動を積極的に行った。特に幼児クラスは子ども自身が異年齢との関わり方を考え、年下の友だちのお世話をする等の姿が見られた。
	次年度方向性	異年齢だけではなく健常児も障害児も混ざり合いながら養護及び教育が一体となった受容的で応答的な保育を実践していく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	アーチ型トンネル	園庭	毎日	異常なし 11/26に撤去
2	ままごと遊び用小屋	園庭	毎日	異常なし 2024年3/30に撤去
3	ベンチ	園庭	毎日	異常なし
4	焚火台	園庭	毎日	異常なし

5	ままごと道具入れ	園庭	毎日	異常なし 5/2に撤去
6	登り壁	ホール	毎日	異常なし
7	平均台	ホール	毎日	異常なし
8	スロープセット	ホール	毎日	異常なし
9	移動式用具入れ	ホール	毎日	異常なし
10	八角型ベンチ	3.4.5歳児室	毎日	異常なし
11	製作用収納棚	3.4.5歳児室	毎日	異常なし
12	テーブル	3.4.5歳児室	毎日	異常なし
13	木製組み立て玩具	3.4.5歳児室	毎日	異常なし
14	ブロック遊び用収納箱	3.4.5歳児室	毎日	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	防災…危機管理マニュアルの災害対策に則り、消防訓練・避難訓練・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備 ・自衛消防組織と安全対策係の設置を行った。
2	実践結果	ケガ事故防止…重大事故の発生は無かったが、前年度と比較し室内での怪我が増加傾向であった。 園全体会議にて自園及び系列園で発生した事故の検証、ヒヤリハット・インシデントの分析を行い、自園で発生しやすい事故について傾向と対策を話し合った。
3	実践結果	不審者対策…11/25朝霞警察署にご協力をいただき不審者侵入訓練を行った。不審者役の警察官より今後の対策について多くの進言をいただいた。
4	実践結果	光化学スモッグ…警報、自治体からのメールにて発生情報を確認し、発生時には保育運営マニュアルの光化学スモッグ発生時対応及び行政連絡に従って対応した。
5	実践結果	普通救命講習会への参加…6月に近隣園主催の講習会に参加した。
6	実践結果	洪水…集中豪雨により、7/30園舎入口付近が冠水したが、児童、保護者、スタッフは全員無事であった。朝霞市と連携し隣接している社会福祉協議会の協力のもと、8/8に臨時水害避難訓練を実施した。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

次世代を担う人材を育成する使命のもと、積極的に受け入れを行った。
実習生や生徒の一人ひとりの様子に合わせて 具体的かつ家庭的に援助・指導を行い、自園のアルバイト採用につながるケースもあった。実習やボランティア活動の実施に際し、法人理念や地域における役割などを説明することで、園の地域施設としての役割について知ってもらう最良の機会となった。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
5月21日・5月28日	淑徳大学　教育学部	1人	学生ボランティア体験
6月3～14日	総合学園ヒューマンアカデミーチャイルドケアカレッジ こども保育専攻	1人	観察・参加・部分実習
2月3～19日	十文字学園女子大学　人間生活学部　人間福祉学科	2人	部分実習
2月20～3月6日	東京家政大学　家政学部児童学科	2人	部分実習

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
1月20～22日	朝霞市立朝霞第二中学校	4人

7．スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	19日 25名	17日 23名	21日 24名	19日 25名	23日 24名	20日 24名	18日 24名	15日 24名	20日 24名	24日 24名	21日 24名	21日 24名
虐待防止研修	19日 25名						18日 24名					
園内研修	19日 20名	17日 19名	21日 20名	19日 18名	23日 20名	20日 18名	18日 19名	15日 19名	20日 19名	24日 20名	21日 18名	21日 20名
さくらさくらんぼリズム研修 講師：保育所等訪問支援保育士　古川みどり	6月13日に朝霞どろんこ保育園にて6名のスタッフが出席											

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
9月9日～11月11	埼玉県	埼玉県保育士等キャリアアップ研修　乳児保育（e ラーニング研修）	2名	有
9月9日～11月11	埼玉県	埼玉県保育士等キャリアアップ研修　幼児保育（e ラーニング研修）	1名	有
9 月 16 日～11月18	埼玉県	埼玉県保育士等キャリアアップ研修　保健衛生・安全対策（e ラーニング研修）	4名	有
9 月 16 日～11月18	埼玉県	埼玉県保育士等キャリアアップ研修　食育・アレルギー対応（e ラーニング研修）	3名	有
9 月 16 日～11月18	埼玉県	埼玉県保育士等キャリアアップ研修　障害児保育（e ラーニング研修）	2名	有
9 月 30 日～12月2	埼玉県	埼玉県保育士等キャリアアップ研修　マネジメント（e ラーニング研修）	1名	有
9 月 30 日～12月2	埼玉県	埼玉県保育士等キャリアアップ研修　保護者支援・子育て支援（e ラーニング研修）	4名	有
12月16日～1月21	埼玉県	埼玉県保育士等キャリアアップ研修　乳児保育（e ラーニング研修）	1名	有
12月16日～1月21	埼玉県	埼玉県保育士等キャリアアップ研修　幼児保育（e ラーニング研修）	1名	有
3月7・8	東京都	東京都保育士等キャリアアップ研修　幼児保育	1名	有

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	16日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	21日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	11月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

環境を活かした地域に開かれた保育園をテーマとして掲げ、地域の子育て世帯、小学校、近隣の保育園との交流を積極的に行った。 また子育て支援員と連携し「歯磨き指導」等の公開講座、「音楽会」や園行事に、地域の子育て世帯が気兼ねなく参加できるよう働きかけていった。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：わくわくドームすこやか花壇にて　　参加延べ人数：15名
商店街ツアー	週1回　主な行き先：西濃運輸、朝霞養魚場、社会福祉協議会、朝霞博物館、田島ストア、わくわくドーム、浜崎児童館、無人販売所、朝霞第三小学校、朝霞消防署浜崎分署等
世代間交流	毎月　朝霞どろんこ保育園にてシニアボランティアによる演奏会、三線演奏によるエイサー指導を実施。
異年齢交流	9月19日に朝霞にて児童発達支援センター 元気キッズ チルズとの交流会を実施。
その他活動	来園する近隣園との交流を日常的に実施。 朝霞市が主催する彩夏祭への参加。

銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉　実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

園が交流の依頼を行うだけではなく、小学校側からの依頼もあり、年間を通して充実した交流内容となった。子どもの就学への思いを培っていくため、代表スタッフが幼保小連絡会議や公開授業に参加し、職員間の話し合いや就学後の実態把握を行った。また保育所保育児童要録送付、必要に応じて個別に園児情報の申し送りを行い、小学校との協力関係を深めていった。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
11月20日	朝霞市立朝霞第三小学校　2年生	49名	朝霞どろんこ保育園	子ども間交流
11月22日	朝霞市立朝霞第六小学校　2年生	1名	授業参観・意見交換会	職員間交流
11月28日	朝霞市立朝霞第六小学校　1年生	21名	朝霞市立朝霞第三小学校昔遊び体験	子ども間交流
1月31日	朝霞市民会館	2名	幼保小連絡会	職員間交流
2月25日	いずみばし保育園	1名	就学に向けての保育参観・意見交換会	職員間交流

10.　要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

園全体会議でケース会議を実施した。ケース会議をもとに、担任が計画を作成した。計画は毎月見直しや追記、振り返りを行い、計画と子どもの姿を照らし合わせながら必要な援助を行った。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・４～３月に計１２回開催　参加者：１５～２１名

個別支援計画を基に、毎月対象児の様子を共有し、計画に対する振り返りを実施。スタッフ間で話し合い、多角的な柔軟な視点で子どもの姿を捉えながら、個別最適な援助を行った。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

２０２５年１月開催の朝霞市幼保小連絡会にて、２名の職員が参加し小学校への引継ぎを行った。
同年２月に就学予定園児の保育児童要録を就学先小学校へ送付。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
456名	704名	704名	632名	534名	536名	678名	1032名	936名	958名	850名	900名	8920名

実施項目	詳細												
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　　来園延べ人数：8920名												
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　⇒計95件相談実施済み												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計33回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	3名	7名	7名	37名	45名	2名	20名	37名	17名	32名	30名	30名	267名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計33回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	4名	18名	18名	38名	0名	2名	11名	16名	14名	24名	20名	25名	190名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00　にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっぐだより	毎月1日発行												
青空保育 （支援センター主催）	月1回　　公園名：わくわくドームすこやか花壇にて　以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	1名	0名	0名	0名	5名	2名	0名	2名	0名	0名	2名	3名	15名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２４年６月14日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：９時００分
自己評価終了時刻：１２時００分
自己評価実施者：石井、畔上、斉藤、岡崎

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月２５日
アンケート回収率：100%

前年度と比較し、ご意見ご要望自体は減少したものの、行事に関するご提案、持ち物の管理についてのご要望があった。利用者アンケートの結果はスタッフ全員で真摯に受け止め、園会議にて改善策を話し合い、実施していった。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見：0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ：0件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年3月１５日　　作成者：朝霞どろんこ保育園 施設長　石井　崇洋

２０２４年度　日高保育園　事業報告書
（保育所における自己評価）

１．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

「子どもを信じて待つ保育」と「混ざりあう保育」を基本方針に、子どもの成長を大切にしながら、主体性を尊重する保育を実践した。 子どもたちが自ら考え、挑戦し、学ぶ力を育むために、大人がじっくり関わって、見守る姿勢を大切にしていった。 その結果、子どもたちが自発的に遊びや活動に取り組み、自分で考えて行動する力を身につける姿が多く見られた。また、「混ざりあう保育」では年上児は年下児の手本となる経験を積み、思いやりと責任感を育ち 、年下児は年上児の姿を見て学び、自然と社会性を身につける環境が形成されていた。

今年度の取り組み、子どもたちの主体性と連携性がより一層育まれ、保育者同士の連携も強化された一年となった。次年度も、子どもたちの成長を支える環境づくりを継続し、充実を図っていきたい。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

１	計画・ねらい	ほんものの体験
	実践結果	子どもたちは興味を持って遊びを広げ、実際の体験につながる中で主体的な学び姿が見られた。五感を刺激する活動を取り入れたことで、観察力や探求心が育ち、自ら考えて行動する場面が増えた。また、安全に配慮しながらも挑戦できる環境を整えて、自信を持って取り組む姿が多くなった。
	次年度方向性	「ほんのものの体験」をさらに充実させ、子どもが主体的に関われる環境を広げていく。これまでの経験を踏まえ、より多様な体験ができるよう、地域資源や自然環境を活用した活動を増やしていく。また、安全に配慮しながらも挑戦できる機会を確保し、自ら考えて行動する力を育てることを重視する。
２	計画・ねらい	学び合う集団
	実践結果	職員全員が学びの姿勢を持ち、積極的に知識を共有することで、みんなで刺激を受けながら成長する環境が生まれました。 興味や関心に応じた教材や講座を活用することで、学びの幅が広がり、保育の質向上につながった。
	次年度方向性	学び合う文化をさらに充実させ、実践に重点を置いて研修意見や交換の場を充実させる。 職員同士が学びを共有し、実際の保育に活かせる仕組みを強化する。
３	計画・ねらい	子ども同士の関わり
	実践結果	異年齢の関わりや協働の機会を設けることで、子ども同士が考える思いや考えを共有し、協力して取り組む姿が増えた。 共通の遊びや活動を行うことで、自分の役割を考えながら行動する力も育まれた。

	次年度方向性	子ども同士の関わりをさらに広げ、異年齢での協働の場を増やしていく。活動の中での役割や目標を意識できる機会を設け、子どもたちが主体的に関わる環境を整える。また、保育者は関わりのサポートをしつつも、見守る姿勢を大切にし、子どもが自ら学び、成長できるような関わりをしていく。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	積極的な家庭連携
	実践結果	お迎え時に子どものエピソードを伝えることで、保護者様が家庭では見られない成長や姿に気づく場面が増えた。 短い時間でも積極的に関わることで、保護者様と関係を深め、不安や悩みを共有しやすい環境が整った。 また、保育の様子を具体的に伝えることで、家庭での関わりにもつながる変化が見られた。
	次年度方向性	保護者様とのコミュニケーションを大切に、子どもの成長を共有する機会を増やす。お迎え時の会話に加え、連絡帳や園だよりなども活用し、さまざまな方法で情報を伝える。保護者様が気軽に話せる雰囲気をつくり、悩みや不安を相談しやすい環境を整えることで、安心して預けられる保育を目指す。
2	計画・ねらい	おもてなしのこころ
	実践結果	保護者様に思いやりを持って接することで、安心感が生まれ、信頼関係が深まった。挨拶や日々の関わりを大切に、温かい雰囲気で迎えられて、保護者様が気軽に話しやすい環境となっていった。
	次年度方向性	保護者様の気持ちに寄り添った関わりを意識する。日々の挨拶や会話を大切に、保護者様が気軽に話せる雰囲気をつくる。職員同士でも向き合い、温かい環境を維持することで、園全体がおもてなしの心を大切にする場所となっていく。
3	計画・ねらい	共有機会の増加
	実践結果	ドキュメンテーションやポートフォリオを活用することで、保護者様が園での子どもの姿をより具体的に知る場を提供した。 写真や記録を通じて、家庭でも子どもの成長を分かりやすくなり、園での学びや遊びへの理解が深まった。
	次年度方向性	より多くの保護者が子どもの姿を共有できるよう、ドキュメンテーションやポートフォリオの活用をさらに広げていく。日々の小さな成長も伝えられるよう工夫し、保護者様との会話のきっかけを増やしていく。。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域への発信

	実践結果	SNS を活用して保育活動の情報を発信することで、地域の人たちに園の取り組みを知ってもらう機会が増えた。認知度が上がり、地域の人から声をかけられることもあった。園の行事や園庭開放に気軽に参加できるよう工夫することで保護者や子どもが増えた。
	次年度方向性	より多くの人に園の活動を知ってもらうために、引き続き SNS の発信し、コンテンツも工夫していく。地域の人が実際に園の活動に参加できる機会を増やし、気軽に立ち寄れる場所にしていく。
2	計画・ねらい	子育て相談やサポート
	実践結果	支援センターを利用する保護者との日常的な会話を増やすことで、相談しやすい雰囲気が生まれた。世間の話から子育ての悩みにつながることも多く、保護者同士の情報共有の場にもなった。
	次年度方向性	保護者がより相談しやすい環境をつくるために、職員が積極的に発言する機会を増やしていく。支援センターを利用する人が気軽に立ち寄り、日常的に子育ての悩みを話せる環境を整えていく。
3	計画・ねらい	利用者同士が交流
	実践結果	園庭開放や自然食堂などの親子のイベント、利用者同士が自然に交流する場をつくれた。 子ども同士が遊んでいる中で保護者同士の会話も多く、子育てについて相談し合う姿も見られた。
	次年度方向性	より多くの人が参加しやすいように、園庭開放やイベントのバリエーションを増やす。 利用者同士が自然につながれるよう、グループ活動やテーマを定めるような活動を計画する。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	安心の気持ちに寄り添った保育
	実践結果	「やりたい」「いやだ」という子どもの気持ちを受け止めることで、安心して自分の思いを表現する姿が増えた。無理に行動を起こすのではなく、子どもの気持ちに寄り添うことで、自分で考えようとする場面も多くなった。
	次年度方向性	子どもの気持ちに寄り添い、保育者一人ひとりが情緒の安定を意識した保育を引き続き行っていきたい。
2	計画・ねらい	預けたいと思う保育
	実践結果	お迎え時に子どもの成長や日々の出来事を丁寧に伝えることを意識していった。 保護者様からの目線を忘れず、保護者様にとって安心して預けられるような雰囲気を園全体でつくっていった。
	次年度方向性	保護者様がさらに安心して預けられるよう、子どもの様子を伝える工夫を増やしてくとともに お迎え時の会話だけでなく、連絡帳や写真を活用し、日々の成長をより具体的に伝えていく。
3	計画・ねらい	生きる力の向上

	実践結果	「情動調整力」「人と関わる気持ち」「目標に向かって頑張る力」の三つを意識した上で保育を行うことで、子どもが自分の気持ちを整理しながら行動する場面が触れていった。子ども内面的な発達を会議等で共有することでスタッフの価値観や子どもを見る目が変化していった。
	次年度方向性	自主的に考え行動し、生きる力をさらに伸ばせる環境を考え、遊びや活動の中で挑戦できる場面を増やし、成功体験を大切にした保育を展開していく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	遊び込める環境構成
	実践結果	子どもの発達を考慮して玩具を選定していった。玩具の購入や手作り玩具を作成し、子どもの興味・関心を広げる選択制のある環境構成をした。
	次年度方向性	計画的に玩具や家具を購入し、子どもがより集中して遊べる環境を追及していく。
2	計画・ねらい	安全に楽しめる園庭
	実践結果	自然豊かで子どもが裸足で走り回れるよう園庭に土を追加したり芝を植えた。安全で楽しい雰囲気の園庭の状態をつくっていった。
	次年度方向性	危険物の除去や土の追加については引き続き行っていき、子どもが寝ころべるような園庭を目指す。

〈6〉子どもの「やりたい」を大切にする

1	計画・ねらい	子ども主導の保育
	実践結果	子どものエピソードを共有する機会を増やすことで子どもの目線や興味関心をすることができていった。子どもの気持ちに寄り添い、考えることで、子どもが主導となった保育に近づいていった。
	次年度方向性	大人の価値観にとらわれず、子どものありのままを受けとめていくことで、子どもの興味や関心に沿った充実した活動を増やしていきたい。

〈7〉過ごしやすい環境づくり

1	計画・ねらい	環境構成
	実践結果	子どもの発達に合わせて環境構成しくことで遊びに集中できる場面が増えた。発達過程や活動の展開に合わせて環境を見直し、安心して過ごす場所を整えていった。園内研修で振り返る機会を設けたことで、スタッフ全体で環境構成を意識する姿勢があった。

	次年度方向性	引き続き、子どもの発達を把握した上で興味関心に沿った環境構成を行っていきたい。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半：4~9月	59人	66人	84人	120人	116人	123人	568人
年度後半：10~3月	59人	66人	84人	126人	120人	121人	576人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	147人	172人	167人	181人	153人	171人	189人	192人	187人	170人	179人	170人	2078人
うち0歳児	0人	15人	14人	21人	9人	4人	1人	8人	4人	10人	3人	5人	94人

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
うち0歳児	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人

〈2〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

常勤スタッフ	保育士	13人	看護師	2人	栄養士	2人	調理員等	1人

パート スタッフ	保育士	4人	用務	1人	事務	1人		

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会
給食運営会議	月1回	食育計画策定／食育活動実施内容／喫食状況確認／検食簿指摘事項改善／配膳方法など
事故防止委員会	月1回	自園及び系列園で起きた事故のケーススタディと改善策策定／全園事故防止委員会での内容共有／当月のヒヤリハット・インシデント分析

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
食育会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長
主任会議	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	園舎、職員、園児衛生全般の改善と感染症予防対応、衛生管理全般

	の管理。掃除チェック表管理・細菌検査とりまとめ・予防接種把握・身体測定などを行う。
安全対策係	様々な災害を想定した訓練実施。施設内避難経路の管理点検設備点検チェック、事故防止チェック、防災自主点検、不審者侵入訓練を計画し実施する。
防火管理者	防火管理に係る消防計画を作成し、防火管理上必要な業務（防火管理業務）を計画的に行う。
食品衛生管理係	食育会議の計画や実践。食品の安全に関する管理や啓蒙をする。
畑係	畑の管理をする。
生き物係	生き物に関すること全般。

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	企画運営　日程調整　会場設置　近隣広告配布
運動会係	企画運営　大道具　会場設置　放送　保護者配布物作成
生活発表会係	企画運営　大道具　会場設置　放送　保護者配布物作成

4. 保育支援

〈1〉保育･保育参加･保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	・法人ならではの活動や、日々の様子を連絡帳、タイムライン、口頭対応、ポートフォリオなどで伝え、安心して子どもを預けられるような工夫を行った。
保育参加	4～3月まで　合計21名　が参加済み　　（3月15日時点）
保護者面談および発達相談	4～3月まで　合計3名　が参加済み　　（3月15日時点）

〈2〉計画した年間行事の振返り

・別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	食べることで心を豊かにし、元気な身体をつくる
	実践結果	畑活動や食の循環を知る体験等により食材や食事について興味関心を持つ子が増えていった。食事を楽しめるような雰囲気づくりを意識し環境構成を行っていった。
	次年度方向性	物的環境のみならず、人的環境を重視し、子どもが食べたいという意欲が増すような関わりをしていく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	年2回（6月・11月）
歯科検診	年1回（6月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	手洗い・うがい・歯磨き指導 命の大切さ～幼児期からの性教育～
流行した感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 12～2月頃･･･感染性胃腸炎・インフルエンザ
発作・痙攣等の対応	ダイアップ･･･預かり済み／冷蔵庫にて保管 抗アレルギー剤吸入･･預かり済み／与薬ポケットにて保管
エピペン使用できるスタッフの状況	本日現在全職員が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員については4月中に受講予定
その他保健に関する取組	インフルエンザＡ型および他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底した。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（法定1回/3年）	業者による対象物の法定点検 2023年実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月 ⇒4月、10月に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日　実施済み
	児童健康診断	内科健診　各年2回／6月、11月 歯科健診　各年1回／6月
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時 ⇒4月、10月に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間　実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	子どもが混ざり合う環境
	実践結果	全ての人との関わりから判断・行動を身につけるよう異年齢保育・インクルーシブ生活を意識して保育を行った。年齢や発達の違う子が交じり合うことでお互いが刺激し合う環境となった。

	次年度方向性	大人ではできない関わりを子ども同士で行い、お互いが刺激し合うような環境を用意していく。
2	計画・ねらい	自己決定のできる人的環境
	実践結果	活動を選択し、自分で考えて行動できるような選択肢のある関わりを心がけていった。子ども自身にまかせる人的環境を用意することで「自己決定」を繰り返し、責任感を持てるようにしていった。
	次年度方向性	子どもの選択肢を増やし、子どもが考えて行動できるような力を育めるような人的環境を目指す。
3	計画・ねらい	「やりたい」と思いついたときに実現できる環境
	実践結果	子どもの表情や言動から「子どもたちの今」を捉え、必要な場やものを用意し実現できるよう環境構成していった。子どもたちが試行錯誤することで、深い学びへとつなげた。
	次年度方向性	子どもの興味関心を保育者が把握し、それらを実践できるような場を用意していく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	ツリーハウス	園庭	毎日	ツリーハウス
2	見晴台（中）	園庭	毎日	見晴台（中）

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	防災…危機管理マニュアル№３の災害対策に則り、消防訓練・避難訓練・避難訓練開催通知・自衛消防訓練通知・上級救急救命資格取得（継続）手続き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛防災…危機管理マニュアル№３の災害対策（Ｐ．１２～）に則り、消防訓練・避難訓練・避難訓練開催通知・自衛消防訓練通知・上級救急救命資格取得（継続）手続き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛消防組織と安全対策係の設置・緊急地震速報運用を行い、災害発生時には対応フローチャートに従う
2	実践結果	ケガ事故防止…危機管理マニュアル№３のけが事故防止策・安全点検と保全（Ｐ．１４～）に則り、事故防止チェックおよび設備点検チェックの実施、安全教育、ＳＩＤＳ防止策を行い、けが発生時には対応フローチャートに従う。
3	実践結果	防犯…危機管理マニュアル№３の不審者対策（Ｐ．２０～）に則り、不審者侵入訓練の実施、笛の携帯、代理送迎者の把握、不審者情報の収集と共

		有を行い、不審者侵入時にはフローチャートに従う。
4	実践結果	光化学スモッグ…危機管理マニュアル№３の光化学スモッグ対策（Ｐ．２１～）に則り、光化学スモッグの知識を身につけ、注意報発令の把握を行いながら、発生時には光化学スモッグ発生時対応および行政連絡に従って対応する。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

次世代育成の観点から、積極的に受け入れを行い、実習生や生徒の一人ひとりの様子に合わせて具体的な援助・指導を行った。中高生の体験学習の受入、保育養成校の学生の実習受け入れ、次世代の子育て保育に携わる人材育成ととらえ、丁寧に受け入れ、指導した

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
11月5～18日	武蔵野短期大学	1人	責任実習
1月27～2月27日	大原こども専門学校	1人	部分実習

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
1月28～30日	日高市高萩中学校	1人

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	19日 26名	17日 25名	21日 25名	19日 25名	16日 25名	20日 25名	18日 24名	15日 23名	20日 23名	24日 24名	28日 24名	31日 24名
園内研修	19日 25名	17日 21名	21日 23名	19日 22名	16日 20名	20日 22名	18日 22名	15日 23名	20日 23名	24日 24名		

〈2〉外部研修への出席

なし

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	21日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	20日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	19日 1名	17日 1名	22日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	11月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

環境を活かした地域に開かれた保育園をテーマとして掲げ、地域の子育て世帯、小学校との交流を積極的に行った。 また子育て支援員と連携し、行事を企画し地域の子育て世帯が気兼ねなく参加できるよう働きかけていった

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：日高総合公園にて
商店街ツアー	週1回　主な行き先：交番、コンビニ、スーパー、農家等
世代間交流	2月に自園にて高麗川中学生との交流を実施
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉　実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

各小学校への挨拶を行い、連携依頼、授業参観等の実施を行った。また、小学校へ不安なく移行ができるよう連携・引継を行った。

〈2〉具体的な連携

・就学予定の小学校職員との連携を図り、児童の情報共有。
・保育所保育要録の送付

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

今年度、対象園児なし

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・４～３月に計0回開催　参加者：０名
今年度、対象園児なし

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

学校生活との接続の質向上のために、保育要録の直接渡し及び個別申し送りを行った

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
54名	32名	56名	53名	52名	68名	88名	125名	51名	48名	40名	50名	717名

実施項目	詳細												
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　にて実施												
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週（水）10:00～12:00 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	17名	8名	24名	16名	2名	10名	16名	24名	16名	16名	16名	16名	181名
どろんこ	毎週（水）10:00～12:00												

芸術学校 どろんこ 自然学校	参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	13名	2名	2名	23名	28名	24名	83名	12名	20名	20名	20名	247名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00　にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっぐだより	毎月1日発行												
青空保育 （支援センター主催）	月1回　　公園名：日高総合公園にて　以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	2名	0名	0名	3名	0名	2名	0名	0名	0名	0名	7名

12.　園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２４年１１月２５日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：8時00分
自己評価終了時刻：17時00分
自己評価実施者：、宮園、嶋山

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者様に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月２５日
アンケート回収率：100%

13.　苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見：0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む）　０件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：日高どろんこ保育園 施設長　宮園 司

２０２４年度　メリー★ポピンズ 東武練馬ルーム
事業報告書
（保育所における自己評価）

１．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

今年度基本方針に掲げた内容を念頭に置き、子ども一人ひとりと向き合い、園会議や昼礼を中心に子どもの現在の姿の共有やこれからの成長に繋がる保育展開を職員同士で考え、話し合いを行い、子ども自身が主体的に活動の選択をできるよう、試行錯誤を繰り返し行ってきた。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	生活力の体得をしていく
	実践結果	生活力の体得に向けて取り入れていく活動や物を園内研修の中で、保育者間で検討し、導入や活動に加えていくことができた。
	次年度方向性	今年度検討したものの中でも、導入を見送ったものもあるので、引き続き検討と導入を進め、活動の幅を広げていけるよう努める。
2	計画・ねらい	10の姿の体得をしていく
	実践結果	保育の質を上げる会議と園内研修を連動しながら、10の姿を園内で共有して日々の保育のかなから10の姿につながるドキュメンテーションを作成し、園内で共有することで職員一人ひとりの理解が進んだ。
	次年度方向性	引き続き10の姿を読み解きながら保育を振り返り、保育の質を上げていく。
3	計画・ねらい	子ども自らがいつでも経験の選択をすることができる物的環境の設定をしていく
	実践結果	保育の質を上げる会議と園内研修を連動しながら、経験の選択をすることができる物的環境の設定を行ったことで、子どもの選択する姿がより増えた。
	次年度方向性	継続的に取り組みを行い、子どもが活動を選択することにつながる活動を増やしていきたい。

〈２〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者の気持ちに寄り添った接遇
	実践結果	お迎え時の対応としてまだ不十分な所はあるが、着実に話す内容やエピソードの質が上がってきているように感じる。その結果も利用者アンケートに反映されていた。

	次年度方向性	より多くの家庭に子どもの姿や家庭と園での子どもを共有できるように日々のコミュニケーションを大切にしていく。
2	計画・ねらい	保護者がいつ見ても気持ちが良い施設
	実践結果	第三者の目を意識しながら園内を見渡す意識を持つことで、棚の上の荷物などを片付ける意識定着してきている。
	次年度方向性	意識をしている時は心掛けているが、そうでないときに物が置いたままになってしまうので、常に意識が出来るようにしていく。
3	計画・ねらい	年1回以上の保護者個人面談実施
	実践結果	必要に応じて、面談の声掛けや保護者との情報交換を行った。12月～3月に2～5歳児の保護者と面談の機会を設けた。
	次年度方向性	全家庭と年1回面談を行うことが出来なかったので、面談のスケジュールを前もって設定しバランスよく情報交換が行えるようにしていく。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域に開かれた施設になる
	実践結果	子育て支援での来園が247名でした。
	次年度方向性	より多くの方に支援事業を知ってもらい、参加してもらえるよう広報も含め行っていく。
2	計画・ねらい	地域公開講座を実施
	実践結果	地域公開講座を今年度1回計画していたが、担当職員の体調不良もあり中止となってしまった。
	次年度方向性	開催が出来るように計画含め行っていく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	大人のにんげん力 UP：学び続ける文化
	実践結果	個人の目標設定を行いながら、園内研修や法人内研修を中心に参加できる職員は参加をして園内でのアウトプットを行い、一人での学びを園の学びにつなげて園全体での成長につなげていった。
	次年度方向性	引き続き学び続けていく姿勢を大切に園での学びにつなげていく。
2	計画・ねらい	保育所保育指針について理解を深めていく。

	実践結果	園内研修で保育所保育指針について読み解きを行いながら、保育の中で実践と振り返りを行い、理解を深めていった。
	次年度方向性	引き続き、保育所保育指針について理解を深めていき、保育の質を高めていく。
3	計画・ねらい	マニュアルについて理解を深めていく。
	実践結果	園内研修でマニュアルについて読み解きを行いながら、保育の中でも確認をして、理解を深めていった。
	次年度方向性	引き続き、マニュアルについて理解を深めていき、保育の質を高めていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食材や食の循環・環境への意識を育む環境教育の実践
	実践結果	畑仕事や魚や鶏を捌いて食べる体験、コンポスト作成などを通しながら食の循環や環境への意識が芽生えてきた。
	次年度方向性	継続的に取り組みを行い、環境への意識につながる活動を増やしていきたい。
2	計画・ねらい	食材の循環サイクルを実践
	実践結果	コンポストを通して循環サイクルを試みが、畑に使うまでは行けなかった。
	次年度方向性	試行錯誤をしながら循環が出来るようにしていく。
3	計画・ねらい	2022年度比70%に削減する
	実践結果	給食を作る際に捨てる場所を出来るかぎり減らして捨てる部分の削減を進めた。また、給食提供後の残食を5歳児と計測をすることで、子どもたちにも捨ててしまうもったいなさが伝わり、食べ残しを減らす意識が芽生えてきた。
	次年度方向性	引き続き、残食を減らしていけるよう子どもと一緒に取り組んでいく。

〈6〉自らが活動・遊び・相手を選択する環境構成の継続

1	計画・ねらい	自らが活動・遊び・相手を選択する環境構成の継続
	実践結果	子どもたちにも選択することが馴染んできて、積極的に活動を選択する姿があり、その中で異年齢での関わりや助け合う姿が増えてきた。
	次年度方向性	引き続き行いながら、選択の幅や方法を工夫していく。

〈7〉期日とルールを守る組織となる

1	計画・ねらい	期日とルールを守る組織となる
	実践結果	期日を明確にすることで職員同士の意識が高まり、期日を守れるようになってきた。
	次年度方向性	期日に間に合わなかった場合は、なんで間に合わなかったのかを明確にし、改善していく。
2	計画・ねらい	内部監査指摘事項を減らす
	実践結果	昨年度の指摘事項から重点的に担当を決め、担当を中心に全職員で改善を行ったことで、改善が見られた。
	次年度方向性	今年度の指摘事項を踏まえ、対策を行っていく。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半：4~9月	36人	60人	72人	84人	84人	84人	420人
年度後半：10~3月	36人	57人	72人	82人	84人	84人	415人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	126人	169人	167人	190人	171人	168人	189人	197人	213人	186人	186人	130人	2,092人
うち0	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人

歳児													

（解説）18時以降の延長保育利用者とする

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
うち0歳児	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人

〈2〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

常勤スタッフ	保育士	11人	看護師	1人	栄養士	3人		
パートスタッフ	保育士	3人	栄養士	1人	事務	1人	嘱託医	2人

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・各担当からの提案や報告 ・園内研修 ・研修報告
給食運営会議	月1回	・食育計画進捗確認 ・献立内容の見直し ・アレルギー対応の確認 ・離乳食の確認、提供方法の確認
事故防止委員会	月1回	・園内外の事故記録簿考察

		・インシデント、ヒヤリハット考察、分析、検証
ケース会議	月1回	・一人ひとりの子どもの発達の確認や引継ぎ ・要支援児童の個別指導計画振り返り ・関係機関との連携

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
食育会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長・調理スタッフ
保健会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長・看護師
主任会議	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	・衛生管理点検表を用いて、衛生的に園運営がされているか管理運営を行う ・清掃確認、感染症発生時の対応
安全対策係	・事故防止点検・設備点検を行うとともに日々点検・補修・修繕手配を行い生活の安全を図る。 ・事故記録簿、インシデント、ヒヤリハットの記入確認と分析、事故防止への対策 ・避難訓練の実施・報告・地域への周知・避難袋の確認 備蓄の確認 ・ハザードマップ作成 ・事故防止委員会開催
防火管理者	災害に備え定期点検・避難訓練・消防署への定期報告を行う。また消防設備点検を実施する。
食品衛生管理係	食中毒や食品衛生法違反を起こさないよう食品衛生上の管理運営を行う給食会議開催

畑係	農業計画作成・畑の管理・苗、種植え、収穫の調整・畑の管理の調整
生き物係	生き物のエサの管理

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	計画と運営

4. 保育支援

〈1〉保育･保育参加･保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	・安心できる身近な大人がいることで、心身の安定と遊びを十分に楽しんでいた。 ・様々な素材に触れ、探索活動を楽しみながら、様々な感覚を育んだ。 ・自分の要求や思いを言葉や行動で相手に表現しながら、他者を受容する感情が育った。
保育参加	4～3月まで　合計12　が参加済み　　（3月1日時点）
保護者面談および発達相談	4～3月まで　合計40名　が参加済み　　（3月1日時点）

〈2〉計画した年間行事の振返り

・別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	健康な心と体を育む
	実践結果	健康な心と体を育むために、体を使う遊びを十分に行い、お腹を空かせ意欲的に食べることを実践していくために、活動を見直し改善を進めてきた。

	次年度方向性	引き続き活動を見直し改善を進めていき、子どもたちの健康な心と体を育んでいきたい。
2	計画・ねらい	食に興味を持つ
	実践結果	昨年度よりも畑で活動を増やし、畑で野菜を育てて収穫、食べる経験を多く取り入れたことで、子どもたちも畑や野菜に興味関心が出てきていた。
	次年度方向性	引き続き畑での活動を増やし、子どもたち中心に活動が出来るようにしていきたい。
3	計画・ねらい	人と食べる楽しさを感じる
	実践結果	食べたい場所を選択することで、食べたい場所、食べたい人と給食を楽しんで食べていた。
	次年度方向性	0～5歳児での給食を食べる環境も含め考えていく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月12日／11月13日に実施
歯科検診	6月11日にいとう歯科矯正歯科クリニック実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	①1月16日に性教育（プライベートゾーン）を実施 ②1月17日に性教育（命の大切さ）を実施
流行した感染症	①　6月に手足口病、園児36名
発作・痙攣等の対応	計1名に対し、計1回ダイアップ使用
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月21日に保育園の策定会議にてエピペンの使用方法をゼンスタッフが受講し取得済み ・本日時点で、在籍スタッフが使用可能

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（法定1回/3年）	業者による対象物の法定点検 2023年実施済み ※対象物がない園及び JW 園は削除すること
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4･10月 ⇒4月、10月に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日　実施済み
	児童健康診断	内科健診　各年2回／6月12日、11月13日 歯科健診　各年1回／6月11日
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4･10月の園会議時 ⇒4月25日、10月24日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間　実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	子どもの成長にあった環境を設定する
	実践結果	子どもたちの発達、活動から保育環境の見直しを行い、担任を中心に子どもの成長、季節にあった環境を考え、構成をした。

	次年度方向性	見直しを行う期間が長かった為、1か所ずつ短い期間で見直しを行い改善に努めていきたい。
2	計画・ねらい	見守る保育(子ども理解と適切な援助)
	実践結果	保育者が我慢出来ず、見守る前に言葉が出てしまう場面もあった。
	次年度方向性	保育者間で見守る姿勢を確認し合い、言葉が出そうなときも一呼吸置き、今言葉を掛けるのが適切なのかを考えてから言葉を掛ける。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	かばんかけ	乳児棟/幼児棟	毎日	異常なし
2	LaQ 用テーブル	幼児棟	使用開始前	異常なし
3	お茶ジャグ設置台	乳児棟/幼児棟	毎日	異常なし
4	パーテーション	乳児棟	毎日	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	マニュアルの災害対策に則り、消防訓練・避難訓練・避難訓練開催通知・自衛消防訓練通知・救急救命資格取得（継続）手続き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛消防組織と安全対策係の設置・緊急地震速報運用を行い、災害発生時には対応フローチャートに従って訓練が出来た。
2	実践結果	マニュアルのケガ事故防止策・安全点検と保全に則り、事故防止チェック及び設備点検チェックの実施、安全教育、SIDS 防止策を行い、ケガ発生時には対応フローチャートに従って実施が出来た。
3	実践結果	マニュアルの不審者対策に則り、不審者侵入訓練の実施、笛の携帯、代理送迎者の把握、不審者情報の収集と共有を行い、不審者侵入時には対応フローチャートに従って訓練が出来た。
4	実践結果	マニュアルの光化学スモッグ対策に則り、光化学スモッグの知識を身に付け、注意報発令の把握を行いながら、発生時には光化学スモッグ発生時対応及び行政連絡に従って対応することが出来た。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

今年度は保育実習の受け入れが1名と職場体験が２名の受け入れがあり。また、小中高生を中心に

積極的に職場体験の受け入れを行い、保育の仕事を知ってもらう機会を持つことが出来た。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
12月16日	大東文化大学文学部教育学科	2人	子育て支援者として働くことを目指しての実習
2月3～17日	大原医療秘書福祉保育専門学校	1人	観察実習

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
6月11～13日	赤塚第一中学校	4人
7月22日	北野小学校	3人
7月23日	北野小学校	3人
7月29日	北野小学校	2人
7月31日	北野小学校	1人
8月1日	北野小学校	2人
8月2日	北野小学校	2人
8月5日	北野小学校	2人
8月6日	北野小学校 上板橋第四小学校	2人
8月7日	北野小学校	2人
8月8日	北野小学校	1人
8月9日	北野小学校	2人
8月13日	北野小学校 上板橋第四小学校	3人
8月14日	北野小学校	2人
8月15日	北野小学校・紅梅小学校	4人
8月16日	紅梅小学校	2人
8月22日	北野小学校	1人

8月26日	北野小学校	1人
8月27日	北野小学校	3人
8月28日	北野小学校	2人
8月30日	北野小学校	2人

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	26日 21名	24日 22名	27日 22名	26日 21名	22日 22名	27日 21名	24日 20名	22日 20名	26日 20名	31日 20名	21日 20名	21日 20名
園内研修	26日 9名	24日 15名	28日 9名	26日 12名	23日 9名	27日 13名	24日 9名	22日 14名	26日 9名	31日 12名	21日 13名	21日 13名

〈2〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	21日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	21日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名		17日 1名	22日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	10月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											

〈3〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

地域の人と繋がり、子育てを楽しくしていくことを目指す。駅前型保育園の子育て支援の拠点として、世代間交流（シニア交流・実習生を含む学生との交流・中学生の職場体験）地域子育て計画を元に時代に合わせた子育て支援を展開していった。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：電車の見える公園にて　　参加延べ人数：11名
商店街ツアー	週1回　主な行き先：洋菓子店、図書館、青果店、交番、消防署、100円ショップ、病院、歯科医院、整形外科医院、コンビニエンスストア、スーパー、精肉店、ファストフード店、和菓子店、弁当店、銀行、郵便局、花屋、文具店、ドラッグストア等
世代間交流	5・7・9・10・11・1・2月にプレザンメゾン板橋徳丸を訪問
異年齢交流	２月４日に北野小学校と実施
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉　実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

- 保育所保育要録の送付
- 定期的に職員交流や小学校見学が持つことができ、子どもたちも小学校に向けての準備が出来ていた。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
4月25日	徳丸小学校	2名	1年生の授業見学（徳丸小）	職員間交流
5月14日	徳丸小学校	2名	1年生の授業見学・職員の意見交換（徳丸小）	職員間交流
6月24日	北野小学校	12名	1年生の授業参観（北野小）	こども間交流

11月19日	徳丸小学校	12名	音楽会練習見学（徳丸小）	こども間交流
11月22日	北野小学校	13名	学校探検（北野小）	こども間交流
2月6日	北野小学校	13名	学校見学・交流（北野小）	こども間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

現状の子どもの姿を踏まえながら支援の手立てを考えていった。関係機関と連携を取り情報を共有した。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・４～３月に計１２回開催　参加者：６名

日々の関わりを振り返りながら毎月子どもの姿を共有し、今後についての見通しを持った計画を話し合い、再検討を繰り返していった。 担任以外の関わりでの気づきを共有していくことで、いろいろな見方で状況を把握していった。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

各小学校へ保育所児童保育要録の送付をし、電話や必要に応じて学校へ訪問して様子を丁寧に伝えて連携をとった。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2名	8名	28名	54名	60名	26名	24名	21名	18名	11名	3名	0名	255名

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　　来園延べ人数：３名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　⇒計56件相談実施済み
自然食堂 親子ランチ	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計0回実施済み 参加者延べ人数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計

交流	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計0回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00　にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっぐだより	毎月1日発行												
青空保育（支援センター主催）	月1回　　公園名：電車の見える公園公園にて　以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	11名	0名	0名	0名	0名	0名	11名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２５年２月２７日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：１４時００分
自己評価終了時刻：１５時００分
自己評価実施者：施設長、主任、リーダー

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月２５日
アンケート回収率：８９．３％

（省察）園に対しての満足度が年々、向上してきているので今後はアンケートの回収率を上げていき、子どもの育ちを保護者と共有できるよう日々の関係性の充実、園と家庭との連携を第一に考えていく。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図

る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈Ｉ〉報告すべきご意見

報告すべきご意見　0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む）　0件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年３月Ｉ５日　　作成者：メリー★ポピンズ 東武練馬ルーム　施設長　添島 崇夫

２０２４年度　鶴見どろんこ保育園　事業報告書
（保育所における自己評価）

1．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

「子どもも大人も思いやりを大切にできる集団」

・「相手の気持ちを想像する」「相手の気持ちは自分とは違う事を知る」「さまざまな気持ちを知る」を基本に思いやりをもった関係作りを大人が背中を見せて子ども達に伝えていった。喜怒哀楽が自由に表現できるような関係性、思ったことを表現できる関係性、人対人コミュニケーションを大事に相手の立場になり寄り添った対応ができるように、対話する集団を目指し進めてきた。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	主体的な保育
	実践結果	一人ひとりの生活を丁寧に保障していくためにリーダー中心で進行する園内研修で学び合いを深めてきた
	次年度方向性	保育所保育指針の読み合わせや幼児期の終わりにまでに育ってほしい10の姿の勉強会を定期的におこなう
2	計画・ねらい	受容的・応答的な関わり
	実践結果	アタッチメントを大切に、安心できる環境作り、子どもの気持に寄り添った関わりスタッフ一人ひとりができるように園内研修で振り返りをおこなった
	次年度方向性	アタッチメントを大切に子どもの気持に寄り添った関わり方を引き続きおこなう
3	計画・ねらい	振り返る
	実践結果	活動、行事のあとに振り返りを必ずおこない、良い点、改善点をあげ、保護者様にもアンケートを取り、次年度に活かせるようにした
	次年度方向性	継続しておこない、改善策は早急に取り組めるように仕組化をする。継続する力が弱いのでリーダー中心に定期的に振り返りをしていく。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者の心の入り込んだ接遇
	実践結果	タイムラインの投稿枚数をスタッフ1人1枚は毎日 up してお迎え対応で話きれなかった部分を補った

	次年度方向性	接遇強化できるように園内研修にて接遇研修をおこなう。 子どもの姿をとらえたポートフォリオ作成する。
2	計画・ねらい	保育者、保護者との連携
	実践結果	受け入れでは家庭での様子を細かく聞き取り、お迎え対応では3分間対応時にエピソードを含めた子どもの姿を伝えるようにした
	次年度方向性	引き続き子どもの姿を捉えお迎え対応ではエピソードを添えて語れるようにし、お迎え対応ロールプレイを園内研修でおこないスタッフ間で見直す。
3	計画・ねらい	どろんこサポーターとの関わり
	実践結果	どろんこ祭りを通して密に連絡・連携をとり、園の行事を盛り上げた どろんこサポとの関係作りでは保護者様の考えに共感し、法人の理念も伝えながら打ち合わせを重ねた
	次年度方向性	引き続きどろんこサポーターの力を借りるために密な関係作りをする。さらにどろんこサポーターを募集し園での活動内容を細かく伝え協力してもらえるようにスタッフ全員が思いを伝えられるようにする。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	出張動物園
	実践結果	近隣園にヤギ・にわとりを連れていき、生き物との交流ができるようにした
	次年度方向性	引き続き多くの子どもたちが、生き物に触れて暖かさや命の大切さに触れられるように地域の小学校や公園に宣伝して移動動物園ができるようにする。また園児が世話をする姿をポートフォリオにして掲示し地域への発信をしていく。
2	計画・ねらい	食育を通した地域交流
	実践結果	どろんこ米を使っておにぎりを作る、どろんこ米を使ってごはんケーキを作るなど地域の方にどろんこ米を伝えた
	次年度方向性	引き続き園で集荷機できた野菜やどろんこ米を使った食育をおこない、園で新潟に田植え稲刈りをしている事を伝え宣伝していく。
3	計画・ねらい	地域に開かれた園
	実践結果	広報活動（散歩先での名刺、ちきんえっぐのポスター配布）
	次年度方向性	散歩での広報活動がうまくいかなかったので、地域の子育てサロンに定期的に宣伝に行けるようにアポ取りを積極的にする。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	考えるチーム
	実践結果	常に園の課題を見直せるように課題出しをおこなう。課題がでたら会議で共有して議題にする。
	次年度方向性	スタッフ自らが考えて行動できる場面作り、課題がでたら常にスタッフに問いかけ時間が掛かってでも自分で考える習慣をつける。
2	計画・ねらい	リーダー層の育成
	実践結果	リーダー層が中心となるように会議を回すようにした。リーダーから会議の議題がでるように細かく打ち合わせをした。
	次年度方向性	リーダー会議を月2回おこない、リーダー自らが園の良いところ、弱いところを出し合う。また、リーダー層の動きを把握してその場で指導する。
3	計画・ねらい	チーム力
	実践結果	対話を中心に会議をおこなった。職員の困り事は職員間で解決できることはしていく（共有は必須）主体的に動く姿勢づくりをした。
	次年度方向性	職員間での保育内容共有が課題、つもりでできていない状態がないように週振り返り会議以外にクラス会議を月2回から継続的におこなう。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食の循環サイクルの実行
	実践結果	4歳児が中心となってコンポストで土作りをおこなった。コンポストに興味が出る子が増え、家庭でも野菜くずを持ってきて参加する家庭がでた。
	次年度方向性	コンポストでの興味・関心が深まるようにスタッフ間でもコンポストの学びを深めていけるように畑会議（給食スタッフも）をおこなう。
2	計画・ねらい	給食残渣を減らし食べ物を大切に消費する
	実践結果	残渣を意識できるように毎日グラフにして見える化にした。
	次年度方向性	残渣への意識が高まってきたので継続していくと共に、残渣の減りや増加をまずはスタッフ間で共有して現状を把握していく。

〈6〉高め合う集団

1	計画・ねらい	リーダー会議
	実践結果	毎月約2回リーダー会議をおこなった。リーダーが中心となり園の課題を見つけ話し合い、実践、振り返りをした。

	次年度方向性	リーダーが振り返りするが、原因分析が弱いのでリフレクション力をつけるために客観的に見る姿勢をつける。
2	計画・ねらい	語り合い
	実践結果	子ども中心に子どもの姿を語り合える時間を定期的につくった。ポートフォリオを作成し保護者様へ掲示、子どもの姿をエピソードで語れるようにした。
	次年度方向性	子どものエピソードがスタッフの見る目、力によって内容が濃い、薄いと差がでている。差が開かないように子どもの姿のエピソード研修を定期的におこなう。
3	計画・ねらい	気持ちに寄り添う
	実践結果	相手の気持ちに寄り添って対話することを心がけた。課題が出た時には振り返りを必ずおこない、意見だしがしやすいように意識した。
	次年度方向性	意見だしがしやすい環境をリーダー中心におこなう。振り返り会議等で内容によっては若手から先に意見を出す、リーダーから出すなど場面で臨機応変にできるようにする。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半：4~9月	36人	96人	108人	116人	120人	120人	596人
年度後半：10~3月	36人	96人	108人	118人	118人	120人	596人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	36人	59人	76人	83人	59人	46人	52人	45人	48人	45人	45人	45人	639人
うち0歳児	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	1人	0人	0人	0人	0人	1人

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
うち0歳児	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人

〈2〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

常勤スタッフ	保育士	14人	看護師	0人	栄養士	1人	調理員等	2人
パートスタッフ	保育士	5人	補助	1人	調理	3人	事務	1人
	用務	1人					嘱託医	2人

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・園内研修
給食運営会議	月1回	食育会議・アレルギー対応・衛生点検
事故防止委員会	月1回	事故記録簿・インシデント・ヒヤリハットを使い自己分析 園内環境・ハザードマップの見直し
ケース会議	月1回	特児に関しての情報共有、指導方針の確認
クラス会議	週1回	各クラスの保育の流れ、活動の共有

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
食育会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長
主任会議	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	園内汚染区域の安全管理、備品などの管理
安全対策係	怪我防止・危機管理マニュアル参照
防火管理者	災害対策・避難訓練防災計画・自主点検
食品衛生管理係	食育会議の計画や実践、安全に対する管理
畑係	畑管理、畑計画に基づいた作業
生き物係	飼育全般に関する管理

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	地域交流、支援に取り組む。どろんこ祭りのサポート

4. 保育支援

〈Ｉ〉保育･保育参加･保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	・新入園児が園生活に慣れるまでの保護者様とお子様の不安を情報共有、相談しな がら、慣れていけるように進めていった。 ・タイムライン、お迎え対応での周知を活かしながら保護者様への無理のない発信と共 有の場を作った。 ・安全面に関しては保育者の連携不足から課題が残ったが、次年度に向けて保育者自身も主体的に考え、問題解決しようとする姿勢で努めた。
保育参加	4～3月まで　合計10名　が参加済み　　（3月Ｉ日時点）
保護者面談および発達相談	4～3月まで　合計名　が参加済み　　（3月Ｉ日時点）

〈2〉計画した年間行事の振返り

・別紙「２０24年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

Ｉ	計画・ねらい	子どもの食欲と意欲を育てる
	実践結果	子どもが意欲的に食べられるようにスタッフは必ず子どもと食事をとる。苦手なものを無理に食べさせたりしないように子どもの苦手なものを把握した。畑で育てた野菜をクッキングでその場で食べる体験をおこなった。
	次年度方向性	より一層畑の充実をはかるためスタッフの意識を一つにして豊作となるために環境を整え食の循環を伝えていく。
2	計画・ねらい	食品ロスを減らす
	実践結果	残渣を職員間で共有し合い、子どもの食の好みを把握し発注量もその日の人数分で対応し、無駄がないようにした。
	次年度方向性	引き続き、バイキング給食にて自分で量の調節をする。子どもの食べられる量を把握して対話していく。
3	計画・ねらい	クッキング・畑で作物作りを継続的に取り組む
	実践結果	子ども達の苦手野菜などを畑で育て採れた物を使って目の前でクッキングや子どもが炒めるなどの体験をおこなった。

	次年度方向性	引き続き、子ども中心に進めていくが、農業とリンクしたクッキングの計画は見直しながら進めていく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	5月17日／11月28日に実施
歯科検診	6月14日／11月13日に実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 6月10日に園にて歯磨き指導を実施 ② 10月11日に園にて手洗い指導を実施 ③ 8月7日に園にて歯磨き指導を実施
流行した感染症	① 6月に手足口病、園児6名・スタッフ0名蔓延。 ② 11・12月にインフルエンザ、園児12名感染報告有り。12月27日に終息
発作・痙攣等の対応	計1名に対し、計2回ダイアップ使用
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月日に園にて研修を行う。スタッフ22名、新人スタッフ2名、計24名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ25名のうち、24名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	該当なし
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底した

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み

	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（法定1回/3年）	業者による対象物の法定点検 2023年実施済み ※対象物がない園及び JW 園は削除すること
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月 ⇒4月1日、10月1日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日　実施済み
	児童健康診断	内科健診　各年2回／5月17日、11月28日 歯科健診　各年2回／6月14日、11月13日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時 ⇒4月26日、10月18日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間　実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	衛生管理のもと実行し日々の掃除、チェック
	実践結果	各リーダー中心に園内清掃、チェックをしたが、スタッフの意識の違いで綺麗を保てない場面が多かった。
	次年度方向性	指摘し合える関係を築くために、保育運営マニュアルの読み合わせをする。正しい内容で全スタッフが理解する。
2	計画・ねらい	みんなの大きな家をイメージし個々の居場所を確保する
	実践結果	子ども中心に、子どもの姿を捉えた子どもの姿を職員間で共有した。またクラス外でも子どもの共有ができるように振り返り会議をおこない、子どもの共有をした。

	次年度方向性	動の環境が多く、静の環境作りが課題。落ち着いたホッとできる環境を職員間で案を出し、環境見直しを最低年4回はおこなう。
3	計画・ねらい	子どもも大人も主体的に活動できる環境
	実践結果	子どもがワクワクして活動が取り組めるように自分で考えて遊びが作れるような環境を話し合って実践してきた。
	次年度方向性	表現活動の制作コーナーが安定しないので子どもが思い立ったらすぐ廃材、ハサミ、テープなどが使えるように様々な道具を準備して子どもが取り出せるようにする。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧
該当なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	月1回の避難訓練実施と共に年2回に不審者侵入訓練実施（保護者にも共有した）。
2	実践結果	子どもの達の命を守るため、災害に備えて保護者との連絡が取れるようにアプリの利用状況を確認した。
3	実践結果	安全マニュアルを2か月ごとに実施し、チェックリストと共に確認をし、保育者との周知に努めた。
4	実践結果	事故防止自主点検を年4回実施。
5	実践結果	日々の保育中のヒヤリハットした内容用紙に報告し事故防止に努めた。
6	実践結果	公園マップ（ハザードマップ）を作成しルート、危険場所、避難場所を職員同士でも確認し合った。
7	実践結果	光化学スモッグが発生しやすい気象条件、影響、情報、注意報を把握し、発令があった場合は内容に応じて張り紙、アプリを掲示し、室内で過ごすなど移動した。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

実習生・研修生のうけいれは積極的に行った。実習生だった学生が本園に就職するケースもあると想定して、実習生一人ひとりの特性を考えながら、不安にならずに楽しく実習ができるようにそれぞれの立場でフォローするように心掛けた。実習生の気持ちに寄り添い、まずは子どもと関わる事が楽し

いと思えるように子どもの姿のエピソードを伝えながら子どもの姿と大人の動きの意味を伝えた。
中学生や高校生のボランティア受け入れも積極的におこない、子どもに関わる仕事を伝えてきた。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
8月26～9月9日	共立女子大学	1人	責任実習
2月2日	横浜保育福祉専門学校	1人	責任実習

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
8月6日	神奈川県立港北高等学校	3人	観察実習
8月9日	神奈川県立新羽高等学校	2人	責任実習

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	26日 24名	24日 24名	28日 24名	19日 24名	27日 24名	20日 24名	25日 24名	22日 24名	20日 24名	24日 24名	14日 24名	5日 25名
園内研修	26日 16名	24日 16名	28日 16名	19日 16名	27日 16名	20日 16名	25日 16名	22日 16名	20日 16名	24日 16名	14日 16名	18日 20名

〈2〉外部研修への出席

該当なし

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	21日 1名

施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	12月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	該当なし											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

散歩先で出会った地域の方へ挨拶と園庭開放の宣伝をおこなった。
保育園、地域が一丸となって、子育て支援をおこない、子どもの健やかな成長を保障できるよう取り組む。地域の方が自由に園を利用し気軽に相談できるような環境を作り子育ての仲間として地域交流をおこなった。
鶴見区子育て支援課と共に「子育て相談室」子育て支援事業を週1で定期実施を継続し、地域の中で大きな安心できる家となるように広報活動をおこなった。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：下末吉公園にて　　参加延べ人数：4名
商店街ツアー	週1回　主な行き先：クリエイト、パレッテ、警察署、消防署、小学校、中学校、サーテイーワン、マック、魚屋、八百屋、スーパーなど
世代間交流	毎月第1・3金曜日に当園にて敬老サークル開催
異年齢交流	3月13日に下末吉小学校にて交流会を実施予定
その他活動	なし
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉　実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

保育所保育指針における「幼児期の終わりまでに育って欲しい 10 の姿」①健康な心と体②自立心③協同性④道徳性・規範意識の芽生え⑤社会生活との関わり⑥思考力の芽生え⑦自然との関わり、生命尊重⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚⑨言葉による伝え合い⑩豊かな感性と表現　以上の視点を具体的体験として、主体的で対話的な深い学びの基として、保育計画に取り入れた。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
5月22日	幼保小連携5歳児交流（打ち合わせ）	8名	末吉小学校（会議室）	打ち合わせ
5月24日	末吉小学校 1年	3名	末吉小学校（1年生）	授業参観見学（職員）
7月2日	末吉小学校	20名	色水遊び	子ども間交流
10月17日	末吉小学校	20名	三ツ池公園でどんぐり探し	子ども間交流
10月24日	末吉小学校	20名	運動会演技見学	子ども間交流
11月11日	末吉小学校	20名	秋まつり	子ども間交流
11月22日	末吉小学校	2名	連携会議	職員間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

対象児童の支援計画作成、日々の姿を日案省察に記入。振り返りをおこない丁寧な関わり、児の興味関心はどこにあるのか、他児との関わりの手助けは本児を見守りながらおこなった。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・４～３月に計12回開催　参加者：5名

毎月の園会議に先立ち、関係機関とも連絡を取り合い担当職員中心に施設長・主任・栄養士が参加

し、個々の個性を大事に計画の振り返り、子どもの姿、今後の目標、計画を立て直してきた。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

進級時の引継ぎは、児童の個別記録を見ながら、現在の子どもの様子を共有した。小学校への引継ぎは、各進学予定小学校と連携を取り合い、必要事項をまとめて直接面談で共有した。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
51名	97名	64名	75名	57名	77名	127名	60名	68名	66名	63名	60名	865名

実施項目	詳細												
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　　来園延べ人数：144名												
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　⇒計0件相談実施済み												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計10回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	4名	2名	2名	2名	0名	2名	0名	0名	4名	7名	10名	2名	35名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計7回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	2名	7名	2名	0名	2名	2名	6名	0名	0名	3名	0名	0名	24名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00　にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっぐだより	毎月1日発行												
青空保育 （支援センター主催）	月1回　　公園名：下末吉公園にて　以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

株式会社学研データサービス R&C 評価事業部に依頼して受審済み

アンケート配布日：9月10日
アンケート回答率（スタッフ）…100%／アンケート回答率（保護者）…%
経営者ヒアリング・施設長ヒアリング・園審査：1月10日に実施

〈2〉園による自己評価の実施

２０２５年2月1日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：9時00分
自己評価終了時刻：16時00分
自己評価実施者：施設長、主任、事務、リーダー保育者１名

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：9月10日
アンケート回収率：%

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年３月１日　　作成者：鶴見どろんこ保育園 施設長　井上　あゆな

２０２４年度　越谷どろんこ保育園　事業報告書
（保育所における自己評価）

1．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

子ども一人ひとりを尊重し丁寧に関わる保育を実践した。その中で養護と教育が一体化され『生きる力』の基礎を培う事を目標に保育を展開していき、「にんげん力」を身につけるために子どもの発達にあった必要な遊びや体験活動を提案し子ども大人も自分で考え行動できるように導いた。基本保育活動の継続と丁寧な保育を実践していくために学びを多く持つことや小学1年生を知るために授業参観に行き、就学までに育みたい10の姿を目指した保育を実践した。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	養護と教育が一体化された保育を展開する。
	実践結果	・日課や基本保育活動を深め、丁寧に子どもと関わり安心できる環境作りを行った。 ・小学1年生の授業を見に行き、10の姿への理解を深め就学に向けの保育を実践した。
	次年度方向性	・丁寧な関わりや日課や基本活動を深められるように継続する。
2	計画・ねらい	子どもたちが主体的になり、自ら選択し遊びこめるようにする。
	実践結果	・必要な物が整理整頓された環境で遊べる空間作りを行った。 ・やりたいことが存分に発揮できる環境を整え、ゾーン保育の確立へ園全体で取り組む。
	次年度方向性	・子どもの様子に合わせた環境を継続して構成する。
3	計画・ねらい	物的環境や人的環境を整え子どもが伸び伸びと遊べる環境を作る。
	実践結果	・子どもたちの遊びや様子を理解し、子どもたちと共感し寄り添い、子どもたちの日々の変化を読み取り、環境構成を行った。
	次年度方向性	・物的環境と人的環境の必要性を深める。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保育園と保護者との密なコミュニケーションと連携をとる。

	実践結果	・タイムラインでの投稿内容を充実させ、保育の様子を発信した。 ・子育て中の保護者の気持ちを理解し、コミュニケーションが図れるような保護者対応の研修を行い保護者に寄り添った連携が取れるようにする。
	次年度方向性	・共有不足な面については仕組みつくりをして、今後解消する必要がある。
2	計画・ねらい	3分間対応の内容を充実し、スタッフ全員で子どもの様子を語れる集団にする。
	実践結果	・伝達事項や子どもの様子を表情豊かに伝えた。 ・待ち時間の充実を考え掲示板を活用した。
	次年度方向性	・お迎えが重なってしまう時のお迎え対応を円滑に行えるように今後も研修をして深める。
3	計画・ねらい	積極的に挨拶を行い、気持ちの良い関係を築く。
	実践結果	・気持ちの良い挨拶で、朝・帰り共に保護者の方が安心してもらえるような雰囲気作りを行った。 ・話しかけやすい、相談しやすい関係を作れるようなコミュニケーションを心がけた。
	次年度方向性	・安心して預けていただけるような雰囲気作りを継続して実施する。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域に開かれた子育て内容の実現や美観を通し選ばれる施設を目指す。
	実践結果	・SNS を通じて園の活動を発信することで保護者や地域に開かれた子育てを目指した。
	次年度方向性	・月1回発信していったが、子育て支援センターの事をより多くの方へ知っていただける手法を考案する。
2	計画・ねらい	地域の全ての子育て家庭の方のほっと一息つける場所を目指す。
	実践結果	・保護者や地域の子育て世代だけでなく様々な地域の方に対して開かれた場所となり利用者同士が交流を図れるような仕組みを作った。
	次年度方向性	・様々な世代の方が園に来訪してくださっていたので、安心できる場作りに継続して力を入れる。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	スタッフ全体で学び合う意識を高め、園内研修を充実する。
	実践結果	・『園長大学Ⓡ保育士大学』の動画を活用し研修を行った。 ・園内研修を充実させ、学び合える集団を作っていった。

	次年度方向性	・保育者発信で学びあえる雰囲気や環境を今後も継続する。
2	計画・ねらい	一人ひとりの目標を設定し意識の向上をする。
	実践結果	・個人面談を通してスタッフの目標に対しての進捗状況を確認した。
	次年度方向性	・目標だけでなくコミュニケーションの一環として面談を今後こまめに行う。
3	計画・ねらい	子育てのプロとしての意識の水準を向上する。
	実践結果	・コンピテンシーの追求をし、行動を振り返ることで自身の特徴を分析し次に繋げていった。 ・コンピテンシーを用いて良い所を伸ばし、課題を明確にしていった。
	次年度方向性	・コンピテンシーを使っての意識の水準を継続して行っていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食材や食の循環への意識を育む。
	実践結果	・食育にて味噌作りやケチャップ作り等加工品作り体験を行った。 ・畑活動を充実して行った。
	次年度方向性	・食育活動を充実し、畑活動が日課として定着するように継続していく。
2	計画・ねらい	食材の循環サイクルの実行。
	実践結果	・給食残渣を減らした。 ・ヤギや鶏の糞を再利用して、堆肥を作った。
	次年度方向性	・食事への丁寧な関わりを継続して残渣へと継続して繋げる。

〈6〉子どもを中心に考えられる保育

1	計画・ねらい	子どもに対して日々丁寧に関わる保育をする。
	実践結果	・子どもの声に共感し、日々の関わりの中で子どもの人権の尊重や常に子どもにとってどうなのかを考えられるよう指導を行った。 ・笑顔が溢れ、応答的な関わりを持ちながら保育を行った。
	次年度方向性	・子どもの声に耳を傾け、丁寧な子どもとの関わりを継続的に行う。
2	計画・ねらい	子どもと一緒に活動を楽しめる保育者集団にする。

	実践結果	・子どもがどんなことに興味を持ち、夢中になって遊んでいるのかを保育者自身が発見・体験・共感した。 ・一緒に楽しめるような行事を考え PDCA サイクルをもとに保育に生かした。
	次年度方向性	・子どもを中心に考え、一緒に活動を楽しめるような活動を行う。
3	計画・ねらい	スタッフ間で子どもの様子や保育について語り合う環境作りをする。
	実践結果	・楽しめた事や発見したことを語り合えるような時間と場つくりをした。 ・日々の保育について PDCA サイクルできる時間を作った。
	次年度方向性	・いつでも子どもたちの話で溢れている環境作りをスタッフ中心に行う。

〈7〉気持ちの良い保育園作り

I	計画・ねらい	どんな人でも心地よく園を利用してもらえる環境作りをする。
	実践結果	・美観を考え園内外の清掃が行き届き園を訪れる人が気持ちよく思えるようにした。 ・整理整頓や次の人が気持ちよく使える環境作りをした。
	次年度方向性	・美観への意識が持てるようになっているので継続して実施する。
2	計画・ねらい	園に関わる人が笑顔で、コミュニケーションの取りやすい雰囲気作りをする。
	実践結果	・園内や近隣の方等と自然に挨拶の飛び交う関係作りをした。 ・挨拶や感謝の気持ちが飛び交う雰囲気が作れていた。
	次年度方向性	・明るい雰囲気が作れていたので今後も雰囲気作りに努める。
3	計画・ねらい	相手の気持ちや立場になって考えられる集団作りをする。
	実践結果	・園内研修で接遇研修を行い相手の立場に立つことを学んだ。 ・電話、来客、保護者対応の確認をした。
	次年度方向性	・保護者の立場に立って考えられる機会を多々作っていったので自然と実践できるように今後も継続する。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半：4~9月	22人	60人	82人	110人	92人	92人	458人
年度後半：10~3月	36人	60人	89人	112人	100人	92人	489人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	45人	69人	31人	44人	46人	66人	43人	61人	37人	41人	23人	20人	526人
うち0歳児	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	6人	0人	0人	0人	0人	6人

（解説）越谷市・法人規定の夕延長をされている人数を反映した。

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	3人	1人	1人	4人	1人	1人	0人	12人	12人	12人	8人	3人	58人
うち0歳児	0人	0人	0人	0人	1人	0人	0人	5人	10人	11人	5人	0人	32人

〈2〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

常勤スタッフ	保育士	13人	看護師	1人	栄養士	1人	調理員等	1人
パートスタッフ	保育士	5人	保育補助	1人	調理	1人	用務	1人

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・自己評価、コンピテンシー、統一事項確認、園内研修
給食運営会議	月1回	離乳食進行検討、食育活動の計画と振り返り、給食内容や残食の振り返り
事故防止委員会	月1回	情報共有、課題検討振り返り
ケース会議	月1回	支援計画の振り返り、計画見直し
共有会議	月2回	情報共有、連絡事項

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
食育会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長
主任会議	月1回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	衛生的改善と疾病の予防処置、保育所の衛生全般の管理
安全対策係	全スタッフの安全に対する意識の向上、施設における様々な安全点検と対策に取り組む
防火管理者	防火管理に関わる消防計画の作成、防火管理上必要な業務を計画的

	に行い、自主点検の確認
食品衛生管理係	食品取扱いに関する業務、施設の衛生管理やスタッフの衛生教育
畑係	畑の環境整備、植物の病気の予防、畑に必要な土や苗などの発注・管理
生き物係	飼育動物の健康管理、環境改善、餌の管理、卵の管理

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	保護者と協同的に企画・準備・進行。
運動会係	企画・準備・役割分担・進行。
生活発表会	企画・準備・役割分担・進行。

4. 保育支援

〈1〉保育･保育参加･保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	・子どもの姿に合わせた環境設定の実践と振り返り。 ・安心した環境の中で様々な人と関わり、信頼関係を築きゆとりある保育の実践。 ・遊び込める環境のもと遊びが充実する保育の実践。 ・養護と教育が一体化された保育を展開し、子どもたちが主体となって自己表現する場作りの実践。 ・動植物の飼育栽培の実践。
保育参加	4～3月まで　合計9名　が参加済み　　（3月１日時点） ・２、３、５歳児クラスにて保育参加
保護者面談および発達相談	4～3月まで　合計３名　が参加済み　　（3月１日時点） ・園での様子と家庭事情の共有

〈2〉計画した年間行事の振返り

・別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	よく遊び、よく食べる子を育てる。
	実践結果	・園外活動を充実させ、空腹感を感じて意欲的に食べた。 ・様々な食材に触れる中で自分が食べられる量を調節し、時間や場所を選択して食べる意欲を持てるようにしていった。 ・スタッフ全員が子どもと一緒に食卓を囲み、美味しさを共感しながら食べた。
	次年度方向性	・園外活動を充実したことで食べる意欲へ繋がっていったので今後も継続していく。
2	計画・ねらい	加工や命をいただく経験から食の循環を知る。
	実践結果	・魚を解体する様子を見て、命をいただく活動をした。 ・食育活動の中で加工品作りの体験を行った。
	次年度方向性	・加工品が出来るまでの過程を子ども達も楽しみにしながら参加していたので今後も様々な発見の場を作っていく。
3	計画・ねらい	様々な食材に親しむことで食への興味を広げる。
	実践結果	・畑で野菜を栽培し、収穫したものを味わった。 ・米研ぎ、野菜洗い等食事作りに積極的に取り組めた。
	次年度方向性	・野菜洗いが日課になり、食材への興味が広がっていったので今後も継続して行っていく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月4日／11月12日に実施
歯科検診	6月6日に実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 6月12日に当保育園にて歯磨き教室を実施 ② 12月17日に当保育園にて命を守る・性教育を実施 ③ 2月27日に当保育園にて手洗いうがい教室を実施

流行した感染症	① 12月にインフルエンザ、園児16名感染報告有り。1月20日に終息。
発作・痙攣等の対応	計1名に対し、計2回ダイアップ使用
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月21日に当保育園にてエピペン研修をスタッフ計20名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ24名のうち、23名が使用可能
その他保健に関する取組	嘔吐処理、アレルギー除去食提供、与薬方法のロールプレイを行い全スタッフで確認。 新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底するなど各園で記載

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（法定1回/3年）	業者による対象物の法定点検 2023年実施済み ※対象物がない園及び JW 園は削除すること
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月 ⇒4月3日、10月3日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日　実施済み

	児童健康診断	内科健診　各年2回／6月4日、ｌｌ月ｌ2日 歯科健診　各年ｌ回／6月6日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･ｌ0月の園会議時 ⇒4月ｌ2日、ｌ0月ｌｌ日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月ｌ回／園会議冒頭5分間　実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

ｌ	計画・ねらい	安心して過ごせる環境作りをする。
	実践結果	・必要な物が整理整頓された空間作りをし、保育室内・外の安全な環境整備のための工夫をした。
	次年度方向性	・整理整頓された環境作りを継続していく
2	計画・ねらい	伸び伸びと遊べる環境や、自ら考えて行動できる場所作りをする。
	実践結果	・何に興味を持っているのか、何を必要としているのかをこどもの様子から読み取り、日々変化のある環境設定をした。 ・子どもが選択できる環境つくりの実践をした。
	次年度方向性	・ゾーンの確立に向けて実践を積んでいく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
ｌ	駒台	3・4・5歳児保育室	毎日	異常なし
2	ままごと冷蔵庫	ｌ・2歳児保育室	毎日	異常なし
3	肋木	0歳児保育室	毎日	異常なし
4	のぼりロープ	縁側	毎日	異常なし

5．危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

ｌ	実践結果	防災…危機管理マニュアル№3の災害対策に則り、消防訓練・避難訓練・避難訓練開催通知・自衛消防訓練通知・上級救命資格取得(継続)手続き・

		防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛消防組織と安全対策係の設置・緊急地震速報運用を行い、災害発生時には対応フローチャートに従った。
2	実践結果	ケガ事故防止…危機管理マニュアル№3のケガ事故防止策・安全点検と保全(P14～)に則り、事故防止チェックおよび設備点検チェックの実施、安全教育、SIDS 防止策を行い、ケガ発生時には対応フローチャートに従う。事故記録簿、インシデント、ヒヤリハットに基づく事故検証の実施をした。(事故防止委員会)
3	実践結果	防犯…危機管理マニュアル№３の不審者対策(P20～)に則り、不審者侵入訓練の実施、笛の携帯、代理送迎者の把握、不審者情報の収集と共有を行い、不審者侵入時にはフローチャートに従って行った。
4	実践結果	光化学スモッグ…危機管理マニュアル№３の光化学スモッグ対策(P21～)に則り、光化学スモッグの知識を身につけ注意法発令の把握を行いながら、発生時には光化学スモッグ発生時の対応および行政連絡に従って、対応を行った。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

小中高生に職業体験の場提供の意思はあったが需要が無かった。実習生については沢山受け入れ現場で学べる充実感や保育の楽しさを現場のスタッフが伝え次世代育成の支援を行えるようにした。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
8月2～20日	越谷保育専門学校	1人	責任実習
10月15～28日	越谷保育専門学校	1人	責任実習
2月3～19日	十文字学園女子大学 人間生活学部人間福祉学科	2人	部分実習
2月20～3月6日	聖徳大学教育学部児童学科	1人	部分実習
2月20～3月6日	道灌山学園保育福祉専門学校	1人	部分実習

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	12日 25名	10日 24名	14日 24名	12日 23名	9日 23名	13日 25名	11日 25名	8日 24名	13日 24名	17日 24名	21日 24名	19日 24名
園内研修	12日 20名	10日 21名	14日 20名	12日 19名	9日 15名	13日 17名	11日 21名	8日 20名	13日 20名	17日 18名	21日 20名	19日 20名
虐待防止研修	12日 25名						11日 25名					

〈2〉外部研修への出席

主催	研修名	出席	施設長推薦
埼玉県保育士等 キャリアアップ研修	キャリアアップ研修	14名	無
令和６年度どろんこ会キャリアアップ研修	キャリアアップ研修	2名	無

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	21日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	11月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年１回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

子どもたちが地域の方に見守られながら成長し、自然と挨拶が交わされ関わりが持てるような関係性を作る。また、様々な方との関わりから仕事や地域の活動等子どもたちが知るきっかけとする。

地域に開かれた保育園となり、相談しやすく訪問しやすい園を目指して地域の方に愛される園運営を行う。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：平方公園にて　　参加延べ人数：8名
商店街ツアー	週1回　主な行き先：建御雷神社、越谷平方郵便局、いちご工房 ひらかた、辻九、浅間神社、株式会社小泉工業、平方小学校、ベルクス、ダイソー、春日部消防署 備後分署、山崎青果店、林西寺、中華料理 麒麟等
世代間交流	11月22日に老人福祉施設やお店にて勤労感謝交流を実施
異年齢交流	2月27日に平方小学校にて小学生との交流会を実施
その他活動	1月7日に当保育園にて太鼓獅子舞の集いを実施
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉　実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

近隣小学校との連携を行う。幼保小連絡協議会や学校訪問などを通し交流を深めていく。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
8月2日	幼保小連携推進研修会	1名	増林地区センター	幼保小の円滑な接続を目的とした研修会
11月29日	平方小学校 1・2年	42人	持久走大会(平方小学校校庭)	子ども間交流
1月29日	平方小学校 1年	12名	授業参観（平方小教室）	スタッフ間交流
2月12日	桜井小学校	2名	連絡会・情報交換会	スタッフ間交流
2月27日	平方小学校 1年	14名	交流会（平方小教室・体育館）	子ども間交流

10. 要支援児

今年度、対象園児なし

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
57名	61名	59名	124名	63名	79名	103名	92名	97名	69名	96名	65名	965名

<table>
<tr><th>実施項目</th><th colspan="13">詳細</th></tr>
<tr><td>園開放</td><td colspan="13">（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　　来園延べ人数：965名</td></tr>
<tr><td>子育て相談</td><td colspan="13">（月）～（土）13:00～16:30</td></tr>
<tr><td rowspan="3">自然食堂
親子ランチ
交流</td><td colspan="13">毎週（水）10:00～12:00　　⇒計12回実施済み
参加者延べ人数</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>5名</td><td>11名</td><td>7名</td><td>14名</td><td>12名</td><td>9名</td><td>10名</td><td>12名</td><td>31名</td><td>17名</td><td>6名</td><td>10名</td><td>144名</td></tr>
<tr><td rowspan="3">どろんこ
芸術学校
どろんこ
自然学校</td><td colspan="13">毎週（水）10:00～12:00　　⇒計8回実施済み
参加者延べ人数</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>0名</td><td>9名</td><td>0名</td><td>6名</td><td>4名</td><td>7名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>3名</td><td>6名</td><td>13名</td><td>6名</td><td>54名</td></tr>
<tr><td>勝手籠設置</td><td colspan="13">（月）～（土）7:00～20:00　にて実施
門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置</td></tr>
<tr><td>ちきんえっぐだより</td><td colspan="13">毎月1日発行</td></tr>
<tr><td rowspan="3">青空保育
（支援センター主催）</td><td colspan="13">月1回　　公園名：平方公園にて　以下日程にて実施</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>3名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>2名</td><td>0名</td><td>5名</td></tr>
</table>

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２４年7月３０日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：１０時００分
自己評価終了時刻：１６時００分
自己評価実施者：施設長、主任保育士、保育士

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月２５日
アンケート回収率：１４４．８％

たくさんの方にアンケートのご協力をいただけた。日々の保育を理解して下さるご意見や保護者対応、共有不足等課題を見つけるきっかけとなった。いただいたご意見を大事にし、安心して預けていただける環境や気持ち良い園作りを今後も継続する。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見　０件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む）　０件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年3月１５日　　作成者：越谷どろんこ保育園　施設長　鈴木 聡子

２０２４年度　志木どろんこ保育園　事業報告書
（保育所における自己評価）

I．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

・法人理念
「にんげん力。育てます。」
・法人保育方針
「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」

2024 年度　施設運営方針

① 子どもが自分の足で人生を歩むために、自ら経験と失敗を体験できる環境で「豊かに生きる力」を育む
② 子どもも大人も相手の立場を想い、認め合い、協同性、社会性、道徳性、規範意識の体得を目指す。
③ 食材や食の循環、命を頂く活動の実践
④ 職員は「あなたはどうするか」～大人も主体性～をキーワードとし、考え、学び、動く、自律した集団を目指す。

〈I〉保育内容の充実・質の向上

I	計画・ねらい	子どもが自ら「豊かに生きる力」を育む
	実践結果	子どもが自ら経験の選択することができる発達に沿った保育活動と物的環境設定を月I回の振り返りとアクションプランの設定を常とし、日々子どもの姿に合う様に努めた。
	次年度方向性	子ども一人ひとりの育ちを把握し、見通しを持った保育を行う。子ども同士で話し合う・順番を決める・自分の意見を述べることができるような環境構成を行っていく。
2	計画・ねらい	協同性、社会性、道徳性、規範意識の体得
	実践結果	サークルを組み話し合いを日課とし、自分の思いを伝え相手の思いを知る機会を常態化する。毎朝に小集団での話し合いを繰り返すことで、子どもたちが自分の思いを伝え、認められることで自信につながるようになった。
	次年度方向性	子どもの生活・遊びは学びであり、遊びを通して子どもの遊びに気づき、学びの道筋をスタッフが考える。子どもが何に気づき、学びどう支援するかの手立てを言語化し、その過程を視覚化する。
3	計画・ねらい	食材や食の循環、鶏を絞めて食す、命を頂く。
	実践結果	食の循環で鶏を絞めて食すことを目標に保育年間目標を立て、段階を追って食の循環を体得出来るようにした。段階的に話が進むようにテーマに沿って進めることで子ども達の理解も深まった。

	次年度方向性	食の循環を経験し、知るねらいとし、大人とこどもとで一緒に畑仕事や堆肥作り、動物の世話を行う中で過程や命の尊さを知る。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	①　　思いやり②誠実さ③謙虚さ④感謝の気持ちをもってかかわる
	実践結果	日々の生活の中の関わりの中で、上記4点を常に意識して、接遇を行う。 また、どのような接遇が相手の立場を思えているか等振り返りを行い、より良い接遇を目指した。
	次年度方向性	相手が心地良いと感じる接遇を心掛けていく。お迎え対応時に子ども自身が頑張ろうとした姿、葛藤した姿を丁寧にお伝えする。
2	計画・ねらい	保護者と共育て
	実践結果	保育参加を積極的にアプローチし、子どもの姿を共有する機会を増やした。1か月に1家庭程度は常に参加した。また、参加時に園の運営方針をご理解頂く為に面談を実施し保育内容の理解を得た。
	次年度方向性	保育参加への積極的なアプローチをするなどし、子どもの成長を丁寧に伝えていく。言語化・可視化をしながら育児に対する不安を解消できるように共に考え、面談等を通して対話し子育ての楽しさを共有していく。
3	計画・ねらい	子どもを真ん中に保護者と頼り頼られ合う関係の構築（どろんこサポーターズとの協同）
	実践結果	保護者参加行事やどろんこサポーターズとの協力の機会を増やし、保育園と保護者がチームとなれる機会を多く設けた。夏には水鉄砲大会、冬にはクリスマス会をどろんこサポーターズが計画し実行した。保育内容や子育てについて話す機会となり、家庭間の繋がりを持つ機会となる。
	次年度方向性	どろんこ祭りや、焚火など地域の方が参加出来るように行事を設けながら、交流を深め、地域に開かれた保育園を目指す。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域の子育て世代にとって、開かれた園になる。
	実践結果	地域の保護者の子育て世代のため、ちきんえっぐ開催、青空保育（月1回）、園庭解放等を行い、子育て相談できる存在になるように努めた。 参加率が伸び悩んでいる点は来年度への課題点となる。
	次年度方向性	ちきんえっぐの認知度向上の為、おたよりを公共機関に配置し、地域の子育て世代の交流を充実させ、地域子育ての拠点としての役割を果たしていく
2	計画・ねらい	ちきんえっぐ、青空保育、園庭解放の利用者数を増やす。
	実践結果	地域の子育て世代のニーズを調べ、実態に合った計画、運営を行う為に、保護者からのつながりで声をかけ、青空保育においてちきんえっぐの活動

		内容の手紙の配布などを行った。
	次年度方向性	子育てに関する相談や援助、利用者にニーズに柔軟に対応し、地域に開かれた子育て支援を実施する。
3	計画・ねらい	地域公開講座の実施
	実践結果	年１回以上の地域公開講座を実施予定であったが、地域の歯医者に講座の開催を依頼したが予定が合わず実施出来なかった。
	次年度方向性	地域参加の園行事を計画し、地域との交流を深める。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	「自ら経験と失敗の体験を選択できる環境設定」を行える職員の育成
	実践結果	「豊に生きる力」を育むために、日々の保育計画を行う。 保育計画を PDCA 化し、職員個々人が常にフィードバック、課題の抽出を半期に１度行った。
	次年度方向性	スタッフは自身の強みと弱みを理解し受け止め、目標に向かって必要な知識を本や研修・園長大学の視聴等で自ら学ぶ機会を作り、常にアウトプットして実践に活かす。
2	計画・ねらい	保育所保育指針の１０の姿を体得する
	実践結果	特に協同性、社会性、道徳性、規範意識をロールプレイ等で学ぶ機会を設け、施設長、主任が保育の中でどのように実践していくのかを細かく指導した。
	次年度方向性	10の姿について、園内研修を通して学び合う。子ども一人ひとりの幼児期の終わりまでに育って欲しい姿を見通しながら、特に協同性、社会性、道徳性、規範意識を中心に子どもの育ちの指標を理解する。
3	計画・ねらい	常に学び、謙虚に誠実に、自己の成長を楽しむ
	実践結果	全職員が年間目標を設定し、目標達成の為の学びを常態とする。またその学びを園会議や研修の機会を設けアウトプットした。
	次年度方向性	スタッフの自己肯定感を高め、チームとして連携を大切にする。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食材や食の循環、命を頂く
	実践結果	園庭裏側にある畑の整備を行い、畑仕事を日課とし食の循環を体得することに努めた。給食残渣を子どもと一緒にコンポストに入れることを日課と

		し、出来た土で野菜を育てるなど食の循環を知る活動を行った。
	次年度方向性	給食で出た廃棄物を再利用できるよう、コンポストを利用したい肥づくりを行う。
2	計画・ねらい	園庭にクローバー緑地化
	実践結果	園庭に２月頃より順次、クローバー、ダイカンドラの種まきを行った。園庭の環境を緑地化し、土壌改善、安全で心地よい園庭作り目指した。
	次年度方向性	常に美観が保たれる保育園 園庭クローバーの種植えを行い、緑豊かな保育園をつくる。保育室内は常に清掃が行き届き、誰が来ても心地よさを感じることが出来る施設であり続ける。
3	計画・ねらい	地域の自然への学びの深め
	実践結果	志木市宗岡の生態について、子どもが地域の生き物に興味が抱けるように園周辺の動植物に触れる機会を設定し、遊びの中から自然に興味を持って学びに繋げた。
	次年度方向性	毎日の生き物の世話や小屋掃除・畑仕事を通して、環境への意識を育む。

〈6〉職員が学び、自己成長のできる環境の提供

I	計画・ねらい	職員それぞれの強みを生かしたチーム保育
	実践結果	園会議や研修等でそれぞれの強みを見出し、学びを深め合うことテーマに行い同僚性を強める機会を設けた。
	次年度方向性	スタッフは自分の強み弱みを理解し受け止め、学び合うことで同僚性を強める。
2	計画・ねらい	園会議での自主研修の実施
	実践結果	年度当初の計画に捉われずに、その時の課題などをしっかりと見極めて、主任リーダーから課題を抽出し、定期的に自主研修を行った
	次年度方向性	子ども間でも想いをぶつかり合いや葛藤できる機会を得られるように、物の数や置き場所構成し、必要な場面での言葉掛けを行い、自分の気持ちの伝え方、友だちへの気持ちへの気づき、我慢することに身につけられるようにする。
3	計画・ねらい	年間目標の振り返りと PDCA 化
	実践結果	全職員が年間目標を設定し、半期に I 度、主任、リーダーによるフィードバックと課題抽出を行い PDCA 化し、常により良い保育へ繋げるように努めた。

	次年度方向性	子ども間での想いのぶつかり合いや葛藤できる機会を得られるように必要な環境構成を行う。

〈7〉保護者との信頼関係の構築、サポーターズとの協同

1	計画・ねらい	保育参加の参加率30パーセントを目指す
	実践結果	保育参加を通して、日々の保育内容を体感して頂き、保育運営の理解を深めた。
	次年度方向性	保護者支援係を設置し、定期的に保育参加の案内を行い、保育参加を通して、日々の保育園での生活を理解して頂く。
2	計画・ねらい	保護者と協働での環境整備
	実践結果	どろんこサポーターズの企画した行事の前に石拾いを協力して行うなど、園の環境を良くする取り組みを保護者と共に行った。
	次年度方向性	保護者と共に施設の環境整備や美化活動を行う。
3	計画・ねらい	保育活動の可視化
	実践結果	園の施設運営方針、保育内容を保護者にアプリ等を使って、常に開示した。またおたよりを活用し、情報の更新がすぐにわかるように仕組みを変更した。
	次年度方向性	保育園の活動を日々のお迎え伝達や掲示で発信する。 サポーターズの活動も可視化することで、保育園の活動理解を深めて頂く。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半：4~9月	6人	12人	12人	20人	20人	19人	89人
年度後半：10~3月	6人	12人	12人	20人	20人	19人	89人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	136人	224人	234人	196人	143人	138人	177人	195人	168人	172人	214人	237人	2234人
うち0歳児	2人	5人	4人	1人	3人	2人	1人	9人	6人	3人	2人	2人	40人

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
うち0歳児	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人		0人

〈2〉開所時間

7時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

常勤スタッフ	保育士	14人	看護師	0人	栄養士	2人	調理員等	0人
パートスタッフ	保育士	1人	補助	1人	調理	0人	事務	1人
	用務	2人						

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・園内研修計画内容
給食運営会議	月1回	食育計画 献立内容の見直し 喫食状況（残食の記録簿） 検食簿指摘事項の改善について 配膳方法 食育活動実施内容 給食提供マニュアルおよび運用ルールの作成の見直し
事故防止委員会	月1回	自園及び系列園で起きた事故のケーススタディと改善策策定 全園事故防止委員会での内容共有
ケース会議	月1回	要支援児個別計画の振り返り及び省察 要支援児個別計画の見直し
環境プロジェクト会議	月1回	子どもが自ら経験の選択をすることができる物的環境の考察と改良
保護者、地域支援プロジェクト会議	月1回	保護者、地域、どろんこサポーターズと頼りと頼られ合う関係の構築の為の活動

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
食育会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、看護師
主任会議	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉係の設置状況

係名	職務内容・役割
環境プロジェクト係	子どもが自ら経験の選択をすることができる物的環境の考察と改良
保護者、地域支援、どろんこサポーターズ係	保護者、地域、どろんこサポーターズと頼りと頼られ合う関係の構築の為の活動
防火管理者	災害全般の予防・対策の取り組み実践
食品衛生責任者	日々の食事や食育プロジェクトの企画と実践の中心
畑、生き物係	農業計画に沿った畑の維持管理と活動準備、および可視化

〈4〉行事係の設置状況

係名	職務内容・役割
入園式、卒園式係	入園式、卒園式の準備
どろんこ祭り係	どろんこサポーターズと連携をとり、保護者と協同して内容の企画、運営を行う。
運動会係	子どもの心身の発達を、運動を通して保護者と共有する。保育の継続性に重きを置き、日常の保育の延長にする。
生活発表会係	年間の園生活での育ちを全体的に保護者と共有するために、可視化及び実際に体験できるように企画する。

4.　保育支援

〈ｌ〉保育･保育参加･保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	・美観・環境設定を徹底し子どもが落ち着いて遊びこめる環境の提供に努めた。 ・子ども、大人が思いを伝え合える活動に配慮し、自分の意見を互いに伝え合える機会を増やした。 ・魚の丸焼きや大根の調理などの食育を通して、ありのままの食材が加工される姿を体感する。
保育参加	4～3月まで　合計17名　が参加済み　　（3月1日時点）

保護者面談および発達相談	4～3月まで　合計14名　が参加済み　　（3月1日時点） ・保育園での様子 ・就学に向けて心配事の共有 ・療育について

〈2〉計画した年間行事の振返り

・別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	健康な心と体を育む
	実践結果	健康な心と体を育むために、身体を使う遊びを十分に行い、お腹を空かせ意欲的に食べる。
	次年度方向性	引き続き意欲的に食事が出来るように、食事と生活の流れを日々見直しながら、流れを大切にし、丁寧に流れを作る。
2	計画・ねらい	食育プロジェクト
	実践結果	子どもの現状を捉え，根拠を持ったアクションプランの作成し運営する。内容を保護者と共有する。
	次年度方向性	整えられた空間で心地よく食事が出来るように職員同士が連携する。
3	計画・ねらい	SDGS を視野に入れた食の循環の学びと実践。
	実践結果	「自分で」育てる、食べる、活用するなど循環にかかわる活動を行う。
	次年度方向性	給食残渣に着目しコンポストなど食の循環が理解できる保育内容を計画する。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月4日／11月12日に実施
歯科検診	6月11日に園にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施

スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	①　　５月志木どろんこ保育園にて熱中症について園会議で研修を行う。 ②　　6月　志木どろんこ保育園にて歯磨き指導を実施 ③　　６月　志木どろんこ保育園にて、水遊び、プールについて安全指導
流行した感染症	① 12月にインフルエンザＡ型、園児13名・スタッフ2名蔓延し、朝霞保健所へ報告。12月25日に終息
発作・痙攣等の対応	計1名に対し、計2回ダイアップ使用
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月21日に志木どろんこ保育園にてエピペン研修を計１７名が受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ17名のうち、１７名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	・７月１４日に志木どろんこ保育園にて AED 研修をスタッフ計5名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ名のうち、１８名が使用可能
その他保健に関する取組	ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（法定1回/3年）	業者による対象物の法定点検 2023年実施済み ※対象物がない園及び JW 園は削除すること
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施

衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月 ⇒4月15日、10月15日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日　実施済み
	児童健康診断	内科健診　各年2回／6月4日、11月12日 歯科健診　各年1回／6月11日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時 ⇒4月19日、10月18日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間　実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	環境改良プロジェクト
	実践結果	「子どもの発達にあった環境」「子どもが自ら経験の選択することができる発達に沿った物的環境の設定」を月ごとに見直し
	次年度方向性	引き続き、PDCA 化を行い、日々必要と不必要を精査し、子どもの姿にあった環境を設定する。
2	計画・ねらい	子どもと共に作り上げる環境設定
	実践結果	子どもが話し合う機会を作り、自分たちの環境の充実についてレイアウトやルール制定などを共に考えて作り上げる。
	次年度方向性	職員が子どもの姿を捉え、子どもが必要とする環境をまずは背中をみせて提案する。出来上がった環境について子どもと共に振り返りを行い、環境を発展させていく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	壁登り	ホール	使用前	異常なし →８月に破棄
2	配膳台	幼児室	毎日	異常なし
3	棚	幼児室	毎日	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	年間計画に沿って、月１回の避難訓練（年２回の書き込み訓練）突発で起こる災害に対して想定した訓練にする。
2	実践結果	事故防止のチェックリストの活用
3	実践結果	設備点検チエックリストの活用
4	実践結果	毎月の法人事故防止委員会における、施設長間での事故防止の検討
5	実践結果	毎月の園内事故防止委員会における事故防止検討実践（数値データによる分析・図面による可視化を行う。）
6	実践結果	法人内事故記録簿の職員共有。
7	実践結果	ハザードマップ作成の見直し

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

実習生やボランティア学生の受け入れについて見直しを行った。実習への満足度や接遇、職員の関わり方など細かな部分への配慮に意識して受け入れ行った。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
7月16～29日	大宮こども専門学校	1人	責任実習
8月19～31日	東京家政大学	1人	責任実習

10月15～28日	秋草学園短期大学	2人	責任実習
月20～2月3日	日本児童教育専門学校	1人	保育実習
2月3～18日	十文字学園女子大学	2人	保育実習
2月14～28日	文京学院大学	1人	保育実習

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
8月8～9日	志木高等学校	1人
8月1～13日	宗岡第二中学校	6人

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	26日 22名	31日22名	28日 21名	31日 21名	30日 21名	30日 21名	31日 21名	29日 21名	27日 21名	31日 21名	28日 21名	31日 21名
虐待研修	26日 22名						31日 21名					

〈2〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	21日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	21日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	8日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	11月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											

〈3〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

積極的に地域と関わっていくことを通して、園の存在を理解していただくと共に、地域で子どもたちの成長や安全を見守っていただけるようにしていく。また、積極的に園開放することで、地域の子育てに貢献していく。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：すみれ児童公園にて
商店街ツアー	週1回　主な行き先：宗岡公民館、八百屋、ヤオコー、郵便局、交番等
世代間交流	11月12日にあったかの家とシニア交流を実施
異年齢交流	10月１０日、２４日に宗岡第二中学校の中学3年生との交流を実施
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉　実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

アプローチカリキュラムを通じて計画的に小学校との連携を進めた。
　就学時には保育所保育児童要録送付、必要に応じて情報の申し送り等実施した。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
５月２２日	志木市立志木第二小学校	2名	幼保小子育て連絡協議会	職員間交流

11月13日	志木市立宗岡小学校	2名	幼保小情報交換会	職員間交流
12月11日	志木市立宗岡小学校	19名	交流	授業見学、交流
1月21日	志木市立宗岡第三小学校	19名	交流	授業見学、交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

■個別支援計画を毎月作成し、必要に応じて見直しに努める。
■全職員が周知し、子どもの成長発達を同じ視点で対応した。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・４～３月に計回１２開催　参加者：都度4～6名
■毎月の会議で子どもの様子・対応についての検討・報告を行う。
■必要に応じた対応と課題について検討していく。職員全員が家庭状況も踏まえ、共通した対応を行うことを努めた。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

■進級引継ぎは、書面と引継ぎ会議で行う。
■小学校への引継ぎは、児童指導要録、また各行の担当職員との面談によって行う。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	33名	1名	222名	5名	15名	51名	5名	5名	211名	0名	5名	553名

実施項目	詳細												
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　　来園延べ人数：1602名												
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　⇒計1件相談実施済み												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計12回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	1名	3名	3名	0名	0名	3名	0名	0名	0名	9名

<table>
<tr><td rowspan="3">どろんこ
芸術学校
どろんこ
自然学校</td><td colspan="13">毎週（水）10:00～12:00　　⇒計2回実施済
参加者延べ人</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>3名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>3名</td></tr>
<tr><td>勝手籠設置</td><td colspan="13">（月）～（土）7:00～20:00　にて実施
門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置</td></tr>
<tr><td>ちきんえっぐだより</td><td colspan="13">毎月1日発行</td></tr>
<tr><td rowspan="3">青空保育
（支援センター主催）</td><td colspan="13">月1回　　公園名：すみれ公園にて　以下日程にて実施</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>2名</td><td>4名</td><td>2名</td><td>2名</td><td>0名</td><td>4名</td><td>4名</td><td>2名</td><td>4名</td><td>0名</td><td>2名</td><td>2名</td><td>28名</td></tr>
</table>

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２４年１２月に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：１９時３０分
自己評価終了予定時刻：２０時００分
自己評価実施予定者：全職員

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月２６日
アンケート回収率：100%(76家庭)

（省察）
送迎時へのご意見や提案は引き続きあるものの、職員への信頼度への評価を感じた。保育参加や園の保育内容に興味を持って頂くことが増え、子どもの姿の共有をする機会が増えた。来年度も引き続き丁寧な対応を行い保護者様と信頼関係の構築を目指す。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見　　0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）０件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：志木どろんこ保育園 施設長　柳澤　麻衣子

２０２４年度　板橋仲町どろんこ保育園　事業報告書
（保育所における自己評価）

1．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

2024年度運営本部ミッションでもある①生活力の体得②10の姿の体得③子ども自らがいつでも経験の選択をすることができる物的環境の設定④鶏を絞めて食す「命をいただく活動の実践」の4つを意識して運営を行った。

生活力、10の姿の体得のために8時15分からさくらさくらんぼリズム、8時半から雑巾がけ、畑活動、ヤギ掃除をグループで分かれて実施することが日課となって定着できている。また、毎週火曜日の午後はさくらさくらんぼリズムを実施することで「健全な心と体」の体得につなげている。毎月の園会議では各クラスで子どもたちの「なにが育っているのか」をポートフォリオにして発表し合うことで認識を深めることができた。

子ども自らがいつでも経験の選択をすることができる物的環境の設定を毎月の園会議や日々の昼礼で話し合いながら進めていき、4半期に1度環境を見直して子どもたちが生活しやすく、遊び込める環境作りをしていくことができた。

鶏を絞めて食す「命をいただく活動の実践」は10月と11月に実践した。10月は子どもたちが自らイワシを手開きすることによって、魚の観察や感触を味わう体験をすることで、普段魚を食べない児も「食べてみたい」という気持ちが芽生え、魚を食べられるようになった児もいた。11月は鶏を園児の前で捌く体験を実施し「鶏」から「食材」に変化していく過程を観察、自ら体験したことで、普段食べている食材が「命」であることを実感することができた。給食で唐揚げが出るたびに「にわとりが命をくれたからだね」と反応する姿も見られた。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	ケガをしない強い体を育てる
	実践結果	裸足保育・草履保育、座禅、雑巾がけ、さくらさくらんぼリズム、長距離散歩の実践を通して「健康な心と体」を育むことにつながった
	次年度方向性	引き続き「さくらさくらんぼリズム」について、一つひとつの効果や動きの確認などをしていく
2	計画・ねらい	自分でできることを自分でする
	実践結果	畑仕事、縁側給食、自分たちで食事の盛付けの実践を通して「自立心」「協同性」「道徳性・規範意識の芽生え」を育むことにつながった
	次年度方向性	引き続き「畑仕事」について、子どもたちと一緒に行う中で体験を積み重ねて経験につながるようにしていく
3	計画・ねらい	全ての人との関わりから判断・行動を身につける
	実践結果	異年齢保育、インクルーシブ生活、銭湯でお風呂の日、商店街ツアー、青空保育の実践を通して「社会生活との関わり」「思考力の芽生え」を育む

		ことにつながった
	次年度方向性	引き続き「商店街ツアー」で一つでも多くの仕事を目の当たりすることで、人との関わりを大切にできる体験につなげていく
4	計画・ねらい	活動を選択し、自分で考えて行動する
	実践結果	火と関わる、水と関わる、土と関わる、焚き火保育の実践を通して「自然との関わり・生命尊重」を育むことにつながった
	次年度方向性	「火と関わる」体験をすることが少なかったので、意識して「火と関わる」習慣をつくっていく
5	計画・ねらい	生死を知る
	実践結果	ヤギ・鶏・生き物の世話、生死教育、食材と食の循環を知る、性教育の実践を通して「自然との関わり・生命尊重」を育むことにつながった
	次年度方向性	「鶏を捌いて食す」体験を通して、私たちが「命をいただいている」認識ができるようにしていく
6	計画・ねらい	感じたこと・考えたことを表現する
	実践結果	言葉で表現する、描く・つくる、就学前教育（読み書き計算・体操・音楽）の実践を通して「数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚」「言葉による伝え合い」「豊かな感性と表現」を育むことにつながった
	次年度方向性	「描く・つくる」体験が増えたので、引き続き体験を表出できる描画活動を実施していく

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者の子育てに対する様々な悩みや疑問などに寄り添い、どう解決していくかの方法を導き出せるようにサポートをし、喜びや充実感が得られるように支援をしていく中で、成長した姿を一緒に喜び合う
	実践結果	日々のお迎え対応や連絡帳でのやり取りや個人面談月間を全学年対象で行ったことで、園児の成長した姿を一緒に喜ぶことができた
	次年度方向性	引き続き保護者に寄り添った個人面談を実施する中で、さらに園生活の姿を見ていただく保育体験につなげていくことで支援へとつなげていく
2	計画・ねらい	保護者がいつ見ても気持ちが良いと思える施設にする
	実践結果	職員が変わり、整理整頓の意識が弱まったことで、棚の上に物が乗っていることがあった。その都度どうしたらいつでも気持ちが良いと思える園になれるか仕組みを検討・実施することで、意識が向上してきた。
	次年度方向性	引き続き整理整頓が維持された状態になる仕組みを作り上げていく

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	子育て支援行事について積極的な宣伝を行い、保育園が身近な子育て支援の場としての位置づけになるようにする
	実践結果	青空保育に関して、地域の方と会うことが少ない中でもお会いした方に「ちきんえっぐ」（子育て支援活動）について伝えたことで、園見学につながり、さらに入園へとつながった
	次年度方向性	更なる地域支援ができるように広報活動を積極的に行っていく
2	計画・ねらい	板橋仲町どろんこ保育園の保育内容を紹介すると共に、子育ての見通しがもてるように支援を行う
	実践結果	保育体験、出産を迎える親の体験学習を通して子育ての大変さや楽しさを共感しながら支援できることを伝えていった
	次年度方向性	引き続き保育体験や出産を迎える親の体験学習を積極的に実施していくことで負担や不安の軽減につなげていく
3	計画・ねらい	生き物（ヤギやニワトリ）との触れ合いを通して、自然との関わりや地域とのつながりをもつ
	実践結果	引き続きヤギやニワトリ等の生き物の世話をしに地域の方の来園が増えている。近隣園との交流を考えていたが、新型コロナウイルス感染症以外の感染症が流行ったことにより、交流を実施できなかった。
	次年度方向性	感染症の状況に応じて近隣園との交流を実施していく

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	園目標に沿った個人の目標設定を行い、目標達成の過程を一緒に考えて進めていく（生活力の体得）
	実践結果	定期的に施設長や主任の保育同行を実施したことで、その都度気付いたことを共有することができた。また、園長大学Ⓡ・保育士大学等で学んだことを日々の昼礼や全体会議等で職員に共有することで、保育の共通認識を図ることができた。リーダー職員には個別で生活力に結びつく内容に関しても共有した。
	次年度方向性	保育同行をすることで気付きが多くあったので、引き続き各クラスの保育計画に基づいて同行していく
2	計画・ねらい	リーダーを中心に年間を通したコンピテンシー計画を立て、毎月課題に取り組み、改善していく
	実践結果	毎月全体会議や昼礼でコンピテンシーの内容から園の課題を見出して実践することで一つずつ改善することができた
	次年度方向性	引き続き園の課題に沿って実施していく
3	計画・ねらい	次世代を担う職員育成に向けて、職務分野別の仕事を各自に割り振って実施する

	実践結果	職員の異動により、各職務分野（施設長、主任、リーダー等）の役割の意識に差が生じたので、その都度役割を伝えていくこと各自の意識向上につなげた
	次年度方向性	引き続き意識付けと役割が滞りなく継続できるように仕組みを明確にしていく

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	地域に愛されているヤギをもっと身近に感じてもらえるように餌をあげやすくする
	実践結果	ヤギ小屋の修繕をすることはできなかったが、ヤギを見にきてくださっている地域の方には積極的に話しかけて、ヤギの餌をあげる体験を実施していった
	次年度方向性	ヤギ小屋を修繕して、地域の方がいつでもヤギ餌体験ができるようにしていく
2	計画・ねらい	子どもたちが遊び込める環境構成を環境係と一緒に整えていく
	実践結果	遊び込める環境を職員間で話し合って進めていくことで、昨年度より充実したコーナー遊びができるようになった
	次年度方向性	引き続き子どもたちの興味関心にあわせた環境をその都度構成していく

〈6〉鶏を絞めて食す

1	計画・ねらい	鶏を絞めて食す意味を考える
	実践結果	鶏について絵本を通じて考える時間を作ることによって、鶏がなぜ保育園にいるのかを子どもたちと考えることができた。その中で「命」をいただいているということを感じている児が出てきて、残さずに食べることの意識がついたと感じた。
	次年度方向性	引き続き「（命を）いただきます」ということを日々の食事から伝えていき、食べることへの意欲や喜びにつなげていく

〈7〉生活力の体得、10の姿の体得

1	計画・ねらい	「生活力」とは何かを考え、体得できるように導く
	実践結果	「生活力」に関係する動画をリーダー職員中心に見てもらい、リーダー会議の際にも話題にすることで、人としての成長につながるようにした
	次年度方向性	園会議の際に職員が知りたい内容を中心に学べるようにしていく

2	計画・ねらい	「10の姿」について園会議の際に話す時間を作って、日々の保育を振り返る
	実践結果	「10の姿」について毎月の「保育の質を上げる会議」であがった内容を園会議の際に報告する中で、指針の保育が実践できているかの確認を行うことができた。また、各クラスが2ヶ月に1度「10の姿」について園児の姿を発表する機会を設けたことによって、子どもの姿を振り返る時間ができたことで、子ども観を共感できた。
	次年度方向性	引き続き「保育の質を上げる会議」であがった内容中心に園会議の際に職員でディスカッションしていき、保育を語れるようにしていく

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半：4~9月	５４人	６０人	９０人	８９人	９０人	８４人	４６７人
年度後半：10~3月	５４人	６０人	８７人	９０人	９０人	８８人	４６９人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	245人	283人	255人	328人	259人	241人	261人	266人	264人	271人	274人	270人	3217人
うち0歳児	5人	23人	15人	33人	22人	30人	27人	34人	38人	36人	29人	30人	322人

（解説）２０２３年度より全体的に利用者が増えている

一時保育利用状況

一時保育預かりなし

〈2〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

常勤スタッフ	保育士	12人	看護師	1人	栄養士	1人	調理員等	1人
	事務	0人	管理栄養士	2人				
パートスタッフ	保育士	2人	補助	2人	用務	0人	事務	1人

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・虐待防止研修 ・園内研修
給食運営会議	月1回	各クラスでの食事の姿の共有、食育活動の振り返り・計画
事故防止委員会	月1回	自園でおきたインシデントや事故の共有・再発防止策検討、他園でおきた事故の共有
週会議	週1回	翌週の週計画の確認・子どもの姿の共有
コンピテンシー会議	月1回	前月の振り返り・当月のアクションプラン進捗確認

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
食育会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、看護師
主任会議	年4回	主任

子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	施設衛生管理、衛生自主点検の実施、感染症予防対策を実施し、棚の上に物が乱雑に置かれないようになった。また、どうしたら継続できるかを仕組み化していくことができた。
安全対策係	怪我防止、危険箇所把握、安全点検を実施し、危険箇所の修繕や事前の事故防止につなげた
防火管理者	災害対策、避難訓練防災計画作成と実施、自主点検を実施し、実際に災害が起きた時を想定して職員が行動できるようにした
食品衛生管理係	衛生点検実施、食品の衛生品質管理を実施し、衛生的に食事の提供ができるようにした
畑係	畑の年間農業計画や管理全般、食育計画を実施し、計画的に園児と一緒に畑仕事ができるようにした
生き物係	生き物の飼育に関する管理を実施し、季節に応じて生き物を飼育したことで、子どもたちが生き物に関わったり、触れたりする体験をした
環境整備係	子どもの姿に合わせた環境整備を適時行うことで子どもの創造力を育むことができた。特に幼児の環境に関しては合同保育でも使用するので、全体で考えながら構成していった。
地域交流係	商店街ツアー・青空保育計画、地域の保育園との交流、地域行事参加の対応を実施したことで、昨年度よりも地域交流が豊かになった

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	園内での開催となり、久しぶりにどろんこダイブを実施することができ、大人もどろんこの体験することができた。保育園以外の地域の方も交えてどろんこ保育園ならではのレクリエーションや泥団子作り等を実施した。地域の方にも案内をしていたことで、たくさんの参加があったので、引き続き地域の園にも案内をして地域交流をしていく。
運動会係	板橋第十小学校での開催となり、園児が普段から行っている日課や遊びを披露することができて、成長を感じられる運動会となっ

	た。また、子どもだけでなく保護者の運動会（本気）の遊びを実施したことで、保護者同士の交流にもつながった。
生活発表会係	園内での開催となり、多くの保護者の方の前で、各クラスの普段行っている遊びや劇遊び等の姿を披露することができたことで、達成感を感じられる行事となった。また、製作や発表会を迎えるまでの過程を展示することで、より園児の成長が感じられたという声もいただいた。

4. 保育支援

〈Ｉ〉保育･保育参加･保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	・保育目標を基に､子どもたちの様子や発達に合わせた丁寧な保育を心がけている。一人ひとりの要求を受け止め､愛情豊かに子どもに接し､安心して過ごせるようにしている｡雨天時の室内遊びの時は、園内を自由に行き来できるような環境を構成し、ゾーン保育を実施している｡自由に行き来するには､職員一人ひとりの視点や考え方が何よりも大切なことをその都度伝えていきながら、危機管理意識の向上を図っている｡いざという時に備え、避難訓練の実施と省察をし、改善点をあげ､昼礼や事故防止委員会時に改善策を講じ、実施を繰り返して行い､また室内の危険箇所の確認を強化して､安全に留意しながら子どもたちの意欲を大切にしている。 ・子どもたちが満足いくまで遊びきることを大切にし､見守る保育を心がけている。人的環境、物的環境、自然社会の事象が相互に関連し合い、保育環境が作りだされることを認識し､子どもの状況にあわせて保育の環境を考え､子どもたちが落ち着いて遊びを楽しんでいる。
保育参加	4～3月まで　合計　10名　が参加済み　　（3月Ｉ日時点）
保護者面談および発達相談	4～3月まで　合計　24名　が参加済み　　（3月Ｉ日時点）

〈2〉計画した年間行事の振返り

・別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

Ｉ	計画・ねらい	日々の食事が子どもたちの食べる意欲（食育）につながることを意識した関わりを行う

	実践結果	調理者と保育者の連携をその都度実施したことで、子どもが自ら盛り付けをして、配膳ができるようになっている。その中でも食に対する意識の個人差が大きいため、見守りながら伝えていくことで、食べる意欲につなげていった。
	次年度方向性	引き続き、子どもたちの様子を共有しながら食べる意欲につながる実践を実施していく
2	計画・ねらい	子どもたちが食事の時間を日々楽しみにするような食事を提供する
	実践結果	毎日調理室前に昼食を掲示することで、食事を楽しみにしている姿が見られる。また、おいしく食べられる状態と温度で提供しているため、完食しておかわりをする園児も多い。
	次年度方向性	引き続き子どもたちが食事の時間を日々楽しみにするような言葉掛けや食事を提供していく
3	計画・ねらい	畑で収穫した作物を使ってクッキングをし、新鮮な素材の香りや味を味わい、食の意欲に繋げる
	実践結果	畑で収穫した作物をそのまま食べたり、調理方法（焼く、煮る等）を変えるだけで味わったりすることで素材の味を楽しんでいた。また、毎月の食育活動の中で自分たちが関わった食事を食すことで、食への意欲につながっている。
	次年度方向性	さらに子どもたちが畑で収穫した作物に興味関心が持てるような関わりを行うことによって、食への意欲に繋げていく

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月7日／ｌｌ月ｌ日に実施
歯科検診	6月24日に園内にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年ｌ回実施
スタッフ検便	毎月ｌ回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 6月24日に園内にて嘱託医の歯科衛生士による「歯」について考える講習会を実施 ② ｌ月2ｌ日、2ｌ日に園内にて施設長と看護師による絵本や胎児人形を使用しての「性教育」を実施
流行した感染症	特になし

発作・痙攣等の対応	熱性けいれんの該当児に対してダイアップを挿入した件が1件
エピペン使用できるスタッフの状況	本日時点で、在籍スタッフ23名のうち、23名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況	本日時点で、在籍スタッフ23名のうち、23名が使用可能
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また定期的な換気と消毒を実施する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（法定1回/3年）	業者による対象物の法定点検 2023年実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月 ⇒4月1日、10月1日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日　実施済み
	児童健康診断	内科健診　各年2回／6月7日、11月1日 歯科健診　各年1回／6月24日

運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時 ⇒4月26日、10月25日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間　実施済み
	利用者アンケート調査	8月26日～9月6日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	子どもたちが気持ち良く生活できるような環境にする
	実践結果	毎日の清掃や玩具消毒によって感染症が蔓延することが少なかった
	次年度方向性	整理整頓に力を入れて、子どもたちが自ら片付ける意識が身につくような環境にする
2	計画・ねらい	子どもたちの興味関心に合わせた環境を構成する
	実践結果	異年齢で活動する機会や子どもたちの興味関心に合わせて定期的に環境を構成していったことで、想像力や創造力を育むことができた
	次年度方向性	引き続き子どもたちの興味関心に合わせた環境とは何かを考察していき、その都度環境を構成していく

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具はなし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	危機管理マニュアルを基本とし、あらゆる事故を想定し事前の予防対策に配慮し、怪我防止に努めた。昼礼や園会議等で随時ヒヤリハット、インシデントの内容を省察することで、大きな怪我を未然に防げるように意識付けをした。
2	実践結果	緊急時に速やかな対応と行動ができるように、毎月1回の防災避難訓練を実施した。訓練後は毎回各クラス内でしっかり省察を行い、昼礼や事故防止委員会で共有し、また改善点に関しては対策を考え、いざという時に備えた。 事故防止委員会において重要な視点の共有、自園・他園の事故記録簿の事故の検証を行い、怪我の防止につなげる。
3	実践結果	子どもの安全を守ることを最優先に、速やかな対応と行動が実践できるよう年２回の不審者侵入訓練を実施した。不審者侵入訓練とは別に公園先でも不審者がいた時の想定をして、園内だけではなくどこにいても安全を守

		れるように訓練を行ったことで、子どもたちの危機意識の向上にもつなげた。
4	実践結果	夏場は園庭と屋上の暑さ指数をその都度図りながら、こまめに水分補給を行いながら過ごした。暑さ指数の数値が高い時には屋外での運動は差し控え、速やかに屋内に入る等の対応を行った。
5	実践結果	警察官による交通安全教室を年度初めと年度終わりに実施し、普段の散歩コースを自分たちがどうやって歩くことで命を守ることができるのかを指導していただいた。
6	実践結果	室内ハザードマップ、戸外ハザードマップ、公園内ハザードマップを3ヶ月ごとに見直しを図り、危険箇所への共有を図った。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

次世代の保育者を育てるためにも、希望があれば積極的に保育士養成校の実習生受け入れを行った。実習生から入職にもつながることができた。小中高生の保育所体験では、卒園児（小学 1 年生～3 年生）に夏休み期間の保育体験募集のおたよりを送ったことで、多くの参加者を受け入れることができた。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
5月21日、23日	日本児童教育専門学校	2人	観察実習
7月2日、4日	日本児童教育専門学校	2人	観察実習
9月9日～24日	淑徳大学教育学部	1人	責任実習
10月15日、17日	日本児童教育専門学校	2人	観察実習
11月26日、28日	日本児童教育専門学校	2人	観察実習

〈3〉小中高生の受入

日程	学校名	人数
８月１～３１日	近隣小学校（弥生小学校、板橋第六小学校、中根橋小学校等）	27人

7．スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	8日 22名	7日 21名	4日 22名	3日 22名	2日 23名	2日 23名	3日 24名	1日 24名	5日 24名	6日 24名	7日 23名	6日 23名
園内研修	26日 18名	24日 15名	28日 19名	26日 19名	23日 18名	27日 19名	25日 19名	22日 22名	20日 18名	24日 21名	－	19日 20名

〈2〉外部研修への出席

職員個人で板橋区の研修会やキャリアアップ研修に参加する。また、「園長大学@保育士大学」でのWEB 受講を進めた。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	21日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	11月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	該当なし											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	該当なし											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8．地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

「地域から愛される保育園」

新型コロナウイルス感染症が流行して以来、久しぶりに風の子保育園と交流する機会を作ることができたので、来年度も引き続き交流していきたい。どろんこまつりを自園で実施したことで、園児以外にも多くの地域の方々に園の魅力を発信することができた。商店街ツアーでは毎月テーマを決めていろいろな店へ訪問したり、世代間交流として仲町デイサービスセンターの利用者の方々との交流を図ったりすることもできた。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：三葉児童遊園にて
商店街ツアー	週1回　主な行き先：佐々木生花、東日本銀行、船木畳店、むさしや青果、秋田屋米穀、理髪店オガノ、新井精肉店、渡辺鮮魚、修月堂、いせや、大山園等
世代間交流	7月17日にホールにてニュージーランドの方と ZOOM でつないで多文化交流を実施
異年齢交流	8月1日～31日に小中学生の保育体験を実施し、異年齢での交流をはかった
その他活動	7月13日に園にてどろんこまつりを実施
銭湯でお風呂の日	5月より月1回　〈3～5歳児〉　実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

昨年度は見学がメインだったが、今年度は小学生との交流を図ることがメインで行えたことで、より就学への期待が芽生えていた。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
12月10日	板橋第八小学校	1名	保育園長・幼稚園長・地区小学校校長連絡会（体育館）	情報交換
12月11日	弥生小学校 1年生	17名	小学校を見てみよう（校内）	授業見学
2月13日	中根橋小学校	17名	小学生と交流してみよう	子ども間交流

	5年生、1年生		（体育館、校内）	
2月17日	板橋第八小学校 1年生	15名	小学生と交流してみよう （体育館、校内）	子ども間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

毎月のケース会議やクラス会議、園会議等で情報を共有しながら、対象児童にあった計画の作成、見直しを行った。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・４～３月に計12回開催　参加者：3～6名

毎月療育に通っている園児を中心に子どもの姿と支援方法を共有し、全スタッフで共通した関わりができるようにした。12月からは巡回指導の方と午前中の活動を見た上で行い、支援方法を共有することもできた。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

ケース会議を基に1年間の保育の振り返りを実施した上で、担任間で引継ぎを実施した。また、小学校へは保育所保育児童要録を基に、気になる園児に関しては電話でも連絡して引継ぎを図った。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	3名	7名	18名	13名	32名	43名	16名	3名	9名	5名	0名	149名

<table>
<tr><th>実施項目</th><th colspan="12">詳細</th></tr>
<tr><td>園開放</td><td colspan="12">（月）～（土）9:30～16:30　にて実施</td></tr>
<tr><td>子育て相談</td><td colspan="12">（月）～（土）13:00～16:30　　⇒計0件相談実施済み</td></tr>
<tr><td rowspan="3">自然食堂
親子ランチ
交流</td><td colspan="12">毎週（水）10:00～12:00　　⇒計0回実施済み
参加者延べ人数</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td></tr>
<tr><td>どろんこ</td><td colspan="12">毎週（水）10:00～12:00　　⇒計0回実施済み</td></tr>
</table>

芸術学校 どろんこ 自然学校	参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00　にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっぐだより	毎月1日発行												

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２４年６月２８日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：８時３０分
自己評価終了時刻：１７時３０分
自己評価実施者：施設長、主任、乳児リーダー、異年齢リーダー、調理代表

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月２５日
アンケート回収率：１００％

（省察）概ね高評価をいただいているが、至らない点に関しては職員に共有して改善を図っている

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見０件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ０件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年3月１５日　　作成者：板橋仲町どろんこ保育園 施設長　石堀　茂雄

２０２４年度　P's スマイル保育園　事業報告書
（保育所における自己評価）

１．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

保育理念…「にんげん力。育てます」
保育目標…「センス・オブ・ワンダー」
「人対人コミュニケーション」
私たちが育てる６つの力
「ケガをしない強い体を育てる」
「自分でできることを自分でする」
「すべての人との関りから判断・行動を身に付ける」
「活動を選択し自分で考えて行動をする」
「生死を知る　食の循環を知る」
「考えたこと・感じたことを表現する」

～子どものすべてを受け入れる～
私たちスタッフ一同「子どものすべてを受け入れる」子どもの可能性を広げるために子どもの自由な発言・表現・発想を肯定し受け止めることや子どもがどうしてそう思ったのか、そういう行動をとったのか過程に目を向けて取り組んできた。「それでいいよ」と認め一緒に楽しむことで子どもたちには安心した環境の中でのびのびと過ごす姿があった。子どもたちは、失敗から学んで成長をしていく。物事をなんでも正しく教えるより失敗して自分で考えることがとても大事であることを踏まえ、間違えに気付きトライ＆エラーを繰り返すことで自信がつき、自分で考えるようになり、自主的に行動ができるようになり問題解決する力が身に付くように行ってきた。子どもだけではなく、スタッフも同様に過ごしてきた。スタッフは、子どもに手を差し伸べ無駄なことは何一つないと考え保育運営を行ってきた。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

１	計画・ねらい	養護の行き届いた環境「生命の保持」「情緒の安定」 子どもの生理的欲求を満たすことで、情緒の安定は図られ、気持ちを十分に満たすことで心身の健やかな育ちを促す。
	実践結果	・子どもの発達過程等に応じて、適度な運動と休息をとることができるようにした。また、食事、排泄、衣類の着脱、身の回りを清潔にすることなどについて、子どもが意欲的に生活できるように適切に援助してきた。 ・一人一人の子どもの気持ちを受容し、共感しながら、子どもとの継続的な信頼関係を築いてきた。 ・保育士等との信頼関係を基盤に、一人一人の子どもが主体的に活動し、自発性や探索意欲などを高めるとともに、自分への自身を持つことができるような成長の過程を見守り、適切に働きかけてきた。
	次年度方向性	次年度も今年度の取り組みを継続して行っていく。 十分な養護が行き届くことで、子どもたちはさらにのびのびと過ごすことをスタッフが理解し保育運営を行っていく。

2	計画・ねらい	子どものすべてを受け入れる（大人の常識や価値観を押し付けない）
	実践結果	・子どもの可能性を広げるために子どもの自由な発言・表現・発想を肯定し受け止めた。 ・子どもがどうしてそう思ったのか、そういう行動をとったのか過程に目を向けて、「それでいいよ」と認め一緒に楽しんできた。 ・遊びがさらに展開できるような環境をスタッフや子どもたちとも話し合い取り組んできた。
	次年度方向性	「子どものすることに、無駄なことは何一つない」と考え保育運営を行う。その時その時の子どもの在りのままを受容し、子どもの背景を汲み取り寛容に対応をする。大人の価値観を横において、子どもの本質に迫る。子どもの発信を見逃してしまうことがなく素早くキャッチをする。
3	計画・ねらい	「にんげん力」を身につけるために必要な遊び・日課
	実践結果	・さくらさくらんぼリズム体操・うた・座禅・雑巾がけ・９時出発の散歩・体験活動（畑仕事・生き物のお世話・他）・異年齢保育・裸足保育・移動保育（鶴見どろんこ保育園）・商店街ツアー・銭湯　他
	次年度方向性	保護者様に登園時間・保育へのご理解ご協力のもと９時出発を行うことができた。継続して行えるように９時出発の目的や保育内容のねらいを保護者様にもわかりやすく掲示やタイムラインを活用して発信をしていく。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	①思いやり②誠実さ③謙虚さ④感謝　を忘れずに、おもてなしの心を込めたサービスを提供します。
	実践結果	・お子様を安心して信頼していただけるように接遇を意識した。 ・接遇研修を行った。
	次年度方向性	保護者様の心の満足度を図る。
2	計画・ねらい	保育園でのお子様の様子が手に取って分かるように発信していく。
	実践結果	・お迎え時の３分間対応をした。 ・１か月の活動内容を A4サイズにて、掲示をした。 ・日頃のタイムラインにて子どもたちの姿を配信し、保育のねらいも伝えてきた。
	次年度方向性	継続をして行う。活動内容掲示はさらに保育内容のねらいを保護者様に分かるように記載を行う。また、行う活動のねらいを事前に共有しご理解をいただいたもと行っていく。
3	計画・ねらい	保育参加を行っていることを随時に伝え気楽に参加していただける雰囲気づくりを意識する。
	実践結果	・保育参加に参加し、お子様の様子や保育園での取り組を伝えてきた。 ・今後の子育てのヒントに繋がるようにした。

	次年度方向性	保育参加の様子をタイムラインにて配信をして、保育参加に参加ができる雰囲気をつくっていく。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	P‘s スマイル保育園を知っていただく
	実践結果	・公園先で率先して名を名乗り元気よく心地の良い挨拶をした。 ・ちきんえっぐのチラシを配布した。 ・青空保育・地域子育て講座・園開放　他
	次年度方向性	さくらんぼの会に参加し、地域の方にP‘s スマイル保育園を知って頂けるように積極的に話しかけ案内をする。
2	計画・ねらい	畑仕事を通して、食育活動を一緒に行う
	実践結果	・保育園の畑を活かし、地域の方と野菜を育てることが出来なかった。 ・育てた野菜を食育活動に取り入れ食事について困りごとなど解決できる場にしたかったが参加される方が少なかった。
	次年度方向性	まずは、P‘s スマイルを知って頂くことに力を入れていく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	接遇（「遇する」とは「もてなす」という意味） 保護者様に安心感・信頼感をもって保育園利用をしていただく スタッフ同士のコミュニケーション能力マネジメントの向上
	実践結果	・新人研修・OJT 研修・接遇の研修 ・日々の保育（自身）の振り返りを行う場を設けた。
	次年度方向性	接遇とは何か常に考え保護者様に安心感・信頼感をもって保育を利用していただけるように取り組んでいく。
2	計画・ねらい	保育の質の向上・保育を語る
	実践結果	・保育を語る場を設けた（会議や昼礼等） ・自己評価に基づく課題等を踏まえ、研修に参加し必要な知識及び技能修得を行った。
	次年度方向性	子どもの姿を共有できる場を確保し、クラスが違っていてもスタッフ全員で子どもの成長に気付き保育を語る。
3	計画・ねらい	主体性を育む 自らの意志に基づいて、自らの責任のもとで行動しようとする態度や性質
	実践結果	・主体性の研修・コンピテンシー・「保育運営マニュアル」読み込み ・園会議・昼礼等でアクティブラーニング（グループディスカッション）を取り入れ行った。

	次年度方向性	子どもも大人も主体性を育む

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食材や食の循環・環境への意識を育む
	実践結果	畑仕事（種まき・育てる・間引く・穫る） 食材加工（梅・味噌・ケチャップ）
	次年度方向性	食材や食の循環・環境への意識を育むために継続的に行う 行ったことを子どもたちと掲示をする。
2	計画・ねらい	食材の循環リサイクルの実行・食べ物を大切に消費する
	実践結果	給食調理における廃棄を減らす（皮を捨てずそのまま食べる） 再生野菜・リボーン・ベジタブル（豆苗・人参・小松菜）
	次年度方向性	食材の循環リサイクルの実行・食べ物を大切に消費する

〈6〉保育内容

1	計画・ねらい	自分で選ばせる「指示待ちではなく自分で動く」
	実践結果	どんなに小さい子でも自身で選ぶ力があることを知り、大人がなんでも遊びや玩具を決めてしまうのではなく「どっちがいい」と言葉をかけてきた。子どもが選択できる環境構成を行った。
	次年度方向性	子どもの主体を伸ばすために自分で選ばせる「指示待ちではなく自分で動く」ことを継続する。
2	計画・ねらい	信じて待つ「相手の話に耳を傾ける」
	実践結果	子どもたちにも子どものペースがあることを理解し、大人都合で時間を決め、先回りをして手伝ってしまわないように注意をする。子どもたちが考える時間を確保する。時間が決まっている場面では、事前に子どもたちに言葉かけを行うなど工夫をする。
	次年度方向性	子どもの主体を伸ばすために自分で選ばせ信じて待つ「相手の話に耳を傾ける」ことを継続する。
3	計画・ねらい	満足するまでやらせる「強い自信が身に付く」
	実践結果	満足するまでやりきった子どもは心が安定、満足する前に終わらせてしまうと不満が残ってしまうことを理解し、強制的に終わらせないように意識をする。満足した子どもは、満足したときに自身で終わりを決めることができるようになる。遊びのルールを子どもたちと決めて行う・散歩帰る時間を事前に一緒に考えるなどと言葉かけを行う工夫をする。

	次年度方向性	子どもの主体を伸ばすために満足するまでやらせる「強い自信が身に付く」ことを継続する。
4	計画・ねらい	子どもに解決させる「困難なことがあっても乗り越える力」
	実践結果	スタッフは安全を確保した中で見守り、子ども同士で解決する・考える機会を奪わないようにする。もちろん、場面に応じてスタッフのフォローが必要な時もある。その場面を見極め一緒に困難なことをどのように乗り越えるのか行っていく。
	次年度方向性	子どもの主体を伸ばすために子どもに解決させる「困難なことがあっても乗り越える力」ことを継続する。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半：4~9月	0人	8人	10人	11人	11人	12人	52人
年度後半：10~3月	0人	8人	10人	12人	12人	10人	52人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	21人	13人	14人	12人	26人	25人	30人	23人	27人	21人	19人	40人	271人

（解説）フルタイム勤務の保護者の方も多く、乳児クラスから年長児まで利用者多数

一時保育利用状況

（解説）今年度は、一時保育を休止

〈2〉開所時間

7時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

常勤スタッフ	保育士	7人	看護師	0人	栄養士	1人	調理員等	1人
パート	保育士	4人	補助	1人	調理	1人	事務	1人

スタッフ	用務	0人

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・園内研修 ・個別ケース会議 ・安全対策・課題の検討
給食運営会議	月1回	献立の振り返りと喫食状況の確認・食育・クッキング・行事のメニュー・保護者支援と発信・保育者との連携・環境への活動（地産地消・残食削減など）・畑仕事との連携
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット分析・インシデント検討と共有・事故情報の共有と対策・マニュアル確認と実施方法の確認
ケース会議	月1回	要支援児についての情報共有と保育方法の確認・検討 気になる子の情報共有と保育方法の確認・検討
幼児・乳児会議	月1回	各クラスの情報共有・子どもの情報共有と保育方法の確認・検討
昼礼	日1回	一日の確認（保育・行事）・子どもの様子・体調確認・来客確認・アレルギー児の申し送り・その他 時間差で出勤する職員のためにシッターノートに記載

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
食育会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長

主任会議	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	身体測定・定期健康診断・歯科検診の実施と保護者との連絡 施設の清掃と衛生管理に係る消耗品及び備品の補充と管理 感染症予防対策の管理点検・対コロナ対策消毒と危機管理
安全対策係	火災・地震訓練・不審者侵入時訓練および消火・防災自主点検の実施管理 消防署との連携窓口業務・救急講習計画と実施 施設内外の設備点検および事故防止対策の実施
防火管理者	消防計画の作成と備蓄のリスト 帰宅困難者表作成 上記計画に基づいた地震、消火・通報訓練を定期的に実施
食品衛生管理係	調理室全般の衛生管理 給食食材および提供食材の衛生管理と在庫保管状況の管理
畑係	畑づくりの年間計画・畑の管理 子どもと職員の畑活動の推進を図る 教材・道具類の維持補充 保護者様への働きかけと情報発信
生き物係	飼育動物の丁寧なお世話と健康管理 子どもや保育者の生き物飼育活動の把握と推進、課題検討
環境整備・備品係	美観・保護者様がいつ見ても気持ちがよい施設 園内外の環境整備：子どもの生体リズムを整える環境づくり 室内に自然を取り込む、くつろげる環境設定
内部プロジェクト	内部監査項目に沿って、押印簿点検や課題解決の推進

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	祭りの企画と推進 保護者と協働して、準備・開催をする 懇親を図る 地域のサービスとしての位置づけをする

鶴見区鶴見中央育児支援イベント	地域の子育て支援の企画と開催

4. 保育支援

〈1〉保育･保育参加･保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	・子どもたちの1か月の活動内容写真を使い、可視化した掲示を行った。 ・タイムラインにて、日常の子どもたちの様子が伝わるように意識し投稿を行った。 ・定期的に個人面談を行っていることを声掛け、掲示をするなどした。
保育参加	4～3月まで　合計15名　が参加済み　　（3月1日時点）
保護者面談および発達相談	4～3月まで　合計13名　が参加済み　　（3月1日時点）

〈2〉計画した年間行事の振返り

・別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	Ｄｏｒｏｎｋｏの３大食育方針 「調理員・保育士・施設長は子どもと一緒に食べる」 「噛む力を育て、素材を味わえる状態で提供」 「子どもが自分たちで盛付・配膳して食べる」
	実践結果	・美味しく食べる経験　興味を誘う言葉かけや取り組み　クッキングや作物　地域との連携　保護者支援　保育士だけではなく調理スタッフも一緒にスタッフ全員が協力して取り組んだ。
	次年度方向性	調理員・保育者・施設長・事務含む子どもを取り巻く大人は、子どもと一緒に食事をする（３大食育方針）空腹感を感じ、食べたい時や場所、人、食べたいものを食べたいだけ、子ども自身で選択をする環境を作る散歩・畑での労働・戸外活動で空腹を得る環境を引き続き行う。
2	計画・ねらい	畑仕事と食育活動の連携 畑で育てた作物を使い、食育活動に繋げ食への興味・関心を高める
	実践結果	・年間で育てる野菜を模造紙に記載し、子どもも大人も見通しを持って育てやすくした。 ・育てた野菜を使い、クッキング（ピザ・夏野菜カレー・豚汁）、野外炊

		飯（カレー作りや豚汁、釜でご飯を炊く等）
	次年度方向性	子どもたちから案がでてくるような言葉掛けを行う。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月14日／11月15日に実施
歯科検診	6月3日／11月11日に実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 6月10日に保育室にて手洗い・うがいを実施 ②6月11日に保育室にて手洗い・うがいを実施
流行した感染症	特になし
発作・痙攣等の対応	特になし
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月21日に P's スマイル保育園にてエピペン研修を開催した。スタッフ計14名が受講し取得 ・本日時点で、在籍スタッフ16名のうち、14名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	該当なし
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底した。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6･12月の25日に実施済み

	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月 ⇒4月8日、10月7日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日　実施済み
	児童健康診断	内科健診　各年2回／6月14日、11月15日 歯科健診　各年2回／6月3日、11月11日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時 ⇒4月19日、10月18日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間　実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	子どもたちが自ら遊びを選択できる環境構成
	実践結果	子どもたちの姿を捉え月1回室内の環境構成を見直した。 子どもたちの遊びに目を向けさらに遊びが展開できるようにマップに記載し、子どもの興味・関心に気づくようにスタッフの話し合いの場を設けた。
	次年度方向性	自分で選ばせる「指示待ちではなく自分で動く」 子どもたちが自ら遊びを選択できる環境構成
2	計画・ねらい	保護者様がいつ見ても気持ちの良い施設
	実践結果	ロッカーの上には、極力物を置かず置いても綺麗に並べ美観を意識する。 毎朝拭き掃除を行い、衛生が確保されるようにした。 足元に玩具が広がっていれば安全も考え拾う環境を整えた。
	次年度方向性	子ども・保護者様・地域の方がいつ見てもいつでも過ごしやすい環境を心掛け行動をする。

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	事故防止委員会 リスクマネジメント研修 怪我・事故の防止	事故の防止：ヒヤリハット収集と統計結果の確認（随時・月１回の共有） 統計結果から振り返りを行う（月１回） 園内インシデント・事故の再発防止検討 過去の重大な事故事例や身近な法人の事例研究 緊急連絡先への連絡・フローチャート確認 心肺蘇生・AED 研修・怪我の対応・プール・水の事故防止策 散歩引率など 子どもへの安全教育の定期的な実施をした。
2	避難訓練・ 不審者侵入訓練 防犯	・安全対策係が計画立案・実施・自衛消防隊の編成と役割分担 ・十分なシミュレーションの元、立案された計画を全職員で共有し、実施 ・子どもへの安全教育の定期的な実施 ・予想外の想定にも瞬時の適切な判断が自らできるよう、保育者は戸外・散歩時などの危険予測を日常から行っていく。 ・P's スマイルの広域避難場所：総持寺（保護者様への周知を図る）
3	光化学スモッグ 熱中症	・自治体からの情報で判断、活動を加減する。 ・自治体からの情報を正確に得る。 ・子どもたちに何故屋内で過ごすのかを考え、安全教育と共に光化学スモッグのメカニズムや環境問題への問題的な芽生えにつなげる
4	災害対策	「保育運営マニュアル」・危機管理マニュアルの確認 決められたことの内容と意味を保育者は知って、園運営に携わる
5	日々の事故防止	・保育者の気づきの共有と報告（ヒヤリハット） ・子どもの様子、玩具、戸外、場面の切り替え、保育者同士の連携 ・ハザードマップの更新：室内、戸外環境の変化に気づき情報を共有し、ハザードマップに書き込み、講師をする。
6	苦情・ご意見対応	・「保育品質マニュアル」・苦情対応マニュアルの確認 保護者様のご意見を真摯に聴き受け取った保育者はどのようなことにでも、自分事としてとらえ、謝罪と保護者様のご意向に添った問題解決を図ることを第一とする。

6. 実習生・中高生の受入

〈１〉今年度の振返り

新型コロナ感染症が落ち着き実習生・中高生の受け入れが始まった。
実習生・中高生の受け入れは、保育者が自分自身を振り返る機会でもあると感じている。実習生・中高生に、指導を行う中で、自分自身の保育を言葉にして語ることでさらにより保育になると感じている。実習生・中高生のニーズに合わせて指導を行うことを意識し、スタッフ一同今年度指導を行ってきた。今後の保育の仲間として、迎え入れることができるように留意してきた。

〈2〉中高生の受入

日程	学校名	人数
2月4日	市場中学校	6人
2月19日	潮田中学校	6人

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	19日 13名	17日 14名	21日 10名	19日 10名	16日 6名	20日 9名	18日 10名	15日 15名	20日 9名	24日 7名	21日 11名	19日 11名
園内研修	19日 13名	17日 14名	21日 10名	19日 10名	16日 6名	20日 9名	18日 10名	15日 15名	20日 9名	24日 7名	21日 11名	19日 11名

〈2〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	18日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	20日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	11月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											

〈3〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

地域に開かれた保育園として PR 活動を整える。

利用しやすい仕組み作りをして、地域との交流を深める
まずはP’ｓスマイル保育園を知っていただくところからスタートをした。公園先で出会う方にチラシを配布やCIALホームページにもP’ｓスマイル保育園を載せていただき様々なところから情報を得て頂けるように考え取り組んできた。園開放を継続して利用して頂けるようにスタッフ一同考え取り組んでいく。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：本山前桜公園にて　　参加延べ人数：2名
商店街ツアー	週1回　主な行き先：CIAL鶴見保安室、鶴見警察署、鶴見消防署、JR鶴見駅、JR鶴見駅鶴見線、等
世代間交流	月1回　ケアプラザ訪問：高齢者の方とのふれあい
異年齢交流	近隣の中学生との交流・ボランティアの受け入れ
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉　実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

豊岡小学校との子ども間交流を行った。来年度は、他小学校とも子ども間交流・職員間交流を増やしていく。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
9月17日	馬場小学校	1名	鶴見区幼保小交流事業	職員間交流
2月3日	豊岡小学校	10名	豊岡小学校の教室	子ども間交流

10.　要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

「今年度対象園児なし」

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・４～３月に計12回開催　参加者：11名
個別支援対象児はいない。
適宜ケアが必要な園児について、ケース会議の場を設けスタッフ間の共有と保育の検討を図った。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

・クラス担任は、進級時に引継ぎを実施・引継ぎ事項を記録に残す
・小学校との情報交換（12月・1月）：訪問・電話

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	0名	0名	0名	0名	4名	2名	4名	2名	0名	0名	0名	12名

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　　来園延べ人数：52名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　⇒計0件相談実施済み
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計2回実施済み 参加者延べ人数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	0名	0名	0名	0名	4名	2名	0名	0名	0名	0名	0名	6名

どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計2回実施済み 参加者延べ人数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	2名	2名	0名	0名	0名	4名

勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00　にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育 （支援センター主催）	月1回　　公園名：本山前桜公園にて　以下日程にて実施

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	2名	0名	0名	0名	0名	2名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審
今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施
２０２５年1月１５日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：１４時００分
自己評価終了時刻：１５時００分
自己評価実施者：施設長、主任

〈3〉利用者アンケートの実施
施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月２５日
アンケート回収率：100%

自由記載欄にて、「自分自身でできることが増え、運動能力も上がっている」「コミュニケーション力や体力がついたと日々実感している」「大きな声で挨拶ができるようになった」とお子様の成長を感じられる記載があった。一方で、「入口付近にも予定を記載して欲しい」「昼食時の指導や運用にもう少し力を入れてほしい」と答えたご家庭もあった。頂いたご意見に真剣に向き合い改善に力を入れていく。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見
報告すべきご意見　0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）
報告すべきケガ（事故含む）　0件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：P’ｓスマイル保育園 施設長　森田　愛実

２０２４年度　三原どろんこ保育園　事業報告書
（保育所における自己評価）

１．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

自分で自分を育てようとする力を持っている子どもたちに私たちは、法人の子育て理念「にんげん力。育てます」を鑑み、適切な環境のもと、子どもと関わりながら “Trial＆Error”を繰り返し、さまざまな体験を通じて学びを深めたり発展できたりするようにしてきました。
そして、生涯にわたって意欲をもち、逆境にも耐えうる力を身につけ人生を歩んでほしいという思いの下、指示、命令を子どもに行うのではなく、子どもたちの気持ちに寄り添い見守り、大人が背中を見せて、子どもが自分で選んで、自分で決め、自分の生活を営むことができるよう、どろんこ会グループの日課・基本活動にこだわり、課題を見つけ、常によりよくするために学び・努力する過程を子どもたちと一緒に大事にしてきました。その結果、子どもたちは身体を使うことを楽しみ、自分で考えたり、工夫したり、人とかかわって何かをすること、共感することが大好きになってきました。
また、園目標を定め、どろんこ会が目指す園の姿のポイントを柱に保育内容の充実や保育の質の向上に努めました。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

１	計画・ねらい	子どもの姿を捉えた保育計画の作成
	実践結果	子どもたちの成長・発達をとらえ、子どもたちに必要な活動が見極められるように園内研修を通して学んだ。その際、長期的な見通しを持つ保育計画の中で、遊びの連続性を捉えるために Web マップを使用してさらに深めることができるとさらに良くなる。
	次年度方向性	目の前の子どもたちに寄り添い、必要な活動を計画に入れていくことを念頭に Web マップなど視覚的に分かりやすいものを使用し、活動のねらいが明確的になるよう立案していく。
２	計画・ねらい	協同力を身に着け、次世代を生き抜く力を身に付ける
	実践結果	日々の活動や幼児の当番活動では、年長児が中心となり子どもたちで話し合いをおこないながら役割を分担し活動に取り組んでいた。また、運動会、発表会を通して友達と協力し試行錯誤しながら同じ方向を見て１つの事を成し遂げる経験ができた。
	次年度方向性	日々の生活の中で、子どもが主体となり話し合いをおこない選択ができる環境を整えていく。また、失敗体験をもとに相手の思いや感情をくみ取りコミュニケーション能力を培えるようにしていく。
３	計画・ねらい	命をいただく活動の実践
	実践結果	日々の畑仕事（土づくり・畝つくり・種まき・苗植え・水やり・雑草とり・収穫）から、命を育てて命をいただく大切さを学んだ。夏季は暑さからの配慮不足もあり、野菜が枯れてしまい、成長が見られなかったことが

		課題となった。
	次年度方向性	畑仕事を日課としていくことで、食物にも命があるということを知り命の大切さを知り、ｌ年を通して作物の変化を感じていく。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

ｌ	計画・ねらい	保育者の立場として考える事を意識する
	実践結果	園内研修を通して、保護者が保育園に何を求めているのかなど、ニーズや社会情勢に合わせた内容の研修をおこなった。研修内では、さまざまなシチュエーションでロールプレイをおこないながら進めていき、保護者の気持ちに寄り添うということをテーマとしおこなった。
	次年度方向性	年々、保護者のニーズが変化していく中で、保育者が理解をしていくと共に、保護者の立場に立ちながら、思いやりの気持ちをもち、保護者から選ばれる園づくりを目指していく。
2	計画・ねらい	お迎え対応の充実
	実践結果	保護者の気持ちに寄り添い、お伝えする子の成長が伝わるような対応を心がけた。何か質問や問い合わせがあった時には、その場で曖昧な対応するのではなく、園全体で話し合い、意見を一致させてからお伝えした。
	次年度方向性	保護者の気持ちに寄り添うことを前提とし、保育園に何を求めているのかを考え保護者が求めている情報を発信ができるようにしていく。今年度の良いところを引き継ぎながら改善をしていくポイントは、その都度改善していける環境を作る。
3	計画・ねらい	いつ見ても気持ちが良い施設となる
	実践結果	職員ｌ人ひとりが意識し、室内はもちろんですが園周辺の掃除などをおこなう姿が見えた。
	次年度方向性	次年度も継続し、意識をすることを大切にしながら、園周辺の清掃もおこなえるように心がけていく。

〈3〉地域の子育て支援事業

ｌ	計画・ねらい	地域に開かれた施設になる
	実践結果	ちきんえっぐ(子育て支援)の利用が今年度は、前年度の倍以上となった。イベントがない日でも園庭解放や室内の利用が増え、保護者同士の会話ができる事から次へとつながっていった。
	次年度方向性	引き続き園庭解放や保育体験をおこない、地域に開かれた園となるように目指していく。
2	計画・ねらい	青空保育の充実

	実践結果	園庭解放や園見学などに来た家庭に紹介し青空保育の周知をおこなった。
	次年度方向性	時間の変更をしたが、集まりがなかった。そのため、来年度から場所と時間を変更し、地域の方が来やすいようにし、活動を周知していく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	園目標・個人目標に対して各自の進捗状況を明確にしていく
	実践結果	定期的に施設長や主任の保育同行を実施したことで、その都度気付いたことを共有することができた。また、園長大学®・保育士大学等で学んだことを園会議等で職員に共有することで、保育の共通認識を図ることができた。
	次年度方向性	法人の理念や法人目標から落とし込まれた、保育目標に向かって全スタッフが学び続け、日々の保育の積み重ねを大切に保育の基本を習得していく。
2	計画・ねらい	保育所保育指針に記載がある「3本の柱」「10の姿」を理解し学び続ける大人集団になる
	実践結果	園内研修で保育所保育指針の読み解きとディスカッションをおこない学びを深めることができた。また、子どもの姿を持ち寄り10の姿の何が当てはまるのかを考え、日々の保育の展開に繋がるようおこなった。
	次年度方向性	発達や関り等について園長大学等も活用しながら学び続けていく。
3	計画・ねらい	他者の考えを知り、受容した上で自分の言葉で発言し、学びあえる環境を作る
	実践結果	日々の中での保育についての雑談や毎週1回のフロア・学年会議内でも自分の言葉で伝え、相手の思いも聞ける職場環境を目指しておこなった。
	次年度方向性	手の特性に応じた伝え方を改めて考え、お互いにとって自然に需要でき、認められる関係性を目指す。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	焚火保育
	実践結果	園庭での焚火が難しく、下東公園、朝霞どろんこでの2回のみの実施となった。 火の温かさを感じることはもちろんだが、落ち葉や木の枝など様々な素材を火にくべることで良く燃えるもの、あまり燃えないものに気づきながら火に親しみを持つことができた。
	次年度方向性	火を囲み、温かさや薪が燃える音、火のゆらめきなどの自然と発生するものに対して興味を持ちながら火と関われるよう回数を増やし定期的におこなうことができるように環境を作っていく。

2	計画・ねらい	自分で選び・自分で選択する
	実践結果	遊びを選択できる環境作りを最終目標に掲げて取り組んできたが、同線を意識したコーナー作りの段階から進むことができなかった。発達やその時々の子どもの様子を観察し、子どもが何を求めているのかを理解し環境設定へとつなげる事が大事になる。 ・朝夕の保育場所の改善をしたことで幼児室の環境が充実した。色鉛筆や粘土を常設することで、遊びたい時に自由に使えるコーナーが整った。合同保育での課題であった乳児の安全面の問題も解消された。
	次年度方向性	「子どもの発達にあった環境」「子どもが自ら経験の選択することができる発達に沿った物的環境の設定」を月ごとに見直しを行う
3	計画・ねらい	食材の循環サイクル、ヤギの糞の堆肥などを持続的に実行する
	実践結果	・子どもたちや保護者に対して、ドキュメンテーションを玄関掲示することで食に対する取り組みの視覚化ができた。 ・残渣のグラフ化ができず、職員1人ひとりの意識の改革まで進めることができなかった。どの職員も見て分かる取り組みとして、残渣量をはかり、全職員に共有をした。 ・堆肥作りでは、用務員が中心となり子どもたちと持続的に実行をすることができた。なぜ、野菜に大事なのかも堆肥を撒く際に伝え子どもたちの野菜への関心が少しずつ強くなってきている。
	次年度方向性	今後も継続してニワトリやヤギ、資源の再生する循環を実感することで、労働の重要性や命の大切さを感じられるよう関わりを深めていく。

〈6〉子どもを中心に考えられる保育の実践

1	計画・ねらい	子どもに対して丁寧に関わる保育をする
	実践結果	日々の関わりの中で、子どもの言葉に耳を傾けありのままの姿を受けとめ保育環境などへの実践をおこなえるようにした。また、応答的な関わりを大切にし、保育者との言葉のやりとりを多くしていくことで、子ども同士のやり取りも活発的になった。
	次年度方向性	応答的に関わることの大切さをしり、保育者の言葉がけ1つひとつが養護に繋がることや子どもたちの語彙の獲得につながることを意識し実践していく。
2	計画・ねらい	子どもと一緒に活動を楽しめる保育者集団
	実践結果	子どもがどんなことに興味を持ち、夢中になって遊んでいるのかを保育者自身が発見・体験・共感できるようになってきた。また、子どもの発達に応じた環境や日々の関わりを試行錯誤し活動を考える事が少しずつ増えてきた。
	次年度方向性	個々の発達の理解やスタッフ同士の共有が不十分だったため来年度の課題として努めていきたい。また、

		発達に応じた環境・関りの知識をさらに深め、失敗や変化を恐れずに様々な事に挑戦して行く。

〈7〉１００の本物の体験を追う

1	計画・ねらい	子どもたちの挑戦する気持ちを後押しする
	実践結果	・保育者や保護者は、見守りをおこない子どもたち自身が答えを導き出せるように一緒に考えていけるように密な連携を努めた。 ・保護者と同じ温度感になれるように、ドキュメンテーションを使用しながら帰りの時に個の姿を伝えられるように努めた。
	次年度方向性	・ドキュメンテーションを増やし、子どもの気づきや活動を共有できる機会を増やす。 ・子ども個々の様子を見極めながら、その子の心情に働きかける環境を作っていく。
2	計画・ねらい	旬の野菜の加工方法を学ぶ機会を提供する
	実践結果	保育者がただ加工をするのでなく、子どもたちと一緒に加工方法を調べたりし、保存食やすぐに食すことができるものまで幅広く実施することができた。
	次年度方向性	加工方法を調べる機会を作ることは継続していく。また、加工の過程の中で味の変化をしていくことに気付ける機会を作る。
3	計画・ねらい	日本ならではの行事に触れる
	実践結果	節句、七夕、お正月など日本に伝わり、今も継承される行事の中で行事にちなんだ作り物をおこない実際に体験する中で知識を深めた。また、なぜその行事をおこなうのかを紙芝居や絵本を通して伝えた。
	次年度方向性	伝承行事について、さらに深めていけるように環境を設定し、子どもも保育者も理解を深めていけるようにする。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半：4~9月	6人	12人	20人	22人	22人	20人	102人
年度後半：10~3月	6人	12人	20人	21人	22人	20人	101人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	210人	215人	244人	220人	128人	178人	255人	199人	204人	195人	203人	199人	2450人
うち0歳児	0人	0人	0人	0人	0人	2人	3人	4人	3人	0人	0人	0人	12人

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	0人	0人	1人	1人	1人	0人	0人	0人	1人	0人	0人	0人	4人
うち0歳児	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人

〈2〉開所時間

7時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

常勤スタッフ	保育士	11人	看護師	0人	栄養士	2人	調理員等	1人
	事務	1人						
パートスタッフ	保育士	3人	補助	1人	調理	1人	用務	1人

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・課題に対するディスカッション

給食運営会議	月1回	・献立の振り返り ・食事状況の把握・課題検討
事故防止委員会	月1回	・ヒヤリハット、インシデントの検証 ・他園事故記録簿から事例の検証 ・ヒヤリハットからの事例についてのディスカッション
ケース会議	月1回	・要支援児個別計画の振り返り及び省察・用紙園児個別計画の見直し
クラス会議	月1回	・保育計画の振り返り ・クラスの課題検討

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
食育会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長
主任会議	年4回	主任
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	・定期的な衛生用品、掃除用具の点検交換を行い、常に清潔が保てるようにした。汚れている箇所や掃除が必要な場所があった際には、職員への呼びかけを率先して行うことで、園全体で意識するようになった。 ・嘔吐や下痢が流行した時期には、嘔吐処理のロールプレイを実施した。定期的に処理方法を振り返ることで、咄嗟の判断ができるようになったと感じる。
安全対策係	・ヒヤリハット、インシデントの検証を行い、自園の危機管理に対する意識向上に繋げた。 ・子どもの安全にかかわる事故について検証し、ディスカッション

	を取り入れながら事故防止に取り組んだ。さらに、自園のこととして捉えて考え、危機管理の重要性を学ぶことを目標とする。
防火管理者	・防災訓練時の責任者として、訓練時の最終確認、その月ごとの課題抽出を行った。 ・園内の見回りを行い、火事や事故に繋がる危険個所や破損場所がないか確認を行った。
食品衛生管理係	・日々の調理室内の安全衛生点検から、修繕の必要な箇所を見極め、施設長と連携しながら安全な状態で調理をすすめることができた。 ・食材残渣を確認し、子どもの給食の実態を把握しながら、環境を作ることを大事にし、養護の1つとして捉え、保育者1人ひとりが考え実施できるようにしていく。
畑係	・畑の管理、苗や種の発注を実施。 ・子どもたちが畑に対し興味が持てるよう玄関に掲示した。また、様々な野菜を育てることで畑に隙間がないようにし、水やりを積極的におこなうことができるようにした。さらに興味が持てるように成長過程を写真などで残したり、クイズを作り掲示をしたりしていく。
生き物係	・餌の管理、発注の実施。 ・保育の中で採取した虫やたまごを飼育できる環境を整えた。子どもの目線で生き物に触れる事が出来るようにした。また、図鑑等設置するなど、生き物に関する環境設定については、引き続き工夫が必要と感じる。

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	・どろんこサポーターズが主となり開催する中で、コーナー設定や当日の分担等協力して実施することができた。 ・地域の方への巻き込みについては、ポスターを近隣園に配布する等集客活動に努めた。地域の方の参加も多数あり、来年度の参加率向上に繋げていきたい。
運動会	・必要備品の予算設定、役割分担、当日の流れの采配等中心となって行った。早い段階から準備を進めたことで、余裕をもって当日を迎えることができた。 ・全クラス一同に集まって開催することができ、運営面でも配慮すべき点が多かったが、役割分担が適格であった為、スムーズに進行することができた。来年度は、小学校校庭での開催も検討する。

生活発表会	・各クラスの発表内容の確認、当日までのスケジュール管理、当日の采配等行った。 ・1階で作品展、2階で発表と昨年度とやり方をお幅に変更をしたが、分散をすることができたのと子どもたちの成長を見てもらう良い機会となった。また、当日の采配変更があったが、臨機応変に対応することができた。

4. 保育支援

〈1〉保育･保育参加･保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	どろんこ祭り、運動会、生活発表会の行事をはじめとして、銭湯、商店街ツアー、異世代交流なども、実施することができるようになり、多くの体験ができた。 天候が許す限り、午前中は戸外での活動を存分楽しんできており、戸外活動により体力と免疫力が向上しているのか、巷で感染症が流行している際も、自園では感染症蔓延もなく、通年通して欠席者も少なかった。 次年も子どもたちの健全な成長と主体性に重きをおきながら、戸外活動、自然体験の充実を図りつつ、異年齢保育、インクルーシブ保育とは何か、どのような保育計画を立て、どのような準備と援助が必要か、子どもたちにとって最善の利益は何か、日々、スタッフ間で追求しながら保育にあたっていきたい。
保育参加	4～3月まで　合計30名　が参加済み　　（3月1日時点） ・友だちとのかかわりを見ることができて良かった、自分のことを自分でやろうとする姿を見ることができた、家では出来ないことを保育園では出来ると知った等の感想を頂く
保護者面談および発達相談	4～3月まで　合計58名　が参加済み　　（3月1日時点） ・3～5歳児のほぼ全員と面談を実施した。園の様子をお伝えするとともに、家庭での姿をお聞きすることができた。来年度も日程の貼りだしをおこない、保護者と1対1でゆっくりと話ができる時間を作っていく。

〈2〉計画した年間行事の振返り

・別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	・調理員、保育者、施設長、事務含む子どもを取り巻く大人は、子どもと一緒に食事をする ・空腹を感じ、食べたい時や場所、ひと食べたいものを食べたいだけ、子どもの自身で選択する環境を作る

	実践結果	調理員、保育者、事務などが子どもと一緒に食事をする中で、それぞれの視点で子どもの食べ方、喫食状況を給食会議で話題にすることもあるが、丁寧に子どもの姿を捉え、どのようにすれば課題となっている部分をスタッフの意識の転換で解決することができるかを検討していく必要もあった。 ・栄養士、調理員が子どもと関わる中で関係を深める事ができ、食育活動もプロセスを重視し子どもと一緒に考え、工夫する姿も多くなった。
	次年度方向性	・栄養士、調理員がどのようにすれば毎日、子どもと食事をする中で子どもの声を拾い専門職の観点から課題を抽出することができるかスタッフ全員で考えていく。 ・給食残渣を、午前中の戸外活動や畑仕事の労働で、空腹になり、食事を心待ちにする日常を意識していく
2	計画・ねらい	実体験を通して食や食の循環について興味関心をもつ
	実践結果	堆肥づくりは失敗に終わってしまい、食との循環環境にはならなかった。畑の畝づくりから収穫、調理の流れをほぼ毎月体験できた。また、鶏の解体を通して、食の循環と命の大切さについて学ぶことができた。
	次年度方向性	子どもたちがもっと畑仕事に対して興味が出るように環境設定や工夫をして、さらに食への興味関心を高めていきたい。
3	計画・ねらい	毎日の給食を楽しみながら日々の生活をおくる
	実践結果	・調理室での取り組みとして、給食で使われる食材を知り、その日の給食に興味をもってもらう為、3色食品群を分類分けできるボードを作成した。年長児中心に食材を分けて貼ることで、食材に種類があることを知り、給食に対して楽しみな気持ちがもてるようになった。 ・午前の活動を名一杯行い、空腹感を感じることで、給食のおいしさをより感じられるようにした。戸外活動後、テーブル拭きや椅子を並べる等、食事の準備をすすんでおこなう姿が増えた。
	次年度方向性	・野菜の皮むきや水あらい等、食材にかかわる活動を活発にし、食べたくなるような経験を増やしていく。 ・大人が一緒に食事を共にする中で、会話を楽しみ、食べられるようになったことを認めながら、食事を通しての成長を見守っていく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月20日／11月19日に実施
歯科検診	6月19日に三原どろんこにて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施

スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 6月21日に三原どろんこにて歯磨き指導を実施 ② 7月23日に三原どろんこにて水分補給についての指導を実施 ③ 12月5・6日に三原どろんこにて性教育を実施
流行した感染症	特になし
発作・痙攣等の対応	なし
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月　日に三原どろんこにてエピペン研修を古河、佐藤、平岡、計3名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ23名のうち、23名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	・3月　日に三原どろんこにて AED 研修を古河、佐藤、平岡、計3名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ23名のうち、23名が使用可能
その他保健に関する取組	・胃腸炎流行時に嘔吐処理のロールプレイを実施し、対応の再確認を実施。 ・室内温度、湿度の管理。 ・こまめな換気による感染症予防の実施。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（法定1回/3年）	業者による対象物の法定点検 2023年実施済み ※対象物がない園及び JW 園は削除すること
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日　0日

	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月 ⇒4月5日、10月5日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日　実施済み
	児童健康診断	内科健診　各年2回／6月20日、11月19日 歯科健診　各年1回／6月19日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時 ⇒4月26日、10月25日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間　実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	養護と教育が一体となった保育を目指し園内の環境を整える
	実践結果	個々の発達に合わせた環境を保育者間で常に考え充実するために保育者の配置や動き方を確認し実践するように努めた。
	次年度方向性	室内環境の見直しを行い、静と動の空間の設置や子どもたちが落ち着いて安心して過ごす事ができる場所を保障していく。
2	計画・ねらい	子どもたちが遊び込める環境を整える
	実践結果	見せ方や置き方、導線を工夫し子ども達自身が主体的に遊ぶ意欲を高められる環境設定の工夫や提案をしていくことが今後の課題となった。
	次年度方向性	ゾーン保育について知識をさらに深め、発達に適した環境を常に整え遊びの発展を楽しめる環境にしていく。
3	計画・ねらい	子どもと共に考える
	実践結果	子どもと多くの対話を大事にし、個々の心情を考えて取り組めるようにした。遊びや生活の中で、どのような事をしたか、何が楽しかったのかなど日々の会話から子どもと保育者が一緒に考え共感ができるようにした。
	次年度方向性	子どもとの対話を大切にし、一緒に考えながら共感をしながら活動の展開ができる環境を作っていく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	配膳台	幼児室	毎日	異常なし
2	ベンチ	園庭	毎日	6月29日に解体

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果 防災	・総合避難訓練時、消防署員に来園していただき訓練の様子を見ていただいた。アドバイスをいただくことで改善点に気づき、緊張感をもって訓練に臨むことができた。 ・備蓄品の補充整理、消火器の交換等、災害時の備えを確認した。
2	実践結果 怪我防止	・ヒヤリハットやインシデントの検証を行い、大きな怪我に繋がらない為にどうしたら良いか検討した。 ・園内設備や家具の配置等、怪我に繋がる可能性のある物について、職員間での共有を迅速に行い、未然に予防できるようにした。
3	実践結果 防犯	・定期的な不審者侵入訓練に加え、様々な場面を想定した不審者侵入訓練を職員で計画し実行した。訓練後、ひとりひとりの動きの確認や、どうしたらよかったのか振り返りを行い、防犯への意識を高めることができた。
4	実践結果 光化学スモック	・光化学スモッグについて、市から発令させる注意報を逃さないようにし、遊ぶ時間帯や場所を選び過ごすようにした。
5	実践結果 熱中症	環境省の熱中症予防情報サイトを随時確認し、子どもの活動が危険な時には屋外活動を避けるようにスタッフと共有し安全に過ごすことができるようにした。

6. 実習生・中高生の受入

〈11〉今年度の振返り

1年を通して実習生の受け入れを行った。子ども達の姿や成長を共有し、保育園で働くことのすばらしさ、やりがいを感じてもらえるよう心掛けた。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
6月10～25日	十文字学園女子大学	1人	部分実習
7月22～26日	大宮こども専門学校	1人	観察実習
10月15～29日	秋草学園短期大学	1人	責任実習

1月27日～ 2月7日	大原こども専門学校	1人	部分実習
3月10～26日	有明教育芸術短期大学	1人	観察実習

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
1月29～31日	朝霞第二中学校	6人

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	26日 23名	24日 23名	28日 23名	26日 23名	23日 23名	27日 23名	25日 23名	22日 23名	27日 23名	24日 23名	27日 23名	21日 23名
虐待防止研修	26日 23名						25日 23名					

〈2〉外部研修への出席

参加なし

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	21日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	11月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育

成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

地域に開かれた保育園を目指した。保育士からの日常の挨拶はもちろんのこと、近隣公園での保護者との関わりや他保育園とのコミュニケーションなど丁寧にかつ、積極的に関わる姿勢を持つことができるようにした。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：星の森公園にて　　参加延べ人数：1名
商店街ツアー	週1回　主な行き先：志木駅前交番、朝霞市消防浜崎分署、オリンピック北朝霞店、りそな銀行新座支店、リゾン志木支店、三原郵便局、志木郵便局、等
世代間交流	10月24日に三原どろんこにて中学生と遊ぼうを実施
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉　実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

職員間での情報交換が主になった為、小学校訪問や子ども間交流を積極的に行うことが課題として残る。朝霞第五小学校を運動会の会場としてお借りしている為、連携を密にしていきたい。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
5月24日	朝霞第五小学校 1年生	1名	授業参観	職員間交流
1月31日	朝霞市進学先小学校	2名	幼保小連絡会	情報交換

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

関係機関の機能を有効に生かし、子どもが健やかに成長すること、保護者が安心して子育てできることを目指す。毎月クラス会議を行い、その都度どのように支援を行っていくかを話し合って進めていくことを計画していた。引継ぎ、個人の意見だけでなくチームで様々な視点から子どもを捉えられように子ども観の共有を大切にしていく。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・４～３月に計12回開催　参加者：6名

個別支援計画を参照しながら会議を実施したことで、子どもたちの発達がより伸長するような取り組みが出来た。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

次年度就学幼保連絡会において進級引継ぎに参加したことが、5歳児のよりスムーズな連携ができる一助になったと思われる。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1名	0名	1名	6名	9名	2名	15名	3名	3名	2名	0名	2名	41名

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　　来園延べ人数：307名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　⇒計0件相談実施済み
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計24回実施済み 参加者延べ人数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	0名	1名	4名	9名	2名	15名	3名	3名	2名	0名	2名	40名

どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計12回実施済み 参加者延べ人数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	0名	0名	0名	2名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	2名

勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00　にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置
ちきんえっ	毎月1日発行

ぐだより													
青空保育（支援センター主催）	月1回　　公園名：星の森公園にて　以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	1名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	1名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２４年１０月２０日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：１３時３０分
自己評価終了時刻：１４時５０分
自己評価実施者：金子隼人、天ヶ谷美緒、石井明美、奈良井梓

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月２５日
アンケート回収率：１００％

利用者アンケートの結果を踏まえ、保護者の立場に立ったお迎え対応と子どもの心情を読み取るために必要な視点を学ぶために研修をおこなった。研修のなかでは、ロールプレイ研修とエピソード研修を中心におこないながらディスカッションを多く取り入れた。研修を取り入れることで、保護者に対してどのような対応が良いのかを考えるきっかけと、さらに良くするためのディスカッションができた。今後も、保護者の気持ちに寄り添いながら対応ができるように努めていく。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見　０件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む）　0件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：三原どろんこ保育園 施設長　金子　隼人

２０２４年度　メリー★ポピンズ アトレ大森ルーム
事業報告書
（保育所における自己評価）

I．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

法人の基本理念 「にんげん力。育てます。」
法人の保育目標
①　センス・オブ・ワンダー
②　人対人コミュニケーション

法人理念及び保育目標を全スタッフが理解し、子どもの心情・意欲・態度に留意しながら日々の子どもの生活を大切にするようにした。その際、子どもの状況や発達過程を踏まえ、環境を通して養護及び教育を一体的に行うことを留意した。
また、保育所保育指針にも書かれている「子どもの最善の利益を考慮し、その福祉を積極的に増進することに最もふさわしい生活の場」となるようにスタッフ一人ひとり意識して過ごすようにした。
子どもの「生きる力を育む」ために、日課・基本保育活動の見直し、実施を心がけ、食材や 食の循環・環境への意識を育む環境教育の実践にも取り組んだ。

〈I〉保育内容の充実・質の向上

I	計画・ねらい	子どもの主体の保育の実践。
	実践結果	保育が子ども主体となっているかスタッフ間で都度振り返り、常に子どもが真ん中となっているか意識して保育するようにした。
	次年度方向性	引き続き日々の保育や行事に向けて子どもたちと話し合い、子どもたちが主体となる生活になるように心がけていく。
2	計画・ねらい	ゾーン保育の実践。
	実践結果	日々の子どもの様子を鑑みて、ゾーンを展開した。活動の様子を見て、スタッフ間で話し合う場を作り、改善していくように心がけた。
	次年度方向性	今年度の取り組みを継続していき、より良いゾーン保育を展開していけるようにスタッフ間で話し合っていく。
3	計画・ねらい	子どもたちの自己肯定感を育む。
	実践結果	子どもが安心できる環境の中で、自分の意見を伝え、相手の思いを受け取り相手への信頼や思いやりの心を育むよう活動や行事についての話し合いの機会を作るようにした。 全スタッフが応答的な関わりを行い、子どもの思いに寄り添い、受け止めることを心がけた。
	次年度方向性	子どもたちの成長、発達を捉え、子どもたちに必要な活動を見極められるよう園内研修を通して学んだ。その際、長期的な見通しを持った保育計画

		の中で、遊びや生活が連続するように担任間で 話し合いの場を作るようにしていく。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	接遇への意識を高める。
	実践結果	全スタッフが、挨拶・お迎え時など保護者様に寄り添った対応を実施するようにした。
	次年度方向性	場面によっては十分な対応ができないこともあったため、スタッフ間で工夫しながら、接遇を意識した関わり、環境、対応を進めるようにしていく。 接遇に関する学びの場を取り入れるようにしていく。
2	計画・ねらい	保育参加・個人面談の積極的な実施。
	実践結果	保護者様の持つ不安や悩みに寄り添い、必要な時に個別に話ができる機会を設け、常に開かれ、相談をしやすい雰囲気作りを心がけた。
	次年度方向性	折に触れ保育参加へのお誘いをし、保育園での生活を知って頂き、些 細なことでも話しかけて頂けるようなコミュニケーションを日々心掛けて いく。
3	計画・ねらい	保護者様の子育てへの意欲や自信を支援する。
	実践結果	全スタッフが保護者様と交流し子どもへの愛情や成長を喜ぶ気持ちを共感しあうことを心がけ対応をするようにした。
	次年度方向性	送迎時や連絡帳、行事を通して保育園での活動をお知らせし、一人ひとりの成長を共に喜び合えるようにする。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域に開かれた園を目指す。
	実践結果	青空保育、園開放、子育て講座を実施した。
	次年度方向性	引き続き園を知っていただく機会となるよう実施をし、集客を増やせるように地域に働きかけていく。
2	計画・ねらい	保護者様や地域に、当該保育所が行う保育の内容を適切に説明するよう努める。
	実践結果	小中学生職業体験、実習生受け入れ、世代間交流の実施。
	次年度方向性	卒園児以外にも地域の方が職業体験で園に訪れて頂くよう、引き続き園での開催を周知していく。
3	計画・ねらい	公共の施設利用を通し、ルールやマナーを身につける。

	実践結果	幼児組を中心に、図書館の利用や、アトレ店舗との交流、買い物体験など子どもたちに必要な体験を保育計画に取り入れた。
	次年度方向性	地域の中で育っていく子どもたちに必要な活動を今後も継続していくようにする。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

l	計画・ねらい	園内研修で学びのアウトプット
	実践結果	自身の学びを保護者様、子どもたち、スタッフにアウトプットするようにした。
	次年度方向性	個々にあった研修が必要なタイミングに参加できるよう案内をしていく。学んだことを伝えることで更なる学びになるように引き続きアウトプットとセットとなるようにする。
2	計画・ねらい	日課・基本保育活動の充実。
	実践結果	スタッフ一人ひとりが法人の保育理念、園目標、クラス目標、個人目標に向き合い、子どもたちの個々の発達に合わせ、子どもたちの成長に必要な活動、遊びを提供するようにした。
	次年度方向性	日課や保育理念を行うことが子どもたちの成長にどう影響するのかをスタッフ一人一人が自分の言葉で語ることができるようにしていく。
3	計画・ねらい	質の高い保育の実施
	実践結果	一人ひとりのスタッフについての資質向上及びスタッフ全体の専門性の向上を図るように努めた。園内研修、スキル講座、園長大学®･保育士大学への参加を促した。
	次年度方向性	スタッフ一人一人が学び続けることを意識できるよう引き続き講座や研修を案内し参加できるようにしていく。

〈5〉環境実施目標

l	計画・ねらい	調理くずの有効活用を通し、廃棄を削減する
	実践結果	ペットボトルコンポストへ子ども、保育スタッフ、調理スタッフ共に取組み、廃棄の削減を目指した。
	次年度方向性	試作から本格的に子どもたちと取り組めるようにし、ゴミを減らす事への意識が育つようにしていく。
2	計画・ねらい	畑仕事・プランター栽培、食材加工等の活動を通じ食材や食の循環を意識することができるようにする
	実践結果	畑・プランターでの野菜の栽培、味噌作り、きゅうりの浅漬け、乾燥野菜作り 実施。

	次年度方向性	園庭がない環境の中でできることを子どもたちとともに継続していく。
3	計画・ねらい	給食残渣を減らす
	実践結果	子どもたちの話し合いの場を作り、子ども自身にも残渣について意識できるようにした。日頃のおやつ作りにも子どもが参加できる日を作り、自分で作った達成感から完食できるようにした。
	次年度方向性	引き続き残渣を意識できるような関りを行っていき、残渣を減らしていく。

〈6〉学年や担任の枠を超えた生活

1	計画・ねらい	子どもたちが室内を自由に行き来できる環境
	実践結果	適宜環境の見直しを実施。実践できた部分もあったが、全体的に実施できていない部分が多くあった。
	次年度方向性	環境の見直しをしつつ、職員のスキルアップも行っていき、園全体で子どもを見守り育てる環境を整えていく。
2	計画・ねらい	子どもを理解する
	実践結果	全スタッフで定期にミーティングを開催。子どもの様子、気になる点を共有し、活動に反映させた。
	次年度方向性	引き続き定期的なミーティングを開催し、子ども理解を進めていく。

〈7〉10の姿の理解を深め、全スタッフが意識しながら保育を行う。

1	計画・ねらい	園内研修にて10の姿について学び合い、理解を深めていく。
	実践結果	園会議等で10の姿について学ぶ場を作った。幼児期の終わりまでを段階的にスタッフが会議等の研修で学べた。
	次年度方向性	引き続き行い、子ども理解に努める。
2	計画・ねらい	年齢関係なく10の姿を絡めながら保育をしていくように意識する。
	実践結果	子どもの実情を把握するように努め、乳児期から成長につながるように心がけて保育にあたった。
	次年度方向性	実践したことを継続していき、丁寧な保育を行えるようにしていく。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半：4~9月	90人	90人	90人	90人	88人	448人
年度後半：10~3月	90人	90人	90人	90人	84人	444人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	359人	345人	355人	366人	323人	321人	377人	326人	334人	320人	304人	320人	4050人

（解説）18時以降が延長保育となる。夕飯の提供がほぼ毎日あった。電車遅延の影響も受けやすく降園時に電車遅延があることもあった。

〈2〉開所時間

7時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

常勤スタッフ	保育士	9人	栄養士	2人				
パートスタッフ	保育士	3人	看護師	1人	事務	1人	用務	1人
	嘱託医	2人						

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容

園会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会
給食運営会議	月1回	食育計画振返り、確認と共有
事故防止委員会	月1回	自園及び系列園で起きた事故のケーススタディと改善策・全園事故防止委員会での内容共有・ヒヤリハット及びインシデントの検討、分析、振り返り
ケース会議	月1回	要支援児個別計画の振り返り及び省察・用紙園児個別計画の見直し
クラス会議	週1回	ねらいの確認、子どもの共有報告等

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
食育会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長
主任会議	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	衛生的改善と疾病の予防処置、施設内衛生管理全般
安全対策係	定期安全点検・防災自主点検・設備点検チェック・事故防止チェック、ハザードマップ作成更新
防火管理者	消防計画・備蓄品の確認・安全対策係の任命・自衛消防組織
食品衛生管理係	食品の安全に対する管理、食育会議の計画・実践

畑係	畑の環境整備・年間計画
生き物係	飼育に関する管理
内部監査係	内部監査項目指摘事項減少の推進

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	どろんこ祭りの計画、保護者との連携、地域への告知、安全対策
運動会係	運動会係 運動会の計画
生活発表会係	生活発表会の計画

4. 保育支援

〈1〉保育･保育参加･保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	・保育園での様子について ・必要な配慮について
保育参加	4～3月まで 合計6名 が参加済み （3月1日時点） ・来年度は参加されたことのない家庭など、さらに広くお誘いできるようにしていきたい。
保護者面談および発達相談	4～3月まで 合計6名 が参加済み （3月1日時点） ・手帳取得児や、受給者証をお持ちのご家庭と面談を実施。保育参加の日や送迎時に担任や施設長、主任、看護師など随時対応していたので面談という形での実施は少なかった。

〈2〉計画した年間行事の振返り

・別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	体験を通して食べる意欲へと繋げる

	実践結果	プランターや畑での栽培活動を明確にし、子どもはもちろん全スタッフが継続的に関わるようにした。
	次年度方向性	野菜の皮むきやお米とぎなど、給食を作る過程に触れ、子どもの体験する内容を調理、保育スタッフ間で話し合い共有をしながら計画して行った。
2	計画・ねらい	食の循環から食の重要性・大切さを学ぶ
	実践結果	コンポストについて保育スタッフも理解を深め、子どもたちと活用した。
	次年度方向性	また、おいしい食事ができるまでにどのような人や仕事が関わっているのかに気づくことで、食の生産から消費までに興味を持てるようにした。
3	計画・ねらい	一つの食材から様々なものができることを知る。
	実践結果	大豆や小麦粉など調理、加工法で様々なものが作られることを学んだ。
	次年度方向性	味噌作りからの発展できなこ、豆腐、豆乳が子どもたちにも保護者様にも好評だったので今後も楽しく加工する体験ができるようにしていく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月28日／12月24日に実施
歯科検診	6月18日に保育室にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 6月19日に保育園にて歯磨き指導を実施 ② 7月3日に保育園にて手洗いうがい指導を実施 ③ 12月4日に保育園にて薄着についての話を実施
流行した感染症	インフルエンザ
発作・痙攣等の対応	該当なし
エピペン使用できるスタッフの状況	6月21日に園会議にてエピペン研修を実施し、本日時点で、在籍スタッフ18名のうち、12名が使用可能

AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	設置なし
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回/15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表/毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表/毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表/毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿/毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
健康管理	予防接種状況･既往歴の確認/保険証期限確認	年2回/4･10月 ⇒4月25日、10月25日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回/20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回/6月28日、12月24日 歯科健診 各年1回/6月18日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回/4･10月の園会議時 ⇒4月19日、10月18日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回/園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	養護と教育が一体となった保育を目指し園内の環境を整える。
	実践結果	個々の発達に合わせ、愛情豊かに応答的な関わりを大切にしながら、常に環境の見直し、改善を行った。
	次年度方向性	室内環境の見直しを行い、静と動の空間の設置や子どもたちが落ち着いて安心して過ごす事ができる場所を保障していく。
2	計画・ねらい	子どもたちが遊びこめる環境を整える
	実践結果	子どもたちの主体性を第一に考え、一人ひとりがじっくりと遊びこむことができる場が保障されているかスタッフ間で連携を取りながら環境の見直し、改善を行った。
	次年度方向性	室内環境の構成を子どもたちの成長、発達に合わせて見直し定期的に更新していく。
3	計画・ねらい	子どもと共に考える
	実践結果	話し合いの場に子どもを交え、共により良い環境を考えていくようにした。
	次年度方向性	大人目線ではなく常に子どもが主体となるようにしていく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

設置なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果 防災	危機管理マニュアルに則り、災害発生時には対応フローチャートに従えるよう、マニュアルの読み合わせを実施した。防災計画に基づき、避難訓練を行った。
2	実践結果 ケガ事故防止	危機管理マニュアルに則り、ケガ発生時には対応フローチャートに従えるよう、マニュアルの読み合わせを実施した。事故防止委員会にてケガや事故の共有、検証、再発防止策を共有しケガや事故の未然防止に努めた。
3	実践結果 防犯	危機管理マニュアルに則り、不審者侵入時にはフローチャートに従えるよう、マニュアルの読み合わせを実施した。防災計画に基づき、不審者侵入訓練を行った。
4	実践結果 光化学スモッグ	危機管理マニュアルに則り、光化学スモッグ時にはフローチャートに従えるよう、マニュアルの読み合わせを実施した。また、行政の連絡に従って対応できるよう訓練を行った。
5	実践結果 熱中症	環境省の熱中症予防情報サイトを随時確認し、子どもの活動が危険な時には屋外活動を避けるようにした。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

次世代の保育者を育てるため、また、実習生を受け入れることにより保育士自身が自らの保育を振り返り、指導する力を身に付ける良い機会となるので、積極的に受け入れた。

保育士という仕事の素晴らしさとともに、子どもの命をお預かりしているということを伝え次の世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材を育成した。

受け入れる際には、全スタッフで暖かく迎え入れることができるようにし、不安なく過ごしてもらえるよう心掛けた。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
7月4～5日	東京こども専門学校	2人	観察実習
6月17～29日	東京都市大学人間科学部児童心理学科	1人	責任実習

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
9月26～28日	大森東中学校	3人
9月26～28日	大田区立大森第十中学校	3人
10月1日～3日	大田区立糀谷中学校	2人
10月7日～10日	大田区立馬込中学校	3人

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	21日 18名	17日 18名	21日 17名	19日 17名	16日 17名	20日 17名	18日 17名	15日 17名	20日 17名	24日 17名	27日 16名	31日 16名
園内研修	21日 13名	19日 12名	16日 12名	28日 12名	18日 13名	15日 12名	20日 12名	24日 12名	15日 12名	19日 12名	16日 14名	3日 14名

〈2〉外部研修への出席

該当なし

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	19日 1名	21日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	20日 1名	19日 1名
全社員研修	11月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

地域に開かれた保育園を目指した。保育士からの日常の挨拶はもちろんのこと、近隣公園での保護者との関わりや他保育園とのコミュニケーションなど丁寧にかつ、積極的に関わる姿勢を持つよう心掛けた。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：交通公園にて　　参加延べ人数：0名
商店街ツアー	週1回 主な行き先：東急フローラ、青山フラワーマーケット、大森駅前不二家、JR 大森駅交番、八百好等
世代間交流	月1回 ニチイホーム訪問、交流
異年齢交流	7月、8月に小学生の保育園ボランティアの受け入れ 9月、10月、11月に中学生の職業体験の受け入れ
その他活動	9月30日におはなしかごを実施 12月13日にマジックショーを実施
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉　実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

以下計画について、小学校と相談・協議を4月より開始した。小学校との交流、見学、参加を通じて子どもたちの就学がスムーズな連携の中進められるようにした。

また小学校1年生の授業を見学できるよう近隣小学校と計画を立て、1年生を知ることで逆算した保育を遂行することができるようにした。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
2月12日	入新井第一小学校 山王小学校	1名	幼保小連携協議会（スマイル大森）	職員間交流
2月20日	山王小学校 1年５組	16名	学校を紹介する会（当園幼児保育室）	子ども間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

個々の保育計画を立て、見通しを持って保育にあたった。日々変化していく子どもたちの様子を観察、記録し、全スタッフで共有し保護者とも共有しながら、どのスタッフでも保育ができるような体制づくりを行った。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

（４～３月に計１２回開催予定　参加者：全正規スタッフ）

支援の必要な子どもの様子、課題から支援の方向性の共有を行った。子どもの特性を生かすことができるよう支援の経過伝え、連携をした。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

5歳児の児童要録を作成し、小学校との連携、引継ぎを行った。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
4名	8名	8名	52名	8名	24名	30名	18名	4名	2名	0名	4名	158名

<table>
<tr><th>実施項目</th><th colspan="13">詳細</th></tr>
<tr><td>園開放</td><td colspan="13">（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　　来園延べ人数：0名</td></tr>
<tr><td>子育て相談</td><td colspan="13">（月）～（土）13:00～16:30　　⇒相談なし</td></tr>
<tr><td rowspan="3">自然食堂
親子ランチ
交流</td><td colspan="13">毎週（水）10:00～12:00　　⇒計1回実施済み
参加者延べ人数</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td></tr>
<tr><td rowspan="3">どろんこ
芸術学校
どろんこ
自然学校</td><td colspan="13">毎週（水）10:00～12:00　　⇒実施なし
参加者延べ人数</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td></tr>
<tr><td>勝手籠設置</td><td colspan="13">（月）～（土）7:00～20:00　にて実施
門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置</td></tr>
<tr><td>ちきんえっぐだより</td><td colspan="13">毎月1日発行</td></tr>
</table>

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２４年１１月1日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：１３時３０分
自己評価終了時刻：１４時３０分
自己評価実施者：施設長、主任、保育士、調理員

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月２５日
アンケート回収率：１００％

（省察）アンケートの結果を通して送迎時の対応に対する課題が継続して見られた。保護者様に寄り添った対応をスタッフ一人ひとりが実施することができるよう、接遇についての学びや、コンピテンシーから園、個人それぞれの課題を見つけ日々取り組んで行くことを大切に、取り組みを続けていく。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見　0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む）　0件

以上

作成日：２０２５年3月１５日 作成者：メリー★ポピンズ アトレ大森ルーム 施設長 的場 玄輝

２０２４年度　市川どろんこ保育園　事業報告書
（保育所における自己評価）

Ⅰ．２０２４年度の概要

保育者は子どもの「主体性」＝「ありのままの子ども」を第一に考え、発達に合った関わりを充実させていった。安心できる環境、感情の爆発、意見の尊重、子ども同士のつながり、気持ちの葛藤、伝え合う機会の環境を保障し、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿の理解と個別理解を深める努力を最大限にし、子どもを理解しようとする姿勢を大人が意識していった。何かをさせる保育ではなく、一人ひとり個性と発達に向き合い、子どもと共に成長していく共主体の意識を常に持ち合わせる職員集団を目指していった。

大人も子どももすべて自分の力でやろうとするのではなく、苦手な部分と向き合い、周囲に受け止めてもらいながら自分の得意を発見し、伸ばしていく「自立」を目指していった。

幼児期からの途切れない教育の為に小学校との連携を大切にしていき、アプローチカリキュラムを保育計画の中に落とし込み、子どもの好き得意の探索、経験を選び取る機会、気持ちが受け止められる環境の3つを主とし保育に当たることを目的とし保育にあたった。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	・9時出発の定着を目的とし保育を展開していく。主活動の時間を充実させ、より多くのトライ＆エラーを体験の中で引き起こす。
	実践結果	子どもの成長発達や保証すべき体験を子ども主体で考えられるよう、日々の昼礼の時間に振り返りを行い「子どもの姿の共有」を充実させていった。
	次年度方向性	基本方針の充実と保育の質の向上を目的とし園内研修を設けていく。
2	計画・ねらい	子どもの権利条約、幼児の終わりまでに育ってほしい10の姿の理解
	実践結果	園会議、園内研修、昼礼の機会を活用し勉強会を設けていった。
	次年度方向性	子ども観の共有をチームで行い、ねらいに沿った保育を展開していく。
3	計画・ねらい	「見守る保育」見る＝子ども理解　守る＝適切な援助の理解と定着を目的とする。
	実践結果	園会議、園内研修、昼礼の機会を活用し勉強会を設けていった。
	次年度方向性	子ども観の共有をチームで行い、ねらいに沿った保育を展開していき、発達を理解し、保育の質の向上を図る。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者参加行事を通してコミュニケーションの充実を図る
	実践結果	保護者参加行事（任意参加）を企画し保護者との積極的なコミュニケーションを図った。
	次年度方向性	今年度も予想をはるかに超える参加があり、保護者の期待も上がっている。来年度も保護者間の横のつながりを目的とした行事を企画し実施していく。
2	計画・ねらい	子育て支援の発信
	実践結果	子育てスキル講座の紹介など、子育て等に関する様々な支援を行い、保護者が主体的に育児を行えるよう、子育てのパートナーとして共に子どもの成長を共有していくことを計画していたが、集客があまり見込めなかった。
	次年度方向性	引き続き、保護者理解、保護者支援の観点を意識し研修を行っていく。単に知識の詰め合わせではなく「保護者の気持ちになる」をキーワードにした研修をチームで築いていく。
3	計画・ねらい	保護者の立場として考えるということを意識していく
	実践結果	保護者理解、保護者支援の観点を意識し研修を行っていく。単に知識の詰め合わせではなく「保護者の気持ちになる」をキーワードにした研修をチームで行った。
	次年度方向性	運動会や発表会などの行事の際に本番だけでなく、保育のプロセスを感じられるような取り組みを今後も続けていく。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	子育てのスキル講座の活用
	実践結果	子育て相談や子育て世代の繋がりを目的として支援事業を展開していった。
	次年度方向性	園見学の際に子育て相談に繋がる機会が多くあったので来年度は見学日に子育て相談を行うことも検討していく。
2	計画・ねらい	世代間交流（シニア交流・実習生を含む学生との交流・中学生の職場体験）
	実践結果	地域に開かれた保育園を目指すべく、シニア交流・実習生を含む学生との交流・中学生の職場体験の機会を大切にしていくことを目的としていった。
	次年度方向性	世代間交流（シニア交流・実習生を含む学生との交流・中学生の職場体験）の充実をさらに図る。
3	計画・ねらい	子育て体験（保育体験月２回）を通して地域子育て支援活動の充実

	実践結果	地域に開かれた保育園として、スペースや時間を有効活用しながら地域の保護者が安心できるような場所を目指していった。
	次年度方向性	地域の認知度はあまりなく、ポスターや戸外活動時の呼びかけを増やしていく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	保育の質を上げる会議と連動し、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿について理解を深めていく。
	実践結果	保育の質を上げる会議、参加代表者と連携し勉強会を進めていく。ファシリテーションスキル向上も目的とし、学び合う集団を目指していった。
	次年度方向性	引き続き育の質を上げる会議、参加代表者と連携し勉強会を進めていく。ファシリテーションスキル向上も目的とし、学び合う集団を目指していくため園内研修を目指していく。
2	計画・ねらい	子どもの権利条約、保育所保育指針の理解
	実践結果	園会議、園内研修、昼礼の機会を活用し勉強会を開催し理解を深めていった。
	次年度方向性	幼児期の終わりまでに育って欲しい１０の姿についての理解を深めることができた。来年度は乳児幼児期の発達についての理解を深めていく。
3	計画・ねらい	共主体の理解と定着を目的とする。
	実践結果	園会議、園内研修、昼礼の機会を活用し勉強会を設けていった。
	次年度方向性	年度の後半は保育者も主体となる場面があった。日々の保育の進め方等、子どもの主体性を引き出すような計画と実践、振り返りが必要である。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	物的環境・人的環境についての理解を深めていく。
	実践結果	園内研修、環境勉強会にて理解の深め合いを行う。子どもの興味・関心から環境の課題をみつけ、子どもが自ら考えられるような関りと、遊びの続きがしたくなるような環境を目指し環境を構成していった。
	次年度方向性	今年度の研修を継続して行い、発達（個別理解と発達段階）の理解、保育の質を上げていく。
2	計画・ねらい	充実した保育計画の実施、保育の質の向上
	実践結果	ねらいにあった保育を充実させるために子ども観の共有や発達段階に合わせた環境構成を園内研修、自主勉強会、幼児会議、乳児会議から学ぶを深めた。

	次年度方向性	保育観の共有、チームでの話し合いの時間を多く、設けていく。
3	計画・ねらい	清掃・美観を念頭に置いた仕組み作り
	実践結果	保育園で毎日過ごす、子ども、スタッフ、ヤギや鶏はもちろんこと保護者や訪問者にとっても過ごしやすく居心地の良い場所となれるように日々の清掃や美観に対して敏感になり意識を高く維持した。
	次年度方向性	保育園で毎日過ごす、子ども、スタッフ、ヤギや鶏はもちろんこと保護者や訪問者にとっても過ごしやすく居心地の良い場所となれるように日々の清掃や美観に対して敏感になる。

〈6〉就学に向けての取り組み

1	計画・ねらい	7月頃　場所　鬼高小学校　交流会を開催
	実践結果	小学校へ足を運び小学生との交流をしていく。学校探検・授業体験を通して小学生へのイメージを持ち、期待感を持って就学を迎えられることを目的とした交流会に参加した。
	次年度方向性	7月頃　場所　市川どろんこ保育園　交流会を開催
2	計画・ねらい	アプローチカリキュラムの理解と充実
	実践結果	園会議、園内研修、昼礼の機会を活用し勉強会を行い、スタッフがアプローチカリキュラムを理解し0歳からのアプローチカリキュラムを充実させていった。
	次年度方向性	園会議、園内研修、昼礼の機会を活用し勉強会を行い、スタッフがアプローチカリキュラムを理解し0歳からのアプローチカリキュラムを充実させ２月に交流会を企画していく。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半：4~9月	68人	108人	108人	144人	144人	134人	706人
年度後半：10~3月	72人	104人	103人	144人	144人	138人	705人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	640人	679人	648人	691人	565人	575人	703人	611人	607人	615人	511人	550人	7395人
うち0歳児	8人	43人	45人	53人	50人	41人	50人	44人	58人	60人	53人	55人	560人

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	3人	3人	2人	2人	2人	2人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	20人
うち0歳児	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人

〈2〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

常勤スタッフ	保育士	14人	看護師	1人	栄養士	2人
パートスタッフ	保育士	6人	用務	1人		

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回120分	コンピテンシー・園内研修（子育ての質を上げる会議・ウェブマップ・エピソード考察・環境勉強会・幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿）
給食運営会議	月1回	給食会議・アレルギー対応・衛星点検

事故防止委員会	月1回	他園自園の事故記録簿考察・インシデント考察・ヒヤリハット考察
ケース会議	月1回	子どもの様子の共有・関係機関との連携
幼児会議	月1回	月案・週案ねらいの確認・様子の報告・課題の共有

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
食育会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、看護師
主任会議	年4回	主任
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	法人全体で園児健康管理業務改善を目指し、各園が園会議で検討した事項を元に開催した。
安全対策係	設備点検・人権チェック・衛生推進者の職務遂行
防火管理者	消防計画の作成と届け出・自主検査チェック（日常）避難・消火・通報訓練の実施管理・防災対策・自衛消防隊の編成
食品衛生責任者	衛生管理点検表・職員細菌検査実施・食品衛生上の管理
畑係	畑活動に対しての発信・現状把握
生き物係	生き物に対しての発信・現状把握

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	保護者と一緒に連携しながら行った。

4. 保育支援

〈ｌ〉保育･保育参加･保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	・保育園と家庭での情報交換を行った。
保育参加	4～3月まで　合計35名が参加済み　　（3月ｌ日時点）
保護者面談および発達相談	4～3月まで　合計5名　が参加済み　　（3月ｌ日時点）

〈2〉計画した年間行事の振返り

・別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

ｌ	計画・ねらい	子どもが食に対して興味・関心が持てるよう日々の保育の中で積極的に食育活動を取り入れていく。
	実践結果	旬な野菜を取り入れたクッキングや、畑で収穫した野菜を素材の味を活かし子ども達に提供した。
	次年度方向性	猛暑の影響もあり夏野菜の育ちが悪かった。プランターなどを使い育てていく。
2	計画・ねらい	調理スタッフと連携を図りながら食育活動に力を入れていく。
	実践結果	調理スタッフの積極的な保育参加により離乳食の進み具合や食事の状況を確認、子ども達の野菜への興味関心の向上。年長児は小学校へ向けた認知能力の刺激といった部分の教育を行った。
	次年度方向性	引き続き、調理スタッフとの連携を図りながら食育活動に力を入れていく。
3	計画・ねらい	月ｌ回の給食会議にて情報の共有を行う。

	実践結果	離乳食の進み具合や食事の状況を確認し、発達に合わせた援助を行った。
	次年度方向性	離乳食の進み具合や食事の状況を確認し、発達に合わせた援助を行っていく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月6日／11月7日に実施
歯科検診	6月5日／11月6日に実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
発作・痙攣等の対応	計2名に対し、計2回ダイアップ使用 その他、1月21日に救急車要請
エピペン使用できるスタッフの状況	・３月１９日に市川どろんこ保育園にて新年度キックオフを行った。計６名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ１５名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	・３月１９日に市川どろんこ保育園にて新年度キックオフを行った。計６名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ１５名が使用可能
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み

	フロン点検（法定1回/3年）	業者による対象物の法定点検 2023年実施済み ※対象物がない園及び JW 園は削除すること
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月 ⇒4月5日、10月4日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日　実施済み
	児童健康診断	内科健診　各年2回／6月6日、11月7日 歯科健診　各年2回／6月5日、11月6日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時 ⇒4月12日、10月4日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間　実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	物的環境・人的環境についての理解を深めていく。
	実践結果	園内研修、環境勉強会にて理解の深め合いを行う。子どもの興味・関心から環境の課題をみつけ、子どもが自ら考えられるような関りと、遊びの続きがしたくなるような環境を目指した。
	次年度方向性	引き続き、発達（個別理解と発達段階）の理解、保育の質を上げていく為、園内研修や自主勉強会にて子ども観の共有を行う。
2	計画・ねらい	発達（個別理解と発達段階）の理解、保育の質を上げていく。
	実践結果	発達段階に合わせた関りを行うため、昼礼等で共有した子どもの姿から必要な関りや発達を学びを深めていった。
	次年度方向性	保育の質や子ども観の共有に重点をおいた一年であった。来年度も年間を通して保育の質に焦点を当てた研修を実践していく。
3	計画・ねらい	清掃・美観を念頭に置いた仕組み作り

	実践結果	保育園で毎日過ごす、子ども、スタッフ、ヤギや鶏はもちろんこと保護者や訪問者にとっても過ごしやすく居心地の良い場所となれるように日々の清掃や美観に対して敏感になる。
	次年度方向性	引き続き、日々の清掃に重点をおき誰が来ても気持ちの良い園を目指していく。

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	消防計画に基づき、自衛消防隊を編成し避難訓練を月１回実施。震度５弱以上の際は園が情報を発信し、安否・施設状況・避難先を情報共有する体制をとる。帰宅困難者対策を踏まえ、災害に備える。
2	実践結果	事故防止チェックリストについて、年4回設備点検6回を行い、事故防止の徹底を図った。
3	実践結果	インシデント・ヒヤリハット報告の分析
4	実践結果	法人内で事故報告を共有し、事故防止策を探る
5	実践結果	年2回防犯チェックリストに従い、確認し合わせて不審者訓練を実施。訓練は避難訓練・不審者訓練・通報訓練とし職員全員を対象とする
6	実践結果	光化学スモッグが発生しやすい気象条件・光化学スモッグ注意報を把握し、発令があった場合は内容にあった情報を発信する。園児・職員は室内で過ごす。
7	実践結果	インシデント・ヒヤリハット報告の分析

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

小中高生の保育体験、ボランティアの受け入れを行った。受け入れられる実習生の不安な気持ちを受容して、応答的な関わりが出来るように実習生ボランティアの窓口となるスタッフを決めて進めていった。実習体験からの学びを、学生と保育者と相互に対話を重ねて、確認するために昼礼などの際に実習生の情報交換を行った。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
6月10日～22日	和洋女子大学	２人	責任実習
8月19日～31日	帝京科学大学	１人	責任実習

8月13日～27日	日本児童教育専門学校	1人	責任実習
8月26日～9月10日	愛国学園保育専門学校	1人	責任実習
9月2日～18日	有明教育芸術短期大学	1人	責任実習

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	12日 24名	10日 18名	7日 18名	5日 16名	2日 15名	6日 15名	4日 15名	1日 19名	6日 19名	10日 17名	14日 15名	14日 15名

〈2〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	21日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	11月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											

〈3〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

地域の人と繋がり子育てしていくことを目指す。子育て支援の拠点として、世代間交流（シニア交流・実習生を含む学生との交流・中学生の職場体験）地域子育て計画を元に時代に合わせた子育て支援を展開していった。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：遺跡公園にて
商店街ツアー	週1回　主な行き先：コージーコーナー、伊藤のり店、市川市東消防署、ミスタードーナツ、下総中山駅、市川市中央図書館、マクドナルド、スターバックス、鬼越駅、ダイエー、小林種苗店等
世代間交流	2月3日に神明社にて交流会を実施
異年齢交流	7月29日に保育園にて異年齢交流会を実施
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉　実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

保育所保育要録の送付

保育園で積み重ねられた子どもの育ち（保育所保育指針　第1章総則　「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」をもとに）を、小学校での生活や学びに繋げていくことが重要と考え、以下計画について、就学前支援の取り組みについて小学校と相談・協議を行った。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
7月29日	卒園児　現1年生	18名	交流会（保育園園庭）	子ども間交流
11月22日	大和田小学校 1年2組	2名	授業研究会参加（大和田小学校）	職員間交流
1月30日	大和田小学校	2名	幼・保・こども園交流会（大和田小学校）	子ども間交流
2月14日	鬼高小学校	22名	幼保小交流学習（鬼高小学校）	子ども間交流

10.　要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

関係機関の機能を有効に生かし、子どもが健やかに成長すること、保護者が安心して子育てできる

ことを目指し、毎月幼児会議、乳児会議を行い、その都度どのように支援を行っていくかを話し合って進めていった。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

４～３月に計１２回開催 参加者：２９名

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

自園で作成したアプローチカリキュラムをもとに、子どもの発達の特徴を捉えながら保育を展開させた。 保育所保育要録を作成、各園に送付した。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
43名	40名	35名	85名	27名	19名	58名	70名	56名	38名	30名	30名	531名

<table>
<tr><th>実施項目</th><th colspan="13">詳細</th></tr>
<tr><td>園開放</td><td colspan="13">（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　　来園延べ人数：30名</td></tr>
<tr><td>子育て相談</td><td colspan="13">（月）～（土）13:00～16:30</td></tr>
<tr><td rowspan="3">自然食堂
親子ランチ
交流</td><td colspan="13">毎週（水）10:00～12:00　　⇒計1回実施済み
参加者延べ人数</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>1名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>1名</td></tr>
<tr><td rowspan="3">どろんこ
芸術学校
どろんこ
自然学校</td><td colspan="13">毎週（水）10:00～12:00　　⇒計0回実施済み
参加者延べ人数</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td></tr>
<tr><td>勝手籠設置</td><td colspan="13">（月）～（土）7:00～20:00　にて実施
門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置</td></tr>
<tr><td>ちきんえっぐだより</td><td colspan="13">毎月1日発行</td></tr>
<tr><td rowspan="3">青空保育
（支援センター主催）</td><td colspan="13">月1回　　公園名：鬼高遺跡公園にて　以下日程にて実施</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>4名</td><td>4名</td><td>8名</td></tr>
</table>

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審
今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施
２０２４年６月３日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：１３時００分
自己評価終了時刻：１４時００分
自己評価実施者：施設長、主任

〈3〉利用者アンケートの実施
施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月２５日
アンケート回収率：100%

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見
報告すべきご意見　０件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）
報告すべきケガ（事故含む）　０件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：市川どろんこ保育園 施設長　築地　駿

２０２４年度　新座どろんこ保育園　事業報告書
（保育所における自己評価）

1．２０２３年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

・新座市の恵まれた自然環境の中で、四季の移り変わりや季節ごとに変化する植物・生き物に触れ、知的好奇心や豊かな感性を育んできた。
・基本活動（異年齢児保育・座禅・雑巾がけ・さくらさくらんぼリズム体操・散歩9時出発・畑仕事・裸足保育・縁側給食・商店街ツアー・青空保育）や様々な活動において、大人の指示がなくても自ら考えて行動する子どもが増えてきた。
・さまざまな活動を通して、1人ひとりの子どもが「自分の得意」を見つけ自信持ち、様々なツール（言葉・絵画・造形・身体）での表現力が豊かになったと感じる。
・次年度は、大人も子どもも共に育ち合い、互いを認め受け止めながら、にんげん力 UP を目指す。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	子どもの「生きる力を育む」ための日課・基本活動の実施
	実践結果	日課について大人が意義を理解し、子どもと一緒に取り組んだ。 子どもの育ちを職員間で共有しながら質の向上を目指した。
	次年度方向性	すべての子どもが自ら行う日課を目指して、大人が基本活動の大切さを丁寧に子どもに伝え背中を見せていく。
2	計画・ねらい	子どもの育ちを語り合える職員集団となる。
	実践結果	1人ひとりの子どもの育ちに気付き、どんな環境や保育者、保護者の関わりからその育ちが生まれたのかを職員で語り合ってきた。
	次年度方向性	継続して語り合いの風土を大切にしながら、更に子ども理解を深めていけるチームにしていきたい。
3	計画・ねらい	インクルーシブ保育の確立
	実践結果	多様性を受け入れ、互いを認め合うことで、大人も子どもも新しい発見や関わりが生まれてきた。
	次年度方向性	大人も子どもも1人ひとりの個性や良さ、違いを認め合い、支え合える関係を築きたい。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者の心に入り込んだ接遇
	実践結果	保護者の立場に立ち、真摯に向かい合いながら、保護者面談も積極的にお声掛けして関係性を深めることに努めてきた。
	次年度方向性	次年度も引き続き保護者の立場に立ち、「思いやり、誠実さ、謙虚さ、感謝の気持ち」を大切にしていきたい。

2	計画・ねらい	利用者から選ばれる園になる。
	実践結果	子どもを真ん中に置き、保護者様の子育て観を尊重しながら子どもの育ちを共に喜び合える関係を築いていった。
	次年度方向性	今後も保護者面談など、保護者様と密に連携を図り、共に子育ての喜びが感じられる関係性を築いていく。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域に開かれた施設を目指す。
	実践結果	地域の方や、在園の兄弟の方へ園庭や施設の利用を進めてきたが、利用者数はあまり増えなった。
	次年度方向性	園庭解放の宣伝を行い、地域の方が繋がり合える場になるよう努める。
2	計画・ねらい	地域参加行事の開催
	実践結果	畑を大きくしたが、地域の方の利用まで至らなかった。餅つきなど、地域参加行事も思うように集客ができなかった。
	次年度方向性	掲示場所や内容を検討して、集客に繋げる。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	大人の人間力 UP
	実践結果	大人が背中を見せて教えないと知り得ないモノや事を理解し、大人も子どもも主体的に新しい事に挑戦してきた。
	次年度方向性	自分の強み・弱みを理解する。 育成計画とアウトプットできる機会を作っていく。
2	計画・ねらい	園長大学®保育士大学の講座を使った年代別研修の実施
	実践結果	スキルに合わせた講座視聴とディスカッションを行った。
	次年度方向性	研修とディスカッションの機会を増やして、園内研修の中で語り合いを盛んにする。日常的に語り合いができる風土を目指す。
3	計画・ねらい	リーダー育成
	実践結果	ＭＢＯを設定し、進捗確認・振り返りをしながら進めた。
	次年度方向性	リーダーの役割と課題を整理し、スモールステップで習得できる計画を立てる。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	生きものの世話や畑仕事をする中で、労働の意味を感じる。
	実践結果	毎日の日課で、保育者が見守りながら、5歳児を中心に異年齢児グループで行なってきた。
	次年度方向性	グループの人数や道具の数などを見直し、達成感や責任感が感じられる活動としていく。
2	計画・ねらい	鶏を絞めて食す体験
	実践結果	年度途中で若い鶏がやってきたことから、職員間で話し合いを行い、先ずは毎日のお世話をすることから始める事とし、締めて食す体験の実施ができなかった。
	次年度方向性	卵を生まなくなるタイミングを逆算して保護者や子どもへの導入を始める。

〈6〉子どもの表現力を培う

1	計画・ねらい	表現する喜びを提供する（子どもの権利）
	実践結果	様々な素材や道具を自由に使い、自己表現が楽しめる部屋を常設することで、子どもの様々な表現が生まれた。その中で、言葉での表現も豊かになり達成感や充実感、自信へと繋がった。
	次年度方向性	継続しながら更に遊びが発展する環境を追求し続ける。
2	計画・ねらい	自己表現を尊重する
	実践結果	年齢関係なく、1人ひとりの子どもの表現には丁寧に共感し、受容してもらうことの喜びから人との関わりの心地よさが感じられる事を大切にしてきた。
	次年度方向性	絵画表現や造形表現は引き続き環境を整備していく。 言語表現が豊かになるよう、大人は言葉のやり取りを大切にする。

〈7〉就学への取り組み

1	計画・ねらい	小学校1年生を見て知り、逆算した保育を遂行する
	実践結果	小学校の授業参観や近隣の保育園との交流会、ブロック別の職員情報交換会など小学校の協力もあり、接続に向けた取り組みが増え、アプローチプログラム作成に繋げることができた。
	次年度方向性	次年度も職員間共有や小学校見学に積極的に参加し、スムーズな接続に繋げていく。

2	計画・ねらい	小学校就学に向けた0歳児からの保育を考察する。
	実践結果	「幼児の終わりまでに育ってほしい10の姿」を職員は意識して保育計画の作成や子どもの遊びの考察をしてきた。
	次年度方向性	今年度を振り返り、次年度も引き続き逆算した保育計画の作成を行い、子どもと相談しながら保育を実践していく。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半：4~9月	36人	90人	90人	90人	90人	90人	486人
年度後半：10~3月	36人	90人	90人	90人	90人	90人	486人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	174人	179人	143人	176人	177人	188人	196人	175人	167人	154人	130人	200人	2059人
うち0歳児	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	4人	4人	2人	10人

（解説）18：01以降の利用者総人数

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	2人	0人	0人	2人
うち0歳児	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人

（解説）

〈2〉開所時間

7時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

常勤 スタッフ	保育士	11人	看護師	0人	栄養士	2人		
パート スタッフ	事務	2人	用務	2人	嘱託医	2人		

3.運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・園内研修
給食運営会議	月1回	食育に関わる事項
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット、インシデント検証 自園、他園事故記録簿からの検証
ケース会議	月1回	要支援児、気になるお子さんの支援について
リーダー会議	月1回	園の課題を抽出し、解決策を検討

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
食育会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、看護師

主任会議	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	保育環境・衛生・予防に関わる提案実施
安全対策係	防犯・保育備品の安全点検及び事故防止
防火管理者	消防署への届け出・避難訓練の実施・改善取り組みの実施
食品衛生管理係	衛生点検・予防および管理と全スタッフへの指導
畑係	年間を通して食育計画案の作成・実施と、畑の管理
生き物係	生き物の飼育管理

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	どろんこ祭りの企画・実施

4. 保育支援

〈1〉保育･保育参加･保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育参加	4～3月まで　合計1名　が参加済み　　（3月1日時点）
保護者面談および発達相談	4～3月まで　合計16名　が参加済み　　（3月1日時点）

〈2〉計画した年間行事の振返り

・別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	十分に体を動かし、空腹で食事に向かうリズムをつくる。
	実践結果	午前9時には散歩へ出発し、戸外で積極敵に体を動かせるよう運動遊びを展開するなどしてお腹の空く生活リズムを整えていった。食事の環境を都度見直し、心地よい食事の環境の整備に努めた。
	次年度方向性	引き続きお腹の空く生活リズムを整えながら、それぞれが心を通わせる丁寧な食事環境を目指していく。
2	計画・ねらい	食の循環を意識した保育を行う。
	実践結果	給食から出た野菜の皮やヤギの糞などでコンポストの運用を継続して取り組んだ。
	次年度方向性	次年度も子どもたちと一緒に食の循環の意義を体感し、コンポストでの堆肥作りからの畑活動を充実させていく。
3	計画・ねらい	食事を通したコミュニケーション
	実践結果	1人ひとりの喫食状況を把握し、大人が一緒に食事をしながら、楽しい雰囲気の中で食を通したコミュニケーションを大切にしてきた。
	次年度方向性	引き続き、丁寧な関わりと味にもこだわり、おいしい給食提供を目指す。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	5月19日／11月9日に実施
歯科検診	6月14日に新座どろんこ保育園にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 12月1日に幼児室にて性教育1回目を実施 ② 12月2日に幼児室にて性教育２回目を実施
流行した感染症	① 12月にアデノウイルス、園児7名感染報告有り。1月4日に終息
発作・痙攣等の対応	該当なし

エピペン使用できるスタッフの状況	・3月21日に園にてエピペン研修をスタッフ2名、が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ18名のうち、18名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	・設置なし
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月 ⇒4月1日、10月4日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日　実施済み
	児童健康診断	内科健診　各年2回／5月19日、11月9日 歯科健診　各年1回／6月14日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時 ⇒4月14日、10月6日に実施済み

	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間　実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	子ども自らが様々なものに主体的に関われる物的環境の整備
	実践結果	多様なものを常設し、子ども自身が好き・得意を探索できるよう見守ってきた。
	次年度方向性	基本的な技能を身につけ、制限なく多様なものと関われるよう大人が丁寧に見守っていく。
2	計画・ねらい	子ども自らが経験を選び取ることができる活動の提案
	実践結果	子どもの興味関心を考察し、一つでも多くの体験ができるよう活動を行ってきた。
	次年度方向性	四季を大切にして、すべての子どもが興味を持って主体的に体験活動ができるよう計画を立てる。
3	計画・ねらい	協働力を身に付ける遊び環境
	実践結果	子どもの興味関心をベースに、子ども間で話し合い、一つのものを作り上げる活動を繰り返し行ってきた。
	次年度方向性	子どもが対話をして一つのものを作り上げる活動の中で、遊びが発展していけるよう保育者は見守っていく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	登りロープ	園庭	毎日	異常なし
2	やぎ小屋	園庭	毎日	異常なし
3	パーテーション	園庭	毎日	異常なし
4	長椅子	幼児室	毎日	異常なし
5	鏡	幼児室	毎日	異常なし
6	コンポスト	畑	毎日	異常なし
7	落ち葉プール	畑	毎日	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

Ｉ	実践結果	【防災】 消防計画に基づき毎月Ｉ5日に避難訓練を実施した。
2	実践結果	【事故防止】 事故記録簿・インシデント・ヒヤリハット報告書を活用しその都度再発防止策設定することで事故未然防止に努めた。毎月の事故防止会議では、リスク傾向について分析し危機管理を行っていった。
3	実践結果	【防犯】 年に2回、不審者侵入訓練を実施した。
4	実践結果	【光化学スモッグ】 光化学スモッグ情報で注意報を把握し、発令があった際には速やかに室内に移動した。

6. 実習生・中高生の受入

〈Ｉ〉今年度の振返り

Ｉ年を通して実習生の受け入れを行った。子ども達の姿や成長を共有し、保育園で働くことのすばらしさ、やりがいを感じてもらえるよう心掛けた。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
5月7日～Ｉ8日 5月28日 ～6月8日	日本社会事業大学	Ｉ人	保育実習ＩＢ 保育実習Ⅱ
7月4日～5日	東京こども専門学校	2人	ボランティア実習
7月22日 ～26日	大宮こども専門学校	Ｉ人	体験実習
7月22日 ～8月2日	東京こども専門学校	Ｉ人	保育実習Ⅱ
2月3日～Ｉ9日	十文字学園女子大学	2人	保育実習ＩＡ

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
7月22日、	新座市立新座中学校	Ｉ人

8月6日、14日		
7月26日、 31日、8月2日	新座市立新座高等学校	1人

7．スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	12日 18名	10日 19名	20日 19名	12日 18名	2日 19名	6日 20名	4日 20名	8日 19名	6日 19名	17日 18名	21日 18名	14日 19名

〈2〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	21日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19 1名
全社員研修	12月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	今年度実施。該当者なし											

〈3〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8．地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

子ども達が自ら関わり、自発的に活動し、様々な体験を積んでいくことを大切にしてきた。餅つきや竹とんぼづくりなどの地域交流行事を積極敵に行っていくことで地域に開かれた園を目指した。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月ｌ回　　公園名：ホタル公園にて
商店街ツアー	週ｌ回　主な行き先：スーパーマーケット（アコレ）、パン屋（バンジロー）、消防署、警察署、郵便局など
世代間交流	ｌ2月27日に園にて餅つきを実施
異年齢交流	8月9日ににて登園園庭で竹とんぼ作りを実施
その他活動	月ｌ回　〈3～5歳児〉　実施
銭湯でお風呂の日	月ｌ回　　公園名：ホタル公園にて

9．小学校との子ども間交流・職員間交流

〈ｌ〉今年度の振り返り

近隣の保育園の園児や小学生との関わりをもてるような行事を開催した。また、近隣の小学校を訪問し、小学１年生に校内を案内してもらい、子ども同士の交流を図ることで小学校進学に期待の持てるような機会を設けた。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
7月8日	新座第四小学校	2名	幼保小連携推進協議会（新座第四小学校）	職員間交流
ｌ月3ｌ日	新座第四小学校	ｌ4名	幼保小交流会（新座第四小学校）	子ども間交流
2月4日	新座第四小学校	2名	入学説明会（新座第四小学校）	職員間交流
2月ｌ2日	新座第四小学校	2名	幼保小連携推進協議会（新座第四小学校）	職員間交流
2月20日	新座第四小学校	2名	授業参観（新座第四小学校）	職員間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

毎月のケース会議にて個別記録から対象児童の様子を共有・振り返り、計画の見直し、課題抽出を行った。また、新座市の巡回相談などを活用し児童を多面的に捉えることで、最適な環境を整えることに努めた。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・4～3月に計12回開催　参加者：48名

対象児童の様子、成長、課題を職員間で共有し、全職員の共通理解の基保育実践をするようにした。個別支援計画については前期・後期に分け年二回の見直しを行っている。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

個別支援計画やケース会議議事録を用いてそれぞれの児童の育ちをクラス間で共有し、次年度へとつなげていく。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2名	2名	2名	6名	4名	0名	5名	6名	5名	0名	2名	2名	41名

<table>
<tr><th>実施項目</th><th colspan="13">詳細</th></tr>
<tr><td>園開放</td><td colspan="13">（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　　来園延べ人数：30名</td></tr>
<tr><td>子育て相談</td><td colspan="13">（月）～（土）13:00～16:30　　⇒計1件相談実施済み</td></tr>
<tr><td rowspan="3">自然食堂
親子ランチ
交流</td><td colspan="13">毎週（水）10:00～12:00　　⇒計24回実施済み
参加者延べ人数</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>3名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>6名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>9名</td></tr>
<tr><td rowspan="3">どろんこ
芸術学校
どろんこ
自然学校</td><td colspan="13">毎週（水）10:00～12:00　　⇒計12回実施済み
参加者延べ人数</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>3名</td><td>4名</td><td>0名</td><td>5名</td><td>0名</td><td>5名</td><td>0名</td><td>2名</td><td>0名</td><td>19名</td></tr>
<tr><td>勝手籠設置</td><td colspan="13">（月）～（土）7:00～20:00　にて実施
門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置</td></tr>
<tr><td>ちきんえっぐだより</td><td colspan="13">毎月1日発行</td></tr>
</table>

青空保育（支援センター主催）	月1回　　公園名：畑中ホタル公園にて　以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	2名	2名	2名	0名	0名	0名	0名	5名	0名	0名	0名	2名	13名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２4年５月３０日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始予定時刻：１０時００分
自己評価終了予定時刻：１２時００分
自己評価実施予定者：横田修太朗、千代田春花

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月２５日
アンケート回収率：100%

園内会議にてアンケート結果をもとに、改善できるところ はすぐに着手した。
見えてきた課題に全職員で向かい合い、より良い園を目指していく。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見　　０件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）　０件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年3月１５日　　作成者：新座どろんこ保育園 施設長　新居一枝

２０２４年度　仲町どろんこ保育園　事業報告書
（保育所における自己評価）

Ⅰ．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

今年度の基本方針は「未曽有の社会の中で、逞しく生き抜いていく子どもたちの育成に関わる集団として、子どもたちに必要だと感じたものは惜しみなく実現すること」とした。そして子どもの人権が守られ、大人が主体性を以て考え、学び、動く、自立した集団となるべく、日々取り組んだ。翌年に持ち越す課題もあったが、どろんこ会が大切にしている「子どもが大人になる為に必要なものは何か」を追い求めることは、子どもの人権や主体性を尊重しながら、日々の振り返りを重要視しつつ、進めることができた。

また「利用者アンケート」を活用しながら保護者に園運営の当事者意識を持っていただくことで、子どもを真ん中にした「共育て」をより一層実現できたと感じる。そしてそれが職員育成へも結び付けることができた。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

	計画・ねらい	子どもも大人も「逞しく生き抜く力」＝にんげん力を育む
	実践結果	日課・基本保育活動の徹底と戸外活動時間の確実な確保については、なぜ戸外活動時間を確保するかを明確にし、さくらさくらんぼリズム・雑巾がけ・座禅を実施した上での９時散歩出発が実施できた。戸外では子どもの主体性を尊重し、多くの体験を含む保育を実践した。
	次年度方向性	「子ども自身が明日行きたい公園を決める」ことができたことが年度後半であった為、もう少し早い時期から実施できるよう進めたい。
2	計画・ねらい	乳・幼児混合の異年齢保育を当たり前に実施
	実践結果	子どもの動線を配慮しながら、乳・幼児混合保育の仕組みを考慮し実施したが、当たり前に実施できたとは言い難い。
	次年度方向性	弾力化した定員の中で、子どもの怪我へのリスクマネジメントを考慮した動線を確保しながら、当たり前に実施できる仕組みを熟考する。
3	計画・ねらい	食の循環・SDGs を考慮した保育の実践をし、子どもの環境への意識を育む。
	実践結果	畑活動を活発に実施した。また「命を頂く活動」を初めて実施した。これらを通じ「SDGs」「食の循環」を配慮した子どもへの環境に対する意識付けの育成は概ね実施できた。
	次年度方向性	調理職員が安定的に配置できたことで、より保育に積極的に関わり、当法人の理念・方針に則った食育活動の実践をする。
4	計画・ねらい	小学校１年生を知り、そこから遡った保育活動の実施。
	実践結果	計画が比較的早期からの実施であったが、職員体制や子どもの発達を見ながら実施したことで実施時期が後半になった為、未達成であったものもあった。

	次年度方向性	計画を性急せず作成したい。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	お迎え対応の質向上
	実践結果	前年度の利用者アンケートに寄せられたご意見を踏まえ、積極的に指導を行い、保育の質を向上させました。その結果、職員からより良い提案が行われ、それに対応することで、保育の質が大きく向上しました。
	次年度方向性	職員からの提案が継続的に寄せられるよう、風通しの良い職場環境の整備に努め、今後も継続的に保育の質向上を目指します
2	計画・ねらい	積極的に個別面談、支援を行う
	実践結果	乳児を含む全クラスの希望者を対象に個別面談を実施し、保護者の困り事を園として認識することができました。
	次年度方向性	実施時期が年明け１～３月に立て込んでしまった為、保護者の業務繁忙期を考慮しながら年間を通して平均的に実施していきたい。
3	計画・ねらい	保育参加への呼びかけ
	実践結果	毎月定期的な呼びかけや、保護者懇談会時のお声掛けをすることが昨年度よりより多くの保育参加が実施できた。
	次年度方向性	次年度も継続的に実施できるよう働きかけ、「共育て」がより一層できるよう進めたい。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	ちきんえっぐ行事の充実
	実践結果	計画は出来ていたが、園内の保育運営の安定化を優先した結果、積極的に出来たとは言い難い。
	次年度方向性	近隣園や地域の商店等と連携しながら、積極的な実施に向けて進めたい。
2	計画・ねらい	地域保護者への関わり
	実践結果	ヤギや鶏を見学に来られた保護者に積極的に関わることで、園庭解放の利用者は絶えなかった。
	次年度方向性	次年度も積極的に関わり、「子育ては楽しい」と思って頂ける一助となっていきたい。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	職員同士でスキル向上を目指して
	実践結果	職員のファシリテーション力向上を目的として、園会議時の研修計画を策定しました。 その結果、年度前半は計画どおり実施できたもの、職員制度の変更などの影響より実施には至りませんでした。しかし、園会議において実際にファシリテーションを行うことで、一定の育成効果があったと言

		えます。 また、通常の業務時間中も若年職員が積極的に発言できる環境が整っていたため、急な場面でもファシリテーションの役割を十分に全うする能力は備わっていると感じる。
	次年度方向性	より能力を高める為にも継続的な課題としたい。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	遊びの行き先は前日に自分で決める。若しくは自分で選択する
	実践結果	前日のうちに子どもに決めて貰いそれを保護者へも共有することで、子どもは明日の園生活に見通しを持ち、登園を楽しみにする姿が見られた。
	次年度方向性	実施時期が年後半になった為、もう少し早期からの実施時期でありたい。
2	計画・ねらい	生活や遊びを通して協同性を育成する
	実践結果	遊びや生活は楽しいことばかりではなく、大変だがやらねばならないこともあることを継続的に伝えたことで、遊びや生活の準備・片付けを自主的に最後までやりきる姿が見られた。
	次年度方向性	継続的に実施していきたい。
3	計画・ねらい	火・水・土を積極的に使用し、五感を使った活動の実施
	実践結果	火（焚火・クッキング）、水・土（どろんこ遊び）を積極的に行い、集中力や危険察知能力等を養うことができた。川遊びは熱中症警戒の為、実施できなかった。
	次年度方向性	次年度も継続的に実施していきたい。川遊びに関しては、時期を考慮した上で実施したい。

〈6〉リスクマネジメントの徹底

1	計画・ねらい	主体性保育の充実のために、安全・安心を前提とする。
	実践結果	「共有」を基本とし、怪我や事故、インシデント、ヒヤリハットの振り返りやケース会議を実施しました。また、他園の重要案件についても速やかに園内で共有し、保育者として必要なリスクヘッジを常に意識しながら、より安全で質の高い保育を提供できるよう努めた。
	次年度方向性	継続して実施していく。
2	計画・ねらい	清掃・美観の徹底
	実践結果	リスクを減らす為に常に整理整頓に努めた。第三者の目線を持ち、選ばれ続ける園となる為に常に美観を保てるよう、特に園内の手作り備品の断捨離を実施した。
	次年度方向性	次年度も継続して実施していく。

〈7〉利用者アンケートの内容質向上

1	計画・ねらい	「ご利用中の保育園を他の人に勧めたいですか」項目で前年度比 NPS5%向上を目指す。
	実践結果	前年度の利用者アンケート内容の分析・改善に向けた行動を実施した結果、回収率100%、NPS は15%向上と大きく飛躍した。
	次年度方向性	継続して実施し、NPS60%に向けて進めたい。
2	計画・ねらい	求められる改善意見について真摯に対応する。
	実践結果	改善に向けた行動と、保護者へ内容を開示することでお互いが歩み寄る環境づくりに努めた。
	次年度方向性	次年度も実施することで保護者に園運営の当事者意識を持っていただき、一緒に改善する気運を高めていきたい。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半：4~9月	6人	12人	18人	24人	24人	24人	108人
年度後半：10~3月	6人	12人	18人	24人	24人	24人	108人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	368人	396人	391人	473人	371人	361人	448人	392人	386人	371人	342人	380人	4679人
うち0歳児	1人	15人	18人	18人	15人	8人	17人	17人	19人	22人	25人	25人	200人

（解説）18時以降の利用人数とする。

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−

うち0歳児	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－

（解説）弾力化により定員を多く受け入れているため、一時保育利用の受け入れ無し。

〈2〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

常勤スタッフ	保育士	14人	看護師	0人	栄養士	2人	調理員等	1人
	事務	1人						
パートスタッフ	保育士	0人	補助	4人	用務	1人		

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・今月の振り返りと来月へ向けての議事内容決定
給食運営会議	月1回	・現状の確認と今後に向けての取り組みの進め方
事故防止委員会	月1回	・今月のヒヤリハット・インシデント内容の確認 ・課題解決のむけての話し合い
ケース会議	月1回	・要支援児について情報共有、対応検討
リーダー会議	月1回	・園内の保育状況の共有 ・園内保育の質向上に向けての仕組みづくりと課題解決に対する話し合い
乳児・幼児会議	隔週1回	各フロア別の詳細な打ち合わせ

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
食育会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長
主任会議	年4回	主任
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	子ども、職員の健康管理、園舎設備の衛生維持の確実な実施
安全対策係	ハザードマップの管理、設備点検及び事故防止
防火管理者	避難訓練、不審者訓練等の計画実施、自主点検等の管理
食品衛生管理係	食の安全に関する管理及び維持
畑係	畑の年間計画の遂行と管理維持等
生き物係	ヤギ・ニワトリをはじめとする飼育物全般の管理、維持

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	園主体としながらも、保護者ボランティアとも連携し準備運営を行った。連携が取れ、スムーズな開催となった。
彩夏祭	保護者が主体として準備運営を行い、園スタッフは有志として参加した。昨年に続き入賞した。

4. 保育支援

〈1〉保育･保育参加･保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	・日課（座禅・雑巾がけ・さくらさくらんぼ運動・散歩9時出発）を励行し、乳幼児の健全な心身の育成に努めた ・子どもに翌日の園生活の見通しを持つことで、登園を楽しむ姿づくりに努めた ・「畑活動」「命を頂く活動」を通して様々な導入活動をすることで、「苦手な野菜を食べることができる成功体験」が得られ、「鶏を締める」ことへの子ども・保護者の理解を得て、「食の循環」が実施できた ・「丁寧な保育」を心掛け、特に2歳児の幼児室移行時では子どもだけでなく保護者へも丁寧に関わることで、スムーズな移行となった。
保育参加	4～3月まで　合計42名　が参加済み　　（3月31日時点） ・子どもの園での様子が知れてよかった　の声多数
保護者面談および発達相談	4～3月まで　合計　　名が参加済み　　（3月31日時点） 発達相談についてはつむぎふじみ野ルームの職員による保育所等訪問支援の連携が加わることで、職員の子どもへの関わり方が一層深まった

〈2〉計画した年間行事の振返り

・別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	子どもの「食べたい」意欲を育てる環境
	実践結果	「楽しく食べる」をモットーに自分で食べたい分をよそい、自分で席を決める、を大事とした。
	次年度方向性	引き続き、継続したいが5歳児は再考したい。
2	計画・ねらい	食材の流通経路や加工方法を知り、興味関心を高めていく。
	実践結果	三色ボードに加え、食材に対してより興味関心を高めた。 また「命を頂く活動」を通して、「食の循環」を伝えることができた。
	次年度方向性	「命を頂く活動」の対象年齢を今年度は4・5歳児のみとしたが、次年度は再考したい。
3	計画・ねらい	給食の下処理や調理に積極的に関わりを持つ。
	実践結果	朝の活動時に野菜の下処理を積極的に行った。 また「給食作り」「焼き芋」等の食育活動を通して、調理にも積極的に関わった。
	次年度方向性	畑の作物が不出来でなかなか食育に繋げることができなかった。この点を課題としたい。

4	計画・ねらい	保護者×食育支援
	実践結果	食育体験と保育参加のタイミングが合った保護者へは積極的に参加いただいた。また「命を頂く活動」にも保護者が一緒に参加し、子どもと一緒に命を頂く意味を考えた。
	次年度方向性	食育活動があった際には園より積極的に保護者への参加を呼び掛ける。
5	計画・ねらい	火×食材
	実践結果	「焚火」を定期的に実施し、「サツマイモ」「シイタケ」等を焼いて、匂いや形、味の観察を行った。
	次年度方向性	次年度も積極的に実施していきたい。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月19日／11月13日に実施
歯科検診	6月12・17日に当園にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 7月22日に当園にて熱中症について伝える ② 8月28日に当園にて「プライベートゾーンを大切にすること」を伝える。 ③ 9月30日に当園にて手洗い指導を実施 ④11月25日に当園にて「うんちの重要性」を伝える ④12月13日に当園にて5歳児を対象に性教育を実施
流行した感染症	11月にインフルエンザA、園児12名感染報告有り。11月26日に終息。
発作・痙攣等の対応	計1名に対し、計3回ダイアップ使用
エピペン使用できるスタッフの状況	・8月30日に当園にてエピペンのロールプレイを実施。スタッフ14名が参加。 ・本日時点で、在籍スタッフ23名のうち、23名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	・6月21日に当園にてプール事故防止訓練の際に AED の使い方をレクチャーする。 ・7月13日に朝霞消防署の指導の下、救命救急講習を実施。スタッフ8名参加

	・本日時点で、在籍スタッフ23名のうち、14名が使用可能
その他保健に関する取組	・7月13日　保護者向けに救命救急講習を開催。3名の保護者が参加。 ・11月22日　嘔吐処理の方法について、園会議にてロールプレイを実施。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（法定1回/3年）	業者による対象物の法定点検 2023年実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月 ⇒4月3日、10月3日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日　実施済み
	児童健康診断	内科健診　各年2回／6月19日、11月13日 歯科健診　各年1回／6月12・17日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時 ⇒4月26日、10月25日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間　実施済み

	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	子どもたちが自ら遊びを作り出せるような環境作りを行う
	実践結果	子どもが自ら棚やブロック等の可動を保育者に提案することを最終ゴールとしたかったが、職員配置の変更等もあり未達成であった。
	次年度方向性	そのような力が備わるよう、育成に向けて努力したい。
2	計画・ねらい	衛生・安全管理について
	実践結果	子どもが安心、安全に過ごすことが出来るよう、遊具や建具の点検や清掃消毒を定期的に行った。
	次年度方向性	インフルエンザや嘔吐下痢等、流行しやすい感染症の発生時には積極的に衛生管理に努める。
3	計画・ねらい	園舎の環境美化
	実践結果	早番、遅番、日曜・祝日の環境整備係で園舎内外の清掃点検を積極的に行った。 施設長、主任、園事務が率先し朝の清掃等も行い、園舎の美観を意識した取り組みを行った。
	次年度方向性	継続して実施する。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	パーテーション	乳児室内	毎日	異常なし
2	幼児テーブル	保育室内	毎日	異常なし
3	活動選択ボード	縁側	毎日	異常なし
4	お店屋さんごっこ台	乳児室	毎日	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	光化学スモッグ実践結果	朝霞市の情報をすばやく園内外の職員へ共有し、時に園外で活動している職員についてはマニュアルに基づいた対応を指示した。また、園内についても窓を閉め、子ども達の健康状況について留意した。
2	安全対策係実践結果	係を当番制にし、避難訓練や不審者訓練等を行い、日頃から防犯に対する意識を高め、有事の際にスムーズに対応できるよう職員へ言葉掛けしていった。

3	水辺のリスクマネジメントネジメント実践結果	川遊びやプール遊びの際の事故防止についての研修を行った。またプール活動時期前には事故が起きた際のシミュレーションを行い、全職員が迅速に対応できるよう対策を行った。
4	応急救命実践結果	消防署による救命救急研修を実施し、積極的に参加した。また保護者へもアナウンスし、数名の保護者が乳幼児期の命を守る研修を一緒に学んだ。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

実習依頼があった学校からは積極的に受け入れを行い、実習生に寄り添った指導を心掛けた。近隣の中学校から依頼があった際も受け入れ、教員と連携しながら安心して体験学習を行えるよう配慮した。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
9月10～27日	淑徳大学	1名	保育実習Ⅱ
2月3日～19日	十文字学園女子大学	1名	保育実習ＩＡ

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
2月5～7日	朝霞市立朝霞第四中学校	5名

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	26日 22名	31日 23名	21日 21名	26日 21名	30日 22名	27日 23名	25日 23名	22日 22名	20日 23名	20日 23名	20日 23名	20日 23名
虐待防止研修	26日 22名						25日 23名					

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
2月14日	朝霞市幼児教育振興協議会	幼・保・小合同研修会幼稚園見学会	1名	有

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	21日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	12月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

コロナ禍明けだからこそ、感染症に配慮しながら地域との繋がりを絶やさずに交流を行った。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：あけぼの公園にて　　参加延べ人数：2名
商店街ツアー	週1回　主な行き先：朝霞市図書館、朝霞駅前交番、朝霞市役所、朝霞郵便局、和光車両基地、和光消防署、東武ストア、サーティワンアイスクリーム、うちで花園、青山フラワーマーケット、富久屋、セブンイレブン、サンレモン、アコレ、セイムス、コージーコーナー、ガソリンスタンド、美容室 LUCIA、丸亀製麺所、林製麺所等

世代間交流	毎月1回、あけぼの公園にて高齢者とラジオ体操を実施 3月4日、高齢者約10名が来園し、伝承遊びを通じ5歳児と交流した
異年齢交流	朝霞市立第4中学校の生徒5名が体験学習に来園した際に、中学生から提案された遊びを通じて交流した
その他活動	8月24日に当園にてどろんこ祭りを実施
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉　実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

スムーズな小学校接続に向けて、近隣の小学校の協力を得ながら「職員間交流」「子ども間交流」を進めるよう努めた。アプローチカリキュラムを作成し、小学校1年生に向けた逆算の保育を実施する為に必要な活動を推進した。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
11月22日	朝霞市立第五小学校 2年4組	1名	授業参観・合同研修会	生活科研修会と職員間交流
2月6日	朝霞市立朝霞第四小学校 1年生	24名	学校見学（第四小校内）	子ども間交流
2月14日	朝霞市立宮戸保育園	1名	保育園見学会（宮戸保育園内）	保育園（生活）見学と幼保小職員間の情報交換

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

個別支援計画を立案し、具体的な対応を職員全員で共有した。また保護者との面談を重視し、子どもの成長発達を園と保護者が同じ視点で見られるよう配慮した。

すべての子どもと丁寧に関わり、安心して園生活を送ることができるよう援助していくことを大前提とした。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・４～３月に計12回開催　参加者：6名
配慮が必要な児についての共有や関わりについて職員間で話し合いを行った。
職員間での共有を丁寧に行っていくことで、職員全員が同じ視点で保育が行えるように実施した。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

園児の姿、状況においては朝霞市幼保小連携会始め他市の小学校の教諭へ引継ぎを実施した。
必要と感じられる場合は保護者に就学相談を進め、それぞれの小学校へ安心して通えるよう支援した。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
42名	43名	58名	86名	172名	80名	72名	65名	99名	52名	40名	40名	831名

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　にて実施
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週（水）10:00～12:00　⇒計3回実施済み 参加者延べ人数　8名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週（水）10:00～12:00　⇒計3回実施済み 参加者延べ人数　8名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00　にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置
ちきんえっぐだより	毎月1日配信
青空保育 （支援センター主催）	月1回　公園名：あけぼの公園にて 参加者延べ人数　2名

自然食堂 親子ランチ 交流

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	6名	2名	0名	8名

どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	0名	0名	0名	0名	2名	4名	0名	0名	2名	0名	0名	8名

青空保育（支援センター主催）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	2名	0名	0名	2名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２５年1月24日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：13時00分
自己評価終了時刻：15時00分
自己評価実施者：西村貴子、二階堂綸、鈴木典子、鈴木優花

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月２５日
アンケート回収率：100%

内部監査においては、前年度に指摘項目数が多かった「帳票類」に着目し、ミスを起こさない仕組みづくりを実施した結果、前年度より指摘項目数が減少した。
利用者アンケートについては、今年度の組織目標の1つに「NPS 向上」を掲げた結果、回収率100%、NPS が15ポイント上昇する内容となった。要因は前年度のアンケート結果を分析し、ご意見の多かった項目についてスピードを持って対応する共に、保護者会時に保護者へ結果内容と対応策、そして園の考えを共有したことで、園と保護者間の歩み寄りが深まったと考える。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見　0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む）　0件

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：仲町どろんこ保育園 施設長　西村貴子

２０２４年度　新羽どろんこ保育園　事業報告書
（保育所における自己評価）

１．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

① 法人理念『にんげん力、育てます』を基に、生涯にわたる『生きる力』を培い、『次の時代を生き抜く子』を育てる
② 併設するつむぎ新羽ルームと共に全ての子どもが混ざり合い、自由に行き来する子どもを真ん中にしたインクルーシブ保育を実践する。
③ 新羽どろんこ保育園・つむぎ新羽ルーム2024年度目標
『　主体的・意欲的に行動できる子ども～育ち合いを大切に～』

基本方針に則り、以下に重点を置きながら養護と教育を一体的に進めた。
・『にんげん力』を身に付けるために、遊びや野外体験、基本活動を通して経験を重ね、自分で考え行動する力を育んだ。
・子どもが自発的・意欲的に関わることのできる環境を構成し、主体的な活動や子ども相互の関わり合いを尊重した。
・自分のしたいことを満足するまでやり、思いを表出し、それを受け止めてもらうことのできる環境を構成し、一人一人が安心して生活できる場となるよう努めた。
・子育てに関わる全てのスタッフは、子ども一人ひとりを尊重し、命を守り、情緒が安定した中で、乳幼児期にふさわしい経験が積み重ねられていくよう、その育ちを保証した。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

１	計画・ねらい	生活力の体得
	実践結果	自分で考え、行動する力を育む為に、生活力と危険なものとの距離の取り方を大人が背中を見せ教えたり、子どもが体験をする中で経験から身に付けたりできるようしていていった。
	次年度方向性	子どもが自分で考え、行動する力を育む為に経験を通して学ぶことを大切に考える。その為に、実体験のできる場の提供とそこに関わるスタッフが経験を通してどんな力を育んで欲しいのか、ねらいを明確にねらいに合わせた環境構成を行う。
２	計画・ねらい	生活や遊びの中で、保育の連続性を保証する
	実践結果	・子どもの発達を理解し、興味関心合わせたねらいのある保育計画の立案を行ったが、発達理解はスタッフにより差があり、園として学びを深める必要性を感じる。 ・子どもの姿を継続して記録し、振り返りながら長期的な見通しを持ち保育の連続性が保たれるよう努めた。
	次年度方向性	・目の前の子どもを見てその場に合わせた対応をするのではなく、発達理解を深め、前後の姿がどのように繋がっているのかを知る。その中で必要な対応を考え、子どもが葛藤したり考えたりしながら自分で気持ちに折り

		合いをつけることや周囲と調整する力を身に付けていかれるよう、必要な関わりができるよう発達、子どもの心の育ちを学んでいく。 ・子どもの姿の記録は通年を通し、同じスタッフが行うのではなく、複数担任の良さを活かし、多方面から子どもの姿を見ることで、保育の連続氏はもちろんその子にとっての最善を考えるようしていく。
3	計画・ねらい	10の姿の体得
	実践結果	保育所保育指針に則り、生涯にわたる生きる力の基礎を培うため、資質・能力『①知識及び技能②思考力・判断力・表現力③学びに向かう力・人間性』を一体的に育むよう、園会議内で子どもの姿の共有をし、学びを深めた。
	次年度方向性	年間を通して10の姿を学ぶことで、日々の保育の中ではアクションプランを立て実践することや子どもの姿の変化や気づきが増えた。保育計画に落としむことで子どもにどんな姿を育てたいのかねらいや現状に対する物的人的環境の改善策が上がるようになり、保育所保育指針への理解を深められてきた為、次年度も継続して学ぶことでより一人ひとりのスタッフへの落とし込みをねらう。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	整理整頓の行き届いた環境
	実践結果	・いつ誰がみても、いつ誰が訪問しても気持ちがいいと感じる、整理整頓と清掃が行き届いた必要な物しかない環境を作る為に、アクションプランを立て全スタッフが意識しながら環境を保てるように意識をした。行事前など乱雑になりやすい時期もあり、引き続き意識をしていく。
	次年度方向性	意識の継続が課題となる為、次年度は各クラスでの担当を明確にし、一人ひとりのスタッフが自分事として美観を意識できるようしていく。
2	計画・ねらい	園生活の様子や子ども間の関わりの見える化
	実践結果	・連絡帳やタイムラインに加えドキュメンテーションを用い、連続的な子どもの姿や異年齢、インクルーシブな関わり合いの様子等園生活の様子を掲示し、継続した保育の見える化を行った。保育者は言葉だけでなく写真から情景が思い浮かび、様子が伝わるよう子どもの姿の捉え方や見抜く力を養っていくよう努めた。 ・保育参加の呼びかけを積極的に行い、園でのお子様の様子や子ども同士の関わり、異年齢。インクルーシブでの生活を実際に見たり体験したりすることで、理解を深めてもらうきっかけとなった。
	次年度方向性	ドキュメンテーションはクラス毎の差や行事が中心になってしまい、偏りが大きかったのが反省となる。タイムラインを時系列にしたり、ドキュメンテーションのフォーマットを作ったりし、スタッフの業務軽減を考慮しながら保育の見える化を進める為改善していく。
3	計画・ねらい	保護者の立場になった丁寧な対応と共育て

	実践結果	・登園時の受け入れや降園時のお迎え対応では、子ども・保育者と目線を合わせて話をし、家庭での様子、園での一日の様子の伝達を丁寧に行うことを心掛けた。お迎え対応では、その子の姿をお伝えし、保護者の心に寄り添い、保護者も安心できる関係作りを継続して行ったが、お迎えが重なる時間は丁寧な対応ができなかったり、エピソードを交えた話まではできなかったりと次年度への課題として残る。
	次年度方向性	引き続き丁寧な対応を心掛けながら、スタッフの接遇への意識を高める為の研修を実施する。全スタッフが相手の立場になって考えることができることを目標とし進めていく。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域の親子の憩いの場となる地域に根付く保育園
	実践結果	園庭開放や青空保育では集団遊びや伝承遊びを取り入れ、園児との交流を深めたり、園生活の様子や保育の中での取り組みを伝えたりする場となるよう努めた。又、来園時に活動内容や支援に対する意見を聞き、利用者のニーズに合わせた子育て支援に繋がるようしていった。
	次年度方向性	園庭開放、自然食堂への参加は通年を通して多くあった。反面、自然学校や芸術学校など、園児と交流しながら行う支援への参加は伸び悩んだ。園庭開放への来園でも散歩先へ案内したり、日々の保育内で活動を伝えたりするなど、園の活動としても大切にしている自然との関わりや表現活動への参加を増やしていく。
2	計画・ねらい	実体験のできる場の提供
	実践結果	・園庭の畑を利用して、苗の植え付け（種まき）、栽培、収穫、加工を年間で体験できるよう計画を行うが、継続した利用には繋がらず次年度どのように取り込んでいくか課題が残る。 ・園庭開放やちきんえっぐ参加者の来訪時には、やぎに触れたり世話をしたりし、生き物を身近に感じる体験ができたが、堆肥作りは園の活動としても十分に行えず、次年度に向けスタッフが必要なこととして考え、子どもとどのように行っていくかの見直しをしている。次年度は園活動で行うことで土台を作り子育て支援としても取り込んでいく。
	次年度方向性	畑仕事は園内でも課題が残るものであったが、畑カレンダーを作成したりちきんえっぐだよりには経過を追えるよう写真を繋がりがあるものを選定したりし、見通しを持ち参加できるような仕組みづくりを行う。
3	計画・ねらい	子どもの育ちや日々の不安などを気軽に話せる育児相談、子育て支援の場となる
	実践結果	・ちきんえっぐだよりや園だよりの掲示場所を増やしたり、散歩先の公園で配布したり、新羽駅や港北区の子育て支援事業と連携したりしながら、園での取り組みを知ってもらう機会を増やした。 ・併設するつむぎ新羽ルームと連携し、専門家による発達支援相談会を行うが参加には繋がらず、次年度は内容の見直しや広報の仕方を工夫していく。栄養士による離乳食相談会、子育て経験者による子育て相談会は、開

		催までに至らなかったが、法人専門士による離乳食講座は開催、参加も多く園としての支援の幅を広げていく。
	次年度方向性	次年度は子育て支援の一環として、併設するつむぎ新羽ルームの専門士による子育て支援講座や園とつむぎ双方が必要な支援を行えるよう、求められるニーズに合わせた相互支援を計画している。子育て相談会を名打ち、気軽に相談ができる機会を増やしながらニーズを把握し、保護者支援へとつなげていく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	考え、学び、動く、自立した集団になる
	実践結果	大人も主体性を持つために、保育や園運営の中で、すべきことを明確にし、自分で考えて行動する為に園としての目標、各スタッフの課題と目標を明確にし、取り組む仕組みづくりをした。
	次年度方向性	他者任せや他人事として物事を考え、捉える様子が特定数見られる。併設園に勤務するスタッフとしての意識を改め、自分ができることを探し行動に移すことを次年度も全体の課題として取り組んでいく。
2	計画・ねらい	子どもが自ら選び取ることができる環境の設定
	実践結果	子どもの姿から興味関心を知り、発達に合わせたねらいを持った環境を作るよう努めた。又、子どもの姿に合わせ変化し続ける環境となるよう、クラスやフロア、保育園とつむぎ等、話し合いを定期的に行い環境の見直しを適宜行っている。
	次年度方向性	室内外共にねらいを持ち環境を構成することを進めてきた。反面、室内は環境が維持されず必要なものが揃っていない状態となることもあった。好きな場所で好きな物を選び満足するまで遊び込む、自由に表現できることを意識し、時間を決め必要なものが揃った環境を整える。時期を決め姿に合った環境を見直すことをしていく。
3	計画・ねらい	チーム保育の充実化
	実践結果	保育園、つむぎ、業種に捉われず、一人ひとりの意見や思いが受け止められ、子どもを真ん中にした話し合いができるよう、併設園に通う全ての子どもたちを全ての大人でみるという意識に繋がる土台作りをした。各会議内でインクルーシブ保育を学んだり子ども同士を繋げる為に、大人がどのように関わるかを話しあったりする中で、スタッフの意識には大幅な変化が見られた。
	次年度方向性	次年度も継続して学びを深め、話し合いを重ねる中で最善を考え進んでいく。併設園として全スタッフの意見や思いが受け止められる場であり、全ての子どもたちを全スタッフで見る為に、他者を認め思いやる気持ち継続して持てるようしていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	自然の恵みとして食材や食の循環教育
	実践結果	・畑を耕す、種を植える、生長を見守り世話をする、収穫する、加工する、食べるまでを子ども自身が経験することで食の循環を知ることができるよう取り組んだ。反面、近隣の畑は天候により毎日畑仕事ができないこともあった。
	次年度方向性	次年度は園の畑の使い方を再考し併用しながら子どもが経験として行える、感じられることを増やしていく。
2	計画・ねらい	残菜のリサイクルややぎの糞の堆肥化をし、畑に還元する
	実践結果	・調理過程での廃棄食材は堆肥化を行ったが、やぎの糞を堆肥化することまでには至らず、次年度の課題となる。 ・給食残差の統計と食への興味への繋げ方について検討した。子どもと共に食の循環を考えたり、子どもが気づくきっかけになったりするよう、調理保育や給食時の配膳の工夫を行った。
	次年度方向性	調理過程での廃棄食材ややぎの糞の堆肥化を行う。その為に、肥化する為の仕組みを調べることや日々のやぎ小屋掃除を含む堆肥化の為に必要な準備を子どもと行い、食の循環教育へ繋げる。
3	計画・ねらい	原体験を通して学ぶ
	実践結果	・四季折々の自然に触れ過ごす中で、自然の美しさ・大きさ・不思議さを直接体験したり、自然との関わりを深められたりできるようした。又、身近な動植物に親しみを持って接し、生命の大切さに気付き、労わったり、大切にしたりしようとする気持ちを育めるよう日々の活動の中ではねらいに合わせた散歩先を選ぶようにした。
	次年度方向性	自然に触れ、関わる中でその美しさや不思議さ、面白さを感じ、心が動かされる経験ができるよう9時に散歩に出発し、戸外で過ごす時間を保証する。又、身近な生き物に触れる中で生命の大切さに気付き、労わったり大切にしたりしようとする気持ちを育めるよう、ねらいに合わせた散歩先を選び、労働として畑仕事と生き物の世話を実施する。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半：4~9月	36人	84人	96人	108人	108人	107人	539人

年度後半：10~3月	36人	84人	96人	108人	108人	108人	540人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	64人	71人	68人	60人	57人	89人	108人	96人	91人	76人	90人	90人	960人
うち0歳児	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人

（解説）2～3月は見込みで入力

〈2〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

常勤スタッフ	保育士	１３人	看護師	１人	栄養士	１人	調理員等	１人
	用務	１人						
パートスタッフ	保育士	６人	調理	１人	事務	１人	用務	１人
	嘱託医	１人						

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	コンピテンシー、子育ての質を上げる会議含む諸会議での学びの共有、園内研修、子どもの姿の共有、保育討議、行事について
給食運営会議	月1回	献立の振り返り、給食残渣の現状と残渣削減の為のアクションプランの立案と振り返り、食育活動の立案・検討他

事故防止委員会	月ｌ回	ヒヤリハット・インシデント・事故記録簿から傾向分析と対策の共有。子どもの姿に合わせた園内外のハザードの確認と配慮点の共有。
ケース会議	月ｌ回	気になる子・配慮を要する子の状況と関わり方について
クラス会議・フロア会議	随時	子どもの興味に合わせた活動の選定と安全に配慮した職員配置、環境構成の見直し。
リーダー会議（園・つむぎ）	随時	課題及びスタッフ連携の状況確認
各行事会議	適宜	各行事の計画、立案、進行、振り返りとまとめ

〈２〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月ｌ回	施設長
施設長勉強会	月ｌ回	施設長
食育会議	年4回（5.8.ll.2月）	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回（5.8.ll.2月）	施設長
主任会議	年4回	主任
子育ての質を上げる会議	月ｌ回	リーダー保育士
併設園会議	年2回	施設長

〈３〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	園内清掃、衛生管理、感染症予防対策、備品管理、子ども・スタッフそれぞれを対象とした保健衛生指導
安全対策係	避難訓練、不審者侵入訓練の計画と安全に関わる情報掲示、園内外のハザードマップの作成・更新と共有
防火管理者	消防計画を作成し、これに基づく消火・通報訓練及び避難訓練の定期実施と振り返り
食品衛生責任者	年間食育計画の作成とこれに添った食育活動の実施、食育会議への参

	加、給食運営会議計画や実施、食品の安全管理
畑係	年間畑、食育計画の主導と管理（子どもと行う作業計画）畑の管理
生き物係	飼育全般に関する管理

〈４〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	どろんこサポーターズの活性化の推進、計画、立案、取りまとめ、進行他
地域支援係	子育て支援事業、区内他園と連携して地域子育て支援ニーズに応じた支援を行う
幼保こ小連携係	幼保こ小接続研修・小学校交流の取りまとめ、連携・接続の計画立案と振り返り

4. 保育支援

〈１〉保育･保育参加･保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	・園生活について ・園での友だち関係について ・発達について ・就学に向けて
保育参加	4～3月まで　合計ｌｌ名　が参加済み　（3月ｌ日時点）
保護者面談および発達相談	4～3月まで　合計26名　が参加済み　　（3月ｌ日時点）

〈２〉計画した年間行事の振返り

・別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	どろんこ会の3大食育方針
	実践結果	『調理員・保育士・施設長は子どもと一緒に食べる』『噛む力を育て、素材を味わえる状態で提供』『子どもが自分で盛り付け・配膳して食べる』を実践した。又、子どもが自分で盛り付けをすることで、食に興味を持ったり、食べる量を決めたりすることができるよう、人的環境としてスタッフが子どもの思いを汲み関わりが持てるよう意識をした。
	次年度方向性	好きな場所で好きな人と好きな物を食べる。次年度も給食の時間が楽しいものであり、その中で盛り付けを通して食に興味を持てるようしていく。
2	計画・ねらい	育てる、収穫する、調理、加工する体験を通して、食や食材に興味を持ち、食の循環を知る
	実践結果	・自分で育て、収穫し、調理、加工することが一連の体験となるよう年間で畑・食育計画を行うことを目的としたが、作物の生長により十分な活動が行えなかった。
	次年度方向性	畑活動は年間で取り組んだものの、園庭の畑と近隣で借用している畑の費用が難しく、生長の過程を十分の追うことができなかった。次年度は園庭の畑やプランターを利用し、借用している畑と同じものを育てながら常に生長を追ったり、作物への興味が継続していったりするよう使い方を見直していく。
3	計画・ねらい	食の循環、環境への意識を身につける
	実践結果	残渣については食事や調理保育の際に子どもたちに話をし、食材を無駄にしないことを理解する様子が見られた。廃棄食材をコンポストに入れ再利用したり、ヤギの糞をたい肥にする為の取り組みも行ったが、大人が主体になってしまい、子どもが興味を持ったり、労働の一環として行うまでには至らず課題が残る。
	次年度方向性	・調理過程での廃棄食材ややぎの糞の堆肥化を行う為。その為に、肥化する為の仕組みを調べることや日々のやぎ小屋掃除を含む堆肥化の為に必要な準備を子どもと行い、食の循環教育へ繋げる。 ・給食残差の統計と食への興味への繋げ方の検討し、食育活動の在り方や日々の保育、調理の工程の中での工夫を検討。又、子どもと共に食の循環について考える機会を持つ。

〈4〉保健に関する実施結果

園児健康診断	6月6日／11月7日に実施
歯科検診	6月17日／11月18日に新羽どろんこ保育園にて実施
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回

スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	手洗い・うがいの徹底、歯磨き指導・水分補給や休息の大切さについての話、衣服調整の仕方、年長児性教育
流行した感染症	① ７月に手足口病、園児２４名・スタッフ１名蔓延し、横浜市へ報告
エピペン使用できるスタッフ	・3月に自園にてエピペン使用研修を三部、桶本、吉田計３名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ２７名のうち、２6名が使用可能
その他保健に関する取組	・登園時の検温と、０歳児は午睡明けの検温を行った。又、登園の視診を丁寧に行い、健康状態の把握と管理に努めた。 ・新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底して実施した。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（法定1回/3年）	業者による対象物の法定点検 2023年実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月 ⇒4月19日、10月18日に実施済み

	身長体重測定	毎月1回／20日　実施済み
	児童健康診断	内科健診　各年２回／6月6日、11月17日 歯科健診　各年２回／6月17日、11月18日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時 ⇒4月19日、10月18日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間　実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	全ての子どもが混ざり合い、育ちあう一つの大きな家
	実践結果	・全ての子どもが自由に行き来をし、好きな場所で好きな遊びを楽しみ、満足するまで遊びこめる環境、安心して過ごせる環境の為に、子どもの興味関心を知り、スタッフ間で共通認識をする場を定期的に持ち、子どもの姿に合わせ変化し続ける環境を作り続けた。
	次年度方向性	引き続き子どもの興味関心を知り、子どもの姿に合わせた環境を構成する。又、子どもが自由に行き来する一つの大きな家として、年齢に合わないものを排除するのではなく、異年齢で過ごす中で年上の児が気づき使い方を教えたり、スタッフが姿に合わせた玩具を準備したりすることで適切な環境を整えていく。
2	計画・ねらい	保育中の安全対策や衛生管理などの職員の共通理解や体制作りの強化をする
	実践結果	・子どもが実体験の中で危険を感じ、危険を予測した身体の使い方を身に付けていかれるよう、スタッフは子どもの発達を理解し、姿を予測し、必要時には手助けができる位置で見守りながら、安全に配慮された環境を整え、人的環境としてスタッフの立ち位置や子どもの姿の共有を行った。 ・事故防止チェック・設備点検を定期的に行い、防火・防犯・事故防止など様々な視点を持てるようした。又、日々新たに抽出されるハザードやリスクは速やかに園内で共有し、目の前の子どもの姿に合ったものであるよう必要に応じ、見直しや追記をした。
	次年度方向性	子どもの姿の共有を適宜行い、リスクを想定した対応ができるよう努めていく。その為に、ヒヤリハットを多く上げ即時に共有し、全スタッフで全園児を見るという意識の中で安全面への意識にも働きかけていく。又、子どもが興味を示す環境を作ることで遊び込むことへ繋げ、落ちついた環境の中で過ごせるようしていく。
3	計画・ねらい	必要なものしかない環境づくり
	実践結果	・いつ誰が見ても、いつ誰が訪問しても気持ちがいいと感じる、整理整頓と清掃が行き届いた環境を継続する為に、必要なものしかない環境を心掛け、乱雑になりがちな棚上に関してはスタッフ間で時間を決め片付けるな

		どのアクションプランを立て、随時園内外の環境の見直しを行うようした。
	次年度方向性	意識の継続が課題となる為、次年度は各クラスでの担当を明確にし、一人ひとりのスタッフが自分事として美観を意識できるようしていく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	ロフト	1・2歳児保育室	8月末解体、廃棄完了

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	避難訓練	・消防計画に基づき、自衛消防隊を編成し、年間避難訓練計画に沿って消火訓練・避難訓練を実施した。 ・年2回通報訓練と保護者と連携した児童引き取り訓練を行い、非常時はアプリを利用し、保護者へ情報発信を行う通知訓練を合わせて行う。
2	洪水計画	・消防計画に基づき、大雨洪水警報の発令等、必要時には速やかに情報収集をし、被害の未然防止の為、対策を行う。
3	事故防止委員会	・園内に事故防止委員会を設置し、ヒヤリハットやインシデントを活用し、再発防止と共に危険管理・危険予測をし、事故を未然に防ぐよう努める。 ・半期毎にリスクマップを活用し、園内外のハザードの見直しを行い、ハザードマップの作成と園内での意識の共有をする。作成したマップは子どもの姿に合ったものであるように定期的に見直しながら、安全配慮に努めていく。
4	不審者侵入訓練	・園の置かれた環境、社会情勢を反映させた不審者侵入訓練を年2回実施し、安全・防犯への意識づけをする。
5	光化学スモッグ	横浜市メール配信システムを活用し、発令があった時は速やかに対応、室内で過ごし健康状態の確認を行う。
6	救急救命講習	新年度キックオフミーティングにてエピペン講習、AED 講習を行い必要時には全職員が正しい知識の元で使用できるようにする。
7	事故防止、設備点検チェック	年4回の事故防止チェック・設備点検チェックはクラス会議内で見直しをしながら行い、新たなハザードやリスクは事故防止委員会を通して園内で共有する。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

保育・福祉の現場で次世代を担う人材育成の為、積極的に実習生・中高生の受け入れを行った。子どもと関わり触れ合う中で様々な経験を通し、子ども理解を深め、将来保育現場で働きたいと思えるように配慮・応援していくよう全スタッフが意識をした。又、保育者は実習生と向き合うことで自身の保育を振り返り、保育のプロとして子どもへ関わりや対応について考える機会とし、保育の質向上へ繋がるよう心掛けた。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
５月１３～２４日	横浜こども専門学校	１人	観察実習
２月１０～１４日	日本工科大学医療保健学部 リハビリテーション学科	２人	見学・観察実習
２月１７～２０日	日本工科大学医療保健学部 リハビリテーション学科	１人	見学・観察実習
２月１７～３月３日	東海大学児童教育学部	１人	見学・部分実習

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
通年	県立新羽高等学校	各会15人

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	19日 26名	17日 26名	21日 25名	19日 29名	23日 27名	20日 27名	18日 27名	15日 27名	20日 27名	17日 27名	21日 27名	19日 27名
園会議内研修	19日 24名	17日 26名	21日 23名	19日 25名	23日 21名	20日 26名	18日 24名	15日 24名	20日 25名	17日 24名	21日 22名	19日 24名

〈2〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	18日 1名	16日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	21日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	１２月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											

〈3〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

〈4〉保育園・つむぎの一体化を図った取り組み

・２０２３年度より、スタートした保育園・つむぎ併設園での一体化において、それぞれのMBOを組織全体のものとし、連権を図りながらお互いが高めあっていく為、つむぎ施設長と共に課題を共有し合い、同じ視点で物事を考えながら、スキルアップを図った。
・園・つむぎそれぞれの課題と保育支援の質の向上の為に、具体的な取り組みを決定し、園内研修では園とつむぎそれぞれの設置状況や施設の仕組みを学ぶところから始め、スタッフの理解度を上げる中で互いを尊重し併設園として全スタッフの意識作りを行った。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り

・実体験の伴う地域支援の為に、園置かれた環境の理解と園を利用する地域の子育て世帯のニーズを把握し、ニーズに合わせた子育て支援が行えるよう取り組んだ。
・地域の資源を保育に取り入れ、農家の方との交流、丘陵公園での草取り、新羽小学校文化スポーツクラブの会合、その他、商店街ツアーを通じて地域の方々とのさらなる広がりを持つよう努めた。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：新田公園にて　　参加延べ人数：５７名

商店街ツアー	週ｌ回　主な行き先：スーパーあおば、新羽駅、地区センター、イオン、西方寺、杉山神社、ケアプラザ、キリン工場、新田消防署、ヨネヤマプランテーション等
世代間交流	１１月２９日に新羽どろんこ保育園にて昔遊び体験を実施
異年齢交流	通年を通し、新羽高校と交流を実施（新羽高校・新羽どろんこ保育園にて） ２月１８日には新田小学校を訪問し、１年生との交流を実施 ２月２１に新羽どろんこ保育園にて新羽小学校６年生との交流を実施
その他活動	１２月１３日に新羽どろんこ保育園にて消防キッズ（消防への知識・体験）を実施
銭湯でお風呂の日	月ｌ回　〈3～5歳児〉　実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈ｌ〉今年度の振り返り

・横浜市港北区の幼保こ小連携事業及び小学校と相談・協議を行いながら、小学校との連携を実施する。小学校見学や教師の保育園来訪、幼保こ小連携会議に参加し、スムーズな小学校への接続を行った。

・小学校 １ 年生の姿を見て知り、逆算した保育を遂行する為に、年長児を担当する保育者だけでなく、全スタッフは、小学校との接続研修や授業参加、子ども間交流に積極的に参加し、入学後の姿を実際に見て知り、知り得た情報をもとに、子どもの育ちの連続性が保証された接続を目指した。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
９月１９日	新羽小学校 ｌ年	５４名	子ども間交流（丘陵公園）	子ども間交流
２月１９日	新田小学校	１８名	小学校見学（新田小教室）	子ども間交流
２月１９日	新羽小学校	１名	引継ぎ（当園相談室）	職員間交流
２月２１日	新羽小学校	３６名	子ども間交流（当園園庭）	子ども間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

子どもの状況や発達を理解し、ケース会議の中で共有・振り返りを行い、週案・月案の作成次期及び個々の変化や成長に合わせた見直しを適宜行った。子どもの成長の見える化を行い、子どもの成長をどのように支援していくかを園スタッフだけでなく共に過ごすつむぎスタッフからの視点を交え、検討しその子にとっての最善を考えた。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・４～３月に計１２回開催　参加者：各月５～６名
・園会議・クラス会議・週案会議などを利用し、個々の様子を共有しながらその子にとって必要なこと最善を考え支援へと繋がるような理解を深められるよう努めた。
・配慮の必要な子だけでなく、集団生活の中で気になる子や成長、発達の過程で配慮を要する子についても姿を共有し、一人ひとりに合わせた丁寧な対応を検討、実践した。
・インクルーシブ保育を視点につむぎと合同でケース会議を行い、課題の共有をしながら、各分野での専門家の視点から見た集団の中での関わり方や支援の手立てを園スタッフも学ぶよう努めた。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

・進学先の小学校や必要に応じては各種関連機関と連携しながら、児童要録・引継ぎ面談での子どもの育ちの詳細伝達を行った。
・進級時は園内での細やかな引継ぎを行い、個々の育ちや背景を配慮した丁寧な関わりへと繋げた。又、日ごろから全職員で全園児を見ることで、担当するクラスの子意外にも目を向け、信頼関係を築きながら、養護と教育が一体となった保育が絶え間なく提供できるよう努めた。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
２３名	３７名	９６名	５６名	４１名	７０名	６９名	５９名	７８名	３４名	３６名	４０名	639名

	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　　来園延べ人数：９４名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　⇒計１件相談実施済み
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計２１回実施済み 参加者延べ人数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
１２名	２１名	２２名	１８名	7名	4名	8名	１２名	１２名	１２名	２８名	２０名	１７６名

<table>
<tr><td rowspan="3">どろんこ
芸術学校
どろんこ
自然学校</td><td colspan="13">毎週（水）10:00～12:00　　⇒計１０回実施済み
参加者延べ人数</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>０名</td><td>２名</td><td>２名</td><td>０名</td><td>０名</td><td>８名</td><td>０名</td><td>２名</td><td>４名</td><td>４名</td><td>４名</td><td>４名</td><td>３０名</td></tr>
<tr><td>勝手籠設置</td><td colspan="13">（月）～（土）7:00～20:00　にて実施
門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置</td></tr>
<tr><td>ちきんえっぐだより</td><td colspan="13">毎月1日発行</td></tr>
<tr><td rowspan="3">青空保育
（支援センター主催）</td><td colspan="13">月1回　　公園名：新田公園にて　以下日程にて実施</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>５名</td><td>６名</td><td>２名</td><td>０名</td><td>０名</td><td>６名</td><td>６名</td><td>６名</td><td>６名</td><td>８名</td><td>６名</td><td>８名</td><td>５９名</td></tr>
</table>

※３月は見込み

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２５年１月２４日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：１４時００分
自己評価終了時刻：１７時００分
自己評価実施者：施設長、つむぎ施設長、主任、児発管、スタッフ１名

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月２５日
アンケート回収率：７７％

園生活を送る中での子どもの成長、異年齢・インクルーシブで過ごす中での子ども同士の関わりやそれに伴う心の育ち等、保育に対する理解と受け取れる記述が多くあった。
反面、法人としてのルールに反する対応やスタッフ間の連携不足、社会人としての在り方等見直すべき意見もあり、保育の質の向上と共に相手の立場になって考えることや接遇を含めたマナーを学んでいく。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

０件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

０件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：新羽どろんこ保育園 施設長　松下　杏

２０２４年度　清瀬どろんこ保育園　事業報告書
（保育所における自己評価）

１．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

多くの緑に恵まれた清瀬市に立地した、周囲の好環境と広い園庭を最大限に活かしのびのびとした保育園を目指しスタッフ全員が保育の質の向上に邁進してきた。
保護者のご支援のもと、着実に進化が見られた年度であった。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

１	計画・ねらい	生活力の体得
	実践結果	大人が背中を見せながら経験と失敗を数多く体験させ、見守ってきた。日課の重要性を再確認し、散歩の9時出発など前年度比大きな改善が見られた。
	次年度方向性	原点回帰の意味を理解し、日課・基本活動を丁寧に取り組むことを通じ、生活力を育む。
２	計画・ねらい	幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿
	実践結果	保育の質を上げる会議教材の園内研修により、生涯にわたる生きる力の基礎を培うため「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力、人間性」という資質・能力を一体的に育む力をスタッフ全員で習得してきた。
	次年度方向性	引き続き小学校との接続を意識し「協同性・社会性・規範意識」獲得に必要な支援を行う。
３	計画・ねらい	子ども自らがいつでも経験の選択をすることができる物的環境
	実践結果	様々なものに常時主体的に関わり、経験を選び取ることができる物的環境を整備することで、参加したくなる複数の体験活動を展開してきたが、更に充実化する余地が残った。
	次年度方向性	大人は、子どもの選択肢を狭めることなく子どもが「自分の足で人生を歩むための支援」を行う。

〈２〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

１	計画・ねらい	保護者と共に子どもの成長を喜びあえる信頼関係を築き発展させる
	実践結果	送迎対応で確り時間が取れるよう、保護者動線やスタッフ配置の見直しを行い、一定の改善を見ることができた。保護者懇談会や個別面談の機会をも通じ信頼関係構築に努めた。
	次年度方向性	スタッフひとり一人が基本を大切にすることで、保護者との信頼関係の強化発展を目指す。
２	計画・ねらい	スタッフの誰もが「挨拶」「お迎え対応」を自然にできるようになる
	実践結果	大人に対しても子どもに対しても敬意を持って丁寧な対応を行うことで、自然な挨拶、お迎え対応ができるようになってきた。

	次年度方向性	周囲への観察、気付きの感度を意識して上げることを継続することで定着化を図り、スタッフ相互で高め合うことを継続する。
3	計画・ねらい	子どもの育ちが見える指導計画と子どもの姿の共有
	実践結果	画像を使用したドキュメンテーションを作成し、お迎え時の展示などで共有。年度を通して実施。
	次年度方向性	日常の掲示の他、各種イベント時に効果的に展示するなどメリハリを付けてエ夫を続ける。

〈3〉地域の子育て支援事業

I	計画・ねらい	広い園庭を活用した「火・水・土」の体験の提供
	実践結果	焚き火、水遊び、どろんこ遊び、畑仕事など自園ならではの環境を生かした「火・水・土」の直接体験を自園やグループ近隣園に提供できたが、地域向けには一部の方に限られた。
	次年度方向性	地域の方に向けても体験を提供する機会を設ける。
2	計画・ねらい	支援を必要とする人が「気軽に話せる、聞くことができる場」になる
	実践結果	家庭でできる運動遊び講座など、好評を頂いた。一方で広く永続的に地域に開けた場の提供へのエ夫の余地が残った。
	次年度方向性	疑問や不安を気軽に相談できる場として、看護師・栄養士・保育士の専門性を活かしていく
3	計画・ねらい	「子育て家庭のつながりの場」コミュニティースペースの提供
	実践結果	園庭解放や地域活動講座などの機会での好評から、今後の発展の道筋が見えてきた。
	次年度方向性	引き続き園見学、園庭解放も活用し、室内外も在園児と一緒に活動に参加できる場を提供していることを近隣に知ってもらう

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

I	計画・ねらい	常に清潔で美しい環境を維持する
	実践結果	美観の維持が定着化しつつある。内部監査でも特段の指摘を受けることは無かった。
	次年度方向性	スタッフ全員の意識が持続され、常に園が公共の場であることを認識して行動する。
2	計画・ねらい	本音で語り合えるスタッフ集団を目指す
	実践結果	子どもを中心に、子どもの最善の利益のために常に大人は考え、本音で語り合える風通しの良いチームを目指し、各会議体の活性化も見られ相応の成果が見られた。
	次年度方向性	「わくわく、いきいき、やりたいことを実行、子ども I st.」をスローガンに風通しの良い組織をつくる。
3	計画・ねらい	「大人のにんげん力アップ」
	実践結果	スタッフ一人ひとりが社会人としての資質を高めるため、実戦的な園内研修を効果的に取り入れてきた。

	次年度方向性	「昨日より今日～one rank up!!」 大人もしっかりと成長できる組織をつくる。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	園児、スタッフによる食材の加工
	実践結果	概ね実施できたものの、農業計画が予定スケジュール通りに進まなかった点の改善余地あり。
	次年度方向性	「味噌作り」「梅干し作り」「梅ジュース作り」「畑で収穫した野菜で調理」など食材加工を体験することを通して食材や食の循環を知り、環境への意識を育む。
2	計画・ねらい	給食残渣を2022年度対比70%に削減する
	実践結果	2024年度下半期（10月～2月）実績平均で49%と大幅に改善達成。
	次年度方向性	2027年度目標50%に向け、残渣測定を日々行うことで得る正確なデータを基に実績を集計する。これまでに育んできたノウハウ（子どもたちが食べられる適量を自ら選び、無駄な残渣が発生しない風土）を全ての大人が理解し、後戻りさせずに目標達成を目指す。
3	計画・ねらい	畑仕事、生き物の世話を丁寧に実施する
	実践結果	農業計画がスケジュール通りに進捗しなかった反省点は残ったが、全年齢が畑活動に取り組み、活動定着化の基盤作りができた。
	次年度方向性	年間農業計画に沿った畑仕事や水槽飼育の魚類、昆虫の幼虫の世話をすることで命や食の循環を知ることで環境への意識を育む。

〈6〉選ばれる保育園をつくる

1	計画・ねらい	「人と環境の魅力が感じられる」温かい雰囲気の定着化
	実践結果	「清瀬どろんこ」らしさを大切にしつつ、人の声に耳を傾ける姿勢を大切に現メンバー一丸となって魅力アップに注力。
	次年度方向性	「主体的に行動する子どもたちの姿」「園庭、保育室の魅力ある環境」「相手の立場に立った対応」「チームワークの良さから醸し出される明るい雰囲気」を園の魅力の重要な要素として認識し、実現に向けて努力する。
2	計画・ねらい	利用して良かったと思っていただける丁寧な保育を全員で実践する
	実践結果	お迎え時対応の基本の再確認など、各持ち場での丁寧な仕事を徹底してきた。次年度に向けた基礎固めができた1年であった。
	次年度方向性	子どもたちが「通いたくなる」保育園を目指し、一人ひとりの子どもと丁寧に向き合い、保護者と成長を喜びあえる信頼関係を構築する。
3	計画・ねらい	全スタッフで共有できる客観的数値目標の達成
	実践結果	内部監査指摘：2024年9月「28件」、2025年1月「15件」と相対的には改善が図られた。NPS18,7と大幅改善要。
	次年度方向性	引き続き数値目標に貪欲に取り組み、業務の質向上が安定化するように注力する。

〈7〉業務分担の可視化と共有

1	計画・ねらい	園全体・各人の業務内容の可視化
	実践結果	情報共有の徹底を通じ、概ね定着化した。個人別には業務の偏在が依然として認められ、引き続き透明性のある組織運営を目指す。
	次年度方向性	誰がどの業務に就いているかを日単位で全出勤メンバーが把握可能な可視化掲示ツールを活用し人員運用の効率化を図る。全員が確実に「事務処理時間」「休憩時間」を確保できるよう運営の常軌化を目指す。 良好なチームワークにより保育品質を高めることに繋げる。
2	計画・ねらい	日常ルーティン業務の着実な消化
	実践結果	嘔吐処理や感染症拡大時対応などマニュアルに沿った行動を基本に、各種チェックリストも適切に活用しながら確実な業務実施に努めた。
	次年度方向性	業務分担割り振りに加え各種チェックリストを効果的に活用し、清掃消毒業務等の確実な実施を行う。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半：4~9月	6人	12人	12人	20人	20人	20人	90人
年度後半：10~3月	6人	12人	12人	20人	20人	20人	90人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	266人	282人	271人	300人	243人	268人	299人	299人	306人	303人	259人	259人	3355人
うち0歳児	6人	15人	12人	18人	8人	15人	15人	17人	28人	30人	27人	27人	218人

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	14人	17人	13人	15人	12人	8人	8人	6人	9人	8人	9人	9人	128人
うち0歳児	0人	0人	1人	1人	0人	0人	0人	0人	1人	0人	0人	0人	3人

（解説）「一般型」一時保育

〈2〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

常勤スタッフ	保育士	14人	看護師	1人	栄養士	2人	調理員等	2人
パートスタッフ	保育士	5人	事務	1人	用務	1人	嘱託医	2人

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・保育内容の充実化、園児個別の事例共有 ・園として取り組むべき課題への検討
給食運営会議	月1回	食育活動実施内容、喫食状況、離乳食進行状況
事故防止委員会	月1回	自園、系列園で発生した事故のケーススタディと改善策検討。当月のインシデント・ヒヤリハット分析検討
ケース会議	月1回	要支援児についての情報共有・検討
リーダー会議	週1回	リーダー保育士・施設長・主任による報告連絡相談
乳児クラス会議	週1回	保育の計画と振り返り、課題共有と検討
幼児クラス会議	週1回	保育の計画と振り返り、課題共有と検討

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
食育会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、看護師
主任会議	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	感染症予防対策を通年実施
安全対策係	危険個所の点検、見失い防止、室内外の設備点検実施
防火管理者	消防計画の作成、これに基づいた消火通報及び避難訓練実施 消防関係の設備点検実施
食品衛生管理係	食材の衛生管理と在庫状況管理 食育会議の計画と実践、食品安全に対する管理や啓蒙
畑係	農業計画実施のための環境整備、管理
生き物係	園内の動植物の飼育育成計画立案と管理

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
保護者参加行事係	どろんこ祭り、運動会、生活発表会等　成長を伝える行事における内外との連絡調整、運営を実施。前年度の反省を踏まえつつも今年度ならではの改善を図り充実した成果が得られた。

4. 保育支援

〈1〉保育･保育参加･保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	生涯にわたる生きる力の基礎となる「にんげん力」を培うため保育所保育指針に掲げる保育の目標ならびに法人理念と目標を踏まえ、次に掲げる資質・能力を一体的に育むよう努めた。 ・生きていく「知識・技能の基礎」 ・未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等の基礎」 ・学びを人生や社会に活かそうとする「学びに向かう力・人間性等」
保育参加	4～3月まで　合計18名　が参加済み　　（3月1日時点） ・希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談および発達相談	4～3月まで　合計77名　が参加済み　　（3月1日時点） ・随時、希望する保護者に対し実施。面談月間を設定し参加し易さを提供した ・「保護者面談記録」を活用

〈2〉計画した年間行事の振返り

・別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	好きな友達や身近な大人と親しみをもって、楽しく心ゆくまで食べる
	実践結果	年間を通し縁側や園庭も活用した気持ちよく食事する環境を提供した。給食においても異年齢保育の良さを活かしコミュニケーション力が育まれた。
	次年度方向性	1年を通して縁側や園庭を活用して気持ちよく食べることができる環境をつくり、ねらいの具現化を図る。
2	計画・ねらい	意欲的に食事に向かい、魚や野菜を中心とした和食を好んで食べる
	実践結果	離乳食から、かぶりつく「つかみ食べ」を実践した。出汁や旬の食材を活かした和食の良さを保育参加を通して保護者にも伝えることができた。
	次年度方向性	和の行事に因んだ食文化を機会あるごとに伝えることでねらいの具現化を図る。
3	計画・ねらい	分かち合う事のすばらしさや大切さを感じながら食事をする
	実践結果	自園の畑からの収穫物を食事に活かす点で更なる改善の余地があった。異年齢での給食や焚き火を使った食育から思い遣りの心が育まれた。
	次年度方向性	畑活動を丁寧に行うことで、収穫物を効果的に食育に繋げてゆく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月6日／11月7日に実施
歯科検診	6月4日に清瀬どろんこ保育園にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 5月、歯磨き指導を実施 ② 6月、手洗いの歌、ばい菌スタンプ使用した手洗い指導実施 ③ 8月、5歳児対象に「鼻をかむ」方法と重要性を指導 ④ 9月、3～4歳児対象に絵本を活用した性教育を実施 ⑤ 1月、5歳児対象に性教育を実施
流行した感染症	8～9月に手足口病、園児37名・スタッフ2名蔓延し、多摩小平保健所へ報告。9月6日に終息。
発作・痙攣等の対応	特になし
エピペン使用できるスタッフの状況	・4月26日に清瀬どろんこ保育園にてエピペントレーニングを保育スタッフ2名、調理スタッフ1名、計３名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ27名のうち、22名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	本日時点で、在籍スタッフ27名のうち、22名が使用可能
その他保健に関する取組	感染症（疑い含む）発生状況に応じ、うがい手洗い指導の徹底の他、消毒や換気の頻度見直しを機動的に実施

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み

	フロン点検（法定1回/3年）	業者による対象物の法定点検 2023年実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月 ⇒4月26日、10月31日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日　実施済み
	児童健康診断	内科健診　各年2回／6月6日、11月7日 歯科健診　各年1回／6月4日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時 ⇒4月26日、10月25日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間　実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	主体性を育む
	実践結果	自分たちのあそびや生活を自己決定し、自分たちで賄うことができる物的環境の提供にあたり、乳児幼児それぞれの会議体を有効に活用し意見交換を活性化しスタッフ一丸となってとり組むことができた。
	次年度方向性	物的環境の提供に不断の改善を加えつつ、自分の力で人生を歩むための支援を行ってゆく。
2	計画・ねらい	社会性を育む
	実践結果	一人ひとりを生かした集団を形成しながら人と関わる力が育つ「混ざる」異年齢・インクルーシブの環境構成を提供した。
	次年度方向性	引き続き「混ざる」を重視した環境構成を実施する。
3	計画・ねらい	協働性を育む
	実践結果	子どもたちそれぞれの個性を見極め、距離感に注意しつつも適切な環境設定を提供した。
	次年度方向性	自ら行動する力が育つとともに、他の子どもと試行錯誤しながら活動を展開する楽しさや共通の目的が実現する喜びを味わうことができ「折り合いをつける力」と「トライ＆エラー」を経験することができる環境を提供する

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	平均台	園庭	毎日	異常なし
2	丸太ベンチ	園庭	毎日	異常なし
3	ロープ渡り	園庭	毎日	異常なし
4	自然木の平均台	園庭	毎日	異常なし
5	布ブランコ	園庭	毎日	異常なし
6	タイヤ山	園庭	毎日	異常なし(2024年11月撤去)
7	屋台	保育室	毎日	異常なし
8	遊技台(玩具ﾎﾞｯｸｽ付)	保育室	毎日	異常なし
9	遊技台(ﾌﾗｯﾄ型)	保育室	毎日	異常なし
10	トンネル潜り	保育室	毎日	異常なし
11	井形棚	保育室	3か月毎	異常なし(2024年11月撤去)
12	配膳型テーブル	保育室	3か月毎	異常なし
13	トイレスリッパ置台	縁側	3か月毎	異常なし
14	送迎受付台	玄関	3か月毎	異常なし
15	本立て	保育室	3か月毎	異常なし
16	テーブル	保育室	3か月毎	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	【防災】危機管理マニュアル NO.3の災害対策（P6～）に則り、消防訓練・避難訓練等を定期的に実施。備蓄品点検を年2回実施し、必要数の確保管理を行った。
2	実践結果	【ケガ事故防止】危機管理マニュアルに定められた各種点検チェックを行い、故障個所の早期検知と対策に努めた。遅滞なく異常を検知し大事無きに至った経験を踏まえ SIDS 防止策の徹底は重点的に継続中。
3	実践結果	【防犯】所轄警察署の来園を仰ぎ、不審者侵入訓練を本番さながらに実施し、多くの教訓を得た。
4	実践結果	【光化学スモッグ】注意報発令は限定的であったが、発生時には光化学スモッグ発生時対応及び行政連絡に従った対応を行なった。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

・実習生や中高生の受入れは原則断らずに積極的な受け入れを実施した。
・前年度に続き、中高生の夏季休暇中のボランティア受け入れは社会福祉協議会仲介案件や法人広報案件以外の個人参加者も多く受け入れた。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
5月7日～6月8日	日本社会事業大学	1人	責任実習
6月10～21日	東京こども専門学校	1人	観察実習,部分実習
8月13～26日	日本児童教育専門学校	1人	責任実習

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
7月25～8月30日	都立赤羽北高等学校	2人
8月5,6,7,15,16日	清瀬市立清瀬第二中学校	4人
8月8,9日	都立清瀬高等学校	1人
8月1,2日	私立豊南高等学校	1人
7月29,30日	都立保谷高等学校	3人
7月29,30日	私立目白研心高等学校	1人
10月3,4日	清瀬市立清瀬第二中学校	4人
8月27日	清瀬市立清瀬第十小学校	2人
8月22,28日	東久留米市立久留米中学校	2人
8月19～23日	清瀬市立芝山小学校	1人
7月22,23日	清瀬市立清瀬第六小学校	2人
7月29日	東村山市立秋津小学校	2人

7．スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	26日 29名	24日 29名	28日 29名	26日 28名	23日 28名	27日 28名	25日 29名	22日 27名	27日 27名	31日 26名	21日 26名	2日 26名
園内研修	26日 29名	24日 29名	28日 29名	26日 28名	23日 28名	27日 28名	25日 29名	22日 27名	27日 27名	31日 26名	21日 26名	2日 20名

〈2〉外部研修への出席

特に無し

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	21日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	11月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8．地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

ほぼコロナ禍前の通常モードに社会全体が復した状況下、2023年1月以降毎月定着化してきた銭湯でお風呂の日が2025年1月を以て業者廃業を受け名残惜しくも終了。
感染症予防の観点から高齢者施設への訪問に支障が一部現れたが、総じて有効な交流機会が持てた。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回　公園名：清瀬中央公園にて　参加延べ人数：0名（公園閉鎖）
商店街ツアー	週1回　主な行き先：ふれあい通り商店街、清瀬駅周辺、竹丘商店街、清瀬消防署　清瀬駅前交番　等
世代間交流	原則月1回「信愛デイケアセンター」を訪問、高齢者との交流を実施。（感染症状況を見つつの開催）
異年齢交流	小学生、中学生職場体験を実施
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉　実施　（2025年1月を以て終了）

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

・感染症の影響を睨みつつも、ほぼ制約の無い環境での交流が実現した。子ども間の交流において園児の小学校入学に対する不安感の払拭に繋がった。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
12月20日	清瀬市立芝山小学校	17名	学校参観（芝山小校舎・校庭）	子ども間交流、職員間交流
2月5日	清瀬市立第七小学校	20名	小学1年生と他園児との交流（体育館）	子ども間交流
2月12日	清瀬市立第三小学校	20名	小学1年生と他園児との交流（体育館・教室）	子ども間交流、職員間交流

10.　要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

・主に支援が必要な園児4名の個別支援計画を作成し、毎月のケース会議においてフォロー共有を実施。他の支援が必要と思われる園児については個別面談にて保護者と情報交換し、必要に応じ発達支援施設を利用。当該児の心身の発達が促された。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・４～３月に計12回開催　参加者：5名
・主に支援が必要な園児4名についてケース会議を開催。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
67名	67名	77名	78名	10名	40名	208名	159名	233名	178名	180名	200名	1,497名

<table>
<tr><th>実施項目</th><th colspan="13">詳細</th></tr>
<tr><td>園開放</td><td colspan="13">（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　　来園延べ人数：95名</td></tr>
<tr><td>子育て相談</td><td colspan="13">（月）～（土）13:00～16:30　　⇒計2件相談実施済み</td></tr>
<tr><td rowspan="3">自然食堂
親子ランチ
交流</td><td colspan="13">毎週（水）10:00～12:00　　⇒計4回実施済み
参加者延べ人数</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>3名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>2名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>5名</td></tr>
<tr><td rowspan="3">どろんこ
芸術学校
どろんこ
自然学校</td><td colspan="13">毎週（水）10:00～12:00　　⇒計0回実施済み
参加者延べ人数</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td></tr>
<tr><td>勝手籠設置</td><td colspan="13">（月）～（土）7:00～20:00　にて実施
門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置</td></tr>
<tr><td>ちきんえっぐだより</td><td colspan="13">毎月1日発行</td></tr>
</table>

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２４年５月２２日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：９時００分
自己評価終了時刻：１７時００分
自己評価実施者：山﨑健、木本宗子、伊藤綾花、藤本十望

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月２５日
アンケート回収率：94%

アンケート回収率100%には未達であったが、自由記載ご意見欄では総じて子どもの発達についての好評価が多く厳しいご意見は前年度に引き続き少ない印象であった。批判的なご意見は真摯に受け止め、改善の参考とさせていただく。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む）0件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年3月１５日　　作成者：清瀬どろんこ保育園 施設長　山﨑　健

２０２４年度　美しが丘どろんこ保育園　事業報告書
（保育所における自己評価）

１．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

「様々な体験を通して自分で考えて行動する力を育む」を園目標に掲げる中で、子ども一人ひとり発達・育ちにあった環境を整えた。また子どもたちのやってみたい気持ちが満たされるよう、遊びの中で子どもたちが一緒に考えて行動することで、子どもたち自身が自ら考えて行動することが増えてきている。
様々な体験を通して、子どもたちの気づき、想像力が養われてきている。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

１	計画・ねらい	子ども主体な保育を前提に、子ども同士が話し合い、考え合う場を設けることで協力・協働性を身に付ける。
	実践結果	日々サークルタイムを設けて、子どもたち同士が話し合う場を設けることで、自分の言葉で意見を言えるようになってきた。
	次年度方向性	子どもたちが自ら行動できるよう環境を整えていく。
２	計画・ねらい	子どもたちの発達段階を見極めて、子どもの様子に合わせた環境、関わりを提供することで、活動の連続性や新たな興味関心に発展させる。
	実践結果	保育者が仕掛けをすることで遊びこむ姿が見られた。１日で遊びが終わるのでなく遊びが連続して広がる姿がみられた。
	次年度方向性	子どもの姿からより一層、遊びこめる環境を整えていく。
３	計画・ねらい	アタッチメントを意識した関わりをすることで、自分の感情をコントロールする力を育む。
	実践結果	先回りせず、子どもたちを見守ることで安心できる環境を整えた。また自分自身で落ち着ける空間（環境）を作ることで気持ちの切り替えもできるようになってきている。
	次年度方向性	さらに、安心できる環境を整え、いろんなことへの挑戦ができるようにする。また子どもたち同士話し合いの場を多く増やしたい。

〈２〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

１	計画・ねらい	家庭と保育園の連携を強化。
	実践結果	子どもの姿を連絡帳やタイムラインでお伝えするとともに、お迎えや日々保護者と対話を大切にした。
	次年度方向性	お迎えが重なるときに、待たせてしますこともあるので、待った感を与えないような掲示などを取り入れていく。

2	計画・ねらい	保育園からの発信を強化し保育園の運営を理解していただく。
	実践結果	保育参加が増え、保育園の運営を理解してくださる保護者が増えた。
	次年度方向性	保育参加や個人面談が増えるよう、日々の保育内容をわかるような発信をしていく。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	火・水・土で遊べる環境を提供し、地域の親子が直接体験を出来るようにする。
	実践結果	園庭開放やちきんえっぐに来てくださる方へ、園庭で土に触れたり、鶏に触れたりする機会を提供できた。
	次年度方向性	園庭開放や、ちきんえっぐの認知度が少ないので、集客方法を見直していく。
2	計画・ねらい	見学時の丁寧な対応を行うことで、保育園に興味を持ち保育園の良さを感じていただく。
	実践結果	園見学では、実際のエピソードも話しながら、イメージがつくようにした。
	次年度方向性	離乳食は写真などでお伝えすることができたが、実際の保育内容写真をみながら話せるようにしていく。
3	計画・ねらい	青空保育の充実。
	実践結果	今年度参加者がいなかった。
	次年度方向性	集客方法を見直し、旗を付けるなどして、どろんこ会の青空保育を知ってもらうようにしていく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	園目標・個人目標に対して各自の進歩状況を明確にしていく。
	実践結果	目標を立てることで振り返り実行することができた。
	次年度方向性	継続的に目標が達成できるよう、細分化し振り返るようにしていきたい。
2	計画・ねらい	保育所保育指針に記載がある「3本の柱」「10の姿」を理解し学び続ける大人集団になる。
	実践結果	子どもの姿から、10の姿のどこが育っているかなど対話することが増えた。

	次年度方向性	日々子どもの姿を捉え、保育者同士語り合い、いろいろな角度から見ることで子どもの育ちを理解していく。
3	計画・ねらい	子どもが主体となる日課・基本保育活動の実施
	実践結果	保育者と一緒に日課をすることで、日課が習慣づくようになってきた。
	次年度方向性	子どもが自ら日課・基本活動を取り組めるようにしていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	活動の選択が保証されている環境。
	実践結果	クラスだけでなく異年齢で過ごすことで、活動を選ぶことができた。
	次年度方向性	室内環境ではさらに環境を見直し、遊びこめる環境を子どもの姿から築いていく。
2	計画・ねらい	火・水・土に関わる体験強化。
	実践結果	保育者が一緒に遊ぶことで子どもたちも遊びが広がった。
	次年度方向性	今年度同様に、保育者が子どもたちと一緒に遊び、楽しむ姿を見せていく。
3	計画・ねらい	子どもたちの活動をサポートする人的環境。
	実践結果	職員スタッフ間で子どもの姿を共有することで、先回りせず見守る姿が見られた。
	次年度方向性	今年度同様に、子どもの姿を共有していく。

〈6〉一日を振り返り実行できるチーム保育

1	計画・ねらい	一日の保育を他者や自身で振り返る。
	実践結果	子どもの姿を振り返ることができたが、振り返るだけになってしまうこともあった。
	次年度方向性	様々なアクティビティを使い、子どもの姿や生活のあり方等を振り返り課題の抽出を行う。また、抽出した課題を確実に実行していく。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半：4~9月	33人	48人	60人	72人	72人	72人	357人
年度後半：10~3月	36人	48人	60人	72人	72人	72人	360人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	159人	65人	149人	65人	125人	158人	179人	157人	142人	117人	100人	140人	1556人
うち0歳児	1人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	1人	2人	1人	1人	7人

一時保育利用状況

実績なし

〈2〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　（３月１日時点）

常勤スタッフ	保育士	7人	看護師	0人	栄養士	1人	調理員等	2人
パートスタッフ	保育士	12人	補助	2人	事務	0人		
	用務	1人						

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・さくらさくらんぼリズム研修 ・子どもの姿共有
給食運営会議	月1回	・アレルギー対応 ・離乳食対応 ・食育について
事故防止委員会	月1回	・ヒヤリハットの検証 ・安全対策 ・インシデントの共有
ケース会議	月1回	・支援計画 ・振り返り ・子どもの姿共有
フロア会議	月2回	・月案の確認 ・振り返り ・子どもの姿共有

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
食育会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長
主任会議	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	手洗い・うがいの指導や歯磨き指導に加え、清掃面やチェックシートの記入確認を実施
安全対策係	避難訓練及び安全対策についての窓口となり、確実に実行できるように働きかけた。
防火管理者	火の取り扱いについて、日々の確認と焚火保育時の火の管理指導を実施
食品衛生管理係	食の安全にかかわる管理の実施
畑係	年間計画に基づき、畑やプランターの整備・管理の責任者として子どもと共に収穫を行う。
生き物係	生き物の世話や体調管理の実施

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	保護者のどろサポ中心に係と連携し、地域の方も招きどろんこ祭りを行った。
運動会係	準備から当日の流れを細かく計画し終えることができた。
生活発表会係	各学年や異年齢での日常な姿を保護者に伝えることができた。大人が主体にならない活動を行い、子どもたちが考え、子どもたちが輝いている姿が印象的だった。

4. 保育支援

〈1〉保育･保育参加･保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	・年間目標「様々な体験を通して自分で考えて行動する力を育む」を意識し保育を行った。
保育参加	4～3月まで　合計16名　が参加済み　　（3月1日時点）

保護者面談および発達相談	4～3月まで　合計7名　が参加済み　　（3月ｌ日時点）

〈2〉計画した年間行事の振返り

・別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

ｌ	計画・ねらい	食への興味関心を深め意欲を持って食べる子ども
	実践結果	様々な食材に触れたり、食育活動を行い食への興味を持つようにしたり、午前中の活動量を多くとり入れた。 一緒に食べることで、食事が楽しい時間になるようにした。
	次年度方向性	食への関心が少ない子へのアプローチをスタッフで共有していく。
2	計画・ねらい	食の循環を意識した活動の展開
	実践結果	アジの解体やコンポストでの堆肥づくりを行った。
	次年度方向性	食べ物はすべて命あるものをいただいていることを伝えていく。
3	計画・ねらい	炭火保育の実践
	実践結果	寒い日には火をつけることで温かくなることを伝えることができた。また火への距離感も体験することで危機管理が高まることができた。
	次年度方向性	継続的に行い火に触れる機会を設けていく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月ｌ3日・ｌｌ月２８日　美しが丘どろんこ保育園にて実施
歯科検診	7月5日・ｌｌ月29日　美しが丘どろんこ保育園にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年ｌ回実施
スタッフ検便	毎月ｌ回（全スタッフ対象）

その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	①　6月13日に歯磨き指導を実施 ②　6月20日に手洗い指導を実施 ③　2月3日に手洗い指導を実施
流行した感染症	特になし
発作・痙攣等の対応	計1名に対し、計2回ダイアップ使用
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月21日に美しが丘どろんこ保育園にてエピペン研修を全スタッフ受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ25名のうち、24名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	設置なし
その他保健に関する取組	ウィルス感染のため、手洗い・うがい、換気、消毒を徹底した。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（法定1回/3年）	業者による対象物の法定点検 2023年実施済み ※対象物がない園及び JW 園は削除すること
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日

健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月 ⇒4月2日、10月1日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日　実施済み
	児童健康診断	内科健診　各年2回／6月13日、11月28日 歯科健診　各年2回／7月5日、11月29日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時 ⇒4月19日、10月18日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間　実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	環境を通して行う教育
	実践結果	子どもの姿から環境設定を行った。
	次年度方向性	子どもの姿は日々変わっていくので、子どもの姿にあった環境を常に更新し、遊びこめる環境をつくっていく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	丸太ベンチ	園庭	毎日	異常なし
2	配膳代	幼児室	毎日	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	見失い事故及び怪我防止対策。 他園で起きた事故を自分事と捉え、スタッフ間で共有した。
2	実践結果	光化学スモックが発令された際は、社用のチャット機能を活用し迅速にゼンスタッフへ共有を行った。また、マニュアルの読み合わせを行い、光化学スモック発令の際の対応について再確認を行った。
3	実践結果	遠足・銭湯・移動畑保育でバスを利用し移動する際は、バスルールに従って危険を予測し行動した。

6. 実習生・中高生の受入

受け入れなし

〈2〉実習生の受入

受け入れなし

〈3〉中高生の受入

受け入れなし

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	19日 25名	17日 27名	21日 26名	19日 26名	23日 24名	20日 25名	18日 25名	15日 24名	20日 24名	24日 24名	28日 25名	28日 25名
園内研修	19日 21名	17日 21名	21日 16名	19日 21名	23日 24名	20日 19名	18日 20名	15日 20名	20日 18名	24日 21名	21日 23名	19日 23名

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
6月29日 10月30日 11月12日 12月26日	ポピンズ	保育士キャリアアップ研修 「障害児保育」	1名	無
9月4日 11月1日 11月19日	ポピンズ	保育士キャリアアップ研修 「乳児保育」	1名	無
10月1日 11月26日 1月10日	ポピンズ	保育士キャリアアップ研修 「食育・アレルギー」	3名	無
12月27日	ポピンズ	保育士キャリアアップ研修 「保健衛生・安全対策」	1名	無
11月13日	ポピンズ	保育士キャリアアップ研修 「保護者支援」	2名	無

12月16日	ポピンズ	保育士キャリアアップ研修「マネージメント」	2名	無
2月22日	家庭ラボ	保育士キャリアアップ研修「障害児保育」	2名	無
7月19日	横浜市青葉福祉保健課健康づくり係	給食施設栄養管理研修	1名	無
9月13日	横浜市青葉区保育資源ネットワーク事業	乳児保育研修	1名	無
9月19日	横浜市青葉区保育資源ネットワーク事業	子どもの人権研修	1名	無
11月11日	横浜市青葉区保育資源ネットワーク事業	保育要録研修	1名	無
1月23日	横浜市こども青少年局 保育・教育部　保育教育支援課	離乳食研修会	1名	無
2月14日	横浜市青葉福祉保健センター	給食施設栄養管理ブロック研修会	1名	無

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	16日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	17日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	21日 1名
全社員研修	月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

小学校訪問・老人ホーム訪問、絵本の読み聞かせなど積極的に行った。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：美しが丘公園にて　　参加延べ人数：0名
商店街ツアー	週1回　主な行き先：たまプラーザ交番、元石川消防、たまプラーザ駅、北部市場、等
世代間交流	7月26日に美しが丘どろんこ保育園にて小学生と交流実施
異年齢交流	10月28日・2月17日老人ホームヒルデモア訪問し交流
その他活動	9月13日に美しが丘どろんこ保育園にてネパールを知ろう実施。
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉　実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

近隣の年長児と一緒に、小学生と遊ぶ機会を多く持つことができた。また小学校へ訪問し、就学への期待感も膨らむことができた。保育園スタッフが、小学校への学びを理解し、逆算した子どもへのアプローチを強化していきたい。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
5月30日	黒須田小学校	1名	黒須田小学校	青葉区の幼保小職員間交流
7月23日	黒須田小学校	1名	黒須田小学校	青葉区の幼保小職員間交流
11月7日	美しが丘小学校 1年生	10名	美しが丘公園	近隣の年長児と一緒にルールある遊びを行う
11月11日	美しが丘小学校 1年生	11名	美しが丘第二公園	近隣の年長児と一緒に秋探し

12月10日	美しが丘小学校 1年生	10名	美しが丘小学校	秋探しの素材からお店屋さんごっこを行い交流を持つ
1月22日	あざみ野第二小学校	1名	あざみ野第二小学校	公開授業・授業研究会
2月14日	元石川小学校	12名	元石川小学校	学校探検・ルールある遊び

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

気になる児に対して個別計画を作成しケース会議等で共有している。また、ケース会議に限らず日頃から昼礼やクラス会議等で定期的に共有を行っている。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・４～３月に計12回開催　参加者：6～10名

毎月ケース会議の時間を設け、子どもの発達や子どもの姿を共有し対応方法を話し合った。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

2月各小学校に保育児童要録の写しを提出した。必要に応じて、電話や対面で引継ぎを行う。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
19名	17名	18名	25名	186名	32名	56名	22名	21名	10名	26名	20名	452名

実施項目	詳細												
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　　来園延べ人数：15名												
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　⇒計1件相談実施済み												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計12回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	2名	0名	2名	0名	0名	3名	8名	9名	6名	2名	5名	3名	40名

<table>
<tr><td rowspan="3">どろんこ
芸術学校
どろんこ
自然学校</td><td colspan="13">毎週（水）10:00～12:00　　⇒計12回実施済み
参加者延べ人数</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td></tr>
<tr><td>勝手籠設置</td><td colspan="13">（月）～（土）7:00～20:00　にて実施
門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置</td></tr>
<tr><td>ちきんえっぐだより</td><td colspan="13">毎月1日発行</td></tr>
<tr><td rowspan="3">青空保育
（支援センター主催）</td><td colspan="13">月1回　　美しが丘公園名：美しが丘公園にて　以下日程にて実施</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td></tr>
</table>

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

2024年12月20日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：18時30分
自己評価終了時刻：19時00分
自己評価実施者：園会議参加者

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月２５日
アンケート回収率：80%

（省察）利用者アンケートを通し子どもたちの活動にご理解いただいていると感じるが、更に保育の質の向上を目指したい。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

なし

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む）　0件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年3月１５日　　作成者：美しが丘どろんこ保育園 施設長　野田和泉

２０２４年度　大豆戸どろんこ保育園　事業報告書
（保育所における自己評価）

１．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

本年度の取り組みでは、子どもたちが生き生きと活動できる環境づくりを意識し、保育者が室内環境を工夫するなど柔軟に行うことができた。また、雑巾がけや畑の仕事、リズム体操といった日課を継続する中で、失敗と成功を繰り返しながら、子どもたちと保育者双方が責任を持って行うことができてきた。これらの活動が「ホンモノの体験」として行うために、法人の理念やその活動の意味を理解し、日々の保育に取り組む姿勢が必要だと感じた。
保育内容や目標を意識した丁寧な保育を行う中で、スタッフ間の対話やフロア会議での話し合いが確立しつつある。今後は個々のスキルアップをさらに推進する体制づくりをしていきたい。
保育業務の効率化については進歩が見られ、子育てのメリットを考える視点を持つことができたが、業務負担を軽減しつつ、より高いレベルの支援を提供できる仕組みの構築をしていく。
育て支援の拠点として地域とのつながりを深める努力を続けたものの、地域住民がより気軽に立ち寄れる環境を整えるための工夫をしていく。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	園のスタッフとしての現状からみる課題における園内研修を行う。
	実践結果	月に1回の園内研修において、どのスタッフでも主導を取り、プロの指導者としての現状からの課題だしを行いながら、具体的な保育の質の向上ができる研修を計画から実施、振り返りまで行った。
	次年度方向性	子どもについて保育者が多角的に捉えることを継続する。 また、自園の保育の特性を見直し続けながら、一貫性を持ち、子どもについての語り合いの大切さに改めて気づけるようにする。
2	計画・ねらい	他者の考えを知り、受容した上で自分の言葉で発信し、伝え合える環境を作る。
	実践結果	どのスタッフも日々の中での保育についての雑談を語り合える関係を築いていく。毎週1回のフロア・学年会議内で自分の考えを言葉で伝え、相手の考えや思いも聞ける職場環境を日常化することができている。
	次年度方向性	嬉しかったことや困っていること、悩んでいることを共有しあえたり、相談できたりする職場環境を日常化できるようにする。
3	計画・ねらい	子ども一人ひとりの発達や成長をフロアやクラス会議で話し合い、環境設定や計画から実施、振り返りを行う。
	実践結果	一人ひとりの発達や成長を知ることで、その子に必要な養護や教育を知り、スタッフで共有することで、みんな同じ方向を向いて保育していくことができている。
	次年度方向性	日常からスタッフ同士・スタッフと保護者・スタッフと地域の方々とコミュニケーションをとり、課題にぶつかった時には、受け止めあえる関係性

		を築き、共に語りあい、互いに学び直し、学び合える職場環境（会議、研修など）の下、質の向上を図れるようにする。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	子どもについて語り合いながら、保護者同士が互いを知ることができる保護者懇談会の実施をする。
	実践結果	年2回の保護者懇談会を開き、法人や園からの共有事項を確認すると共に、保育者と保護者が子どもについて語り合い、子育ての悩みなど保護者同士で共有しあい、互いを知るよいきっかけとなった。
	次年度方向性	子どもについて語り合い、学びあえる保護者懇談会を実施し、保護者同士の繋がりも持てる場にしていく。
2	計画・ねらい	保護者の希望に応じて、子どもが日々、経験していることを知ることができるように保育参加を実施する。
	実践結果	保育参加をすることで、子どもがどんなことを経験から学んでいるかを保護者が一人のスタッフとして経験して知り、今後の子育てのヒントに繋がるようにした。
	次年度方向性	保護者も実体験をすることで、子どもや保育者と共に経験をして学ぶ大切さを継続して伝えていく。
3	計画・ねらい	保護者の希望に応じて、子どもの発達や子育てなどについての悩みを相談することができる保護者面談を実施する。
	実践結果	保護者の希望に応じて、子育てについての悩みや相談を話し、保護者に寄り添いながら、共に考えあえるような機会を提供した。
	次年度方向性	保育者が一人ひとりの保護者にとってどんなことが安心につながるかを模索する。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	子育て支援活動「ちきんえっぐ」を知ってもらい、活動に参加する中で、自園の魅力も伝える。
	実践結果	「芸術学校」「自然学校」「自然食堂」「寺親屋」「青空保育」について、ポスターの掲示や散歩時のスタッフからの声掛けにより、地域の方々にも共に活動を通して自園を知って頂くきっかけを作ることができた。
	次年度方向性	園ならではの特性をより特化して、地域の方々にもわかりやすく、いつでも気軽に立ち寄れる印象を作り、開示していく。
2	計画・ねらい	園庭開放を知ってもらい、利用をして頂き、気軽に立ち寄れる場所だと感じてもらう。
	実践結果	地域の方々に向けて、より分かりやすい表示をすることによって、気軽に立ち寄れる場所で安心して遊べる場所にしていった。
	次年度方向性	保育者が保護者や地域の方々にとって安心して来訪していただけるかなどを知ることで、より園に立ち寄りやすくなるように再考し、模索する。

3	計画・ねらい	ベビーステーションや絵本の貸し出し、子育て相談など、分かりやすく表示していく。
	実践結果	地域の方々に向けての周知不足となり、改まった子育て相談件数は少なかった。一方で、園庭開放などの活動の中で、子育て相談につながることもあった。
	次年度方向性	保育者が保護者や地域の方々にとってどんなことを安心して相談したいと思うか、より園に立ち寄りなるかを再考し、模索する。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	他者の考えを知り、受容した上で自分の言葉で発信し、伝え合える環境を作る。
	実践結果	どのスタッフも日々の中での保育についての雑談を語り合える関係を築き、毎週1回のフロア・学年会議内で自分の考えを言葉で伝え、相手の考えや思いも聞ける職場環境を日常化する。
	次年度方向性	相手の特性に応じて伝える方法を改めて考え、お互いにとって自然に需要でき、認められる関係性を目指す。
2	計画・ねらい	園のスタッフとしての現状からみる課題における園内研修を行う。
	実践結果	月に1回の園内研修において、施設長・主任・中堅リーダーの保育者が主導を取り、プロの保育者としての現況からの課題出しを行いながら、具体的な保育の質の向上ができる研修を行った。
	次年度方向性	園内研修をすることで、自園の保育の課題を捉え、自分で学んだことを整理し、みんなに伝えることで考えなど定着していく。
3	計画・ねらい	主任、中堅リーダーが園運営についての組織マネジメントの計画の一員となる。
	実践結果	施設長から園の基本方針に基づいて、月1回のリーダー会議を開き、主任・中堅リーダーとしてできる園運営についての課題を考え、実行した。また、チームの中のリーダーとしての役割を改めて振り返り、各チームの改善点を出しながらチームの向上に努めた。
	次年度方向性	どろんこ会の理念も念頭に置き、園を運営する上で園の基本方針が安定できるように話し合い、模索する。また、チーム形成における組織マネジメントを継続して学んでいく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	畑仕事や生き物の世話を日課して実践することで食材や食の循環への意識を育む。
	実践結果	毎日の畑仕事や週2回の他園訪問の鶏の世話を通して、食材加工などの食育活動へつなげ、計画から実施、振り返りまでを行った。
	次年度方向性	畑活動や生き物の世話を日課として継続する中で、食の循環を知り、食育加工や食育活動へつなげていく。

2	計画・ねらい	子どもの食べる意欲を育て、給食残渣を減らし、食材の循環サイクルを執行する。
	実践結果	毎日の子どもの喫食状況を把握した。給食残渣を減らしていけるようにしていくことを視覚化することで意識することができた。また、コンポストの活用をし、食材が変化していく様子を学ぶことができた。
	次年度方向性	引き続き行うことで、食の循環を深めていく。また、加工することによって、保存できるものを知り、実際に作り、保存状態し、食すまで行う。
3	計画・ねらい	食材を加工することで長期保存できることを学ぶ。
	実践結果	食材を加工することによって、保存できる物を知り、実際に作り、保存状態し、食すまで行った。
	次年度方向性	加工することによって、保存できるものを知り、実際に作り、保存状態し、食すまで行う。

〈6〉保育環境の整備

1	計画・ねらい	チーム保育を維持するための話し合いを行う。
	実践結果	週1回のフロア・学年会議に限らず、日々の報告・連絡・相談の中で、子どもの成長や変化に応じて、常にスタッフ同士が話し合える環境を作った。
	次年度方向性	どんな時も子どもの興味や発達を捉え、保育者同士で話し合える環境を継続し、チームで子どもを見ることの大切さを再認識する。
2	計画・ねらい	園内研修で環境ついて、スタッフ間で丁寧に振り返りをする。課題を出し、その課題の解決に向けて話し合いを行う。
	実践結果	子どもの成長や遊びの展開を予測して具体的にスタッフ同士で考え、計画し、実践し、環境を整えた。日々の振り返りから、補えない部分を全体で話し合いができた。
	次年度方向性	子どもの興味や発達を捉え、保育者同士で語り合える環境を継続し、計画性を持って、環境構成を行う。

〈7〉危機管理マネジメントの育成

1	計画・ねらい	過去の事故例を共有し、事故の予防に努める。
	実践結果	事故記録簿・インシデント・ヒヤリハットから、傾向と対策を毎月1回の事故防止委員会で話し合い、みんなに共有した。
	次年度方向性	事故防止係が中心となり、全保育者で日々の活動からヒヤリハットの案件を意識して話し合いを行い、安全性を保つ。
2	計画・ねらい	園内設備の細やかな点検を行い、安全性を保つ。

	実践結果	事故防止係・用務員が中心となり、園内設備の安全を確認し、全スタッフにも共有した。
	次年度方向性	事故防止係・用務員が中心となり、全保育者で日々の活動から設備の不具合を意識し、早急な修繕をすることで保育の安全性を保つ。
3	計画・ねらい	園内研修で「危機管理」について、スタッフ間で丁寧に振り返り、課題出しあう。
	実践結果	子どもの特性、成長や遊びの展開を予測して具体的にスタッフ間で話し合った。
	次年度方向性	保育者間の危機管理に対する意識に一貫性を保てる研修を継続して行う。その上で今まで気づくことができなかった危険個所はないかを話し合い、改善する。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半：4~9月	30人	84人	96人	96人	108人	108人	522人
年度後半：10~3月	30人	84人	96人	96人	108人	108人	522人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	150人	190人	192人	235人	208人	214人	288人	264人	231人	254人	250人	260人	2736人
うち0歳児	0人	7人	8人	8人	6人	8人	17人	17人	15人	17人	15人	15人	133人

〈2〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

常勤スタッフ	保育士	10人	看護師	1人	栄養士	2人	調理員等	0人
パートスタッフ	保育士	10人	補助	3人	調理	2人	事務	1人
	用務	1人	嘱託医	1人				

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会
給食運営会議	月1回	アレルギーの確認、クラスの給食状況、食育会議報告
事故防止委員会	月1回	危機管理、安全対策、前月の検証
ケース会議	月1回	計画の振り返り、立案、共有、他機関との連携報告
昼礼	週1回	事務連絡、子どもの様子共有、事故・怪我共有
フロア会議	週1回	フロアごとの保育計画の振り返り・立案、子どもの様子共有
学年会議	週1回	クラスごとの保育計画の振り返り・立案、子どもの様子共有

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
食育会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長

主任会議	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	子ども及び保育者の健康保持のために、施設内外の保健的環境の維持向上、衛生管理を行い、子どもも保育者も何が健康保持につながるのかを再確認した。
安全対策係	施設内外の設備及び用具の安全管理・点検、事故記録の作成、避難訓練計画立案・実施し、保育者は何が事故や怪我につながるのかを再認識した。
防火管理者	災害を想定した訓練計画や消防設備点検、避難経路の確保・点検し、自園の特性を踏まえた計画と実践を意識することで、より具体的な反省点も見えた。
食品衛生管理係	食品衛生管理マニュアルに基づいた対応をし、より食の安全性を追求した。
畑係	年間を通した畑・食育計画立案・実施、畑の管理を子どもも保育者も何が作物の育成や食物連鎖につながるのかを再確認した。
生き物係	命の尊さや自然現象への関心を広める機会を設定し、鶏などの生き物の世話を通して、子どもも保育者も何が生き物への愛着や食物連鎖につながるのかを再認識した。

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	保護者と共にどろんこ祭りの企画立案をし、近隣園のまめどくれっしゅと共に開催した。
運動会係	運動会の計画を立案し、実施した。子どもの成長を見て頂けた温かい会になった。
生活発表会係	生活発表会の計画を立案し、実施した。子どもの成長を見て頂けた温かい会になった。

4. 保育支援

〈1〉保育･保育参加･保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	普段の生活を見て、一緒に活動していくことで、子どもの育ちや園での取り組みを知っていただくことができた。保育者が子どもの安心基地になり、安全な配慮を意識して取り組んでいることをお伝えすることができた。
保育参加	4～3月まで　合計10名　が参加済み　　（3月1日時点）
保護者面談および発達相談	4～3月まで　合計11名　が参加済み　　（3月1日時点）

〈2〉計画した年間行事の振返り

・別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	野菜や花などの植物を育てることで畑仕事の充実感を得る。
	実践結果	日々の畑仕事（土づくり・畝つくり・種まき・苗植え・水やり・雑草とり・収穫）から、命を育てて命をいただく大切さを学んだ。夏季は暑さからの配慮不足もあり、野菜が枯れてしまい、成長が見られなかったことが課題となった。
	次年度方向性	日々の畑仕事を日課とした上で、子どもと共に命を育てて命をいただく大切さを知り、一年を通して作物の変化を感じていく。
2	計画・ねらい	自分が「食べたい時に食べたい場所で食べたいものを食べたい人と食べたいだけ」選択する。
	実践結果	子どもの食に対する意識や意欲が育めるような環境を保育者が意識して日常化した。一人ひとりの子どもの喫食量も増えていた。
	次年度方向性	日々の食事を意識した上で、子どもが楽しく食べる食事環境の大切さを知り、食事に対する子どもの変化を継続して見ていく。
3	計画・ねらい	食育についての学びを教わる機会を作る。
	実践結果	挨拶やマナー、食事の使い方等、食育指導を取り入れ、身に付けていた。食育指導で学んだことを他児に教える姿がみられた。
	次年度方向性	日々の食事に関することを意識した上で、子どもと共に食事環境の大切さを知り、食事に関することに対する子どもの変化を見ていく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	６月６日／１１月７日に実施
歯科検診	６月１３日／１０月３１日に実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 4月・9月に園にて「手洗い・うがいを知ろう」を実施 ② 6月に園にて「歯磨きについて知ろう」を実施 ③ 12月に園にて「性教育について知ろう」を実施
流行した感染症	① 11月・12月に手足口病、園児34名、港北区役所へ報告 ② 12月・１月にインフルエンザ、園児7名
発作・痙攣等の対応	計3名に対し、計3回ダイアップ使用
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月21日に大豆戸どろんこ保育園にてキックオフ研修を保育スタッフ21名、調理スタッフ3名、事務スタッフ1名、用務スタッフ1名計名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ31名のうち、31名が使用可能

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（法定1回/3年）	業者による対象物の法定点検 2023年実施済み ※対象物がない園及び JW 園は削除すること
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施

衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月 ⇒4月10日、10月1日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日　実施済み
	児童健康診断	内科健診　各年2回／6月6日、11月7日 歯科健診　各年2回／6月13日、10月31日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時 ⇒4月26日、10月25日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間　実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	子どもの発達にあった環境の中で、興味や関心の姿をクラスで話し合い、ドキュメンテーションを用いて視覚化する。
	実践結果	子どもの興味や関心の姿を捉えたエピソードを交えたドキュメンテーション作りを行い、子どもの姿を的確に捉えた環境について話しあい、毎月1回の園会議内で発表を行った。
	次年度方向性	子どもの姿を捉え、保護者や地域の方々にも伝わりやすい視覚化を目指す。
2	計画・ねらい	園内環境の美化・緑化の向上に努める。
	実践結果	毎月1回、美化・緑化・生き物会議を行い、園内環境についての見直しを行い、日課の見直しや園内の美化・緑化・生き物の世話についての実践の向上に努めた。
	次年度方向性	園内の清掃・整理整頓をする中で園を清潔な印象や美観を保てる具体案を実行していく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	タイヤ	園庭	毎日	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	防犯計画に基づき自衛消防隊を編成し、避難訓練を毎月15日に行う。また、うちのこアプリにて災害緊急連絡先を使用し、園が情報を発信安否・施設状況・連絡先を情報共有する体制をとる。
2	実践結果	事故防止チェックを年4回、設備点検を年6回行い、怪我や事故防止に最善を尽くす。
3	実践結果	全園事故防止委員会を毎月1回行い、同グループ内での状況を共有し、事故防止策を探る。
4	実践結果	年2回不審者侵入訓練を実施し、避難経路・不審者侵入防止・通報の訓練を全保育者が行う。
5	実践結果	インシデント・ヒヤリハット報告書の運用をし、事故防止委員会で検証を十分に行うことで事故を未然に防ぐ。
6	実践結果	光化学スモッグが発生しやすい気象条件・影響・光化学スモッグ注意報を把握し、発令があった場合は内容にあった貼紙等を掲示し、通知する。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

大学・専門学校の依頼による保育実習の積極的な受け入れも行い、保育実習を通して自園の保育を経験する機会を持ち、実習経験から保育士として子どもの命を守ることの大切さやどろんこ会グループの日課や基本活動を園の特性も交えながら、丁寧に教え伝えた。
また、これを機会に体験や実習期間が終わっても参加できる行事などのイベントにも声をかけ、誘い、子どもたちや保育者や保護者や地域の方々と共に自園の魅力を経験できる機会として大学生と交流会を持ち、食育について継続的に学びあった。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
2月３日～7日	東京家政学院学部食物学科	2人	観察実習、部分実習

〈3〉中高生の受入

今年度受け入れなし

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	26日 31名	24日 31名	28日 32名	26日 31名	23日 32名	27日 32名	25日 30名	22日 30名	20日 30名	24日 30名	21日 31名	2日 32名
保育の質研修	26日 23名	24日 24名	28日 22名	26日 22名	23日 22名	27日 20名	25日 20名	22日 21名	20日 19名	24日 22名	21日 15名	2日 15名

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
6月7日	横浜市こども青少年局 横浜市教育委員会事務局	「探求心を発揮するこどもへ」	1名	無
7月25日	横浜市こども青少年局 横浜市教育委員会事務局	分科会　人間関係	1名	無
7月26日	横浜市こども青少年局 横浜市教育委員会事務局	分科会　環境　表現	2名	無
7月23日	横浜市総合リハビリテーションセンター	療育セミナー、療育参観	1名	無
10月25日	横浜市こども青少年局	衛生管理研修	2名	無
11月13日	港北区小学校教育研究会 社会科研究会	授業公開「菊名のまちを守る人々」	1名	無
11月21日	港北区保育資源ネットワーク	接続期研修	2名	無
1月21日	港北区内保育所 保育施設合同職員研修会	救命救急法研修	1名	無

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	19日 1名	21日 1名

施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	20日 1名	19日 1名
全社員研修	12月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	該当者なし											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	該当者なし											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。また、保育者の特性に応じて個別に業務の振り返りを多くとり、複数人での臨時会議の機会を提供することでチーム意識の確立とお互いの長所・短所を踏まえたチームでの補い方を経験から学び、保育の質を上げることへつながった

〈5〉系列園との自主勉強会の実施

同じ法人内で近隣の他園と共に「命をいただく」について、適宜、話し合い、食の大切さの継続的な見直しや普段の子どもの様子から子どもが主体的に活動できたエピソードを教え合い、記録し、より保育の学びを深めていくことを行った。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

積極的に地域と関わっていくこと通して、園の存在を理解していただくと共に、地域の目で子どもたちの成長や安全、保育者の子どもの関わり方を第三者としての視点から見守っていただけるようにしていった。
また、積極的に園を開放することで、地域の子育て支援に貢献し、子育てについて語りあえる機会や場所を提供することに努めた。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：大豆戸公園にて　　参加延べ人数：3名
商店街ツアー	週1回　主な行き先：港北資源循環局、横溝屋敷、港北水再生センター、法華寺、港北警察署、港北消防署、港北車庫、大豆戸小学校、熊野神社等

世代間交流	1か月に1回　特別養護老人ホーム（さわやか苑）を訪問し、実施を行った。
異年齢交流	7月20日に大豆戸どろんこ保育園にてどろんこまつりを実施
その他活動	1月27日にまめどくれっしゅにて「命をいただく活動」を実施
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉　実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

横浜市スタートカリキュラムに基づき、保育者が小学校を見て知り、自園独自のアプローチカリキュラムを作成し、年間を通して計画的に幼保小連携を進めていった。また、幼保小連携会議に参加し、地域の実態を把握しながら、教員と共に小学校学習指導要領について、これからの未来のために幼児期の子どもにとって必要な経験は何かを具体的に学んでいった。
就学時には、横浜市保育所保育要録を送付し、必要に応じて一人ひとりの子どもの情報の申し送り等を丁寧に実施した。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
8月21日	大豆戸小学校の1年生の担任	1名	保育園の生活・様子を知る	職員間交流
11月12日	大豆戸小学校 1年生	18名	球根植え（大豆戸小校庭）	子ども間交流
11月13日	港北区小学校教育研究会社会科研究会	1名	授業公開「菊名のまちを守る人々」	職員間交流
1月24日	大綱小学校 1年生	18名	学校体験（大綱小学校い年生の教室）	子ども間交流
2月3日	太尾小学校 1年生	18名	学校体験（大綱小学校い年生の教室）	子ども間交流
2月6日	大豆戸小学校 1年生	18名	学校体験（大綱小学校い年生の教室）	子ども間交流

10. 要支援児

個別支援計画の作成・見直しの状況
子どもの状況などを観察し、学年会議やフロア会議の中で振り返りと保育者の共有を行い、見直した。

〈1〉毎月のケース会議開催の状況

・４～３月に計12回開催　参加者：4～6名
毎月1回、担当者を中心に子どもの変化や興味などを話し合い、共有した。また、次の発達段階を見越して計画を立て、保育者間で共有し、配慮した。

〈2〉進級引継、および小学校への引継状況

小学校の引継ぎは横浜市保育所保育児童要録の送付、各校の担当職員と子どもについての申し送りによって行った。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	0名	4名	19名	21名	4名	0名	23名	0名	0名	4名	0名	75名

<table>
<tr><th>実施項目</th><th colspan="13">詳細</th></tr>
<tr><td>園開放</td><td colspan="13">（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　　来園延べ人数：100名</td></tr>
<tr><td>子育て相談</td><td colspan="13">（月）～（土）13:00～16:30　　⇒計0件相談実施済み</td></tr>
<tr><td rowspan="3">自然食堂
親子ランチ
交流</td><td colspan="13">毎週（水）10:00～12:00　　⇒計24回実施済み
参加者延べ人数</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>3名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>3名</td></tr>
<tr><td rowspan="3">どろんこ
芸術学校
どろんこ
自然学校</td><td colspan="13">毎週（水）10:00～12:00　　⇒計6回実施済み
参加者延べ人数</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>0名</td><td>0名</td><td>4名</td><td>19名</td><td>18名</td><td>4名</td><td>0名</td><td>20名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>4名</td><td>0名</td><td>69名</td></tr>
<tr><td>勝手籠設置</td><td colspan="13">（月）～（土）7:00～20:00　にて実施
門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置</td></tr>
<tr><td>ちきんえっぐだより</td><td colspan="13">毎月1日発行</td></tr>
<tr><td>青空保育</td><td colspan="13">月1回　　公園名：太尾町第二公園（8月から工事中）→大豆戸公園にて</td></tr>
</table>

（支援センター主催）	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	3名	0名	0名	0名	0名	3名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０25年3月19日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：9時00分
自己評価終了時刻：13時00分
自己評価実施者： 古山郁美、上海綾、荻原汐理、松本琴絵、大山智美

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月２５日
アンケート回収率：84.2%

子どもが楽しく過ごし、成長している姿があることの反面、伝達の内容が少なく、伝わりづらいことやスタッフ同士の連携不足の意見が見られた。
お迎え対応を充実し、保護者に満足して頂けるように、スタッフ間で研修などを通し、精度を上げていく。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見　0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む）　０件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：大豆戸どろんこ保育園 施設長　古山　郁美

２０２４年度　草加松原どろんこ保育園　事業報告書
（保育所における自己評価）

Ⅰ．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

子ども一人ひとりを尊重し丁寧に関わる保育の実践を目標に日課・基本保育活動を大事にしながら保育を展開した。
その中で、子どもたちが主体的な遊びを通して様々な体験や幅広い豊かな人間性を育み、ありがとうの気持ちと笑顔が溢れ、自発的に子ども同士が関われるような環境で過ごせる園作りに努めた。また、地域の方との挨拶や行事を通してたくさん関わりを持つことが出来た。そして、小学校との交流給食や授業参観に積極的に参加し、小学１年生を知り就学までに育みたい１０の姿を目指した保育を実践していった。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	日課・基本保育活動を理解し、養護と教育が一体化された保育を展開する。
	実践結果	日課・基本保育活動を深め、充実するために保育者の配置や動き方を確認し実践した。
	次年度方向性	日課・基本保育活動を深めることを継続して行い、保育者が見本となって行っていく。
2	計画・ねらい	子どもたちが主体的に、自ら選択し遊びこめるようにする。
	実践結果	必要な物が整理整頓された環境で遊べる空間作りをし、ゾーン保育を確立させるため園全体で取り組んだ。
	次年度方向性	ゾーンの確立に向け継続的に子どもの姿を読み取り環境構成を作っていく。
3	計画・ねらい	物的環境や人的環境を整え、子どもにとって安心・安全な環境を作る。
	実践結果	環境構成が変わったことより、子どもの選択肢が増え遊びの広がりが見られた。
	次年度方向性	物的環境と人的環境は子どもにとって重要な環境になっていくので継続して行っていく。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保育園と保護者との密なコミュニケーションと連携をとる。
	実践結果	実際に保育参加をしてもらい子どもの様子や園での取り組みを理解してもらえるようにした。

	次年度方向性	保育参加について発信し、参加率を増やす。
2	計画・ねらい	3分間対応の内容を充実し、スタッフ全員で子どもの様子を語れる集団にする。
	実践結果	3分間対応のロールプレイや園内研修を行い、保護者の方が話したい・聞きたいと思えるような関係作りを実践した。
	次年度方向性	待っていると感じない工夫をし、充実した3分間対応になるようにする。
3	計画・ねらい	タイムラインや連絡帳の充実。
	実践結果	タイムラインでは1日のどんな事を伝えたいのかを明確にし、連絡帳では子どもの様子や成長を簡潔にわかりやすく伝えられる内容に努めた。
	次年度方向性	タイムラインでは伝えたい思いをわかりやすく継続して行う。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	一時保育・ちきんえっぐ・青空保育へ多くの方が安心して利用できる環境つくりをする。
	実践結果	一時保育利用者が多くリーピーターを増やすことが出来た。
	次年度方向性	一時保育を利用したい方がたくさんいるので、間口を広げ、地域の子育てを支援する。
2	計画・ねらい	地域の方も参加できる行事を開催する。
	実践結果	どろんこ祭りではどろんこサポーターと協力しながら地域の方が参加できるような企画を立て、実施できた。
	次年度方向性	地域の方が参加できるものを発信し、利用する方の人数を継続させていく。
3	計画・ねらい	園庭開放やちきんえっぐの利用者を増やす。
	実践結果	園の立地条件などを加味し、園庭開放やちきんえっぐをご利用いただけるよう、園見学の際にもアナウンスしていった。
	次年度方向性	発信した分利用者が増えるので工夫して告知をしていく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	スタッフ一人ひとりが持っている力を発揮し、保育を楽しめる集団になる。

	実践結果	日々の保育の振り返りや見直しをし、改善することを繰り返し行った。 保育者が失敗を恐れずやりたいことに挑戦できる環境作りに努めた。
	次年度方向性	一人ひとりの得意分野を活かし仕事に取り組むことで、人の役に立つことの嬉しさや達成感を感じる。
2	計画・ねらい	スタッフ全体で学び合う意識を高め、園内研修を充実する。
	実践結果	園長大学®・保育士大学の動画を活用し研修を行い、園内研修を充実させた。
	次年度方向性	学び合う場が持てるようになっているのでスタッフ発信で研修を行えるよう目指していく。
3	計画・ねらい	一人ひとりの目標を設定し意識の向上をする。
	実践結果	コンピテンシーを用いて良い所を伸ばし、課題を明確にし、次月に迎えられるような環境作りを行った。
	次年度方向性	目標に向かって取り組む姿勢やコンピテンシーを活用していくことが確立してきているので継続して行う。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食材や食の循環への意識を育む。
	実践結果	食育にて食材の加工を体験し、畑活動が充実し収穫まで体験できた。
	次年度方向性	味噌作りが継続されているので過程を子どもたちと一緒に体験できるようにしていく。また、畑活動から食育へ繋げられるように今後も工夫していく。
2	計画・ねらい	食材の循環サイクルの実行。
	実践結果	給食残渣を減らせるように調理方法を工夫し取り組んだ。
	次年度方向性	徐々に減ってきているので、視覚的要素を取り入れながら継続していく。

〈6〉子どもを中心に考えられる保育

1	計画・ねらい	子どもに対して丁寧に関わる保育をする。
	実践結果	笑顔が溢れ、応答的な関わりを持ちながら保育を実践した。また、日々の関わりの中で子どもの声に耳を傾けながら共感できるように努めた。
	次年度方向性	子どもの行動には全て理由があり、目には見えない裏の部分にしっかりと目を向け、子どもへの理解を深めていく。

2	計画・ねらい	子どもと一緒に活動を楽しめる保育者集団になる。
	実践結果	子どもがどんなことに興味を持ち、夢中になって遊んでいるのかを保育者自身が発見・体験し共有することで日々の保育に繋げていった。また、保育者自身が一緒に楽しめるような行事を考え実践した。
	次年度方向性	保育者自身がゆとりをもって一緒に楽しめるような環境作りを継続していく。
3	計画・ねらい	スタッフ間で子どもの様子や保育について語り合う環境作りをする。
	実践結果	楽しめた事や発見したことを語り合えるような時間と場を作り、日々の保育について PDCA サイクルの実践に努めた。
	次年度方向性	一人ひとりの育ちや関わりの中で、小さな変化を見逃さず、スタッフ同士で語り合うことで、明日の保育へ繋げていく。

〈7〉気持ちの良い保育園作り

1	計画・ねらい	どんな人でも心地よく園を利用してもらえる環境作りをする。
	実践結果	美観を考え園内外の清掃が行き届き園を訪れる人が気持ちよく思えるように研修を行い実践した。整理整頓や次の人が気持ちよく使える環境作りをした。
	次年度方向性	スタッフ全員が美観への意識を高く持ち実践していく。
2	計画・ねらい	園に関わる人が、笑顔でコミュニケーションを取れる雰囲気作りをする。
	実践結果	園内や近隣の方等と自然に挨拶の飛び交う関係作りをし、感謝の気持ちを忘れず、言葉として伝えられる関係作りを行った。
	次年度方向性	誰にとっても気持ちのよい雰囲気作りを継続していく。
3	計画・ねらい	相手の気持ちや立場になって考えられる集団作りをする。
	実践結果	園内研修を行い、電話、来客、保護者対応の確認や相手の立場に立つことを学んだ。
	次年度方向性	どんなことも自分事として捉え、一緒になって考え、取り組めるチームになる。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半：4～9月	36人	72人	108人	108人	108人	108人	540人
年度後半：10～3月	36人	72人	108人	106人	108人	108人	538人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	540人	552人	559人	541人	456人	473人	489人	491人	482人	469人	440人	603人	6095人
うち0歳児	6人	12人	12人	14人	10人	15人	16人	0人	9人	20人	11人	15人	140人

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	3人	3人	7人	19人	20人	28人	40人	39人	31人	25人	26人	30人	271人
うち0歳児	0人	0人	1人	1人	0人	0人	0人	2人	1人	0人	0人	0人	5人

〈2〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

常勤スタッフ	保育士	11人	看護師	1人	栄養士	2人
パートスタッフ	保育士	3人	保育補助	2人	調理	1人
	用務	1人	嘱託医	2人	事務	1人

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・情報共有 ・活動や行事の振り返り
給食運営会議	月1回	各クラスの食事の様子共有、食育活動の振り返りと共有、給食残渣の確認、アレルギーマニュアルの確認
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット・事故記録簿の共有と分析、ハザードマップ更新確認
ケース会議	2回	気になる子についてかかわり方の振り返り、今後の対応の共有
リーダー会議	9回	保育内の検討、環境設定の見直し、共有事項の確認

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
食育会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、看護師
主任会議	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	園内の衛生管理と改善・疾病の予防処理
安全対策係	全スタッフの安全に関する意識付け、ハザードマップによる危険個所の共有、施設における安全点検

防火管理者	消防計画を作成し防火管理上必要な業務を計画的に行う
食品衛生管理係	衛生点検・給食マニュアルに沿って実施
畑係	畑の環境整備、計画の見直し情報共有
生き物係	飼育動物の健康管理、環境改善、餌の管理、卵の管理

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	企画・立案・計画・役割分担・保護者との連携
運動会係	企画・立案・計画・役割分担
生活発表会係	企画・立案・計画・役割分担

4. 保育支援

〈1〉保育･保育参加･保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	・子どもの姿に合わせたゾーン保育の環境設定の実践と振り返り。 ・安心した環境の中で様々な人と関わり、信頼関係を築きゆとりある保育の実践。 ・遊び込める環境のもと遊びが充実する保育の実践。 ・子ども達が主体となって自己表現する場作りをし、表現する楽しさを味わえるようにする。 ・動植物の飼育栽培の実践
保育参加	4～3月まで　合計2名　が参加済み　　（3月1日時点） ・0・1歳児クラスにて保育参加

〈2〉計画した年間行事の振返り

・別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	自分が食べる適量、時間、場所を選択し食べる意欲を育てる。

	実践結果	・幼児自身が自分で盛付・配膳して食べる事を基本とし、未満児は自分で口に入れる事で自分の食べられる量を知れるように取り組んだ。 ・調理員・保育士・施設長等スタッフ全員が子どもと一緒に食卓を囲み美味しさを共有しながら食べた。 ・食べたい場所を選択できる環境つくりを行った。
	次年度方向性	落ち着いた環境の中で美味しく、満足に食べることを追求していく。
2	計画・ねらい	様々な食材に親しむことや旬の素材に気付き食に興味を持つ。
	実践結果	畑で野菜を栽培し収穫したものを味わい、野菜洗い、皮むき等食事作りに積極的に関われた。 調理室前に献立から気になるメニューや食材を視覚的に興味が持てる環境つくりを実践した。
	次年度方向性	畑活動や食育活動が連動して経験できる環境を作っていく。
3	計画・ねらい	加工や命をいただく経験から食の循環を知る。
	実践結果	大きな魚を解体する様子を見て命をいただいていることを感じる体験ができた。また味噌作り、梅ジュース等加工食品作りの体験から食文化や食にまつわる知識を広げることができた。
	次年度方向性	実体験を大事にし、食の循環を知るきっかけ作りをしていく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月27日／ＩＩ月2Ｉ日に実施
歯科検診	5月23日に保育室内にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年Ｉ回実施
スタッフ検便	毎月Ｉ回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	①　7・8月に園にて手洗いうがい指導を実施 ②　ＩＩ月に園にて歯磨き指導を実施 ③　Ｉ2月26日に園にて性教育を実施
流行した感染症	特になし

発作・痙攣等の対応	なし
エピペン使用できるスタッフの状況	・３月21日・25日に園にてエピペン研修をスタッフ計25名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ25名のうち25名が使用可能
その他保健に関する取組	嘔吐処理、アレルギー除去食提供、与薬方法のロールプレイを行い全スタッフで確認。 新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底するなど各園で記載

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（法定1回/3年）	業者による対象物の法定点検 2024年実施済み
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月 ⇒4月15日、10月21日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日　実施済み
	児童健康診断	内科健診　各年2回／6月27日、11月21日 歯科健診　各年5回／5月23日、
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時 ⇒4月26日、10月25日に実施済み

	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間　実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	子どもたちが発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活の中に取り入れて伸び伸びと遊べるような環境作りをする。
	実践結果	・何に興味を持っているのか、何を必要としているのかを子どもの様子から読み取り、日々変化のある環境設定を実践した。 ・ゾーンの作り方や環境設定について園全体で話し合う機会をたくさん作り、実践していった。
	次年度方向性	子どもの姿に沿ったゾーンの確立に向けて実践を積んでいく。
2	計画・ねらい	安心して過ごせる環境作りや自ら考えて行動できる場所作りをする。
	実践結果	必要な物が整理整頓された空間作りをし、保育室内・外の安全な環境整備のための工夫を継続して行った。
	次年度方向性	遊び込める空間作りと心安らげる場所作りを追求していく。
3	計画・ねらい	園庭の環境充実。
	実践結果	園外ではなく園庭でしかできない体験がどんな事なのかを考え保育に生かし充実できるようにした。
	次年度方向性	子どもたちにとって、発見や挑戦に溢れる場となるよう模索し続ける。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	パレット遊具	園庭	毎日	異常なし
2	テーブル	子育て支援室	毎日	異状なし
3	カブトムシ台	保育室	毎日	異状なし
4	トイレスリッパ置き	トイレ	毎日	異状なし
5	鳥小屋	園庭	毎日	異状なし
6	やぎ小屋	建物裏	毎日	異状なし
7	やぎの柵	園庭	毎日	異状なし
8	平均台	縁側	毎日	異状なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	非常災害時の対策として毎月消防計画に基づいた避難訓練や消火訓練の実施。防災設備の点検。
2	実践結果	年2回の不審者侵入訓練の実施。
3	実践結果	保護者や送迎者の確認をし、オートロックによる外部侵入者の立ち入りを防ぐ。
4	実践結果	インシデントやヒヤリハットからの分析と改善。
5	実践結果	園内・園外ハザードマップと散歩ルートマップの作成と情報共有。
6	実践結果	警察や草加市からの不審者情報提供の周知。
7	実践結果	光化学スモッグ注意報の際情報の周知と園児・スタッフは外出を自粛する。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

保育実習の場を提供し次世代育成支援を行うため、実習生の受け入れを行った。実習生に寄り添い保育の楽しさを伝えると共に、実際に子どもと関わることで子どもの様子を知り、様々な発見をすることで充実した学びの場となっていた。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
8月2～14日	越谷保育専門学校	2人	責任実習
8月19～30日	帝京科学大学教育人間科学部幼児科	2人	責任実習
2月3～19日	十文字学園女子大学人間生活学部人間福祉学科	2人	部分実習
2月20～3月6日	道灌山学園保育福祉専門学校幼稚園教諭・保育士養成科	1人	観察実習

〈3〉中高生の受入

・実施なし

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	26日 23名	24日 24名	28日 22名	26日 23名	23日 22名	27日 22名	25日 22名	22日 22名	27日 23名	31日 24名	21日 24名	7日 24名
園内研修	26日 16名	24日 17名	28日 15名	26日 14名	23日 15名	27日 13名	25日 15名	22日 14名	27日 16名	31日 17名	21日 18名	19日 18名
虐待防止研修	26日 23名						25日 22名					

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
8月3～4日	令和６年度どろんこ会キャリアアップ研修	東京都保育士等キャリアアップ研修　保護者支援・子育て支援	1名	有
8月20～21日	令和６年度どろんこ会キャリアアップ研修	東京都保育士等キャリアアップ研修　幼児教育	1名	有
8月30～31日	令和６年度どろんこ会キャリアアップ研修	東京都保育士等キャリアアップ研修　保健衛生、安全対策	1名	有
9月7～8日	令和６年度どろんこ会キャリアアップ研修	東京都保育士等キャリアアップ研修　食育・アレルギー対応	2名	有
9月7～14日	令和６年度どろんこ会キャリアアップ研修	東京都保育士等キャリアアップ研修　保護者支援・子育て支援	1名	有
9月9日	（株）ポピンズプロフェッショナル	埼玉県保育士等キャリアアップ研修　乳児保育	1名	有
9月16日	（株）ポピンズプロフェッショナル	埼玉県保育士等キャリアアップ研修　障害児保育	1名	有

9月28･29日	令和６年度どろんこ会キャリアアップ研修	東京都保育士等キャリアアップ研修　乳児保育	1名	有
10月12･13日	令和６年度どろんこ会キャリアアップ研修	東京都保育士等キャリアアップ研修　障害児保育	2名	有
11月10日	（株）ポピンズプロフェッショナル	埼玉県保育士等キャリアアップ研修　乳児保育	1名	有
12月1日	（株）ポピンズプロフェッショナル	埼玉県保育士等キャリアアップ研修　子育て支援	1名	有
12月14･15日	令和６年度どろんこ会キャリアアップ研修	東京都保育士等キャリアアップ研修　乳児保育	1名	有
12月14･15日	令和６年度どろんこ会キャリアアップ研修	東京都保育士等キャリアアップ研修　保護者支援・子育て支援	1名	有
1月25･26日	令和６年度どろんこ会キャリアアップ研修	東京都保育士等キャリアアップ研修　食育・アレルギー対応	2名	有
2月1･2日	令和６年度どろんこ会キャリアアップ研修	東京都保育士等キャリアアップ研修　幼児教育	3名	有
2月22･23日	令和６年度どろんこ会キャリアアップ研修	東京都保育士等キャリアアップ研修　乳児保育	1名	有
2月25･26日	令和６年度どろんこ会キャリアアップ研修	東京都保育士等キャリアアップ研修　食育・アレルギー対応	1名	有

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	19日 1名	19日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	1日 1名
全社員研修	11月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

近隣の方と自然に挨拶が交わされるような関係作りが確立できている。商店街ツアーや行事では、新たな出会いに恵まれたり、より深く交流できたり、と交流の幅が広がっている。地域の子育て拠点となれるよう、さらに交流の機会を増やし、関係性を深めていく。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：松原団地西口公園にて
商店街ツアー	週1回　主な行き先：肉屋日山、松原交番、草加市立中央図書館、草加八潮消防局、草加市文化会館、獨協大学前駅、カインズホーム等
世代間交流	6月11日に松並木にて清掃を通した交流実施
異年齢交流	2月19日に栄小学校にて小学生との交流会を実施
その他活動	12月6日に当保育園にて音楽演奏会を実施
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉　実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

コロナ禍では中止となっていた給食交流などが再開され、小学校との交流が活発となってくる。実際に小学校に訪れ交流できたことにより、小学校への期待を持つきっかけとなった。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
4月30日	栄中学校	1名	幼保小教育推進委員会	スタッフ間交流

6月11日	栄小学校	1名	授業参観(栄小教室)	スタッフ間交流
1月29日	草加中央公民感	1名	子ども教育連絡協議会	スタッフ間交流
1月30日	松原小学校 6年生	18名	交流給食	子ども間交流
2月19日	栄小学校 1年生、５年生	16名	わくわく交流会	子ども間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

個別支援計画の立案をもとに、スタッフ間での共有と理解、配慮事項などのすり合わせを行った。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・４～３月に計２回開催　参加者：全スタッフ

上記〈1〉の共有と日常的な情報交換を心掛け、子どもにとって安心できる環境を作る。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

各担任に引き継ぐと共に、全てのスタッフが一人ひとりを理解し関わっていく。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
17名	8名	4名	20名	0名	9名	11名	10名	4名	0名	0名	3名	86名

実施項目	詳細												
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　　来園延べ人数：81名												
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　⇒計０件相談実施済み												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計1回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	2名	0名	0名	0名	0名	2名

<table>
<tr><td rowspan="3">どろんこ
芸術学校
どろんこ
自然学校</td><td colspan="13">毎週（水）10:00～12:00　　⇒計０回実施済み
参加者延べ人数</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td></tr>
<tr><td>勝手籠設置</td><td colspan="13">（月）～（土）7:00～20:00　にて実施
門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置</td></tr>
<tr><td>ちきんえっぐだより</td><td colspan="13">毎月1日発行</td></tr>
<tr><td rowspan="3">青空保育
（支援センター主催）</td><td colspan="13">月1回　　公園名：松原団地西口公園にて　以下日程にて実施</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td></tr>
</table>

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２４年８月２３日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：９時００分
自己評価終了時刻：１６時００分
自己評価実施者：施設長、主任保育士、栄養士

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月２５日
アンケート回収率：１００％

多くの方にアンケートのご協力をいただけた。日々の保育を理解して下さるご意見や日々の保育、保護者対応、保育参加等様々な課題を見つけるきっかけとなった。いただいたご意見を大事にし、安心して預けていただける環境や気持ち良い園作りを今後も続けていけるようにする。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見　0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

No.	発生日	ケガ(事故)の状況とそれに対する対応結果
1	1月30日	（内容）15時25分から30分の間に園児2名が事務室前をしゃがみながら歩き、施錠されている門扉をそっと開け園外に出てしまう。スタッフの認知なし。その後、近隣スーパーを3店舗徒歩で移動し、最後に訪れた店舗で店員に保護される。園児2名ともに怪我などはなかった。 （対応結果） ・即日、自治体へ報告 ・保護者説明会を開催（現地・WEB 開催）、本件の要因と再発防止策について説明と質疑応答を実施。 ・後日、保護者説明会の議事録を全家庭に配信

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年3月１５日　　作成者：草加松原どろんこ保育園 施設長　中川　希

２０２４年度　越谷レイクタウンどろんこ保育園　事業報告書
（保育所における自己評価）

１．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

今後も０歳児から５歳児のつながりを大事にし、大きなお家として助け合い、支え合いながら思いやりあふれる園を目指し、スタッフ一人ひとりの丁寧な保育や養護への意識を身に付け、子どもも保護者も安心して過ごしていける越谷レイクタウンどろんこ保育園を目指した。

1. 興味関心を引き出し、一人ひとりのやりたい思いを受け止め見守ることで、満足して遊びこめる環境をつくり関わっていくことができた。

2. 考える力を身につけるために、気づきや発見、じっくり遊び込むことでの探求心に寄り添える保育を大事にしながら、学びに向かう力の基礎や土台を育んでいくことができた。

3. 今後も子どもの発達や姿に真剣に向き合いスタッフ一人ひとりがゾーン保育について知識を深め、定期的な環境構成や設定を行うことで、安心できる場はもちろん、学び関わり経験しながら成長できるゾーンを設け子どもたちにとって必要な成長を促した。

4. 今後も命をいただく意味を経験で実体験し、感じたことを受け止めながら食の大事さ尊さを経験できる機会を大事に大人も子どもも関わった。

5. 今後も自分自身が動き考え丁寧なマネジメントを行うことで、自園での円滑な保育運営を行っていけるように努めた

〈１〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	自己分析を行い自分自身と向き合いながら、自分の強みを強化し、弱みを強みに変えていく。
	実践結果	自分自身に向き合い、強みや弱みをしっかり受け止めていくために自己評価並びに定期的な振り返りをすることができた。
	次年度方向性	自分自身と向き合ったことで得意不得意を理解したことで、チームでの連携を強化していけるようにしていきたい。
2	計画・ねらい	自らの気づき、子どもの育ちや心の動きを読み取り、保育力を高める。
	実践結果	発達に応じた環境・関りを日々試行錯誤し、失敗や変化を恐れずに様々な事に挑戦し変化し続けることを一緒に楽しんでいくことを今後も努めたい。
	次年度方向性	発達を様々な視点でとらえ、丁寧に寄り添っていけるようにする。
3	計画・ねらい	養護的な環境に特化し、安心して過ごせる環境を考え、自立に向けた丁寧な養護的関わりを多くし丁寧な保育の質の向上に努めていく。

	実践結果	スタッフ同士での意見交換や発達の共有を行い、整理整頓された環境の中で、応答的または養護面で大事していくことをスタッフ自身が学び感じて丁寧な保育につなげていくことを今後も努める。
	次年度方向性	スタッフ同士で声を掛け合いながら、整理整頓された心地よい環境や丁寧な保育をさらに強化していけるようにする。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	家庭での様子を把握し、園での様子や育ちを共有していくことで成長を共に喜び合い、信頼関係を築く。
	実践結果	報告連絡相談をしっかり行った。 3分間お迎え対応の伝達内容の質の向上に向け、スタッフ育成に努めることができた。
	次年度方向性	保護者との情報共有をさらに強化し、保護者に寄り添い、さらなる3分間お迎え対応の強化に努める。
2	計画・ねらい	専門性を生かした支援とともに的確で相談をしやすいスタッフの雰囲気づくりに努め、保護者とのコミュニケーションを大切にする。
	実践結果	行事や保護者懇談会都等でのわかりやすく育ちの説明や共有を行い、子どもたちの成長を共に悩み、喜び関係性を深めていくことができた。
	次年度方向性	保護者と共に成長を喜び共有できる機会や、子どもたちへの経験を増やせる場を今後も創出する。
3	計画・ねらい	保護者の思いに寄り添いながら子育てへの不安や悩みに応じ、子どもの良さを伝え、保護者への感謝を忘れずに関わる。
	実践結果	保護者の変化を読み取り、声掛けをして子育てなどでの不安や悩みを和らげていく。また一人ひとり思いやり誠実に対応していくことができた。
	次年度方向性	保護者と立場になり、一緒に悩み解決に導いていけるように誠実さをさらに強化する。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域と密な関係性をもち、互いに協力し合える開けた場としての機能に努める。
	実践結果	越谷レイクタウン周辺の地域を活かし、青空保育・子育てサロン・園庭開放等で地域交流を深め地域を盛り上げより関係性を深めていくことができた。
	次年度方向性	さらなる集いの場としての役割を果たして開放された園となるようにしていきたい。
2	計画・ねらい	子育てに悩みや不安を抱えている地域の方にも、開かれた園となるように機会を作る。
	実践結果	育てサロンの声掛けや、団地内・園外先での細やかな配慮や挨拶を通し交流を大切にしていくことができた。
	次年度方向性	スタッフ一人ひとりの対応や挨拶をさらに強化することで足の運びやすい園を目指す。

3	計画・ねらい	地域の方との連携や交流を大事にし、ともに支え合う園となるように機会を作る。
	実践結果	近所や地域の方の特技や職を活かし、園での交流できる機会を増やして関り親しみを持てるようにしていくことがきた。
	次年度方向性	地域の方が園に遊びに来やすい雰囲気をさらに強化し、選ばれる園を目指す。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	何事にも真摯に向き合い、向上心をもって前向きに取り組める人材を育む。
	実践結果	定期的な勉強会を行い知識や専門性を深める。また園長大学Ⓡ・保育士大学等の学びに場を活用していくことを今後も努めたい。
	次年度方向性	スタッフ一人ひとりの専門性や学びを深め、子育ての質を強化していく
2	計画・ねらい	視野を広げ、報告連絡相談が密に行われ、風通しの良い同僚性や雰囲気を作る。
	実践結果	話し合いをする機会や時間を定期的に作り、コミュニケーションをとっていく。様々な視点から意見を交換し理解を深められるまで伝え、学びの場を作ることができた。
	次年度方向性	互いの思いを理解し合いながら、風通しの良い、情報共有が密に行われる場をさらに強化する。
3	計画・ねらい	職員の自己肯定感を高め、目標に向かって自律したスタッフ育成に努め向上していけるチーム力を作る。
	実践結果	互いを認め合い、一人ひとりが自分らしく保育を楽しむ中で気づきから考え行動するスタッフ自身の主体性を大事にしていくことを今後も努めたい。
	次年度方向性	チームでアウトプットを強化し、向上心を高め合い、認め合えるチーム力を大事にする。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	畑活動の充実と一つでも多くの経験と学びに繋げる。
	実践結果	苦手な事にどう立ち向かい挑戦するのか、葛藤する気持ちを大事にしながらコントロールする力を身に付け、自分にできることを見つけ、どんな形でも関わろうとする気持ちを育むことができた。
	次年度方向性	経験のないことや苦手な物事に大人自身も挑戦することで子どもたちへの意欲や興味関心を高めていきたい。
2	計画・ねらい	本物の環境や様々な経験ができる環境を整える。
	実践結果	魚の解体や食育、また土作りに特化しながら食の循環を実体験できるようにした。

	次年度方向性	継続し味噌づくりや梅干しづくり等発酵食品や知恵を知る機会となる活動を取り入れていく。命の大切さに触れ、経験を通し、感じ、学びを繋げる。

〈6〉子どもと真摯に向き合い保育を楽しむ

1	計画・ねらい	乳児期の特性や発達をとらえ、スタッフ一人ひとりが子どもと真剣に向き合い、悩み、考え、関わっていく環境を作る。
	実践結果	発達の理解、多様性を受け入れ、臨機応変にとらえることで常に子ども中心に考えるよりよい保育を模索することができた。
	次年度方向性	子ども一人ひとりの発達や気持ちに寄り添うだけでなくさらなる支援を考え取り組めるようにしていく。
2	計画・ねらい	子どもの気持ちに寄り添い安心して過ごす。
	実践結果	エピソードを持ち寄り、子どもの気持ちに気づき、スタッフ同士共有し学びの機会を作る。ポートフォリオを活用しながら子どもの気持ちの深読みし、気づきの学びにつなげていくことができた。
	次年度方向性	子どもの気持ちに様々な視点で気づき共有し、スタッフ自身の学びにさらにつなげていけるようにする。

〈7〉誰が来ても誰が見ても心地よい園

1	計画・ねらい	基本的な清掃や衛生環境を保ち継続しながら、スタッフ一人ひとりの美観的意識を高める。
	実践結果	清掃の習慣化や環境整理整頓しやすい導線等の仕組みを考えていくことができた。
	次年度方向性	常に整理整頓された心地よい環境を継続する。
2	計画・ねらい	スタッフ全員が主体的に考え自ら行動し、安心安全な環境を整える。
	実践結果	接遇への意識を高め相手の立場に立って物事をとらえられるよう日々のスタッフ育成並びに研修を取り入れる。常に思いやりをもって園にかかわるすべての方との関わりを深めていくことができた。
	次年度方向性	社会人としてのスキルや接遇、誰にでも思いやりを持って節度ある関わりを大切にする。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半：4～9月	36人	84人	108人	114人	108人	110人	560人
年度後半：10～3月	36人	84人	108人	114人	114人	108人	564人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	86人	75人	80人	77人	52人	68人	71人	74人	75人	75人	75人	75人	883人
うち0歳児	0人	0人	1人	2人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	3人

（解説）延長保育料が発生した人数を集計

〈2〉開所時間

７時００分～１９時００分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

常勤スタッフ	保育士	13人	看護師	1人	栄養士	2人	事務	1人
パートスタッフ	保育士	3人	補助	1人	調理	1人	用務	1人
	嘱託医	2人						

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容

園会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・当月の行動計画の成果発表 ・園内研修 ・次月の行動計画決定
給食運営会議	月1回	・食育計画策定 ・食育活動実施内容 ・喫食状況（残食の記録等）確認 ・検食簿指摘事項改善 ・配膳方法
事故防止委員会	月1回	・自園及び系列園で起きた事故のケーススタディと改善策策定 ・全園事故防止委員会での内容共有 ・当月のヒヤリハット、インシデント分析
ケース会議	月1回	・要支援児個別計画の振り返り及び省察 ・要支援児個別計画の見直し
学年会議	随時	・保育内容の確認と情報共有 ・子どもの様子の報告共有　など
週会議	随時	・行事内容の確認と情報共有 ・子どもの様子の報告共有　など

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
食育会議	年4回(5.8.11.2月)	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回(5.8.11.2月)	施設長
主任会議	月1回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	環境・衛生に関する事項の計画、実施

安全対策係	けが防止・危機管理マニュアル参照・施設内の設備点検
防火管理者	災害対策・避難訓練防災計画・自主点検
食品衛生管理係	衛生点検・給食提供マニュアル参照・提供食材の衛生管理
畑係	年間計画に基づく畑管理
生き物係	ヤギの管理・環境整備

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	地域との交流を図り、子どもの発達や保育の理解を深めることができた。
保護者・地域参加行事	保護者、地域と共同的に準備交流を深めながら行うことができた。

4. 保育支援

〈1〉保育･保育参加･保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	・子ども一人ひとりが安心して過ごし、応答的で丁寧な関わりを通し信頼関係を気づくことができた ・養護的関わりを丁寧に行っていくことで豊かな心を育んでいくことができた ・主体的で対話的な関わりを意識し、深い学びに繋げていくことができた ・気づき発見し探求心を深めることで、考える力を身に着けていくことができた
保育参加	4～3月まで　合計10名　が参加済み　（3月1日時点） ・様々ご意見をいただき、保育園の様子を共有しながら楽しく参加いただいた。
保護者面談および発達相談	4～3月まで　合計２名　が参加済み　　（3月1日時点） ・保護者の話や思いに耳を傾け、一緒に悩み解決に導けるよう い関わることができた。

〈2〉計画した年間行事の振返り

・別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	楽しい雰囲気の中で様々な食材に興味関心を持てるように素材の味を活かし一人ひとりが満足できる食事の時間を創る
	実践結果	盛り付けや見た目、提供の仕方を工夫し、自ら食べたくなる雰囲気を作り関わっていく。食事のタイミングや活動量を考え空腹を感じ食べる楽しさを育てることができた。
	次年度方向性	食への向き合い方や環境を丁寧に作っていくことで一人ひとりのタイミングで食を楽しめるように配慮する。
2	計画・ねらい	全スタッフが食事に携わり、食事の時間を大事にしながら発達段階・口腔発達を共通理解し、食事の仕方を身に着ける。
	実践結果	家庭と保育園との連携に重点を置いた。育ちの共通理解を定期的に進めた。
	次年度方向性	口腔発達のさらなる学びを深め、適切な離乳食の保護者と一緒に進めていけるようにする。
3	計画・ねらい	食の循環を意識し、無駄のない食の環境づくりを考える。
	実践結果	食や食材の循環を感じられるリアルな経験を大切にした。余り物や残食から作り出せるアイディアを引き出した。
	次年度方向性	さらなる経験を増やし、再利用や活用を考え、無駄のない食育活動に努めていきたい。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月13日／11月14日に実施
歯科検診	6月24日に保育園にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	①　6月14日に園にて手洗いうがい教室を実施 ②　1月30日に園にて歯磨き教室を実施 ③　12月19日に園にて性教育を実施
流行した感染症	① 6月に手足口病、園児10名感染報告有り。6月17日に終息 ② 12月にインフルエンザA型、園児12名感染報告有り。12月27日に終息

発作・痙攣等の対応	・なし
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月21日に園にてキックオフ研修を21名が受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ22名のうち、22名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	・新たに受講し習得なし ・本日時点で、在籍スタッフ22名のうち、10名が使用可能
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底するなど各園で記載

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（法定1回/3年）	業者による対象物の法定点検 2023年実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月 ⇒4月12日、10月11日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日　実施済み
	児童健康診断	内科健診　各年2回／6月13日、11月14日 歯科健診　各年1回／6月24日

運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時 ⇒4月12日、10月11日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間　実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	子どもたち自らが選択し、主体的に遊びこめる整理整頓された見通しのある環境を整える。
	実践結果	安心安全で心地よい環境を日々試行錯誤しながら環境設定を丁寧に行っていく。見通しをもった導入や準備が整えられ環境を考えることができた。
	次年度方向性	定期的な環境設定を行い、発達が季節・子どもの姿を捉え遊びこめる環境を整えていく。
2	計画・ねらい	四季を身近に感じながら様々事象を楽しみ経験できる場を作る。
	実践結果	大人も様々な経験をし、遊びの視野やアイディアを増やし遊びを楽しんでいく。
	次年度方向性	アイディアをさらに増やし、さらに子どもたちの楽しめる遊びを展開していく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	園庭テーブル2台	園庭	毎日	異常なし
2	室内テーブル2台	室内	毎日	異常なし
3	絵本棚	室内	毎日	異常なし
4	園庭おもちゃ棚	園庭	毎日	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	消防計画に基づき避難訓練を月1回実施。震度5以上の際は園が情報を発信し、安否、施設状況、避難先を情報共有する体制をとる。また、帰宅困難者対策を踏まえ、災難に備える。マニュアルの徹底。
2	実践結果	事故防止チェックリスト年４回、設備点検年４回を行い、事故防止の徹底を図る。またマニュアルにある園外保育、遊具等の保育士行動指針の徹底を図る。

3	実践結果	インシデント、ヒヤリハット報告の分析をする。 スタッフ間で状況を共有し、日々の保育の中で事故防止策を探る。
4	実践結果	年２回防犯チェックリストに従い確認し、併せて不審者訓練を実施する。 また訓練は避難訓練確保、不審者撃退、通報の訓練でスタッフ全員を対象とする。
5	実践結果	光化学スモッグが発生しやすい気象条件・影響・光化学スモッグ注意報を把握し、発令があった場合は内容に合った看板、貼紙などを掲示する。その際、園児・スタッフは室内で過ごす。
6	実践結果	リスク管理委員会によるリスクマネジメントを周知、徹底する
7	実践結果	園外・園内ハザードマップとお散歩マップの見直し・更新・共有。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

積極的に受け入れ、保育士の仕事内容や子どもとの関わりを通して保育の楽しさや面白さを知れる機会を持ち、同じ保育士の仲間とし温かく受け入れ実習生に必要な指導に努め保育士への期待を高められる機会にしていく。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
6月3日 ～6月17日	聖徳大学短期大学部 通信教育部保育科	1人	保育実習Ⅰ
7月22日 ～8月1日	道灌山学園保育福祉専門学校 幼稚園教諭・保育士養成科	1人	保育実習Ⅱ
8月2日 ～8月16日	越谷保育専門学校	2人	保育実習Ⅱ
8月19日 ～8月30日	越谷保育専門学校	2人	保育実習Ⅱ
9月2日 ～9月13日	埼玉県立大学 保健医療福祉学部社会福祉子ども学科	1人	保育実習Ⅱ
2月3日 ～2月19日	十文字学園女子大学 人間生活学部人間福祉学科	2人	保育実習ⅠA
2月20日 ～2月27日	千葉こども専門学校	1人	観察実習

3月4日 ～3月17日	総合学園ヒューマンアカデミーチャイルドケアカレッジ こども保育専攻	1人	保育実習Ⅰ

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
9月9日 ～9月10日	越谷市立南中学校	4人
11月21日 ～11月22日	越谷市立大相模中学校	5人

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	12日 23名	10日 22名	14日 20名	12日 20名	9日 19名	13日 20名	11日 23名	8日 22名	13日 22名	17日 22名	21日 22名	19日 22名
人権チェック 虐待防止研修	12日 23名						11日 23名					

〈2〉外部研修への出席

主催	研修名	出席	施設長推薦
埼玉県保育士等 キャリアアップ研修	キャリアアップ研修	10名	無
令和６年度どろんこ会キャリアアップ研修	キャリアアップ研修	1名	無

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 （子育ての質を上	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	21日 1名

げる会議）												
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	11月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマ

地域に開かれた憩いの場となる保育園であるために、子育て支援を行い地域の方にも寄り添いながら地域とともに子育てを楽しめる保育園となる。また、地域の方と深く関わり互いに支えあえるよう開放的な園となる

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：見田方遺跡公園にて　　参加延べ人数：２名
商店街ツアー	週1回　主な行き先：PETEMO、無印良品、Honda Cars、サーティーワンアイスクリーム、Zoff、マルエツ、カスミフードスクエア、ネッツトヨタ埼玉、果汁工房果琳、はま寿司、越谷市消防局大相模分署、セカンドストリート、Fly station 等
世代間交流	9月9日に保育園にて中学生との交流を実施
異年齢交流	1月13日に大相模小学校にて5年生との交流を実施
銭湯でお風呂の日	月1回 <3～5歳児> 実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

就学に期待を持ちスムーズな接続を実現するために定期的な小学校見学や交流会を計画的に行い
スタッフ自身も教職員との交流を行うことで、「幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿」
を理解し就学に向けて必要な関わりの意識を高めていく。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
8月2日	幼保小連携推進研修会	1名	増林地区センター	幼保小の円滑な接続を目的とした研修会
10月26日	近隣小学校	19名	運動会（明正小学校）	子ども間交流
12月23日	大相模小学校 5年3組	19名	手作りおもちゃプレゼント	スタッフ間交流
1月頃	大相模小学校 5年2組 2年生	60名	ルールのある遊びを通し触れ合い交流	子ども間交流
2月頃	明正小学校	1名	連絡会	スタッフ間交流
2月頃	川柳小学校	2名	連絡会	スタッフ間交流
2月頃	大相模小学校	1名	連絡会	スタッフ間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

就学に期待を持ちスムーズな接続を実現するために定期的な小学校見学や交流会を計画的に行い
スタッフ自身も教職員との交流を行うことで、「幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿」
を理解し就学に向けて必要な関わりの意識を高めていく

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・４～３月に計１２回開催　参加者：１６名
　園全体全スタッフで関わり、チームとして方向性やねらいを明確にしながら、要支援児自身が安心して成長できる関わりを定期的に共有し理解を深めていく

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

進学先や小学校、越谷市子育て支援センター、埼玉県越谷児童相談所、越谷市教育員会に必要に応じて相談する

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
34名	32名	54名	30名	29名	38名	60名	62名	58名	55名	55名	55名	562名

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　　来園延べ人数：391名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　⇒計0件相談実施済み
自然食堂 親子ランチ 交流	第1・3（水）10:00～12:00　　⇒計24回実施済み 参加者延べ人数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	0名	0名	0名	0名	4名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	4名

どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	隔月各1回10:00～11:00　　⇒計１２回実施済み 参加者延べ人数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	0名	0名	0名	4名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	4名

勝手籠設置	（月）～（土）7:00～19:00　にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育 （支援センター主催）	月1回　　公園名：見田方遺跡公園にて　以下日程にて実施

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	0名	0名	0名	0名	2名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	2名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２４年６月１４日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：８時３０分
自己評価終了時刻：１７時３０分
自己評価実施者：施設長・事務員

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月２５日
アンケート回収率：８８．２％

園をより良くしようとする保護者の方のたくさんのご意見を聞くことができ、さらなる改善に努め、子ども達にとってより良い環境と共に園運営に今後も努めていきたいと思う。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見　0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ　0件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　作成者：越谷レイクタウンどろんこ保育園 施設長　榊原夏美

２０２４年度　駒沢どろんこ保育園　事業報告書
（保育所における自己評価）

１．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

園目標　【ともに学び　ともに歩み　個々が輝ける場所に】

併設園の理念【子どもが自分で考えて生活する家　　身近な大人がすべての子を育てる家】

上記２点を念頭に置き、日々の保育、行事などすべての面において子どもたちにとって最善の利益は何か、両スタッフ間で、追求しながら保育にあたっていきた。
園とつむぎとの関わりが深くなり、両スタッフが情報共有、子ども理解を深めることで、子ども同士の関わりも深まってきた。今後もすべての園児、スタッフの壁をなくし、併設園の理念を全うできるように、学びと研鑽を継続していきたい。

「子ども自らが経験を選択できる環境作り」を行うことで、それぞれの子どもが思う存分に遊びこめる環境ができ、その経験を重ねることにより、得意なこと、個々が輝けることの糸口になるのではないかと考える。
今後も選択できる玩具や道具、素材を増やすことで遊びのバリエーションを広げ、個々の子どもの要望に対応できるようにしていきたい。
その実現のためにも、各年齢の発達の理解を深め、子どもの興味や関心に応じた環境を作れるように、スタッフ全体の知識と保育スキルの向上に努めていきたい。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

１	計画・ねらい	子ども自らが経験を選択できる環境作り
	実践結果	・園会議にて各年齢の発達を学びあい、子どもの興味や関心に応じた環境構成の実践 ・玩具や道具を整えるとともに、正しく使用できるように子どもたちとの話し合いの場を設ける ・定期的に環境構成を振り返り、再構成の実践 ・日々、環境と玩具の安全確認
	次年度方向性	・今後も定期的に環境構成を振り返り、子どもたちの興味や関心、発達に応じて環境構成を行っていく ・子ども自身が選択し、遊びこめる環境について、スタッフ間での意見交換を行っていく ・日々、環境と玩具などの点検を行い安全に遊びが行えるようにする
２	計画・ねらい	実体験を通して生活力を身に付ける

	実践結果	・日々の日課の実践 ・コマや羽根つき、かるたなどの伝承遊びの実践 ・年長児を中心に毛糸や布を使用した制作を行う ・昆虫や小動物の飼育 ・遠距離散歩
	次年度方向性	・針仕事や木工制作の時間を確保する ・伝承遊びの幅を広げる
3	計画・ねらい	就学を見据えて１０の姿を会得していく
	実践結果	・学校公開日を利用して、実際に小学校に足を運び小学校の環境や授業に触れる機会を持った ・年間を通して園内研修にて１０の姿に関して学びを実践
	次年度方向性	・学校公開に留まらず、小学校教諭との意見交換や学びの場を設ける ・小1架け橋プログラムや小学校指導要領に関しての学びの場を設ける

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者とのコミュニケーションをこまめにとることで、信頼関係を築き相互理解を深めていく
	実践結果	・登園時、降園時の丁寧な対応（３分対応）を心がけてきたが、伝えきれないこともあった。 ・行事を中心とし活動内容の可視化のため、玄関先にドキュメンテーションや制作物を掲示
	次年度方向性	・連絡帳を有効利用し、園での様子をお伝えしていく ・登園、降園時の丁寧な対応の徹底
2	計画・ねらい	日々の保育の可視化により、開かれた園づくりを行っていく
	実践結果	・連絡帳、タイムラインにて、日々の保育内容を伝える ・ドキュメンテーションやポートフォリオなどを通して、行事開催に至るまでの取り組みや経緯を伝えてきた ・保育参加に多くの保護者様の参加あり
	次年度方向性	・ドキュメンテーションなどを利用して、保育内容や園行事を事前に知らせることで、園での活動やお子様の様子の理解を深めていただけるようにする
3	計画・ねらい	個人面談、子育て相談など適宜実施し、子育不安の低減に努める
	実践結果	・幼児を主として個人面談の実施 ・随時子育て相談、個人面談を実施
	次年度方向性	・5歳児は就学を見据えて、10月ごろより個人面談を実施する ・希望に応じて随時、個人面談を実施する ・園での生活状況に応じて、個人面談や育児相談の場を設ける

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	青空保育、ちきんえっぐの実施にて、保育園での保育や活動内容について知っていただく
	実践結果	・毎月第一木曜日に青空保育実施したが、参加者が非常にすくなかった また、ちきんえっぐに関しても、開催の場は常に設けていたが、参加者は極少数であった
	次年度方向性	・青空保育、ちきんえっぐなどの子育て支援活動を、ブログ、SNS などを利用して広く知らせていく ・園入り口の留まらず、子育て世代の方が利用される施設などに行事予定の掲示を依頼して、参加者を増やしていく
2	計画・ねらい	子育て相談の実施により、地域の子育て支援の促進に努める
	実践結果	・0歳児や出産を控えた方の子育て相談を実施 ・入園を検討中の方の育児相談を実施
	次年度方向性	・園入り口の留まらず、子育て世代の方が利用される施設などに行事予定の掲示を依頼して、参加者を増やしていく
3	計画・ねらい	どろんこ祭り、保育所体験などを通して、園の行事や保育参加の推進
	実践結果	・どろんこ祭りには、近隣にお住まいで就園を検討している方、卒園児を主として多くの参加あり ・小学生を主として多数の参加あり
	次年度方向性	・子育て世代の方や、利用される施設などに行事予定の掲示を依頼して、参加者を増やしていく ・小中学生向けの、行事予定、活動内容の広報活動を行い、参加者を増やしていく

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	個々のスタッフの特性や方向性に合わせ、育成計画を作成
	実践結果	・年度当初に個別に面談を実施し、個々のスタッフに応じて目標を設定 ・中間面談を実施し進捗状況を確認、目標達成に至るよう助などのサポートをする
	次年度方向性	・今年度の振り返りを行ったうえで、個々に応じた目標を設定する ・進捗状況に応じて、適宜個人面談を実施する
2	計画・ねらい	園内研修の実践と充実
	実践結果	・年間計画に沿って園内研修の実施 ・研修で学んだことを園会議で発表し、スタッフに共有してきた
	次年度方向性	・園会議での学びの時間を増やし、全スタッフのスキルと知識の向上に努める

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	残渣を前年度の７０％を目標とし、減少させていく
	実践結果	・月によって増減はあるものの、おおむね70%の減少は達成できた
	次年度方向性	・月によっての増減の幅を小さくしていけるように、戸外での運動量を増やし食欲の増進を進めていく ・食育活動を促進し、食に関して関心を高めることで、食が進むようにしていく ・野菜は皮付きのまま調理を継続し、廃棄部分を減らす
2	計画・ねらい	継続したコンポストの運用
	実践結果	・コンポストの運用は行ってきたが、肥料として利用できないこともあった
	次年度方向性	・コンポストの運用の方法に関して再考し、畑の肥料として運用できるようにしていく ・子どもたちと食の循環について話し合いの場を設け意識を高めていく
3	計画・ねらい	コンポストを運用し、畑の肥料づくりを行う
	実践結果	・残渣を利用して肥料づくりを行い、畑に持参し肥料として利用はしたが、継続しての使用ができなかった。
	次年度方向性	・コンポストの運用方法について再検討し、通年畑の肥料として使用できるようにする ・子どもたちとも話し合い、園全体としてコンポストについて認識を高めていく

〈6〉安全に配慮した環境づくりと怪我の低減（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

1	計画・ねらい	園内、園外危険個所を認知し、危険を回避する
	実践結果	・ハザードマップの作成し、状況の変化に応じて更新してきた ・チャットや園会議の場を利用して危険個所をスタッフ間で共有し、怪我や事故の低減に努めてきた ・園内、玩具、遊具の点検を実施
	次年度方向性	・年間を通して受診に至るけがはかなり減ったので、今後もハザードマップの運用、スタッフ間での情報共有を行い、さらに怪我の低減に努めていく
2	計画・ねらい	ケガや事故が起こる原因を究明し、再発防止に努める
	実践結果	・クラスごとにヒヤリハット、インシデント報告書を作成の徹底を行い、事故防止に努めてきた ・事故防止委員会にて、スタッフ間で意見交換し、園会議で取り上げ園全体での危機管理意識をたかめてきた

	次年度方向性	・ヒヤリハット、インシデントの作成は継続して行い、内容分析力を高め、怪我や事故ぼうしにつなげていく ・リズム体操、運動遊びを通して体幹をきたえ、怪我をしにくい体づくりを行う
3	計画・ねらい	危機管理や応急処置についての見識を深め、全員が正しく使用や対応が行えるようにしておく
	実践結果	・半期に一度、応急処置法についてロールプレイングを通して、使用方法を確認してきた ・園会議にて定期的に嘔吐処理、午睡チェックなど、確実に行えるようにしてきた
	次年度方向性	・定期的に嘔吐処理、午睡チェック、応急処置などロールプレイングを行い、すべてのスタッフが確実に行えるようにしていく

〈7〉併設園としてのさらなる深化（施設長が力を入れて取り組むと決めた事柄）

1	計画・ねらい	【駒沢としてのインクルーシブのテーマの確定】 テーマ：一人ひとりの子どもを理解し、『駒沢』として全員で子育てを行っていく
	実践結果	・両スタッフ参加によるケース会議や園会議にて、振り返りの実施をするとともに、状況に応じて両スタッフで情報共有と話し合いを重ねてきた ・行事の運用、参加方法に関して、スタッフ間での話し合いを重ね、当日を迎えてきた
	次年度方向性	・日々の生活や行事に関しても、個々の成長や発達に合わせた保育や支援を行えるように、スタッフ間での有効な意見交換の場設けていく
2	計画・ねらい	つむぎとの活動内容の発信
	実践結果	・園見学などでは併設園の取り組みを伝えてきたが、幅広くの発信には至っていなかった
	次年度方向性	・入園説明会、保護者懇談会の場でつむぎとの取り組みや活動内容を発信していく
3	計画・ねらい	園とつむぎとの知識やスキルの共有と向上
	実践結果	・年間を通して園会議で学びの場を設け、保育技術、支援方法について学び合いを行なってきた
	次年度方向性	・さらに両スタッフの専門性を生かした学びの場を設け、スタッフ全員のスキルと知識の向上を目指していく

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半：4~9月	38人	87人	108人	131人	125人	132人	621人
年度後半：10~3月	54人	90人	108人	129人	123人	128人	632人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	90人	89人	72人	86人	56人	46人	64人	53人	88人	52人	50人	50人	796人
うち0歳児	0人	0人	0人	3人	1人	3人	0人	3人	1人	0人	0人	0人	11人

（解説）

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	0人	6人	18人	6人	6人	8人	17人	40人	56人	0人	0人	0人	157人
うち0歳児	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人

（解説）０歳児の一時利用事業は実施していない。
２０２５年１月より一時保育を中止。

〈2〉開所時間

７時００分～２０時３０分

〈3〉スタッフ構成　（３月１日時点）

常勤スタッフ	保育士	17人	看護師	１人	栄養士	４人	調理員等	１人

パート スタッフ	保育士	1人	補助	1人	調理	1人	事務	0人

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・つむぎとの情報共有と振り返り ・事故防止委員会 ・共有事項の確認
給食運営会議	月1回	食育計画の進捗状況、アレルギー対応、喫食状況確認
事故防止委員会	月1回	自園、他園で起きた事故をもとに、再発防止策検討
ケース会議	月1回	個別対応を要する子の情報共有、対応の検討
リーダー会議	月1回	園とのつむぎの代表者により、保育・支援計画の確認 情報共有

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
食育会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長
主任会議	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士
併設園会議	年2回	施設長

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	園内の安全管理や備品などの管理・衛生点検
安全対策係	ヒヤリハット・インシデント振り返り、ハザードマップの見直し、事故防止委員会の運営
防火管理者	避難訓練の立案・実施・反省
食品衛生管理係	食材の衛生管理・在庫確認と管理・給食運営会議の運営
畑係	畑の管理・栽培計画の進捗確認
生き物係	飼育動物の管理

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	7月20日(土)に、どろんこサポーターズの皆様のお力添えを頂きながら、大盛況のなか無事に開催することが出来た。 事前から園スタッフ、つむぎスタッフを入念に計画、準備を進めてきたもあり、前日も短時間で設営も進み、祭り当日も円滑に祭りが開催されていた。 今年度同様に乳児、幼児の2部入れ替え制での実施を検討していきたい。

4. 保育支援

〈1〉保育･保育参加･保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	日課の実施、戸外活動、自然体験、食育体験、異年齢保育、インクルーシブ保育に重きを置き日々の保育を行ってきた。 日課として毎朝リズム体操を行うことにより、転倒による怪我の激減に繋がっていると感じており、受診を要する怪我は前年度に比べてかなり減少した。園児にも日課の大切さを伝え、継続して行っていきたい。 食育活動においては畑活動、クッキングに留まらず、食具の使い方、食事の際のマナー、各国の食事事情、三色食品群、消化と排せつと、多方面から食育活動を行ってきた。 併設園としては日々の保育、行事などすべての面において園とつむぎとの関わりが深くなり、両スタッフが情報共有、子ども理解を深めることで、子ども同士

	の関わりも深まってきた。今後もすべての園児、スタッフの壁をなくし、子どもたちにとって最善の利益は何か、常にスタッフ間で追求しながら保育にあたっていきたい。
保育参加	4～3月まで　合計48名　が参加済み　　（3月１日時点） ・幼児クラス特に5歳児を中心に多くの保護者様に保育参加をして頂いた。 園での生活やの流れ、活動内容、保育士、友だちとの関わりを中心に、子どもたちの、姿を実際に見ていただくことで、日々の保育にご理解を深めていただくことができた。 また、給食を子供たちと一緒に召し上がって頂くことで、バイキング給食の様子や、食事の際の環境、食べ進みの様子も見て頂くことができた。
保護者面談および発達相談	4～3月まで　合計80名が参加済み　　（3月１日時点） ・就学、進級、家庭での生活習慣などの相談が主となる。 ・乳児においては、食習慣、生活習慣、生活リズム、トイレトレーニング、進級に向けての相談が主となる。

〈2〉計画した年間行事の振返り

・別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

１	計画・ねらい	食べたいときに、食べたい場所で、食べたい人と、食べたいだけ食べられるような環境づくりを、スタッフ一体となって行い、ともにテーブルを囲み食する
	実践結果	・バイキング形式の配膳の実施 ・子どもが食器を持って行き来しやすい、環境設定を構築する
	次年度方向性	・バイキング形式の配膳は定着しつつあるが、多く盛り過ぎて残したり、好みの物しか盛り付けなかったりする様子が見られるので、自分の適量を認識できるように援助していく
2	計画・ねらい	魚などの解体を体験することで、命を頂くことの意味や尊さを知る
	実践結果	・イワシの手開きや絵本などを通して命の頂くことの意味や尊さを知る活動は通年行ってきたが、大きな魚を使っての解体はできなかった
	次年度方向性	・大きな魚を使用しての解体を実施し、命をいただくことの意味や尊さを実感できるようにする
3	計画・ねらい	栽培・収穫した野菜をクッキングで使用するなど、作る楽しさ、食べる楽しさを実感し相乗効果を得られるようにする
	実践結果	・子どもたち自身で栽培した野菜を収穫した度に、クッキングを実施 ・収穫した野菜に値段をつけたり、看板を作ったりして販売を実施

	次年度方向性	・通年畑活動が活性化するように年間の栽培、収穫計画を立てる ・収穫した野菜をクッキングや加工することで、栽培することの楽しさを実感できるようにする

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	６月11日/11月19日保育室にて実施
歯科検診	６月26日保育室にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	①　8月29日に保育室にて歯磨き指導を実施 ②　12月3日、4日保育室にて性教育を５歳児のみに実施
流行した感染症	①　11月に水痘、園児1名感染報告有り ②　12月に水痘、園児1名感染報告有り ③　1月に水痘、園児７名感染報告有り ④　2月に水痘、園児5名感染報告有り
発作・痙攣等の対応	８月26日に熱性痙攣は症の為、救急車要請
エピペン使用できるスタッフの状況	・３月21日に駒沢どろんこ保育園、園内研修にて、鈴木恵美、金子睦実、計２名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ24名のうち、24名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況	・8月15日に中目黒どろんこ保育園にて救命救急上級研修を髙井めぐみ、永井みつ紀、岡田里菜、須藤涼太、堤虹太、計５名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ23名のうち、６名が使用可能
その他保健に関する取組	手洗い指導を実施 ・消毒・換気を徹底する。 ・心肺蘇生、AED操作の周知と講習、嘔吐処理の確認とロールプレイングを実施する ・SIDS 防止、午睡チェック方の徹底の為、ロールプレイング実施

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回/15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表/毎日	毎日実施
	衛生管理点検表/毎週	毎週金曜日実施
	衛生管理点検表/毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿/毎日	毎日実施
健康管理	予防接種状況･既往歴の確認/ 保険証期限確認	年2回/4･10月 ⇒4月5日、10月1日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回/20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回/6月11日、11月19日 歯科健診 各年1回/6月26日
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回/4･10月の園会議時 ⇒4月12日、10月4日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回/園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	ハザードマップの作成、有効利用による 怪我の低減
	実践結果	・ハザードマップの作成、状況に応じて随時更新する ・危険個所をチャットや園会議にてスタッフ間で共有し、再発防止につとめてきたところ、大きな怪我や事故を防ぐことが出来た ・前年度と比較し、受診する怪我の低減に繋がった
	次年度方向性	・ハザードマップの作成、定期亭な更新、環境の変化があったときは随時更新し、スタッフ間での共有を徹底し、さらに怪我の低減に努めていきた

		い
2	計画・ねらい	園内、園外危険個所を認知し、子ども自らが興味や関心のもとに、安心して遊び込める環境作り
	実践結果	・園会議にて通年環境構成の研修を実施 ・スタッフ間で情報共有を行い、子ども自身が選んで遊べる環境構成を考察してきた ・園内、玩具、遊具の点検を日々行ない、危険個所は即時改善に努めてきた
	次年度方向性	・子どもの成長、興味、関心に基づき、遊びこめる環境づくりを継続していくため、定期的に環境構成を振り返る機会を設ける
3	計画・ねらい	衛生面に配慮し快適に遊び込める環境整備
	実践結果	・日々の清掃の実施定期的に玩具、遊具、施設内消毒を実施し、感染予防に努めてきた
	次年度方向性	・日々の清掃に加え、室内の整理整頓を徹底していき、危険物や不要物は適宜処分していく ・清掃、消毒方法を園会議にてロールプレイングにて、すべてのスタッフが同様にできるようにしていく

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	座卓テーブル	幼児保育室	毎日	異状なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	災害対策 ・防災計画の作成と届出 ・毎月一回の避難訓練、消火訓練の実施 ・災害管理マニュアル、災害フローチャートの整備、確認 ・災害用の備品の管理と点検
2	実践結果	ケガ、事故防止対策 ・ケガ、事故防止の為の危機管理マニュアルの設置と理解 ・SIDSの防止策を徹底周知と定期的にロールプレーを行う ・事故報告簿、インシデント・ヒヤリハット報告書の検証 ・投薬方法、アレルギー食の提供方法の徹底 ・保育士の上級救命救急資格取得、エピペン講習
3	実践結果	防犯対策 ・危機管理マニュアルの不審者対策に則り、不信者侵入訓練の実施

		・カメラ付きインターホンでの防犯対策 ・送迎者登録カードによる園児の引き渡し
4	実践結果	光化学スモッグ ・光化学スモッグの知識の習得 ・光化学スモッグ注意報発令メールの配信システムへの登録

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

今年度は実習生の受け入れは実施されなかったが、実習生を受け入れることで保育士の養成に寄与できるに留まらず、自園の運営の振り返りやスタッフのスキルアップにも繋がるので、今後も希望する学生を積極的に受け入れていきたい。

〈2〉実習生の受入

今年度は実習生の受け入れはなし。

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
3月10日	広尾学園高等学校	1人
6月26～28日	目黒区立大鳥中学校	2人

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	12日 26名	10日 24名	14日 21名	12日 20名	16日 21名	13日 23名	4日 23名	8日 23名	13日 19名	10日 18名	15日 21名	19日 23名
園内研修	12日 26名	10日 24名	14日 21名	12日 20名	16日 21名	13日 23名	4日 23名	8日 23名	13日 19名	10日 18名	15日 21名	19日 23名

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦

5月13日 6月21日 9月13日 1月14日 3月26日	世田谷区	世田谷区ミドル研修2年次	1名	有

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	20日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	11月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	1月31～2月13日に1名のスタッフがアスモンスミーネ保育園にて勤務											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

〈5〉発達支援つむぎ　駒沢ルームとの研修会

毎月テーマに合わせて園とつむぎの両スタッフが参加し勉強会を行い、**それぞれの年齢の成長や**発達、特性などを学び合ってきた。また、心理的な理解、支援や援助の方法を共に学び合うことで、個別支援を要する子どもに対しても、全スタッフが柔軟な対応ができることを目指してきた。
次年度はさらに、「インクルージョン」「インクルーシブ」とはどんなことか、具体的にどのような運営が出来るのかを考え、駒沢ならではの在り方を構築していきたい。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

世代間交流においては、お互いの日程調節が難しく正和クラブとの交流がやや希薄になってしまった、次年度は正和クラブの予定に寄り添うことで、定期的な交流が持てるようにしていきたい。
園見学や子育て相談のため、園に足を運んでくださるご家庭は多かったが、青空保育やちきんえっぐの参加者はごく少なかった。
次年度は取り組みや実施日を多くの方に知っていただくため、散歩先にチラシを持参し直接お渡し

する、子育て世代が足を運ぶ施設での掲示先を増やしていきたい。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：深沢2丁目緑地公園　　参加延べ人数：15名
商店街ツアー	週1回　主な行き先： ピザハット、駒沢パークカフェ、叙々苑、代官山青果店、西友、サミット、LORObicycies、一風堂、ローソン等
世代間交流	老人リハビリ施設（正和クラブ）訪問を実施
異年齢交流	小学生の保育体験を希望に応じて適宜実施
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉　実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

小学校の運動会見学や、小学校教諭との勉強会は相互の予定が合わず、実施にはいたらなかった。今年度は近隣の3つの小学校の学校公開日に参加することで、実際に授業を見学することができた。学校公開日は各学校で定期的に実施されており、参加には多くの制限はないようなので、次年度は就学先の小学校の公開日を年度当初に調べ、複数回学校公開をはじめとして、参加可能な行事に参加できるように計画、準備をしていきたい。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
2月6日	深沢小学校	20名	学校公開	授業を見学 子ども間交流
2月10日	等々力小学校	21名	学校公開	授業を見学 子ども間交流
2月20日	東深沢小学校	22名	学校公開	授業を見学 子ども間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

要支援児においては、各クラスの担任を中心個々に応じた計画を立案してきた。定期的に振り返りを行うことで、個々の成長や特性を捉えたものとするようにしてきた。
計画に関しては、スタッフ間でも共有することで、それぞれの子どもの理解と適した支援や援助を行えるようにしてきた。
個々の成長差はあるが、年度当初からの経過を見ると着実に成長していることを実感できる。
今年度の取り組みと成長を振り返り、次年度の支援計画に反映させて行きたい。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

４～３月に計12回開催　参加者：１０名
４～３月に計１２回開催予定　参加者：スタッフ12名の予定
日々の観察をもとに経過報告、対応策検討し、園、つむぎの全スタッフが共通認識のもと保育にあたるようにする。
毎月月末にケース会議を実施してきた。園とつむぎの両スタッフ間で振り返り、情報共有、意見交することで、子ども理解を深め、個々に応じた援助が出来るようにしてきた。
また、ケース会議で得た情報や関わり方に関しては、園、つむぎスタッフ全員が園会議で共有することで、個々に応じた関わりや援助ができるように努めてきた。
今後も継続して行うことにより、適切な援助が継続していけるように、両スタッフ間での共有事項の徹底と意見交換を行っていきたい。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

クラス担任と新年度担任で年度末に引き継ぎし、継続した支援が行えるようにする。
就学児に関しては幼保連絡会、要支援の場合は養護教諭や発達支援担当者との引継ぎを行う。
５歳児においては、12月頃より就学を見据えて全家庭との個人面談を実施してきた。園での生活状況を伝えるとともに就学が円滑に行えるように援助してきた。
また、就学予定の小学校の担当教諭と、就学に必要となる情報共有と引継ぎを行った。

進級児においては、面談希望の有無を尋ねたうえで面談を実施し、園での様子をはじめとして、生活習慣、友だちとの関わり、食事、トイレトレーニングについてなどお伝えすることで、親子ともに安心して園生活と進級ができるようにしてきた。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	7名	4名	94名	4名	4名	3名	6名	4名	2名	2名	2名	128名

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　　来園延べ人数：20名

<table>
<tr><td>子育て相談</td><td colspan="13">（月）～（土）13:00～16:30　　⇒計７件相談実施済み</td></tr>
<tr><td rowspan="3">自然食堂
親子ランチ
交流</td><td colspan="13">毎週（水）10:00～12:00　　⇒計１回実施済み
参加者延べ人数</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>2名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>2名</td><td>4名</td></tr>
<tr><td rowspan="3">どろんこ
芸術学校
どろんこ
自然学校</td><td colspan="13">毎週（水）10:00～12:00　　⇒計●回実施済み
参加者延べ人数</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td></tr>
<tr><td>勝手籠設置</td><td colspan="13">（月）～（土）7:00～20:00　にて実施
門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置</td></tr>
<tr><td>ちきんえっぐだより</td><td colspan="13">毎月1日発行</td></tr>
<tr><td rowspan="3">青空保育
（支援センター主催）</td><td colspan="13">月1回　　公園名：深沢2丁目公園にて　以下日程にて実施</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>4名</td><td>0名</td><td>4名</td><td>0名</td><td>2名</td><td>10名</td></tr>
</table>

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２４年９月３０日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：１６時００分
自己評価終了時刻：１８時００分
自己評価実施者：施設長、主任、各年齢リーダー

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月２５日
アンケート回収率：６７％

頂いたご意見、ご提案に関しては真摯に受け止め、スタッフ間で共有し改善すべきところは改善し、保護者様が日々安心してお子様を預けられる園運営を行えるようにしていきたい。
また、園の取り組みやスタッフの関わりに、共感や感謝のお言葉も多数頂戴したことは、感謝の念に堪えず、スタッフのモチベーションの源にもなっている。
今後もスタッフの接遇力、保育スキル、子ども理解の向上に努め、保護者様の思いに寄り添えるようにしていきたい。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見　　0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む）　0件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年3月１５日　　作成者：駒沢どろんこ保育園 施設長　高井めぐみ

２０２４年度　メリー★ポピンズ 清瀬ルーム　事業報告書
（保育所における自己評価）

Ⅰ．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

・一人ひとりの子どもへの理解を深めるため、昨年度に引き続きポートフォリオ作りに本格的に取り組んだ。毎月更新したものをご覧頂く事により子どもの成長を共有し子育ての悩みを共に解決していった。更に園での取り組みを毎月クラスごとにドキュメンテーションで公開して、保育内容への理解を深めて頂いた。幼児クラスへ転園していく子どもたちには発達の連続性を見通し、それぞれの子どもに最適な転園先を保護者からの相談の元、アドバイスをしていった。
・畑活動や食育活動を通して乳児にも分かりやすい食の循環や環境教育を実践できた。
・開かれた保育園づくりに努め地域住民に園の存在を知ってもらい、いつでも気軽に立ち寄ってもらえるようにしていった。園のフェンス越しに畑を見ていただくことで自然と会話が弾み園に興味を持ってもらえていた。また、フェンスのポスターも効果的で地域活動事業の訪問者数も増えている。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	・子どもの発達への理解を深めるためポートフォリオづくりを継続し、保育の質の向上を図る。また、保育内容の可視化に向け、ドキュメンテーションの充実を目指す。
	実践結果	・ポートフォリオづくりを継続していることで、子ども理解が深まった。また、ドキュメンテーションを園会議で発表しテーマを共有する事でクラスの保育内容が可視化され園全体の保育の質が向上していった。
	次年度方向性	・ポートフォリオやドキュメンテーション作りは継続していくが内容の充実を図り子どもの育ちを見通した環境構成に繋げていけるようにする。
2	計画・ねらい	・畑活動や食育活動を通して食材や食の循環を知り、環境へ意識を育む。
	実践結果	・食の循環を知るため、調理くずを使用した堆肥づくりを毎日の日課で大人と一緒に行った。作った堆肥で野菜を育て【育てる→収穫する→食べる→育てる】を体験できた。 ・魚を捌く体験活動や野菜以外の命の教育を絵本などで乳児なりの理解ができるような形で保育に取り入れることが出来た。大人は命を頂く活動として鶏を絞めて食す体験を近隣園で経験することが年度内で出来なかった。
	次年度方向性	・たい肥作りは引き続き継続していく。 ・魚を捌く活動や移動保育先でヤギや鶏に触れ合うことで、乳児が理解できるような命の教育を行う。 ・大人は命を頂く活動として鶏を絞めて食す体験を近隣園で経験する。
3	計画・ねらい	・発達の連続性を捉えるために幼児と交流し、小学校への接続を見据える
	実践結果	・夏休みだけでなく冬休みや春休みにも系列園の卒園児（小学生）がボランティアで来てくれて交流が図れた。また、園外保育や移動保育などで近隣園（系列園）を訪問し、幼児と交流した。
	次年度方向性	・近隣の卒園児に、引き続きボランティアを募り夏休みだけでなく冬休みや春休みにも来てもらい小学生との交流の機会を増やす。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	・保護者との信頼関係の構築のため、日々真摯に丁寧に誠意のある対応を心がけ、子どもの育ちを共有していくようにする。
	実践結果	・３分間対応を丁寧に行いながら、相談しやすい関係づくりに努めた。また、11月には全園児の個人面談を行った。
	次年度方向性	・個人面談を行うことで家庭の様子がよく分かることから来年度は6月頃に全園児の個人面談を計画していく。
2	計画・ねらい	・待った気がしないお迎え対応、待たされたと思わせない仕掛けづくり
	実践結果	・ポートフォリオに加え、クラスの活動内容をドキュメンテーションにして1か月に1回更新し迎え時に見てもらった。最初ファイルにして閲覧してもらったがクラスに一冊で閲覧しづらかったので拡大して掲示するようにしたところ子どもと一緒に見ながら会話する様子が見られて良かった。
	次年度方向性	・次年度も引き続きポートフォリオやドキュメンテーションをお迎え時に見て頂きお迎え対応を待っている間に子どもの成長を感じていただけるような仕掛けづくりを継続していく。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	・道行く人に畑活動に興味を持ってフェンス越しに覗いたり、声をかけていただいたりすることで園に親しみを持ちその後の園訪問に繋げていく。
	実践結果	・畑に興味を持って覗いている親子に声をかけてどろんこ祭りや運動会などの行事に参加していただけた。
	次年度方向性	・次年度も畑活動に力を入れ、フェンス越しに覗きたくなるようにしていく。その際に園訪問につながるような声掛けを引き続きしていく。
2	計画・ねらい	・地域活動事業の開催や青空保育などの工夫により地域住民に園の存在を知ってもらい交流の機会を持つ。
	実践結果	・地域活動事業や子育て支援のチラシを人通りのある園のフェンスに見やすいように掲示したり、近隣施設や連携施設にチラシを配布したりしたところ園の来園者数が増加した。
	次年度方向性	・次年度も今年度同様チラシを人通りのある園のフェンスに掲示したり近隣施設や連携施設にチラシを配布したりし、気軽に来園してもらう。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	・保育の質を高めるためドキュメンテーションに取り組み、保育内容の可視化を目指す。
	実践結果	・ドキュメンテーションの作成についてはクラスごとにスタッフ持ち回りで作成し、年度の途中に園会議で発表し振り返りを重ね内容を深めていった。
	次年度方向性	・次年度も同じようにクラスごとにスタッフの持ち回りで作成するが、各クラス一年の保育の見通しを持って作成していくようにする。

2	計画・ねらい	・ワークを通して保育のプロとしての本物の実力をつける
	実践結果	・園会議にて計画的にワークに取り組み、保育士としての土台固めが出来た。コミュニケーション能力も上がったと感じている。
	次年度方向性	・次年度も園会議にて計画的にワークに取り組み、コミュニケーション能力を高め保育士としての土台固めを目指す。
3	計画・ねらい	・相手の気持ちに寄り添った保護者対応について学び合う
	実践結果	・園会議にて相手の気持ちに寄り添った丁寧な保護者対応のロールプレイを行った。
	次年度方向性	・次年度も計画的に保護者対応のロールプレイを園会議にて行う。スタッフが皆神対応を目指す。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	・畑活動や食育活動を通して食材や食の循環を知り、環境への意識を育む。
	実践結果	・食の循環を知るため、調理くずを使用した堆肥づくりを大人と一緒に日課で行った。作った堆肥で野菜を育て【育てる→収穫する→食べる→育てる】を乳児でも理解しやすいようにサイクルを考えて活動に取り入れていった。 ・魚を捌く活動では、目の前で鯵を捌いたあとに実際に触ってみるなど乳児なりの理解ができる方法で命を頂く活動を実践した。
	次年度方向性	・調理くずを使用した堆肥づくりを大人と一緒に日課で行う実戦は引き続き次年度も取り入れる。 ・近隣園で大型の魚を捌く時に参加させてもらう。
2	計画・ねらい	・室内における子どもの育ち、興味関心に合わせて環境を整えていく。
	実践結果	・クラス会議などで子どもの姿の共有を行い、【現在】の子どもたちが遊び込める環境構成を話し合い、見直しを随時行っていった。
	次年度方向性	・環境構成は、年間最低3回は行う。それ以外でも子どもの姿に変化が見られたらその都度迷わずに環境構成を見直すようにする。
3	計画・ねらい	・園庭における子どもの育ち、興味関心に合わせて環境を整えていく。
	実践結果	・クラス会議などで子どもの姿の共有を行い、【現在】の子どもたちが遊び込める環境構成を話し合い、見直しを行っていった。 ・土遊びを通して細菌類に触れて免疫を高めていった。 ・実のなる樹木を育て成長の過程を感じようとしたが、まだ実がなるには早かった。
	次年度方向性	・次年度も今年度に引き続き園庭の環境構成を子どもの姿に合わせて子どもたちが生き生きと遊べるように変化させていく。

〈6〉保育の可視化を目指す

1	計画・ねらい	・自園の保育をポートフォリオやドキュメンテーションを用いて可視化を目指す。
	実践結果	・ポートフォリオは昨年度より内容の充実を図れた。 ・ドキュメンテーションはクラスごとに月に一回保育の活動内容を更新し、閲覧していただいたが年度の途中でファイル形式から拡大して張り出すように変更したところ子どもとの会話が増えて好評だった。
	次年度方向性	・ポートフォリオやドキュメンテーションを用いて子どもの成長や保育内容の可視化に努めるところは継続していく。更なる内容の充実を図るようにしていく。
2	計画・ねらい	・毎日の保護者対応ではその日の子どもの様子が手に取るようにわかるようなエピソードを添える。
	実践結果	・園会議の中で定期的に保護者対応のロールプレイを行い、その際役割を交代しながら相手の立場に立って保護者対応ができるように学びを重ねた。
	次年度方向性	・新卒や経験年数が少ないスタッフでも緊張せず保護者対応ができるように今年度同様の取り組みを継続していく。
3	計画・ねらい	・毎日の連絡帳はその日の子どもの様子が手に取るようにわかるようなエピソードを保護者が読みやすい文章で記入する。
	実践結果	・園会議や昼礼の中でスタッフがお互いの連絡帳を読み合って添削する機会は作れなかったが、良い連絡帳をスタッフに紹介したりして文章表現に磨きをかけることが出来た。
	次年度方向性	・園会議の中で連絡帳の添削をする勉強会を計画して文章表現の全体のスキルアップに繋げていく。

〈7〉地域に開かれた園となる

1	計画・ねらい	・青空保育は地域の親子の時間に合わせて公園に出かけていき、地域の親子に保育園の楽しさを知ってもらう。
	実践結果	・地域の親子に合わせて遅い時間に施設長や主任と子育て支援の担当が出かけていき、紙芝居や手遊びなどで楽しい時間を提供しようとしたが、午前中の時間は公園に親子がいることはなく、公園の場所を変えてみてもあまり変わらなかった。年度の終わりに公園の場所と時間を変えて、午後の開催にしたら親子の姿が見られた。
	次年度方向性	・次年度は公園の場所と時間を変えて午後開催として様子を見ることにする。
2	計画・ねらい	・地域活動事業の開催ではちらし配布の強化と園のフェンス掲示の工夫をして集客に努める。
	実践結果	・フェンス際の畑の充実を図ることでフェンス越しに園を気軽にのぞいてもらえるようにし、掲示を自然と目に留まる場所に貼るようにしたところ地域の方の参加人数が増加した。
	次年度方向性	・次年度も引き続き畑の充実を図りながら効果的なポスター掲示とチラシの配布を計画していく。

3	計画・ねらい	・園庭を使って畑やクッキング、畑の様子などの工夫をし、【見える保育、見せる保育】をアピールする事で気軽に園を訪問してもらう。
	実践結果	・園庭で、サーキット遊びなどで生き生きと遊ぶ様子や畑の野菜でクッキングする様子をフェンス越しに見てもらい、気軽に立ち寄れる雰囲気を作っていった。
	次年度方向性	・気温が高い時期にクッキングの企画を立てたりしていたので、次年度は気温が高い時期は避けるような企画を立てていくようにする。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半：4~9月	３６人	９０人	１０８人	０人	０人	０人	２３４人
年度後半：10~3月	３６人	９０人	１０８人	０人	０人	０人	２３４人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	２８人	５７人	５１人	６７人	５５人	５５人	７６人	９０人	５９人	７４人	０人	０人	６１２人
うち0歳児	０人	０人	０人	０人	０人	０人	０人	０人	０人	０人	０人	０人	０人

（解説）固定の児童が利用している

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	０人	０人	０人	０人	０人	０人	０人	０人	０人	０人	０人	０人	０人
うち0歳児	０人	０人	０人	０人	０人	０人	０人	０人	０人	０人	０人	０人	０人

（解説）今年度は利用なし

〈2〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　（3月Ｉ日時点）

常勤スタッフ	保育士	Ｉ２人	栄養士	Ｉ人	調理員等	Ｉ人	看護師	Ｉ人
パートスタッフ	保育士	３人	事務	Ｉ人	嘱託医	Ｉ人		

3. 運営報告

〈Ｉ〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月Ｉ回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・園内研修
給食運営会議	月Ｉ回	食育振り返り、献立振り返り、食環境改善議案
事故防止委員会	月Ｉ回	自園及び系列園で起きた事故のケーススタディ 前月のヒヤリハット、インシデント分析
クラス会議	Ｉ回	クラスの計画の振り返り、次月計画の検討。個別の共有

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月Ｉ回	施設長
施設長勉強会	月Ｉ回	施設長
食育会議	年4回（5.8.ＩＩ.2月）	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回（5.8.ＩＩ.2月）	施設長
主任会議	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月Ｉ回	保育士

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	子ども及びスタッフの健康保持のために、環境の維持向上に努める
安全対策係	施設内外の設備及び用具の安全管理、点検
防火管理者	災害を想定した訓練計画や消防設備点検、避難経路の確保と保持
食品衛生責任者	給食衛生管理マニュアルに基づいた対応
畑係	年間を通した食育計画案の作成と実施。畑の管理
生き物係	命の尊さや自然事象への関心を広める機会を設定

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	どろんこ祭りの企画は園が主導をとる形になったが、当日の運営にはどろんこサポーターズも参加し交流が出来た。

4. 保育支援

〈1〉保育･保育参加･保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	・子どもたちの育ちを共有するため、今年度もポートフォリオを取り入れた。お迎え時に見ていただくことで、保育園での子どもの姿を保護者様にも知っていただけた。さらに今年度はドキュメンテーションも取り入れ、月1回壁面掲示で全学年の取り組みを見ていただけた。 ・9月からワンフロアにしたことで、異年齢での関わりが増え、子どもたちの興味関心が広がった。
保育参加	4～3月まで　合計1名　が参加済み　　（3月1日時点）
保護者面談および発達相談	4～3月まで　合計39名　が参加済み　　（3月1日時点） （11～12月で全家庭を対象に面談終了） ・保護者から希望があった場合も随時面談を行った。（2回実施）

〈2〉計画した年間行事の振返り

・別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載

・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	規則正しい生活を送ることで、健康な心と身体を育む
	実践結果	午前中は屋外で十分に体を使い、昼食もしっかり食べ、たっぷりと休息をとることで生活のリズムが作られ、心身ともに安定した。
	次年度方向性	引き続き正しい生活リズムを作り、心身ともに健康な身体を作る。落ち着いてゆったりと食事が出来るように、子どもの発達に合わせて食環境を見直す。
2	計画・ねらい	日課の畑仕事で育てた野菜を収穫し、採れたての野菜の味や加工した食材の味を体験する。
	実践結果	畑で育てた野菜を自分たちで収穫したり、加工したりすることで、野菜の美味しさに気づき、食べようとする意欲に繋がった。
	次年度方向性	毎日の日課で畑仕事をし、作物の成長を楽しみに待つ。とり立ての野菜の美味しさを感じられるようにするため、ライブクッキングも取り入れて、五感を刺激し、食べる意欲につなげていく。
3	計画・ねらい	好きな場所で好きな人と一緒に食べる
	実践結果	好きな場所を選び、友だちや大人と楽しく会話しながら昼食を食べることで、昼食の時間が楽しい時間となり、食への意欲が高まった。
	次年度方向性	次年度も好きな場所で、異年齢で混ざりあいながら楽しく食事が出来るような環境をつくり、大人が見本となり食事マナーも伝えていく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	６月４日／１１月１２日に実施
歯科検診	６月１３日に自園にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① ５月２７日に手洗い指導を実施 ② ６月１１日に歯磨き指導を実施 ③ １２月１０日に鼻かみ指導を実施
流行した感染症	・６月に手足口病、園児１０名罹患し、多摩小平保健所へ報告
エピペン使用できるスタッフの状況	本日時点で在席スタッフ17名中、16名が研修受講済み 未受講のスタッフ１名については3月17日までに受講予定

AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	本日現在で在席スタッフ17名が研修受講済み
その他保健に関する取組	ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。保護者・スタッフへ流行感染症の伝達、注意喚起。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月 ⇒4月２５日、10月２５日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日　実施済み
	児童健康診断	内科健診　各年２回／６月４日、１１月１２日 歯科健診　各年１回／６月１３日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時 ⇒4月１９日、10月１８日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間　実施済み
	利用者アンケート調査	8月26日～9月６日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	・室内における子どもの育ち、興味関心に合わせて静と動のエリアを分けた子どもに分かりやすい環境を整えていく。
	実践結果	その時々の子どもの様子に合わせて、年に数回環境を変えていった。結果、異年齢の関わりが増え、興味関心に合わせて子どもが場所を選んで活動出来た。
	次年度方向性	次年度も引き続き子どもの姿を観察しながら、その時々の子どもの興味関心に合わせ環境を作っていく。
2	計画・ねらい	・園庭における子どもの育ち、興味関心に合わせて時にはサーキット遊びなど変化のある環境構成を考えていく。
	実践結果	・年度初めには、スタッフが作っていたサーキットやままごとの環境を年度後半には、子ども自身で真似、展開して遊ぶようになった。
	次年度方向性	狭い園庭でも、工夫しながら子どもたちが主体になって遊べる環境が作れるように、引き続き環境構成を考えていく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	パーテーション	保育室	毎日	異常なし
2	ミニテーブル	保育室	毎日	異常なし
3	絵本棚	保育室	毎日	異常なし
4	制作用品収納棚	保育室	毎日	異常なし
5	絵本棚	ちきんえっぐ	毎日	異常なし
6	すのこベンチ	玄関	毎日	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	防災	消防計画に基づき自衛消防隊を編成し避難訓練を毎月15日に行う。また法人専用の「うちのこアプリ」にて災害時の緊急連絡を使用し、発信安否・施設状況・避難先を情報共有する体制をとる。
2	怪我・事故防止	事故防止チェックリスト、設備点検（4.7.10.1月）を年4回実施。 事故防止委員会によるリスクマネジメント インシデント・ヒヤリハット報告、事故報告書の分析・改善策の共有。
3	防犯	年２回不審者侵入訓練を実施。
4	光化学スモッグ	清瀬市より光化学スモッグ注意報の連絡が入り、指示に従う。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

職場体験ボランティア、保育実習を積極的に受け入れ、子ども達が様々な人と関わる機会を増やせた。
また、実習生を指導することで自分の保育を振り返る機会にも繋がっていきスキルアップを目指せた。
実習生は年間で２名。２２日間の受け入れとなった。
小中高生のボランティアは３３名、３１日間の受け入れとなった。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
5月７日～29日 5月30日～6月12日	日本社会事業大学	１人	観察実習・責任実習
5月７日～18日 5月２８日～6月8日	日本社会事業大学	１人	観察実習・責任実習

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
７月３１～8月２日	清瀬第三中学校	１人
７月２２～２３日	東京都立久留米西高等学校	１人
７月２４～２５日	目白研心高等学校	１人
８月１９～２０日	東京都立東村山高等学校	１人
８月２１～２２日	豊南高等学校	１人
８月２６～２７日	白梅学園高等学校	１人

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	１９日 16名	17日 16名	21日 16名	19日 16名	23日 16名	20日 16名	18日 16名	22日 16名	19日 16名	23日 16名	21日 16名	21日 16名
園内研修 （園会議）	１９日 16名	17日 16名	21日 16名	19日 16名	23日 16名	20日 16名	18日 16名	22日 16名	19日 16名	23日 16名		

・2月、3月は園会議の実施なし。コンピテンシーは昼礼にて行う。

〈2〉外部研修への出席

・今年度は該当なし

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	21日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	11月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	年代別研修 第1回：8月6日に本社にて1名（保育士）が出席 第2回：11月19日に本社にて1名（保育士）が出席 2年目研修 3名が出席（8月30日・9月3日・12日）											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	該当なし											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

〈5〉新卒スタッフ、中途スタッフ、パートスタッフなど部門別のグループ面談

若手スタッフ、パートスタッフなど部門別のグループ面談を期ごとに行い、自分自身の振り返りをしたり、園全体の問題点などを出し合ったりして次年度の自分自身の目標をたてる指標づくりに繋げた

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

積極的に地域とかかわっていくことを通して、園の存在を理解していただくと共に、地域で子どもたちの成長や安全を見守っていただけるようにしていくことと、園庭開放や子育て支援事業を充実して地域子育て支援に貢献することを方針としてきたが青空保育の集客に苦慮した。更なる工夫が必要だと感じているため、次年度の課題とする。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：中央公園にて 2月から中央公園工事につき、使用不可。ころぽっくるに変更 参加延べ人数：1名
商店街ツアー	週1回　主な行き先：、清瀬消防署竹岡出張所、清瀬松山郵便局、光文堂、ココカラファイン、東村山警察署梅園駐在所、ミーツ、ちよだ鮨、小糸うどん、シカゴチキン、セブンイレブン、肉の大丸、等
世代間交流	月2回午後　サニーライフ清瀬デイサービスを訪問
異文化交流	５月１４日フィリピン出身の在園児両親に挨拶や遊び・文化について教えていただいた。
異年齢交流	地域の小中学生ボランティア、清瀬どろんこ保育園と相互交流
地域交流	６月２０日に地域の農家さんが来園、育てた野菜を見せていただいたり、園の野菜にアドバイスをいただいたりする。

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

保、幼、小連携会議に参加して、幼児から小学校への接続についての問題点や課題について共有した。会議の中で乳児園だが発達の連続性の話をして乳児期から大切にしていることを小学校の職員に伝え、共感を得てきた。今年度は日程が合わず不参加だったが、次年度は連携会議には出席予定。

〈2〉具体的な連携

小学校との具体的な連携はなし

10. 要支援児

今年度、対象園児なし

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

今年度も要支援児はいないが、年２回の清瀬市発達支援センターとことこの巡回指導を受けた。専門家のアドバイスをもとに、昼礼など活用し子どもとの関わり方を共有しながら適切な支援、援助を行い園全体で同じ対応が出来るようにした。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

今年度該当なし

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

3歳児から進級していく施設（保育園、幼稚園、子ども園他）からの問い合わせがあった際は在園期間中の子どもの様子を引き継ぎする。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
７３名	９４名	４６名	１０８名	２４名	４６名	２７名	１４名	１２１名	９９名	２１１名	２０名	８８３名

実施項目	詳細												
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　　来園延べ人数：３４名												
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　⇒計０件相談実施なし												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計０回実施なし 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	０名	０名	０名	０名	０名	０名	０名	０名	０名	０名	０名	０名	０名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計０回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	０名	０名	０名	０名	０名	０名	０名	０名	０名	０名	０名	０名	０名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00　にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっぐだより	毎月1日発行												
青空保育 （支援センター主催）	月1回　　公園名：中央公園にて　以下日程にて実施。2月より工事の為中央公園が使用できず場所を「ころぽっくる」に変更した。												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	０名	０名	０名	０名	０名	０名	０名	０名	０名	０名	２名	０名	２名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審
今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施
２０２４年６月３日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：９時００分
自己評価終了時刻：１６時００分
自己評価実施者：山田千恵、鈴木裕子、村田妙江子、関真由美

〈3〉利用者アンケートの実施
施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月２６日
アンケート回収率：１００％

（省察）個人面談は希望者のみ行ったが、希望している家庭が多いという結果を受けて11月に全園児面談を行った。毎日の送迎時だけではコミュニケーション不足だと知り、面談を行ったことで相互理解が深まった。次年度は早めに実施したいと考えている。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見
報告すべきケガ（事故含む）　0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）
報告すべきケガ（事故含む）　0件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：メリーポピンズ 清瀬ルーム 施設長　山田千恵

２０２４年度　メリー★ポピンズ ラスカ茅ヶ崎ルーム
事業報告書
（保育所における自己評価）

Ⅰ．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

法人理念及び保育目標を全スタッフが理解し、子どもの心情・意欲・態度に留意しながら日々の子どもの生活を大切に過ごすようにした。その際、子どもの状況や発達過程を踏まえ、環境を通して養護及び教育を一体的に行うことを留意した。 また、保育所保育指針にも書かれている「子どもの最善の利益を考慮し、その福祉を積極的に増進 することに最もふさわしい生活の場」となるようにスタッフ一人ひとりが意識し行動するようにした。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	子どもたちの自己肯定感を育む
	実践予定内容	子どもが安心できる環境の中で、自分の意見を伝え、相手の思いを受け取り相手への信頼や思いやりの心を育むよう活動や行事についての話し合いの機会を作るよう、こども会議、サークルタイムを活用するようにした。 全スタッフが子どもの思いに寄り添い、受け止めることを心がけ、応答的な関わりを心掛けることができるよう園内研修で振り返りを行った。
2	計画・ねらい	子どもの主体の保育の実践。
	実践予定内容	保育が子ども主体となるようにスタッフ間で昼礼、乳幼児会議、園会議などで都度振り返り、意識して保育をするようにした。
3	計画・ねらい	子どもたちの毎日に必要な経験を育む保育。
	実践予定内容	子どもたちの成長、発達を捉え、子どもたちに必要な活動を見極められるよう園内研修を通して学びながら計画の立案を心がけた。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	接遇への意識を高める。
	実践予定内容	園会議を通して全スタッフが、挨拶・お迎え時などはもちろん、普段から保護者様に寄り添った対応を実施するように心がけた。
2	計画・ねらい	保護者様の子育てへの意欲や自信につなげられる支援をする。
	実践予定内容	全スタッフが保護者様と交流し、子どもへの愛情や成長を喜ぶ気持ちを共感しあうことを心がけた。 保護者様の気持ちを受け止め、話を聞き、保護者様が自分で解決していくための方法を導きだせるよう保育や子育てに関する知識や技術を生かした支援を行うよう心がけた。
3	計画・ねらい	保護者参加へのお誘いや、必要に応じて個別に相談する機会を取り入れる。
	実践予定内容	保護者様の持つ不安や悩みに寄り添い、必要な時に個別に話ができる機会

		を設けるようにし、個別面談の実施や保育参加へのお誘いのお声かけを行った。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域に開かれた園を目指す。
	実践予定内容	参加していただきやすいよう玄関から親子連れの方が見えた際にはお声かけをするようにした。月1回の青空保育、毎日の園開放をちきんえっぐだよりにて告知し、園見学、一時保育利用者への声掛けも実施した。
2	計画・ねらい	保護者様や地域に、自園が行う保育の内容を適切に説明するよう努める。
	実践予定内容	保育参加、小中学生職業体験、実習生受け入れを行った。
3	計画・ねらい	公共の施設利用を通し、ルールやマナーを身につける。
	実践予定内容	幼児組を中心に、図書館の利用や、ラスカ店舗との交流など子どもたちに必要な体験を取り入れた保育実施した。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	日課・基本保育活動への原点回帰
	実践予定内容	スタッフ一人ひとりが法人の保育理念、園目標、クラス目標、個人目標に向き合い、子どもたちの個々の発達に合わせ、子どもたちの成長に必要な活動、遊びを計画、実施するようにした。
2	計画・ねらい	質の高い保育の追究
	実践予定内容	一人ひとりのスタッフについての資質向上及びスタッフ全体の専門性の向上を図るように努めた。質を上げる会議参加スタッフを中心に園会議で振り返りをし、課題を見つけ、アクションプランを自分たちの保育に取り入れていけるようにした。
3	計画・ねらい	学びのアウトプット
	実践予定内容	自身の学びや保育内容を保護者、子どもたちに向け、ドキュメンテーションの貼り出しなどでアウトプットするようにした。
4	計画・ねらい	接遇力 UP
	実践予定内容	「相手の気持ちに寄り添い接するとは。」接遇についてコンピテンシー研修で自身の課題を見つけ、目標に向かって取り組んだ。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	畑仕事・プランター栽培、食材加工等の活動を通じ食材や食の循環を意識することができるようにする
	実践予定内容	畑・プランターでの野菜の栽培、収穫、調理の一連の活動を、年間を通して実施した。梅干し、味噌、ケチャップなどの食材加工にも取り組んだ。
2	計画・ねらい	調理くずの有効活用を通し、廃棄を削減する
	実践予定内容	段ボールコンポストの発酵がうまく進まず、子どもたちとともに取り組むことができなかった。廃棄を削減するよう、出汁を取った昆布屋鰹節の食材利用や、皮つきのままの調理、提供を実施した。
3	計画・ねらい	給食残渣を減らす

	実践予定内容	日々のバイキング給食時に保育、調理スタッフが子どもたちに言葉を掛け、自分の食べられる量を取り、苦手なものにも挑戦してみたくなるような関りを心掛けた。

〈6〉褒める・認める・感謝する

1	計画・ねらい	スタッフ間で連携を行い、チーム保育を行う。
	実践予定内容	異年齢保育を進める上で、スタッフ同士で子どもたちの様子や輝いている場面を話題にし、その中で個々の成長を昼礼やチャットを通して全スタッフで共有するようにした。
2	計画・ねらい	感謝を言葉で伝えあう。
	実践予定内容	子どもや保護者様に対してはもちろんスタッフ間においても、相手の良いところ、頑張っているところに気づき、認め、声に出して褒める。同じく、相手への感謝の気持ちを言葉にして伝えるようにした。 園会議でお互いの良いところ、真似をしたいところを出し合い、長所を認め合う機会を設けた。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半：4~9月	3人	9人	12人	14人	13人	15人	66人
年度後半：10~3月	3人	9人	12人	14人	13人	15人	66人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	86人	127人	105人	120人	117人	85人	108人	101人	123人	105人	116人	108人	1296人
うち0歳児	0人	4人	2人	2人	4人	1人	0人	2人	1人	3人	4人	2人	26人

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	0人	4人	13人	24人	19人	12人	20人	15人	28人	29人	32人	29人	225人
うち0歳児	0人	2人	5人	9人	6人	6人	9人	7人	12人	10人	15人	10人	91人

〈2〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

常勤スタッフ	保育士	10人	看護師	1人	栄養士	1人	調理員等	1人
パートスタッフ	保育士	7人	補助	1人	調理	1人	事務	1人
							嘱託医	2人

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・園運営に関する情報共有、計画の決定
給食運営会議	月1回	食育計画振返り、確認と共有
事故防止委員会	月1回	自園及び系列園で起きた事故のケーススタディと改善策・ 全園事故防止委員会での内容共有・ヒヤリハット及びイン シデントの検討、分析、振り返り
ケース会議	月1回	要支援児個別計画の振り返り及び省察・用紙園児個別計画 の見直し

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
食育会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長
主任会議	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	衛生的改善と疾病の予防処置、施設内衛生管理全般の実施
安全対策係	定期安全点検・防災自主点検・設備点検チェック・事故防止チェック、ハザードマップ作成更新
防火管理者	消防計画・備蓄品の確認・安全対策係の任命・自衛消防組織の任命
食品衛生管理係	食品の安全に対する管理、食育会議の計画・実践
食育係	畑の環境整備・年間計画、食育・クッキングの計画実行
環境係	内部監査対応、保育室の環境の見直しの実行

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	どろんこ祭りの計画管理、保護者との連携、地域への告知
運動会係	運動会の計画管理、地域への告知
生活発表会係	生活発表会の計画管理
卒園式係	卒園式の計画管理、保護者との連携
入園式係	入園式の計画管理

4. 保育支援

〈ｌ〉保育･保育参加･保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	乳児 ・保健的で安全な環境の中で子どもの生活の安全を「自分で」の思いを汲み取り、子どもの主体性や自発性を尊重しながら援助したり、温かく見守ったりするようにした。 ・養護と教育が一体となった豊かな人間性を持った子どもの育成を目指した。 ・安心できる保育士との関わりの中で、食事、排泄等の活動を通して自分でしようとする気持ちが芽生えるようにした。 ・保育者の話かけや発語が促されることにより言葉を使うことを楽しめるように関わった。 幼児 ・保健的で安全な環境をつくり、快適に生活できるようにした。 ・一人ひとりの子どもの欲求を十分に満たし、情緒の安定を図った。 ・友だちと一緒に食事をしたり、様々な食べ物を食べる楽しさを味わえるようにした。 ・身近な人と関わり、友だちと遊ぶことを楽しめるよう異年齢での活動を大切に取り組んだ。 ・生活に必要な言葉が分かり、したいこと、して欲しいことを言葉で表現できるようにした。
保育参加	4～3月まで　合計7名　が参加済み　　（3月ｌ日時点）
保護者面談および発達相談	4～3月まで　合計2名　が参加済み　　（3月ｌ日時点）

〈2〉計画した年間行事の振返り

・別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

ｌ	計画・ねらい	命をいただく活動の実施
	実践結果	魚の解体を経験し、命の不思議さや、命を頂くことに対して考えたり触れたりする機会を設けた。
	次年度方向性	鶏が身近な存在ではないこともあり、次年度も魚の解体を経験し、命の不思議さや、命を頂くことや「いただきます」の言葉に対して考えたり触れたりする機会を設ける。

2	計画・ねらい	体験を通して食べる意欲へと繋げる
	実践結果	畑での栽培活動に、子どもはもちろん全スタッフが関わるようこころがけた。畑の野菜の収穫や、クッキング、加工を体験できるようにした。子どもの体験する内容を調理、保育スタッフ間で話し合い共有をしながら実施した。
	次年度方向性	畑での栽培活動に、子どもはもちろん全スタッフが関わるようにする。 野菜の皮むきやお米とぎなど、給食を作る過程に触れ、体験する。子どもの体験する内容を調理、保育スタッフ間で話し合い共有をしながら計画していくようにする。
3	計画・ねらい	一つの食材から様々なものができることを知る。
	実践結果	大豆やトマトが調理、加工法で様々なものが作られることを知った。
	次年度方向性	食材の加工について興味が持てるように導入する。梅干し、梅ジュース、ケチャップ、味噌づくりなど季節に合わせて様々な経験ができるように計画する。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	5月8日／10月2日に実施
歯科検診	6月18日に実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 6月に歯磨き指導を実施 ② 12月に性教育を実施 ③ 2月手洗い指導を実施
流行した感染症	特に無し
発作・痙攣等の対応	対応無し
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月19日に保育園にてエピペン研修をスタッフ名１９名が受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ23名のうち、23名が使用可能

その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（法定1回/3年）	業者による対象物の法定点検 2023年実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月 ⇒4月25日、10月24日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日　実施済み
	児童健康診断	内科健診　各年２回／5月8日、10月2日 歯科健診　各年１回／6月18日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時 ⇒4月26日、10月25日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間　実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	養護と教育が一体となった保育を目指し園内の環境を整える
	実践結果	個々の発達に合わせ、愛情豊かに応答的な関わりを大切にしながら、乳・幼児会議などで環境の見直し、改善を行った。
	次年度方向性	引き続き、子ども一人ひとりの発達を捉え、個々に合わせた環境を見直し改善しながら整えていくようにしていく。
2	計画・ねらい	子どもたちが遊びこめる環境を整える
	実践結果	子どもたちの主体性を第一に考え、一人ひとりがじっくりと遊びこむことができる場が保障されているかスタッフ間で連携を取りながら環境の見直し、改善を行った。
	次年度方向性	引き続き、一人ひとりの発達や興味、関心に留意した環境を整えていくようにしていく。
3	計画・ねらい	子どもと共に考える
	実践結果	話し合いの場に子どもを交え、共により良い環境を考えていくよう心がけた。
	次年度方向性	次年度は更に、子どもたちの気持ちや考えを発信した中でどのような環境を整えていくのかを共に考えていくようにしていく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	どろんこ遊び場	園庭	毎月	異常なし
2	平均台	園庭	毎月	7月に撤去

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	危機管理マニュアルに則り、災害発生時には対応フローチャートに従う。防災計画に基づき、避難訓練を行った。
2	実践結果	危機管理マニュアルに則り、ケガ発生時には対応フローチャートに従う。事故防止委員会にてケガや事故の共有、検証、再発防止策を共有した。
3	実践結果	危機管理マニュアルに則り、不審者侵入時にはフローチャートに従う。防災計画に基づき、不審者侵入訓練を行った。
4	実践結果	危機管理マニュアルに則り、光化学スモッグフローチャートに従う。また、行政の連絡に従って対応するようにした。

5	実践結果	環境省の熱中症予防情報サイトを随時確認し、子どもの活動が危険な時には屋外活動を避けるようにした。
6	実践結果	海岸付近で活動していた際の大津波警報発令時避難経路の確認を行った。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

次世代の保育者を育てるため、また、実習生を受け入れることにより保育士自身が自らの保育を振り返り、指導する力を身に付ける良い機会となるので、積極的に受け入れていくようにした。保育士という仕事の素晴らしさとともに、子どもの命をお預かりしているということを伝え次の世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材を育成していくことを心掛けた。

受け入れる際には、全スタッフで暖かく迎え入れるようにし、不安なく過ごしてもらえるようにした。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
8月13～26日	日本自動教育専門学校	1人	責任実習
10月21～11月1日	県立平塚支援学校	1人	観察実習
2月12～26日	総合学園ヒューマンアカデミー横浜校チャイルドケアカレッジこども保育専攻	1人	観察実習
2月17～20日	東京工科大学医療保健学部リハビリテーション学科言語聴覚学専攻	1人	観察実習

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
10月30～31日	北陽中学校	2人
11月5日	浜須賀中学校	4人
11月13～15日	第一中学校	3人

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	26日 19名	24日 21名	28日 23名	26日 23名	23日 23名	27日 23名	25日 23名	22日 23名	27日 23名	31日 23名	28日 23名	31日 23名
園内研修	26日 13名	24日 15名	28日 14名	26日 12名	23日 12名	27日 15名	25日 15名	22日 14名	27日 12名	31日 14名		

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
8月4日	保育士キャリアアップ研修	キャリアアップ研修 保護者支援・子育て支援	1名	無
9月4日	保育士キャリアアップ研修	キャリアアップ研修 幼児教育	1名	無
9月18日	保育士キャリアアップ研修	キャリアアップ研修 幼児教育	1名	無
10月8日	保育士キャリアアップ研修	キャリアアップ研修 食育・アレルギー対応	1名	無
10月30日	保育士キャリアアップ研修	キャリアアップ研修 乳児保育	2名	無
11月14日	保育士キャリアアップ研修	キャリアアップ研修 障害児保育	1名	無

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	21日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	12月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年１回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈１〉今年度方針・テーマの振り返り

地域に開かれた保育園を目指した。保育士からの日常の挨拶はもちろんのこと、近隣公園での保護者との関わりや他保育園とのコミュニケーションなど丁寧にかつ、積極的に関わる姿勢を持つようにした。また、急な見学などにも親しみを持って対応し、いつでも園に寄っていただけるように対応をした。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月１回　　公園名：中央公園にて　　参加延べ人数：20名
商店街ツアー	週１回　主な行き先：Dr.ストレッチ、ラスカサービスカウンター、QBハウス、JR 茅ヶ崎駅、茅ケ崎警察署、茅ヶ崎消防署、イトーヨーカドーマイクラウン、魚卓、PAOPAO、くりこ庵、茅ケ崎市図書館、プレンティー等
世代間交流	１１月市内中学生職業体験の受け入れを実施
異年齢交流	１2月23日に湘南アイルド保育園にて5歳児交流を実施
その他活動	5月25日に辻堂海岸にて地引網を実施 １2月１2日に保育園にて子育て胃炎講座ふれあいあそびを実施 １月１8日に保育園にて子育て支援講座おはなしかご実施
銭湯でお風呂の日	月１回　〈3～5歳児〉　実施

9. 小学校との子ども間交流・スタッフ間交流

〈１〉今年度の振り返り

小学校との交流、見学、参加を通じて子どもたちの就学がスムーズな連携の中進められるように計画、実施をした。また小学校１年生の授業を見学できるよう近隣小学校と計画を立て、１年生を知ることで逆算した保育を遂行することができるようにした。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
6月1日	茅ヶ崎小学校	2名	運動会（茅ヶ崎小校庭）	スタッフ見学
6月1日	梅田小学校	2名	運動会（梅田小校庭）	スタッフ見学
11月23日	茅ヶ崎小学校	19名	授業見学 （茅ヶ崎小校庭）	子ども見学
2月4日	東海岸小学校 1年生担任	2名	保育園	スタッフ見学受け入れ
3月18日	東海岸小学校 1年生	17名	授業参観（東海岸小学校教室）	子ども見学

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

個々の保育計画を立て、見通しを持って保育にあたる。日々変化していく子どもたちの様子を観察、記録し、全スタッフで共有し保護者とも共有しながら、どのスタッフでも保育ができるような体制づくりを行うようにした。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・４～３月に計12回開催　参加者：4名

支援の必要な子どもの様子、課題から支援の方向性の共有を行った。子どもの特性を生かすことができるよう支援の経過を計画し、全スタッフ、保護者との連携を行った。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

5歳児の児童要録を作成し、小学校との連携、引継ぎを行った。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
26名	65名	185名	40名	114名	52名	98名	28名	35名	30名	15名	10名	698名

<table>
<tr><th>実施項目</th><th colspan="13">詳細</th></tr>
<tr><td>園開放</td><td colspan="13">（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　　来園延べ人数：698名</td></tr>
<tr><td>子育て相談</td><td colspan="13">（月）～（土）13:00～16:30　　⇒計0件</td></tr>
<tr><td rowspan="3">自然食堂
親子ランチ
交流</td><td colspan="13">毎週（水）10:00～12:00　　⇒計0回
参加者延べ人数</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td></tr>
<tr><td rowspan="3">どろんこ
芸術学校
どろんこ
自然学校</td><td colspan="13">毎週（水）10:00～12:00　　⇒計0回実施済み
参加者延べ人数</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td></tr>
<tr><td>勝手籠設置</td><td colspan="13">（月）～（土）7:00～20:00　にて実施
門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置</td></tr>
<tr><td>ちきんえっぐだより</td><td colspan="13">毎月1日発行</td></tr>
<tr><td rowspan="3">青空保育
（支援センター主催）</td><td colspan="13">月1回　　公園名：中央公園にて　以下日程にて実施</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>10名</td><td>0名</td><td>2名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>4名</td><td>2名</td><td>2名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>4名</td><td>24名</td></tr>
</table>

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２４年7月12日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：13時00分
自己評価終了時刻：14時00分
自己評価実施者：施設長、主任、リーダー

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月２５日
アンケート回収率：100%

（省察）
　保育の予定の掲示、発信の仕方についてのご意見を頂く。次週の予定を玄関に貼り出すように改善した。タイムラインと貼り紙の両方でお知らせなどを発信するようにした。

13.　苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈１〉報告すべきご意見
報告すべきご意見　0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）
報告すべきケガ（事故含む）　0件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年3月１５日　作成者：メリー★ポピンズ ラスカ茅ヶ崎ルーム施設長　池田エミ

２０２４年度　つくばどろんこ保育園　事業報告書
（保育所における自己評価）

１．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

つくば市は子育て世帯が多く流入する中で、将来を担う子どもたちにとって必要な「生きる力」をどう育むかを念頭に置きながら、地域全体の教育環境の向上に貢献できるように園を運営した。

また、保育所保育指針や、社会福祉法人どろんこ会の保育理念・保育方針の理解を深め、忠実に実践し、保育内容の充実を図った。

園目標である「チーム保育で支えよう！子どものやる気と根気」を目指し、全スタッフで保育内容や環境について話し合う機会を多く設けた。意味を確かめながら共有し、その実践と振り返りを繰り返しながら、子どもの心身の成長に活かすようにした。

子どもの育ちを観察し、その記録を継続することで保護者に還元し、園全体の保育の質の向上につなげた。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

１	計画・ねらい	計画：子どもの基本的人権を尊重し、その環境を保証する。 ねらい：子どもが愛され、認められ、自己発揮できる環境の中で、子どもの自尊感情を大事に育てる。
	実践結果	子どもの基本的人権と合わせて虐待防止の研修を4月と10月に行い、常に子ども一人ひとりを丁寧に見つめ、受容的な関わりを大事にしていった。子どもたちが自分を素直に表現する場や出しやすい雰囲気を整え、思いを受け止められることで自尊感情が育まれるように保育を進めた。
	次年度方向性	マニュアルの読み合わせや研修を通じて、子どもの人権について考える場を設ける。全スタッフで人権を尊重することの大事さを共有し、受容的な関わりを大事に進める。
２	計画・ねらい	計画：自分の命を守ること、また助け合いや折り合いをつけるなど、社会や人のためにしなければいけないことを理解し、体験の中で学ぶ。 ねらい：社会生活をするために必要な生活力を身に付ける。
	実践結果	日課活動を子どもたちが自ら進んで行い、当たり前のように継続する体制作りができた。その中で、子どもたちが協力し、年上児が年下児の面倒を見る好ましい場面が見られた。時にトラブルが生まれたが、互いの思いを伝えあう機会を設け、自ら考えて折り合いをつけていけるように援助した。その過程を記録として残し、保育者同士の学びの題材として活用していった。
	次年度方向性	次年度も日課活動を丁寧に継続して行う中で、子どもたちがやり遂げ協力する力を自然に身に付けさせたい。友だちと様々な事柄を調整することで、我慢や折り合いを学ぶ。その葛藤の過程を記録として残して保育に役立てていく。
３	計画・ねらい	計画：全スタッフが「幼児の終わりまでに育ってほしい10の姿」を認識し、日課活動や活動体験に組み込むことで、子どもの持つ能力や資質を大

		事に育てる。特に協同性・社会性・規範意識の育ちに配慮する。 ねらい：養護と教育の一体的な保育を実践し、バランスのとれた心身の発達を促す。
	実践結果	「幼児の終わりまでに育ってほしい10の姿」を念頭に、日課活動や戸外活動、また生活の場面で見られた育ちを会議等で話し合い、小さな変化を見逃さずに全スタッフで共有していった。特に、協同的な活動の中で、友だちや異年齢の関わりが無理なく行われており、子ども同士で決めたルールなどで子どもたちが活動を自ら進める姿が見てとれた。
	次年度方向性	子どもの将来に視点を向けた保育を実践し、子どもたちが一つの体験から出来るだけ多くの気づきや学びが得られるようにする。支援の方法や言葉かけについて PDCA サイクルを活用して話し合い、理解を深めながら保育を進める。
4	計画・ねらい	計画：子ども自らが玩具・遊具・教材などを選び取れるように、環境を設定する。 ねらい：スタッフが子どもに扱い方や楽しみ方を教え、背中をみせながら様々な豊富な経験をさせる中で、生活力の獲得に繋げる。
	実践結果	子どもの年齢や興味に合わせ、玩具・遊具や教材を設置し、選んだもので集中して遊べる環境を整えた。また使い方を保育者がやってみせることで、無理なく体験できるように支援をした。
	次年度方向性	インクルーシブ保育を推進することで、一人ひとりの個性が大事にされ、どの子どもも「生きる力」が獲得できるようにする。子どもの「今」に合った人的環境や物的環境に焦点を当てて設定していく。
5	計画・ねらい	計画：伝達事項や事故や怪我の共有、また改善事項の周知を全スタッフ間で徹底する。 ねらい：今日一日の必要な情報を共有することで、保育に活用し家庭への対応に繋げる。問題を自分事として捉え、全スタッフで解決する姿勢を持つ。
	実践結果	必要な伝達事項や怪我を園のチャットを活用して共有した。スタッフ間で速やかに正確に共有・周知する体制を整えたことで、全スタッフが実践しやすくなった。
	次年度方向性	次年度も、必要な伝達事項や事故・怪我の共有を速やかに確実に周知し、保育に活用し家庭への対応を行う。改善事項は全スタッフで検証し、未然に防げるように協議する。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	計画：スタッフの誰もが「園の顔」であることを認識し、利用者には明るく笑顔での挨拶を心掛け、その日の心に残った場面をリアルタイムで丁寧に伝える。 ねらい：自分がされて嬉しい対応を実践することで保護者と気持ちを通わせ、信頼関係を築く。
	実践結果	スタッフ一人ひとりが、どの保護者にも丁寧で明るい対応をすることを心掛け、実践できた。またお迎え3分間対応では、その日のエピソードを拾い、自分なりの言葉で伝えることを、一人ひとりが意識しながら実践し

		た。
	次年度方向性	次年度も自分がされて気持ちの良と感じる挨拶を心掛ける。また、子どもの心情を読み取り、毎日その場面を丁寧に伝えることを通して、家庭との信頼関係をより深める。
2	計画・ねらい	計画：生活や遊びの子どものありのままの姿から読み取れる日々の成長などを、保育者の視点からお伝えし、家庭と連携しながら保育を進める。 ねらい：それぞれの家庭の状況を鑑み、先の見通しを持った保育視点を今後の保育とご家庭の子育てに役立て、園に安心してお預けいただく。
	実践結果	園の生活や遊びの中で見られた成長の1コマを、専門職としての保育者視点から伝えたことで、保護者からは家庭と違った一面に驚きや喜びを示して頂けた。その継続で今後も家庭からの信頼を築いていきたい。
	次年度方向性	保育活動や行事の意図を理解した上で、スタッフが自身の言葉で説明し、子どもの成長をお互いの励みとして共に喜び、子育てに役立てていただくように支援していく。
3	計画・ねらい	計画：一時保育のお子様の受け入れでは、低年齢児であることを踏まえ、家庭での情報を詳細にお聞きし、家庭と継続した保育を提供する。 ねらい：お子様を安全に、また丁寧な保育対応することで、園への信頼を深める。
	実践結果	一時預かりのお子様の面談では、特に食事（ミルク）や睡眠など丁寧な聞き取りを心掛け、短時間であるからこそ家庭と園との接続がスムーズにいくように配慮して進めた。
	次年度方向性	次年度も、家庭での情報を詳細にお聞きして、家庭と連携した丁寧な保育を提供する。
4	計画・ねらい	計画：保護者からのご意見ご要望には謙虚な気持ちを持って受け止め、今後出来ることには、相手の気持ちを尊重して改善や実現に努める。 ねらい：保護者の生の声を感謝の気持ちを持って耳を傾けることで、開かれたより良い保育園を目指す。
	実践結果	保護者からの利用者アンケートの結果や、日常のご意見やご要望に対しては、園を良くする手立てとして真摯に捉え、改善に努めた。また感謝の声には、全スタッフで共有して仕事への励みとした。
	次年度方向性	今年度同様に、保護者からのご意見やご要望には真摯な気持ちで受け止める姿勢を持ち、大小様々なご意見が出しやすい環境に努める。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	計画：子育て支援「ちきんえっぐ」の拠点として、「子どもは地域の中で育つ」ことを念頭に、地域交流の場としての役割を果たす。 ねらい：居心地の良い環境と気持ちの良い対応を心掛け、地域の親子の心の拠り所になることで、地域社会に貢献する。
	実践結果	地域に開かれた園を目指し、園庭解放やイベントを実施した。園に足を運んできて「楽しかった」「良かった」を実感して頂けるように、来訪者への笑顔でのご挨拶や丁寧な説明、楽しい体験の実践に努めた。今後も「遊

		びに行きたい園」を目指したい。
	次年度方向性	子どもを地域全体で育てていくことを目的として、子育て支援「ちきんえっぐ」を継続して開催する。地域の親子の拠り所となれるように、交流を推進していく。
2	計画・ねらい	計画：就学までの子ども一人ひとりの育ちに向けて、近隣小学校との連携と交流を重ね、その保育実践をもって小学校へと繋げる。 ねらい：「就学までに育てたい子どもの10の姿」を目指して、取り組んできた保育内容と子どもの育ちを保証し、責任を持って小学校へ送り出す。
	実践結果	近隣の小学校とは活発な交流を重ね、就学へ向けての準備ができた。子どもたちは、6年間の保育実践を通して、頼もしく「生きる力」を獲得した姿があり、自信を持って小学校へ送り出すことができた。
	次年度方向性	充実した保育計画や保育内容に沿って実践する６年間の一人ひとりの子どもの育ちに、責任を持つ。近隣校との密接な交流を大事に進め、無理のない就学へと繋げていく。
3	計画・ねらい	計画：中学生・大学生の職業体験や保育参加、また実習生の受け入れを通し、若い世代の育成を後押しする。また、老人施設との交流を通して、お年寄りへの親近感を抱く。 ねらい：地域社会の貢献と同時に、子どもたちが地域の様々な年齢層と交流し、地域社会との繋がりを意識して生活できるようになる。
	実践結果	今年度、1名の実習生を受け入れた。また中学生は、近隣の中学校3校から職場体験や家庭科体験などで多くを受け入れ、地域貢献できた。また、老人施設とは、子どもたちの制作のプレゼントを届け、どろんこ祭りに来園して頂くなどの交流を持てた。触れ合う機会をもつことが出来て、お年寄りに大変喜ばれた。
	次年度方向性	次年度も地域の中学生・大学生や実習生の受け入れを実施し、若い世代の育成に貢献する。また老人施設との交流を定期的に行い、子どもたちが社会との繋がりを学ぶ機会としていく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	計画：各々のスタッフは自身のスキルの高みを目指すために、必要な研修の参加に前向きに行動する。 ねらい：保育者としての資質を高めるために、努力する姿勢を園が後押しする体制を作ることで、全スタッフが学びに意欲的になる。
	実践結果	外部研修では、キャリアアップ研修を受講するための、スタッフの積極的な学びの姿勢が見られた。また園長大学・保育士大学®の視聴を園会議でも活用すると、スタッフも自らのスキルを高めるために視聴する姿が見られた。今後も得た学びを保育に役立てていけるように発信する場を設けていきたい。
	次年度方向性	園内外の研修に意欲的に参加し、スキルアップできるように後押しする。園長大学・保育士大学®の動画視聴も研修に積極的に活用する。
2	計画・ねらい	計画：スタッフ一人ひとりが組織 MBO と個人 MBO の作成に向けて、自身の役割を踏まえながら、努力を重ねて実践していく。

		ねらい：毎年の MBO で掲げた事柄を達成してきたことが、園の質を引き上げていることに自信を持ち、今年度の目標達成を目指して全スタッフが取り組む。
	実践結果	組織と個人の MBO に向けて、各々が高みを目指して取り組む姿があった。途中の面談を通して、どのように実現できるかを探り、着々と進めたことが園全体の保育の質の向上に繋がっている。
	次年度方向性	組織の質向上やスタッフ自身のスキルの高みを目指すために、熟慮して１年間の MBO を立て、達成できるように実践に努めていく。
3	計画・ねらい	計画：スタッフが自らの保育の弱みを強みに変えるべく、「自らの保育実践」を計画し、行動実践したことを互いに発表し合う。 ねらい：計画だけに留まらず、自ら行動することを目的とし、保育者としてのスキルアップを確実なものとして、自信に繋げる。
	実践結果	仕事を振り返り、自らの弱い部分を見つめ、強みに変えるためのスキルアップ計画を立て、その実践を園会議の中で報告し合った。各々が自身を見つめ、そこに向き合う姿勢を大事にして、「まずはやってみる」を実践できたことは、スタッフの自信に繋がった。また、発表にスタッフ一人ひとりの工夫と意欲が見られたことは、お互いにとってとても良い刺激となった。
	次年度方向性	今年度の研修計画として、経験年数ごとに編成したグループワークの学びの場を構築することを予定している。園長大学・保育士大学®の動画視聴を下にテーマを設定し、グループごとにその学びを自由な形式で発表し合う。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	計画：田畑を耕し、米や野菜の収穫からクッキング体験に繋げる。また飼育している鶏は絞めて食する体験を行う。 ねらい：食の循環があって始めて、私たちは豊かな生活が送れることを理解し、食への感謝の気持ちを持つ。
	実践結果	田畑の活動は、年間スケジュール通りにほぼ実践できた。作物の育ちをみると、上手くいった、いかないはあったが、収穫物を調理体験や八百屋さんごっこの売り買いを経験させることになどに、広げて活用できた。子どもたちにとっては全て新鮮な体験で、嬉々として取り組んでいた。また今年度も、鶏を捌き食す活動を行った。また、産まれたての卵を保護者へ販売する取り組みを開始し、子どもたちが食の循環を学ぶ良い機会となっている。
	次年度方向性	次年度も継続して、田畑の作物を活用して食育活動に繋げる。また鶏を食す体験や産みたて卵を売る体験から、生活のサイクルを学ぶ機会とする。
2	計画・ねらい	計画：食材の循環サイクルの実践を通して、生活の知恵を園の生活の中で最大限に生かす。 ねらい：給食の野菜くずや山羊・鶏の糞を堆肥として、子どもとスタッフが食の循環の知識を得て、生活に活用する。
	実践結果	山羊や鶏の糞や給食の野菜くずを活用して堆肥を作り、畑の土に漉きこみ、作物の成長に役立てた。その作業工程を子どもたちと行うことで、無

		理なく生活のサイクルを学ぶ機会に繋がった。
	次年度方向性	全スタッフで食の循環のサイクルを実践し、特に堆肥作りの過程を子どもと一緒に理解する。
3	計画・ねらい	計画：給食残渣を減らし、誰もが出された食事や食べ物を大切にする。 ねらい：子どもの頃から、廃棄にかかる環境への負担を少なくして、食べ物を粗末にしない意識を育てる。
	実践結果	給食残渣は、調査を開始した22年度と比較して70%の削減となった。 「食べ物を無駄に残すことなく大事にする」にはどう進めるかを、全スタッフで考えながら食育活動を取り組んだ。今後もその姿勢を継続し、子どもたちにも無理なく理解させていきたい。
	次年度方向性	出された食事や食べ物を粗末にしないために、適量を取る・一口でも食べて美味しさに気付く言葉かけをするなどを実践する。美味しく食べることを基本にしながら給食残渣を減らすことを意識して進める。

〈6〉チーム保育の充実

1	計画・ねらい	計画：子どもの生活力の体得に向けて、園目標である「チームで支えよう！やる気と根気」を合言葉に、人的・物的環境の両面から保育内容について協議を深め、チーム保育を進める。 ねらい：生活力の体得のための手立てとして、子どものやろうとする意欲や根気強く物事をやり遂げようとする姿を大事にして、保育を提案し自らも背中を見せていく。
	実践結果	生活力の体得は、自らやろうとする意欲と継続する根気が必要と考え、園目標を定めた。目に見えるものではないが、日課活動や人との関わりの中の子どもの姿を観察することで、見て取るようにした。エピソードなどの記録を題材として園内研修を行い、人的環境・物的環境を皆で討議する場を多く設けていった。
	次年度方向性	策定会議で、園目標についての協議を行い、年間通して全スタッフが意識を統一して進めていけるようにする。
2	計画・ねらい	計画：ゾーン保育にあたり、毎月各クラスから1名ずつ参加しチームを組む。異年齢の関わり・季節感・行事などを盛り込み、保育内容の偏りに配慮して次月の計画を立てる。実施月には全スタッフが保育のねらいを目標とし、協力して保育を進める。 ねらい：子どもへの保育者の援助や関わりの仕方、環境構成について探りながら、チームが責任を持ってリードする。ゾーン計画を保育計画と連動させる。
	実践結果	毎月のゾーン計画と保育計画を連動することで、保育活動計画を園全体で立て、年齢に合わせての参加や異年齢での連携を捉えていった。年度当初で1年間の月の担当者を決め、見通しをもった活動や環境構成を盛り込むことができるようにした。企画内容の共有・役割分担・年齢別の参加方法などの見える化を図った。しかし、ややその周知が弱かったので、今後さらに検討していきたい。

	次年度方向性	ゾーン計画に沿った実践と振り返りを通して、ゾーン保育の内容を充実させていく。月の担当者以外の担任への周知共有を図り、ゾーン保育が進めやすいように取り組んでいく。
3	計画・ねらい	計画：全スタッフが各々の役割に責任を持ち、より良い園環境や保育体制に向けて、自らの考えや課題を提案する。 ねらい：自園が働きやすい環境や体制となるために全スタッフが協力・行動するチームとなる。
	実践結果	スタッフ一人ひとりが自分の役職・行事担当・係などの役割を担い、責任を持って遂行できた。その中の課題に気づき、それを提案できると尚更良かった。今後はその場の構築を積極的に推し進めていきたい。
	次年度方向性	「子どもにとってどうか」の視点を忘れずに、各々の職位や役割を十分に認識して、従来の当たり前や思い込みを見直し、積極的に意見を出し合って、スタッフ自らが働きやすい園を作り上げられるようにする。

〈7〉地域文化の継承

Ｉ	計画・ねらい	計画：つくばの地の生活文化や食の営みを保育体験として活動に取り込み、子どもと若手スタッフが共に学ぶ。 ねらい：つくばの地で営まれ受け継がれてきた生活文化や食文化を理解し、その多くの知恵を学びから受け取って、大事に継承する。
	実践結果	つくばの地域に根差した園として、「ならせ餅」や「どんど焼き」など伝統文化を大事に継承することを強く意識して取り組んだ。特に、広い田んぼを持つ自園の良さを活かし、稲わらを活用した「しめ縄作り」「お正月飾り作り」「稲わらクレヨン作り」などを行い、子どもだけでなく若いスタッフや保護者にも参加頂き、その成り立ちや意味を知らせながら楽しんでいった。食文化では、自園で収穫した渋柿・甘柿の両方を活用し、渋柿は干し柿として軒先に干すと甘くなることも学んだ。沢山収穫できた大根は、半分を沢庵漬けにしてその工程を学びながら味わうことができた。毎年、４歳児で仕込む「味噌」を、５歳児で「味噌汁」にして、自園で採れた新米のおにぎりと共に味わうという贅沢な体験もできた。
	次年度方向性	次年度も、つくばの地の生活文化と食の循環の仕組みを楽しく実践する。その中で先人の知恵と工夫を子どもと若手スタッフが共に学び、大事に継承していく。

2. 施設運営

〈Ｉ〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	Ｉ歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半：4~9月	８５人	９０人	９０人	９０人	８４人	１０２人	５４Ｉ人

年度後半：10~3月	９０人	９０人	９０人	９０人	８６人	１０２人	５４８人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	183人	164人	183人	194人	165人	182人	226人	194人	198人	205人	128人	93人	2115人
うち0歳児	1人	2人	8人	6人	19人	8人	3人	2人	3人	7人	0人	0人	59人

（解説）年間を通して、園長を利用される家庭数は変わらなかったが、夏場の利用者が多かった。

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	8人	5人	4人	5人	3人	5人	3人	3人	4人	2人	3人	13人	58人
うち0歳児	6人	3人	4人	4人	0人	1人	1人	0人	0人	0人	3人	13人	35人

（解説）年度前半に一時保育を利用される家庭が多かったが、年度後半は落ち着く傾向となった。

〈2〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　（３月１日時点）

常勤スタッフ	保育士	13人	看護師	1人	栄養士	2人	調理員等	１人
パートスタッフ	保育士	１人	補助	0人	調理	0人	事務	１人
	用務	2人	嘱託医	2人				

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・園運営の課題や共有事項の話し合い ・園内研修
給食運営会議	月1回	喫食状況と嗜好の確認/食事環境や配膳方法の共有と改善/食育や畑活動報告
事故防止委員会	月1回	自園及び系列園で起きた事故ケーススタディと改善策/ ヒヤリハットの共有と対策
ケース会議	0回	該当児なし
クラス会議	月1～2回	クラス運営の共有と課題の抽出を検討
リーダー会議	月1～4回	各クラスリーダーによるクラス運営報告と検討事項の協議
ゾーン会議	月2回	ゾーンリーダーと月担当者による計画の立案と振り返り

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
食育会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、看護師
主任会議	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	衛生環境の管理をして、その保全に留意した。また疾病予防の清掃消毒作業を日々実施した。

安全防災対策係	毎朝の遊具点検、年4回の設備点検を通し、安全点検や対策の取り組みを実施した。ハザードマップの作成と3回の見直し更新を行った。また毎月の避難訓練や年2回の不審者侵入訓練や備蓄品の点検を実施した。
防火管理者	消防計画を策定し、日常自主点検等の防火管理上必要な防火管理業務を実施した。
食品衛生管理係	食品の扱いと厨房の衛生環境を適切に実施し、給食提供を行った。食育計画を立て、その実践を進めていった。
田畑食育係	田畑を整備し、計画的に年間を通して作物の世話と管理を行い、食育活動へと繋げた。
生き物係	山羊・鶏・メダカの環境を整え、餌を適切に発注して餌管理を行った。
環境整備・絵本係	園舎内外の環境の整備や安全点検、倉庫の整理と備品の補充、園内掲示物の点検を行った。また絵本棚の整理整頓や本の修繕も実施した。
地域支援係	地域の小中学校との交流、実習生の受け入れ、老人施設との交流の機会を作った。
ゾーン保育係	年間を通して、毎月のクラスリーダー4名と共に保育の計画作成と実践の振り返り、また保育環境について話し合いを行い、その記録を残して全スタッフに共有周知した。
研修係	毎月の園内研修の進行と統括を実施し、園内研修記録に振り返りを纏めた。
倉庫・備品係	倉庫内を整理整頓や点検を行い、保育教材や備品の補充を実施した。

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	保護者の主体性を尊重し、どろんこ祭りの企画・準備・活動を共に実施した。
子育て支援係	「ちきんえっぐ」では園庭解放や一時保育への利用者が多かった。後半に入り、自然食堂や自然学校などの体験活動にも参加される方が増えた。
地域支援交流係	小学校とは運動会見学や1年生の授業や校内見学の参加など、地域の3校と連絡を取り合い、活発に子ども間交流が実施できた。また、スタッフも授業参観へ参加し小学校の授業内容を学ぶ機会を

	持った。実習生の受け入れと中学生の職場体験の場を提供した。地域の老人施設には、子どもたちの制作物を渡すなどの交流を図った。

4. 保育支援

〈1〉保育･保育参加･保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	・乳児上半期：一人ひとりとの応答的な関わりを大切にして、自主性や意欲の芽生えを育てていった。 ・乳児下半期：簡単な言葉を、生活や場面ごとに表現できるように支援した。また、生活に必要な習慣を身に付け、健康に過ごす基礎を育てた。 ・幼児上半期：日課活動や戸外遊びを通して、意欲的に取り組み、自ら工夫し集中して遊ぶ楽しさを養った。また、様々な体験を自らの五感を通して表現できる環境を整えた。 ・幼児下半期：友だちとの関わりの中で、折り合いをつけるための調整力の育ちを支援することを全スタッフで意識し、環境を整えていった。自然界の営みと食の循環の仕組みを理解し、生活に取り入れて遊ぶことを大事にして進めていった。
保育参加	4～3月まで　合計20名　が参加済み　　（3月1日時点） ・保護者懇談会にて参加を呼び掛けたため多くのご参加があり、園の保育に対するご理解を頂くことに繋がっている。
保護者面談および発達相談	4～3月まで　合計２名　が参加済み　　（3月1日時点） ・子どもの偏食の相談と家庭で癇癪を起したときの対応への相談が1件ずつあり、父母と面談を実施した。

〈2〉計画した年間行事の振返り

・別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	計画：生活に必要な労働や日課活動、また戸外遊びを十分に行い、お腹がすいた感覚を感じながら良く噛み素材を味わい、食べたいものを食べたいだけ食べてその美味しさを感じる。 ねらい：活動後の食事の美味しさやお腹のすくリズムを体で感じ、意欲的に食べる。

	実践結果	９時出発の実践で、午前中一杯を使って戸外でしっかり活動することで、お腹を空かせて美味しそうに食事する姿があった。散歩先からの帰園道中では、お昼ご飯を楽しみに話題にする子どもが多く、偏食の減少にも繋がっている。０歳児でも手づかみで上手に食べ、意欲的に自らロに運び完食する姿が見られた。
	次年度方向性	日課活動・戸外活動や畑活動などで、身体を十分に使って遊び活動することで、空腹感を感じながら意欲的に食事し、その美味しさを感じられるように保育活動を実践する。
2	計画・ねらい	計画：年上児が配膳や盛り付けを行い、異年齢が助け合って食事環境を整え、好きな人と好きな場所で会話を楽しみながら食事をする。 ねらい：年上児が年下児のお世話をしながら自ら食環境を整えられる自立心を育て、好きな人と食事をすることの楽しさを実感する。
	実践結果	バイキングにおいては、自らの量を考えて盛付を行い、好きな場所で好きな友だちと、楽しい会話を弾ませて食事する風景が見られた。当番活動の中で、食事の準備や片付けを子どもたちが主体的に進めており、年上児が年下児の配膳や盛付を手伝うことが日常的に定着している。卒園間近になると、５歳児が４歳児に給食当番活動の仕事を教えて引き継ぐ姿も見られた。
	次年度方向性	異年齢が助け合って食事環境を整え、園側給食を実施する。全スタッフと子どもたちが一緒に会話を楽しみ、食事を楽しめる環境を設定する。
3	計画・ねらい	計画：田畑活動や「鶏を絞めて食す」活動を通して、自ら育てた作物や米や飼育している鶏を調理し、食の循環を学ぶ。 ねらい：人々の暮らしには、食べ物を粗末にせずに食の循環を利用した工夫や環境を活かした知恵があることを理解し、自然の恵みに感謝する。
	実践結果	年間スケジュールに沿って、田畑活動も順調に進んだ。作物への水やり・雑草抜き・間引き・堆肥作りなど、収穫だけでなく作物を大きく育てるための作業も、子どもたちは一生懸命に取り組んでいた。その結果、採れた収穫物を大事に味わうことが自然に身に付いた。鶏を捌く過程を、子どもたちは真剣な眼差しで見つめ、味わうという貴重な体験をした。また鶏から産まれた卵や沢山収穫できた野菜を保護者へ売るなどして、食の流通を理解することにも繋げることができた。
	次年度方向性	次年度も田畑活動・鶏を絞めて食す活動を継続し体験していく。また、山羊・鶏の世話を通して、その糞や給食の野菜くずを利用した堆肥の仕組みを学ぶ。

〈４〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月12日／11月19日に実施
歯科検診	6月19日／11月13日に実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施

スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 4月25日に幼児クラスを対象に「早寝早起き朝ごはん」の指導を実施 ② 12月4日に5歳児を対象に手洗いチェッカーを用いて指導を実施 ③ 12月11／12日に5歳児を対象に性教育を実施
流行した感染症	① 7月に新型コロナ、園児1名感染報告有り。7月16日に終息 ② 3月にインフルエンザ、園児1名感染報告有り。4月5日に終息 ③ 12月にインフルエンザ、園児4名感染報告有り。1月4日に終息 ④ 1月にインフルエンザ、園児2名、スタッフ1名感染報告有り。1月27日に終息
発作・痙攣等の対応	計1名に対し、計1回ダイアップ使用
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月21日に自園にてエピペン研修を計2名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ23名のうち、21名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	設置なし
その他保健に関する取組	スタッフの衛生に対する啓発や感染症発生時の処理の仕方、プール使用の塩素の取り扱い、緊急連絡や対応についてのロールプレイなどを行った。感染症が起きた場合には消毒・換気を徹底した。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（法定1回/3年）	業者による対象物の法定点検 2024 年実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施

衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月 ⇒4月25日、10月25日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日　実施済み
	児童健康診断	内科健診　各年2回／6月12日、11月19日 歯科健診　各年2回／6月19日、11月13日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時 ⇒4月16日、10月15日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間　実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	計画：園舎内や園庭では、子どもたちがやりたい遊びを自ら選択し、継続して遊びを展開できる環境を子どもと共に作る。 ねらい：子どもたちのやりたいことを話し合い、形にできる。
	実践結果	子どもたちの年齢や興味に合わせた環境を設定するため、ゾーン計画を立てる際に、必要な遊具や玩具を話し合い整えていった。また製作では、廃材集めに保護者に協力を仰ぎ、子どもたちが自由に選んで使えるようにした。夏から秋かけて文化祭を開催し、子どもたちが話し合い、希望して作り上げた作品の数々を発表し、保護者と共有していった。
	次年度方向性	子どもたちが話し合ったことを実現できるように、自由な発想の表現が可能な材料や道具・廃材などを整え、継続した遊びが展開できるように後押ししていく。
2	計画・ねらい	計画：感染症の予防の環境を整える。 ねらい：園内のスタッフ間や子ども達への感染を防ぎ、安心して過ごせる園の環境を整える。
	実践結果	年度当初に乳児クラスで胃腸炎がでたが、早目に清掃・消毒を実施することで、大きな流行にはならなかった。後半にはインフルエンザやコロナ感染症が個別に発症したが、拡大することはなく、どのクラスの子どもも元気に1年間を通園することができた。
	次年度方向性	戸外活動の実践や手洗い・うがいをしっかり実施することで、身体の心肺機能や皮膚などを鍛え、病気に感染しにくい丈夫な身体作りをする。子どももスタッフも体調の変化に早目に気づき、適切な対応を心掛けながら、感染症予防に努める。また衛生的な環境の継続を保持していく。
3	計画・ねらい	計画：子ども・保護者・来客者の目線に立って園舎内外の清掃・整理整頓と管理を行う。

		ねらい：常に清掃が行き届いていることを心掛け、誰にも気持ちの良い環境を保持する。
	実践結果	園庭は草木の管理を始めとして、毎朝の掃き掃除を行い、ゴミ・余分な枝葉が無いように努めた。水洗い場や足洗い場は泥が溜まりやすいため、誰もが気持ちよく使えるように小まめに清潔を保った。園の顔である玄関や園舎内も清掃や整理整頓を心掛け、いつ誰が来園されても気持ち良いと感じられるように管理した。
	次年度方向性	次年度も、気付いたスタッフ誰もが毎日の小まめな清掃や整理整頓を心掛け、その環境を保持する。気持ちの良い環境が当たり前の景色となるように努める。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	丸太の平均台（4台）	園庭	毎日	2024年8月　破損の為1台撤去　残り異常なし
2	乳児用平均台	園庭	毎日	2025年2月　両サイドの土台を作り替え
3	三角アスレチック	園庭	毎日	2025年2月　ネジのゆるみを締める
4	幼児用平均台	園庭	毎日	異常なし
5	四角基地	園庭	毎日	2025年2月　土台の柱4本を補修、土盛り、竹交換
6	園庭遊具片付台	園庭	毎日	2025年1月　土盛り設置直し
7	堆肥場	畑	毎日	異常なし
8	一人用テーブル（2台）/つい立て	幼児室	毎日	2025年1月　つい立てとテーブル1台撤去　残り1台は異常なし
9	子ども用ロッカー（2つ）	幼児と2歳児保育室	毎日	異常なし
10	大型テーブル（2台）	2歳児保育室	毎日	異常なし
11	飾り台（6台）	玄関、2歳児保育室	毎日	異常なし
12	ハイハイスロープ	0.1歳児保育室	毎日	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果 防災対策	・非常災害時対策として、毎月消防計画に基づいた避難訓練を実施した。そのうち年2回は総合避難訓練を実施し、消防署より来園頂き、消化訓練や通報訓練を通して指導と講話を受けた。 ・防災設備（自動火災探知機・煙感知器・誘導灯・排煙窓）の点検を実施

		した。 ・アプリ（うちのこ）「緊急時のお知らせ」にて子どもの安否、園舎の状況、避難先の情報を発信した。 ・災害時に向けて、備蓄品点検（6・12月）と保護者への子どもの引き渡し訓練（10月）を実施した。
2	実践結果 防犯対策	・年2回の不審者侵入訓練を実施した。そのうちの1回は警察官の方が不審者となって訓練を行い、不審者対応の子ども向け・保育者向けの講話を受けた。 ・門扉や畑出入口の施錠については、保護者懇談会において、送迎時の施錠の徹底についての協力をお願いした。 ・保護者登録情報に基づいて、送迎時の引き渡し確認を徹底した。 ・防犯センサーを駐車場に設置している。 ・つくば市役所からの不審者情報提供を都度受ける体制を整えた。
3	実践結果 光化学スモッグ対策	・つくば市からの「光化学スモッグ注意報」の発令を受けた場合、それに従い戸外活動を自粛する体制を整えている。
4	実践結果 暑さ対策	・つくば地域の「暑さ指数」情報に基づき、指数の高い場合は涼しい時間帯を選び、室内活動やプール・水遊びに切り替えた。
5	実践結果 怪我事故防止対策	・ハザードマップの作成にあたり、園長が同行して道中や散歩先での危険個所を点検し、全スタッフで共有した。3か月一度の割合で新たな危険個所のマップの更新を行い、全スタッフに周知した。 ・園外保育時はハザードマップを事前に確認し、都度ダブルチェックで人数確認を行った。また現地では事前に危険物の有無を点検してから遊び始めることを徹底した。 ・園外保育時のバス乗降では、タラップの上と下にスタッフを配置し、降車時の子どもの置き去りがないよう安全確認の配慮について全スタッフで周知した。 ・消防署による救急救命の講習会をエリアで開催し、全スタッフが取得した。
6	実践結果 怪我対応対策	・当日の怪我は全タッフに園チャットを活用して早急に周知し、予防と改善について話し合い、その後の適切で丁寧な保護者対応に繋げた。
7	実践結果 プール遊び対策	・プール開始前の事前の事故対応のロールプレイを実施し、スタッフの実践力と意識を高めた。プール入水時の監視2名の配置体制を徹底した。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

今年度は大学から言語聴覚士志望の実習生1名を受け入れた。また近隣中学校 3 校から職場体験の12 名と近隣中学校 1 校から家庭科保育ふれあい体験学習で 120 名の中学生を受け入れた。実習生には子どもの年齢に合わせた身体や言葉の発達を学んでもらい、保育者の関わりや支援の仕方を体験する場を提供した。中学校の職場体験や子どもとのふれあい体験では、保育園や保育者の役割を学んでもらい、子どもと関わる楽しさを十分に感じてもらえるように対応し、次世代の育成に貢献できるようにした。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
2月10～14日	東京工科大学医療保健学部 リハビリテーション学科	1人	観察実習

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
7月25～26日	つくば市立学園の森義務教育学校8年生	3人
7月29～30日	つくば市立春日学園義務教育学校8年生	4人
8月8日	つくば市立手代木中学校2年生	5人
11月27～28日	つくば市立春日学園義務教育学校9年生	120人

7．スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	16日 23名	21日 23名	18日 23名	16日 23名	20日 22名	17日 23名	15日 23名	19日 23名	17日 23名	21日 23名	21日 22名	2日 22名
マニュアル研修	16日 23名	21日 23名										
生活記録活用研修							15日 23名	19日 23名				
自らの保育実践の発表研修			18日 23名	16日 23名	20日 22名	17日 23名			17日 23名			
動画視聴研修			18日 23名					19日 24名				
保護者による就学に向けて							25日 51名					

の研修												

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
５月27日	つくば市	つくば市民間保育園等園長会議研修	1名	(有)or 無
6月4日/6日	茨城県教育庁	保幼小接続研修（Web）	5名	(有)or 無
6月15日	つくば中央消防署	救急救命講習研修	3名	(有)or 無
6月22日	つくば中央消防署	救急救命講習研修	6名	(有)or 無
11月7～14日	茨城県教育庁	保幼小接続研修（Web）	5名	(有)or 無
2月27日	つくば市	幼児教育と小学校の連携・接続のための研修会	1名	(有)or 無

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 0名	20日 0名	21日 0名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	11月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	参加者なし											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	参加者なし											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

〈5〉「自らの保育行動計画を立て実践したこと」を発表する場の構築

保育の中での自らの「強みと弱み」をスタッフ各々が向き合うことで、その弱みをそのままにせずに、強みに変えるための手立てを考えて実践していった。誰にでも不得手はあるが、そこを皆にさらけ出すことで、気張らずにスキルアップに向けて取り組む姿が見られた。実践について発表する時期を自ら決めたが、全てを満足しての発表とならないスタッフもいた。しかし、目標に向けて努力したことを互いに認め合う姿があり、弱みも努力することで前進することを実感できた実践だった。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

商店街ツアーでは事前に相手先に連絡を取ることで快く受け入れてくださり、お仕事についての説明や見学の機会を与えて頂いた。子どもたちは貴重な体験を得ることが出来た。子どもたちが縫った雑巾を、「敬老の日」にプレゼントをするために老人施設を訪れ、また年末年始のご挨拶のために地域のお世話になっている方々のところに訪問するなど、地域との交流を図れた。お年寄りとの交流では長時間の接触が難しく、感染症の危険からなかなか深められない中、子どもたちが訪問すると大変喜んで頂けたので、子どもたちにとって嬉しい体験となった。地域の公共施設の消防署見学や警察官による不審者訓練での交流では、地域のために働いてくださる方々を間近に感じて学ぶ機会を得た。また、NEXCO 東日本のご依頼を受けて、守谷 SA の花壇の花植えの手伝いや、子どもたちが製作した作品を谷田部 SA に展示し、地域の方々に喜んで頂くなど、地域との繋がりを深めることができた。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：みはらし公園にて　　参加延べ人数：１６名
商店街ツアー	週1回 主な行き先：ミートコ、筑波ハム、仙七、カスミ、ケーズデンキ、研究学園駅前交番、つくば市中央消防署、研究学園郵便局等
世代間交流	5月24日に本園にて筑波大学生とラグビー交流を実施 6月21日に本園にてジャグリングのお兄さんとの交流を実施 7月20日に本園にてどろんこ祭りにお年寄りに来園頂き交流を実施 9月9日に老人施設「新つくばホーム」のお年寄りに手作り雑巾のプレゼントを実施 10月18日に本園にて地域の方による「シャボン玉ショー」開催 12月26日/1月4日に近隣のお世話になった方々へ年末年始のご挨拶回りを実施
異年齢交流	12月13日に本園にて「正月飾り作り」を実施し、保護者が参加 12月20日に本園にて「ならせ餅」を実施 1月14日に本園にて「どんど焼き」を実施 2月3日に本園にて「節分」を実施し、地域の親子が参加

その他活動	4月18日に本園「イギリス人と挨拶を交わす」を実施 6月10日/11月9日に本園にて「交通安全教室」を実施 7月20日～8月31日に谷田部 SA にて子どもたちの製作「夏の作品」を展示 7月20日に本園にて「どろんこ祭り」を実施 9月17日に本園にて実施した「稲刈り体験」に地域の方が参加 10月24日に守谷 SA の花壇の花植えの手伝いに5歳児が参加 11月5日に本園にて実施した「芋ほり体験」に地域の方が参加 11月25日に本園の「不審者訓練」に地域の警察官が参加協力、講和を受ける 11月26日に香取台どろんこにて5歳児による「エリア交流会」を実施 12月9日に本園にて「カスミの食育学習」実施 3月28日に本園にて学園の森どろんこの2，3歳児との交流を実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

年度当初から、近隣の3校の小学校への授業参観や運動会見学などの参加を始めとして、活発な交流を持てた。年度後半には、５歳児のクラスの子どもたちが小学校１年生の授業に招かれて一緒に遊ぶ機会や、学校探検などに参加することができ、就学に向けてスムーズな連携を図ることができた。地域の小学校との密な交流が、子どもたちの就学への期待を膨らませることに繋がった。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
4月19日	春日学園義務教育学校	2名	新年度挨拶	職員間交流
4月22日	学園の森義務教育学校	2名	新年度挨拶	職員間交流
4月22日	研究学園小学校	2名	新年度挨拶	職員間交流
4月26日	研究学園小学校 1年	2名	授業参観（1年生）	職員間交流
5月30日	学園の森義務教育学校	スタッフ２名 子ども31名	運動会見学	子ども間交流
10月22日	研究学園小学校	スタッフ2名 子ども31名	運動会見学	子ども間交流

11月19日	春日学園義務教育学校 1年1組	スタッフ2名 子ども17名	授業参加	子ども間交流
11月29日	研究学園小学校 1年	スタッフ2名 こども17名	授業参加	子ども間交流
3月5日	学園の森義務教育学校 1年	スタッフ2名 子ども17名	校内見学・学校紹介	子ども間交流
3月	5歳児（17名）就学先全校		児童要録の提出	職員間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

今年度、対象園児なし

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

今年度、開催なし

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

今年度、進級及び小学校への引継ぎなし

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	0名	12名	405名	0名	0名	6名	8名	4名	4名	4名	4名	447名

<table>
<tr><th>実施項目</th><th colspan="13">詳細</th></tr>
<tr><td>園開放</td><td colspan="13">（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　　来園延べ人数：57名</td></tr>
<tr><td>子育て相談</td><td colspan="13">（月）～（土）13:00～16:30　　⇒計0件相談実施済み</td></tr>
<tr><td rowspan="3">自然食堂
親子ランチ
交流</td><td colspan="13">毎週（水）10:00～12:00　　⇒計6回実施済み
参加者延べ人数</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>2名</td><td>4名</td><td>4名</td><td>2名</td><td>0名</td><td>2名</td><td>14名</td></tr>
<tr><td>どろんこ
芸術学校</td><td colspan="13">毎週（水）10:00～12:00　　⇒計3回実施済み
参加者延べ人数</td></tr>
</table>

どろんこ自然学校	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	4名	2名	0名	0名	0名	2名	8名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00　にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっぐだより	毎月1日発行												
青空保育（支援センター主催）	月1回　　公園名：見晴らし公園にて　以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	12名	0名	0名	0名	0名	2名	0名	0名	0名	2名	16名

12.　園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２４年２月２０日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：１２時００分
自己評価終了時刻：１５時００分
自己評価実施者：施設長、主任、スタッフ２名

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月２５日
アンケート回収率：１００％

全体的に顧客満足度（ＮＰＳ）は６０となり、昨年度よりも上昇傾向だった。アンケートの結果では、「登降園時の保護者へ向けての気持ち良い挨拶」や、「園の良い雰囲気」については高評価の結果を頂いた。「園舎内外の清掃・整理整頓」と「安全な環境での活動」についても、９５％の保護者から満足との回答を得ることができた。また昨年度の課題であった「スタッフ同士の情報共有が適切に行われているか」に対しての満足度も改善された。しかし、保護者同士のつながりのあるイベント企画についての希望は満足の回答が７５％に留まっているため、今後の目標として考えていきたい。

13.　苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって

寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見　０件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む）　０件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年3月１５日　　作成者：つくばどろんこ保育園 施設長　瀧澤 佳子

２０２４年度　岩切どろんこ保育園　事業報告書
（保育所における自己評価）

１．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

①　一人ひとりの保育を大事にする丁寧な保育

一人ひとりの姿を捉え、保育者間で共有しながら丁寧に関わることを大事にしてきた。クラス会議、日々の振り返りを実施し細やかな育ちの共有をすることに力を入れた。設けられた場でなくとも対話をすることが習慣ついていくよう何気ない対話の充実を図っていきたい。

②　真の“子ども主体”を理解した保育の実践

子どもの主体について園内研修を実施しながら学んできた。子ども主体の意味の捉え違いがないように理解を深めてきたが、まだ十分な理解のもとでの保育実践には届いていない。学びを継続し真の子ども主体の保育を目指していく。

③　子どもの生活力を育む基本活動、環境教育の実践

日課の取り組みは、意味意義を全スタッフが共通理解のもと実践できるようになってきている。取り組む中で、その時々の流れや動線などの課題に向き合いながら今後も充実した活動を実施する。

④　学ぶ、考える、伝える、葛藤、協働するなどを通したにんげん力 UP

様々な活動をする中で、考え、伝え、葛藤することを保育者と共に経験してきた。取り組みの過程でうまくいくことばかりではなかったが、結果として満足感を得ている様子が見られた。次年度も子どもにとって必要な経験の中で様々な学びが得られるようにしていく。

⑤　相手の心に入り込んだ接遇、美観

接遇に関しては、まずは挨拶をしっかりすることを念頭に丁寧な対応を心掛けてきた。少しずつ身につきつつある。美観についても整理された状態が保てるようになってきた。一方で誰もが同じ基準はまだ到達していない部分があるので、引き続き意識を高めていく。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

１	計画・ねらい	対話を大事にした保育の実践
	実践結果	クラス会議等の会議体にこだわらず、語る場を積極的に設けながら対話を実践してきた。その中で、子どもの姿や保育への思いを共有し合い互いを理解しながら保育の実践に努めた。子どもともミーティングなどを充実させたり、個々の関わりの中で丁寧に話をしたりしながらそれぞれが自己発揮できるように関わった。
	次年度方向性	次年度も語り合うことを重要視しながら保育の実践を行う。
２	計画・ねらい	子ども主体の学び直しからの保育実践

	実践結果	園内研修で主体について学ぶ場を持ちながら、子どもの主体について学びを深め、共通認識のもと保育が実践できるよう取り組んだ。
	次年度方向性	子どもの主体についてはまだまだ学ぶ余地がある。意義を理解したうえで保育を実践していけるよう引き続き研修等で学び続ける。
3	計画・ねらい	養護と教育の一体
	実践結果	月齢や発達に合わせた丁寧な養護の関わりの実践を通し、信頼関係を築き安定して過ごす中で自己発揮を目指した。
	次年度方向性	養護の視点の学びを学んだり、指導されたりする中で月齢や発達に合わせた丁寧な関わりを通して信頼関係を築くことができた。また、就学までの見通しを持ちながら計画を立て保育を実践してきた。丁寧の質に関しては引き続きスタッフ間での学びを深めていく。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者の気持ちに寄り添った保護者支援
	実践結果	定期的に園会議にて保護者対応の研修を実践することで、寄り添った対応について共通認識を持ちながら対応に努めた。
	次年度方向性	保護者が相談しやすい環境と対話の質の向上を目指して知識を増やし、一人ひとりに寄り添った対応を目指す。
2	計画・ねらい	心を込めた挨拶・立ち振る舞い
	実践結果	顔を合わせて、元気に挨拶することを実践する。どんな時も焦らず、急がずということを意識しながら対応を行ったことでお迎えの混雑時にも、せわしない雰囲気にならないようになってきた。
	次年度方向性	挨拶は基本なので、引き続きおこなっていくものとするが立ち振る舞いについては接遇の学びをさらに深めていく。
3	計画・ねらい	相手の心に入り込む保護者対応
	実践結果	対応については学びを深めてきたが、接遇としては相手の心に入り込むまでの対応は十分でなかった。
	次年度方向性	立ち振る舞い同様接遇については学びを深め、心に入り込む対応を心掛ける。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域のネットワークを活用した子育て支援の広報活動
	実践結果	地域のネットワークの冊子等で子育て支援の取り組みについて広報活動を行ったが、なかなか集客がなかった。ネットワークのお祭りの手伝いをする中で行事広報活動を行った。

	次年度方向性	ホームページで公開されているちきんえっぐだよりを市民センターや児童館で掲示してもらうなどし、活動のアピールを継続する。
2	計画・ねらい	子育て支援活動の充実
	実践結果	計画は気軽に参加できるものであり、実際に参加した方は楽しんで参加してくれていたがリピーターには繋がっていかなかった。
	次年度方向性	広報活動に力を入れることで地域へ活動の周知をするとともに、魅力的な活動の取り組みを計画する。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	スタッフ同士の対話による学びの共有
	実践結果	事務時間内にクラスで集まり、その日の振り返りをする取り組みや、対話の重要性について都度伝えることで対話の中での学びも増えていった。
	次年度方向性	継続した取り組みの中での対話の充実や学びが深まるように、対話の質の向上を目指す。
2	計画・ねらい	学びのアウトプット
	実践結果	リーダーを中心に園会議で研修をする等自身が学んだことをスタッフに共有する場を設けた。園長大学®・保育士大学の動画視聴での学びのアウトプットは園全体としてはあったが、スタッフ一人ひとりは実施することができなかった。
	次年度方向性	園内研修の計画をもとに、あらかじめ学ぶ項目を周知するなどしながらスタッフが学んだことを他のスタッフに共有し学び合う場を設ける。
3	計画・ねらい	互いに認め合い自己肯定感を持つ。 保育のスキル向上とチームでの保育の実践
	実践結果	自分の保育を発信する点においては消極的な部分があったが、スタッフ同士で対話をする中で互いのことを知り、受入れながら保育を実践していくことはできた。
	次年度方向性	互いの得意不得意を受け入れながら、コミュニケーションを大事にしていく。その中で、自分の強みを見つけ自己肯定感を育む。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	畑仕事、生き物の世話を通して自分の役割を考え判断する力を育む 畑仕事、食の循環、環境へ自ら関わろうとする意欲を育む。
	実践結果	日課で生き物世話、畑仕事に取り組む中で、自分たちで役割分担をしながら実施することができていた。堆肥や食の循環についても取り組む中で興味関心を持っていた。
	次年度方向性	コンポストの取り組みについてはまだ均等な機会の中で取り組みが実施できていないので、給食スタッフと連携を図り日課同様に取り組む。

2	計画・ねらい	命をいただく活動の実践
	実践結果	マグロの解体をし、命を頂くということ、食の循環について目の当たりにし命の大切さや食事の大事さを知ることができた。
	次年度方向性	次年度も命の大切さ、食の循環について知る経験ができるよう、マグロや鶏を捌く機会を作る。

〈6〉対話力の向上（施設長が力を入れて取り組むと決めた事柄）

1	計画・ねらい	同僚性の向上
	実践結果	スタッフ間のコミュニケーションは徐々に向上してきている。行事等を通して一人がみんなのためにという思いが育まれてきていた。
	次年度方向性	何気ない語り合いをスタッフみんなが大事にし、子どもや保育について思いを伝えあいながら同僚性を高める。
2	計画・ねらい	対話から保育の視野を広げる
	実践結果	子どもの姿、保育の困り感などリーダー等が聞き対話をしていくことで、視野を広げて、自分の保育に繋げていた。
	次年度方向性	施設長、主任、リーダーが対話をする中で、思いを汲み取りスタッフ一人ひとりが楽しんで保育ができるようサポートを行う。

〈7〉接遇と美観（施設長が力を入れて取り組むと決めた事柄）

1	計画・ねらい	思いやり、誠実さ、謙虚さなど心を込めた立ち居振る舞い
	実践結果	来訪者がいらした際には明るく元気に挨拶をするなどの対応がだいぶ身につき、丁寧な立ち振る舞いができるようになってきている。
	次年度方向性	引き続き、相手の立場にたった立ち振る舞いを継続する。
2	計画・ねらい	誰もが同じ基準の美観
	実践結果	景観的にはだいぶ整理され整ってきているが、同じ基準の美観についてはまだ十分でない。
	次年度方向性	園全体の美観の意識が高まってきている。これからは、互いに気づいたところは伝えあいながら園としての美観の基準を揃える。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半：4~9月	54人	108人	108人	125人	120人	90人	605人
年度後半：10~3月	54人	108人	108人	124人	126人	88人	608人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	311人	329人	348人	405人	315人	342人	393人	321人	344人	343人	310人	310人	4071人
うち0歳児	10人	15人	23人	30人	23人	32人	24人	33人	32人	28人	30人	30人	310人

（解説）2月、3月は見込みの数値

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	5人	2人	2人	5人	1人	4人	4人	6人	7人	8人	5人	5人	54人
うち0歳児	3人	2人	0人	3人	0人	4人	4人	6人	3人	6人	4人	4人	39人

（解説）2月、3月は見込みの数値

〈2〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

常勤スタッフ	保育士	18人	看護師	1人	栄養士	2人	調理員等	1人
パートスタッフ	用務	1人	事務	1人	嘱託医	2人		

3. 運営報告

〈ｌ〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月ｌ回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・園内研修
給食運営会議	月ｌ回	食育体験振り返り　クラスの様子の共有
事故防止委員会	月ｌ回	自園・他園事故記録簿検証と分析　ヒヤリハットインシデント検証と分析　危機管理の共有
ケース会議	月１回	要支援児の現状と課題の共有

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月ｌ回	施設長
施設長勉強会	月ｌ回	施設長
食育会議	年4回（5.8.ll.2月）	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回（5.8.ll.2月）	施設長
主任会議	月ｌ回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月ｌ回	保育士

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	感染症予防の関する衛生管理　感染症流行時の情報発信、共有
安全対策係	施設内外の設備、遊具の点検　安全管理　スタッフの危機認識の共有
防火管理者	災害を想定した避難訓練の実施　設備点検

食品衛生管理係	マニュアルに基づいた衛生管理　給食の提供
畑係	年間を通して畑の管理　種、苗などの購入
生き物係	飼育の管理　堆肥作り　餌の管理、購入

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	サポーターズ主催での運営　地域を巻き込んだ実施
岩切わいわい広場	地域の子育て家庭向けのお祭りの手伝い

4. 保育支援

〈1〉保育･保育参加･保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	【乳児】 ・一人ひとりの欲求を満たし、情緒の安定を図る。 ・身近な大人との信頼関係のもと様々なことへ興味関心を育む。 ・自ら様々な事象に関わり感性を豊かにする。 ・一人ひとりの遊びを保障していく 【幼児】 ・生活に必要な習慣を身に着けていく。 ・興味関心を持ったことを自ら関わり主体的に遊びを進めていく。 ・言葉や行動で自分なりに思いを伝えようとする。 ・自分で考えたり、工夫したり、判断したりしながら創造性を培っていく。
保育参加	4～3月まで　合計0名　が参加済み　　（3月１日時点）
保護者面談および発達相談	4～3月まで　合計２名　が参加済み　　（3月１日時点） ・保育園生活の姿の共有

〈2〉計画した年間行事の振返り

・別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	家庭的で落ち着いた環境作り 一人ひとりに合わせた食事の提供
	実践結果	食事の時間の職員の配置、提供の仕方などを試行錯誤しながら工夫してきた。子どもの食べている様子に目を配り、落ち着いた環境の中食事ができるようになってきた。
	次年度方向性	その時の子どもの姿に合わせながら都度体系等は変えながらも、スタッフが子どもの食べている様子を丁寧に見て把握してくことは大事にしていく。
2	計画・ねらい	調理くずによるコンポストにおいて食の循環や環境への意識を育む 食育体験を通して食への興味関心を持つ
	実践結果	野菜くずでのコンポストを給食スタッフが中心となり取り組んだ。食育体験の中でも加工することなどを通して食に興味を持っていた。
	次年度方向性	コンポストは、均等な体験の機会ができるよう給食スタッフと連携を図り継続して取り組んでいく。
3	計画・ねらい	旬の食材や伝承行事を通した食育活動の実践
	実践結果	旬や伝承行事の中での食について、行事ごとに伝えながら興味関心が持てるように取り組んだ。
	次年度方向性	毎年のことではあるが、様々な場面で食について伝えていくことで季節を感じながら興味関心を育んでいく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	4月22日／10月10日に実施
歯科検診	6月4日に自園にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 6月5日に自園にて手洗い指導を実施 ② 6月4日に自園にて歯ブラシ指導を実施
流行した感染症	特になし
発作・痙攣等の対応	なし

エピペン使用できるスタッフの状況	・3月31日に自園にてエピペン研修を新入スタッフ計1名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ24名のうち、24名が使用可能
その他保健に関する取組	感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（法定1回/3年）	業者による対象物の法定点検 2023年実施済み ※対象物がない園及び JW 園は削除すること
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月 ⇒4月10日、10月1日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日　実施済み
	児童健康診断	内科健診　各年2回／4月22日、10月10日 歯科健診　各年1回／6月1日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時 ⇒4月12日､10月11日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間　実施済み

	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	自ら選択し遊びこめる環境構成の実践
	実践結果	都度子どもの姿を捉えながら環境の再構築を実施し、子どもが遊び込める環境作りを行う。
	次年度方向性	昨日の続きができるよう日々の子どもの姿を捉え、思いを汲み取りながら遊び込める環境の構築を図る。
2	計画・ねらい	大人も子どもも Trial＆Error しながら関わる環境作り
	実践結果	人的、物的環境を整えることで「やってみたい」を実現できるようにし、意欲を引き出していった。
	次年度方向性	Try した後の error を丁寧に拾うことで、一人ひとりの遊びを保障し遊びへの意欲を引き出していく。
3	計画・ねらい	スピード感のある環境の再構成
	実践結果	なぜ、環境の再構築が必要かをスタッフで共通理解、認識を持つまでに時間を要したが少しずつ重要性を理解してきている。理解をするまでに時間がかかりスピード感にも差があったが、みんなで再構築しようとする意識は育まれている。
	次年度方向性	子どもの姿を踏まえた環境の再構築について、スピードの感覚を擦り合わせながら実践していく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	岩切ビックウエーブ	園庭	毎日	4月に撤去済み
2	吊り橋	園庭	毎日	4月に撤去済み
3	小屋	園庭	毎日	異常なし
4	製作テーブル	1階保育室	毎日	異常なし
5	レゴ台	1階保育室	毎日	異常なし
6	お一人様コーナー	1階保育室 2階保育室	毎日	異常なし
7	ベンチ	2階保育室	毎日	異常なし
8	丸太の平均台	2階保育室	毎日	異常なし
9	ハイハイスロープ	２階保育室倉庫	毎日	異常なし
10	太鼓橋	2階保育室	毎日	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

Ｉ	実践結果	園庭・室内遊具(手作り)毎日の点検 毎日点検することで未然にけがや事故を防ぐ
2	実践結果	地震等災害に備え避難訓練を実施する。また、備蓄品の在庫確認、発電機等の使い方を把握災害時速やかな対応ができるようにする
3	実践結果	けがや事故を未然に防ぐためヒヤリハット、インシデント、他園の事故記録簿を分析する。けがや事故が発生した場合は都度検証と分析を行い、同じことが起きないようスタッフで周知徹底する
4	実践結果	築山にピンクたすきを付けたスタッフが立ち、子どもの遊びの様子の把握や安全なスタッフ配置の指示をするとともに、不審者に対する視点も持ちながら全体把握に努める
5	実践結果	年4回のハザードマップの見直し

6. 実習生・中高生の受入

〈Ｉ〉今年度の振返り

実習生、職場体験の中学生共に、積極的に子どもに関わる姿が見られた。保育の楽しさが感じてもらえるよう環境を整えた。また振り返りをする中で、保育に興味関心が持ってもらえるようにした。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
6月Ｉ8～20日	仙台赤門短期大学	２人	観察実習
7月Ｉ～４日	仙台こども専門学校	4人	体験実習

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
ＩＩ月6～8日	仙台市立岩切中学校	5人
ＩＩ月Ｉ8～22日	利府町立利府西中学校	４人

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	12日 24名	10日 24名	14日 23名	12日 24名	9日 23名	13日 23名	11日 23名	8日 23名	13日 24名	17日 24名	27日 24名	20日 24名
園内研修	12日 21名	10日 22名	14日 15名	12日 16名	9日 20名	13日 15名	11日 15名	8日 14名	13日 18名	17日 18名	27日 15名	20日 15名
虐待防止研修	12日 24名						11日 23名					

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
5月24～25日	保育士キャリアアップ研修	保護者支援・子育て支援研修	1名	無
5月25～26日	保育士キャリアアップ研修	食育・アレルギー対応研修	1名	無
7月27～28日	保育士キャリアアップ研修	食育・アレルギー対応研修	1名	無
8月3日～4日	保育士キャリアアップ研修	食育・アレルギー対応研修	1名	無
12月20日～21日	保育士キャリアアップ研修	幼児教育研修	2名	無

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 2名	15日 1名	27日 1名	19日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	21日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	18日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	12月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

〈5〉園長大学®・保育士大学のコンテンツを活用した学びの創出

園会議にて、その時の課題に応じた動画や学ぶべき講座を視聴し学びを深めてきた。学びについてディスカッションする場を設けるなどして自分の学びとなるように取り組んだ。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

地域のネットワーク会議やお祭りに参加したことで、地域の方の参加も見られた。一方で、子育て支援ちきんえっぐに関してはなかなか活動のアピールができておらず集客には課題が残った。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：1号公園にて　　参加延べ人数：3名
商店街ツアー	週1回　主な行き先：カワチ、サイコー、コープ、ダイソー等
世代間交流	８月20日に自園にて高校生と畝つくりを実施
異年齢交流	12月4日に宮城県農業高校にて生き物の世話体験を実施
その他活動	6月11日に園周辺にて株式会社サイコーとゴミ拾いを実施
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉　実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

就学する小学校が増え、学校によって取り組みが違うこともあり授業見学をしたり、情報交換をしたりする機会が年度初めにも持つことができた。アプローチカリキュラムを小学校と話し合い交流を持っていくことに対しては課題があったため。次年度は年度末に小学校と連携を図っていく。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
6月11日	菅谷台小学校	2名	授業参観　情報交換(菅谷台小学校)	スタッフ間交流
1月27日	岩切小学校	1名	保幼小連絡会(岩切小学校)	スタッフ間交流
２月13日	鶴が丘小学校	1名	授業参観（鶴が丘小学校）	スタッフ間交流
3月	岩切小学校 1年	15名	手紙交換交流	子ども間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

子どもの姿をスタッフ間で共有し、今の課題、これからを見据えた支援を考えながら個別計画を立てる。都度、保護者の方とも面談をして情報交換・共有をしながら、時には計画を見直しながら支援にあたってきた。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・４～３月に計１２回開催　参加者：６名
子どもの姿から現状の課題、支援の振り返り、今後の対応について共有。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

保幼小連絡会の資料作成や情報共有、保育児童要録の作成を行う。進級、就学へ向けて保護者との連携や担任間の引継ぎを行う。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
21名	69名	87名	105名	91名	74名	96名	110名	98名	77名	70名	70名	968名

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　　来園延べ人数：968名

<table>
<tr><td>子育て相談</td><td colspan="13">（月）～（土）13:00～16:30　　⇒実施したが、計0件</td></tr>
<tr><td rowspan="3">自然食堂
親子ランチ
交流</td><td colspan="13">毎週（水）10:00～12:00　　⇒計2回実施済み
参加者延べ人数</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>0名</td><td>0名</td><td>2名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>4名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>6名</td></tr>
<tr><td rowspan="3">どろんこ
芸術学校
どろんこ
自然学校</td><td colspan="13">毎週（水）10:00～12:00　　⇒計1回実施済み
参加者延べ人数</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>4名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>4名</td></tr>
<tr><td>勝手籠設置</td><td colspan="13">（月）～（土）7:00～20:00　にて実施
門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置</td></tr>
<tr><td>ちきんえっぐだより</td><td colspan="13">毎月1日発行</td></tr>
<tr><td rowspan="3">青空保育
（支援センター主催）</td><td colspan="13">月1回　　公園名：一号公園にて　以下日程にて実施</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>0名</td><td>1名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>２名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>1名</td></tr>
</table>

12.　園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２４年６月３０日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：８時３０分
自己評価終了時刻：１８時３０分
自己評価実施者：全スタッフ

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月２５日
アンケート回収率：１００％

保護者対応について研修などを実施してきたが、まだまだ十分でない部分が大きいので引き続き対応の仕方や立ち振る舞いについて学びを深めていく。スタッフ間の伝達においても、十分な対応ができていなかった。引継ぎ名簿に漏れずに記入する、伝達を受けたスタッフは責任を持って担任に口頭で伝えるなど徹底して行い、伝達漏れを防ぐ。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見　0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む）　0件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年3月１５日　　作成者：岩切どろんこ保育園 施設長　山本　明子

２０２４年度　メリー★ポピンズ エスパル仙台ルーム
事業報告書
（保育所における自己評価）

Ⅰ．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

自分で考えて行動する力を育てていくことを念頭に入れて、新しい仲間とともに前進してきた。子どもたちは身近な大人の姿を見本として、その背中を見ながら成長するので、私たち大人が見本となるために試行錯誤しながら保育を進めてきた。
子どもたちが自ら考え、選択できる環境の提供や、１０の姿の体得、そして命をいただくことなど、法人の基本方針に基づき、スタッフ一同一丸となって取り組んできた。しかし、1年間を振り返ると、いくつかの失敗や反省点があった。これらを次年度に生かし、基本を大切にしつつ、子どもや保護者とより深く向き合っていくことを今後の課題として、さらに努力していきたいと考える。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	保育士、栄養士、看護師、事務員などすべてのスタッフがそれぞれの専門知識と技術のスキルを磨き、常に自己目標に向かって研修などを利用して勉強に励む。
	実践結果	それぞれが学んだことやスキルを出し合っていくことを徐々に共有できるようになってきたが、保育に活用できていないところがあった。
	次年度方向性	今年度よりも「共有する場」を多く創出し、学び合う。
2	計画・ねらい	生活や遊びを通して子どもの心に寄り添い、見通しをもって、指摘、人的環境を整え、計画的に保育を実践する。
	実践結果	できるだけ子ども一人ひとりに寄り添うことはできた。しかし、大人側の準備不足などもあり、見通しを持って保育にあたるという点では不足があった。
	次年度方向性	次年度は大人側が見通しを持って行動する事に注力する。
3	計画・ねらい	子どもの主体性を伸ばすために、子ども同士で生じた課題は子ども同士で解決できるようにサポートを行う。
	実践結果	保育者が仲立ちを行い、丁寧にサポートを行うことができていた。
	次年度方向性	子どもたちの自立心を育むためにもすぐに大人が仲介したり、あれこれ指示したりするのではなく、子どもたちの気持ちに寄り添い、一つひとつ代弁して、子どもの思いを丁寧に受け止める。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	大切なお子さんを預ける不安をしっかりと把握し、安心して仕事ができるように日々の様子を共有する。
	実践結果	子どもたちの成長した所などポジティブな面を保護者に伝えていくことを目標にしてきた。スタッフの解釈の違いなどにより、細かなニュアンスがずれてしまうことがあった。
	次年度方向性	保護者伝達研修を取り入れ、お迎え対応の精度を上げ、利用者満足度を追求する。
2	計画・ねらい	保護者面談を積極的に実施する。
	実践結果	保護者からの相談だけでなく、気にかかった子には保育者から声をかけて面談をした。
	次年度方向性	次年度も積極的に行う。
3	計画・ねらい	年2回の保護者懇談会において、保護者に日々の子どもの様子を伝えると同時に交流を深める。
	実践結果	時間が足りなく話し込んでしまうなど反省点が多い。懇談会の中で園の時間と保護者の時間を明確に分けているが、ファシリテーションが上手くいっていなかった。
	次年度方向性	事前の計画を丁寧に行う。ファシリテーション研修もスタッフが受けられる環境を用意する。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	子育ての悩みや不安に対する相談や親子で遊ぶ機会の提供などを多く持ち、地域の中での子育て機能を明確にして、対象となる人々の拠点となる。
	実践結果	発信の頻度が少なく、効果があったとは思えない残念な結果になった。現状の発信方法だけでは不足していると思う。
	次年度方向性	外部への発信力が弱いため、連携期間やテナントなどを利用して発信していくことに注力する。
2	計画・ねらい	保育園は「いつ・誰が・来ても良いところ」として地域に浸透させていく。
	実践結果	地域の特性を上手に把握できておらず、発信ができなかった。
	次年度方向性	地域の情報に耳を傾け、最も有効な場所・手法を選定し、外部発信していく。
3	計画・ねらい	地域の集まりや行事に参加しながら、交流を深めていく。
	実践結果	地域の行事には積極的に参加できたが、その後の交流に繋がっていないものもある。

	次年度方向性	積極的かつ継続的に交流ができるよう担当窓口を定めて深い関係値を構築する。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

I	計画・ねらい	それぞれが自発的に学び、話し合いを繰り返すことで共有する機会を増して学びあい、支え合う保育集団をつくる。
	実践結果	同グループ内の施設長や SV に巡回してもらい、主に保育面で多くの助言・指摘をもらった。助言を元に自園に当てはまるやり方を探求し、保育に繋げている。
	次年度方向性	自園だけに留まらず、他園の保育を参考にして、オリジナルを作っていきたい。
2	計画・ねらい	スタッフ間のコミュニケーションを高め、お互いの思いを共有できるような話し合いの場を創出する。
	実践結果	会議内で話し合いができる時間を多く設けるようにしてスタッフ間のコミュニケーション・共有に注力した。
	次年度方向性	次年度はより内容を細かく話し合い、共有をしっかり行うことでステップアップできると考える。
3	計画・ねらい	自己肯定できる保育を日々考えながら実践をすることで、子ども自ら主体的に活動し、自発的に生活できるように援助できるスタッフ育成をする。
	実践結果	自分の考えをはっきりと伝えることができるスタッフが増えた。
	次年度方向性	オンライン研修などを利用して今後もインプット・アウトプットを継続していく。

〈5〉環境実施目標

I	計画・ねらい	畑でとれた野菜を積極的に活用する。
	実践結果	自分で育てたという意識が子どもたちのやる気に繋がり、活動を楽しむ様子が多々見られた。
	次年度方向性	飽きてしまわぬよう、毎年異なる野菜作りに挑戦する。
2	計画・ねらい	コンポストを実践し、肥料をつくり活用していく。
	実践結果	計画不足でコンポストをうまく活用できなかった。
	次年度方向性	計画をしっかり立てて、畑係と共有し、進捗遅れが内容配慮していく。
3	計画・ねらい	3園合同で鶏を絞める体験の実施。

	実践結果	鶏を絞める活動はできなかったが、今回は釣ったマグロを捌き、食するところまで実施できた。
	次年度方向性	命の循環を伝えられるよう、子どもたちへの導入場面などからしっかり計画する。

〈6〉食の大切を知る

1	計画・ねらい	畑で採れた野菜を積極的に活用する。
	実践結果	畑で採れた野菜はみんなで一緒に活用していくことができた。
	次年度方向性	今年度とは異なる野菜を育て、活動に飽きがないように配慮する。
2	計画・ねらい	食べたいものを食べたい人と食べる経験をして、食に関心を持たせる。
	実践結果	今年度後半から増やしていき、楽しみながら食べることができた。
	次年度方向性	継続して実施する。

〈7〉大きな家の中で全学年の子どもたちが自由に行き来する保育園）

1	計画・ねらい	子ども・保護者・スタッフが三位一体となり保育ができる保育園。
	実践結果	保護者とのコミュニケーションの部分において、スタッフ間で差が出てしまった。
	次年度方向性	一体感をテーマにして、行事など積極的に交流を図る。
2	計画・ねらい	異年齢の子どもたちが園舎や園庭を自由に行き来し、様々な友達と関わり、お互いに手を差し伸べたりしながら笑顔いっぱいの保育園にする。
	実践結果	大人都合で行き来できない時間帯が発生してしまった。
	次年度方向性	まずは主体性の履き違えを正し、養護と教育をしっかりと理解した上で再度挑戦する。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半：4~9月	34人	72人	108人	120人	114人	120人	568人
年度後半：10~3月	36人	72人	108人	119人	114人	120人	567人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	271人	327人	355人	345人	299人	344人	364人	314人	366人	304人	342人	366人	3997人
うち0歳児	10人	22人	24人	25人	25人	28人	23人	27人	25人	24人	18人	24人	275人

駅ビルの中にあるので、利用者が多い

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	29人	38人	34人	50人	30人	48人	42人	42人	51人	36人	43人	43人	645人
うち0歳児	3人	7人	10人	8人	8人	9人	24人	20人	17人	25人	28人	28人	187人

仙台市以外（全国）からの問い合わせも非常に多い

〈2〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

常勤スタッフ	保育士	15人	調理員等	1人	栄養士	2人

パート スタッフ	保育士	2人	看護師	1人	事務	1人	嘱託医	2人

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・行事について
給食運営会議	月1回	保育現場との連携、食育について、アレルギーについて、丁寧な給食と残渣について
事故防止委員会	月1回	自園及び他園で起きた事故の共有と改善策
ケース会議	月1回	子どもの特性を理解し、支援の仕方について話し合う
リーダー会議	月1回	園で起きている問題や今後の対応、改善策、保育に関する話し合いをして共有

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
食育会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長
主任会議	月1回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	薬品管理、衛生環境について話し合う。薬品の消費期限について、表を作成、定期的に確認した。
安全対策係	防犯、保育備品の安全点検及び事故防止に力を入れた。
防火管理者	消防計画、消防自主点検確認、避難訓練の実施、毎日自主点検を実施した。
食品衛生管理係	食の安全、食育活動への取り組みに重点を置いた。
畑係	畑全般や管理を行う。季節の野菜を子どもたちと植え、収穫、管理を実施。
生き物係	ヤギや鶏が自園で飼育ができないので移動保育で餌あげなどをした。

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	どろんこサポーターズとの連携、計画を行う。準備から開催までスムーズに行うことができた。

4. 保育支援

〈1〉保育･保育参加･保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	・生活のリズム ・食事について ・トイレトレーニングについて
保育参加	4～3月まで　合計0名　が参加済み　　（3月1日時点）
保護者面談および発達相談	4～3月まで　合計10名　が参加済み　　（3月1日時点）

〈2〉計画した年間行事の振返り

・別紙「２０24年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結

l	計画・ねらい	家庭的で落ち着いた環境作り。 一人ひとりに合わせて食事の提供。
	実践結果	スタッフが一緒になって食事をしながらコミュニケーションを取りながら食べることの楽しみを伝えて連携をはかる。
	次年度方向性	丁寧にみていき子どもたちが楽しみながら食事ができるようにする。
2	計画・ねらい	調理くずをコンポストに使用して食の循環や環境に意識していく。
	実践結果	バケツでコンポストを作ったがあまり意識させることができなかった。
	次年度方向性	意識を持ってスタッフ自ら声をかけていくそしてそれを利用して畑つくりに興味を持たせていく。
3	計画・ねらい	季節の恵み、行事食、伝統食などを取り入れて楽しみにまつ給食提供に努める。
	実践結果	いろいろなことには興味を持って対応して喜んでいた。
	次年度方向性	細かく行事や伝統食の由来などを知らせていくことを行っていく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	4月l6日／ll月l8日に実施
歯科検診	6月5日にメリー★ポピンズ エスパル仙台ルーム会場にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年l回実施
スタッフ検便	毎月l回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	①　5月l4日に保育園会場にて手洗いの指導を実施 ②　6月8日に保育園会場にて歯のはなしを実施 ③　8月l日に保育園会場にて夏のすごしかたを実施

流行した感染症	④　6月に胃腸炎、園児30名・スタッフ3名蔓延し、本部へ報告 ⑤　11月に胃腸炎、園児40名感染報告あり。11月30日に終息
発作・痙攣等の対応	計0名に対し、計0回ダイアップ使用 その他なし
エピペン使用できるスタッフの状況	４月27日にメリー★ポピンズ エスパル仙台ルーム会場にてエピペン研修を受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ22名のうち、22名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	・本日時点で、在籍スタッフ22名のうち、22名が使用可能
その他保健に関する取組	うがい・手洗い指導を行う。消毒・換気の徹底。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（法定1回/3年）	業者による対象物の法定点検 2023年実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日　０日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日　０日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月 ⇒4月15日、10月15日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日　実施済み

	児童健康診断	内科健診　各年2回／4月16日、10月18日 歯科健診　各年1回／6月5日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時 ⇒4月26日、10月25日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間　実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	子どもが遊びこめるゾーン作り、リスク防止強化。
	実践結果	今年度、子どもたちの遊びこめるゾーン作りは何度も話し合い、その内容を実践に移すことができていた。
	次年度方向性	来年度も遊んでいる様子を細かく見て、丁寧に対応していく。
2	計画・ねらい	大人も子ども Trial and Error しながらかかわる環境作り。
	実践結果	子どもたちの環境つくりはできた。保育士はやってよかったと思うが、「楽しむ」より「やる」ことに夢中なってしまった。
	次年度方向性	お互いに声を掛け合いながら、一緒になって行うようにする。
3	計画・ねらい	自ら選択し遊びこめる環境構成の実践。
	実践結果	遊びの中で玩具などの見直しをした。
	次年度方向性	遊びこめるものを再度見直していく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	ボルダリング	幼児保育室	毎日	異常なし
2	レゴブロック用テーブル	幼児保育室	毎日	異常なし
3	製作ワゴン	幼児保育室	毎日	異常なし
4				

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	年間計画の沿った避難訓練は実施できた。
2	実践結果	不審者侵入訓練（年2回）の実施。
3	実践結果	事故防止委員会を開催・事故の検証、共有再発防止策の話し合い。
4	実践結果	設備点検、自主点検表（毎日）。
5	実践結果	法人内の事故発生記録簿のスタッフ回覧、共有再発防止策の確認。
6	実践結果	ビル全体避難訓練（年一回、6月）の実施。
7	実践結果	インシデント、ヒヤリハットの検証、共有、再発防止策の確認。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

実習生に保育が楽しいと感じてもらえるように丁寧に対応していくことができた。安心して実習に望めたが、中高生の受け入れは今回要望がなかった。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
5月28～30日	仙台赤門短期大学専門学校	2人	観察実習
8月5～8日	仙台子ども専門学校	4人	観察実習

〈3〉中高生の受入

受入なし

7．スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	26日 22名	24日 22名	28日 22名	26日 22名	23日 22名	27日 22名	25日 22名	22日 22名	20日 21名	27日 20名	21日 20名	21日 20名
園内研修	26日 22名	24日 22名	28日 22名	26日 22名	23日 22名	27日 22名	25日 22名	22日 22名	20日 21名	27日 20名	21日 20名	21日 20名
虐待防止研修	26日 22名						25日 22名					

〈2〉外部研修への出席

主催	研修名	出席	施設長推薦
令和６年度どろんこ会キャリアアップ研修	キャリアアップ研修	8名	無
令和６年度どろんこ会キャリアアップ研修	キャリアアップ研修	10名	無

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 1名	15日 1名	27日 1名	19日 1名	28日 1名	20日 1名	21日 1名	23日 1名	20日 1名	24日 0名	19日 1名	19日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	21日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	11月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	実施なし											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	実施なし											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年１回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

〈5〉園長大学®・保育士大学のコンテンツを活用した学びの創出

園長大学®・保育士大学の多数あるコンテンツを活用して自分の学びにつなげることができたので、今後も継続していく。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

地域の方とのふれあい、思いやりいたわりの気持ちを持ち、感謝の心を育む場所にしたいと思っていたが、なかなかできなかったのでもう一度初心に戻り丁寧に行っていく。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：五橋公園にて　　参加延べ人数：50名
商店街ツアー	週1回　主な行き先：たねや、肉の伊藤、朝市に魚屋、図書館、駅前交番、イベント会場、朝市会場など。
世代間交流	今年度は近くであいさつしかできなかった。（感染症が流行していたこともあり）。
異年齢交流	6月・12月・2月に仙台リゾート、スポーツ専門学校会場にて体育遊びを実施　。
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉　実施。

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

小学校での生活を知ることができた。教職員と対面することで距離が近くなり、より良い関係性を築くことができたので引継ぎ交流を深めていきたい。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
1月13日	鶴が丘小学校	1名	学校訪問	スタッフ間交流

1月24日	榴岡小学校	1名	学校訪問	スタッフ間交流
2月7日	大野田小学校	1名	学校訪問	スタッフ間交流
2月10日	南材木小学校	1名	学校訪問	スタッフ間交流
2月5日	東六番丁小学校	1名	学校訪問	スタッフ間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

子どもの特性を理解し、配慮や支援について共有した。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・４～３月に計１２回開催　参加者：２０名

毎回細かく話し合い共有をしていき、次回に繋げていく。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

発表会や保幼小に参加して次年度への引継ぎもできてきた。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
76名	23名	31名	114名	44名	140名	49名	31名	100名	90名	22名	30名	750名

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　　来園延べ人数：41名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　⇒計0件相談実施済み

<table>
<tr><td rowspan="3">自然食堂
親子ランチ
交流</td><td colspan="13">毎週（水）10:00～12:00　　⇒計8回実施済み
参加者延べ人数</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>6名</td><td>10名</td><td>10名</td><td>15名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>41名</td></tr>
<tr><td rowspan="3">どろんこ
芸術学校
どろんこ
自然学校</td><td colspan="13">毎週（水）10:00～12:00　　⇒計0回施済み
参加者延べ人数</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td></tr>
<tr><td>勝手籠設置</td><td colspan="13">（月）～（土）7:00～20:00　にて実施
門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置</td></tr>
<tr><td>ちきんえっぐだより</td><td colspan="13">毎月1日発行</td></tr>
<tr><td rowspan="3">青空保育
（支援センター主催）</td><td colspan="13">月1回　　公園名：五橋公園にて　以下日程にて実施</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>0名</td><td>0名</td><td>15名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>15名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>30名</td></tr>
</table>

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２４年７月１０日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：１３時００分
自己評価終了時刻：１５時００分
自己評価実施者、施設長、主任保育士、各リーダー

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月２５日
アンケート回収率：１００％

アンケートにご協力していただけるように一人ひとりに丁寧に対応していき、結果後は感謝の気持ちを言葉で伝え、次年度につながるようにしていった。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見　　０件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）０件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年3月１５日 作成者：メリー★ポピンズ エスパル仙台ルーム 施設長　未永　冨貴子

２０２４年度　東寺尾どろんこ保育園　事業報告書
（保育所における自己評価）

１．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

多様性(ダイバーシティ)を育むべく、安易な受容ではなく、話し合う対話から生まれる受容を目指した。「話し合おう」という大人の一方的な思いや判断に寄らず、子どもたちの気持ちを汲みながら対話した。また、子どもたち同士でも対話も促した。言葉のみによる対話ではなく、子どもたちの姿を捉え、受け止めることを、その基礎作りとし、タイムラインでの発信をその過程で捉えるように進めた。そして、その探求を含めた学びとして「体験活動」を Trial&Error にて育み、どろんこ会グループとしての目指す園の姿と併せて、子どもたちも大人もその成長を、ダイバーシティな保育園を築いていった。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

１	計画・ねらい	自分の気持ちや考えを表現し、相手の言葉も聞く話し合う基礎を作る
	実践結果	互いの意見をぶつけ合い、話す、聞くことを向き合える場としての場を提供し対話をする意欲を育んだ。
	次年度方向性	日課、日々の生活から子ども自ら発揮し、乳幼児期に応じたホンモノ体験を積み重ねる。
２	計画・ねらい	日々の生活から子どもが自己を十分に発揮し、乳幼児期にふさわしい経験が積み重ねる。
	実践結果	生命の保持と情緒の安定を図る養護と、自発的・自主的活動を図る教育が一体となった保育を強く意識して臨む。生き物の世話、日課から命に係わる体験を実践していった。
	次年度方向性	畑活動、生き物の飼育、堆肥作りの命の循環を実践し、命をいただくということを考え知る体験を積み重ねる。
３	計画・ねらい	子どもの個人差、子どもの姿を考慮しながら、１０に姿を体得する保育内容を創意工夫する。
	実践結果	基本保育「私たちが育てる６つの力」を「目指す子ども像（１０の姿）」を照らし合わせスタッフ間でよく話し合いながら実践し本園の子ども、保護者、環境等を考慮した上で、保育内容を工夫し質の向上に努めた。
	次年度方向性	子どもの姿を捉え、子どもの個人差、子どもの姿を考慮しながら、どの子も１０に姿を体得する保育内容を創意工夫する。

〈２〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

１	計画・ねらい	ご家庭への発信、子どもの姿や保育の姿「こだわりの保育の可視化・見える化」を推進

	実践結果	引き続き、日誌、タイムライン等保育書類をエピソード記録・保育ドキュメンテーション化することで、その連携を最小限にし、毎日の積み重ねを可視化できるようにした。
	次年度方向性	ICT サービスの活用。ご家庭への発信、子どもの姿や保育の姿「こだわりの保育の可視化・見える化」を推進する。
2	計画・ねらい	いつでも、どんなことも、誰でも、子どものため共に考える場、相談できる時間を周知していく。
	実践結果	育児に携わるすべての人に対して、いつでも、どんなことでも話し、相談できる保育園として、門戸を開き、随時育児相談できる支援体制を作っていった。
	次年度方向性	直接的な関わり。いつでも、どんなことも、誰でも、子どものため共に考える場、相談できる時間を周知していく。
3	計画・ねらい	以上を①思いやり　②誠実さ　③謙虚さ　④感謝　を忘れず、おもてなしの心を込めたサービスを提供します。
	実践結果	保育者と保護者様との礼節、敬意を以て、保護者支援に臨んだ。
	次年度方向性	引き続き、以上を①思いやり　②誠実さ　③謙虚さ　④感謝　を忘れず、おもてなしの心を込めたサービスを提供する

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	子育て拠点としての役割を向上させる。
	実践結果	地域の子どもに障害や発達上の課題が見られる機会はなかった。他系列園との合同子育て拠点で、その選択肢を見ることができた。
	次年度方向性	地域の子育て拠点としての役割を向上させる。
2	計画・ねらい	交流をする機会と場として地域にある保育園となる。
	実践結果	保育所の役割や機能を達成するために必要となる、関係機関・団体の機能や連絡方法を体系的に明示し、その情報がスタッフ間で共有した。
	次年度方向性	地域交流の起点となる保育園として確立する。
3	計画・ねらい	地域交流事業(ちきんえっぐ)の認知度向上、交流のハブ組織を目指す
	実践結果	散歩巡回を通して、おたより(ちきんえっぐ)を活用し、公園などで地域の方と言葉を交わしたときに、「いつ」「どんなことを」行っているかなど、対話を通して、繰り返し知らせていった。
	次年度方向性	引き続き、地域交流事業(ちきんえっぐ)の認知度向上、交流のハブ組織を目指す

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	園マニュアル、保育品質マニュアルの遵守。
	実践結果	マニュアルの重要性を毎月の園会議で、読み合わせ、その意図を再確認しながら、遵守することを徹底していった。
	次年度方向性	マニュアルの意味と必要性を考慮し、園マニュアル、保育品質マニュアルの遵守。
2	計画・ねらい	保育の連続性を追求する中で、チーム保育を充実させていく。
	実践結果	保育の連続性を PDCA、OODA でサイクル的に日常化するために、デザインマップ、ポストイット、保育 web 等を活用し、クラス会議、ケース会議、園会議など、その時に有効な打ち合わせの中で検証していく中でチーム保育を画策した。
	次年度方向性	保育の連続性を追求するチーム保育を構築していく。
3	計画・ねらい	社会人として、保護者、地域の方と広くできる接遇力を身につける。
	実践結果	園長大学保育士大学、コンピテンシーの活用と併せて、事務、スタッフ間で昼礼にて常的に接遇の研修を日常的に行っていった。
	次年度方向性	引き続き、社会人として、保護者、地域の方と広くできる接遇力を身につける。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食材循環サイクル、SDGs の実行
	実践結果	給食調理廃棄を減らし、残渣の再利用の実施、「捨てる」ではなく「有効活用」の視点を持つようにした。
	次年度方向性	引き続き、食材循環サイクル、SDGs の実行
2	計画・ねらい	省エネ・省電力・カーボンニュートラルの実現
	実践結果	施設の日常生活で、環境に対する悪い影響を少なくした。
	次年度方向性	省エネ・省電力・カーボンニュートラルの実現
3	計画・ねらい	陸の豊かさをも守る活動の実践
	実践結果	木育＝木材利用に関する教育活動　の実施 地球温暖化や持続可能循環社会の形成など、環境問題について理解し、学び、実践し、保護者も興味関心をもつよう啓蒙活動を行った。

	次年度方向性	引き続き、陸の豊かさをも守る活動の実践

〈6〉マニュアル遵守を前提とした事故防止委員会で再発を防ぎ、事故件数を削減。

1	計画・ねらい	主体的に考え、ヒヤリハットに気付けるスタッフ集団になる
	実践結果	ヒヤリハットに自ら気付き、それを記録簿だけでなく、チャット機能で共有し、インシデント事故の未然防止へ繋げていった。
	次年度方向性	ヒヤリハット件数を増やし、予測力のあるスタッフ集団になる。
2	計画・ねらい	インシデント、対話的に深く考察し、通院事故を削減していく。
	実践結果	起こってしまったインシデントを共有し、再発事故に向けて、スタッフ間で考察し、事故防止委員を展開した。
	次年度方向性	インシデント、対話的に深く考察し、通院事故を削減していく。
3	計画・ねらい	主体的で対話的に、事故防止委員会を実施し、再発事故をゼロにする
	実践結果	毎月の事故防止委員会をスタッフ主体で実施し、事故検証と共に再発防止策を多様なパターンで想定しながら、防止していった。
	次年度方向性	主体的に、事故防止委員会を実施し、再発事故をゼロにする。

〈7〉ダイバーシティ(多様性)とインクルーシブ保育の充実

1	計画・ねらい	個別配慮、受容というフレームアウトする保育にならないようにする。
	実践結果	個別配慮の必要性を安易な受容やルーティンで計画するのではなく、配慮の視野を広げ、子どもの姿から、混ざった状態での保育できるケース会議を実施し、多くの保育者視点を集めるための口頭だけでなく、社用携帯におけるチャット機能を活用していった。
	次年度方向性	個別配慮、受容という安易な保育にならないようにする。
2	計画・ねらい	配慮、支援が必要な園児に対しては、多様な視点で対応を検討する。
	実践結果	一色単に子どもの姿を捉えることなく、スタッフ数の多さを利点に多様な視点から、ケース会議で対象の子どもを捉えていくようにした。一人の子どもについて、リフレクションをしながら多方面から子どもをとらえることにより、他の子どもにも同じように必要な対応をしていった。
	次年度方向性	配慮、支援が必要な園児に関わらず、多様な視点で対応を検討する。

3	計画・ねらい	タイバーシティなインクルーシブ保育の実践。
	実践結果	包括性だけでなく、多様性も考慮した保育に臨むために、日々の記録の中での「エピソード化」をしていくことを重視した。子どもの姿そのものとそこでの関わりを日常の日誌で記録し、多様な姿、視点のエピソードを共有しながら、ケース会議へ繋げていった。
	次年度方向性	ダイバーシティなインクルーシブ保育の実践の継続。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半：4~9月	88人	144人	150人	174人	180人	131人	867人
年度後半：10~3月	90人	143人	147人	177人	177人	156人	890人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	144人	148人	163人	155人	91人	135人	143人	138人	151人	143人	143人	143人	1697人
うち0歳児	1人	6人	8人	12人	1人	6人	7人	6人	11人	14人	8人	8人	88人

一時保育利用状況

該当なし

〈2〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

常勤	保育士	18人	看護師	1人	栄養士	2人	調理員等	2人

スタッフ	事務	1人						
パート スタッフ	保育士	13人	補助	1人	用務	2人		

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・園内研修
給食運営会議	月1回	アレルギー確認、クラスの給食状況、食育会議報告
事故防止委員会	月1回	危機管理、安全対策、前月の検証
ケース会議	月1回	保育計画の振り返り、立案、共有、他機関との連携報告
リーダー会議	週1回	全クラス、園内の振り返り、内部監査是正

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
食育会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長
主任会議	年4回	主任
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	感染症対策の変革期として考慮しながら、子ども及び保育者の健康保持のために、施設内外の保健的環境の維持向上、衛生管理を行い、子どもも保育者も何が健康保持につながるのかを再認識した。
安全対策係	特に施設外の設備及び用具の安全管理・点検、事故記録の作成、避難訓練計画立案・実施し、保育者は何が事故や怪我につながるのかを再認識した。
防火管理者	災害を想定した訓練計画や消防設備点検、避難経路の確保・点検し、自園の特性を踏まえた計画と実践を意識することで、子どもたちの意識も高まった。
食品衛生管理係	給食衛生管理マニュアルに基づいた対応をし、より食の安全性を追求した。
畑係	年間を通した畑・食育計画立案・実施、畑の管理、畑通信の作成し、子どもも保育者も何が作物の育成や食物連鎖につながるのかを継続していくことが課題である。
生き物係	命の尊さや自然現象への関心を広める機会として緑道の生き物の飼育を設定し、鳥などの生き物の世話を通して、子どもも保育者も何が生き物の愛着や食物連鎖につながるのかを再認識した。

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	地域参加も増え、ヤギを鶴見どろんこから連れてくることで、イベントの盛り上がりと共に、どろんこらしさを広報することができた。
子育て支援・相談担当係	子育て支援事業の企画立案・実施した。イベントは、参加人数が定着していった。

4. 保育支援

〈Ｉ〉保育･保育参加･保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	・新入児の園生活に慣れるまでの保護者様とお子様の不安を情報共有、相談しながら、慣れていけるように進めていった。 ・子どもの事故の経緯に関しての不十分さへのご意見に対して、現場検証、事故経過の明確化と事故防止委員を早急且つ丁寧に実施していくように変えた。 ・配慮児との関りでのご意見要望あり、関連機関との意見交換をしながら、担任を中心に保育の是正対応をしていった。 ・行事時の保育（土曜保育）、保護者懇談会での保育（延長保育）について、原則保育ではない保育に関しての要望。どろんこサポーターでの融資保育の提案し、企画に繋がった。
保育参加	4～3月まで　合計40名　が参加済み　　（3月Ｉ日時点）
保護者面談および発達相談	4～3月まで　合計40名　が参加済み　　（3月Ｉ日時点）

〈2〉計画した年間行事の振返り

・別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

Ｉ	計画・ねらい	子どもが、クッキング、畑での作物つくり、伝承的な取り組みといった生活の中で、意欲をもって食にかかわる体験を重ね、食事を楽しむ。
	実践結果	畑で作ったものを、その場で、そのままで食べ、素材の味を実体験できるように、保障し、一過性の行事を行うのではなく、生活の中の行事として、継続的且つ日常的に楽しむ「行事」としての食育を目指した。
	次年度方向性	子どもが中心となって、畑での作物つくり、伝承的な取り組みといった生活の中で、意欲をもって食にかかわる体験を重ね、食事を楽しむ。
2	計画・ねらい	生き物の飼育や食育を通して、命をいただく活動と体験を充実する。
	実践結果	命を育み、その命を感じながら、命をいただいているということを、数回の行事のみで伝えるのではなく、日々の生き物の飼育から命を実感できるように伝え、感謝の心を育むことを重視した。
	次年度方向性	生き物の飼育、ふれあいを通して、命をいただく活動と体験を充実する。
3	計画・ねらい	SDGs の観点からの調理過程の野菜くずや残食などを堆肥つくり(コンポスト)や飼育動物の餌作りなど、子どもと一緒に行いながら、持続的・継続的

		な保育の取り組みを行う。
	実践結果	調理前の野菜くずの一部を使ったコンポストだけでなく、調理後の残食も活用したコンポストや、鳥類、魚類の餌作成(乾物)と、使用できる可能性を全て使っていくことを子どもたちと考えながら実践した。
	次年度方向性	継続した SDGs の観点からの調理過程の野菜くずや残食などを堆肥つくり(コンポスト)や飼育動物の餌作りなど、子どもと一緒に行いながら、持続的・継続的な保育の取り組みを行う。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月18日／11月19日に実施
歯科検診	5月28日／11月26日に実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 6月10日に東寺尾どろんこ保育園にて、2～5歳児を対象に歯磨き指導を実施 ② 11月6日に東寺尾どろんこ保育園にて1～5歳児を対象に手洗い指導を実施
流行した感染症	① 3～4月に新型コロナウイルス、園児3名感染報告あり。2月に終息 ② 11月にインフルエンザ、園児31名感染報告有り。4月に終息 ③12～1月に胃腸炎、園児3名、保育者6名
発作・痙攣等の対応	計1名に対し、計1回ダイアップ使用 その他、11月6日と2月3日に救急車要請
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月19日に東寺尾どろんこ保育園にてエピペン研修をスタッフ39名習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ39名のうち、39名が使用可能
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み

	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（法定1回/3年）	業者による対象物の法定点検 2023年実施済み ※対象物がない園及び JW 園は削除すること
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月 ⇒4月26日、10月31日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日　実施済み
	児童健康診断	内科健診　各年2回／6月18日、11月19日 歯科健診　各年2回／5月28日、11月26日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時 ⇒4月12日、10月11日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間　実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	室内・室外ともに子どもが自発的に関わる環境を設定し続ける。
	実践結果	子どもの姿を起点に、異年齢児が混じりあう環境の中で、発達の差を考慮した環境設定になっているか、子どもが遊びこんでいるかなど、web を用いながら考察展開し、試行錯誤していった。
	次年度方向性	室内・室外ともにだが、特に室内を子どもが自発的に関わる環境を設定し続ける。

2	計画・ねらい	安全な環境を作るのではなく、安全性を確認していく、維持していくことを基本とし、子どもたちの発達、個性に合った環境設定に仕掛けていく。
	実践結果	玩具の破損や材料の確認、設置場所の安全性など、各担当の係が中心になって、チェックリストで日常的に確認していった。
	次年度方向性	安全性を確認していく、維持していくことを基本とし、子どもたちの発達、個性に合った環境設定に仕掛けていく。
3	計画・ねらい	前述1、2の環境設定の共通理解や体制作りのスタッフ意識を強化する。
	実践結果	環境だけではなく、子どもの姿を踏まえて、保育中の事故防止のため、施設内外の安全点検に努めた。 事故防止チェック、設備点検など確実に行い、不備がある場合にはすぐに対応し、全スタッフに周知した。
	次年度方向性	環境設定の共通理解や体制作りのスタッフ意識を強化する。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

該当なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	防災対策 災害や事故の発生に備え、危険個所の点検や毎月消防計画に基づいた避難訓練を実施した。「連絡体制の周知」と「行政等関係各所との連携」を行い、災害発生時に各スタッフが迅速かつ適切な対応を取り、子どもの安全を確保できる体制を整えていった。
2	実践結果	ケガ事故防止対策 保育中の事故防止のため、子どもの心身の状態等を踏まえつつ保育所内外の安全点検に努め、ケガ事故発生時対応フローチャートを全スタッフに周知する。フローチャートは更衣室・職員室に掲示し、全スタッフはいつでも対応できる状態にした。 ケガ、事故記録、ケガに至らなかった記録を作成し、報告・共有の上、時系列で検証、分析し今後同じような怪我・事故の発生を防ぐ事故防止委員会を実施していった。
3	実践結果	防犯対策 定期的な不審者侵入対策の他、日々の不審者対策として １．笛の携帯 ２．代理送迎者登録の更新及び代理送迎者の身分証明書の確認 ３．不審者情報の収集（各関係機関と連携を取り）不審者情報を随時収集する。 適宣、文書やメールでの共有・防犯速報の玄関への掲　示等を行う。

4	実践結果	光化学スモック対策 発令中は発令内容に看板・張り紙等の文書を掲示し、スタッフ・園児を屋外へ入れ、原則屋外活動は行わなかった。発生件数も少ない。
5	実践結果	熱中症対策 過度な水分補給による塩分、電解質不足による脱水症状を考慮した正しい水分補給を理解した上で、子どもたち自らが水分補給できる環境設定をした。水分の損失が多い天候下では、活動そのものを随時検討し、中止とした。
6	実践結果	感染症対策 マニュアル、規定での日々の消毒を徹底し、過度な消毒にも留意しながら、感染対策した。 法人、園、自治体、保健所と連携を取りながら対策していった。
7	実践結果	情報収集 横浜市防災情報に登録完了。該当地域の情報を詳細に収集し、早期対応に努めた。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

実習生受け入れ希望　３名

ボランティア、園見学希望の大学・専門学校の依頼は積極的な受け入れを行い、活動を通して自園の保育士を経験する機会を持ち、実習経験から保育士として子どもの命を守ることの大切さやどろんこ会グループの日課や基本活動を園の特性も交えながら、丁寧に伝えた。

また、これを機会に体験やボランティア、園見学が終わっても参加できる行事などのイベントにも誘い、子どもたちや保育者や保護者や地域の方々と共に自園の魅力を経験できる機会を持った。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
9月18日～10月25日	大妻女子大学家政学部食物学科食物専攻	3人	校外実習
	大妻女子大学家政学部食物学科管理栄養士専攻	2人	校外実習

7．スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	12日 38名	10日 38名	14日 38名	12日 38名	9日 38名	13日 40名	11日 40名	8日 40名	13日 40名	10日 40名	21日 40名	2日 40名
園内研修	12日 38名	10日 38名	14日 38名	12日 38名	9日 38名	13日 40名	11日 40名	8日 40名	13日 40名	10日 40名	21日 40名	2日 40名

〈2〉外部研修への出席

園長大学・保育士大学を活用

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	21日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	11月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	該当者なし											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

〈5〉キャリアアップ(エキスパート)研修の積極的な受講

どろんこ会主催のキャリアアップ研修を積極的に受講し、各能力を高めながら、自らが学ぶ意欲をと共に、リーダーとしての役割を認識し学びを深めていった。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

保育園・地域・家庭が一丸となるよう子育て支援を行い、子どもの健やかな成長を保障できるよう取り組んだ。また、地域の方が自由に園を利用し相談しあえる仲間でいられるように、月1回「ちきんえっぐだより」を発行し、「ちきんえっぐ保育室」を解放し、年間計画のもと地域交流を行ったことで、リピーターが増えていった。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：白幡公園にて　　参加延べ人数：90名
商店街ツアー	週1回　主な行き先：永島青果店、FUJI スーパー、郵便局、クリエイトセブンイレブン、ローソン等
世代間交流	毎月第2水曜日にサンライズ・ヴィラ東寺尾にてシニア交流を実施
その他活動	7月22日に東寺尾どろんこ保育園にてどろんこ祭りを実施
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉　実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

新型コロナエイルス対策が本格的に明け、子どもの発達の連続性を見据えた上で、保育所における保育がおこなわれていること、子どもたちの生活が小学校へつながるものとして、就学を見通した保育がどのように行われているか小学校と積極的な連携が取れるようになってきた。ただ、大型行事の交流では、まだ制限があり、交流機会の課題は残る。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
11月28日	寺尾小学校 1年クラス	23名	発表を見学（寺尾小学校）	子ども間交流
1月16日	上寺尾小学校 1年クラス	26名	授業参観（上寺尾小学校）	子ども間交流
1月20日	馬場小学校	2名	東寺尾どろんこ保育園	情報交換

1月23日	若葉台小学校	2名	東寺尾どろんこ保育園	情報交換
2月3日	西寺尾小学校	2名	東寺尾どろんこ保育園	情報交換
2月13日	港北小学校	2名	東寺尾どろんこ保育園	情報交換
2月20日	東台小学校	2名	東寺尾どろんこ保育園	情報交換
2月21日	獅子ヶ谷小学校	2名	東寺尾どろんこ保育園	情報交換

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

子どもの状況などを観察し、学年会議の中で振り返りと保育者間の共有を行い、見直した。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・4～3月に計12回開催　参加者：5名

毎月1回、担当者を中心に子どもの変化や興味などを話し合い、共有した。また、次の発達段階を見越して計画を立て、保育者間で共有し、配慮した。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

小学校の引き継ぎは横浜市保育所保育児童要録の送付、各校の担当職員と子どもについての申し送りによって行った。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
134名	144名	142名	511名	57名	65名	220名	176名	204名	117名	177名	177名	2124名

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　　来園延べ人数：2054名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　⇒計件相談実施済み
自然食堂	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計18回実施済み

親子ランチ交流	参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	4名	10名	23名	12名	5名	12名	16名	4名	11名	11名	108名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計10回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	2名	2名	12名	5名	0名	7名	10名	0名	4名	7名	7名	56名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00　にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっぐだより	毎月1日発行												
青空保育（支援センター主催）	月1回　　公園名：白幡公園にて　以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	10名	6名	0名	0名	10名	24名	10名	0名	10名	15名	10名	95名

12.　園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２５年２月２１日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：20時15分
自己評価終了時刻：20時30分
自己評価実施者：宮入講一・片山美也子・西脇涼・柏木真由美

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月２５日
アンケート回収率：100%

概ね好意的なご意見が多かったが、
異年齢児の情報共有、伝達不足に課題がある。特に連絡帳が無くなる3歳児クラスからは、情報発信のサポートだけでなく、保護者様にその意図を周知していく必要があった。
スタッフの慌ただしさが併せての課題である。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見　０件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む）　０件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年3月１５日　　作成者：東寺尾どろんこ保育園 施設長　宮入講一

２０２４年度　船橋どろんこ保育園　事業報告書
（保育所における自己評価）

１．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

船橋市は千葉県で千葉市に次ぐ人口2番目の市であり、都心に通勤する保護者も多い市の中心部に位置する保育園として、整備された都会的な雰囲気と人口の多い雑踏の中で以下のどろんこ会の基本方針をもって子どもたちを育み成長を見守る事を進められた。

子育て理念『にんげん力。育てます。』
子育て目標『センス・オブ・ワンダー』
『人対人コミュニケーション』

生活・遊び・労働を教えあう保育園生活を実践していく事を意識していった。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	プロジェクト保育・年間を通じてテーマ設定に沿って保育を進める。
	実践結果	策定会議で決定した担当保育者のテーマに沿って様々な活動を進めていく事が個人差はあるものの実践された。
	次年度方向性	プロジェクト保育の内容を偏りのないように計画的に進めていく。
2	計画・ねらい	食育の充実・食育活動、畑作業、調理、廃棄物の活用の循環を意識する
	実践結果	畑にて野菜の生産をし、下拵え、クッキング、食の循環を学ぶ事が進められたが、畑の作物が計画通りには出来ていなかった。
	次年度方向性	実践可能な内容を計画し、計画通りに進められるようにする。
3	計画・ねらい	環境整備・心地の良い居場所づくり。
	実践結果	各担当を中心に整理整頓・元に戻す・必要なものをきれいに設置することがなかなか出来なかった。
	次年度方向性	監査前のみではなく、日常的に整理整頓が習慣化できるような工夫を考えて進めていく。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

Ｉ	計画・ねらい	保護者の立場の理解・〈思いやり〉をもって個々に必要と思われる部分の援助
	実践結果	保護者の勤務・生活状況を把握し、必要に応じて子育てのアドバイスを進める。シッターノートやチャットの活用で情報の共有を進めた。
	次年度方向性	保護者の情報共有の強化。知らなかったという事の撲滅。
2	計画・ねらい	日々の成長を〈誠実〉に伝え共有する・児童の成長を共に喜ぶ。
	実践結果	朝の受け入れ、連絡帳、タイムライン、お迎え対応を通じて〈謙虚〉に〈感謝〉を忘れず、コミュニケーションを進めた。
	次年度方向性	保護者に対する畏敬の念を常に意識し丁寧な対応を持続する。
3	計画・ねらい	保育参加・保護者懇親会・行事への参加・保護者面談を通じて保育園を親子で親しむ。
	実践結果	保育方針に共鳴してくださる保護者への園生活への参加を進める。保護者の個人面談の設定。
	次年度方向性	保護者の思いを察し、保護者と共に児童に寄り添う思いをしっかりとお伝いしていく。

〈3〉地域の子育て支援事業

Ｉ	計画・ねらい	子育て支援室(本園)の活用・地域の子育て家庭の安心安全な居場所となる。
	実践結果	定期的なイベント(子育て相談・誕生会・保健衛生)の実施は保育園見学においての子育てアドバイスにとどまってしまった。
	次年度方向性	子育て支援室(本園)の活性化、園行事へのお誘いの強化。
2	計画・ねらい	青空保育の活性化・地域へのアピール
	実践結果	月Ｉ回の近隣公園での青空保育の実施は出来たが、その予告と実践時の招集活動の促進はなかなか進められなかった。
	次年度方向性	毎月の定着行事として地域へ広報強化。
3	計画・ねらい	地域の商店や施設訪問・地域の保育園として親しまれる。
	実践結果	老人施設・公民館・商店への挨拶は実施出来たが、訪問については先方の状況により対応が困難なケースもあった。
	次年度方向性	老人施設については月Ｉ回の訪問が定着しているので継続していく。そのほかの施設のついても定期的に訪問できるように計画を進める。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	子どもの人権・虐待防止の基本を理解する。
	実践結果	研修の実施。情報の共有。具体的な事例を知り理解を深める事は出来ている。
	次年度方向性	虐待について認識は出来ていても他の人の行為を注意することが進められていないので共同責任という意識を高めていく。
2	計画・ねらい	大人の人間力を育てる。一人ひとりの特技を磨く。
	実践結果	自分の得意を極める。自分自身の生きる力を強める事は個人差があるものの徐々に進められてきた。
	次年度方向性	個人個人の得意を認め合い、実践できるように日々の保育にも具体的に取り入れていく。
3	計画・ねらい	園事業計画を具現化する。自分の園の意識を高める。
	実践結果	事業計画に沿って、日々の保育内容の見直し、振り返り、ブログ、エピソード記録などで保育内容の発信をしていく事は、生活発表会で集大成として具現化出来た。
	次年度方向性	大きな行事(どろんこ祭り・運動会・生活発表会)を目標及び節目としてステップアップしていけるように持続、継続していく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	環境整備・施設の美しさを保つ・自信をもっての見学案内が出来る。
	実践予定内容	日常清掃・整理整頓の徹底・五感を働かせ保育環境を整える。
	次年度方向性	環境整備の継続
2	計画・ねらい	人対人コミュニケーション・気持ちの良い挨拶の徹底
	実践予定内容	大人が子どもの手本となる。笑顔を絶やさずコミュニケーション力を高める実践。
	次年度方向性	人対人コミュニケーションの継続
3	計画・ねらい	協調性・平等性の意識を持つ。子どもにも伝えられる。
	実践予定内容	雰囲気を感じる力・今、相手が何を感じているか察知し対応する力を育てる。
	次年度方向性	協調性・平等性の意識の継続

〈6〉子どもも大人も笑顔で穏やかな時間を過ごせる大きなお家

1	計画・ねらい	笑顔があふれ穏やかな居場所となる。常に前向きな思考をする。
	実践結果	朝の受け入れから、笑顔を絶やさず、子どもたちの姿を全員で把握できているように情報共有を進められた。
	次年度方向性	児童や保育者、保護者について良いところ探しをし、常に前向きに明るい話題を絶やさないように生活を進めていく。
2	計画・ねらい	率先して動く。気づきに敏感な感性の育成。
	実践結果	自分に割り振られた担当を熟したうえで、周囲の状況も読み取れるような経験を重ねる。コンピテンシーの活用による振り返りの実践。
	次年度方向性	気付きの力、俯瞰能力を高める研修も考え取り入れていく。
3	計画・ねらい	人間力を身に付ける。平等性・情報の共有。
	実践結果	様々な研修を意欲的に受講し、広い視野を持ち、客観的に自分を見ることができる人材の育成。
	次年度方向性	園長大学、保育士大学の視聴を共有し、日々の保育や生活に活かせるように話し合う時間を作っていく。

〈7〉有言実行

1	計画・ねらい	環境整備・施設の美しさを保つ・自信をもっての見学案内が出来る。
	実践結果	日常清掃・整理整頓の徹底・五感を働かせ保育環境を整える努力を継続した。
	次年度方向性	見学案内をすべての職員が対応できるように進めていく。
2	計画・ねらい	人対人コミュニケーション・気持ちの良い挨拶の徹底
	実践結果	大人が子どもの手本となる。笑顔を絶やさずコミュニケーション力を高める実践。
	次年度方向性	挨拶の徹底。立ち止まり姿勢を正し丁寧に挨拶を実施する。
3	計画・ねらい	協調性・平等性の意識を持つ。子どもにも伝えられる。
	実践結果	雰囲気を感じる力・今、相手が何を感じているか察知し対応する力を育てる事を意識して進められた。
	次年度方向性	気付きの足りないと感じた時にはそのままにせずに感情的にならず穏やかに伝える工夫を進める。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半：4~9月	36人	60人	72人	138人	144人	138人	588人
年度後半：10~3月	36人	60人	72人	138人	144人	138人	588人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	200人	247人	276人	254人	223人	243人	270人	269人	278人	260人	270人	250人	3040人
うち0歳児	0人	1人	0人	2人	6人	0人	0人	0人	2人	0人	0人	1人	12人

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	33人	16人	22人	14人	30人	31人	38人	57人	55人	50人	55人	53人	454人
うち0歳児	1人	16人	1人	2人	4人	4人	5人	5人	5人	5人	5人	5人	58人

〈2〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

常勤スタッフ	保育士	9人	看護師	1人	栄養士	1人	調理員等	2人
	施設長	1人	主任	1人	事務	1人		
パートスタッフ	保育士	6人	用務	1人	嘱託医	2人		

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・情報共有 ・各行事の打ち合わせの実施
給食運営会議	月1回	給食の振り返り・食育の振り返りも実施した。
事故防止委員会	月1回	安全確認・事故記録、ヒヤリハット、インシデント振り返りを行った。
ケース会議	月1回	支援の必要な児童についての話し合いを実施した。
リーダー会議	週1回	日常の保育の振り返り、見通しを考え話し合った。

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
食育会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長
主任会議	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	衛生管理の確認
安全対策係	安全対策の確認
防火管理者	消防計画の作成・避難訓練の実施、確認

食品衛生管理係	給食の安全管理
畑係	作物の定期的な作付け・見守り・収穫など
生き物係	生き物の世話

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	どろんこ祭りの計画と実施
市民フェスティバル係	実施なし

4. 保育支援

〈1〉保育･保育参加･保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	・身の回りの事が自分で出来る事は自分でするように支援した。 ・沢山の経験から多くの事が感じられるように原体験の機会を多く設けた。 ・年齢を問わず、子どもたちが自分で遊びを選択できるような環境設定をした。 ・異年齢での活動の機会を多くし、園が子どもたちの『大きな家』になるように努めた。・
保育参加	4～3月まで　合計16名　が参加済み　　（3月1日時点） ・
保護者面談および発達相談	4～3月まで　合計名　が参加済み　　（3月1日時点） ・

〈2〉計画した年間行事の振返り

・別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	子どもたちの食材への意識を高める。素材を知り味わう。
	実践結果	素材への関心を高め、噛む力を育て素材の味を味わう事が進められた。

	次年度方向性	その日の給食のメニューを知りその素材を知り関心を持って味わう事が出来るようにする。
2	計画・ねらい	食を楽しむ。子どもが自分たちで盛り付け・配膳をする。
	実践結果	自分で食べられる量を知り、自分の体を育てる意識を持つことが年齢によるが意識出来てきている。
	次年度方向性	年齢に合わせた食の楽しみ方(盛り付け、バイキングなど)を進めていく。
3	計画・ねらい	子どもと一緒に食べる。子どもの食事内容、食べ方を知る。
	実践結果	調理員・保育士・施設長は子どもと一緒に給食を食べる事はコロナ禍の為、はじめは出来なかったが、好きなものを好きな人と好きなだけ食べられる経験を促す事は進められた。
	次年度方向性	コロナ禍が沈静されることにより、調理員・保育士・施設長が子どもと共に食事し子どもの食事について理解が深まるように進めていく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月18日／11月21日に実施
歯科検診	6月12日に実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	6月14日に保育室にて歯科指導を実施 11月14日に保育室にて手洗い指導を実施 2月20日に幼児室にて性教育を実施
流行した感染症	特になし
発作・痙攣等の対応	特になし
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月21日に保育園にてエピペン研修をスタッフ名、スタッフ名、スタッフ名計名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ名のうち、名が使用可能

AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	・3月21日に保育園にて AED 研修をスタッフ名、スタッフ名、スタッフ名計名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ名のうち、名が使用可能
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行った。また消毒・換気を徹底した。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（法定1回/3年）	業者による対象物の法定点検 2023年実施済み ※対象物がない園及び JW 園は削除すること
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月 ⇒4月19日、10月日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日　実施済み
	児童健康診断	内科健診　各年2回／6月18日、1月21日 歯科健診　各年1回／6月12日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時 ⇒4月19日、10月18日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間　実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	室内環境の整備
	実践結果	季節や興味を意識し、子どもたちの興味を促す環境の設定を進めた。
	次年度方向性	季節や興味、子どもたちの現状を見極め、整備を進めていく。
2	計画・ねらい	保育園の出入口の環境整備
	実践結果	子どもたちや保護者のスムーズな導線整備。随時見直し保護者への案内も丁寧に行って進められた。
	次年度方向性	引き続き保育園の印象的にも出入口の環境を整えていく。
3	計画・ねらい	散歩コースの環境整備・安全管理
	実践結果	散歩コースのハザードマップは見直しながら作成が進められた。子どもたちと一緒に作成を進める計画は難しかった。
	次年度方向性	子どもたちが自ら気づき散歩コースのハザードマップを作成できるように進めていきたい。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧　→なし

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	無し。			

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	避難訓練(月１回)火災・地震を想定。通報訓練・引き渡し訓練・うちのこアプリ保護者向け書き込み。
2	実践結果	事故防止チェックリスト(年６回)
3	実践結果	不審者対応訓練(年２回)
4	実践結果	設備点検(年４回)
5	実践結果	事故防止委員会

6	実践結果	地域河川氾濫を想定した水防計画
7	実践結果	光化学スモッグの対応

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

実習生、見学実習については積極的に受け入れた。学生の不安な気持ちを受け入れながら、保育を楽しみ、保育士の仕事に魅力を感じてもらうことが出来るように対応した。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
6月17日～6月28日	千葉こども専門学校	3人	責任実習
10月7日～10月21日	千葉こども専門学校	2人	観察実習
7月1日～12日	沖縄こども専門学校	1人	責任実習
9月20日～10月8日	千葉女子専門学校	1人	責任実習
9月2日～13日	聖徳短期大学	1人	責任実習
8月13日～26日	日本児童教育専門学校	1人	観察実習
8月26日～9月10日	愛国学園保育専門学校	1人	責任実習
11月5日～11月18日	船橋情報ビジネス学校	1人	観察実習
2月5日～2月21日	愛国学園保育専門学校	1人	観察実習
9月2日～9月14日	星美学園短期大学	1人	責任実習
11月11日～11月25日	和洋女子大学	1人	責任実習
2月12日～2月27日	千葉こども専門学校	1人	観察実習
2月12日～2月28日	千葉女子専門学校	1人	観察実習
3月3日～7日	東京工業大学	1人	観察実習

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
8月日	広尾学園学校	3人
8月日	市川市立第二中学校	I人

7. スタッフ研修

〈I〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	I0月	II月	I2月	I月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	I9日 I9名	I7日 I8名	2I日 20名	I9日 I9名	I6日 I9名	20日 I9名	I8日 20名	I5日 20名	20日 I7名	24日 I8名	I4日 I7名	2日 I9名
研修	I9日 I9名	I7日 I8名	2I日 20名	I9日 I9名	I6日 I9名	20日 I9名	I8日 20名	I5日 20名	20日 I7名	24日 I8名	I4日 I7名	2日 I9名

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
9月I日～I0月2日	ポピンズ	キャリアアップ研修(保護者支援)	I名	有
9月I5日～I0月I6日	ポピンズ	キャリアアップ研修(幼児保育)	I名	有
I2月8日～I月I2日	ポピンズ	キャリアアップ研修(障害児保育)	I名	有
I月5日～I月6日	日本福祉総合研究所	キャリアアップ研修(保健衛生)	I名	有
II月27日～I2月26日	ポピンズ	キャリアアップ研修(保健衛生)	I名	有

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
施設長勉強会	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
全社員研修	11月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	参加なし											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	参加なし。											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

船橋どろんこ保育園の存在を広く地域に知っていただくことで、子どもたちと地域の方々との交流を深め、成長や安全を見守っていただけるように進めた。また積極的に園を開放し地域の子育てに貢献していくように企画を進める事が出来た。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：天沼池弁天池公園にて　　参加延べ人数：名
商店街ツアー	週1回　主な行き先：ブケオブケ、河原塚青果店、ふなっこ畑、三笠屋、デーツー、リュウ君の店、パティスリーりこ等
世代間交流	9月26日に専門学校生と遊ぼうを専門学校にて実施
異年齢交流	1月15日に本町４丁目公園にて実施
その他活動	12月25日にクリスマス音楽会を幼児室にて実施

銭湯でお風呂の日	月３回　〈3～5歳児〉　実施：松の湯　1回について10名ずつ

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

児童の進学先を優先し、地域の小学校との交流を積極的に実施した。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
11月20日	南本町小学校 1年1組	21名	1年生との交流会（小学校体育館・教室）	子ども間交流
12月12日	市場小学校 1年1組	22名	1年生との交流会（小学校体育館・教室）	子ども間交流
1月24日	湊町小学校 1年1組	20名	1年生との交流会（小学校体育館・教室）	子ども間交流
2月16日	船橋小学校	5名	1年生との交流会（小学校体育館・教室）	子ども間交流
2月19日	葛飾小学校・塚田小学校・八栄小学校・南本町小学校・市場小学校・船橋小学校・海神小学校	各1名	就学に関する連携	職員間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

・個別計画の作成をした。
　（行動、感覚、姿勢、運動、聞こえ、言葉、コミュニケーション、保護者や他の子どもとの関わりなど）
・個別計画の見直しと今後の支援についての話し合いを進めた。
・保護者との面談を実施し課題と方向性を共有した。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・４～３月に計12回開催　参加者：計48名

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

【進級引継、および、小学校への引継】

･小学校教諭が「読みたくなる」保育所保育要録を送付した。

・幼児期の学びを教科へ
　学習指導要領.「スタートカリキュラム」との接続や確認を進めた。

･船橋市乳幼児発達支援関係機関との情報交換し協力関係を築くことを進めた。

･関係機関の機能を有効にし、子どもが健やかに成長すること、保護者が安心して子育てで
きる事を目指した。

･保護者、保育園、船橋市総合教育センターの共通理解の基「引継ぎのための連絡票」を送付した。

･保幼小連絡協議会「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方合同研修会」に施設長、幼
児担任が参加した。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
35名	30名	30名	460名	40名	60名	499名	40名	35名	100名	55名	100名	1490名

実施項目	詳細												
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　　来園延べ人数：20名												
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　⇒実施無し												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週（水）10:00～12:00　　⇒実施無し 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名	0名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週（水）10:00～12:00　　⇒実施無し。 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名	0名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00　にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっぐだより	毎月1日発行												
青空保育 （支援センター主催）	月1回　　公園名：天沼弁天池公園にて　以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	10名	82名	27名	0名	0名	48名	33名	28名	10名	12名	8名	名	258名

12. 園運営の向上

〈1〉ISO 受審

評価会社名 BSI グループジャパン株式会社に依頼して受審済み
経営者ヒアリング・施設長ヒアリング・園審査：10月30日に実施
（省察）
特に指摘無し。法人全体で取り組んでいる環境目標実施計画についてアドバイスをいただいた。コンポストの実践など推奨され実施しているが今後も継続していく。

〈2〉園による自己評価の実施

２０24年11月11日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：８時30分
自己評価終了時刻：16時30分
自己評価実施者：園長、主任、事務

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月２５日
アンケート回収率：100%
（省察）全体的には保育園の保育方針に同意する保護者が多い為、好意的なご意見が多かったが、一部の保護者からは異年齢保育に関するご意見が上がり、車送迎が禁止されているにもかかわらず車で登園する保護者へのご意見も上がった。いただいたご意見に関しては一つ一つ丁寧に対応し保護者の立場に寄り添っての対応を進めた。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

特になし

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

「報告すべきケガ（事故含む）　0件」

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：船橋どろんこ保育園 施設長　齋藤 みどり

２０２４年度　浦安どろんこ保育園　事業報告書
（保育所における自己評価）

Ｉ．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

　子どもたちにとって必要な体験とはなにかを突き詰め、日々の子どもたちの姿から基本方針の内容、日課を充実させた。

日課・基本保育活動へのこだわり

畑仕事や雑巾がけ、散歩（自分の足で歩く）、座禅などの活動にこだわりを持って取り組み、生活力を身につけるよう努めた。危険と敬遠されがちな道具に触れる環境を設定することが難しく、継続的な経験になることがなかった。次年度の取り組み方を検討していきたい。

年間100曲の歌をうたう

月に8曲ほどの歌を設定し、毎日歌をうたうことが楽しみになっている。子どもたちは散歩に向かう途中歌を口ずさみ、さくらさくらんぼリズムの歌詞ある曲も自信をもって歌う姿が見られていた。

子どもが自ら経験を選択できる環境設定

誰と行きたい、どこに行きたい、毎日のゾーン保育は子どもの自己決定のもと、行ってきた。保育者は、子どもの決定を尊重し、その場に必要な環境を整えた。

命をいただく活動の実践

今年度は子どもたちの前で魚を捌き、命をいただくことについて一緒に考え、命を余すことなくいただく活動を行った。また、5歳児クラスの児たちはひとりＩ匹の鰯を手開きにし、食べた。鰯から出る血に涙する姿も見られたが、ひとりひとりが命をいただく「いただきます」の言葉をかみしめていた。畑活動は日課となり、年間計画通りに食育活動を行った。

選ばれる園づくり

毎日のタイムラインは出勤している職員が、子どもたちの様子を投稿し保護者への共有を盛んにしたことで、園での取り組みを知ってもらう機会が増えた。
地域子育て支援を充実させるべく、日々の散歩先で出会った地域の方へ広報活動を行ってきたが、集客にはつながらず、次年度への課題がある。

〈Ｉ〉保育内容の充実・質の向上

Ｉ	計画・ねらい	日課の充実
	実践結果	さくらさくらんぼリズム、畑仕事、生き物の世話、長距離散歩、座禅など保育者は活動の意味を理解したうえで日々の日課となるよう努めた。 戸外活動の時間確保について、乳児は９時～ＩＩ時半、幼児は９時～Ｉ２

		時、目いっぱいの戸外活動時間を確保したことで、真の健康な心と体が育っていると感じる。
	次年度方向性	他園の取り組みを学び自園の活動を振り返り、子どもの成長にとって真に必要な日課とは何かを更に突き詰めていきたい。
2	計画・ねらい	幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を見据えた保育の実践
	実践結果	施設長勉強会、保育の質をあげる会議等で学んだことを園会議で各職員におろし、園での取り組みを決め、学びを深めた。園では、子どもの様子をエピソード記録として他保育者に共有し子どもの姿を共通理解するようにした。
	次年度方向性	幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿は、子どもが0歳児から少しずつ成長の階段を上り、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿であると捉え、今年度同様園内でのエピソード記録を継続し学びを深めていく。
3	計画・ねらい	命をいただく活動の実践
	実践結果	自然環境（気候、気温）の変化に伴い、畑での作物が収穫できる時期がずれたり、収穫できると思っていたものが不作に終わったりしたことがあった。 子どもたちの前で魚を捌き、命をいただくことについて一緒に考え、命を余すことなくいただく活動を行った。また、5歳児クラスの児たちはひとり1匹の鰯を手開きにし、食べた。鰯から出る血に涙する姿も見られたが、ひとりひとりが命をいただく「いただきます」の言葉をかみしめていた。畑活動は日課となり、年間計画通りに食育活動を行った。
	次年度方向性	畑活動、食育活動は連動して行うことができるよう計画をしていく。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者の気持ちに寄り添った接遇
	実践結果	職員は美観意識を持ち日々の清掃を行った。 日々ゾーン保育を行っていく中で、担任だけでなく全ての職員が全ての子どもとともに過ごしている為「お迎え3分間対応」で子どもの様子を伝えられていると感じる。
	次年度方向性	引き続き、清掃を徹底して行い、園内環境を整えていきたい。 「お迎え3分間対応」について、保護者様が待った気にならない対応をできるよう園内研修をしていきたい。
2	計画・ねらい	タイムライン・ポートフォリオによる共有
	実践結果	出勤している職員全員がタイムラインをあげる、月2回ポートフォリオを玄関掲示し園の活動内容を報告してきた。 お迎え3分間対応時、タイムラインをみた保護者の方との会話が弾むきっかけにもなった。
	次年度方向性	引き続き、園の活動を保護者の方に共有し、子どもの姿、成長を一緒に喜べるようにしていきたい。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域の子育て支援拠点となる ちきんえっぐのイベント・園見学・青空保育の参加者増
	実践結果	地域子育て支援を充実させるべく、日々の散歩先で出会った地域の方へ広報活動を行ってきたが、なかなか集客にはつながらず、昨年度とほぼ変わらぬ集客となった。
	次年度方向性	まずは園を知ってもらう、地道ではあるが引き続き日々の散歩先で出会った地域の方へ広報活動を行っていく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	園長大学®・保育士大学の動画視聴を推奨
	実践結果	園会議前に動画を視聴し、それぞれが学び得たことを園でどう生かしていくかを会議で話し合った。
	次年度方向性	保育士大学動画視聴を各職員の学びの機会と捉え、今後も動画から学び得たことを共有、実践していきたい。
2	計画・ねらい	学び続ける保育者集団になる
	実践結果	全ての職員が自分の言葉で保育への思いを語れる集団を目指してきた。園会議では傾聴だけでなく、自分の言葉で語ることができるようグループワークを多く取り入れ語りやすい場を確保した。
	次年度方向性	学び続けることを止めず、保育をアップデートしていけるよう学びの時間を確保していく。
3	計画・ねらい	背中を見せられる大人になる
	実践結果	毎日の日課はもちろん、子どもたちの見本となって一緒に行いつづけることで、信頼関係が形成されていると感じる。
	次年度方向性	日々の日課を継続して取り組む大人の姿「背中」を見せ続けていきたい。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食物残渣の減量化
	実践結果	バイキング給食、子どもが食べたい量をよそい食べる、大人は子どもの姿を認め見守ることを徹底した。また戸外活動の時間を十分に取ることにより、「お腹がすいた」＝「たくさん食べる子」が育ってきていると感じる。 全ての職員が残渣量減に向けてすべき取り組みを考え実践した。
	次年度方向性	コンポストでのごみ減量化、食への意欲ある子を育むべくバイキング給食を継続していく。
2	計画・ねらい	地球環境への取り組み、食の循環
	実践結果	今年度は、給食廃材や土を使ってコンポストを作成し年3回の土再生に成功した。子ども自らがコンポストでの土再生を楽しみに過ごし、毎日の変

		化に気づいていた。 「大きな魚をさばく」「いわしの手開き」等、命をいただく活動を通して環境教育を実践した。 5歳児クラスの児たちはひとり1匹の鰯を手開きにし、食べた。鰯から出る血に涙する姿も見られたが、ひとりひとりが命をいただく「いただきます」の言葉をかみしめていた。
	次年度方向性	地球の環境問題に目を向け、小さなことではあるが園で園児とともにできる取り組みを行っていきたい。

〈6〉ゾーン保育の充実

1	計画・ねらい	自己選択できる環境づくり
	実践結果	今年度は週3回の乳・幼児入り混じってのゾーン保育を行った。大きな子が小さな子の世話をすることが日常になり、先日は2歳児クラスの児までも1歳児の世話をする姿が見られた。
	次年度方向性	次年度も浦安どろんこ保育園を「大きな家」と捉え、選択の自由を保障していきたい。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半：4~9月	３４人	６０人	７２人	７４人	６６人	７８人	384人
年度後半：10~3月	３６人	６０人	７１人	６６人	６１人	７３人	367人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	187人	183人	206人	225人	200人	192人	209人	208人	239人	216人	180人	216人	2461人
うち0歳児	0人	0人	7人	14人	9人	13人	21人	21人	14人	15人	17人	20人	151人

〈2〉開所時間

7時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

常勤 スタッフ	保育士	11人	看護師	1人	栄養士	2人	調理員等	1人
パート スタッフ	保育士	3人	事務	1人	嘱託医	2人		

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・園内研修
給食運営会議	月1回	献立振り返り、食育体験計画共有、離乳食喫食状況共有、アレルギー対策
事故防止委員会	月1回	事故・インシデント・ヒヤリハットの振り返りと再発防止
ケース会議	月1回	課題共有、個別計画の振り返り
昼礼会議	月・木	各部署からの連絡、伝達、事故・インシデント・ヒヤリハットの共有
週案会議	月1回	園全体の課題共有

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
食育会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、調理スタッフ

保健会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、看護師
主任会議	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士、施設長

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	衛生・予防に関する提案を園会議で共有
安全対策係	事故防止委員会の開催、年2回不審者訓練実施
防火管理者	避難訓練実施、消防署への届け出
食品衛生管理係	衛生点検、食の安全食育活動の取り組み
畑係	年間農業計画の元、種、苗購入
生き物係	カブトムシ、青虫、かたつむり、ヤゴの世話

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	どろんこサポーターズとの連携

4. 保育支援

〈1〉保育･保育参加･保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	・それぞれの発達段階を見極め、自分でできることは自分でできるようにした。 ・日々異年齢での活動し、園全体が「大きな家」になるよう努めた。 ・ひとつではなく、たくさんの経験から自分で活動が選択できるよう、環境設定を行った。 ・お腹がすくまでめいっぱい遊ぶ時間の確保をした。
保育参加	4～3月まで　合計28名　が参加済み　　（3月1日時点）

保護者面談および発達相談	4～3月まで　合計Ｉ名　が参加済み　　（3月Ｉ日時点）

〈2〉計画した年間行事の振返り

・別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載

どろんこ祭りは、地域の方にも参加していただけるような構成にした。事前に市や近隣施設へ掲示したことで集客につながったとおもう。

運動会、生活発表会は保護者とともに子どもの成長を喜びあう機会として、普段の子どもの姿を見てもらうとともに、保護者の方も一緒に楽しめるよう、一緒に汗を流し笑いあう会を目指し実践。多くの保護者の方に「楽しかった」「子どもの成長を感じた」と言っていただいた。

〈3〉給食・食育に関する実践結果

Ｉ	計画・ねらい	食の循環を知る
	実践結果	コンポストを活用し、土の再生を３回行った。ほぼ年間スケジュール通りに作物の収穫を行ったが、気候変動により生育不足になるものもあった。「魚を捌いて食べる」「いわしの手開き」二つの活動を行った。
	次年度方向性	今行っている取り組みを絶やさず、更にブラッシュアップさせていきたい。
2	計画・ねらい	食材に触れる
	実践結果	日々の日課として食材に触れ、下処理をする活動を行った。年長児は、今日出る食材を紹介し、自分たちの食べる米を研ぐことを日課とした。食への意欲が増した。
	次年度方向性	今年度は、包丁を使う機会が昨年よりも減ってしまった。しかし、子どもたちの意欲は高く、やりたい気持ちはあるため、どう時間を確保していくか、課題をひとつずつクリアにして活動時間を確保していきたい。
3	計画・ねらい	食べる意欲を育てる
	実践結果	４，５歳児を中心に三食ボードを活用し栄養について学びの時間を確保した。他学年の子の配膳を大きな子が手伝い、バイキング給食のルールを知らせている。自分の食べる量がわかり、食べる意欲が育まれたと感じる。
	次年度方向性	引き続き、現在の取り組みを実践し、たくさん食べることを楽しみにする子を育みたい。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	６月ＩＩ日／ＩＩ月Ｉ2日に実施
歯科検診	６月５日に／ＩＩ月Ｉ3日実施

保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	12月に幼児クラスにて手洗いチェッカーを使っての手洗い指導実施 1月に1歳児クラスにて歯磨き指導実施
流行した感染症	特に流行した感染症なし
発作・痙攣等の対応	ダイアップ使用なし、抗ヒスタミン剤使用なし
エピペン使用できるスタッフの状況	・2024年3月21日にエピペン使用研修をスタッフ16名、3月26日に3名、11月14日に1名　計20名が受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ19名のうち、19名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	・2024年7月7日に浦安市消防本部にて普通救命救急講習を新卒職員2名受講、（他職員は前年度受講済み）計20名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ19名のうち、19名が使用可能
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底した。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（法定1回/3年）	業者による対象物の法定点検 2023年実施済み ※対象物がない園及び JW 園は削除すること
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日　0日

	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日　０日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月 ⇒4月５日、10月４日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日　実施済み
	児童健康診断	内科健診　各年２回／6月11日、11月12日 歯科健診　各年２回／6月5日、11月13日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時 ⇒4月19日、10月18日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間　実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	子どもたちが活動を選択し、生き生きと遊べる環境づくり
	実践結果	子ども自らが自分のいきたい場所、やりたいことを決定し、ゾーンを選択していた。異年齢で散歩に出かけることで異年齢での遊びが展開され、年下児を敬う姿も見られた。
	次年度方向性	遊び込む子がいる中で、自分で遊びを見つけられない子がいるのも事実、全ての子を取り残さない環境づくりをしていきたい。
2	計画・ねらい	魅力を感じる環境づくり
	実践結果	乳児室、幼児室ともに遊び込む環境を考え、そこに必要な道具を自分で選んで遊ぶことができるよう準備した。
	次年度方向性	一度作った環境に満足せず子どもの姿から必要な環境を、日々アップデートしていきたい。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	荷物かけ	幼児室	毎日	異常なし
2	飼育棚	玄関	毎日	異常なし
3	棚	縁側	毎日	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

Ｉ	実践結果	Ｉ. 年間計画に沿って月Ｉ回の避難訓練(火災、地震を想定。通報訓練、引渡し訓練含む)を実施。うちのこアプリを利用し、保護者向けの書き込みを行なった。 2. 事故防止チェックリスト（年６回） 3. 不審者対策訓練実施（年２回） 4. 設備点検（年４回） 5. 事故防止委員会（毎月・自園ヒヤリハット・インシデント事例の共有、検証、再発防止対策及び法人内発生事故の記録簿回覧共有） 6. 地域河川氾濫を想定した水防計画の作成 7. 園内外のハザードマップ危険個所確認（年4回）
2	実践結果	毎月の避難訓練では、様々な発生状況を想定して訓練を行うことができた。乳児は慣れない状況に泣いてしまうこともあったが、保育者が寄り添うことで落ち着いて参加することができた。 幼児は、訓練だとわかるとふざけてしまう、また保育者の話を聞かずに他児と話しをしている場面も見られたため、その都度訓練の大切さを知らせた。
3	実践結果	不審者訓練では、侵入を防ぐことより、遠ざけること、園内で安全に集まる事を目的としておこなった。

6. 実習生・中高生の受入

〈Ｉ〉今年度の振返り

地域に根差した保育園として、地域の中高生の体験学習や保育養成校の受け入れなどを積極的に受け入れるべく、門戸を広げたが実際には満足のいく受入れとはならなかった。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
２月３～７日	東京家政学院大学	Ｉ人	給食管理実習

〈3〉中高生の受入

今年度の受入れなし

7．スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	19日 19名	17日 19名	28日 19名	19日 19名	16日 19名	20日 19名	18日 19名	22日 20名	20日 20名	24日 20名	21日 19名	21日 18名
園内研修	19日 19名	17日 19名	28日 19名	19日 19名	16日 19名	20日 19名	18日 19名	22日 20名	20日 20名	24日 20名	21日 19名	21日 18名

〈2〉外部研修への出席

参加なし

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	18日 2名	16日 2名	27日 2名	18日 2名	22日 2名	19日 2名	17日 2名	21日 2名	19日 2名	16日 2名	20日 2名	21日 2名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	11月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	1月25日～2月5日に1名のスタッフがデンマーク研修参加											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8．地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

年間行事で予定していた、青空保育は地域を巻き込んだ活動にはならず、参加者増にはつながらなかった。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：しおかぜ緑道にて　　参加延べ人数：18名
商店街ツアー	週1回　主な行き先：浅田やせんべい本舗、泉銀、マルエツ、福秀商店、金の KURI、薬の福太郎　等
世代間交流	月1回　4月～3月　シニア交流を「こうゆうデイサービス」で実施
異年齢交流	８月５日に自園にて小学生との交流を実施
その他活動	園庭開放、ちきんえっぐイベント等実施　参加延べ人数：34名
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉　実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

就学を視野にいれ、年長児の保育計画を立案し、1年生への接続がスムーズに行われるよう連携をすすめた。各小学校を散歩の行き先にし、小学生の姿を実際に見ることで、少し先の未来に期待を持ち進学できるようにした。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
５月25日	浦安市立南小学校 全学年	４名	運動会見学（南小校庭）	職員4名参加
10月18日	浦安市立南小学校 2年生	全園児	町探検（保育室内）	地域の小学生が町探検学習で来訪
12月14日	浦安市立南小学校 全学年	３名	授業参観（南小教室）	職員3名参加
１月２９日	浦安市立南小学校 1年、5年	12名	他園・小学生交流（南小教室）	年長児12名と他園、小学生の交流

10.　要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

子どもの姿から、課題を見直し立案をしていく。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・４～３月に計12回開催　参加者：19名
　毎月1回ケース会議実施。子どもの姿から課題の抽出と達成までの流れを確認している。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

3月に児童要録の提出及び、口頭での引継ぎを行う。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
５名	19名	144名	21名	26名	27名	24名	17名	8名	12名	23名	10名	336名

<table>
<tr><th>実施項目</th><th colspan="13">詳細</th></tr>
<tr><td>園開放</td><td colspan="13">（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　　来園延べ人数：２４名</td></tr>
<tr><td>子育て相談</td><td colspan="13">（月）～（土）13:00～16:30　　⇒計１件相談実施済み</td></tr>
<tr><td rowspan="3">自然食堂
親子ランチ
交流</td><td colspan="13">毎週（水）10:00～12:00　　⇒計５回実施済み
参加者延べ人数</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>3名</td><td>4名</td><td>0名</td><td>５名</td><td>４名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>３名</td><td>19名</td></tr>
<tr><td rowspan="3">どろんこ
芸術学校
どろんこ
自然学校</td><td colspan="13">毎週（水）10:00～12:00　　⇒計１回実施済み
参加者延べ人数</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>４名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>４名</td></tr>
<tr><td>勝手籠設置</td><td colspan="13">（月）～（土）7:00～20:00　にて実施
門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置</td></tr>
<tr><td>ちきんえっぐだより</td><td colspan="13">毎月1日発行</td></tr>
<tr><td rowspan="3">青空保育
（支援センター主催）</td><td colspan="13">月1回　　公園名：しおかぜ緑道にて　以下日程にて実施</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>0名</td><td>18名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>１８名</td></tr>
</table>

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審
今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施
２０２４年１０月１日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価実施者：正規職員全員

〈3〉利用者アンケートの実施
施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月２５日
アンケート回収率：100%

（省察）
昨年度のアンケートに「子どもが一日をどう過ごしているのかわかりにくい」とのご意見をいただいたため、今年度はお迎え3分間対応を丁寧にすることを目標に、園内研修で接遇を学び、実際に他者の3分間対応を見て素敵なところを吸収するなどの取り組みを行ってきた。
今年度のアンケートには、「時間がない時に長い話、対応は困る」とのご指摘を受け、保護者対応の難しさを実感している。今後も保護者の気持ちに寄り添った接遇を学び、実践していきたい。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見
報告すべき意見　0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）
報告すべきケガ（事故含む）　0件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年3月１５日　　作成者：浦安どろんこ保育園 施設長　吉野　美和子

２０２４年度　ふじみ野どろんこ保育園　事業報告書
（保育所における自己評価）

1．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

子ども一人ひとりの育ちに合った適切な環境の中で、保育士が子どもの自ら学ぶ機会を排除する事なく、時には大人がやってみせ、生きる力のある心も身体も逞しい子どもを 育てていくことを意識してきた。また、ヤギの世話や鶏の世話、畑仕事、焚き火などの原体験を通して、自分の力で健康で安全な生活をつくりだす力を養えるよう努めた。 大人の子どもへの関わり・言葉掛けが子どもたちの内面の発達に影響する事を意識し、丁寧に関わりをもつ中で、大きい子を安心して真似る流れができていた。関わり合いの中でのぶつかり合いや失 敗体験を通し、思考・工夫し、感情のコントロールをする、非認知能力を育む環境づくりをしていくことができていた。メリハリを意識した保育実践を繰り返すことで、集中する姿、遊び込む姿が多く みられる保育環境になった。保育環境は日々の子どもの様子等によって変化していく事を意識しながら、子どもと一緒に環境を整えて行ける関わりに力を入れる必要を感じる。 一人ひとりの個性を大事にした保育実践を行い、様々な人と関わりながら自分を認め、自己肯定感 を育む場所となるよう、インクルーシブ保育を実践していく中で、危機管理や丁寧な保育、子どもを見る目を更に 養い保育スキルの向上が課題である。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	保護者と共に子どもを育て、人との関わり・日々の生活の中での発達の成長・育みを保障していく。
	実践結果	ポートフォリオやドキュメンテーションを掲示することで、日々の生活を知ってもらえるようにしたり、専門的な内容の掲示も増やし園の目指す保育 の共有に努めたりしたことで、保育者の質の向上に繋がった。
	次年度方向性	掲示がある事の発信やアテンドを行い、保護者と一緒に変化や過程を共感する機会を増やす。
2	計画・ねらい	子どもの気持ちに寄り添い、個を認め、見守り、主体的に活動できるよう最後まで見届ける保育をしていく。
	実践結果	子ども一人ひとりを人間として捉え、人権を大切にし、安全に生活を送ることのできるよう、危機管理意識を大事にしてきた。常にアンテナを張り、心を置き、流さない思考を大事にした。
	次年度方向性	発達を踏まえた関わりを常にできるように、学びを深める。 子どもの様子の伝えあいを日々意識して行う。
3	計画・ねらい	心身発達の理解を深め、活発な対話のできるチームで一つのものを創り上げる保育実践を行なっていく。
	実践結果	ディスカッションを繰り返し、職種の壁を越えて対話を行った。日々の職種の壁を越えた共有までは至らなかった。
	次年度方向性	自分たちで学び、発表していく。アウトプットを繰り返し行う。思考し、考えを言葉にし、共有しながらねらいを持った保育を常に意識して行う。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保育の見える化
	実践結果	日々の保育、園内外での子ども達の様子・成長が伝わるような視覚的な情報の発信、送迎時の対応を通し、関係づくりに全職員で努めた。
	次年度方向性	ブログの内容を掲示し、保護者との対話を更に増やし共育ちに力を入れていく。掲示がある事の発信やアテンドを行い、保護者と一緒に変化や過程を共感する機会を増やす。
2	計画・ねらい	子ども達を共に育てる
	実践結果	「子どもを真ん中に」を捉え、子どもにとって何が大切か考え、共有し合える関係、関わり合うことを大切に互いに子どもを育むパートナーである事を意識したが、スタッフ間の共有がまだまだ足りないと感じる。
	次年度方向性	成長を共に感じ、時には悩みながら一緒に変化の過程を感じられる関りや支援を目指していく。子どもにとって何が大切かを共有し、共に考えられる関係を構築していく。保護者の気持ちや状況に寄り添い、子どもの最善の利益を考える。
3	計画・ねらい	利用者のニーズに合わせた選ばれる施設を目指す
	実践結果	いつでも気持ちの良い施設を維持し、保護者の目線に降りた対応を心掛 けた結果、満足度の向上に繋がった。
	次年度方向性	保護者の目線に合わせた対応を意識する。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域の憩いの場の提供。
	実践結果	地域のニーズを捉え、子育て世代の方同士の繋がりや多世代の憩いの場となるよう意識した結果、ちきんえっぐの利用者数が増えた。
	次年度方向性	園に留まらず、園外へ向かう支援を行っていく。
2	計画・ねらい	子育て支援の相談や情報収集できる場。
	実践結果	保育園行事への参加・交流等、大人も子どもも様々な体験ができる拠点とし、子育て支援の場としての役割を意識できた。
	次年度方向性	安心して利用できる雰囲気を意識し、更なる利用者を増やす。
3	計画・ねらい	支援内容の発信と利用しやすい環境構成。
	実践結果	活動内容が見えるように事務所や玄関の目の付きやすい場所に掲示を行ったりブログの配信を行ったりしたことで、ISO9001でも審査員に園の保育

		の状況がわかりやすいと良い評価を頂けた。
	次年度方向性	地域の子育て拠点として選ばれるよう、広報に力を入れる。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	子どもの心の動き、気持ちに気付く事のできる職員集団となるため、子どもの様子を日常で共有できる「対話的で個を尊重しあえる」環境を構築していく。チーム保育の実践。
	実践結果	昼礼を基本にしながら、共有することに重点を置いてきた。園会議では、個々が試行し意見が出しやすいよう、小グループでのディスカッションを繰り返し行い、スタッフの育成に繋がった。
	次年度方向性	あそびに夢中になれる環境をチームで考察し、保育者同士が積極的に情報共有・意見交換することで多面的に子どもを捉え、個々の理解を深める。
2	計画・ねらい	アウトプットを意識し「振り返り」をしっかり行いファシリテーション能力を高める。個々の学びを深めると共に、園全体の質の向上を目指す。
	実践結果	実践報告会や発達の学びを個々に行う。聞くだけの研修から、誰もが学んで伝える研修意識することができた。
	次年度方向性	自ら学んだことを研修として実施していく。法人研修を利用し研修の講師の仕方も意識して学ぶ。
3	計画・ねらい	職種（保育士、看護師、調理師、用務、事務）、経験、年齢にとらわれず、全職員が保育者として一人ひとりの子どもに向き合うことを基本とする。それぞれの専門性を存分に生かし、子どもの主体性を引き出す保育を行う。
	実践結果	各専門分野を理解した上で、色々な角度からの関りを実践していけたが、共通理解までの知り合わせが必要と感じた。
	次年度方向性	専門分野以外の知識を増やし、多方面からのアプローチが出来るように知識の幅を広げる。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食の循環・環境への配慮、意識を育む保育
	実践結果	畑仕事（種まき・育てる・間引く・収穫）・食材の加工（梅・味噌・ケチャップなど）生き物の世話・命をいただく活動（サーモンの解体・調理）
	次年度方向性	自ら栽培に携わり、収穫を経験しながら、実体験としての循環を経験する。
2	計画・ねらい	食材の循環サイクルの実行
	実践結果	給食調理における破棄を減らす（出し殻のふりかけ、皮つき調理）、残渣やヤギ糞鶏糞の再利用など、「捨て る」ではなく「有効活用」の視点を持

		つ、コンポスト設置
	次年度方向性	今年度の経験を子どもたち自ら活かし、自発的に思考しながら実行できる環境を整える。
3	計画・ねらい	陸の豊かさを守る活動の実施
	実践結果	木育として木材を利用した活動の実施、園庭改良、木陰を感じる空間の維持、ペーパーレス化を行った。
	次年度方向性	製作に取り入れ、自園の豊かな自然を実感できる環境を整える。

〈6〉リズムあそびの充実化

1	計画・ねらい	計画：園会議毎にリズム研修を行う ねらい： ケガをしない丈夫な体つくりを行う
	実践結果	基礎となるリズムの習得、集団リズムの習得を図り、 実践し振り返りを行ったが、スタッフ自ら新しいリズムに挑戦する姿がもう少し見られると良かった。
	次年度方向性	自ら学びたい事柄を精査し、受け身の研修から学び取る研修へシフトチェンジしていく。
2	計画・ねらい	計画：スキル講座の主催をする（リズムを行うモデル園となるよう） ねらい：主催する側となることで、手本となることを経験する（自身とルームのスキルＵＰにも繋げる）
	実践結果	園会議での園内リズム勉強会を行い 実践と振り返りを行った。
	次年度方向性	細かな動きや、ねらいを学び、実践で活かせるようにしていく。発達を捉えた介助を学ぶ。
3	計画・ねらい	計画：集団リズムを取り入れていく ねらい：ケガをしない丈夫な体つくりを行う中、他者と関りながら体を動 かす楽しさを経験する
	実践結果	幼児を中心に集団リズムを取り入れた。 乳児はわらべ歌や、触れ合い遊びを取り入れた。
	次年度方向性	季節や発達にあったリズムを実践できるようにする。

〈7〉ふじみ野の伝統を園と共につくる

1	計画・ねらい	荒馬踊り、太鼓を活動に取り入れていく 現在子どもたちがとても興味をもって取り組んでいる民舞のため、更に学びを深めふじみ野の特色となっていくよう活動に組み込んでいく
	実践結果	リズム体操の後に荒馬踊りを取り入れた。 現在は馬役を子どもが行っているが、跳人役やお囃子をする役も設け、自分の得意分野で参加できるようにした。

	次年度方向性	園全体での学びを深めていく。
2	計画・ねらい	運動会や地域の方に向けて披露する機会を設ける 披露することで自身に繋がる場の提供を行う
	実践結果	運動会での披露、地域の方を呼んで披露等、披露する場を作る ブログで活動の様子を発信した。
	次年度方向性	経験の場を増やし、楽しみながら習得できる環境を構築する。
3	計画・ねらい	すべての職員が太鼓、笛、踊りのいずれかの知識を深める 職員全員が子どもに対し伝承者となれるようにする
	実践結果	園内勉強会として盛り込む。習得した職員が次の職員へ教えていけるよう、伝承していくことを大切に、知識を深めることができた。
	次年度方向性	色々な地域の民舞に触れる機会をもち、選んで参加できる環境を構築する。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半：4~9月	36人	95人	103人	120人	114人	120人	572人
年度後半：10~3月	36人	108人	107人	120人	97人	120人	588人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	121人	116人	109人	117人	109人	144人	155人	128人	113人	90人	190人	185人	1577人
うち0歳児	1人	2人	1人	5人	8人	8人	9人	5人	4人	8人	1人	0人	52人

一時保育利用状況

なし　利用休止中

〈2〉開所時間

7時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

常勤 スタッフ	保育士	15人	看護師	0人	栄養士	3人	調理員等	0人
パート スタッフ	保育士	4人	事務	2人	用務	1人		

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・行事の振返り実践報告、ディスカッション、研修計画に基づいた園内研修
給食運営会議	月1回	食育会議、食に関するエピソード共有、ディスカッション
事故防止委員会	月1回	自園・他園の事故分析、再発防止策の立案と振り返り
ケース会議	月1回	子どもの様子・状況の共有、対応について つむぎとの連携・情報の共有
リーダー会議	月1回	園長・リーダーによる園運営・各クラスの連絡・課題の抽出及び検討

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
食育会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、調理スタッフ

保健会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長
主任会議	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士
併設園会議	年2回	施設長

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	園内の衛生管理や備品管理 安全管理
安全対策係	避難訓練・消火訓練・不審者訓練の計画・実施・振返り 防災実施点検の管理・設備点検・事故防止点検の実施・振返り
防火管理者	災害対策・消防計画に則り避難訓練の実施・自主点検の実施 避難訓練の計画・実施・振り返り
食品衛生管理係	給食・提供食材の安全・衛生管理
畑係	年間畑計画に則り、子どもと共に行う畑活動の実施・計画の 振り返り及び検討 畑の管理
生き物係	飼育動物の健康管理・飼育活動の意義の理解・計画の検討 飼育環境整備
美化係	園庭・室内の清掃整備の計画・伝達

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	保護者と共に計画・実行を行う 地域との連携・連絡窓口
保育環境整備係	園庭・室内の環境整備・どろんこサポーターズとの連携・整備作業の計画・実施

4. 保育支援

〈Ｉ〉保育･保育参加･保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	その都度、保護者の方のご意見を聞き、日々の送迎時にコミュニケーションを とることを心掛け、子どもの様子から理解をしていただき、共に成長を喜び合う 関係づくりを心がけた。
保育参加	4～3月まで　合計8名　が参加済み　　（3月Ｉ日時点） 子どもとの応答的な関わりを感じていただき、安心感を持っていただけた。また、異年齢の関りがどんなものか実際に見てもらい素敵だったとの感想をいただけた。
保護者面談および発達相談	4～3月まで　合計2名　が参加済み　　（3月Ｉ日時点） 専門職の意見を聞きながら、担任・施設長で家庭での姿を伺いながらアドバイ　スを行った。

〈2〉計画した年間行事の振返り

・別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

Ｉ	計画・ねらい	共に食べる喜び、心地良さを味わえることのできる関わり、コミュニケーションを大切にした食事の時間・空間つくりをしていく
	実践結果	丁寧な食事を前提に、好きな人と好きな場所で、共に食事をする中で、食事のマナーも意識できるような関りを大事にしてきた結果、食の大切さの理解も深まり、残渣の削減にも繋がった。
	次年度方向性	お腹が空いたという経験を通して食への意欲を高める 食事の時間だから食べるのではなく、お腹がすいたことを感じることで食 に対する意欲を高められるようにする
2	計画・ねらい	食に旬がある事を知り季節を感じながら様々な地域の産物を生かした食事を体験する 様々な伝統食や行事食・郷土料理を体験する
	実践結果	野菜の収穫から調理に繋がる活動や、行事食、郷土料理の食育活動を年間通して行ったことで、食に意欲が増した。
	次年度方向性	縁側給食を通して、四季を感じながら食べる場所の提供 自分の食べたい物を自分で配膳できる環境設定
3	計画・ねらい	野菜等を自ら栽培・収穫し、食べる喜びを経験する 日々の活動の中で空腹感を感じることのできる活動を保障し、食欲へと繋 げる
	実践結果	畑で野菜を育て、収穫、調理、食す、加工品をつくり調理に使用する等 畑仕事、調理活動を活動の中に取り入れた
	次年度方向性	食の循環　０からの食を通して学ぶ

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月12日／11月13日に実施
歯科検診	6月27日に実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① ８月26日に園にて保健センター虫歯予防健康教育を実施 ② 12月9日10日に園にて性教育を実施
流行した感染症	① 12月にインフルエンザ、園児10名感染報告有り。 1月末日に終息
発作・痙攣等の対応	今年度ダイアップ預かりなし
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月21日にてエピペン研修を3月21時点在籍スタッフ21名が受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ25名のうち、21名が使用可能
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底するなど各園で記載

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（法定1回/3年）	業者による対象物の法定点検 2023年実施済み ※対象物がない園及び JW 園は削除すること

	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月 ⇒4月12日、9月13日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日　実施済み
	児童健康診断	内科健診　各年2回／6月14日、11月15日 歯科健診　各年1回／6月29日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時 ⇒4月5日、10月4日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間　実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	清潔且つ衛生的で安全な、気持ちのよい環境の中で心地良く活動ができるよう、施設内の清掃 整備を行う
	実践結果	清掃・環境構成の委員会を立ち上げ、システム化を進めた。スタッフ一人ひとりが自分事と捉えることを意識したが、更なる向上が必要と感じる。
	次年度方向性	利用者目線での心地よい環境を構築する
2	計画・ねらい	子ども自らが遊びを見つけ意欲をもって遊びだし、遊びこめる環境になっているか、大人の思いや意図が先行することのない様、今子どもたちに何が必要かをその都度見直しを実施し、環境を整えていく
	実践結果	振り返りを定期的に行い、環境とその時々の子どもの姿をスタッフ間でディスカッションし、目の前の子どもたちにどんな関りが必要か話し合う事ができた。
	次年度方向性	振り返りの頻度の見直しを行い、環境についての学びを増やしていく
3	計画・ねらい	園庭・室内の環境整備、安全に考慮した保育環境を整え、法人のこだわり・裸足保育・機会を排除しない保育実践をしていく
	実践結果	子どもたちが自分で選択できる環境を意識し、スタッフ間の共有を行ったが、上手くいかない課題も残っているので、引き続き行っていきたい。

	次年度方向性	交じり合いを意識した環境構成を構築する

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	飼育台	玄関	毎週土曜日	異常なし
2	ベンチ・テーブル	園庭	毎日	異常なし
3	かまど	園庭	毎日	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	消防計画に基づき、自衛消防隊を編成、避難訓練・消防計画を行う。火災・地震発生時の避難方法を確認。アプリを使用し、園児の情報を発信した。
2	実践結果	事故防止チェックリスト・設備点検チェックの実施。怪我発生時、対応フローチャートに従う。ヒヤリハット報告書・インシデント報告書の検証をし、再発防止策に重きをおき、怪我や事故、保育の見直しを行った。看護師による園内講習（応急手当・エピペン・ダイアップ）を行った。
3	実践結果	年２回不審者訓練の実施、笛の携帯・送迎者の把握及びつむぎルーム・子育て支援 センター利用者へ言葉掛け・インターフォンでの確認を行い、 地域との連携をし、安全・防犯への意識づけをしていった。
4	実践結果	光化学スモッグが発生しやすい気象条件・注意報等を把握し、発生時には発生時対応を行政連絡、対応をした。園児・職員は室内で過ごす、健康状態の確認をした。
5	実践結果	怪我発生時の対応、職員の情報の共有(お迎え伝達ボード記入、口頭での伝達の徹底)翌日の対応等、保護者に心を配る、誠意をもった対応をする事を常に意識付けをした。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

子どもと関わる楽しさや保育士のやりがいを感じてもらえるよう、また、保育士に興味を持ってもらい、将来の仕事の選択肢の一つとなるよう、気持ちのフォローも大事に考えて行った。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容

8月26～9月10日	有明芸術短期大学	1人	保育実習
11月1日～15日	総合学園ヒューマンアカデミー校東京校	1人	責任実習
2月3～19日	十文字学園女子大学人間生活学部人間福祉学科	2人	観察実習
2月17日～3月3日	学校法人三幸学園東京立川こども専門学校	1人	観察実習

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
12月16～19日	ふじみ野市立西中学校	4人
1月22～25日	ふじみ野市立大井中学校	8人

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	5日 24名	10日 20名	7日 19名	5日 20名	9日 18名	6日 21名	4日 26名	8日 20名	6日 19名	8日 22名	21日 25名	19日 25名
法人理念修研修/虐待防危機管理研修	5日 24名											
法人理念研修(保育理念)		10日 20名										
プール実施事故防止研修			7日 19名									
子どもとの関り研修				5日 20名								
アサーション研修（子どもとの関りの振り返り）					9日 18名							
前期の振り返り研修						6日 21名						

内部監査振り返り研修							4日 26名					
人権についての研修								8日 20名				
全体研修（動画視聴）									6日 19名			
一年間の振り返り研修										8日 22名		

〈2〉外部研修への出席

なし

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	18日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	21日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	12月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

利用者の目線に合わせて支援することを心掛けた。変化共有するだけで はなく、そこまでの過程や今必要な支援は何かを常に考え、一緒にできることを行ってきた。地域の方へも言葉をかけることを意識的に行う事で園とのつながりを作れるように心掛けた。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：亀久保西公園にて　　参加延べ人数：2名
商店街ツアー	週1回　主な行き先：週1回　主な行き先：セブンイレブン、横山青果、はなこう、大井交番、 富田商店、大井ショッピングセンター、大井郵便局、立麻医院、 アポロ歯科、畳の橋本、大井図書館、西消防署、ベルク等
世代間交流	6月18日に先方の都合により中止
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉　実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

直接的な交流はできなかったが、散歩時に小学校の近くを通り校外から小学校の様子見ることは できた。
小学校へスムーズな接続を実現するため、保育園保育要録を送付、電話での情報の申し送り 面談を実施。
・幼保小連絡協議会の実施
・各小学校と電話にて情報申し送り

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

個々の保育計画から日々の子どもの様子を観察、記録をし、全職員、保護者様とも共有しながら 振り返りを行った。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・４～３月に計１8回開催　参加者：８名前後 つむぎスタッフと保育園スタッフと一緒に支援の方向性を確認しながら、振り返りと計画の共有を 行った。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

小学校の引継については、電話での共有を行った。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
129名	181名	174名	189名	198名	193名	171名	213名	229名	117名	112名	100名	1196名

実施項目	詳細												
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　　来園延べ人数：2168名												
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　⇒計7件相談実施済み												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計22回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	8名	10名	6名	25名	37名	8名	21名	29名	24名	15名	23名	11名	217名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計12回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	4名	4名	0名	6名	0名	3名	2名	2名	10名	0名	31名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00　にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設												
ちきんえっぐだより	毎月1日発行												
青空保育 （支援センター主催）	月1回　　公園名：亀久保西公園にて　以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	2名	中止	中止	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	2名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２４年8月22日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：15時00分
自己評価終了時刻：16時00分
自己評価実施者：内田あゆみ、岩崎亮子

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月２５日
アンケート回収率：126%

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年3月１５日　　作成者：ふじみ野どろんこ保育園 施設長　内田　あゆみ

２０２４年度　武蔵野どろんこ保育園　事業報告書
（保育所における自己評価）

1．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

法人の子育て理念と目標、園目標を実現するために、自園で出来ることを実践しながら保育を行ってきた。
特にインクルーシブ保育や長距離散歩、日課の見直しを行ってきた。インクルーシブ保育では、発達支援つむぎ 武蔵野ルームと連携をしながら、「一人ひとり丁寧に」「みんなと一緒に生活する」ことを目指し、たくさんの体験を行った。
畑仕事は、日課として自発的に実施できるようになることが、来年度の課題となった。またコンポストの活用ができるように引き続き行っていく。給食残渣は目標達成できるまでに近づいてきている。畑で収穫した野菜を活かし食の循環に取り組むことが出来た。
自律運営は基本に立ち返り、1人ひとりが学び、向上できるように指導していく。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	インクルーシブ保育…個性の違いを認め合い、その違いを踏まえたうえでどのような関わり方をするのが望ましいか生活の場で学び、今後の社会で生き抜くうえで必要な力の基盤を育てる。 ①　他者との協同　②感情コントロール　③目標の達成　④成長を楽しむ
	実践結果	子どもたちは混じり合い日々保育園生活が出来ていた。 つむぎスタッフを交えたケース会議を行うことが出来た。
	次年度方向性	ケース会議は引き続き一緒に行っていく。 スタッフ同士が話しあう機会をもっと増やせると良かった。
2	計画・ねらい	どろんこ会グループの日課・基本活動へのこだわり 子どもたちが自ら活動を選び行動し毎日充実した日々を過ごしている。
	実践結果	日課を８：15に開始し、丁寧に行うことが出来た。畑仕事については自発的に、日課として実践して行くことが課題となった。
	次年度方向性	戸外活動９：００出発と畑仕事の日課を通年行えるしくみを作っていく。 子どもたちから活動出来るようにしていく。
3	計画・ねらい	経験の選択をすることができる物的環境の設定を行う。
	実践結果	環境設定についてスタッフが考え、試行錯誤する1年となった。
	次年度方向性	物的環境の見直しをしていきながら、子どもたちがあそび込める環境を整えていく。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	朝の受け入れ・お迎え対応の充実を行い保護者との信頼関係を築く。
	実践結果	朝の受け入れ・お迎え対応の充実を目指した。 行事のポートフォリオを継続的に掲示できた。
	次年度方向性	保護者対応を充実させていく。誰でも同じ対応ができるようにスタッフ育成をしていく。
2	計画・ねらい	個人面談実施（随時・月間）
	実践結果	個人面談は随時・月間と行うことが出来た。8月に多くの保護者が参加して、ゆっくりと話をすることが出来た
	次年度方向性	引き続き同じペースで行っていく。
3	計画・ねらい	保護者同士の交流を深める。
	実践結果	どろんこ祭りでは、どろんこサポーターを募集して保護者同士の交流を深める機会を作ることが出来た。懇談会、運動会、生活発表会時にも交流ができる環境を整えていった。
	次年度方向性	引き続き保護者同士の交流の場を設けていく。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	保育所体験、自然食堂、自然学校、芸術学校、寺親屋、青空保育の実施。
	実践結果	保育所体験、自然食堂の参加者があった。（保育所体験は園見学者が参加に繋がった。）
	次年度方向性	子育て支援をしていることを宣伝していく。チラシを配布、掲示を増やしていく。リピーターを増やして行く。
2	計画・ねらい	小中高生職業ボランティアの受け入れ実施。
	実践結果	小・高校生の職業体験ボランティアの参加があった。（小学生は卒園児やリピーターが多かった。）
	次年度方向性	引き続き行い、保育園での職業体験を増やして行く。
3	計画・ねらい	地域子育て世帯への育児相談
	実践結果	育児相談件数は0件だった。
	次年度方向性	広く情報提供をし、必要な世帯に気軽に利用していただけるよう工夫する。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	発達について
	実践結果	園会議にて、つむぎスタッフが毎月「発達について」の勉強会を実施し、保育士の学びの機会を増やすことができた。
	次年度方向性	つむぎ併設園として、引き続き勉強会を開催していく。
2	計画・ねらい	「10の姿の体得」の勉強会を園会議内で行う。（毎月）個人またはクラスで担当する
	実践結果	園会議内で主任が講師となり、勉強会を行った。クラス担当やリーダーが実践できることを目指した。
	次年度方向性	引き続き園会議内で、プレゼンテーションや学びのアウトプットの機会を創出して行く。
3	計画・ねらい	園長大学®・保育士大学講座勉強会
	実践結果	個人で視聴や、園会議内で視聴を行った。それぞれの学びを共有する時間が持てることを目指した。
	次年度方向性	個人で学ぶべき内容を自発的に考え、学びを深めていくとともに、学びをアウトプットする機会を設けることで、知識の定着を図る。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食の循環を知る機会を作る。
	実践結果	加工食品、コンポスト作りを行った。 （梅干し、味噌、ケチャップ、ピザ、すいかジュース、みかんジャム）
	次年度方向性	引き続き行っていく。
2	計画・ねらい	給食残渣を2023度から70%減らす。
	実践結果	給食残渣を毎日測定し記録検証を行った。給食運営委員会で話し合い、残渣量を減らす対策をたてた。２月末70%達成に近づいている。
	次年度方向性	来年度も引き続き行っていく。

〈6〉「日課にこだわる」

1	計画・ねらい	さくらさくらんぼリズム8：15開始
	実践結果	伴奏者を固定し毎日同じ環境で行えるようにしていった。スキルアップのために勉強をしているスタッフもおり、実施レベルが統一されてきた。
	次年度方向性	来年度も新たな要素を追加しながら、丁寧に子どもの発達と向き合っていく。
2	計画・ねらい	散歩9時出発。
	実践結果	人数確認のルールを徹底的にスタッフへ指導した。安全に散歩に行くことができる人的環境の優先度を上げて少しずつ活動の幅を広げていった。
	次年度方向性	朝の会を見直して、9時出発をすると良いこと（ホンモノの経験）がたくさんあることを、子どもたちが理解し、行動できるよう、体験や対話を重ねていく。
3	計画・ねらい	畑仕事。
	実践結果	畑仕事、という認識をまずはスタッフが持ち子どもたちに伝えて行くことを目指した。
	次年度方向性	引き続き畑仕事は、日課として自発的に行動できるようにしていく。

〈7〉10の姿の体得

1	計画・ねらい	保育者が毎月園内研修で学び合う
	実践結果	園会議内で主任が勉強会を行い、「10の姿」について学び保育に繋げていった。
	次年度方向性	継続して学び合うことを行っていく。
2	計画・ねらい	決まり（毎日の仕事）を守ることを子どもたちに教えていく。
	実践結果	日課はスタッフと共に行うことが出来た。 生活の中で細かなルールや礼儀、行儀について伝えていくことを心掛けた。
	次年度方向性	全ての日課を通年行っていく。
3	計画・ねらい	言葉による伝えあいが出来る環境を整えていく。
	実践結果	幼児組は子ども会議を行うことが出来た。 言葉で伝えることの大切さを子どもたちに話した。
	次年度方向性	引き続き行っていく。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半：4~9月	6人	15人	18人	20人	20人	20人	99人
年度後半：10~3月	6人	15人	18人	20人	20人	20人	99人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	159人	155人	153人	174人	132人	148人	220人	240人	228人	228人	275人	250人	2362人
うち0歳児	1人	3人	3人	9人	2人	5人	8人	15人	13人	14人	17人	15人	105人

（解説）3月は見込み人数

〈2〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　（３月１日時点）

常勤スタッフ	保育士	11人	看護師	2人	栄養士	3人	調理員等	1人
	用務兼バス運転手	1人						
パートスタッフ	保育士	7人	用務	1人	事務	1人		

.

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・園内研修
給食運営会議	月1回	喫食状況確認、アレルギー・離乳食確認、食育について
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット、インシデント、事故記録簿の解析、再発防止
ケース会議	月1回	発達の気になる園児の情報共有と次月の方針について
クラス会議	月1回	1週間の振り返り、次週の計画。月末に次月の計画

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
食育会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長
主任会議	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士
併設園会議	年2回	施設長

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	毎日の個人衛生点検、毎月の衛生管理点検実施。園内の衛生管理が保てるように看護師、調理師が中心となり活動を行った。
安全対策係	室内外の設備や手作り玩具の安全管理をして、点検を行った。 不審者侵入訓練の実施。

防火管理者	避難訓練、消防設備点検の実施。
食品衛生管理係	衛生点検の実施。給食衛生管理マニュアルに沿った対応を行った。
畑係	年間を通した食育計画案の作成と実施。畑の管理を行った。
生き物係	エサなど必用物品の発注を行った。
図書係	園内の絵本、紙芝居の管理、発注。管理表の作成を行った。
卒園アルバム係	卒園アルバム内容の検討、実施、作成。

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	どろんこ祭りの企画、どろんこサポーターズの結成
運動会係	運動会の計画、実施。
生活発表会係	生活発表会の計画、実施。

4. 保育支援

〈1〉保育･保育参加･保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	・基本方針にあげた保育内容が実現できるように日々保育を行った。 ・スタッフのスキル向上の為、毎月の園内研修を行った。 ・エリア研修、保育の質会議に参加しスキル向上を行った。 ・子どもたちが楽しめる保育を実践してきた。
保育参加	4～3月まで　合計44名　が参加済み　　（3月1日時点）
保護者面談および発達相談	4～3月まで　合計21組　が参加済み　　（3月1日時点）

〈2〉計画した年間行事の振返り

・別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	食べることの楽しさと食への意欲を育てる。
	実践結果	ゆったりとした食事時間にできるように、環境を整えた。
	次年度方向性	引き続き行って、ゆったりとした環境を整えていく。
2	計画・ねらい	噛む力や食べる意欲を育てる。
	実践結果	子どもたちの食べる姿を見て、食材の大きさや固さ、盛り付け方を配慮していった。
	次年度方向性	引き続き行っていく。
3	計画・ねらい	空腹のリズムを確立し、食に対する意欲を育てる。
	実践結果	お腹が空いた状態で帰って来られるように、散歩9時出発を目指し、午前中めいっぱい活動する。食物残渣を減らせるよう残さず食べるよう声をかけ見守っていった。
	次年度方向性	引き続き行っていく。
4	計画・ねらい	食材の大切さや感謝の気持ちを育む。
	実践結果	畑仕事を通して食の循環の直接体験を行った。
	次年度方向性	引き続き行っていく。子どもたちと一緒に調理し美味しくいただく活動を行っていく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	5月15日／11月13日に実施
歯科検診	6月25日に武蔵野どろんこ保育園にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
園児への保健指導、取組等	手洗い指導・歯磨き指導・熱中症対策・生活リズムについて・性教育
流行した感染症	① 7～8月　手足口病、溶連菌、ヘルパンギーナ ② 12月後半　インフルエンザ
発作・痙攣等の対応	今年度、対応なし
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月21日にキックオフにてエピペン研修をスタッフ15名、つむぎスタッフ5名が新たに受講し習得済み。 ・本日時点で、在籍スタッフ28名のうち、24名が使用可能

AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	・7月7日に東大和どろんこ保育園で上級救命講習をスタッフ3名、が新たに受講し習得済み。 ・本日時点で、在籍スタッフ28名のうち、5名が使用可能
その他保健に関する取組	園児の健康状態を把握。既往歴・予防接種歴の把握。 水遊びの際の安全・衛生管理。 健康保険証・乳児医療証の有効期限確認。 身体測定毎月２０日。 園会議にて職員への保健関係の情報提供・指導。感染予防のため、手洗い指導を行った。また消毒・換気を徹底した。救急用品の定期的な点検。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月 ⇒4月1日、10月1日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日　実施済み
	児童健康診断	内科健診　各年2回／5月15日、11月13日 歯科健診　各年1回／6月25日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時 ⇒4月19日、10月18日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間　実施済み
	利用者アンケート調査	9月17日～10月7日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	乳幼児の育ちを捉え、環境設定や環境構成を具体的かつ意図的に整え、継続的に、点検・整備・改善を行い必要に応じて新たに製作していく。
	実践結果	室内環境は、定期的に変えて整備を行うことが出来た。
	次年度方向性	子どもの発達にあった環境設定が繋がりあるものとなるよう、保育士どうしでコミュニケーションを深めていく。
2	計画・ねらい	子どもが自ら環境に関わりながら、好きな場所で好きな仲間と遊び込む経験ができるように環境つくりをする。
	実践結果	つむぎスタッフとも話し合い、行うことが出来た。
	次年度方向性	あそび込める環境を引き続き整備していく。
3	計画・ねらい	必要なものが必要な場所、必要な量、整理整頓されている状況を維持し、必要な時にそれが使えるようにする。
	実践結果	子どもたちと一緒に行えるようにしていった。
	次年度方向性	いつ来客があっても良いよう、常に美観の整った園内、園外であることを目指す。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	乳児室　家	2階乳児室	毎日早番業務	異常なし
2	乳児室　棚	2階乳児室	毎日早番業務	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	避難訓練	毎月一回避難訓練を実施。火災、地震発生時の避難方法を確認検討
2	ケガ事故防止	ケガ事故防止：事故防止チェック年4回、設備点検年4回の実施。 インシデント報告書、ヒヤリハット報告書、事故記録簿の作成。 毎月事故防止委員会の開催
3	防犯	年2回不審者侵入訓練を実施。不測の事態に備える。保育者の動きや合言葉の確認をした
4	光化学スモッグ	光化学スモッグ：自治体からの連絡で対応。
5	情報共有の徹底	全ての事項の情報共有を強化していく。（昼礼、園会議、緊急事故防止委員会、事故防止委員会）

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

実習生は予定通り受け入れ、全日程終了できた。
昨年に引き続き特別支援学校の高校生の用務の実習を受け入れた。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
6月10～21日	東京こども専門学校	1人	部分実習、責任実習
7月1～12日	都立田無特別支援学校	1人	用務実習
7月4～5日	東京こども専門学校	1人	体験実習
2月３～７日	東京家政学院大学	2人	調理実習
2月３～１９日	十文字学園女子大学	２人	部分実習

〈3〉小中高生の受入

日程	学校名	人数
8月9日	上向台小学校	1人
8月15日	上向台小学校	2人
8月19日	向台小学校	1人
	上向台小学校	1人
8月23日	上向台小学校	1人
8月27日	柳沢小学校	1人
8月29日	上向台小学校	2人
12月2日	東京三育小学校	1人

7．スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	19日 25名	17日 25名	21日 25名	26日 25名	23日 27名	20日 28名	18日 27名	15日 28名	20日 28名	24日 29名	21日 28名	21日 28名
園内研修	21日 18名	17日 17名	21日 21名	26日 18名	23日 14名	20日 20名	18日 17名	15日 18名	20日 21名	24日 17名	21日 21名	2日 22名

〈2〉外部研修への出席

参加なし

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	20日 1名	20日 1名	20日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	19日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	11月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	1月25～2月5日に1名のスタッフがアスモンスミーネ保育園にて勤務											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8．地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

「地域の方と積極的に関わり、いつでも来てもらえる保育園を目指していく。」の振り返りは、子育て支援としての来訪が増えた。園見学者が多く「保育所体験」のことを伝えると参加に繋げることが出来た。

小学生、高校生の職業体験ボランティアを積極的に受け入れた。夏休み、冬休みには参加者がたくさん来てくれた。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：おおぞら公園にて　　参加延べ人数：5名
商店街ツアー	週1回 主な行き先：桜堤交番、西東京市消防署田無出張所、桜堤郵便局、あみの歯科、新町児童館、セブンイレブン、発達支援つむぎ 武蔵野ルーム等
世代間交流	月1回　フローラ田無とのシニア交流を実施
異年齢交流	発達支援つむぎ 武蔵野ルームの放課後等デイサービスの中高生と幼児室で交流を実施
異文化交流	11月13日に幼児室にて WEB で「タイとつながる」を実施
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉　実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

上向台小学校との交流を4回行うことが出来た。

上向台小学校、向台小学校、天沼小学校、さくらの諸学校からは、入学する子どもたちの様子の引き継ぎを電話で行った。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
10月19日	上向台小学校	13名	運動会見学（上向台小校庭）	見学
11月21日	上向台小学校 2年2組	5名	当園幼児保育室 町探検	子どもとスタッフ間交流（5歳児参加）
12月20日	上向台小学校 2年2組	19名	授業参観（2年2組教室）	町探検発表の参観
2月21日	上向台小学校 1年2組	19名	小学校体験	子ども間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

毎月のケース会議、クラス会議、園会議で情報を共有しながら計画の作成、見直しを行ってきた。
発達支援 つむぎ 武蔵野ルームのスタッフも参加して会議を行った。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・４～３月に計12回開催　参加者：各クラス担任、つむぎスタッフ
毎月定期的に行い、園児にとって良い対応を考えながら進めてきた。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

園児の進学先の小学校に申し送りを行いスムーズに進学できるように連携をとった。
5歳児担当者が進学先の小学校の担当者と対面や電話で申し送りを行った。
保育要録と支援シートを各小学校に提出した。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	7名	28名	107名	33	32名	35名	34名	14名	14名	21名	10名	303名

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　　来園延べ人数：30名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　⇒計1件相談実施済み
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計1回実施済み 参加者延べ人数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	0名	0名	0名	0名	2名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	2名

どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計0回実施済み 参加者延べ人数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名

勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00　にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置
ちきんえっぐだより	毎月1日発行

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

特定非営利活動法人　福祉総合評価機構に依頼して受審済み
アンケート配布日：9月17日
アンケート回答率（スタッフ）…100%／アンケート回答率（保護者）…91.3%
経営者ヒアリング・施設長ヒアリング・園審査：11月12日に実施

保育現場の視察、保育リーダー、主任、施設責任者へのインタビュー及び文書・記録確認

〈2〉園による自己評価の実施

２０２４年12月16日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：13時30分
自己評価終了時刻：14時30分
自己評価実施者：リーダー2 名、主任、施設長

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：9月17日
アンケート回収率：91.3%

今年度は第三者評価のアンケートで行った。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む）　０件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年3月１５日　　作成者：武蔵野どろんこ保育園 施設長　今村眞里

２０２４年度　メリー★ポピンズ市川ルーム　事業報告書
（保育所における自己評価）

１．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

事業計画の基本方針を受けて、園目標を「原点回帰」と定めた。
保育者は、デイリープログラムを理解し戸外活動9時出発の徹底を図った。昼食前までの午前の時間をたっぷり戸外で過ごすことが園全体で定着した。沢山遊んで、沢山食べて、十分な休息を取るという生活スタイルを意識し、健康で意欲的な子どもの成長を促せるよう努めた。
「こども会議」と名付けた話し合いの場を毎日設け、自分の思いを伝える・相手の思いを聞く経験を重ねた。話し合いの中で、友だちには自分と違う意見や思いがあることに気付き、気持ちの折り合いのつけ方を学んだ。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

１	計画・ねらい	見守る保育・継続する保育の実践
	実践結果	保育所保育指針の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を１か月に１項目ずつ学んだ。 保育者間で確認・共有するツールを利用し、日々の保育のねらいを全体で意識した。
	次年度方向性	引き続き園会議で保育所保育指針について学んでいく。保育者が講師を務めることで学びをアウトプットし、より理解を深めていく。
２	計画・ねらい	丁寧な保育実践
	実践結果	法人の掲げる日課の意味を品質マニュアル、入園のしおりを使って再度学び直し、確実に毎日の活動に取り入れるよう注力した。 畑活動に関しては実施をする児が偏ったり、朝の時間での活動が難しかったりすることがあった。
	次年度方向性	朝7時から9時までの保育者の配置と活動内容を再考し、確実・丁寧に日課を行っていく。
３	計画・ねらい	伝え合う力・表現する力を育てる
	実践結果	幼児組を中心に１日に１度話し合いの時間を作った。自分の意見だけでなく相手の意見にも最後まで耳を傾けようとする気持ちが育った。
	次年度方向性	自由に表現できる製作コーナーを見直し、活動の充実を図る。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	明るい挨拶と誠実な対応
	実践結果	常に明るく気持ちの良い挨拶を心掛けた。 朝の受け入れ内容や日中の様子などを、お迎え対応の保育者にしっかり引き継ぐことを徹底し、園での様子を保護者に丁寧に伝えた。
	次年度方向性	どの保育者でも同じように挨拶・お迎え対応が出来るようにし保護者から信頼される園を目指す。
2	計画・ねらい	常に整理整頓を心掛け、気持ちの良い選ばれる施設を作る
	実践結果	清掃点検表を作成し、1日に数回棚の上に無駄な物が置かれていないか確認をした。
	次年度方向性	行事の前などに疎かになることがあったので、取り組み内容を再考する。
3	計画・ねらい	保護者同士が繋がりを持てるような活動の実践
	実践結果	保護者懇談会にて保護者同士が語り合う時間を十分に設けた。 どろんこ祭り、運動会ではどろんこサポーターズを募り、話し合いや運営の場を設けた。
	次年度方向性	更に保護者同士の繋がりを強くしていく為、どろんこサポーターズの運営をより活発にしていく。(メンバーの増員・活動機会を増やす)

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域に開かれた施設として交流の場となる
	実践結果	園見学にいらした方や、公園で会った子ども連れの方などに園開放の機会をお伝えした。
	次年度方向性	チラシやポスターの配布枚数を増やし、園開放の周知を更に進める。
2	計画・ねらい	ちきんえっぐの参加者数を増やす
	実践結果	後期に自然食堂の利用者が増加した。 参加者が友人を誘ってくれるなど、口コミの輪が広がった。
	次年度方向性	自然食堂以外の活動にも足を運びたくなるよう、内容を再考し更なる充実を図る。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	スタッフが子どもの育ちを語り合う集団になる

	実践結果	会議の場で子どもの様子を活発に語り合うことが出来た。 経験の浅いスタッフも子どもの様子を共有する機会を重ねることで、小さな成長や変化に気付けるようになった。
	次年度方向性	語り合った内容を、保育記録やエピソード記録を活用し、形として残せるようにする。
2	計画・ねらい	学び続け、個々が成長していく集団になる
	実践結果	園長大学®・保育士大学の講座を視聴し、ディスカッションを行いながら学びを深めた。
	次年度方向性	学んだことを、他スタッフに講義することでアウトプットし更なる理解へとつなげる。
3	計画・ねらい	10の姿の理解を深め保育計画と結びつける
	実践結果	1か月に1項目ずつ学んだ。10の姿と実際の子どもの姿を結び付け、エピソードなどを共有した。
	次年度方向性	専門的な視点を更に育てていけるよう、ねらいや日々の保育記録にも10の姿を盛り込められるようにする。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	園内の整理整頓に努め、気持ち良く過ごすことが出来る園を目指す
	実践結果	担当者がチェック表を作成し、定期的に確認する事で整理整頓の徹底を図った。
	次年度方向性	取り組みを継続し、気持ちの良い環境を維持する。
2	計画・ねらい	給食残渣の削減と調理くずの有効利用の実践
	実践結果	盛り付けや配膳方法を再考することで、残渣の削減につながった。 調理くずはコンポストで使用し、畑の堆肥にした。
	次年度方向性	コンポストの運用方法を学び直し、稼働率を上げていく。 低年齢児の残渣削減に向けて計画を再考する。

〈6〉日課と基本的活動の丁寧な実践

1	計画・ねらい	日課・基本の活動と子どもの育ちの繋がりを深く理解し、日々丁寧に取り組んでいく
	実践結果	法人の掲げている日課への取り組み意義やデイリープログラムについて再度勉強をし、取り組みの必要性の周知を図った。
	次年度方向性	ひとりひとりが日課を深く理解し、確実・丁寧に実践できるようにする。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半：4~9月	606人	871人	1155人	1299人	895人	895人	996人
年度後半：10~3月	714人	952人	1190人	1428人	1071人	1071人	6426人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	393人	430人	434人	448人	354人	388人	433人	423人	373人	410人	400人	400人	4886人
うち0歳児	13人	32人	30人	39人	31人	29人	36人	32人	24人	31人	35人	30人	362人

〈2〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

常勤スタッフ	保育士	10人	看護師	0人	栄養士	2人	調理員等	0人
パートスタッフ	保育士	4人	補助	3人	調理	0人	事務	1人
	嘱託医	2人						

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・行事会議、クラスの様子の共有、園内研修
給食運営会議	月1回	当月献立内容の振り返り、次月食育活動内容検討
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット・インシデント・事故記録簿の内容分析、事例検討等
ケース会議	月1回	気になる子の対応について共有、対応方法検討
昼礼	週1回	こどもについての伝達、インシデント、ヒヤリハット報告
担任会議	週1回	クラス担任での園運営に関しての相談、共有、計画立案

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
食育会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長
主任会議	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	衛生管理点検簿の管理、その他衛生関係の点検
安全対策係	安全点検、事故防止チェック、設備点検チェック

防火管理者	避難訓練の消防署への届出、設備点検、事故防止点検等
食品衛生管理係	給食関係の食品衛生管理
畑係	畑の管理、土入れ、種まき、手入れ、コンポスト管理など
生き物係	金魚・メダカ・カメの飼育管理

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	計画の立案、準備、祭りの実行を行った。準備から当日まで、総じて楽しむことが出来た。

4. 保育支援

〈1〉保育･保育参加･保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	・行きたい部屋で、遊びたい活動を選べるようにし「大きな家」になるよう努めた。 ・多くの体験から多くの経験が出来るよう環境を整えた。 ・異年齢での生活・関わりを大切にした。
保育参加	4～3月まで　合計21名　が参加済み　　（3月1日時点）
保護者面談および発達相談	4～3月まで　合計3名　が参加済み　　（3月1日時点）

〈2〉計画した年間行事の振返り

・別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	十分な遊びから自然とお腹が空く子、意欲的に食べる子を育てる
	実践結果	年度の半ばには散歩に9時に出発することが習慣付いた。帰園時間も乳児は11時半、幼児は12時で定着した。

	次年度方向性	年度当初から、午前の十分な戸外活動の時間を確保していく。
2	計画・ねらい	クッキング、畑での野菜作りなど、生活の中で意欲を持って食に関わる体験を重ね、食事を楽しむ
	実践結果	畑活動も充実し、計画的に食育体験に収穫物を使用することができた。 ライブキッチンなども行った。
	次年度方向性	間引き、雑草取りなども子どもたちの仕事として定着できるようにし、より日課として丁寧に取り組む。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月20日／11月21日に実施
歯科検診	6月19日／11月20日に実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	6月19日に園にて歯磨き指導を実施
流行した感染症	①5～6月に伝染性膿痂疹、5名感染報告あり ②10月に手足口病、7名感染報告あり ③12月にインフルエンザA、16名感染報告あり
発作・痙攣等の対応	計1名に対し、計2回ダイアップ使用
エピペン使用できるスタッフの状況	・4月12日に園にてエピペン使用研修をスタッフ20名が受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ20名のうち、20名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	・4月12日に園にてエピペン使用研修をスタッフ20名が受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ20名のうち、20名が使用可能
その他保健に関する取組	嘔吐・下痢および他ウイルス感染予防のため、うがい指導、手洗い指導を逐一行った。消毒・換気を徹底した。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月 ⇒4月30日、10月31日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日　実施済み
	児童健康診断	内科健診　各年2回／6月20日、11月21日 歯科健診　各年2回／6月19日、11月20日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時 ⇒4月12日、10月11日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間　実施済み
	利用者アンケート調査	8月26日～9月6日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	整理、整頓、清潔を意識し、子どもがいつでも気持ちよく生活できるようにする
	実践結果	担当者がチェック表を作成し、清掃状況を適宜確認した。繁忙期等、疎かになる時があった。
	次年度方向性	次年度も継続して取り組む。

2	計画・ねらい	充実した環境の中で、子ども自らが活動を選択する
	実践結果	3か月に1度程度の頻度で室内環境の見直しを図った。 発達に即した環境を整えられないことがあった。
	次年度方向性	発達の理解を深め、その時々に最善の環境を設定する。
3	計画・ねらい	室内、戸外共に子ども同士、思考錯誤しながら活動できる環境作りをする
	実践結果	園外活動は、どこへ行くかではなく何をするかを考え、行先を選定した。 活動内容がマンネリ化してしまうことがあった。
	次年度方向性	計画を立てる段階で、ねらいを明確に日々の活動の充実を図る。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

該当無し

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	毎月の消防避難訓練・消火訓練の実施、水防訓練の実施
2	実践結果	防災設備対策の実施(自動火災探知機、煙探知機、誘導灯)
3	実践結果	年2回の不審者侵入訓練
4	実践結果	ヒヤリハット、インシデント、事故記録簿記載による事故防止と、事故防止委員会による検討会議
5	実践結果	園内外のハザードマップによる危険個所の確認と安全確認の周知
6	実践結果	オートロックで外部進入者の立ち入り禁止
7	実践結果	光化学スモッグ発生時には、市役所などの情報機関が発信する情報をチェックし屋外での活動を控える

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

1名の実習生と、2名の中学生を受け入れた。保育士育成の観点と保育の仕事を知ってもらうことを念頭に置き関わった。生徒、受け入れ側双方にとって総じて良い機会となった。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
8月13～26日	日本児童教育専門学校	1人	責任実習

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
10月17～18日	市川市立第三中学校	2人

7. スタッフ研修

※3月は見込みの数値を入れること

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	12日 19名	10日 19名	14日 19名	12日 19名	9日 19名	13日 19名	11日 20名	8日 20名	13日 20名	10日 20名	19日 20名	14日 20名

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
12月19日	千葉県	千葉県自然環境保育安全管理研修	1名	有

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 1名	18日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	21日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
全社員研修	11・12月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

保育園、地域、家族が一丸となって子育て支援を行えるよう注力した。月に1回「ちきんえっぐだより」を発行し、積極的に広報活動をすることで利用者の増加を目指した。

お話し会、マジックショー、子育て講座が好評を得た。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：平田公園にて　　参加延べ人数：70名
商店街ツアー	週1回　主な行き先：ヤオコー、くまざわ書房、市川郵便局、本八幡駅 西消防署大洲出張所、コルトンプラザ、ヤマダデンキ、魚力、菅野駅 たえみ人形店、肉のアマイ、後藤米店、日比谷花壇、マツモトキヨシ等
世代間交流	地域行事参加 高齢者施設訪問、中学生の体験学習の受け入れ
異年齢交流	青空保育時や近隣小学生との交流
その他活動	6月18日に園にてお話し会(おはなしかご）を実施 7月31日に園にてマジックショーを実施 9月19日に園にて子育て講座(子どもの食事好き嫌いって?）を実施 2月4日に園にて交通安全教室を実施
銭湯でお風呂の日	月2回　〈3～5歳児〉　実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

保育者は、就学や子どもの未来を見据えて小学校教育について学ぶ機会を設けた。

子どもの生活の連続性を踏まえ小学校との連携が円滑になるよう努めた。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
1月29日	八幡小学校	8名	八幡小学校校舎内、校庭	子ども間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

個別支援計画を作成し、月1回の会議の際に情報共有し、見直しを行った。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・４～３月に計12回開催　参加者：20名

毎月の会議で子どもの様子や対応について共有・報告・検討を行った。

気になる子について、個別支援計画を作成し、園会議で様子や対応方法の共有を行った。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

小学校への進級に際し、保育児童要録の作成、引継ぎを行った。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
3名	7名	49名	74名	7名	29名	23名	28名	8名	10名	4名	15名	257名

実施項目	詳細												
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　　来園延べ人数：25名												
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　⇒計1件相談実施済み												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計4回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	6名	3名	2名	6名	0名	0名	0名	17名
どろんこ 芸術学校	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計0回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計

どろんこ自然学校	0名	0名	0名	2名	1名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00　にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっぐだより	毎月1日発行												
青空保育（支援センター主催）	月1回　　公園名：平田公園にて　以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	18名	0名	0名	0名	0名	13名	25名	8名	4名	15名	83名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２５年２月２１日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：12時00分
自己評価終了時刻：15時00分
自己評価実施者：緑川大地、馬場優花

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月２６日
アンケート回収率：100%

日々の異年齢活動に対して評価、理解をいただいた。お迎え時の対応や、駐輪場の使い方についてご意見をいただいた。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見　0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む）　0件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：メリー★ポピンズ市川ルーム施設長　清水　千春

２０２４年度　若林どろんこ保育園　事業報告書
（保育所における自己評価）

１．２０２４年度の概要　～２０２４年度の基本方針を受けて～

スタッフの連携、団結に悩みながらも、新しい仲間とともに前進してきた。子どもたちは身近な大人の姿を見本とし、その背中を見て成長していく。私たち大人は子どもたちの見本となるため、試行錯誤しながら子どもと向き合い保育を進めてきた。

子どもたちが自ら考え選択できる環境、１０の姿の体得、子ども自らがいつでも選択できる環境設定、命をいただくなど、法人の基本方針に向けてスタッフ一同進んできた。しかし、振り返ったときに失敗や反省点も多々あった。その振り返りを次年度に生かし、基本を大切にしながら、子どもと真剣に向き合っていきたい。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	日課、基本活動の実践と継続
	実践結果	やらねばならぬ日課の継続を大人がやってみせることで子どもたち自身が自ら取り組み、自分で考え行動できるための環境づくりをしてきた。結果、遊びや決まり事を子どもたち自身で考えることが日常となってきた。９時出発に関しては人数確認や異年齢での散歩先への移動の工夫が必要である。
	次年度方向性	日課は生活するうえで当たり前のこととして大人が率先し、背中を見せ継続していく。
2	計画・ねらい	子ども自らが選択できる環境設定
	実践結果	子どもが遊び込める、落ち着くことができる環境設定を考えてきたが、子ども目線で考え実行することに到達できていなかった。
	次年度方向性	マンネリ化や大人の感覚ではなく、子ども目線で丁寧に発達や状況を見ていくこと、そしてスピード感を持って環境設定を考え実行する。
3	計画・ねらい	多様性を認め合い、共に生活をする
	実践結果	障害のある無しに関係なく、決めつけることなく認め合い、共に生活できる居場所づくりをしてきた。子どもたち自身が友だちの特性を受け止め、特別視することなく生活することで心身ともに成長ができた。
	次年度方向性	大人も子どもも先入観を持たずに認め合い、関わり合いながら障害のある無しに関係なく、どろんこ会の貴重な体験をしながら生活をしていく。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者の気持ちに寄り添いながら、子育ての喜びを共有する。
	実践結果	保護者の立場になり、コミュニケーションを取りながら寄り添ってきたが、それが難しい保護者も実際にいた。距離感と相談しやすい雰囲気や環境づくりをもっと考えていかなければならない。
	次年度方向性	保護者の状況を見ながら言葉を掛け、常日頃からのコミュニケーションを大切にしていく。そして保育園が保護者にとって「心の拠り所」となるように関わっていく。
2	計画・ねらい	子育てをする保護者の立場になり、一人ひとりのスタッフが心を込めた丁寧な対応をする。
	実践結果	若林どろんこ保育園を選んでいただいたことに感謝をしながら丁寧に関わり対応してきた。子どもの成長を語り合いながら喜び合い、気持ちを受け止め配慮した。
	次年度方向性	もっと丁寧に、もっと保護者に寄り添い、安心できる居場所「若林どろんこ保育園」を作っていく。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	若林どろんこ保育園が地域の拠点となるよう周知を広めていく。
	実践結果	若林どろんこ保育園がどんな保育をして、どんな活動をしているのかを地域の方々に知っていただくための周知活動がうまくいかないことが多かった。来園していただいた方とはコミュニケーションを取りながら入園に繋げることができた。
	次年度方向性	もっと丁寧に関わり、寄り添いながら保護者支援をしていく。
2	計画・ねらい	近隣施設との交流を図り、地域に根差していく。
	実践結果	近隣の施設との交流を図ったが、先方の都合で予定が合わず、交流ができないこともあった。しかし、訪問だけではなく、手紙などでの交流を図った。
	次年度方向性	次年度はもっと積極的に交流ができるように働きかけていく。また、どのような地域貢献ができるのかを考え実践していく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	保育士としての心構え～初心に帰ってみよう～
	実践結果	年齢や経験関係なく「保育のプロ」としてともに学び合ってきた。お互い聞くことができる環境づくりも大切にコミュニケーションを図ることができた。

	次年度方向性	園長大学®・保育士大学をはじめ、園内研修を通してお互い学び合い、スキルアップをしていく。
2	計画・ねらい	プロとしての接遇
	実践結果	言葉使いや関わり方、所作など、都度教えながらプロとしての意識を高めるようにした。新卒スタッフも電話対応、保護者対応を実践することで意識が変わってきている。
	次年度方向性	保護者や目上の方への言葉遣いや対応の仕方をスタッフにわかりやすく伝え、実践できるようにする。
3	計画・ねらい	インクルーシブについて～普通ってなんだろう～
	実践結果	どろんこ会のインクルーシブを理解し、実践してきた。子どもの特性を理解し、どのスタッフも対応できるようになってきた。
	次年度方向性	真のインクルーシブとは何かを学び、理解し、実践していく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食材や食の循環、命の尊さを知る。
	実践結果	畑の土づくりをし、苗を植え、水をやり、間引き、収穫をすることを年間通して行ってきた。生き物の世話も子どもたちが率先して行うことができた。
	次年度方向性	畑仕事や生き物の世話は日課であるため、日常的に行う。
2	計画・ねらい	食材残差を減らす。
	実践結果	ただ、食材残渣を減らすことだけではなく、残渣を減らすことは子どもたち一人ひとりに丁寧に関わることが残渣を減らすことに繋がると思わされた。 食事をする環境を試行錯誤しながら考え、次年度に繋がるように実践している。道半ばではあるが、スタッフが心ひとつにして取り組んでいる。
	次年度方向性	「丁寧な食事」に少しでも近づけるよう努力を惜しまない。

〈6〉子どもの人権と尊重（施設長が力を入れて取り組むと決めた事柄）

1	計画・ねらい	子どもは大人と同等であり、平等である。
	実践結果	子どもは大人と平等であり同等であることを意識しながらお互いを尊重しながら関係性を気づけるようにしてきた。

	次年度方向性	次年度も大人も子どもも平等であることを意識しながらよい関係性を気づいていく。
2	計画・ねらい	子どもの人権と尊重についての研修実施
	実践結果	園会議の中で子どもの人権と尊重について年に数回研修を実施した。自分を振り返り、今日から心新たにし、子どもと向き合えるようにした。
	次年度方向性	子どもの人権と尊重の研修は4月、10月だけではなく、そのほかに年数回は実施し、自らを振り返ることができるようにする。

〈7〉人間性と保育の質の向上、キャリアアップ（施設長が力を入れて取り組むと決めた事柄）

1	計画・ねらい	多様性を認め合い、受け止める。
	実践結果	人それぞれ考え方も違い、感覚も違うスタッフが同じ目標に向かって進むことは容易ではなかった。しかし、話し合い、気持ちを伝えあうことで歩み寄ることができた。
	次年度方向性	お互いの気持ちを知り、理解できるように話し合い、チーム作りをしていく。
2	計画・ねらい	働きやすく輝くことができる環境
	実践結果	忙しさや大変さもあるが、その中でやりがいを感じながら「保育は楽しい」と思えるような環境づくりをした。
	次年度方向性	保育という仕事が尊いものでやりがいを感じてもらえるよう、人間関係の構築、働きやすい環境づくりを目指していく。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半：4~9月	36人	108人	108人	156人	150人	144人	702人
年度後半：10~3月	36人	108人	108人	156人	150人	144人	702人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	289人	343人	224人	408人	278人	386人	542人	373人	269人	357人	312人	300人	4704人
うち0歳児	0人	12人	18人	12人	9人	15人	15人	17人	16人	19人	15人	15人	163人

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	0人	0人	6人	7人	1人	1人	4人	2人	3人	3人	3人	3人	33人
うち0歳児	0人	0人	1人	0人	0人	0人	2人	2人	2人	3人	3人	3人	3人

〈２〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈３〉スタッフ構成　（３月１日時点）

常勤スタッフ	保育士	１５人	看護師	１人	栄養士	２人	調理員等	１人
パートスタッフ	保育士	２人	事務	１人	用務	1人	嘱託医	2人

3. 運営報告

〈１〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・行事について

給食運営会議	月l回	保育現場との連携、食育について、アレルギーについて、離乳食の共有、丁寧な給食と残渣について
事故防止委員会	月l回	自園及び他園で起きた事故の共有と改善策
ケース会議	月l回	子どもの特性を理解し、支援の仕方について話し合う
リーダー会議	月l回	園で現在起きている問題や今後の対応、改善策、保育に関する全てをリーダーで話し合い共有
フロアー会議	月l回	幼児クラス、乳児クラスで子どもや保護者の状況、室内環境について話し合う

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月l回	施設長
施設長勉強会	月l回	施設長
食育会議	年4回(5.8.ll.2月)	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回(5.8.ll.2月)	施設長
主任会議	月l回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月l回	保育士

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	薬品管理、衛生環境について話し合う。薬品の消費期限について見逃さないようリストを作成、定期的に見直した。
安全対策係	事故防止委員会開催、安全点検、ハザードマップ製作と管理を行う。事故防止では、自園、他園について話し合い、自分事として考え、事故防止に繋がるように話し合った。ハザードマップの更新も忘れずに行うようにした。
防火管理者	消防計画、消防自主点検確認を行う。消防計画に則り、避難訓練の実施、また、消防自主点検を実施した。
食品衛生管理係	食品衛生管理、給食会議開催を実施、給食会議では現場と共有すべ

	きことを周知した。衛生管理についても衛生管理係と最終確認は園長が行い実施した。
畑係	畑全般、管理を行う。季節の野菜を子どもたちと一緒に植え、収穫、管理全般を行った。
生き物係	ヤギ、鶏の世話、餌発注、ヤギ当番管理、その他生き物管理を行う。
教材備品発注係	教材、備品の発注と管理をする。消耗品や教材の在庫確認をしながら発注作業を行った。

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	どろんこサポーターズとの連携、計画を行う。どろんこサポーターズの協力があり、準備から開催までスムーズに行うことができた。

4. 保育支援

〈1〉保育･保育参加･保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	・生活リズムについて ・食事について ・トイレットトレーニングについて ・言葉についての相談がある。保護者の気持ちを聞きながら家庭での様子を丁寧に聞きとり、園での対応を話すようにした。
保育参加	4～3月まで　合計2名　が参加済み　　（3月1日時点） ・保育参加を経験し、保育の大変さについて身を持って感じたとの感想がある。
保護者面談および発達相談	4～3月まで　合計2名　が参加済み　　（3月1日時点） ・児童発達支援センターへ繋がったため、発達検査の結果と今後について保護者から話がある。

〈2〉計画した年間行事の振返り

・別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	食の意欲を育む
	実践結果	スタッフは子どもと一緒に食事をし、コミュニケーションを取りながら「食べることの楽しさ」を伝えるようにした。子どもの食べ具合を見ながら、食材の大きさや形状を共有し、連携を図った。
	次年度方向性	丁寧な給食を実践できるように、学びを深め、話し合いながら進めていく。園全体で丁寧な給食に少しでも近づけるようにする。
2	計画・ねらい	自分のことは自分でする。
	実践結果	自分自身で配膳できる環境を設定した。個々の発達を見極めながら子どもにとっての経験を大切にした。
	次年度方向性	保育者の「させてあげたい」気持ちが先走ってしまうこともあったため、年齢や発達を考え、丁寧に関わっていくようにする。
3	計画・ねらい	口腔発達の理解と食への関心
	実践結果	園内研修を通して、口腔発達について学び、理解に繋がった。食への関心は、一日を通しての活動に関わってくるため、お腹を空かせておいしく食べることができるように活動を考え実施した。
	次年度方向性	次年度も口腔発達について園内研修を実施、学びを深めていく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	4月17・24日／10月16・17日に実施
歯科検診	6月13日に若林どろんこ保育園にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 4月26日に「元気に楽しく過ごすには」を実施 ② 5月24日に「手洗いのはなし」を実施 ③ 6月28日に「歯のはなし」を実施 ④ 7月23日に「鼻のはなし」を実施 ⑤ 8月2日に「夏の過ごし方」を実施 ⑥ 9月12日に「おなかのはなし」を実施 ⑦ 10月29日に「てあらいできているかな」を実施 ⑧ 11月22日に「骨のはなし」を実施 ⑨ 12月20日に「鼻のかみかた」を実施

	⑩ 1月23日に「ご飯がからだをつくる」を実施 ⑪ 2月13日に「体内とけいのはなし」を実施 ⑫ 3月21日に「大きくなる」を実施
流行した感染症	① 手足口病　7月に園児15名 10月に園児42名 8月に園児2名 1月に園児2名 2月に園児1名 ② 溶連菌　5月に園児2名 7月に園児1名 10月に園児1名 11月に園児2名 12月に園児1名 2月に園児1名 ③ RSV　7月に園児1名 8月に園児4名 ④ アデノウィルス　4月に園児1名 5月に園児2名 6月に園児1名 7月に園児1名 ⑤ インフルエンザ 4月に園児3名 12月に園児32名 1月に園児1名 (1週間で10名になった時点で行政報告) 2月に園児13名 ⑥ 感染性胃腸炎　12月に園児2名 1月に園児1名 2月に園児2名 ⑦ マイコプラズマ 10月に園児1名 ⑧ アデノウィルス 12月に園児1名
発作・けいれん等の対応	ダイアップ使用無し
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月21日に自園保育室にてエピペン研修をスタッフ21名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ23名のうち、21名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	・AED 設置なし
その他保健に関する取組	新型コロナウイルス感染症や季節ごとの感染症の予防や感染対策についての予防

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（法定1回/3年）	業者による対象物の法定点検 2023年実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月 ⇒4月25日、10月25日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日　実施済み
	児童健康診断	内科健診　各年2回／4月・10月 歯科健診　各年1回／6月
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時 ⇒4月26日、10月25日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間　実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	子どもが自ら選択し、主体性を育む環境設定
	実践結果	子どもたちが主体的に考え、行動できる環境づくりや言葉掛けができるように考えてきたが、継続できないことで悩むこともあった。

	次年度方向性	一度に全てを変えるのではなく、その時の子どもの状況や発達を見極めながらこまめに変えていくようにする。
2	計画・ねらい	子ども同士が思いや考えを話し合い、試行錯誤しながら活動を展開する。
	実践結果	遊びの中で気づいたことや思いを子どもたち同士で話し合う機会が増えた。大人が見守り、塩梅を見ながら声を掛け、子どもたち自身で考え決められるようにした。
	次年度方向性	子ども同士の気づきや関わりを大切に見守っていく。保育者は子どもの様子を丁寧に観察し、何を必要としているのかを見極めていくようにする。
3	計画・ねらい	玩具と素材、ゾーンの充実
	実践結果	年齢に合った玩具や自然物、素材を用意したが、使い方や遊びの発展に繋がらなかったこともあった。
	次年度方向性	玩具や素材、自然物を使っての遊びを子どもが「楽しい」と感じ、魅力的に思えるような遊びを展開していく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	丸太	園庭	毎日	異常なし
2	ヤギ小屋	園庭	毎日	異常なし
3	鶏小屋	園庭	毎日	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	防災 …危機管理マニュアルに則り、消防計画、避難訓練、防災自主点検、危機管理マニュアル整備、自営消防組織と安全対策係の設定を行った。 （災害発生時にはフローチャートに従う）
2	実践結果	ケガ事故防止 …危機管理マニュアルのケガ防止策、安全点検と保全に則り、事故防止チェック及び設備点検チェック実施、安全教育、SIDS 防止策を行った。 （ケガ発生児にはフローチャートに従う）
3	実践結果	防犯 …危機管理マニュアルの不審者対策に則り、不審者侵入訓練の実施、笛の携帯、代理送迎者の把握、不審者情報の収集と共有を行った。 （ケガ発生児にはフローチャートに従う）
4	実践結果	光化学スモッグ …危機管理マニュアルの光化学スモッグ対策に則り、光化学スモッグの知

		識を身に付け、注意報発令の把握をするようにした。実際は光化学スモッグの発令なし。 （光化学スモッグ発生時対応及び行政連絡に従って対応する）

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

実習生、職場体験」の学生を積極的に受け入れた。実習生については丁寧に関わりながら「どろんこ会」の保育を伝え、保育士という仕事の魅力を伝えた。その結果、実習生がどろんこ会を希望し、入職に繋がった。次年度も積極的に実習生、職場体験の学生を受け入れていくようにする。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
6月10日 ～6月21日	仙台子ども専門学校 子ども総合学科3年生	1人	責任実習
5月27日 ～6月7日	仙台子ども専門学校 保育科	1人	観察実習
6月24日 ～7月5日	仙台子ども専門学校 保育科	1名	責任実習
6月10日 ～6月21日	宮城学院女子大学	1名	責任実習
7月8日 ～7月20日	聖和学園短期大学	1名	観察実習
7月29日 ～8月9日	聖和学園短期大学	1名	責任実習
10月21日 ～11月1日	仙台医療秘書福祉 医療保育科	1名	責任実習
10月21日 ～11月1日	仙台医療秘書福祉 医療保育科	1名	責任実習
2月17日 ～2月21日	仙台子ども専門学校 子ども総合学科	1名	観察実習

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
8月27日 ～8月29日	八軒中学校	3人
11月6日 ～11月8日	南小泉中学校	4人

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	26日 24名	24日 24名	28日 24名	26日 23名	27日 24名	27日 25名	25日 25名	22日 25名	27日 24名	19日 25名	19日 25名	21日 25名
園内研修	26日 17名	24日 17名	28日 16名	26日 15名	23日 15名	27日 16名	25日 15名	22日 16名	27日 12名	24日 13名	19日 22名	19日 23名
虐待防止研修	26日 24名						25日 25名					

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
5月20日	仙台市運営支援課	看護職員連絡会	1名	無し
5月25日	令和６年度どろんこ会キャリアアップ研修	食育・アレルギー対応	1名	無し
6月27日	令和６年度どろんこ会キャリアアップ研修	保護者支援・子育て支援	1名	無し
7月9日	令和６年度どろんこ会キャリアアップ研修	マネジメント	1名	無し
8月29日	令和６年度どろんこ会キャリアアップ研修	食育・アレルギー対応	1名	無し
10月8日	令和６年度どろんこ会キャリアアップ研修	食育・アレルギー対応	1名	無し
10月12日	令和６年度どろんこ会キャリアアップ研修	保健衛生・安全対策	1名	無し

10月16日	令和６年度どろんこ会キャリアアップ研修	保護者支援・子育て支援	1名	無し
11月27日	令和６年度どろんこ会キャリアアップ研修	マネジメント	1名	無し
1月9日	令和６年度どろんこ会キャリアアップ研修	乳児保育	1名	無し
1月16日	令和６年度どろんこ会キャリアアップ研修	保護者支援・子育て支援	2名	無し
9月24日 ～1月24日	宮城県保育士等キャリアアップ研修	マネジメント	1名	無し
9月24日 ～1月24日	宮城県保育士等キャリアアップ研修	乳児保育	2名	無し
9月24日 ～1月24日	宮城県保育士等キャリアアップ研修	保護者支援・子育て支援	2名	無し
9月24日 ～1月24日	宮城県保育士等キャリアアップ研修	保健衛生・安全対策	2名	無し
9月24日 ～1月24日	宮城県保育士等キャリアアップ研修	障害児保育	1名	無し
9月24日 ～1月24日	宮城県保育士等キャリアアップ研修	食育・アレルギー対応	1名	無し

〈３〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 1名	15日 1名	27日 1名	19日 1名	28日 1名	20日 1名	21日 1名	23日 1名	20日 1名	24日 1名	19日 1名	19日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	21日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	11月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	実施なし											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	対象者なし											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

〈5〉経験年数別の研修

新卒向けの研修を行う。気軽に話したり、なぜそうなのかをわかりやすく伝えたり、保育について感じていること、思いを話し合える場を設けたことで安心感に繋がっていた。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

地域の保育園や施設、商店街の方々と交流を図ってきたが、交流を今まで以上に深めたり、新たな施設や学校との繋がりを構築したりするまでには至らなかった。若林どろんこ保育園の名前は知られているが、どんな保育をしているのか、何を大切にしているのかをもっと知っていただくための方法や手段を考えていく。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：南小泉交通公園にて　　参加延べ人数7名
商店街ツアー	週1回　主な行き先：いちふく、村上生花、ヨークベニマル、しまむら、肉のマルハチ、旅立ち稲荷神社、宮城第一信用金庫、若林消防署河原町分署等
世代間交流	感染症が流行し、交流はできなかったが、6月、10月、3月に老人施設チアフル遠見塚に入所されている方々に手紙や手作りプレゼントを渡す。
異年齢交流	11月6日、8日　若林どろんこ保育園　中学生との交流実施 11月1日　若林小学校　小学生との交流実施
その他活動	7月13日に若林どろんこ保育園にてどろんこ祭りを開催 未就学児や地域の親子へ向けての園庭開放、ちきんえっぐ誘致、子育て支援、相談
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉　実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

発表会や幼保小連携に参加し、小学校での生活を知ることができた。幼保小では子どもの支援方法や保育園、小学校の生活を共有することで子どもへの理解も深まった。教職員と対面で話をすることで距離が縮まり、よい関係性を築くことができたため、次年度も引き続き交流を実施していく予定である。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
4月15日	若林小学校	1名	スタッフ同士交流	先方の都合で中止となる。
11月1日	若林小学校	24名	音楽学習発表会（小学校体育館）	子ども間交流
1月14日	七北田小学校	1名	学校訪問 幼保小連携	スタッフ間交流
1月17日	東四郎丸小学校	1名	学校訪問 幼保小連携	スタッフ間交流
1月23日	沖野小学校	1名	学校訪問 幼保小連携	スタッフ間交流
1月28日	若林小学校	1名	学校訪問 幼保小連携	スタッフ間交流
1月30日	南小泉小学校	1名	学校訪問 幼保小連携	スタッフ間交流
1月31日	古城小学校	1名	学校訪問 幼保小連携	スタッフ間交流
2月3日	岩沼南小学校	1名	学校訪問 幼保小連携	スタッフ間交流
2月5日	遠見塚小学校	1名	学校訪問 幼保小連携	スタッフ間交流

10.　要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

子どもの特性を理解し、配慮や支援について共有した。特別視することなく、見守りながら必要な支援ができるようにし、活動も他の子どもたちと一緒に参加し生活することで成長に繋がった。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・4～3月に計12回開催　参加者：7名

要支援児や気になる子の関わりについて毎月話し合った。成長とともに配慮することや支援の仕方が変わってくるため、様子をこまめに発信、共有してきた。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

進級時、就学時に子どもの様子を丁寧に伝え、引継ぎすることができた。就学に関しては段差が低く滑らかな接続に繋がるように情報共有をした。

11.　子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
88名	99名	86名	134名	99名	106名	91名	133名	105名	107名	80名	80名	1208名

<table>
<tr><th>実施項目</th><th colspan="13">詳細</th></tr>
<tr><td>園開放</td><td colspan="13">（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　　来園延べ人数：1195名</td></tr>
<tr><td>子育て相談</td><td colspan="13">（月）～（土）13:00～16:30　　⇒計2件相談実施済み</td></tr>
<tr><td rowspan="3">自然食堂
親子ランチ
交流</td><td colspan="13">毎週（水）10:00～12:00　　⇒計12回実施済み
参加者延べ人数</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td></tr>
<tr><td rowspan="3">どろんこ
芸術学校
どろんこ
自然学校</td><td colspan="13">毎週（水）10:00～12:00　　⇒計12回実施済み
参加者延べ人数</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>4名</td><td>4名</td><td>3名</td><td>2名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>15名</td></tr>
<tr><td>勝手籠設置</td><td colspan="13">（月）～（土）7:00～20:00　にて実施
門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置</td></tr>
<tr><td>ちきんえっぐだより</td><td colspan="13">毎月1日発行</td></tr>
</table>

青空保育（支援センター主催）	月1回　　公園名：南小泉交通公園にて　以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	1名	0名	1名	0名	0名	1名	0名	0名	0名	0名	0名	2名	5名

12.　園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２４年６月４日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：１３時００分
自己評価終了時刻：１５時００分
自己評価実施者：施設長、主任保育士及び当日出勤スタッフ

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月２５日
アンケート回収率：１００％

（省察）アンケートに答えていただけるよう、保護者一人ひとりに丁寧に声を掛けるようにした。また、アンケート回答率の進捗状況を速報で伝えるなどの工夫もした。結果、アンケート回答率１００％を達成することができた。保護者に感謝の気持ちを伝え、次年度に繋がるようにした。

13.　苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

特記事項なし

〈２〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む）　0件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：若林どろんこ保育園 施設長　門脇　篤子

２０２４年度　中目黒どろんこ保育園　事業報告書
（保育所における自己評価）

１．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

保育新時代と言われた2024年度。変化が目まぐるしい時代を幸せに生きるためにはどんな力が必要なのか、私たちは、子ども一人ひとりの力を信じ、法人の子育て理念「にんげん力。育てます」を鑑み、適切な環境の基、子どもと関わりながら “Try＆Error”を繰り返しさまざまな体験を通じて学びを深めたり発展できたりするようにしてきました。
そして、子どもが自分で選んで、自分で決めて、自分の生活を営むことができるよう、どろんこ会グループの日課・基本活動にこだわり、課題を見つけ、常によりよくするために学び・努力する過程を子どもたちと一緒に大事にしてきました。その結果、子どもたちは園目標である「聞く力」「伝える力」「考える力」「想像する力」「楽しむ力」を様々な体験をする中で、養うことができたのではないかと実感することができました。
また、どろんこ会が目指す園の姿のポイントを柱に保育内容の充実や保育の質の向上に努めました。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

１	計画・ねらい	法人理念や法人目標から落とし込まれた、保育目標に向かって、全スタッフが計画的・数量的・体系的な行動計画を持ち実践する。
	実践結果	園や個人の課題に基づいた園内研修（園長大学・保育士大学）を軸に学び続ける文化を醸成する。その上で「目指す子ども像」「園目標」に適った行動になっているのか、具体的に行動レベルで何が組織として正しくて、何が合理性に欠けるのかを全スタッフで評価した。
	次年度方向性	法人の理念や法人目標から落とし込まれた、保育目標に向かって全スタッフが学び続け、日々の保育の積み重ねを大切に保育の基本を習得していく。
２	計画・ねらい	子どもが人として生活し成長するための基本的生活習慣（生きる力）を身につける。
	実践結果	どろんこ会グループの日課・基本活動を柱に生活に減り張りを持たせ、基本的生活習慣（睡眠・食事・排泄・清潔・衣服の着脱）を子どもと学ぶ姿勢で保育者が根気強くサポートし、日々の生活の中で習慣化していくように努めた。 「早寝早起き・朝ごはん」保護者とともに、１日の生活リズムを整えていくよう、保護者様に対して働きかけた。
	次年度方向性	生活リズムが整うように朝のスタート（日課）から規則正しい生活習慣の自立へと導き、家庭と協力して子どもが主体的に活動できるようにしていく。
３	計画・ねらい	生活力の基本（社会的生活習慣）「あいさつ」がすすんでできるようにする。

	実践結果	朝の受け入れから始まり、散歩の道中、日常の生活の場面で保育者が相手にわかるように丁寧なあいさつを心掛け、挨拶運動を展開した。 相手の気持ちに気づいたり、思いやるきっかけになったりする「あいさつ」を０歳児から学ぶ機会を積極的に取り入れていった。
	次年度方向性	登園時の挨拶から子どもの一人一人の名前を丁寧に呼び挨拶することから始める。そのような具体的な対応から、丁寧な保育を進めていった。
	計画・ねらい	聞く力、伝える力、考える力を育てる
	実践結果	・保育者の聞く力が子どもの話す力・聞く力を育て、保育者が子どもの耳に届く話し方を工夫すし、聞く力が育つよう努めた。そして、保育者は子どもに有効な質問をすることで伝える力＝考える力が育つようにした。 ・保育者が子どもの気持ちを汲み取って、代弁し、子ども自身も気持ちを自覚することで、言葉で伝える姿勢を学ぶようにした。 ・絵本の読み聞かせは、自分以外を考えるきっかけとして大変有効であると考え、想像する力を養うためその時々、年齢、生活、あそび、子どもの興味関心に合わせて積極的に取り入れていった。
	次年度方向性	子どもと平等な立場の大人として、子どもたちを上から見下ろすことなく、同じ目線で対話することを心がける。また、傾聴の姿勢で子どもの言葉、表情、しぐさに進んで耳を傾け、子どもの気持ちを引き出し、共感しあう関係づくりに努める。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	明るい挨拶と丁寧な対応 （①思いやり　②誠実さ　③謙虚さ　④感謝）を忘れずおもてなしの心を込めたサービスを提供する）
	実践結果	・全スタッフが常に明るい笑顔で挨拶するとともに、一言添えるようにした。心理的安全性という、安心感と話しやすい雰囲気づくりを心掛け、保護者と協働の子育てを意識していった。 ・その子ならではの姿・育ちを具体的に伝えるお迎え対応（黄金の15秒）に取り組んだ。
	次年度方向性	・毎月の園会議等の場で、挨拶やお迎え対応など、自己評価し接遇の向上に努める。また、接遇研修やロールプレイ研修などを通してスタッフが自分の言葉遣いについて見直し、気持ちの良い挨拶を心がける。 ・その子ならではの姿、育ちを具体的に保護者様に伝えられるように職員間で子どもの姿を共有できるようにする。
2	計画・ねらい	保護者と協働の子育て①子どもの基本的生活習慣の自立を支える
	実践結果	・「生活力」は日々の生活の中ではぐくんでいくことが大切であり、規則正しい生活リズム（毎日、同じ時刻に寝たり、起きたりすることや朝ごはんを欠かさず食べる）を身につけることが、保育園で元気に過ごす活力になることを伝え、「主体的に生きる力」の土台になることをあらゆる方法を用いて知らせるようにした。 ・子ども、それぞれの保育園での生活の姿をわかりやすく知らせ、家庭での生活の姿と歩調を合わせながら、規則正しい生活リズムへと近づけていった。

	次年度方向性	基本的生活習慣の自立に向け、年齢別配慮や発達段階を見極めて、具体的な方策を、保護者様とともに考えるようにする。
3	計画・ねらい	保護者と協働の子育て②保育園づくり
	実践結果	・保護者懇談会の充実。法人の理念、中目黒どろんこ保育園の保育方針を日々の保育の姿から、目に見える姿だけでなく、その取り組みを通してどのような力が育っているのか、日々の活動にはどんなねらいがあるのかについて知らせ、「子ども主体の保育」を伝えていった。 ・保育参加の推進。保護者様が保育者として保育に参加していただくことで、「保育現場は面白い」「子どもも大人も多様性に満ちている」ことを実感していただき、また、保育者とは違った視点から保育園の運営に対し貴重なご意見を伺うようにした。 ・個人面談を推進。子ども一人ひとりの置かれている状況や特性に合わせて、柔軟に対応し、子どもの生活の場として相応しい充実した保育を展開するため、保護者の意見のお聞きしながら協働的保育を進めるようにした。
	次年度方向性	全家庭を目標とした保育参加の推進。保護者が保育者として保育に参加していただくことで、さらに協働の子育てを推進していく。 また、子育て相談、保護者個人面談を積極的に進めていく。
4	計画・ねらい	保護者同士つながりを紡ぐ
	実践結果	保護者同士の交流・親睦を深めるため、保護者懇談会での懇談の場、園の行事に関わっていただく機会（行事のお手伝い）を提供し、保護者様同士のつながりを深めていただくように努めた。 そうした中で、子育て世代同士が交流し、子育ての問題を気軽に話し合い保護者様が孤立することなく、みんなの励ましと知恵を受けられる場所となるよう、子育てコミュニティを作るよう心掛けた。
	次年度方向性	2024年度同様、保護者様同士が知り合い、つなぐ場の提供に努める。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域子育て拠点として、交流の場となる保育園を構築する
	実践結果	保育所保育指針「地域に開かれた子育て支援」及び「東京都の保育所地域子育て支援」を鑑み、保育所の役割や機能を達成するために地域のニーズを把握し地域の資源として保育園を利用できるように心がけた。そのために、関係機関や各団体の機能や連絡方法を体系的に明示し、その情報が全スタッフ間で共有されるようにした。
	次年度方向性	関係機関や各団体の機能や連絡方法を体系的に明示し、その情報が全スタッフに共有されるようにする。
2	計画・ねらい	地域に開かれた保育園「ちきんえっぐ」の認知度を高め、活用を進める。
	実践結果	商業施設や公的機関を含め地域の子育て家庭に、「ちきんえっぐだより」やチラシの配布を積極的に行い、広報活動に力を注いだ。また、散歩先の公園で出会った親子にも積極的に言葉を交わし、興味を持っていただくようにした。
	次年度方向性	地域に開かれた保育園として積極的に広報活動を展開し、目に見える形で保育園の姿をご理解いただくようにちきんえっぐだよりやチラシを作成し

		ていく。
3	計画・ねらい	青空保育の充実
	実践結果	青空保育の内容がマンネリ化しないように、担当保育士だけでなくそれぞれのスタッフの個性が生かされるような取り組みを展開した。その際、参加している親子に対して、この地域に中目黒どろんこ保育園があり、子育て支援室「ちきんえっぐ」の存在を知らせ、利用をお勧めした。
	次年度方向性	地域子育て支援、つむぎ池尻ルーム（インクルーシブ保育）と連動し、青空保育に参加された保護者に対してちきんえっぐでの活動を知らせていく機会としていく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	子どもの姿ベースの指導計画の作成
	実践結果	・「子ども主体の保育」を目指して、全体的な計画から年間指導計画、そして月案、週日案へと落とし込む工程の中で、子どもたちの素朴な興味や関心、小さな発見やつぶやきを捉えながら、次の日の、また次の週の保育の展開を構想してゆけるよう、毎週の週会議で話し合い、保育者の育成に努めた。 ・養護と教育の一体化について学びを深め、計画に反映し、子どもの姿に照らし合わせ、評価していった。 ・やりっぱなしの保育から脱却するため、PDCA の取り組みを週会議の場で行ない、仲間とともにキャリアップを図るようにした。
	次年度方向性	子どもの姿から落とし込んでいく保育計画になるよう、スタッフ間で子どもの様子について話し合える機会を多く持つようにする。
2	計画・ねらい	どろんこ会グループの日課・基本活動に対して全スタッフがその意味、根拠を示すことができ、中目黒どろんこ保育園の課題を明らかにし、深め、実践できる人材の育成
	実践結果	・園内研修で学び、小グループで話し合い課題の抽出し、課題解決の手立てを考察して実践した。年間指導計画の省察と共に振返り、検証した。
	次年度方向性	日課・基本活動を規則正しい生活リズムの確立を目指し、デイリープログラムの見直しと評価を継続する。
3	計画・ねらい	子どもの姿を捉え、3本の柱、5領域、10の姿の重要性を追求していく。 子どもの資質・能力を育むことで、「生きる力」の土台を培う。
	実践結果	10の姿について学び、子ども育ちを具体的な事例から見取り、子ども理解を進め、子どもの育ちを保証できる人材の育成に努めた。
	次年度方向性	保育所保育指針を根本に、子どもの育ちの事例から10の姿を捉え、子ども理解を深めていく。
4	計画・ねらい	スタッフの接遇・ビジネスマナーの向上及びコミュニケーション能力を養う。
	実践予定内容	コンピテシーの活用、接遇研修の開催と合わせ、実際の園の事例をスタッフ全員で考える機会を設けた。
	次年度方向性	園会議の場において、スタッフ一人一人の課題から園の目標を定め、スタッフが同じ方向に照準を合わせて、取り組んでいく。

5	計画・ねらい	保育目標実現を目指して、スタッフが主体的に行動計画を明確にする。
	実践予定内容	・スタッフ一人ひとりが課題を抽出し、保育目標を実現するためには何をすべきかを明確にし、進捗状況を確認しあった。 ・スタッフ一人ひとりの MBO の実践を確実なものにしていくため、施設長、主任、リーダーはこまめな個人面談などを通してモチベーション管理をするよう努めた。
	次年度方向性	施設長、主任、リーダーはそれぞれ、こまめな個人面談などを通してスタッフの各目標を明確にし、進捗を図る。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	給食残渣を減らすことで廃棄にかかる環境負荷を減らし、食べ物を大切にする。
	実践結果	子どもの規則正しい生活リズムを家庭と協力して、日々思いっきり体を動かし、「お腹のすくリズム」で給食を食べ、給食残渣を減らしていよう努めた。
	次年度方向性	午前中の活動の目的をもって計画し、身体を動かすことが大好きになる仕組みづくりを確立していく。
2	計画・ねらい	調理くずの有効利用や給食残渣・ヤギの糞によるたい肥作りをし、循環型のエコサイクルを知らせていく。
	実践結果	バケツコンポストやヤギのお世話をすることで、畑やプランターに撒くたい肥を作り、栽培に役立てた。収穫した野菜をクッキングしたり、生育について調べたりして、食の循環を知らせていった。
	次年度方向性	子どもと共に残食量の量を図ったり、コンポストで肥料を作り、野菜作りに活用したりするなど、ＳＤＧｓの取り組みを推進する。
3	計画・ねらい	どろんこ会グループの3大食育方針の追求することで環境を考える
	実践結果	食育3大方針の「調理・保育士・施設長は子どもと一緒に食べる」、「噛む力を育て、素材を味わえる状態で提供」、「子どもが自分たちで盛り付け・配膳して食べる」を実践していった。
	次年度方向性	全スタッフは子どもと一緒に食べ、咀嚼力や味覚を育てるためにもひとり一人を観察し、子どもの姿を的確にとらえ、手立てを検討していく。 そうした取り組みにより、結果的に給食残渣を減らす取り組みとなるように取り組んでいく。

〈6〉自律した保育園運営（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

1	計画・ねらい	スタッフ一人一人が事業計画・年間スケジュールで約束したことを達成するため、責任をもって取り組む
	実践結果	事業計画・年間スケジュールで約束したことを達成するためスタッフ一人一人が「あなたはどうするか」主体性に考え、学び、動き、MBO のアクションプランを着実に実行できるようにした

	次年度方向性	運営部 mission、事業計画、スタッフ一人一人の MBO に落とし込めるように目標を定められるように園長・主任が面談をし、その後も着実に目標達成できるように進捗状況を確認していく。
2	計画・ねらい	主任・各リーダーが保育現場の牽引者として、PDCA を実施。保育の質の向上に努める。
	実践結果	リーダー会議を適宜行い、課題の抽出、改善について検討する。 ・保育の連続性を担保するため PDCA サイクルを日常化、週会議・クラス会議等で保育 Wev やデザインマップなどを活用して、その時々に有効な打ち合わせの中で検証し、保育の質の向上に努める。
	次年度方向性	日々の業務に流されないように PDCA サイクルを着実に実施していく。
3	計画・ねらい	意見が出しやすい雰囲気づくりと子どものことが常に話題になる職員集団を構築する。
	実践結果	・毎日、各クラス、給食、用務・事務職ごとに5分から10分間の振り返りの時間をもつ。 ・施設長は職員に対して指導よりも支援を重視し、施設長はトップダウンではなくスーパーサポーターとして下支えをする。 ・ボトムアップを図り、各園会議では批判をしない、まずは受け入れる姿勢を基本として、若手職員や給食や用務・事務職など、意見を言いやすい雰囲気と仕組みづくりに着手する。
	次年度方向性	ブレーンストーミング手法を用いて、誰しもが意見を言いやすい集団作りを実行していく。
4	計画・ねらい	スタッフ一人一人が内部監査の確認ポイントを理解し、実践することで質の高い保育を提供する保育園となり、選ばれる保育園を構築する。
	実践予定内容	内部監査の確認ポイントを学習し、PDCA サイクルで自主的運営を目指す。そのために、スタッフがチームとなって園運営にかかわり、園会議の場で振り返り、アクションプランを立てていく。
	次年度方向性	内部監査を他人ごとにせず、自分事としてとらえることができるように、役割分担を明確にしていく。

〈7〉子どもの人権に配慮した丁寧な保育の実践（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

1	計画・ねらい	丁寧な保育の基本を徹底する
	実践結果	・子どもには常に笑顔で「大丈夫」「先生がいるよ」というメッセージを送り、子どもが自由に活動を展開できるようにする。 ・0歳児であっても、いきなり抱き上げたり、交換条件を出したり、全ての子どもに対して傷つけしまう言葉遣いや態度は示さない。
	次年度方向性	スタッフ間で互いの言葉かけや保育態度に対して、率直に意見を出し合い、成長しあえる関係づくりの構築に努める。
2	計画・ねらい	応答的な対話で子どもの意見が尊重され、発達に応じて考慮される
	実践結果	・対話の主導権は子どもに委ね、子どもの興味に沿って対話を重ね、言葉を引き出していく。 ・子どもの主体性を育てるため、むやみやたらに話しかけるのではなく、話かけて欲しそうなときに、話して欲しがっていることを推察して対話す

		る。
	次年度方向性	「主導権を子どもにゆだねる」という保育者側の意識をもって、子どもと対話をすることを、スタッフ全員で確認しあい進めていく。
3	計画・ねらい	スタッフに見守られながら、安心して未知の状況にあっても自分で考え、選択し、表現する力を養う
	実践結果	「ダメと言わない」保育の実践
	次年度方向性	「ダメと言わない」保育について、事例検討しながら、保育者の保育力を高めていく。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半：4~9月	52人	58人	72人	78人	78人	75人	413人
年度後半：10~3月	54人	60人	72人	78人	78人	78人	420人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	563人	601人	637人	676人	476人	587人	643人	592人	575人	520人	550人	600人	7020人
うち0歳児	26人	50人	72人	83人	60人	68人	91人	64人	64人	56人	60人	30人	724人

（解説）年々、０歳児の利用が増加、突発的な利用も増加している。

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	42人	37人	35人	38人	37人	36人	43人	38人	39人	0人	0人	0人	345人
うち0歳児	7人	11人	12人	6人	8人	10人	19人	14人	20人	0人	0人	0人	107人

（解説）４月～１２月まで毎日２名枠がほぼ埋まり、０．１歳児の利用者が多く、教育施設が長期休み

になると幼児クラスの利用者が増加する傾向にあった。1月～3月は一時保育担当保士配置が配置できず、一時保育は中止となった。

〈2〉開所時間

7時００分～２０時３０分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

常勤 スタッフ	保育士	14人	看護師	２人	栄養士	４人	調理員等	０人
パート スタッフ	保育士	3人	補助	１人	事務	１人	用務	１人
	嘱託医	２人						

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・児童処遇改善検討 ・園として取り組むべき課題討議及び研修
給食運営会議	月1回	運営部ミッションに則り、園の課題を協議、食育計画の振り返り
事故防止委員会	月1回	園内外におけるヒヤリハットやインシデント事例に鑑み、事故予防と防止の具体的施策に係る検討
ケース会議	月１回	支援が必要な配慮児の発達状況把握、支援計画の作成を行う
クラス会議	週１回	指導計画、子どもの状況把握、各情報の共有と意思統一行事の確認

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ

施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
食育会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長・看護師
主任・ 児童発達支援管理責任者会議	年4回(4.10.7.1月)	主任・児童発達管理責任者
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	園児保健衛生管理、安全管理、環境衛生管理などを行った。
安全対策係	避難訓練実行及び検証、環境安全整備、危機管理などを行った。
防火管理者	施設の火元の管理、消防計画の作成と届出、防火、消火についての毎月1回の職員訓練と日常的な啓蒙を行った。
食品衛生管理係	食品の安全に関わる管理や啓発、衛生点検などを行った。
畑係	畑状況の管理、道具類の維持補充、乳幼児や職員の畑活動の把握や課題検討におけるイニシアチブをとった。
生き物係	飼育動物の健康管理、動物小屋の維持管理、乳幼児や職員の生き物飼育活動の把握や課題検討におけるイニシアチブをとる。 植木や植え込み園庭状態の管理、把握や課題検討におけるイニシアチブをとった。

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	どろんこサポーターズの企画・検討・運営のサポートを行う。

4. 保育支援

〈1〉保育･保育参加･保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	・登園渋りについて ・離乳食及び偏食について ・トイレトレーニングについて ・友だち関係について ・情動のコントロール ・言語発達について
保育参加	4～3月まで　合計9名　が参加済み　　（3月1日時点） ・日頃の様子が見られてよかった・給食が子どものためによく考えられていた
保護者面談および発達相談	4～3月まで　合計21名　が参加済み　　（3月1日時点） ・支援児の前期、後期のねらいについて ・トイレトレーニングについて ・支援児の前期、後期のねらいについて ・友だちとのかかわり ・小学校との接続について

〈2〉計画した年間行事の振返り

・別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	一人一人の口腔発達を理解し発達に合わせた支援をする
	実践結果	子どもたちの現状を把握するためにチェックシートを作り、口腔の発達がどの段階であるか全クラス調査した。見える化したことで、調理だけでなく保育士も意識して取り組めた。また、かみかみメニューの実施やあいうべー体操を食事前に行った。
	次年度方向性	口腔状態のチェックシートや、かみかみメニュー、あいうべー体操の実施を定期的に行い、見える化で保育士とともに発達の支援を促す。 口腔状態や咀嚼が不安な子どもに対しては、食事の様子を積極的に見に行き、臨機応変対応していく。
2	計画・ねらい	食べたいもの・好きなものが増える子ども
	実践結果	五感を使えるよう、食材の出来上がりの硬さを調節して適した形で調理した。配膳はバイキング形式で行い、皿も大きいものを用意し、盛り付けが楽しくなるよう心掛けた。 食べず嫌いへの対応として、舐めてみる、触ってみる、味の感想を伝えることで、食材や味を知り徐々に苦手意識があった子も食べられるようになった。
	次年度方向性	食に対して苦手意識や関心が少ない子どもに対して、感覚的要因（五感）・環境的要因（バイキング、声掛け）を意識する。

3	計画・ねらい	食事づくり・準備に関わる子どもに
	実践結果	乳児には朝の時間に野菜の下処理を積極的に行い、日常の中で触れることで給食への関心が高まった。 幼児には配膳の際に、自分が食べられるだけの量を自分で理解できるようスタッフが声をかけながら行い、残食の低下に繋がった。
	次年度方向性	食育活動から子どもが自ら準備から後片付けまでの食事作りに関わることで、満足感・達成感を通して食の自立へと繋げる。
4	計画・ねらい	食生活や健康に主体的に関わり、食べることを会話する子ども
	実践結果	食育活動で調理の過程に携わり、絵本等の導入で知識を得たことで、作り手への感謝や日々の食事への興味・関心が高まった。 SDGｓの観点では、調理くず（下処理で廃棄になる部分）をコンポストやヤギの餌として使用した。その際に子どもと一緒に行い、持続的・継続的な保育に取り組むことが出来た。
	次年度方向性	食育活動から食育の５つの力を養い、食事を通して心と身体の健康維持や食事の重要性や楽しさの理解を育む。
5	計画・ねらい	自分の体に関心を持つ
	実践結果	かみかみメニューやあいうべー体操から咀嚼や口腔への意識、箸の使い方の定期的な声掛けを積極的に行い、できるようになると自ら伝えてくれる子どもが増加。 ポップや掲示物を使用したことで食事を味覚・嗅覚だけではなく、視覚的にも関心が高い様子が見られた。 また、食育活動の導入から食と健康の関りを知り、スタッフへ内容に関係する発言が増加した。
	次年度方向性	咀嚼機能や手指の運動機能の発達に伴い、食事に合った食べ方や食具の使い方を身に着けられるよう積極的にサポートを行う。
6	計画・ねらい	一緒に食べたい人がいる子ども
	実践結果	スタッフは子どもと一緒に食事し、食事を楽しい時間になるよう心掛けた。また子どもから一緒に食べようという声が多くあり、食事の感想を伝え合う様子も見られた。
	次年度方向性	スタッフと子どもが一緒に食事を行い（共食）、食事に対して共感・共有を得る中で、社会性発達や食欲増進を促す。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月25日／11月20日に実施（0歳児あわ組は毎月実施）
歯科検診	6月20日／11月28日に自園にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施

スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 4月9日に自園にて親子ふれあいマッサージを実施 ② 4月11日に自園にて歯磨き指導を実施 ③ 10月23日に自園にて体の仕組みを知る教室を実施 ④ 11月28日に自園にて歯科医師指導のもと歯磨き教室を実施 ⑤ 1月9日に自園にて咳エチケット教室を実施
流行した感染症	12月にインフルエンザ、園児3名・スタッフ2名が感染するなど、季節ごとの感染症の報告が数件ずつ上がったものの、大きな流行はなく、いずれもすぐに収束した。
発作・痙攣等の対応	3月21日に全スタッフで熱性けいれん時の対応確認とダイアップ挿入のロールプレイを行った。ダイアップの使用、救急車要請はなかった。
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月21日に自園にてエピペン研修を全スタッフが受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ25名のうち、20名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	・8月10日に自園にて上級救命講習を荻野凛、高橋花衣、石井香帆計3名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ25名のうち、半数以上が使用可能
その他保健に関する取組	日々の手洗いや歯磨きなど健康に関わる生活習慣について子どもたちに適宜指導を行った。また全国共通清掃チェック表に沿って消毒や環境整備を行った。 また、目黒区の医療的ケア児報告会にて当園の医療的ケア児の生活と保育園での取り組みについて報告を行った。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回/15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（法定1回/3年）	業者による対象物の法定点検 2023年実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施

衛生管理	衛生管理点検表/毎日	毎日実施
	衛生管理点検表/毎週	毎週金曜日実施
	衛生管理点検表/毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿/毎日	毎日実施
健康管理	予防接種状況･既往歴の確認/保険証期限確認	年2回/4･10月 ⇒4月第2週、10月第3週に実施済み
	身長体重測定	毎月1回/20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回/6月25日、11月20日 歯科健診 各年2回/6月20日、11月28日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回/4･10月の園会議時 ⇒4月12日、10月4日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回/園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	「自分で考え、自分で行動する」「自ら行動する力を育てるとともに、他の子どもと試行錯誤しながら活動を展開する」を基本とし、室内・室外ともに子どもが自発的に関われる環境設定に努める。
	実践結果	・子どもの興味関心、意欲をから道具や材料などを用意し、週会議やクラス会議において、発達にあっているのかなど検証していく。 ・異年齢児が混ざり合う中で、発達の差を考慮した環境設定になっているか、子どもが遊びこんでいるか等、保育 Wev などを用いて考察し改善していく。
	次年度方向性	環境と共に育つ子どもたちの姿をスタッフ間で共有し、遊びこめる環境設定を意識した見直しを行っていく。
2	計画・ねらい	ゾーン保育や玩具の安全性を常に確認しながら、子どもの興味関心に合わせ、マンネリ化を防ぎ、遊びを豊かにしていく。
	実践結果	玩具の破損や材料の安全性を常に確認しながら、子どもが遊びこめる環境を作っていく。
	次年度方向性	保育計画をもとに子どもの姿から遊びこめる環境をスタッフ間で共有し、定期的に見直ししていく。
3	計画・ねらい	保育中の安全対策や衛生管理など職員の共通理解できる体制を整え強化する。
	実践結果	・危ないから排除するのではなく、安全性を確認し維持していくことを考えていくことを基本とする。子どもたちの発達、個性、心身の状態に合った環境設定を仕掛けていく。

		・睡眠中、プール活動中、水遊び中、散歩中、食事中、歯磨き中などの場面では命にかかわる重大事故が発生しやすいこと踏まえ、子どもの主体性、自主性を大切にしつつ、室内外の環境に配慮し、チーム保育に努めながら、職員同士の連携を強化していく。 ・玩具や園児の持ち物などは衛生管理に注意し清潔に保つようにする。 ・事故防止チェック、設備点検などを確実に行い不備が認められた時には速やかに対応し、職員周知する。
	次年度方向性	安全対策・衛生管理について全スタッフが知識を高め、安全・衛生を担保する仕組みを確立していく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
ｌ	ヤギ小屋	園庭	毎日	異常なし
2	配膳台	幼児室	毎日	異常なし
3	平均台(大・中・小)	遊戯室	毎日	異常なし
4	ヤギ休憩台	園庭	毎日	異常なし
5	キーボード台	幼児室	毎日	異常なし
6	パーティション	屋上	毎日	異常なし

5．危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ

ｌ	実践結果	厚生労働省、法人の運営マニュアル・保育品質マニュアル、自治体条例・規則に基づいて的確に行動する
2	実践結果	防災対策 災害や事故の発生に備え、危険個所の点検や毎月消防計画に基づいた避難訓練や初夏訓練の実施。また、施設長を中心に日頃から「連絡体制の周知」と「行政等関係各所との連携」を行い、災害発生時に各スタッフが迅速かつ適切な対応を取り、子どもの安全を確保できる体制を整える。
3	実践結果	ケガ事故防止対策 ・保育中の事故防止のため、子どもの心身の状態等を踏まえつつ保育所内外の安全点検に努め施設長はケガ事故発生時対応フローチャートを全スタッフに周知する。フローチャートは更衣室・職員室に掲示し、全スタッフはいつでも対応できる状態にしておく。 ・ケガ、事故発生時または「ケガに至らなかったが、一歩間違えたらケガをしたであろう」という場合の記録（ヒヤリハット）を作成し、報告・共有の上、時系列で検証、分析し今後同じような怪我・事故の発生を防ぐ。
4	実践結果	防犯対策 定期的な不審者侵入対策の他、日々の不審者対策として、 ｌ．笛の携帯 ２．代理送迎者登　録の更新及び代理送迎者の身分証明書の確認。

		３．不審者情報の収集（各関係機関と連携　を取り）不審者情報を随時収集する。適宣、文書やメールでの共有・防犯速報の玄関への掲示等を行う。
5	実践結果	光化学スモック対策 「光化学スモック注意報」が発令された場合、予報・注意報・警報・重大緊急方に従って、園児、スタッフの安全を確保する。
6	実践結果	熱中症対策 正しい水分補給を理解した上で、子どもたちが自ら水分補給ができる環境設定をする。天候によっては戸外活動を控える。
7	実践結果	有事の際は、地域と連携し地域防災マップに則り、園児、スタッフの安全を確保する。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

〈2〉保育園は社会資源であり、地域研修の場として、実習生・職場体験等を受け入れる責任があります。そのため、地域におけるボランティアの養成と共に、次世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材を育成するために、当園では中学生の職業体験や保育士養成校の保育園見学、保育体験、保育実習等様々な形で受け入れてきました。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
8月13～９月5日	日本児童教育専門学校	1人	責任実習
1月14～29日	和泉短期大学	1人	観察実習
２月3～7日	東京家政学院大学現代生活部　食物学科	２名	調理実習

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
6月18～20日	目黒区立東山中学校	4人
6月25～27日	目黒区立大鳥中学校	4人
8月6日	広尾学園高等学校	1人
8月8日	捜真女学校高等学部	1人
8月15～16日	品川エトワール女子高等学校	1人

8月19日	広尾学園高等学校	1人
8月23日	目黒区立大鳥中学校	1人

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	12日 20名	9日 23名	7日 22名	5日 22名	7日 21名	6日 21名	4日 19名	8日 20名	6日 22名	10日 20名	20日 16名	19日 16名
園内研修	12日 20名	9日 23名	7日 22名	5日 22名	7日 21名	6日 21名	4日 19名	8日 20名	6日 22名	10日 20名	20日 16名	19日 16名

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
11月9～10日	社会福祉法人どろんこ会	キャリアアップ・食育アレルギー対応研修	1名	無
3月7～8日	社会福祉法人どろんこ会	キャリアアップ・幼児教育	2名	無
6月22～23日	社会福祉法人どろんこ会	キャリアアップ・食育アレルギー対応	4名	無
1 月 23 日	絆友会	キャリアアップ・障害児保育	1名	無
1 月 24 日	絆友会	キャリアアップ・幼児教育	1名	無
2 月 27 日	保育ラボ	キャリアアップ・保健衛生、安全対策	1 名	無

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月

業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	20日 1名	19日 1名
全社員研修	9月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

法人の理念おける保育方針の「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」にある通り、園外に出かけ近隣住民や身近な人と様々なかかわりを経験し、子どもたち一人ひとりが地域に愛あされる存在になるよう計画し実践した。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：なべころ坂緑地公園にて
商店街ツアー	週1回　主な行き先：sakanabacca、祐天寺駅、中目黒駅前図書館、ペットのコジマ、田村商店、祐天寺、まいばすけっと、東急ストア、ナンか堂、ヤマト運輸、クリーニング24等
世代間交流	2月3日に中目黒ホームにて節分を実施
異年齢交流	2月6日に烏森小学校にて小学生体験を実施
その他活動	10月17日になべころ坂緑地公園にてクリーン大作戦を実施
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉　実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

子どもの発達の連続性を見据えたうえで、保育所における保育が行われていること、子どもたちの生活が小学校へつながるものとして、就学を見通した保育がどのように行われているのか小学校と連携できるように働きかけた。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
12月7日	中目黒小学校 1学年	2名	中目黒小学校発表会 (中目黒小体育館)	職員間交流
2月6日	烏森小学校 1年学年	10名	1年生の授業体験 （烏森小教室）	子ども間交流
2月7日	下目黒小学校 全学年	10名	作品展 （中目黒小教室　）	子ども間交流
2月28日	中目黒小学校 全学年	10名	作品展（中目黒小教室）	子ども間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

特別な支援が必要な乳幼児については、個別保育計画を作成し、家族や関係機関と連携しながら、計画的かつ継続的にひとり一人に応じた保育内容や配慮を実践した。毎月の個別ケース検討を実施し、園全体での共通理解を図った。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・４～３月に計12回開催　参加者：7名
　・医療機関や専門機関による療育方針・方法を共有した。
　・保育所の保育者全体に対しても障害児保育への正しい知識が持てるように配慮した。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

支援が必要な乳幼児については、個別保育計画を作成し、家族や関係機関と連携しながら、計画的かつ継続的にひとり一人に応じた保育内容や配慮を実践した。毎月の個別ケース検討を実施し、園全体での共通理解を図った。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
19名	23名	48名	101名	29名	55名	84名	64名	39名	48名	10名	30名	531名

実施項目	詳細												
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　　来園延べ人数15名												
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　⇒計94件相談実施済み												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計2回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	2名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	2名	0名	0名	0名	4名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計0回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00　にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっぐだより	毎月1日発行												
青空保育 （支援センター主催）	月1回　　公園名：なべころ坂緑地公園にて　以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	2名	10名	4名	0名	0名	0名	1名	10名	27名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２４年１０月１日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：13時30分
自己評価終了時刻：14時30分
自己評価実施者：施設長、主任保育士、保育士、栄養士、看護師

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月２５日
アンケート回収率：100%

（省察）回答率が昨年65%から100%となり、保育園運営に興味と関心を持っていただける保護者様が増えたことが、園として大きく前進出来たことであった。課題として「伝達と共有」が挙げられる。基本的に保護者様と子どもを真ん中にして情報を共有し、子育てをともにするパートナーとしての体制構築が求められる。2025年度はこの課題に対してスタッフがチームとなって、全力で取り組んでいくこととする。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む）　0件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：中目黒どろんこ保育園 施設長　中村 利江

２０２４年度　船橋どろんこ保育園分園　事業報告書
（保育所における自己評価）

１．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

船橋市は千葉県で千葉市に次ぐ人口2番目の市であり、都心に通勤する保護者も多い市の中心部に位置する保育園として、整備された都会的な雰囲気と人口の多い雑踏の中で以下のどろんこ会の基本方針をもって子どもたちを育み成長を見守る事を進められた。

子育て理念『にんげん力。育てます。』
子育て目標『センス・オブ・ワンダー』
『人対人コミュニケーション』

生活・遊び・労働を教えあう保育園生活を実践していく事を意識していった。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

１	計画・ねらい	プロジェクト保育・年間を通じてテーマ設定に沿って保育を進める。
	実践結果	策定会議で決定した担当保育者のテーマに沿って様々な活動を進めていく事が個人差はあるものの実践された。
	次年度方向性	プロジェクト保育の内容を偏りのないように計画的に進めていく。
２	計画・ねらい	食育の充実・食育活動、畑作業、調理、廃棄物の活用の循環を意識する
	実践結果	畑にて野菜の生産をし、下拵え、クッキング、食の循環を学ぶ事が進められたが、畑の作物が計画通りには出来ていなかった。
	次年度方向性	実践可能な内容を計画し、計画通りに進められるようにする。
３	計画・ねらい	環境整備・心地の良い居場所づくり。
	実践結果	各担当を中心に整理整頓・元に戻す・必要なものをきれいに設置することがなかなか出来なかった。
	次年度方向性	監査前のみではなく、日常的に整理整頓が習慣化できるような工夫を考えて進めていく。

〈２〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

１	計画・ねらい	保護者の立場の理解・〈思いやり〉をもって個々に必要と思われる部分の援助
	実践結果	保護者の勤務・生活状況を把握し、必要に応じて子育てのアドバイスを進める。シッターノートやチャットの活用で情報の共有を進めた。

	次年度方向性	保護者の情報共有の強化。知らなかったという事の撲滅。
2	計画・ねらい	日々の成長を〈誠実〉に伝え共有する・児童の成長を共に喜ぶ。
	実践結果	朝の受け入れ、連絡帳、タイムライン、お迎え対応を通じて〈謙虚〉に〈感謝〉を忘れず、コミュニケーションを進めた。
	次年度方向性	保護者に対する畏敬の念を常に意識し丁寧な対応を持続する。
3	計画・ねらい	保育参加・保護者懇親会・行事への参加・保護者面談を通じて保育園を親子で親しむ。
	実践結果	保育方針に共鳴してくださる保護者への園生活への参加を進める。保護者の個人面談の設定。
	次年度方向性	保護者の思いを察し、保護者と共に児童に寄り添う思いをしっかりとお伝いしていく。

〈3〉地域の子育て支援事業

Ｉ	計画・ねらい	子育て支援室(本園)の活用・地域の子育て家庭の安心安全な居場所となる。
	実践結果	定期的なイベント(子育て相談・誕生会・保健衛生)の実施は保育園見学においての子育てアドバイスにとどまってしまった。
	次年度方向性	子育て支援室(本園)の活性化、園行事へのお誘いの強化。
2	計画・ねらい	青空保育の活性化・地域へのアピール
	実践結果	月Ｉ回の近隣公園での青空保育の実施は出来たが、その予告と実践時の招集活動の促進はなかなか進められなかった。
	次年度方向性	毎月の定着行事として地域へ広報強化。
3	計画・ねらい	地域の商店や施設訪問・地域の保育園として親しまれる。
	実践結果	老人施設・公民館・商店への挨拶は実施出来たが、訪問については先方の状況により対応が困難なケースもあった。
	次年度方向性	老人施設については月Ｉ回の訪問が定着しているので継続していく。そのほかの施設のついても定期的に訪問できるように計画を進める。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

Ｉ	計画・ねらい	子どもの人権・虐待防止の基本を理解する。

	実践結果	研修の実施。情報の共有。具体的な事例を知り理解を深める事は出来ている。
	次年度方向性	虐待について認識は出来ていても他の人の行為を注意することが進められていないので共同責任という意識を高めていく。
2	計画・ねらい	大人の人間力を育てる。一人ひとりの特技を磨く。
	実践結果	自分の得意を極める。自分自身の生きる力を強める事は個人差があるものの徐々に進められてきた。
	次年度方向性	個人個人の得意を認め合い、実践できるように日々の保育にも具体的に取り入れていく。
3	計画・ねらい	園事業計画を具現化する。自分の園の意識を高める。
	実践結果	事業計画に沿って、日々の保育内容の見直し、振り返り、ブログ、エピソード記録などで保育内容の発信をしていく事は、生活発表会で集大成として具現化出来た。
	次年度方向性	大きな行事(どろんこ祭り・運動会・生活発表会)を目標及び節目としてステップアップしていけるように持続、継続していく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	環境整備・施設の美しさを保つ・自信をもっての見学案内が出来る。
	実践予定内容	日常清掃・整理整頓の徹底・五感を働かせ保育環境を整える。
	次年度方向性	環境整備の継続
2	計画・ねらい	人対人コミュニケーション・気持ちの良い挨拶の徹底
	実践予定内容	大人が子どもの手本となる。笑顔を絶やさずコミュニケーション力を高める実践。
	次年度方向性	人対人コミュニケーションの継続
3	計画・ねらい	協調性・平等性の意識を持つ。子どもにも伝えられる。
	実践予定内容	雰囲気を感じる力・今、相手が何を感じているか察知し対応する力を育てる。
	次年度方向性	協調性・平等性の意識の継続

〈6〉子どもも大人も笑顔で穏やかな時間を過ごせる大きなお家

1	計画・ねらい	笑顔があふれ穏やかな居場所となる。常に前向きな思考をする。
	実践結果	朝の受け入れから、笑顔を絶やさず、子どもたちの姿を全員で把握できているように情報共有を進められた。
	次年度方向性	児童や保育者、保護者について良いところ探しをし、常に前向きに明るい話題を絶やさないように生活を進めていく。
2	計画・ねらい	率先して動く。気づきに敏感な感性の育成。
	実践結果	自分に割り振られた担当を熟したうえで、周囲の状況も読み取れるような経験を重ねる。コンピテンシーの活用による振り返りの実践。
	次年度方向性	気付きの力、俯瞰能力を高める研修も考え取り入れていく。
3	計画・ねらい	人間力を身に付ける。平等性・情報の共有。
	実践結果	様々な研修を意欲的に受講し、広い視野を持ち、客観的に自分を見ることができる人材の育成。
	次年度方向性	園長大学、保育士大学の視聴を共有し、日々の保育や生活に活かせるように話し合う時間を作っていく。

〈7〉有言実行

1	計画・ねらい	環境整備・施設の美しさを保つ・自信をもっての見学案内が出来る。
	実践結果	日常清掃・整理整頓の徹底・五感を働かせ保育環境を整える努力を継続した。
	次年度方向性	見学案内をすべての職員が対応できるように進めていく。
2	計画・ねらい	人対人コミュニケーション・気持ちの良い挨拶の徹底
	実践結果	大人が子どもの手本となる。笑顔を絶やさずコミュニケーション力を高める実践。
	次年度方向性	挨拶の徹底。立ち止まり姿勢を正し丁寧に挨拶を実施する。
3	計画・ねらい	協調性・平等性の意識を持つ。子どもにも伝えられる。
	実践結果	雰囲気を感じる力・今、相手が何を感じているか察知し対応する力を育てる事を意識して進められた。
	次年度方向性	気付きの足りないと感じた時にはそのままにせずに感情的にならず穏やかに伝える工夫を進める。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	合計
年度前半：4~9月	24人	72人	72人	168人
年度後半：10~3月	36人	72人	72人	180人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	45人	53人	52人	53人	41人	52人	82人	66人	70人	60人	65人	60人	699人
うち0歳児	0人	0人	0人	0人	0人	19人	35人	34人	35人	21人	28人	30人	202人

（解説）

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
うち0歳児	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人

（解説）一時保育は実施なし。

〈2〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　（３月１日時点）

常勤スタッフ	保育士	6人	調理員(栄養士)	1人		
	施設長(本園兼務)	1人	主任(本園兼務)	1人	事務(本園兼務)	1人

パート スタッフ	保育士	3人				

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・情報共有 ・各行事の打ち合わせの実施
給食運営会議	月1回	給食の振り返り・食育の振り返りも実施した。
事故防止委員会	月1回	安全確認・事故記録、ヒヤリハット、インシデント振り返りを行った。
ケース会議	月1回	支援の必要な児童についての話し合いを実施した。
リーダー会議	週1回	日常の保育の振り返り、見通しを考え話し合った。

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
食育会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長
主任会議	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	衛生管理の確認
安全対策係	安全対策の確認
防火管理者	消防計画の作成・避難訓練の実施、確認
食品衛生管理係	給食の安全管理
畑係	作物の定期的な作付け・見守り・収穫など
生き物係	生き物の世話

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	どろんこ祭りの計画と実施
市民フェスティバル係	実施なし

4. 保育支援

〈1〉保育･保育参加･保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育参加	4～3月まで　合計6名　が参加済み　　（3月1日時点） ・
保護者面談および発達相談	4～3月まで　合計3名　が参加済み　　（3月1日時点） ・

〈2〉計画した年間行事の振返り

・別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	子どもたちの食材への意識を高める。素材を知り味わう。

	実践結果	素材への関心を高め、噛む力を育て素材の味を味わう事が進められた。
	次年度方向性	その日の給食のメニューを知りその素材を知り関心を持って味わう事が出来るようにする。
2	計画・ねらい	食を楽しむ。子どもが自分たちで盛り付け・配膳をする。
	実践結果	自分で食べられる量を知り、自分の体を育てる意識を持つことが年齢によるが意識出来てきている。
	次年度方向性	年齢に合わせた食の楽しみ方(盛り付け、バイキングなど)を進めていく。
3	計画・ねらい	子どもと一緒に食べる。子どもの食事内容、食べ方を知る。
	実践結果	調理員・保育士・施設長は子どもと一緒に給食を食べる事はコロナ禍の為、はじめは出来なかったが、好きなものを好きな人と好きなだけ食べられる経験を促す事は進められた。
	次年度方向性	コロナ禍が沈静されることにより、調理員・保育士・施設長が子どもと共に食事し子どもの食事について理解が深まるように進めていく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月18日／11月21日に実施
歯科検診	6月12日に実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	6月14日に保育室にて歯科指導を実施 11月14日に保育室にて手洗い指導を実施
流行した感染症	特になし
発作・痙攣等の対応	特になし
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月21日に保育園にてエピペン研修をスタッフ名、スタッフ名、スタッフ名計名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ名のうち、名が使用可能

AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	・3月21日に保育園にて AED 研修をスタッフ名、スタッフ名、スタッフ名計名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ名のうち、名が使用可能
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行った。また消毒・換気を徹底した。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（法定1回/3年）	業者による対象物の法定点検 2023年実施済み ※対象物がない園及び JW 園は削除すること
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月 ⇒4月19日、10月日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日　実施済み
	児童健康診断	内科健診　各年2回／6月18日、1月21日 歯科健診　各年1回／6月12日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時 ⇒4月19日、10月18日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間　実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

ｌ	計画・ねらい	室内環境の整備
	実践結果	季節や興味を意識し、子どもたちの興味を促す環境の設定を進めた。
	次年度方向性	季節や興味、子どもたちの現状を見極め、整備を進めていく。
2	計画・ねらい	保育園の出入口の環境整備
	実践結果	子どもたちや保護者のスムーズな導線整備。随時見直し保護者への案内も丁寧に行って進められた。
	次年度方向性	引き続き保育園の印象的にも出入口の環境を整えていく。
3	計画・ねらい	散歩コースの環境整備・安全管理
	実践結果	散歩コースのハザードマップは見直しながら作成が進められた。子どもたちと一緒に作成を進める計画は難しかった。
	次年度方向性	子どもたちが自ら気づき散歩コースのハザードマップを作成できるように進めていきたい。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
ｌ	無し。			

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

ｌ	実践結果	避難訓練(月ｌ回)火災・地震を想定。通報訓練・引き渡し訓練・うちのこアプリ保護者向け書き込み。
2	実践結果	事故防止チェックリスト(年６回)
3	実践結果	不審者対応訓練(年２回)
4	実践結果	設備点検(年４回)
5	実践結果	事故防止委員会

6	実践結果	地域河川氾濫を想定した水防計画
7	実践結果	光化学スモッグの対応

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

実習生、見学実習については積極的に受け入れた。学生の不安な気持ちを受け入れながら、保育を楽しみ、保育士の仕事に魅力を感じてもらうことが出来るように対応した。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
6月17日～6月28日	千葉こども専門学校	2人	責任実習
10月7日～10月21日	千葉こども専門学校	2人	観察実習

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
	無し。	

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	19日 10名	17日 10名	21日 10名	19日 10名	16日 10名	20日 10名	18日 10名	15日 10名	20日 10名	24日 10名	14日 9名	2日 9名
研修	19日 10名	17日 10名	21日 10名	19日 10名	16日 10名	20日 10名	18日 10名	15日 10名	20日 10名	24日 10名	14日 9名	2日 9名

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
9月1日～10月2日	ポピンズ	キャリアアップ研修(幼児保育)	1名	有
9月15日～10月16日	ポピンズ	キャリアアップ研修(障がい児保育)	1名	有
7月3日～8月3日	ポピンズ	キャリアアップ研修(保健衛生)	2名	有

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
施設長勉強会	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
全社員研修	11月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	参加なし											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	18日　1名参加											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

船橋どろんこ保育園分園の存在を広く地域に知っていただくことで、子どもたちと地域の方々との交流を深め、成長や安全を見守っていただけるように進めた。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：天沼池弁天池公園にて　　参加延べ人数：30名
商店街ツアー	週1回　主な行き先：ブケオブケ、河原塚青果店、ふなっこ畑、三笠屋、デーツー、リュウ君の店、パティスリーりこ等
世代間交流	９月26日に会場にて実施
異年齢交流	１月15日に本町４丁目公園にて異年齢交流を実施
その他活動	12月25日に保育園幼児室会場にてクリスマス音楽会を実施
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉　実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

該当児なし

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

・個別計画の作成をした。
　（行動、感覚、姿勢、運動、聞こえ、言葉、コミュニケーション、保護者や他の子どもとの関わりなど）
・個別計画の見直しと今後の支援についての話し合いを進めた。
・保護者との面談を実施し課題と方向性を共有した。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・対象児童不在の為、実施なし。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

該当なし。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
20名	20名	20名	60名	20名	20名	20名	20名	25名	35名	25名	25名	310名

実施項目	詳細												
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　　来園延べ人数：0名												
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　⇒実施無し。												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週（水）10:00～12:00　　⇒実施無し 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週（水）10:00～12:00　　⇒実施なし。 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00　にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっぐだより	発行無し。												
青空保育 （支援センター主催）	月1回　　公園名：本町中央公園にて　以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	3名	3名	5名	2名	0名	4名	3名	3名	3名	2名	0名	2名	30名

12. 園運営の向上

〈1〉ISO受審

実施なし。

〈2〉園による自己評価の実施

2024年11月11日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：８時30分
自己評価終了時刻：16時30分
自己評価実施者：園長、主任、リーダー

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月２５日
アンケート回収率：100%

（省察）全体的には保育園の保育方針に同意する保護者が多い為、好意的なご意見が多かった。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見　0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む）　0件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年3月１５日　　作成者：船橋どろんこ保育園分園 施設長　齋藤 みどり

２０２４年度　南魚沼どろんこ保育園　事業報告書
（保育所における自己評価）

１．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

地域の社会資源としての役割を果たすべく、南魚沼市塩沢地区全域から入園児が増加し、自園の果たすべき役割について再認識した1年であった。

社会福祉法人どろんこ会が目指す法人理念・保育目標・子育て方針、保育所保育指針、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿（保育所保育指針）を元に南魚沼市の豊かな自然を活かした戸外活動を重視した保育内容やインクルーシブ保育の実践などが地域に浸透してきたことが、広域からの継続入園児増加に繋がっているのではないかと考える。その中で、自園を選んで下さった保護者の方の期待に応えるべく更なる保育内容の充実が重要であることを痛感し、日々の保育の中で子どもを真ん中に丁寧な保育実践に、取り組んできた。

今年度も、子どもたちの心に残る南魚沼の原風景や保育園での多くの経験を大切した保育を実現するためには、この南魚沼の素晴らしい環境を最大限に活かしていくことが責務だと感じた。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	法人理念を理解する。 ねらい：法人の理念・方針等を深く理解し自園への思いを持ち、業務にあたる姿勢を育成する。
	実践結果	保育や仕事に対して、スタッフの思いは様々であることは当然であるが、考え方が違っていても目の前にいる子どもたちに最善の保育をしていく為には同じ方向を目指していくことが必要ということに触れ、周知を図ってきた。
	次年度方向性	全スタッフが共通理解することは容易ではないが、子どもを真ん中とした保育実践、保育の質の向上を目指して進もうとするスタッフが認められるような職場の風土を大切に今後も継続して取り組んでいく。
2	計画・ねらい	6つの力と基本活動の充実。 ねらい：子どもたちにとって真に必要な体験・活動の充実を図る。
	実践結果	毎日の日課の充実、日々の積み重ねを大切に取り組んできた。8：00～雑巾がけ、歌、さくらさくらんぼリズム体操、サークル、座禅、畑仕事、生き物の世話から、散歩9時出発とスムーズな流れが定着している。
	次年度方向性	歌やさくらさくらんぼリズム体操では、その日の担当スタッフによって子どもの姿が変わることがあり、どのスタッフが担当しても変わらない質の向上を目指していく。畑活動や堆肥作り、生き物の世話など基本活動の意味をスタッフが深め、子どもたちに体験の中から伝えていくことを大切に日々、丁寧に取り組み伝えていく。
3	計画・ねらい	子どもに必要な生活力とは何か。 ねらい：生きる力を育む本物の体験から生活力を身につける為の環境作り。子どもも大人も一緒に体験し体得する。

	実践結果	園庭環境を見直し、活動に必要なスコップや一輪車などを必要な時に使えるように準備した。年長児がリーダーとなり、率先して取り組んでいく姿を見て、年下の子どもたちも興味をもち一緒に参加するようになった。 釜戸の火付けでは、どうしたら火がつくのか木の組み方を試行錯誤し体験の中から気づき、学んでいく姿があった。
	次年度方向性	日常的に、釜戸を使い給食の白飯炊きを実施していきたいと考えていたが、継続することができなかった。日々の活動の中で取り入れていけるようにしていきたい。
4	計画・ねらい	食の循環を知る、食育活動。 ねらい：年間を通して主体的に子どもと大人が体験を通し学ぶ。
	実践結果	畑係のスタッフを中心に畝作りから年間を通し取り組んできた。園で作った堆肥や腐葉土、米ぬかなどを使い子どもと一緒に土作りを行う中で栄養たっぷりの土作りができた。毎日の草取りや水やり、収穫から朝どれ野菜を味わうことができた。
	次年度方向性	畝作りの段階で土の量や堆肥の割合を調整し、土壌環境を整え、大きく生長した野菜の収穫を目指すことで、子どもたちの更なる意欲につながると思われる。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	お迎え3分間対応、連絡帳、タイムラインの充実。 ねらい：園の様子や保育内容を手に取るように分かりやすく発信、園で実践している保育内容への理解を深めていく。
	実践結果	タイムラインをアップしようとするスタッフが増え、活き活きとした子どもたちの様子を撮影する技術は向上した。積極的にタイムラインをアップする意識を啓発し、一日のアップ枚数も常時、5～6枚であった。タイムラインを楽しみにしているという保護者の声も多かった。
	次年度方向性	更なるスタッフの技術向上と、より多くのスタッフの意識向上を継続することが望まれる。お迎え対応では、利用者アンケートにて内容の向上についてご意見を頂いたことから子どもの様子を手にとるように伝えていけるように研修を実施し更なる質の向上を目指す。
2	計画・ねらい	保護者面談の充実。 ねらい：保護者の様子、子どもの様子から気軽に面談を行い、保護者の悩みや心理的負担の軽減、子育てに前向きに取り組めるような子育て相談を実施。
	実践結果	保護者のニーズに合わせて、面談を実施。子どもの様子を家庭と園で共有しその後の保育や子育てに繋げていけるようにした。中には面談に対して、苦手意識をもった保護者もいる為、気軽に子育てについて話ができる関係性を日常的に作れるようにした。
	次年度方向性	保護者と子育てについて気軽に話しをできる関係性や保護者の悩み、心理的負担の軽減、子育てに前向きに取り組んでいけるように信頼関係を全スタッフで築いていく。
3	計画・ねらい	保育参加のねらいを伝え、利用者の増加を目指す。 ねらい：実際に保育参加をして頂き、保育内容や子どもの発達の姿を深く

		知って頂く。
	実践結果	今年度の保育参加は0件だった。保育参加のねらいを伝えきれていなかった。我が子のクラスに入れないことで、様子を良く見ることができないのではないかと感じる方もいらっしゃるようだ。南魚沼のニーズを捉えながら、保護者への PR が必要だと感じる。
	次年度方向性	保護者懇談会等で保護者の方に保育参加のねらいを伝え、利用者を増やしていく。
4	計画・ねらい	どろんこサポーターズの活動のサポート。 ねらい：どろんこサポーターズの活動を通し、保護者同士の親睦を深める。子どもにとって必要な機会の提供のサポートを行う。
	実践結果	どろんこサポーターの方々が中心となり、どろんこ祭りは開催された。子どもたちにも好評で大変盛況であった。サポーターの方々も糸と糸盆踊りで地域の方々と交わり、地域とのつながりにも貢献していただいた。
	次年度方向性	年長児保護者を中心に活動されてきたことが、次の保護者世代に繋がってゆくことが期待される。すでに、そこを見据えている保護者がいらっしゃると思われる。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	ちきんえっぐの地域の子育て拠点を目指す。 ねらい：地域の子育て世代の方が気軽に立ち寄り、相談しあえる信頼関係を育む。
	実践結果	アートステーション・キッズパークや塩沢公民館を会場に出前保育の充実を図った。近隣の公園で遊ぶ親子は少数であるため、会場を工夫し、積極的なアプローチを心がけた事で、利用者数は増大した。イベントの日を近隣園と違う日に実施したことで、自然食堂以外のイベントの利用者が増えた。
	次年度方向性	冬期間や猛暑の夏なども継続した子育て支援に取り組めるよう、引き続き積極的なアプローチが望まれる。
2	計画・ねらい	どろんこまつりとコラボ開催、「糸と糸盆踊り」の開催。 ねらい：地域で復活した糸と糸盆踊りをコラボ開催し、地域を盛り上げ地域の子育て世代にも昔からの原体験を繋いでいく。
	実践結果	「糸と糸盆踊り」「どろんこ祭り」のコラボ開催は大変好評で双方に良い効果をもたらしたと評価できる。参加総数は900人を超え、想像以上に子どもたちには思い出深い経験となった。卒園児も多く参加し、人と人のつながりや絆を感じる機会となった。
	次年度方向性	今後も「糸と糸盆踊り」と「どろんこ祭り」のコラボ開催が望まれる。長く地域の伝統行事として、受け継がれて欲しいと考える。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	主体的に学ぶ職員育成。 ねらい：自ら学ぶ姿勢をもち、学んだことをアウトプットしていく機会を

		作る。
	実践結果	園会議において、全スタッフのアウトプットタイムを実施。 キャリアアップ研修を自主的に受けるスタッフも増え、自分自身のレベルアップを目指して、積極的なスタッフが増えた。
	次年度方向性	更なる質の向上に向け、主体的に学ぶスタッフが増えることに期待する。 園長大学®保育士大学の視聴推進をする。
2	計画・ねらい	地域の社会資源として貢献する意欲をもつ職員育成。 ねらい：地域に根差した園を目指し、園の顔となり地域活動に貢献。
	実践結果	保育所の役割を理解し、全スタッフで地域に根差した保育園を目指し取り組んできた。園数が増えたことも、その結果であると捉えている。
	次年度方向性	さらなる質の向上に向けて、邁進してほしいと願う。
3	計画・ねらい	互いに育ちあう職員関係作り。 ねらい：社会人として仕事に取り組む姿勢を先輩の姿から学ぶ。若手育成に向け、背中を見せていく意識をもち伝えながら業務にあたる。
	実践結果	日々の業務の中で、互いに声を掛け合い子どもたちにとってどう保育を展開していくか、日々考え改善しながら進んできた。その中で、若手育成に向けて積極的にコミニケションをとり、日々の保育の中でチームワークと信頼関係を育んでいくことが大切であると考える。
	次年度方向性	若手会議を開催し、若手の思いを汲み取りながら社会人としての意識や保育の質の向上を目指し取り組んでいく。全スタッフで育ち合う意識を持つ。
4	計画・ねらい	リスクマネジメントの理解を深める。 ねらい：ヒヤリハット、インシデントの抽出、共有、検討からリスクマネジメントの重要性と理解を深める。
	実践結果	毎月一人10件のヒヤリハットの抽出を目指し取り組んできた。日々の保育の中でヒヤリとした場面や葛藤する場面を共有し、保育者としてどう保育していくのか考えていった。
	次年度方向性	リスクとハザードの違いを理解し、子どもたちにとって真に必要な体験をしていけるように保育実践に取り組む。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食の循環を知る食育活動。 ねらい：畑活動を通し、食の循環を知る生の体験を実践。
	実践結果	降雪期以外は毎日、畑仕事、堆肥作り、生き物の世話に取り組んできた。日課で畑の水やり、草取り、間引き、収穫を通し、美味しい野菜ができることを感じていた。降雪期は、プランター栽培やシイタケ栽培など雪国でも取り組める内容を継続して取り組んだ。
	次年度方向性	野菜の種を採種し翌年の種まきに繋げていく。畑活動のねらいを保育者が深め、日々一緒に行う中で子どもたちに伝えていく。

2	計画・ねらい	加工食を通し、昔からの知恵や伝統、保存食、味の変化を知る。 ねらい：様々な食材を加工することで形や味が変化し保存食の意味を学ぶ。
	実践結果	梅干し作り、さわし柿作り、紫蘇ジュース、たくわん作り、味噌作りなど様々な加工品を作った。子どもたちも毎年体験することで、手順を覚え積極的に取り組む姿が見られた。
	次年度方向性	引き続き、加工品作りを行い子どもと共に大人も体験していく。
3	計画・ねらい	年間を通した堆肥作り。 ねらい：山羊の糞、鶏糞、落ち葉などを利用した堆肥作りを年間通し取り組み、畑作りやプランター栽培に使用する。
	実践結果	堆肥や腐葉土は思うようにならなかったものの、子どもたちと毎日取り組んできたことは成果であったと捉えている。
	次年度方向性	堆肥と腐葉土を子どもたちと畑にまき、土作りから一緒に行い作物が良く育つ畝作りに繋げていく。寒暖差があることから、温度調整など子どもと一緒に考え失敗を恐れずに取り組んでいく。
4	計画・ねらい	ビオトープの環境整備。 ねらい：畑、田んぼの中にあるビオトープに自然のままのアメンボやカワニナ、蛙などの水辺の生き物が生息し、観察できる環境作り。
	実践結果	ビオトープ、井戸水は最大限活用した保育活動が実施できている。恵まれた水環境は夏の暑さ対策や作物を育てることに活用されてきた。
	次年度方向性	引き続き、有効活用をしていく。

〈6〉子どもたちにとって毎日が充実した日々が過ごせる保育実践

1	計画・ねらい	子どもたちが面白い、楽しい、もっとしてみたいと思う保育実践。 ねらい：常に子どもの目線に立ち、毎日期待感を持ち登園する保育内容を考える。
	実践結果	子どもたちからリクエストがあがる行事はある意味、成功だったと捉えられる。内容が限定されない大まかな行事計画の在り方は、その時の子どもの姿をもとに計画でき、スタッフも一緒に楽しめることが、今年度実施して学んだことである。
	次年度方向性	モーニングサークルや週の予定会議で子どもたちがから出てきた内容を保育計画に取り入れ実践していけるように取り組んでいく。実践していく中で何が必要か、子どもたちの少し先の姿を捉え準備や工夫をしていく。
2	計画・ねらい	すべての子どもが意欲を持って登園する。 ねらい：子どもが自ら園内に入り、意欲的に活動をスタートする。
	実践結果	園生活に期待を持ち、登園してくる子どもたちの姿を目指して、取り組んできた。日々様々な姿はあるが、子どもの気持ちを受け止めるスタッフの姿勢や笑顔で迎える姿勢は向上したと評価する
	次年度方向性	引き続き、保護者との連携やニーズを受け止め、全ての園児が笑顔で登園する姿を目指す。

3	計画・ねらい	火・土・水、ハサミ、針と糸などが身近にある環境の中で生活力を育む。 ねらい：本物の道具を実際に使い、道具の扱い方や危険なものとの距離の取り方を学ぶ。
	実践結果	火・土・水は日常的に関わり活き活きと遊ぶ姿が見られた。ハサミや針と糸は使用することがなく次年度に向けて課題が残る。
	次年度方向性	ハサミや針と糸など様々な道具の扱い方や危険なものとの距離の取り方を学べる機会を作っていく。

〈7〉にんげん力と主体性を育む園内研修

1	計画・ねらい	にんげん力を高める園内研修。 ねらい：にんげん力を高めるために、必要なことは何か。自ら考え、学び深めていく。
	実践結果	保育の質を高めようという意欲的な姿勢のスタッフが多数となり、園全体で学びに向かう姿勢が見られるようになってきた。また、日々子どもたちと関わる中で学ぶ必要性を感じているスタッフが増え自ら学んでいる。反面、広い視野を持てずに葛藤するスタッフもいる。
	次年度方向性	保育者の自己研鑽は必須であり、更なる園全体での学びを高める機会を作っていく。
2	計画・ねらい	ポジティブ思考を持つ。 ねらい：社会人としてポジティブ思考に切り替えていくことで、自分自身の成長や豊かな人生になることを知り、学び続ける姿勢を持つ。
	実践結果	多種多様な考え方を知り、柔軟な考えでアップデートし続ける必要性を学ぶ、きっかけになった。
	次年度方向性	臨機応変な姿勢はチームつくりの基本であり、これからの保育の姿勢に欠かせないものであることから、今後も学びの機会が必要とされる。
3	計画・ねらい	社会人としてプロになる。 ねらい：接遇を身につけ、社会人として成長する。
	実践結果	保育者は五感を働かせて、目配り、気配りはあらゆる場面で求められる保育者の姿勢であるが、登園の朝の受け入れ時に、受付業務に集中しすぎてしまう、大切な事がおろそかになるという課題がある。
	次年度方向性	接遇は相手の立場に立つことであり、保育者としての自己研鑽が全てのスタッフに求められる。

〈8〉次世代を担うリーダーの職員育成

1	計画・ねらい	法人の理念や方針を理解し、日課・基本活動をリーダー中心に保育をリードしている。 ねらい：法人の理念や方針を深く理解し、子どもが主体的に活動に向かっていけるように全スタッフを導いている。
	実践結果	日課では、0歳から5歳までの子どもたちが日課のリズムに乗り、活動する姿が定着してきた。子どもたちが、自然な流れに乗り活動する姿になるまでは、保育者が意図やねらいを理解し、一人ひとりの発達に合った関わり

		が必要であり、日々の保育の継続が重要であると感じる。
	次年度方向性	主体的な子どもの活動の理解を深め、スタッフ間の共有が図られることが望まれる。
2	計画・ねらい	保護者、来客の立場に立った対応をリードしている。 ねらい：リーダーの対応力を若手育成に活かしていく。
	実践結果	リーダーを中心に保護者の立場にたった対応の質の向上を目指し取り組んできた。主任、リーダーが率先し取り組んでいく中で、若手の意識や対応力も変わってきていると感じる。
	次年度方向性	どんな時も、相手の立場に立つことを忘れずに、さらなる質の向上に向けて、邁進していく。
3	計画・ねらい	各係・プログラムが環境構成や充実した保育を展開していけるように、リーダーを中心に導いている。 ねらい：チームとしてスタッフ一人ひとりが責任を持ち環境構成や保育内容を考え実践している。
	実践結果	保育の質の向上の為、各係・プログラムが保育内容の充実を目指し取り組んできた。環境構成や保育内容は、季節や子どもの姿により臨機応変に変えていく必要があり、子どもの姿を捉えながら最善の保育を目指し取り組んできた。
	次年度方向性	更なる質の向上に向け、主体的に学ぶスタッフが増えることに期待する。

〈9〉いつ来ても綺麗な園舎景観、園庭、園舎内

1	計画・ねらい	いつ来ても綺麗な園庭・園舎環境を保持する。 ねらい：心を込めて、丁寧に管理されていることが伝わる美観を全スタッフで保つ。
	実践結果	開園から８年目となるが、来園された方から「綺麗ですね」と言って頂くことが多く、いつ誰が訪問しても良い環境を維持してきた。夏の草刈り、冬の除雪、室内環境など業務の中に仕組み化し全スタッフで取り組んできた。
	次年度方向性	仕組み化しながらも、課題も感じられ次年度は再構築が必要と思われる。
2	計画・ねらい	掃除の行き届いた園舎。 ねらい：日々の業務に掃除を組込み、常に掃除が行き届いている状態を維持する。
	実践結果	細かな課題や経年劣化による不具合などの課題が浮き彫りとなっている状態がある。掃除は仕組み化する中で、保たれてきたが細かい課題も感じられる。
	次年度方向性	掃除の分担など、再構築が必要である。
3	計画・ねらい	突然の訪問にも、自信を持ってお迎えできる園内環境、接遇力。 ねらい：どんな時も相手に喜んで頂ける接遇力を高め、保育環境として自

		信を持って整理整頓された環境を維持する。
	実践結果	整理整頓は意識の高い職員により、維持されてきた。忙しい業務の中でも整理整頓された環境は保育環境としても、安全管理面でも必要であることを周知徹底してきた。スタッフにより意識の違いがあり、一人ひとりの意識改革が必要だと思われる。
	次年度方向性	整理整頓された環境維持は、引き続き全スタッフの責務であることの共有が望まれる。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半：4~9月	11人	90人	90人	84人	154人	72人	501人
年度後半：10~3月	37人	98人	94人	84人	156人	72人	541人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	17人	2人	4人	9人	18人	8人	3人	5人	19人	15人	26人	26人	152人
うち0歳児	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人

（解説）降雪期は保護者の就労（スキー場など）により、利用者が増える。

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
うち0歳児	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人

（解説）今年度は、利用者数　0人であった。

〈２〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈３〉スタッフ構成　（３月１日時点）

常勤 スタッフ	保育士	15人	看護師	1人	調理員等	2人	事務	1人
パート スタッフ	保育士	2人	用務	2人	嘱託職員	2人		

3. 運営報告

〈１〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・スタッフのアウトプットタイム 全スタッフの保育の質の向上に向けて実施した。
給食運営会議	月1回	子どもたちの喫食状況、嗜好、残食量、個別の食事摂取状況、離乳食、誤飲誤嚥への配慮などを共有した。
事故防止委員会	月1回	・ヒヤリハットの分析結果から見えた改善策検討、共有した。 ・事故やインシデント報告から振返り再発防止策の検討を実施した。
ケース会議	月1回	特別支援が必要な児に対するモニタリング内容の共有を行った。
リーダー会議	随時	保育の課題や検討事項など必要な時に随時実施した。
乳児・幼児、 各クラス会議	月1回	保育の課題や検討事項など共有。
保育計画会議	週1回	週に１度、翌週の保育計画に向けて検討・共有。
各プログラム会議 各係会議	月1回	音楽、体育、環境、畑・田んぼなど各係の会議は随時実施し全体に共有した。

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
食育会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長
主任・ミドルリーダー会議	年12回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	園児の衛生・健康管理を看護師中心に実施。衛生管理は、コロナ禍を明けても、引き続き対策は気を緩めずに実施した。
安全対策係	園児の安全管理について、組織的に取り組み、散歩に対してはハザードマップを年4回更新時期に確実に更新し、マニュアルを遵守した。
防火管理者	定期的な消防設備点検を実施した。
食品衛生管理係	調理担当者を食品衛生管理係とし、食遺品の安全管理に努めた。食育活動においても、担当者と連携して実施した。
畑係	猛暑の夏の畑管理が難しく、草取りや夕方の水やり、堆肥、腐葉土作りに課題が残った。
生き物係	鶏は園庭から、近隣へと行動範囲を広げるため、近所の方々にはご理解を得られるようにあいさつ回りを欠かさなかった。

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	どろんこサポーター中心に運営し、地域の「糸と糸盆踊り」とコラボ開催。900人の参加があり、盛況であった。地域に根差した園を目指して、役割を担えたと感じている。

運動会係 生活発表会係	年2回、保護者の方に子どもたちの成長してきた姿を見て頂けるように、内容の検討、日々の保育の充実を目指した。
行事係	3月の策定会議にて子どもたちにとって真に必要な体験を実施する為、内容を精査し取り組んできた。
地域ボランティア係	春の木六神社の清掃、糸と糸盆踊り、降雪期の消防小屋の除雪など地域の一員として取り組んできた。

4. 保育支援

〈1〉保育･保育参加･保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	・保護者の申し出により、子育て相談を随時実施 ・子どもの発達に関して、ケース会議を実施 ・気になる状況においては、積極的なアプローチによる相談実施 ・関係機関との連携により、保健師訪問とケース会議実施
保育参加	4～3月まで　参加者無し　　（3月1日時点） ・保護者への保育参加のねらいを伝え、呼びかけは今後も課題。
保護者面談および発達相談	4～3月まで　合計10名　が参加済み　　（3月1日時点） ・子育て中の子育て相談、友だちとの関わりについてなど

〈2〉計画した年間行事の振返り

・別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	子ども・スタッフが一緒に食べる縁側給食の継続実施。 ねらい：巻機山など周りの景色や園庭を眺めながら1年間を通し子ども・スタッフが一緒に食べる。
	実践結果	全スタッフと子どもたちで年間通して、縁側で給食を実施し、四季折々変化する巻機山を眺めながら、子どもとスタッフが共に味わった。
	次年度方向性	猛暑の夏も、厳冬の冬も縁側の扉があることで縁側給食の実施は可能であり、次年度も実施予定。
2	計画・ねらい	噛む力を育て素材の味を味わえる状態で提供する。 ねらい：地元食材に可能な限りこだわる。旬の食材の旨味を味わう。 噛む力を育てる調理に留意。

	実践結果	給食の具材の大きさに配慮し、特に野菜は丁寧に調理しながら、野菜の大きさや固さに留意し、噛む力を育てることに配慮した。嚥下や咀嚼に課題がみられる乳児が増えていると感じている。
	次年度方向性	家庭との連携を図りながら、咀嚼や嚥下の状況を把握し、噛む力を育てる必要を感じている。
3	計画・ねらい	子どもたちが自分で盛付・配膳して食べる。 ねらい：毎日の盛付・配膳の中で自分の食べられる量を知り、盛付をしていく。できない時には、友だちが手伝う。
	実践結果	毎日、バイキング形式で配膳を実施。自分の嗜好や食べられる量を盛付け食することが定着してきている。
	次年度方向性	引き続き、丁寧な食事の時間の定着を目指す。スタッフが子どもの嗜好や適正量など把握し、一人ひとりに合わせた丁寧な関わりの向上を目指す。
4	計画・ねらい	堆肥活動を日課として実施。（田んぼ・畑仕事） ねらい：食材・食の循環への意識を育てる。実践していく。
	実践結果	寒暖差があり、温度調整が難しく堆肥になりにくく課題がある。春から秋にかけては、畑やプランターに堆肥を混ぜ肥料として使用できた。ヤギの糞が固形から砂状になるまでの過程を子どもたちと混ぜながら知ることができた。
	次年度方向性	ゼロからのスタートとし、子どもと共に良い堆肥を作る為にはどうしたら良いか考え堆肥活動を実施していく。失敗も学びであると捉える。
5	計画・ねらい	四季を通じて食の循環を知る体験。命を頂く。 ねらい：加工食品作りなど豊かな食の体験の機会を作っていく。命をいただく体験。（魚のつかみどり・鶏を絞めて食す）
	実践結果	開園から初めて「命を頂く。鶏を捌いて食す。」を実施。ＩＩ月の保護者懇談会にて活動のねらいや目的を説明し、様々なご意見を頂いた。当日に向け、スタッフの有志でプロジェクトメンバーを募り、活動の充実を目指し検討を重ね実施した。当日の様子はポートフォリオにて保護者へ伝えた。
	次年度方向性	次年度も対象の鶏がいると考える。子どもたちの姿から導入などを真摯に考え実施する。
6	計画・ねらい	食育計画による年間活動の計画的実施。 ねらい：生きるために必要な食についての関心を深め、食べる意欲を育てる。食事のマナーやルールについても伝えていく。
	実践結果	畑で収穫した野菜を利用し、釜戸で食育体験を実施した。なすやししとうなど苦手な食材を喜んで味わう姿があった。丁寧な食事の時間を目指す中でマナーやルールを伝えていくが定着しない現状がある。
	次年度方向性	食べることの楽しさを体験の中から伝えていく。食事のマナーについては、定着を目指し伝えていく。

〈４〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	5月Ｉ5日／Ｉ0月Ｉ6日に実施

歯科検診	5月28日／10月29日に南魚沼どろんこ保育園にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① ●月●日に自園にて虫歯予防教室を実施 ② 11月29日に自園にて栄養指導実施
流行した感染症	① 5月に発熱、咳、風邪症状等、園児13名・スタッフ0名蔓延し、南魚沼市保健課、医薬予防課へ報告 ② 7月に咳、発熱、嘔吐等、園児24名感染報告有り。8月3日に終息
発作・痙攣等の対応	ダイアップ園保管　計2名に対し、ダイアップ使用無し
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月3日に自園にてエピペン使用研修をスタッフ23名受講し習得済み。後日スタッフ1名が受講し計24名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ23名のうち、23名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	・6月8日に南魚沼消防本部にて普通救命講習Ⅱをスタッフ13名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ24名のうち、23名が使用可能
その他保健に関する取組	うがい、手洗いの励行、おもちゃ消毒、喚起などへの配慮し、徹底した。 積極的な戸外遊びで、冬も雪遊びを行い、外気に触れて健康な体の維持増進を図った。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（法定1回/3年）	業者による対象物の法定点検 2023年実施済み ※対象物がない園及び JW 園は削除すること

	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月 ⇒4月25日、10月24日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日　実施済み
	児童健康診断	内科健診　各年2回／5月15日、10月16日 歯科健診　各年2回／5月28日、10月29日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時 ⇒4月16日、10月15日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間　実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	子どもたちが自分で考え、自分で行動する園庭・室内環境作り。 ねらい：築山、ビオトープ、小川、草花、木など広い園庭・室内で子どもたちが自分のやりたい遊びを満足するまで展開できるような環境作り。 ・0歳児から5歳児までが混ざり合い遊ぶ。
	実践結果	年齢ごとのサークル継続で、生活の流れがスムーズになってきた。日課にスタッフと園児が参加し、日常の保育の流れとして、子どもたちが自主的に活動を選んで行っていく姿となった。
	次年度方向性	スタッフが子どもの動線を見守り寄り道を大切にし、個の動きにとらわれない、集団の活動としての流れを大切に継続した日課活動が望まれる。
2	計画・ねらい	友だちと試行錯誤しながら活動を展開する。 ねらい：子どもが互いに協同して遊ぶことができるように自ら行動する力を育て、共通の遊びを展開し実現する楽しさ、喜びを味わう。
	実践結果	戸外遊びでは、生き物探しや泥んこ遊びなどを友だちと協同し楽しむ活動を実施した。センス・オブ・ワンダーの世界では、他の素材は必要なく子どもが肌で感じたことを遊びの中に取り入れて展開していた。
	次年度方向性	今年度様子を踏まえ、次年度は更なるコーナーの充実が図られるように環境構成をしていきたい。
3	計画・ねらい	子どもが自ら経験を選べる室内環境。 ねらい：自分で遊びを選び、友だちと協同し工夫して遊びこむことができる。子ども同士の関わりの中で協同する体験等を主体的に取り組める室内

		環境作り。
	実践結果	室内遊びコーナーのルールは年長児が主体でルールを決める等、子ども主体で決めながら、遊びを展開した。ハサミやのりの常設が難しく、年齢ごとに適したおもちゃを自由に使う時に、乳児が混じる時間への課題が感じられる。
	次年度方向性	今年度の状況を踏まえて、次年度は更なるコーナーの充実が図られるように配慮していきたい。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	ベンチ	事務室	毎日7：00過ぎ	点検チェックリストに記載
2	出前保育の看板	玄関	毎日7：00過ぎ	点検チェックリストに記載
3	生物飼育台	縁側	毎日7：00過ぎ	点検チェックリストに記載
4	たまご販売台	玄関	毎日7：00過ぎ	点検チェックリストに記載
5	ベンチ（2客）	幼児室	毎日7：00過ぎ	点検チェックリストに記載

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	緊急事態を想定したアプリによる緊急安否情報訓練を年2回実施した。
2	実践結果	避難訓練へのスタッフの意識を高められるように啓発。担当制で全スタッフが責任を持ち実施するように行った。
3	実践結果	法人ルールに従い怪我が発生した時には、迅速に対応した。病院受診は年間9件であった。ヒヤリハットの事例収集は強化し、スタッフ1人10件以上の収集を目指した。事例収集後、分析、改善という PDCA サイクルによる安全対策を行ってきた。
4	実践結果	不審者訓練1回目は石打駐在所の警察官による指導のもと実施した。2回目のスタッフによる訓練は、気づいたスタッフが合言葉を出せず対応が遅れ、訓練の効果が得られたか疑問が残った。
5	実践結果	不意なＪアラートにより、注意を向けることが国も困難な状況で情報キャッチが難しかった。保育中は防災ラジオが頼りであることが再認識された。
6	実践結果	個人情報については、園内研修で数回に渡り徹底していきた。今後も継続していきたい。

7	実践結果	広域避難訓練等のライフライン停止を想定し、防災キャンプ訓練を実施した。非常食喫食訓練を合わせて行い、災害時の備えについて再確認した。
8	実践結果	原子力災害は常時、忘れないように行政の訓練等の情報も得ながら、緊急アプリの活用なども視野に入れておく。
9	実践結果	熊出没警報は少なかったが、常に最新の情報を確認し子どもの安全を最優先にした。
10	実践結果	大雪の年であったが、降雪量などの気象情報を収集しこまめな除雪で安全を確保する。落雪、陥没、転落事故防止の為、コーンを設置し安全確保に努める。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

保育実習生の受け入れ数は1件、保育見学は２名となった。小学校2年生との交流、中学生の職業体験、保育体験は子どもにとっても貴重な体験の機会となった。南魚沼の自然の中で春は田植え、秋は稲刈りに関東圏からそれぞれ１０名程の学生が来園しホンモノの体験をした。交流の機会は子どもたちにとっても必要な体験であると考えることから積極的に受け入れを行っていきたい。次世代を担う子どもたちに、保育体験で保育の魅力を感じる機会として丁寧に対応していきたい。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
11月11日～22日	新潟こども保育カレッジ	1人	責任実習

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
5月21日	中之島小学校	25人
7月9日～10日	塩沢中学校	4人

7．スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	16日 24名	21日 24名	18日 24名	9日 24名	20日 23名	17日 23名	15日 23名	19日 22名	17日 22名	21日 22名	21日 21名	2日 21名
園内研修	16日 24名	21日 24名	18日 24名	9日 24名	20日 23名	17日 23名	15日 23名	19日 22名	17日 22名	21日 22名	21日 21名	2日 21名
虐待防止研修	16日 24名						15日 23名					

『小学校へのスムーズな接続のために』～自己肯定感を高める表現方法～研修 講師：青木善治さん	8月1日に南魚沼どろんこ保育園・幼児室にて35名のスタッフ、25名が Web で参加。 収支報告			
	事業計画にて計上した予算		実際の支出	
	講師料 （交通費含む）	10万円	講師料 （交通費含む）	10万円
	合計	10万円	合計	10万円

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
		園長大学®保育士大学にて受講者多数		

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 （子育ての質を上げる会議）	17日 2名	15日 2名	27日 2名	18日 2名	22日 2名	19日 2名	17日 2名	21日 1名	19日 2名	23日 2名	20日 2名	21日 2名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	11月～12月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	1月25日～2月5日に4名の法人代表スタッフが参加											

〈４〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年１回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

〈５〉南魚沼市子ども子育て体制整備総合推進事業助成金　地域公開講座

南魚沼市子ども子育て体制整備総合推進事業助成金を使用して外部講師による地域公開講座を開催し子育ての質を上げる研修会の開催。

子育ての質を上げる研修会の開催
【公開講座】　小学校へのスムーズな接続のために　～自己肯定感を高める表現活動～
【講　師】　　青木善治先生　滋賀大学大学院教育学研修科　高度教職実践専攻（教職大学院）
【開催日時】　２０２４年８月１日（木）１８：３０～２０：００
【参加者数】　６０名

8. 地域交流

〈１〉今年度方針・テーマの振り返り

日々の生活の中で、近隣の方との交流の機会を大切にしてきた。鶏が近所の庭先に出入りし、ご迷惑をおかけしている事をきっかけにして、会話が発展するなど鶏が交流に一躍かってくれている。またお会いした時には、自ら声をかけ挨拶プラス一言を合言葉に全スタッフで地域の一員としての意識を高めている。

さらに、地域で復活した「糸と糸盆踊り」は開催６回目となり、地域に根差した祭りとなっている。その祭りの課題である子どもの参加が少ないことから、次世代を担う子どもたちに是非、原体験である風景を心に残し体験させたいと「どろんこ祭り」をコラボ開催とした。これまでにない賑わいとなり、９００人を超える盛況ぶりとなった。地域の方々と手を携え、これからも歩んでいく事が自園の役割だと強く認識した。

〈２〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：木六神社にて　　参加延べ人数：3名
商店街ツアー	週1回　主な行き先：池田酒店、上村屋、エネオス大木六店、JA 種菌センター、南魚沼生産組合、セブンイレブン、中之島郵便局、ユースファッション等
世代間交流	9月7日に木六神社にて糸と糸盆踊りを実施
異年齢交流	11月29日に自園にてコマ回し体験を実施

その他活動	6月13日に自園にてアメリカ人の方に来園していただき文化を知る活動を実施
銭湯でお風呂の日	実施なし

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

就学先が小学校5校となる今年度は、春期から各校と訪問や情報交換の機会を持ち、継続的に子どもの育ちを見守ってきた。アプローチカリキュラムを備え、就学に向けた就学前教育も無理なく行ってきた。学びに向かう力を育てるという幼児期の基本の姿勢を大事に、サークル活動や保育計画にも子どもたちの意見を取り入れる等、主体的な活動と子ども自身が見通しを持って、生活する姿を大切にした保育を小学校にも理解されるように連携してきた。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人（数	活動名（会場）	内容
5月1日	塩沢小学校	10名	保幼小連絡会 （塩沢小学校）	職員間交流
5月25日	中之島小学校	300名	中之島小学校　運動会	子ども間交流
5月27日	中之島小学校	10名	保幼小連絡会 （中之島小学校）	職員間交流
5月30日	上田小学校	8名	保幼小連絡会 （上田小学校）	職員間交流
6月28日	上田小学校	18名	塩沢地区　保幼小連絡会	職員間交流
7月12日	中之島小学校	6名	就学相談の打ち合わせ （中之島小学校）	職員間交流
11月15日	中之島小学校	300名	大空まつり （中之島小学校）	子ども間交流
2月3日	中之島小学校	10名	保幼小連絡会 （中之島小学校）	職員間交流
2月12日	塩沢小学校	50名	塩沢小学校 一日入学	子ども間交流

2月14日	上田小学校	30名	上田小学校 一日入学	子ども間交流
2月10日	石打小学校	3名	保幼小連絡会 （南魚沼どろんこ保育園）	職員間交流
2月14日	塩沢小学校	4名	保幼小連絡会 （南魚沼どろんこ保育園）	職員間交流
2月20日	石打小学校	30名	石打小学校 一日入学	子ども間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

要支援児の個別の計画については、モニタリングした結果を毎月の会議で共有し、保護者のニーズも踏まえて、次の目標とねらいを設定して育ちを見守ってきた。
小学校教諭の定期的訪問なども受け、その結果も踏まえてケース会議を実施し就学相談へと連携した。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・４～３月に計１２回開催　参加者：５８名

生活面における個別の支援の状況や他児とのかかわりなど、詳細にわたって情報共有し、参加職員の多面的な見方で検討を重ね、より良い支援を目指して開催した。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

卒園児18名分の保育所児童要録を就学先小学校へ送付した。
進級に当たっては必要な情報の共有をスタッフ間で3月に実施した。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
195名	197名	247名	122名	188名	1513名	252名	100名	49名	45名	65名	72名	3045名

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　　来園延べ人数：1473名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　⇒計24件相談実施済み

自然食堂 親子ランチ 交流	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計44回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	4名	17名	36名	38名	21名	44名	29名	15名	22名	18名	33名	46名	323名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	4名	8名	0名	0名	13名	2名	13名	0名	0名	3名	5名	6名	54名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00　にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっぐだより	毎月1日発行												
青空保育 （支援センター主催）	月1回　　公園名：木六神社にて　以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	3名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	3名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２４年１１月１５日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：１０時００分
自己評価終了時刻：１２時００分
自己評価実施者：田村真由子、駒形朋子、佐藤恵美、松井曜子、桑原麻美、山田結香

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月２５日
アンケート回収率：１００％

アンケート全体を通して保護者の期待度が高いことが伺える。お迎え3分間対応の内容の向上や私物の管理などについて保護者のご意見を真摯に受け止め、改善するべき点は改善していく。保育内容への理解や励ましの言葉はありがたく受け止め、更なる質の向上を目指しスタッフ一丸となり進んでいきたい。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈１〉報告すべきご意見

対象となる事例無し

〈２〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む）　0件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：南魚沼どろんこ保育園 施設長　田村　真由子

２０２４年度　和光どろんこ保育園　事業報告書
（保育所における自己評価）

Ⅰ．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

①スタッフがさくらさくらんぼリズムの研修に参加し、体の使い方や大人の援助方法などを学び、すぐに実践に生かすことができた。その時々、その年齢毎の子どもの発達を考えるきっかけにもなり、スタッフ間で共通認識をもって日課に取り組むことができた。また、スタッフの動きや活動の流れの見直しを定期的に行ったことで、雑巾がけや畑活動に余裕を持って取り組めるようになってきた。

②室内環境の見直しを行い、落ち着いて遊ぶことのできる空間作りを進めた。ゾーンの数を増やし、同線を意識した環境設定にしたことで、好きな遊びを選び、集中して遊びこむ姿が多く見られるようになった。子どもたちがチャレンジし、継続して遊ぶことのできる環境作りに関しては、今後の課題として継続して取り組んでいく。

③接遇研修を通して自身の対応を振り返る機会を作り、園全体の接遇力向上に努めた。いつ誰が来ても気持ちの良い挨拶、声かけをするように個々の意識を高めていった。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	ひとりひとりの発達を理解し、見通しのある保育の実践をすすめる。
	実践結果	・クラス間で保育計画を話し合い、その時の子どもの様子に合わせた活動を工夫してきた。散歩先でどんなことを経験させたいか、楽しく歩ける距離はどのくらいか、日々振り返りを重ねて保育に生かせるようにした。 ・子どものエピソードを取り上げ、個々の発達や関わり方について、園会議でディスカッションをする機会を設けた。様々な角度から子どもの姿を考えることで、自身の保育の振り返りとなり、発達の理解に繋がった。
	次年度方向性	・ひとつひとつの活動が単発的にならないように、子どもの予想される姿や活動前後の関わりを考え、クラス間で共有し合いながら保育を進められるようにする。 ・定期的に子どものエピソード共有を園会議に取り入れ、発達の理解や個々に合った関わり方を、園全体で考えられるようにしていく。
2	計画・ねらい	自分で選択し遊ぶことのできる環境の充実をはかる。
	実践結果	・室内環境を大きく変えたことで、遊びのゾーンがわかりやすくなり、好きな場所で遊び込む姿が多く見られるようになった。遊びの種類を増やし、選択の幅が広がった結果、気の合う友だちとの関わりが増えたように感じる。 ・朝や夕方、乳児と幼児が合同になった時の保育を踏まえ、ゾーンの位置を工夫したことで、幼児が落ち着いて遊びに没頭できるようになった。幼児の遊びに乳児が入りたい姿があったが、スタッフ間で関わり方を共有し

		ていたことで、混乱なく過ごすことができた。
	次年度方向性	・子どもの様子に合わせて、ゾーンの位置や玩具の入れ替えを迅速にできていないことが課題である。子どもの様子を見極めながら、環境を変え続けていくことを意識していく。 ・廃材や折り紙等、素材が常に準備されている状態を保ち、登園したらすぐに遊び始められる状態を作る。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	毎日の様子が手に取るようにわかり、安心できる保護者対応を行う。
	実践結果	・園会議で保護者対応のロールプレイを行い、どんな対応がわかりやすく丁寧か園内研修を実施し、実際の対応に生かせるようにした。活動内容だけの伝達にならないよう、成長した姿やエピソードを伝えることを意識した。 ・お迎えが集中する時間帯、対応する時間が限られてしまい、満足いく保護者対応ができなかった。できる限り対応数を増やし、その日のエピソードを事前にクラス間で共有する等、工夫して対応するようにした。
	次年度方向性	・接遇についての園内研修を定期的に行い、保護者様の立場に立った対応を学ぶ機会を設ける。自分自身の対応を振り返ることで、丁寧な保護者対応に繋げていく。 ・印象的なエピソードをクラス間で共有し合い、誰が対応してもわかりやすい内容を伝えられるようにする。
2	計画・ねらい	保育参加を通して園での生活を知っていただき、より密に情報交換を行う。
	実践結果	・保護者懇談会、タイムラインで保育参加の呼びかけを行い、いつでもお受けしていることを伝え、保育参加の認知度を上げるようにした。 ・参加の振り返りを行うことで、園と家庭での様子をすり合わせることができ、園生活での不安な部分を解消することができた。
	次年度方向性	・定期的な保育参加への呼びかけを継続し、より多くの保護者様に参加いただけるようにする。実際に参加していただいた方からの感想をお伝えし、保育参加のイメージを持ってもらえるようにする。 ・参加された方への声かけを全スタッフができるようにし、日ごろの様子をひとりひとりのスタッフ目線で伝えていく。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	青空保育の充実をはかり地域と保育園との繋がりを深める。
	実践結果	・指定の公園で遊びの準備はできていたが、青空保育の周知が十分できず、参加者の確保に繋げることができなかった。
	次年度方向性	・公園で地域の方に声をかけ、現地での参加者確保ができるようにする。

2	計画・ねらい	園からの情報発信を強化する。
	実践結果	・ちきんえっぐだよりでの発信のみになっており、多くの方への発信ができていなかった。 ・和光ルームとの連携が不十分であり、お互いに集客率アップに繋げることができなかった。
	次年度方向性	・タイムラインで在園児保護者に青空保育についてアナウンスし、口コミで広げてもらえるようにする。 ・和光市のあそぼう会と連動させ、ちきんえっぐの活動を知ってもらう機会とし、そこから青空保育の参加者確保に繋げていく。 ・和光ルームにちきんえっぐだよりを設置してもらうようにし、お互いの活動を知ってもらえるようにする。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	自分自身の役割を理解し、スタッフ間で高め合えるチームとなる。
	実践結果	・事故防止係や保健衛生係、写真係は役割が明確になっており、定期的な作業や会議の進行など、園の課題に向けて動くことができていた。クラス内での分担は曖昧な所があり、作業量に偏りが見られた。 ・幼児クラスは、環境設定について各々の意見を出し合いながら、課題解決する姿が見られた。クラスで決めたことをまず実践し、うまくいかない所を修正していくことができた。 乳児クラスは、散歩出発までの動きや歩き方について、リーダーを中心として日々話し合う場面があった。うまくいかなかった所を翌日に繋げ、ひとりひとりが課題を意識していた。
	次年度方向性	・様々な分野で役割分担を細かくし、接遇面、環境面、衛生面などこれまで気づけなかった所に目を向けられるようにしていく。ひとりひとりが意識して役割を担うことで、園全体のレベルアップに繋げていく。 ・キャリアアップ研修受講を生かし、園内研修を実施する等、学んだことを共有する機会を作っていく。
2	計画・ねらい	エリアで学び保育の質向上に繋げる。
	実践結果	・法人内のさくらさくらんぼリズム研修に参加し、体の使い方や援助の仕方を学び、保育に生かすことができた。 ・近隣園との学びの場を作ることができず、スタッフ間の交流をもつことができなかった。
	次年度方向性	・連携園である和光ルームとの交流を定期的に行い、スタッフが学び合える機会を作っていく。お互いの園を行き来しながら、互いの良い所を吸収し合えるようにする。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食の循環を通し環境について実体験から学ぶ。
	実践結果	・コンポストの作成が途中段階で止まってしまい、畑に肥料として使うことができなかった。 ・畑の水やりや間引き、収穫、実際に食す所まで経験することができた。食の循環まで繋げることができなかった為、次年度への課題として残る。
	次年度方向性	・コンポストの作成を成功、定着させることを目標にする。野菜の皮や廃棄物が肥料に変化する様子を体験できるようにする。 ・野菜の皮剥きや種取りなど、日ごろ口にしている食材に触れる機会をもち、食への興味関心を深められるようにする。
2	計画・ねらい	植物や植樹を有効活用し、心地よい園庭づくりを目指す。
	実践結果	・アサガオやゴーヤの栽培が成功ならず、グリーンカーテンを作ることができなかった。 ・園庭の植樹が程よい日陰となり、夏場の活動に有効であった。
	次年度方向性	・グリーンカーテン作成を目指し、栽培計画を見直して実行できるようにする。 ・子どもの目線に枝が伸びていないか、園庭整備を強化し、過ごしやすい園庭づくりを進めていく。

〈6〉いつ誰が来ても気持ちの良い園

1	計画・ねらい	園を利用するすべての方にとって気持ちの良い環境を保つ。
	実践結果	・園内の掃除分担が不明確な所があり、細かい部分の掃除が行き届いていない所があった。整理整頓を呼びかけ、掃除がしやすい環境を整える所から始めた。 ・必要以上の掲示物をはずし、玄関から明るい印象をもてるようにした。最小限に留めた掲示物は貼り方を工夫し、統一感を持てるように心がけた。
	次年度方向性	・掃除分担を細分化し、細かい所も常に綺麗な状態を保てるようにする。来園者目線で掃除し、いつ誰が来ても心地よい環境にする。 ・棚の上には必要最低限の物だけ置き、すっきりした印象を持ってもらえるようにする。綺麗な状態を共通認識することで、使った後の原状復帰が誰でもできるようにしていく。
2	計画・ねらい	接遇力を向上させ安心感のある対応を目指す。
	実践結果	・いろいろな場面を想定し、保護者対応のロールプレイを実施したことで、自分自身の対応を振り返るきっかけとなった。言葉遣いや立ち振る舞い等、どんな姿が理想的か考えることができた。 ・来園者に対して、自分から自己紹介することやさりげない会話を大事にする等、スタッフへの指導を行い、接遇力向上を目指した。

	次年度方向性	・挨拶、笑顔など基本的なことを大切にし、スタッフの明るい雰囲気が園の雰囲気に繋がるよう、ひとりひとりが意識していけるようにする。 ・ロールプレイを実施し、自分自身の対応を振り返りながら、スタッフ同士で良い所を真似し合えるようにする。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半：4~9月	36人	71人	72人	115人	120人	81人	495人
年度後半：10~3月	36人	72人	67人	120人	120人	84人	499人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	210人	215人	224人	220人	194人	194人	238人	224人	201人	209人	189人	200人	2518人
うち0歳児	0人	0人	1人	1人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	2人

〈2〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

常勤スタッフ	保育士	9人	調理員等	3人	用務	1人
パートスタッフ	保育士	2人	看護師	1人	事務	1人

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・課題解決の為のディスカッション ・水辺のリスクマネジメント ・虐待防止研修
給食運営会議	月1回	・メニューの振り返り ・食事の様子共有 ・食育活動の振り返り
事故防止委員会	月1回	・インシデント、ヒヤリハットの集計分析 ・他園事故記録簿の分析 ・事故防止の為のディスカッション
クラス会議	都度開催	・保育内容検討 ・環境設定についての意見交換 ・子どもの様子の共有と関わり方について

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
食育会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長
主任会議	年4回	主任
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	・毎月の点検を実施し、衛生面の環境を整えるよう努めた。

	・季節によって流行する感染症について、特徴や対応方法など園内研修を実施した。共通した対応ができるよう、有意義な学びの場となった。
安全対策係	・園内の点検を実施し、破損個所が天井や調理室設備の修繕を依頼し、実施した。 ・現時点で必要な防災用品を選定し、備蓄品の管理、補充を行った。
防火管理者	・毎月の防災訓練を取りまとめ、災害に備えた訓練を実施した。 ・消火器の点検や、火を使う箇所の清掃状況を点検し、火災防止に努めた。
食品衛生管理係	・調理室内の安全面、衛生面の点検を行い、安全な食事提供ができる場を保った。 ・必要以上の食材を置かないよう、在庫管理をこまめに実施した。

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	・どろんこサポーターズと協力し、どろんこ祭りの企画・運営を進めた。予算に関してはどろんこサポーターズと連携しながら進め、計画通りに運営することができた。 ・在園児のご家族だけでなく、卒園児や地域の方の参加もあり、園を知っていただく機会となった。

4. 保育支援

〈ｌ〉保育･保育参加･保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	・お迎え時、その日の子どもの様子を、成長がわかるエピソードを添えて伝えるようにし、安心感に繋がるように園全体で取り組んだ。 ・連絡用アプリにて日々の活動の様子を知らせ、園の様子をリアルタイムで伝える。
保育参加	4～3月まで　合計7名　が参加済み　　（3月ｌ日時点） ・一日園で過ごし、担任と振り返りの時間を設けることで、より細かく情報交換をすることができた。給食も好評で、園の食事の味付けや食材の切り方の工夫を伝えられた。

保護者面談および発達相談	4～3月まで　合計5名　が参加済み　　（3月ｌ日時点） ・排泄や他児との関わり方など、家庭で悩んでいることをお聞きし、園での様子と擦り合わせながら、安心して頂けるように面談を実施した。その後の変化や成長を伝え、面談だけで終わらないよう、いつでも相談できる雰囲気作りを心掛けた。

〈2〉計画した年間行事の振返り

・別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

ｌ	計画・ねらい	実体験を通して食や食の循環について興味関心をもつ。
	実践結果	・たくあん作り、かりんシロップ作り等食材を加工して食す体験を行うことができた。食材が変化していく過程を実感することで、食への興味が深まった。 ・畑で収穫した野菜を食べることで、普段の給食で食材に関心を持つようになり、食べてみようとする姿が多く見られるようになった。
	次年度方向性	・引き続き食材を加工する体験を充実させていき、食への興味、食べることの楽しさを保育者と一緒に感じられるようにする。 ・コンポストの作成を計画的に行い、肥料として使用できるように工夫していく。
2	計画・ねらい	毎日の給食を楽しみにしながら活動する。
	実践結果	・年長児がその日の給食メニューをボードに記入し、知らせることで、子どもと調理室との交流が多くなり、給食を楽しみにする様子が見られた。 ・段階を踏みながら散歩距離を延ばしたり、体を動かして遊ぶ活動を取り入れたりし、お腹がすく感覚を感じて、食事に入れるように配慮した。残食も減っていき、完食する嬉しさを感じている姿が多くなった。
	次年度方向性	・子どもの体調、その日の気温に合わせて食事環境を整え、食事の時間がより心地よくなるように配慮していく。 ・食事中の保育者の関わりを大切にし、会話を楽しみながら、食材に興味が持てるようにする。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月24日／ｌｌ月ｌｌ日に実施
歯科検診	7月ｌｌ日に実施

保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 4月25日に手洗い指導を実施 ② 6月6日に歯磨き指導を実施 ③ 10月21日に消化と吸収についての話を実施 ④ 12月5日に性教育を実施
流行した感染症	なし
発作・痙攣等の対応	なし
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月18日に和光どろんこ保育園会場にてエピペン研修をスタッフ1名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ19名のうち、16名が使用可能

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（法定1回/3年）	業者による対象物の法定点検 2023年実施済み ※対象物がない園及び JW 園は削除すること
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日

健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月 ⇒4月3日、10月4日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日　実施済み
	児童健康診断	内科健診　各年2回／6月24日、11月11日 歯科健診　各年1回／7月11日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時 ⇒4月20日、10月18日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間　実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	好奇心をもちやってみたいと思える環境を整える。
	実践結果	・自分の興味のあるゾーンを選んで遊ぶことができるよう、環境の見直しを繰り返し、玩具を子どもの様子に合わせて入れ替えてきた。年度当初、室内で好きな遊びを見つけられない様子があったが、環境が整うことで遊び込む姿が増えた。 ・好きな時に制作を楽しむことができるよう、廃材や道具が常に置いてある状態を目指してきた。整理整頓をスタッフが率先して行い、制作を楽しんだ後の片づけが見に着くように工夫した。
	次年度方向性	・玩具棚の道具の整理や補充をこまめに行い、すぐに遊び始められるよう対を保てるようにする。 ・発達に合わせた玩具選びを行い、子どもの状態に合わせて玩具の入れ替えを繰り返していく。
2	計画・ねらい	遊びの中で生活力を身に着けることができる
	実践結果	・ルールのある遊びを楽しみ、順番を守ったり、話し合って遊び方を決めたりする経験を積むことができた。子ども同士の話し合いを大切にしながら、個々に合わせて保育者が介入することで、自分たちで解決することができるようにした。 ・スタッフと一緒に井形ブロックを楽しみ、形を作ったり、中に小さいブロックを入れたり、細かく作る様子も見られた。指先の力を養うことに繋がっていった。
	次年度方向性	・遊びの中に切る、貼る、結ぶ等の経験を取り入れ、楽しみながら生活力を身に着けられるようにする。 ・毎日の日課を丁寧に行い、継続して取り組んでいくことで、身体の発達や生活力の会得に繋げていく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	壁登り	1階保育室	毎日	異常なし
2	かばん掛け	縁側	毎日	4月に撤去
3	ピザ窯	園庭	毎日	破損箇所あり 次年度撤去予定
4	焚火台	園庭	毎日	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	・避難訓練計画に則り避難訓練を実施。様々な状況に合わせて、保育者の動きや避難経路の再確認を行った。 ・万が一の災害に対応できるように、保存食や防災用品の整理、補充を実施。
2	実践結果	・毎月のヒヤリハット、インシデントの集計と検証を行い、自園の事故防止に努めた。 ・実際のヒヤリハットを元にディスカッションを行い、事故防止に対する意識統一を図った。
3	実践結果	・不審者侵入訓練後、個々の動きの振り返り実施し、改善点を次回の訓練に繋げるようにした。 ・来年度への課題として、自治体等に協力を仰ぎ、スタッフの防犯訓練を実施し、実践的な学びの場を持てるようにする。
4	実践結果	・自治体からのメールや防犯放送での情報を取り逃さないようにし、高温注意情報や光化学スモック発生状況に合わせ、活動時間や場所を配慮した。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

地域との繋がりや次世代育成の為、養成校からの保育実習を積極的に受け入れてきた。複数の養成校からの実習を受け入れ、学びの場としての役割や、養成校との連携に繋がるように努めた。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
6月10～21日	東京こども専門学校	1人	観察実習
10月15～28日	東京未来大学福祉専門学校	1人	責任実習

2月3～19日	十文字学園女子大学	2人	観察実習
2月20日～3月7日	文京学院大学	1人	観察実習

〈3〉中高生の受入

実施なし

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	20日 17名	17日 18名	21日 18名	19日 16名	23日 17名	20日 15名	18日 15名	15日 15名	20日 17名	24日 18名	26日 18名	21日 19名

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
9月30日	ポピンズ	キャリアアップ研修 保護者支援・子育て支援	1名	無
9月16日	ポピンズ	キャリアアップ研修 障害児保育	1名	無
11月1～2日	ポピンズ	キャリアアップ研修 保護者支援・子育て支援	1名	無
11月2・9日	ポピンズ	キャリアアップ研修 障害児保育	1名	無
12月16日	ポピンズ	キャリアアップ研修 幼児教育	1名	無

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	21日 1名	21日 1名

げる会議）												
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	20日 1名	19日 1名
全社員研修	11月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

商店街ツアーで近隣の商店や施設に出向き交流することで、子どもたちの学びが深まり、他社と関わる楽しさを感じることができた。この経験から、散歩先で出会う地域の方に気軽に話しかける姿が多くなり、保育園と地域との繋がりを生むことができた。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：外環C広場にて　　参加延べ人数：0名
商店街ツアー	週1回　主な行き先：リトルベアー、和光市郵便局、セリア、新倉交番、西友、グリーンルームフラワー、和光市駅等
世代間交流	12月12日にミアヘルサオアシス和光にて交流会を実施
異年齢交流	11月26日に北原小学校にて1年生との交流会を実施
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉　実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

市内の小学校と子ども同士の交流を持つことができ、教えてもらった遊びを園でやってみようとす

る姿が見られた。職員間の情報交換では、今後の連携方針や課題を共有し合い、保育園と小学校の繋がりを深められた。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
6月25日	市内小学校	1名	幼保小連絡協議会	職員間交流
11月15日	新倉小学校2年生	10名	和光どろんこ保育園	子ども間交流
11月26日	北原小学校1年生	14名	北原小学校	子ども間交流
2月19日	市内小学校	1名	幼保小連絡協議会	職員間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

今年度、対象園児なし

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	0名	0名	0名	0名	2名	2名	0名	0名	0名	0名	0名	4名

実施項目	詳細												
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　　来園延べ人数：0名												
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　⇒計0件相談実施済み												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計2回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	2名	2名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	名
どろんこ 芸術学校	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計0回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計

どろんこ自然学校	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00　にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっぐだより	毎月1日発行												
青空保育（支援センター主催）	月1回　　公園名：外環C広場公園にて　以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名

12.　園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２５年２月６日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：15時00分
自己評価終了時刻：15時15分
自己評価実施者：施設長、主任

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月２５日
アンケート回収率：100%

（省察）
・美観の観点から必要最低限の掲示物にし、これまで掲示していた園からのお知らせを、連絡用アプリでの発信に限定したことで、情報が行き届かない現状があった。
・様々な観点からスタッフ育成の必要性を感じ、園全体で接遇面の学びが必要である。

13.　苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

なし

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

なし

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：和光どろんこ保育園 施設長　大島 奈美子

２０２４年度　三鷹どろんこ保育園　事業報告書
（保育所における自己評価）

I．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

法人の子育て理念、子育て目標をもとに、育てたい6つの力が育まれるように保育を行ってきた。また3年後には生活力、選択力、思考力を育む保育実践を行うことで、大人も子どもも主体的に考え学び自律した集団となり、より魅力的な保育園となるために保育の質があげられるように実践してきた。2024年度は、スタッフの入れ替わりがある中、揺らがない土台作りに取り組んできた。スタッフの個々の認識のずれや情報共有、日課や基本活動の質に課題が残るため、2025年度に向けて強化していきたい。

〈I〉保育内容の充実・質の向上

I	計画・ねらい	生活力の体得（自分で考え行動できるようになるために） 様々な体験の中から生活力、危険な物との距離の取り方を学べる保育実践を行っていく。
	実践結果	スタッフが生活力とは何かを研修していった。スタッフによって理解度が様々になり共通認識を持つことを目指した。子どもたちには様々な体験を実践していったが、自分で考え行動する力を伸ばす必要性がある。
	次年度方向性	今年度の体験をさらに深めて、自分で考え行動できる体験を増やしていく。
2	計画・ねらい	10の姿の体得（小1を知り、逆算した保育計画の見直し） 就学を見据え、卒園までに１０の姿を体得できるように逆算し、0歳児からの保育計画、保育実践を見直していく。
	実践結果	常に卒園の時に育っていてほしい姿から逆算して保育を考えるようにしてきた。0歳児からの保育計画、保育実践を見直すところまで実践できるよう、指導を継続した。
	次年度方向性	卒園の姿から逆算した保育計画、保育実践を見直していく。
3	計画・ねらい	物的環境の見直し、改善を行う。 子どもが、自らいつでも経験の選択ができる物的環境の見直しを行う。 課題を抽出し、PDCA サイクルを行い、常に改善を行っていく。
	実践結果	園庭の改良を行うことができ、山を高くし、泥場をつくることで思い切り遊べるようになった。室内環境では、乳児クラスは子どもの発達に合わせて変更することができた。幼児クラスは発達に合わせた細やかな見直しに課題が残る。
	次年度方向性	園庭は今後の課題点を抽出し、都度改善していく。室内は引き続き、子どもの発達に合わせて改善していけるように各会議で話し合っていく。

4	計画・ねらい	すべての園児がともに育ちあえる保育実践 守る支援・強制できる支援ではなく、園児がともに考えそだちあえるような保育実践を行えるように、2023年度の保育の課題を抽出し、PDCA サイクルで常に、保育の見直しを行っていく。
	実践結果	全スタッフで、全園児を見守る姿勢ができるようになった。また支援が必要な園児がともに育ちあえるような環境を工夫することができた。
	次年度方向性	引き続き、すべての園児が育ちあえる保育実践の質を高めていく。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者の方々が安心して預けられるような、丁寧で細やかな保育実践を行い、朝夕の保護者対応で、1日の様子を手に取るように伝えていく。 どのスタッフが対応しても質の高い対応ができるように、園内研修を行いスキルアップにつなげていく。
	実践結果	申し送り担当になったスタッフもそうでないスタッフも、積極的に保護者に声をかけて話せるよう働きかけた。
	次年度方向性	日々の小さな気づきを担当でなくても保護者に伝えられるようにしていく。
2	計画・ねらい	お迎え時に待った気がしないお迎え対応、待たされたと思わせない仕組みつくり お迎え対応の場所や対応者の人数等の検討を行う。ドキュメンテーションや制作物等の掲示と掲示場所の検討を行う。
	実践結果	対応待ちの人数が増えてしまったときは、他の保育士も対応できるように声をかけた。スタッフ間の連携を強化することによる対応力とスピードを求めて行った。
	次年度方向性	保護者の立場にたって対応ができるように全体をみて判断できる力をつけていく。
3	計画・ねらい	保護者会、個人面談で個人のお子様の様子だけでなく、園全体の保育の様子を細やかに伝え、とも育てができるようにしていく。 子どもたち同士が関わりの中で成長している様子を伝え、育ちあう良さが伝わるような保護者会、個人面談を行う。
	実践結果	保護者会は2回開催でき、和やかに交流することができた。個人面談は前期には行うことができたが、後期の機会が減少した。
	次年度方向性	希望者には必ず2回の個人面談を行い子どもの成長を共有する。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	現行週3日実施を週5日に変更し、いつでも気楽に立ち寄れる場所にする。週に3日が定着しているため、5日間開所していることを広め、いつでも立ち寄れる場所となるように広報に力をいれていく。
	実践結果	前期は5日開催していることの周知が広まらなかったが、後期5日開催が定着し来園者が増えてきた。
	次年度方向性	引き続き5日開催し、いつでも気楽に立ち折れる場所にしていく。
2	計画・ねらい	活動内容を充実させ、集客率をあげる。 イベントだけでなく、日々立ち寄りやすい場所となるような取り組みに力をいれ、集客率をあげる。また、園の前にその月の活動を掲示し、公園でパンフレットを配布して多くの方に三鷹どろんこに子育て支援センターがあることを知ってもらう。
	実践結果	イベントの日の告知を強化し来所に繋がった。
	次年度方向性	イベント以外の日に来園したくなるような告知を考えていく。
3	計画・ねらい	青空保育の開催 子育て世代がたくさん集まる公園に行き、一緒に活動することで保育園を身近に感じてもらえるようにする。
	実践結果	定期的に開催することができた。
	次年度方向性	引き続き、定期的に開催し、広く周知することで、参加者や子育て支援センターへの来所を増やしていく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	園内研修を定期的に行いインプット・アウトプットの機会を多くする。 園の課題となる分野の研修を行い、必ずディスカッションできる時間を設ける。その中で様々な考え方を学び、自分の意見も言えるような雰囲気作りをしていく。
	実践結果	自分が学んだことをアウトプットし、ディスカッションを取り入れた研修を行うことができた。
	次年度方向性	引き続き、参加型の研修を多く行いインプット・アウトプットの機会を多くしスキルアップにつなげていく。
2	計画・ねらい	マネジメント力をつけ、業務時間内に業務が終了できるようになる。 自分自身の仕事量、仕事のスピードを把握し自分にあったマネジメント力が身に着けていけるように研修や他のスタッフのマネジメントの仕方を学んでいく。
	実践結果	事務時間の計画により、残業時間を大幅に削減した。一方。個々のタイムマネジメントスキル差には課題が残る。
	次年度方向性	さらにマネジメント力が強化できるように話し合いや研修を行っていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食材を加工して給食でいただく。 食材を加工して出来上がっていく工程を楽しめるように工夫しながら行う。（味噌作り・梅干し作り・梅ジュース・切干大根等）
	実践結果	計画通り実施することができ、出来上がっていく工程を楽しむことができた。
	次年度方向性	来年度も引き続き実施していく
2	計画・ねらい	給食残渣を現在の70%に減らす。 子どもたちに SDGs の話の中から食べ物を大切にすることを伝えていき、給食残渣減少につなげていく。
	実践結果	子どもたちには食育の話しとして食べ物を大切にすることを伝えてきた。 年長児には残渣を図ってグラフにして視覚的に理解できるようにした。
	次年度方向性	来年度も引き続き取り組んでいく。
3	計画・ねらい	木陰で遊べる園庭作り。 現在の園庭に木陰が少ないので、木陰を考慮して園庭改良を行う。
	実践結果	保護者に協力していただき、2回園庭の土を追加し、築山を高くした。 木陰を考慮するまでは至らなかった。
	次年度方向性	今年度の課題点を抽出しさらに改良を続けていく。

〈6〉自分で考え行動できるようになるための生活力を体得できる保育実践を行う

1	計画・ねらい	現時点で、日々の保育の中で身に着けている生活力は何かを検証し、今後の保育実践を見直していく。現在、身についている生活力、身についていない生活力を洗い出し０歳児からの保育実践を見直す。
	実践結果	スタッフの交換研修を行いながら、客観的に身についている生活力は何かを見直せるように実践した。
	次年度方向性	保育実践の見直しを、引き続き実践していく。
2	計画・ねらい	生活力を身に着けるために必要な環境（人的・物的）を見直し、改善していく。 課題点を抽出し、PDCA サイクルで１年間かけてより良い環境をつくっていく。
	実践結果	物的環境は定期的に見直した。人的環境については、スタッフ間の経験値の差を埋めるためのコミュニケーションを心掛けた。
	次年度方向性	人的環境に力を入れて見直していく。
3	計画・ねらい	子どもたちが主体となり、自分たちで考え行動できるようになるために必要なスタッフのスキルをあげていく。 スタッフの見守り方、関わり方のスキルがあがるように研修を重ねていく。
	実践結果	スタッフの立ち位置や見守る視点について認識を合わせることができた。 子ども一人ひとりに合わせた関わり方をスタッフが瞬時に判断するために、対話を繰り返した。
	次年度方向性	研修を行い、その場で対話し、スキルが上がるようにしていく。

〈7〉子どもが自らいつでも経験の選択をすることができるように人的環境・物的環境を整える

1	計画・ねらい	園庭改良 子どもたちが主体的に遊びを作れる園庭環境とはどのような環境かを検討し、改良を実施する。
	実践結果	土を2回ほど購入し、保護者とともに園庭全体の土の底上げと、築山の補修を行うことができた。また、泥場をつくったことで遊び込める姿が見られるようになってきた。
	次年度方向性	園庭改良後の課題を抽出し、更なる改善を行っていく。
2	計画・ねらい	室内環境整備 子どもたちの発達にあい、主体的に遊びこめる空間作りを行う。 幼児クラスは子どもたちと話し合いながら環境を整備していく。
	実践結果	乳児クラス：子どもたちの発達に合わせてその都度、環境を変更することができた。 幼児クラス：話し合いを重ねて変更した。子どもたちが遊びこめる空間作りを目指した。
	次年度方向性	子どもたちの様子に合わせて、常に環境を見直していく。
3	計画・ねらい	人的環境のスキルアップ スタッフ一人ひとりが人的環境であることを意識し、スキルアップしていけるように研修を行う。
	実践結果	色々な角度から研修を行い、MBO を目標設定、面談を重ねた。それぞれのスタッフのレベル差を埋めるサポートや指導を行った。
	次年度方向性	スタッフの入れ替わりがあるが、引き続き研修を行っていく。

〈8〉すべての園児がともに育ちあえる保育実践

1	計画・ねらい	自由に行き来できる大きな家で育ちあっていける保育実践を行う。 良い点、改善点を抽出し、どのような保育実践を行うと育ちあっていけるのかを検証していく。
	実践結果	1階2階の保育室の使い方を工夫し、行き来できる環境に近づけることができた。
	次年度方向性	今年度の課題点を抽出し、PDCA サイクルで改善していく。
2	計画・ねらい	子どもが自らいつでも経験を学び取ることができる支援の実践 守る支援・矯正する支援ではなく、すべての園児が経験から学んでいける支援ができるような保育実践ができるスタッフ集団となるように情報共有を行い全スタッフで支援していく。そのために実例を交えながらの研修を行う。
	実践結果	支援を必要とする園児が年長児に多かったことで、どのような工夫をしたら一緒に過ごしていけるかを常に考え、実行することができた。 スタッフの意識も守る・矯正する支援ではない保育実践ができた。
	次年度方向性	さらに良い保育実践ができるように今年度の課題点を改善していく

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半：4~9月	6人	15人	18人	20人	20人	20人	99人
年度後半：10~3月	6人	15人	18人	20人	20人	20人	9人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	237人	239人	276人	288人	223人	267人	296人	301人	303人	274人	275人	275人	3254人
うち0歳児	1人	6人	10人	14人	7人	8人	10人	12人	12人	4人	9人	4人	97人

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	1人	6人	6人	5人	4人	3人	6人	4人	9人	9人	2人	2人	57人
うち0歳児	0人	2人	4人	3人	1人	2人	5人	4人	7人	9人	2人	2人	41人

〈2〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

常勤スタッフ	保育士	15人	看護師	1人	栄養士	2人	調理員等	2人
パートスタッフ	保育士	6人	補助	3人	用務	1人	事務	1人

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・保育の懸案事項検討、園内研修、行事内容の確認等
給食運営会議	月1回	喫食状況報告、アレルギー、離乳食状況共有、食育計画
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット、インシデント、自園・他園の事故記録簿に基づき事故再発防止策検討
ケース会議	月1回	発達の気になる子の情報共有と支援計画作成（振り返り、来月の支援計画）
リーダー会議	月1回	リーダー層における園の課題抽出と検討
各クラス会議	週1回	クラス運営検討（週案・月案の修正・立案）、情報共有
乳児会議	月1回	乳児クラスでの情報共有、課題検討
幼児会議	月1回	幼児クラスでの情報共有、課題検討
パートスタッフ会議	月1回	情報共有、懸案事項検討等
子育て支援センター会議	月1回	振り返り、次月の予定、集客数の確認等
各行事会議	随時	各行事企画等の詳細検

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
食育会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長
主任会議	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	室内外の衛生状況の確認および徹底 月1回会議を行い、清掃・安全・衛生状況が良い状態に保てるようにしていった。後半特に全スタッフが意識して行えるようになった。
安全対策係	保育環境の検討、整備、確認 月1回会議を行い、環境が整備されているか確認を行った。また気が付いた時に整備できるように工夫したことで、スタッフの意識が上がってきた。
防火管理者	火災予防と有事の際の避難訓練計画および実施 計画通り、訓練を実施することができ、有事の際に備えることができた。
食品衛生管理係	食材の発注及び品質管理を計画通り行うことができた。
畑係	年間計画をもとに畑の管理、必要物品の手配を行った。 生育の様子で計画通りにいかないこともあったが、子ども主体になるように実施することができた。
生き物係	生き物の世話全般の計画、実施、餌等の必要物品の手配を実施 計画通り実施することができた。
図書係	園内の図書管理、必要図書の購入を行った。 計画通り実施することができた。

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	どろんこ祭りの計画、実施。保護者への呼びかけ。 保護者の方も多数協力してくださり、みんなで楽しむ行事を行うことができた。
運動会係	運動会の計画、実施。
生活発表会係	生活発表会の計画、実施。

4. 保育支援

〈1〉保育･保育参加･保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	・基本方針にあげた保育内容が実現できるように人的環境、物的環境、保育の原点に立ち返ることに力を入れ、実行に移すことができた。 ・プロジェクトチームを立ち上げたことによって、全スタッフが自分ごととして取り組めた。 ・それぞれの保育内容の質に課題が残るため来年度も引き続き取り組んでいきた。
保育参加	4～3月まで　合計8名　が参加済み　　（3月1日時点） ・参加が思ったより少なかったが、参加してくださった方は満足してくださっていた。来年度は参加者が増えるように声掛けをしていく。
保護者面談および発達相談	4～3月まで　合計24名　が参加済み　　（3月1日時点） ・前期は各クラス希望者に個人面談を行ったが後半は実施できなかった。そのほか希望があった方は、適宜行った。

〈2〉計画した年間行事の振返り

・別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	命をいただいていることを知り、食べ物を大切にする心をそだてる。 鶏や魚をさばいて食べる体験や、自分たちで育てた野菜を食べることによって、命をいただいいることがわかる活動を多く取り入れていく。
	実践結果	様々な角度から食べ物を大切にすることを伝えた。イワシの手開きを行ったことで子どもたちの命をいただいていることへの理解が深まった。
	次年度方向性	引き続き、様々な角度から命をいただいていること、食べ物を大切にすることを伝えていく。
2	計画・ねらい	自分たちで準備、盛り付け、配膳して食べることができる環境（人的・物的）を整え、意欲的に食事できるようになる。 子どもたちの発達に応じた環境を設定し、体系的な取り組みを構築し、実施する。
	実践結果	1歳児クラス後半より、自分で盛り付けできるものは盛り付けるように実践した。以前より意欲的に食事している。
	次年度方向性	引き続き、子どもたちの発達に合わせて環境設定していく。また今年度の課題点を抽出してさらに良い取り組みができるようにしていく。

3	計画・ねらい	子どもたちが主体的に畑仕事に取り組み、栽培→収穫→調理→食べるというサイクルを体験する中で食に関する興味、関心を育てる。 引き続き、子どもたちが主体的にかかわれるように、大人の見守る姿勢を大切にする。また主体的に行う中で、Trial & Error を体験できるようにしていく。
	実践結果	昨年度より、子どもたちが主体的に取り組めるようになってきた。日課として定着することを目指した。
	次年度方向性	今年度の課題点を抽出し、より子どもたちが主体的に行い気づきを得られるような取り組みを行っていく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月19日／11月13日に実施
歯科検診	6月13日に自園にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	①9月自園にて手洗い指導を実施 ②11月自園にて消化・吸収とうんちについての指導を実施
流行した感染症	特になし
発作・痙攣等の対応	対象児童無し
エピペン使用できるスタッフの状況	・4月6日に保育園にて研修をスタッフ28名、受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ28名のうち、28名が使用可能
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また、玩具消毒を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み

	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4・10月 ⇒4月1日、10月1日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日　実施済み
	児童健康診断	内科健診　各年2回／6月19日、11月13日 0歳児は毎月実施 歯科健診　各年1回／6月13日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4・10月の園会議時 ⇒4月26日、10月25日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間　実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	【園庭】自分たちで環境に働きかけて遊びが作りだせる環境大人が作りこみすぎずに、自分たちで設定を変えられるような環境作りをする。 また、築山に土を入れて新たに環境を整えるために職員間で話し合いを行う。
	実践結果	園庭に土を入れて、築山を高くするなどの整備は行うことができた。子どもたちが主体的に遊びこめる環境を整えることを目標とした。
	次年度方向性	残った課題点を抽出し、改善していく。
2	計画・ねらい	【保育室】発達にあわせ、自分たちで工夫をしながら遊びこめる環境 乳児：くつろげる空間・好きな遊びを選んで集中して遊びこめる設定 幼児：くつろげる空間を確保する。 自分たちで考え、遊びにあわせて空間が作れる素材を確保する。
	実践結果	乳児は定期的に子どもたちの発達に合わせて環境を設定することができた。幼児クラスは、発達に応じたより細やかな設定変更が必要である。
	次年度方向性	今年度の課題点（特に幼児室）を再検討していく。

3	計画・ねらい	保護者、来訪者がいつ見ても気持ちの良い施設 清掃は役割分担、範囲、きれいの基準を明確にし、常にきれいな状態が保てるようにする。また第三者の目線でチェックを行い、気持ちの良い状態を保てるようにする。
	実践結果	スタッフが積極的に美観を整えるように仕組みつくりを行った。
	次年度方向性	引き続き、構築した仕組みをより良いものにしていく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
ｌ	丸太	園庭	毎日	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

ｌ	実践結果	【防災】毎月ｌ回避難訓練実施。火災、地震発生時の避難方法を確認検討した。
2	実践結果	【防犯】年2回不審者訓練実施し、不測の事態に備えた。
3	実践結果	【事故防止】ハザードマップの適宜更新。事故防止委員会にて再発防止策を検討し全職員に共有した。
4	実践結果	【光化学スモッグ】三鷹市育成課からの情報をもとに、園児の室内待機、保護者へのお知らせを徹底した。
5	実践結果	【SIDS 防止】午睡チェックの徹底。SIDS の園内研修を実施し危機管理能力を高めることができた。
6	実践結果	【怪我をしない強い身体をつくる】日々の活動の中で注意して取り組み、リズム体操、雑巾がけ、長距離散歩に力を入れた。
7	実践結果	【情報共有】全ての事項の情報共有を強化し、システムを構築したが、来年度にむけての課題が残っている。 （朝礼、クラス会議、園会議、事故防止委員会、リーダー会議等）

6. 実習生・中高生の受入

〈ｌ〉今年度の振返り

夏休みに職業体験とボランティアを兼ねて近隣の中高生より参加希望があったので、随時受け入れを行った。園児がとても喜び、参加した学生も「楽しかった、また来たい」との感想が多かった。 受け入れたことで、スタッフの学びにもつながった。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
7月4～5日	東京子ども専門学校	1人	観察実習
8月10～21日	東京子ども専門学校	1人	責任自習
8月26日～9月12日	日本児童教育専門学校	2人	責任実習

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
7月17日～8月31日月	井口小学校・三鷹第二小学校等	46人
7月17日～7月18日	大妻中野高等学校	2人

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	26日 31名	24日 31名	28日 31名	26日 31名	23日 31名	27日 31名	25日 31名	22日 31名	20日 31名	31日 31名	28日 31名	28日 31名
園内研修	26日 31名	24日 31名	28日 31名	26日 31名	23日 31名	27日 31名	25日 31名	22日 31名	20日 31名	31日 31名		

〈2〉外部研修への出席

外部研修への出席は無し

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	18日 1名	16日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	21日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	11月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

〈5〉プロジェクトチームに分かれてのスキルアップ（２０２２年度より継続）

各プロジェクトで、自園の課題点を改善し、責任を持って行うことができた。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

誰でも立ち寄りやすい拠点となり、地域に開かれた保育園を目指したが、地域の方にちきんえっぐを知ってもらう活動が思うようにできなかった。園見学のために来園した方からの口コミで後半は来園者が増えてきたため、次年度も力を入れていきたい。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：上連雀中央公園にて　　参加延べ人数：170名
商店街ツアー	週1回　主な行き先：消防署、サミットストア、うーおの森、小田急バス、警察署、吉野農園等
世代間交流	毎月1回　なんじゃもんじゃの森にてラジオ体操を実施
異年齢交流	夏休みに小中高生との交流を開催
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉　実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

小学校からの積極的な依頼もあり、さらに交流を深めることができた。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
7月9日	井口小学校 みたいぐ保育園 鶏鳴幼稚園 ブレンド【学童】	1名	井口小	職員間交流
11月18日	井口小学校 みたいぐ保育園 鶏鳴幼稚園 ブレンド【学童】	1名	井口小	職員間交流
1月28日	井口小学校 みたいぐ保育園 鶏鳴幼稚園 ブレンド【学童】	1名	井口小	職員間交流
1月24日	井口小学校 展覧会	園児20名 スタッフ2名	井口小学校体育館	子ども間交流
2月6日	井口小学校 1年生との交流	園児20名 スタッフ2名	井口小学校1年生教室	子ども間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

毎月のケース会議で情報を共有し、支援計画の作成・見直しを行った。
また全スタッフが要支援児の情報を共有できるようにケース会議の内容を園会議にて共有し、適切な支援ができるようにした。
会議内容を共有していくことにより、全スタッフで適切な支援ができるようにしていく。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・４～３月に計12回開催　参加者：5名

各関係機関と連携を取りながら、担任、リーダーを中心に毎月ケース会議を行った。各関係機関と連携できたことで、適切な支援につながった。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

進級に対する不安を軽減するために、どのスタッフが対応しても同じ支援ができるようにしていく。
小学校への引継ぎは、年度末に各進学予定小学校と日程を決め情報共有を行った。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
76名	105名	141名	298名	146名	150名	246名	152名	139名	127名	173名	180名	1933名

実施項目	詳細												
園開放	（月）～（土）10：00～16:00　にて実施　　来園延べ人数：470名												
子育て相談	（月）～（土）10：00～16：00　　⇒計38件相談実施済み												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計23回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	14名	10名	12名	8名	17名	26名	14名	17名	27名	24名	34名	10名	213名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計22回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	14名	14名	18名	45名	30名	18名	18名	18名	33名	30名	24名	10名	272名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00　にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっぐだより	毎月1日発行												
青空保育 （支援センター主催）	月1回　　公園名：上連雀中央公園にて　以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	8名	31名	24名	0名	0名	0名	0名	50名	7名	0名	20名	30名	170名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審
今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施
２０２４年５月２４日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始予定時刻：9時30分
自己評価終了予定時刻：11時３０分
自己評価実施予定者：施設長、主任、調理員、事務

〈3〉利用者アンケートの実施
施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月２５日
アンケート回収率：100%

（省察）送迎時やその他の保護者対応にご意見が多かったので、次年度はさらに力を入れていきたい。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見
報告すべきご意見はなし。

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）
自治体報告かつ保護者会を開催した事案はなし。

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：三鷹どろんこ保育園 施設長　山田　理子

２０２４年度　万博公園どろんこ保育園　事業報告書
（保育所における自己評価）

１．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

どろんこ会の法人理念である『自分で考えて行動する』ことを念頭に置き、保育を進めてきました。今年度の保育目標である【広げて　紡ぐ　あい】を掲げ、様々なことに挑戦してきました。子どもも職員も保護者も地域の方たちもお互いに良さを引き出し合い、認め合い、絡み合い、たくさんの愛があふれた1年となりました。子どもたちはたくさんの体験の中から、取捨選択をしたり、折り合いをつけたりしながら、一回り大きく成長することができました。子どもたちの未来を見据えて、自らの力が存分に発揮できるように、生きる力を育んでいきます。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	どろんこ会の基本保育についての知識を深め、実践する
	実践結果	日課のひとつひとつの丁寧さ、裸足保育、長距離散歩、一つずつ行う意味を職員間で考えて深めていった 感じたことを伝え合い、より良い方向性を模索し、実践していた
	次年度方向性	職員間で気づきを共有し、一つひとつの活動を丁寧により質を高めていく 発達段階に合わせた活動の提供の仕方を考えていく
2	計画・ねらい	学びあう、育ちあう共主体保育を目指す
	実践結果	子どもの興味にアンテナを立てて、一人ひとりの子どもの力を信じて丁寧に関わると、集団の中で力を発揮できる子が増えた 自分が大切な存在と感じられるように、自分の感情と向き合う時間が持てるようにすると、相手の気持ちに気づき、折り合いをつけられるようになっていった
	次年度方向性	他者との共同の中で、自分の気持ちを大切にし、相手の気持ちにも気づける場を設ける
3	計画・ねらい	子どもが自発的に関われる環境を子どもとともに作っていく 物的・人的環境を整え、ゾーンをアップデートしていく
	実践結果	子どもの興味を拾い必要なものはなにかを考えて、スピード感を持って環境構成を仕掛けていった 大きな家と捉えて話し合いを重ねて、課題を抽出し改善することができた
	次年度方向性	大きな家と捉えて、子どもたちの好奇心をくすぐるようなゾーンつくりを進めていく

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者の立場に立ち、いつでも心地良い対応をする
	実践結果	保護者に対して笑顔で傾聴、丁寧な対応を心掛けた 一人ひとりに合った支援の仕方を、チームで、園全体で、話し合い構築していった
	次年度方向性	さらに丁寧な対応を心掛け、全職員が同じ温度感で対応できるようにする
2	計画・ねらい	子どもの育ちを喜びあえるような場を設ける
	実践結果	子どもの成長した場面を見逃さず、3分間対応で伝えられるようにした お迎え対応の内容を考える機会を設けて、内容の充実を図った 活動の速報を作り、育ちを共感できるようにした
	次年度方向性	子どもの育ちを分かち合えるように、保護者と共感しあえる掲示物や場を増やしていく
3	計画・ねらい	保護者がいつ訪れても気持ちが良い施設にする
	実践結果	子どもたちの探求心を満たす教材や資材が、整理整頓することにより必要なものが明確化した 在庫管理や清掃も意識して行えるようになってきた
	次年度方向性	清掃しやすい環境を維持し、一人ひとりの意識を高める 必要な物の見極めと、管理しやすい在庫の量の確立

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域の子育て家庭にとって、子育て支援の窓口となるような存在を目指す
	実践結果	青空保育、自然食堂、芸術学校、園庭開放などを実践し、地域の子ども同士、子育て家庭同士が繋がる機会を提供した
	次年度方向性	子育て家庭同士、地域の子ども同士が繋がる機会を提供し、安心して子育て相談ができる場となれるようにする
2	計画・ねらい	地域内外との繋がりを深めて、子育て支援拠点としての役割を担う
	実践結果	見学者や園庭開放に訪れた人たち、職場体験や実習生の受け入れを通しての交流の様子を地域にも発信していく 園庭開放利用者や園見学の人たちへのアナウンス、青空保育や公園に出向いての広報、商店街ツアーや実習生との交流を通して、子育て拠点であることを発信していった
	次年度方向性	地域内外との繋がりを深め、子育て拠点の役割を担う

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	大人のスキルアップ
	実践結果	各スタッフに目標設定を行い、面談を通して個々の課題を抽出し、進捗状況を追っていった 実践で学んだことを理論として結び付けられるように分析し、自らの学びをアウトプットし自己研鑽に努めることができた
	次年度方向性	目標設定が一人ひとりに合っているかを確認し、進捗状況を追う 学んだことはアウトプットしていく
2	計画・ねらい	保育の目線の捉え方を認め合い語りあう集団
	実践結果	園会議で継続し、各々の目線や感じ方を、互いに認めあう風土ができつつある 会話の中で10の姿と子どもの姿を重ねて、子どもを読み解く力が身に付きつつある
	次年度方向性	子どもの姿から読み取り、互いに認め合い、新たな目線の確立ができる機会を提供する
3	計画・ねらい	保育の引き出しを増やし、互いに学ぶ場を設ける
	実践結果	園長大学の講座を用いて、園会議で学びの場を広げていった わらべうたや遊びの引き出しが増やせるように、実践で学べる機会を提供した
	次年度方向性	実践で学べる機会を増やし、学んだことをアウトプットできる場を設ける

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	命をいただく
	実践結果	鶏を捌いて命をいただく経験をするために、職員間で時間をかけて話し合いを重ねて、今年度はいただくまでに至らなかった 食事の中で、感謝をしていただくと同時に生かされていることも学んだ
	次年度方向性	命あるものをいただいていることに感謝の気持ちを持つ いただきますの意味を考える
2	計画・ねらい	食の循環を毎日の畑仕事から肌で感じられるようにする
	実践結果	日々の畑仕事から、堆肥作り、土作り、種まき、間引き、収穫、野菜くず、と循環していることを実践から肌で感じた コンポストで発芽した芽を育てて、カボチャを収穫し、学びへと繋げた
	次年度方向性	畑で育てたい野菜を調べ、育てる機会を設ける 堆肥作りも意欲的に取り組む

3	計画・ねらい	食材の加工への興味を持つ
	実践結果	旬の食材を長持ちさせる日本ならではの伝統食への加工を行った 普段食べている調味料へ加工し、原材料への関心が深まった
	次年度方向性	伝統食への加工方法を様々な方法を試してみる 調味料の原材料を調べて、作ってみる

〈6〉チーム保育の強化

1	計画・ねらい	子どもの心情を読み取り語りあう
	実践結果	一つの事例から子どもの気持ちを読み取り、発達を踏まえながら子どもの成長について理解が深められた 10の姿に結び付けて、子どもの姿を捉えて語り合っていた
	次年度方向性	全職員で子どもたち一人ひとりの育ちを意識し、読み取り丁寧に関わっていく
2	計画・ねらい	認めあい、拾いあい、つむぐ輪
	実践結果	得意なことを認識して、学びあう姿勢を持ち続けていた 職員間で課題があるときに、チームで PDCA サイクルを回せることも増えてきた
	次年度方向性	課題を抽出して職員間で解決できるような導きを行う 得意なことを認識して、認め合う関係性の構築
3	計画・ねらい	コンサルテーション能力を高めていく
	実践結果	課題を整理し、職員に適宜助言・指導をこまめに行った
	次年度方向性	各々が得意分野を活かし、互いに認め合い吸収できる場を設けていく

〈7〉１００の本物の体験

1	計画・ねらい	道具の使い方を習得できる環境を作る
	実践結果	様々な道具を大人が使って見せて、実際に本物に触れる機会を設けた
	次年度方向性	実際に触れる機会を設けて、危険なものとの距離感を体得する
2	計画・ねらい	子どもが経験を選び取ることができる環境の設定
	実践結果	大きな家の中で、自分の意志で選び決めることができる環境を各クラス用意した

		玩具の数や細やかな動線など子どもたちの状況に合わせて、改善し折り合いをつける場面もあるように設定した
	次年度方向性	環境への意識を高めて、大きな家と考えた環境の設定
3	計画・ねらい	子どもの挑戦する気持ちを後押しする
	実践結果	子どもが立ち止まった時には、自分で答えが出せるまで見守り個の状況に応じて考える機会を設けた 保護者にも、丁寧に口頭や速報で伝え、心の動きを共感していった
	次年度方向性	速報を出す機会を増やし、子どもの育ちを共有する場を設ける 子どもの姿を見届けながら、後押しできるようにする。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半：4~9月	89人	90人	90人	90人	90人	108人	557人
年度後半：10~3月	90人	90人	90人	90人	90人	108人	558人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	151人	132人	134人	161人	140人	145人	164人	128人	143人	141人	142人	170人	1751人
うち0歳児	12人	18人	21人	31人	26人	29人	38人	24人	23人	30人	30人	35人	317人

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	15	9人	13人	8人	3人	6人	4人	5人	5人	5人	14人	8人	95人
うち0歳児	11人	9人	13人	4人	0人	0人	1人	2人	2人	2人	12人	6人	62人

（解説）見学者や口コミで一時保育の登録者数が増えた

〈2〉開所時間

7時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

常勤スタッフ	保育士	14人	看護師	1人	栄養士	2人		
パートスタッフ	保育士	3人	補助	1人	用務	1人	事務	1人
	用務	1人	嘱託医	2人				

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・活動の振り返り、共有事項
給食運営会議	月1回	・食事環境の見直し ・食育目標の当月の振り返り ・給食内容の検討
事故防止委員会	月1回	・事故記録・インシデント・ヒヤリハットの分析、再発衣防止
ケース会議	月1回	・配慮を要する子どもについての共有と協議
担任会議	週1回	・質の高い保育を行うために、課題抽出と協議

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長

食育会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長
主任会議	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	衛生的改善と疾病の予防、園全体の管理
安全対策係	職員の安全に対する意識を高め、施設内において様々な安全点検と対策を行う
防火管理者	防火管理に係る消防計画を作成し、防火管理上必要な防火管理業務を実施した
食品衛生管理係	食品管理に関する業務、食育会議の計画や実践
畑係	畑の環境整備、植物の病気の予防
生き物係	飼育動物の健康管理、環境改善

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	サポーターが中心となり、事前準備や当日の役割分担など協力し合い開催することができた。卒園児や地域の人たちも訪れて、関係構築に繋がった。
子育て支援・相談係	子育て支援ちきんえっぐの広報に務め、定期的に開催し交流の場を提供した。子育てに関する

4. 保育支援

〈1〉保育･保育参加･保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	・子どもたちへの日々の丁寧な関わりを意識して、課題を抽出し改善することを積み重ねてきた ・子どもたちが活動を選択し、選び取れる環境の見直し改善をして、主体的な活動が引き出されているかを考え、次につなげていた ・意見を伝え合い、ぶつかり合い、子どもたちがやりたいことができる環境が用意されて、受け止めてくれる人がいて、情緒が安定して過ごせていた ・午前中戸外で体を動かし、お腹を空かせてからご飯を食べるリズムが確立した
保育参加	4～3月まで　合計15名　が参加済み　　（3月1日時点）
保護者面談および発達相談	4～3月まで　合計３名　が参加済み　　（3月1日時点）

〈2〉計画した年間行事の振返り

・別紙「２０24年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	食事を楽しみにしていて、意欲的に食べられる子ども
	実践結果	戸外活動を充実させて、空腹感を感じてから食事するリズムが確立した 食事を心から楽しみにしている子が増えた
	次年度方向性	戸外活動の質を高めて、心も体も満たされるような食事時間を過ごせるようにする
2	計画・ねらい	食の循環を知り、SDGS を意識する
	実践結果	畑で収穫した野菜を味わい、野菜を育てるためには、堆肥作り、土地を改良するなど食の循環を肌で感じることができた
	次年度方向性	命をいただく経験を通して、食べ物のありがたみに気づき感謝の気持ちを持つ
3	計画・ねらい	食への関心を広げ、食を豊かにする
	実践結果	畑で収穫したものを自分たちで考え、調理し食べる機会を設けた 行事食、郷土食などと触れる機会を設けて、伝統文化を知り深めることができた 食事の豊かさを求めて、環境や動線など細かい部分まで話し合いを重ねた

	次年度方向性	様々な食品の原材料に触れて、関心を深めていく 食が豊かになるように、食環境を整えていく

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	６月13日／12月６日に実施
歯科検診	６月20日／11月14日に実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① ６月1日に5歳児に手洗い指導を実施 ② 12月９日に5歳児に性教育を実施 ③ 1月14日に1歳児に歯磨き指導を実施
流行した感染症	なし
発作・痙攣等の対応	対象園児なし
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月21日に自園にてエピペン研修を村上愛莉、市村広樹、八代未央計３名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ２４名のうち、２２名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	・８月３日、8月17日に香取台どろんこ保育園にて救急講習を村上愛莉、市村広樹、八代未央、木村美紀子計４名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ24名のうち、22名が使用可能
その他保健に関する取組	職員に感染症発生時の嘔吐処理の仕方やロールプレイを行う。プール使用の塩素取り扱いの仕方を行う。 新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底するなど各園で記載

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（法定1回/3年）	業者による対象物の法定点検 2023年実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月 ⇒4月１日、10月１日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日　実施済み
	児童健康診断	内科健診　各年2回／６月13日、12月6日 歯科健診　各年２回／６月20日、11月14日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時 ⇒4月16日、10月15日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間　実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	子どもたちが主体的に遊びこめるような環境設定
	実践結果	子どもたちが興味を持っている遊びを察知して、数の調整をして最適な環境を日々更新していった

	次年度方向性	子どもの目線に立ち、細かな修正をしていくことを継続していく
2	計画・ねらい	子どもが安心できる居場所を作る
	実践結果	大きな家として、子どもたちがどの空間にいても安心できる環境を整えていくために話し合いを重ねた 心の安全基地になるために丁寧に一人ひとりと向き合った
	次年度方向性	心の安全基地を作れるように、話し合いを重ねていく
3	計画・ねらい	子どもたちの遊びが継続的に広がる環境の設定された
	実践結果	遊びが継続できる安心感から、形を変えながら遊びの幅が広がっていった
	次年度方向性	続きが楽しみにできるような環境を、園全体で考えていく

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	レゴテーブル	幼児保育室	毎日	異常なし
2	配膳台(2台)	幼児保育室	毎日	異常なし
3	一本橋	園庭	毎日	異常なし
4	鶏小屋	園庭	毎日	異常なし
5	廃材入れ	玄関ホール	毎日	異常なし
6	平均台(2台)	遊戯室	使用前	異常なし
7	かまど	園庭	毎日	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	(防災)毎月の消防計画に基づき、避難訓練と消火訓練を行った(年12回) 消防署との合同訓練では通報訓練を行い、有事の際に慌てずに対応できるように繰り返し訓練している 引き取り訓練・不審者侵入対策では、実際を想定しながら保育者の配置や連携の取り方を確認した
2	実践結果	(けが防止)園会議内にて事故防止委員会を開催し、事故要因の分析・対索防止に努めている リスク管理表を活用し、傾向と対策を話し合う。SIDS に関しては定期的にガイドラインの確認・生存確認についてのテストを行う

3	実践結果	(防犯)不審者訓練、保護者への引き取り訓練を行った つくば中央警察署より、定期的に周囲防犯パトロールを実施していただく
4	実践結果	(光化学スモッグ)今年度発令なし

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

次世代育成の観点から、積極的に受け入れを行い、一人ひとりに合わせて具体的にかつ家庭的に援助指導を行った。今年度も筑波大学医学部看護学類からの実習生を受け入れ、養護教諭への様々な視点が持てるように学びの場を提供した。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
10月7～18日	筑波大学看護学類	５人	観察実習

〈3〉中高生の受入

今年度受け入れなし

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	16日 22名	21日 23名	18日 23名	16日 23名	20日 23名	17日 23名	15日 23名	19日 24名	17日 24名	21日 24名	21日 24名	18日 25名
園内研修	16日 21名	21日 22名	18日 20名	16日 21名	20日 21名	17日 20名	15日 20名	19日 21名	17日 23名	21日 23名	21日 22名	18日 25名

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
5月17日	キャリアコンサルティング	キャリア集合研修	1名	無
7月2日	キャリアコンサルティング	キャリア集合研修	1名	無
8月3日 8月17日	つくば市中央消防署	普通救命講習	5名 4名	有
8月16日	キャリアコンサルティング	キャリア集合研修	1名	無
10月18日	キャリアコンサルティング	キャリア集合研修	1名	無
9月13日 10月10日 11月14日 12月12日	園長大学	子どもの主体性を考える (計4回)	1名	無

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	21日 1名
施設長勉強会	16日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	9月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	参加者なし											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	参加者なし											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

地域の商店や官公庁との繋がりを深め、様々な世代と交流を行った。来年度は、さらに地域に根差した保育園となれるよう、密接に連携し様々な機会を増やしていく。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：吉祥公園にて　　参加延べ人数：4名
商店街ツアー	週1回　主な行き先：万博歯科、きくち呼吸器内科、しまだ耳鼻科、わかすぎ整形外科、セブンイレブン、キッチンこと、リボン、パスタマガーリ、カスミ、ダイソー、万博記念公園、コメリパワー、島名郵便局等
世代間交流	月1回ハッピーアワーズとの交流 茨城大学の学生との交流 園外保育、日常保育の中で積極的に交流する
異年齢交流	ちきんえっぐ利用者と積極的に交流する 小学校で授業見学と交流 日々の生活の中で、異年齢と共に過ごす
その他活動	10月22日　ヤクルト出前授業 11月26日　５園交流会 11月30日　豚汁会(どろんこサポーターズ主催) 12月4日　カスミスーパーマーケットツアー 12月5日　スリランカの文化に触れる 12月9日　産院で働いている保護者に、赤ちゃんの話を聞く

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

香取台小学校と積極的に関わることにより、交流する場が増えました。小学生を知ることだけではなく、園の子どもたちの育ちを知ってもらうことにより、互いを理解し深めることができたように感じました。滑らかな接続ができるように、更に深くコミュニケーションを図り継続していきたい。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
7月31日	香取台小学校	２名	高山学園保幼小連絡会 （香取台小学校）	職員間交流
10月24日	香取台小学校	21名	運動会見学 （香取台小校庭）	職員・子ども間交流
11月12日	香取台小学校 1年3組　担任	1名	園見学・交流会について (当園保育室)	職員間交流
11月22日	香取台小学校 2年生	10名	町探検 （園庭）	職員・子ども間交流
12月9日	香取台小学校 1年３組	20名	保幼小交流会 （香取台小教室）	子ども間交流
12月12日	香取台小学校 2年生	１名	お礼状をいただく (当園)	職員間・子ども交流
12月20日	香取台小学校 1年3組	20名	お礼状を届ける (香取台小教室)	子ども間交流
2月7日	香取台小学校 1年3組	20名	学習発表会 (1年3組)	子ども間交流
2月18日	香取台小学校	2名	児童の引継ぎ (香取台小学校)	職員間交流
3月4日	島名小学校	1名	児童の引継ぎ (島名小学校)	職員間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

今年度、対象園児なし

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

今年度、対象園児な

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

今年度、対象園児なし

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2名	6名	8名	6名	0名	6名	8名	8名	0名	2名	3名	3名	52名

実施項目	詳細												
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　　来園延べ人数：134名												
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　⇒計0件												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計13回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	2名	4名	6名	4名	0名	6名	6名	6名	0名	0名	2名	0名	36名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週（水）10:00～12:00　　⇒6回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	2名	0名	2名	0名	0名	2名	2名	0名	0名	2名	2名	12名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00　にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっぐだより	毎月1日発行												
青空保育 （支援センター主催）	月1回　　公園名：吉祥公園にて　以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	2名	0名	2名	4名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２４年１２月２７日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：13時30分
自己評価終了時刻：14時30分
自己評価実施者：施設長及び当日出勤の全スタッフ

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月２５日
アンケート回収率：100%

（省察）高い回収率となり、様々な意見が寄せられた。貴重なご意見をいただき、一つ一つのご意見に真摯に向き合い、改善する機会となりました。より良い園運営を

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見　０件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ(事故含む)　０件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年3月１５日　　作成者：万博公園どろんこ保育園 施設長　田中　恵

２０２４年度　メリー★ポピンズ 桶川ルーム
事業報告書
（保育所における自己評価）

１．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

少子化が進む現代の中、メリー★ポピンズ 桶川ルームは駅前園という利便性の高さもあり、園児数は常にほぼ定員に達している。また、一時保育事業でも、前年度より多くのご利用をいただくことができた。

発達支援つむぎ 桶川ルームと共にインクルーシブ保育を行い、障害のある、無しに関わらず子どもたちの力を信じて、生きる力、意欲を育み、たくさんの経験ができる保育を行ってきた。地域の中で、インクルーシブ保育の先駆けとなるよう、外部向けの子育て相談会の実施や、スタッフの勉強会などにも力を入れた1年だった。

『生きる力のある子どもを育てる』を礎とし、子ども・保護者様・スタッフが協働的に関わりながら、選ばれる園となるよう、地域に愛される保育を実施していく。

① 分け隔てなく全員が自己選択できる環境設定を行う
目の前の子どもを見て、何に興味があるか、どんなところを伸ばしてあげたいか、スタッフ同士で話し合いを重ね、子ども自らが様々な物にいつでも主体的に関われる環境、経験を選び取れる環境設定を行った。子どもが遊び込むことで、落ち着いて過ごすことができるようになった。

② 子どもを真ん中にしたインクルーシブ保育の実践
子ども同士のけんかやトラブル、うまくいかない経験の機会を作ることで、自分の中で折り合いをつける力が育まれてきた。子どもの「好き」や「やりたい」の気持ちを育んでいけるよう関わった。

③ 大人も主体的に学び、思考し、成長し続け、チーム保育を行う。
大人が主体的に学び、考え、動く姿を見せていくことを意識し保育にあたった。常に子どもを真ん中に、何が必要か、どうすべきかを模索し、話し合いや学びを深めることができた。また、園会議等で、学んだことをアウトプットし、全スタッフで共有することで保育の質を上げていった。全ての子どもを全てのスタッフで見守ることができるように、情報共有の徹底と、子どもの育ちについて、スタッフ同士が語る機会を作ることでチームとしての力をつけてきた。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	生きる力のある子どもを育てる
	実践結果	どろんこ会グループの日課と基本活動である、散歩９時出発・畑仕事・生き物の世話・長距離散歩を丁寧に行い、日常の生活・遊び・労働から生きる力を育ててきた。
	次年度方向性	日課を丁寧に行うことで、子どもの生きる力を育んでいく保育を継続していく。
2	計画・ねらい	子ども自らがいつでも経験の選択をすることができる物的環境の設定

	実践結果	環境構成の見直しを行い、今の子どもの様子を見ながら、どんな環境が必要かをスタッフで話し合い作り上げてきた。子どもを真ん中に、常に環境を変化させながら、子ども自身が選択できる物的環境を整えた。
	次年度方向性	子どもの興味・関心に合わせ、子ども自身が選択できる物的環境を引き続き作っていく。
3	計画・ねらい	保護者様、来訪者が見て気持ちの良い施設を作り、おもてなしの心を持って最高級の接遇で対応する。
	実践結果	・施設内の美観を維持し、整理整頓の徹底を行った。 ・接遇研修を園内で行い、スタッフの接遇向上を図った。
	次年度方向性	・引き続き、美観の維持に努める。 ・スタッフ全員の接遇力向上の為、研修機会を増やす。
4	計画・ねらい	地域にインクルーシブ保育を発信する。
	実践結果	市内の子育て支援センターにチラシを置いたり、園見学時にインクルーシブ保育の説明をしたりして、ちきんえっぐ利用者や、園見学に繋げた。 また、園見学時に丁寧に説明することで、一時保育利用にもつながった。
	次年度方向性	引き続き、インクルーシブ保育の取り組みを園外に発信していく。 子育て相談会などを定期的に実施し、地域、保護者の方の拠り所となる。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	・保護者の方と、子どもの育ちについて協働的に関わる。
	実践結果	家庭での様子をヒアリングしたり、園での様子をお伝えしたりすることで、保護者の方と子どもの育ちについて協働的に関わった。
	次年度方向性	保護者に、園での取り組みを理解していただき、スタッフと一緒に子ども達を見守る存在となるよう協力体制を築いていく。
2	計画・ねらい	・園と保護者の情報共有の場を積極的に作り、信頼関係を築く。
	実践結果	・どろんこサポーターを積極的に募り、一緒にどろんこ祭りを行うことで、園と保護者との繋がりを強化した。 ・個人を面談も引き続き行うことで保護者の方の不安が解消できるようにサポートする。
	次年度方向性	どろんこサポーターのさらなる活性化を図り、保護者と園が共に子どもを育てていく環境を作る。
3	計画・ねらい	・保護者同士の交流の場、スタッフとのコミュニケーションの場を作る。
	実践結果	どろんこ祭りを保護者と協働で行ったり、土曜日に保護者参加行事を設けたりしたことでコミュニケーションの場を作った。

	次年度方向性	保護者同士、保護者の方とスタッフの交流の場がより持てるように、どろんこサポーターの活動を増やしていく。

〈3〉地域の子育て支援事業

Ｉ	計画・ねらい	地域における子育て支援の重要性をスタッフ全員が理解し、実践する。
	実践結果	保育所保育指針を勉強会等で読み解き、スタッフ自身が地域における子育て支援の重要性の理解をはかった。
	次年度方向性	全てのスタッフが自主的に地域とつながる工夫を探し、地域の子育て支援の強化を意識する。
2	計画・ねらい	地域の子育てしている保護者の安らぎの場となる。
	実践結果	園見学等で周知したり、チラシを貼ったりすることで、ちきんえっぐ利用者の強化を図り、利用者増に繋げた。
	次年度方向性	一層の地域向けイベント等の強化をし、相談会等も積極的に開催していく。
3	計画・ねらい	地域の関係機関との連携強化
	実践結果	どろんこ祭りで関係各所にも案内を配り挨拶を行ったことで、連携ができるようになった施設も増え、地域のつながりが増えた。
	次年度方向性	桶川市のボランティア団体等の活動にも積極的に参加し、地域との関係をより強化していく。 桶川市内の保育園と情報共有する機会を設け、積極的に参加することで横のつながりを作る。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

Ｉ	計画・ねらい	どろんこ会グループのマニュアルの徹底
	実践結果	園会議等でロールプレイを繰り返し行い、マニュアルの徹底を行った。
	次年度方向性	全てのスタッフが同じ水準で保育を行うことができるように、引き続きマニュアルの徹底を行う。
2	計画・ねらい	法人の取り組みである、雑巾がけ、座禅、畑仕事等の日課を行うことの理解を深める。
	実践結果	園会議で日課を行う意味を考え、実践できるようにした。デイリープログラム通りに進めることができるように、スタッフ間で話し合いを重ね行った。
	次年度方向性	どろんこ会グループが定める日課についての理解を深め、スタッフ一人ひとりが自分の言葉で語ることができるようになる。

3	計画・ねらい	スタッフの学びの機会を設けていくことで、保育の質の向上を図る。
	実践結果	園会議でその時話し合いたいテーマをスタッフから集め、スタッフが中心に勉強会を行うことで、保育の質向上を図った。
	次年度方向性	地域向けの子育て相談会を定期的に開催し、スタッフが講師となることでアウトプットする機会を作り、保育の質向上に繋げる。
4	計画・ねらい	リーダーの育成
	実践結果	人の前で発表する機会や、アウトプットする機会を多く設けることで、自分自身の成長に繋げられるようにした。会議の進行も順番に回すことでファシリテーターの役割もできるようにした。
	次年度方向性	現場での状況を広く見る視野が持てるように、自分のクラスだけでなく、全体の状況把握ができる仕組みを作っていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	畑仕事、食材加工、捌いて食べる命をいただく等の活動を通し、食材や食の循環・環境への意識を育む環境教育を実践する。
	実践結果	自分で野菜を畑やプランターで育て、収穫し、食する経験を通じ、食について考える機会を作った。リボベジにも挑戦し、成長の様子を感じると共に、食材に対する意識の変化も感じられた。
	次年度方向性	畑作業を通して、食に関心が持てるように引き続き取り組みを強化する。魚の解体等を通して、食の循環や、命をいただくことについても学べる環境設定を行っていく。
2	計画・ねらい	給食残渣を減らすことで廃棄にかかる環境負荷を減らし、食べ物を大切に消費する。
	実践結果	子どもの食事環境の見直しを行い、一人ひとりに丁寧に関わることで、残渣削減に繋げた。
	次年度方向性	残渣を減らすことで環境負荷が減っていくという仕組みを、子どもと一緒に考え取り組みを行っていく。
3	計画・ねらい	木や竹、花などに触れる機会を作り木育を行うことで、環境保全の意識を持つ。
	実践結果	どろんこ祭りで木工遊びを行ったり、竹でランタンを作ったり、木と触れ合う機会を多く持つことで木育の推進を図った。 全国植樹祭の苗木のスクールステイを行い、森林保護について話を聞くことで環境について考える機会を持てた。
	次年度方向性	引き続き、木や花とのふれあいの機会を増やし、森林保護について関心を持つことで緑を大切にする心を育んでいく。 また、関係機関とも積極的に関わり、環境について考える機会を持つ。

〈6〉インクルーシブ保育の実践

1	計画・ねらい	併設園の強みを活かしたインクルーシブ保育を実践する。
	実践結果	保育園、児童発達支援のスタッフの垣根を無くし、全てのスタッフが全ての子どもを見守るチーム保育を行った。 要支援児のケース会議では、つむぎスタッフからの助言も得て、その子に必要な支援が行っていけるよう環境設定を行った。 保護者につむぎについて知っていただく機会を作り、相談しやすい環境で利用にも繋げられるようにした。
	次年度方向性	引き続き大人も子どもも共に育つインクルーシブ保育が推進できるよう、園の保護者にもつむぎについて知っていただく機会を作り、併設園としての保育を行っていく。
2	計画・ねらい	全ての子どもの育ちを全てのスタッフが共有する。
	実践結果	スタッフ間の情報共有が徹底されるよう、会議内容は議事録で全員が九人できる仕組みを作った。
	次年度方向性	子ども一人ひとりを全てのスタッフで見守ることの必要さ、面白さ、難しさを共有し、目の前の子どもの育ちを全スタッフで共有する。
3	計画・ねらい	スタッフ一人ひとりがチームとしての意識を高める。
	実践結果	スタッフ間での連携を密にし、声を掛け合うことで、チームとして子どもを見守った。
	次年度方向性	スタッフ一人ひとりが学ぶ意識を持ち、主体的に取り組むことができるよう、個々が課題を見つけて取り組む。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半：4~9月	30人	72人	72人	72人	72人	67人	385人
年度後半：10~3月	36人	72人	72人	72人	72人	66人	390人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総	92人	115	111	94人	81人	129	196	91人	93人	91人	82人	91人	1266

人数		人	人			人	人						人
うち0歳児	0人	0人	5人	0人	0人	0人	0人	0人	4人	1人	1人	1人	12人

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	14人	17人	26人	22人	19人	14人	19人	43人	33人	44人	42人	42人	335人
うち0歳児	4人	8人	9人	3人	4人	6人	12人	15人	9人	17人	21人	20人	128人

〈2〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

常勤スタッフ	保育士	11人	看護師	0人	栄養士	2人	調理員等	0人
パートスタッフ	保育士	7人	補助	0人	調理	0人	事務	1人

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・施設長会議からの報告事項確認
給食運営会議	月1回	・給食計画実施内容の確認 ・喫食、残食状況の確認と共有 ・配膳、片付け方についての提案 ・離乳食・未食・アレルギーの確認と共有
事故防止委員会	月1回	・ヒヤリハット、インシデントの分析

		・自園及び系列園で起きた事故のケーススタディ ・ハザードマップの見直し
ケース会議	月1回	・個別支援計画の振り返りと地付きの課題抽出
週会議	週1回	・乳児、幼児に分かれ、次週の予定確認 ・共有事項の確認 ・活動内容、環境設定について

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
食育会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長
主任会議	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士
併設園会議	年2回	施設長

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	・手洗い指導 　保育者への習慣づけを促し、そこから真似をする子どもたちへの促しを行った。 ・熱中症対策 　絵本や紙芝居等を用いて、熱中症に対する意識を持てるようにした。
安全対策係	・避難靴のサイズ確認を定期的に行い、保護者に促した。 ・園内、公園での危険個所を洗い出し、ハザードマップに追記した。 ・園内の修繕が必要な箇所には、適切に修繕を入れた。
防火管理者	・毎月の避難訓練の実施、消火訓練の実施。 ・訓練前は、ポスター掲示を行い、近隣に周知した。

	・毎日、毎月、必要時の点検を行った。
食品衛生管理係	・調理室の衛生管理 ・離乳食、未食、アレルギーの対応
畑係	・作物栽培の計画、準備、購入 ・畑での物品購入の発注
写真係	写真販売の写真整理と確認

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	保護者の方の主体性を尊重しながら、計画、準備、活動を共に行った。地域の方への広報も力を入れたことで、集客数も集まり、盛大に行うことができた。 秩父市から借りた木のボールプールを設置し、乳児も木との触れ合いを楽しめるコーナーを作り、木育の促進を行った。
運動会係	園庭で、子どもたちは普段の様子をのびのび保護者の方に見せることができた。
生活発表会係	子どもたちの成長の様子を見ていただけるように、園内での開催とした。各クラスの発表の他、製作を自由にみていただける部屋を作り、成長を感じていただける機会とした。
入園式・卒園式係	手作りの入園式では、暖かい雰囲気の中子どもたちも落ち着いて参加し、入園に期待を持つことができた。

4. 保育支援

〈1〉保育･保育参加･保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	・園での保育の様子を伝える為、お迎えボードを玄関に設置し、一日の様子を伝えられるようにした。また、持ち物や連絡事項も伝えられるようにした。 ・連絡帳やタイムライン、お迎え対応時などに、丁寧にお伝えを行った。 ・年度末には、希望者に個別の面談を行い、園での様子をお伝えするなど保護者の方に寄り添った。
保育参加	4～3月まで　合計16名　が参加済み　　（2月28日時点） ・保育の様子がいつでも見られるように玄関にカレンダーを設置し、常時保育を

	公開した。年度末などは利用者も多く、アンケートでも好評を得た。
保護者面談および発達相談	4～3月まで　合計16名　が参加済み　　（2月28日時点） ・発達に関する相談、園での様子や友達との関わりに関しての相談があった。 ・２月は『個人面談月間』として周知し、進学や進級に向けての保護者の不安に寄り添った。

〈2〉計画した年間行事の振返り

・別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	・意欲的に食べる子どもが増えるよう、食への関心を広げる
	実践結果	・午前活動の時間をしっかり確保することで、十分の身体を動かして遊び、自然とお腹の空く環境を作った。 ・生活の中で、玉ねぎの皮をむいたり、野菜を洗ったり、食事作りや準備に関わることで興味関心を持てるように促した。 ・畑仕事から、食への興味関心を広げた。
	次年度方向性	・畑仕事、野菜洗いや皮むきなどを通して、食への関わりを増やし、興味関心が持てるように引き続き行う。 ・献立等を示しておくことで、その日に自分が口にする食べ物の栄養素などにも興味が広げていけるように取り組みたい。
2	計画・ねらい	・保育士、栄養士、全てのスタッフが口腔発達を理解し、食事提供を行う。
	実践結果	口育士を講師に招いて、スタッフの勉強会を行い、口腔発達の理解を深めた。離乳食の実際の与え方なども学び、実践に活かすことができた。
	次年度方向性	次年度もスタッフの勉強会等を行い、口腔発達の理解を深め、適切な援助ができるようにする。
3	計画・ねらい	・自然の恵み、命の大切さに気付く
	実践結果	畑で育てた野菜を収穫して食す経験や、野菜のリボベジにも挑戦した。
	次年度方向性	自分たちで育てた作物を調理する機会を多く作っていく。また、魚の解体や、鶏の解体等、大人が子どもに対して学びに場を提供していく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月12日／11月13日に実施
歯科検診	6月28日に幼児室にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	12月13日幼児保育室にて歯磨き指導を実施 1月21日に1歳保育室にて歯磨き指導を実施 スタッフが手洗いの見本を見せること
流行した感染症	11月に手足口病、園児7名蔓延し、保護者へ報告
発作・痙攣等の対応	２月14日1歳女児38.2℃発熱の為ダイアップ使用 緊急時の内服薬の使用なし その他、6月26日に０歳児アレルギー反応の為救急車要請
エピペン使用できるスタッフの状況	・本日時点で、在籍スタッフ21名のうち、21名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	・10月5日に保育室にて救急救命講習を行い、６名のスタッフが参加。 ・本日時点で、在籍スタッフ21名のうち、20名が使用可能
その他保健に関する取組	・新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。 ・５歳児に対し、胎児人形等を使って性教育を行った。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み

	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（法定1回/3年）	業者による対象物の法定点検 2023年実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月 ⇒4月5日、10月1日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日　実施済み
	児童健康診断	内科健診　各年2回／6月12日、11月13日 歯科健診　各年1回／6月28日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時 ⇒4月12日、10月11日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間　実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	整理･整頓を意識し､必要なもの以外置かない気持ちの良い空間を作る。
	実践結果	掃除の仕組み作りを行い、定期的に声を掛ける担当などを決め、整理整頓が維持できるようにした。
	次年度方向性	内部監査における指摘項目の是正を中心に、仕組み作りを再構築し、施設全体で取り組んでいく。
2	計画・ねらい	子どもが自発的に興味､関心のあるものに取り組み､自ら学び挑戦し続けられるような環境設定を行う。
	実践結果	目の前の子どもを見て、どんな環境が必要かを考え、スタッフ同士で話し合い、具体的に環境を変えながら物的環境を整えてきた。 子どもが選び取って遊べる空間を作ると、子どもたちが遊び込むことで落ち着いた環境になってきた。
	次年度方向性	引き続き、子どもを真ん中に、スタッフで話し合いながら環境設定をしていく。
3	計画・ねらい	子どもがホンモノに触れる機会を作る。

	実践結果	木のボールプールや、竹のランタン、クラリネットなどの楽器など、ホンモノに触れる機会を作った。
	次年度方向性	ホンモノに触れる機会を引き続き用意し、たくさんの経験ができるようにする。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	なし			

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	園における事故に関する安全管理危機管理マニュアルを設置し、全てのスタッフは各自内容を読み込み理解して、マニュアルに基づいた運営管理を行った。
2	実践結果	事故発生時における危機管理マニュアルを設置し、全てのスタッフは各自内容を読み込み理解して、マニュアルに基づいた運営管理を行った。
3	実践結果	スタッフは救急救命講習を受講し基本的な知識をもち、事故発生時には適切な連携を取ることができるようにした。 スタッフ全員が万が一の事故発生時、被害者に対し誠実に対応する心構えを持った。外部的要因による事故に関する安全管理・スタッフの共通理解と施設内の体制の確保を行った。また、施設外の活動における安全確認や、不審者等の情報がある場合の連携体制の確認を行った。
4	実践結果	防火管理者を選任し、所轄の消防署へ遅延なく届出た。消防法に定められた必要事項を満たした消防計画を策定し、消防計画の内容を周知、実施した。避難、消火、通報訓練は、法令、通達で定められた回数実施した。 避難器具や消火器を適正な場所に設置し、消防設備等の自主点検を行った。
5	実践結果	夏場は、環境省と県から発令される熱中症警戒アラートに従い、戸外活動の制限や、日陰で過ごせるよう配慮した。
6	実践結果	光化学スモッグでは、桶川市からの情報を素早くスタッフに周知し、園外にいる場合、素早く日陰に入り園に戻るなどの対応をとり、子どもたちの健康状態に留意した。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

保育園は地域の社会資源であり、地域研修の場であることを意識し、実習生、研修生を積極的に受け入れた。次の世代を担う保育・福祉の場で活躍する人材を育成し、また、自園スタッフの自身の保育を振り返るきっかけに繋げ、共に成長の機会となった。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
7月31～ 8月10日	国際学院短期大学 幼児保育学科	2人	責任実習
7月16～29日	大宮こども専門学校	1人	責任実習
7月22日～26日	大宮こども専門学校	1人	観察実習
8月26日～ 9月7日	日本児童教育専門学校	1人	責任実習
1月27日～ 2月8日	大原こども専門学校	1名	観察実習
2月3日～ 2月17日	星美学園幼児保育学科	1名	観察、部分実習
2月11日	立正大学	1名	保育体験

〈3〉中高生の受入

なし

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	12日 25名	10日 27名	7日 26名	12日 27名	9日 27名	6日 25名	11日 26名	8日 23名	6日 22名	10日 29名	21日 27名	2日 28名
保育実践研修	12日 25名	10日 27名	7日 26名	12日 27名	9日 27名	6日 25名	11日 26名	8日 23名	6日 22名	10日 29名	21日 27名	2日 28名

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
1月14日～ 26日	東北福祉カレッジ	サービス管理責任者等基礎研修	1名	有

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	21日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	12月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

近隣の保育園や幼稚園、小学校、商業施設等との関わりを持ち、コミュニケーションを大切に関わった。また、保護者や地域の方を対象とした子育て相談会を商業施設内にポスターを掲示し集客を行った。子育てに不安を抱える地域の方が集まり、話の出来る機会を作る等、地域に貢献できる活動を行った。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：駅西口公園にて　　参加延べ人数：14名
商店街ツアー	週1回　主な行き先：東武ストア、消防署、マクドナルド、中央図書館、保健センター、ひまわり堂、日本メディカル、稲荷神社、桶川駅、郵便局、市民ホール、ハートスマイル、ぷちとまと等

世代間交流	月1回トミオ桶川べにばなテラスにてシニア交流
異年齢交流	8月1日に幼児保育室にて桶川西高校移動水族館を実施
地域交流	12月26日おけがわマインエンジョル広場にてクリスマスコンサートを実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

小学校までの通学路を歩いたり、授業の見学に行ったり等、交流を持つことができた。小学校の都合もあり、交流の回数が少なかった。
小学生の姿から逆算した保育を行っていくため、次年度も学ぶ機会を増やしていきたい。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
5月25日	桶川小学校	13名	運動会を見学しよう（桶川小校庭）	子ども間交流
2月12日	桶川小学校 1年生	11名	授業を見てみよう（桶川小学校）	子ども間交流
2月13日	桶川市内小学校	2名	幼保小連絡協議会（桶川市役所）	職員間交流
2月26日	朝日小学校	11名	通学路を歩こう（朝日小学校）	子ども間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

個別支援計画作成の対象者は6名。支援計画策定後は、月に1回振り返りのケース会議を行った。担任の他、主任、つむぎスタッフも加わり、専門的な視点からも意見を出して会議を行うことができた。また、つむぎの支援利用に繋がる児が3名でき、普段の園生活の中でより支援ができるようになった。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・４～３月に計12回開催　参加者：各回5名

毎月月末にケース会議を開催。つむぎスタッフも参加することでそれぞれの立場から多角的に子どもを捉え、支援計画を立てることができた。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

要支援児への支援内容、目標などはスタッフ全員で周知し、継続的な支援が保育の中で行っていけるように配慮した。また、全てのスタッフが同じように支援できるよう体制を作った。
小学校への引継ぎは、児童要録や就学支援シート等を利用し、個別の配慮できるようにした。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
25名	39名	36名	439名	72名	107名	183名	117名	42名	67名	65名	70名	1262名

実施項目	詳細												
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　　来園延べ人数：1262名												
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　⇒計2件相談実施済み												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週（水）10:00～12:00 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週（水）10:00～12:00 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00　にて実施 無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっぐだより	毎月1日発行												
青空保育 （支援センター主催）	月1回　　公園名：駅西口公園にて　以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	8名	4名	0名	0名	0名	0名	0名	2名	0名	2名	4名	20名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２６年２月１日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：１３時３０分
自己評価終了時刻：１４時３０分
自己評価実施者：千葉彩華、軽部瑛子、村田智恵美

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月２５日
アンケート回収率：124.1％

普段あまり話をする機会の少ない保護者の方や、祖父母の方々にもアンケートにご協力していただき、回収率が100%を上回ることができた。子どもを真ん中に、より良い園運営の為、また、利用者の方の思いも受け止め、今後に活かしていく。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見　０件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む）　0件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：メリー★ポピンズ 桶川ルーム 施設長　千葉 彩華

２０２４年度　北千住どろんこ保育園　事業報告書
（保育所における自己評価）

１．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

みんなが主人公という園目標を掲げ、子どもも大人も全力で園生活を楽しんだ一年となった。
日々、子どもの生活力を向上させるために必要なねらいや活動を職員同士が話し合い、実践する姿が多くあった。
今年度取り組んだ大人が子どもに背中を見せて育ち合うための学びは、引き続き取り組んでいく。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

１	計画・ねらい	温かい雰囲気の中で子どもを中心に置いた丁寧な保育を追求する。
	実践結果	毎月の園会議で園長大学@保育士大学の視聴及び、議論と、勉強会を設けて、子どもを中心に置いた保育ついて考え、職員がみな穏やかで丁寧な保育ができるようになったと感じる。 保育の中での気づきを職員間で活発に振り返る姿があり、そこも丁寧な保育につながっていると感じる。
	次年度方向性	子どもを中心に置いた保育の追求と、温かい雰囲気の保育園は継続しながらより学び合う機会を増やし、個々の人的スキルの向上に努めていきたい。
２	計画・ねらい	気持ちよく過ごせる環境設定及び、美観を意識した清掃体制を作る。
	実践結果	子どもの今の状況に合わせた環境設定を行うことで、子どもが自分で活動を選んで集中して遊ぶ姿が増えた。また、清掃箇所を当番制にすることで美観に対する意識し、仕組みづくりを行った。
	次年度方向性	より発達の観点からも環境設定を行い、自主性を伸ばし、必要な経験をより多くできるようにしていく。
３	計画・ねらい	虐待の定義について学び、子どもがのびのびと過ごせる保育を展開する。
	実践結果	園会議の中で虐待とはどのようなものがあるか、自分がされて嫌だと感じることは何かを話し合い、自分の行動を見つめなおす時間を２回設けた。
	次年度方向性	学びを活かし、保育にあたる。また日々の保育の中で、気になったことがあった場合、職員同士で声を掛け合い、虐待の疑いさえもない保育者となる。

〈２〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

１	計画・ねらい	子育てが楽しいと感じられるような保護者支援を目指し、最高のパートナーとなる。
	実践結果	保護者が保育者に話しかけやすい雰囲気であるために、職員は、縁側を歩く際、ゆっくり歩き、保護者に挨拶を進んでするように心がけた。その結果、保護者と話す機会が増えた。

	次年度方向性	子育ての楽しさや、給食のレシピなどの発信をし、ともに子育てや成長を感じていきたい。
2	計画・ねらい	保護者同士がつながりを持てるようなどろんこサポーターズや、おやじの会の活動の場を作る。
	実践結果	どろんこ祭りでつながりを持ったどろんこサポーターズの働きかけにより、運動会での準備体操や、築山づくりに多くの保護者が参加し、保護者同士のつながりが広がった。
	次年度方向性	園とどろんこサポーターズが手を取り合い、子育てを楽しめるようなどろんこ祭りにし、さらに横のつながりを広げられるようにする。
3	計画・ねらい	掃除の行き届いた施設
	実践結果	縁側の水道、室内の水道など、もれてしまいがちな箇所を毎日必ず掃除する仕組みを作り徹底した。
	次年度方向性	５歳児の当番活動に組み込むなど、子どもと一緒に行う活動も取り入れ、大人も子どももきれいな施設を意識できるようにしていく。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域子育て支援事業の実施
	実践結果	おはなしかご、音楽で遊ぼうを開催し、地域の妊婦、子育て家庭に参加していただき園を知ってもらう機会となった。
	次年度方向性	家庭における子育てのヒントとなる講座を開催するとともに、子育て相談の場として提供していく。
2	計画・ねらい	ちきんえっぐを気軽に利用していただけるプランを立て、広く周知できるように情報発信をしていく
	実践結果	園庭開放、ヤギ、鶏の餌やり。自然食堂、芸術学校を園にて開催した。千住旭公園にて月に一度、青空保育を開催した。
	次年度方向性	チラシの配布、掲示を行い、自然食堂、芸術学校の認知度をあげていく。
3	計画・ねらい	孤立する子育てを少しでも減らせる場として、「地域に開かれた子育て支援」ができる園を目指す。
	実践結果	園見学に来た際に、声をかけて園庭開放や保育園体験に誘い園を体験してもらう機会につなげた。
	次年度方向性	青空保育や、園見学に参加したご家庭に積極的に声をかけ、ひとりでも多くの方に保育園を知っていただき、孤立する子育ての軽減につなげる。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	チーム保育の向上を図る。
	実践結果	乳児、幼児共にリーダーを中心としたチームの構築に努めた。
	次年度方向性	乳児、幼児それぞれのチーム力の向上が見られたが、さらに園全体のチーム力を上げるべく、意見交換を活発に行っていく。
2	計画・ねらい	子どもの人権を学ぶ。虐待防止について学び徹底した対応をする。

	実践結果	園長大学@保育士大学の視聴及びディスカッションを行い、虐待に対する意識を統一化し、保育にもちこまないように努めた。
	次年度方向性	子どもを真ん中に置いた保育の徹底、大人都合で子どもに接しない、子どもの心を傷つけていないかを常に頭に置き、保育にあたる。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	園スタッフ自身のにんげん力を育てる。子どもたちのにんげん力をはぐくむためには大人のにんげん力（人間環境）が大切であることを学ぶ。
	実践結果	園会議内で、園に足りないことを考え、どうしたらよいかを考え、提案する時間を設け、一人ひとりの意識の向上を図った。
	次年度方向性	一人ひとりが常に現状に満足することなく、丁寧な保育の追求をする。また、アウトプットすることで共通意識をもって保育にあたる。
2	計画・ねらい	日課の確立を図る。
	実践結果	リズム体操、畑仕事、雑巾がけ等の意味、やり方等を職員間で見直し、今まで以上に子どもに伝えながら一緒に行うようにした。
	次年度方向性	日課の取り組みについて職員間のでの意識のすり合わせを行い、子どもとともに日課に取り組む意味を理解したうえで、取り組んでいく。
3	計画・ねらい	食の循環についての意識を高める。
	実践結果	畑仕事・ヤギや鶏などの生き物の小屋掃除と糞の始末・堆肥作り・堆肥の畑活用・命の循環教育を丁寧に行った。
	次年度方向性	さらに畑仕事の精度を上げるため、職員が専門知識を学び入れ、畑活動に取り入れていく。

〈6〉真のインクルーシブ保育を実践する施設づくり

1	計画・ねらい	個々の発達に合わせた個々への配慮と支援を行っていく。
	実践結果	月毎に支援児会議を行い、個々に合わせた支援を行った。また、子ども同士のかかわりを多く持てるように適正の距離での保育にあたった。
	次年度方向性	子ども同士での育ち合いを大切にしながら、その子に合わせた支援を行っていく。
2	計画・ねらい	要支援児、つむぎ利用児、保育園児等、形態にとらわれず、子ども同士のつながりを大切にする園づくりをする。
	実践結果	発達支援つむぎ北千住ルームと連携を取りながら、保育している。子どもが助けたり、一緒に遊んだりする姿があり、保育者の学びにつながっている。
	次年度方向性	保育園、つむぎの枠を取り払い、全員で子ども中心の保育の展開と見守りを行う。インクルーシブ保育の学び、実践を継続して行う。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半：4~9月	36人	72人	72人	120人	120人	120人	540人
年度後半：10~3月	36人	72人	72人	120人	120人	120人	540人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	30人	31人	32人	34人	36人	35人	35人	33人	39人	39人	39人	39人	422人
うち0歳児	0人	2人	2人	3人	2人	3人	4人	3人	3人	3人	3人	3人	31人

（解説）18時半以降利用の児童

〈2〉開所時間

７時００分～２０時３０分

〈3〉スタッフ構成　（３月１日時点）

常勤スタッフ	保育士	15人	看護師	1人	栄養士	4人	バス運転手	2人
パートスタッフ	保育士	2人	補助	2人	事務	1人	用務	1人
	嘱託医	1人						

3. 運営報告

〈ｌ〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月ｌ回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・当月の行動計画の成果発表 ・次月の行動計画決定
給食運営会議	月ｌ回	食育計画策定／食育活動実施内容／喫食状況確認／検食簿指摘事項改善／配膳方法など
事故防止委員会	月ｌ回	自園及び系列園で起きた事故のケーススタディと改善策策定／全園事故防止委員会での内容共有／当月のヒヤリハット・インシデント分析
ケース会議	月ｌ回	要支援児個別計画の振り返り及び省察／要支援児個別計画の見直し
乳児会議	週ｌ回	乳児クラスについての情報共有
幼児会議	週ｌ回	幼児クラスについての情報共有

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月ｌ回	施設長
施設長勉強会	月ｌ回	施設長
食育会議	年4回（5.8.ll.2月）	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回（5.8.ll.2月）	施設長
主任会議	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月ｌ回	保育士
併設園会議	年2回	施設長

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	園舎、職員、園児衛生全般の改善と感染症予防対応、衛生管理全般の管理。掃除チェック表管理・細菌検査とりまとめ・予防接種把握・身体測定などを行う。
安全対策係	様々な災害を想定した訓練実施。施設内避難経路の管理点検設備点検チェック、事故防止チェック、防災自主点検、不審者侵入訓練を計画し実施する。
防火管理者	防火管理に係る消防計画を作成し、防火管理上必要な業務（防火管理業務）を計画的に行う。
食品衛生管理係	食育会議の計画や実践。食品の安全に関する管理や啓蒙をする。
畑係	畑の管理をする。
生き物係	生き物に関すること全般。

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	どろんこ祭り実施に係る取りまとめをする
運動会係	運動会実施に係る取りまとめをする
生活発表会係	生活発表会に係る取りまとめをする

4. 保育支援

〈1〉保育･保育参加･保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	特になし
保育参加	4～3月まで　合計16名　が参加済み　　（3月31日時点）

保護者面談および発達相談	4～3月まで　合計0名　が参加済み　　（3月31日時点）

〈2〉計画した年間行事の振返り

・別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	友だちや身近な大人と親しみを持って、好きな場所で、好きな人と、自分の食べられる量を、楽しい時間空間の中で食べる。
	実践結果	バイキング方式を実施。大人が決めすぎない設定の中で食事ができる環境づくりをし、楽しく食事ができるような工夫をしながら実施することができた。
	次年度方向性	午前めいっぱい使い園外で活動した後で給食に流れていけるような取り組みを考え、仕組みづくりをする。
2	計画・ねらい	食の循環を知る。命の大切さを学ぶ。
	実践結果	コンポストで土にかえったものを使って畑活動をすることができた。鶏の解体などの経験から命をいただくことの重みを感じることもできた。
	次年度方向性	食の循環を身近なものから伝えていき、食に対する意欲や、完食する気持ちにつなげていく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	５月２２日／10月２３日に実施
歯科検診	６月２５日に自園にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 5月13日に自園にて手洗い指導を実施 ② 8月5日に自園にて歯磨き指導を実施 ③ 12月27日に自園にてからだの仕組みについての話を実施
流行した感染症	①　4月にインフルエンザ、園児1名感染報告有り。 ②　5月に園児手足口病1名、溶連菌感染症5名、ヘルパンギーナ1名RS ウイルス5名感染報告有り。

	③　6月に園児溶連菌感染症4名、咽頭結膜熱7名感染報告有り。 ④　7月に手足口病園児18名蔓延し7月21日に終息、ヘルパンギーナ1名感染報告あり。 ⑤　８月に手足口病2名、咽頭結膜熱1名、インフルエンザＡ型1名、新型コロナウイルス1名感染報告有り。 ⑥　9月に手足口病2名感染報告有り。 ⑦　10月に手足口病2名、マイコプラズマ肺炎7名感染報告有り。 ⑧　11月にマイコプラズマ肺炎2名、新型コロナウイルス1名感染報告有り。 ⑨　12月に感染性胃腸炎1名、インフルエンザＡ型2名感染報告有り。
発作・痙攣等の対応	なし
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月21日に自園会場にてエピペンシミュレーション研修を金子仁美、佐々木彩乃、佐藤優実、安田遥那、東海林茜、川畑咲、野村実久、米川舞、野田尚子、大貫琴美、丸島雅子、森山颯紀、今村由季乃、鈴木沙桜里、宮倉なつ実、千田加奈子、袴田明世、沼倉菜緒、小川桃佳、渡邉里菜、佐野亜美、青木雅美、高橋涼介、計23名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ27名のうち、24名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	AED 未設置
その他保健に関する取組	感染症予防のため、うがい手洗い、こまめな水分摂取を促した。 感染症発症時、ピューラックスを使用した消毒、こまめな換気を行った。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（法定1回/3年）	業者による対象物の法定点検 2023年実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施

衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月 ⇒4月1日、10月1日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日　実施済み
	児童健康診断	内科健診　各年2回／5月22日、10月23日 ※0歳児は毎月年12回 歯科健診　各年1回／6月25日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時 ⇒4月26日、10月25日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間　実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	子どもたち自身が主体的に、またいつでも経験の選択をすることができる環境設定をする。
	実践結果	環境設定は日々の振り返りや、子どもの発達に合わせて行い、子ども自らが選択し、遊び込めるよう保育者は適切な関わりや言葉がけ、物を用意し、豊かな発想や自信を備え、学びの芽生えとなる環境を整備した。
	次年度方向性	経験の選択をする環境設定をし、物の正しい使い方を伝えていく。また、道具を使う際の注意力や、集中力を付けていく。
2	計画・ねらい	環境の与える影響を理解し、人的環境・物的環境を整える。
	実践結果	子どものための環境を追求する。人的環境を整えるために勉強会を開き保育のスキルの向上に努めた。
	次年度方向性	成長、発達に合わせた環境設定を随時行い、子どもの発達を促していく。
3	計画・ねらい	園長大学®・保育士大学による環境構成についての講座を受講する。
	実践結果	学んだことを生かして子どもたち自身が主体的に選べるように適時、環境設定をした。
	次年度方向性	子どもの興味関心を引き出す環境設定について学び、意見交換しながら環境設定を行っていく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
Ｉ	ベンチ	園庭	毎日	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

Ｉ	実践結果	防災…危機管理マニュアル№３の災害対策に則り、消防訓練・避難訓練・避難訓練開催通知・自衛消防訓練通知・上級救急救命資格取得（継続）手続き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛防災…危機管理マニュアル№３の災害対策（Ｐ.12～）に則り、消防訓練・避難訓練・避難訓練開催通知・自衛消防訓練通知・上級救急救命資格取得（継続）手続き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛消防組織と安全対策係の設置・緊急地震速報運用を行い、災害発生時には対応フローチャートに従う。
2	実践結果	ケガ事故防止…危機管理マニュアル№３のけが事故防止策・安全点検と保全（Ｐ.14～）に則り、事故防止チェックおよび設備点検チェックの実施、安全教育、ＳＩＤＳ防止策を行い、けが発生時には対応フローチャートに従う。
3	実践結果	防犯…危機管理マニュアル№３の不審者対策（Ｐ.20～）に則り、不審者侵入訓練の実施、笛の携帯、代理送迎者の把握、不審者情報の収集と共有を行い、不審者侵入時にはフローチャートに従う。
4	実践結果	光化学スモッグ…危機管理マニュアル№３の光化学スモッグ対策（Ｐ．２Ｉ～）に則り、光化学スモッグの知識を身につけ、注意報発令の把握を行いながら、発生時には光化学スモッグ発生時対応および行政連絡に従って対応する。

6. 実習生・中高生の受入

〈Ｉ〉今年度の振返り

今年度は積極的に近隣の中・高校へ働きかけをし、中・高校生の職場体験を多く実施することができた。また保育科の大学生との交流から、大学探検の場をいただくことができ、世代間交流の場が増え、将来保育士を目指す学生への刺激となることができた。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
5/2Ｉ、5/23、7/2、7/4	日本児童教育専門学校	3名	見学実習

6月10～21日	東京こども専門学校	1名	責任実習
7月22～8月2日	東京こども専門学校	1名	責任実習
7月30～31日	東京こども専門学校	2名	ボランティア実習
8月13～26日	日本児童教育専門学校	1名	部分実習
8月19～29日	帝京科学大学	1名	責任実習
2月3～19日	十文字学園女子大学	2名	部分実習
2月17～3月3日	日本児童教育専門学校	1名	部分実習

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
7月19日	足立学園中学校	1名
7月22日	足立学園中学校	1名
7月24日	足立学園中学校	1名
7月25日	足立学園中学校	1名
7月31日	貞静学園高等学校	2名
8月1日	二松学舎大学付属高等学校	1名
8月2日	二松学舎大学付属高等学校	1名
8月14日	足立高等学校	1名
8月15日	足立高等学校	1名
8月20日	広尾学園高等学校	1名
8月24日	広尾学園高等学校	1名

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシ	26日 25名	24日 25名	28日 25名	26日 25名	23日 25名	27日 25名	25日 25名	22日 25名	20日 25名	24日 25名	21日 25名	19日 25名

ー自己採点												
園内研修	26日 25名	24日 25名	28日 25名	26日 25名	23日 25名	27日 25名	25日 25名	22日 25名	20日 25名	24日 25名	21日 25名	19日 25名

〈2〉外部研修への出席

・キャリアアップ研修、足立区内の研修に参加

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
7月11日	足立区	新人研修	1名	有
1月28日	足立区	接続期研修	1名	有

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 （子育ての質を上げる会議）	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	21日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	１１月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

昨年度まで新型コロナウイルスの影響から実施できていなかったデイサービス施設への訪問、交流が可能となり、世代間交流が多く持てた。関わりの中で相手に対する思いやりが見える場面も多くあり、良かった。また、商店街ツアーでは店主と子どもたちとやり取りする姿も多く見られた。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：千住旭公園にて　　参加延べ人数：168名
商店街ツアー	週1回　主な行き先：杉本青果店、フラワーショップアオキ、八百屋昇鈴荻野青果店、亀井畳内装、千住消防署、平井フルーツ、青山フラワーマーケット、千住神社、北千住郵便局　等
世代間交流	日ノ出町デイサービスにて月に1度交流 3月6日に自園にて陶芸体験を実施
異年齢交流	7月29日に自園にて小学校を知ろうを実施
その他活動	10月31日に自園でおはなしかごを実施
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉　実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

運動会を小学校の校庭で行ったり、給食体験、学校探検と学校から招いてもらったりする中で、小学校に対する期待や、あこがれを持つことができた。

職員間においても、公開保育での意見交換や交流を行った

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
6月7日	千寿双葉小学校	1名	第1回幼保小連携第一ブロック会議（千寿双葉小学校）	職員間交流
8月14日 8月31日	千寿常東小学校　他	12名	第一ブロック公開保育（当園保育室）	職員間交流
11月11日	千寿常東小学校	20名	給食体験（常東小教室）	子ども間交流
11月21日	千寿常東小学校	20名	音楽会リハーサル見学（常東小体育館）	子ども間交流

10.　要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

・毎月つむぎ保育園のスタッフで要支援児会議を実施。計画を立てて振り返りを行い要支援時のサポートを全員で共有した。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・４～３月に計12回開催　参加者：12名

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

・保育児童要録はすべての学校へ提出済み。
・各学校への電話や訪問により、引継ぎも完了している。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
88名	161名	121名	140名	480名	143名	920名	151名	187名	136名	487名	150名	3164名

<table>
<tr><th>実施項目</th><th colspan="13">詳細</th></tr>
<tr><td>園開放</td><td colspan="13">（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　　来園延べ人数：83名</td></tr>
<tr><td>子育て相談</td><td colspan="13">（月）～（土）13:00～16:30　　⇒計0件相談実施済み</td></tr>
<tr><td rowspan="3">自然食堂
親子ランチ
交流</td><td colspan="13">毎週（水）10:00～12:00　　⇒計2回実施済み
参加者延べ人数</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>4名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>4名</td></tr>
<tr><td rowspan="3">どろんこ
芸術学校
どろんこ
自然学校</td><td colspan="13">毎週（水）10:00～12:00　　⇒計2回実施済み
参加者延べ人数</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>1名</td><td>2名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>3名</td></tr>
<tr><td>勝手籠設置</td><td colspan="13">（月）～（土）7:00～20:00　にて実施
門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置</td></tr>
<tr><td>ちきんえっぐだより</td><td colspan="13">毎月1日発行</td></tr>
<tr><td rowspan="3">青空保育
（支援センター主催）</td><td colspan="13">月1回　　公園名：千住旭公園にて　以下日程にて実施</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>23名</td><td>16名</td><td>3名</td><td>20名</td><td>16名</td><td>20名</td><td>17名</td><td>16名</td><td>16名</td><td>20名</td><td>20名</td><td>20名</td><td>207名</td></tr>
</table>

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２４年11月３０日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：９時００分
自己評価終了時刻：１２時００分
自己評価実施者：金子仁美、佐々木彩乃、大貫琴美、東海林茜、奥秋優太

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月２５日
アンケート回収率：１００％

園へのご理解をいただき、概ねご満足いただけている数値であった。その中で、不満足、改善が必要と感じている保護者様がおられることをしっかりと肝に銘じ、お子様優先で園運営にあたることが大切であると思う。
保護者の方へは日頃からコミュニケーションを密に取り、安心してお子様をお預けいただく基盤づくりを引き続き行っていきたい

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見　０件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む）　０件

以上

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

作成日：２０２５年3月１５日　　作成者：北千住どろんこ保育園 施設長　金子　仁美

２０２４年度　一宮どろんこ保育園　事業報告書
（保育所における自己評価）

Ⅰ．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

どろんこ会の子育て理念「にんげん力育てます」に基づき自園の恵まれた環境を活かし、子どもたちの「やってみたい」を尊重し認め、「自分で考え、行動する思考を育む保育」を目指すことを全スタッフで共有し方向性を揃えて保育を実施してきた。
日課や基本活動が定着してきて子どもたちが考えて行動することができるようになってきている。
長距離散歩では全クラスが少しずつ距離を伸ばしていくことで歩く力が身についてきている。
次年度は室内環境の充実にも力を入れ、子どもの一人ひとりが選択できる環境の幅を広げていきたい。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	子どもが「やってみたい」遊びや活動を選択できる環境の保障
	実践結果	子どもの発達を理解し子どもの姿に合わせての環境の見直しを実施してきたことで子どもの遊びが広がり集中して遊ぶ姿が見られていた。しかし室内環境に課題が残った。
	次年度方向性	室内環境の玩具の充実と更新を行い子どもが選択できる環境を整える。
2	計画・ねらい	安心・安全の園外活動に努める
	実践結果	大きな怪我なく安心安全な園外活動を実施することができ、子どもたちは自然の中での発見や気づきなど様々な体験をする姿が見られた。 スタッフの危機管理の習熟度の向上を目指すための研修は引き続き必要である。
	次年度方向性	安心安全を保ちながら、危険を排除しない保育を継続する。 スタッフの危機管理の習熟度の向上を目指すための研修を実施していく。
3	計画・ねらい	一人ひとりを大切にした保育
	実践結果	子ども一人ひとりに寄り添い信頼関係を築けた。 園内会議ではスタッフ間で子どもの姿、保育について発表し合い共有しながら全スタッフで子どもたちを見ていく体制を作ってきた。
	次年度方向性	子どもの姿を見て育ちを喜びながら全スタッフ保育を行う体制を整える。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者の心に届く接遇
	実践結果	登園時、降園時の挨拶や丁寧な対応を実践してきた。 子どもの姿や育ちを捉えた連絡帳やタイムラインを実施することで保護者様へ保育の様子をお知らせすることができた。
	次年度方向性	子どもの姿や育ちを保護者に知らせ共感していくことで保育園へ関心をもち更に園への理解をもっていただくようにする。 連絡帳、タイムラインのスタッフ個人への指導を行っていく。
2	計画・ねらい	気軽に相談できる保育園作り
	実践結果	保護者と保育園と連携を図りながら子育てをしてきたことで面談や声を掛けていただく機会が増えてきた。
	次年度方向性	子どもの姿や育ちを保護者に知らせ共感していき一緒に子育てをしていく。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	子育ての輪を広げていく保育園作り
	実践結果	遊びの場を提供することで地域の親子同士の繋がりを広げていくことができていた。出前保育では、新規のご利用者も増え交流の場として確立できていた。
	次年度方向性	引き続き、地域の子育ての輪を広げ、交流の場となる。
2	計画・ねらい	ちきんえっぐの充実
	実践結果	地域の方が参加したくなるような年間活動計画の立案・企画したことで前年度より集客できていた。
	次年度方向性	地域の子育て支援の場として計画実施し前年度より集客を増やす。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	若手スタッフの育ちを支える
	実践結果	保育についての迷いや悩みについてディスカッションし解決に導いてきた。若手スタッフも自分の役割を鑑みながら、保育を楽しむ姿が見られている。
	次年度方向性	若手スタッフの迷いや悩みの解決のために学びの機会を作り、保育実践に活かしていく。
2	計画・ねらい	ミドルリーダーが力を発揮できる環境
	実践結果	若手スタッフにアドバイスをしながらチーム保育の実践に取り組んでいたが、判断する部分では難しい場面があった。

	次年度方向性	若手スタッフの割合が多くなるため、全員体制のチーム保育を重視していく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	堆肥を活用した畑での野菜作り
	実践結果	コンポストを利用し堆肥作りを実践してきたが、野菜作りでは収穫に至らないこともあった。
	次年度方向性	土壌改良をし、収穫できる野菜作りの計画を実行していく。
2	計画・ねらい	一年を通しての食の循環を知る
	実践結果	田んぼの土壌作りから田植え・稲刈り・収穫・稲(藁)の再利用までのサイクルを子どもたちと実体験してきた。
	次年度方向性	引き続き自園の特徴として次年度も継続していく。

〈6〉スタッフみんなで作る保育園

1	計画・ねらい	子どもを主人公にした保育
	実践結果	保育士として子どもたちを主人公にし、受容的で応答的な保育を行ってきた。園の子どもたちは日々活発に伸び伸びと過ごしている姿がある。
	次年度方向性	子ども一人ひとりに寄り添った保育の充実と「やってみたい」を実現する環境を整える。
2	計画・ねらい	子どもの育ちを喜び合う場
	実践結果	保育参加の保護者様が増えた。保育の様子を目で見ることで、子どもの育ちや保育園での子ども様子を知っていただく良い機会となっている。
	次年度方向性	子ども同士が様々な活動や体験の中で友達の良さに気付き共感できる環境を整える。また保護者参加のお誘いをする。
3	計画・ねらい	チーム保育の充実
	実践結果	全職員で学び合える園内研修を実施してきた。その中で保育の話を語る時間を設けることでスタッフ間のコミュニケーションを図り保育の方向性を揃えてきた。
	次年度方向性	子ども一人ひとりを理解し全スタッフで保育をする「チーム保育」を実践する。
4	計画・ねらい	他職種との連携

	実践結果	保育士、看護師、栄養士、調理師、事務、全職員がそれぞれの専門の知識を活かし連携を図りながら保育を行ってきたことで保育の幅が広がってきている。
	次年度方向性	他職種の専門知識を活かしながら全スタッフでチーム保育を実施する。
5	計画・ねらい	地域と繋がる保育
	実践結果	商店街ツアーや異世代交流など様々な人との触れ合いを通して、人と繋がることができた。
	次年度方向性	地域との交流の幅を広げ新たな企画を立案し実行する。

〈7〉魅力のある保育園

1	計画・ねらい	清潔感のある保育園
	実践結果	園舎内外の環境整備と清掃の実施により美観を保つことができていた。 園周辺の植木は業者により剪定、伐採を実施済である。
	次年度方向性	引き続き保育園の美観を保ち清潔感のある保育園とする。
2	計画・ねらい	子どもの育ちの見える保育園
	実践結果	保育参加では普段の保育を保護者様に見ていただく良い機会となり、口コミで広がり利用者が増えた。また田植え、稲刈りでもボランティアとしてどろんこサポーターズの方が参加してくだった。
	次年度方向性	子どもの姿が見えるタイムライン・ブログ・連絡帳を充実させる。
3	計画・ねらい	素敵な先生のいる保育園
	実践結果	子どもや保護者の心に寄り添いながら保育を行ってきたことで保護者との関係性を築けてきている。
	次年度方向性	全スタッフが豊かな心をもって子どもたちと関わる。 子どもや保護者の心に寄り添いながら保育を行っていく。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半：4~9月	23人	93人	147人	204人	167人	202人	836人
年度後半：10~3月	63人	121人	144人	213人	171人	204人	916人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	80人	86人	79人	74人	76人	98人	105人	93人	98人	93人	85人	85人	1052人
うち0歳児	0人	0人	0人	0人	0人	2人	1人	1人	0人	0人	1人	0人	5人

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	0人	1人	0人	0人	4人	6人	11人	17人	21人	17人	25人	25人	127人
うち0歳児	0人	0人	0人	0人	0人	0人	1人	1人	18人	12人	15人	15人	62人

（解説）今年度は隣町の方や、０歳児のご利用が多かった

〈2〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

常勤スタッフ	保育士	19人	看護師	1人	栄養士	1人	調理員等	1人
	事務	1人						

パート スタッフ	保育士	4人	調理	1人				

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・保育の振り返り、子どもの姿の共有，保育の質の振り返り、園内研修
給食運営会議	月1回	アレルギー対策給食残量報告　給食の様子共有
事故防止委員会	月1回	当月の事故振り返り　ヒヤリハット　インシデシト
ケース会議	月1回	要支援児の様子　個別支援計画の振り返り
クラス担任会議	担任週1回	子どもの様子について情報共有　日々の怪我報告
行事・係担当会議	週1回	行事計画　共有振り返り

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
食育会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、看護師
主任会議	年4回	主任
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	保育環境、衛生、予防に関する提案
安全対策係	防犯、保育備品の安全点検及び事故防止
防火管理者	避難訓練、不審者訓練の実施、改善の取り組み、消防署への届出
食品衛生管理係	食の安全、食育活動への取り組み、衛生点検
畑係	年間を通しての計画や畑の管理、種、苗の購入
生き物係	世話をしながら命の大切さを知らせていく

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	保護者と連携して一緒に行う

4. 保育支援

〈1〉保育･保育参加･保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	・異年齢で混じり合って遊びを楽しむ ・身の回りのことなど自分でできることは自分でする ・食べることを楽しむ
保育参加	4～3月まで　合計55名　が参加済み　　（3月１５日時点）
保護者面談および発達相談	4～3月まで　合計26名　が参加済み　　（3月３１日時点）

〈2〉計画した年間行事の振返り

・別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	おなかがすく子どもを育てる
	実践結果	日中、園庭や園外保育にて体を動かすことでおなかがすくリズムを作ってきたことで給食をよく食べる姿が見られた。
	次年度方向性	長距離散歩や70M 縁側の雑巾がけ、園庭遊びなど戸外遊びの充実を実施する。
2	計画・ねらい	食べることに関心をもつ
	実践結果	自分たちで育てたものをクッキングとして友達と一緒においしく食べることで食への関心が高まった。給食では自分たちで盛り付け、配膳をするバイキング形式の実施し楽しい給食の時間を過ごしていた。
	次年度方向性	農業計画の中で土壌改良を行い収穫できる畑作りを実施する。 畑活動を充実させ食育に繋げていく。
3	計画・ねらい	食べ物の大切さと感謝をもつ
	実践結果	自園のコンポストを活用してきたが、思うような成果が出なかった 自園米作りでは、例年通り子どもたちが実体験することができ活動が定着している。
	次年度方向性	労働することを大事に、畑活動を充実させ収穫の喜びや自然の恵みや命の大切さを知らせていく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月27日／11月14日に一宮どろんこ保育園にて実施
歯科検診	6月18日／11月12日に一宮どろんこ保育園にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	手洗い・うがいの遂行・歯磨き指導・性教育
発作・痙攣等の対応	ダイアップ･･･4名より預かり済み／冷蔵庫にて保管
エピペン使用できるスタッフの状況	・スタッフ２２名が習得済み ・新入職員５名については３月１９日に受講

その他保健に関する取組	行政からのお知らせ掲示、保険関係研修、会議に参加 新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（法定1回/3年）	業者による対象物の法定点検 2023年実施済み ※対象物がない園及び JW 園は削除すること
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日　０日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日　０日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日　０日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月 ⇒4月２６日、10月２５日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日　実施済み
	児童健康診断	内科健診　各年２回／6月27日、11月14日 歯科健診　各年２回／6月18日、11月12日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時 ⇒4月19日、10月18日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間　実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	遊びたくなる環境
	実践結果	子どもたちは自分の好きな遊びを見つけ、友達と誘い合って夢中で遊ぶ姿が見られた。室内遊びの環境の更新に課題がある。
	次年度方向性	子どもが自ら選択できるような遊びの環境を整えていく。 室内遊では玩具や遊びの充実を図り子どもの「やってみたい」の思いを引き出す。
2	計画・ねらい	落ち着ける環境
	実践結果	子どもがクールダウンできるような場やくつろげる場、落ち着ける時間を設けてきたことで、安心して遊ぶ姿が見られていた。
	次年度方向性	引き続き落ち着ける環境を整えていくようにする。
3	計画・ねらい	作ってみたくなる環境
	実践結果	材料、道具などを準備することで、子どもたちは「作ってみる」ことを繰り返し経験していたが、材料の更新に課題が残った。
	次年度方向性	子どもが自ら選択できるような遊びの環境の一つとして設定していく。 子どもの遊びの状況を把握し、見通しをもちながら材料や道具の更新をしていく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	木製ベンチ	園庭	毎日（朝1番）	異常なし
2	焚き火コーナー	園庭	毎日（朝1番）	異常なし
3	火起こし体験コーナー	田んぼ	毎日（朝1番）	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	毎月1回の避難訓練実施　年2回の総合避難訓練では各担当者が責任をもって計画通りに行うことができた。 消防署からの指導を受けたことを次の訓練に活かすことができた。
2	実践結果	年2回の不審者侵入訓練では担当者が責任をもって計画通りに行うことができた。
3	実践結果	ヒヤリハット・インシデント・事故記録簿について、事故の検証・事故防止策について事故防止委員会にて会議の実施を行ってきた中で、一つひとつの事故に対し丁寧に事故分析を行い対策を全スタッフで周知し事故防止

		に取り組んできた。
4	実践結果	園内外のハザードマップによる危険個所の確認と周知はマニュアル通りに更新し危険箇所を全スタッフで周知し安全を確保してきた。
5	実践結果	園独自のルールの実践では外に出る際は、プラス1の配置をし、安全を確保してきた。
6	実践結果	園内研修・実践により職員の危機意識の習熟度の向上ということで、基本に忠実にロールプレイング研修を行ってきた。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

実習生に関して学校と情報交換をしながら丁寧に対応してきた。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
10月7日～22日	千葉こども専門学校	1人	責任実習
1月30日～２月14日	千葉経済大学短期大学部	1人	観察実習

〈3〉中高生の受入

2024年度なし

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
園内研修	23日 27名	28日 26名	30日 26名	31日 26名	16日 26名	26日 26名	25日 26名	18日 26名	28日 27名	21日 27名	26日 27名	19日 27名

〈2〉外部研修への出席

参加なし

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	21日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	11月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

開園8年目となり地域に根付いていることを感じている。どの施設に伺っても心よく受け入れていただき子どもたち目線で対応していただいていた。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：上市場中央公園にて
商店街ツアー	週1回　主な行き先：玉前神社、南消防署、日の丸タクシー、房総信用組合、一宮幹部交番、赤七屋、千両組合、タカラ鮮魚、上総一ノ宮駅、角八本店、斎藤生花店、一宮観光案内所、睦沢郵便局等
世代間交流	月1回介護ステーションよつばで交流を実施
異年齢交流	2月6日に一宮小学校で小学生との交流を実施
その他活動	シニア楽団による演奏会委を実施

銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉　実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

今年度は年長児が小学校の授業参観に参加する機会を設けていただいた。
職員間では、小学校の授業参観へ参加した。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
1月23日	一宮小学校5年生	2名	授業参観	職員間交流
2月6日	一宮小学校1年生	34名	授業参観	子ども間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

・気になる児について個別支援計画を作成しケース会議にて共有、全スタッフ書類を確認周知してきた。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・4～3月に計12回開催　参加者：6～7名
毎月のケース会議にて対象児について状況や対応について話し合い日々の保育に活かしていく。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

・児童要録を提出
・小学校教諭2名が来園し引き継ぎを行った。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
41名	44名	55名	32名	62名	69名	104名	69名	55名	62名	65名	65名	723名

実施項目	詳細												
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　　来園延べ人数：145名												
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　⇒相談件数0												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計21回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	4月	7月	4月	9月	4月	11月	4月	1月	4月	3月	4月
	15名	11名	13名	5名	17名	14名	30名	23名	18名	17名	19名	19名	201名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計24回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	4月	7月	4月	9月	4月	11月	4月	1月	4月	3月	4月
	5名	8名	4名	6名	8名	4名	0名	6名	3名	6名	7名	5名	62名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00　にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっぐだより	毎月1日発行												
青空保育 （支援センター主催）	月1回　　公園名：上市場中央公園にて　以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２４年１０月１８日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：１７時００分
自己評価終了時刻：１７時３０分
自己評価実施者：乳幼児担任、栄養士、各リーダー、主任

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月２５日
アンケート回収率：104.3%

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

No.	発生日	ケガ(事故)の状況とそれに対する対応結果
1	11月16日	（内容） 2024年11月16日（土）保育中に見失い事故発生 （対応結果） 2024年11月25日（月）18:00～19:25　自園にて保護者説明会を実施

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：一宮どろんこ保育園 施設長　矢部 幹子

２０２４年度　郡山どろんこ保育園　事業報告書
（保育所における自己評価）

１．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

各学年のリーダーが中心となり、子どもの「生活力」を育むために子ども自身が遊びを選択し、関われる環境の再構成を繰り返す姿があった。発達に願いを持ちながら玩具を選んだり、子どもの興味に合わせて配置したり試行錯誤しながら環境を変えてきた。子どもの興味関心を探るために気づきを伝え合い、スタッフ自身が「子どもと一緒にやってみたい」という思いを提案し続けて子どもと一緒に楽しんでいた。子ども一人ひとりの育ちを知ろうとする気持ちを持ち続け、発達に合った経験してほしい活動を考え、実践に繋げていく姿がたくさん見られた。スタッフが自身の弱み、強みの理解に繋がるようにコミュニケーションの中で話したり、面談で伝えたりすることで自信が持てるようになってきているが、自己成長のために目標を持って学び続けられるよう継続していくことが求められる。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

１	計画・ねらい	様々な視点から子どものニーズを探るために雑談コミュニケーションでの会話、フロア会議にて子どもの興味・関心を共有し、今後の保育環境に活かしていく。
	実践結果	事務時間を確保し、休憩時間でのコミュニケーション　　火曜日・・2歳児、幼児のフロア会議　　水曜日・・0歳児、１歳児のフロア会議 金曜日・・昼礼での情報共有と保育観の確認
	次年度方向性	休憩時間の確保や普段のコミュニケーションを通して、様々な情報の共有をしていく。引き続きスタッフ間の風通しを良くすることで、保育の質の向上に繋げていく。
２	計画・ねらい	園長大学®・保育士大学講座を視聴しながら、自分の強みを強化し、弱みを強みに変えていく。園会議での視聴も取り入れ、学びの機会を設ける。
	実践結果	講座視聴からの学びを園会議にてアウトプットしていった。すぐに保育に取り入れられることはすぐに実践し、質の高い保育を目指してきた。園の課題や弱みと感じることを園会議で視聴し、話し合うことで共通認識を図っていった。
	次年度方向性	自身の弱みや強みに気づかないことが多いと思われるので、スタッフ同士のコミュニケーションや面談を通して伝え合うことで自身を知り、目標を持って学び続けられるようにしていく。
３	計画・ねらい	どろんこギャラリーを活用し、自らの気づき、子どもの育ちや心の動きの読み取りを深める。
	実践結果	スタッフから発案されたどろんこギャラリー（玄関入口両脇の掲示）であったが、後半の継続に繋がっていかなかった。
	次年度方向性	エピソードを作成することで、保育の振り返りになるのだということの認識を深める。エピソードを捉える視点を認める。エピソード作成時間を確保する。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	家庭での様子を把握し、園での様子や育ちを共有していくことで成長を共に喜び合い、信頼関係を築く。
	実践結果	お迎え3分間対応の充実。保護者懇談会と個別面談の実施。保護者の希望や縁側での声掛けによって、その都度面談を実施。
	次年度方向性	一人ひとりの家庭状況を把握し、必要に応じてスタッフ間で共有して対応を合わせていく。必要に応じた個別面談を引き続き実施。
2	計画・ねらい	保護者の変化を読み取り、声を掛けて子育てなどでの不安や悩みを和らげていく。
	実践結果	保護者の思いに寄り添いながら子育てへの不安や悩み相談に応じ、子どもの良さを伝え、今後の子育てについて一緒に考えていく関りを心掛けてきた。子どもの育ちを考慮しながら、園生活の中で子ども自身がどんな場面で困っているのかを具体的に伝えていくことで、共に関わり方を考えていった。その中で、違う視点からのアドバイスも参考にしないかとの提案をし、つむぎ八山田ルームの訪問支援に繋いでいった。
	次年度方向性	引き続き保護者の思いに寄り添い、家庭での様子も共有してもらいながら、子育てへの不安や悩み相談に応じて丁寧に関わっていく。 必要に応じてつむぎ八山田ルームの保育所等訪問支援に繋げる。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	「ちきんえっぐ」のおたよりを公共機関に配置し、興味を持ってもらい参加人数を増やす。
	実践結果	自然学校、自然体験、芸術学校などの活動内容を具体的に発信してきたが、参加人数に変動はなかった。
	次年度方向性	実施内容と参加の仕方を明確にしていく。畑の野菜を使用する際は、時期を把握して実施日を検討していく。
2	計画・ねらい	地域参加の園行事を計画し、地域との交流を深める。
	実践結果	どろんこまつり・季節ごとのマルシェを計画し、公共機関にポスターなどを掲示して知らせることで参加を促してきた。たくさんの方が来園され、地域の交流の場となっていた。
	次年度方向性	園の保育を知っていただくこと、保育を理解していただくためには地域交流がとても大切だと考える。引き続き地域参加の園行事を実施できるように計画する。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	スタッフ一人ひとりが目標を持ち、具体的な取り組みを明確にする。
	実践結果	普段のコミュニケーションの中で、スタッフの弱みや強みを抽出して伝え合ってきた。10月に面談を行い、上期の振り返りと下期での目標の確認を明確にしていった。必要に応じて個別面談を実施し、スタッフの困り感を受け止めながら今後の手立てを提案した。必要に応じて学年リーダーと共

		有していった。
	次年度方向性	スタッフ一人ひとりと目標の振り返りと目標確認の面談実施とスタッフのモチベーションに応じて個別面談を継続していく。
2	計画・ねらい	常日頃から園長大学®・保育士大学の講座内容を確認することを意識し、興味を持った講座を自ら視聴して学び続ける。
	実践結果	スタッフ一人ひとりが、園会議にて自分の強みの部分などの情報を共有することで、仲間を巻き込みながら共に学び合う機会になった。また園会議で園長大学®・保育士大学の講座を視聴することで、内容の把握、今後の活動の取り組み方の話し合いに繋がっていった。
	次年度方向性	スタッフ一人ひとりが情報をインプットし続け、自分のものにした知識をアウトプットし、伝え合っていくことで確実なものにしていく。個々の園長大学®保育士大学の講座視聴での学びを勧める。
3	計画・ねらい	スタッフの自己肯定感を高め、チームとしての連携を大切にする。
	実践結果	園内研修にてお互いの強みと感じることを伝え合うことで、それぞれの存在意義を確認し、感謝の気持ちが持てた。施設長、主任はスタッフ一人ひとりの日頃の保育の姿や試行錯誤しながらの取り組みを認め、成長を伝えることでモチベーションアップに繋げていった。日頃のコミュニケーションを大事にし、困り感を受け止めて対応を考えていくことで、信頼関係を育み相談しやすい関係性に努めた。
	次年度方向性	施設長、主任はスタッフ一人ひとりのモチベーションを探り、自分の気づきを具体的に伝えることで信頼関係を築いていく。 リーダーにはリーダーとしての役割や関わり方を確認し、情報を共有しながらチーム連携を整える。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	鶏の解体を経験することで、命をいただくことへの興味を持つ。
	実践結果	鶏の解体実施は出来なかったが、食の循環に関する絵本の読み聞かせをし、知らせていく機会を設けた。
	次年度方向性	食の循環に気づいたり、興味を持ったりできるような活動を考えて、子どもたちと一緒に実践する。
2	計画・ねらい	毎日畑仕事に取り組む中で、その時に必要なことを判断し、自ら活動する。
	実践結果	野菜の成長を見守り、畑の状態や季節によって何をしたら良いのかを考えて取り組み、収穫する喜びを感じていた。
	次年度方向性	日課の一つでやらなければならないことと理解し、子どもも大人も積極的に関わり、気づきを学びへと広げる。

〈6〉大人も子どももわくわくする保育環境

1	計画・ねらい	日々の関わりから、子ども一人ひとりの興味・関心を探る。

	実践結果	学年やフロアごとに日々の保育での気づきや振り返りをしていく中で、子どもの興味・関心を捉え、今後の関わり方や保育準備をチームで探り、実践へと繋げた。
	次年度方向性	子どもが興味を持っていること、季節や発達を考えていく中で経験してほしいことなどの願いを持って保育計画を立て、子どもが選べる環境を構成していく。
2	計画・ねらい	子どもの年齢に合った経験してほしい活動を用意する。
	実践結果	大人が用意しなければ経験できないことを理解し、経験できる場所、時間を確保しながら、スタッフ同士が連携して取り組んでいた。 スタッフも子ども一緒に Trial＆Error を楽しみ、子どもの興味・関心を引き出していった。
	次年度方向性	子どもと一緒に Trial＆Error を楽しみ、興味・関心を引き出していくことは大事なことなので、継続していく。その中でスタッフ間での情報共有や連携を意識する。 子どもがやってみたい活動を引き出し、そこから流通に繋げて本物の体験ができるようにする。

〈7〉保護者支援

1	計画・ねらい	保護者の現状を把握し、ニーズに合わせた丁寧な関わりをする。
	実践結果	子ども一人ひとりの家庭環境、事情を把握し、共有が必要と思われる内容はスタッフ間で共有し、対応を統一してきた。必要に応じて園側から声をかけて個人面談を実施し、保護者のニーズを探り、情報の共有と今後の保育へ活かせる手立てを話し合う場を設けてきた。その時々で保護者の思いを受け止め、共に子どもを育てていく思いを伝えていくことで信頼関係を築いていった。
	次年度方向性	保護者の変化に合わせたかかわり方や対応を考え、必要に応じた丁寧な支援をしていくことが大切である。
2	計画・ねらい	あたたかい雰囲気の中での保護者対応を心掛ける。
	実践結果	朝の受け入れ、お迎え時などは保護者の顔を見て笑顔で対応し、子どもの育ちを丁寧に伝えることで信頼関係を築いてきた。保護者との日頃からコミュニケーションを取っていく中で保護者の変化に気づき、スタッフから声を掛けることで信頼関係を築いていった。常に笑顔で対応を意識し続けてきた。
	次年度方向性	丁寧な朝の受け入れ・子どもの育ちを伝えられる3分間対応の継続。スタッフ間の情報共有が大事なので、情報をもとに対応を合わせていくことを一人ひとりが意識していく。心のこもった気持ちの良い挨拶を継続し、大事にする。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半：4~9月	35人	72人	93人	90人	72人	90人	452人
年度後半：10~3月	36人	72人	96人	90人	78人	96人	468人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	89人	96人	113人	122人	112人	114人	114人	131人	135人	116人	110人	110人	1362人
うち0歳児	0人	0人	0人	0人	0人	1人	1人	0人	0人	0人	0人	0人	2人

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	0人	0人	0人	1人	1人	3人	2人	1人	1人	2人	0人	0人	11人
うち0歳児	0人	0人	0人	1人	0人	1人	1人	0人	0人	1人	0人	0人	4人

郡山市の一時預かり機関の予約がいっぱいで利用できないこと、満1歳児以下は預かりが不可であることからの問い合わせが多い。地域のニーズに合わせて0歳児からの預かりを継続していく必要がある。

〈2〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　（３月１日時点）

常勤スタッフ	保育士	13人	看護師	1人	栄養士	2人		
パート	保育士	2人	補助	2人	調理	1人	事務	1人

スタッフ	用務	1人	嘱託医	2人

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・園長大学Ⓡ・保育士大学の視聴
給食運営会議	月1回	・離乳食の進捗確認、アレルギー対応、食育計画
事故防止委員会	月1回	・リスクマネジメント研修
ケース会議	月1回	・気になる子へのかかわり方の振り返り、今後の対応の共有
フロア会議	週1回	・保育の振り返り、今後の活動計画、環境構成

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
食育会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長
主任会議	月1回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	園内の衛生管理、行政対応の実施

安全対策係	リスクマネジメントを中心に実施
防火管理者	災害対策、避難訓練防災計画、自主点検を実施
食品衛生管理係	衛生点検、給食提供マニュアルに沿って実施
畑係	年間計画に沿って実施
生き物係	餌の管理、飼育環境の整備実施

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	地域支援に取り組みながら実施
クリスマスマルシェ	地域支援に取り組みながら実施

4. 保育支援

〈1〉保育･保育参加･保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	・なし
保育参加	4～3月まで　合計2名　が参加済み　　（3月1日時点）
保護者面談および発達相談	4～3月まで　合計65名　が参加済み　　（3月1日時点） ・つむぎ八山田ルームの訪問支援の実施　　合計5名 ・郡山市の個別カウンセリング事業の実施　合計3名

〈2〉計画した年間行事の振返り

・別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	調えられた空間で心地よく食べられるよう連携する。
	実践結果	調理の担当者は、子どもが「美味しそう」と思えるようなきれいな盛り付けや提供の仕方を工夫し、丁寧に関わっていた。 一人ひとりの食べ物への興味を把握し、子どもに合わせた言葉を心掛けることで子どもの食への関心を育んでいた。

	次年度方向性	調えられた空間を維持しながら、子ども一人ひとりの食への関心を把握し、情報を共有することでチーム連携をしていく。常に子どもの動線に配慮した空間を心掛けていく。
2	計画・ねらい	体をたくさん動かして、お腹が空いて食に向かうリズムを大切にする。
	実践結果	園では午前活動で体をたくさん動かすことを意識し、「あそぶ」「くう」「ねる」のリズムを整え、気持ちよく過ごしてきた。
	次年度方向性	園での様子を家庭と共有し「あそぶ」「くう」「ねる」のサイクルの大切さを伝えていく。
3	計画・ねらい	食べ物の大切さ、命をいただいているということはどんなことかを子どもと一緒に考える。
	実践結果	畑で野菜を育て、収穫したものをいただく、加工体験を大切にし、食べ物への興味を高めてきた。鶏の解体を通しての食育は出来なかったが、食の循環に関する絵本の読み聞かせをし、知らせていく機会を設けた。
	次年度方向性	食事は命あるものをいただくことで成り立っていることを経験できる場を用意する。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月19日／11月13日に実施
歯科検診	6月10日に保育園室内にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 6月6日に保育園にて歯磨き指導を実施 ② 6月6日に保育園にて手洗い・うがい指導を実施 ③ 1月7日に保育園にて性教育を実施
流行した感染症	なし
発作・痙攣等の対応	なし
エピペン使用できるスタッフの状況	・4月12日に保育園にてエピペン研修を4月に加わったスタッフ齋藤、津田、影山、向井計4名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ23名のうち、23名が使用可能
その他保健に関する取組	・感染蔓延防止のため、状況に応じてうがい指導・手洗い指導を行い、玩具消毒を実施

	・こまめな換気を徹底してきた

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（法定1回/3年）	業者による対象物の法定点検 2023年実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月 ⇒4月8日、10月7日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日　実施済み
	児童健康診断	内科健診　各年2回／6月19日、11月13日 歯科健診　各年1回／6月10日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時 ⇒4月12日、10月11日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間　実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	子どもの興味・関心を探り、スタッフ同士で連携を取りながら子どもの活動を把握する。

	実践結果	学年で区切ることなく、大きな家の一人として子どもの主体性を大事にし、活動前や活動後の振り返りとしてマインドマップを活用して子どもの興味・関心を探っていった。その中で必要な環境を各フロアのメンバーで考え、試行錯誤しながら再構成を繰り返してきた。
	次年度方向性	異年齢保育の良さを継続できるように関わりを大事にし、子どもが主体性を持って活動できるよう配慮する。子どもが主体的に活動するとはどんなことなのかの共通理解を図っていく。スタッフ自身の気づきを伝え合うことを大事にしていく。
2	計画・ねらい	環境構成では集団での空間、個の空間を大事にしながら構成していく。
	実践結果	遊びに応じて安心して遊び込めるような場を確保しながら、その時々の個の空間を確保することで、安心して遊び込んでいた。
	次年度方向性	子どもの発達や成長を考慮し、玩具選びや空間を工夫しながら子どもが活動を選べるようにする。また、個に合わせた対応を考えていく。
3	計画・ねらい	整えられた空間で過ごし、子どもたちにも整える習慣が身につき安心して過ごす。
	実践結果	スタッフ一人ひとりが整理整頓を心掛けることで、子どもたち自身が物を大事にする気持ちを育んできた。取り出しやすさ、片付けやすさを考えて子どもたちにも提案し続けてきた。
	次年度方向性	清潔な場で過ごす心地良さを感じ、安心して過ごせるような環境の保持。スタッフ一人ひとりが整理整頓を心掛ける。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	パーテーション	幼児フロア	毎日	異常なし
2	木製スロープ	乳児室前の縁側	その都度	異常なし
3	木製トンネル	乳児フロア	毎日	異常なし
4	木製テーブル	幼児フロア	毎日	異常なし
5	木製ハウス	幼児フロア	毎日	異常なし
6	竹馬台	園庭	その都度	異常なし
7	泥場の枠組	園庭	その都度	異常なし
8	焚火ベンチ	園庭	その都度	異常なし
9	木製Ｌ字サークル	幼児フロア	毎日	異常なし
10	木製ドレッサー	幼児フロア	毎日	異常なし
11	名札台	玄関	その都度	異常なし
12	製作物乾燥棚	幼児フロア	その都度	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	消防計画に基づき避難訓練を月1回実施。震度5以上の際は園が情報を発信し、安否、施設状況、避難先を情報共有する体制をとった。また、帰宅困難者対策を踏まえ、災難に備え、マニュアルの徹底を図った。
2	実践結果	事故防止チェックリスト年4回、設備点検年4回を行い、事故防止の徹底を図った。またマニュアルにある園外保育、遊具等の保育士行動指針の徹底を図った。
3	実践結果	インシデント、ヒヤリハット報告の分析を継続してきた。 スタッフ間で状況を共有し、日々の保育の中で事故防止策を探った。
4	実践結果	年2回防犯チェックリストに従い動きを確認し、併せて不審者侵入訓練を実施した。 また訓練は避難訓練確保、不審者撃退、通報の訓練でスタッフ全員を対象として実施した。
5	実践結果	光化学スモッグが発生しやすい気象条件・影響・光化学スモッグ注意報を把握し、発令があった場合は内容に合った看板、貼紙などを掲示する。その際、園児・スタッフは室内で過ごす。
6	実践結果	リスク管理委員会によるリスクマネジメントを周知、徹底した。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

今年度は延べ 5 名の実習生を受け入れた。どろんこ会の保育に興味を持ち、子どもとの関わり方の大切さを実感している学生が多かった。スタッフ一人ひとりが主体的に動き、子どもたちが主体的に活動するための理解をし、実践していくことで保育の楽しさを伝えていかなくてはならないと感じた。今後も実習生の受け入れを積極的に行い、子どもと共に過ごす中での気づきや楽しさを伝え、どろんこ会が実践している保育へ魅力を感じ、入職に繋げていきたいと考える。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
8月19日 ～30日	郡山女子大学短期大学部	2人	責任実習
7月28日 ～8月9日	福島学院大学福祉学部	1人	観察実習
2月13日 ～2月27日	郡山女子大学短期大学部	2人	観察実習

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
	希望した学校なし	0人

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	12日 15名	10日 16名	14日 16名	12日 16名	2日 15名	13日 15名	11日 15名	8日 14名	13日 15名	17日 15名	21日 17名	2日 18名
リスクマネジメント研修	12日 15名	10日 16名	14日 16名	12日 16名	2日 15名	13日 15名	11日 15名	8日 14名	13日 15名	17日 15名	21日 17名	2日 18名
虐待防止研修	12日 15名						11日 15名					

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
5月25日	保育士キャリアアップ研修	食育・アレルギー対応分野	1名	有
5月25日	保育士キャリアアップ研修	幼児保育	2名	有
7月26、27日	保育士キャリアアップ研修	保護者支援・子育て支援	1名	有
7月27、28日	保育士キャリアアップ研修	食育・アレルギー対応分野	1名	有
8月24、25日	保育士キャリアアップ研修	保護者支援・子育て支援	1名	有
9月25、26日	保育士キャリアアップ研修	保健衛生・安全対策	1名	有
10月22、29日	保育士キャリアアップ研修	保健衛生・安全対策	1名	有
10月28日、11月1日	保育士キャリアアップ研修	幼児教育	1名	有
11月8、14日	保育士キャリアアップ研修	障害児保育	1名	有
12月7、14日	保育士キャリアアップ研修	乳児保育	1名	有
12月6、11日	保育士キャリアアップ研修	障害児保育	1名	有

12 月 20、21 日	保育士キャリアアップ研修	幼児教育	1名	有
1月11、14日	保育士キャリアアップ研修	乳児保育	2名	有
1月21、27日	保育士キャリアアップ研修	保健衛生・安全対策	1名	有
2月1日、2日	保育士キャリアアップ研修	障害児保育	5名	有

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 2名	15日 2名	27日 2名	18日 2名	22日 2名	19日 2名	17日 2名	21日 2名	19日 2名	23日 2名	19日 2名	19日 2名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	11月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

地域に開かれた温かさが感じられる保育園であるために、子育て支援を行い、子どもの健やかな成長を保障できるよう配慮した。
地域の方が自由に園を利用していただきながら、園運営の理解を深めるため、どろんこまつりやクリスマスマルシェで事前周知を積極的に行い実施した。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：開成山公園にて　　参加延べ人数：13名

商店街ツアー	週1回　主な行き先：開成山交番、マキシム、カトリック郡山教会 柏屋、ヨークベニマル台新店、ヨークベニマル島店、ダイソー島店 郡山市役所、開成山大神宮等
世代間交流	6月20日に桑の実ディサービスセンターにて実施
異年齢交流	7月13日に自園にて小学生と実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

小学校へのスムーズな移行を考え、アプローチカリキュラムの内容を確認しながら内容の充実を図ってきた。運動会練習の見学、学校見学をすることで、小学校での活動に興味が持てるように配慮した。幼保小連携推進事業で他保育園・幼稚園・小学校との情報交換を行った。保育所保育要録を送付し、児童情報の申し送りの電話面談を実施した。また、気になる子の情報を早めに共有し、今後の学校生活がスムーズになるよう連携を図った。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
5月22日	開成小学校	15名	運動会練習見学	子ども間交流
6月9日	薫小学校	1名	令和6年度幼保小連携推進事業	スタッフ間交流
10月26日	令和6年度幼保小連携推進事業	1名	令和6年度幼保小連携推進事業	スタッフ間交流
11月15日	大成小学校	1名	入学予定者連携	スタッフ間交流
2月13日	薫小学校	1名	入学予定者連携	スタッフ間交流
2月27日	開成小学校	15名	学校見学	スタッフ間交流 子ども間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

・毎月の振り返りを行い、一人ひとりの姿を共有しながら支援の手立てを考えていった。保護者

へは日々の生活の様子を丁寧に伝え、家庭と対応をすり合わせていくことで子どもが安心して過ごせるように配慮した。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・４～３月に計１２回開催　参加者：８名
日々のかかわりを振り返りながら、毎月それぞれの気づきや対応での変化などを共有し、今後についての見通しを持った計画を話し合い、再検討を繰り返していった。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

・各小学校へ保育所児童要録を送付し、電話にて一人ひとりの様子を丁寧に伝えたり、来園していただいたりして連携を図った。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2名	1名	1名	57名	5名	20名	17名	25名	28名	2名	0名	0名	156名

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　　来園延べ人数：30名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　⇒計5件相談実施済み
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計13回実施済み 参加者延べ人数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名

どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計9回実施済み 参加者延べ人数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1名	0名	0名	0名	0名	2名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	3名

勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00　にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育 （支援センター主催）	月1回　　公園名：開成山公園にて　以下日程にて実施

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1名	1名	1名	2名	0名	0名	2名	3名	0名	0名	0名	3名	13名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審
今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施
２０２４年５月２９日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：１３時００分
自己評価終了時刻：１４時００分
自己評価実施者：施設長、主任保育士、栄養士

〈3〉利用者アンケートの実施
施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月２５日
アンケート回収率：１０９％

（省察）利用者アンケートからNPS指数が６１.６％ととても高い評価を得た。日頃からのコミュニケーション、丁寧な関わりが伝わっていると感じている。保育園としてやれること、やらねばならないことを継続し、保護者への理解のための発信もしていくことが求められると思う。保護者との風通しを良くし、子どもを真ん中において考えられる園でいられるようにしていく。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項
ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見
報告すべきご意見　０件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）
報告すべきケガ（事故含む）　０件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：郡山どろんこ保育園 施設長　佐藤　陽子

２０２４年度　学園の森どろんこ保育園　事業報告書
（保育所における自己評価）

１．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

子どもたちの気持ちに気づくために、日々のドキュメンテーションを継続し、子ども目線で気持ちに寄り添い、励ます実践を重ねました。また、子どもたちが自分たちの思いを声に出せる場としてサークル活動を行い、問題提起から問題解決に向けて葛藤する中で、伝え方や聞き方を学べる環境を整えました。

命をいただく活動に向けて、基本的な生き物の世話や畑仕事に取り組む意味を保育者自身も学び直し、子どもたちと共に取り組みました。鶏の屠殺には至りませんでしたが、給食残渣での取り組みを子どもたちと共に行ったことで、食べ物を大切にする気持ちを知る経験となりました。

園目標である地域全体での大家族を目指すことを中心に地域交流を積極的に行いました。青空保育では、子どもたちが進んで地域の方に声を掛け、園庭開放やちきんえっぐへと繋げ、学園の森どろんこ保育園を知っていただく機会を多く作ることができました。

年間を通して、保育者間のチーム力向上のための研修や、中堅保育者が中心となって研修テーマを決めて若手に教える場を園内研修で作り、相互的な学びの場を設けました。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

１	計画・ねらい	子どもたちが安心して居心地良く過ごせる環境の中で、子どもとのやり取りを丁寧に行う
	実践結果	・整理整頓、いつみても気持ちが良い空間作りのため環境係りが中心となり整えていけた ・園内研修で正しい言葉使い研修を行う。状況に応じた言葉使いや保護者様に向けた言葉使いも学んでいき、対応に活かしていった
	次年度方向性	丁寧さの共有と養護の学びを全体で行い、すべてのスタッフが同じ丁寧さの提供を行う
２	計画・ねらい	主体的に集中して遊びに取り組める保育の中で、自己選択を促しつつ、温かく応答的に関わっていく
	実践結果	・子どもの姿を捉えた保育計画実践のためドキュメントを継続して行い、子どもの育ちを見る目を養っていくことができた ・保育環境を適宜見直していき、子どもたちの興味関心のあるものを見極めていった
	次年度方向性	ドキュメンテーションを活動計画の中に落とし込み、子どもの今の姿が盛り込まれた計画・環境を整える
３	計画・ねらい	スタッフ一人ひとりが目的と意識を持ち、計画を実行・実践する

	実践結果	・日々の保育の振り返りを昼礼時のエピソードで行い、子どもの育ちを多角的に捉えて保育計画に落とし込めるようになってきた ・スタッフ一人ひとりの目的が細分化できるようにし、小さな目標をひとつずつクリアしていき課題に向きあう姿が見られた
	次年度方向性	個々の目標が園目標に繋がり、一人ひとりの頑張りで保育園を作っていけるように日々の振り返りを語り合いの中で継続していく

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	掃除が行き届き整理整頓された気持ちの良い園の環境を常に維持する
	実践結果	・環境整備係り中心に清掃を行う。各クラスリーダーがクラス内外の物的環境を見直していき、声を掛け合って清掃をしていった。また、すきま時間を見つけ、園庭整備を行い安心して遊べるように心がけていった
	次年度方向性	園内清掃の時間を平等に取れるように仕組み化し、全スタッフで気持ちの良い環境作りを行う
2	計画・ねらい	ポートフォリオやドキュメンテーションなど園内での様子や成長が伝わる情報の発信
	実践結果	・園会議内でドキュメンテーションやポートフォリオの研修を実施し学びを深めていった ・保護者に向けて定期的な発表だけでなく、保護者懇談会の際には子どもの成長を伝えることができた
	次年度方向性	保護者向けのドキュメンテーションの発信を継続する
3	計画・ねらい	保護者からの発信を見逃さず、丁寧に受け止める
	実践結果	・3分間対応の内容を深められるように、リーダーと若手がペアになり実践型研修を行っていった。子育ての楽しさや成長を共に喜び合い、支援につなげていくいことができた
	次年度方向性	待たされた感を持たせないための取り組みを継続する 保護者対応力向上のため、園内研修で実践型研修を行う

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域すべての子育て家庭を対象とし、ちきんえっぐを拠点とした憩いの場を提供する
	実践結果	・子育て情報交換となるようにちきんえっぐの環境を整えていった ・青空保育時にちきんえっぐの看板を持っていき、地域の方に知らせていったことで興味を持ってもらい来園する方が増加した。
	次年度方向性	まずはちきんえっぐ参加者を増やすために青空保育から園への誘い込みを積極的に行う
2	計画・ねらい	地域参加の園行事を計画し、地域との交流を深める

	実践結果	どろんこ祭りや地区の祭り、ごみ拾いなどを計画し公共施設にポスターを掲示していただけた
	次年度方向性	地区の祭りへの参加は難しかったが、どろんこ祭りのポスターは引き続き近隣して依頼するが、日々の挨拶や商店街ツアーの行先拡大をし、協力企業を増やす
3	計画・ねらい	ちきんえっぐ、青空保育の充実
	実践結果	・青空保育の参加増加のために、BLANDE 広場付近にいる親子に地道に声を掛けていきまずはどろんこ保育園を知ってもらうことから始めていった ・子育て世帯の方が家庭では経験することが難しいパネルシアターや大型紙芝居・集団遊びなどを展開していったり、保護者様の悩みに寄り添った内容にしていった
	次年度方向性	青空保育の際に使用したちきんえっぐの紹介看板は次年度も継続する 近隣を巻き込んだ地域参加行事を行い、着実に地域との距離を縮めていく

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	園スタッフがそれぞれの専門力を高めるとともにチームとしての力を高めていく
	実践結果	・個人目標の設定をし、興味を持ち必要な研修を受けられる学びの場を設けていき一人ひとりのスキルアップ向上に繋げた ・協力すれば達成できるチーム作りのために、チームビルディング研修を行い、他者を知る、他を認め合うことに注力した
	次年度方向性	個人の目標だけでなく、クラスの中での目標を掲げていきチームとしての方向性を明確にする
2	計画・ねらい	若手と中堅をペアリングし、共に学び合い協力して学ぶ研修制度を確立していく
	実践結果	・毎月1回の園会議内にて学びの研修会を行った。学び合う中で自ら調べたり、情報を共有し発表したりすることで、知識を増やし自信を持って保育に向き合えるようにした
	次年度方向性	リーダー層が自園に必要な学びを自ら探し、園会議内で研修会を行う
3	計画・ねらい	自分の考えを自分の言葉で発していき、園作りに率先して参加する
	実践結果	・大人のサークル活動を園会議内で実施し、小さな集まりの中で経験差や年齢差に囚われず、発言できる場を作った。 ・失敗を恐れずに、まずは子どもたちが楽しいと思う、自分がやってみたいことをやってみる風土作りを徹底していった。保育者が Trial＆Error 体験をする中で、葛藤しながら一つのことをやり切ることで一つずつステップアップすることを図った
	次年度方向性	自分たちのやってみたいことを声に上げることはできるようになりつつあるので、そこに子どもへの育ちの願いやリスクを踏まえた提案ができるように工夫をしていく

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食の循環・環境への意識を育む
	実践結果	・畑仕事で世話・収穫をしたものの加工を子どもたちと相談しながら行った ・調理くずの有効活用として、出汁で取った鰹節や昆布をふりかけにして残渣の減少にした ・生き物の糞・資材等を堆肥化し畑に循環していった
	次年度方向性	調理くずの削減を目指して堆肥化､畑への循環を継続する 給食残渣の減少のため、食の環境を整える
2	計画・ねらい	木育を通じて環境保護・保全のための活動を実施する
	実践結果	・散歩コースや公園にある木や花に興味が持てるよう、子どももスタッフも一緒になって、マップの制作を実施することができた
	次年度方向性	自園で伐採した樹木を使っての木工遊びを取り入れ、木を身近に感じられるようにする

〈6〉子どもも大人も心が躍る本物の体験

1	計画・ねらい	日々のサークル活動を充実させ、自分のやりたいことを自分の言葉で発信できる環境作りの継続
	実践結果	・サークルの内容の確認と意義の周知をスタッフ間で行った ・子どもたちが何に興味を持っているのか、子どもの視点を考える目を養うため、「くっちゃべる」時間を大切にし、多角的に子どもの育ちが見られるようにしていった
	次年度方向性	子どもの育ちへの気づきを WEB マップや日々のドキュメンテーションから読み取る
2	計画・ねらい	子どもの年齢とその時々の育ちに必要な活動を保育者も一緒に楽しむ
	実践結果	・園長大学®・保育士大学「遊びの解体新書」の受講を園会議内で行った ・子どもたちが興味を持つ遊びを学び、保育者も自信を持って保育を楽しめるようにしていった
	次年度方向性	子どもたちの興味関心に沿った遊びの提供ができるように、引き続き遊びの学びの場を提供する

〈7〉スタッフ間の協力体制の確立

1	計画・ねらい	風通しの良い人間関係作りを心掛け、明るい園を目指す
	実践結果	・「ありがとう」感謝の気持ちを率先して声にしていったことで、挨拶が自発的にできる園の雰囲気に繋がった

		・2・3年目の若手保育者が「やります」と自ら進んで取り組む姿勢を見せたことで、園全体の士気が上がり、全体で協力し合う姿に繋がった
	次年度方向性	挨拶が自然と出てくる明るい風土を築きあげる
2	計画・ねらい	チームの力、信頼関係を築くためのアクティビティの実施
	実践結果	・園内研修時に簡単なゲームを行い、人との関り方を考え相手や自分のことを知ってもらうきっかけ作りを行った
	次年度方向性	チームビルディングに必要な研修の継続を行う

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半：4~9月	６２人	８８人	８９人	９０人	９０人	１０４人	５２３人
年度後半：10~3月	８８人	９０人	９０人	９０人	９０人	１０７人	５５５人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	134人	121人	108人	116人	116人	143人	151人	149人	152人	134人	133人	100人	1557人
うち0歳児	0人	1人	0人	3人	3人	6人	9人	１２人	１７人	１４人	１９人	２０人	104人

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	0人	２人	６人	１２人	１０人	５人	４人	６人	３人	３人	７人	８人	６６人

うち0歳児	0人	0人	0人	5人	6人	4人	4人	6人	3人	3人	6人	8人	45人

〈2〉開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

常勤スタッフ	保育士	15人	看護師	1人	栄養士	2人		
パートスタッフ	保育士	1人	事務	1人	用務	1人	嘱託医	2人
	嘱託職員	1人						

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・園の課題に向けた研修発表
給食運営会議	月1回	食育計画の振り返り　給食内容と残渣状況　離乳食進行共有
事故防止委員会	月1回	事故報告書の分析　再発防止　ヒヤリハット　インシデントの報告
ケース会議	月1回	要支援児の育ちの共有
リーダー会議	週1回	施設長、主任、リーダーによる運営に関わる共有検討
乳児・幼児会議	週1回	乳児クラス、幼児クラスの保育の計画と振り返り　課題の検討

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ

施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
食育会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長
主任会議	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	児童保健衛生に係る身体測定・定期健康診断・歯科検診の実施と保護者との連携、施設の清掃と衛生管理、衛生管理に係る消耗品および備品の管理、感染症予防対策の管理点検
安全対策係	避難訓練及び消火訓練・防災自主点検の実施管理、消防署との連携窓口業務、救命講習計画と実施、施設内外の設備点検および事故防止点検の実施
防火管理者	施設の火元の管理、消防計画の作成と届出、防火・消火についての毎月1回のスタッフ訓練と日常的な啓蒙を行う
食品衛生管理係	給食食材および提供食材の衛生管理と在庫状況の管理
畑係	畑状況の管理、道具類の維持補充、乳幼児やスタッフの畑活動の把握や課題検討におけるイニシアチブをとる
生き物係	飼育動物の健康管理、動物小屋の維持管理、乳幼児やスタッフの生き物飼育活動の把握や課題検討におけるイニシアチブをとる
卒園アルバム係	園児の写真管理、販売用写真の選定、確認販売用および保存用写真の保護管理・選定
環境整備・備品係	園内外の環境整備状況の管理・ゾーン保育のための環境構成、備品の点検と補充
地域・厚生係	地域住民や団体などへの対外的な窓口業務管理　スタッフ厚生に係る業務

〈４〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	保護者と協働的に準備・進行を行う
運動会係	保護者と協働的に準備・進行を行う
生活発表会係	保護者と協働的に準備・進行を行う

4. 保育支援

〈１〉保育･保育参加･保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	･保育参加を通して、子どもの様子を知っていただき、日々の様子や家庭での気になることについて深く意見交換した。 ･保護者面談の際には家庭での様子を傾聴し、面談の場で終わることなく、定期的に面談の場を設け継続した情報交換を進めた。
保育参加	4～3月まで　合計3名　が参加済み　　（3月１日時点）
保護者面談および発達相談	4～3月まで　合計2名　が参加済み　　（3月１日時点）

〈２〉計画した年間行事の振返り

・別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈３〉給食・食育に関する実践結果

１	計画・ねらい	共に食べる楽しさ・心地よさを味わえる食事の場作りを大切にする
	実践結果	・好きな友だちと一緒に食事ができる環境を整えていった ・午前の時間を思い切り遊び、空腹感を感じて意欲的に食べられた ・保育者を含めての園側給食での共食を基本とし、楽しく食事をした
	次年度方向性	0～5歳児が好きな場所で食事が楽しめる環境を作る 食の環境が整った空間で、安心してしょくじが楽しめる雰囲気作りを行う
2	計画・ねらい	自ら栽培、体験したものを食するという循環から、環境、命の大切さに気付く

	実践結果	・畑活動、堆肥作りを全スタッフと子どもが共に行っていった ・行事食、伝統食作り・加工品作りを経験する
	次年度方向性	様々な食育体験の継続だけでなく、食の循環の学びのために堆肥作りを丁寧に行う
3	計画・ねらい	さまざまな素材を楽しみながら、自分で意欲的に食べることを大切にする
	実践結果	・能動的に食べられるよう手掴み食べを実施した。また、家庭にも協力をお願いし、自分で食べる大切さを伝えていった また、保護者様には食材においても素材を味わえる状態で提供していることをお伝えし、様々な味を知る機会を作っていった
	次年度方向性	子どもの意欲を高めるための援助のために、個々の発達を捉える目を養う

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	６月２６日／１１月１３日に実施
歯科検診	６月２４日／１１月１９日に実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① ６月１６日／１２月１２日に保育室にて手洗い指導を実施 ② １０月２４日／１１月１９日に保育室にて歯磨き指導を実施 ③ １２月２４日にちきんえっぐにて歯の染めだしを実施 ④ １２月１３日／１２月１６日にちきんえっぐにて性教育を実施
流行した感染症	① 12月に手足口病、園児18名・スタッフ0名蔓延。 ② 1月にインフルエンザＡ型、園児・スタッフ3名感染報告有り。1月20日に終息
発作・痙攣等の対応	対応なし
エピペン使用できるスタッフの状況	・４月１６日に自園会場にてエピペン研修をスタッフ２４名が受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ２１名のうち、２１名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	・６月１５日／６月２２日につくばどろんこ保育園会場にて救急救命講習をスタッフ名４名、スタッフ名５名、計９名が新たに受講し習得済み

	・本日時点で、在籍スタッフ２１名のうち、２１名が使用可能
その他保健に関する取組	地域の看護学部在学の学生ボランティアによる熱中症予防の寸劇を行う

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（法定1回/3年）	業者による対象物の法定点検 2023年実施済み ※対象物がない園及び JW 園は削除すること
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月 ⇒4月５日、10月４日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日　実施済み
	児童健康診断	内科健診　各年２回／６月２６日、１１月１３日 歯科健診　各年２回／６月２４日、１１月１９日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時 ⇒4月１６日、10月８日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間　実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

l	計画・ねらい	子どもが快適に過ごせるように環境を整える
	実践結果	・整理整頓と日々の清掃、換気や消毒を丁寧に行い、心地よさを味わえるようにした ・子どもの動線を考え、ゾーンを配置して身の回りのことがやりやすい環境を整えた
	次年度方向性	心身ともに安心できる清潔で過ごしやすい環境を整える ゾーン保育の学びの継続
2	計画・ねらい	子どもが主体的に育つ環境を作る
	実践結果	安心して過ごせるゾーンや子どもたちがやりたいことが詰まった各ゾーンを充実させ、年齢に囚われることなくやりたいゾーンの往来ができるよう見守っていけた
	次年度方向性	チーム保育でゾーン保育を深めていく 保育園全体でゾーンの配置を決め、遊びを通して異年齢での関りができるようにする

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
l	ひな壇	幼児室	毎日	異常なし
2	配膳台	幼児室	毎日	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

l	実践結果	危機管理マニュアルに則り、消防訓練・避難訓練・避難訓練開催通知・自衛消防訓練通知・上級救急救命資格取得（継続）手続き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛防災…危機管理マニュアルに則り、消防訓練・避難訓練・避難訓練開催通知・自衛消防訓練通知・上級救急救命資格取得（継続）手続き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛消防組織と安全対策係の設置・緊急地震速報運用を行い、災害発生時には対応フローチャートに従う。
2	実践結果	危機管理マニュアルに則り、事故防止チェックおよび設備点検チェックの実施、安全教育、ＳＩＤＳ防止策を行い、けが発生時には対応フローチャートに従う。
3	実践結果	危機管理マニュアルに則り、不審者侵入訓練の実施、笛の携帯、代理送迎者の把握、不審者情報の収集と共有を行い、不審者侵入時にはフローチャ

		ートに従う。
4	実践結果	危機管理マニュアルに則り、光化学スモッグの知識を身につけ、注意報発令の把握を行いながら、発生時には光化学スモッグ発生時対応および行政連絡に従って対応する。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

中学生の職業体験を受け入れることで地域とのつながりが深められた。
実習生の受け入れがなかったため、今後の採用にもつながるため獲得していきたい。

〈2〉実習生の受入

実習生の受け入れなし

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
7月23～24日	つくば市立豊里中学校	20人
7月29日	茨城県立藤代紫水高校	1人

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	16日 23名	14日 23名	11日 23名	9日 22名	13日 21名	10日 20名	8日 21名	12日 21名	10日 19名	14日 18名	21日 22名	21日 22名
園内研修	16日 23名	14日 23名	11日 23名	9日 22名	13日 21名	10日 20名	8日 21名	12日 21名	10日 19名	14日 18名	21日 22名	21日 22名

〈2〉外部研修への出席

外部研修なし

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	22日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	21日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
主任・ミドル会議	24日 2名	17日 2名	27日 2名	18日 2名	22日 2名	19日 2名	17日 2名	21日 2名	19日 2名	23日 2名	20日 2名	開催なし
全社員研修	１２月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

地域全体での大家族を目指す～次への一歩を掲げ、毎月の活動案内を看板にするなど新たな取り組みに踏み出す

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：BLANDE 公園にて　　参加延べ人数：３８名
商店街ツアー	週1回 主な行き先:東光台青空市場、サンキ、ミニストップ、ネクステージ、タイヨー、ありがとうきっちん、ケーズデンキ、研究学園専門歯科、セカンドストリート、BLANDE、西松屋、つくば市中央消防署、コーナン等
世代間交流	５月３０日に学園の森義務教育学校にて運動会見学を実施
異年齢交流	１１月２６日に香取台どろんこ保育園にて五園合同交流会を実施
その他活動	１０月４日に自園にて筑波大学ラグビー部との交流を実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈Ｉ〉今年度の振り返り

子ども同士の交流だけでなく小学校教諭に保育園見学を行ったことで相互的な学びの機会を設けることができた。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
４月２２日	つくば市立学園の森義務教育学校小学校	２名	新年度打合せ	職員間交流
４月２２日	つくば市立研究学園小学校	２名	新年度打合せ	職員間交流
４月２６日	つくば市立研究学園小学校 Ｉ年生	２名	授業参観（Ｉ年生各教室）	職員間交流
５月３０日	つくば市立学園の森義務教育学校小学校	Ｉ４名	運動会見学（学園の森義務教育学校グラウンド）	子ども間交流
７月３０日	つくば市立研究学園小学校	７名	保育園見学（学園の森どろんこ保育園）	職員間交流
Ｉ０月２２日	つくば市立研究学園小学校	Ｉ６名	運動会見学（研究学園小学校グラウンド）	職員間交流
Ｉ０月２５日	つくばどろんこ保育園	Ｉ名	「小学校への円滑な接続へ」	幼保小接続担当者研修
ＩＩ月Ｉ２日	WEB	５名	「幼児教育から小学校への接続を学ぶ」	幼保小接続担当者研修
ＩＩ月２９日	つくば市立研究学園小学校	Ｉ６名	「わくわく秋ランド」	子ども間交流
３月５日	つくば市立学園の森義務教育学校小学校	Ｉ８名	「小学校生活をのぞいてみよう」	子ども間交流

10. 要支援児

〈Ｉ〉個別支援計画の作成・見直しの状況

・個別支援計画を作成し日常的に保護者と話して相互理解を図り、子どもの発達状況についてスタッフ間で情

報を共有し、認識の相違をなくすように努める。
・集団保育の中で馴染みにくい子どもには、他児との集団の中で育ち合い社会で生きていく手立てを支援するようにする

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・４～３月に計１２回開催　参加者：園会議参加者
・専門機関からの療育方針の共有
・子どもの姿の共有を行い、全体周知をする

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

看護師や担当保育者へ丁寧な引継ぎを行う。小学校へは必要な場合保護者の同意を得て、教育委員会への相談を行い、安心して通える状況を構築する

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
２名	５名	４名	０名	４名	４名	６名	０名	２名	０名	６名	６名	３９名

<table>
<tr><th>実施項目</th><th colspan="13">詳細</th></tr>
<tr><td>園開放</td><td colspan="13">（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　　来園延べ人数：２９名</td></tr>
<tr><td>子育て相談</td><td colspan="13">（月）～（土）13:00～16:30　　⇒計１件相談実施済み</td></tr>
<tr><td rowspan="3">自然食堂
親子ランチ
交流</td><td colspan="13">毎週（水）10:00～12:00　　⇒計０回実施済み
参加者延べ人数</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>０名</td><td>０名</td><td>０名</td><td>０名</td><td>０名</td><td>０名</td><td>０名</td><td>０名</td><td>０名</td><td>０名</td><td>０名</td><td>０名</td><td>０名</td></tr>
<tr><td rowspan="3">どろんこ
芸術学校
どろんこ
自然学校</td><td colspan="13">毎週（水）10:00～12:00　　⇒計１回実施済み
参加者延べ人数</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>０名</td><td>０名</td><td>０名</td><td>０名</td><td>０名</td><td>０名</td><td>０名</td><td>０名</td><td>２名</td><td>０名</td><td>０名</td><td>０名</td><td>２名</td></tr>
<tr><td>勝手籠設置</td><td colspan="13">（月）～（土）7:00～20:00　にて実施
門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置</td></tr>
<tr><td>ちきんえっぐだより</td><td colspan="13">毎月1日発行</td></tr>
<tr><td rowspan="3">青空保育
（支援センター主催）</td><td colspan="13">月1回　　公園名：BLANDE 公園にて　以下日程にて実施</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>２名</td><td>５名</td><td>４名</td><td>０名</td><td>４名</td><td>４名</td><td>６名</td><td>０名</td><td>０名</td><td>０名</td><td>６名</td><td>６名</td><td>３７名</td></tr>
</table>

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審
今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施
２０２３年１２月２０日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：１３時００分
自己評価終了時刻：１３時３０分
自己評価実施者：スタッフ３名

〈3〉利用者アンケートの実施
施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月２５日
アンケート回収率：１００％

前年度と比較して大きな変化はなく、中間層の満足度の向上が課題化と感じる。
保護者様の求めているものが何かの分析を徹底していきたい。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見
報告すべきご意見　０件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）
報告すべきケガ（事故含む）　０件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：学園の森どろんこ保育園 施設長　植杉　麻実

２０２４年度　中里どろんこ保育園　事業報告書
（保育所における自己評価）

Ⅰ．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

年間を通して、どろんこ会グループの法人理念を基に保育運営を展開した。今年度の目標であった「子ども　どまんなか　ゆとり保育」ということを意識し、行事を実施するうえでも、子どもを中心とした内容で取り組むことができた。

また、どろんこサポーターズが中心となり、大型行事にも積極的に参画してくださった。地域で立ち上げ中の「清瀬花の里公園」の協議会にも携わるなど、より清瀬市の事業に参加した。

清瀬市の自然に存分に触れるなどして必要な野外体験を取り入れ、活動のなかで子どもたちが試行錯誤し挑戦できる環境を整えた。職員間の良好さや保育の質を上げるという点においては、より良くなるよう建設的に築き上げることができた。各々が、自身のすべきことを考え実践し続けた。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	生活力の体得
	実践結果	日々の日課に加え、遊びの充実・道具の扱い方・歌・火との距離のとりかたを、保育者が実際に行動して背中を見せた。特に生き物の世話・畑活動への取り組みに力を入れることができた。 また、子ども同士で助け合う姿が多くみられるようになった
	次年度方向性	音楽指導・のびのび指導・商店街ツアーを重点的に取り組み、実施を確立させていく。
2	計画・ねらい	10の姿の体得（異年齢・インクルーシブ保育）
	実践結果	子育ての質を上げる会議・施設長勉強会を基に、年間を通して学びを深めた。エピソードを持ち寄り、時には園内研修にて話し合いを重ねるなどして考える機会を設けた。
	次年度方向性	子育ての質を上げる会議への参加スタッフ・施設長を中心として他スタッフを巻き込んで学びを深めていく。
3	計画・ねらい	見守る・継続する保育の実践
	実践結果	スタッフひとり一人が見守る保育の意味を理解するよう努めた。保育室の環境においては、継続して遊べるゾーンを設けたが、維持をしていく点については課題も見られた。
	次年度方向性	異年齢で過ごしているからこその環境の構築を目指す必要がある。特に「見守る保育」という点については、保育者の介入度を全スタッフが理解し、実践するために年間を通して子どもとの関わり方について学びと振り返りを繰り返していく。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者様の心に入り込んだ接遇
	実践結果	受け入れ・お迎え伝達時には、子どもたち の様子が細やかに伝わるような伝達内容を意識した。週でクラスごとに詳細に伝達内容を記すことで、誰が伝達しても一日の様子が保護者様に伝わるよう努めた。 伝達のポイントについての接遇研修を園内で５月・課内で１月に実施した。
	次年度方向性	保護者対応の質を高めるために、対応力を多様にしたうえで、個々のニーズに合わせた関りを学ぶ機会を設けていく。
2	計画・ねらい	利用者様に選ばれる施設となる。
	実践結果	園見学者数が前年度より下回ったこともあり、第一希望入園希望者数は36名と8名の減少が見られた。
	次年度方向性	施設長が手本となり、主任・リーダー層スタッフの目の前でロールプレイング方式にて園見学の実践を見せていく。
3	計画・ねらい	いつ見ても気持ちが良い施設となる
	実践結果	倉庫内の整理は定期的に実施できた。 清掃面については、保育者の清掃意識に課題が見られた。
	次年度方向性	清掃日を決めていくことで、清掃する仕組み化を図る。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域に開かれた施設の確立を目指す
	実践結果	保育施設等に在籍していない子育て世帯の方を対象に、園内行事へ呼び込みを実施した。昨年度よりも来訪者人数が増加し、局所的なコミュニティではあるが、子育てネットワークのなかでの認知度も高まった。
	次年度方向性	離乳食講座・ちきんえっぐ・清瀬市地域事業に重点をおき、更なる来訪者人数の増加を目指すことで、中里どろんこ保育園へ足を運んでいただく機会を設けていく。
2	計画・ねらい	地域に根付く活動の充実
	実践結果	清瀬市の地域事業を活用し、地域の方にも保育園へ足を運んでもらえる機会を積極的に設けた。 清瀬市のボランティア団体が運営している川を守る会や自然を守る会との連携も実現し、自然を中心とした保育活動を取り入れた。
	次年度方向性	引き続き、清瀬市のボランティア団体とも連携をとりながら、自分たちの住んでいる町を意識した活動にとりくんでいく。
3	計画・ねらい	ちきんえっぐ参加率の向上を図る
	実践結果	ちきんえっぐ（自然食堂・自然学校・芸術学校・寺親屋）や園庭開放含め、前年度よりも参加率が向上した。地域事業行事にも定期的にご参加いただくなど、認知度も高まった。
	次年度方向性	子育て広場などにチラシを貼りだしていただくことで、更なる来訪者人数の増加・認知度の向上を目指していく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	多様性を認めるスタッフ集団
	実践結果	園内研修・個人面談を定期的に設けることで、自己理解・他者理解が共に深まるよう努めた。 建設的な話し合いはもちろんのこと、スタッフ自らが他スタッフを気遣う環境が構築されている。離職者1名。
	次年度方向性	全スタッフを対象とした個人面談を実施し、園内の組織化を確立していく。
2	計画・ねらい	保育の質の向上
	実践結果	園長大学・保育士大学からスタッフ自身が研修を選びとり、常に学びの向上を目指した。 清瀬エリア全体での合同研修も実現し、学びを深める機会を設けた。
	次年度方向性	近隣エリアの同系列保育園に在籍するリーダー層を対象とした合同研修を定期的に実践していく。 主任教育にも焦点を置くことで、エリア全体で組織の質を高める。
3	計画・ねらい	基本的な接遇マナーを身につける
	実践結果	接遇研修の実施。 日常の中でも電話対応の手順を確認した。 また、来訪者へは気持ちの良い挨拶で迎えいれるよう、スタッフ全員で意識した。
	次年度方向性	接遇研修の内容を具体的にし、挨拶・電話対応・伝達に特化することで、より実践として活用できる内容にしていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	環境の充実を図る
	実践結果	多少の前後はあったが、定期的に環境構成を見直しすることができた（6月・9月・12月・3月）。 園内研修を通して、人的環境としての保育の質を高めた。
	次年度方向性	室内外の物的環境を整理して更新し、保育者の保育技術を磨くことで人的環境の充実を図る。
2	計画・ねらい	環境設定の知識を深める
	実践結果	年間を通し、スタッフ5人以上が環境（物的環境・人的環境）についての研修を受講。キャリアアップ研修や保育士大学・園長大学、園内研修を経て、学びを深めた。
	次年度方向性	子どもの姿や発達を見据えた環境の設定を実現させていく。
3	計画・ねらい	自然に特化した遊びの体験を実施
	実践結果	季節によって変化する環境を実際にとりいれていくことで、子どもたちが試行錯誤し直接体験する機会を実現した。
	次年度方向性	散歩先での自然物を取り入れた製作を意識していく。

〈6〉命の大切さを知る性教育

1	計画・ねらい	年齢に合わせた性教育の実施（3・4歳児）
	実践結果	命の大切さを知ると共に、相手への触れ方による快と不快の感じ方を知り、人との距離感を知ることでコミュニケーション能力を培えるよう目指した。
	次年度方向性	引き続き、３・４歳児を対象にした性教育を実施する。
2	計画・ねらい	命の大切さを知り、自己肯定感を高める（5歳児）
	実践結果	5歳児における性教育では、法人指定の教材をもとに実施した。 産道に似せた布製の袋を作成し、もう一度誕生の場面を再現することで、この世に生まれた不思議さや尊さを疑似体験した。
	次年度方向性	内容を変更し、自身を大切にする気持ち（自己肯定感を高める）を改めて感じる機会にしていく。生まれたことに感謝し、困難に立ち向かうときには、命を捨てる選択をしない「にんげん力」を培っていく。
3	計画・ねらい	鶏を捌いて食べ、命のありがたみを知る
	実践結果	実際に飼育している鶏を目の前で捌いて食べるところまで体験し、「命をいただく」ことの本当の意味を知る機会を設けた。
	次年度方向性	今年度の反省点を抽出し、体験の工程や手洗いの順・回数を特に意識して実施していく。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半：4~9月	36人	96人	108人	120人	120人	120人	600人
年度後半：10~3月	30人	80人	90人	100人	100人	100人	500人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	139人	164人	169人	190人	125人	156人	191人	169人	162人	181人	146人	146人	1938人
うち0歳児	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人

（解説）0歳児の利用がなく、全体的にも延長利用は減少した。

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	5人	0人	0人	0人	8人	6人	12人	12人	12人	3人	2人	1人	61人
うち0歳児	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人

（解説）一時保育利用が昨年度よりも増え、認知度が向上した。

〈2〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

常勤スタッフ	保育士	15人	看護師	1人	栄養士	3人	調理員等	1人
パートスタッフ	保育士	1人	事務	1人	用務	1人		

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・虐待防止研修・ケガのリスク研修 ・接遇研修 ・リズム体操研修 ・絵の具遊び研修 ・川遊び研修 ・保護者支援研修 ・事業計画の中間振り返り ・10の姿を学ぶ ・保育環境について ・利用者アンケートについての改善点 ・環境構成研修 ・全体研修 ・保育エピソード研修

		・策定会議1回目 ・策定会議2回目 ・キックオフ
給食運営会議	月1回	アレルギー状況の進捗確認、喫食状況、マナー教室の共有等
事故防止委員会	月1回	自園・他園のインシデントや事故記録を元にリスク管理の質の向上を目指した
ケース会議	12回	同園児の一年間を記録することで、スタッフの発達支援による理解を深めた。清瀬市発達支援センターとことこの方と共同で、1回ケース会 議を実施
乳児・幼児会議	月2回	近況確認・課題抽出・実践内容の共有等

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
食育会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長
主任会議	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	感染症対策の徹底、衛生用品の補充、保健指導
安全対策係	ハザードマップの見直し、備蓄品の確認
防火管理者	機器周りの衛生、安全管理
食品衛生管理係	食品の衛生管理、アレルギー児の状態、書類管理
畑係	年間を通した畑管理、実施記録の作成、可視化
生き物係	ヤギ、鶏など生き物の管理、餌など必要備品の在庫管理

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	どろんこ祭りをはじめ、運動会の手伝いや生活発表会では、地域競技や焼き芋大会を開催していただいた。

4. 保育支援

〈1〉保育･保育参加･保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	・愛着関係を大事に育て、安心して過ごせる環境を目指した ・自主性が育まれるよう意識した関わりを行った ・自然物などに関わりを持ち、表現活動を多く取り入れた ・「共有」「連続」「可視化」の実践を意識した ・写真記録であるポートフォリオなどを用いて、育って欲しい10の姿を意識した考察や学びを深めた
保育参加	4～3月まで　合計12名　が参加済み　　（3月1日時点） ・保育参加の参加者が徐々に増え、実際に保育を見ていただける良い機会となった。次年度は更に呼びかけを強化していく。
保護者面談および発達相談	4～3月まで　合計100名　が参加済み　　（3月1日時点） ・保護者の方の要望に合わせた内容に応じて面談を行った

〈2〉計画した年間行事の振返り

・別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	素材の味を活かし、大きな食材にかぶりつくことで噛む力を養う
	実践結果	離乳期から大きめの食材にかぶりつくことで、自分の一口量を知るように導いた。また、よく噛むことで、咀嚼力の発達も同時に促した。
	次年度方向性	引き続き、大きな素材を意識した離乳食づくり・提供に取り組む。
2	計画・ねらい	食事を楽しむ
	実践結果	役職関係なく、全スタッフが子どもと一緒に食事をすることで、食べることができた。 好きな人と好きなときに好きな場所で好きなだけ食事をすることを基本と

		し、自分で盛り付けすることで、自身の食べられる量が知れるよう努めた。
	次年度方向性	引き続き、法人の理念に則って、食事の環境を構築していく。
3	計画・ねらい	空腹のリズムがもてる子どもの姿を目指す
	実践結果	散歩９時出発の定着が、もう少し課題として残っている。
	次年度方向性	引き続き、空腹感を感じ、食への意欲が高まるよう「散歩９時出発」を定着させ日中の活動を十分 に行っていく

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月27日／11月28日に実施
歯科検診	6月5日に中里どろんこ保育園会場にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 4月17日に中里どろんこ保育園会場にて手洗い・うがい指導を実施 ②6月4日に中里どろんこ保育園会場にて歯みがき指導を実施 ③ 10月23日に中里どろんこ保育園会場にて風邪予防の指導を実施 ④1月17日に中里どろんこ保育園会場にて性教育指導を実施
流行した感染症	① 7月に手足口病、園児31名・スタッフ1名蔓延し、自治体へ報告 ② 11月にリンゴ病、園児3名感染報告有り。11月27日に終息
発作・痙攣等の対応	計1名に対し、計0回ダイアップ使用
エピペン使用できるスタッフの状況	・4月30日に中里どろんこ保育園会場にて危機管理研修をスタッフ24名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ25名のうち、25名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	・4月30日に中里どろんこ保育園会場にて心肺蘇生研修をスタッフ25名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ25名のうち、25名が使用可能
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底した

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（法定1回/3年）	業者による対象物の法定点検 2023年実施済み ※対象物がない園及び JW 園は削除すること
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4･10月 ⇒4月30日、10月30日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日　実施済み
	児童健康診断	内科健診　各年2回／6月27日、11月28日 歯科健診　各年1回／6月5日
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4･10月の園会議時 ⇒4月12日、10月11日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間　実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	充実した室内環境の定着
	実践結果	子どもの興味・関心がどこに向いているかを観察し、定期的に室内環境の見直しを図った（年4回6月・11月・1月・3月に実施）。
	次年度方向性	引き続き、定期的に環境の見直しを実施する。
2	計画・ねらい	継続性のある遊びの充実
	実践結果	室内外共に、続きの遊びができる環境を構築した（5月実施） 定期的に環境の見直しを実施した。
	次年度方向性	室内遊びにおいても、十分に継続した遊びが確保できるようなゾーンを1箇所以上設置する。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	鉄棒（大・小）	グラウンド	使用都度	異常なし
2	レゴブロック作業台	幼児室	毎日	異常なし
3	作業台2つ	幼児室	毎日	異常なし
4	ままごと化粧台	幼児室	毎日	異常なし
5	オオムラサキ飼育小屋	グラウンド	侵入都度	異常なし
6	絵本コーナーテーブル	幼児室	毎日	異常なし
7	外用ままごとテーブル2台	グラウンド	毎日	異常なし
8	生き物コーナー台2つ	幼児室	毎日	異常なし
9	ベンチ3台	グラウンド	毎日	異常なし
10	お茶用の台4台	グラウンド	毎日	異常なし
11	一本橋	倉庫収納（幼児室）	使用都度	異常なし
12	遊び〇×ボード	幼児室	毎日	異常なし
13	鶏小屋	グラウンド	毎日	異常なし
14	ホワイトボード	幼児室	毎日	異常なし
15	外用玩具棚	グラウンド	毎日	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	防災…危機管理マニュアル NO.3の災害対策（Ｐ６～）に則り、消防訓練・ 避難訓練・避難訓練再開通知・自衛消防訓練通知・普通救急救命資格取得 （継続）手続き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛消防組 織と安全対策係の設置・緊急地震速報運用を行い、災害発生時には対応フ ローチャートに従った
2	実践結果	ケガ事故防止…危機管理マニュアル NO.3（P8～）のケガ事故防止策・安全点検と保全、事故防止チェック及び設備点検チェックの実施、安全教育 、ＳＩＤＳ防止策を行いケガ発生時には対応フローチャートに従った
3	実践結果	不審者対策…危機管理マニュアル NO.3の不審者対策（P14）に則り、不審 者侵入訓練・笛の携帯・代理の送迎者の把握・不審者情報の収集と共有を 行いながら、不審者侵入時には対応フローチャートに従った
4	実践結果	光化学スモッグ…危機管理マニュアル NO.3の光化学スモッグ対策（P15～ ～）に則り、知識を身につけ、注意発令の把握を行いながら、発生時には 光化学スモッグ発生時対応及び清瀬市緊急連絡網に沿って情報を流した
5	実践結果	自園のヒヤリハット、インシデントをもとに検証・対策を積み重ね、怪我に対する危機管理をもって保育にあたった

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

実習生は３名の受け入れとなった。

中高生の夏の体験ボランティアでは、一日 5 名以内の受け入れとし、積極的な交流を図ることができた。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
5月7日～6月8日	日本社会事業大学	2人	観察・責任実習
6月17日～27日	美作大学生活科学部	1人	部分責任実習
8月13日～27日	日本児童教育専門学校	1人	観察実習
11月5日～15日	武蔵野短期大学	1人	責任実習

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
7月1日～8月31日	文華女子高等学校　等	4人
7月1日～8月31日	清瀬第三中学校	1人

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	12日 21名	10日 24名	14日 22名	12日 19名	9日 19名	13日 20名	11日 24名	8日 18名	13日 22名	1日 17名	14日 23名	2日 22名
園内研修	12日 21名	10日 24名	14日 22名	12日 19名	9日 19名	13日 20名	11日 24名	8日 18名	13日 22名	1日 17名	14日 23名	2日 22名

性教育研修 講師：施設長	1月23日に中里どろんこ保育園会場にて23名のスタッフが出席 収支報告			
	事業計画にて計上した予算		実際の支出	
	講師費	0円	交通費	0円
	合計	0円	合計	0円

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
なし	なし	なし	0名	なし

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 1名	15日 1名	21日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	21日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	21日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	21日 1名

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

〈5〉スタッフ全員が一つの保育チームとなり、互いを育成し合う

細やかなコミュニケーションをもとに相互理解を図り、頼り頼られる関係性を築いてきた。スタッフ同士が一丸となり互いの保育を確認し合い、伝え合うことで保育の質を高められるチームとなるよう努めてきた。また、自分の強みと弱みを認めることで相手の強みと弱みを認めることができるようジョハリの窓ワークを園内研修にて実施した。いかに自己開示をしていけるかに焦点をあて、自信をもって保育をしていける人間性を養ってきた。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

清瀬市のボランティア団体との交流が根付き、柳瀬川に生息している川魚を一緒に学ぶなど、地域を巻き込んだ保育が運営できた。青空保育では、参加者数が増加しなかったため、次年度は新しく開設する公園へ変更する。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：けやき公園にて　　参加延べ人数：10名
商店街ツアー	週1回　主な行き先：マルエツ、ファミリーマート、清瀬消防署、清瀬市役所、農協、郷土博物館　等
世代間交流	11月12日に清瀬第三中学校会場にて交流会を実施
異年齢交流	近隣の小学校・保育園などと交流できる機会を設けた。 3月14日に清瀬どろんこ保育園会場にて交流会を実施
その他活動	8月5日に中里どろんこ保育園会場にてオーストリア人の文化を知る体験を実施
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉　実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

清瀬第八小学校の一年生から招待を受け、交流会を通して、就学への憧れや期待を高めた。
またスタッフ間の交流では、学習発表会に足を運び、小学1年生の学びの様子を体験した。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
11月15日	清瀬第八小学校 1年生	19名	交流会	子ども間交流
11月30日	清瀬小学校	3名	体育館　展覧会	職員間交流
2月20日	清瀬第八小学校 1年3組	17名	教室紹介	子ども間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

毎月開催されるケース会議にて計画を見直し、課題抽出を行った。写真や動画記録も併せて共有し合うことで、子どもの姿をより深く見立てて振り返る機会ができた。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・4～3月に計12回開催　参加者：55名

会議の開催が定着してきたことで、年間の流れに沿って対象児童の成長を月ごとに振り返ることができた。また、年1回発達支援交流センターとことこの職員にもケース会議へ参加して頂くことができた 。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

発達支援交流センターとことこと連携を図り、年間2回の巡回指導で子どもの姿を共有し、助言も頂いた。

実際に進学する小学校の先生が来訪し、子どもたちの様子を見ることで配慮事項などを細やかに引き継ぎすることができた。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1名	0名	0名	0名	0名	0名	2名	2名	0名	0名	6名	2名	12名

実施項目	詳細												
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　　来園延べ人数：1635名												
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　⇒計0件相談実施済み												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計1回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	1名	0名	0名	0名	0名	0名	1名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計3回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	2名	2名	0名	0名	0名	0名	4名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00　にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっぐだより	毎月1日発行												
青空保育 （支援センター主催）	月1回　　公園名：けやき公園にて　以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	1名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	6名	0名	7名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２４年６月１２日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：８時１５分
自己評価終了時刻：１６時００分
自己評価実施者：施設長、主任、幼児リーダー、乳児リーダー

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月２５日
アンケート回収率：100%

回収率１００%は、達成できた。細やかな配慮をすることで改善できる景観や室内環境・スタッフの対応について主な要望であった。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見　０件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む）　０件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年3月１５日　　作成者：中里どろんこ保育園 施設長　小川 愛

２０２４年度　メリー★ポピンズ アトレ川崎ルーム
事業報告書
（保育所における自己評価）

Ⅰ．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

・園目標…コミュニケーション＋（つなげる）経験＝じりつ

保育理念を柱として、『次の時代を生き抜く子を育てる』為に以下を基本方針とし、養護と教育を一体的に進めていった。
・子どもたちが商店街ツアーや交流会などで様々な人との関わりや体験を重ね、経験していくことで遊びや生活に対して自ら意欲的に過ごすことができるようにした。
だが、関わりや体験の範囲が狭かった。次年度は活動の範囲を広げより子どもたちの経験や体験が広がるようにしていく。
自分のしたいことを満足するまでやり、子どもたちの挑戦する意欲が持てるよう環境を設定できるよう努めた。
・子どもの一人ひとりの成長を認め、常にその成長や発達をとらえるよう、子どもの成長について話し合うことを大切にした。園会議やクラス会議の中で話し合いを行えるようにした。
子どもに必要な物的環境については課題と感じる。子どもの成長に合わせての設定ができるような話し合いが必要。
・大人も主体性を持ち、子どもたちの体験、経験の場を増やしていかれるよう、スタッフ全員で学び続けることをしていくよう努めた。課題と感じることを園内研修として取り入れていった。
保育者は個々の得意なことを発揮し、園全体の保育の質を上げ、保護者からの信頼、子どもたちのにんげん力の向上に繋げていくことを目指した。
自分の得意なことを今後見つけ、必要な知識を身に付けて自信をもって保育をすることやそれを他のスタッフへアウトプットすることで全体の学び、保育の質の向上につながていく必要があると感じる。
・「大人のにんげん力・挑戦・繋がり・話し合い、考え学び続ける」をこの一年間大切にしてきた中では、話し合いや必要な学びは取り入れスタッフ間で助け合いながら１年間保育することができた。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	自分で考え、行動する力を育む～生活力の体得～
	実践結果	体験を通して生活力と危険なものとの距離の取り方を学ぶ。とあったが、スタッフ体制や子どもとの関わりの中で体験させる環境や、計画を立てるのが難しかった。後半になると焚火や長距離散歩など活動を広げていくことが少しずつ増えた。しかし、全体的に危険だと感じることを大人が制限させてしまう部分も多かった。
	次年度方向性	保育者が事前に止めてしまうことをやめ、安全には配慮はしつつ体験して気付くことを大切にする。子どもを信じ考える力を伸ばす。

2	計画・ねらい	異年齢の子どもが混ざり合い、子ども同士が繋がる保育の実践
	実践結果	後半3か月は実践に向けて少しずつ取り組めている。 乳児、年長児は発達や体力、選択して好きな場所に行くことができている。もっと早めに行えると良かった。
	次年度方向性	4月、5月から段階的に異年齢の活動や部屋の開放に向けて話し合いを行い、スタッフの意識を共通にしていく。一つの大きな家を目指す。スタッフが他園へ行き、実践している園を見て学ぶ。
3	計画・ねらい	子ども一人ひとりの成長が大切にされ、安心できる環境の中で、自分の思いを表出し他者と育ち合える関係を援助していく。
	実践結果	子どもの姿の記録や様子を元に話し合いをじっくりと行い、発達や姿をしっかりと捉えていくようにした。 応答的な関わりを心掛け、子どもに寄り添い、気持ちを受け止めることで安心して自分の思いを表出できるようにした。 環境設定は定期的にできなかった。
	次年度方向性	子どもの姿をじっくり話し合う時間を設けることは継続しつつ、そのために環境設定、物的環境を整える話し合いも定期的に行う。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者の立場になって考える
	実践結果	受け入れやお迎え対応、電話対応では、先輩スタッフが見本となりおこなうことや、大事な場面では対応するなどして安心して保護者が預けられるよう心掛けた。お迎え対応に課題を感じることもあったため、研修を行い対応改善できるようにした。 必要に応じて担任が対応し、詳しく話をすることや面談を行いじっくりと話を行い保護者が安心できるようにした。
	次年度方向性	今後も伝え方やお迎え対応は丁寧に行えるようにする。怪我対応など難しいときは先輩保育者が出るが、その姿を見せていく。 スタッフ間の共有について、チャットや伝達簿に記入することを徹底する。
2	計画・ねらい	園生活の様子や子どもの成長など保育の見える化の継続
	実践結果	日々のタイムラインなどに加え、ドキュメンテーションを用い活動の様子や子どもの成長を保護者へ伝えた。 伝達簿に遊んだことを書いたり、午後の活動を伝えたりするなどして担任以外もお迎え対応で話をできるよう心掛けた。
	次年度方向性	今後も毎日ではなくてもドキュメンテーションなどで保護者へ活動を伝えていく。
3	計画・ねらい	整理整頓の行き届いた環境の継続

	実践結果	毎日整理整頓はできていなかった。 貼るものや数には意識していった。
	次年度方向性	各担任が意識しつつ、環境整備の係を作り定期的にチェックし清潔を保つ。貼るものは整頓、貼りすぎず子どもの興味に合わせることを継続していく。景色化しない。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域の親子の憩いの場であり、ニーズに合わせた子育て支援の充実化を図る
	実践結果	地域の子育て家庭に知っていただくために、青空保育や散歩先で出会った地域の子育て家庭へ声をかけていった。講座へ参加していた家庭へ継続的な関わりをした。 しかし利用人数は少なかった。広報活動が必要だと感じた。
	次年度方向性	広報活動を自ら行っていく。担当を決めて継続して関わる。 絵本の貸し出しなどリピートしやすい関わりをする。
2	計画・ねらい	実体験のできる場の提供
	実践結果	できなかった。
	次年度方向性	広報活動をする中で、畑での栽培や絵本の貸し出しなど写真を貼り、宣伝していく
3	計画・ねらい	子どもの育ちや日々の不安などを気軽に話せる育児相談の場として根付く
	実践結果	支援センターや子育て家庭が集まる場所へのチラシ配りを後半行った。まだ子育て相談などの参加が少ない。
	次年度方向性	チラシ配りの継続をし、地域支援担当のスタッフは子育て経験や悩み相談に話しやすいスタッフを設置し専門的に相談しやすい環境を整えていく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	大人も主体性を持ち、自分で考え行動する力を育む
	実践結果	・子どもにとって何が必要か、後半に向けて会議を増やし話し合うことができた。 ・スタッフの課題の振り返りについて振り返る時間や意識させることがもっと必要だと感じた。
	次年度方向性	・会議体は継続しつつ、何について話し合うことが必要なのかを明確にしていく。テーマをしっかりと持つ。（環境構成・異年齢活動など） ・振り返りを定期的に持つ。期に一度など。普段の会話も大切にする。
2	計画・ねらい	チーム保育を牽引するリーダー育成と若手スタッフが得意分野で自己を発揮できるチーム作り

	実践結果	リーダーを中心に年齢関係なく自分の意見が言え認め合う場を積極的に作り、互いの価値観を伝え、子どもの姿を共有し、子どもを真ん中にした話し合いができるようにした。若手の発言を受け止め、どうしていくかを話し合うことができた。リーダーの自発的な動きが少なかった。 研修の発表はできなかった。
	次年度方向性	・リーダーの育成
3	計画・ねらい	保育の質向上・保育を語る
	実践結果	・子どもの心を動かせる保育者となるため、子どもの思いに寄り添い、どうしたら子どもの気持ちを引き付けられるのかを話し合いを行った。 人権や記録など保育の基本となることについても園内研修で再確認していった。 ・他園への研修を行うことで知識や学びがあった。 ・子育ての質を上げる会議以外の研修のアウトプットまではできなかった。
	次年度方向性	・他園への研修を行い、自園にできていない部分を学び取り入れていく。 ・スタッフが積極的に研修に参加し、スキルや知識を身に付ける。身に付けたことや得意分野を園にアウトプットしていく。そうすることで自信の深い学び、園全体のスキルアップにつなげる。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	「見守る」「見守られている」安心感のある場
	実践結果	・子どもたちが安心して意欲的に日々の生活や遊びに取り組めるよう、保育者は側で見守っているという安心感を子どもに与えられるように環境や必要な声掛けを心がけた。
	次年度方向性	今後も継続して安心して活動や挑戦ができるよう、そばで見守っているという安心感を与えられるようにする。
2	計画・ねらい	畑仕事からの食の循環教育・残渣のリサイクル
	実践結果	・農業計画を元に子どもたちと畑仕事を行い、季節の野菜や草花を収穫する喜びを味わい、収穫した食材を調理加工した。 農業計画を子どもたちにもっと知らせていき一緒に活動を意識づけられると良かった。 ・コンポストの実施をした。
	次年度方向性	・農業計画へのスタッフの意識を高めるため、畑カレンダーを見やすいところに置く。また、子どもも意識して自ら取り組めるように子どもが見やすいところにも貼り子ども畑仕事に一緒に取り組む。 ・コンポストの継続をし、環境への意識をつける。

〈6〉主体性・学び続けることで自信に繋げる

1	計画・ねらい	子どもについて話し合う場を持ち続ける
	実践結果	会議や昼礼などで子どもの成長や保育に対しての悩み、考えていることを話し合う機会を設けられるようにした。誰もが意見を言える場の雰囲気作りを行い、意見を出し合うことができるようにした。若手スタッフも意見出しをしっかりと行っていた。 会議で園長大学の視聴や、危機管理や保育に関するロールプレイの研修や話し合いを行った。 知識やスキル向上の研修は足りなかった。スタッフの意見を元に必要な研修を行うことができなかった。
	次年度方向性	自分の学びたいスキルを明確にし、積極的に研修に参加し園にアウトプッチしていく。アウトプットしたことを元に研修や話し合いを行い、質の高い保育を行えるようにしていく。
2	計画・ねらい	主体的に動き、自信を付けていく
	実践結果	まずは基礎の部分を行い、後半に向けてやりたいことや行事に向けて様々なことに取り組むことができてきた。スタッフが意見を出し、話し合い時間はかかるが自分たちで考える時間もでき、できたことに達成感を感じている場面も見られた。
	次年度方向性	まだできていないことや、実行したいが足りないスキルや知識もあるので、スタッフの得意なことや自身で学んだことをそれぞれが発揮できるような場を設けられるようにする。
3	計画・ねらい	乗り越える力を身に付ける
	実践結果	保育者は安全を確保した中で、子ども同士で解決する場面や考える機会を奪わないよう努めるが、間に入ることやその前に止めてしまう場面も多くあった。側で見守り、時には一緒に困難を乗り越えるにはどうしたらいいか考えていくことが必要だった。 スタッフの乗り越える力は、後半に向けてできている。今はできることをしているが、今後はまだやったことないことへ挑戦する気持ちが必要と感じる。
	次年度方向性	乳児も幼児も安全面への配慮はしつつ、体験することへの大切さもスタッフの意識として持てるようにする。すべて助けてしまう、その前に止めてしまうことはせず、子ども自身で解決・乗り越える力をつけられるようにしていく。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半：4~9月	６人	１０人	１２人	１２人	１２人	１２人	６４人
年度後半：10~3月	６人	１０人	１２人	１２人	１２人	１２人	６４人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	182人	194人	188人	199人	182人	190人	225人	211人	209人	197人	197人	197人	2371人
うち0歳児	0人	0人	1人	4人	0人	4人	0人	1人	2人	3人	3人	3人	21人

（解説）３月は見込み人数で報告

〈2〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　（３月１日時点）

常勤スタッフ	保育士	８人	看護師	１人	栄養士	１人	調理員等	１人
パートスタッフ	保育士	４人	補助	０人	調理	１人	事務	１人

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・虐待防止研修・人権チェック ・研修報告
給食運営会議	月1回	献立の振り返り・食育活動の立案・他検討
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット・インシデント・事故記録簿からの傾向分析と対策共有、子どもの姿に合わせた園内外のハザードの確認と配慮点の共有
ケース会議	月1回	気になる子・配慮を要する子の状況と関わり方について・個別指導計画の確認
クラス会議	月1回	子どもの興味・関心や発達を理解したねらいを持った活動の選定と変化し続ける環境構成・保育計画
リーダー会議	月2回	体制や仕組みについての検討、管理職と園運営に関わる振り返り
週案会議	月4回	全学年クラス担任が集まり、リーダー週の活動を話し合う。

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
食育会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長
主任会議	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	最初は機能していなかったが、看護師が入り、衛生面や保健衛生指導の面で管理ができるようになっている。 清掃面は、チェック表を元に掃除の点検ができている。
安全対策係	避難訓練、不審者侵入訓練の計画と安全に関わる情報掲示、園内外のハザードマップの作成・更新と共有ができた。 ハザードマップは、随時公園の危険個所などを更新し共有していた。
防火管理者	消防計画を作成し、これに基づく消火・通報訓練及び避難訓練の定期実施と振り返り確認ができた。
食品衛生管理係	食育について保育スタッフと話し、食育活動や残渣の削減、食器の使い方など考えることができた。一部でルールやマニュアルを把握しきれていないスタッフもいたので、もう一度再確認する必要がある。
食育・畑係	畑係が確立していなかった。管理職で種を用意し、これを植えるように伝える形になっていた。係というのをわかりやすくし、畑カレンダーを常に意識できるようにする必要がある。食育では、それぞれ係が調理スタッフと話し進めることができていた。
生き物係	園で飼っている生き物のお世話の管理を行った。水槽が大きく、子どもたちと一緒に水槽掃除をすることが難しかった。３月、４月で水槽の入れ替え、生き物を増やすことを計画しているので、子どもと一緒に毎日お世話をするようにする。

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	どろんこサポーターズまではいかなかったが、事前準備・当日準備の保護者様を募り協力してくれるご家庭が多数あった。仕事もありながらの企画は難しそうな様子。また、園としてどろんこ祭りの歴も短いので、今後兄弟児など続く家庭に声をかけ、サポーターズとして動きやすい形を作っていきたい。 初めてのスタッフが多く、準備やイメージが湧くのに時間がかかっていた。係としてどう仕事分担していくのか、早めの計画を来年度心がけたい。
行事係	若手・新卒スタッフが多く、ほぼ未経験のスタッフの中で、立案や進め方に時間がかかってしまった。 行事係が全て準備をする形になってしまいがちだった。稟議、

	取りまとめと指示を行い、仕事をおろしていく形を作れるように来年度していく。
幼保小連携	小学校との交流があまりできなかった。年長児交流は、川崎市内の園や法人内の年長児との関わりが多く持てている。交流は今後も続けていきたい。 小学校との繋がりはもう少し増やし、積極的に研修などに参加する必要がある。

4. 保育支援

〈1〉保育･保育参加･保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	・園生活について ・園での友だち関係について ・発達について ・就学に向けて の面談を行った。
保育参加	4～3月まで　合計32名　が参加済み　　（3月1日時点）
保護者面談および発達相談	4～3月まで　合計15名　が参加済み　　（3月1日時点）

〈2〉計画した年間行事の振返り

・別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	どろんこ会の3大食育方針 食べる意欲のある子どもたち
	実践結果	全スタッフが子どもたちと一緒に食事をすることで、食べる楽しさを伝えていった。苦手なものも食べられるようになってきている。 見た目からも食欲がわくように、バイキングで盛る食器を変えた。
	次年度方向性	一緒に食事を食べ、おいしさを伝えていくことを継続。 空腹感を感じ意欲的に食事をとれるような活動を保証できるようにする。
2	計画・ねらい	育てる、収穫する、調理・加工する体験を通して食や食材に興味を持ち、食の循環を知る。環境への意識を身に付ける。

	実践結果	自ら栽培したものを食べることで、自然や食への興味関心を持てるようにした。又、全スタッフが子どもと共に体験し実体験を通して子どもと食育を考え、伝えていった。 給食の残食をコンポストで堆肥にし、再利用することやごみを減らすことで身近にできることから環境への意識を持てるようにしている。まだ意識づけまではいっていない。
	次年度方向性	自分で育て、収穫し、調理・加工することが一連の体験となるよう年間で畑・食育計画を行えるように継続。実体験を通した食育活動を継続して行っていく。
3	計画・ねらい	鶏を絞めて食す～命をいただく活動の実践～
	実践結果	鶏を絞めて食すことはできなかった。 魚をさばくことは実践できた。
	次年度方向性	魚をさばく実践をし、食の循環や命の大切さを伝えていく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	０～１歳　年6回 ２～５歳　年２回　４月８日／６月１０日／８月１９日／１０月７日／１２月９日／２月10日に実施
歯科検診	６月７日に保育園にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	①　6月に保育士による歯磨き指導を実施 ②　７，８月に自園にて、夏の過ごし方や休息の大切さについて日々の保育中に話をする ③　12月に自園にて看護師による手洗い指導を実施 ④　1月に自園にて年長児を対象に性教育を実施
流行した感染症	特になし
発作・痙攣等の対応	ダイアップ…預かりなし

エピペン使用できるスタッフの状況	・３月に自園にてエピペン研修をスタッフ名17名受講し習得済み。6月入社の和田、8月入社の川添計2名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ１９名のうち、１８名が使用可能（1名期中移動）
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	・昨年7月に鶴見どろんこ保育園にて救命講習を古田島、山田計3名が、9月に自園にて松岡が受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ１９名のうち、４名が使用可能
その他保健に関する取組	・登園時の検温と0歳児は午睡明けの検温を行った。また、登園時の視診を丁寧に行い、健康状態の把握と管理に努めた。 ・新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防の為、手洗い指導を行った。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（法定1回/3年）	業者による対象物の法定点検 2023年実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月 ⇒4月25日、10月25日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日　実施済み
	児童健康診断	内科健診 ０～１ 歳　　年６回　４月８日／６月１０日／８月１９日／１０月７日／１２月９日／２月１０日に実施

		２～５ 歳　　年２回 実施 歯科健診　各年Ｉ回／６月７日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時 ⇒4月Ｉ２日、10月４日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月Ｉ回／園会議冒頭5分間　実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

Ｉ	計画・ねらい	掃除や管理の行き届いた保育環境を提供する。整理整頓がされた環境。
	実践結果	清掃に関しては、各担任が各クラスの整頓を意識して行えるよう声掛けをすることで清潔に保てる日もあったが、毎日の継続は難しかった。また、棚の上に置き落下する危険性のあるものなどスタッフへの意識も必要だと感じた。 保育室の掲示物に関しては、必要なものを貼れるように時期や子どもの興味に合わせるよう配慮した。
	次年度方向性	棚の上や壁は常に綺麗にすることで、見学者が来援した時の気持ちや子どもの集中力にも関わることを伝えていき、きれいにする意識づけを継続する。
2	計画・ねらい	遊びの中で経験し、学び、身に付ける
	実践結果	継続した環境構成の設置や変化が難しかった。 戸外活動への取り組み、活動の経験の面では、後半で徐々にと組めているように感じる。
	次年度方向性	環境構成について話し合う時間について期間を決めて行う。 混ざりあって過ごす管区夜を整えるための話し合いや計画を行う。 実体験をできる計画を継続して行う。大人が止めてしまうのではなく、様子を見てアプローチしていく環境を整える。
3	計画・ねらい	自由に行き来できる一つの大きな家
	実践結果	後半に向けて学年、個別に好きな場所で過ごすことができるようになってきている。もう少し早めに進められると良かった。 扉を開き、本当の一つの家にしていかれるようにしたい。
	次年度方向性	まずは０，１歳児と2～5歳児の保育室の扉を開き保育環境を整える。時期を決め、次はすべての扉を開け行き来できて好きな遊びができる環境を整えられるよう、定期的な話し合いを行う。

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果 （避難訓練）	・消防計画に基づき、自衛消防隊を編成し、年間避難訓練計画に沿って消火訓練・避難訓練を行った。 ・年2回通報訓練を兼ねた総合避難訓練、年1回保護者と連携した児童引き取り訓練を行い、非常時はアプリを利用し保護者へ情報発信を行う為、通知訓練も合わせて行った。 ・入居するアトレ川崎の合同避難訓練に参加し、連携を図った。
2	実践結果 （洪水訓練）	洪水計画に基づき、大雨洪水警報の発令等、必要時には速やかに情報を収集し、被害の未然防止の為対策を行い、年1回垂直避難訓練を行った。
3	実践結果 （事故防止委員会）	・園内に事故防止委員会を設置し、ヒヤリハットやインシデントを活用し、再発防止と共に危険管理・危険予測をし、事故を未然に防ぐよう努めた。 ・半期毎にリスクマップを活用し、園内外のハザードの見直しを行い、ハザードマップの作成と園内での意識の共有し、作成したマップは子どもの姿に合ったものであるように定期的に見直しながら、安全配慮に努めた。
4	実践結果 （不審者侵入訓練）	・園の置かれた環境、社会情勢を反映させた不審者侵入訓練を年2回実施し、安全・防犯への意識づけをした。 ・入居するアトレ川崎の防災センターとの連携を図り、緊急時の体制を整えた。
5	実践結果 （光化学スモッグ）	川崎市メール配信システムを活用し、発令があった時は速やかに対応、室内で過ごし健康状態の確認を行った。
6	実践結果 （救急救命講習）	新年度キックオフミーティングにてエピペン講習、AED 講習を行い必要時には全スタッフが正しい知識の元で使用できるようにした。
7	実践結果 （事故防止・設備点検・誤飲誤嚥防止チェック）	年4回の事故防止チェック・設備点検チェックはクラス会議内で見直しをしながら行い、新たなハザードやリスクは事故防止委員会を通して園内で共有した。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

積極的に学生の園見学や実習の受け入れを行った。

実習生の振り返りを行うことで、スタッフそれぞれが自身の保育を振り返り改めて保育の中での子どもへのかかわりや対応について考える機会となった。今後も積極的に受け入れを行い、保育士の良さを伝えていきたい。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
7月	日本児童教育専門学校	1人	見学実習
8月13日～8月26日	日本児童教育専門学校	1人	保育実習
10月	日本児童教育専門学校	2人	見学実習
10月21日～11月1日	横浜リゾート＆スポーツ専門学校	1人	保育実習
10月21日～11月1日	子ども専門学校	1人	責任実習
2月3日～2月7日	国際医療福祉大学	1人	保育見学実習
2月6日	横浜リゾート＆スポーツ専門学校	2人	見学実習
3月3日～6日	東京工科大学	1人	保育見学実習

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
８月26	中学生	2人

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	12日 18名	10日 18名	13日 19名	5日 19名	2日 20名	6日 20名	4日 19名	1日 19名	6日 19名	10日 19名	21日 19名	19日 19名
園会議内研修	12日 13名	10日 14名	13日 17名	5日 16名	2日 17名	6日 18名	4日 15名	1日 15名	6日 18名	10日 17名	21日 19名	19日 19名

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
７月２９日～8月５日	川崎市保育所等スタッフ研修	3，4，5歳児の保育	３名	無
7月1日～８月９日	川崎市子ども未来局保育子育て推進部	川崎市保育士等育成研修『食育・アレルギー』	1名	無
６月19～７月22日	川崎市子ども未来局保育子育て推進部	川崎市保育士等育成研修『マネジメント』	1名	無
９月２～９日	川崎市保育所等スタッフ研修	保護者支援・子育て支援の意義	４名	無
９月１７日	川崎市保育所スタッフ研修	保健者担当研修	1名	無
１１月１６・１７日	社会福祉法人どろんこ会学び事業部	保育士等キャリアアップ研修『幼児保育』	1名	無
１１月３０日・１２月１日	社会福祉法人どろんこ会学び事業部	保育士等キャリアアップ研修『乳児保育』	２名	無
１１月２５日・１２月１０日	川崎市子ども未来局保育子育て推進部	川崎市保育士等育成研修『保護者支援・子育て支援』	1名	無
１０月１０日～１１月２８日	川崎市子ども未来局保育子育て推進部	川崎市保育士等育成研修『乳児保育』	1名	無
２月２２・２３日	社会福祉法人どろんこ会学び事業部	保育士等キャリアアップ研修『乳児保育』	1名	無

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 1名	15日 1名	26日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	19日 1名	21日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	27日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	20日 1名	19日 1名

全社員研修	１２月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年１回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

〈5〉大人も『にんげんカ』

・まずは保育士としての土台作りや、保育の土台を作ってきた。後半になると自分の担当することを自らスタッフ間で相談する姿があった。

・園内研修では、全体で学ぶことを進めることができたが、管理職発信だったため、もっと困ったことややりたいテーマを聞いて取り入れていかれるとよかった。今後はスタッフが必要なテーマを考え研修を取り入れていきたい。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

・駅前で利便性が良いという環境を最大限に活かし、入居するアトレ川崎や近隣の商業施設、商店街との交流を増やしていくことを目標としていたが難しかった。
自分たちから広報活動としての動きができなかった。次年度は積極的に様々な施設に声をかけていく。

・園庭開放を利用するは増えたが、そこからのリピーターや広がっていくと良かった。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：スカイコートにて　　参加延べ人数：３７名
商店街ツアー	週1回　主な行き先：JR 川崎駅駅長室、LUSH、お花屋さん、川崎図書館等
世代間交流	２月４、１８日に鶴見どろんこ保育園にて合同で焚火、交流をして遊ぶことを実施
異年齢交流	２月２６日に川崎小学校にて小学校交流会を実施
その他活動	１０月１９日に運動会にて地域参加枠を設け、競技での交流を実施
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉　実施

9. 小学校との子ども間交流・スタッフ間交流

〈1〉今年度の振り返り

小学校との連携会議や小学校が主催するか章夫にあまり参加できていなかった。まずはスタッフが小学校を知る。ということを意識して、見学や交流会に積極的に参加できるようにするべきだった。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
５月２５日	旭町小学校 川崎小学校 幸町小学校	３名	小学校校庭	運動会見学 スタッフ間交流
６月１１日	幼保小連携会議	１名	研修／意見交換	スタッフ間交流
９月４日	城南ルミナ 川崎あいいく 京急キッズランド京急川崎	５０名	年長児交流会（公園）	子ども間交流
２月１０日	川崎小学校	１名	スタートカリキュラムについて話を聞く	スタッフ交流
２月２６日	川崎小学校 1年	１４名	小学校探検（小学校の体育館、校庭、校舎）	スタッフ間・子ども間交流・小学校見学

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

子どもの状況や発達を理解し、ケース会議の中で共有・振り返りを行い、週案・月案の作成次期及び個々の変化や成長に合わせた見直しを都度行うようにした。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・４～３月に計１２回開催　参加者：３名
・配慮の必要な子だけでなく、集団生活の中で気になる子や成長・発達の過程で配慮を要する子についても共有し、一人ひとりに合わせた丁寧な対応を検討、実践していった。
・定期的につむぎからの訪問巡回や合同ケース会議の場を持ち、専門家の視点から見た集団の中での関わり方や支援の手立てを学んでいった。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

進級時は園内での細やかな引継ぎを行い、個々の育ちや背景を配慮した丁寧な関わりへと繋げていく。日ごろから全スタッフで全園児を見ることで、担当するクラスの子以外にもめをむけられるようにした。

・進学先の小学校や必要に応じては各種関連機関と連携しながら、児童要録・引継ぎ面談での子どもの育ちの詳細伝達を行う。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
86名	130名	216名	171名	408名	253名	265名	179名	173名	137名	127名	127名	2272名

実施項目	詳細												
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　　来園延べ人数：2780名												
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　⇒計０件相談実施済み												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計２回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	０名	０名	０名	０名	０名	２名	０名	０名	２名	０名	０名	０名	４名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計５回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	０名	０名	０名	０名	０名	２名	６名	２名	０名	０名	０名	０名	１０名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00　にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっぐだより	毎月1日発行												
青空保育 （支援センター主催）	月1回　　公園名：スカイコートにて　以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	０名	４名	４名	０名	０名	４名	４名	４名	３名	３名	６名	５名	３７名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２５年３月１日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：１４時００分
自己評価終了時刻：１７時００分
自己評価実施者：施設長、主任、リーダースタッフ

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月２５日
アンケート回収率：１００％

（省察）アンケートを通して、園側から怪我を伝える時の伝達不足があることが分かった。若手のスタッフが多くどのように伝えるべきかわからない部分もあるので伝えるべき部分をしっかりと指導する必要があると感じた。また、伝達の伝え方や子どもの様子の伝え方について課題を感じる。
スタッフの報連相についても、保護者からスタッフに伝えているがその後が繋がっていないこともあった。伝えるツール、確認しているかの確認が必要だと感じた。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む）　０件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年3月１５日　　作成者：メリー★ポピンズ アトレ川崎ルーム
施設長　古田島彩里

２０２４年度　宮下どろんこ保育園　事業報告書
（保育所における自己評価）

１．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

2024年度はどろんこ会の基本理念「にんげん力。育てます。」を念頭に置いた保育を実施した。子どもたちのにんげん力とは何かを職員で話し合い、子どもたちが自分自身で考え体験し経験値を身に付けていくとではないかと考えた。日頃から子どもたちへ指示をするのではなく、子どもたちが自身で考えて行動できるような言葉がけや関わりを行った。また、生きていくうえで必要な経験、原体験についても力を入れた。本物に常に触れることで自身の体験から経験に変えることで自身のものさしを培っていくことができたのではないか。次年度も引き続き原体験を始めとする様々な経験や体験活動を充実させていきたい。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

１	計画・ねらい	散歩から広がる様々な世界へ
	実践結果	毎日の散歩を通して、子どもたちの発見や探求心の向上が見られている。道中で捕まえた虫や卵を飼育したり観察したり、まさに散歩から様々な視点が広がっている様子が見られた。
	次年度方向性	新たな発見や正解を広げていくために、散歩先の行先を新たに開拓していく。また、興味から世界が広がっていくよう、図鑑など子どもたちが自身で調べ、学ぶことができるような環境構成も行っていく。
２	計画・ねらい	体験を経験に
	実践結果	本年度も、散歩や商店街ツアーのみならず川遊びや焚き火などの原体験を実施することができた。危険なものにあえて境界線は設けず、自身の感覚、体験をもとに危険なものとの距離を学んでいく姿も見られた。
	次年度方向性	次年度も原体験、本物の体験をより多く経験に変えていけるよう、様々な行事や企画を立案していく。
３	計画・ねらい	みんな違ってみんないい～多様性を認め合う～
	実践結果	毎日サークルタイムの時間を設けることで子どもたちの中で様々な意見を聞き発言する機会が増えた。また、年齢や発達問わず子どもたちが混ざり合い支え合う姿も増えてきている。
	次年度方向性	次年度においても、異年齢、インクルーシブが実現できるよう、次年度の園目標を「原点回帰～混ざり合おう～」とした。宮下どろんこにとっての混ざり合うとは何かを話し合いながら子どもたちにとって最善の利益を考えていく。

〈２〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

１	計画・ねらい	ポートフォリオ・エピソード記録の活用
	実践結果	各クラスポートフォリオの作成はしたものの、不定期であり多く掲示することはできなかった。しかし、発表会に向けては子どもたちが話し合いからゾーンを決める姿や成長の様子を手にとってわかるように作成し掲示す

		ることができた。
	次年度方向性	次年度は配信頻度を決め定期的に掲示を行うことで保育園の様子を保護者へお伝えできるように仕組化していく。
2	計画・ねらい	待った気がしないお迎え対応
	実践結果	待った気がしないお迎え対応としてポートフォリオの掲示等を行った。また、保護者様が待っている間も「〇〇君は今片付けています」など様子を伝えることで時間のおおよその見通しを持つことができるように意識することができた。
	次年度方向性	次年度も待たせないことは大前提であるが、引き続きポートフォリオやお便りの掲示声掛け等を意識しながら待った気がしないお迎え対応を続けていく。

〈3〉地域の子育て支援事業

Ｉ	計画・ねらい	地域子育て支援拠点としての役割
	実践結果	子育て支援拠点として、ちきんえっぐでの様々な体験や情報提供などを行うことができた。また、市役所や図書館をはじめとする市の施設等にもお願いをし、継続的に地域に向けて周知を行うことができた。
	次年度方向性	市の施設だけでなく、地域のお店や子どもが集まる場所へも積極的に出向き、ちきんえっぐの案内を置かせていただけるようお願いをしていく。
2	計画・ねらい	地域子育て支援拠点との連携強化
	実践結果	土地柄もあり、ちきんえっぐの利用者が少ないが、その分利用してくださる方のリピート率は高く徐々に参加者も増えてきている。
	次年度方向性	Ｉ人Ｉ人の対応を丁寧に行うことで口コミから広がり、さらなる利用者を増やしていけるのではないか。次年度も引き続き様々なイベントを企画していく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

Ｉ	計画・ねらい	保育者同士の学び合い
	実践結果	職員個人ではキャリアアップ研修をはじめとする外部研修へ積極的に参加する姿が見られた。園内研修においては職員の強みを生かし、保育のねらい研修やリズム体操研修を自主的に参加し学びあう姿も見られた。
	次年度方向性	次年度も研修の案内を職員間で共有し、学びの機会を増やしていく。また、会議の中で研修報告会を行うなどして学びあう姿勢や仕組みを維持していく。
2	計画・ねらい	リーダー層のマネジメント力強化
	実践結果	外部研修やキャリアアップに積極的に参加しているが、マネジメントや育成の強化までは一歩足りなかった。
	次年度方向性	マネジメントやコーチング研修など、より実践的な研修を受けるほか他園研修などを通して視野を広げていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	木材や樹木を知り、親しみを持つ。
	実践結果	日頃より木登りや木の葉を使用した製作などは行っているが、木の名前を覚えたり親しみをもったりするまでの活動は行えていなかった。
	次年度方向性	自然保育を実施しているからこそ、樹木に触れ親しみが持てるような活動を次年度も引き続き実施していく。
2	計画・ねらい	給食残菜減少に向けて
	実践結果	給食残菜減少に向けて、日頃より畑仕事やクッキング、焚火で調理などをおこなった。日々の積み重ねにより子ども達の食べる意欲が向上し結果として残差も減ってきている。
	次年度方向性	次年度も引き続き、クッキングや畑仕事を通して子どもたちも食べたい意欲を向上させていく。

〈6〉保育者の主体性

1	計画・ねらい	園全体が1つのチームとして一丸となり園運営を行っていく
	実践結果	保育園、発達支援事業と事業者が２つあるが、互いに事業所の枠を超えて子どもにとっての最善の利益を考えることができてきている。
	次年度方向性	次年度はさらに枠を超えた活動、計画の立案を密に行えるように職員間で話し合っていく。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半：4~9月	6人	12人	17人	17人	19人	19人	90人
年度後半：10~3月	6人	12人	17人	17人	19人	19人	90人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	125人	127人	106人	136人	117人	147人	136人	126人	122人	119人	129人	120人	1510人

うち0歳児	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	8人	0人	0人	2人	0人	2人	2人	4人	1人	1人	1人	0人	21人
うち0歳児	0人	0人	0人	2人	0人	2人	1人	1人	1人	1人	0人	0人	8人

〈2〉開所時間

7時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

常勤スタッフ	保育士	１０人	看護師	１人	栄養士	２人	調理員等	１人
	事務	１人	施設長	１人	主任	１人		
パートスタッフ	保育士	４人	補助	１人	用務	１人		

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回120分	保育の振り返りや課題の抽出、改善に向けての討議 行事の進捗確認、園内研修　等
給食運営会議	月1回	食育活動の提案や振り返り 食事環境についての振り返り、改善策の検討
事故防止委員会	月1回	自園、他園の事故記録簿を活用し、事故防止に向けての討議やハザードマップの見直し等
ケース会議	月１回	要支援児についての情報共有、個別記録、振り返り

担任会議	月1回	担任、担当同士の情報共有、相談、計画立案
リーダー会議	週1回	園全体での課題の抽出、改善に向けた討議

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
食育会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長
主任会議	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士
併設園会議	年2回	施設長

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	衛生改善と疾病の予防措置、保育所の衛生全般の維持管理
安全対策係	ハザードマップの管理、設備点検、ヒヤリハット、インシデントの集計、分析
防火管理者	避難訓練、不審者訓練の計画実施、自主点検等の管理
食品衛生責任者	食品の取り扱いに関する業務、調理室、配膳用品の衛生維持管理
畑係	畑の年間計画の遂行、維持管理
生き物係	生き物の飼育、管理

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	どろんこ祭りの企画、運営

4. 保育支援

〈１〉保育･保育参加･保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	2024年度事業計画に基づいて保育を実施。
保育参加	4～3月まで　合計25名　が参加済み　　（3月１日時点）
保護者面談および発達相談	4～3月まで　合計70名　が参加済み　　（3月１日時点）

〈２〉計画した年間行事の振返り

・別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈３〉給食・食育に関する実践結果

１	計画・ねらい	火×食材
	実践結果	冬季では日頃から定期的に焚火を行い、収穫した野菜を焼いて食べたり、味噌汁を作って食べたりしながら食育活動を行うことができた。また、職員や子どもに対して焚火の研修を行ったことで、子どもだけでマッチを使用して火をおこしたり、薪をくべたりすることができるようになり、発表会で保護者へお見せすることもできた。
	次年度方向性	次年度も、イベントではなく日常から焚き火を行い、子ども自身が経験として学びながら火との距離感や自然の楽しさや恐怖感といった２面性を知ることができる体験を用意していく。
２	計画・ねらい	命を頂く～鶏を捌く～
	実践結果	幼児クラスで希望者を募り、７割ほどの子どもが参加知ることができた。活動を通して命の大切さや食材のありがたみなどを感じ、給食の際に手を合わせて「いただきます」をする姿や、生き物の命を大切にする姿が見られるようになった。
	次年度方向性	次年度は捌く予定はないが、鶏以外に魚等を捌く活動を計画実施していくことで、命のありがたみを知る活動を続けていく。
３	計画・ねらい	お米を知る
	実践結果	園庭の田んぼを用いて、田植えから収穫までの流れを意図通り体験することができた。しかし、途中の手入れや収穫後の作業については保育者中心の作業となってしまったため、米作りの苦労までは伝わらなかったと感じた。

	次年度方向性	次年度は植えて収穫だけでなく、管理や維持の大変さを実感してもらえるような管理体制を整え、計画を立てている。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月５日／11月１３日に実施
歯科検診	6月１４日に自園にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① ６月４日に歯科指導を実施 ② ５月１０日、１１月１３日、１２月１２日　手洗い指導実施
流行した感染症	① 10月　ノロウィルス　職員４名、子ども２７名感染２７名感染 ②　１月　インフルエンザ　子ども１０名
発作・痙攣等の対応	計１名に対し、計２回ダイアップ使用
エピペン使用できるスタッフの状況	・キックオフにてエピペン研修及びロールプレイングを実施。 ・本日時点で、全スタッフが受講済み。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（法定1回/3年）	業者による対象物の法定点検 2023年実施済み ※対象物がない園及び JW 園は削除すること
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施

衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月 ⇒4月1日、10月1日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日　実施済み
	児童健康診断	内科健診　各年2回／6月4日、11月5日 歯科健診　各年1回／6月5日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時 ⇒4月26日、10月25日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間　実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	子どもが探求できる環境を
	実践結果	カマキリや虫に興味があり図鑑等を用意することにより、子どもたちが調べて話し合うなど探求心が芽生える様子が見られた。また、カマキリの卵をとってきて飼育ケースで観察し卵か孵化するまで大切に育てている様子見られた。 定期的に子どもたちが実験できるスペースを設けてみたが、長続きせずにその日限りで終わってしまう事があった。
	次年度方向性	次年度も子どもたちの探求心を広げていけるように様々な体験活動や、複数の散歩先を用意していく。また、子どもたち自身で調べられるように図鑑や本などの環境を整えていく。
2	計画・ねらい	園舎の環境美化
	実践結果	用務員、事務、主任、施設長が中心となり園舎内外の美化を維持していくことができた。
	次年度方向性	次年度も保育士だけでなく上記メンバーが率先して掃除を行い、園舎の美化に努め、気持ちの良い施設運営を行っていく。
3	計画・ねらい	異年齢保育の実施
	実践結果	朝や夕方の時間に関しては、幼児乳児での活動はできているが日中の様子があまり見られてない。一緒に散歩に行くなど交流の機会を増やしていっ

		たが、園内で自然の流れで交流が増えていけるような環境構成が必要と感じる。
	次年度方向性	次年度はさらに幼児乳児の交流を意識していく。乳児の園庭はなるべく使用せず幼児園庭で過ごすことで自然と交流を増やしていく。また、散歩の際は幼児乳児で声を掛け合い、定期的に同じ場所へ行くことができるよう話し合っていく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	対象なし	対象なし	対象なし	なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	光化学スモッグ	市が発信する光化学スモッグ情報を随時共有するとともに、園外で活動についてはマニュアルに基づいた対応を行った。 園内についても窓を閉め、子ども達の健康状況について留意する。
2	水辺のリスクマネジメント	川遊びの資格を有する職員が中心となり、川遊びやプール遊びの際の事故防止についての研修を実施。プール活動時期においては事故防止だけでなく事故発生時のシミュレーションを行い有事に備えた。
3	応急救命	怪我の応急手当や心肺蘇生方法について学んだ。また、一部職員においては赤十字幼児安全支援員講習へ参加し資格を取得済み。
4	危険生物対策	危険生物や危険植物についての基礎知識を学び、戸外活動時におけるリスクを未然に防ぐことができた。また、危険生物に対する応急手当についても学ぶことができた。
5	防犯対策	不審者訓練実施や警察との連携を図ることができた。 消防計画に基づいた訓練の実施、振り返りを実施。
6	怪我防止	ヒヤリハット、ハザードマップの集計分析を行い、他園の記録も活用することで、自園で発生しうる可能性がある事故を未然に防いでいった。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

問い合わせがあった際には丁寧に対応し、積極的に実習生や学校との交流を行った。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
６月３日～６月４日	千葉経済大学	１名	責任実習
７月２９日～８月９日	清和大学短期学部	１名	責任実習
８月１日～８月７日	和洋女子大学	１名	調理実習
１１月１１日～１１月１５日	武蔵丘短期大学	１名	調理実習
１月２７日～２月７日	清和大学短期学部	１名	観察実習
１月３０日～２月１３日	敬愛大学	１名	観察実習
２月１０日～２月２７日	有明教育芸術短期大学	１名	観察実習
２月１７日～３月３日	清和大学短期学部	１名	観察実習

7．スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	26日 20名	24日 18名	21日 21名	26日 18名	23日 17名	27日 18名	25日 19名	22日 16名	27日 19名	31日 20名	28日 18名	28日 18名
園内研修	26日 20名	24日 18名	21日 21名	26日 18名	23日 17名	27日 18名	25日 19名	22日 16名	27日 19名	31日 20名	28日 18名	28日 18名

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
通年	キャリアアップ研修	キャリアアップ研修	８名	なし
１２月１９日	千葉県	安全管理者研修	１名	有

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 （子育ての質を上	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	21日 1名

げる会議）												
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	19日 1名	17日 1名	14日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	9月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

地域に根付いた園であることから、今後も近隣住民の方や、学校、老人ホーム施設等の交流を積極的に行っていく。地域を見守ると同時に見守られる園として近隣地域と密に連携を取りながら運営を行った

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回　公園名：宮下公園にて　　参加延べ人数：0名
商店街ツアー	週1回　主な行き先：ローソン、セブンイレブン、丸亀製麺、釣り具ランド、君津の湯、バーバー三原さん、郵便局　等
世代間交流	毎月1回、老人ホーム「みのり」にて交流実施
異年齢交流	散歩先で近隣の小学生や、中学生と交流を実施
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉　実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

回数は少なかったが、小学校とも交流を実施することができた。

また、学校への通学路探検や学校についての話をするなど、小学校への期待感が持てるよう意識して活

動を行った。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
９月２４日	周南小学校 1年生	２３名	周南小学校	子ども間交流
２月２０日	周南小学校 1年生	２３名	周南小学校	子ども間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

気になる児に対しては個別支援計画を作成しケース会議等で共有している。また、ケース会議に限らず日頃から昼礼やクラス会議等で定期的に共有を行っている。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・４～３月に計１０回開催　参加者：平均７名
毎月ケース会議の時間を設け子どもの共有や対応方法等の話し合いを実施

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

気になる児に対しては、児童要録だけでなく小学校の教諭と直接引継ぎを行った。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
30名	27名	20名	317名	30名	22名	324名	33名	75名	29名	285名	30名	1222名

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　　来園延べ人数：58名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　⇒計1件相談実施済み
自然食堂 親子ランチ	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計24回実施済み 参加者延べ人数

交流	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	8名	10名	9名	2名	23名	6名	16名	19名	30名	29名	0名	30名	182名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計10回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	10名	0名	13名	7名	0名	2名	8名	12名	0名	0名	0名	52名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00　にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっぐだより	毎月1日発行												
青空保育（支援センター主催）	月1回　　公園名：公園にて宮下　以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２４年１０月１８日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：１３時００分
自己評価終了時刻：１４時００分
自己評価実施者　：羽澤佑太・佐藤宏美・高橋美桜

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月２５日
アンケート回収率：100%

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

なし

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

なし

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：宮下どろんこ保育園 施設長　羽澤　佑太

２０２４年度 つつじヶ丘どろんこ保育園 事業報告書
(保育所における自己評価)

1. ２０２４年度の概要 ~年度の基本方針を受けて~

つつじヶ丘どろんこ保育園は併設園として７年目を迎え、異なる年齢の子どもたちや発達支援つむぎに通う子どもたちが、自然に混じり合いｲﾝｸﾙｰｼﾌﾞをしながら園舎という大きな家の中で互いに存在を認め合い、共に遊べる環境を考えていった。

〈1〉 保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	生活力の体得
	実践結果	火や針を使う行事を取り入れ、生活に必要なことを学びながら危険なことや気をつけなればいけないことを自分自身で感じる経験を行った。
	次年度方向性	引き続き、生活力の体得について必要なことや伝えたいことを考え、活動内容に取り入れていく。
2	計画・ねらい	子どもが表現する環境を作っていく
	実践結果	身近な環境や経験から様々な美しいものや心を動かす出来事に触れ、言語表現や造形表現、音楽表現、絵画表現等の素材や道具などを保育室内に配置し、存分に表現できる環境を整えることができた。
	次年度方向性	環境設定の大切さについて、ﾌﾛｱごと話し合い子どもたちの成長や興味に合わせた環境をさらに追求し整えていく。
3	計画・ねらい	子どもの興味・関心から保育を展開していく
	実践結果	保育者は定期的に子どもの環境ﾏｯﾌﾟを作成しながら、子どもの興味・関心を膨らませていくような保育を展開した。また、中期・長期的視点で遊びが発展でき、子ども同士が対話しながら共同的な学びが得られるような保育を展開することができた。
	次年度方向性	子どもの興味・関心を膨らませながら、保育の充実を図っていく。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画･ねらい	保護者との信頼関係を作り、より良い子育て環境を作る。
	実践結果	「保育の見える化」に力を入れていく。 日々の子どもの活動をﾀｲﾑﾗｲﾝやﾎﾟｰﾄﾌｫﾘｵで作成し、いつでも見られるようにした。また保護者には面談や保育参加の機会を多く持つことで、保育園の活動内容に理解していただける場となった。 子どもの育ちが分かるようなﾀｲﾑﾗｲﾝ(うちのこｱﾌﾟﾘ)をあげていく。
	次年度方向性	引き続き「保育の見える化」に力を入れ、保護者との信頼関係を築いていく。
2	計画･ねらい	保育参加、個人面談の実施
	実践結果	保護者にしっかりと寄り添い子どもの状況、時には課題について共に理解し、家庭と園とが同じ目線での育ちを保障することができた。
	次年度方向性	保育参加に来ていただけることで、安心につながったご家庭が多かった。来年度はｱﾅｳﾝｽの仕方を変え、さらに多くの方に来ていただけるように工夫していく。
3	計画･ねらい	保護者との「共育て」の意識を高める。
	実践結果	子どもを軸においた対話的なやり取りを通し、子育ての楽しさや成長、 喜びを互いに感じられる支援や情報提供を行った。園で行っていること、 大事にしていることを保護者と共有し、常に保護者と共に育てていく意識が持てるよう、園内掲示･ﾀｲﾑﾗｲﾝを活用した。
	次年度方向性	日ごろの保育内容や、畑仕事、行事のﾎﾟｰﾄﾌｫﾘｵなどを使い、お子様の様子を伝えていくことで共に育てていく意識を大切にしていく。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画･ねらい	選ばれる園をつくる
	実践結果	いつ見学者が来ても良いように、親切･丁寧な入園説明や案内など、自園の保育を自分の言葉で伝えられるようにするとともに、ｽﾀｯﾌがやりがいを持ち、働きやすく、保護者･地域･自治体の方から愛され、評判がよい園つくりをしていく。

	次年度方向性	ｽﾀｯﾌがやりがいや働きやすさを感じられるように、個々の得意分野を発揮できる場を考え、保育を楽しいと思える気持ちを持てるようにしていく。
2	計画・ねらい	園庭を活用した火・水・土の直接体験の提供
	実践結果	水遊び、どろんこ遊び、畑仕事、たき火など園の環境を最大に生かした火・水・土の直接体験を提供、体験した。
	次年度方向性	園庭を活用した火・水・土の直接体験をさらに取り入れ、子どもたちの経験につなげていく。
3	計画・ねらい	地域に開かれた子育て内容の実現や美観を通し選ばれる施設を目指す。
	実践結果	ｲﾍﾞﾝﾄだけでなく園庭開放や室内開放での子育て支援事業と、保育事業が混ざった環境の保証をする。 保護者・来訪者がいつ見ても気持ちの良い環境を整え、選ばれる施設を目指した。
	次年度方向性	ｲﾍﾞﾝﾄや園庭開放への参加者を増やすために、青空保育や公園先で出会った親子を中心に園の活動を紹介していく。

〈4〉 次世代を担うｽﾀｯﾌ育成

1	計画・ねらい	ﾘｰﾀﾞｰ層の職員が若手職員の育成担当としての役割を担う
	実践結果	人材育成の役割をﾘｰﾀﾞｰ層の職員が担当し、職員の目標設定、業務確認、進捗確認のｻﾎﾟｰﾄを行った。また、保育の質向上のために園内研修の企画、運営を担っていった。
	次年度方向性	園長大学(動画)を活用しながら、園内研修につなげていく。
2	計画・ねらい	ﾁｰﾑ力を高める
	実践結果	全職員が全ての子どもを見守り、保育する環境を作る。また、保育の質の向上、ﾁｰﾑ保育作りに本気で向き合い、本音で話し合いができる関係を作っていった。
	次年度方向性	話し合う機会を意図的に作り、子どもや保育について考えたり方向性を合わせたりする時間にしていく。

3	計画･ねらい	ｽﾀｯﾌの MBO 目標設定から達成までﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄする。
	実践結果	ｽﾀｯﾌが主体的に考え行動する中で、進捗状況を確認しながら、課題があれば何が原因か見極め働きかけた。またｽﾀｯﾌの特性、個性、長所を活かしていけるよう、目標設定を行った。
	次年度方向性	職員との面談を定期的に行うことで、園でどのように頑張っていったら良いか一緒に考え、ﾓﾁﾍﾞｰｼｮﾝ面もﾌｫﾛｰしていく。

〈5〉 環境実施目標

1	計画･ねらい	一人ひとり目的をもって登園し、充実して過ごせる環境作りを行う。
	実践結果	園舎、園庭も含めた「大きなみんなのお家」の中で、「居たい場所」 「一緒に居たい人」の選択を担保した。 遊びの選択肢が充分にあるよう様々な素材を準備し、園庭でも様々な工夫や創造ができ、遊び込めるような環境作りと素材の充実を図った。
	次年度方向性	充実した環境づくりをするために、自然物や素材を準備し満足するまで遊べるように工夫していく。
2	計画･ねらい	心地の良い環境を整え、よりよい子どもの育ちへとつなげる。
	実践結果	園内環境の整備･美観に努め、日々を振り返りながら環境整備係と連動して取り組んだ
	次年度方向性	美観の基準を職員間で揃えることで、誰が見ても綺麗だと思える環境をつくっていく。

〈6〉 発達支援つむぎ つつじヶ丘ﾙｰﾑの連携

1	計画･ねらい	同じ空間での生活
	実践結果	ﾏﾝｽﾘｰで通所する子も保育園の活動を共にし、保育園に通う子どもたちと同じ空間で生活できるようにした。
	次年度方向性	子どもたち一人ひとりに合った言葉かけを考えながら、来年度も継続してつむぎとの連携に力を入れていく。
2	計画･ねらい	ｲﾝｸﾙｰｼﾌﾞ保育「誰もが自由に行き来する大きな家」

	実践結果	園のｽﾀｯﾌ、つむぎのｽﾀｯﾌが壁をなくし、すべての子どもを一緒に見ていき把握するために振り返りや連携を強化する
	次年度方向性	今年度話し合う機会を多く設定し、何度も共有を重ねてきた。 園とつむぎの壁がなくなり、会話が増えたことでｲﾝｸﾙｰｼﾌﾞの必要性が理解できてきたように感じる。次年度はさらに深く掘り下げて、ｲﾝｸﾙｰｼﾌﾞが自然とできる環境にしていきたい。
3	計画･ねらい	子どもをとらえる質の向上を目指す
	実践結果	子どもの動きや遊びを観察し、どのような心の動きがあるのか、どのような関わりがあるのかをｴﾋﾟｿｰﾄﾞとして記録し共有していった。
	次年度方向性	記録したことを園会議や週会議で共有したり、ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝをしたりすることで他者の意見も聞きながら質の向上を目指していく。

〈7〉「見守る」「やって見せる」原体験を組み込んだ保育の実践

1	計画･ねらい	考える保育
	実践結果	「できる」「できない」ではなく、相手の姿を捉え「このやり方ならでき る」「こんなやりかたもある」と他者肯定を基本とする視点を持つ
	次年度方向性	引き続き肯定を基本とする視点を持てるようｸﾗｽ会議で言葉の選び方について考えていく。
2	計画･ねらい	「trial & error」
	実践結果	「大人がやってみる」ことで子どもたちは興味を持って様々なことに挑戦できる環境を作り、また「trial & error」を繰り返すことで経験を通して生きる力を身につける機会をつくった。
	次年度方向性	子どもたちの姿をよく観察し、挑戦できる環境を引き続きつくっていく。

2. 施設運営

〈1〉 児童利用状況

月極利用児童受託状況(延べ人数)

	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計

年度前 半:4~9 月	36 人	90 人	108 人	106 人	107 人	108 人	555 人
年度後 半:10~3 月	36 人	90 人	108 人	107 人	108 人	108 人	557 人

延長保育利用状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
利用総人数	319 人	309 人	330 人	368 人	299 人	340 人	399 人	326 人	278 人	349 人	302 人	383 人	4,002 人
うち 0 歳児	2 人	3 人	8 人	12 人	25 人	31 人	33 人	25 人	20 人	29 人	23 人	32 人	243 人

一時保育利用状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
利用総人数	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
うち 0 歳児	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人

〈2〉 開所時間

7 時 00 分~20 時 00 分

〈3〉 ｽﾀｯﾌ構成 (3 月 1 日時点)

常勤 ｽﾀｯﾌ	保育士	14 人	看護師	1 人	栄養士	1 人	調理員等	2 人
ﾊﾟｰﾄ ｽﾀｯﾌ	保育士	3 人	補助	1 人	事務	1 人	用務	1 人

3. 運営報告

〈1〉 施設内会議

会議名	実施回数	会議内容

園会議	月１回 ※2,3 月は策定会議にて実施	・ｺﾝﾋﾟﾃﾝｼｰ ・保育の質向上に関わる勉強会 ・事例検討会、園内研修、ｹｰｽ会議、行事進捗
給食運営会議	月１回	献立、離乳の振り返り共有・ｱﾚﾙｷﾞｰ対応・衛生点検
事故防止委員会	月１回	他園自園の事故記録簿考察・ｲﾝｼﾃﾞﾝﾄ考察・ﾋﾔﾘﾊｯﾄ考察・分析・検証
ｹｰｽ会議	月１回	子どもの様子の共有・関係機関との連携
ｺﾝﾋﾟﾃﾝｼｰ会議	月１回	・自らの課題を認識し、ﾁｰﾑとして解決に向けて話し合う
ﾘｰﾀﾞｰ会議	随時	月案・週案ねらいの確認・様子の報告・課題の共有
ｸﾗｽ会議	週１回	保育計画の振り返り・立案・子どもの様子の共有

〈2〉 出席した施設外会議(Web 参加含む)

会議名	実施回数	参加ｽﾀｯﾌ
施設長会議	月１回	施設長
施設長勉強会	月１回	施設長
食育会議	年４回(5.8.11.2 月)	施設長、調理ｽﾀｯﾌ
保健会議	年４回(5.8.11.2 月)	施設長
主任会議	年４回	主任・ﾐﾄﾞﾙﾘｰﾀﾞｰ
子育ての質を上げる会議	月１回	保育士
併設園会議	年２回	施設長

〈3〉 係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	・子どもの健康維持・温度・湿度・換気確認 ・感染症発症の予防策を実施 ・園内の清潔区域(調乳室/調理室)と汚染区域(ﾄｲﾚ・ｵﾑﾂ交換場所 ｼｬﾜｰ室・沐浴室・ﾄｲﾚ後の着替え場所・感染症流行時居室)の安全と衛生管理 ・職員の検便

安全対策係	・避難訓練(毎月)、不審者侵入訓練(6 月/11 月)の実施報 告書確認 ・設備安全点検(5 月・7 月・9 月・11 月・1 月・3 月の 25 日) ・事故防止自主点検(4 月・7 月・10 月・1 月の 25 日) ・園内外、公園のﾊｻﾞｰﾄﾞﾏｯﾌﾟの更新(3 月・随時)
防火管理者	・消防計画作成と届出 ・安全対策係の任命 ・自衛消防組織作成 ・防災用備蓄品の確認(6 月・12 月) ・自主点検ﾁｪｯｸ表(日常)
食品衛生管理係	・衛生管理、点検作業の実施 ・食育会議の計画、実践 ・「作業手順書」と「作業結果の記録」の作成
畑係	畑の年間計画の遂行、管理維持、子どもたちを巻き込み活動をおこなう。
生き物係	ﾔｷﾞ、ﾆﾜﾄﾘをはじめとする飼育物全般の管理、維持、子どもたちへの働きかけ
物品管理	・勝手籠の管理、落とし物の管理 ・衛生用具の管理(在庫管理、発注)
環境係(室内、園庭)	・室内外の園庭、遊具の清掃点検、施設の清掃状況の確認、指示 室内外の設備危険個所の点検 ・破損個所の補修、地震時の落下防止、遊具・設備・樹木等の安全点検
ｱﾙﾊﾞﾑ係	・個人情報の確認、写真販売、卒園ｱﾙﾊﾞﾑの作成

〈4〉 行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	園主体としながらも、保護者ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ(どろんこｻﾎﾟｰﾀｰ)とも連携し準備運営を行って行く
環境改良ﾁｰﾑ	保育環境の発展、整備をどろんこｻﾎﾟｰﾀｰｽﾞと連携した環境改良の計画と実行

4. 保育支援

〈1〉 保育･保育参加･保護者面談および発達相談･園児の保護者への支援および意見要望への対応

乳児保育	上半期 0~2 歳児	･保育者等に見守られながら､好きな遊びを楽しむ ･子どものそれまでの経験や発達過程に留意し､子どもの気持ちを受容し､共感しながら継続的な信頼関係を築いていく ･ｽﾀｯﾌ間の連携や嘱託医との連携を図る ･栄養士･看護師は､その専門性を生かした対応を図る
	下半期 0~1 歳児	･土や水等に触れ､全身で感触を楽しみ､感性を育む ･安心できる保育者等の関わりの中で人への基本的信頼関係をもち､人間関係の基礎を培う ･個々の発達の状況を捉え､生命の保持と情緒の安定を図り､生活ﾘｽﾞﾑを作る ･ｽﾀｯﾌ間の連携や嘱託医との連携を図る ･栄養士･看護師は､その専門性を生かした対応を図る
幼児保育	上半期 3~5 歳児	･基本的生活習慣を身に付け､喜びながら意慾的に生活する ･友達との繋がりを広げ､集団で行動する事を楽しむ ･異年齢で生活をする中で思いやりの心､協力し合う心を養うと共に達成感を知る
	下半期 2~5 歳児	･身近な環境や自然などに自ら関わり､様々な事物や事象と自分達との生活との関係に気付き､それらを生活や遊びに取り入れ､生活の経験を広げる ･小学校以降の生活や学習の基盤の育成に繋がることに留意し､創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培う (幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿を考慮する) 友達と歌を歌ったり合奏したりすることで､ひとつの物を作り上げる楽しさを知るとともに､動きや言葉などで表現したり演じる楽しさを知る
保育参加	4~3 月まで 合計 50 名 が参加済み (3 月 1 日時点) ･希望保護者による保育参加/参加後ｱﾝｹｰﾄ記入依頼	
保護者面談および発達相談	4~3 月まで 合計 10 名 が参加済み (3 月 1 日時点) ･ 随時､希望する保護者に対し実施 ･｢保護者面談記録｣｢子育て相談記録｣を活用	
意見・要望への対応	･連絡帳､口頭でのご意見についても苦情対応ﾏﾆｭｱﾙに従い｢ご意見ご提案ｼｰﾄ｣を活用	

〈2〉 計画した年間行事の振返り

･別紙｢2024 年度年間ｽｹｼﾞｭｰﾙ｣に掲載

・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉 給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	子どもが食に対して興味・関心が持てるよう日々の保育の中で積極的に食育活動を取り入れていく。
	実践結果	旬な野菜を取り入れたｸｯｷﾝｸﾞや、畑で収穫した野菜を素材の味を活かし、子ども達に提供した。
	次年度方向性	たくさんの食育活動を行ってきたので、継続して次年度も実施できるようにする。
2	計画・ねらい	月 1 回の給食会議にて情報の共有を行う。
	実践結果	離乳食の進み具合や食事の状況を確認し、発達に合わせた援助を行っていく。
	次年度方向性	職員間で共有し続けたことで、どの職員がどのｸﾗｽに入っても配慮できていたように感じる。ｸﾗｽの問題点や課題点も議題で出しながら、職員から出た案を試していきたい。
3	計画・ねらい	火×食材
	実践結果	調理の原点、たき火を活用したｸｯｷﾝｸﾞを行っていく。たき火ならではの不便さや香ばしい匂いを感じると共に、火の温かみや適度な緊張感も味わう
	次年度方向性	今年度は数回のみの実施だったため、火と関わる機会をもう少し増やしていく。

〈4〉 保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	5 月 15 日/11 月 13 日に実施
歯科検診	5 月 22 日/11 月 27 日に当園にて実施
保健だより	毎月 25 日におたより配信を実施
ｽﾀｯﾌ健康診断	年 1 回実施
ｽﾀｯﾌ検便	毎月 1 回(全ｽﾀｯﾌ対象)

その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 5 月 16 日に当園にてはみがき指導を実施 ② 11 月 7 日に当園にてはみがき指導を実施
流行した感染症	①12 月にｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ、園児 28 名感染報告有り。年末年始休園中に終息
発作・痙攣等の対応	実施なし
ｴﾋﾟﾍﾟﾝ使用できるｽﾀｯﾌの状況	本日時点で、在籍ｽﾀｯﾌ 25 名のうち、25 名が使用可能
AED 使用できるｽﾀｯﾌの状況 (AED 設置施設のみ)	AED 設置なし
その他保健に関する取組	ｳｲﾙｽ感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉 各種点検

危機管理	設備点検・事故防止ﾁｪｯｸ	4・7・10・1 月の 25 日に計 4 回実施済み
	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	6・12 月の 25 日に実施済み
	避難消火訓練	毎月 1 回/15 日に計 12 回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12 月の 25 日に実施済み
	情報ｾｷｭﾘﾃｨﾁｪｯｸ	5 月・11 月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止ﾁｪｯｸ	4・7・10・1 月の 25 日に計 4 回実施済み
	ﾌﾛﾝ点検(法定 1 回/3 年)	業者による対象物の法定点検 2023 年実施済み
	ﾌﾛﾝ点検(簡易)	対象物の簡易点検 4・7・10・1 月の 25 日に計 4 回実施
衛生管理	衛生管理点検表/毎日	毎日実施⇒実施していない日 0 日
	衛生管理点検表/毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日 0 日
	衛生管理点検表/毎月	毎月 25 日に計 12 回実施済み
	個人衛生点検簿/毎日	毎日実施⇒実施していない日 0 日

健康管理	予防接種状況･既往歴の確認/保険証期限確認	年 2 回/4･10 月 ⇒4 月 5 日､10 月 4 日に実施済み
	身長体重測定	毎月 1 回/20 日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年 2 回/5 月 15 日､11 月 13 日 歯科健診 各年 2 回/5 月 22 日､11 月 27 日
運営管理	児童･保護者の人権に関するﾁｪｯｸ	年 2 回/4･10 月の園会議時 ⇒4 月 18 日､10 月 17 日に実施済み
	ｺﾝﾋﾟﾃﾝｼｰ自己採点	毎月 1 回/園会議冒頭 5 分間 実施済み
	利用者ｱﾝｹｰﾄ調査	8 月 25 日~9 月 5 日に実施済み

〈6〉 実施した環境整備の状況

1	計画･ねらい	子どもが自分で選択して遊ぶ場所･遊ぶものを決めることが出来る環境を整備する。
	実践結果	環境整備を分担し､月毎に振り返り･更新を行うことができた。
	次年度方向性	毎月のﾘｰﾀﾞｰ会議の時間に､子どもたちの発達や年間を見通した計画的な更新ができているか見直しをしていく。
2	計画･ねらい	生き物や植物が育つ力を持った園庭を作る。
	実践結果	落ち葉やたい肥を子どもたちと一緒に準備し､植物が育ち、虫が集まる園庭を目指した。
	次年度方向性	園庭に陽が当たり過ぎたり､日影の時間が長かったりしたこともあり植物の育ちが悪かった｡その中でも育てられる方法を考え､実践していきたい。

〈7〉 手作り遊具･家具安全点検結果

手作り遊具･家具一覧

No	遊具･家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	図書館用の本棚	ｴﾝﾄﾗﾝｽ	毎日	4/5 に解体
2	長椅子(4 台)		毎日	
3	おままごと机(1 台)		毎日	異常なし

4	ﾋﾟｰｽﾃｰﾌﾞﾙ(2 台)		毎日	
5	お茶台(2 台)		毎日	
6	飼育ｹｰｽ台		毎日	

5. 危機管理(防災・ｹｶﾞ事故防止・防犯・光化学ｽﾓｯｸﾞ)

1	実践結果	消防計画に基づき、自衛消防隊を編成し避難訓練を月 1 回実施。震度 5 弱以上の際は園が情報を発信し、安否・施設状況・避難先を情報共有する体制をとる。帰宅困難者対策を踏まえ、災害に備える。
2	実践結果	事故防止ﾁｪｯｸﾘｽﾄについて、年 4 回設備点検 6 回を行い、事故防止の徹底を図る。
3	実践結果	ｲﾝｼﾃﾞﾝﾄ・ﾋﾔﾘﾊｯﾄ報告の分析
4	実践結果	法人内で事故報告を共有し、事故防止策を探る
5	実践結果	年 2 回防犯ﾁｪｯｸﾘｽﾄに従い、確認し合わせて不審者訓練を実施。訓練は避難訓練・不審者訓練・通報訓練としｽﾀｯﾌ全員を対象とする
6	実践結果	光化学ｽﾓｯｸﾞが発生しやすい気象条件・光化学ｽﾓｯｸﾞ注意報を把握し、発令があった場合は内容にあった情報を発信する。園児・ｽﾀｯﾌは室内で過ごす。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉 今年度の振返り

地域の中の保育園という意識や次世代育成の観点から、積極的に受入れを行った。

実習指導者は学生の指導を通して、自身のﾘｰﾀﾞｰとしてのｱｳﾄﾌﾟｯﾄｽｷﾙやﾌｧｼﾘﾃｰｼｮﾝｽｷﾙを向上させ、実習生一人ひとりに合わせた温かい受入れ体制を整えた。

実習担当だけでなく、職員全体でｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝをとり育成に力を入れたことで、その日毎の 気づきや疑問に対し、丁寧な振り返りを行い、翌日の実習に生かすことができた。

〈2〉 実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
8 月 13~27 日	日本児童教育専門学校	2 人	観察実習

8 月 26~9 月 9 日	日本児童教育専門学校	1 人	観察実習
1 月 21~31 日	日本ﾒﾃﾞｨｶﾙ福祉専門学校	1 人	観察実習

〈3〉 中高生の受入

日程	学校名	人数
7 月 2~4 日	調布市立第四中学校	3 人
9 月 10~12 日	調布市立第六中学校	4 人
9 月 18~20 日	調布市立神代中学校	3 人

7. ｽﾀｯﾌ研修

〈1〉 園内研修の開催

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
ｺﾝﾋﾟﾃﾝｼｰ自己採点	18 日 21 名	16 日 21 名	20 日 21 名	18 日 21 名	15 日 23 名	19 日 24 名	17 日 24 名	21 日 24 名	19 日 24 名	23 日 25 名	20 日 25 名	19 日 25 名
園内研修	18 日 19 名	16 日 19 名	20 日 19 名	18 日 19 名	15 日 21 名	19 日 22 名	17 日 22 名	21 日 22 名	19 日 22 名	23 日 22 名	20 日 21 名	19 日 22 名

〈2〉 外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
8 月	ｷｬﾘｱｱｯﾌﾟ研修	幼児保育	3 名	有
11 月	ｷｬﾘｱｱｯﾌﾟ研修	乳児保育	3 名	有
2 月	ｷｬﾘｱｱｯﾌﾟ研修	保護者支援、子育て支援	3 名	有
2 月	ｷｬﾘｱｱｯﾌﾟ研修	食育、ｱﾚﾙｷﾞｰ対応	2 名	有

〈3〉 法人支援制度の活用・出席

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
業務改善研修 (子育ての質を上げる会議)	17 日 1 名	15 日 1 名	27 日 1 名	18 日 1 名	22 日 1 名	19 日 1 名	17 日 1 名	21 日 1 名	19 日 1 名	16 日 1 名	19 日 1 名	21 日 1 名

施設長勉強会	17 日 1 名	15 日 1 名	26 日 1 名	17 日 1 名	21 日 1 名	18 日 1 名	16 日 1 名	20 日 1 名	18 日 1 名	15 日 1 名	20 日 1 名	19 日 1 名
全社員研修	11 月に動画視聴にて研修を実施(全ｽﾀｯﾌ対象)											

〈4〉 ｽﾀｯﾌ個人別育成計画

施設長が年 1 回実施するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉 今年度方針･ﾃｰﾏの振り返り

月 1 回「ちきんえっぐだより」を発行し、年間計画をもとに地域交流を行った。

また積極的に園外に出かけ、地域の人々と様々な関わりを大切にすることができた。

今まで感染症の影響でなかなかできていなかった「商店街ﾂｱｰ」と「ｼﾆｱ交流」は毎月十分に行うことができたと感じている。子どもたちの反応に、職員も新しい発見や学びがあり、次年度も継続して行っていきたいと思う。

〈2〉 実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育(保育園主催)	月 1 回　公園名:金子児童遊園にて　参加延べ人数:5 名
商店街ﾂｱｰ	週 1 回 主な行き先:つつじヶ丘駅、消防署つつじヶ丘出張所、つつじヶ丘交番、調布市立図書館調和分館、植松種苗緑化株式会社、滝坂小学校等
世代間交流	1 月 15 日に日本女子体育大学にて「大学生と一緒に身体を動かして遊ぼう」を実施
異年齢交流	7 月 26 日に当園にて「小学生交流」を実施
その他活動	7 月 20 日に当園にて「どろんこ祭り」を実施
銭湯でお風呂の日	月 1 回 <4~5 歳児> 実施

9. 小学校との子ども間交流･職員間交流

〈1〉 今年度の振り返り

幼保小連絡会に参加し、子どもたちが小学校へ安心して就学できるよう、ｱﾌﾟﾛｰﾁｶﾘｷｭﾗﾑと ｽﾀｰﾄｶﾘｷｭﾗﾑを共有しながら積極な情報交換や意見交換を行う 。

〈2〉 具体的な連携

日程	学校名・ｸﾗｽ名	参加人数	活動名(会場)	内容
5 月 24 日	調布市立滝坂小学校	2 名	幼保小連携懇談会(調布市立国領小学校)	職員間交流
7 月 26 日	小学校 1 年生(卒園児)	24 名	小学生交流(当園保育室)	子ども間交流
10 月 9 日	調布市立滝坂小学校 2 年生	7 名	町探検(当園保育室)	子ども職員間交流
2 月 5 日	調布市立滝坂小学校 1 年生	18 名	1 年・保育園交流(調布市立滝坂小学校)	子ども間交流
2 月 14 日	調布市立滝坂小学校 調布市立調和小学校 調布市立若葉小学校 調布市立緑ｹ丘小学校	2 名	幼保小連携懇談会(調布市立国領小学校)	職員間交流
2 月 18 日	調布市立深大寺小学校 調布市立上ノ原小学校 調布市立北ノ台小学校	2 名	幼保小連携懇談会(調布市立深大寺小学校)	職員間交流

10.要支援児

〈1〉 個別支援計画の作成・見直しの状況

子どもが健やかに成長し、保護者が安心して子育てできる ことを目指しながら毎月ｸﾗｽ会議を行い、その都度どのように支援を行っていくかを話し合って進めていく。

〈2〉 毎月のｹｰｽ会議開催の状況

・4~3 月に計 12 回開催 参加者:7 名

4~3 月に計 12 回開催予定 参加者:園長、主任、幼児担任、つむぎｽﾀｯﾌ 計 7 名予定ｹｰｽ会議の内容は全職員が確認し共有していく

〈3〉 進級引継、および小学校への引継状況

個別支援計画を基に進級、小学校への引き継ぎを行った。

11.子育て支援事業

今年度の子育て支援事業･ｲﾍﾞﾝﾄ･子育て相談･青空保育を含む延べ来園者数

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
29 名	36 名	35 名	180 名	62 名	47 名	117 名	23 名	34 名	18 名	25 名	29 名	635 名

<table>
<tr><th>実施項目</th><th colspan="12">詳細</th></tr>
<tr><td>園開放</td><td colspan="12">(月)~(土)9:30~16:30 にて実施　来園延べ人数:28 名</td></tr>
<tr><td>子育て相談</td><td colspan="12">(月)~(土)13:00~16:30　　⇒計 0 件相談実施済み</td></tr>
<tr><td rowspan="3">自然食堂 親子ﾗﾝﾁ交流</td><td colspan="12">毎週(水)10:00~12:00　　⇒計 13 回実施済み
参加者延べ人数</td></tr>
<tr><td>4 月</td><td>5 月</td><td>6 月</td><td>7 月</td><td>8 月</td><td>9 月</td><td>10 月</td><td>11 月</td><td>12 月</td><td>1 月</td><td>2 月</td><td>3 月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>0 名</td><td>7 名</td><td>13 名</td><td>7 名</td><td>7 名</td><td>2 名</td><td>14 名</td><td>4 名</td><td>9 名</td><td>0 名</td><td>4 名</td><td>6 名</td><td>73 名</td></tr>
<tr><td rowspan="3">どろんこ 芸術学校
どろんこ 自然学校</td><td colspan="12">毎週(水)10:00~12:00　⇒計 5 回実施済み
参加者延べ人数</td></tr>
<tr><td>4 月</td><td>5 月</td><td>6 月</td><td>7 月</td><td>8 月</td><td>9 月</td><td>10 月</td><td>11 月</td><td>12 月</td><td>1 月</td><td>2 月</td><td>3 月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>7 名</td><td>0 名</td><td>0 名</td><td>0 名</td><td>13 名</td><td>0 名</td><td>2 名</td><td>0 名</td><td>2 名</td><td>0 名</td><td>0 名</td><td>4 名</td><td>28 名</td></tr>
<tr><td>勝手籠設置</td><td colspan="12">(月)~(土)7:00~20:00 にて実施
門扉前に無人のﾌﾘｰﾏｰｹｯﾄかごを設置</td></tr>
<tr><td>ちきんえっぐだより</td><td colspan="12">毎月 1 日発行</td></tr>
<tr><td rowspan="3">青空保育(支援ｾﾝﾀｰ主催)</td><td colspan="12">月 1 回　公園名:金子児童遊園にて 以下日程にて実施</td></tr>
<tr><td>4 月</td><td>5 月</td><td>6 月</td><td>7 月</td><td>8 月</td><td>9 月</td><td>10 月</td><td>11 月</td><td>12 月</td><td>1 月</td><td>2 月</td><td>3 月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>0 名</td><td>0 名</td><td>0 名</td><td>0 名</td><td>0 名</td><td>0 名</td><td>0 名</td><td>5 名</td><td>0 名</td><td>0 名</td><td>0 名</td><td>0 名</td><td>5 名</td></tr>
</table>

12.園運営の向上

〈1〉 福祉ｻｰﾋﾞｽ第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉 園による自己評価の実施

2024 年 3 月 3 日に「内部監査ﾁｪｯｸ表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻:14 時 00 分
自己評価終了時刻:16 時 00 分
自己評価実施者:山上和希、斉藤律、佐藤早紀

〈3〉 利用者ｱﾝｹｰﾄの実施

施設利用 保護者に対し、ｱﾝｹｰﾄを実施
ｱﾝｹｰﾄ配布日:8 月 25 日
ｱﾝｹｰﾄ回収率:100%

ｱﾝｹｰﾄの回収に力を入れ、たくさんの方から意見をいただくことができた。
引き続き保護者様と関係を築きながら、園運営をしていく。

13.苦情解決･ｹｶﾞのうち報告すべき事項

ご意見ご提案ﾃﾞｽｸ(HP･ﾒｰﾙ･電話)、口頭･書面･連絡帳･ご意見ご提案ﾎﾞｯｸｽによって寄せられた全ての意見･要望･苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見･ｹｶﾞに関しては次の通りとなる。

〈1〉 報告すべきご意見

報告すべきご意見 0 件

〈2〉 報告すべきｹｶﾞ(事故含む)

報告すべきｹｶﾞ(事故含む) 0 件

※なお、報告書内の 3 月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日:2025 年 3 月 15 日 作成者:つつじヶ丘どろんこ保育園 施設長 山上 和希

２０２４年度　春日どろんこ保育園　事業報告書
（保育所における自己評価）

１．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

春日どろんこ保育園では、どろんこ会グループ法人理念「にんげん力、育てます」と二大保育方針「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」を基盤にして、２０２４年度に園で大切にしたいこととして「心が動く 体験を」を掲げ、チーム運営を行った。

その結果、まずは活動の場を広げる為、日常的に散歩に行くことを徹底していった。徹底することで、活動の場が広がり、子ども達が様々なことに挑戦する姿が多く見られるようになってきた。全体的に長距離の散歩で楽しむことが出来るようになったことは評価に値すると感じている。

また、園の仕組みとして、主任、ミドルリーダー、クラスリーダーを中心として職員間で話し合いを進めることが注力しているので、引き続き対話を通して園の意見を言いやすい雰囲気を大切にしていきたい。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

１	計画・ねらい	個々の子どもの発達を職員が理解する。
	実践結果	子どもの姿の共有、それを元にした子どもの発達に関する研修、振り返りを行った。
	次年度方向性	子どもの発達に関する研修を行った。チャットを利用し、日々の子どもの姿を共有していく。
２	計画・ねらい	子どもの姿の共有、それを元にした子どもの発達に関する研修、振り返りを行う。
	実践結果	子どもの意思を大切にしつつ、様々な体験ができる物的環境や人的環境、活動を提供した。
	次年度方向性	長距離散歩に行ける回数が増え、園外で様々な体験ができた。日常的な長距離散歩を継続していきたい。
３	計画・ねらい	子どもの主体性を育てる。
	実践結果	子どもが自分自身の意思の伝え方を学べるような活動を提供した。
	次年度方向性	サークルタイムを通して、少人数から自分の意見を伝える姿が増えてきた。様々な人と関われる機会を増やしていきたい。

〈２〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

１	計画・ねらい	保護者一人ひとりの気持ちに寄り添い、家庭と保育園の両方で子どもが健全に保育をされる

	実践結果	保護者が気持ちよく子どもを迎えられるお迎え対応、方針を共有できる保護者懇談会、保護者が気持ちを話せる保護者面談などを行った。
	次年度方向性	名簿を使い、全ての保護者に平等に普段の様子を伝えるようにしていった。保護者の気持ちを聞き出せるような保護者面談を行っていきたい。
2	計画・ねらい	５Ｓ（整理整頓清掃清潔しつけ）を徹底した保育園となり来訪される保護者様が心地よく感じる。
	実践結果	整理：要不要の区別　整頓：場所を決める　清掃：整った状態であることを点検する　清潔：きれいな状態を保つ　しつけ：習慣化した。
	次年度方向性	片づけやすい場所を意識して、場所を決めることで以前より整った状態は増えてきた。まだ、整理が難しい場所もあるので、次年度で完遂したい。
3	計画・ねらい	子どもが成長している姿が多様なメディアツールで共有される。
	実践結果	タイムライン、おたより、掲示物、写真販売、外部発信ツールなどを用いた。
	次年度方向性	タイムラインの更新頻度を上げることで、保護者にも普段の様子を伝える機会が増えた。継続して行っていきたい。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域子育てセンター「ちきんえっぐ」を拠点とし、地域に開かれた子育て相談の場所として役割を全うする。
	実践結果	一時保育の受入れ、園庭開放、子育て相談と講話、イベント、子育て講座、育児相談会を行った。
	次年度方向性	季節によって参加率が変わることが多かった。次年度はさらなる集客を目指したい。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	全職員が「心理的安全性」を大切にし、職員間の言葉遣いや立ち居振る舞いに気を遣い、お互いに思いやりを持って気持ちよく働ける環境を作る。
	実践結果	互いを思い合う気持ちを高め自己開示の研修、「社会人としての人間性」を身に付ける話を行った。
	次年度方向性	全体や個々で細かく伝えるようにしていった。互いに思いやりを持って気持ちよく働くことを全体でしっかりと意識していきたい。
2	計画・ねらい	全職員が保育のプロとして自覚を持ち、自分の知識をより深める。またそれを実行に移す。
	実践結果	子どもの発達に関する知識を深める研修、発達理論と実践をつなげる研修、若手勉強会、ケース会議などを行った。
	次年度方向性	園会議などを通して、知識を深めつつクラス間で話す機会も設け、日々の保育の振り返りなどを行っていった。継続して行っていきたい。

3	計画・ねらい	リーダーはスタッフの声を拾い上げ課題を設定し、保育の質の担保と園務分掌の仕組みづくりを行う。
	実践結果	目標設定を職員自ら行い、達成のために園長・主任・リーダーと主に課題を遂行する。 園運営における課題設定、業務の仕組みづくりなど。
	次年度方向性	月にＩ回のリーダー会を設け、クラス間での課題を共有し、全体で解決に向けて話し合いを行った。より深い話が出来るようにしていく。
4	計画・ねらい	心地よい園を作る。
	実践結果	５Ｓを徹底し、心地よい園を継続できる仕組みづくりを行った。
	次年度方向性	片づけることを習慣化していく。

〈5〉環境実施目標

Ｉ	計画・ねらい	持続し循環する環境を知る（SDGｓ）
	実践結果	食物→廃棄物→土→食材の循環を知る仕組みとしてコンポストを行ったが、あまり定着しなかった。
	次年度方向性	次年度はコンポストを活用し、循環の仕組みを子ども達にしっかりと伝えていく。
2	計画・ねらい	食べたい料理の原材料を育てる。
	実践結果	原材料の野菜が上手く育たないことが多かった。
	次年度方向性	まずは野菜の育て方を調べるところから子どもを巻き込んでいきたい。

〈6〉チーム春日どろんことしての組織文化の確立

Ｉ	計画・ねらい	個々の職員の考え方、気持ち、知識、知恵を合わせ、組織の強みとする。
	実践結果	職員のいいところと得意分野を共有する場、個人の強みに併せた園務分掌を使用した。
	次年度方向性	職員のモチベーション向上に繋がるので、継続させていきたい。
2	計画・ねらい	まずはやってみる。改善していく。
	実践結果	周りを巻き込みスモールスタートを実践、改善をして品質を上げていった。

	次年度方向性	得意なことから挑戦して成功体験をする大切さ意識して行っていきたい。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半：4~9月	12人	24人	24人	29人	30人	30人	149人
年度後半：10~3月	12人	24人	24人	30人	30人	30人	150人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	316人	335人	321人	400人	297人	344人	398人	348人	285人	309人	286人	399人	4038人
うち0歳児	0人	1人	0人	1人	0人	0人	0人	1人	1人	1人	0人	0人	5人

一時保育利用状況　　※対象園のみ　適宜削除してください

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	0人	8人	29人	50人	57人	85人	65人	80人	60人	73人	65人	59人	631人
うち0歳児	0人	0人	2人	6人	13人	11人	16人	20人	19人	18人	16人	20人	141人

〈2〉開所時間

平日：７時００分～２０時００分
土曜：７時００分～１８時００分

〈3〉スタッフ構成　（３月１日時点）

常勤スタッフ	保育士	２３人	看護師	０人	栄養士	２人	調理員等	１人
	再雇用スタッフ	０人	言語聴覚士	０人	臨床心理士	０人		
パートスタッフ	保育士	０人	補助	２人	調理	１人	事務	１人
	用務	１人	再雇用スタッフ	０人	嘱託職員	０人	嘱託医	０人
	言語聴覚士	０人	臨床心理士	０人				

3. 運営報告

〈１〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・保育の振り返り、及び、次月に向けての意見交換
給食運営会議	月1回	喫食状況報告、アレルギー児確認・対応、食育計画確認、食事提供の改善ディスカッション
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット・インシデント・事故報告の共有と注意喚起、必要な事案を検討し日々の保育に活かす
ケース会議	月１回	発達に特性がある子どもについての情報共有、支援計画の振り返り
クラス会議・週案会議	週１回	保育計画の振り返り、子どもの姿共有、活動計画
週会議	週１回	各クラスの情報共有、行事の検討
リーダー会議	月１回	園全体の関わるクラスを横断する議題の意思決定
マネジメント会議	月１回	園の運営に関しての情報共有、検討

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
食育会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長
主任会議	年4回	主任
子育ての質を上げる会議	月1回	ミドルリーダー

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	清掃指導と衛生管理、感染症予防・拡大防止策の実施、園児の健康管理と保護者への発信
安全対策係	避難訓練・消火訓練・不審者侵入訓練の実施、設備点検・事故防止点検の実施、ハザードマップの見直しと更新
防火管理者	消防計画を作成し、これに基づいて消火・通報および避難訓練を定期的に実施
食品衛生管理係	食材発注および給食提供食材の衛生管理と在庫管理
畑・田んぼ係	畑・田んぼの計画・管理、用具類の管理および補充
生き物係	生き物の世話の計画・管理
写真係	写真チェック・販売申請、卒園アルバム作成
保育環境整備係	子どもが遊び込める室内・園庭環境整備、提案、実施
備品発注係	消耗品・事務用品・保育材料の購入、管理
福利厚生	職員のおやつの買い出し、飲み会幹事

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	祭の企画・運営、地域への広報

地域交流係	異世代交流、地域行事参加等の窓口業管理
子育て支援係	ちきんえっぐの活動計画、実施

4. 保育支援

〈1〉保育･保育参加･保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	・乳児：子ども一人ひとりとゆったり丁寧に関わり、安心できる場の提供を行っていった。乳児ならではの保護者の悩みに寄り添い、こまめな連絡を心がけた。 ・幼児：長距離散歩を通して、体力の向上や活動の幅が広がり充実した活動を行うことができた。また、子どもが取り出しやすい環境を整えたことで、廃材遊びを楽しむ姿も増え、想像力が豊かになることを意識した。
保育参加	4～3月まで　合計6名　が参加済み　　（3月1日時点）
保護者面談および発達相談	4～3月まで　合計10名　が参加済み　　（3月1日時点）

〈2〉計画した年間行事の振返り

・別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	五感を使える体験を行い多様な味覚を育て、子どもも大人も心身ともに豊かになる。
	実践結果	堆肥作り、畑仕事、日々のクッキングなどの行事を行った。
	次年度方向性	堆肥作りからクッキングまでしっかりと繋がった活動を行っていきたい。
2	計画・ねらい	持続可能な食環境を子どもが考えられる機会を作る。
	実践結果	自分の食を知る：食べこぼしの認知、残食糧の可視化、バイキングにて自分が食べきれる量の把握をした。
	次年度方向性	日々の声かけから、子ども達も残渣へ意識を向けれるようにしていきたい。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	4月24日／11月20日に実施
歯科検診	6月6日、12月12日に春日どろんこ保育園にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
園児への保健指導・取組等	毎月1回 歯磨き指導､手洗いうがい指導､咳エチケット等
流行した感染症	12月　インフルエンザが流行
発作・痙攣等の対応	ダイアップ･･･1名より預かり済み／事務所冷蔵庫にて保管
エピペン使用できるスタッフの状況	本日現在３１名が、研修受講し、修得済み
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	本日現在３１名が、研修受講し、修得済み
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底するなど各園で記載

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み

	フロン点検（法定1回/3年）	業者による対象物の法定点検 2023年実施済み ※対象物がない園及び JW 園は削除すること
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月 ⇒4月15日、10月15日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日　実施済み
	児童健康診断	内科健診　各年2回／4月24日、11月20日 歯科健診　各年2回／6月6日、12月12日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時 ⇒4月19日、10月25日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間　実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	整理整頓・清掃・衛生管理
	実践結果	５Ｓ を知る研修。理想状態を作り共通認識を作ること、日々確認するべきことを徹底することをリーダーと共に確認を行った。
	次年度方向性	次年度は定期的に会を設け、徹底して確認を行っていきたい。
2	計画・ねらい	室内環境・屋外環境
	実践結果	物的環境と自然環境を子どもの発達に併せて適宜更新していった。 室内では子どもの発達に合わせた体験ができる環境を作った。 屋外では子どもが自然の中で体験できることが自由にできることを徹底するために火水土など十分な素材を用意した。
	次年度方向性	季節に合わせた環境作りに力をいれていきたい。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	長ベンチテーブル	園庭	毎日	長ベンチテーブル
2	六角テーブル	園庭	毎日	六角テーブル
3	木製 巧技棚	園庭	毎日	木製 巧技棚
4	平均台	室内	毎日	平均台

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	防災対策	危機管理マニュアルの災害対策に則り、月1回の避難訓練を行い火災・地震の避難方法を確認。（6月・11月は消防署と連携をした総合訓練を行う）災害緊急時にはアプリを使って園児情報を発信する。
2	事故防止	危機管理マニュアルのケガ事故の防止策に則り、ケガ発生時には対応フローチャートに従う。ハザードマップを作成・半年に1度更新し、ケガや事故防止に努めていく。毎月の事故防止委員会で事故記録簿・インシデント・ヒヤリハット報告書の共有・分析、防止策を検討し再発防止に努める。
3	防犯対策	警察と協力し年2回不審者侵入訓練を実施し、不審者侵入時にはフローチャートに従う。日々の生活の中でも常に不審者を意識することが大切であり、散歩時における対応も意識統一しておく。
4	光化学スモッグ pm2．5	危機管理マニュアルの光化学スモック対策に則り、光化学スモック・ｐｍ２．５の知識を身につけ、注意報発令の把握をしながら発生時には、光化学スモック発生時対応および行政連絡に従い対応する。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

実習生や高校生の職場体験の受け入れを積極的に行い、次世代育成・地域貢献のため、受け入れた生徒一人ひとりの様子に合わせて保育や子どもの育ちで必要なことや大切なことをかみ砕いて伝えるようにした。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
6月10～20日	中村学園大学	1人	責任実習
7月24～25日	福岡医療秘書福祉専門学校	1人	観察実習
7月29～8月9日	中村学園大学 短期大学部	1人	観察実習

8月19～8月23日	中村学園大学短期大学部 食物栄養学科	1人	実習
8月19～8月29日	純真短期大学	1人	責任実習
9月2～13日	精華女子短期大学	2人	責任実習
10月15～25日	福岡医療秘書福祉専門学校	1人	責任実習
11月7～8日	福岡県子育て支援員研修員	2人	観察実習
2月3～2月7日	福岡子ども専門学校	1人	観察実習
2月3～2月14日	筑紫女学園大学	1人	責任実習
2月4～2月18日	中村学園大学短期大学部	1人	責任実習

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
10月16～18日	西日本短期大学付属高等学校	2人

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	26日 29名	24日 28名	21日 29名	26日 29名	23日 29名	27日 30名	25日 30名	22日 30名	27日 30名	24日 31名	21日 31名	3日 31名

〈2〉外部研修への出席

・法人の意向により春日市への研修は参加者なし
・キャリアアップ研修は各自が独自に受けた。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	21日 1名

施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
社員研修	10月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	1月24～2月6日に1名のスタッフがアスモンスミーネ保育園にて勤務											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

〈5〉年代別勉強会

年代に合わせて毎月または3か月に1度、その年代に合わせた講習を行った
テーマは年代に合わせて、担当職員と施設長で相談し設定した。
研修の担当は年代に合わせて4年目以降の職員が担当する

〈6〉リーダー会

各クラスのリーダーを対象にクラス間の進むべき方向を共有し視座を合わせた。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

積極的に園外に出かけ、地域の人々と様々な関わりを経験し、また、地域からも関心を持ってもらえる発信をもとに地域との関わりを深めていける計画を実施する。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：小倉東公園にて　　参加延べ人数：0名
商店街ツアー	週1回　主な行き先：白石商店、春日ふれあい文化センター、春日市商工会、サニー宝町、パンドカンパーニュ、宝町郵便局等
世代間交流	どろんこ祭りにて和太鼓の団体「金印太鼓」と交流　。
異年齢交流	卒園児の新1年生を招いて同窓会を開催。
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉　実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

下記の計画について、小学校と相談を４月より開始した。メインは大谷小学校と春日東小学校との交流を図り、他小学校とも連携を進めた。子ども達同士の交流の場を予定していたが、実施できないことも多かった。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
5月14日	春日小学校	1名	学校訪問	小学校見学 職員間交流
5月16日	春日東小学校	1名	学校訪問	小学校見学 職員間交流
5月30日	大谷小学校	1名	学校訪問	小学校見学 職員間交流
6月19日	春日南小学校	1名	学校訪問	小学校見学 職員間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

支援が必要な子どもについては、個別に保育計画を作成し、月に1回情報交換と援助についてはなしあった。家庭とも連携し子ども一人ひとりに応じた保育を行っていった。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・４～３月に計12回開催　参加者：園会議参加者

毎月1回 年間計12回開催。日々の子どもの様子を記録し、全職員で共通理解を図った。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

特に幼児クラスにおいては、就学を見据え必要に応じて関係機関との連携を図った。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
149名	146名	146名	750名	152名	150名	600名	150名	150名	150名	450名	150名	3143名

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　　来園延べ人数：80名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　⇒計0件相談実施済み
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計12回実施済み 参加者延べ人数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
6名	0名	0名	3名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	9名

どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計12回実施済み 参加者延べ人数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	0名	0名	0名	2名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	2名

勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00　にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育 （支援センター主催）	月1回　　公園名：小倉東公園にて　以下日程にて実施

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名

12.　園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２４年６月２５日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：８時００分
自己評価終了時刻：１７時００分
自己評価実施者：田中誠

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月２５日

アンケート回収率：75%

頂いたご意見の中では、保育園の園舎外の環境が気になるというご意見が多かった。室内だけではなく、園舎外の環境もしっかり整えて、子どもも保護者も安心できる園にしていきたい。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見　0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む）　0件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：春日どろんこ保育園 施設長　篠原 百合香

２０２４年度　前原どろんこ保育園　事業報告書
（保育所における自己評価）

１．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

開園して6年目を迎え、今年度からは発達支援施設 つむぎ前原ルームを併設する。
保育園を大きな家として、０歳から５歳児が安心して過ごし、好きな遊びを選べる環境を保証していく。障害を持った子も、持たない子も、混ざり合いながらホンモノの経験をする、インクルーシブ保育のあり方を日々研鑽し、生きる力のある心も身体もたくましい子どもを育てていく。
また、地域とのかかわりを大切にし、地域から選ばれる「地域一番園」を目指していく。
法人　保育理念：「にんげん力。育てます。」
　　保育方針：「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」

前原どろんこ保育園　【目指す子どもの姿】
・挑戦と失敗を楽しみ、表現する子ども
・思いやりと感謝の気持ちを持つ子ども

【目指す保育者の姿】
「あなたはどうするか」大人も主体性～考え、学び、動く、自立した集団～

〈１〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	日課・基本活動の充実
	実践結果	日課（雑巾がけ、さくらさくらんぼリズム体操、座禅、畑仕事、生き物の世話、散歩）は毎日行われている。 散歩の時間を1便（9時散歩出発）2便（生き物の世話、畑仕事後散歩）と時間差をつけたことで、日課、基本的活動も充実している。
	次年度方向性	毎日行う日課、基本活動の意味を理解しながら引き続き取り組んでいく。
2	計画・ねらい	子ども主体の保育の実践
	実践結果	散歩では行き先を子ども自身が選ぶことができた。園庭では、気の合う友だちと遊びを考えて試行錯誤しながら好きな遊びを楽しんでいた。子どもが主体的に遊びを選べる室内環境については、乳児、幼児クラス共に計画通り進めることがでず、工夫が必要である。
	次年度方向性	子どもの興味関心に合わせた室内環境についての研修を取り入れ、室内環境の充実を図る。
3	計画・ねらい	子どもたちの好奇心をくすぐる環境設定

	実践結果	子ども自身がワクワクしたり、心躍らせたりできる環境の提供については、単発的に行うことはできていたが、室内環境については計画通り進めることができなかった。
	次年度方向性	遊びの連続性を重視しながら、好きな遊びが選び取れる環境を作っていく。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	安心できる保護者対応
	実践結果	毎日の連絡帳記入（0，1，2歳）やタイムラインでのクラスの様子や、ポートフォリオなどを用いて、園の様子が伝わるような対応ができた。
	次年度方向性	保護者の立場に立ち、安心して預けてもらえるようスタッフ間での接遇研修等を充実させる。
2	計画・ねらい	丁寧な保護者対応
	実践結果	お迎え時の3分間対応について、18時近くになると伝達が込み合い待たせてしまうことがあるため、スムーズな3分間対応について工夫が必要である。
	次年度方向性	保護者の気持ちに寄り添えるスタッフの育成、コンピテンシー自己採点で、目標を持ち、関わり方を考える機会を作っていく。
3	計画・ねらい	保護者同士が関わり、仲良くなれる憩いの場
	実践結果	お迎え時や行事等に保護者通しが関われる機会を設けることができた。 年2回の保護者会では参加者が増え、保育園の活動に興味関心を持つ保護者が増えている。
	次年度方向性	保護者へ積極的に声をかけ関係性を作り、保育行事へ参加しやすい雰囲気を作っていく。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域に開かれた子育て支援の実現
	実践結果	ちきんえっぐ利用が少なく、地域に開かれた子育て支援は計画通り進めることができなかった。
	次年度方向性	園庭開放やちきんえっぐ（子育て支援）利用の際、積極的にかかわり、関係性を作り、継続して利用していただく機会とする。
2	計画・ねらい	一時保育、児童発達支援施設つむぎ事業の円滑な運営
	実践結果	一時保育に関しては、12月まで継続してご利用していただけるご家庭も増えていたが、スタッフ体制が整わず1月より受け入れ中止となった。

		児童発達支援施設つむぎに関しては、目標とする人数は集まらなかったが、子ども同士が混ざり合い、インクルーシブ保育の基盤はできている。
	次年度方向性	利用者増加に向け、外部への宣伝等を行い、インクルーシブについてスタッフ一人ひとりが地域へ宣伝できるようスタッフ育成を行っていく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

I	計画・ねらい	スタッフ一人ひとりの年間の抱負、MBO を明確にする
	実践結果	年に2回スタッフが設定した MBO （目標の提示）の進捗確認のための面談を行い、計画的に達成できるようにした。
	次年度方向性	スタッフが共に学びあう環境の設定を行う。MBO の設定、スタッフ自信のスキル向上を確認する。
2	計画・ねらい	分野別リーダーの育成
	実践結果	リーダーを中心に保育園をより良くするため提案、実践が行える仕組み作りはできたが、計画的にリーダー育成は行うことができなかった。
	次年度方向性	引き続き、役割分担を明確にし、計画的にリーダー育成に努めていく。

〈5〉環境実施目標

I	計画・ねらい	食材や食の循環、環境への意識を育む環境教育を実践する。
	実践結果	畑仕事が充実し、作物が取れるようになった。その食材でクッキングや、給食で提供し、好き嫌いがあった子も興味を持ち食べられるようになっている。また残渣を増やさないよう、自分で食べきれる量の把握、給食の残渣を毎日図り、グラフ化、可視化で子どもたちが関心を持ち残渣が少なくなるよう工夫した。
	次年度方向性	引き続き、子どもたちと食の循環について、学ぶ時間を大切にする活動ができるようにしていく
2	計画・ねらい	食の循環サイクルの実行
	実践結果	調理くずやヤギの糞を利用したコンポスト設置を行った。　生産途中で次年度から肥料として使用していきたい。
	次年度方向性	子ども自ら田植え、稲刈り、野菜の種まき、収穫を経験する。 命をいただく活動の実践（魚の解体、ニワトリ、牛、豚）など、どうやって食材となるのかを学ぶ機会を設ける

〈6〉インクルーシブ保育の実践

1	計画・ねらい	園、つむぎの子ども一人ひとりを多面的に捉え、肯定的に子どもを理解しようとする。
	実践結果	スタッフ間でチャットを使い、子どもの姿の共有、毎日の振り返り、園会議での研修等を含め、全体的に子どもの最善の利益を求めたスタッフ育成はできた。
	次年度方向性	個の育ちを共有できる場、園内研修等でのエピソード研修を取り入れ、個の発達理解を図っていく。
2	計画・ねらい	自然に協働するチームの構築
	実践結果	日々の振り返り、個の育ちを共有できる機会を積極的に設けた。 配置された箇所で混ざり合い、保育を行うことはできるが、臨機応変に声を掛け合いながら保育を行うことは課題があるため、自然に臨機応変に対応できるよう研修を行っていきたい。
	次年度方向性	スタッフが声を掛け合い、自然と混ざり合い協力できる体制を構築する。 互いの専門性を活かし地域に必要となる施設となる土台作りを行っていく。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半：4~9月	１２人	１８人	１８人	２４人	２４人	２３人	１１９人
年度後半：10~3月	１２人	１８人	１８人	２４人	２３人	２４人	１１９人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	114人	117人	81人	79人	82人	62人	170人	57人	205人	51人	人	人	人
うち0歳児	0人	6人	2人	2人	5人	5人	5人	2人	12人	4人	人	人	人

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	0人	40人	17人	5人	16人	29人	14人	12人	28人	0人	0人	0人	161人
うち0歳児	0人	0人	3人	0人	1人	2人	2人	0人	0人	0人	0人	0人	8人

（解説）スタッフ体制が整わず、2025年1月より利用停止中

〈2〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　（３月１日時点）

常勤スタッフ	保育士	13人	看護師	１人	調理員等	3人	事務	１人
パートスタッフ	保育士	2人	補助	2人	用務	1人		

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・園内研修、自己評価、研修報告、共有事項、活動の振り返り
給食運営会議	月1回	給食内容の検討、マニュアル確認、アレルギー対応、食育
事故防止委員会	月1回	事故記録簿、インシデント、ヒヤリハットの分析、検証、再発防止策

ケース会議	２回	支援計画の振り返り、支援計画作成
リーダー会議	２回	スタッフ間の連携や共有、管理者会議での保育運営に関する共有
管理者会議	1回	スタッフ間の連携や共有、保育運営に関する共有、

〈２〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
食育会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長
主任会議	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士
併設園会議	年2回	施設長

〈３〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	毎日・毎朝点検・改善、保育所の衛生全般の管理
安全対策係	毎日・毎朝園内外においての安全を図る報告・注意安全管理対策に取り組む
防火管理者	防火管理に関わる消防計画を作成し、防火管理上必要な業務を計画的に行う
食品衛生管理係	給食衛生管理マニュアルに基づいた対応をする
畑係	畑、田んぼの計画、管理用具類の管理及び補充
生き物係	飼育動物の健康管理、環境改善を行う
写真係	写真チェック、販売申請、卒園アルバム作成
保育環境整備係	保育環境整備係

備品・発注係	消耗品、事務用品、保育材料の購入、管理

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	どろんこサポーターズの企画・検討・運営のサポート
地域交流係	異世代交流、地域行事参加等の窓口、管理

4. 保育支援

〈1〉保育･保育参加･保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	・希望する保護者へ個別面談の時間を設ける ・希望する保護者へ保育参加を行う ・支援が必要な子どもについての相談を受け付ける ・就学、進級に向け、支援が必要な子どもについて保護者と共有する
保育参加	4～3月まで　合計７名　が参加済み　　（3月１日時点） ・保護者会で、参加を呼び掛けた後からこめ組保護者の参加が増えた
保護者面談および発達相談	4～3月まで　合計６名　が参加済み　　（3月１日時点） ・進級、進学に向け、現状を共有した

〈2〉計画した年間行事の振返り

・別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	実体験を通して食や食の循環について興味関心を持つ
	実践結果	鶏やヤギの糞、廃棄食材で肥料を作り、畑に使用して、食の循環を認知する ・季節に応じた作物を育てて畑仕事の充実を図り、失敗と成功を経験しながら、作物が育つまでの世話の大変さ、収穫、食すことのうれしさや喜びを感じられるようにする ・食材を加工し、手間をかけることで食べられるものや長期保存できるものを知らせ、魚の解体を通して命をいただくことの意味を実体験として伝

		えるなど食の知識を学びながら食べることの大切さを学んでいく
	次年度方向性	命をいただくことの意味を食の知識を学び、実体験を通し学んでいく
2	計画・ねらい	・食べる意欲を育てる
	実践結果	・食べたい環境を自分で選択できるようにし、共に食べる喜びを感じながら心地よく食事を楽しめるようにする ・バイキング給食を実施し、自分の食べたいものを自分で盛り付け、自分の食べきれる量を知る ・日々の活動の中で、空腹感を感じることのできる活動を保証し、食欲につなげる。
	次年度方向性	畑仕事を充実させ、食べる意欲を育てる活動を取り入れる。 日中十分に活動し、空腹感を感じ食欲に繋げていく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	4月24日／10月29日に実施
歯科検診	6月5日／１月18日に実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	①　４月・10月に手洗い、うがい指導を実施 ②　６月歯の習慣で歯磨き指導を実施
流行した感染症	１月にインフルエンザウイルス、園児32名・スタッフ２名蔓延し、うるま市へ報告
発作・痙攣等の対応	無し
エピペン使用できるスタッフの状況	・４月園会議に前原どろんこにてエピペン研修を保育園スタッフ２４名、つむぎスタッフ６名、受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ31名のうち、31名が使用可能
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（法定1回/3年）	業者による対象物の法定点検 2023年実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月 ⇒4月1日、10月1日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日　実施済み
	児童健康診断	内科健診　各年2回／4月24日、10月29日 歯科健診　各年2回／6月5日、1月8日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時 ⇒4月11日、10月11日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間　実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	一人ひとりにあった教育的意図を持った環境構成（室内・戸外）を考察し続ける
	実践結果	子どもにとって最適な環境設定を行うために月1回保育 Web マップを用いて、子どもの興味関心を理解するため、の会議を行う

	次年度方向性	Web マップを活用しての会議はできなかったが、月1回保育の質を上げるメンバーを中心に、幼児期までに育ってほしい10の姿について学び発達理解に努めた。
2	計画・ねらい	防犯、防災、怪我防止の視点での事故防止チェック、設備点検を定期的に行い、破損などは速やかに修繕する
	実践結果	様々な視点で点検できるように交代で行う。　門のカギ閉めの注意喚起を定期的に行う
	次年度方向性	早番（7時30分）に来るスタッフが毎日園庭チェックを行い安全に遊べるよう点検を行うことができた。
3	計画・ねらい	保護者、来訪者が見ても、気持ちの良い環境を維持する
	実践結果	清掃分担チェック表を利用し、園全体の清掃に努める
	次年度方向性	清掃分担チェック表を利用し、園全体の清掃に努めることができた。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	マルチ棒	屋上園庭倉庫	毎日	良い
2	レゴ台	幼児保育室	毎日	良い

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容 【防災】	・危機管理マニュアルの災害対策に則り、月1回の避難訓練を行い、火災・地震の避難方法を確認する ・アプリの災害時緊急掲示板を使って、安否情報（園児数・保育者数・ケガ人・建物の被害状況・避難場所）を書き込み、保護者と情報共有する体制をとる
2	実践予定内容 【ケガ事故防止】	・ヒヤリハット・インシデント報告書の運用を徹底し、事故防止委員会で検証を行い、事故を未然に防ぐ ・事故防止委員会を毎月行い、同グループ内で起こった事故状況を共有し、事故防止策を探る ・ハザートマップを作成・更新し、ケガや事故防止に努めていく
3	実践予定内容 【防犯】	・年2回不審者侵入訓練を行う ・日々の生活の中でも常に不審者を意識することが大切であり、散歩時における対応も意識統一しておく（笛の携帯・代理送迎者の把握など）
4	実践予定内容 【光化学スモッグ PM2.5】	・光化学スモッグ、ＰＭ２．５の知識を身に着け、発生時には光化学スモッグ発生時対応、および行政連絡に従い対応する

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

1月に近隣中学校の1年生6名、保育養成校の学生

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
7月1～12日	沖縄こども専門学校	1人	責任実習
6月3～5日	沖縄こども専門学校	3人	インターンシップ
9月4～13日	沖縄中央学園	3人	インターンシップ

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
1月30～31日	具志川東中学校	6人

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	11日 24名	9日 22名	13日 22名	11日 22名	8日 24名	12日 24名	10日 26名	14日 26名	12日 26名	16日 25名	10日 25名	10日 26名
園内研修	11日 23名	9日 20名	13日 22名	11日 22名	8日 24名	12日 24名	10日 26名	14日 26名	12日 24名	16日 25名	10日 25名	10日 26名

〈2〉外部研修への出席

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	21日 1名

施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	12月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

商店街ツアー、散歩時など、基本活動の際に、地域の方との交流を多く持つことができた。世代交流、老人ホーム訪問は感染症の流行もあり、計画通りに行うことができなかった。

園で行われたどろんこ祭りには 450 名あまりの集客があり、地域の方に知ってもらう機会が増えたことで、一時保育や園庭開放など利用者の増加も見られた。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：前原公民館にて
商店街ツアー	週1回　主な行き先：郵便局、スターバックス、ゼビオ、はま寿司、ミスタードーナツ、カインズ、メイクマン、ベスト電器、イオン、等
世代間交流	実施　無し
異年齢交流	1月11日に高江洲小学校会場にて交流会を予定していたが感染症流行のため中止
その他活動	1月10日にうるマルシェにてうるま警察イベント「110番のイベント」へ参加
銭湯でお風呂の日	実施　無し

9. 小学校との子ども間交流・スタッフ間交流

〈1〉今年度の振り返り

会議等に参加したことで、小学校との連携も取りやすくなった。　残念ながら感染症流行のため交流会への参加はできなかったが、連携をとり、交流できるよう計画している。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
4月7日	うるま市役所	1名	教育支援担当者会	スタッフ間交流
7月30日	高江洲小学校	1名	保幼こ小連携協議会	スタッフ間交流
10月4日	赤道小学校	1名	保幼こ小連携協議会	スタッフ間交流
12月13日	うるま市	1名	個別支援担当者研修	スタッフ間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

毎月の子どもの様子をスタッフ間で共有しながら計画を作成、今後のかかわりに繋げてきた。また、保護者の意向も反映し、連携を図り計画を作成した。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・４～３月に計２回開催　参加者：６名

現状の子どもの様子や課題について状況を確認しあう。現状を踏まえた支援を検討し、短期的な支援と長期的な支援を行った。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

保幼こ小連絡会や、各小学校への引継ぎを実施。進級児童は担任から次年度担任へ個別に引き継ぎを行った。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
29名	35名	13名	409名	45名	81名	407名	43名	29名	42名	342名	50名	1525名

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　　来園延べ人数：１８名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　⇒計０件相談実施済み
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計６回実施済み 参加者延べ人数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
5名	０名	０名	７名	０名	６名	０名	２名	０名	8名	11名	０名	39名

どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計３回実施済み 参加者延べ人数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
０名	０名	３名	０名	０名	０名	０名	４名	０名	4名	０名	０名	11名

勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00　にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育 （支援センター主催）	月1回　　公園名：前原公民館にて　以下日程にて実施

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
０名	０名	０名	０名	０名	０名	０名	０名	０名	０名	０名	0名	０名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２５年1月３０，３１日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：８時００分
自己評価終了時刻：１７時００分
自己評価実施者：内部監査員、施設長、主任

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月２５日
アンケート回収率：７３％

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

〈1〉報告すべきご意見
報告すべきご意見　1件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）
報告すべきケガ（事故含む）　0件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年3月1５日　　作成者：前原どろんこ保育園 施設長　アイオメス　美和

２０２４年度　石川どろんこ保育園　事業報告書
（保育所における自己評価）

１．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

保育所保育指針にのっとったうえで、法人理念に沿った保育の実践を目指す。
＜目指す子どもの姿＞
「やりたいこと」にあふれ、挑戦と失敗を楽しめる子ども
思いやりの気持ちと感謝の気持ちを持つ子ども

＜目指す保育者の姿＞
「あなたはどうするか」
大人も子どもも主体性を重んじ、考え、学び、動く、自立した集団での運営を目指す
子ども主体の保育の実践のために「チーム保育」で取り組む

上記基本方針にのっとり、1年間子ども主体の保育の実践を目指した。

子ども主体の保育をどのように展開するかを1年かけてスタッフは学び続けた。他園研修では改めて子ども主体の保育について学び、考え、自園での展開につなげることができてきた。
まだまだ子どもたちのすべての「やりたいこと」に応えるまではいけていないため、次年度も継続して子どもたちの挑戦を応援し続ける。

スタッフの移動等で大幅なスタッフの変動があり、組織について改めて考えさせられる1年となった。
園内の役割分掌と可視化に取り組み、個々のスタッフの認識も徐々に変わり、チームとして個々のスタッフが責任感をもって園の課題に取り組むことができるようになった。今後は人が入れ替わっても組織が安定するように、組織としての成長を目指す。

1年を通じてスタッフの補充に苦労した現実がある。子ども主体のよりよい保育実践から子どものための保育をやりたいという仲間を増やすための施策を次年度に組み込んでいきたい。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	生活力の体得 日々の生活・遊びを通して学ぶ
	実践結果	子どもに経験させたい活動を選択できるように物的環境を整える 火・水・土に始まり刃物、針などの道具を使う「ホンモノの体験」を通じ、危険との距離の取り方や人との距離の取り方も学んでいく
	次年度方向性	年度の後半に向け、室内環境はかなり充実させることができたが、園庭や戸外活動では課題が残る。はさみなども好ましくない使い方も実際に起こり、スタッフの関わり方に難しさも感じた。

2	計画・ねらい	幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿の体得をめざす
	実践結果	保育所保育指針、保育運営マニュアルをもとに、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を具体的に計画に取り入れ、実践する。 日々の保育において0歳児から幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を意識することで、保育内容を連続させる。 施設長・主任・リーダーが計画から振り返りまでの PDCA を共有し指導を行う。
	次年度方向性	「子育ての質を上げる会議」の中で1年間通じて取り組まれ、園でも毎月研修を行い取り組んできたことで、保育計画、実践に変化が見られた。 日々の生活の中でも子どもたちの成長と結びつけることができるようになってきており、スタッフの質の向上が保育力の向上にもつながることを実感できた。
3	計画・ねらい	考えを形にする、失敗も認めあい自己肯定感を育む人的・物的環境の整備を「チーム保育」として行う。
	実践結果	子どもも大人も共に積極的に挑戦し、安心して失敗できる環境を作り上げる。「環境」「音楽」「造形」「運動」の係に分かれ、年間を通じて子どもの姿に寄り添った保育計画を「チーム」で作成・実践・振り返りを行う。
	次年度方向性	思うようなチーム分けはできなかったが、スタッフ個々の得意を活かすことに着目し、まずは個々が輝くことを心がけた。得意分野の活動を通じ、自己肯定感や自己有用感を感じられるようになりつつある。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	共に考え、共に育てる仲間となる
	実践結果	朝の丁寧な視診、触診による受け入れ。 夕方の子どもの姿が手に取るようにわかる丁寧な伝達。 すべての保育者がすべての子どもについて語り、すべての保育者と話題を共有することを目指す。 そのために、チャットや画像も利用し「大切な子どもたち」の情報を朝礼・昼礼・クラス、フロア、フリー会議で議題に上げ姿を共有し育ちを話し合う。
	次年度方向性	おおむね実践できた。朝の受け入れの方法を何度も会議を重ねて変更し、より良い形に落ち着いてきた。情報共有もチャットを活用できている。
2	計画・ねらい	保育活動の見える化（デジタル・アナログツールの活用）
	実践結果	「うちのこアプリ」の活用や、園内掲示で日々の子どもたちの活動内容を保護者にしっかりと「伝える」ことを意識する。 毎日のクラスごとのタイムラインや壁新聞の活用。
	次年度方向性	畑カレンダーは保護者の関心も高く、親子で眺める姿がよく見られた。 壁新聞が保護者懇談会の際に1度しか作れなかったため、行事などの際に計画して作成できるようにする。

3	計画・ねらい	子育て相談、適切なサービスの案内 ご意見を園運営の改善に取り込む
	実践結果	保護者と保育者の丁寧なコミュニケーションを通して、大小様々なご意見や問題点を拾っていく。 ご意見は保育を見直す最大のチャンスととらえ、自らを振り返り誠意をもって対応する。 保護者懇談会の７割参加、個人面談を全員に実施することを目指し、子どもの育ちに応じた関りの共有とサービスの提供を行う。
	次年度方向性	大きなご意見をいただくことはなかったが、小さなご意見も十分に拾えたとは言えない。スタッフによって対応が違うことも起こっているため、より丁寧なコミュニケーションをとれるよう、研修を取り入れていく。 保護者懇談会の参加率は非常に低く、クラスによっては１割ほど怒鳴っている。不参加の保護者へのヒヤリングも行い、保育への興味関心が高まるように働きかけていく。

〈3〉地域の子育て支援事業

Ｉ	計画・ねらい	地域の親子も含めた子育て拠点となる
	実践結果	青空保育や自然食堂、芸術学校・自然学校などの活動の参加率を上げ、どろんこ会の保育に触れることで園として目指している保育理念に触れてもらい、何が子どもたちに必要であるのかを共に考え共に育てる仲間となっていく。 地域支援活動は①沖縄生まれ沖縄育ち向け②転勤・移住者向けの２本柱とし、参加家庭年間１００家庭を目指す。 園のＨＰや外部に向けた掲示、市役所の案内も活用する。
	次年度方向性	昨年度と比べ参加は非常に少なかった。待機児童がいないということもあるが、次年度はより積極的な集客につなげる取り組みを行っていく。
2	計画・ねらい	一時保育・病後児保育事業の円滑な運営
	実践結果	需要の高い乳児の一時保育をスムーズに行えるスタッフ配置を行う。 問い合わせ、利用前面談、当日の受け入れに何の情報が必要なのかをすべての保育者が理解し説明できるようにすることで、希望者の利便性と安心感を上げていく。
	次年度方向性	うるま市とも連携し、預かり児がいない場合の活動を整理した。次年度は地域における保健情報の発信をより行っていく。
3	計画・ねらい	子育てスキル講座の開催
	実践結果	子どもに関する悩みや疑問を地域の保育者と園とが共有し、一緒に考える場と機会を用意する。

	次年度方向性	参加者なしという結果であった。次年度は待つだけでなく公民館や児童館や図書館へアプローチし興味を持ってもらう。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	保育所保育指針と保育品質マニュアルを学び保育者の質を上げる
	実践結果	1年を通じて学ぶテーマを意識する。（具体的な計画は7スタッフ計画参照） 日々の保育との紐づけ作業も行い、保育を理論的に語れる集団を目指す。
	次年度方向性	幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿の学びを1年かけて取り組み、保育計画への組み込みと実践を行ったことで、保育環境が大きく改善されたと感じている。この学びは次年度も継続していく。
2	計画・ねらい	個々のＭＢＯの設定と取り組み
	実践結果	保育者は面談や前年度の振り返りから個々の目標を設定し通年で取り組むテーマを決定する。 計画は全スタッフにも共有され、自主勉強会への参加や開催、昼礼や園会議での講師を行う機会を持つ。個々のスキルアップこそ園全体のスキル向上につながると考え、自らの得意を意識し伸ばす。 個々のＭＢＯについては適宜ロングまたはショート面談を実施し、継続的に振り返ることで目標を明確化していく。
	次年度方向性	リーダー層は個人目標だけでなく、園全体の質の向上のための目標を設定した。すべてが達成されたわけではないが、自分でたてた目標を定期的に振り返ることで1年通じて意識して取り組めたことは一定の評価に値すると考えている。
3	計画・ねらい	保育者の「にんげん力」も育てる 「チーム保育」の実践
	実践結果	指示されて動く、注意されて改めるのではなく子どもたちに求めている「自分で考える力」「好奇心や探求心」を保育者が率先して行っていくことで子どもと一緒に保育者もより良く育つ意識を持つ。 期日などの基本的なことを自ら守る意味を考え、保育者が「チーム」で実践していくために、職務分掌を明確にする。
	次年度方向性	スタッフ同士の連携があり「チーム」として今年度を盛りきれたという実感がある。しかし採用活動の遅れにより既存スタッフのモチベーションが下がることもあり、十分なスタッフの確保も育成と同じく重要と考え、次年度は重点政策に組み込む。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	「見守る」「やって見せる」　原体験を組み込んだ主体的な保育の実践

	実践結果	活動の中で生まれる子どもたちの主体的な意欲を汲み取り、原体験につなげていく。保育者は時には見守り、時には先頭となり一緒に成功と失敗を経験することで子どもたちも安心して挑戦できる環境を作る。
	次年度方向性	子どもたちの「今」の興味をつかみ、スタッフは想いをもって保育に当たっていた。場面によって保育者主体となっていたこともあるため、子ども主体の保育の実践は今後も取り組み続ける課題とする。
2	計画・ねらい	豊かな自然環境も最大限に利用し「科学する力」につなげていく
	実践結果	乳児期の空を見上げる経験から、幼児期には雲の色・形や風の変化 海水からの塩づくり、にがりからの豆腐作り 太陽の光を利用したクッキングなど沖縄の気候を最大限に活用する。
	次年度方向性	おおむね達成されたと考える。太陽光での取り組みが思うように勧められなかったため、スタッフの学びもさらに必要であると感じた。
3	計画・ねらい	沖縄の「美ら海」と自分たちできることを考える
	実践結果	サンゴの白化、海洋ごみ問題などを、子どもたちでもできることがないかといった切り口で考えることで、食べ残しを減らし、ゴミを出さない生活を考えていく。
	次年度方向性	周辺のごみ拾いにとどまり、ビーチクリーンが十分に行えなかった。次年度は計画的に取り組んでいく。

〈6〉伝統を大切にしながら興味の幅を広げていく

1	計画・ねらい	沖縄の伝統的な文化や風習に敬意をもって学ぶ機会を持ち、継承する責を子どもたちと保育者が担っていく。
	実践結果	エイサーや組踊り、三線などの伝統文化だけでなく、沖縄ならではの行事の由来を理解し、地域交流も含め保育活動にも組み込んでいく。 全国に系列園があることを「資源」と捉え、ＷＥＢなども活用し間接的に子どもたちが他地域の文化や風習に触れる機会も積極的にもち、沖縄の魅力を自ら発信しながらも子どもたちの興味や関心を他県や世界に広げる起点となる。
	次年度方向性	地域の祭りへの参加や成長を見せる活動での取り組みは概ね行うことができた。WEB で他地域と交流することができなかったため、こちらは次年度の課題とする。
2	計画・ねらい	伝統の食文化を行事と合わせて触れる機会を持つ
	実践結果	沖縄の独特な食文化を子どもたちと調べ、使用する食材を畑育てるなど、食の循環や環境への意識を意識した保育を実践する。 給食残渣を前年比の５０％削減を目指す。
	次年度方向性	沖縄メニューや食育活動、畑仕事と通じて概ね行うことができた。給食残渣は前年比６０％となり目標には届かなかった。これらの項目は次年度以降も引き続き取り組んでいく。

3	計画・ねらい	沖縄戦の歴史に触れる機会を持つ
	実践結果	通学先となる宮森小学校の戦闘機墜落事故を通じ平和について考える 子どもそれぞれの平和や幸せについて考える時間を持つ
	次年度方向性	終戦記念日や沖縄大空襲について考える時間を持った。年齢や発達によって理解の度合いは違うが、引き続き取り組んでいく。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半：4~9月	72人	100人	106人	126人	124人	132人	660人
年度後半：10~3月	72人	103人	108人	124人	120人	125人	652人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	192人	195人	206人	202人	187人	167人	193人	160人	158人	163人	120人	130人	2073人
うち0歳児	0人	1人	2人	1人	2人	0人	3人	3人	3人	0人	0人	0人	15人

（解説）延長保育利用者は年間通じて多くはない。少ない人数だが異年齢の少人数のため、保育内容の充実には課題は残る。長時間利用児への配慮と遊びの保証についてスタッフ間で検討を行う。

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	5人	0人	3人	8人	0人	11人	1人	7人	13人	17人	20人	21人	106人
うち0歳児	0人	0人	1人	0人	0人	6人	0人	7人	13人	17人	17人	21人	82人

（解説）年度の終わりに向け、保育予約が取りにくい状況が発生した。うるま市内で0歳児の預かり保育は当園だけとなり、利用を望む家庭のニーズに応えきれていない現状がある。

〈2〉開所時間

7時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

常勤スタッフ	保育士	15人	看護師	1人	栄養士	0人	調理員等	2人
パートスタッフ	保育士	2人	補助	3人	調理	1人	事務	1人

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・年間研修計画に沿ったスタッフ講師による勉強会
給食運営会議	月1回	離乳食進捗状況・アレルギー確認、残渣・喫食状況確認
事故防止委員会	月1回	他園・自園の記録から危険予測をする
ケース会議	月1回	要支援児についての情報共有・検討
リーダー会議	週1回	園長・主任・リーダーによる報告・連絡・検討
クラス会議・フリー会議	週1回	保育計画と振り返り、園児ごとの検討
週会議	週1回	全クラスによる報告・連絡・検討

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長

食育会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長
主任会議	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	身体測定、健康診断、歯科検診などの実施。園内の衛生管理・清掃及びそれにかかる備品類の管理・発注。感染症予防。
安全対策係	避難訓練及び消火訓練・防災自主点検の実施管理。
防火管理者	救命講習実施。施設内外の設備点検及び事故防止点検の実施 消防計画の作成。それに基づく各種訓練の実施報告
食品衛生責任者	給食食材及び提供食材の衛生管理と在庫状況の把握 畑状況の管理・計画の見直し。用具類の管理及び補充
地域係	地域住民・自治体との対外的な窓口業務管理 ちきんえっぐ活動の実施及び報告書の作成

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	地域や保護者と共同的に準備・進行を行う
運動会係	地域や保護者と共同的に準備・進行を行う

4. 保育支援

〈1〉保育･保育参加･保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	・月齢・育ちに配慮し、個々の欲求を受容しされることで身近な大人との信頼関係を築き、心身の安定を図った。 好きな遊びを十分に楽しみ、健康に安心して園生活を送れるように遊びの環境を

	整え、スタッフも遊びについてＩ年かけて学び続け、最適な関りをもつ努力をした。 ・一人遊びを十分に楽しみ、他者との関わりも持つ中で自我が形成されるよう、環境を整えた。 事故防止に努め、自発的な活動を促していたが、今年度は治療が必要な事故の発生があり、より安全な遊びの環境と人的環境を整備していく。 ・自然と触れ合う中で豊かな感性や認識力・思考力及び表現力を養えるような準備をして活動に臨んだ。自然物などを利用しての表現活動はどの年齢でも活動に生かされていたと感じる。 ・自分の気持ちや考えを自分なりの言葉で表現することの大切さを知り、共同性や社会性を身につけられるように心掛けた。Ｉ年を通して言葉が持つ力を絵本や表現（ふわふわの花）などで取り組んだが、一部の児においては十分育ったとは言えない現状も見られたため、引き続き取り組んでいく。
保育参加	4～3月まで　合計２名　が参加済み　　（3月Ｉ日時点） ・保護者懇談会や日常の送迎の際にも案内を行っているが、仕事の都合がつかない保護者が多く、少ない数の参加にとどまっている。
保護者面談および発達相談	4～3月まで　合計８名　が参加済み　　（3月Ｉ日時点） ・保護者、および連携機関との相談や、個々の課題に合わせ常時対応している。

〈2〉計画した年間行事の振返り

・別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

Ｉ	計画・ねらい	食べることの楽しさや感謝の気持ちも育み伝えていく
	実践結果	子どもと食事を共にすることで言葉に頼らず行動でも表現し伝えた。 作る、触れる、味わうなどの食育体験をすべての年齢において計画的に行い、食事になるまでの流れや携わった人への感謝の気持ちを持てるようにかかわったが、年齢によってはまだ課題も大きく、食べものを残すことへの抵抗感がない児も多くいる現状がある。 活動を充実させることで空腹感を感じ、意欲的に食事を摂れるようなった。
	次年度方向性	引き続きスタッフは子どもたちと一緒に食べることを大切にし、保護者の代わりに食への思いを伝え、正しく、楽しい食事の時間を持てるようにしていく。
2	計画・ねらい	食材・食の循環を知る直接体験をする
	実践結果	自ら栽培したものを口にすることで、自然や命への興味関心を持った。 畑仕事に積極的に取り組めるようになり、栽培の難しさと収穫の楽しさを

		知る機会を多く持つことができた。 行事食・郷土食にも積極的に学び、作る体験も大切にした。 落ち葉やヤギの糞や残菜などから堆肥を作り、園での畑仕事に組み込むことで、栽培から収穫や加工までの流れを子ども自身が体験し食の循環を考えるきっかけとし、年間通じて取り組んだ。 配膳をすることで自分の食べられる量を知り、残食を減らす（前年比５０％目標に対し、実際には６０％）、きれいに食べることの意味を子どもと保育者は一緒に考続けた
	次年度方向性	子どもたちも畑仕事により関心を持つことができたｌ年であったため、次年度も子どもたちが主体的に取り組むことを考える。 たい肥は実によい栄養となったため、次年度も継続して子どもたちと一緒に取り組んでいく。
3	計画・ねらい	食材・食の循環を知る直接体験をする （命を知る活動）
	実践結果	今年度の最終目標として鶏をさばいて食す活動は実施に至らなかったが、スタッフは実際に鶏をさばき、子どもたちに何を伝えるのか、そのために何が必要何かを考える機会を持った。その結果、今年度はマグロをさばいて食す活動を行った。
	次年度方向性	法人のミッションでもある鶏さばきであるが、その活動の前に食育として食べるために飼育される「家畜」について学び、それらの生き物についての学びを段階的に行った先に実施されるべきであると考えている。まずは早々にひよこから飼育し命についての学びを行っていく。

〈４〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	５月１４日／１０月２４日に実施
歯科検診	７月２３日 ／11月１５日に実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年l回実施
スタッフ検便	毎月l回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	①　４月l2日に幼児室にてうがい・手洗い指導を実施 ②　６月４日に幼児室にて歯磨き指導を実施 ③　l0月l8日に幼児室にてうがい・歯磨き指導を実施
流行した感染症	④　６月に手足口病、園児１５名 ⑤　２月にインフルエンザ、園児６名感染報告有り
発作・痙攣等の対応	特になし

エピペン使用できるスタッフの状況	・４月２４日に園会議にてエピペン研修を参加者　計１９名が受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ２５名のうち、２３名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	・４月２４日に園会議にて心肺蘇生研修を参加者　計１９名が受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ２５名のうち、２３名が使用可能
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を４か月に1回の頻度で行う。また消毒・換気を徹底した。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（法定1回/3年）	業者による対象物の法定点検 2023年実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日　休園日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日　休園日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日　個々の休日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月 ⇒4月２５日、10月２５日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日　実施済み
	児童健康診断	内科健診　各年２回／７月２３日、１１月１５日 歯科健診　各年２回／５月１４日、１０月２４日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時 ⇒4月１９日、10月１８日に実施済み

	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間　実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	必要なものだけがある保育施設を目指し、掃除や管理の行き届いた保育環境を提供する。
	実践結果	衛生管理に配慮し園舎内外の清掃を行った。 環境係が中心となり、清掃の意義を理解し率先して実行したが、子どもたちの意識の向上にはやや課題が残る。
	次年度方向性	引き続き園内外の清掃と管理を行い、いつだれが見ても来ても気持ちよい施設を目指す。
2	計画・ねらい	日々の遊びの中に子どもの育ちがあると考え、自由度の高い遊具の作成を保護者と協同で行う。
	実践結果	意図的な環境設定・環境構成を整えることを目指したが、管理の難しさから棒や板などの素材の提供は行えなかった。 その代わり、竹馬や縄など、子どもたちが工夫して遊べる環境を準備したことで遊びが変わっていった。
	次年度方向性	子ども主体の遊びの展開となるように、自由度の高い教具についてスタッフは学び、提供をしていく。
3	計画・ねらい	子どもたちが常に主体性をもって遊びを選択できるような環境を整える。
	実践結果	目的を持った複数の戸外活動の準備や、室内遊びを好む子どもへの遊びの保証を考えたが、人的環境の都合で実践できないことも多くあった。 保育者は子どもたちの「今」に必要なことを考えスタッフ全員で共有し、保育計画に落としたことで遊びの質は向上したと感じる。
	次年度方向性	子どもたちの「今」に必要な遊び、環境を考え続け、より子どもたちが主体的に遊びこみ、あそびの中から様々なことを学び取れることを目指す。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	ブロック用テーブル	幼児室内	毎日	
2	ベンチ	園庭	毎日	１０月２５日修繕
3	平均台	園庭	毎日	老朽化のため６月１０日廃棄

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

Ｉ	実践結果	防災…危機管理マニュアルに則り、毎月の訓練を通して日頃よりスタッフが緊急時の対応を身につける。対応フローチャートの活用
2	実践結果	怪我・事故防止対策…危機管理マニュアルに則り、安全点検の実施を行う
3	実践結果	怪我・事故発生時には対応フローチャートの活用。安全教育、ＳＩＤＳ防止研修の実施。
4	実践結果	事故防止委員会で怪我・事故の検証と防止策検討。
5	実践結果	不審者対策…年二回の不審者侵入訓練により、緊急時の対応を身につける。
6	実践結果	発生フローチャートの活用。スタッフの笛携帯、登録者のみへの引き渡し徹底。
7	実践結果	５月予定　警察も招き交通安全について学び安全な戸外活動につなげる

6. 実習生・中高生の受入

〈Ｉ〉今年度の振返り

園見学、講義実習、保育実習、体験保育、職業体験と様々な学校のニーズに応え受け入れを行ってきた。保護者、スタッフからのつながりもできたことで以来の数は増えている。今後もどろんこ会の保育の認知度向上のためにも積極的に受け入れを行っていく。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
６月ＩＩ日～ 週にＩ日4日間	琉球リハビリテーション専門学校	６人	観察実習
７月２５日	沖縄福祉保育専門学校	２人	保育実習

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
１１月２６～２７日	伊波中学校	６人
Ｉ月３０～３Ｉ日	具志川東中学校	６人

7．スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	19日 25名	17日 24名	21日 24名	19日 23名	23日 23名	20日 23名	18日 26名	15日 26名	20日 26名	24日 26名	18日 26名	19日 26名
園内研修	19日 20名	17日 23名	21日 21名	19日 20名	23日 18名	20日 19名	18日 18名	15日 21名	20日 20名	24日 20名	18日 21名	19日 25名

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
自由	日本福祉総合研究所	園長大学・保育士大学	全スタッフ	有

＊1年通じて個々の興味のある分野をいつでもいくつでも受講可能。参加費用は法人負担のため個人負担なし。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	21日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	11月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	第1回：12月18日に読売ランド前保育園にて２名が出席											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年１回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

今年度は地域の乳児の参加がほぼなかった。保育園に入所できている児が多いとしても、潜在的なニーズはあると考えられるため、次年度への課題として集客を上げるための取り組みを上げる。
地域の夏まつりへの参加もでき、交流も増えてきたが、連絡の取り方などには課題も残った。
商店街ツアーでは様々な会社や商店を知ることができたが、午後の活動としては場所が遠いこともあったため、次年度は活動の充実を図るためにさらに内容を検討する。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：前原西公園にて　　参加延べ人数：なし
商店街ツアー	週1回　主な行き先：サンエー、かねひで、ロクパン、ほっともっと、ダイソー、消防署、交番、郵便局、闘牛ショップ、ローソン、ファミリーマート、小学校等
世代間交流	８月24日に前原公民館にて夏祭りに参加し踊りを披露
異年齢交流	２月３日に石川どろんこ保育園にて沖縄中央学園の学生との交流
その他活動	１月30日に石川どろんこ保育園にて園児保護者によるマジックショー開催

9. 小学校との子ども間交流・スタッフ間交流

〈1〉今年度の振り返り

今年度は4か所の小学校への進学となるが、すべての学校との連携会議、交流会、接続会議へ参加し、子どもたちの育ちを共有することができた。また、定期的にかかわることで保育園側が小学校の授業の理解をし、接続を意識し保育計画を建てることも意識した。子どもたちのスムーズな就学に向け、園としてできる最大限のかかわりを今後も継続していく。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
５月17日	うるま市役所	１名	連携担当者研修会	スタッフ間交流
６月13日	城前小学校	１名	担当者連絡協議会	スタッフ間交流

6月14日	安慶名小学校	1名	担当者連絡協議会	スタッフ間交流
８月27日	伊波小学校	１名	情報交換会、連携会議	スタッフ間交流
12月10日	ゆらてく	１名	うるま市保幼こ小連携担当者研修会	スタッフ間交流
２月１４日	伊波小学校　１年生 安慶名小学校１年生 川崎小学校　１年生	15名 1名 1名	お招き会 授業体験等	子ども間交流
２月21日	伊波小学校	１名	園児情報共有会	スタッフ間交流
2月28日	城前小学校　1年生	2名	お招き会 授業体験等	子ども間交流
2月28日	安慶名小学校	1名	園児情報共有会	スタッフ間交流

10.　要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

毎月のケース会議、個別記録の記入を行い、複数人で多方向より支援児の現状と課題を見つめて話し合い、どのような支援が有効であるかを話し合い、計画書を作成した。また、うるま市の巡回指導なども積極的に利用し、スタッフの子どもとのかかわり方を定期的に見直し、よりよい環境作りに努めた。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・４～３月に計１２回開催　参加者：５名　回覧にて内容共有

該当クラスのスタッフが中心となりケース会議を開催した。年度の後半はすべてのスタッフが支援児にかかわることも多くあるため、クラスにとらわれず様々なスタッフの意見も参考にし話し合うことを心がけた。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

小学校との連携会議への参加および引継ぎには積極的に参加した。

スムーズな移行に向け園として最大限の情報提供と接続の協力を行っている。また、定期的に近隣小学校へも行ってみるなど、進学のイメージを継続して持つことができるように活動している。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2名	4名	12名	17名	6名	31名	94名	35名	14名	35名	22名	20名	277名

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　　来園延べ人数：277名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　⇒相談者なし
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計24回実施済み 参加者延べ人数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	4名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	4名

どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計12回実施済み 参加者延べ人数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	0名	0名	0名	0名	0名	4名	0名	0名	0名	0名	0名	4名

勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00　にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育 （支援センター主催）	月1回　　公園名：前原西公園にて　以下日程にて実施

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２５年１月２９日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：８時３０分
自己評価終了時刻：１７時３０分
自己評価実施者：田中　誠、加藤　直子、山田　慶子、普天間真由美

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月２５日
アンケート回収率：７９％

概ね一定の評価はいただけているが、スタッフ個々の対応の差や情報共有についてのご指摘も目立つ。表面に出てこないご意見もより多くあると認識し、いただいたご指摘にはすぐに取り組み改善を行い、地域においても保育内容の評価をいただける園を目指していく。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見　０件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む）　０件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年3月１５日　　作成者：石川どろんこ保育園　施設長　加藤　直子

２０２４年度　馬場どろんこ保育園　事業報告書
（保育所における自己評価）

１．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

変容していく社会に柔軟に対応し、社会の一員として生き抜いていくために必要な「非認知能力」の獲得に向けて様々な直接体験の機会を提供したり、異年齢保育を中心に仲間と協力し合ったり、葛藤したりするなどの経験を積めるようにした。また自己選択の場を積極的に設定し、子どもたちの「自分で考え行動する思考」を育んだ。今後も私たち保育者は、子どもたちを主体的な体験に導き非認知能力を育てることで、子どもたちの未来の可能性を広げていく。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

１	計画・ねらい	生活の体得 自分の足で人生を歩むために・自分で自分の命を守るために・助けられながら生きるために「生活力」と「危険なものとの距離の取り方」を教える。
	実践結果	・道具（針と糸・ナイフ・工具等）を使って見せる、遊び（あやとり・こま・まりつき等）をやって見せる、さまざまな歌を歌って見せる等、様々な提供に努めた。焚火活動では、焚火にあたることで火との距離の取り方を自身で感じられるようにした。 ・生きる力（感情制御力・人と関わる力）は指導では身につかないため、保育者は子どもたちの心が動く様々な体験活動の場を積極的に作り、適切な距離感を保ちつつ見守った。
	次年度方向性	今年度同様、子どもたちの生活力の体得に向けての様々な体験活動の場を提供する。
２	計画・ねらい	10の姿の体得 １．健康な心と体 ２．思考力の芽生え ３．自立心 ４．自然との関わり・生命尊重 ５．協同性 ６．数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 ７．道徳性・規範意識の芽生え ８．言葉による伝え合い ９．社会生活との関わり １０．豊かな感性と表現
	実践結果	・一つのことを一緒に行うこと、決まり（毎日の仕事）を守ること、やりたくなくても皆のために働かなければならないことを丁寧に伝えていった。 ・充分量ではなく、話し合いや調整が必要な量の道具を用意し、子どもが育つ環境を提供した。 ・子どもたち同士で話し合う機会を数多く設定し、考える力の育ちを支援

		した。
	次年度方向性	今年度同様、10の姿を保育計画に落とし込み、子どもの10の姿の体得を目指したねらいを意識しながら保育を実施する。
3	計画・ねらい	子ども自らがいつでも経験を選び取ることができる物的環境の設定
	実践結果	・子どもが使うもの、触れるべき物を倉庫にしまわない。 ・各保育室に玩具、教材、触れるべき様々なものを常設する。 ・子どもが自分の意志で自由に各保育室を行き来できる生活を保障する。 ・大人が決めない、誘導しない。 ・子どもが自分で選ぶ、決める。 これらを意識した保育を行い、子どもの体験の機会や思考力の育ちを支援した。
	次年度方向性	今年度同様、子どもが考え選択し行動する思考を育む環境の構築を目指す。
4	計画・ねらい	命をいただく活動の実践
	実践結果	・労働としての畑仕事を実践した。 ・自然の恵みとしての食材や食の循環の教育として、収穫した様々な野菜を調理して食べる経験を多く持った。 ・魚をさばいて食す活動、蚕の繭作り等、命をいただく活動を充実させた。
	次年度方向性	今年度同様、命をいただく活動を通じて子どもたちが食の循環を知り、また命をいただくことで自分たちの生活が成り立っていることを感じられる体験の機会提供を目指す。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	園での子どもの姿や日々の成長を保護者に共有
	実践結果	ドキュメントやエピソード記録は保護者向けにご覧いただくことは出来なかったが、玄関内の活動写真の掲示やブログ等で自園活動の共有を行い、保護者の安心感に繋げた。
	次年度方向性	今年度同様、保護者の安心感や保育の質向上に繋がる保育の見える化を積極的に推進する。
2	計画・ねらい	園舎内外の美観整備
	実践結果	明るく清潔な園舎は、子どもの健やかな成長を支えるだけでなく、保護者の方々にも心地良い空間と安心感を与えることを踏まえ、施設の丁寧な清掃に取り組んだ。
	次年度方向性	今年度同様、子どもたちにとっての快適な環境を提供するとともに、保護者の信頼にも繋がる園舎整備を強化し、園舎美観を目指す。

3	計画・ねらい	保護者の子育てを実践する力の向上に向けた支援活動
	実践結果	個人面談の強化期間を設定し、保育士による子育てに関する相談対応や助言を行い、保護者の悩みや疑問に寄り添いながら信頼関係を築いた。しかし栄養士による食に関する相談対応や栄養指導は、機会を設けることが出来なかった。
	次年度方向性	今年度同様、保護者の子育て力向上の一助となるよう、保育の専門的視点からを助言行うことで、保護者の子育て支援に繋げる。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域行事への参画
	実践結果	地域との積極的な連携及び協働を図ると共に、子育て支援に関する地域の人材と積極的に連携を図るよう努め、地域との一体化を目指した。商店街の夏祭りやクリスマス会に参画し、多くの地域の方が触れ合う機会を創造した。
	次年度方向性	今年度同様、積極的な地域子育て支援活動を目指す。
2	計画・ねらい	地域子育て支援の拠点としての確立
	実践結果	広報活動に力を入れたことで、どろんこ祭りやちきんえっぐ等の活動には、昨年度を大きく上回る参加者数となった。地域の方々と交流を深めながら、地域子育て支援の拠点としての確立を目指した。
	次年度方向性	今年度同様、積極的な地域子育て支援活動の広報を推進する。
3	計画・ねらい	孤立しない子育てへの支援
	実践結果	ブログや自治体ホームページ等にちきんえっぐの取り組みを掲載し、地域の親子が集うコミュニティの拠点となるよう、地域子育て支援活動を積極的に行った。リピーターも増え、顔なじみの地域の親子が増えることで、地域の親子同士の交流の場となりつつある。
	次年度方向性	今年度同様、積極的な地域子育て支援活動を目指す。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	主体的な学びの習慣
	実践結果	主体的な学び習慣の動機付けを行うべく、園長大学®・保育士大学研修等の運用で自己研鑽の習慣を身に付けるよう働きかけた。各々知識を深め、保育現場に取り入れた。

	次年度方向性	今年度同様、園スタッフの主体的な学びの習慣を育む。
2	計画・ねらい	「接遇」理解と共通認識
	実践結果	相手の立場を想像した丁寧な保護者対応を目指し、園会議にて接遇をテーマにディスカッションやロールプレイングを実施した。お迎え対応チェックリストを活用し、ビジネスマナーや選ばれる園を目指すサービスについて共通認識を持って対応した。
	次年度方向性	今年度同様、保護者との信頼関係構築のため、スタッフの「接遇」理解と共通認識を推進する。
3	計画・ねらい	スタッフが講師となる園内研修の実施
	実践結果	スタッフが毎月交替で研修の企画、資料作成、講義という一連の工程に挑戦する。最後まで諦めずにやりきるという成功経験を積むことで人間力を向上させ質の高い保育を目指した。 アクティブラーニング中心の研修を多く行いスタッフ間の同僚性を発揮させることで園全体の人材成長に繋げていった。
	次年度方向性	今年度同様、スタッフのスキル向上に向けてアクティブラーニング中心の学びの機会を設ける。
4	計画・ねらい	主体的に思考し行動できる人材の育成
	実践結果	問題に取り組む機会を多く提供し、スタッフが自ら考えて解決策を見つける機会を提供し、柔軟性や適応力を伸ばして自己判断や問題解決を実践できる人材を育てた。
	次年度方向性	今年度同様、自己判断や問題解決を実践できる人材育成を推進する。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	園庭改良継続
	実践結果	緑の豊富な園庭を作ることで、小さな園庭であっても十分に自然に触れられる環境を構築し、子どもたちにとっての身近な自然体験の場となるようにした。また子どもたちと草取りを行ったり、業者による樹木の剪定を実施したりして、整備が行き届いた園庭作りを心掛けた。
	次年度方向性	今年度同様、環境に配慮した活動を目指す。
2	計画・ねらい	畑活動の充実
	実践結果	積極的に畑活動を行い、収穫した野菜はその場で食べたり、調理して食べたりした。残食を利用した堆肥を用いて子どもたちの労働としての畑活動を充実させた。自然の恵みとしての食材や食の循環・環境のへの意識、調理する人への感謝の気持ちが育つようにかかわった。

	次年度方向性	今年度同様、環境に配慮した活動を目指す。
3	計画・ねらい	ゾーン保育の実践
	実践結果	子どもたちがゾーン体験をし、幸福感・充実感を持ち集中して遊びこめる室内環境を保障した。
	次年度方向性	今年度同様、環境に配慮した活動を目指す。

〈6〉利用者満足度向上

1	計画・ねらい	1.思いやり　2.誠実さ　3.謙虚さ　4.感謝　を忘れず、おもてなしの心を込めたサービスの提供
	実践結果	【挨拶】 ・来訪者が施設に入った時に大きな声で挨拶をしているか ・手を止め、顔をあげて挨拶をしているか 【お迎え対応】 ・すぐに保育士が対応に出ているか ・一日の子どもの様子を保護者に手に取るように伝えようとしているか ・複数の保護者がお迎えに来た際でも自ら満遍なく声をかけているか ・待った気がしないお迎え対応ができているか　待たされたと思わせない仕掛けづくりをしているか お迎え対応研修やお迎えチェックリストの活用等で保護者に選ばれる園を目指した。
	次年度方向性	今年度同様、保護者の立場にたった温かな保護者対応を目指す。
2	計画・ねらい	保育参加・保護者個人面談のアナウンス強化
	実践結果	保育参加及び保護者個人面談のアナウンスを強化、参加者を多く募ることで、園の保育を知ってもらいオープンな園を目指した。
	次年度方向性	今年度同様、積極的な保育参加・保護者個人面談のアナウンスを行う。
3	計画・ねらい	安全管理の徹底
	実践結果	感染症予防策や食物アレルギーの管理、設備の安全管理、緊急時の対応、交通安全等、子どもたちの健康と安全を確保し、保育環境を信頼性の高いものにした。
	次年度方向性	今年度同様、様々な視点から子どもたちの命を守る安全管理を強化する。

〈7〉表現活動の充実

1	計画・ねらい	毎月のアートの日開催
	実践結果	月1回アートの日を開催し、子どもたちの表現活動の場を数多く提供した。自由な表現活動を通じて子どもたちのコミュニケーションスキルや創造性を発展できるように様々な取り組みを用意した。
	次年度方向性	今年度同様、幅広い表現活動の機会提供を目指す。
2	計画・ねらい	年間100曲の歌を歌う
	実践結果	100の曲に触れられるよう朝の会や日頃の保育の中で歌を楽しむことを大切にした。様々な歌を歌うことで多様な文化に触れたり友だちとの一体感を感じたりしながら、歌の好きな心豊かな子どもを育てる。
	次年度方向性	今年度同様、幅広い表現活動の機会提供を目指す。
3	計画・ねらい	様々な楽器に触れる
	実践結果	多様な楽器に触れられる環境を用意し、子どもたちが様々な音色やリズムに触れることで自分の思いを自由に表出し、表現力を豊かにし運動能力やリズム感を高められるようにした。
	次年度方向性	今年度同様、幅広い表現活動の機会提供を目指す。
4	計画・ねらい	劇遊びの充実
	実践予定内容	役割分担を通じてコミュニケーション力を育み、チームワークの大切さを学べる劇遊びについては、積極的な取り組みは出来なかった。
	次年度方向性	子どもたちがストーリーを考え想像力を駆使することで、自由な発想や創造力を伸ばせるよう、活動を保障する。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半：4~9月	36人	59人	72人	83人	84人	73人	407人
年度後半：10~3月	36人	60人	72人	84人	84人	78人	414人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	103人	82人	79人	89人	92人	75人	113人	99人	109人	106人	101人	100人	1148人
うち0歳児	0人	1人	1人	4人	9人	3人	3人	3人	7人	17人	8人	0人	61人

（解説）特になし

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
うち0歳児	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人

（解説）一時保育休止中

〈2〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

常勤スタッフ	保育士	12人	看護師	0人	栄養士	2人	調理員等	0人
パートスタッフ	保育士	2人	事務	1人	用務	1人		

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・園運営についての情報共有 ・ルール・役割分担決め

給食運営会議	月1回	調理・食事提供の改善案討議など
事故防止委員会	月1回	安全管理についての討議・ルール決め
ケース会議	1回	ケース討議、保育・運営方法の共有

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
食育会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長
主任会議	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	調理・食事提供の改善案討議など
安全対策係	安全管理についての討議・ルール決め
防火管理者	ケース討議、保育・運営方法の共有
食品衛生管理係	調理・食事提供の改善案討議など
畑係	安全管理についての討議・ルール決め
生き物係	ケース討議、保育・運営方法の共有

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	計画から実施、保護者との連携と地域告知など
研修チーム	研修受講管理及び、園内研修運営

4. 保育支援

〈1〉保育･保育参加･保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	・保護者面談強化月間を設け、面談を通じて園児の子育てや発達相談を実施した。 ・保育の見える化を目指し、玄関に畑活動や商店街ツアー・交流活動などを中心に写真掲示を行い、園の保育を積極的に発信した。
保育参加	4～3月まで　合計25名　が参加済み　　（3月1日時点） ・年間を通じて多くの保護者にご参加頂き、園の保育を知っていただく機会となった。
保護者面談および発達相談	4～3月まで　合計36名　が参加済み　　（3月1日時点） ・10月～1月に保護者面談期間を設けたことで多くの保護者にご参加頂いた。子育てについての相談や子育ての共通認識を得られる良い機会となった。

〈2〉計画した年間行事の振返り

・別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	自身で考え選択し食を通じて人とかかわる。
	実践結果	これまでの食育の取り組みや口腔発達の知見を活かしつつ、「食べたい時に食べたい場所で食べたい人と食べたいだけ」食べるという、子どもの意思決定を基盤とする食育を進めた。
	次年度方向性	今年度同様、積極的な食育活動を目指す。
2	計画・ねらい	食材や食の循環・環境への意識を育む環境教育の実践
	実践結果	１．畑仕事を実施し、3大食育方針を推進した。 ２．子どもが自らの体験を通して食材や食の循環・環境への意識を身に付ける活動①糞・ゴミの堆肥化　②種まき、間引く、獲る　③命をいただく（捌く、解体する、焼く、食べる）　④加工する＝梅・味噌・たくあん・梅干し・ケチャップ等を実施した。
	次年度方向性	今年度同様、積極的な食育活動を目指す。
3	計画・ねらい	火の暖かさや素晴らしさ、不思議さを感じ、火に親しむ

	実践結果	・焚火やクッキングを通じて火育を行った。・火の取り扱いを学ぶ機会を提供した。
	次年度方向性	今年度同様、積極的な食育活動を目指す。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月6日／11月21日に実施
歯科検診	5月30日／12月4日に馬場どろんこ保育園にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	12月12日に幼児保育室にて手洗いチェッカーによる手洗い指導を実施
流行した感染症	1月にインフルエンザA型
発作・痙攣等の対応	なし
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月19日に本園にてエピペン使用研修を保育スタッフ15名、調理スタッフ2名、事務スタッフ1名　計18名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ19名のうち、18名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	なし
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み

	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（法定1回/3年）	業者による対象物の法定点検 2023年実施済み ※対象物がない園及び JW 園は削除すること
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月 ⇒4月8日、10月1日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日　実施済み
	児童健康診断	内科健診　各年2回／6月6日、11月21日 歯科健診　各年2回／5月30日、12月4日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時 ⇒4月19日、10月18日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間　実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	自分で考え行動する力、生きる力を育てる土壌を構築
	実践結果	設備的環境に加え、人的環境、時間的環境等、様々な側面から子どもを取り巻くすべての環境整備を行い、室内・室外ともに子どもが自発的に関わる環境設定を心がけた。大人の目線や観点でなく、子ども自身が選び取り遊び込めるゾーン保育を基本とした。ゾーニングのねらいを保育者間で共通認識し、子どもの姿を捉えた環境構成を目指した。
	次年度方向性	今年度同様、積極的な環境整備を目指す。
2	計画・ねらい	集団社会化理論に基づく保育の実践

	実践結果	子どもたちが集団での経験を通じて社会的スキルを獲得し、コミュニケーション力や協調性を育んでいかれるよう、適切な環境や支援を提供した。
	次年度方向性	今年度同様、積極的な環境整備を目指す。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	草履箱	縁側	毎日	異常なし
2	ウッドデッキ	縁側	毎日	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	年間計画に沿って月1回の避難訓練（地震・火災を想定）実施、及び年2回アプリへの書き込み訓練実施
2	実践結果	事故防止チェック実施
3	実践結果	不審者対策訓練実施
4	実践結果	ヒヤリハット事例の共有、検証、再発防止対策実施
5	実践結果	法人内の事故記録簿の全スタッフ回覧周知
6	実践結果	ハザードマップ（園外・園内・園庭）の作成及び更新
7	実践結果	月一回の法人内事故防止委員会会議実施
8	実践予定内容	月一回の園内事故防止会議実施
9	実践予定内容	環境省の熱中症予防情報確認（概ね5月～10月）

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

次の世代を担う人材を育成することは保育所の重要な役割と捉え、横浜市立上の宮中学校3年生との交流等、積極的な受け入れを行った。子どもにとっても地域の学生等とふれあう機会は育つ中で大切な

ことであるため、近隣学生の育成も含め今後も積極的な受け入れを継続する。

〈2〉実習生の受入

今年度の受入れはなし

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
9月5日～10月31日	横浜市立上の宮中学校	116人

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	19日 17名	17日 17名	21日 19名	19日 20名	15日 19名	20日 18名	18日 18名	15日 18名	20日 18名	17日 17名	21日 19名	21日 19名
スタッフ企画研修	19日 17名	17日 17名	21日 19名	19日 20名	15日 19名	20日 18名	18日 18名	15日 18名	20日 18名	17日 17名	21日 19名	21日 19名

〈2〉外部研修への出席

出席なし

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	19日 1名	21日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	27日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	10月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認

をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

地域交流、世代間交流、異年齢交流等により、子どものコミュニケーション力の向上や実体験による環境への適応能力向上のため、様々な地域交流を推進した。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：馬場七丁目公園にて　　参加延べ人数：56名
商店街ツアー	週1回　主な行き先：丸高製麺、東横製畳、宇井酒店、三次青果店、宮本クリーニング、向谷交番、犬と猫のパルケ、セブンイレブン、メガネストア、北寺尾消防署、岸谷消防出張所、永島園芸、フジスーパー等
世代間交流	年間を通して月１回地域ケアプラザにてシニア交流を実施
異年齢交流	9月5日・12日・26日・10月10日・17日・31日に赤門公園等にて上の宮中学校交流を実施
その他活動	8月3日にみゆき商店街にて夏祭りを実施 10月29日に地域子育て支援施設キッチュとのコラボ：ハロウィンを実施 12月21日にみゆき商店街にてクリスマス会を実施
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉　実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

馬場小学校を中心に交流を実施する。
小学校に対し卒園児の引き継ぎ、及び保育要録の作成、提出することで子どもの成長や発育を共有し、また小学校と５歳児交流を積極的に行った。小学校教諭との情報交換の機会を作ることで、子どもの成長を連続的に見通し、保育と教育の垣根を無くして育ちにつなげることを目指した。今後は新たに小学校教諭・保育者・保護者の集う会を行い、それぞれの立場で子どもについて語り学び合う機会を設けていく。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
7月6日	馬場小学校 上寺尾小学校 旭小学校 菊名小学校	12名	どろんこ祭り（本園）	子ども間交流
1月30日	馬場小学校	13名	馬場どろんこ保育園	職員間交流
2月27日	馬場小学校 1年1組・1年4組	13名	授業見学（馬場小校内）	子ども間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

半期に一度、個別支援計画の作成見直しを行い、ケース会議にて共有。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・４～３月に計１２回開催　参加者：１７名

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

学校生活の質が高められるよう、保幼小連絡会・保育要録・個別の申し送りを実施した。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
33名	56名	125名	560名	47名	196名	223名	158名	151名	33名	59名	50名	1691名

実施項目	詳細
園開放	（月）～（金）9:30～16:30　にて実施　　来園延べ人数：12名
子育て相談	（月）～（金）13:00～16:30
自然食堂 親子ランチ	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計12回実施済み 参加者延べ人数

交流	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	2名	4名	4名	9名	2名	12名	2名	6名	12名	11名	14名	10名	55名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計9回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	4名	0名	0名	0名	2名	4名	4名	4名	11名	7名	7名	4名	47名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00　にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっぐだより	毎月1日発行												
青空保育（支援センター主催）	月1回　　公園名：馬場七丁目公園にて　以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	20名	0名	0名	0名	0名	36名	0名	0名	8名	0名	64名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２５年1月３1日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：13時30分
自己評価終了時刻：14時30分
自己評価実施者：施設長、主任、リーダー

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月２５日
アンケート回収率：１００％

NPS は昨年度より大幅に向上した。保護者満足度向上に向けた取り組みの成果と考える。お迎え対応研修の実施やお迎え対応チェックリストの活用等により、保護者との円滑なコミュニケーションが図られたこと、また保育の見える化を進めたことで、安心感や信頼感が高まったことが要因と考えられる。次年度も継続的な改善を行い、より良い保育環境の提供に努めていく。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見　０件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきご意見　０件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：馬場どろんこ保育園 施設長　田中 三樹子

２０２４年度　読売ランド前どろんこ保育園事業報告書
（保育所における自己評価）

Ⅰ．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

開園5年目、今年度も一つひとつの活動にこだわり、一人ひとりの心を大切にしていくことを目標にしてきた。
全ての事、モノに教育的意図を持ち、一人ひとりの最善の利益を常に追求し続け、徹底的に質の向上に努めるという点では、毎月各学年3時間かけて、子どもの姿を共有し合い、次月の姿を描き、必要な活動を考察する会議を行ってきた。それによって子どもが主体的にチャレンジする姿が増えてきたと感じる。
　また、今年度は地域の方にたくさん来ていただく機会を意識して設けたことで、地域の方々と連携し、地域全体で地域の子どもたちを育てていくための土台作りはできたと感じる。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	「生きる力を育む」ために、質の高い日課・基本保育活動を実施する。 ≪生活の体得≫
	実践結果	系列園のスタッフが OJT 研修に多く来たことで、意見交換をしたり、アドバイスをしあったりして高め合うことができた。
	次年度方向性	次年度は交換研修を積極的に行うことで、自園の強み、弱みを知り、ステップアップしていく。
2	計画・ねらい	守る･矯正する保育ではなく、子ども自らの意思やタイミングで経験を選び取るための物的環境を徹底的に研究する。
	実践結果	子どもの姿をよく観察することで、今子どもが何に興味を持っているのか、誰が遊び込めているのかを見極め、守る･矯正する保育ではなく、子ども自らの意思やタイミングで経験を選び取るための物的環境を提供することにこだわってきた。
	次年度方向性	子どもの姿を観察し、遊び込める環境は考察できたが、整った環境を継続できなかったので、即片付け、即設置する習慣を作る。
3	計画・ねらい	小学校1年生を見て理解し、逆算した保育を遂行する。
	実践結果	子育ての質を上げる会議で年間通して「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」（保育所保育指針解説）を学んだ。
	次年度方向性	園会議にて園全体でディスカッションすることで意識は高まったが、会議の時期が月末で翌月の計画に入れ込むことが難しかったので次年度は園会議を早めに行う。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者の立場に立ち、感謝の気持ちや思いやりを忘れず、誠実さ、謙虚さを忘れず、保護者の心に入り込んだ接遇をする。

	実践結果	・誰が対応しても同じ内容でお答えできるようロールプレイング研修を行う。スタッフの情報共有のためにチャットを使用し、全スタッフが共有する仕組みを作った。
	次年度方向性	次年度も新しいスタッフが多いので、個々に合わせた対応が丁寧にできるよう共有しあっていく。
2	計画・ねらい	子どもの成長を共に悩み、共に喜び合える関係性をつくる。
	実践結果	・できるようになったことだけではなく、日々何かに向かって努力する姿や葛藤する姿を伝えたり、家での様子も共有したりすることで、子どもが自ら育つ最善の環境を一緒に考え合える関係性を作った。 ・日頃から子育ての悩みを打ち明けやすい関係作りを心掛けた。
	次年度方向性	小さな成長もスタッフ同士、保護者と共有し、喜び合える仕組みを作る。
3	計画・ねらい	子育てのヒントを提供しつつ、園の方針を理解していただく。
	実践結果	・保護者懇談会実施　年2回（6月・11月） ・保育参加、個人面談　随時 ・地域公開講座「子どもにとって表現とは？」9月
	次年度方向性	次年度も園の保育を体験できるような行事を計画的に入れていく。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域に認められ、地域に選ばれ、地域に必要な保育園となる。
	実践結果	①地域参加大型行事を年3回開催 （どろんこ祭り、ダイナミックアート、お餅つき会） ・保育体験（自然食堂、自然学校、芸術学校、青空保育） ②地域公開講座の開催 「子どもの表現とは」「食べる意欲を育む」 ③保育所施設及び設備の開放 ・園内、園庭解放 ④子育てに困難を感じている方への支援 ・子育て等に関する相談や援助（子育て相談、寺親屋） ・交流の場の提供、交流の促進（青空保育） ・情報の提供（地域の子育て支援拠点の紹介） ⑤どろんこ保育園を知っていただく広報活動 ・子育て支援イベントのチラシ配布 ・多摩区広報誌「たまっこカレンダー」に月の予定を掲載
	次年度方向性	今後は、知っていただくだけではなく、地域のニーズにこたえられる園となるように努力していく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	大人のにんげんカ up　～考え、学び、動く、自立した集団となる～
	実践結果	園のあらゆる課題を自分事と捉えられるように小さなことでも組織で話し合い、即解決する仕組みを作ってきた。
	次年度方向性	まだまだ目先のことにとらわれ、先の見通しをもった解決ができていないことも多いので、優先順位を決めて計画的に改善する仕組みを作る。
2	計画・ねらい	全てのコト、モノに教育的意図を持ち、一人ひとりの最善の利益を常に追求し続け、徹底的に質の向上に努める。
	実践結果	【環境会議】子どもを観察しながら、環境を変えていくことで子どもの変化を感じ、考えることが楽しくなってきた。 【月案立案会議】一人ひとりの子どもの発達段階を丁寧に確認し、必要な活動、環境を深く考察することができた。
	次年度方向性	新入社員も入るので、丁寧に行っていく。
3	計画・ねらい	園内研修の講師となり、学びをさらに深める。
	実践結果	・園長大学®保育士大学を視聴ができなかったが、個々で受けたキャリアアップ研修を共有し学び合うことはできた。
	次年度方向性	園長大学®保育士大学を計画的、組織的に学ぶ仕組みを作る。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	畑の改良
	実践結果	何度か掘り起こしたが、土の硬さが改善できなかった。
	次年度方向性	研修を受け、全スタッフで次年度力を入れる項目として取り組む。
2	計画・ねらい	ゴミの削減
	実践結果	・自作のコンポストで、落ち葉、ヤギの糞を堆肥にしたが、うまく活用できなかった。
	次年度方向性	コンポストのたい肥を畑に使用する仕組みを作る。
3	計画・ねらい	園庭の緑化
	実践結果	実現できず。
	次年度方向性	４月に園庭の土を掘り起こし、クローバーの種を蒔く。

〈6〉他者との協働の中で互いに思いや考えを共有し、共通の目的を実現する活動実践

1	計画・ねらい	子ども同士がグループで話し合い、役割を分担し、一つのモノ・成果物・ルールなどを創り上げる活動を実践する。
	実践結果	幼児は毎日サークルタイムを行い、園の課題を話し合うことができた。 ケンカをした際に自分たちでピーステーブルに行き、納得いくまで話し合うことができた。
	次年度方向性	子ども同士で話し合う文化を継続していく。

〈7〉インクルーシブ保育の実践

1	計画・ねらい	全ての子どもを分け隔てなく、全てのスタッフで観る。
	実践結果	・在園児だけでなく、系列の発達支援施設の子どもたちとの交流を通して、様々な人がいることを知る機会を持つことができた。 ・大人がやってあげるのではなく、その子の能力に合わせて仲間同士で支え合い、助け合いながら生きていく術を見つけられるような援助をしていくことで、子どもたち同士が自然と助け合う姿が見られた。
	次年度方向性	発達支援つむぎ 生田ルームと連携し、専門士との意見交換を行う中で個々の最善を探っていく。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半：~9月	35人	72人	90人	120人	120人	118人	555人
年度後半：10~3月	36人	72人	90人	120人	120人	120人	558人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	14人	15人	17人	17人	16人	15人	12人	13人	15人	15人	15人	16人	180人
うち0歳児	1人	1人	1人	1人	1人	1人	0人	1人	2人	2人	1人	2人	14人

〈2〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

常勤スタッフ	保育士	13人	栄養士	1人	調理士	1人		
パートスタッフ	保育士	4人	栄養士	1人	事務	1人	用務	1人

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー　・園内研修 ・保育の質向上に関わる勉強会
給食運営会議	月1回	食育計画振り返り、献立の振り返り、食環境改善議案
事故防止委員会	月1回	自園及び系列園で起きた事故のケーススタディ 前月のヒヤリハット、インシデント分析
ケース会議	月1回	要支援児個別計画の振り返り、次月計画の見直し
子育て支援会議	月1回	子育て支援活動の振り返り、参加者・人数の分析
リーダー会議	月1回	園の課題を抽出し、解決策を検討

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
食育会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長
主任会議	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士
併設園会議	年2回	施設長

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	子ども及びスタッフの健康保持のために、施設内外の環境の維持向上に努める
安全対策係	施設内外の設備及び用具の安全管理、点検
防火管理者	災害を想定した訓練計画や消防設備点検、避難経路の確保と点検

食品衛生管理係	給食衛生管理マニュアルに基づいた対応
畑係	年間を通した食育計画案の作成と実施。畑の管理。
生き物係	命の尊さや自然事象への関心を広める機会を設定

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	どろんこ祭りの企画・運営とどろんこサポーターズとの連携
地域子育て支援担当	子育て支援事業の計画、実行、広報活動

4. 保育支援

〈ｌ〉保育･保育参加･保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

乳児保育	0～2歳児	後半、参加率が上がりその都度面談をすることで子どもの成長を喜び合うことができた。
幼児保育	3～5歳児	子ども同士の言葉のコミュニケーションエラーで不安に感じる保護者が多かったが、保育参加することで一方的なものではなく、相手の気持ちを知るうえで必要な事であることに気付けたというご意見が多かった。
保育参加	4～3月	4～3月まで　合計ｌ7名　が参加済み　　（3月ｌ日時点） 希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談および発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉計画した年間行事の振返り

・別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	健康な心と体を育むために、体を使う遊びを十分に行い、お腹を空かせ食欲をかきたてる。
	実践結果	0～2歳は11:15、3～5歳児は11:45までめいっぱい戸外で身体を動かして遊び、お腹をすかせて食事をとることを大切にした。
	次年度方向性	継続していく。
2	計画・ねらい	食事とはコミュニケーションである。好きな人と食べるからこそ楽しく美味しいのである。好きな場所で好きな友達と好きな時に食べる。
	実践結果	食べる場所、人、時間は自分で選択できるようにした。
	次年度方向性	大人の都合で制限しないようにする。
3	計画・ねらい	畑で野菜を栽培することで、旬の素材に気づき、食に興味を持つ。
	実践結果	畑仕事を日課としてやってきたが、土が固く十分な収穫ができなかった。
	次年度方向性	次年度は、畑の土壌改良に力を入れ、畑仕事を充実させていく。
4	計画・ねらい	食材・食の循環を認知する直接体験を行う。
	実践結果	魚の解体、鶏の採卵。
	次年度方向性	2 年連続で鶏絞めを行うことで、子どもたちの中ではそれほど動揺することなく、自然の営みであるという認識の子も増えてきた。次年度は生きた魚をさばくことで様々な命を学ぶ機会としたい。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	０・１歳児　年６回隔月　/　２～５歳児　年３回
歯科検診	年１回（６月）
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	手洗い指導、歯磨き指導、水分補給とは
流行した感染症	① 1月にインフルエンザ、園児8名感染報告有り。２月３日に終息
発作・痙攣等の対応	特になし

エピペン使用できるスタッフの状況	・３月１７日にエピペン研修を頓宮英樹、深沢弥生、土井理恵、松島史織、田地川憲子、小久保雅治、計６名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ22名のうち、22名が使用可能
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（法定1回/3年）	業者による対象物の法定点検 2023年実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日　なし
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日　なし
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日　なし
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月 ⇒4月1日、10月1日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日　実施済み
	児童健康診断	内科健診　０・１歳児　年６回隔月 ２～５歳児　年２回 歯科健診 各年1回／6月3日に実施
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時 ⇒4月25日、10月24日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間　実施済み

	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	一人ひとりに合った教育的意図を持った環境構成(室内・戸外)を考察し続ける。
	実践結果	子どもにとって最適な環境設定を行うために月1回保育 Web マップを用いて、子どもの興味・関心を理解するための会議を行った。
	次年度方向性	次年度も子どもの姿を観察しながらその都度、環境を変えていく。
2	計画・ねらい	防犯、防災、怪我防止の視点での事故防止チェック、設備点検を定期的に行い、破損等は速やかに修繕する。
	実践結果	様々な視点で点検できるように設備点検・事故防止チェックを交代で行った。
	次年度方向性	開園6年目になり、破損個所も出てきたので、補修計画をたてていく。
3	計画・ねらい	保護者、来訪者が見ても気持ちの良い環境を維持する。
	実践結果	清掃分担チェック表を利用し、園全体の清掃は意識したが、細かい部分での清掃ができていなかった。
	次年度方向性	同じ人が清掃していたり、決められた時間しか清掃できていないので、日々生活する中で即片付け、即清掃する習慣を作る。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	ロープ	幼児室	毎朝	異常なし
2	制作ワゴン	幼児室	毎朝	異常なし
3	パーテーション	幼児室	毎朝	異常なし
4	鶏小屋	園庭	毎朝	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	防災	消防計画に基づき自衛消防隊を編成し避難訓練を毎日15日に行った。また、法人専用の「うちのこアプリ」にて災害時緊急連絡を使用し、園が情報を発信安否・施設状況・避難先を情報共有した。
2	事故・怪我防止	・事故防止チェックを年4回、設備点検を年6回行い、ケガ事故防止につとめたが、転倒時に手が出ず、口をぶつけてしまう怪我が多かった。 ・インシデント・ヒヤリハット報告書の運用を徹底し、事故防止委員会で検証をしっかり行うことで事故を検証した。

		・全園事故防止委員会を毎月1回行い、同グループ内で状況を共有し、事故防止策をたてた。
3	防犯	年2回不審者侵入訓練を実施した。また、訓練は避難経路確保・不審者撃退・通報の訓練で全スタッフを対象として行った。
4	光化学スモッグ	光化学スモッグが発生しやすい気象条件・影響を把握した。光化学スモック注意報の発令があった場合は内容にあった看板・貼紙等を提示した。
5	里山管理	年に3回里山整備を行い、危険個所や危険植物の確認や撤去を行った。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

・中高生の保育園体験などの積極的受け入れ、異世代交流の機会を積極的に設けた。
・大学、専門学校の依頼による保育実習の積極的受け入れ、保育の仕事の素晴らしさを伝えられるように年齢の近い若手スタッフとの交流を大切にした。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
5月13日～24日	横浜こども専門学校こども総合学科	1人	責任実習
6月11日～8月20日	國學院大學人間開発学部子ども支援学科	1人	観察実習
8月19日～20日	帝京大学	1人	保育ボランティア
8月13日～26日	日本児童教育専門学校	1人	責任実習
8月26日～9月7日	日本児童教育専門学校	1人	責任実習
10月28日・30日	川崎市紹介　社会人受け入れ	2人	保育ボランティア
2月3日～7日	東京家政大学現代生活学部食物学科	1人	調理実習
2月6日～21日	田園調布大学子ども未来学部子ども未来学科	2人	保育実習

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
11月2日	台湾高等学校	18人
11月14日	川崎市立西生田中学校	7人

7．スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	25日 22名	17日 21名	27日 18名	25日 19名	25日 18名	26日 20名	24日 22名	28日 22名	26日 23名	30日 24名	28日 24名	17日 23名

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
6月10日～17日	川崎市こども未来局	川崎市保育所等スタッフ研修「幼保小連携」	1名	有
6月13日	川崎市こども未来局	多摩区幼保小連携実務者連絡会	1名	有
6月18日	川崎市こども未来局	多摩区公私立栄養士連携連絡会研修	1名	有
6月21日	川崎市こども未来局	食品衛生研修会「食品衛生と衛生管理について」	1名	有
8月29日 9月19日	川崎西部地域療育センター	地域療育講座研修	2名	有
9月24日～10月1日	川崎市こども未来局	川崎市保育所等スタッフ研修「主任・リーダー研修」	1名	有
10月10日～11月28日	川崎市こども未来局	川崎市保育士キャリアアップ研修「乳児保育」		有
10月30日	川崎市こども未来局	川崎市給食担当者実技研修		有
11月25日～1月31日	川崎市こども未来局	川崎市保育士キャリアアップ研修 「保健衛生・安全対策」		有
11月28日～2月25日	川崎市こども未来局	川崎市保育士キャリアアップ研修 「食育・アレルギー対応」		有
1月21日	川崎市こども未来局	給食担当者研修会 「児童福祉施設等における食事の提供ガイド」		有
1月29日	川崎市こども未来局	多摩区公開保育付スタッフ交流研修		有

1月27日～ 2月３日	川崎市こども未来局	川崎市保育所等スタッフ研修 「アレルギーとエピペンの理解と対応」		有

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 （子育ての質を上げる会議）	17日 2名	15日 2名	27日 2名	18日 2名	21日 2名	19日 2名	16日 2名	21日 2名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
施設長勉強会	15日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	11月15日～12月18日動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	該当者なし											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年１回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

〈5〉スタッフ個人別研修計画

個々のキャリアプランを意識し、今年度の個人 MBO を決定したことで、スタッフ一人ひとりが得意分野を発揮し、成果を出すことができた。

分野別リーダーを任命したことで個々が学ぶべきことも明確であった。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

積極的に地域と関わっていくことを通して、園の存在を理解していただくと共に、地域で子どもたちの成長や安全を見守っていただけるようにしていった。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：寺尾台第1公園にて　参加延べ人数：1名

商店街ツアー	週1回　主な行き先：café ゆいーと、すき家、アークベーカリー、日高屋、不思議なかき氷、栗谷出張所、セブンイレブン、コインランドリー洗王、アールワン、ENEOS、読売ランド駅前交番，ドリームファーマシー、さぼてん、大関青果店、丸庵、日本女子大、横浜銀行、京樽、イトマン、けやき歯科、ニマイバシ、小田急 OX、読売ランド前駅郵便局等
世代間交流	5月13日・2月17日にブランシェール星が丘（老人ホーム）訪問、地域高齢者とのシニア交流を実施
異年齢交流	10月5日に西生田小学校にて運動会で合同競技を実施
その他活動	1月10日に錦が丘南公園にてクリーン活動を実施
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉　実施

9. 小学校との子ども間交流・スタッフ間交流

〈1〉今年度の振り返り

川崎市の方針に基づき、近隣保育園との年長児交流や情報交換、また小学校を知るための取り組みを積極的に行った。「５歳児と小学校１年生との年間連携計画」に沿って子ども間、スタッフ間の交流を深め、実態を知る。またアプローチカリキュラムを保育計画に取り込み、小学校への接続がスムーズになるような学びに向かう準備を行った。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
4月18日	多摩区役所	1名	園長・校長連絡会	スタッフ間交流
6月13日	多摩区役所	1名	実務担当者連絡会	スタッフ間交流
10月31日	西生田小学校	1名	授業参観・情報共有会	スタッフ間交流
12月10日	小学館西生田アカデミー	35名	年長児交流会（読売ランド前どろんこ保育園）	子ども間交流
1月29日	多摩区役所	1名	実務担当者連絡会	スタッフ間交流
2月26日	西生田小学校	22名	小学校見学・近隣園	子ども間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

対象児童の様子に合わせて、年に2回以上計画をたてた。
月1回のケース会議で振返りとスタッフ間の共有を行い、見直していった。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・４～３月に計１２回開催　参加者：4名
　個別支援計画の振り返りと次月計画の確認
　スタッフ間で計画と支援方法の共有

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

小学校の引継ぎは児童指導要録、また各校の担当スタッフとの面談によって行った。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
616名	495名	645名	588名	522名	590名	508名	561名	598名	449名	520名	520名	6612名

<table>
<tr><th>実施項目</th><th colspan="13">詳細</th></tr>
<tr><td>園開放</td><td colspan="13">（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　　来園延べ人数：6612名</td></tr>
<tr><td>子育て相談</td><td colspan="13">（月）～（土）13:00～16:30　　⇒計６件相談実施済み</td></tr>
<tr><td rowspan="3">自然食堂
親子ランチ
交流</td><td colspan="13">毎週（水）10:00～12:00　　⇒計7回実施済み
参加者延べ人数</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>2名</td><td>4名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>6名</td><td>0名</td><td>4名</td><td>6名</td><td>0名</td><td>4名</td><td>0名</td><td>2名</td><td>28名</td></tr>
<tr><td rowspan="3">どろんこ
芸術学校
どろんこ
自然学校</td><td colspan="13">毎週（水）10:00～12:00　　⇒計7回実施済み
参加者延べ人数</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>4名</td><td>0名</td><td>16名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>9名</td><td>86名</td><td>26名</td><td>14名</td><td>0名</td><td>2名</td><td>0名</td><td>157名</td></tr>
<tr><td>勝手籠設置</td><td colspan="13">（月）～（土）7:00～20:00　にて実施
門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置</td></tr>
<tr><td>ちきんえっぐだより</td><td colspan="13">毎月1日発行</td></tr>
<tr><td>青空保育</td><td colspan="13">月1回　　公園名：寺尾台第一公園にて　以下日程にて実施</td></tr>
</table>

（支援センター主催）	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２４年５月１７日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：９時００分
自己評価終了時刻：１６時００分
自己評価実施者：平塚有未・堤栞里

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月２５日
アンケート回収率：83%

（省察）スタッフによって対応が様々で同じ対応ができていないので、保護者の気持ちに寄り添った対応をするための園内研修を行った。また繁忙期になるとスタッフ間の情報共有がうまくできないことが課題なので、仕組みを変えた。
子どもの気持ちに寄り添うことを大切にしてきたが、まだ保育計画に沿うことを重視して柔軟性に欠ける場面があったので子どもの人権チェックを年２回行った。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈２〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む）　０件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：読売ランド前どろんこ保育園 施設長　松久保　陽子

２０２４年度　守谷どろんこ保育園　事業報告書
（保育所における自己評価）

１．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

協働というテーマのもと、園と保護者が子どもの環境や機会を創り上げていく。これに関しては成果が大きく積みあがった。保育参加や行事の開催に当たり、常に対話を大切に進めていくことで色々な方の想いやアイデアを聞くことができた。今後も継続していきたい。
また、園運営方針については方向性を見失わず、新たなチャレンジをしていくことができた。次年度以降は変えていく部分と、維持する部分を明確にし、ブラッシュアップしていく必要があると感じる。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

１	計画・ねらい	どろんこ会の基本保育活動と日課の理解を深める。
	実践結果	基本保育活動や日課は日々進めていくことはできたが、深め続けることには課題が残った。どろんこライフ（生活発表会）では年度の集大成として法人の定める6つの力をメインテーマとして良い形で開催することができた。
	次年度方向性	日課や自分たちの保育に保育者がこだわりを持ち、子どもに教えるのでなく一緒に考えていくことを繰り返していく。
２	計画・ねらい	異年齢・インクルーシブ保育を軸に子どもの意志を育てる。
	実践結果	インクルーシブを特別なことやメソッドとしてではなく、自分たちの日常として保護者含め進めてきた。
	次年度方向性	保育の手法でなく、保育の精神として育ち合うということが当たり前の園創りを継続していく。
３	計画・ねらい	保育研究の発信を行う。
	実践結果	①「いばらき保育の魅力コンテスト」茨城県福祉部子ども政策局子ども未来課　②「食育コンテスト」NPO 法人　幼年教育・子育て支援推進機構　2つの外部機関のコンテストにチャレンジした。
	次年度方向性	今年度トライできたことをベースにして、外部機関への発信を継続していく。

〈２〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

１	計画・ねらい	お迎え対応の質向上。

	実践結果	対応フォーマットの明示。園内研修とロールプレイ、OJT 実施。
	次年度方向性	新入職員中心にトレーニングを繰り返し、園全体の支援の質を高めていく。
2	計画・ねらい	共育ちの実現。
	実践結果	個人面談や保育参加など保護者との対話の機会を大切にしてきた。結果として前年度比で大幅に増加した。
	次年度方向性	保護者が対話したい、一緒に子育てしてもらいたい。その関係性を築けるコミュニケーションをしていく。
3	計画・ねらい	保護者間コミュニティの形成。
	実践結果	定例開催の美化活動に加え、0.1歳児の交流を目的としたアクションとして「入園歓迎流しそうめん」「あわ組ひえ組茶話会」と2回開催できた。
	次年度方向性	保護者サポーターズが大所帯となっていったとき、その外側にいる保護者をターゲットとして巻き込む方法を考えていく。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	子育て支援センターちきんえっぐとして、利用者を増やす。
	実践結果	様々な集客アプローチで昨対比130%超の利用率となった。
	次年度方向性	利用者を増やすことと同時に、地域活動への積極的関与を進めていきたい。
2	計画・ねらい	子育て相談の積極的受け入れ。
	実践結果	アプローチはしたが、数件の依頼に留まった。
	次年度方向性	子育ての安心基地として「子育て相談」を受けられるように関係を深めていく。
3	計画・ねらい	地域力を取り込む。
	実践結果	近隣園の視察に行きアイデアを広げたり、陶芸講師、ベビーマッサージ講師を呼んでの企画が出来たりと新たなアクションにつなげられた。
	次年度方向性	地域の力を活用することで、参加者が地域と結びつくきっかけを作っていく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	リーダー会議でのリーダーシップ・マネジメント力の向上。
	実践結果	ワークやディスカッションにより、リーダー層の育成を行ってきた。結果として施設長や主任、食育プランナーへの登用につなげることが出来た。
	次年度方向性	次期リーダーが新たにキャリアアップできるよう、役割を渡しながら自己成長につなげていく。
2	計画・ねらい	メンバー育成におけるリーダーの関与。
	実践結果	リーダーによる1on1の実施で、目標に対して年間で伴走することが出来た。しかし多くが現状確認に留まっていた。
	次年度方向性	リーダー層は、目標にチームマネジメントやメンバー育成を据えるようにし、メンバーへの主体的関与を促していく。
3	計画・ねらい	新卒研修の開催。
	実践結果	新卒は入職がなかったが、中途入職職員に対し年間3回の研修を実施できた。
	次年度方向性	次年度は新卒職員含め新規入職の職員が決まっているので、戦力化していかれるよう丁寧に関わっていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	伐採した樹木の活用。
	実践結果	枯れた樹木6本を伐採した。大きいものに関しては園庭遊びや冬場の薪としての利用につなげた。
	次年度方向性	今後も伐採の際は、切って終わりにならないよう自然の資源として扱っていく。
2	計画・ねらい	木陰で遊べる環境づくり。
	実践結果	今夏も気温が高かったが、園庭の自然環境を活かしながら活動を継続していくことが出来た。
	次年度方向性	樹木を適宜剪定等していくことで、より健康な状態を維持できるように定期的に巡視していく。
3	計画・ねらい	堆肥作成と畑での活用。
	実践結果	堆肥場やコンポストを使い、野菜や花の栽培に活用した。またこの取り組みを外部機関のコンテストや園行事で発信することができた。
	次年度方向性	自然のサイクルを子どもと体験できるよう、意識を持ちながら実践につなげていく。

〈6〉チーム保育

I	計画・ねらい	担当スイッチ。
	実践結果	年度末に向けて、クラス担任だけの保育にならぬよう職員のスイッチを行った。
	次年度方向性	頻度が低かったので、年間通して行えるよう定期的に機会を計画する。
2	計画・ねらい	同僚性強化。
	実践結果	職員の子ども観を対話により理解し合えるように、会議を最小限にすることで時間をつくったり、ドキュメンテーションなどの発信機会を増やしたりした。
	次年度方向性	各自が子ども一人ひとりについて知ることを継続し、その子ども観を職員間で交わせるように機会をつくっていく。
3	計画・ねらい	チーム保育の理論を学ぶ。
	実践結果	今年度はリーダーがチームの定義やチーム力を上げるためのメンバーのエンゲージメント向上について注力してきた。結果としてメンバーのチームに対する想いが強まった。
	次年度方向性	各個人の持つ資質を掛け合わせることで園のマネジメントがさらに機能していくようにさらに相互理解や組織効力感を高めていく。

〈7〉主体的な相互の学び

I	計画・ねらい	園内研修の活性化。
	実践結果	年間計画は全て実施。加えて様々な課題に対し職員から研修をしたいと声が上がり実施してきた。
	次年度方向性	研修を受けるだけでなく、開催するメンバーを増やすことで課題解決や研鑽機会の主体となれる職員を増やす。
2	計画・ねらい	自主研修の開催。
	実践結果	環境再構成やケース検討、さくらさくらんぼリズム、ロールプレイなど課題抽出と同時に、みんなで高め合う取り組みができたことは大きな一歩だった。
	次年度方向性	やらされる研修でなく、自分たちにとって必要なものを見つけ、学び高め合う研修で総合力が高まるよう継続していく。
3	計画・ねらい	自分たちの保育を法人外へ発信。
	実践結果	「いばらき保育の魅力コンテスト」茨城県福祉部子ども政策局子ども未来課　「食育コンテスト」NPO 法人　幼年教育・子育て支援推進機構

		2つの外部機関のコンテストにチャレンジした。
	次年度方向性	ただやる保育でなく、他者へ可視化することと届けていくことは保育の専門性の一部という理念をもって進めていく。

〈8〉どろんこサポーターズ（保護者）との協働

1	計画・ねらい	協働での環境整備。
	実践結果	美化活動の参加者は11月開催が88名。2月開催が97名。年間二回の開催が盛大に行うことができた。
	次年度方向性	子どもにとってはもちろんだが、保護者にとっても自分たちの園と捉えてもらえるよう、同様の機会を継続させていきたい。
2	計画・ねらい	サポーターズからの参画を実現。
	実践結果	定番の美化活動に加え「歓迎流しそうめん」と「あわ組・ひえ組茶話会」という新しい企画も実現してもらうことができた。
	次年度方向性	保護者も共主体となれる文化を引き続き濃く引き継いでいく。
3	計画・ねらい	園の保育・サポーターズ活動の可視化。
	実践結果	活動毎のレポートに加え、どろんこライフ（生活発表会）では掲示物、スライドショー、専用サイトの紹介など開園4年間の成果を発表した。
	次年度方向性	活動を積み上げつつ、単年で考えず、中期・長期の視点で資料の蓄積や可視化を継続していく

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半：4~9月	13人	15人	15人	15人	15人	15人	88人
年度後半：10~3月	15人	15人	15人	15人	15人	15人	90人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	104人	81人	92人	100人	89人	107人	80人	176人	96人	160人	108人	108人	1301人
うち0歳児	1人	0人	5人	8人	7人	10人	21人	44人	15人	44人	15人	15人	185人

〈2〉開所時間

7時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

常勤スタッフ	施設長	1人	主任	1人	保育士	12人	栄養士	2人
パートスタッフ	保育士	3人	補助	1人	栄養士	1人	事務	1人
	用務	1人	看護師	1人	嘱託医	2人		

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・園内研修や、園全般を議論する決定会議
給食運営会議	月1回	・チームとして子どもの食環境をどのようにデザインするかを検討する。
事故防止委員会	月1回	・園内で発生した、インシデント・ヒヤリハットをもとに再発防止を検討する。
ケース会議	月1回	・要支援児と気になる児等について、ケース検討などを行う。

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
食育会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長
主任会議	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	園内の保健面の情報集約と発信、清掃や消毒などについて担当してきた。業務の範囲を広げ自走していく必要がある。
安全対策係	避難訓練や危機管理のカテゴリを担当してきた。毎月の避難訓練や不審者侵入訓練は行ってきたが、現状に課題を見つけ未然に対策する動きが今後の課題となった。
防火管理者	年間の避難訓練の運営管理を行った。訓練を実践につながるよう適宜取り組んできた。
食品衛生管理係	給食全般の運営管理を行ってきた。通常業務に加え食品残渣や子どもの嗜好や食育体験の発信なども大きな成果を上げた。
畑係	栽培や収穫は年間通して行ってきたが、一定の子どもと職員で進めてきた形になってしまった。今後はそれを広げていくことが必要。
生き物係	年間通して大切に世話をしてきた。途中近隣から鶏を譲り受けるなどの動きもあったが対応できた。命を扱う担当として、周囲にこの意図と意義を発信していくことが不足した。

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭りチーム	サポーターズや地域とも協働しながら、守谷どろんこ保育園らしい行事となるよう創り上げた。前年踏襲となることなく主催と参加者が一体となる祭りとなった。
モリンピックチーム	運動発達の表現の機会として設計した。子どもの運動機能と異年齢や選択制という専門性の部分を掛け合わせることに関しては、検討の余地があった。
どろんこライフチーム	内容としては他園が参考にするほどの精度で当日を迎えた。子どもの成長をもとに職員の考えや想いを乗せて保護者へ届けることが出来た。課題としては担当が多くを背負いすぎてしまう。一方、分業するとそれぞれの意図や進捗が共有しづらい。これらのバランスが必要と明確になった。

4. 保育支援

〈1〉保育･保育参加･保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	・乳児や未満児は特に丁寧さをテーマに保育を進めてきた。直接的な接し方はレベルが上がったが、環境設定や想いの部分はまだ改善の余地がある。 ・異年齢保育については関わりの機会は多く持てたが、生活の中でもっと自然な形で関わり合える機会や仕組みをつくっていきたい。 ・子どもの意志の表明に対しては受容しながら対話的に保育を進めていくことができた。 ・下期は職員数も関連し、合同保育となったので、次年度は選択制異年齢保育を進めていく。
保育参加	4～3月まで　合計４３名　が参加済み　　（3月1日時点） ・前年度に比べて約2倍に増加見込み。懇談会やどろんこライフ（生活発表会）では保育参加の紹介ブースを設け、保護者間で対話の機会になっていたことが功を奏した。
保護者面談および発達相談	4～3月まで　合計61件　実施済み　　（3月1日時点） ・各クラスで保護者面談月間を設けた。（8月1・2歳児、9月3・4歳児、12月5歳児、1月0歳児）希望者のみの面談であったが、5歳児クラスからは全員が面談実施となった。逆に0歳児は希望者が少なく、日頃から相談の多いご家庭に対して、個別に面談を促す形となった。

〈2〉計画した年間行事の振返り

・別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	食育プロジェクト実践力強化
	実践結果	園内研修を定期的に実施し、チームのメンバーだけでなく全職員を巻き込んで食事環境の改良を重ねることができた。
	次年度方向性	保護者への情報共有が薄かったため、次年度は保護者面談や保育参加を通じて発信の機会を増やしていく。
2	計画・ねらい	食への取り組みの家庭への発信と協働
	実践結果	家庭での食事の様子や使用している食具の聞き取りを行い、個々に合わせたアプローチへと繋げることができた。
	次年度方向性	食事マナーだけに限らず、孤食問題や楽しい食事空間なども加えて発信し、寄り添い型のアプローチを行っていきたい。
3	計画・ねらい	命をいただく活動で労働～食の循環を学ぶ
	実践結果	自分でできることは自分で行う、ということを大切にし、畑活動やコンポスト作りを通して食の循環を学ぶきっかけとなった。その場限りの活動ではなく、持続性のある活動を維持していく難しさを大人も一緒に学ぶことができた。
	次年度方向性	食の循環を通して、環境への意識を身につけていきたい。残渣や鶏の糞を使用した堆肥作りや、畑活動を日常的に行い自然の恵みや命の大切さに気付く取り組みを行っていく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	7月17日／11月27日に実施
歯科検診	6月3日に園内にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）

その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① ５月に「手洗い指導」を実施 ② ６月に「歯みがき指導」を実施 ③ ８月に「境界線と同意」を実施 ④ １１月に「体の名称と部位、体スキャン、男女の体」を実施 ⑤ １２月に「妊娠の成立、胎児の成長」を実施 ⑥ １月に「 感情の取り扱い、心の健康」を実施
その他実施した職員・保護者への保健指導、又は、取組等	① 4月に「包括的性教育」を実施 ② 7月に「プライベートゾーン」を実施 ③ 8月に「 境界線と同意」を実施 ④ １０月に「 ジェンダー平等」を実施 ⑤ １０月・１１月に「 トイレ会議」を実施 ⑥ １２月に「保護者向け性教育絵本」玄関設置
流行した感染症	2月ノロウィルス感染症
発作・痙攣等の対応	無し
エピペン使用できるスタッフの状況	・１月３１日に園内にてエピペン研修を保育アルバイトスタッフ１名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ２５名のうち、２５名が使用可能
その他保健に関する取組	・ノロウィルス感染症蔓延により、園長より職員向けに衛生面強化の時限対応指示の発令。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日　無し

	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日　無し
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日　無し
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月 ⇒4月1日、10月31日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日　実施済み
	児童健康診断	内科健診　各年2回／7月17日、11月27日 歯科健診　各年2回／6月3日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時 ⇒4月19日、10月18日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間　実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	ゾーン設定基準の定期チェック
	実践結果	保育者の中で設定基準を設け、定期チェックする目標を立てたが、サイクルを回していくことは未達となった。
	次年度方向性	設定基準を明確にし、定期的な整備を行いながら適宜再構成につなげる。
2	計画・ねらい	子どもが自ら育つ環境設定の再構成
	実践結果	年間数回再構成を行うことができた。
	次年度方向性	再構成のスパンを短くし、子どもの興味関心をもっと膨らませていく。
3	計画・ねらい	保護者・地域との協働による環境整備
	実践結果	計画通りの美化活動を企画運営することが出来た。
	次年度方向性	地域をもっと巻き込むことでエネルギーを最大化させていく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	パーテーション	0歳児室・1歳児室・異年齢児室	毎日	異常なし
2	名札入れ	玄関	毎日	異常なし
3	丸太	園庭	毎日	異常なし
4	小さなマイホーム	1歳児室	毎日	異常なし
5	荷物掛け	各保育室	毎日	8月に解体撤去

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	年間計画に沿って、月1回の避難訓練（年2回の書き込み訓練）。 突発で起こる災害に対して、想定を広げた訓練を行った。
2	実践結果	事故防止チェックリストを活用し定期的に確認した。
3	実践結果	設備点検チェックリストの活用し定期的に確認した。
4	実践結果	毎月の法人事故防止員委員会における、施設長間での事故防止検討。 園内での深化につなげてきた。
5	実践結果	毎月の園内事故防止委員会における事故防止検討と実践を行ってきた。 （数値データよる分析・図面による可視化）
6	実践結果	法人内事故記録簿の職員共有。 それを受けて自園で何が出来るか検討しアクションにつなげてきた。
7	実践結果	ハザードマップ・ハザード難易度表の作成及び見直しを行った。 資料としてだけでなく、職員の想定力を活かしブラッシュアップした。
8	実践結果	園に対しての防犯の目、有事の際の相互協力が出来るよう、町内会や近隣へのコンタクトを定期的にとってきた。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

実習生の対応はリクルーターを中心に園として注力してきた。多くの学生が苦戦する実習の印象を変えようと様々な取り組みを行うことができた。事務や調理職員含めチームの一員として受け入れを行うことで入職にもつながり、学校での講演の機会も持たせてもらうことができた。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
6月10～21日	東京子ども専門学校	1人	部分実習
9月2～13日	彰栄保育福祉専門学校	1人	責任実習
9月30 ～10月11日	東京子ども専門学校	1人	責任実習
8月21 ～9月13日	彰栄保育福祉専門学校	2人	責任実習
8月26～28日	江戸川大学	1人	保育体験
10月21日	越谷保育専門学校	1人	保育見学
10月9日 ～12月5日	守谷市	1人	家庭的保育者認定研修
2月3日～17日	彰栄保育福祉専門学校 大原専門学校	1人	観察実習

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
8月28～29日	御所ケ丘中学校	2人

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	19日 26名	17日 25名	21日 25名	12日 25名	23日 25名	20日 25名	18日 24名	15日 23名	20日 23名	17日 24名	21日 24名	2日 24名
園内研修	19日 25名	17日 24名	21日 24名	12日 24名	23日 24名	20日 24名	18日 23名	15日 22名	20日 22名	17日 23名	なし	なし

〈2〉外部研修への出席

無し

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	21日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	20日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	19日 1名	17日 1名	22日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
主任ミドル会議	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	21日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	なし
全社員研修	11月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

守谷市内の現状を考え、高齢者のエンパワメントや子育て中の保護者がコミュニティを作れる場所として、関りを多く持ってきた。園外での関りも来訪者も倍増し、開かれた園創りに大きく進めることができた。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：ログハウス公園にて　　参加延べ人数：３名
商店街ツアー	週1回　主な行き先：、ＢＡＢＹ MOON Flowers、まいどおおきに守谷百合丘食堂、お菓子工房もみの木、守谷市役所、イオンタウン守谷、取手警察署守谷地区交番、ブランチ守谷、守谷市中央図書館、カーセールス yacco、アクロスモール守谷　等
世代間交流	毎月いきいき元気プラザ元気館にて交流を実施
異年齢交流	８月２８．２９日に自園にて御所ケ丘中学校の1年生と交流を実施

その他活動	土塔中央保育所・まつやま保育園とお互いの園で5歳児の交流を実施 就労継続支援Ｂ型事業所ごきげんファームさんと散歩先の公園や自園で毎月交流を実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈Ｉ〉今年度の振り返り

打ち合わせはしたものの、実施までのスタートが遅れるという課題があった。次年度は園に来てもらうことで保育実践をもとにアプローチカリキュラムなどの構成を考えていかれると良い。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
９月２５日	黒内小学校	３名	今年度挨拶と年間計画について	職員間交流
１０月５日	大野小学校	１０名	モリンピック（運動会）への参加	子ども間交流
１１月１日	黒内小学校	４名	授業参観（教室）	職員間交流
１１月１１日	黒内小学校	１０名	秋ランド打ち合わせ	職員間交流
１１月２９日	黒内小学校	１７名	秋ランド（教室）	子ども間交流
１２月１６日	開智望小学校	１名	入学説明会	職員間交流

10. 要支援児

〈Ｉ〉個別支援計画の作成・見直しの状況

年度当初に計画立案し、毎月具体的取組みを議論していく。9月に下期の計画立案を再度行い、子どもの実態に合った内容にしてきた。地域の療育機関との連携については相互協力を強めていく必要がある。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・４～３月に計１２回開催　参加者：5名

要支援児と気になる児、または気になる場面をもとに職員間で議論してきた。
要支援児に関しては、個別計画を作り、上期と下期に振り返りと見直しを行ってきた。
具体的アクションを決めてサイクルを回すことで、リフレーミングの機会としたり、保護者との連携のきっかけとしたりした。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

学校生活との接続の質向上のために、保育要録の直接渡し及び個別申し送りを行った。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
155名	138名	151名	119名	179名	126名	132名	150名	139名	114名	145名	145名	1693名

実施項目	詳細												
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　　来園延べ人数：1693名												
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　⇒計1件相談実施済み												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計12回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	19名	9名	35名	28名	49名	18名	22名	28名	33名	22名	26名	26名	315名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計10回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	16名	17名	0名	10名	22名	9名	9名	11名	7名	2名	10名	10名	103名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00　にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっぐだより	毎月1日発行												
青空保育 （支援センター主催）	月1回　　公園名：ログハウス公園にて　以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審
今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施
２０２５年２月２１日に「事業計画書」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：１８時３０分
自己評価終了時刻：１９時００分
自己評価実施者：全職員

〈3〉利用者アンケートの実施
施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月２５日
アンケート回収率：１８５．３％

（省察）回収率にこだわることで多くの視点で園を評価してもらう機会とした。これにより園の強みと弱みを明確にし、職員集団の取り組むべきことが明確になった。また誤解や想いのズレに関しても気づくことができ、コミュニケーションの必要性をさらに感じた。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見
無し

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）
無し

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：守谷どろんこ保育園 施設長　荒川　直志

２０２４年度　メリー★ポピンズ 登戸ルーム事業報告書
（保育所における自己評価）

Ⅰ．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

・開園から４年目を迎え、異年齢の関わりを増やすことを重点的におこなった。散歩先や遊びのコーナーは自分でやりたいことを決め選ぶことができるようになった。特に年長児は０歳児クラスや１歳児クラスの子どもたちと過ごすことを好み積極的にかかわることができた。
・保育参加の申し込みが多く、保育参加の際には保護者の方が子どもたちとたくさん遊んでくだり、給食の片づけを子どもたちや保育者と一緒に行っていただいた。そのことで子どもたちの保育園での様子や友だち同士のかかわり、保育者が子どもたちにどんな言葉をかけているなど見ていただくことができ、お迎えの際の会話が増えた。
・マジックショー・わらべ歌遊び・骨盤ストレッチの講座は園見学の申し込みが多い９月から１１月に開催したことで来場者数が増えた。また、水遊び体験や離乳食講座、勝手かごバザーも地域の方に開催することが広まり気軽に来ることができる保育園として定着した。
・子どものかわいい姿や成長を感じる姿、また対応に迷った出来事など園会議・昼礼・休憩時間・チャットなどで話す場面が増えた。特に対応に迷った場面を伝えることで新人スタッフが学びになり、自分事として考えることが増えスタッフ全体で保育園の子どもたちにかかわっているという意識が高まった。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

１	計画・ねらい	教育・共育を意識して大人は何を教えるのか考え、子どもが共に育つために計画的に環境を用意する。
	実践結果	今年度保育者はなぜ日課をやるのかを考え、子どもが自発的にやりたいと思えるように環境設定を行った。特にさくらさくらんぼリズム体操は前年度より曲数が増えた。室内でやる曲、テラスなど広い場所でやる曲と分けて朝、夕方、雨の日など日常的に行った。
	次年度方向性	保育園のプランターの畑仕事を定着させる。保育者と子どもが図鑑を使い一緒に学び、何を育てたいか話し合い育てていく。
２	計画・ねらい	「幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿」を理解し成長段階に合わせた保育計画を行う。
	実践結果	毎月子育ての質を上げる会議に出席したスタッフが園会議で子どもの姿・具体的な活動を話し合い、毎月のクラスごとの月案に盛り込んだ。
	次年度方向性	子どもの発達を意識し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿」を子どもに合わせた計画を行う。また、月の省察は計画の振り返りに合わせた内容を記載する。
３	計画・ねらい	園長大学®保育士大学の研修やキャリアアップ研修で学んだことを保育者が学びあう環境を整える。
	実践結果	施設長は毎月施設長勉強会で視聴はしたが、園会議で活用できたのは「水辺のリスクマネジメント」のみだった。キャリアアップ研修は計画的に学

		びの機会を設けられたがスタッフとの学び合いの時間はもうけることはできなかった。
	次年度方向性	リーダースタッフが２年目スタッフ、新人スタッフに学んでほしいことを選び、何を学んでほしいか、目的な何かを伝え教え合う場を設ける。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	子どもがどんなことをしていたのか楽しみにしながらお迎えに来られるようなお迎え対応をする。
	実践結果	伝達ボードに散歩の様子を記入し誰でも様子を伝えられるようにした。 靴を履くことに時間がかかるご家庭は保育者が手伝い、自転車に乗せるまで援助を行った。
	次年度方向性	午前中の様子以外の時間においても子どものエピソードを見つけ保護者にお伝えする。
2	計画・ねらい	連絡帳アプ リ、タイムラインの活用法を考え、成長を共有する。
	実践結果	毎日各クラスのタイムラインを掲載した。こども同士の関わりや保育者がどんな言葉をかけているか伝え日常の保育の様子を知っていただくような記事を載せるようにした。
	次年度方向性	保育者の専門性を生かし、保育のねらいや遊びの笹生方子どもとの会話などより詳しくお伝えする。
3	計画・ねらい	保育園の活動内容が手に取るようにわかるよう畑活動や育っている野菜の様子や畑仕事での活動を掲示する。
	実践結果	畑カレンダーを園の玄関に掲示し、子どもが気づいたことを記録した。読売ランド前どろんこ保育園から帰った後は子どもたちの意見を聞き記録することが定着した。
	次年度方向性	子どもが畑仕事で野菜の絵を描き園の掲示板に掲示する。野菜の生育経過が分かるように写真を掲示する。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	どろんこ会の活動内容を発信し続ける。
	実践結果	園見学でパンフレットをお見せしながら理念・保育方針・６つの力についてお伝えをした。 1階の掲示板にどろんこだより・ちきんえっぐよりを季節の装飾を毎月変化させながら掲示した。
	次年度方向性	次年度も継続する。今年度は毎日園見学に来園しなかったが、毎日行えるようにする。
2	計画・ねらい	「勝手籠バザー」「園見学」をきっかけに育児講座を開催していく。

	実践結果	育児講座として「わらべうたあそび」「離乳食講座」（年３回）行った。園見学でイベントのちらしを配り、来ていただくようにアナウンスする。
	次年度方向性	園見学や勝手かごバザーの際にちきんえっぐの年間計画をお配りする。直近で開催するイベント等は内容を説明し来ていただくように勧誘する。
3	計画・ねらい	こども未来局保育事業部多摩区保育総合支援の「たまっこカレンダー」を活用し参加者を募る。
	実践結果	毎月の「たまっこカレンダー」を見て行事の問い合わせがあった。行事の参加につながった。
	次年度方向性	「たまっこカレンダー」を活用継続する。ちきんえっぐだよりに掲載している行事はすべて記載できるとよい。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

Ｉ	計画・ねらい	リーダースタッフが中心となり、園内研修を行う。
	実践結果	毎月の園会議で子育ての質を上げる会議に出席したリーダースタッフが「幼児期までに育ってほしいＩ０の姿」を解説し実際の子どもの姿をグループワークで話し合い発表する。 内部監査勉強会、散歩のロールプレイ、嘔吐処理、保護者対応の研修をリーダーが講師となり行う。
	次年度方向性	リーダースタッフはスタッフの育成に携わる。２年目スタッフの課題を見つけ、２年目のスタッフが新人スタッフに教える研修を企画し、実行し、振り返りを行う。
2	計画・ねらい	自分の役割を理解し向上心のあるスタッフを育成する。
	実践結果	読売ランド前どろんこ保育園でリーダー研修に参加したリーダースタッフは自分たちの性格を分析し、どんなリーダーを目指すか考えることができた。
	次年度方向性	今年度はリーダーの育成に力を入れてきたが次年度は全スタッフが「自分は何ができるか」考え実行できるように施設長・主任はスタッフが自信をもってできることを見つけ、成功体験を増やす。
3	計画・ねらい	環境設定研修を定期的に（毎月）課題を決めて行い、環境整備を行う。
	実践結果	毎月は未達成。季節（７月、ＩＯ月、Ｉ２月、３月）ごとに子どもの発達に合わせて整備した。あわ・ひえ保育室の静と動の空間の環境整備ができた。
	次年度方向性	各フロアに何が必要かを考え、保育室内にすぐに出せるように押し入れ内や棚を整理整頓する。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	年間農業計画に沿った畑仕事や、自分たちで育てることによって感じる大切さや味わいを知り、食への興味に繋げる。読売ランド前どろんこ保育園に畑仕事に行った際にはヤギの世話を行う。プランターや読売ランド前どろんこ保育園の畑に年間を通して野菜が育つ。
	実践結果	園のプランターや読売ランド前どろんこ保育園の畑の生育が良くなかった。 鶏小屋やヤギ小屋の清掃は毎週水曜日に行い、日課として定着した。 鶏が生んだ卵を持ち帰り、みそ汁に入れるライブキッチンを行う。 命をいただく行事を行う。参加者14名。
	次年度方向性	子どもがより畑仕事に意欲的になれるよう子どもが育てたいものを考える。
2	計画・ねらい	どんな野菜がよく育つのか子どもとスタッフが学びながら育てていく。育つためには何が必要か調べて試し成長過程を記録する。
	実践結果	畑カレンダーは継続して行った。カレンダーの記入は子どもの気づいたことを記録した。
	次年度方向性	植えた野菜の図鑑を活用する。定期的に子どもが野菜の絵を描き、気づきを深めていく。 園内で保育者も子どもも野菜の生育を楽しみにし、話題が増える。
3	計画・ねらい	給食残渣を2021年度比70%に減らす
	実践結果	バイキングの配膳器具・大皿を使用し、子どもが配膳しやすくなり食べる意欲を高めた。コンポストで野菜くずを利用し肥料を作成した。 適正量を発注する。
	次年度方向性	子どもが残渣に興味を持つ。計測を子どもが行う。人気メニューはなにか子どもに考えてもらう。

〈6〉チーム保育

1	計画・ねらい	リーダーは園の課題を話し合い、改善に向け意見を活発に伝えあう。
	実践結果	毎月第1金曜日にリーダー会議を行った。月の課題を出し合い改善点を話し合った。遠慮があったのか、活発に意見を交わすまでには至らなかったが、年度末にはリーダーは自分のリーダー像が見えてきたようだった。
	次年度方向性	リーダー会議の回数を増やす。リーダーが行う仕事を明確にする。
2	計画・ねらい	クラス会議を月に1回行い、月案や週案について話し合う
	実践結果	毎月15日以降にクラス会議を行った。子どもの様子、保育者の援助、活動内容を話し合った。
	次年度方向性	質会議の学びと連動して月案・週案に学びを盛り込んでいく。

3	計画・ねらい	スタッフ全員が園の課題を自分事としてとらえ、他の意見を聞きながらも自分だったら何ができるかという考えや意見を持てるようになる。
	実践結果	スタッフによって自分事としてとらえることに対して温度差があった。
	次年度方向性	２年目スタッフと新人スタッフが学び合える機会を設ける。子どもの話、対応の仕方、やってみたいことなど楽しめる話題を中心に話ができる環境をつくっていく。

〈7〉園会議内での環境設定研修

1	計画・ねらい	園会議の中で環境設定を考える。
	実践結果	園会議で行うことが多かったので定期的に環境設定の改善を行うことはできなかった。
	次年度方向性	環境設定検討週間を２か月に１度設ける。
2	計画・ねらい	園会議の中での研修がスタッフの学びの場とスキルアップの場となる。
	実践結果	質会議の学びは子どもの姿を捉える視点が培われた。 保護者対応研修は新人スタッフのスキルアップも当然のことながら、リーダースタッフにも学びがあった。
	次年度方向性	園会議の議案はリーダーがスタッフに何を学びたいか聞き作成する。 リーダーはスタッフに何を学んでもらいたいかスタッフの課題を見つけ提案する。
3	計画・ねらい	１年間の取り組みは記録を取り１月の園会議で振り返りを行う。
	実践結果	行事の振り返り各クラスの振り返りに対しては意見が活発にあがるが事業計画となると意見が少なかった。
	次年度方向性	事業計画の到達度について園会議で振り返る機会を最低２回設ける。策定会議を１回目を意識した振り返りを行う。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半：4~9月	６人	１０人	１２人	14人	14人	14人	７０人

年度後半：10~3月	６人	１０人	１２人	14人	14人	14人	７０人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	１１人	１９人	２０人	２０人	１９人	１９人	１９人	１９人	１９人	１９人	１９人	１９人	２２２人
うち0歳児	０人	０人	１人	１人	１人	１人	１人	１人	１人	１人	１人	１人	１人

〈2〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

常勤スタッフ	保育士	１０人	看護師	０人	栄養士	１人	調理員等	１人
パートスタッフ	保育士	３人	補助	０人	調理	１人	事務	１人
	用務	０人						

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・虐待防止研修 ・水辺のリスクマネジメント

		・避難訓練でモンストレーション ・さくらさくらんぼリズム体操研修 ・法人の理念について ・保護者対応リールプレイ
給食運営会議	月1回	喫食状況確認、配膳方法、献立振り返り
事故防止委員会	月1回	インシデント、ヒヤリハット検証と分析
ケース会議	月1回	個別支援計画に基づいた振り返り
行事会議	月1回	どろんこまつり、運動会、生活発表会の行事企画、進捗確認
リーダー会議	月1回	園の運営、新人育成、課題解決に向けた話し合い

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
食育会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長
主任会議	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	子どもたち及びスタッフの健康保持のために保健的環境の維持向上に努めた。毎月の検便提出
安全対策係	施設内外の設備及び用具の安全管理、点検を定期的に行った。
防火管理者	災害を想定した訓練計画や消火設備点検、避難経路の確保と点検を行った。
食品衛生管理係	給食衛生管理マニュアルに基づいた対応をした。
畑係	畑カレンダーの掲示・栽培の計画振り返り

生き物係	子どもたちを巻き込んで生き物の世話を行う計画と振り返り

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	保護者や地域の方は楽しみにして参加してくださった。昨年度より参加者が増える。計画的に準備を行うことができたが当日体調不良によりスタッフ２人が欠席となったため予定していた配置を変更し、スタッフは臨機応変に対応した。

4. 保育支援

〈1〉保育･保育参加･保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	・子ども一人ひとりの気持ちを受け止めながら触れあいを多くもつことができた。 ・多様な経験を通して感じたことを伝えられる場を大切にした。 ・やりたいことを自分で選択し、好きな遊びを通して興味関心を深めていった。 ・子ども同士が話し合い、一つのものを創り上げる楽しさを知る機会を用意した。 異年齢で過ごす時間を多く設け、年下児に対する思いやりの気持ちを持つことができ、また年上児に対するあこがれの気持ちからやってみたい意欲を高めることができた。 ・保護者の要望に対しては耳を傾け、保護者の悩みや迷いを整理できるような問いかけを増やした。 ・発達に気がかりのある子どもの保護者の相談の際には、保護者の不安な気持ちや迷いを受け止めて、次の行動を選択できるように相談を行った。
保育参加	4～3月まで　合計67名　が参加済み　　（3月27日時点） ・保護者の方も子どもたちも散歩やルールのある遊びなど一緒に楽しむ機会を多くい持つことができた。
保護者面談および発達相談	4～3月まで　合計12名　が参加済み　　（3月１日時点） ・育児の悩みを聞きながら保育園でどんな関わりをしているかをお話しし今後ご家庭の支援も行うことをお話しし安心していただく面談を心掛けた。

〈2〉計画した年間行事の振返り

・別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	調理員は給食の時間に子どもが食べる様子を見て食事の形状について見直しをする。 保育者は子どもが楽しい雰囲気で食事ができるように的確な椅子やテーブルの高さがあっているか確認をし、「おいしいね」など会話を楽しむ。
	実践結果	給食会議で保育者と残食量・苦手なメニューの把握をし、盛り付け方を工夫するために大皿を購入して盛りつけた。保育者は子どもの食具の使い方など観察し、遊びの中でトングや箸の使い方など身に着くように環境設定を行った。橋の使い方について調理スタッフから子どもたちにポスターを使用して話をした。
	次年度方向性	離乳食の進め方については、どこに売っているかどんなものが食べやすいかなどわかりやすく伝えていく。椅子の高さはちょうどよいものを子どもが選ぶことが難しいので特に３歳児は保育者が丁寧に教えていく。
2	計画・ねらい	離乳食の悩みを訴える保護者や地域の方に離乳食講座を開始する。 栄養や食材について調べ、実際に商店街ツアーを通してみる体験をし「食べること」に興味を持つ。
	実践結果	口腔発達・手づかみ食べの大切さなど年３回の離乳食講座を開催した。 寺親屋を通して「食べること」の大切さを子どもたちと一緒に学んだ。命をいただく行事を行い、命のあるものをいただいて自分たちが大きくなっていることを理解した。
	次年度方向性	今年度は年３回行うことができたので、次年度も３回行う。商店街ツアーで八百屋やパン屋に行くときにはお店の方にインタビューを行い、食べることや食にかかわる仕事に興味が持てるようにする。
3	計画・ねらい	畑仕事やクッキングを通して食に興味を持つ。
	実践結果	プランターの野菜栽培は充実を図ることはできなかったが、収獲した野菜を利用しみそ汁を作成し、おいしい給食ができた喜びを体験した。
	次年度方向性	夏野菜は植える種類を増やさず、たくさん収穫できるようにし、収穫できた野菜は全員がクッキングの体験ができるように栽培計画を子どもたちとたててておいしくいただく体験を増やす。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	４月２２日／６月１７日/8月１９日/10月２２日/12月１７日/2月１７日　計６回
歯科検診	６月１４日に保育園にて実施

保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年Ｉ回実施
スタッフ検便	毎月Ｉ回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① ４月１９日に　保育園にて　手洗いうがい指導を実施 ② ６月２１日に　保育園にて　歯磨き指導を実施 ③ ８月１６日に　保育園にて　熱中症を防ごうを実施 ④１０月１８日に　保育園にて　目を大切にしようを実施 ⑤１２月２０日に　保育園にて　手洗いうがい指導を実施 ⑥２月２１日に　保育園にて　感染症予防を実施
流行した感染症	流行した感染症なし
発作・痙攣等の対応	・該当なし
エピペン使用できるスタッフの状況	・３月２１日に保育園にてエピペン研修をスタッフ１８名受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ１８名のうち、１８名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	・該当なし
その他保健に関する取組	感染症流行時には消毒を行う。 新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈５〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･Ｉ月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月Ｉ回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･Ｉ月の25日に計4回実施済み

	フロン点検（法定1回/3年）	該当なし
	フロン点検（簡易）	該当なし
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日　０日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日　０日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日　０日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月 ⇒4月３０日、10月３１日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日　実施済み
	児童健康診断	内科健診　各年６回／４月２２日／６月１７日/8月１９日/10月２２日/12月１７日/2月１７日 歯科健診　各年１回／６月１４日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時 ⇒4月１８日、10月１７日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間　実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	3階4階のプランター・読売ランド前どろんこ保育園の畑に年間を通して野菜が育つ。
	実践結果	成長を楽しみにできるように子どもが気づいたことを玄関の掲示板に畑カレンダーを作成し記録して掲示した。
	次年度方向性	プランターは定期的な収穫ができなかったので育てやすいものを計画する。失敗の体験もカレンダーに記録をする。
2	計画・ねらい	子どもの成長に合わせて室内環境を改善する。
	実践結果	毎月の園会議では改善を行えなかったが季節ごとに異年齢で過ごす機会が増えたために、子どもが自分で遊びを選び、遊びこめる環境を設定していった。
	次年度方向性	異年齢で過ごす機会を増やすため、散歩先はより安全な場所で遊びこめるように危険個所は都度共有する。室内のコーナー設定を見直し、おもちゃの入れ替え、制作コーナーの充実を図る。廃材は保護者の協力を得て充実させる。
3	計画・ねらい	ねらいをもった散歩を計画し、そのねらいを子どもに伝え散歩先を自ら選ぶ。

	実践結果	子どもの姿を捉え、子どもの成長にとって何が必要なのか考え散歩先や散歩先での遊びを計画し、実践振り返りを行った。ルールのある遊びを通して子どもたちが話し合い、ルールを決めていくなかで自分の気持ちを伝え、相手の気持ちを考える機会が増えた。
	次年度方向性	幼児は乳児との活動を自ら選択し、何をするか考え行動する機会をより増やしていく。散歩先、何をするのか、は前日に子どもたちに伝えておく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

該当なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	消防計画に基づき自衛消防隊を編成し、避難訓練を毎月1回行った。。また、うちのこアプリにて災害時緊急連絡を使用し、園が情報発信し、安否・避難状況・避難先の情報を共有する体制をとった。
2	実践結果	事故防止チェックを年4回、設備点検を年6回行った。
3	実践結果	インシデント・ヒヤリハット報告書の運営を徹底し、事故防止委員会で検証をしっかり行うことで事故を未然に防ぐようにした。
4	実践結果	法人内の全園で事故防止委員会を月に1回行い、同グループ内で状況を共有し、事故防止策を探った。SIDS 予防のための各園の午睡時の見守りを写真で共有し改善点を話し合った。
5	実践結果	年2回不審者侵入訓練を実施した。また、訓練は避難経路確保・不審者撃退・通報の訓練で全スタッフ対象として行った。
6	実践結果	光化学スモッグが発生しやすい気象条件・影響を把握し、発令があった場合は内容に合った看板や貼り紙等を掲示した。また、戸外の活動は中止した。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

高校生1名。実習生2名受け入れ。オリエンテーションでは子どもとの関わり方や園での約束事、保育者の連携の仕方、保育の楽しさを丁寧に説明し、安心して実習に入れるように配慮した。
実習が始まる前には、目標やねらいをもって参加できるように話をする時間を作り、次世代を担う人材育成に貢献できるよう努めた。また、保育園の仕事を深く知ってもらい職業として関心を持っていただけるように仕事内容に対しては細かく伝えた。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
８月１３日～８月２６日	日本児童教育専門学校	１人	部分実習
１０月７日	東京立川こども専門学校	１人	観察実習

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
８月３０日	広尾学園高等学校	１人
３月１８日	広尾学園高等学校	１人
３月２５日	広尾学園高等学校	１人

7．スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	18日 18名	16日 18名	13日 18名	18日 18名	15日 18名	19日 18名	17日 18名	21日 18名	19日 18名	23日 18名	20日 17名	19日
園内研修	18日 13名	16日 12名	13日 14名	18日 11名	15日 13名	19日 11名	17日 14名	21日 11名	19日 13名	23日 18名	20日 17名	19日 17名

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
８月１０月	川崎市	キャリアアップ研修（幼児教育）	1名	無
１０月～１月	神奈川県エキスパート研修	キャリアアップ研修（乳児保育）	1名	無
1月～２月	神奈川県エキスパート研修	キャリアアップ研修（食育・アレルギー）	1名	無
５月～２月	川崎市	普通救命講習Ⅰ	９名	無

８月１０月	川崎市	キャリアアップ研修（幼児教育）	1名	無

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	16日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	21日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19名 1名	19日 1名
全社員研修	１２月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	第1回：７月に読売ランド前どろんこ保育園にて３名（保育士）が出席 第2回：８月に読売ランド前どろんこ保育園にて３名（保育士）が出席											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	参加なし											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年１回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

散歩先での公園で地域の方にチラシをお配りした。園見学は６月から１０月までが最も多く、その間に「マジックショー」「わらべうたあそび」「骨盤ストレッチ講座」などのイベントを開催し、園を訪れる方が昨年度より増加した。勝手かごは地域の方々に知られ毎日立ち止まってみてくださり、勝手かごのリサイクルができている。勝手籠バザーも定期開催を楽しみにして来援する方が増えた。多摩区が発行している「たまっこカレンダー」を見て問い合わせて参加してくださる方が増えた。水遊び体験のチラシを作成し玄関に掲示したところ、地域の方が参加してくださったが時間帯が早いので来年度は再検討が必要である。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：登戸第一公園にて　　参加延べ人数：０名
商店街ツアー	週1回　主な行き先：多摩警察署、JR 登戸駅、小田急登戸駅、八百幸、マルエツ、ライフ、ファミリーマート、ローソンストア１００、まいばすけっと、イシヤ堂、登戸駅前交番、せせらぎ館、ブルーメンクローネ等
世代間交流	９月９日に登戸小学校校庭にて運動会ごっこを実施
異年齢交流	７月１８日に保育園テラスにて水遊び体験を実施
その他活動	９月２５日に保育園テラスにてマジックショーを実施 １０月１７日保育園テラスにてわらべうたあそびを実施 １１月７日保育園にて骨盤ストレッチ講座を開催
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉　実施

9. 小学校との子ども間交流・スタッフ間交流

〈1〉今年度の振り返り

今年度より幼保小連携を新たに始めることが決まり登戸小学校の１年生との交流ができた。卒園児が校内を案内してくれ、小学校への期待が感じられた。小学校で行われている公開授業は参加可能ということなので来年度は積極的に参加し登戸小学校の先生方とも交流を持てるようにしたい。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
２月２８日	登戸小学校 1年４組	１４名	学校へ行こう	子ども間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

６か月に1回見直しを行う。保育所等訪問支援を行う児童発達管理責任者と連携を行い、毎月1回の振り返りを行う。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・４～３月に計１２回開催　参加者：毎月６名程度参加。
個別支援計画作成１名。毎月の振り返り記入。
スタッフ間で対応を統一したい子どもに対して対応方法や子どもの状況について記録する。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

３月２日策定会議にて進級引継ぎを行う。小学校の引継ぎは各進級先の小学校から電話にて引継ぎを行った。児童要録を３月初旬に各進級先の小学校に発送する。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	21名	48名	63名	57名	130名	78名	19名	0名	19名	7名	12名	454名

<table>
<tr><th>実施項目</th><th colspan="13">詳細</th></tr>
<tr><td>園開放</td><td colspan="13">（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　　来園延べ人数：１２名</td></tr>
<tr><td>子育て相談</td><td colspan="13">（月）～（土）13:00～16:30　　⇒計４件相談実施済み</td></tr>
<tr><td rowspan="3">自然食堂
親子ランチ
交流</td><td colspan="13">毎週（水）10:00～12:00　　⇒計１２回実施済み
参加者延べ人数</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>1名</td><td>2名</td><td>0名</td><td>2名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>6名</td></tr>
<tr><td rowspan="3">どろんこ
芸術学校
どろんこ
自然学校</td><td colspan="13">毎週（水）10:00～12:00　　⇒計７回実施済み
参加者延べ人数</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>3名</td><td>0名</td><td>4名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>7名</td></tr>
<tr><td>勝手籠設置</td><td colspan="13">（月）～（土）7:00～20:00　にて実施
門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置</td></tr>
<tr><td>ちきんえっぐだより</td><td colspan="13">毎月1日発行</td></tr>
<tr><td rowspan="3">青空保育
（支援センター主催）</td><td colspan="13">月1回　　公園名：登戸第１公園にて　以下日程にて実施</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td></tr>
</table>

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２５年１２月２７日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：８時００分
自己評価終了時刻：１７時００分
自己評価実施者：施設長・主任

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月２５日
アンケート回収率：１００％

（省察）おおむねよいご意見をいただいた。園の玄関が狭いのでお迎え時にお待たせしてしまうことに対して改善点があると考え、園内研修で保護者対応について学び、新人スタッフは子どものエピソードを丁寧にお伝えできるようになった。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見　０件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む）　０件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：メリー★ポピンズ 登戸ルーム 施設長　穂坂晴美

２０２４年度　メリー★ポピンズ 川崎西口ルーム
事業報告書
（保育所における自己評価）

１．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

■どろんこ祭りでは、多くの集客があり、その後も引き続き地域支援として園への来訪を誘致できればよかったが、自園の課題でもある集客力が弱くなかなか足を運んでもらえることがなかった。ただ、自治体のイベントカレンダーに掲載していただいたことで、月に1組程度の問い合わせはあり、次年度は更なる呼び込みのため、SNS の発信にもより力を入れていこうと考えている。

■保育面では、異年齢での関わりが多く持てており、あわ組は単独活動ではなく、ひえ組と合同で散歩に出かけたり、ひえ組はあずき組と合同で散歩に出かけたりと、年上児の姿を見て年下児が成長していく姿が多く見られた。クラスを問わず、子どもの発達に合わせて散歩先を選択したり、子どもの気持ちを汲み取って活動先が選べる環境を整えたりすることができた。次年度も、異年齢での関わりを多く持てるよう工夫をしながら保育を行っていく。また、今年度は保育室内の鍵が常にかかっていることが多かったため、次年度はフルオープンな保育室で、子どもが好きな場所で好きな活動を選び取れる環境も構築していく。

■命をいただく活動では、鶏を捌くことはできなかったが、大きなマグロが目の前で裁かれていく姿を見ることはできた。マグロの解体を通して、「いただきます」や「ごちそうさまでした」という意味が分かり、命をいただいているのだという実感を持っている子どももいた。マグロの解体ショーを通して食の循環について学び、子どもたちは「いただきます」や「ごちそうさま」を日々の食事で自ら発する姿が見られるようになった。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	生活の体得～どろんこ会の掲げる日課を通して、生活力を身につける～
	実践結果	・リズム体操では子どもたちの体幹が鍛えられ、距離感などもつかめるようになっていた。雑巾がけでは雑巾絞りができない子にやってあげるなど子ども同士の助け合いも見られた。
	次年度方向性	・保育者が日課を理解し語れるようになる。日々の生活で、日課を日常的に行い当たり前にしていく。
2	計画・ねらい	生き物の世話、畑仕事などを通して、食材や食の循環・環境への意識を身につける。
	実践結果	・アトレ川崎ルームの屋上園庭で畑仕事が行えたことで継続的にできた。また、畑カレンダーの活用で全クラス参加できた。 ・ウーパールーパーやメダカなどの生き物の世話に触れることができた。
	次年度方向性	・畑でできる野菜を見直し、常に野菜が採れる環境や手入れなどにも力を入れる。

		・生き物の世話を当番活動として子どもたちが主体的に行えるよう考える必要がある。
3	計画・ねらい	幼児期までに育ってほしい10の姿の体得～就学までの姿を各年齢で描いた上での保育の実践。
	実践結果	・毎月の園会議で振り返りを行ってきた。 ・子どものエピソード記録で10の姿を捉えながら行うこともできた。
	次年度方向性	・10の姿をより深く理解し、子どもの姿に当てはめていく。10の姿を意識した関わりをより丁寧に行う。
	計画・ねらい	活動や行事を行っていく中で、保育者の育ってほしい姿を考えながらも、子どもたち自身でも考えていける環境を整える。
	実践結果	・保育者同士の対話がもう少し必要だった。
	次年度方向性	・クラス会議などを通して保育者同士の意見交換や、意志の統一を図り同じ目標に向けた保育を行う。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

『保護者の困りごとは、自分の困りごとだということを意識する』

1	計画・ねらい	子どもたちの育ちを広め、遊びの中で子どもたちがどのようなことを学んでいるのかを伝える。
	実践結果	・インスタグラムを活用して周知ができてきていた。次年度は、定期的な更新を目指す。
	次年度方向性	・月に3回程度の定期的な更新を行う。
2	計画・ねらい	保育園運営を保護者とともに行い、保護者の方にも当事者となってもらうことで、保護者も一緒に作り上げる保育園を目指す。
	実践結果	・どろんこサポーターズが募り切れなかった。
	次年度方向性	・どろんこサポーターの周知と活性化。また、園の様子をタイムラインなどでも細やかに伝えていく。
3	計画・ねらい	常に保護者の立場に立ち、接遇の心を持つ。
	実践結果	・お迎え対応時に、丁寧なお伝えを心がけた。
	次年度方向性	・保護者様の立場になって対応なども考えていく。また、美観を意識していく。

〈3〉地域の子育て支援事業

『地域の子育て支援拠点として、地域に必要とされる園となる』

1	計画・ねらい	駅前型保育園という立地を生かし、近隣の商業施設との連携を築く。
	実践結果	・今年度はあまり商店街ツアーに力を入れきれなかった。
	次年度方向性	・商店街ツアーを担当制にし、アポイントを取って確実に実施していく。
2	計画・ねらい	保育園が地域の子育て支援施設として、気軽に訪れることのできる地域の方の憩いの場にする。
	実践結果	・青空保育の周知が全然できていない。公園に行って活動は行えているため、地域を巻き込んでいく。
	次年度方向性	・SNS を利用して青空保育を周知していく。また、チラシなどの配布も行い広めていく。
3	計画・ねらい	近隣の中学校との共同の活動を増やし、異年齢交流活動を通して、地域の方にも保育園の存在を認知してもらう。
	実践結果	・中学校との交流が途絶えてしまった。
	次年度方向性	・中学校に連絡を行い、交流会などを企画していく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

『スタッフ同士による伝え合い、学び合い、支え合い』

1	計画・ねらい	施設長、主任のみならず、スタッフからスタッフへの学びを重要視し、伝える側もアウトプットすることで、自らの知識を深めていくことができるようにする。
	実践結果	・園会議内でスタッフが発案した研修を行うことで、スタッフ間の距離が縮まった。また、学びの時間にもなった。
	次年度方向性	・次年度は、事業計画内で決まった研修をスタッフが自ら学びスタッフに落とし込んでいけるようにしたい。
2	計画・ねらい	法人の研修(園長大学・保育士大学)のコンテンツを活用し、様々な講師からの学びを深めていく。 また、ディスカッションすることで、より理解を深めていけるようにする。
	実践結果	・法人内の動画を活用した研修が行えなかった。若手スタッフが多く、スタッフの認知度も低い。
	次年度方向性	・園長大学・保育士大学の動画を視聴する時間を園会議でもうけ、学びに繋げる。

〈5〉環境実施目標

『これからの地球のことを考えた未来思考を育む』

1	計画・ねらい	地球にある資源を大切にし、自分たちの住む地球を大切にする。
	実践結果	・行事で SDGs に関しての取り組みを行ったことで、子どもたちはゴミ拾いへの意識が高まった。
	次年度方向性	・行事としてではなく、普段から SDGs を意識できる関わりを保育者が自ら行ってくる。
2	計画・ねらい	食品ロスの重要性を知り、給食残渣などを学んでいく上で、世界の食糧問題について学ぶ。
	実践結果	・給食の残渣について毎月の園会議で考えることで、減らすことができた。
	次年度方向性	・子どもたちもさらに巻き込んで残渣を減らす方法を考えていく。 ・コンポストも行い、食材の再利用も行う。

〈6〉他園との合同研修（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

『地域の保育の質の向上』

1	計画・ねらい	自園のみだけの園内研修だけでなく、系列園と合同の園内研修を実施する。保育環境や子どもとの関わり方など客観的な視点を得ることで、自園の質の向上を目指す。
	実践結果	・系列園と合同の研修は実施できていない。
	次年度方向性	・施設長同士の交流を深め、スタッフ育成について考えていく。
2	計画・ねらい	系列園のみならず、近隣の他法人の園も招いた園内研修を実施することで、地域の保育の質の向上を目指す。
	実践結果	・実施できていない
	次年度方向性	・近隣園との交流を深めていき、研修ができるまで距離を縮める。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半：4~9月	34人	58人	60人	75人	76人	77人	380人
年度後半：10~3月	36人	60人	67人	72人	72人	78人	385人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	225人	228人	241人	280人	210人	236人	271人	231人	264人	247人	247人	247人	2927人
うち0歳児	0人	0人	8人	15人	15人	21人	27人	25人	24人	20人	20人	20人	195人

〈2〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　（３月１日時点）

常勤スタッフ	保育士	8人	看護師	1人	栄養士	2人	調理員等	0人
パートスタッフ	保育士	4人	補助	1人	調理	0人	事務	1人

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・園運営に関わる報告及び検討・保育についてのディスカッション・ロールプレイング
給食運営会議	月1回	児童の健康・アレルギー・クッキング等
事故防止委員会	月1回	子どもの事故、ケガを未然に防止することを目的とする
ケース会議	月1回	個別配慮を要する子どもについてディスカッションを行う
週案会議	週1回	クラスの子どもの情報を他クラスの担任と情報共有、ディスカッション

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
食育会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長
主任会議	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	・衛生に気を付けた
安全対策係	・保育室内の安全や危機管理なども考えた
防火管理者	・建物内の安全確保に務めた

食品衛生管理係	・常日頃、安心・安全な食品管理に努めた
畑係	・畑カレンダーを活用し全クラスが関わることができた。
生き物係	・ウーパールーパーやメダカの飼育が行えた。

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	・地域へのポスター配布や設置などに力を入れた

4. 保育支援

〈1〉保育･保育参加･保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	・園生活について ・園での友だち関係について ・発達について ・就学に向けて
保育参加	4～3月まで　合計23名　が参加済み　　（3月1日時点）
保護者面談および発達相談	4～3月まで　合計17名　が参加済み　　（3月1日時点）

〈2〉計画した年間行事の振返り

・別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	自分たちが育てた食材を調理し、食べることで『食』への興味関心を広げる。
	実践結果	・畑で取れた野菜を自園に持ち帰り、子どもたちと調理方法を相談しながら食べることができた。
	次年度方向性	・特定の野菜の収穫が多かったため、次年度は育てる野菜の再考をしていく。

2	計画・ねらい	空腹感を感じ、食べたい時に食べたい場所で食べたいものを食べたい人と食べたいだけ食べることのできる環境作り
	実践結果	・子どもが自分のペースで食べられるような、環境づくりを行えていた。
	次年度方向性	・次年度も無理に食べさせたり同じ時間に食べることなく、子どものペースを大切にしていきたい。
3	計画・ねらい	日本、世界の郷土料理を知る。
	実践結果	・行事食などの提供はできていた
	次年度方向性	・なぜ、その料理を食べるか大人も理解していなかったため、大人が理解しておろしていけるようにしていきたい。
Ｉ	計画・ねらい	鶏を絞めて食す　命をいただく活動の実践
	実践結果	・鶏を絞めて食すことはできなかったが、大きなマグロを解体したことで、子どもたちには命をいただいているという実感を持たせることができた。
	次年度方向性	・鶏を絞める研修に保育者が参加し、保育者がやりたい気持ちを持てるようにしていきたい。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	4月･6月･8月･10月･12月･2月に実施
歯科検診	6月3日に園にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年Ｉ回実施
スタッフ検便	毎月Ｉ回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	①　6月6日に保育園にて歯磨き指導を実施 ②　2月7日に保育園にて手洗い指導を実施
流行した感染症	①　Ｉ月にコロナウイルス、園児4名・スタッフ2名感染。 ②　2月にインフルエンザ、園児2名感染報告有り。2月25日に終息
発作・痙攣等の対応	なし

エピペン使用できるスタッフの状況	・3月21日に川崎西ロルームにてエピペン研修を保育スタッフ10名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ20名のうち10名が使用可能
その他保健に関する取組	

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（法定1回/3年）	業者による対象物の法定点検 2023年実施済み ※対象物がない園及び JW 園は削除すること
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月 ⇒4月15日、10月1日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日　実施済み
	児童健康診断	内科健診　各年6回／4･6･8･10･12･2月 歯科健診　各年1回／6月3日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時 ⇒4月19日、10月18日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間　実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

『子どもを真ん中とした保育環境の構築』

1	計画・ねらい	子どもたちの遊びの姿に合わせた環境作り
	実践結果	・環境の変化が流動的に行えていなかった。
	次年度方向性	・子どもの様子に合わせた環境づくりを行っていく。
2	計画・ねらい	保育者の声よりも子どもの声に溢れた保育園にする。
	実践結果	・子どもの声が聞かれる園内になりつつあるが、まだ、保育者の声が響くこともあるため検討していく。
	次年度方向性	・大人の人的環境とは何かを考えていく。
3	計画・ねらい	常に異年齢保育を意識した環境設定をする。
	実践結果	・異年齢での散歩や活動は取り組むことができた。子どもの様子に合わせた活動を行った。
	次年度方向性	・次年度も、異年齢での活動は継続しつつより子ども同士の交流は深めていきたい。
4	計画・ねらい	就学を意識した「自らのことを自らができる」子どもを主体とした動線や環境の設定。
	実践結果	・保育士が統一した言葉がけはできていなかったように思う。 ・自分のことは自分でできるような関わりは行えていた。
	次年度方向性	・保育士の保育の方向性の統一をはかり、子どもに対する関わり方を統一する。
5	計画・ねらい	子どもたち自身が安全に、かつ、遊びを選択できる環境の中での統一されたルールの徹底。
	実践結果	・子どもが安全に遊びの選択ができている環境設定はできなかった。
	次年度方向性	・保育内でのルールの統一を図り、子どもたちにも伝えていく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	年度の前半はヒヤリハットのデータの収集に苦慮していたが、社用スマホを利用したアンケート方式を取り入れることで、ヒヤリハットのデータの収集が容易となり、データ化したものを使って、事故防止会議で話し合うことができた。
2	実践結果	年2回、園会議内で、虐待防止研修を行った。マニュアルを読み合わせ、虐待とは何かを考えた。また、自身の行動を振り返った。
3	実践結果	避難訓練を毎月行い、年二回、不審者侵入訓練を行った。不審者侵入訓練では、若手スタッフ・新規スタッフも多く、合言葉を理解できてないスタッフもいたため、今後は毎度合言葉の確認を全スタッフに行っていく。対策済み。
4	実践結果	事故防止研修を月に一度行い、ヒヤリハットやインシデント報告書、事故記録簿の集計を行い、けが予防に努めた。
5	実践結果	子どもの体位や呼吸、掛布団の位置、うつ熱予防など生存確認方法の再確認を行い、SIDS を未然に防げるよう努めた。
6	実践結果	夏場では、プールの監視の仕方を研修し、目の動かし方や保育者の立つ位置、子どもの動きの確認を行い、水難事故を防げるようにした。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

保育体験で中学生２名と高校生１名を受け入れた。

〈2〉中高生の受入

日程	学校名	人数
8月23日	広尾学園高等学校	1人
8月19～20日	広尾学園中学校	2人

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	19日 17名	17日 18名	14日 16名	12日 16名	16日 18名	20日 17名	18日 18名	15日 18名	20日 19名	24日 19名	21日 19名	21日 19 名

園内研修	19日 10名	17日 12名	14日 10名	12日 7名	16日 8名	20日 8名	18日 10名	15日 11名	20日 12名	24日 12		

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
8月20・27日	神奈川県保育士エキスパート等研修	キャリアアップ研修 マネジメント	1名	無
2月1・2日	どろんこ会	キャリアアップ研修 幼児保育	1名	無
2月8・15日	どろんこ会	キャリアアップ研修 保護者支援・子育て支援	1名	無
2月22・23日	どろんこ会	キャリアアップ研修 マネジメント	1名	無

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 （子育ての質を上げる会議）	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	21日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	11月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

近隣の商業施設はたくさんあるが、商店街ツアーなどで訪問する機会は少なかった。
どろんこ祭りでは、チラシ配布やポスター掲示などの効果もあってか多くの来場者に来ていただくことができた。ただ、そこからつなげられなかったため、次年度は地域交流に力を入れていきたい。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月ｌ回　　公園名：西口さんかく公園にて　　参加延べ人数：6名
商店街ツアー	週ｌ回　主な行き先：さわみつ青果、京都八百一、ユニディ、マッドマン、大川水産、スーパー三和、ビックカメラ、サンドイッチメルヘン、光琳堂フラワーショップ、丸善、ワイズマート、ＴＯＹ’S、カフェデニム等
世代間交流	月ｌでシニア交流としてひつじ雲に訪問を計画。 実施できていない月もあった。
異年齢交流	2月5日に幸町小学校にて小学校ｌ年生との交流会を実施
銭湯でお風呂の日	月ｌ回　〈3～5歳児〉　実施

9．小学校との子ども間交流・スタッフ間交流

〈ｌ〉今年度の振り返り

小学生との交流として、ｌ年生の授業参観や子ども同士の交流を行うことができた。ただ、それ以外の交流があまりできていなかったため、次年度に向けてつながりを持って行く。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
5月頃	幸町小学校	ｌ名予定	運動会の日程決め	スタッフ間交流
5月頃	南河原小学校	ｌ3名予定	運動会見学（校庭）	見学
6月頃	幸区役所	ｌ名予定	小学校教諭と情報交換	スタッフ間交流
ｌｌ月頃	幸区役所	ｌ名予定	小学校教諭との情報交換	スタッフ間交流
2月頃	幸町小学校 ｌ年生	ｌ3名予定	授業参観	子ども・スタッフ間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

毎月、ケース会議内で話し合った児童の計画を立てた。
保護者との面談も定期的に行い子どもの情報共有を行った。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・４～３月に計12回開催　参加者：3名
子どもの様子をクラス内で共有し、本児への対応方法を話し合った。
クラス内だけでの共有に留まらせず、全スタッフへの共有を行い、全員で本児を見守った。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

本児が困らないようスタッフ間での情報共有や、保護者との面談を行っている。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
5名	17名	26名	128名	35名	31名	106名	17名	8名	2名	0名	0名	375名

<table>
<tr><th>実施項目</th><th colspan="13">詳細</th></tr>
<tr><td>園開放</td><td colspan="13">（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　　来園延べ人数：58名</td></tr>
<tr><td>子育て相談</td><td colspan="13">（月）～（土）13:00～16:30　　⇒計0件相談実施済み</td></tr>
<tr><td rowspan="3">自然食堂
親子ランチ
交流</td><td colspan="13">毎週（水）10:00～12:00　　⇒計22回実施済み
参加者延べ人数　0名</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td></tr>
<tr><td rowspan="3">どろんこ
芸術学校
どろんこ
自然学校</td><td colspan="13">毎週（水）10:00～12:00　　⇒計12回実施済み
参加者延べ人数　3名</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>2名</td><td>0名</td><td>1名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>3名</td></tr>
<tr><td>勝手籠設置</td><td colspan="13">（月）～（土）7:00～20:00　にて実施
門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置</td></tr>
<tr><td>ちきんえっぐだより</td><td colspan="13">毎月1日発行</td></tr>
<tr><td>青空保育</td><td colspan="13">月1回　　公園名：西口さんかく公園にて　以下日程にて実施</td></tr>
</table>

（支援センター主催）	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	4名	0名	0名	0名	2名	0名	6名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

2024年9月27日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：12：00
自己評価終了時刻：14：00
自己評価実施者：園長、主任

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月２５日
アンケート回収率：61.8%

呼びかけやタイムラインでの周知により、結果を徴集できた。自園のいいところは継続しながら、変えられるべきことはその都度施策を行ってきた。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

「報告すべきご意見　０件」

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

「報告すべきケガ（事故含む）　0件」

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年3月１５日　　作成者：メリー★ポピンズ 川崎西口ルーム 施設長　松居聖陽

２０２４年度　八山田どろんこ保育園　事業報告書
（保育所における自己評価）

Ⅰ．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

発達支援つむぎを併設した保育園として地域に根差した園づくりを目指してきた。昨今、国の保育所におけるインクルーシブな保育の考え方も変化し、併設園の果たす役割も今後も大きいと捉えた。地域に根ざし多様性を大事にしながら一人ひとりに寄り添い、豊な学びの場を保証し、真のインクルーシブな保育の在り方を日々研鑽し、発信した１年となった。

保育所保育指針並びに、社会福祉法人どろんこ会の保育理念、保育方針に則り、当園の保育目標を以下の3つとした。

「自分で考えて行動する子」
「人と繋がることが大好きな子」
「未来に希望を持って探求する子」

この保育目標の実現のために、保育園・発達支援の施設全体で以下の５項目を推進していった。

① 子どもの保障される権利を尊重し、自分も他者も大切にできる価値観を育み、子どもの人権を尊重し気持ちに寄り添い、丁寧なまなざしを持って育くんだ。特に併設園の良さを最大限に活かしながら、インクルーシブな保育の実践をした。
② 子どもの「やってみたい」を真ん中に「気づく力」「やりぬく力」「調整する力」を見据え、21世紀の保育のあり方を探求し人間力を育くんだ。
③ 基本としている異年齢保育・座禅・雑巾がけ・さくらさくらんぼリズム体操・散歩9時出発・畑仕事・裸足保育・縁側給食・商店街ツアー・青空保育を実施しその中での質を大事にした
④ 体験を重視し、子どもたちが人・自然・もの・出来事と様々に関わる暮らしの中で、豊かな感性と体験を通して探求の芽生えを育くんだ。
⑤ 主体的・対話的深い学びに注目し「創造」「遊ぶ」「共有」「振り返る」「想像」のサイクルを基に豊な創造的活動を生み出す。受容し安心して生活する場を保障し、自らの興味や関心に基づき主体性を大事にする保育を進めた。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	子どもの興味関心にあわせて環境を再構成する。
	実践結果	子ども主体の環境の在り方について学びあった。 養護的側面「一人の人として受け入れられる」教育的側面「資質・能力」を生活・遊びを通して育くめる環境を再構成した。
	次年度方向性	来年度も、子どもの一人ひとりの興味関心にあわせた環境を整える。
2	計画・ねらい	スタッフが語り合う集団になる。

	実践結果	・子どもの生活・遊びは学びであり「遊び」を通した子どもの育ちに気づき、学びの道筋をスタッフが考えた。 ・育ちにどう向き合っていくかを、ポートフォリオ・ドキュメンテーションを用いて子どもが何に気づき、何を学んでいるのか、何を支援すればよいのか環境や手立てを言語化した。
	次年度方向性	子どもが何に気づき、何を学んでいるのか、何を支援すればよいのか環境や手立てをスタッフが言語化し、チームとして一人ひとりのお子さんを支える力にしていく。来年度も継続して進めていく。
3	計画・ねらい	「主体的・対話的で深い学び」を引き出す力を探り実践する。
	実践結果	・接続期カリキュラム「学ぶ力」「関わる力」「生活する力」を基に0歳児からの見直しを図った。 ・豊な対話が生まれる保育士の役割を再考した。
	次年度方向性	語り合う文化を大事にしながら、子どもの面白い・子どもから教えられた等を日々の中で伝え合う文化の充実を図る。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保育園と保護者の綿密な連携をする。
	実践結果	随時、育児不安解消を目的とした子育て等に関する様々な支援を行い保護者が主体的に育児を行えるようにパートナーとして一緒に考え、共に子育ての楽しさを共有していきながら、繋がった。
	次年度方向性	今後も、保護者面談等での連携を図り、共に子育ての楽しさを共有していきながら、地域の様々な方と繋がる。
2	計画・ねらい	子どもの成長を丁寧に伝えていく中で理解を深めるきっかけにする。
	実践結果	保育の過程や子どもの育ちの言語化・可視化し伝える機会をつくった。 スタッフが日々３分間対応の中で様子を丁寧に伝えた。 日々何かに向かって努力する姿や葛藤する姿を伝え、家での様子も共有することで、子どもが自ら育つ最善の環境を一緒に考え合える関係性を作った。
	次年度方向性	今後も継続して日々何かに向かって努力する姿や葛藤する姿を伝え、 家での様子も共有したりすることで、子どもが自ら育つ最善の環境を一緒に考え合える関係性をつくれるよう取り組む。
3	計画・ねらい	送り迎えの際、ほっとできる場の構築・どろんこサポーター制度の拡大
	実践結果	大人が癒される場をつくれるよう工夫した。保護者同士の関わりを大事にした。
	次年度方向性	来年度は、より対応の丁寧さを追求し保護者がほっとする場の構築を進める。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	園庭を開放し地域の方の癒しの場にする。
	実践結果	畑仕事や季節折々に集える場を開放し地域の庭として機能していった。
	次年度方向性	今後も継続して園庭を開放し、地域の方が地域の方と繋がる場を創生する。
2	計画・ねらい	保育園の様子を外部に発信していく。
	実践結果	SNS で保育園の様子を伝え、地域に開かれた子育て支援を行っていった。
	次年度方向性	来年度もより SNS での発信を多くする。
3	計画・ねらい	園と家庭・地域が協働し、いつでも気軽に集える場として地域の方が保育園を活用し、園が安心拠点として機能していく。
	実践結果	子育て等に関する相談や援助、子育て支援としてのニーズを柔軟に対応し、地域の核となる地域に開かれた子育て支援を実施し「子育て拠点」としての役割を果たした。特に子育ての知識や情報を伝え地域との関係づくりに努め、地域や家庭と連携し、園が共に育ち合う場となるよう保育園の役割を果たした。
	次年度方向性	今後も併設園を活かして、支援していくようにする。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	スタッフが子どもの育ちを常に語り合う集団であり続ける。
	実践結果	保育に打ち込める環境、互いに認め合い尊重される関係性を基に働きやすい職場環境の中で、より語り合う文化を継続した。スタッフは日常的に保育を語り、子どもを深く理解していけた。
	次年度方向性	今後もスタッフは日常的に保育を語り、子ども一人ひとりの育ちを深く理解していくことを推進していく。
2	計画・ねらい	主体的対話的深い学びを深める。
	実践結果	「主体性」「対話」「共同性」「学び」「環境構成」をキーワードに学んでいった。
	次年度方向性	職員が肯定的に子どもを観ていく視を大事にしていく。また共に共主体として子どもの主体や対話をより大事にしていく。
3	計画・ねらい	学びの輪を広げていく。
	実践結果	自分の考えを積極的に表現した。 園長大学®・保育士大学の視聴を進めた。

		更に充実していくために環境構成の視点から考えた。
	次年度方向性	更に充実していくために環境構成の視点から今後も深掘りする。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食材や食の循環・環境への意識を育む環境教育の実践。
	実践結果	畑仕事・食材加工・命をいただく活動を行った。
	次年度方向性	食材の加工や畑仕事から、子どもたちが食の循環や環境への意識を身近なのとして感じられるよう活動を深める。
2	計画・ねらい	食材の循環サイクルの実行。
	実践結果	給食調理における廃棄を減らす、残渣の再利用など捨てるではなく有効活用した。
	次年度方向性	食材を無駄にせずに毎日の食事に大切に使われていることを実感する。
3	計画・ねらい	陸の豊かさを守る活動の実践をする。
	実践結果	木陰を創り過ごしやすい空間を創った。ペーパーレス化を実行した。
	次年度方向性	来年度も継続していく。

〈6〉インクルーシブ保育の実践

1	計画・ねらい	多様性を子どもも大人も受入れ、互いを認め合える保育とスタッフ集団を作っていく。
	実践結果	今までの保育の在り方や考えを一旦捨てて、子どもと向き合っていった。その中でそこに携わる大人全てが一緒に保育を作り直す場を大事にした。
	次年度方向性	今後も生活を共にする中で、すべての子どもが互いを認めあい自分とは異なる個性や価値観を受け入れる心を育んでいきたい。
2	計画・ねらい	一人ひとりの良さと違いを理解し、子どもの一人ひとりの健やかな成長を育んでいく。
	実践結果	「試行錯誤＝Trial & Error」ができる場を大事にした。
	次年度方向性	子どもの健やかな成長を育んでいく保育スキルを今後も構築していく。一人ひとりの子どもの姿を丁寧に見取り、適切な環境と関わりを整える。

3	計画・ねらい	併設園の機能の充実を図る。
	実践結果	保育園・つむぎ両機能の充実を測り連携の拡充を図った。 専門性を生かし実践していった。
	次年度方向性	多様性を認めあいながら、どろんこ会のインクルーシブ保育の実践を行う。

〈7〉食の循環への直接体験

1	計画・ねらい	法人の食のこだわりを追求する。
	実践結果	食育３大方針「調理・保育士・施設長は子どもと一緒に食べる」「噛む力を育て、素材を味わえる状態で提供」「子どもが自分たちで盛り付け・配膳して食べる」ことの実践をしていった。
	次年度方向性	今後も食事の場面を大事にし、丁寧に関わることを徹底する。
2	計画・ねらい	豊かな食の体験の場の構築。
	実践結果	様々な食育体験の中で子どもの発想や想いを丁寧に繋げていった。子どもたちの試行錯誤の場面を大事にした。
	次年度方向性	子どもたち一人ひとりにより丁寧に関わる食事の場を創生していく。また、子どもの想いに気付く目をより培うようにする。
3	計画・ねらい	SDGs を考える場をつくる。
	実践結果	子ども自らが食材や食の循環・環境への意識を身に着ける活動の実行を進めた。
	次年度方向性	今後も残渣を丁寧に追っていく。またコンポストをより畑仕事に活かしていく。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半：4~9月	15人	15人	16人	15人	15人	16人	92人
年度後半：	15人	15人	16人	15人	15人	16人	92人

10~3月							

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	243人	259人	253人	286人	228人	278人	287人	232人	212人	220人	210人	230人	2938人
うち0歳児	5人	11人	15人	18人	19人	25人	32人	29人	25人	24人	30人	30人	263人

〈2〉開所時間

7時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

常勤スタッフ	保育士	18人	栄養士	3人		
パートスタッフ	補助	2人	事務	1人	嘱託医	2人

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・窒息事故について考える ・見失い事故について事例から考える
給食運営会議	月1回	食育会議・アレルギー対応・衛生点検
事故防止委員会	月1回	危機管理・安全対策・検証・研修
ケース会議	月1回	子どもの様子の共有
フロアー会議	随時	月案・ねらいの確認・様子の報告

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
食育会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長
主任会議	月1回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士
併設園会議	年2回	施設長

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	グループの全体で園児健康管理業務改善を目指し、各園が園会議で検討した事項をもとに開催した。
安全対策係	ケガ防止・危機管理マニュアル参照
防火管理者	災害対策・避難訓練防災計画・自主点検
食品衛生管理係	衛生点検・給食提供マニュアル参照
畑係	畑管理

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	保護者とともに企画し、運営した。

4. 保育支援

〈１〉保育･保育参加･保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	・園生活での様子や理解を深めることに注力した。 ・面談の形にはこだわらず、声をかけ、察知できるよう心掛けた。
保育参加	4～3月まで 合計12名 が参加済み （3月1日時点） ・希望する保護者が参加／保育参加アンケートにご記入いただいた。
保護者面談および発達相談	4～3月まで 合計78名が参加済み （3月1日時点） ・随時、希望する保護者に対し実施 「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用

〈２〉計画した年間行事の振返り

・別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈３〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	調理員・保育士・施設長と子どもと一緒に食べる。
	実践結果	身近な人と食べて美味しいと思う子を育んできた。
	次年度方向性	昼食の時間を今後も大事に捉えて進めていきたい。
2	計画・ねらい	心地よい空間作りをする。
	実践結果	四季を感じる気持ちの良い空間の中で食事を頂いた。
	次年度方向性	様々な発想を大事により、四季を大事に感じられる空間を創生していく。
3	計画・ねらい	様々な伝統食や行事食を体験する。
	実践結果	食に旬があることを知り、季節を感じながら様々な地域の産物を活かした食事を経験した。
	次年度方向性	より、日本の伝統食に子どもも興味をもち、作る経験から食べる経験を豊かにしていきたい。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月27日／12月11日に実施
歯科検診	6月27日に実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	(ア) 6月1日に幼児室にて歯磨き指導を実施 (イ) 9月4日に幼児室にて手洗い・うがい指導を実施 (ウ) 1月8日に幼児室にて性教育を実施
流行した感染症	特になし
発作・痙攣等の対応	ダイアップ使用なし
エピペン使用できるスタッフの状況	4月12日に保育園にて保健研修をスタッフ計25名が新たに受講し習得済み 本日時点で、在籍スタッフ25名のうち、25名が使用可能
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底した。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施

衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月 ⇒4月10日、10月6日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日　実施済み
	児童健康診断	内科健診　各年2回／6月27日、12月11日 歯科健診　各年1回／6月27日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時 ⇒4月12日、10月4日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間　実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	居心地の良い場を創っていく。
	実践結果	安心でき、居心地の良い空間から隣り合う空間（０歳から5歳）の行き来を大切にできた。
	次年度方向性	今後も動線も含め、居心地の良い空間を創っていくようにする。
2	計画・ねらい	試行錯誤をしながら遊び込む環境を創っていく。
	実践結果	「深く学ぶ」「深く観る」ことを大事に心ゆさぶられる環境を大事に保育士も共に感じ、子どもと一緒に環境を創った。 興味・関心を基盤に「学びの芽生え」を大事に協働的な学びを生み出す場を大事にした。
	次年度方向性	興味関心を基盤に「学びの芽生え」を大事に協同的な学びを生み出す場を大事にしていきたい。
3	計画・ねらい	遊び込む場の見直しを図る。
	実践結果	夢中になる場・空間・時間・他者との共有を保障し、再構成できる職員を育成した。
	次年度方向性	遊びから学びが生まれる動的環境の空間つくりを行い。環境を子どもの興味関心また、スタッフの想いがその時期のあわせて再構成できるスタッフの育成を進めていく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	パーテーション	1歳児室／幼児室	毎日	パーテーション

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	防災：消防計画に基づき、自衛消防隊を編成し避難訓練を月1回実施した。 震度5弱以上の際は、園が情報を発信安否・施設状況・避難先・を情報共有する体制を作れた。また、帰宅困難者対策をふまえ災害に備えることができた。マニュアルの徹底を心掛けた。
2	実践結果	ケガ事故防止：事故防止チェックリスト年4回、設備点検年4回を行い事故防止の徹底を図った。また、マニュアルにある園外保育・遊具等の保育士行動指針の徹底を図った。
3	実践結果	インシデント・ヒヤリハット報告の分析をした。
4	実践結果	グループ内で状況を共有し日々の保育の中で事故防止策を探った。
5	実践結果	防犯：年2回防犯チェックリストに従い確認し、併せて不審者訓練を実施し、また、訓練は避難訓練確保・不審者撃退・通報の訓練でスタッフ全員を対象とした。
6	実践結果	光化学スモッグ・光化学スモックが発生しやすい気象条件・影響・光化学スモッグ注意報を把握し発令があった場合は、内容にあった看板・貼紙等を提示するが、発令はなかった。
7	実践結果	リスク管理委員会によるリスクマネジメントをした。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

保育に携わりたい・子育てに興味を持ってもらう為に積極的に中学校・高校の受け入れを実施し、学校単位・個人での参加を促した。

① 年間を通した小中高生の保育園体験ボランティア活動を受け入れた。
② 夏冬春休み期間中高生の職場体験ボランティア活動を受け入れた。
③ 一般および学生の各種ボランティアを受け入れた。
④ 保育養成校の学生の受け入れは、次世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材を育成するために、積極的に受け入れた。
⑤ 保育養成校の学生の実習を受け入れた。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
8月19～30日	郡山女子短期大学	1人	本実習
10月21～25日	郡山女子短期大学	2人	調理実習

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	12日 26名	10日 26名	14日 25名	12日 25名	16日 25名	13日 26名	4日 26名	8日 24名	13日 24名	17日 24名	21日 24名	19日 24名
虐待防止研修	12日 26名						4日 26名					

〈2〉外部研修への出席

主催	研修名	出席	施設長推薦
令和６年度福島県保育士等キャリアアップ研修	キャリアアップ研修	1名	無
令和６年度どろんこ会キャリアアップ研修	キャリアアップ研修	17 名	無

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	19日 1名	21日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	20日 1名	19日 1名
全社員研修	11月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年１回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8．地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

施設長が年１回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：八山田子ども広場にて　　参加延べ人数：57名
商店街ツアー	週1回　主な行き先：郡山消防署富久山分署、ﾌﾞｲﾁｪｰﾝ、ｾﾌﾞﾝｲﾚﾌﾞﾝ、東邦銀行、郡山信用金庫、富田東郵便局、大東銀行、ﾐﾆｽﾄｯﾌﾟ、郡山北警察署、柏屋、ローソン、マツモトキヨシ、ﾂﾙﾊﾄﾞﾗｯｸ、かんのや、ｶｲﾝｽﾞ、ダイハツ福島 等
世代間交流	月１回　　シニア交流として老人ホームへの訪問を行った。
異年齢交流	青空保育・保育参観・体験活動参加・小学校交流会
その他活動	保育参加

9．小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

２１世紀の教育の在り方が模索され「小学校学習指導要領」「保育所保育指針」が改訂された。また、子どもの生活の連続性を踏まえ小学校と連携が円滑にいくように連携・接続した。
キーワードになっている「主体性・対話的学び」への教育の在り方を具体的に小学校の教諭と共に要領・指針の相互理解を図った。以下計画について、小学校と相談・協議を４月１日（月）より開始した。小学校との交流活動（小学校見学・運動会未就学児プログラムへの参加）を通じて小学校との交流を図った。また、幼保小連絡会議への参加を通じての情報交換を行った。また、小学校へのスムーズな接続を実現するために、保育所保育要録送付児童情報申し送りの面談を実施した。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
9月20日	行健小学校	1名	支援学級教諭との情報共有（電話）	情報共有
9月20日	富田東小学校	1名	支援学級教諭との情報共有（電話）	情報共有
10月8日	総合教育センター	1名	行動観察（八山田どろんこ保育園）	情報共有
10月9日	富田東小学校	1名	面接（情報共有）	情報共有
11月6日	総合教育センター	1名	行動観察（八山田どろんこ保育園）	行動観察

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

【個別支援計画の作成・見直し】
支援児がいるため作成した。

【毎月のケース会議開催】
４～３月に計１２回開催 参加者２７名参加

【進級引継、および、小学校への引継】
小学校へのスムーズな接続を実現するために、保育所保育要録送付児童情報申し送りの面談を実施した。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・４～３月に計１２回開催　参加者：２７名
日々の関わりを振り返りながら、毎月子どもの姿を共有し、今後についての見通しを持った計画を話し合い、再検討を繰り返していった。
担任以外の関わりの中で気づきを共有していくことで、多角的に見ていく中で状況を把握した。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

進級の引継ぎに関しては、経過記録等の把握、伝達を行った。
各小学校との接続に関してはスムーズに移行できるようアプローチカリキュラムを作成し小学校への接続を意識したカリキュラム構成の中内容の充実を図った。また、小学校へのスムーズな接続を図るために、保育所保育要録送付し個別に申し送りの伝達を行った。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
18名	61名	35名	40名	51名	75名	48名	53名	86名	67名	82名	48名	664名

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　　来園延べ人数：156名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　⇒計2件相談実施済み
自然食堂 親子ランチ 交流	毎月　10:00～12:00　　⇒計12回実施済み 参加者延べ人数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	2名	0名	2名	0名	3名	2名	3名	2名	1名	3名	0名	18名

どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎月　10:00～12:00　　⇒計２４回実施済み 参加者延べ人数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
3名	6名	1名	3名	0名	0名	2名	1名	1名	3名	2名	1名	23名

勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00　にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置
ちきんえっぐだより	毎月1日発行

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２５年３月１日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：９時００分
自己評価終了時刻：１２時００分
自己評価実施者：施設長・主任保育士

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月２５日
アンケート回収率：１００％

戸外での活動等外遊びの充実等保育方針にある一定の理解を保護者の方から頂いた。雨の日の登園時の預かりに関してはご意見を頂いたがスムーズに誘導できるように周知していくことで解決できると考えた。励ましの言葉をたくさんいただき、スタッフも励みになっている。今後も安心して預けられる施設を維持し、より質の向上も図っていきたい。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告する案件なし

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告する案件なし

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年3月１５日　　作成者：八山田どろんこ保育園 施設長　真島 里佳

２０２４年度　三筑どろんこ保育園　事業報告書
（保育所における自己評価）

１．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

どろんこ会における基本活動を「なぜやるか」「子どもにとって必要な経験か」と取り組む意味を一つ一つ考えながら、丁寧に取り組んだ。昨年以上に子ども同士の混ざり合う姿が多くみられ、園舎を「自由に行き来する一つの大きな家」とした異年齢保育が定着してきた。子どもも保育者も Trial＆Error を楽しみながら、継続・連続性の活動にも取り組めるようになり、自分たちでイメージ図を描いて話し合いを進め、それぞれの思いを共有しながら同じ目標に向かって試行錯誤する姿が多くみられた。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

１	計画・ねらい	どろんこ会の基本活動・日課の理解を深める
	実践結果	基本保育活動や日課を「なぜやるか」「子どもにとって必要な経験か」と取り組む意味を一つ一つ考えながら日々進めていくことはできたが、深めることは課題として残った。
	次年度方向性	日課や自分たちの保育に保育者がこだわりを持ち、自分の言葉で語れるようになって子どもに教えるのでなく、一緒に考え繰り返していく。
２	計画・ねらい	子どもの姿を捉えた保育計画の作成
	実践結果	子どもたちの成長・発達をとらえ、子どもたちに必要な活動が見極められるように主任・ミドルリーダーが中心となり園内研修を行い学んだ。遊びの連続性を捉えるために Web を使用して、子どものイメージを豊かに拡げ深めることができた。
	次年度方向性	目の前の子どもたちに寄り添った必要な活動を計画に入れていくことを意識し、Web など視覚的に分かりやすいものを使って、活動のねらいが明確的になるようにしていく。
３	計画・ねらい	子ども自らがいつでも経験を選び取ることができる物的環境の設定
	実践結果	乳児の室内は定期的に見直しを行ったが子どもの姿(発達や興味関心)を的確に捉えきれてなく、遊び込める環境になっていなかった。 園庭は竹馬や天狗下駄、長縄を常設し子どもたちがいつでも挑戦できるようにしたことで子どもの経験値が上がった。
	次年度方向性	室内環境が子どもの成長に追いついていないので、すぐ改善と先を見越しての設定を繰り返せるようにしていく。跳び箱・鉄棒の常設。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	安心できる保護者対応（子どもの成長を丁寧に伝える）
	実践結果	保護者の気持ちに寄り添い、子どもの成長が伝わるような対応を心がけた。質問や問い合わせがあった時には、その場で曖昧な対応するのではなく、園全体で共有し意見を一致させてからお伝えした。
	次年度方向性	保護者が保育園に何を求めているのかを考え、保護者が求めている情報を発信ができるようにしていく。
2	計画・ねらい	保護者がいつ来ても、どこを見ても気持ちが良い施設づくり
	実践結果	職員1人ひとりが意識をし、室内はもちろんのこと園周辺・駐車場の掃除や花壇の整備などをおこなう姿が見えた。また、園会議で全員が掃除を行う時間を定期的に設けた。
	次年度方向性	次年度も継続し、一人一人が美観を意識することを大切にして、園周辺の清掃もおこなえるように心がけていく。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域に開かれた子育て支援の実現や美観を通し選ばれる園を目指す
	実践結果	・小学校・幼稚園の長期休暇の時期は、ちきんえっぐイベント・園庭開放での子育て支援事業と保育事業が混ざった環境を設定することができた。 ・いつ誰が来訪しても、職員が自園の保育を自分の言葉で伝えられ、気持ちの良い挨拶や声かけができるようになったが、親切・丁寧な入園説明や案内ができる職員がまだ少ない。
	次年度方向性	ちきんえっぐイベントを任せられる職員や親切・丁寧な入園説明や案内ができる職員をさらに育成し、子育て支援事業と保育事業が混ざった環境を更に深めていく。
2	計画・ねらい	保育園での取り組みの地域発信を強くする
	実践結果	ブログ・園掲示板を利用した園での取り組み発信を見ての来訪や、散歩中の挨拶や公園等での声かけ・交流を行ってきたことで、自園に興味をもってもらえ入園希望者が増えた。
	次年度方向性	公共施設(公民館や図書館など)のイベントと参加を増やし、園からの企画を持ち込んで公共施設で出張保育を開催できるようにしていきたい。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	日課・基本活動の理解を深める
	実践結果	日課・基本活動を「やらねばならぬ」ではなく「なぜやるのか」、やることで子どもがどう成長するのか理解し、子どもと取り組む職員が増えた。

	次年度方向性	「畑仕事、生き物の世話をなぜ行うのか」の
2	計画・ねらい	「報連相」の徹底したチーム保育づくり
	実践結果	「報告・連絡・相談」というと昼礼を行なわねばと思ってしまい、スピード感にかけていたので、「その場で伝え即改善」を意識し、まずやってみてその都度変更していくようにすると、アイデアが次々にでるようになり職員間の会話も増えた。
	次年度方向性	クラス間での「報告・連絡・相談」は出来ているので、次年度はクラス間、乳児幼児間での「報告・連絡・相談」を徹底し、連携を深めていく。
3	計画・ねらい	リーダー層が若手職員の育成の役割を担う（保育の面白さを伝える）
	実践結果	ミドルリーダーが月1回「10の姿」の勉強会を計画・実行し、1～2年目の若手職員の保育の質上げを行った。また、手や口を出しすぎず子どもが自分たちで試行錯誤しながら活動を進めていけるような環境設定、仕掛けをやって見せることで、若手職員だけでなく子どもの姿も変化していった。
	次年度方向性	リーダーを次の世代へ交代し、今まで教えてもらっていた側から教える側になり、次の若手職員を育てていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食の循環、環境への意識を育む環境教育の実践
	実践結果	ヤギ・鶏の糞で堆肥を作り、年2回畑に入れることができた。食材を加工する経験では、今年も大根を収穫できず「たくあんづくり」を達成できなかった。命をいただく体験は、子どもに対して絵本を通しての話で終わってしまい、実施に至らなかったが、子どもに必要な体験だと思う職員が増えてきている。
	次年度方向性	次年度は福岡３園合同で「命をいただく体験」を実施できるよう準備を進めていきたい。
2	計画・ねらい	“木陰で遊べる環境づくり”の推進
	実践結果	園庭植樹・グリーンカーテン・ミストシャワー設置で、木陰を増やし過ごしやすい空間をつくる。
	次年度方向性	グリーンカーテンは猛暑で達成できなかったが、園庭の木々が大きく成長し葉が茂ったことで木陰は増えている。ミストシャワーの数を増やし、子どもが少しでも快適に遊べるようにした。

〈6〉大人も子どももわくわくする保育環境（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

1	計画・ねらい	日々の関わりから、子ども一人ひとりの興味・関心を探る。

	実践結果	日々の保育での振り返りを行う時間が定着せず、子どもの気づき・興味・関心をチームとして捉えきれず、子どもの育ちに合った保育を計画できる職員を多数育てることができなかった。
	次年度方向性	子ども自身が活動を選択して取り組める環境を構成できるように、子ども理解に努めていく。
2	計画・ねらい	子どもの年齢に合った経験してほしい活動を計画する。
	実践結果	大人が用意しなければ経験できないことを理解し、経験できる場所や時間を保障しながら、職員間で連携して取り組んでいた。子ども一緒に Trial＆Error を楽しむ職員の姿が見られるが、子どもの興味・関心を引き出せた職員はいつも特定の職員であった。
	次年度方向性	子どもと一緒に Trial＆Error を楽しみ、興味・関心を引き出していくことは大事なことなので継続していく。その中で職員間での情報共有や連携を意識し、子どもがやってみたい活動を引き出して、本物の体験ができるようにする。

〈7〉保護者支援（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

1	計画・ねらい	保護者の現状を把握し、ニーズに合わせた丁寧な関わりをする。
	実践結果	子ども一人ひとりの事情や家庭環境を把握し、共有が必要と思われる内容は職員間で共有し、対応を統一していく。 状況に応じて保護者面談を取り入れ、保護者の思いに寄り添いながら現状の改善策や今後のかかわりを共通にすることで、子どもの育ちを支える。
	次年度方向性	保護者の変化に合わせたかかわり方や対応を考え、必要に応じた丁寧な支援をしていく。
2	計画・ねらい	あたたかい雰囲気の中での保護者対応を心掛ける
	実践結果	朝の受け入れ、お迎え時など笑顔で対応し、子どもの姿を丁寧に伝えていく。いつでも相談できる、気軽に集えるなど園が安心できる場として保護者と信頼関係を築き、保護者一人ひとりが大切にされていると実感できるように配慮する。
	次年度方向性	丁寧な朝の受け入れ・気持ちの良い挨拶・子どもの姿を伝えられる3分間対応を継続し、職員間の情報共有が大事なので、情報をもとに保護者対応を合わせていくことを一人ひとりが意識していく。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計

年度前半：4~9月	７２人	１４４人	１４４人	１４４人	１４４人	１３８人	14415人
年度後半：10~3月	７２人	１４４人	１４４人	１４０人	１４４人	１３８人	14939人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	290人	380人	321人	350人	342人	317人	345人	336人	313人	331人	328人	324人	3977人
うち0歳児	13人	23人	18人	14人	16人	19人	29人	17人	15人	16人	18人	21人	207人

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	０人	０人	０人	１人	３人	２人	２人	３人	２人	２人	５人	6人	26人
うち0歳児	０人	０人	０人	０人	０人	２人	０人	０人	２人	２人	３人	4人	13人

〈２〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈３〉スタッフ構成　（３月１日時点）

常勤スタッフ	保育士	19人	看護師	0人	栄養士	3人	調理員等	0人
パートスタッフ	保育士	3人	用務	1人	嘱託医	2人	事務	0人

3. 運営報告

〈１〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容

園会議	月Ｉ回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・園の課題・情報共有、研修報告、次月行事確認等
給食運営会議	月Ｉ回	喫食状況確認、アレルギー児確認、食育指導
事故防止委員会	月Ｉ回	事故事例をもとに再発防止策の検討やマニュアルの再確認
ケース会議	月1回	月1回 気になる子についての情報共有、支援計画書の見直し
週会議	週Ｉ回	週会議 週Ｉ回 各クラスの情報共有、行事の検討
週案会議	週Ｉ回	週案会議 週Ｉ回 全クラスの保育計画の調整と連携

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月Ｉ回	施設長
施設長勉強会	月Ｉ回	施設長
食育会議	年4回（5.8.ＩＩ.2月）	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回（5.8.ＩＩ.2月）	施設長
主任会議	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月Ｉ回	保育士

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	日々の園内清掃と感染症拡大防止のため徹底した消毒・換気の確認、園内の衛生用品の管理
安全対策係	事故防止委員会で毎月のヒヤリハット・インシデント集計結果から原因分析、再発防止策の検討。ハザードマップの更新。
防火管理者	避難訓練の消防署への届出、避難訓練後の訓練実施内容の確認と振り返り。
食品衛生管理係	食育会議への参加、園内給食運営会議の計画と実施。給食関係

	の食品衛生管理、食材残渣の確認と給食の実態把握。
畑係	野菜苗の購入、季節の食物の栽培・収穫、畑の土作り
生き物係	飼育動物(ヤギ・鶏・昆虫)の健康管理、飼育環境の整備・改善

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	係が中心となって準備を進めていった。昨年の保護者アンケートの意見を参考に改善できるところは改善し、園舎内の配置の工夫を行い、昨年以上の集客ができて大成功だった。
運動会係	係が中心となって準備を進めていった。昨年の保護者アンケートの意見を参考に改善できるところは改善して、子ども・保護者・職員が感動の運動会となり大成功だった。
生活発表会係	係が中心となって準備を進めていった。昨年の保護者アンケートの意見を参考に改善できるところは改善し、演目の工夫を行ったが、プログラムの内容や順番などまだ改善の必要がある。

4. 保育支援

〈1〉保育･保育参加･保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	・保育参観への参加を積極的に呼びかけ、実際の様子を一緒に見ていただくことで安心感をもってもらえるよう努め、参加が昨年より増えた。 ・お迎え対応に拘らず常に言葉をかけるように意識し、小さなコミュニケーションを大切にするようにして保護者との信頼関係を深めていった。
保育参加	4～3月まで　合計８名　が参加済み　　（3月１日時点）
保護者面談および発達相談	4～3月まで　合計０名　が参加済み　　（3月１日時点）

〈2〉計画した年間行事の振返り

・別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

Ｉ	計画・ねらい	体をたくさん動かして、お腹が空いて食に向かうリズムを大切にする。
	実践結果	園では午前活動で体をたくさん動かすことを意識し、運動量を増やすことで「食べる」「寝る」のリズムを整えていった。
	次年度方向性	運動遊びの種類を増やす・散歩の距離を近くから始め今の子どもの体力を落さないようにして空腹感を感じとれるようにしていく。
2	計画・ねらい	食べ物の大切さ、命をいただいているということはどんなことかを子どもと一緒に考える。
	実践結果	畑で野菜を育て収穫したものを食す体験を大切にし、食べ物への興味を高めていきたかったが、猛暑で思うように収穫できなかった。 魚の解体・鶏を絞める体験は実施できなかったが、食育絵本の読み聞かせを行ない「いただきます」の言葉の意味を伝え、感謝の気持ちを育んでいった。
	次年度方向性	「命をいただく」活動に賛同する職員が増えてきた。子どもだけでなく保護者への説明会も増やし、福岡3園合同で鶏を絞める活動を実施できるように進めていく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	４月ＩＩ日／ＩＯ月Ｉ７日に実施
歯科検診	６月５日に自園にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年Ｉ回実施
スタッフ検便	毎月Ｉ回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	①　６月５日に自園にて歯磨き指導を実施 ②　７月IO日に自園にて手洗い指導を実施 ③　IO月I7日に自園にてエプロンシアター「体のしくみ」を実施 ④　Ｉ月９～IO日に自園にて性教育を実施
流行した感染症	①　4月にアデノウィルス、園児６名感染報告有り。5月2日に終息 ②　I2月にインフルエンザA、園児I2名感染報告有り。I2月28日に終息 ③　Ｉ月にインフルエンザA、園児I4名感染報告有り。Ｉ月30日に終息
発作・痙攣等の対応	計Ｉ名に対し、計２回ダイアップ使用

エピペン使用できるスタッフの状況	・４月⑫日に園会議にてアレルギー・エピペン研修実施。橋本朋佳、山本誉、中垣葵、計３名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ27名のうち、24名が使用可能
その他保健に関する取組	・ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。またこまめな換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回/15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表/毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表/毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表/毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿/毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
健康管理	予防接種状況･既往歴の確認/保険証期限確認	年2回/4･10月 ⇒4月26日、10月25日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回/20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回/4月11日、10月17日 歯科健診 各年1回/6月5日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回/4･10月の園会議時 ⇒4月12日、10月11日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回/園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	発達に沿った室内環境の充実
	実践結果	指先を使った遊びや文字や数に触れることができる遊びなど、発達に合わせたコーナーを作る。また、子どもの興味・関心がどこに向いているのかをよく観察し、定期的に室内環境の見直しをおこなった。幼児(1階)は子どもに合わせた環境の工夫が行われていたが、乳児(2階)は改善までの期間がかかりすぎていた。
	次年度方向性	職員間の報連相を密にし、話し合いを行わないと改善できないではなく、気づいたらすぐに改善を行えるようにしていく。
2	計画・ねらい	遊びの継続性の確保
	実践結果	子どもたちの活動の中での気づき、会話、試す、失敗などを大事にし、子ども発信を丁寧に捉えて、大人が一緒に取り組みながらかかわっていった。制作途中の作品を安心して保管できる場所の保障や、イメージ図を形にしていく活動に取り組んだ。
	次年度方向性	遊びのルールを子どもが変更して遊びの面白くする、平面(絵)を立体にイメージしていく活動を増やしていく。また、他児に触られない保管場所の設定を行う。

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	消防経計画に基づき自衛消防隊を編成し、年間避難訓練に沿って毎月1回避難訓練を行う。うちのこアプリの災害時緊急連絡を利用し、保護者へ情報発信を行う通知訓練も合わせて行う。
2	実践結果	毎月の事故防止委員会でヒヤリハット・インシデントを共有し、事故防止に努める。
3	実践結果	マニュアルの確認と保育者間の連携の強化に努める。
4	実践結果	年2回の不審者侵入訓練を実施し、安全・防犯への意識づけを行う
5	実践結果	ハザードマップの作成・共有をする。定期的な見直し、更新が不十分であった。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

保育に携わりたい・子育てに興味を持ってもらう為に積極的に中学校・高校の受け入れを実施した。

・ 年間を通した小中高生の職場体験の受け入れ

・ 夏休み期間の小学生・高校生の職場体験の受け入れ

・ 保育養成校の学生の実習・保育体験の受け入れ

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
9月2～12日	成果女子短期大学	1人	責任実習
11月11～21日	筑紫女学園大学	1人	観察実習

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
10月16～18日	西日本短期大学附属高等学校	1人

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	25日 27名	28日 27名	26日 28名	30日 27名	30日 25名	13日 25名	11日 26名	8日 27名	13日 27名	17日 27名	21日 27名	19日 27名
園内研修	12日 27名	10日 27名	14日 28名	12日 27名	9日 25名	13日 25名	11日 26名	8日 27名	13日 27名	17日 27名	21日 27名	19日 27名

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
1月9日	福岡市保育士会	主任・一般保育士研修会	1名	有

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 1名	15日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	20日 1名

施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	12月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

積極的に園外に出かけ、地域の人々から関心を持ってもらえるかかわりや、園からのブログや掲示板での発信をもとに地域との関わりを深めていった。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：中尾公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先：三筑公民館、エネオス、業務用スーパー、お茶の山口園、コスモス、長浜ラーメンめんめん、イトマンスイミングスクール等
世代間交流	10月15日に自園にて高校吹奏楽部による音楽会を実施
異年齢交流	11月28日に自園にて3月18日に春日どろんこ保育園にて交流会を実施
その他活動	11月27日に福岡県警本部、2月25日に航空自衛隊にて職場体験を実施
銭湯でお風呂の日	実施なし

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

就学時には保育所保育児童要録送付、支援学級への就学児については保育見学に来ていただく等、必要に応じて情報の申し送り等実施した。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
6月1日	三筑小学校1年	１１名	運動会見学 （三筑小校庭）	行事見学
10月	三筑小学校　他５校	２３名	就学前健診 （各校体育館）	子ども間交流
２月	三筑小学校　他５校	各１～２名	幼保小連絡会 （各小教室）	職員間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

ケース会議を園会議内で行い、多くの職員で様々な角度から子どもを見ていけるように変えて2年目になり一人一人の子どもを見る目は育ってきている。次年度は子どもの「困りごと」を把握し、子どもの困っているところを丁寧に援助できるようにしていきたい。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・４～３月に計12回開催　参加者：24名

毎月の園会議で担当の子どもの様子を共有しながら理解を深め、全体への共有へと繋げた。毎月担当する子どもを変えてディスカッションを行うことで、園全体ですべての子どもを見ていくという意識が芽生え、配慮の必要な子どもだけでなく、気になる子についても情報を共有し、一人ひとりに合わせた対応へと繋げていけるようになった。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

進学する小学校に児童要録や保幼小連絡会、電話での詳細伝達を行う

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
58名	49名	57名	76名	90名	34名	171名	94名	32名	21名	45名	42名	769名

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　　来園延べ人数：682名(1月)
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　⇒計０件相談実施済み

自然食堂 親子ランチ 交流	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計19回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	11名	8名	8名	24名	20名	4名	6名	6名	2名	4名	4名	6名	103名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計7回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	2名	0名	8名	6名	11名	0名	0名	2名	6名	0名	0名	2名	37名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00　にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっぐだより	毎月1日発行												
青空保育 （支援センター主催）	月1回　　公園名：中尾公園にて　以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２５年１月30日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：９時00分
自己評価終了時刻：16時00分
自己評価実施者：施設長、主任、ミドルリーダー、栄養士

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月２５日
アンケート回収率：55%

（省察）お迎え対応時の言動へのご意見は引き続きあるものの、職員への信頼度への評価を感じた。
来年度も引き続き丁寧な対応を行い保護者様と信頼関係を深めていく。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見　０件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む）　0件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：三筑どろんこ保育園 施設長　北原 由美

２０２４年度　メリー★ポピンズ南砂ルーム 事業報告書
（保育所における自己評価）

Ⅰ．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

当園に関わる子ども、園スタッフが、活動や行動を自分で選択し、主体的に日々を過ごすことを念頭に保育活動を展開した。保育者は、室内、戸外共に、子どもたちの発達段階を踏まえた遊びの環境を提供するよう努めた。日課活動を重視し、日々の活動の中で、子どもが選択する遊びが展開されるように支援した。また、大人が伝える危険回避力や社会生活との関り、環境への意識等を理解し保育を展開した。総じて、子どもも大人も、自らが活動を選択し、主体的に日々を過ごすことが出来た。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	子どもたちが「自由に行き来する大きな家」となる。
	実践結果	ワンフロアの環境を活かし、異年齢の子どもたちが園内を自由に行き来する環境を作るよう努めた。異年齢が交流している姿が常態化するようになった。年上児が年下児の面倒を見、年下児は年上児の行動に憧れる姿が多く見られた。室内活動の配置については、好みの玩具配置に検討の余地があると考える。
	次年度方向性	次年度も異年齢児が更に混ざり合う活動を提供していく。
2	計画・ねらい	生活力・選択力・思考力を育む
	実践結果	子どもの生活力・選択力・思考力を育むために、日々日課と基本保育活動を実施した。日々の活動の中で、子どもたちは遊びを選択し、保育者は危険回避力、社会生活との関り等を大切にして保育を行った。総じて、子どもたちの生活力・選択力・思考力の向上に繋がった。
	次年度方向性	次年度も、大人がすべきこと、子ども自身に身に付けて欲しいことを保育者が理解し、活動を展開する。
3	計画・ねらい	幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿の体得を目指す
	実践結果	園内研修で、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿の理解を深め、日々の保育に繋げるよう努めた。
	次年度方向性	５領域と合わせて、繰り返し学びを継続し、保育の質の向上に努める。
4	計画・ねらい	保育環境の充実に努める。
	実践結果	定期的に保育者間で意見交換をしながら、子ども自らが興味関心のあるものを選択し、主体的に生活や遊びを展開できる環境を作るよう努めた。 また、多くの動植物、自然事象、水・土・火に触れる機会を可能な限り多く提供した。子ども自らが活動を選択し、自分で考えて行動する姿が多く

		見られるようになった。
	次年度方向性	保育者間で情報共有をし、子どもの発達段階を考えながらより良い環境を作ることを継続する。
5	計画・ねらい	食の循環を知り、命をいただく。
	実践結果	子ども達が食べ物に実際に触れ、調理し、命をいただく体験をし、残菜の堆肥化を体験することで、食への興味関心を高められるように環境教育を実践した。畑で収穫したものを子どもの面前で調理し、食することを大切にした。子どもたちの食に対する興味関心が高まり、食を楽しむ子どもが増えた。
	次年度方向性	命をいただくことの意味や食の循環について、繰り返し伝えていく。
6	計画・ねらい	気持ちの良い接遇を心掛ける。
	実践結果	大人にも子どもにも、相手に敬意を払った接遇や整理整頓を心掛けた。 玄関にポートフォリオを掲示し、お迎え時、保護者が待った気がしないようにエ夫した。子どもたちは、大人や年上児の様子を見て気持ちの良い挨拶をしていた。
	次年度方向性	挨拶、整頓について、次年度も継続する。
7	計画・ねらい	小学校との連携を強化する。
	実践結果	小学校との交流活動、小学校見学を行った。園内研修で、小学校学習指導要領、学習指導要領スタートカリキュラムとの接続について学び、保育に取り入れた。子どもたちの就学への期待感を高めることが出来た。
	次年度方向性	小学校との交流について、更に出来ることを考え実践していく。
8	計画・ねらい	地域に開かれた保育園を目指す
	実践結果	ちきんえっぐだよりを通して、日々の保育活動を地域に発信した。
	次年度方向性	更に集客出来るように、活動内容を再考する。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者の立場に立った接遇を心掛ける。随時保護者面談を実施する。
	実践結果	園内研修で接遇について学ぶ機会を設け、接遇に対する意識を高めた。チャット機能を使って、逐次子どもの様子を共有し、保護者に伝えるようにした。必要に応じて、随時保護者面談を実施した。

	次年度方向性	園を利用する方にとって、気持ちの良い接遇が出来るように、引き続き取り組む。
2	計画・ねらい	保護者に園での様子を発信し、子どもの様子を共有する。
	実践結果	日々の連絡帳やタイムラインを施設長がチェックし、内容の充実に努めた。1週間の様子や、行事についてのポートフォリオを作成し、子どもの様子を発信し、保護者と様子を共有した。
	次年度方向性	タイムラインやポートフォリオを使い、保育の様子を発信することを継続する。
3	計画・ねらい	常に整理整頓を心掛け、環境設定に必要なものをしっかりと揃え、気持ちの良い施設を作る
	実践結果	清掃責任者による点検を実施し、整理整頓が行き届き、必要な物のみが設置されるよう努めた。
	次年度方向性	整理整頓、必要な物のみの設置等を継続する。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	園解放の機会を地域にアプローチしていく
	実践結果	園見学にいらした方や、訪問する商店街の方に園開放の機会をお伝えし、いつでも園に遊びに来ることが出来ることを伝えた。
	次年度方向性	地域に対して、活動内容の紹介の場を増やしていく。
2	計画・ねらい	地域の方が楽しむことが出来るような活動を提供する
	実践結果	年間のちきんえっぐ活動計画を、地域の方が興味を抱くような活動になるよう工夫した。
	次年度方向性	いつでも園に足を運ぶことが出来るような活動を考え提供していく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	経験の浅い職員については、法人ルール・方針の理解・日々の業務の習得を目指す。 子どもと可能な限り関わり、子どもを知る、子どもの思いを感じることを目指す。
	実践結果	保育品質マニュアルの読み込み、園長大学・保育士大学の講座受講を年間10回目指し、達成した。子どもの姿について、エピソード記録を作成し、子どもの姿を捉え、保育内容に活かせるように学びを深めた。
	次年度方向性	中堅職員になるべく、次のステップを意識して更なる成長を目指す。

2	計画・ねらい	中堅職員については、法人理念・園目標の具現化に必要な事を考え、実践することを目指す
	実践結果	日々の保育についての振り返りを行いチャットで共有した。園長大学・保育士大学の講座受講を年間10回目指し達成した。担当を決め、受講内容を会議で発表した。日々の保育について、ドキュメンテーションを作成し、子どもの姿を捉え、次の保育に活かすように努めた。経験の浅い職員のフォローや指導を担い、自己の成長にも繋がった。
	次年度方向性	リーダー職員を目指すべく、次のステップを意識して更なる成長を目指す。
3	計画・ねらい	リーダー職員については、運営部 mission・園事業計画の実現・十分な安全管理を念頭に置き、園全体の様子を把握し、職員を統率することを目指す。
	実践結果	自身のスキルアップのため、園内研修講師役を務めた。園長大学・保育士大学の講座受講を年間10回以上目指し達成した。担当を決め、受講内容を会議で発表し、園全体のボトムアップに繋がった。 新入職員、中堅職員のフォロー、指導を担い、自己の成長にも繋がった。
	次年度方向性	リーダー職員として、更なるステップアップを目指す。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	生き物、畑に触れられるような環境を作る
	実践結果	係りを中心に畑活動を行った。夢の島農園と園庭で、各々出来ることを考え取り組んだ。夢の島農園では、夏から秋にかけて、多くの作物を収穫することが出来た。また、飼育可能な生き物を常に考え、子どもたちと共に飼育した。かめとメダカの飼育を始めた。
	次年度方向性	自園で出来ることを常に考え、引き続き生き物の世話や畑活動を実践する。
2	計画・ねらい	給食残渣量の測定を継続的に行う
	実践結果	給食残渣の測定を子どもたちと継続的に行い、残渣量の変化を視覚化した。環境教育の一貫として、子どもたちに残渣量を減らす意義を伝えた。年長児中心に、自分で配膳したものは残さないという意識が高まった。
	次年度方向性	残渣量の測定を継続し、同時に食の循環や食の大切さを伝える。
3	計画・ねらい	コンポスト作りを行う
	実践結果	子どもたちとコンポスト作りを一緒に行い、食の循環を知る機会を作った。冬場の発酵が難しい時期があったが、一年を通して堆肥作りに取り組むことが出来た。
	次年度方向性	次年度も継続する。落ち葉を利用したコンポストも作る。

4	計画・ねらい	食材の皮や捨ててしまう部分を有効活用する
	実践結果	大根、人参、れんこん、じゃがいも等を皮つきで調理した。調理くずをコンポストに利用した。また、玉ねぎの皮を利用して染物の作成も行った。
	次年度方向性	利用方法を考え、実践していく。

〈6〉学ぶ集団となる

1	計画・ねらい	園長大学・保育士大学の講座を年間10回以上受講する
	実践結果	園長大学・保育士大学の講座を年間10回以上受講し、経験値別にその内容を園内で共有し、園全体のボトムアップを図ることを実践した。
	次年度方向性	講座受講を引き続き続け、保育の質の向上を目指す。
2	計画・ねらい	日々の事象に対する疑問を、子どもと一緒に解決していく
	実践結果	日々の事象で出会う自然、食べ物、行事、出来事等々に関する不思議について、戸外活動時に図鑑等を持参し、子どもと一緒に調べた。また帰園後も、子どもの不思議の芽生えを大切にし、調べ学ぶことを促したり、一緒に取り組んだりした。可能な限り、思考力を育むことを目指した。
	次年度方向性	子どもの不思議に寄り添うことを次年度も継続する。
3	計画・ねらい	行事に関しての理解を深め、保育に活かす
	実践結果	行事が単なるイベントにならないように、行事に関しての理解を深め、導入に注力した。絵本や歌、手遊び等を使って行事に対する意識を高め、理解が深まるよう努めた。
	次年度方向性	日本の伝統行事を大切にし、次年度も子どもたちの理解を深められるように努める。
	計画・ねらい	子どもの様子を共有する機会を多く作る
	実践結果	エピソード記録の作成を進め、内容を園会議で内容を共有し、子どもの姿を園全体で捉えていくようにした。
	次年度方向性	エピソード記録、ポートフォリオの作成を次年度も継続する。

〈7〉幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿の理解を深め、保育の質の向上を目指す

1	計画・ねらい	幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿の理解を深める
	実践結果	園内研修を通し、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿の理解を深めた。前月の子どもの姿から、各月のテーマに沿ったねらいを計画に盛り込み、10の姿を意識した保育が展開されるように努めた。総じてスタッフの意識が高まった。
	次年度方向性	学びを継続する。５領域、10の姿の学びを継続し、ねらいに盛り込んでいく。
2	計画・ねらい	各年齢の子どもの発達段階の理解を深める
	実践結果	園内研修、園長大学・保育士大学の講座を通し、子どもの発達段階の理解を深め、10の姿を絡めながら保育の質の向上を目指した。日々の子どもの姿を保育者間で共有し、発達段階を意識するよう努めた。発達段階を意識した保育が展開されるようになった。
	次年度方向性	学びを継続する。個々の発達段階を保育者間で共有する。発達段階を意識した保育を継続する。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半：4~9月	0人	60人	72人	62人	60人	45人	299人
年度後半：10~3月	0人	60人	72人	52人	60人	42人	286人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	179人	172人	192人	199人	142人	144人	184人	172人	177人	168人	160人	160人	2049人
うち0歳児	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人

〈2〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　（3月１日時点）

常勤スタッフ	保育士	9人	看護師	0人	栄養士	3人	調理員等	0人
パートスタッフ	保育士	2人	補助	0人	調理	0人	事務	１人
	用務	0人	嘱託医	0人				

3. 運営報告

〈１〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・事業計画書の園内研修予定に基づいた研修の実施
給食運営会議	月1回	各クラスの食事状況確認、献立振り返り
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット、インシデントの検証と分析
ケース会議	月１回	気になる子への関り方と対応について
クラス会議	月１回	保育計画の立案、振り返り、子どもの様子共有

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長

食育会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	園児及びスタッフの健康保持のために、保健的環境の維持向上に努め、衛生に対する意識を高めることが出来た。
安全対策係	施設内外の設備及び遊具の安全管理、点検を実施し、安全な保育環境の提供に努めることが出来た。
防火管理者	災害を想定した避難訓練や消防設備点検を実施した。避難訓練では、子ども自身が就学に向けて、自分の身の守り方を理解できるように支援し、意識を高めることが出来た。
食品衛生管理係	給食衛生管理マニュアルに基づいた対応の啓発、遵守を徹底し、スタッフの意識を高めることが出来た。
畑係	年間を通した畑活動の計画案を作成し、実施した。順調に収穫することが出来、食育活動に繋がった。
生き物係	金魚、ザリガニが年度途中で死んでしまったが、生死を知る機会となった。年度途中からカメとメダカの飼育を始め、子どもたちの生き物に対する興味が高まった。

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	どろんこ祭りの計画立案、運営
運動会係	運動会の計画立案、運営
生活発表会係	生活発表会の計画立案、運営

4. 保育支援

〈Ｉ〉保育･保育参加･保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育参加	4～3月まで　合計4名　が参加済み　　（3月Ｉ日時点） ・保育者の子どもへの対応について、お褒めの言葉をいただいた
保護者面談および発達相談	4～3月まで　合計23名　が参加済み　　（3月Ｉ日時点） ・園と家庭双方で子どもの様子を共有した。友だち関係で不安のあるご家庭には、個別で対応した。

〈2〉計画した年間行事の振返り

・別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

Ｉ	計画・ねらい	食事作りや準備に関わり、子どもの食への関心を広げる
	実践結果	野菜の下処理、米とぎを子どもと一緒に行った。食事の配膳当番を決めたり、年上児が年下児の配膳の手伝いをしたりして、食への関心を高めるよう努めた。バイキング給食を取り入れることにより、自分が食べることが出来る量を知ることが出来た。
	次年度方向性	野菜の下処理、米とぎ、食事の配膳当番、バイキング給食を次年度も継続する。
2	計画・ねらい	十分な遊びから自然とお腹が空く子ども、意欲的に食べる子を育てる
	実践結果	午前中の活動の充実をはかり、十分に遊び、自然とお腹が空くような状況になるように活動を展開した。
	次年度方向性	十分にお腹が空き、意欲的に食べる子どもを育てることを次年度も意識する。
3	計画・ねらい	命をいただく体験、残菜をコンポストに取り入れ、完成した再生土を利用し自ら栽培したものを食する事で、食に対しての愛着や感謝の気持ちを抱き、自然の恵み、命の大切さに気付く
	実践結果	スタッフが、命をいただく活動、コンポストや野菜栽培についての知識を高め、活動が充実したものとなるように努めた。魚を捌いて食する体験を実施し、命をいただく体験を行った。
	次年度方向性	命をいただく体験、コンポスト活動を次年度も継続する。
4	計画・ねらい	離乳食、アレルギー、口腔発達、食具の利用の仕方等について、適切な援助を行う。噛む力を育てることが出来るような援助を行う。

	実践結果	園長大学講座、園内研修を利用し、スタッフ個々が必要な知識を学び、適切な援助を行った。誤飲、誤嚥研修を実施し、子どもの食に対する知識の向上を行い、日々の活動に活かした。
	次年度方向性	保育に必要な食に関する研修を次年度以降も継続する。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月11日/11月12日に実施
歯科検診	6月5日、11月6日に実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 6月26日に園内で歯科講和を実施 ② 10月9日に園内で歯磨き指導を実施 ③ 12月13日に園内で性教育を実施
流行した感染症	① 9月にマイコプラズマ、園児4名感染報告有り。 ② 1月にインフルエンザA、園児7名、スタッフ1名感染報告有り。2月8日に終息
発作・痙攣等の対応	ダイアップ使用なし
エピペン使用できるスタッフの状況	・4月12日に園内でエピペン使用研修をスタッフ15名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ15名のうち、15名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	AED 設置無し
その他保険に関する取り組み	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行った。 嘔吐下痢、手足口病等が流行した際は、次亜塩素酸による消毒を実施し、感染拡大に努めた。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回/15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（法定1回/3年）	業者による対象物の法定点検 2023年実施済み ※対象物がない園及び JW 園は削除すること
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表/毎日	毎日実施
	衛生管理点検表/毎週	毎週金曜日実施
	衛生管理点検表/毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿/毎日	毎日実施
健康管理	予防接種状況･既往歴の確認/ 保険証期限確認	年2回/4･10月 ⇒4月30日、10月30日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回/20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回/6月11日、11月12日 歯科健診 各年2回/6月5日、11月6日
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回/4･10月の園会議時 ⇒4月12日、10月11日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回/園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	園内の整理整頓に努め、気持ちよく過ごすことが出来る園を目指す
	実践結果	清掃チェック担当者を決め、園内の整理整頓に努めた。

	次年度方向性	引き続き園内の清掃に努める。
2	計画・ねらい	発達段階を理解した上で、環境構成を行う。
	実践結果	子どもの発達段階を個々が学ぶと共に、担任会議、園会議で環境構成について話し合い、日々の環境構成を行った。ままごとや製作コーナーの充実、本の置き方、静と動の空間の設定等について力を入れた。
	次年度方向性	子どもの状況に応じて、日々環境を変え、最善の環境になるように、次年度も努める。
3	計画・ねらい	子ども達がいつでも休養できる環境を整備する
	実践結果	子どもが必要な時に体を休めたり、静かに本を読んだりすることが出来る環境を設定した。
	次年度方向性	長時間保育児に対するケア、子どもの情緒の安定を目指すために、引き続き子どもが休養できる環境を整備する。
4	計画・ねらい	戸外でも製作活動が出来るように準備する
	実践結果	自然物を利用した製作活動や、戸外での描画活動を行い、子どもの発想を満たすことが出来るような活動を意識し、実践した。
	次年度方向性	自然物を利用した製作活動や、戸外での描画活動を次年度も継続する。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	毎月の消防避難訓練、消火訓練の実施、水防訓練等を、年間の避難訓練計画通りに実施した。
2	実践結果	防災設備対策を（自動火災探知機、煙感知機、誘導灯、排煙等）２回実施した。
3	実践結果	年２回の不審者侵入訓練を実施した。具体的な場面を想定し、スタッフ間での意識を高めた。
4	実践結果	毎月係を中心に、ヒヤリハット、インシデント、事故記録簿記載による事故防止と、事故防止委員会による検討会議を行い、園会議で全員に周知した。
5	実践結果	４回、園内外のハザードマップによる危険個所の確認と安全確認の周知を行った。
6	実践結果	オートロックで外部侵入者の立ち入り禁止について、スタッフ間で場面を想定し、有事の際の具体的な対応を検討した。

7	実践結果	光化学スモッグ発生時には、市役所などの情報機関が発信する情報をチェックし発生時には屋外での活動を控えることを徹底した。また園内研修で、光化学スモッグに関する知識を学んだ。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

実習生、中高生の職場体験、小学生ボランティア等を随時積極的に受け入れ、未来の保育士育成に尽力するよう努めた。夏休みを中心に中高生や小学生のボランティアが多く来園した。都立東高校の生徒が２回来園し、交流を深めることが出来た。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
8月26～9月7日	日本児童教育専門学校	1人	保育実習
10月15～11月28日	日本児童教育専門学校	1人	見学実習

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
7月23日	第二砂町中学校	2人
7月29日	第二砂町中学校	2人
7月30日	城東高等学校	2人
7月31日	第二砂町中学校	1人
8月2日	第三砂町中学校	3人
8月7日	広尾学園高等学校	1人
8月8日	第二砂町小学校	1人
8月16日	広尾学園中学校	1人
8月19日	第二砂町中学校	2人
8月22日	第三砂町中学校	1人
8月23日	第二砂町中学校	1人

7．スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	12日 15名	10日 16名	14日 16名	12日 16名	9日 15名	13日 15名	11日 15名	8日 15名	13日 15名	10日 15名	14日 15名	14日 15名

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
6月20日	江東区医師会	保育園における医療的ケア	1名	有

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 1名	15日 1名	21日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	21日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	12月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加した											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募した											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8．地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

保育園が原体験の宝庫になるように、ちきんえっぐ活動を工夫し、ちきんえっぐだよりを地域に発行した。年間計画のもと、青空保育や商店街ツアー、世代間交流、異世代交流、銭湯活動を行った。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：南砂三丁目公園にて　　参加延べ人数：2名
商店街ツアー	週1回　主な行き先：イオン、江東区図書館、鮮魚村上、丸長、奉仕ストアー、東和銀行、けい歯科医院、城東警察署、佐野味噌、デニーズ、江東南砂郵便局等
世代間交流	9月26日によっちゃん家にて高齢者との交流（さんま焼き）を実施 11月29日によっちゃん家にて高齢者との交流（焼き芋作り）を実施
異年齢交流	9月17日、11月26日に園内で都立東高等学校生徒との交流を実施
その他活動	5月25日に園内で「わらべうたとお話」を実施 11月16日に園内でクラシエ協賛「つかめる水」実験教室を実施
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉　実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

小学校との交流活動、小学校見学を通じて小学校との交流を図った。職員研修の中で小学校学習指導要領を紐解き、スタッフが地域の保幼少中連携会議に出席することで、学習指導要領スタートカリキュラムとの接続が出来るように努めた。卒園児の小学校へのスムーズな接続を実現するために、保育所保育要録送付、児童情報申し送りの面談を実施した。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
6月12日	江東区立第二砂町中学校	1名	江東区連携教育の日	職員間交流
10月3日	江東区立第二砂町小学校	9名	授業参観	子ども・職員間交流
1月15日	江東区立第二砂町小学校	2名	江東区連携教育の日	職員間交流
2月20日	江東区立第五砂町小学校	9名	小学校1年生との交流	子ども間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

半期ごとの中期的な計画を立案し、見通しを持った支援が出来るよう努めた。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・４～３月に計12回開催　参加者：3名
前月の様子を踏まえ、次月の関わり方を検討し実践した。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

小学校へ保育所児童要録を提出し、電話や対面で個々の様子を丁寧に伝えた。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
6名	2名	0名	0名	2名	0名	2名	31名	1名	0名	0名	2名	46名

<table>
<tr><th>実施項目</th><th colspan="13">詳細</th></tr>
<tr><td>園開放</td><td colspan="13">（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　　来園延べ人数：24名</td></tr>
<tr><td>子育て相談</td><td colspan="13">（月）～（土）13:00～16:30　　⇒計0件相談実施済み</td></tr>
<tr><td rowspan="3">自然食堂
親子ランチ
交流</td><td colspan="13">毎週（月）10:30～11:30　　⇒計6回実施済み
参加者延べ人数</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>6名</td><td>2名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>2名</td><td>2名</td><td>2名</td><td>5名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>2名</td><td>21名</td></tr>
<tr><td rowspan="3">どろんこ
芸術学校
どろんこ
自然学校</td><td colspan="13">毎週（月）10:30～11:30　　⇒計1回実施済み
参加者延べ人数</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>4名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>2名</td><td>6名</td></tr>
<tr><td>勝手籠設置</td><td colspan="13">（月）～（土）7:00～20:00　にて実施
門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置</td></tr>
<tr><td>ちきんえっぐだより</td><td colspan="13">毎月1日発行</td></tr>
<tr><td rowspan="3">青空保育
（支援センター主催）</td><td colspan="13">月1回　　公園名：南砂三丁目公園にて　以下日程にて実施</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>2名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>2名</td><td>4名</td></tr>
</table>

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

特定非営利活動法人福祉総合評価機構に依頼して受審済み
アンケート配布日：9月17日
アンケート回答率（スタッフ）…100%／アンケート回答率（保護者）…81.8%
経営者ヒアリング・施設長ヒアリング・園審査：11月5日に実施

（省察）総合的な満足度は「大変満足」47.2%、「満足」44.4%の計91.6%の高い値を得た。設問別でも「発達に配慮した活動」「戸外活動」「整理・整頓」「ケガ・体調変化への対応」など高い支持を得た。また、保護者との日常のコミュニケーションや就労・負担への配慮、職員体制や行事・安全管理に関することで要望をいただいた。いただいた要望を踏まえ、より良い園運営を目指す。

〈2〉園による自己評価の実施

２０２４年１１月２５日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：９時００分
自己評価終了時刻：１１時００分
自己評価実施者：川島もえぎ、大塚裕美、関小梅

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：9月17日
アンケート回収率：81.3%

（省察）総合的な満足度は「大変満足」47.2%、「満足」44.4%の計91.6%の高い値を得た。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

No.	発生日	ケガ(事故)の状況とそれに対する対応結果
1	5月8日	（内容） アレルギー児が、おやつ後床に落ちていた食べ物を口に入れた。

		（対応結果） 直後に口を水ですすぎ、園内で様子を見た。体調等の変化はなかった。
2	l2月3日	（内容） 園庭で子ども同士が上に乗るような格好で遊んでいた際、下になっていた児が右鎖骨を骨折した。 （対応結果） 整形外科を受診。完治まで約２か月を要した。

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　作成者：メリー★ポピンズ南砂ルーム 施設長　抜井　佳代子

２０２４年度　メリー★ポピンズ 松山ルーム
事業報告書
（保育所における自己評価）

Ⅰ．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

今年度も、保育所保育指針並びに社会福祉法人どろんこ会の保育理念・保育方針に則り日々の保育を追求してきたが、そのエッセンスが少しずつスタッフに浸透してきた。園目標に掲げた「新・輝・一・転～新しいことに挑戦・子どもたちが輝くために・一歩前進・発展していく～に於いては、散歩先の距離を延ばしたり、生活発表会を園舎内・外で開催したりするなど、新たな取り組みを試みた。今後も、現状維持に満足することなく、子どもたちと共にチャレンジしながら前進していきたい。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	生活力の体得 （どろんこ会グループの日課・基本活動の実践）
	実践結果	基本活動に関しては、さくらさくらんぼリズム・雑巾がけ・座禅の日課を定時に開始が定着している。クラスによって登園時間に差があるため、朝ではなく、活動の合間に取り入れるなどして、全員が実施できる工夫をした。
	次年度方向性	畑仕事に関しては、仕事としての取り組み方が出来なかったので、次年度に向けての課題とする。
2	計画・ねらい	子どもの発達を理解し、心情に寄り添い適切な環境を保証 （園内研修にて子どもの発達について学ぶ）
	実践結果	各クラスからの子どもの様子を共有し、全員で同じ対応が出来るよう配慮した。
	次年度方向性	発達面に関しては、更に年齢ごとの学びを深め、心情にも引き続き寄り添える余裕ある関わりができるよう努めていく。
3	計画・ねらい	労働・食の循環を意識した食育活動 （食材や食の循環を知る直接体験をする）
	実践結果	食の循環を知る直接体験に関しては、コンポストを始めたことで畑への意識が高まったように思う。また、コンポストで出来た土を畑に使い、大根を育てることにも繋がった。２歳児のバイキング給食が定着したことで、食物残渣が減少してきた。
	次年度方向性	畑活動を労働として捉えることが課題である。来年度は、育てた作物から種を採り次年度に繋げていくことに挑戦してみたい。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	丁寧な保護者対応（相手の気持ちに寄り添う） 子どもの育ちの共有
	実践結果	連絡帳については、導準備時間を設けたことで、作業時間の確保はできた。
	次年度方向性	・連絡帳の内容や表現の仕方など、内容の精度をあげていく。 ・子どもの粗大の共有に関しては、ポートフォリオ・ドキュケンテーションの掲示頻度をあげていく。
2	計画・ねらい	保護者の皆さまと共に学ぶ
	実践結果	園長大学・保育士大学の保護者への公開開示が不可であったため、こちらでの学びは出来なかった。（事前に調べておくべきであった。）
	次年度方向性	日常行っている保育のねらい・意図を保護者に開示し、発達の進度・背景などを共有するために、わかりやすくお伝えする工夫をしていく。それが、伝える側にも、聞く側にも学びとなっていくと考える。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域に開かれた子育て支援の実践
	実践結果	・青空保育の集客が難しかった。 ・地域活動事業のチラシを近隣施設や、連携施設に掲示した。
	次年度方向性	・青空保育の集客に苦慮したので、次年度は開催場所を検討する。 ・地域活動事業に関しては、次年度も興味を持っていただける企画を工夫し、展開していく。
2	計画・ねらい	地域の様々なひととのつながりを大切にした子育ての実践
	実践結果	・異世代交流に関しては、小学生・高校生ボランティアとの関わりが持てた。特に、近隣の高校とは、一緒に散歩先で遊ぶ機会を設け、有意義な時間を過ごすことができた。 ・世代間交流は、近隣デイサービスへの月２回訪問で、お年寄りと歌を歌ったり、手遊びをしたりするなどふれあいがあった。
	次年度方向性	・異世代交流は、引き続き近隣高校との関わりを継続し、ボランティアにもたくさん来ていただけるよう、チラシを作成し、集客していく。 ・世代間交流は、施設の職員とも打ち合わせをし、内容の濃い関わりができるよう企画する。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	保育者自身のにんげん力の向上
	実践結果	・接遇力に関しては、保護者からのアンケート結果からも高評価をいただく。
	次年度方向性	・接遇力に於いて、高評価をいただく一方で、ご指摘いただく点もあったので、スタッフ一同で意識し改善していく。
2	計画・ねらい	リーダー育成
	実践結果	・それぞれのリーダーが年度当初、目標を立て実践した。 ・処遇改善リーダーが、分野ごとに課題提起し、実践していった。
	次年度方向性	・年度当初に目標を立てた事は、自分の役割を意識するうえで効果的であったが、常に意識しながら遂行していくことが難しかった。
3	計画・ねらい	MBO の充実
	実践結果	・MBO も目標値を具体的に立案した。
	次年度方向性	・目標値を数字で表記したことで、やるべきことが明確だったため、行動に移しやすかったようである。次年度も更に精度をあげ、目標設定していってほしい。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食材や食の循環・環境への意識を育む環境教育の実践
	実践結果	大根から切干大根にする作業工程を２歳児が体験し、ライブキッチンで、食すまでを経験した。
	次年度方向性	色々な種類の野菜たちで食の循環を体験できるような環境を設定する。 （にんじん・小松菜・豆苗等の水耕栽培）
2	計画・ねらい	食材の循環サイクルの実行
	実践結果	食の循環に関しては、コンポストの実践により出来たものを畑に戻し、大根を植えた。
	次年度方向性	畑で育てた野菜たちを食すだけではなく、種を採り、翌年種まきから育てるという循環が成立するよう丁寧な畑仕事を目指す。
3	計画・ねらい	畑仕事・生き物の世話
	実践結果	・種まき、水やり、収穫は、実践できていたが、仕事としての意識レベルには及ばなかった。 ・生き物の世話は、メダカのえさやり、かわえびのかんさつ、かたつむりのえさやりを行った。
	次年度方向性	・畑仕事を、日々の日課としての意識付けができるよう、保育者が率先して見本を見せていく。 ・生き物の世話は、命の大切さを学ぶ機会として、もっと熱心に日々観察し、興味を持って関わっていけるよう、保育者が背中をみせていく。

〈6〉五感を意識し、音・光・香り・風を感じ、表現する

1	計画・ねらい	日本の四季・行事を意識した取り組み
	実践結果	・畑で育てたスイカでスイカ割を実践 ・さつま芋のツルで、クリスマスツリー作り
	次年度方向性	日本の四季・行事を意識しながら日々の暮らしを過ごしてきたが、季節行事に関しては、クラス単位で子どもたちに話をした。次年度は、ペープサートや、紙芝居を多用し、わかりやすく伝えていくようにする。
2	計画・ねらい	五感で感じたことを言葉や様々な手法で表現し、子どもと共有する
	実践結果	日々の保育・散歩をする中で、乗り物の音、鳥のさえずりには良い反応があった。
	次年度方向性	次年度は、大人が感性を磨き、子どもの気付きに敏感に反応できるよう意識していく。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半：4~9月	66人	90人	89人	0人	0人	0人	245人
年度後半：10~3月	71人	90人	86人	0人	0人	0人	247人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	10人	13人	11人	16人	10人	14人	13人	13人	10	7人	4人	4人	125人
うち0歳児	2人	3人	2人	3人	4人	5人	2人	4人	3人	0人	0人	0人	28人

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
うち0歳児	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人

（解説）今年度は、利用者無し

〈2〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

常勤スタッフ	保育士	12人	看護師	1人	栄養士	2人	調理員等	1人
パートスタッフ	保育士	2人	事務	1人	嘱託医	2人		

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・
給食運営会議	月1回	食育・アレルギー対応児について確認、離乳食形態・未食確認
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット・インシデント・事故記録簿の検討
ケース会議	0回	今年度、該当者なし
クラスリーダー会議	不定期	クラス間の課題検討・調整等
クラス会議	不定期	月案指導計画・行事内容の県央・立案

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
食育会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、看護師
主任会議	年4回	主任
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	衛生管理全般
安全対策係	設備点検・事故防止点検の実施
防火管理者	防災計画の作成・設備点検の実施
食品衛生管理係	給食食材・提供食材の衛生管理、食材在庫状況の管理、残渣量チェック
畑係・生き物係	年間農業計画の遂行状況の確認、生き物の管理
備品係	保育材料・消耗品の在庫管理、発注

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	どろんこサポーターとの連携・補助

4. 保育支援

〈1〉保育･保育参加･保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	・移動保育時のバス出発時間にご協力いただき、登園時間を調整いただくことで、スムーズに出発することができた。 ・どろんこサポーター協力のもと、どろんこ祭りも共同開催できたことで、新たな保護者との関係性も築けたように思う。 ・近隣公園の閉鎖が続いたため、新しい散歩先を開拓したことで、長距離散歩（片道1.6㎞）が可能になった。
保育参加	4～3月まで　合計　4名　が参加済み　　（3月15日時点）
保護者面談および発達相談	4～3月まで　合計　4名　が参加済み　　（3月15日時点）

〈2〉計画した年間行事の振返り

・別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	３大食育方針の実践
	実践結果	２歳児はバイキング給食を開始したことで、自分で盛り付けて食べることは実践できた。また、大人も必ず子どもたちと一緒に食べるようにした。
	次年度方向性	２歳児のバイキング給食は引き続き実践し、１歳児に関しても、子どもたちの様子を見ながら、少しずつ自分で運べるように促していく。
2	計画・ねらい	畑・プランターで野菜を育て、調理して食べる
	実践結果	畑で育てたピーマンを収穫してすぐ洗い、子どもたちの目の前で、フライパンで炒めて食した。（ライブキッチン）
	次年度方向性	畑で育てた野菜は、なるべく素材の味を堪能できるようなかたちで食していきたい。
3	計画・ねらい	食事から季節感を味わう
	実践結果	季節に合わせた献立てが実践され、その意味を保育者が伝えた。より味わい深く食事を楽しむことができた。
	次年度方向性	季節感を感じながらの食事を大切にし、味わいながら豊かな空間を共有していきたい。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月18日／11月19日に実施
歯科検診	6月13日にメリー★ポピンズ 松山ルーム保育室にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	①6月12日にメリー★ポピンズ 松山ルーム保育室にて歯磨き指導を実施（２歳児対象） ②1月24日にメリー★ポピンズ 松山ルーム保育室にて歯磨き指導を実施（１歳児対象） ③通年：手洗いのタイミングでビオレ手洗いのうたに合わせて手洗いの習慣づけ ④4～６月：手洗いスタンプを使用し、不定期に指導
流行した感染症	①７月に、手足口病 6名 ②12月に、手足口病８名 ③２月に嘔吐・下痢 8名
発作・痙攣等の対応	対象者無し
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月にメリー★ポピンズ 松山ルームにてエピペン研修を保育スタッフ16名、調理スタッフ2名、事務スタッフ1名、計19名が受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ20名のうち、19名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	・5月15日にメリー★ポピンズ 松山ルームにて AED 研修を保育スタッフ16名、調理スタッフ3名、事務スタッフ1名、計20名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ20名のうち、19名が使用可能
その他保健に関する取組	感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み

	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（法定1回/3年）	業者による対象物の法定点検 2023年実施済み ※対象物がない園及び JW 園は削除すること
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月 ⇒4月30日、10月31日施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日　実施済み
	児童健康診断	内科健診　各年2回／6月18日11月19日 歯科健診　各年1回／6月13日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時 ⇒4月19日・10月18日　実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間　実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	常に気持ちの良い環境で、衛生的に整備された施設のもと、心地よく過ごすことが出来るよう施設内の美化に努める。
	実践結果	玄関・保育室・トイレ等、掃除チェック表に基づき、美化に努める事が出来た。
	次年度方向性	昨年度の振り返り同様、保育室の棚上、押し入れが乱雑になりがちなので、具体案を提示し片付ける仕組みを構築する。
2	計画・ねらい	子どもたちの成長・発達に必要な物・事を常に意識し、保育環境の整備に努める。
	実践結果	環境チェックの期日を明確にしていなかった為、子どもたちの成長・発達に見合った環境の提供が不十分あった。
	次年度方向性	年に3～4回の見直し時期を設定し、都度検討していく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

現在、手作り遊具・家具無し

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果 防災	消防計画に基づき自衛消防隊を編成し、避難訓練を月１回
2	実践結果 ケガ事故防止	事故防止チェックリスト年４回設備点検年６回を行い事故防止の徹底を図った。また、マニュアルある園外保育・遊具等の保育士行動指針の徹底を図った。
3	実践結果 事故防止	事故防止委員会によるリスクマネジメント インシデント・ヒヤリハット報告の分析・共有/改善案を検討し実践
4	実践結果 防犯	年２回防犯チェックリストに従い確認し、併せて不審者訓練を実施
5	実践結果 光化学スモッグ	光化学スモッグ発生しやすい気象条件・影響・光化学スモッグ注意報を把握し発令があった場合は、内容にあった看板・貼紙等を提示するとしていたが、実施には及ばなかった。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

保育士養成校からの受け入れが無かったので、現場の保育士の学びの為にも、次年度は受け入れをしていきたい。
高校生のボランティアは、当園を希望して来てくれたので、今後の繋がりを大事にしていきたい。
中学生の職場体験に来てもらえるよう、近隣の中学校に働きかけを実践する。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
2月10日～2月14日	東京工科大学	1名	観察実習

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
7/22・24.8/5	高等学校	1名
12/26	大妻女子高等学校	1名

7．スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	30日 20名	31日 20名	28日 21名	31日 21名	30日 21名	30日 21名	29日 21名	29日 20名	28日 20名	31日 20名	28日 20名	31日 20名
園内研修	19日 20名	17日 20名	21日 21名	19日 21名	16日 21名	20日 21名	18日 21名	15日 20名	20日 20名	24日 20名	— —	3日 20名

〈2〉外部研修への出席

外部研修への参加なし

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 1名	15日 1名	26日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	11月動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	志願者無し											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8．地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

「選ばれる園作りを目指す」をテーマに、地域の方々との交流を意識して行ってきた。小学生・高校生のボランティア希望者が昨年度より増え、少しずつ認知度が上がってきたようである。青空保育の集客に苦戦した点が、来年度への課題となった。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：松山公園にて　　参加延べ人数：0名
商店街ツアー	週1回　主な行き先：魚三九、清瀬松山郵便局、マルコー、幸文堂、西友 ココカラファイン、シカゴチキン小糸うどん、花の店白樺、小寺精肉店 みんなのたこ公園、松村輪業、サンリオショップポッポ等
世代間交流	年3回メリー★ポピンズ 松山ルームにて、「おはなしかご」実施 3月　メリー★ポピンズ 松山ルームにて「スティールパンの調べ」実施
異年齢交流	2月19日メリー★ポピンズ 松山ルームにて「マジックショー」開催 清瀬高校の学生と交流
シニア交流	毎月2回、サニーライフ（通所デイサービス）を
地域拠点活動	小学生・高校生ボランティアの受け入れ 東京工科大学言語聴覚士志望の学生の受け入れ
銭湯でお風呂の日	対象児無し

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

小学校との子ども間交流・職員間交流無し

〈2〉具体的な連携

具体的な連携無し

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

今年度、対象園児なし

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・要支援の対象児童は不在であるが、気になる児童についての共有を行った。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

・進級先より、聞き取りがあった場合は情報共有する。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
37名	12名	21名	135名	18名	60名	12名	32名	13名	25名	117名	72名	554名

<table>
<tr><th>実施項目</th><th colspan="13">詳細</th></tr>
<tr><td>園開放</td><td colspan="13">（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　　来園延べ人数：　0名</td></tr>
<tr><td>子育て相談</td><td colspan="13">（月）～（土）13:00～16:30　　⇒計0回実施済み（園見学時の相談は有り）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">自然食堂
親子ランチ
交流</td><td colspan="13">毎週（水）10:00～12:00　　⇒計24回実施済み
参加者延べ人数</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>0名</td><td>1名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>1名</td></tr>
<tr><td rowspan="3">どろんこ
芸術学校
どろんこ
自然学校</td><td colspan="13">毎週（水）10:00～12:00　　⇒計　6回実施済み
参加者延べ人数</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>1名</td><td>0名</td><td>1名</td></tr>
<tr><td>勝手籠設置</td><td colspan="13">（月）～（土）7:00～20:00　にて実施
門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置</td></tr>
<tr><td>ちきんえっぐだより</td><td colspan="13">毎月1日発行</td></tr>
<tr><td rowspan="3">青空保育
（支援センター主催）</td><td colspan="13">月1回　　公園名：松山公園にて　以下日程にて実施</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td></tr>
</table>

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

学研に依頼して受審済み
アンケート配布日：7月22日
アンケート回答率（スタッフ）…100%／アンケート回答率（保護者）…97.4%
経営者ヒアリング・施設長ヒアリング・園審査：11月27日に実施

（省察）
【特に優れている点として評価いただいた点】
・職員自身が自分で考え行動する力を育む事で、どろんこ会グループに理念に沿った保育に繋げている。
・職員同士の関係が良好で、情報共有や意見交換、提案が活発に行われ、子ども中心の保育実践と業務連携の強化につながっている。

【さらなる取り組みが期待される点】
・目指す保育カノレベルアップについては、現在継続して取り組んでいる活動の中で実践してはどうか。
・園を地域に深く根ざし、地域と共に子育てを行なう園としてアピールするために、地域活動の活性化に加え、集客増のさらなる工夫に期待。

上記のコメントをいただく。

〈2〉園による自己評価の実施
２０２４年5月３０日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：9時00分
自己評価終了時刻：12時00分
自己評価実施者：施設長、主任、分野別リーダー

〈3〉利用者アンケートの実施
施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：7月２２日
アンケート回収率：100%

（省察）
第三者評価のアンケートと内容が重複してしまうため、法人の利用者アンケートは通常の
ものより、設問数の少ないもので実施。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見
報告すべきご意見無し

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）
報告すべきケガ（事故含む）　0件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：メリー★ポピンズ 松山ルーム 施設長　相沢 由美

２０２４年度　篠栗どろんこ保育園　事業報告書
（保育所における自己評価）

１．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

篠栗どろんこ保育園・発達支援つむぎ 篠栗ルームが様々な背景のある子どもたちの場として、両者のスタッフが共に協力しながら一つの組織として一人ひとりの子どもについて共有した。子どもの長所、子どもの持っている力をどのように発揮させていくかをさらに追及していくことが必要である。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

１	計画・ねらい	つむぎ篠栗ルーム併設開所に際して、子ども一人ひとりの姿に応じた養護をきめ細やかにし、実質的な体験を大切にしながら毎日の保育内容を丁寧に実践する。
	実践結果	四季を感じられる戸外活動や趣のある乳幼児の生活をするという実践について、広い園庭の有効活用、異年齢での関わりを大切に、活動を展開した。
	次年度方向性	スタッフ間で、丁寧な関わりとは何かを両施設のスタッフが子どもの姿を話し合いながら実践していく。
２	計画・ねらい	園内にとどまらず、様々な環境（ひと・もの・とき）に慣れ親しみ、子どもも大人も豊かな経験をする。
	実践結果	戸外に出たときは、たくさんの方と触れ合う中で、徐々に地域のことを知る機会が増えつつある。また、散歩をする中で、子どもたちが自ら経験できることも増えつつある。
	次年度方向性	地域の中でともに育ちつつある保育園の確立のために、積極的に地域を知り、経験を積んでいく。
３	計画・ねらい	温かい言葉、温かい食事といった子どもにとってうれしい人と温かい心配りに囲まれる深い愛情を基本とした生活を送る。
	実践結果	歌やリズム運動、食育、ふれあい遊びなど子どもが興味関心を持ったものを楽しむ姿が見られた。
	次年度方向性	子ども一人ひとりに応じた言葉がけ、一人ひとりの子どもを尊重した対応を意識しながら、保育教育の質の向上を目指していく。

〈２〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

１	計画・ねらい	つむぎ篠栗ルーム併設開所に際し、保育内容や保育目標、保育理念についての説明を丁寧にし、不安なく利用してもらえるように特に気を配る。
	実践結果	併設園についてその意義や必要性など入所時に丁寧に説明をしたことにより、保護者からの不安などを聞くことはなかった。
	次年度方向性	つむぎを利用している子どもについてだけでなく、何故、インクルーシブが必要かを引き続き丁寧に説明していく。

2	計画・ねらい	幼保連携型認定型子ども園・つむぎ篠栗ルームの併設園として養護と教育が一体となった生活を丁寧に担保しながら様子を保護者と共有していく。
	実践結果	運動会、生活発表会などの行事には保護者も積極的に参加し、子どもの成長を喜び合うことができた。ポートフォリオなどのヴィジブルな情報については不十分さが残る。
	次年度方向性	保護者に、施設の取り組みを積極的に発信するためにはどのような方法が良いか検討していく。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域に開かれた子育て支援を実現すべく、保育園や園庭を活用した支援活動を行う。
	実践結果	園庭開放や保育室の開放、離乳食についての講座開催などを予定していたが、地域へのアナウンスの仕方が充分ではなかったため、充分な集客は望めなかった。
	次年度方向性	散歩、商店街ツアーなどの積極的な活用、地域の方の資源などを活用しながら親子の方々に施設を利用してもらうよう工夫する。
2	計画・ねらい	子育て世帯を取り巻く様々な人とのつながりのきっかけを見つけ、実際につながり広がっていくためのフィールドつくりを始める。
	実践結果	Doronko＋Tsumuide パークは、実践できずじまいになってしまった。
	次年度方向性	異世代交流の場としてどのような取り組みを行っていくか、再検討をし、決定したことを実践していく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	乳幼児の発達の道筋や連続性をとらえ、生活や遊びを明るく楽しく穏やかに展開しながら、子ども一人ひとりを大切にできる保育教諭として成長していく。
	実践結果	教育的な教育だけではなく、養護の温かい心配りを教育として捉えた日々の丁寧な生活、幼保連携型子ども園教育保育要領にかかる乳児期の育ちと3つの視点、幼児期の育ちと５領域や１０の姿についての学びについては日々、子どもへの対応は適切だったかを確認しながら対応してきたが、不十分な部分もある。
	次年度方向性	日々の子どもの姿を的確に捉え、様々な手法を用いて子どもにとっての応答的な対応は何かを追求していく。
2	計画・ねらい	子供も大人も一人ひとりが尊重される園を目指し、その人の持ち味やチームワークが生かされる保育教育を行う。
	実践結果	畑や動物飼育の役割分担、コンポストでの堆肥づくり＋ヴィジブルな保育評価などの幅広い取り組みを行うという点において、子どもが主体となった仕事の位置づけに苦戦をした結果になった。
	次年度方向性	畑や生き物の世話は子どもが行うべき仕事として位置づけ、スタッフが行うことではないということを意識し名あら子どもとともに労働として行う

		ことの意義を再度、確認する。
3	計画・ねらい	食の循環サイクルの実践を行う。
	実践結果	食の残渣を記録し、グラフで可視化や実際に天秤に乗せるなどし、子どもが関心を持ち残渣が少なくなるように工夫するということを予定していたが、子どもが自分で食べられる量を盛り付けるということができず、たくさん盛り付けては捨てるという繰り返しであった。４期に入って、大人が意識することによって、少しずつ食べられる量を盛り付け、食べ物を大切にするという意識を持つ子供が増えつつある。
	次年度方向性	子どもが楽しく食することを基本としながら、大人が意識して子どもに係ることにより、食の大切さを知らせていく。

〈５〉環境実施目標

1	計画・ねらい	保育事業及び子育て支援事業の両方を通し、篠栗どろんこ保育園・つむぎ篠栗ルームの環境そのものが地域における総合的な学びの場、相互的な育ちの場になる事を目指す。
	実践結果	温かく美しいうるおいのある園になっていくという実践予定については、子どもの意欲や意識を巻き込みながら継続して行うという実践予定については試行錯誤をしながら、前に進もうとスタッフ同士が意識しあいながら前進していった。
	次年度方向性	計画した事柄においてはすべてのスタッフの意思統一を図りながら見通しを持って実践していく。
2	計画・ねらい	食材や食の循環、環境への意識を育む環境教育を実践する。
	実践結果	子どもが自ら野菜の種まき、水やり、雑草抜き、収穫、加工などを経験するという基本的な行動は年度末になるに従って、寒さで土が凍ったり、生長しようとする苗を鳥などに食べられたりなどのアクシデントがあり、それに対して子どもの意識が希薄だった姿勢が見られ、畑仕事を継続的に行っていなかったことを猛省する。
	次年度方向性	スタッフ一人一人が畑仕事に意識を持って子どもと取り組むことを念頭に置き、継続的に日々の日課として行っていく。
3	計画・ねらい	食の循環サイクルの実践を行う。
	実践結果	食の残渣を記録したり、コンポストを設置し野菜くずやヤギの糞等で堆肥を作る経験を売ったりという点において、堆肥になる過程をスタッフが子どもと一緒に確認する作業に不十分さが残る。
	次年度方向性	係を設置し、日々、子どもと一緒に作業を行うことにより、真のリサイクルの意識を培っていく。

〈6〉インクルーシブ保育の実践

1	計画・ねらい	子ども園、つむぎ篠栗ルームの子ども一人一人を多面的に捉え、肯定的に子どもを理解しようとする。
	実践結果	園内研修で、子どものエピソードを基にした考察の機会を設けたり、話し合いの場を多く持ち、子どもの発達理解に努めたりするという実践予定については、リフレクションをする機会が少なかったためか、エピソードを基に発達の理解に努める点において多面的な捉え方、スタッフの意識統一については若干、不十分だった。
	次年度方向性	リフレクションなどの手法を用いて、子どもを多面的に捉えたり、子どもの長所や力を培っていったりすることを意識しながら保育教育を進めていく。
2	計画・ねらい	自然に協働するチームを構築する。
	実践結果	共に協力し合う体制を取り、互いの専門性を活かしあいながら高めていくという点において、併設園としてスタッフ同士が混ざるという意識はあるものの、もう一歩一つの組織としてスクラムを組むことが必要である。
	次年度方向性	日々の保育教育、行事等、すべてにおいて、一つの組織としての意識を持ち互いに高めあいながら進めていく。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半：4~9月	36人	72人	112人	145人	170人	134人	669人
年度後半：10~3月	42人	72人	113人	165人	174人	151人	717人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	183人	184人	162人	164人	103人	140人	174人	173人	164人	154人	1451人	150人	1896人
うち0歳児	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	7人	7人	11人	10人	10人	45人

（解説）1年間を通して利用状況にさほどの変化は無い。

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	4人	2人	4人	2人	2人	7人	4人	9人	9人	8人	9人	9人	69人
うち0歳児	2人	2人	2人	1人	1人	4人	4人	5人	5人	4人	5人	5人	39人

（解説）1年間を通じて月の利用人数はさほど多くない。

〈2〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

常勤スタッフ	保育士	16人	看護師	0人	栄養士	1人	調理員等	2人
パートスタッフ	保育士	0人	補助	1人	調理	0人	事務	1人
	用務	0人	再雇用スタッフ	0人	嘱託職員	0人	嘱託医	1人

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・行事などについての話し合い
給食運営会議	月1回	子どもの喫食状況・食具の確認・アレルギー児確認
事故防止委員会	月1回	インシデント・ヒヤリハットなどの分析及び対応策の検討等
ケース会議	月1回	個別配慮児についての共有、成長の姿・課題の検討等
週会議	週1回	共有事項・課題の検討など

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
食育会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長
主任会議	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士
併設園会議	年2回	施設長

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	児童保健衛生に係る身体測定・定期健康診断・歯科検診などの実施と保護者との連携、施設の清掃と衛生管理・消耗品・備品管理・感染症予防対策、園内外の環境状況の管理など、役割を明確にし、ほぼ滞りなく進めることができた。
安全対策係	避難訓練の実施、防災自主点検の実施管理、園内外の設備点検及び事故防止点検の実施など計画に合わせて行うことができた。
防火管理者	施設内外の火元の管理、消防計画の作成と届け出、防災・消火についての毎月1回のスタッフ訓練と日常的な啓もうを行うなど、計画に基づいて実施する。
食品衛生管理係	給食食材及び提供食材の衛生管理と在庫状況の管理を実施。
畑係	畑状況の管理、道具類の維持補充、乳幼児や職員の畑活動の把握や課題検討におけるイニシアチブの係であったが、子どもと一緒に行うことが充分にできず、来年度の課題である。
生き物係	飼育動物の健康管理、乳幼児や職員の生き物飼育活動の把握や課題検討を行う係として役割分担を行ったが、子どもと一緒に仕事をするという点においては不十分であった。

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	どろんこサポーターズがまだ存在していないため、スタッフがどろんこ祭りを開催する。次年度は、早めにどろんこサポーターズを募集し、スタッフとともに開催する。

4. 保育支援

〈I〉保育･保育参加･保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	・自然に恵まれた立地条件、広い園庭を利用して最大限、戸外遊びを展開する。 ・身近な大人や異年齢と触れ合い遊ぶ中で、人への関心や気持ちのふれあいをできるだけ経験できるように活動の充実を図る。 ・子どもたちの興味関心、発達に応じた考える力を培うように取り組む。 ・友達との関わりに中で、自分の気持ちをことばや行動で表現しあう経験を多く持つようにする。
保育参加	4～3月まで　合計２名　が参加済み　　（3月3日時点） ・保育参加の意義が保護者に浸透していないので、次年度は年度当初より積極的に保育参加を伝えていく。
保護者面談および発達相談	4～3月まで　合計2名　が参加済み　　（3月3日時点） ・子育てに不安を抱いている保護者も少なくないので、共育ての観点からも、次年度は積極的に声をかけ子どもについて共に考えていくようにする。
運営委員会	該当なし

〈2〉計画した年間行事の振返り

・別紙「２０24年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

I	計画・ねらい	どろんこ会の食育方針（I）調理員・保育士・施設長は子どもと一緒に食べる　（2）噛む力を育て素材の味を味わえる状態で提供する　（3）子どもが自分たちで盛り付け・配膳して食べる　を基本として食欲を育てるという3つの柱を基本として子どもの食欲と意欲を育てていく。
	実践結果	特に（3）においては、食べられる量を食べたい友達同士で食べるという点において、もう少し、一人ひとりへの丁寧な関わりが必要であった。

	次年度方向性	子どもが主体的に行動できるように、スタッフ同士で一人一人の子どもの状態を把握しあい、丁寧に応答的に関わる。
2	計画・ねらい	日常の生活に密着した楽しい食育を充実させる。分かち合うことのすばらしさや大切さを感じられるようにエ夫する。
	実践結果	異年齢児の中で、食べたい子どもたちから食事に向かうというスタイルが徐々に定着し、子どもが自主的に行動する姿が見られるようになる。
	次年度方向性	年齢が低くても子どもが他の芯で食に向かうにはどのような方法があるかをスタッフ同士で考え実践していく。
3	計画・ねらい	ｌ年を通して安心できる環境の下、縁側や戸外で気持ち良く食べる。友だちや身近なおとなと親しみをもって楽しく食べる。
	実践結果	施設の構造上、夏は暑く、冬は寒い中でｌ年を通して縁側で食事をすることは難しい面があった。
	次年度方向性	なるべく戸外での楽しい食事をするために、どのような工夫ができるかを検討していく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	5月28日/ｌ2月3日に実施
歯科検診	7月ｌ6日/ｌｌ月6日に実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年ｌ回実施
スタッフ検便	毎月ｌ回(全ｽﾀｯﾌ対象)
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	歯磨き指導､手洗いうがい指導
流行した感染症	無し
発作・痙攣等の対応	ダイアップ・・・預かり無し
エピペン使用できるスタッフの状況	本日現在ｌ名が研修し、習得済

AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	本日現在、1名が研修受講し、習得済み
その他保健に関する取組	新型コロナウィルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回/15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（法定1回/3年）	業者による対象物の法定点検 2023年実施済み ※対象物がない園及び JW 園は削除すること
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表/毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表/毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表/毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿/毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
健康管理	予防接種状況･既往歴の確認/保険証期限確認	年2回/4･10月 10月4日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回/20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回/5月28日、12月3日 歯科健診 各年2回/7月16日、11月26日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回/4･10月の園会議時 ⇒4月26日、10月25日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回/園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	子どもたち自身の生活や遊びは子どもたち自身でまかなうことができるよう、乳児期の育ちをとらえ児童処遇を考察し、環境設定や環境構成を具体的かつ意図的に整え、継続的に点検と整備、改善を具体的に行う。
	実践結果	認定こども年への移行期間の工事個所について安全の確保を第一に考慮していくことができた。
	次年度方向性	広い敷地内において、改善すべき点もあるため、計画的に粛々を進めていく。
2	計画・ねらい	新型コロナウィルスに係る外出自粛要請などの特別な措置が講じられた場合、活動内容の縮小や制限により子どもの育ちや学びが大きく阻害されないよう特に配慮し、新たな工夫や構想を以て健全な成長発達に確実に寄与していく。
	実践結果	活動自粛もなくなり、園庭など戸外での活動を主とした感染しない環境と体つくりという点においては自然が充実している地域での戸外遊びを満喫することができ、感染症の拡大もなく1年間を過ごすことができた。
	次年度方向性	子どもの主体性を重んじ、さらなる地域での活動の幅を広げていく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

該当なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	防災管理マニュアルの災害対策に則り、有事の際にはフローチャートに従うことをスタッフに周知し備えることができた。また、毎月の避難訓練などは滞りなく遂行することができた。
2	実践結果	危機管理マニュアルの怪我防止策・安全点検と保全に則り設備点検のチェックの実施、安全教育、SIDS 防止策などを徹底して行った。
3	実践結果	危機管理マニュアルの不審者対策に則り、訓練の実施、笛の形態、代理送迎者の把握、不審者情報の収集と共有などを確実に実施した。
4	実践結果	危機管理マニュアルの光化学スモッグ対策に則り、光化学の知識を身に付け、注意報の発令の把握をスタッフに周知した。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

要望があった学校からの実習生はすべて受け入れることができた。また、責任実習で来園した実習生２名は、そのまま、今年度、職員として入職する。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
5月27～6月7日	中村学園短期大学	1人	責任実習
7月1～12日	九州産業大学人間科学部	1人	責任実習
2月12～26日	三幸学園福岡子ども専門学校	1人	見学実習
3月3～14日	純真短期大学	1人	見学実習

※ 責任実習をした2名の実習生は当園の保育教育を体験し、２０２５年度、入職予定

〈3〉中高生の受入

該当なし

7．スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	26日 29名	24日 29名	21日 31名	26日 27名	23日 28名	27日 28名	25日 29名	15日 26名	26日 22名	24日 26名	21日 26名	21日 26名

〈2〉外部研修への出席

該当なし

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	21日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	12月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	該当無し											

ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	該当無し

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

法人理念における保育方針「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーションにある通り、園外に出かける近隣住民や身近な人と様々なかかわりを経験し、子どもたち一人ひとりが地域に愛される存在になるよう計画し実践するという点において、商店街ツアー、世代間交流など計画的に実施し、篠栗どろんこ保育園の存在を知ってもらう機会になった。また、年度末には近隣の農家の方からの申し入れで、当園の畑の管理など協力依頼があるなど、関わりの広がりを見せている。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：中町区健康広場にて
商店街ツアー	週1回　主な行き先：中部消防署、篠栗駅、村島饅頭店、ヤマヤファクトリー、ライト紙工、スモールハピネス、編照院、珠林時、マルキョウ、アイサイクル、西日本新聞店、ミスターマックス、大師饅頭店、社会教育センター等
世代間交流	10月31日に篠栗どろんこ保育園にて浜江園の方を招いて実施
異年齢交流	該当無し
その他活動	該当なし
銭湯でお風呂の日	該当なし

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

子ども園における遊びや生活を通しての体験を中心とした総合的な指導と、小学校における時間割に基づき教科・教材を用いて学習を行う教育への円滑な接続に向け、アプローチカリキュラムを策定

していくという予定ではあったが、小学校との交流に苦戦し、なかなか広がることがなかったので来年度は年度当初より、積極的に小学校の交流を明確にしていく。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
6月4日	篠栗小学校	23名	篠栗小学校（校庭）	子ども間交流
9月30日	篠栗小学校	２名	当園幼児保育室	子ども間交流
11月21日	北勢門小学校	１名	支援会議	職員間交流
3月18日	篠栗小学校	25名	小学校見学	子ども間交流
3月19日	勢門小学校	１名	園児情報交換会	職員間交流
3月21日	篠栗小学校	１名	園児情報交換会	職員交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

特別支援が必要な乳幼児については、個別に保育計画を作成し、家庭や関係機関と連携しながら計画的かつ継続的に一人ひとりに応じた保育内容や配慮を実践するという点について、支援計画の作成は行っているものの、有効的・効果的に継続させていくことについて、若干不十分さが残るため、次年度は紬のスタッフも交えて計画、見直しをしていく必要がある。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・４～３月に計12回開催　参加者：毎回７名から８名参加

当初予定していた子ども以外にも、ケースとして職員の共通理解を得る子供もいるため、つむぎスタッフも交えて、時間を有効的・効果的に使いながら職員の共有認識を行いスタッフが同じ視点で対応し、その結果、どうだったかを次回に活かしていくことが必要である。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

在園児においては、担当変更がある場合は細部にわたって子どもの様子を引き継いでいく。

今年度、個別配慮児で就学売る子ども無し。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　　来園延べ人数：７名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週（水）10:00～12:00 参加者延べ人数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名

どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週（水）10:00～12:00 参加者延べ人数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名

勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00　にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育 （支援センター主催）	月1回　　公園名：中町健康広場にて　以下日程にて実施

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

2025年3月25日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定。
自己評価開始時刻：14時00分
自己評価終了時刻：17時00分
自己評価実施者：黒川　裕子、藤井　美香、川原　英樹、中島　静香

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：8月25日
アンケート回収率：60%

（省察）アンケートに対するご意見は特になかったが、アンケート内に寄せられたご意見に対してのフィードバックに不十分さが残る。保護者との共育ての観点から、来年度は丁寧なフィードバックを心掛ける。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

該当なし

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

「報告すべきケガ（事故含む）　0件」

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：篠栗どろんこ保育園 施設長　黒川　裕子

２０２４年度　内箕輪どろんこ保育園　事業報告書
（保育所における自己評価）

1. ２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

子ども自身が自ら遊びや生活に関わるため、何が必要なのかをスタッフで検討してきた。基本的な生活の流れにおいては、子どもたちが主体となって子どもたちの力で創っており、必要なところで適宜スタッフが間に入るよう心掛けていた。しかし、遊びの中では子どもたちの姿とスタッフのイメージがすり合わなく、大人が主体となっている場面もあった。子ども自身が１日を振り返ることや、以前の活動の写真を見ながら振り返る中で、子どもたちのつぶやきを拾い、次へのアプローチを考えるなど、子どもたちの姿を主体として検討をし続けたい。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	子どもの発達と子どもに対する理解を深める
	実践結果	子どもの姿を共有する場を設けたことで、フロアのみでなく園全体で子どもの姿を共有することができたが、共有をするスタッフに偏りがあったと感じる。
	次年度方向性	引き続き子どもの姿を共有する場を設けると共に、各スタッフで多角的な視点で子どもの姿を捉えられるようにしていく。
2	計画・ねらい	子どもが育とうとする力を支えられるよう、知識や技術の向上に努める。
	実践結果	毎月の園会議の場で、質向上のための講義やディスカッションを行った。ディスカッションを行う中で、各フロアの課題も抽出したことで、少しずつではあるが、歩みがあったように感じる。
	次年度方向性	保育者が学び続けることや課題の抽出をしていくことは、常に必要であるため次年度も継続的にディスカッションの場を設けていく
3	計画・ねらい	子ども達が安心して過ごせる環境づくりを行う
	実践結果	子どもたちの姿の合わせ、適宜環境を見直していたが、子どもの興味から先手で構成していくことに課題が残った。ただ、１年を通して子どもたちの好きな遊びができる環境あった。
	次年度方向性	子どもたちの興味関心や、保育者の願いを込めた環境構成を良く考え、子どもたちにアプローチしていくことを重点的に考えたい。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保育の可視化・運営面の可視化
	実践結果	デイキャンプや鶏小屋作成など保護者との交流が多くあった年であった。保育参加の件数も昨年よりも多くなり、園での活動を見ていただき時間が増えた。タイムラインや連絡帳などの内容をさらに深めていきたい。

	次年度方向性	園での活動を更に保護者の方に発信できるよう、タイムラインや連絡帳、おたより機能の活用を深めていくと共に、保護者参加行事の参加率も上げていき、より園での活動を知っていただきたい。
3	計画・ねらい	安心・信頼できる保護者対応
	実践結果	1家庭毎丁寧にお迎え対応をすることを心掛けたことで、お子様の様子を細かく伝えることができたと実感しているが、お迎え時間が重なるタイミングで、お待たせしてしまう場面や、対応できずにそのままお帰りになる場面もあった。
	次年度方向性	お迎えが重なる時間での対応方法を全スタッフで検討し、お待たせせずとも対応ができるよう工夫していきたい。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域性、地域の文化、地域のニーズについて積極的に情報収集する。
	実践結果	物理的に円買いの情報収集に努めることができなかった。ただ、自治体での連絡会に参加することや、近隣系列園との関りを持てたことは、大きな進歩と考える。
	次年度方向性	地域の方に保育園を知ってもらう機会を多く持つため、園外での発信を心掛けていきたい。
2	計画・ねらい	心地よく過ごせる環境づくりに努める。
	実践結果	電話での対応に関しては、丁寧に質疑応答ができたと実感している。園内の衛生面でも綺麗な状態は保たれていることから、気持ちの良い空間を提供できている。
	次年度方向性	ちきんえっぐを利用した地域の方が、地域の情報をキャッチできるような環境を整えていきたい。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	保育者が主体的に保育を楽しもうとする
	実践結果	園長大学・保育士大学の動画視聴や園会議での学びの場を設けたことで、インプットの機会を多く持てた。
	次年度方向性	各スタッフが学んだことをアウトプットする場を設け、周りのスタッフへのインプットに繋げることと、アウトプットしたスタッフが更なる学びの深まりとなるような環境を整えたい。
2	計画・ねらい	建設的に対話ができる関係性の構築
	実践結果	ディスカッションの場では、施設長・主任が入り過ぎず、各グループのファシリテーターに任せることで、言葉が飛び交うような対話ができていたと感じる。
	次年度方向性	ファシリテーターとなる人材には、コミュニケーションの手法や技法を用いて、対話の質が向上できるよう学びの場を設けていく。

3	計画・ねらい	誰が見てもわかりやすい情報共有の仕組みづくり
	実践結果	チャットを活用した情報共有が良くできていたと感じる。パートスタッフからもチャットを使えば良いという提案が出る程、浸透してきている一方で、チャット機能を増やすこととなり、確認すべき箇所が増えてしまった。
	次年度方向性	継続的にチャット機能を活用していくが、必要か不要かをスタッフが精査していくことが業務を円滑にしていくことに繋がると感じている。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	様々な物の循環を知る。
	実践結果	コンポストを作成し子どもたちと共に、たい肥作りを体験できた。体験から感じる場面は多くあったが、学びの場を子どもたちに提供できなかった。
	次年度方向性	子どもたちと振り返りの場を持ち、体験と対話が繋がり子どもたちの知識となるよう努めていく。
2	計画・ねらい	様々な生活の知恵を知り、工夫によって豊かに暮らせることを知る。
	実践結果	知恵に繋がるような体験活動を行っていたが、連続性を意識できていなかったため、子どもたちの知識となっていないように感じる。
	次年度方向性	体験を継続的に行い、連続性を意識した生活を提供していく。

〈6〉インクルーシブ

1	計画・ねらい	園・つむぎの子ども一人ひとりを多面的に捉え、肯定的に子どもを理解しようとする
	実践結果	子どもの姿を共有する場を設けることができ、今現在の心情など各スタッフが知ることができた。
	次年度方向性	会議体などを園・つむぎ協働に行いより深い子ども理解に努めたい
2	計画・ねらい	自然に協働する関係性の構築
	実践結果	様々な専門性を活かし子どもの姿について報連相を行うことができたが、地域に向けた発信などに課題が残った。
	次年度方向性	地域に向け発信方法を各スタッフと検討し、併設園ならではの活動を地域の方へ伝えていきたい。

〈7〉生活と共にある食育と畑活動

1	計画・ねらい	食が生活の中で孤立しない活動を行う。

	実践結果	食材に関心を持つため、野菜の下処理や米研ぎなど子どもたちと実践することができた。ただ、畑活動については大人の意識が足りず、子どもたちも畑に対し興味関心が向かなかった。
	次年度方向性	日課である畑活動の充実を意識した保育計画を立て、子どもたちに興味関心へつなげていきたい。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半：4~9月	3人	5人	3人	5人	6人	5人	27人
年度後半：10~3月	3人	5人	3人	5人	6人	5人	27人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	157人	190人	205人	195人	135人	201人	227人	196人	189人	166人	169人	170人	2200人
うち0歳児	1人	26人	29人	37人	19人	28人	51人	36人	32人	30人	29人	30人	348人

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	1人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	1人	1人	2人	1人	1人	7人
うち0歳児	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人

〈2〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

常勤 スタッフ	保育士	14人	看護師	1人	栄養士	1人	調理員等	1人
パート スタッフ	保育士	6人	補助	2人	事務	1人	用務	1人

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・園運営に必要な情報の共有 ・各行事や係の進歩状況の共有 ・園内研修（６０分）
給食運営会議	月1回	給食運営に関する情報の共有、課題の抽出・実行など
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット・インシデント・事故の分析、時季で予測される事故の注意喚起など
ケース会議	月1回	要支援児の支援状況、課題の整理、支援計画の立案など

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
食育会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長
主任会議	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士
併設園会議	年2回	施設長

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	手洗い・うがいの指導や歯磨き指導に加え、清掃面やチェックシートの記入確認を実施
安全対策係	避難訓練及び安全対策についての窓口となり、確実に実行できるように働きかけた。
防火管理者	火の取り扱いについて、日々の確認と焚火保育時の火の管理指導を実施
食品衛生管理係	食の安全に関わる管理の実践
畑係	年間計画に基づき、畑やプランターの整備・管理の責任者として子どもたちと共に収穫を行う
生き物係	生き物の世話や体調管理を実施

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	係りを中心に役割分担がよく出来ていた。今年度は園での主催となったが次年度は保護者へ少しずつ委託していく流れを構築したい。

4. 保育支援

〈1〉保育･保育参加･保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	年間目標「大人も子どもも主体性を大切に沢山のやってみたいがあふれるおうち～楽しい・おもしろいをみつけよう～」を常に意識し、大人主体ではなく、子どもの意思を尊重した保育を意識して行った。
保育参加	4～3月まで　合計24名　が参加済み　　（3月１日時点）
保護者面談および発達相談	4～3月まで　合計2名　が参加済み　　（3月１日時点）

〈2〉計画した年間行事の振返り

・別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	食への意欲が高まるために毎日の食事の時間が充実したものである。
	実践結果	腔発達や手と口の協応等の発達についてもスタッフが理解を深め、誤飲・誤嚥事故の防止に努めることに課題が残った。
	次年度方向性	午前中の活動を多く取り、お腹を空かせ食欲を掻き立てられるようにしたい
2	計画・ねらい	日常的にかかわる食育の推進
	実践結果	毎日の野菜の下処理手伝い、米研ぎなど継続的に子どもたちが関わることができた。
	次年度方向性	身近な事象が自然と食育に繋がるきっかけ作りを継続的に実践していく。
3	計画・ねらい	日常生活の中で「食」を孤立させない
	実践結果	献立の中で行事食・郷土料理などを食べて文化を知る機会を設けられた。
	次年度方向性	郷土料理など、普段家庭では口にすることが少ないメニューを食べるのみでなくスタッフから紹介するなどの機会を設け、更なる興味関心へとつなげていく

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	7月3日／12月4日に実施
歯科検診	6月14日に内箕輪どろんこ保育園にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	4月19日に内箕輪どろんこ保育園幼児室にて手洗い指導を実施
流行した感染症	流行した感染症なし
発作・痙攣等の対応	計2名に対し、計3回ダイアップ使用
エピペン使用できるスタッフの状況	・本日時点で、在籍スタッフ28名のうち、20名が使用可能

AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	AED 設置なし

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（法定1回/3年）	業者による対象物の法定点検 2023年実施済み ※対象物がない園及び JW 園は削除すること
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月 ⇒4月10日、10月10日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日　実施済み
	児童健康診断	内科健診　各年2回／7月3日、12月4日 歯科健診　各年1回／6月14日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時 ⇒4月19日、10月18日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間　実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	環境の構成について

	実践結果	子どもにとって最適な環境設定を行うためにフロアでの会議を行った
	次年度方向性	スタッフ間での会議を継続し、子どもたちの興味関心の矛先を考えた上で環境設定をしたい。
2	計画・ねらい	振り返りについて
	実践結果	子どもたちの姿の合わせ、適宜環境を見直していたが、子どもの興味から先手で構成していくことに課題が残った。ただ、１年を通して子どもたちの好きな遊びができる環境あった。
	次年度方向性	子どもたちの興味関心や、保育者の願いを込めた環境構成を良く考え、子どもたちにアプローチしていくことを重点的に考えたい。
3	計画・ねらい	保育者自身が豊かな感性を持つ
	実践結果	一人ひとりのスタッフが楽しみながら自己発揮する場面が少なかったように感じる
	次年度方向性	子どもたちが様々な感性を感じられるよう、スタッフからのきっかけ作りを意識した関りや環境を整えていく
4	計画・ねらい	施設の温度、湿度、換気、採光、音などの環境を常に適切な状態に保持するとともに、玩具・用具などの衛生管理に努める。
	実践結果	１年を総合的にみて、衛生管理における様々な環境を意識することができていた。
	次年度方向性	忙しさに流されないよう次年度も継続的に意識できるよう役割分担を明確にしていく
5	計画・ねらい	保育中の事故防止に努める。
	実践結果	１０月に手術を伴う大きな事故があった。日々のヒヤリハット、インシデントを基に、未然に防ぐ方法を会議の中で考えてきた
	次年度方向性	事故防止委員会でのヒヤリハット、インシデント分析を深め、重大事故を未然に防ぐ。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	鶏小屋	園庭	毎日	異常なし
2	玩具棚	園庭	毎日	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	【事故防止委員会】 ・過去の事例や予測される事故には、自園だったらどのような課題があり、それを防ぐ為にはどのように行動しなければならないかなど検証し、

		職員全員周知の上、事故に発展することが無いようにリスクマネジメントを行う。保育者は見通しや予測を立ててそれを互いに共有しながら行動する。 ・ヒヤリハット・インシデントの事例は、事故防止委員会やクラス会議の中で様々な視点から統計を出した上でケース検証を行い、事故防止につなげる。
2	実践結果	【避難訓練・不審者侵入訓練】 ・事故防止委員会、避難訓練係を中心に、防犯・防災に対する意識を高める。不審者侵入・災害は突然起こることを十分に意識し、日ごろより防犯・防災に対する意識を高め、シミュレーションを行い、避難訓練・不審者侵入訓練を有効に活用する。 ・非常災害時の対策として、消防計画に基づいた毎月の消防避難訓練、消火訓練の実施、年二回の不審者訓練の実施を行う。 ・防犯設備点検の実施（自動火災探知機、煙感知器、誘導灯、排煙窓）
3	実践結果	【事故・怪我の対応】 事故・怪我においては、心身ともに苦痛を負った子どもと保護者の気持ちに誠意を持って応え事実を伝えるようにする。
4	実践結果	【光化学スモッグ】 ・非常災害時の対策として、消防計画に基づいた毎月の消防避難訓練、消火訓練の実施、年二回の不審者訓練の実施を行う。
5	実践結果	【ハザードマップ】 ・有事の際は、君津市の各種ハザードマップ（地域の危険度マップ）に則り、行動する。 ・散歩先、室内など子ども達が活動するすべての場所においてハザードマップを作成し、職員間でハザード箇所の共有を行うとともに、有事の際の所在確認に活用する。
6	実践結果	【安全計画】 バスの置き去りについては使用する全バスに置き去り防止を支援する安全装置の装備の取り付けを行っている。運転者は講習・研修を受講する。 また、その他定期安全点検、安全指導、マニュアル遵守、訓練計画・研修計画をまとめた安全計画を策定している。
7	実践結果	【虐待防止】 虐待防止研修について法人本部がスタッフ入社時に1回、施設内で年2回行う。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

開園して初めての実習生を受け入れることができた。　実習生が不安にならないこと、実習終了後いつでも遊びに来てもらえるような関わりをテーマに実習生と関わった。実習中には指導や振り返りを丁寧に行うことや、困っていることに対し寄り添うことが出来た。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
8月22～9月4日	千葉敬愛短期大学	1人	責任実習

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
8月20日	木更津総合高等学校	4人

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	19日 22名	14日 23名	21日 22名	19日 23名	23日 25名	20日 25名	18日 24名	15日 26名	20日 26名	24日 25名	28日 28名	31日 28名
園内研修	19日 22名	14日 23名	21日 22名	19日 23名	23日 25名	20日 25名	18日 24名	15日 26名	20日 26名	24日 25名	28日 28名	31日 28名

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
12月19日	千葉県健康福祉部子育て支援課	千葉県自然環境保育認証制度	1名	無

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	18日 1名	16日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	20日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	12月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年１回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

【今年度方針・テーマ】

青空保育、商店街ツアー、散歩時など、地域に出かける中で積極的に挨拶や会話を行い、内箕輪どろんこ保育園の認知度を高める。また、ちきんえっぐにおいては年間７２０名の来訪者数を目指し、来訪した方が心地よく園を活用できるよう環境を整える。小学校や近隣の保育園、児童発達支援施設との連携も計画していく。

【振り返り】

近隣の公園で遊んでいる中、地域の方が声をかけていただき、挨拶をする子どもたちの姿をみてお褒めの言葉を頂いた。普段から、地域の方との触れ合いや、スタッフ自ら背中を見せるなど子どもたちの手本となるようにしていたことが大きな要因と感じる。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：内箕輪運動公園にて　　参加延べ人数：15名
商店街ツアー	週1回　主な行き先：青い鳥、マクドナルド、ガスト、ローソン、郵便局、市役所、消防署、ケンタッキー、丸亀製麺、セリア、ジョイフル本田、ブックオフ等
世代間交流	10月10日にウィステリアにて歌の披露と交流会を実施
異年齢交流	8月20日に内箕輪どろんこ保育園にて書道体験を実施
その他活動	12月16日に内箕輪どろんこ保育園にて異文化交流を実施
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉　実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

八重原小学校の校長先生が変わったことで、再度挨拶を行い今後の連携依頼をした。子どもたちの交流がメインとなる年であったため、次年度はスタッフが小学校へ出向き、小学校での学びを理解する機会を設けたい。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
5月24日	八重原小学校	27名	運動会の表現種目見学（八重原小学校校庭）	子ども間交流
10月17日	八重原小学校	30名程度	町探検（内箕輪どろんこ保育園）	子ども間交流
12月11日	八重原小学校	27名	マラソン大会見学（八重原小学校校庭）	子ども間交流

1月28日	八重原小学校	20名	給食見学（八重原小学校1年生クラス）	子ども間交流

10.　要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

つむぎ内箕輪ルームと連携しながら、共に子どもたちを見る中で要支援児の個別支援計画、課題の整理表を作成し、多様な人との関わりの中で子どもたちの姿の変化をスタッフ同士で共有し、様々な視点から援助していくようにする。また、保護者との対話を密に行う中で、子どもの成長を保護者やスタッフ間で共有していく。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・４～３月に計12回開催　参加者：各月10名程度

１カ月の該当児の様子や変化、また翌月の援助について話し合い、全スタッフに共有を行った。併設園としてインクルーシブ保育を進めていく中で、本当に必要な援助・配慮を行うことは何かをスタッフ同士で話し合ってきた。結果、様々なスタッフの視点や思いを共有することができた。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

保育児童要録を基に小学校との引継ぎを行った。

11.　子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
101名	63名	65名	69名	14名	55名	81名	28名	49名	12名	27名	10名	473名

実施項目	詳細												
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　　来園延べ人数：567名												
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　⇒計0件相談実施済み												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計24回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	18名	14名	10名	10名	0名	10名	19名	10名	14名	8名	4名	10名	127名
どろんこ 芸術学校 どろんこ	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計12回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計

自然学校	6名	0名	0名	17名	0名	2名	19名	10名	14名	8名	4名	10名	44名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00　にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっぐだより	毎月1日発行												

12.　園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２５年3月２７日、3月２８日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：9時00分
自己評価終了時刻：17時00分
自己評価実施者：施設長、主任

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月２５日
アンケート回収率：100％

（省察）保育運営や子どもたちの活動についてはご理解をしていただけているが、お迎え対応時や子育て相談がし難い環境にあると感じている方が多かった。次年度は、相談できる環境や個別での面談を多く促しコミュニケーションを取れるようにしたい。

13.　苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見　0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む）　0件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年3月１５日　　作成者：内箕輪どろんこ保育園 施設長　佐藤 慶太

２０２４年度　メリー★ポピンズ 海老名ルーム
事業報告書
（保育所における自己評価）

Ⅰ．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

２０２４年、保育を展開するうえでのキーワードは「生物であるにんげん・体が満たされて、心が育つ」「心をそだてる関り・自尊感情の育ちを」の２点を礎にして、「子どもにとって真に必要な機会」を見極め、「１０よりも１００の経験を」用意し毎日を積み上げて、子どもたちが活き活きと過ごし主体的な活動を試みる保育を展開した。
特に「生活力の体得」「幼児期の終わりに育ってほしい 10 の姿」「子ども自らがいつでも経験を選択することができる物的環境の設定」「命をいただく活動の実践」を重点的に話し合い、保育に落とし込み、子どもたちの「生きる力」を育てる足掛かりとして試行錯誤を繰り返し実践した。

このことはつむぎ併設園として「混ざるその先を見据え」障害はある・無いにかかわらず、すべての子どもの成長を願っておこなった。環境設定をして「子どもに任す保育」は大人の価値観を横に置いて、子どもの自由な表現や行動を肯定的に受け入れていくことができた。子どもの姿を在りのままの姿を見つけ、その力に感嘆する。そのような保育を継続できたことは海老名ルームの「保育の質」の底上げにつながった。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

１	計画・ねらい	十分に養護の行き届いた環境の下に、くつろいだ雰囲気の中で子どもの様々な欲求を満たし、生命の保持及び情緒の安定を図ることを第一とする。
	実践結果	子どもたちの表現・活動する姿を肯定的に、在りのままに受け入れて、子ども自身が大事にされる実感を持って、自分育てをしていく環境を人的・物的に整えた。一日の静と動のリズムが整い、子どもたちは自尊感情を高め、安定した生活をつくっていった。
	次年度方向性	毎日の時間を大切に人格形成の基本を確実に丁寧に積み上げていく。
２	計画・ねらい	・「子どものすることに、無駄なことは何一つない」との考えを保育者の中に定着させて、そのときその時の子どもの在りのままを受容し、子どもの背景をくみ取って寛容に対応する。 ・子どものサインや発信を尊重する。大人の価値観を横において、子どもの本質に迫る。子どもの発言を肯定的に受容すると同時に、子どもには、自分の発言に責任を持たせ、「子どもに任せる保育」を忍耐と楽しみをもって行う。Trial＆error の機会を日常に組み込む。

	実践結果	「子どものすることに、無駄なことは何一つない」との考えを保育者の中に定着させて、そのときその時の子どもの在りのままを受容し、子どもの背景をくみ取って寛容に対応することが定着していった。途中入職スタッフの OJT 研修を実施し、方向性の統一を図った。 子ども自身は自分で「気づく」「考える」「あきらめないでやり抜く」「自己コントロールする」ことに加え、共働して思いやりを持って仲間と助合うことを日常の中に展開し、良い人関係を作り出している。
	次年度方向性	一人ひとりの生活を丁寧に保障していくために保育所保育指針を園内研修で読み込み理解していく。 園長大学の研修を皆で受け、保育者、調理、看護師、つむぎスタッフ、主任、施設長はそれぞれの専門的な知識をと技術を高め、常に自己目標・グループ目標・組織目標に向かい学びを深めていく 大人も子どもも主体的に行動できるように全スタッフで主体性を問い続けていく。
3	計画・ねらい	・進んで戸外で遊ぶ。 ・生活、社会生活の範囲を広げる。 ・他者との協働の中で互いに思いや考えを共有し、共通の目的を実現する活動実践、異年齢の関りなど、直接体験の中で①他者との協働　②感情コントロール　③目標の達成の環境構成をし、見守る。関わる。教える。共感協動する。
	実践結果	年間を通して、積極的に戸外に出て活発に遊びこんだ。生活・社会生活の範囲を広げて、地域の方に可愛がられ、感心されて、毎日充実感・他静観を感じて手ごたえある毎日であった。また自然の事象は絶えず変化をし、子どもたちを迎えて情緒的な育ちをも促進し、言語や感情、対人コミュニケーションなどの「にんげん力」を高めていった。保育者は環境をいかに提供できるかを考えて計画・実行・振り返りを繰り返して、努力ながら子どもの育ちを楽しみながら、保育実践を積み上げていった。
	次年度方向性	計画・ねらいの保育活動を実施した上で、子どもの姿を記録に残し、職員間で共有し、個々の育ちを保障していく。 子どもの活動をポートフォリオにして掲示し保護者様に伝えていく。 子ども同士が学び合える環境づくりを追求し作り上げていく。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保育者はおもてなし（思いやり・誠実さ・謙虚さ・感謝など心のこもった接遇のこと）を研鑽し、心がけて、保護者様の満足度を図る。
	実践結果	保育者はおもてなし（思いやり・誠実さ・謙虚さ・感謝など心のこもった接遇のこと）を研修研鑽し、保護者様はじめ、外来の方への応対スキルを高め、保育者は丁寧で明るく、実際の子どもたちの様子が分かる報告を意識しながら実施した。 一方で、お迎え時の混雑や玄関の狭さに対応することができないことや玄関の温度管理などで、十二分におもてなしをすることには至らなかった。 ポートフォリオなど、子どもたちの姿を写真で可視化した掲示物を玄関に掲示することができた。一方で玄関の掲示の見づらさやクラスや時期で掲示のばらつきがあったので改善をしていく。

	次年度方向性	気持ちの良い安心できる挨拶と受け応えを徹底する。 １日の子どもの様子とその姿に成長の意味づけができるお迎え対応を実施する。 子どもの姿を肯定的にとらえ、ありのままの姿を丁寧に保護者様の気持ちに寄り添って伝えていく。
2	計画・ねらい	「子どもの安全が確保され、様々な体験を通して、体も心も十分に育つこと」とし、保育活動を十二分に展開する。 クラス・主任・施設長から果たし、十分な説明から理解を得て、保護者様との相互理解を図る。
	実践結果	「様々な体験を通して、体も心も十分に育つこと」とし、保育活動を十二分に展開する」を達成するために、様々な安全対策を行なった。 ・ハザードマップの作成と活用　・園外計画書作成と協議・実施・ヒヤリハット・インシデント報告書作成と共有、事故防止委員会・事故記録簿作成と再発防止策話し合い等 ６月保護者会で上記内容を盛り込んだ「安全計画」を説明した。
	次年度方向性	保育者のリスクマネジメントをさらに高めていく（OJT 研修含む研修体制）。 年齢・発達に合わせた安全と危険の理解の促進を進めるとともに、数多くの体験から自分の身を守る術を体得していく。
3	計画・ねらい	2024年度・事業計画の明確化・どろんこ会保育の推進度の可視化・説明 保護者様と保育や子どもの育ちの目指す姿や目標の共有を図り、相互の理解を図る。
	実践結果	日々の活動を可視化したり３分間対応やタイムラインで、子どもの姿やエピソードを意識的にお伝えしたりした。保護者様に活動のねらいや意図を的確に伝えるために「命をいただく活動」では、スケジュールとねらい・活動内容を掲示して、説明したり相談をかけたりしながら進めて効果的であった。
	次年度方向性	ポートフォリオで子どもの姿を視覚的に伝えたりねらいや意図を説明したりしながら、目標や目指す方向性の共有を図り、保護者様には安心していただいたり育つうえでの経過を楽しんでもらったりしていく。
4	計画・ねらい	卒園後も継続する保育。 日々の活動やその中での親切で寛容な関りから、卒園の後も子どもたちや保護者の方の心のふるさととなる保育園を目指す。
	実践結果	卒園児が来園した時には歓迎し、関心を持って受け入れた。保護者様も安心して足を運んでくださった。卒園面談では、卒園後いつでも遊びに来ていただけることや相談に乗ることができることをお伝えした。子どもにとっても保護者様にとっても関係性を継続することを引き続き大切にしていく。
	次年度方向性	継続し、心のふるさととなる保育園を目指す。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域への発信・「開かれた海老名ルーム」「つむぎの知名度・利用率を上げる」 ねらい：駅ビル型の利便性を活用し、いつでも子どもと共に受け入れられる安心基地を地域の子育て家庭に開放する。
	実践結果	ちきんえっぐのチラシを３００枚印刷し、散歩先の公園で配布したりコミュニティセンターに置いて頂いたりして広報を図った。青空保育には勝手籠を運んだり近隣の保育園の子どもたちに声をかけたりと今までにない取り組みを試行錯誤していった。まだ順調・成功したとは言えない状況ではあるが、どのように取り組んでいったらよいかをスタッフ全員が考えて実践し、手ごたえを感じながら広報した。
	次年度方向性	引き続き自分たちに出来るあの手この手を実践意して、地域への発信をしていく。
2	計画・ねらい	子育て相談の実施・地域家庭のニーズの把握。 フォーマルな子育て相談と同時にインフォーマルな子育て相談を受け付けて、雑談や共に遊ぶ中で、子育ての悩みを聞き、保護者が感じている気持ちの開放を図る。
	実践結果	子育て相談の実施・地域家庭のニーズの把握では、インフォーマルな相談につながる会話を意識していった。地域の方が足を運びやすい、話しやすい場の設定を試みたが、まだ十分ではなかったが、施設長、主任、園事務など含めスタッフ全員でお迎えすることが日常化したことが良かった。
	次年度方向性	子育て支援の係をつくり、園開放の時にもサポートし会話やインフォーマルな相談を推進していく。
3	計画・ねらい	・ビナガーデンズパーチや海老名市の地域向け催事への参加。海老名っ子を育てる意識付けと地域への貢献を図る。
	実践結果	海老名市の絵画展に出品、郵便局の塗り絵などにも協力することができた。今年度は小田急電鉄との作品展は開催されなかった。
	次年度方向性	地域向けの催事に積極的に参加していく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	・スタッフの接遇・ビジネスマナーの向上を図る・対人コミュニケーション能力を養う。 ・保護者に安心感・信頼感をもって保育園を利用していただく。 ・お迎え対応をより良く展開するために保育の視点と丁寧で効果的な言葉を学ぶ。（保育ノートの活用と振り返り・話し合い） ・何よりも自分自身に対して、自尊感情を持ち、笑顔で何事にも楽しんでやりがいをもって、取り組める。
	実践結果	保育品質マニュアル研修・読み合わせ OJT 研修 保育のねらいや意図を語れる保育者集団作りを目指し、園内研修ではディスカッションを中心に学びの場をつくった。 保護者様が子どもの成長ぶりに目を見張る３分間対応ができるときもあれ

		ばできないこともあり、毎日が試行錯誤であった。
	次年度方向性	保護者様の意向を伺いながら安心感・信頼感を得る伝達方法を考えていく。
2	計画・ねらい	園内研修の開催：保育技術を身につける。 ・ファシリテーション・プレゼンテーション技術の向上。 ・多様な見方、問題解決能力の向上。
	実践結果	ブレーンストーミングやファシリテーションの技法を園内研修他様々な場所でスタッフが駆使することができており、多彩で多角的な見方や発言が活発に交歓された。 「中立的に考える」「問題の解決のステップ」「怒りの扱い」など、ソーシャルスキル向上を図るための研修を積み重ねた。実際の保育におろして使っていくため、子どもの情動のコントロールや表現の活性化を促進した。
	次年度方向性	ファシリテーション・プレゼンテーション技術の向上を図る。 多様な見方、問題解決能力の向上をさらにめざし、園内・スタッフ内に標準化していく。
3	計画・ねらい	どろんこ会運営方針に沿った保育活動の推進。 保育の質の向上：主体的な「にんげん力」ある保育者集団を育成する。 チャレンジ精神ある実際の保育活動の推進。
	実践結果	日課・主要活動を子どもの内に定着することができた（リズム・さくらんぼ体操、座禅、雑巾かけ、生き物の世話、戸外でのお弁当、生き物の世話、畑活動など） 特に長距離散歩は１歳児で往復約３㎞　２歳児で往復約４ｋｍ　4.5歳児は往復10km を難なく歩き切り、自身の行動範囲を広げ社会事象を目の当たりにして、自分育てをした。保育者はこの姿を喜び、チャレンジする保育を実践した。
	次年度方向性	日課や毎日の体験をじっくりと的確に定めて、子どもとともに共感共働する毎日をつくっていく。子どもの内に自尊感情を育て、「生きる力」を育てる保育者の育成と関りを保障する。
4	計画・ねらい	リーダーの養成
	実践結果	リーダー会議（乳・幼児、つむぎ、主任、つむぎ・園施設長）を年12回実施した。リーダーは園の課題を自ら抽出したり、実際の問題点を自分事として解決しようとしたりと園を快適に運営するための交通整理や各スタッフが実際に運用できる方法や考え方を作り出していった。スタッフが自分で考え、判断し、自走することにつながった。
	次年度方向性	リーダー会議の継続、自走する個々を自ら育てていく。
5	計画・ねらい	保育者が主体的に業務の課題を抽出し、質の高い保育・業務の効率化・スタッフのモチベーションアップを図る。
	実践結果	毎月のコンピテンシ―自己採点と「質を上げる会議」をメインに業務改善を図った。質会スタッフが中心となり、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を基にして自身の保育の課題を抽出、１ヵ月の重点事項とす

		る取り組みを決めて、質の向上をはかった。スタッフ自らが業務改善を推進し、園全体の質の向上につながった。
	次年度方向性	コンピテンシーの取り組み。 質を上げる会・委員を中心に質の高い保育・業務の効率化・スタッフのモチベーションアップを図る。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	生活を大事に
	実践結果	8：30までの登園、毎日の日課、9時出発の散歩、昼ごはんまでめいっぱい遊び、空腹を最高のごちそうとすることを日常化して、子どもの生活リズムを整え健康な体をつくることができた。毎日のこどもとの肯定的な関りは子どもに安心感を与えて、「子どもたちの生きる力」を強めた。
	次年度方向性	保育者は子どもと関わる時に、共感共働し、認め、励まし、見守り、禁止しないで、叱らないで、暖かい応答関係の中で、子どもたちの自尊感情を高め、有能感・肯定感を育てていく。このためには規則正しい生活を標準化することが大事である。
2	計画・ねらい	長距離散歩・自然遊び
	実践結果	「自然に勝る保育者はなし」を打ち出して、自然という生命力あふれる事象にいかに触れ関わるかを考えながら保育をすすめた。長距離散歩では後半1歳児で3km、2歳児で4km、4.5歳児で10km を歩き、前向きな姿勢や少し困難なことも楽しんで乗り越える術を身につけていった。自己コントロールすることが日常となり、自分を認めたり他者を思いやったりする自己肯定感を育てることに役立った。
	次年度方向性	自然と関りたくさん歩き、自分自身を開放して体と心をそだてる毎日をつくっていく。
3	計画・ねらい	表現：生活を歌いっぱいに
	実践結果	「生活を歌いっぱいに」して、子どもたちの体のリズムや心から湧き上がる情動を育てた。子どもたちは体を動かすことを楽しみ、言葉を覚え、自らの表現を多彩にし、子どもの表現を喜び推進する毎日をつくることが出きた。利用者アンケートでも歌をよく歌うようになった、喜んで歌っている等の記載が多くみられ、ご家庭でも歌のある和やかな雰囲気を作って下さることを確認した。季節の歌をその季節に歌う　年齢にあった歌を歌う　身振り手振りを加えて、子どもの表現の幅を広げる　手話で歌を歌う　輪唱・エコーソング、合唱・合奏の取入れを行い、スタッフは簡易なアコーディオンや本格的なウクレレなども取り入れて、歌を歌う機会を増やしていった。
	次年度方向性	季節の歌をその季節に歌う　年齢にあった歌を歌う　身振り手振りを加えて、子どもの表現の幅を広げる　手話で歌を歌う　輪唱・エコーソング、合唱・合奏の取入れを行なう。

〈6〉インクルーシブ保育の実践

1	計画・ねらい	子どものゾーン保育・保育者のゾーン保育「混ざる」「自己決定を助け合う」
	実践結果	園・つむぎスタッフは協力体制を作って、子どもたちを分けることなく混ぜて保育を進めた。先回りした支援をやめ、子ども自身が自分に必要なことを自身で選び取り、決定して実行できる対応や言葉かけを試行錯誤して作り上げ、子どもが自分で育つことの支援をした。今後も継続が必要であり研鑽していく。
	次年度方向性	ゾーン保育の定着化・安全のための話し合いをする 子どもの育ちの実際から活発に話し合って、「混ざる」「自己決定を助ける」ことの本質を考え実施する。
2	計画・ねらい	インクルーシブ保育・スタッフの学びを進める。
	実践結果	園内研修「乳幼児期に大切に育みたい力とは」動画視聴とディスカッションをおこなった。 つむぎ・ガイドライン研修 ケース会議開催・月1回以上開催等
	次年度方向性	インクルーシブ保育への理解をスタッフ間で常にすり合わせをして追求していく。

〈7〉地域と育つ

1	計画・ねらい	世代間交流「ココファン」「プラチナコミュニティ」 ねらい：お年寄りに子どもたちの歌や声・笑顔を届けて元気になってもらう。子どもたちは自分自身が「喜ばれる存在」と分かり、張り切って生活する糧にしたり思いやりの心を育てたりする。一方で、慈愛のまなざしで見守って下さるお年寄りに触れ、愛されたり守られたりする心地よさを知って、人のぬくもりに触れて心を育てていく。
	実践結果	世代間交流「ココファン」「プラチナコミュニティ」へ月に1回訪問し、交流を深めた。植物の水やりを一緒にすることや園のままごとの素材をお針子作業で縫ってくださったものに子どもたちが綿を詰めるなど、互いの得意を集めた共同作業がよかった。訪問の日以外でも前を通って手を振り合うなど、子どもたちの毎日にお年寄りとの交流を楽しむことが盛り込まれた。
	次年度方向性	継続して異世代交流を深めていく。お年寄りとの関りから自分たちに必要な生活の仕方やマナーを身につけていく。
2	計画・ねらい	商店街ツアー探検
	実践結果	去年受け入れが難しかった店舗もツアーに応じて下さるところが多かった。子どもたちは様々な仕事があることを知り、回を重ねるごとに見て感じたことを率直に質問することを楽しんでいる。友だち言葉で聞くなど、マナーに問題を感じた時には、保育者は丁寧語を使って示すなど、子どもたちが自ら気づいて調整できるように環境を整えていった。 人との関りを尊重するための学びでもあった。

		今年度もスタッフがアポイントを取り交渉して、多彩な訪問・受け入れ先をお願いすることができた。
	次年度方向性	アポイントの方法や相手の方の役職やお名前を控え、次の依頼がスムーズにできるシステムをつくった。交渉が簡素化できるツールを見つけつつ継続していく。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半：4~9月	36人	60人	66人	66人	65人	64人	357人
年度後半：10~3月	36人	60人	66人	66人	66人	66人	360人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	85人	95人	102人	118人	118人	95人	141人	121人	129人	126人	120人	142人	1932人
うち0歳児	0人	16人	15人	8人	8人	20人	19人	17人	14人	18人	17人	20人	172人

（解説）4月のみ育休復帰前のご家庭が多かったため、利用者数は少なかった。5月以降は0歳児の延長利用のため、前半は睡眠中のブレスチェックにつくスタッフが必要であった。4月が始まると同時に情報収集をして、5月延長利用児、特に0歳児への対応を考えていく。

〈2〉開所時間

7時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

常勤スタッフ	保育士	10人	看護師	2人	栄養士	1人	調理員	1人
パートスタッフ	保育士	1人	補助	1人	調理	0人	事務	1人

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・動画視聴 ・係よりテーマに沿った話し合い ・マニュアル読み合わせ
給食運営会議	月1回	食育活動の内容について・
事故防止委員会	月1回	インシデント・ヒヤリハットの分析
ケース会議	月1回	要支援員について保育方法の確認・情報共有
リーダー会議	月1回	共有事項の確認
昼礼会議・担任会議	週1回	指導計画案・週案・行事・子どもの様子・共有事項確認・他
朝礼	日1回	一日の確認（保育・行事）・子どもの様子・体調確認・来客確認・アレルギー児の申し送り・その他 時間差で出勤する職員のためにシッターノートに網羅する

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
食育会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、看護師
主任会議	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士
併設園会議	月1回	施設長

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	身体測定・定期健康診断・歯科検診の実施と保護者との連絡　施設の清掃と衛生管理に係る消耗品及び備品の補充と管理　感染症予防対策の管理点検
安全対策係	火災・地震訓練・不審者侵入時訓練および消火・防災自主点検管理 消防署との連携窓口業務・救急講習計画と実施 施設内外の設備点検および事故防止対策の実施
防火管理者	消防計画の作成と備蓄リスト　帰宅困難者表作成 上記計画に基づいた地震、消火・通報訓練を定期的に実施
食品衛生管理係	調理室全般の衛生管理 給食食材および提供食材の衛生管理と在庫品保管状況の管理
畑・生き物係	畑づくりの年間計画・畑の管理 関連機関との連絡・調整 子どもと職員の畑活動の推進を図る 教材・道具類の維持補充 保護者様への働きかけと情報発信 飼育動物の丁寧なお世話と健康管理 子どもや保育者の生き物飼育活動の把握と推進、課題検討
内部監査係	内部監査項目に沿って、押印簿点検や課題解決の推進
鶏プロジェクト	読みラン・登戸・生田ルームとの合同でのプロジェクト推進 いのちをいただくことの計画作成と導入、保護者様への説明と実施への推進、当日の推進と事後の保育、アンケート作成と収集

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	どろんこサポーターズ勧誘とチーム作り 祭りの企画と推進 保護者と共働して、準備・開催をする　懇親を図る 地域サービスとしての位置づけを意識して、集客を図る
運動会係	運動会の企画と推進　会場の予約 日常の保育活動との整合性を図り、日課や運動遊び、戸外活動の推進を図る 保護者様への案内作成と会場設定　リハーサル・当日の進行 事後保育とアンケートの収集
生活発表会係	発表会の企画と推進

	日常の保育活動との整合性を図り、日課や運動遊び、戸外活動の推進を図る 保護者様への案内作成と会場設定　リハーサル・当日の進行 事後保育とアンケートの収集

4. 保育支援

〈1〉保育･保育参加･保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	生活を大事にと掲げ、子どもたちの生活リズムの質と保育活動の質を考えて保育計画を立案した。 歩くこと、自然と対話する保育を展開し、人では与えることができない葛藤とレジリエンス（しなやかに乗り越えて回復する力）を反復する機会をつくった 歌を歌うこと・表現することを毎日に組み入れ、多彩な言葉とリズム、表現する力を子どもの内にやしなった。 10よりも100の経験から自分で活動を選ぶことができるよう、環境設定を行った 食事を保育の中心に据えて、畑仕事から食の循環を知り、空腹を味わうほどに外遊びの時間を確保し、好きな人と好きな場所で好きなだけごはんを食べる環境を当たり前になるよう実践した。
保育参加	4～3月まで　合計15名が参加済み（3月1日時点）。 開園2年目となり、保育参加へ積極的に参加くださる保護者様が増えた。ご自分のお子さまと周りの子どもたちを分け隔てなく関わって下さり、その暖かい関係性の見守りが子どもたちの園生活の安心感につながっていくと感じた。 申込方法や日時の選択など、案内が行き届いているかを定期的に確認して、多くの保護者様の参加を促していく。
保護者面談および発達相談	4～3月まで　合計12名　が参加済み　　（3月1日時点） ・発達相談・卒園面談含む

〈2〉計画した年間行事の振返り

・別紙「２０24年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	調理員・保育者・施設長・事務含む子どもを取り巻く大人は、子どもと一緒に食事をする（３大食育方針）・空腹感を感じ、食べたい時や場所、ひと、食べたいものをたべたいだけ、子ども自身で選択する環境を作る。

	実践結果	食事を保育の中心に据えて、畑仕事から食の循環を知り、空腹を味わうほどに外遊びの時間を確保し、好きな人と好きな場所で好きなだけごはんを食べる環境を当たり前になるよう実践した。
	次年度方向性	食を保育の中心にして、子どもの体と心をつくる給食の場と時間を大切にしていく。
2	計画・ねらい	畑仕事と食育活動の連携 畑で育った作物を食する過程を知り、おいしく食べ、自然（日光・水・温度・土・大気）の恵みに感謝し、世話の大切さを知る。
	実践結果	畑で採れた野菜を喜んで収穫し、口にして自然への恵みに感謝する子どもたちの姿が見られた。毎日の労働は畑仕事への愛着をつくり、子ども一人ひとりが自分の役割を担当し、年長児は労働をしなければ作物が枯れることを目の当たりにして、人が嫌がる仕事を率先して行う姿がしばしば見られた。自分中心から自分を取り巻く状況を優先する姿があった。
	次年度方向性	畑仕事に0歳児から関わっていく。 畑チャットで引き続き、各年齢の子どもたちの活動・内容を全スタッフが把握し進めるべき仕事内容を共有して、収穫アップを目指す。
3	計画・ねらい	食材・食の循環を学べる直接体験
	実践結果	春菊の種まき～収穫～種の採取～冬場の種まきと循環を体験した。冬場の種まきは旨くいかなかったので、次を子どもたちと考えていく 2/14よみうりランド駅前どろんこ保育園で「命をいただく活動」を開催5歳児5人・保護者様1名が参加した。
	次年度方向性	食の循環を意識した畑活動を展開していく。 「命をいただく活動」をおこなう。
4	計画・ねらい	子どもが「自分たちで盛り付け・配膳して食べる」を環境構成する
	実践結果	ランチルームを幼児室に動かせて1歳児からのバイキング活動を段階的に進めていった。子どもが「自分たちで盛り付け・配膳して食べる」を環境構成して完成させることができた。
	次年度方向性	0歳児も後半混ざって食事をする体制をつくる。 0.1歳児の配膳を他年齢の子どもたちに手伝ってもらう。
5	計画・ねらい	「今日の食材・産地」の発信
	実践結果	十分に取り組むことができなかった。
	次年度方向性	「今日の食材・産地」の発信 何らかの形で取り組んでいきたい。地産地消や身土不二などの意味を子どもたちにおろしていく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	5月10日／11月15日に実施
歯科検診	5月2日に海老名ルームにて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	①　5月幼児クラスにて「トイレの使い方」を実施 ②　6月幼児クラスにて「歯磨き指導」を実施 ③　11月幼児クラスにて「寒さに負けない体づくり」を実施 ④　12月幼児クラスにて「咳エチケット」を実施」等 他同内容をタイムラインで保護者向けに発信した
流行した感染症	特に流行した感染症はなし 年間を通して感染症の罹患は少なかった
発作・痙攣等の対応	発作・痙攣等の対応、ダイアップの使用なし
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月21日に海老名ルームにてアレルギー対応研修をスタッフ17名受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ18名のうち、17名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	・3月21日に海老名ルームにて救急・心配蘇生研修をスタッフ計17名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ18名のうち、17名が使用可能
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底した

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み

	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（法定1回/3年）	業者による対象物の法定点検 2023年実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･8月 ⇒4月5日、8月5日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日　実施済み
	検便・細菌検査	毎月1回／　5日　実施済み
	児童健康診断	内科健診　各年2回／5月10日、11月15日 歯科健診　各年1回／5月2日、
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時 ⇒4月11日、10月11日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間　実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	・午前中の乳児2時間半、幼児3時間の戸外活動を毎日展開する。雨の日や風の日も安全に配慮しながら、戸外に出て、危険を回避する身の処し方や不便な日も快適に過ごす方法を実体験の中から学んでいく。 ・春夏秋冬の季節の移り変わりを肌で感じ、暑さから身を守ること、寒くても楽しく遊ぶ方法を体験的に学び、身体を育て、心を育てる環境づくりに努める。
	実践結果	計画・ねらいを十分に達成することができ標準化している。 子どもたちは春夏秋冬の季節の移り変わりを肌で感じ、暑さから身を守ること、寒くても楽しく遊ぶ方法を体験的に学び、身体を育て、心を育てた。後半は体が丈夫になり、発熱で休む子どもは少なかった。また体調を崩しても回復する時間が短くなった。
	次年度方向性	戸外活動の意味や意義、ねらいをスタッフ間で確認するとともに、保護者様への説明責任を行なって協力を得ていく。

2	計画・ねらい	子ども自らがいつでも経験を選び取ることができる物的環境の設定をする。
	実践結果	zoon 保育　異年齢の関りと活動　コーナー保育と環境設定←重点項目 子どもがすぐに手に取れる様々な教材を用意し、子どもが選ぶ、好きを保証される環境構成を環境係が中心になり精査していった。 子どもたちが整えられた環境から自ら遊びこみ、子どもだけのコミュニティをつくり、教えたり教えられたり、異年齢で関わったりすることが格段に増え、子どもたちの集中力や工夫する姿に成長を感じることができた。
	次年度方向性	子どもがすぐに手に取れる様々な教材を用意し、子どもが選ぶ、好きを保証される保育の構築を図る。
3	計画・ねらい	保護者がいつ見ても気持ちの良い施設・子どもの安全な動線が守られ、不要な危険が排除された空間づくり。 ・意識的な空間づくりをして、信頼される安心される「選ばれる園づくり」につなげる。
	実践結果	衛生管理点検表や内部監査資料を基に、整理整頓や清掃状況の確認をする。：清掃点検表を作成してもれなく行った。 保育者は足元に見える小さなごみをも自分事として拾い、細やかな気配りができる存在となる。また、ひとが嫌がることへも率先して取り組むことができる保育者集団となり、子どもの前に立つ。
	次年度方向性	大人が背中を見せ、整理整頓を心がけて、小さいことにも気にかけて体を動かすことができる、気働きができる習慣を作っていく

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

管理必要な手作り遊具・家具なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	事故防止委員会 リスクマネジメント研修 怪我・事故の防止実践結果	事故の予防：ヒヤリハット収集と統計結果の確認（随時・月1回の共有） 園内インシデント・事故の再発防止検討 過去の重大な事故事例や身近な法人の事例研究 緊急連絡先への連絡・フローチャート確認 見失い・置き去り概念の学び 心肺蘇生・AED 研修・怪我の対応・プール、水の事故防止策 散歩引率など ・子どもへの安全教育の定期的な実施
2	避難訓練・ 不審者侵入訓練 防犯実践結果	・安全対策係が計画立案・実施　・自衛消防隊の編成と役割分担 ・十分なシュミレーションの元、立案された計画を全職員で共有し実施した ・子どもへの安全教育の定期的な実施 ・予想外の想定にも瞬時の適切な判断が自らできるよう、保育者は戸外・散歩時などの危険予測を日常から行った ・広域避難場所：海老名小学校（保護者会で安全計画とともに周知した）

3	光化学スモッグ実践結果	・自治体からの情報で判断、活動を加減する ・自治体からの情報を正確に得る ・子どもたちに何故屋内で過ごすのかを考え、安全教育と共に光化学スモッグのメカニズムや環境問題への問題的の芽生えにつなげた
4	災害対策	「保育運営マニュアル」・危機管理マニュアルP．6の確認 決められたことの内容と意味を保育者は知って、園運営に携わる
5	日々の事故防止実践結果	・保育者の気づきの共有（保育者間で）と報告（施設長） 子どもの様子・玩具・遊具・屋上・公園・戸外移動時・保育者の保育、関わりと引率 ・ハザードマップの更新：室内、戸外環境の変化や人的要素を敏感にキャッチして、書き込み・更新、更新日時を記録し、リスクマネジメントを図った
6	ハザードづくり実践結果	・室内　ビル共用部　戸外・散歩コースのハザードマップの完備 ハザードマップ管理表で定期的な見直しを図った（4.7.10.1月）
7	苦情・ご意見対応	・「保育品質マニュアル」・苦情対応マニュアルの確認 保護者様のご意見を真摯に聴き（訊き）受け取った保育者はどのようなことにでも、自分事としてとらえ、謝罪と保護者様のご意向に添った問題解決を図ることを第一とし取り組んだ。保育内容についての問い合わせは法人の理念やねらいをご説明しご理解を仰いだ。2年目、子どもたちの生き生きとした生活・活動の様子からご理解と安心度は深まっていったと感じた

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

実習生を 3 名受け入れた。園が学びの場を提供する一方で保育を客観的に評価し提示してくださることや保育への疑問・質問を投げかけて、ともに考えていけることができるメリットを感じた。

実習生の気づきや学びを大いに感心するとともに、保育の魅力や子どもという存在の確かさを提示し、子どもに関わる人材の育成を意識して受け入れた。子どもにとって必要な真の機会を提供していった。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
8月19～20日	東海大学・児童教育学部	1人	インターシップ研修
2月10～14日	東京工科大学・医療保健学部 リハビリテーション学科・言語聴覚学専攻	1人	言語聴覚学における保育園実習
2月17～20日	東京工科大学・医療保健学部	1人	言語聴覚学における保育園実習

	リハビリテーション学科・言語聴覚学専攻同上		

〈3〉中高生の受入

	学校名	人数	活動内容
1月30日	海老名中央農業高等学校	2人	「命をいただく活動」の話し合い

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	11日 18名	10日 18名	14日 16名	12日 18名	23日 14名	13日 16名	11日 17名	8日 17名	13日 17名	17日 18名	26日 18名	24日 18名
園内研修	11日 18名	10日 18名	14日 16名	12日 18名	23日 14名	13日 16名	11日 17名	8日 17名	13日 17名	11日 18名	26日 18名	24日 18名
摂食研修 講師：古川氏	9月13日にオンラインにて18名のスタッフが出席											

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
12月13日	園長大学保育士大学	Web 研修	全スタッフ	有 or 無
8月23日	海老名市教育委員会	令和6年度　海老名市ひびきあう教育研究発表会	1名	有 or 無
1月25日	海老名市今泉小学校	ひびきあう教育研究発表会	1名	有 or 無

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	20日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	21日 1名

げる会議）												
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	21日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	11月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

〈5〉パートスタッフの研修の機会の創出

全体研修や策定会議などの出席の機会を得られた。
保育者でないスタッフも今年度子育て支援員の資格を自発的に取得して、子ども理解や子どもとの関りに自信を深めて子どもとともに生活をしている。
日常から情報共有や保育の話が闊達に行われ、職種や雇用形態に関係なく、日々が OJT としての研修の場となり保育・日常が活性化されていた。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

地域に開かれた保育園としての、地域の開かれた保育園を目指し、スタッフも地域の方に声をかけたり認知度を上げるためにあおぞら保育に勝手籠を持っていったりと工夫をして地域への広報を行った。地域のニーズに沿ったどろんこ祭りなどの集客率は良かったが、ちきんえっぐや寺親屋などはまだ集客が上手くいかなかった。海老名ルームを知ってもらうことを重点項目とした後に、地域貢献を行っていく。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：海老名中央公園にて　　参加延べ人数：27名
商店街ツアー	週1回　主な行き先：FM カオン、ローソン、マクドナルド、海老名消防署、海老名駅前交番、ロピア、海老名市保育幼稚園課、温故館、海老名中央図書館、GU、ヤマト運輸、菜の花薬局、海老名水道営業所等
世代間交流	10月11日に海老名ルームにて園児の祖父母を招待し、リズム体操・公園で一緒に遊ぶ・お芋掘りなど実施

	月1回　ココファンまたはプラチナコミュニティ訪問：高齢者の方とのふれあい
地域交流	6月5日に国分北集会所にて盆踊りを実施
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉　実施
異文化交流	8月2日　ネパール語を話そう　実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

就学を視野に入れて、５歳児の保育計画・アプローチカリキュラムを立案し連携を進めた。年度前半に計画立てた小保の交流会や給食体験は双方の都合がつかず、見送ることになったが、年度の後半は依頼をかけ、計画通りに子ども交流・職員間交流を進める事が出来た。次年度につなげていく。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
８月23日	海老名市立 杉久保小学校 社家小学校 海老名市教育委員会	2名	海老名市文化会館 教育研究発表 ・主体的に学ぶ～子どもの考えを「引き出し深める場」の工夫を通して ・自分の考えをもち、伝えあうことで考えられる ～国語科における読む活動を通して～ 「海老名市の目指すフルインクルーシブ」	スタッフ間勉強会・交流
1月27日	海老名市立 今泉小学校	1名	今泉小学校 教育研究発表 インクルーシブな学校づくりへのファーストステップ	スタッフ間勉強会・交流
1月30日	上星小学校 1年生	10名	上星小学校	子ども間交流 給食見学
3月5日	大谷小学校	11名	大谷小学校 授業参観と交流	子ども間交流 スタッフ間交流

3月6日	今泉小学校 1年1組	11名	今泉小学校 交流会	子ども間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

受給者証の有無にかかわらず、前後期ともに８名の支援計画を作成し全スタッフ共通認識をもって子ども一人ひとりの育ちを見守り促進した。園を利用する子どもたちを混ぜて育てるうえで、大人は状況を見守り、子どもたちの関りをつないでいくことを重点項目とした。作成前に保護者様と面談し、個別に園・家庭との様子を情報共有し、現在の成長発達と課題また保護者様の願いの確認を行い進めた。「生きる力」を育てることを目的とすることは変わらずに、守る、分ける、制限する、指定する支援を避け、けんかやトラブルを含む子ども間の体験を十二分に体験し、経験を自ら選び取って「好き・得意」をみつけて子ども自身が自分育てをすることを強めていった。スタッフ間がまざり、併設園のスタッフとして、子どもに必要な経験を提供し続けることで、かかわり方の認識や調整力、子どもを信じて見守る力が確実に向上し、子ども自身が持っている。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・４～３月に計12回開催　参加者：延べ200名

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

８月から就学相談で教育委員会と情報の共有と連携
１２月に５歳児希望家庭との卒園面談を実施し、就学に向けて成長の育ちを保護者様と確認した
2～３月保育所児童保育要録を作成し提出、小学校との情報共有と引継ぎを行なった。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
18名	9名	18名	477名	20名	181名	168名	7名	12名	3名	7名	4名	924名

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　　来園延べ人数：35名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　⇒計0件

<table>
<tr><td rowspan="3">自然食堂
親子ランチ
交流</td><td colspan="13">毎週（水）10:00～12:00　　⇒計24回実施済み
参加者延べ人数</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>2名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>6名</td><td>4名</td><td>12名</td></tr>
<tr><td rowspan="3">どろんこ
芸術学校
どろんこ
自然学校</td><td colspan="13">毎週（水）10:00～12:00　　⇒計13回実施済み
参加者延べ人数</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>2名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>2名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>6名</td><td>10名</td></tr>
<tr><td>勝手籠設置</td><td colspan="13">（月）～（土）7:00～20:00　にて実施
門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置</td></tr>
<tr><td>ちきんえっぐだより</td><td colspan="13">毎月1日発行</td></tr>
<tr><td rowspan="3">青空保育
（支援センター主催）</td><td colspan="13">月1回　　公園名：海老名中央公園にて　以下日程にて実施</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>0名</td><td>0名</td><td>4名</td><td>0名</td><td>2名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>4名</td><td>0名</td><td>7名</td><td>10名</td><td>27名</td></tr>
</table>

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２５年２月７日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：16時30分
自己評価終了時刻：17時30分
自己評価実施者：施設長　主任　保育スタッフ

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月２５日
アンケート回収率：100%

（省察）アンケートでの良かった点、改善点を下記に上げていく。アンケート結果に対しては、園スタッフ間で共有・検討し、改善点をあげて実施した。子どもの育ちや日々の活動、異年齢の関り、スタッフとのコミュニケーションの評価が高かったが、情報共有についてはすべての保護者様のニーズに対応することができていないことが分かった。スタッフ間の理解度やお伝えの仕方については視覚的・効果的な方法を話し合い研鑽して、質の向上を目指し対応した。すべての保護者様にお子様の様子が手に取るようにわかる報告を目指し次年度につなげていく。

（良かった点）
・スタッフは気持ちの良い挨拶をしている（満足度93.3%）
・お子様への言葉がけは分かりやすく適切である（満足度88.9%）
・ご意見・ご提案に迅速に対応している（93.3%）
・お子様は必要な教育を受けていると感じられる（86.7%）
・園内は清潔で整理整頓され、安全な環境である（91.1%）
・子育てや家庭のことを気軽にスタッフと話ができる（95.5%）

（課題・改善点）
・スタッフ同士の情報共有は適切に行われているか（やや不満が６件）
・スイベント開催告知や活動内容など、お子さまや保護者様に対して、分かりやすく情報を発信している（やや不満5件）

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見
「保護者説明会を開催した事案　０件」

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）
「報告すべきケガ（事故含む）　0件」

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年3月１５日　作成者：メリー★ポピンズ海老名ルーム 施設長　松澤 ひろみ

２０２４年度　香取台どろんこ保育園　事業報告書
（保育所における自己評価）

１．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

未来を担う子どもたちの「育ち」の場として、つくば市が選ばれていることの重責を見据え、子育てを支える保育園として、つくばで育つ子どもたちの「学びと育ち」を支える施設としての責務を果たすべく、この一年邁進してきた。

開園2年目を迎えた香取台どろんこ保育園は、つむぎ香取台ルーム・つむぎ香取台放課後デイサービス・香取台どろんこ学童の計4施設を併設しており、その強みを活かし、連携を図りながらともに学び合い、インクルーシブ保育の実践を通じて地域との関わりを深めようと動き出している。

スタッフ一人ひとりが子どもたちと、そして大人同士も互いに向き合いながら日々の生活を送り、真のインクルーシブ保育とは何かを初年度から模索してきた。学んだことを明日の保育に生かし、さらに進化できるよう引き続き研鑽を積み、次年度につなげていく。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	「生きる力」「にんげん力」の礎となる心情・意欲・態度を育てていく。
	実践結果	大人が子どもに背中を見せ、計画的に環境を用意する。子ども自身が自らやってみて体験する中で、物事の判断や周りの状況に気づくことができるよう援助していった。 子ども同士が複数で一つの活動に向かっていく中においては、意見のぶつかり合いを通して主張や譲歩・折衷など感情をコントロールする経験を重ね、関係性を深めながら、共通の目的を実現していけるようにした。
	次年度方向性	環境構成については、定期的に見直しを図っていく。 感情をコントロールする場面の見守りについて、引き続きスタッフ間の視点のすり合わせを行っていく。
2	計画・ねらい	生活や遊びを通して、主体的・意欲的にかかわれる環境を作っていく。
	実践結果	子どもたちに真に必要なものは何か、必要なことは何かを見極め、子ども自らがいつでも経験を選び取ることができる物的環境の設定を行っていった。
	次年度方向性	1に続き、定期的に、また都度都度見直しを行っていく。
3	計画・ねらい	子どもの姿を捉えた保育計画の立案を行っていく。
	実践結果	発達を理解し、一人ひとりの「今」をしっかりと捉えていけるようにした。10の姿、その目指すべき方向性を見据え、一人ひとりの育ちを読み取っていく手掛かりとした。
	次年度方向性	見取りの視点を日々すり合わせていけるよう研鑽していく。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者の視点に立ち、保護者に寄り添った細やかな支援を行う。
	実践結果	保護者の心情を汲み取り、丁寧に対応していった。 保護者会の開催、個別面談等を行う。
	次年度方向性	引き続き保護者の視点に立ち、細やかな支援を行っていく。
2	計画・ねらい	子どもの成長を丁寧に伝え、育ちを共に喜び協力し合っていく。
	実践結果	送迎時の対応を通して保護者との関係性を深めていけるようにした。また、連絡帳やタイムライン等での日々の細やかな情報共有、およびポートフォリオ等子どもの姿の記録と共有を行っていった。
	次年度方向性	３分間対応の質、タイムラインの質と頻度、ともに向上させていく。
3	計画・ねらい	いつ来ても、どこを見ても気持ちの良い施設を作る。
	実践結果	整理整頓・美観を保つシステムの構築を目指した。 保護者・来園者への丁寧な対応（接遇）を心掛けていった。
	次年度方向性	2同様質の向上を図っていく。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域の子育て家庭にとっての、子育ての輪の入り口となる。
	実践結果	ちきんえっぐ・青空保育の機能を充実させていった。地域の子どもたち同士、子育て家庭同士が繋がる機会となるよう意識して提供していった。
	次年度方向性	引き続き、保護者同士がつながる機会を提供していく。
2	計画・ねらい	園と地域とのつながりを深め、子育て支援拠点としての役割を担う。
	実践結果	子育て等に関する相談の場の提供や援助を行う。 地域集会所や施設、店舗などへのアナウンス、商店街ツアー、職場体験などを通して交流の様子など活動の発信を継続的に行っていった。
	次年度方向性	普段の散歩等も含め、地域の中での保育園として、場の提供や援助を引き続き行っていく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	大人のにんげんカ UP
	実践結果	学んだことを施設内・課内・部内で研修企画をし、アウトプットし自己変革につないでいった。特に園内においては、園内研修の機会のみにかかわらず、普段のスタッフ同士のやり取りの中でも活発に行う兆しが見られるようになってきている。
	次年度方向性	スタッフ同士のつながり、風通しの良い文化の醸造を引き続き心掛けていく。

2	計画・ねらい	子どもたちに関わるすべてのスタッフが、互いを知り同僚性を育んでいく。
	実践結果	スタッフ一人ひとりの強み・得意な分野を認識できる機会を提供していった。スタッフ同士が互いに吸収し育ちあう集団として成長していく様子が見られるようになる。
	次年度方向性	1同様、スタッフ同士のつながり、風都通しの良い文化の醸造を引き続き心掛けていく。
3	計画・ねらい	各自が目標設定をしっかり見据え、課題点を捉えた上でやるべきことを見出していく。
	実践結果	目標設定から課題抽出、進捗追いをそれぞれリーダー・ミドル・主任と順を追ってマネジメントしていけるよう、タイムマネジメントも含め取り組んでいった。
	次年度方向性	機会として回数・質ともに更に細やかにセッティングできるよう、マネジメントしていく。

〈5〉インクルーシブ保育の実践

1	計画・ねらい	チームとして園全体の連携体制を強化していく。
	実践結果	自ら進んで取り組む姿勢を持てるよう心掛けていった。アンテナを張り全体の中での自身の動きを「あなたならどうするか」を見据えつつ、「自分で考え、行動する」「自分でできることは自分でする」を大人も実践していった。
	次年度方向性	自発的に、主体的に取り組む姿勢を尊重しつつ、一人ひとりがそれをアウトプットしやすい環境づくりを目指していく。
2	計画・ねらい	大人同士も互いを認め合い、インクルーシブの意識を持つ。
	実践結果	それぞれの強み・弱みを認め合い、インクルーシブの意識の中で育ちあっていける風土を醸造していった。
	次年度方向性	1同様、一人ひとりがそれをアウトプットしやすい環境づくりを目指していく。
3	計画・ねらい	インクルーシブ保育実践内容の発信と共有。
	実践結果	併設園の強みを活かしながら、互いの専門性を学び合う機会を増やしていった。インクルーシブ保育の考え方や実践内容を、スタッフ一人ひとりがしっかりと学びつつ、エリアや業界へとその意義を発信していく機会を設けた。
	次年度方向性	地域を巻き込んでいく大きな行事・つむぎのイベント等もそうだが、普段の保育自体の発信も力を入れて取り組んでいく。

〈6〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食の循環、環境への意識を育む環境保育の実践。

	実践結果	日課としての畑仕事、食材の加工、糞・ごみの堆肥化等の経験を通して食の循環・環境への意識を身に付ける活動を行っていった。
	次年度方向性	原点回帰、スタッフ一人ひとりが日課の重要性を理解し、子どもたちとともに取り組んでいく。
2	計画・ねらい	「つくば」という地域環境を活かし、遊びや体験につなげていく。
	実践結果	自然環境から科学まで、あらゆる分野での機関が集中する「つくば」ならではの環境を活かし、子どもたちの興味とやってみようとする気持ちの後押しをしていった。
	次年度方向性	様々な資源を活かし、引き続き子どもたちの興味とやってみようとする気持ちの後押しをしていく。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半：4~9月	36人	90人	89人	108人	105人	108人	536人
年度後半：10~3月	36人	90人	90人	108人	102人	108人	534人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	30人	48人	42人	40人	25人	27人	23人	25人	28人	29人	16人	20人	353人
うち0歳児	0人	4人	0人	5人	2人	1人	1人	0人	2人	5人	0人	1人	21人

〈2〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

常勤	保育士	12人	看護師	1人	栄養士	2人	調理員等	1人

スタッフ	事務	1人						
パート スタッフ	保育士	1人	補助	1人	用務	1人		

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・他会議内容共有 ・共有事項、活動の振り返り
給食運営会議	月1回	給食内容の検討、マニュアル確認、各クラスの状況共有、アレルギーへの対応、食育
事故防止委員会	月1回	事故記録・インシデント・ヒヤリハットの分析、検証、再発防止策
ケース会議	月1回	特別配慮を要する子どもについて情報共有、指導計画
リーダー会議	適宜	活動のねらい確認および具体的計画、共有事項の確認
クラス会議	週1回	翌週の活動計画、子どもへの関わり、配慮等

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
食育会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長・調理スタッフ
保健会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長・看護師
主任会議	年4回	施設長・主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士・施設長

併設園会議	年2回	施設長

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	衛生的改善と疾病の予防、衛生全般の管理、心身の健康状態の管理等
安全対策係	スタッフの安全に対する意識を高め、施設内において様々な安全点検・対策に取り組む
防火管理者	防火管理に係る消防計画を作成し、防火管理上必要な業務（防火管理業務）を計画的に行う
食品衛生管理係	食品管理に関する業務、食育会議の計画や実践
畑係	畑の環境整備、植物の病気の予防
生き物係	飼育動物の健康管理、環境改善

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	保護者の主体性を尊重しながら準備・活動を共に進める
子育て支援・相談係	子育てに関する相談業務、子育て支援「ちきんえっぐ」開催

4. 保育支援

〈1〉保育･保育参加･保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	・自信をもって自己表現する ・異年齢で触れ合う中で、互いに刺激を受けあいながら自分たちで問題を解決し、相手の思いに気づくことができるようになる ・自然界の中での発見や不思議さを体験し、豊かな感性を育てる
保育参加	4～3月まで　合計1名　が参加済み　　（3月1日時点）

保護者面談および発達相談	4～3月まで　合計3名　が参加済み　　（3月1日時点）

〈2〉計画した年間行事の振返り

・別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	意欲的に食べられる子どもとなる
	実践結果	「お腹がすくまで目一杯遊ぶ」「おいしく楽しく食事をとる」「旬を味わう」「国内産・高品質の食材」「日本食・伝統食」を大切に考え、昼食・おやつ・夕食すべて手作りのものを提供していった。
	次年度方向性	引き続き、上記の機会・質の向上を目指す。
2	計画・ねらい	食への関心を広げる
	実践結果	子どもたちが自分たちで盛り付け、配膳して食べる。 素材の味を味わえる状態で提供する。 自分たちで「作る」経験をする。 収穫したものを調理して提供する。 行事食・郷土食などとふれあい、伝統文化を知る。
	次年度方向性	畑仕事をはじめとする食の循環や地域の文化等に重点を置き、関心を広げていく。
3	計画・ねらい	食の循環を知る
	実践結果	自ら育てた作物を食する、命をいただく（捌く）体験を通して自然の恵み、食の循環を知る。 糞・ごみの堆肥化から、そのサイクルを知る→ドキュメンテーションにつなげる
	次年度方向性	子どもたちだけでなく、保護者様や地域の方々にもその取り組みを知っていただけるよう精力的に発信していく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月11日／12月5日に実施
歯科検診	6月13日／11月7日に実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施

スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 6月10日に手洗い指導を実施 ② 11月14日に食事指導を実施 ③ 2月27日に歯磨き指導を実施 ④11月・12月に性教育を実施
流行した感染症	特になし
発作・痙攣等の対応	なし
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月21日に園にてエピペン使用研修を保育園スタッフ16名、学童スタッフ2名、つむぎスタッフ名8計26名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ32名のうち、25名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	・8月4日、8月17日に園にて救急救命研修を保育園スタッフ7名、つむぎスタッフ名4、学童スタッフ1名計12名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ32名のうち、27名が使用可能
その他保健に関する取組	ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（法定1回/3年）	業者による対象物の法定点検 2023年実施済み ※対象物がない園及び JW 園は削除すること
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施

	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月
	身長体重測定	毎月1回／20日　実施済み
	児童健康診断	内科健診　各年2回／6月11日、12月5日 歯科健診　各年2回／6月13日、11月7日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時 ⇒4月18日、10月17日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間　実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	子どもが安心できる環境を作る
	実践結果	安全を基本に、物的環境・社会環境・人的環境を整えていった。子どもたちが必要とする環境（例えば思い切り身体を動かせる広さ、教材や素材のストック、自然との触れ合い、子どもにとっての安心基地があること、またはそれを作ることなど）をスタッフ間でしっかりディスカッションし、深め、共通認識を持っていった。
	次年度方向性	安全を保障しつつ、子どもたちが必要とする環境をスタッフ間でしっかりディスカッションし、深め、共通認識を持っていく。
2	計画・ねらい	創造的で自由に発展させられる環境を作る。
	実践結果	一つの事象に対し、それがどう発展させられるか、保育者自身が想像し、あらゆる角度から準備を進めていった。子どもたちと一緒に楽しみつつ、子どもたちの目線に立ちながら環境をアップデートし、その角度を広げるための研修等にも積極的に参加し、スキルアップを図っていった。
	次年度方向性	日々の子どもたちの遊び、発達の段階、季節等を鑑み、環境をアップデートしていく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具の設置なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	〈ケガ事故防止〉 危機管理マニュアルに則り、事故防止チェック及び設備点検チェックの実施、安全教育、SIDS 防止策を行い、ケガ発生時には対応フローチャートに従った。
2	実践結果	〈防災〉 危機管理マニュアルに則り、消防訓練・避難訓練・避難訓練開催通知・自衛消防訓練通知・救命救急資格取得（継続）手続き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛消防組織と安全対策係の設置・緊急地震速報運用を行った。
3	実践結果	〈防犯〉 危機管理マニュアルに則り、不審者侵入訓練の実施・笛の携帯・代理送迎者の把握・不審者情報の収集と共有を行った。
4	実践結果	〈光化学スモッグ〉 発令なし。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

訪問等行い、養成校とのつながりを深めていった。今年度は実習受け入れなしだったが、エリアを広げ受け入れのアナウンスをしていく。

〈2〉実習生の受入

受入なし

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	18日 19名	16日 20名	20日 20名	18日 20名	22日 21名	19日 22名	17日 21名	21日 21名	19日 21名	16日 20名	20日 20名	19日 20名
園内研修	18日 19名	16日 20名	20日 20名	18日 20名	22日 21名	19日 22名	17日 21名	21日 21名	19日 21名	16日 20名	20日 20名	19日 20名

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦

8月～2月	園長大学®保育士大学	若月ゼミ	2名	有

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	21日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	11月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

地域の拠り所となるべく、さらに交流の機会を増やし関係性を深めていく。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：吉祥公園にて　　参加延べ人数：4名
商店街ツアー	週1回　主な行き先：セブンイレブン・万博記念公園駅・幸楽園・カフェバーディー・無印良品の家・ダイソー・カスミ・つくばキッズクリニック・わかすぎ整形外科・かとり台整骨院・アパホテル・アーデン音楽館・アート引っ越しセンター・日本測量協会測量技術センター・パワーコメリ・軽自動車検査協会・理想科学工業等
世代間交流	7月9日に園にてラグビー体験交流会を実施
異年齢交流	12月に香取台小学校にて「秋のテーマパーク」を実施
その他活動	1月14日に園にてどんど焼きを実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

香取台小学校とのやり取りが活発になってくる。引き続き島名小学校等とも交流を深めながらエリアで連携をとっていく。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
7月31日	香取台小学校	1名	高山学園幼保小連絡会	職員間交流
11月7日	香取台小学校	20名	運動会見学	見学
11月22日	香取台小学校 2年2組	18名	香取台どろんこ保育園	子ども間交流
12月9日	香取台小学校 1年	21名	秋のテーマパーク	子ども間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

児児童発達支援つむぎと連携を取りながら、個別支援計画の立案をもとに、スタッフ間での共有と理解、配慮事項等のすり合わせなど行っていった。また、保護者との相互理解に努め、面談や情報の共有等支援を行っていった

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

４～３月に計１２回開催　参加者：園会議出席者

上記<1>の共有と、日常的な情報交換を心掛け質上げに繋げていく。児童発達支援つむぎと連携を取りながら、個別支援計画の立案をもとに、スタッフ間での共有と理解、配慮事項等のすり合わせなど行っていった。また、保護者との相互理解に努め、面談や情報の共有等支援を行っていった。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

各担当に引き継ぐとともに、保育士・専門士すべてのスタッフが関わる意識を持てるようやり取りを重ねる。小学校へ配慮事項等丁寧に引き継いでいく

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
45名	48名	100名	304名	86名	207名	216名	231名	59名	78名	45名	50名	1469名

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　にて実施
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　⇒0件
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週（水）10:00～12:00　⇒計22回実施済み 参加者延べ人数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
5名	12名	7名	8名	28名	4名	27名	17名	21名	16名	3名	6名	154名

どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週（水）10:00～12:00　⇒計12回実施済み 参加者延べ人数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	0名	0名	0名	4名	9名	0名	10名	4名	14名	0名	2名	43名

勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00　にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育 （支援センター主催）	月1回　公園名：吉祥公園にて　以下日程にて実施

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	4名	4名	8名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２４年１２月２７日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：１３時００分
自己評価終了時刻：１３時３０分
自己評価実施者：施設長およびスタッフ６名

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月２５日
アンケート回収率：１００％

園運営にご理解を賜り、協力的な回答が多かった。引き続き、丁寧な保育と子どもたちの安全・経験を保障しながら、ご意見・是正点等スタッフで共有し取り組んでいく。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見　０件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む）　０件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：香取台どろんこ保育園 施設長　篠﨑 理恵

２０２４年度　東大和どろんこ保育園　事業報告書
（保育所における自己評価）

１．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

子ども発達支援センターつむぎ 東大和と東大和どろんこ保育園では、すべての子どもたちが人とのつながりの中で育まれていく様々な体験を通して、生活力を高め、皆で育ちあう施設を目指し保育支援を行ってきた。

「にんげん力。育てます。」という法人の子育て理念に基づき、保育を展開し、これからの時代を生きていく子どもたちに必要な力とは何かを追求した。

生活力を身につけ、子どもたちが力強く社会を生き抜いていけるために必要な力が身につくよう保育を展開する中で、指示、命令を子どもに行うのではなく、子どもたちの気持ちに寄り添い、見守り、大人が背中を見せて、自分で選び自分で決める経験の積み重ねができるよう、職員としてどう対応していくのかということを園内研修はじめ、全員で取り組む機会を大切にしてきた。また日本ではじめてのセンター型発達支援施設であること、初めての取り組みの中での共同生活となることをしっかりと認識し、保育にあたってきた。

また、今年度は様々な分野から注目される1年となった。たくさんの分野の方が見学や研修として自園の取り組みを取り上げていただいた。特に日本テレビの取材によるテレビ放映は自分たちの保育、支援を振り返り再確認することができ、広く発信する機会となった。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

１	計画・ねらい	丁寧な保育の実践 人権：大人も子どもも一人の人として尊重され、居場所がある。
	実践結果	思いやりを持った丁寧なかかわりを徹底して行ってきた。 人権について学びを深め、子どもに対してきちんとした日本語で話をするよう、園内研修を行った。 また子どもの人権を学び、子どもの権利条約についても学ぶ機会を設けた。
	次年度方向性	きれいな言葉づかいで話すとともに、職員の丁寧な所作も気を配り生活する。 障害の有無にかかわらずその特性を見極め、決めつけず、最善の利益を追求していく。
２	計画・ねらい	10の姿の理解を深め実践していく。
	実践結果	保育所保育指針の理解と実践を行う。その中で10の姿を意識しねらいとした保育内容の充実を図った。毎月の園内研修の中で課題を出し、一つ一つのポートフォリオを作成した。
	次年度方向性	引き続き保育所保育指針の理解と実践を行う。その中で５領域を学び、１０の姿へどうつなげていくのかを学ぶ。

3	計画・ねらい	インクルーシブ保育の実践と充実を図る
	実践結果	インクルーシブ保育とは何か？をテーマに、話し合いを重ねてきた。また園内研修でも自分たちが行っていくべき姿と自園でできることのすり合わせを行ってきた。今の時代、この先の時代を生きていく子どもたちへの支援の考え方をつむぎスタッフから学ぶ機会も設け、考え続けてきた。
	次年度方向性	引き続き、混ざりあい認め合い、大人も子どもも環境も“分けず”に全てが混ざり合った活動・環境を整える。 子どもがやりたい遊び、経験を自分で考え、自分で決め、自分で行動できるよう援助し見守る。
4	計画・ねらい	保育者・職員は常に温かくポジティブな養育を目指し、共感力を身につける。
	実践結果	言葉がけについては丁寧な応答を徹底し、園内研修や人権チェックの機会においてしっかり見直し振り返りながら行ってきた。 子どもたちに対して笑いが起きるような気持のよい保育体制を整えてきた。
	次年度方向性	引き続き実践を繰り返し見直しながら子どもに対しての応答の仕方を学ぶ必要がある。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

Ｉ	計画・ねらい	最高の子育てパートナーとなる。子育てが楽しいと感じられるような子どもを中心に置いた保護者支援を目指す。 保育園の様子が分かるような発信力をプロの目線で展開していく。相手の立場にたったかかわり。保護者と一緒に成長していける子育てのパートナーになる。
	実践結果	保護者との連携や、話し合いを密に行っていくことを目指してきた。コミュニケーションは多くとれるように心がけてきた。時にはプロとしてのアドバイスをし、時にはお互いお子さんの成長を喜び合い、共に歩んできたＩ年だった。
	次年度方向性	子育ての楽しさや成長、喜びを互いに感じられるような支援や情報提供をしていく。 保護者の方に、元気や希望がわいてくるような最高のお迎え対応を目指す。 相手の立場に立った対応力をつけるための研修を行う。
2	計画・ねらい	どろんこサポーターズを募り、保護者同士がつながりを持てるような活動をする。
	実践結果	初年度であったがどろんこサポーターの保護者とともにどろんこ祭りの開催を行った。子育て支援として、地域の方と共に親子で楽しんでいただくイベントも行い、子育ての楽しさを共有する機会もあり良かった。
	次年度方向性	どろんこサポーターズとともに、保護者がいきいきと、子育てに積極的にかかわれる場を増やし、かけがえのない保育園時代を楽しんでいただける場や環境を提供し、機会を増やしていく。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域子育て支援事業の実施
	実践結果	子育て支援事業としての定期的な取り組みを行う。 同じ年代や子育て世代の横のつながりを深められるような場の提供をした。
	次年度方向性	園内での園庭開放や、各種イベント、相談業務を行ってきた。
2	計画・ねらい	ちきんえっぐという場を知っていただき、気軽に利用していただけるプランを立て、広く周知できるように情報発信をしていく。
	実践結果	今年度同様地域の方に広く知っていただく機会を設け発信して知名度を上げていく。
	次年度方向性	半年を経過したころから、目標数を上回る利用があり、盛況な日が多かった。来年度も引き続き知名度を上げ丁寧に運営していく。
3	計画・ねらい	孤立する子育てを少しでも減らせるような場として「地域に開かれた子育て支援」ができる園を目指す。
	実践結果	何度も足を運んでいたでき、居場所としての役割を果たすことができた。
	次年度方向性	引き続き子育て相談、保育園体験、寺親屋の開催を行っていく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	インクルーシブ保育を学ぶ。
	実践結果	園長大学®・保育士大学の講座を視聴し、法人が目指す真のインクルーシブ保育を追及してきた。 自園のインクルーシブ保育の実践の中でインクルーシブ保育の良さを収集し、さらに実践の場で活かせるよう研究した。 また大人のにんげん力向上のために、学びあえる集団を目指しかなりの時間を割きながら、自分たちが実践すべきインクルーシブ保育の形とはどのようなものなのか、話し合いを重ねに重ねてきた。答えがあるものではないため、その都度話し合いをして、振り返りまた方向性を話し合うということを繰り返してきた。
	次年度方向性	保育、療育ともにお互いの知識を学びあい、理解しあう。また引き続き、インクルーシブ保育とは何かを考えながら自分たちの方向性を見出していく。
2	計画・ねらい	子どもにかかわるすべての職員が丁寧な保育を実践できる職員を育成する。
	実践結果	園長大学®・保育士大学の講座を視聴し、ディスカッションを行いながら全員が丁寧な保育を実践してきた。 一人一人に寄り添う丁寧な保育とは何か自身で常に振り返り、園内研修等で学びあい、子どもの最善の利益の追求を行ってきた。

	次年度方向性	丁寧な保育の実践を引き続き追及していく。
3	計画・ねらい	子どもの人権を学ぶ。虐待防止について学び徹底した対応をする。
	実践結果	園内研修で人権について話し合い、学ぶ。虐待の定義をもう一度確認しあい、普段の子どもたちへのかかわりを徹底して丁寧に行ってきた。
	次年度方向性	引き続き子どもの人権をしっかりと学び、子どもを保育することはどういうことなのか、大人の都合で子どもたちに接していないか、子どもに、一人の人間として応対しているか、子どもの心を傷つけていないか、日々常にプロの保育士としての誇りと責任を感じて保育に当たれるようにする。 年に2回の法人人権チェックのほかに、年4回自己チェックする。 虐待防止については、虐待の定義を意識し、大人都合である保育を行っていないかをしっかり学び、子どもの人権を考えた行動がとれるようにしていく。
4	計画・ねらい	生活力とは何かを学ぶ。学びを保育の現場で実践する。 非認知能力が育まれる環境構成を学び、ととのえる。
	実践結果	子ども同士のけんかをしっかりと一定の距離を保ちながら見守れるようになってきている。その中でどのようにその子が気持ちを切り替えていくのかを見届けられるようになってきた。
	次年度方向性	引き続き、子どもたちが、生きる力、生活力を身につけるために自分たちが実践していくべきことは何かディスカッションし、自分自身の頭で考え、失敗を恐れず行動し実践していける力をつけられるように私たちはどう接していくと力をつけることができるのかをしっかりと見守りながら言葉できちんと説明できるようにしていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	生きる力をはぐぐむために今行うべきことは何かを考え、そのために整えるべき環境は何かを考えられる職員集団となる。
	実践結果	園児が自己選択すべきことは何かをディスカッションし、そのために必要な環境とは何かを考えてきた。
	次年度方向性	引き続き園児が自己選択すべきことは何かをディスカッションし、そのために必要な環境とは何かを考えていく。
2	計画・ねらい	大人が教えなければならないこととは何かを考える。そのために必要な人的環境、物的環境とは何かを学ぶ。
	実践結果	園スタッフ自身のにんげん力を育てられるようにした。 子どもたちのにんげん力をはぐくむためには大人のにんげん力(人的環境)が大切であることを学び、実践した。
	次年度方向性	引き続き継続していく。 おとなが率先して動く。背中を見せる。そして自分自身が環境であることを自覚する。
3	計画・ねらい	法人が大切にしている日課について考えた時、なぜ子どもとともに畑仕事をし、ヤギ鶏の小屋掃除・糞の始末をするのか。そこに付随する人的環

		境、物的環境について考えられる意識を身につけ語れる職員となる。
	実践結果	毎日のヤギ小屋掃除においては鶏も園に来たことにより、卵を収穫することができ、子どもたちにとっては食の循環を考えるきっかけができた。
	次年度方向性	食の循環について、命あるものを自分たちはいただいていることを知る機会を設けていく。

〈6〉真のインクルーシブ保育を実践する施設づくり

1	計画・ねらい	個々の発達に合わせた個々への配慮と支援を行っていく。
	実践結果	発達の早い子も、緩やかな子も、その子の豊かな生活を願ってその先につながる支援を行っていくことを意識できる職員集団となるよう話し合いを重ねてきた。
	次年度方向性	分けない、大人がぴったりつかない、子ども同士のやり取りを通して情動のコントロールや、判断力を身につけることができるようにするための自分たちの立ち位置や、接し方を見直しながら支援していく。
2	計画・ねらい	要支援児、つむぎ利用児、保育園児等、形態にとらわれず、子ども同士のつながりを大切にする園づくりをする。
	実践結果	保育園、つむぎという枠を取り払い、園児も、つむぎ利用児も分け隔てなく、全職員が保育、支援にあたってきた。 またそのかかわりについて共有を密に行い、一人一人の把握ができ、一緒に丁寧な対応ができる施設づくりができてきているところとまだまだ課題を残すところがある。
	次年度方向性	真のインクルーシブ保育とは何か、混ざり合うとはどのようなことなのかを、インクルーシブについての園内研修を行い追求し、職員の意識をさらに高めていけるようにする。
3	計画・ねらい	インクルーシブの良さを職員が自らの口で語れる集団を目指す。
	実践結果	全員が自分の口で語れるかというと、まだできない職員が多いと感じる。 来年への課題として、実践したことをきちんと言葉にして語れるように育成していく必要があると感じている。
	次年度方向性	見学者や施設の取材等、外部からの質問や保護者への発信を、実践の中での取り組みやインクルーシブであることでの良さを心から感じたことの中からできるようにする。 園内研修等で語り、職員同士で取り組みの中で感じた喜びを話し合いの場で共有しあいさらにインクルーシブ保育を深めていけるように取り組んでいく。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半：4~9月	0人	16人	16人	16人	12人	0人	60人
年度後半：10~3月	0人	16人	16人	16人	13人	1人	62人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	0人	0人	1人	0人	0人	0人	1人	1人	0人	0人	0人	0人	3人
うち0歳児	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人

（解説）※1時間31分以上園長保育を利用した児童

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	0人	1人	3人	1人	8人	0人	8人	12人	17人	7人	3人	8人	68人
うち0歳児	0人	0人	0人	1人	0人	0人	2人	5人	7人	4人	0人	4人	23人

〈2〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

常勤スタッフ	保育士	１５人	看護師	1人	栄養士	２人	調理員等	１人
パートスタッフ	保育士	5人	補助	1人	事務	1人	用務	1人
	嘱託医	２人						

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回120分	当月の行動計画の成果発表／園内研修／次月の行動計画決定
給食運営会議	月1回	食育計画策定／食育活動実施内容／喫食状況確認／検食簿指摘事項改善／配膳方法など
事故防止委員会	月1回	自園及び系列園で起きた事故のケーススタディと改善策策定／全園事故防止委員会での内容共有／当月のヒヤリハット・インシデント分析
ケース会議	月1回	要支援児個別計画の振り返り及び省察／要支援児個別計画の見直し
幼児会議	週1回	幼児クラスについての情報共有
乳児会議	週1回	乳児クラスについての情報共有

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
食育会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長
主任会議	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士
併設園会議	年2回	施設長

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	園舎、職員、園児衛生全般の改善と感染症予防対応、衛生管理全般の管理。掃除チェック表管理・細菌検査とりまとめ・予防接種把握・身体測定などを行った。
安全対策係	様々な災害を想定した訓練実施。施設内避難経路の管理点検設備点検チェック、事故防止チェック、防災自主点検、不審者侵入訓練を計画し実施した。
防火管理者	防火管理に係る消防計画を作成し、防火管理上必要な業務（防火管理業務）を計画的に行った。
食品衛生管理係	食育会議の計画や実践。食品の安全に関する管理や啓蒙をした。
畑係	畑の管理をした。初年度としてはとてもうまくいき、ほうさくの１年だった。特に田植えは全員で行うことができよかった。収穫もでき来年へつなげたい。
生き物係	ヤギ鶏のエサの発注、当番決め、備品発注を行った。

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	どろんこ祭り実施に関わる取りまとめ
運動会係	運動会実施に関わる取りまとめ
生活発表会係	生活発表会に関わる取りまとめ

4. 保育支援

〈1〉保育･保育参加･保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	上期は１２歳が２回の保育室を中心に活動した。 午睡場所については色々な場所を試みたが、2階で寝るようにし寝たい子と寝たくない子の活動場所を分けることでとても落ち着いて活動することができた。 下期には本格的に2歳児も一緒に幼児室で過ごすことでさらに異年齢保育も進めることができた。

保育参加	4～3月まで　合計６名　が参加済み　　（3月１日時点）
保護者面談および発達相談	4～3月まで　合計4名　が参加済み　　（3月１日時点）

〈2〉計画した年間行事の振返り

・別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

１	計画・ねらい	友だちや身近なおとなと親しみを持って、好きな場所で、好きな人と、自分の食べられる量を、楽しい時間空間の中で食べる
	実践結果	バイキング方式を実施。大人が決めすぎない設定の中で食事ができる環境づくりをする。楽しく食事ができ、食べることを楽しめるような工夫をする。
	次年度方向性	
2	計画・ねらい	食の循環を知る。命の大切さを学ぶ。
	実践結果	コンポストづくりを行い、土にかえったものを使って畑活動をおこなった。 梅干しづくり、味噌づくりなど、食べ物を加工したり発酵させたりしていろいろな食べ物の循環を知ることができた。
	次年度方向性	鶏の解体を行う。
3	計画・ねらい	食べ物の種を採取し、種から栽培し収穫する。
	実践結果	種から植えたものがなかなか育たず、来年への課題となった。 苗から植えたものはよく育ち、たくさん収穫できた。
	次年度方向性	種から栽培し、収穫したものを加工できるようにする。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月25日／11月26日に実施
歯科検診	6月6日に東大和どろんこ保育園にて実施

保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	①6月6日に自園にて内科検診指導を実施 ②6月25日に自園にて歯科指導を実施 ③7月4日に自園にて熱中症指導を実施 ④8月21日に自園にて爪指導を実施 ⑤9月30日に自園にて目の指導を実施 ⑥10月30日及び11月12日に自園にて手洗い指導を実施 ⑦12月19日に自園にてうんち指導を実施 ⑧12月21日に自園にて体幹運動指導を保護者希望者に実施 ⑨1月22日に自園にて性教育を実施 ⑩1月27日に自園にて冬の風邪について学ぶを実施
流行した感染症	①7月に手足口病、園児20名・スタッフ1名蔓延するも7月22日に終息 ②10月に手足口病、園児9名蔓延するも10月末に終息
発作・痙攣等の対応	計1名に対し、計3回ダイアップ使用
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月22日に自園にてエピペン研修をスタッフ24名が受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ27名のうち、22名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	AED 設置なし
その他保健に関する取組	その他実施した園児への保健指導、又は、取組等参照

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回/15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み

	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（法定1回/3年）	業者による対象物の法定点検 2023年実施済み ※対象物がない園及び JW 園は削除すること
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表/毎日	毎日実施
	衛生管理点検表/毎週	毎週金曜日実施
	衛生管理点検表/毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿/毎日	毎日実施
健康管理	予防接種状況･既往歴の確認/保険証期限確認	年2回/4･10月 ⇒4月25日、10月25日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回/20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回/6月25日、11月26日 歯科健診 各年1回/6月6日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回/4･10月の園会議時 ⇒4月19日、10月11日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回/園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	子どもたち自身が主体的に選べるように環境設定をする。 生活力を上げるために必要な道具の補充や、検討をする。
	実践結果	環境設定を園会議時に話し合い、実践共有し実践した。 子どもたち自身が主体的に選べるような環境設定とは何か、発達に応じた玩具の配置は何が必要かをかんがえた。
	次年度方向性	生活力を上げるために必要な環境や道具は取り揃えてあるかをはなしあいながら最適な環境を整える。
2	計画・ねらい	園長大学®・保育士大学による環境構成についての講座を受講する。
	実践結果	受講した内容を園内研修の場で学びあい、人的環境・物的環境について今最善の環境を検討した。
	次年度方向性	引き続き学びあいの機会を設ける。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

該当なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	・防災 危機管理マニュアルNo.３の災害対策に則り、消防訓練・避難訓練・避難訓練開催通知・自衛消防訓練通知・上級救急救命資格取得（継続）手続き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛防災…危機管理マニュアルNo.３の災害対策（Ｐ．１２～）に則り、消防訓練・避難訓練・避難訓練開催通知・自衛消防訓練通知・上級救急救命資格取得（継続）手続き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛消防組織と安全対策係の設置・緊急地震速報運用を行い、災害発生時には対応フローチャートに従い実施。
2	実践結果	・ケガ事故防止 ケガ事故防止…危機管理マニュアルNo.３のけが事故防止策・安全点検と保全（Ｐ．１４～）に則り、事故防止チェックおよび設備点検チェックの実施、安全教育、ＳＩＤＳ防止策を行い、けが発生時には対応フローチャートに従い実施。
3	実践結果	・防犯 危機管理マニュアルNo.３の不審者対策（Ｐ．２０～）に則り、不審者侵入訓練の実施、笛の携帯、代理送迎者の把握、不審者情報の収集と共有を行い、不審者侵入時にはフローチャートに従い実施。
4	実践結果	・光化学スモッグ 危機管理マニュアルNo.３の光化学スモッグ対策（Ｐ．２１～）に則り、光化学スモッグの知識を身につけ、注意報発令の把握を行いながら、発生時には光化学スモッグ発生時対応および行政連絡に従って対応した。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

保育実習実施なし。実習前の実習指導のみ実施。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
6月8日	日本社会事業大学社会福祉部	２人	保育実習指導 IB

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
7月23～8月22日	東大和市立東大和第六小学校	8人
7月24日～7月26日	東京都立多摩科学技術高等学校	2人
8月2日	小平市立小平第六小学校	1人
8月6日～8月22日	府中市立府中第三小学校	2人
8月8日～8月9日	東大和市立東大和第五小学校	2人
8月14日～8月27日	東大和市立東大和第三小学校	3人
8月14日～8月15日	東大和市立東大和第三中学校	2人
8月20日～8月22日	東大和市立東大和第二小学校	2人
8月22日～1月7日	東大和市立東大和第八小学校	3人
8月23日	小平市立小平第一小学校	1人

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	30日 24名	31日 23名	28日 25名	31日 26名	30日 26名	30日 27名	31日 28名	29日 28名	27日 28名	31日 27名	28日 27名	31日 27名
園内研修	30日 24名	31日 23名	28日 25名	31日 26名	30日 26名	30日 27名	31日 28名	29日 28名	27日 28名	31日 27名	28日 27名	31日 27名

〈2〉外部研修への出席

該当なし。

キャリアアップ研修は16名受講済み。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	21日 1名
全社員研修	11月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	該当なし											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

地域に新しくできる発達支援センターとの併設保育園としてまず保育園の存在を知ってもらうとともに、子育て支援センターなど地域の方に開放し、行っている行事など多くの方々に利用していただけるように計画し実践した。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：東大和南公園にて　　参加延べ人数：48名
商店街ツアー	週1回　主な行き先：りんりんベーカリー、橋本農園、指田青果店、肉の越木屋、南街交番、中央図書館、ヘアサロン ミント、北多摩西部消防署、八幡神社、駄菓子屋ランド 華屋、セブンイレブン東大和立野4丁目店等
世代間交流	アビリティーズ・気まま館 東大和→感染症流行のため未実施
異年齢交流	9.小学校との子ども間交流・職員間交流参照
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉　実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

東大和どろんこ保育園に隣接する東大和市立第八小学校と連携を図った。
具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
12月10日	東大和市立第八小学校 5年2組	32名	モルックで遊ぼう（当園園庭）	子ども間交流
12月18日	東大和市立第八小学校 5年1組	33名	モルックで遊ぼう（当園園庭）	子ども間交流
1月29日	東大和市立第八小学校 5年1組	36名	バガスを土に還そう（当園園庭）	子ども間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

特別な支援が必要な乳幼児については、個別に保育計画を作成し、家庭や関係機関と連携しながら、計画的・継続的に一人ひとりに応じた保育内容や配慮を実践した。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

４～３月に計１２回開催予定　参加者：毎月１０名で実施。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

併設園としての特性を生かし、職員間での共有や小学校との連携をしっかりと行い、情報共有した。
幼保小連絡協議会にて共有実施した。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
95名	69名	245名	576名	227名	516名	578名	600名	473名	539名	380名	500名	4798名

実施項目	詳細

<table>
<tr><td>園開放</td><td colspan="12">（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　　来園延べ人数：3870名</td></tr>
<tr><td>子育て相談</td><td colspan="12">（月）～（土）13:00～16:30　　⇒計88件相談実施済み</td></tr>
<tr><td rowspan="3">自然食堂
親子ランチ
交流</td><td colspan="12">毎週（水）10:00～12:00　　⇒計24回実施済み
参加者延べ人数</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>6名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>3名</td><td>30名</td><td>15名</td><td>36名</td><td>15名</td><td>23名</td><td>18名</td><td>14名</td><td>15名</td><td>175名</td></tr>
<tr><td rowspan="3">どろんこ
芸術学校
どろんこ
自然学校</td><td colspan="12">毎週（水）10:00～12:00　　⇒計24回実施済み
参加者延べ人数</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>10名</td><td>0名</td><td>2名</td><td>4名</td><td>28名</td><td>4名</td><td>2名</td><td>13名</td><td>6名</td><td>9名</td><td>5名</td><td>5名</td><td>88名</td></tr>
<tr><td>勝手籠設置</td><td colspan="12">（月）～（土）7:00～19:00　にて実施
門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置</td></tr>
<tr><td>ちきんえっぐだより</td><td colspan="12">毎月1日発行</td></tr>
<tr><td rowspan="3">青空保育
（支援センター主催）</td><td colspan="12">月1回　　公園名：東大和南公園にて　以下日程にて実施</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>6名</td><td>0名</td><td>2名</td><td>0名</td><td>2名</td><td>0名</td><td>10名</td><td>2名</td><td>6名</td><td>４名</td><td>16名</td><td>5名</td><td>51名</td></tr>
</table>

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

株式会社学研データサービスに依頼して受審済み
アンケート配布日：１２月２４日
アンケート回答率（スタッフ）…94.7%／アンケート回答率（保護者）…54.7%
経営者ヒアリング・施設長ヒアリング・園審査：２月２７日に実施

〈2〉園による自己評価の実施

２０２４年11月30日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：9時00分
自己評価終了時刻：12時00分
自己評価実施者：施設長、主任、当日出勤のスタッフ

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月２５日
アンケート回収率：１２７％

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

該当なし

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む）　0件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：東大和どろんこ保育園 施設長　宮澤 叙栄

２０２４年度　見附どろんこ保育園　事業報告書
（保育所における自己評価）

１．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

認定こども園と児童発達支援事業所が併設された見附どろんこ保育園＆つむぎ見附ルームとして開園し、本物の体験を重視した「いきる力」を育む保育、インクルーシブ保育を実践してきた。試行錯誤の中にも、保育所保育指針・どろんこ会の理念方針を軸にスタッフがチームとなり、保育の質にこだわりながら進んできた。新潟県内初の児童発達支援事業所を併設した園であることから注目が集まり、見学者が年間２００名ほどあった。園の建設場所が地域の主要幹線道路の三条・長岡線であることから交通量があり、利便性が高いことが周知に繋がり「少子化で子どもが少ない地域の活気になった。」と、地域の方からいただいた言葉は何より、喜ばしいことであった。

見附市等の関係機関や地域とのつながりについては、次年度以降は積極的に関りを持ち、地域活性化の核になれるように進んで行く。４月開園に当たっては、無我夢中で目の前の子どもたちと向き合い、保育を実践してきた。その中で、自身の保育の質を高めたいと集まってきたスタッフの意欲は、何物にも代えがたいチーム力となった。子どもたちに必要と思われる体験は、労をいとわず実践し、スタッフ自身の喜びに変えて進んできたことが、日々の保育の充実に繋がったと思われる。今年度の経験を踏まえて、次年度に向けスタッフの夢も広がっていく事が期待される。

２０２５年度はスタッフが融合し、調和し、一人ひとりが挑戦していく年になることを願っている。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

１	計画・ねらい	・保育所保育指針の理解（どろんこ会が目指すもの）を深める園内研修。
	実践結果	・どろんこ会が目指す「いきる力」や基本活動、日課の意味について保育所保育指針とリンクさせながら園会議内容に盛り込んで実施した。 ・援助の在り方の重要性を日頃の保育を振返りながら、実践とリンクさせて行った。
	次年度方向性	・援助の意義やあり方は「いきる力」を育む保育に直結する事や子どもの主体性についての知識としては深まったと思われる。実際の援助とリンクすることに対しては課題が残された。
２	計画・ねらい	・日課活動の充実と子どものスムーズな動線づくり。 ・日課活動の意味を捉え、日課活動の定着が保育の充実に繋がる事をスタッフが理解するとともに、実践していく。 ・子どもの動線への配慮の重要性について理解し、スムーズな保育の流れに導く環境を整える。
	実践結果	・日課は4月から流れに沿って子どもたちが自主的に行う姿がある。 ・日課の質については、さくらさくらんぼリズム体操、雑巾がけなど早番保育者の対応によって違うなどの課題が残された。細部までのすり合わせが必要である。 ・園庭工事が完了しない事から、生き物の世話や畑活動が定着しなかっ

		た。 ・子どもの動線、大人の動線へのイメージの共有に届いていない。
	次年度方向性	・保育者の対応による日課の流れが違うことが無いように、保育者が明確なねらいや意図を持って日課を行うことについて理解を深め、実践に繋げることが求められる。
3	計画・ねらい	・主体性を育む保育とは何かを、理解する研修と実践。 ・子どもの主体性を育む保育への理解を深め、保育の質の向上を図る。
	実践結果	・主体性と自主性の違い、育みたい資質能力三つの柱について園会議で研修を行った。 ・手を出し過ぎる保育からの脱却を目指して、「援助のまなざし」研修を実施。子どもが思考力・判断力・表現力が求められる場面で、主体的行動する事例をピックアップして深い理解に繋げた。
	次年度方向性	・普段の何気ない関りの見直しこそが重要であり、主体性への理解は以前より深まったと思われるが、実践とリンクしない課題が残された。 ・一つひとつの場面で、スタッフが考えながら関わることが重要であると考える。
4	計画・ねらい	・保育の安全管理体制づくり。 ・保育の安全管理への意識を高め、安全管理体制を作り、安全な保育環境を整備する。
	実践結果	・保育の安全の基盤となる事故防止委員会を立ち上げ、コアなメンバーが主体となり、新園であるからこその見えないリスクの洗い出しに注力した。 ・ヒヤリハット収集の啓発に努めたが、多い月で297件、少ない月は、215件であった。 ・自園の事故防止は分析を確実に行い、分析表から読み取れる傾向やヒヤリハットの内容により、必要に応じて検討会を開催し全スタッフに共有してきた。
	次年度方向性	・事故防止委員による保育のリスク管理は保育の土台であり、事故防止を組織的に取り組む体制整備の強化。 ・ヒヤリハット提出　300件/月を目指して啓発する。 ・マニュアルを遵守する事を重視し、スタッフの安全管理意識を高める。
5	計画・ねらい	・インクルーシブ保育の理解を深める研修の実施。 ・インクルーシブ保育は全ての子どもたちに必要な保育であることを深く理解し、実践に繋げる。
	実践結果	・インクルーシブ保育への理解が深まらないままのスタートとなったが、園と児童発達支援事業所のスタッフ間の協同を目指して、保育所保育指針の養護を軸に進んできた結果、試行錯誤の日々ではあったが、当たり前に子どもたちが一緒に生活し、成長する姿に教えられる日々であった。
	次年度方向性	・さらなるスタッフ間の融合を目指して、自分のエリアにいる子は、そのスタッフが責任を持って保育し、調和するチームを目指す。 ・小さなことを丁寧にすり合わせ、課題と向き合う姿勢の育成。 ・インクルーシブが当たり前な園となり、子どもたちにとって最高の保育環境を目指す。

6	計画・ねらい	・内部監査を活用した保育の質を担保し、指摘数ゼロを目指す。 ・保育の標準化についてスタッフが理解し、保育の質を担保するために、内部監査項目を活用した仕組みを作る。
	実践結果	・1回目内部監査　指摘数11個　2回目内部監査　指摘数9個という結果。 ・内部監査項目を通して、保育の標準化を図り保育の質の担保に努めたが目標の指摘数0には届かなかった。 ・監査項目担当者を決め、全体のレベルアップを目指して、全スタッフが責任を持って、取り組む体制を確立。
	次年度方向性	・マニュアルの意義等について再確認し、保育の質を担保するため、全スタッフで内部監査指摘数0を引き続き目指す。 ・監査項目担当者を決め、全体のレベルアップを目指して、全スタッフが責任を持って、取り組む体制の継続。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	・子どもの成長や子育ての感動を保護者に伝える「お迎え3分対応」の充実。 ・保護者の立場に立ち、支援者としての役割を認識し、さらに子どもの育ちを共有することで、保育の質の向上につなげる。
	実践結果	・4月当初、お迎え対応は経験による差が大きい面はあったが徐々に、経験の浅いスタッフも子どもたちと共に豊かな体験をする中で、保育者が感動を味わいエピソードをお伝えできるようになってきた。 ・子どもたちと共に豊かな体験をすることが何より大切であり、自然体験や日々の保育の中で感動できる感性を保育者が身に付ける事であると感じた。
	次年度方向性	・お迎え対応は伝える言葉の巧みさではなく、保育者として子どもの成長や、日々の保育の中で感動したことを伝えることであり、日々の保育の充実から、お迎え対応の内容の充実を目指す。
2	計画・ねらい	・「うちのこアプリ」のタイムライン、連絡帳の充実。 ・「うちのこアプリ」は、保育者と保護者がつながるツールであるため、伝える技術を磨く。
	実践結果	・タイムラインはスタッフ一人1投稿を目指して、日々啓発しながら取組んできた。保護者アンケートからも、タイムラインが好評だったことが伺える。
	次年度方向性	・タイムラインの写真の構図やエピソードを捉える視点などについて、日々投稿されたタイムラインを見ながら、互いに評価し合い切磋琢磨していく。
3	計画・ねらい	・子どもの成長の姿を伝える、感動あふれる行事の開催。（運動会、どろんこ祭り、生活発表会） ・子どもの成長は保護者にとって何よりの励みであることから、子どもの成長を伝える行事は、感動あふれる内容になるようにする。
	実践結果	・どろんこ祭りは1年目でどろんこサポーターが主催する祭りを開催した。「おもち（山羊）と写真コーナー」など保護者ならではの発想が好評で、充実した内容の祭りが好評であった。 ・運動会は保護者と子どもたち、保育者が一体となり、子どもたちの真剣

		なリレーや、ダンスに感動する会となった。 ・生活発表会は日常の保育の延長線上にある無理のない内容で取組み、発表会に繋げた。日常の飾らない内容に保護者の方の共感が得られたと感じる。
	次年度方向性	・大きな三大行事（どろんこ祭り・運動会・生活発表会）は、子どもたちの成長をお伝えする大事な行事であり、子どもたちの成長は何よりの子育て支援であると考え、感動する行事にする。 ・三大行事は日々の保育の延長線上にあり、日常の保育内容の結果であると考える。日々の保育内容の充実を目指して進む。
4	計画・ねらい	・インクルーシブ保育の保護者理解と周知への取り組み。 ・インクルーシブ保育の本質について、全ての子どもに、必要な保育であることを発信し広めていく。
	実践結果	・インクルーシブ保育の社会的なニーズ等について保護者会で説明した。 ・医療ケア児の受入れの様子や日常の保育の中で児童発達支援事業所が併設されていることを自園の特徴として保護者が当たり前に、自然に受け入れて下さっている。
	次年度方向性	・日常のインクルーシブ保育が実践されている様子をタイムラインや行事等で、障がいのある、なしに関わらず、当たり前に一緒に生活している姿を発信していく。 ・インクルーシブ保育の中で育ち合う子どもの姿を発信し、インクルーシブが当たり前という考え方を広める。
5	計画・ねらい	・どろんこサポーターズ募集と「どろんこ祭り」共催。 ・どろんこサポーター活動の活性化と活動の基盤づくり。
	実践結果	・初年度のどろんこ祭り開催であったが、5名のサポーターが中心となって、保護者目線で企画運営した祭りが好評であった。
	次年度方向性	・4月から早々にどろんこサポーターを募集し、「どろんこ祭り」の企画運営を中心に、保護者同士のつながりの機会を増やす。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	・子育て支援センター「ちきんえっぐ」を地域に広め、気軽な利用を図るための広報活動。 ・開園初年度は見附どろんこ保育園の子育て支援センター「ちきんえっぐ」という名前を広め、利用促進を図る。
	実践結果	・開園した当初から建物が注目され、園見学者が多かった。徐々に口コミで広がり、利用が拡大した。イベントの中でも自然食堂のおやつ作り、芸術学校でのクラフト講座は人気が高く、利用者数が拡大傾向にある。リピーターが多い傾向が見受けられた。
	次年度方向性	・更なる利用の拡大を目指して、出前保育での関係機関とのネットワーク作りと、自園のアットホームな「ちきんえっぐ」の良さをアピールし、イベントなども保護者のニーズに合った内容を取り入れる。
2	計画・ねらい	・出前保育における勝手籠（子ども服フリーマーケット）の有効活用。 ・勝手籠は子育て親子が繋がり交流するきっかけとなるため、出前保育に勝手籠を持参し広める。

	実践結果	・出前保育の周知は困難であった。公園で遊ぶ親子の姿は皆無に近く、公民館や道の駅などの利用に際しても、自治体の理解が得られずに困難なスタートで、勝手籠の良さをアピールする場も得られない現状がある。
	次年度方向性	・戸外で遊ぶ親子の姿はほぼ見かけない現状で、外に出るきっかけとして根気よく、少しずつ口コミで広がるように勝手籠のアピールに努める。
3	計画・ねらい	・広い園庭環境を活かした親子交流、地域交流の促進。 ・広い園庭環境で様々な人が交流できる機会を持ち、地域に開かれた園となる。
	実践結果	・園庭開放は園庭整備のため、利用が制限され活用できなかった。
	次年度方向性	・園庭が整備され利用可能となった際に大きく広報し利用拡大を目指す。 ・子どもの育ちに必要な戸外活動を十分に行える場として、地域に開放する。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	・組織づくりに取り組む。 ・開園初年度に重要なのは組織づくりであることを理解し、自身が目指したいものを実現していくという見通しを持つ。
	実践結果	・策定会議において「組織つくり」とは何かについて、理解を深める研修を実施した。 ・法人の理念や方針を理解し、同じ方向を目指して進むチームとして進んできた中で、これまでの経験や価値観の違いが表れ始めている。
	次年度方向性	・スタッフ同士の価値観が違っていても、同じ方向を目指すチームとなるために、どうするかとう問いに向かい合う次年度である。 ・考え方は違っても、融合して調和する集団を目指す。
2	計画・ねらい	・保育所保育指針が目指す日本の教育の方向を理解する。 ・保育所保育指針への理解を深め、目指すべき日本の教育について考え、保育の見通しを持つ。
	実践結果	・保育所保育指針の重要項目「養護と教育の一体化」「育みたい資質能力」「就学までに育みたい10の姿」理解を深める研修を園会議でおこなった。
	次年度方向性	・さらなる保育所保育指針の理解を深める研修を園会議に盛り込む。 ・「保育所保育指針の章の流れの理解」「主体性と援助の理解」について研修し、法人が目指す基本活動や日課への深い理解へと繋げる。
3	計画・ねらい	・どろんこ会が目指す「いきる力」のキーワードの理解。 ・非認知能力・主体性・インクルーシブ保育など、どろんこ会が目指す保育のキーワードを理解する。
	実践結果	・保育実践を通して、子どもたちの成長の姿からどろんこ会が目指す「いきる力」の必要性を肌で感じたスタッフが多かったと思われる。 ・子どもの成長の姿は、保育に携わる者として何よりの喜びであり、インクルーシブ保育における子ども同士の関りの重要性を感じながら、大人が必要以上に介入する場面への葛藤がみられる。

	次年度方向性	・保育所保育指針の理解を土台として、法人が目指す理念・方針に沿った深い理解を目指す。 ・インクルーシブ保育の本質は、保育者の援助の在り方がキーワードであることを保育実践や研修の場で伝える。
4	計画・ねらい	・業務過多と言われる保育業界は自分たちで変える。 ・子どもたちに真に必要な業務を精査し、無駄な業務を洗い出し、業務改善に努める。
	実践結果	・業務に対して、常に無駄なく効率的に行う意識啓発を行ってきた。 ・行事の在り方について本来の目的は何か、子どもたちに真に必要な事は何かを考え直し、スタッフの行事へのイメージを変え、無駄な業務削減を実現した。 ・無駄な残業、休暇取得、休憩時間の確保などの課題に対して、それぞれの持ち場でスタッフ同士が話し合い、働きやすい職場環境を整える風土となっている。
	次年度方向性	・さらなるスタッフの保育へのやりがいや働きやすい職場を自分たちで作る為、保育業務はスタッフ間の連携がカギとなる。連携の課題からゆとりの無い現状があり、そこから脱却するためスタッフ同士で話合い、保育の質の向上に向けた時間に費やせる、ゆとり時間を捻出する。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	・給食残渣の有効活用と堆肥づくり。 ・適切な給食食材量の把握で残渣を減らし、残渣は有効に活用する。
	実践結果	・園庭の片隅に除草した草・山羊の糞等を入れ込んだ堆肥場を作ったが、園庭整備のため出入りもままならない状態で、活動の継続が出来なかった。 ・野菜くずは、皮付き野菜の利用や山羊のエサとして有効活用し、それ以外の物でもゴミサー（野菜の分解装置）利用で環境にやさしい取り組みが実施されている。
	次年度方向性	・日課活動の中の畑活動と合わせて、給食残渣の有効活用のため堆肥場の管理を子どもたちと一緒に行い、良い堆肥作りに向けて水分や菌の管理を確実に行う。 ・給食残渣量を常時把握し、適切な管理を行う。
2	計画・ねらい	・本物の食の循環を知る活動。 ・畑づくり、稲づくりは土壌づくりから苗の栽培、収穫まで本物の食の循環を通して、協同性、社会性、規範意識の芽生えへと導く。
	実践結果	・園庭が整備されない状況で、可能な範囲での畑活動や堆肥作りに取り組んだ。米作りは園の田んぼで70kgの米を収穫した。 ・暑さの夏は田んぼや畑の草取りは難しかったが、短時間でも継続して作業に関わることが重要であると感じた。 ・子どもたちに食の循環を知らせるとともに、自主的に取り組む姿勢を育成するためのスタッフ間の姿勢の共有に改題が残された。
	次年度方向性	・日々、確実に日課としての畑活動（田んぼ、堆肥を含む）を行い、収穫体験を通して、味わう食育活動を実施する。 ・自分たちで手間暇かけて収穫する喜びと同時に、食べ物に関わる多くの

		人への感謝の念が持てるように導く。
3	計画・ねらい	・様々な食品の加工体験。 ・食品を加工する意義を知り、食品加工技術を体験する。
	実践結果	・梅干し、切り干し大根、味噌作りを実施した。自分たちが関わることで食材への思い入れが生まれる事で子どもたちの味覚が変化し、これまでは好まなかった物も美味しいと感じて、食する姿を目の当たりにした。
	次年度方向性	・梅干し、味噌作り、ケチャップ作り、たくあん、切り干し大根、干し柿、きな粉など加工食材を増やして取り組む。
4	計画・ねらい	・樹木を保育環境に取り入れる。 ・様々な木に関心を持ち、木に触れる遊び環境を作る。
	実践結果	・焚き火を通して薪に触れ、燃える様子を観察した。 ・杉の丸太と松ぼっくりでクリスマスツリーやリース作りなど、木の素材に触れイメージしながら表現活動に取り組んだ。
	次年度方向性	・戸外活動、室内活動をそれぞれの遊び環境に樹木を置き、子どもたちが自由に触れて発想を膨らませることができる環境を用意する。

〈6〉地域とのネットワークの構築（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

1	計画・ねらい	・近隣の方々との交流の機会を持つ。 ・地域の社会資源としての役割を担うため、初年度は地域に受け入れて頂けるような関係づくりに取り組む。
	実践結果	・就労支援事業所「見附ワークス」様とは、地域の情報交換、サツマイモや山羊のエサなどを頂いたり、行事の際の駐車場を利用させて頂いたり、塞の神にお越しいただくなど日常的に交流させていただいた。 ・老人施設「古志乃里」様には、シルバー交流で訪問させていただき、子どもたちが訪れるだけでも交流となった。 ・ご近所で毎日のように山羊の餌となる葉物野菜を届けて下さる方もおり、自然な交流が出来始めている。
	次年度方向性	・今年度の交流に加え、名木野小学校・田井小学校・見附特別支援学校など近隣の小学校との交流、近隣にお住いの方々に塞の神の行事へお誘いするなど行事の定着を図りたい。
2	計画・ねらい	・教育、福祉関係機関とのネットワークの構築。 ・保育に関わる関係機関とのつながりを明確にしながら、基盤づくりに取り組む。
	実践結果	・卒園児が1名であったこともあり、今年度は小学校との情報交換や交流は小学校1校のみとなった。 ・見附市の福祉関係機関とは必然的に持てたが、子どもの育ちの観点から、情報交換体制の充実に向けたネットワークの必要性を感じた。
	次年度方向性	・次年度は就学先が5校に広がることから、ネットワークが必然的に拡大していく事が予想される。 ・地域の中での育ちの連続性に配慮した体制を発信していく。
3	計画・ねらい	・ご近所付き合いの輪を作る。 ・近隣住民の方々との良好な関係づくり。

	実践結果	・近隣の方の園見学、山羊を見に来て下さる方など自然な交流が続いている。 ・子どもたちと散歩に出かける際は近所の方々の温かい言葉かけや挨拶を頂け、ありがたく感じている。
	次年度方向性	・次年度以降、小正月に行う塞の神の行事にお誘いし、地域の行事として定着させていきたい。 ・熱田町1丁目の区長様にお願いし、回覧板で広報する。

〈7〉保育の質を担保するスタッフの働き方改革

1	計画・ねらい	・保育業界の当たり前を見直す。 ・保育業務の在り方について再考し、業務のスリム化と保育の質を担保するための業務改革に取り組む。
	実践結果	・保育業務の軽減を目指して、効率的に取り組むことを策定会議で説明。 ・子どもたちに必要な事であるかどうかを精査する視点とし、一つひとつの業務を見直しながら進んできた。 ・保育計画の書き方、行事の在り方については、保育の質は担保しながら必要でない業務の改善は前進した。
	次年度方向性	・スタッフの時間の使い方の意識には個人の差が大きく、協同して業務に当たる姿勢についての意識統一への取り組みが求められる。 ・仕事のスピード感や、個人の力量の差をどう埋めていくのかという課題への取り組み。
2	計画・ねらい	・適正なスタッフ配置とタスク管理。 ・シフトの適正管理とスタッフの業務を管理し、無駄な超過勤務の無い風土づくり。
	実践結果	・急な法廷違反に対応するための超過勤務以外の無駄な超過勤務は発生していない。時間管理は一人ひとりのスタッフの意識の問題で、常に声掛けをしないと緩くなりがちな面は否めない。
	次年度方向性	・施設長のみがタスクを管理するシステムではなく、一人ひとりの意識改革による時間のタスク管理が次年度に目指したい姿である。
3	計画・ねらい	・働きやすい職場環境は自分たちで作る。 ・保育の質を担保する、業務のスリム化でワークライフバランスを実現する。
	実践結果	・休暇取得については、権利があっても取得しやすい環境は、その職場にゆだねられている問題として、お互いさまの気持ちで分かち合える風土となっている。一方で自分だけの思考に陥りがちな状況も見受けられ、スタッフが必要と感じたタイミングで、ルール作りが必要となる可能性もある。
	次年度方向性	・次年度の担当スタッフが新たに職場環境を作っていくことで、マンネリ化しない体制で、現実に即した環境にする。

〈8〉組織づくりによる強固なチームづくり

1	計画・ねらい	・組織づくりとは何かを理解する。 ・組織の一員として機能することがチームづくりにつながる事を理解する。
	実践結果	・策定会議にて、組織つくりによる仕組み化とは何かを話合い、スタートした。 ・基本を理解して進んできたことで、迷えた時には基本に立ち返る場面もあったが、迷わずに進んできた。 ・1年が過ぎようとしている中で、浮き出してきたのは協同への理解のずれ、保育場面での思い違いによるリスクなどである。
	次年度方向性	・改めて組織とは何か、仕組み化とは何か一人ひとりのスタッフが歯車のように稼働するために、協同とは何かを深く理解して行動する事を再度、話し合う機会を持つ。
2	計画・ねらい	・対話型組織づくり。 ・経験が異なるスタッフの個を活かしながら、チームとして稼働していく組織づくり。
	実践結果	・園会議では可能な限りディスカッションを多く取り入れ、話し合いを進めてきた。 ・経験の差というより、個人の価値観の違いによるずれが、業務の滞りとなる場面も、互いにチーム力で乗り切ってきた。
	次年度方向性	・それぞれの個性が浮き出してくると思われる次年度は、個性を活かしたチームとなるために、一人ひとりのスタッフとの対話を十分に行う。

〈9〉児童発達支援事業所「つむぎ見附ルーム」と連携し、インクルーシブ保育を目指す。

1	計画・ねらい	・発達支援事業所と保育園の連携。 ・互いの立場を尊重し合い、協同する関係性を構築する。
	実践結果	・療育の世界から保育の世界に飛び込み、保育が何もわからないまま葛藤しながら進んできたスタッフの姿に感謝の思いである。 ・インクルーシブ保育の重要な観点となる、子ども同士の関りを重視し、子ども主体の保育の理解を目指して、その入り口に入った段階である。 ・日々の園と児童発達支援事業所の15分間振返り時間は、貴重な共有の時間となっている。

	次年度方向性	・保育所保育指針　養護と教育の一体化の理解を深め、保育者の援助の在り方こそがインクルーシブ保育のキーワードとなる事を深く理解する研修を継続して実施する。
2	計画・ねらい	・職種の違いを超えた連携。 ・スタッフの専門性を活かした保育が実現できるように、職種の理解を深める。
	実践結果	・様々な職種のスタッフが互いを尊重し合いチームとなって業務に当たってきた。各々の役割をに認識し、責任を果たすスタッフの姿がある。 ・子どもを多面的に捉えて、育ちを見るという姿勢で大変な場面も、互いに連携する体制が整っている。
	次年度方向性	・インクルーシブ保育の目指すべき姿のイメージをさらに深めて共有し、自園に合った保育の中でのスタッフ間の立ち位置をアップデートしていく仕組みを作る。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半：4~9月	25人	72人	29人	69人	61人	6人	262人
年度後半：10~3月	54人	72人	35人	72人	70人	6人	309人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	3人	3人	2人	2人	4人	4人	4人	4人	4人	4人	2人	2人	38人
うち0歳児	0人	0人	0人	0人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	0人	0人	6人

（解説）延長保育は標準時間18:30を過ぎた人数として算出。

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
うち0歳児	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人

（解説）問い合わせは2～3件あったものの、近隣の施設より利用料が高額の為、利用は無しの状態。

〈2〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　（３月１日時点）

常勤スタッフ	保育士	12人	看護師	2人	栄養士	2人	施設長	1人
							主任	1人
パートスタッフ	保育士	2人	事務	1人	用務	2人	嘱託医	2人

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・虐待防止研修 ・スタッフのアウトプットタイム ・保育の課題検討 ・事故防止委員会報告、ケース会議報告
給食運営会議	月1回	・喫食状況　・嗜好　・残渣状況　・食事マナー ・離乳食状況　・個別の食事状況共有
事故防止委員会	月1回	・ヒヤリハット集計結果から分析　・改善策検討 ・インシデント、事故報告からの改善策検討と周知徹底

ケース会議	12回	・特別支援児及び気になる子への困難場面の対応 ・発達状況、成長する姿の共有 ・家庭のニーズの共有等
リーダー会議	8回	・保育の課題について共有と改善策の検討 ・組織体制の見直し等 ・保育計画等の業務分担見直し等

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
食育会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、看護師
主任会議	月1回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士
併設園会議	年2回	施設長

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	看護師を中心とした感染症対策等、必要に応じた対策や保護者への情報発信を行ってきた。環境に関わる衛生管理への対応を仕組み化して、取り組む必要を感じた。
安全対策係	ヒヤリハットの収集、分析、対策会議を毎月実施し、保育の安全管理に努めてきた。安全管理は、これで良いという状態は無く、季節によって変化する保育環境に対応するアンテナの高いスタッフの育成が必要不可欠である。
防火管理者	統括施設長が担当。 （つむぎ見附ルーム　施設長　今年度受講済み）
食品衛生管理係	栄養士が担当。適切に管理業務を遂行した。
畑係	園庭整備工事の為　十分な活動が行えなかったが、次年度は、本気

	で畑、田んぼ、堆肥作り活動に取り組む。
生き物係	保育室の身近なところに、生き物コーナーを作り子どもたちには人気のスポットとなっていた。その管理に当たっては、次年度に向けてスタッフ間の対応を共有し、子ども主体のコーナーを目指す。 山羊の世話は、園庭整備されたのち十分に実施していく。

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	どろんこサポーター主体で企画運営し、そのサポートを行ってきた。保護者目線の企画は好評を得た。
どろんこ運動会係	楽しさも、真剣さも必要と考え、日頃の保育活動からメリハリを持って取組み、当日は保護者と一体となり、感動する運動会となった。看板や国旗作りも子どもたちの活動として行い、子どもの作品であるからこそ、看板や国旗を写真に収める保護者の姿があった。
どろんこ生活発表会係	日頃の保育活動の延長線上にある発表会として、子どもたちの成長の姿を見て頂いた。年齢によらない、一人ひとりの成長に合わせた内容で発表した。

4. 保育支援

〈ｌ〉保育･保育参加･保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	・0歳児クラス　ｌｌ月に9名となった。離乳食に関しては、月例ではなく個人差に応じた離乳食形態が必要で、嚥下状態には細心の注意を要した。 ・ｌ歳児は進級を見据え、運動面や活動への意欲に合わせて、少人数ずつ幼児クラスに生活の拠点を移し、ｌ月には完全移行した。 ・幼児クラスは午睡時間の個人差が大きく、一辺倒なカリキュラムにならないように、眠れない子も一定の休息時間を過ぎたら、落ち着いて遊べる空間を用意し、個別の対応に配慮した。 ・自分で遊びたい遊びが実現できるように、既成の玩具のみでなく、段ボールや廃材などイメージを膨らませて表現し、活動が展開していくような環境を重視してきた。 ・戸外活動においても、様々な自然事象や動植物に興味・関心か向くように遊びを援助し、散歩への意欲が高まるように留意した。

保育参加	4～3月まで　合計ｌ名　が参加済み　　（3月ｌ日時点） ・平屋の建物であるため、保育参加の保護者が自分の子どもと関わらない環境は困難で、保育者のように参加いただくことが難しかった。
保護者面談および発達相談	4～3月まで　合計ｌｌ名　が参加済み　　（3月ｌ日時点） ・保護者の悩みに寄り添い、園と家庭が協力して子どもの育ちを見守る為の面談

〈2〉計画した年間行事の振返り

・別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

ｌ	計画・ねらい	・子どもたちと全スタッフが共に味わう縁側給食の実施。 ・園庭や景色を眺めながら、共に味わう縁側給食を日常の食事風景とする。
	実践結果	・給食を食べる全スタッフが縁側で子どもたちと一緒に、給食を味わってきた。調理担当者が子どもたちの食べる様子を見ながら、一緒に食べることで、子どもたちの喫食状況や嗜好の把握はでき、調理に活かされている。
	次年度方向性	・継続して、給食を食べる全スタッフで縁側給食を食べて、共に味わう。
2	計画・ねらい	・素材の味を噛みしめて味わい、噛む力を育てる給食提供。 ・発達に配慮しながら、給食の素材の旨味を味わうことができる調理に配慮し、噛む力を育てることに配慮する。
	実践結果	・子どもたちの咀嚼状況を見極めて、野菜の大きさや固さを検食で確かめ、日々の食材提供に配慮し、調理担当者と保育者が情報共有をしながら慎重に進めて生きた。特に、離乳期の子どもたちは、年齢ではなく一人ひとりの発達と咀嚼、嚥下の状況を見極め、配慮してきた。
	次年度方向性	・個人差が大きい乳幼児期には、一人ひとりに合った対応を心がけ、スタッフ間の子どもの状況の共有を密にして、一辺倒でない対応を目指したい。
3	計画・ねらい	・バイキング給食の実施で、食べることが好きになる。 ・自分で盛付・配膳をスムーズに行える食事環境を作り、好きな人と食べる給食で食への意欲を育てる。
	実践結果	・2月には、ｌ歳児もバイキングに参加できるようになり、意欲的に食事の準備等に自ら向かう姿勢がある。 ・大きい子の姿を見て、自分で考え盛り付け片づける姿は保護者にも見て頂きたくなる成長の姿である。
	次年度方向性	・子どもたち一人ひとりの発達に合わせ、無理なくバイキング給食を楽しく実施していきたい。自分で、自分の食べる量の把握や嫌いなものを無理に食べる必要がない環境で、食べることが大好きな子を育てたい。

4	計画・ねらい	・計画的に食育を推進し、豊かな食の経験を大切にする。 ・生きるために必要な食についての関心を高め、食べる意欲を育てるために必要な経験を盛り込んだ計画的な食育の実施。
	実践結果	・園庭を使って行う食育活動については、園庭工事の関係で計画変更を余儀なくされたが、室内で行える活動に変更して実施した。 ・自分たちで関わった食材については、食欲が違っていた。活きた体験こそが、子どもたちの心も味覚も育てることを実感した。
	次年度方向性	・本腰を入れて、食品の貯蔵技術の伝承、畑作りから食育活動を計画し、実践、確実に子どもたちに伝えていく食育活動を目指したい。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	5月22日／10月23日に見附どろんこ保育園にて実施
歯科検診	5月15日／10月16日に見附どろんこ保育園にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 11月1日に保育園にて肥満予防指導を実施 ② 6月10日に保育園にて手洗い・うがい指導を実施
流行した感染症	① 7月に手足口病、園児10名蔓延し、保護者にお知らせ
発作・痙攣等の対応	ダイアップ使用なし
エピペン使用できるスタッフの状況	・３月22日に保育園にてエピペン研修を計22名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ24名のうち、22名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	・5月19日に見附市消防署にて普通救命講習をスタッフ6名、10月5日に保育園にてスタッフ7名、10月13日に見附市消防署にてスタッフ6名　計19名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ24名のうち、19名が使用可能
その他保健に関する取組	・下痢等の症状の園児が1名でもある時は、消毒を次亜塩素酸ナトリウムに切り替えおむつ交換も別のスペースにするなど感染拡大防止を徹底した。

	・感染症の流行期に保護者に、感染症の症状や予後、対策、受診の勧めなど情報提供した。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（法定1回/3年）	業者による対象物の法定点検 2023年実施済み ※対象物がない園及び JW 園は削除すること
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月 ⇒4月2日、10月3日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日　実施済み
	児童健康診断	内科健診　各年2回／5月22日、10月23日 歯科健診　各年2回／5月15日、10月16日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時 ⇒4月16日、10月15日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間　実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

l	計画・ねらい	・自分でやりたい遊びを選べる室内コーナー保育環境。 ・自分でやりたいコーナー遊びの玩具が十分に整えられ、子どもたちが毎日、意欲を持って遊べる環境設定。
	実践結果	・保育者一人ひとりが得意な分野を活かして協働し、保育環境を日々作ってきた。 ・子どもたち主体の保育活動を目指して、子どもたちが求めるものは日々変化し、それに合わせて段ボールや空き箱、色画用紙など適宜必要なものを準備し、子どもたちに合わせた環境を整えてきた。
	次年度方向性	・一人ひとりの子どもの思いが実現するよう、子どもたちの興味関心を捉えて、スタッフ間で共同し、子どもたちの日々の活動が充実する環境を用意したい。
2	計画・ねらい	・探索行動が十分に行え、子どもの興味を引き出す園庭。 ・子どもたちの探索意欲を高めるために保育者が意図とねらいを持って、園庭の環境を整備する。
	実践結果	・園庭が完成せず、充分な園庭活動が出来なかった。 ・園庭の一部を可能な範囲で、焚き火、どろんこ遊び、畑活動、虫捕り、田んぼ作り、小川遊びなどを楽しんだ。
	次年度方向性	・園庭が完成した際には、野草エリア、芝生エリア、どろんこエリア、焚き火エリアなどレイアウトを考え、園庭活動の充実を目指したい。
3	計画・ねらい	・探索意欲が高まる園庭の、レイアウトを作成し魅力ある環境づくり。 ・魅力ある園庭にするためのねらいを持ってレイアウトし、子どもたちが夢中で遊べる環境にする。
	実践結果	・園庭が完成せず、充分な園庭活動が出来なかった。 ・園庭の一部を可能な範囲で、焚き火、どろんこ遊び、畑活動、虫捕り、田んぼ作り、小川遊びなどを楽しんだ。
	次年度方向性	・園庭が完成した際には、野草エリア、芝生エリア、どろんこエリア、焚き火エリアなどレイアウトを考え、園庭活動の充実を目指したい。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
l	設置無し			

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

l	実践結果	・非常事態による緊急対応が必要な状況は、今年度は発生していない。
2	実践結果	・避難訓練は年間計画通りに実施した。毎回、真剣に取り組む保育者の姿を背中で見せることを大切にしてきた。子どもたちの避難の流れはをスム

		ーズにするためには、まずは保育者が誘導を的確に行うことだと訓練を通して強く感じた。 ・風水害については、防水計画は4月に見附市に提出、引き渡し訓練は10月に実施した。水害ハザード区域に該当し、刈谷田川が近いこともあり、風水害の際は、見附市からの情報をもとに早めの避難行動を心がけたい。
3	実践結果	・ヒヤリハット収集には力を入れて、取り組んできた。開園したばかりの園ではケガや事故のリスクが高いことを自覚し、一人ひとりがヒヤリハットの収集に努める事を重視した結果、毎月250件前後の報告件数であった。事故防止委員会で分析・検討・改善策を検討し、園会議で全スタッフに周知してきた。 ・ヒヤリハットの中でも、危険因子の高いと思われるものについては、都度ピックアップし、2度と繰り返さないための事故分析検討会を開催してきた。医者受診する怪我は2件あった。
4	実践結果	・不審者訓練は6月・11月に実施済み。現実で起きた場合を想定すると、対応の難しさを感じる。マニュアルを確実に守り、いざという時は、それを上回る対応や臨機応変さが求められることは、共有していく必要がある。
5	実践結果	・Jアラートの発令無し。
6	実践結果	・個人情報の取り扱い等については、折に触れ啓発してきた。保育業務は常に個人情報を取り扱うため、意識を高めることが必要である。日頃から、手間がかかっても重要文書のカギの管理を徹底することなどが意識の向上に繋がると感じている。
7	実践結果	・広域災害や調理担当者の感染症による調理室の使用不可による業務継続を想定して、2月20日に非常食訓練を実施した。次年度においては、時期と災害の設定、提供内容を変えて様々な災害を想定した非常食訓練を実施予定。
8	実践結果	原子力災害の避難計画については、自治体からの指示にも幼児施設に適合しない部分や不明確な部分が多いことに鑑み、自園では、乳幼児の身体への影響を防ぐための最大限の行動を早急な屋内避難とお迎え要請とし、計画に盛り込み見附市に提出。引き続き、最新の情報を取り入れ、計画に盛り込む。
9	実践結果	散歩コースである刈谷田川土手道コースや鳥屋脇町で猪・熊の出没情報が10月頃から頻繁になり、散歩を控えた時期もある。自然豊かな環境においては、あり得ることとして受け止め、今後も情報をしっかりとキャッチし保育活動を工夫してゆく。
10	実践結果	コロナ感染は、1名の家庭内感染の報告があった。近隣施設での流行報告はあったが、自園での感染拡大は無かった。
11	実践結果	開園初年度で、降雪期を迎え細心の注意が必要であった。融雪設備による屋根の積雪が均等に消えず軒下の落雪や強風による氷柱が下がる現象が頻発するなど、登降園時の園児、保護者の安全確保には細心の注意を払って、対策をした。今後も、降雪期には気象状況に合わせた臨機応変な対策を講じる必要がある。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

今年度、実習生・中高生の受入れは無かった。新園で周知度が低かったこともあり、今後は積極的に広報し、学生の見学者や実習先として小中学校・保育専門学校へ選ばれるように働きかける。

〈2〉実習生の受入

受入れなし

〈3〉中高生の受入

受入れなし

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	16日 23名	21日 23名	18日 23名	16日 23名	20日 22名	17日 22名	15日 22名	19日 22名	17日 22名	21日 23名	20日 24名	2日 24名
レベルアップ研修(園会議)	16日 23名	21日 23名	18日 23名	16日 23名	20日 22名	17日 22名	15日 22名	19日 22名	17日 22名	21日 23名	20日 24名	2日 24名
虐待防止研修	16日 23名						15日 22名					
園長大学・保育士大学活用研修	4月～3月　各自受講したいと思う研修動画を選んで自己研鑽してきた。											

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
9月3日 11月6日	見附市こども課	新潟大学付属幼稚園 主体性を育む保育研修 公立桜保育園　検討会	1名	有

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 1名	15日 1名	25日 1名	17日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	21日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	25日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	10月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											
主任研修	年10回　開催　主任・ミドルリーダーとしての役割について研修 主任が参加											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	1月24～1月30日に4名のスタッフがアスモンスミーネ保育施設にて勤務											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年１回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

〈5〉保育士等キャリアアップ研修受講促進

厚生労働省が推進する保育士等キャリアアップ研修の受講の促進は、保育に関わるものとして自己研鑽することの必要性について理解し、スタッフ全体の意識が高まり受講を進めてきた。引き続き、各自が受講を進めるように働きかける。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

就労支援事業所「みつけワークス」様、老人施設「古志乃里」様、北谷公民館、くさなぎコミュニティーとの交流の機会を日常的に持つ機会を得て、園の活動にご協力頂いた。子どもたちが散歩や商店街ツアーで日常的に外に出向いていく事で、近隣の方とあいさつを交わし、お声がけいただくなど自然な交流が持てた。次年度は更に地域に溶け込んだ交流を図りたいと考える。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：なかよし公園にて　　参加延べ人数：４名

商店街ツアー	週1回　主な行き先：青い鳥、スーパー原信、みつけこどもクリニック、石黒輪業、味平、みっけセンター、今井青果店、ドルチェ小川、セブンイレブン見附本町店、紅龍飯店等
世代間交流	1月21日に見附どろんこ保育園にて塞の神を実施
異年齢交流	10月26日に見附どろんこ保育園にてどろんこ運動会を実施
その他活動	６月11日に見附どろんこ保育園にて絵本の読み聞かせ会を実施
銭湯でお風呂の日	5月～10月　〈3～5歳児〉　実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

就学児が今年度は1名、就学先の小学校主体で様々な連携を図ることが出来た。今後は就学に向け小学校への接続期を上手く乗り切るための準備は園の役割でもあることから、アプローチカリキュラムを活用して保育計画に確実に就学前教育を盛り込み、小学校との連携を図る。次年度は就学先小学校が5校に拡大するため、各校へ積極的なアプローチで交流を図りたい。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
6月19日	見附小学校	5名	保育見学・交流	職員間交流
8月8日	見附小学校	7名	保育見学・交流	職員間交流
11月6日	見附小学校	5名	保育見学・交流・情報交換	職員間交流
1月28日	見附小学校	15名	授業参観・情報交換	職員間交流
2月13日	見附小学校 1年	1名	小学校見学	子ども間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

児童発達支援事業所「つむぎ見附ルーム」と併設されていることから、個別の支援計画に関しては、つむぎスタッフによるアセスメントから、モニタリングが行われ、定期的な保護者面談により、保護者のニーズを把握し、支援の方向性を計画に反映させている。日々の子どもの情報を園スタッフにも共有し、多角的な視点で捉えて育ちに繋げ、見直し計画に盛り込んでいる。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・４～３月に計１２回開催　参加者１２０名

毎月１回　ケース会議を開催し、一人ひとりの子どもの育ちや支援の方向性について検討し、記録している。日々の支援の振返りを園スタッフとつむぎスタッフにより、毎日１７時１５分から１５分間、共有会を開催している。その情報を担当スタッフに幼児クラスノート等で共有し、保育計画に反映させてきた。日々の振り返りは、スタッフ間の連携において重要であり、今後も継続が望まれる。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

小学校との連携は、保護者のニーズにおいて行われ、スムーズな就学に向けて、保護者を交えた三者面談を実施。１年に渡る成長の様子や、園で配慮してきた関りなどの情報交換を小学校と行ってきた。保育児童要録を３月に小学校へ送付。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
117名	54名	69名	95名	50名	53名	97名	95名	50名	37名	45名	60名	822名

<table>
<tr><th>実施項目</th><th colspan="13">詳細</th></tr>
<tr><td>園開放</td><td colspan="13">（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　　来園延べ人数：822名</td></tr>
<tr><td>子育て相談</td><td colspan="13">（月）～（土）13:00～16:30　　⇒計5件相談実施済み</td></tr>
<tr><td rowspan="3">自然食堂
親子ランチ
交流</td><td colspan="13">毎週（水）10:00～12:00　　⇒計24回実施済み
参加者延べ人数</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>0名</td><td>6名</td><td>2名</td><td>8名</td><td>6名</td><td>6名</td><td>6名</td><td>2名</td><td>4名</td><td>0名</td><td>2名</td><td>4名</td><td>46名</td></tr>
<tr><td rowspan="3">どろんこ
芸術学校
どろんこ
自然学校</td><td colspan="13">毎週（水）10:00～12:00　　⇒計12回実施済み
参加者延べ人数</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>0名</td><td>2名</td><td>0名</td><td>8名</td><td>2名</td><td>10名</td><td>4名</td><td>8名</td><td>2名</td><td>2名</td><td>2名</td><td>4名</td><td>44名</td></tr>
</table>

勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00　にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっぐだより	毎月1日発行												
青空保育（支援センター主催）	月1回　　公園名：なかよし公園にて　以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	3名	0名	0名	4名	0名	0名	2名	2名	11名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２４年１１月２９日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：１６時００分
自己評価終了時刻：１７時００分
自己評価実施者：若杉、河原、貝瀬、大塚

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月２５日
アンケート回収率：１００％

（省察）ＮＰＳ®６８ポイントであった。さらに推奨者が増えるために、保育の質の向上を目指し、子どもの成長の様子等の発信や連携を密にすることに注力し、ＮＰＳ®向上を目指したい。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見　０件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む）　０件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：見附どろんこ保育園 施設長　若杉　絵里子

２０２４年度　袖ケ浦どろんこ保育園　事業報告書
（保育所における自己評価）

１．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

袖ケ浦市初の児童発達支援事業所を併設した認可保育園として、大きな期待と共にスタートし、誰もが認められ、誰もが生きやすい居心地の良い居場所となるようスタッフ一丸となり、インクルーシブ保育を模索しながらも突き進んだ一年であった。
保育士、調理員、用務員、事務員、園長、主任、正職員、パートなど、役割や役職を越え、みんなでみんなを育てる保育が実現しつつある。

「みんなの『やりたい！』をやってみよう」の園目標に向かい、
様々な体験を通し、意欲を育み自主性を引き出す保育を追求した。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

１	計画・ねらい	多くの経験から、子どもたちの「やってみたい！」が実現する保育。
	実践結果	園目標「やりたい！をやってみよう」を掲げ、１年間この目標を意識し、子どもたちの興味関心を引き出し、より多くの体験ができるように心がけた。ただ、大人の「体験させたい」思いが強くなり、取ってつけたような活動が展開される場面もあり、その都度、立ち止まって振り返り見つめなおすことを繰り返したことにより、実現できた。
	次年度方向性	一人ひとりの発達や性格、興味関心をどれだけ把握し、保育にいかしていけるかを改めて考え、スタッフ間で共有していく。
２	計画・ねらい	10の姿の体得
	実践結果	毎月の園会議では「10の姿」を一つ一つの学び、その2週間後には昼礼時にエピソードの共有を行い、理解を深めた。また、毎月クラスごとに10の姿についてのポートフォリオを作成し、保護者にも掲示して活動への理解を促したが、保育者自身の体得とまではいかなかった。
	次年度方向性	今年度10の姿の一つ一つに取り組んできたが、理解を深めるところまでは達していないので、継続し、常に10の姿を意識した保育が展開できるようにさらに深めていきたい。
３	計画・ねらい	子どもの姿を捉えた保育計画の作成 （昨日・今日・明日がつながる保育）
	実践結果	計画通りの保育はおおよそ実施できていたが、「子どもの姿を捉えた」という点においては、個々の発達や興味関心の把握が不十分だった。また、活動が広く展開されることが難しく、途切れ途切れになってしまうことが多く見受けられ、子どもの姿を捉えた保育計画は達成できなかった。

	次年度方向性	毎日確実にクラスミーティングを行い習慣化する。内容は午前の活動の振り返り、明日の活動の確認を各担当者全員で行う。子どもの姿から継続すべき活動を見極めていく。週案の変更や修正を行い、同時に記録に残す。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	子どもの幸せを最優先に、ともに考え、ともに成長を喜び合える関係性を築く。
	実践結果	毎日の送迎時には、一人ひとりの保護者に対し、丁寧で平等な対応を心掛けた。より早く信頼関係が築けるよう、特にお迎え対応ではエピソードを踏まえた一日の様子をお伝えし、一緒に子育てをしている気持ちが伝わるように接した。保護者の悩みや困りごとなどには、いち早く気づけるようにスタッフ間で保護者の姿を共有することも多く、誰もが同じ対応ができていた。特に、謝罪やお礼などは全スタッフからお声掛けするよう心掛けた。以上のことから、良い関係性が構築できた。
	次年度方向性	今年度同様、信頼関係の構築・維持に努めていく。
2	計画・ねらい	接遇力 UP
	実践結果	思いやり、誠実さ、謙虚さ、感謝を忘れず、おもてなしの心を込めた保護者支援、親身な対応を心掛け実践した。リーダースタッフがその姿を見せたり、助言したりして、若いスタッフを指導し接遇力は向上しつつある。
	次年度方向性	改めて接遇についての園内研修を行い、誰もが気持ちの良い対応ができるように努めていく。
3	計画・ねらい	いつ来ても気持ちの良い施設、いつ見ても気持ちの良いスタッフ
	実践結果	環境美化については、都度スタッフに声を掛け、整理整頓された環境を維持できるよう心掛けたが、維持・定着は難しかった。乱れた環境に慣れないことを大事にした。スタッフ個々の身なり振る舞いについては、都度声を掛け正しい身なり振る舞いが定着している。
	次年度方向性	次年度は、施設内を細かく分けて、整理整頓・美化を担当分担制にする。自分の担当の持ち場は責任を持って、キレイを保てるようにしていく。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域に開かれた園づくり・居心地の良いみんなの居場所
	実践結果	開園当初は内箕輪どろんこ、宮下どろんこの利用者が多く来訪しにぎわった。ロコミで袖ケ浦市内の利用者が増え、ちきんえっぐイベントは毎月キャンセル待ちが出るほどだった。スタッフとの会話の中で悩み相談などもあったが子育て相談とまではいかなかった。
	次年度方向性	ちきんえっぐイベントの回数を増やす。近隣の子育て支援センターと連携していく。

2	計画・ねらい	相談しやすい環境づくり
	実践結果	今年度子育て相談は0件。
	次年度方向性	保育士、看護師、栄養士など、悩みに合わせたスタッフとの相談日を設け、アナウンスしていく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	語り合い、学び合い、高め合うチームに。
	実践結果	いつでも子どものことを語り合える環境を作り、日々子どものエピソードをチャットで共有した。子ども一人ひとりの特性や性格を理解し深めていくことや、発達についての学びまでは達しなかった。
	次年度方向性	リーダーはそれぞれの得意分野や学びを深めていきたいことについて、園内研修を実践する。
2	計画・ねらい	園内研修の充実
	実践結果	毎月の園会議では質上げ会議スタッフによる「１０の姿」の研修を行い、昼礼時にもエピソードを持ち寄り、学びを深めることができた。 その他、リズム体操の自主研修を行うなど達成できた。
	次年度方向性	リーダーはそれぞれの得意分野や学びを深めていきたいことについて、園内研修を実践する。
3	計画・ねらい	一人ひとりが組織目標・個人目標を設定し、自身の強みと弱みを理解し課題に取り組む。
	実践結果	MBO 目標については面談をしながら、目標立て・中間振り返り・年間振り返りと進めたが、なかなかじっくり目標に向かう時間が取れず、日々の業務に追われ、日常的に意識して取り組み事が難しく、意識的に取り組むことができなかった。
	次年度方向性	４月の園会議で目標立てについて共有し、早めに取り掛かっていく。現実的な目標立てを行えるよう面談を重ねていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食の循環を知り、自ら関わっていく。
	実践結果	コンポスト未実施。
	次年度方向性	段ボールコンポストなど身近にあるもので始めていく。
2	計画・ねらい	様々な食品を加工から食すまで体験し、興味関心を深める。

	実践結果	切り干し大根づくり、ふりかけづくり、干しシイタケづくりなどを体験し、カタチの変化を観察したり、においを感じたり、五感を使った食育の実践ができた。
	次年度方向性	畑の収穫から連動した体験を行う

〈6〉インクルーシブ保育の実践

1	計画・ねらい	良いところ探しのプロになる。
	実践結果	日頃の子どもの姿から、できないことや良くない行動よりも一人ひとりの個性が光る行動を見いだせる目を養うべく、エピソードの共有を盛んに行う事ができた。
	次年度方向性	こども一人ひとりを認めていく。
2	計画・ねらい	大人も子どもも多様性を受け入れ、認め合う。
	実践結果	子どもの人権について学び、一人ひとりの幸せや最善の利益が守られる環境づくり。子どもの特性や発達について、園会議や昼礼などで共有し理解を深めることができた。
	次年度方向性	おとなの決めつけや思い込みを排除し、柔軟な姿勢でどんな子も認め関わっていく。
3	計画・ねらい	ユニバーサルデザインの理解
	実践結果	実施できず。
	次年度方向性	改めてユニバーサルデザインの理解を深め、できることから取り組んでいく。

〈7〉居心地の良い環境づくり

1	計画・ねらい	「好きな場所で好きな人と好きな遊び」が展開でき保証される環境
	実践結果	子どもたちが自由にいきたい場所を行き来する姿もある中で、施錠され自由に出入りできない環境があった。保育士の配置から、活動を制限せざるを得ない日もあり課題も残った。チャットで子どもの居場所を共有しながら、みんなでみんなを見守る保育が定着した。
	次年度方向性	安全を確保した上で解放された環境を設定していく。保育者同士の連携をさらに強化していく。
2	計画・ねらい	大人も子どもも整理整頓しやすい環境づくり

	実践結果	各保育室の使い方や棚の配置などを、担任だけでなく様々なスタッフで試行錯誤しながら、子どもにとって活動しやすい動線づくりを実践した。棚の上や倉庫なども常に整然となっていることを意識したが、なかなか難しく達成できず。
	次年度方向性	まずは、整理整頓された環境を大人が作っていく。乱雑な環境に慣れないように意識し、子どもと一緒に片づけることを習慣化していく。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半：4~9月	36人	72人	115人	107人	27人	58人	415人
年度後半：10~3月	36人	72人	108人	102人	30人	72人	420人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	28人	119人	129人	148人	120人	103人	147人	128人	95人	86人	50人	50人	1203人
うち0歳児	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人

（解説）

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
うち0歳児	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人

（解説）一時保育要員不足のため実施できていない

〈2〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

常勤スタッフ	保育士	l2人	看護師	１人	栄養士	２人	調理員等	３人
パートスタッフ	保育士	７人	補助	１人	調理	０人	事務	１人
	用務	１人	嘱託医	２人				

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・気になる子、つむぎ利用児の共有
給食運営会議	月1回	各クラスの喫食状況等共有 食育活動振り返り、次月の計画共有 アレルギー児の対応
事故防止委員会	月1回	当月のヒヤリハット、インシデント、事故記録の振り返り、分析と再発防止
ケース会議	０回	該当児無し
リーダー会議	隔週１回	園全体の課題検討、各クラスの共有

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	小松聡子
施設長勉強会	月1回	小松聡子

食育会議	年4回（5.8.11.2月）	小松聡子、松澤咲弥
保健会議	年4回（5.8.11.2月）	小松聡子、近藤綾子
主任会議	年4回	木村智
子育ての質を上げる会議	月1回	永田修一
併設園会議	月1回	小松聡子

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	毎日の清掃、感染対策の検討と提案、保健指導を行った。
安全対策係	事業所内、または周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策 計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起を行った。 園内・外のハザードマップを作成した。
防火管理者	防災計画の立案、月1回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、近隣施設との連携の推進を図った。
食品衛生管理係	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食品サンプルの管理を行った。

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	＜主な活動＞ どろんこサポーターズとの打ち合わせ会議 どろんこ祭りの企画・運営 ＜省察＞ 園スタッフもほとんどが初めて、保護者も初めてという中で、6月よりどろんこサポーターズと綿密に打ち合わせながら、方向性を統一し役割分担しながら進めていった。保護者の熱い思いや提案を尊重しつつ、過度にならないように配慮した。地域の方にも出店していただくなど、当日は予想以上の集客もあり、たくさんの方に喜んでいただけた。

4. 保育支援

〈ｌ〉保育･保育参加･保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	・幼児クラスは長距離散歩を積極的に実施し、行先での目的やねらいを達成するよう努めた。乳児クラスは興味や関心に合わせて活動の設定や選択を実施した。 ・様々な行動や欲求に適切に応え、特定の大人との情緒的な絆の形成に努めた。 ・子どもの姿の共有や記録の共有を通して、スタッフ一人ひとりが深く考察し、子どもの欲求を的確に満たした応答的なかかわりと子どもの気持ちを受容した共感的なかかわりを行えるように努めた。 ・日課・基本活動の取り組みでは、スタッフ一人ひとりがその意味を理解し、意欲的に取り組んだ。
保育参加	4～3月まで　合計5名　が参加済み　　（3月ｌ日時点）
保護者面談および発達相談	4～3月まで　合計52名　が参加済み　　（3月ｌ日時点）

〈2〉計画した年間行事の振返り

・別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

ｌ	計画・ねらい	食に興味を持ち、「食べることは楽しいこと」を実感する。
	実践結果	畑の作物を収穫してその場ですぐ食したり、皮むきやしたごしらえ一緒に調理したりすることで、興味を持つ子が増え達成した。
	次年度方向性	大人の意識の統一を図る。
2	計画・ねらい	コンポストづくりや畑仕事、クッキング活動を行い、自ら関わることで、食への興味関心を広げる。
	実践結果	日課として毎朝の畑仕事は、用務員と共に日々行う事ができていたが、関わる子、全く関わらない子が両極端だった。子ども自ら調理に関わり、包丁やピーラーを使うことを体験し、できることが増えた。毎朝の米研ぎは定着した。
	次年度方向性	毎日の畑仕事、米研ぎ、野菜の皮むきや切裁などは継続していく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	６月19日／11月13日に実施
歯科検診	6月25日に実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 6月27日、10月1日　2歳児～5歳児対象に歯磨き指導 ② 9月3日、11月5日　全園児対象に手洗い指導 ③ 12月2日　幼児対象に感染症について
流行した感染症	①7月に手足口病、園児16名が感染 ②9月に RS ウィルス、園児8名が感染 ③10月に手足口病、園児12名感染
発作・痙攣等の対応	計1名に対し、計1回ダイアップ使用
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月22日キックオフにてスタッフ20名研修済み。 ・本日時点で、在籍スタッフ30名のうち、26名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	・8月31日に園にて普通救命講習を計16名が受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ30名のうち、20名が使用可能
その他保健に関する取組	感染症予防のための手洗い指導、うがい指導を行った。 適正な温度湿度管理のためのチェック。 給食前・午睡前・午睡後・清掃時の換気を徹底。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み

	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（法定1回/3年）	業者による対象物の法定点検 2024年実施済み ※対象物がない園及び JW 園は削除すること
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月 ⇒4月25日、10月1日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日　実施済み
	児童健康診断	内科健診　各年2回／6月19日、11月13日 歯科健診　各年1回／6月25日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時 ⇒4月26日、10月25日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間　実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	「外で遊びたい」気持ちをかき立てる園庭づくり
	実践結果	10月まで園庭工事のため、立ち入ることができなかった。現在では、築山・土管だけの園庭でも十分に体を動かし楽しんでいる姿も見られるようになったが、達成には至っていない。
	次年度方向性	どろ場・砂場を作り、思い切り土遊びやどろ遊びができる環境を作る。
2	計画・ねらい	子どもたちの「今」を大事にした室内環境づくり
	実践結果	子どもたちの興味関心を把握、共有し、「今の子どもたち」に必要な玩具や道具を用意した。廃材コーナーは人気だったが、保育者が遊びの姿を見せることができず、展開が難しかった。その都度、保育者同士で試行錯誤しながら環境について意見交換する姿が良く見られるようになり、達成した。

	次年度方向性	マンネリ化しない環境を心掛けていく。
3	計画・ねらい	散歩の充実
	実践結果	園庭が使えない期間は、どんどん外に繰り出し、様々な公園などを訪れ楽しめていた。歩くことに慣れ始めたら距離を延ばすことを意識した。子どもたちの姿や、季節などを考え、飽きのこない散歩コースを増やし、充実を図ることができた。
	次年度方向性	散歩時の安全確保について、研修を実施する。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	鶏小屋	園庭	毎日	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	事故防止委員会 実践結果	事例検討を通じて再発防止策や日頃の危機管理に繋がるよう毎月の会議で事故防止委員会を実施した。
2	避難訓練・不審者侵入訓練 実践結果	・事故防止委員会、避難訓練係を中心に、防犯・防災に対する意識を高めた。不審者侵入・災害は突然起こることを十分に意識し、日ごろより防犯・防災に対する意識を高め、シミュレーションを行い、避難訓練・不審者侵入訓練を有効に活用した。 ・非常災害時の対策として、消防計画に基づいた毎月の消防避難訓練、消火訓練の実施、年二回の不審者訓練の実施を行った。 ・防犯設備点検の実施（自動火災探知機、煙感知器、誘導灯、排煙窓）
3	光化学スモッグ 実践結果	光化学スモッグ発生時には、市役所などが発信する情報をこまめにチェックし、屋外の活動を控えるなど対応した。
4	ハザードマップ 実践結果	園内外のハザードマップを作成し、危険箇所の確認と安全確認の周知を都度更新していく。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

受け入れなし

〈2〉実習生の受入
今年度受け入れなし

〈3〉中高生の受入
今年度受け入れなし

7. スタッフ研修
〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	26日 21名	24日 22名	28日 22名	26日 23名	23日 25名	27日 23名	25日 26名	22日 26名	27日 28名	24日 29名	28日 30名	19日 31名
園内研修	26日 21名	24日 20名	28日 19名	26日 21名	23日 18名	27日 18名	25日 20名	22日 20名	27日 19名	24日 22名	28日 30名	19日 31名

〈2〉外部研修への出席
今年度は無し

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	21日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	11月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											

〈4〉スタッフ個人別育成計画
施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

開園当初は、近隣施設へご挨拶に伺い、園の PR やちきんえっぐのお知らせ配布を行った。

商店街ツアーを活用し、様々な場所を訪れ、保育活動について知っていただき、たくさんのお店の方に快く迎えていただいた。今後も、地域に密接した関わりを継続していく。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：袖ケ浦駅海側地区近隣公園にて 参加延べ人数：7名
商店街ツアー	週1回　主な行き先：袖ケ浦駅前交番、袖ケ浦消防署、袖ケ浦市役所、袖ケ浦駅、としまや弁当、アオキ、 ファミリーマート、セブンイレブン、業務スーパー、ウェルシア、センドー、モーモーズカフェ、ピタットハウス、マイケルなど
世代間交流	袖ケ浦高校の都合により実施できず
異年齢交流	児童発達支援事業所「グローバルキッズ」と園庭にて交流。
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉　宮の湯にて実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

近隣の奈良輪小学校への連携依頼を行ったが、学区内に30園もの保育園幼稚園を抱えていることから受け入れが難しいとの判断で実施が実現しなかった。運動会への見学は許可されたため年長児のみ参加した。また昭和小学校へも依頼したものの、同じ理由で断念。「昭和小フェスティバル」にご招待いただいたが、こちらの運動会と同日で参加できなかった。来年度は、近隣保育施設と情報交換し連携して小学校へのアプローチを進めていく。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
10月18日	奈良輪小学校	12名	運動会（奈良輪小校庭）	運動会見学

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

今年度、対象児なし

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

今年度、対象児なし

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

今年度、対象児なし

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
95名	43名	71名	63名	563名	79名	110名	88名	88名	54名	50名	50名	1354名

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　　来園延べ人数：1310名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計24回実施済み 参加者延べ人数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
12名	16名	11名	5名	7名	10名	8名	20名	13名	16名	14名	16名	148名

どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計12回実施済み 参加者延べ人数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
8名	0名	8名	12名	3名	7名	2名	11名	6名	4名	4名	8名	71名

勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00　にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育 （支援センター主催）	月1回　　公園名：袖ケ浦駅海側地区近隣公園にて　以下日程にて実施

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	7名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	5名	12名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審
今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施
２０２４年６月３日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：12時00分
自己評価終了時刻：14時00分
自己評価実施者：小松聡子

〈3〉利用者アンケートの実施
施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月２５日
アンケート回収率：100%

（省察）各項目概ね「満足している」と回答いただいた。自由記述ではスタッフに対するお褒めの言葉や保育の活動に賛同や理解を示す記述が多数ある中、いくつかのご意見もあった。
すぐに改善できるものについては即日対応し、今後理解していただかなければならないことについては、理解を得られるよう日々努力する。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見
今年度は該当なし

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）
報告すべきケガ（事故含む）　0件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：袖ケ浦どろんこ保育園　施設長　小松　聡子

２０２４年度　西崎どろんこ保育園　事業報告書
（保育所における自己評価）

1. ２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

基本方針の守るべきこと、『子どもの命を守ること』『子どもの人権を守ること』。
子ども園としての最低基準を守れるよう、意識してきたが、新園であることもあり、スタッフへの指導不足やスキル不足もあり、保護者にご迷惑をおかけした場面もあった。
しかし、園として、大きな反省をし、今一度、初心にかえり、マニュアルの遵守を徹底すること、子どもたちが安心して、園生活を送るためにはどういった保育を展開すべきなのかを考え続けた。
下期にはスタッフが様々な試行錯誤の末、西崎子ども園の保育スタイルを確立し始め、それに伴い、子どもたちも落ち着いたことで、子どもの姿や声に耳を傾けた保育を行うことができるようになった。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	生活力の体得～どろんこ会の掲げる日課を通して、生活力を身につける～
	実践結果	一年間かけて、子どもたちにとって一番良い方法は何か、試行錯誤し続けた。年度の前半は、子どもたちだけでなく、スタッフもどのようにすればよいか戸惑い、実践に繋がらない部分もあったが、時が経つごとに一つ一つの活動の重要性をスタッフ自身が理解し、理解した上で、子どもたちがやれるようにするためにはどうするかを考え、環境などを構築していったことで、スムーズな日課をこなすことができるようになった。
	次年度方向性	日課自体は、実践できているが、その活動自体が子どもたちのどの部分の学びになっているかをスタッフそれぞれで理解度が違っている。そのため、次年度は、スタッフ自身が保護者に発信したり、園内研修で他スタッフに伝えたりすることで理解を深め、そこから継続的、かつ、連続性のある保育に繋げていく。
2	計画・ねらい	こども園という集団生活の中で他者を意識し、協同することの楽しさ、喜び、また、大変さを知る。
	実践結果	学年別保育で活用されてきた園舎の仕様など環境面で難しいところがあった中で、試行錯誤しながら、西崎どろんこ保育園の異年齢とはどうなのか、インクルーシブとはどうなのかを構築していった。年度の後半では子どもたち自身の変化も見られ、その変化をスタッフ同士話していくことで、より理解が深まっていった。
	次年度方向性	異年齢保育、インクルーシブ保育は今年度、実践していたが、今一度、振り返り、それが子どもたちにとって一番良かったのかを考え直す必要がある。もう一度、今までの一年間を良い意味で否定し、常に保育をアップグレードする意識を持って、保育に取り組んでいく。
3	計画・ねらい	生き物の世話、畑仕事などを通して、食材や食の循環・環境への意識を身につける。
	実践結果	準備不足もあり、年度の前半は日課として取り組むことができていなかったが、徐々に日課に取り組み、実践することができた。 しかし、食循環や環境への意識というところまでは子どもたちに伝えるまでにはいくことができなかった。

	次年度方向性	日課での取り組みは継続し、継続した上で、自分たちのこの活動が食の循環や命の大切さ、環境への意識を知ることができる活動であることを子どもたちに伝え、より質の高い日課に繋げる。
3	計画・ねらい	子ども園での活動や行事を行っていく中で、保育者の育ってほしい姿を考えながらも、子どもたち自身でも考えていける環境を整える。
	実践結果	朝の会や帰りの会、また、こめ時間を利用し、サークルタイムや子どもたち主体での朝の会、帰りの会を実践。しかし、まだ担当する保育者によって、進め方に差があり、保育者が一方的に伝える場となってしまったり、時間が長くなったりしてしまうことがある。
	次年度方向性	次年度は、同じクオリティで子どもたち同士のミーティングができるようにし、子どもたちそれぞれの言葉による表現を大切にしていく。また、ミーティングの場において、言葉で表現できない子どもにはどのように対応していくかまで丁寧に対応していくようにする。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

『保護者の困りごとは、自分の困りごとだということを意識する』

1	計画・ねらい	常に保護者の立場に立ち、保護者の立場を意識し、接遇の心を持つ。
	実践結果	年度当初はご意見も多くいただき、満足いく保護者対応を行うこともできなかったが、園内研修等も通して、接遇研修等も行ったことで、ご意見をいただくことも少なくなった。また、保護者対応の人員配置も行うことで、スタッフも余裕を持って、保護者対応を行うことができるようになった。
	次年度方向性	引き続き、保護者対応については、園内研修等で取り入れていき、各家庭の困りごとにしっかりと寄り添った保護者対応をしていくことを心がけていく。
2	計画・ねらい	子どもたちの育ちを広め、遊びの中で子どもたちがどのようなことを学んでいるのかを伝える。
	実践結果	タイムラインの発信など最初は数が少なかったが、子どもの育ちをどのように発信すればよいかをスタッフが理解し始めると、タイムラインの件数も増え、一日に６件近く発信できる日も多くなった。行事ごとのポートフォリオもスタッフからの声から掲示することができた。
	次年度方向性	タイムラインの発信は継続して行っていく。また、ポートフォリオもいくつかの行事で掲示することができたが、保育の振り返りに生かすことはできていないので、作成するのであれば、保育の振り返りにも活用した上で、作成する。 保育参加も多く促していくことで、タイムラインなどの一方通行の保育の発信だけでなく、園の保育に参加してもらい、保育参加をしてもらった中で、子どもたちの育ちを感じてもらえるようにしていく。

〈3〉地域の子育て支援事業

『地域の子育て支援拠点として、地域に必要とされる選ばれた園となる』

1	計画・ねらい	今までも地域に根付いてきた歴史を大切にしながら、より近隣の小中学校、幼稚園、保育園、また、商店との連携を築く。
	実践結果	校区内での子ども園、保育園、小学校との交流ができ、年度初めに計画していた行事はすべて実施することができた。

	次年度方向性	次年度も校区内での交流計画は完了しているので、その交流は大事にしながらも、幼保小との連携が単発のイベントとなっている様子もある。小学校が隣接しているので、校庭での戸外遊びなども小学校と連携しながら定期的に行い、自然に小学生と関わっていく中で、小学校への不安を減らしていくようにする。
2	計画・ねらい	保育園が地域の子育て支援施設として、気軽に訪れることのできる地域の方の憩いの場にする。
	実践結果	園庭解放やちきんえっぐなど行っていたが、参加する地域の方が一年通して、少なかった。ただ、一度、来てくれた方の中には、何度か足を運んでくれるようになり、リピーターとなっている地域の方もいる。 どろんこ祭りでは、地域の方が多く足を運んでくれて、そこから保育園のことを知り、ちきんえっぐに参加してくれたりする方もいた。
	次年度方向性	ちきんえっぐの発信を積極的に行い、2024年度の訪問した商店街ツアーの商店や連携した施設にチラシ配布、掲示をしてもらうことで、地域に広く、ちきんえっぐのことを知ってもらい、参加してもらうようにする。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

『スタッフ同士による伝え合い、学び合い、支え合い』

1	計画・ねらい	施設長、主任のみならず、スタッフからスタッフへの学びを重要視し、伝える側もアウトプットすることで、自らの知識を深めていくことができるようにする。
	実践結果	子育ての質を上げる会議では、参加スタッフが１年間継続して、園会議で伝え続けてくれたが、その他の事故防止会議や園内研修など施設長、主任が中心で行うことが多かった。
	次年度方向性	次年度は、園内研修の内容も日課の質を上げるためのものにしているため、スタッフがそれぞれアウトプットする機会を作り、講師役のスタッフの学びにもなるようにしていく。
2	計画・ねらい	法人の研修(園長大学Ⓡ保育士大学)のコンテンツを活用し、様々な講師からの学びを深めていく。 また、ディスカッションすることで、より理解を深めていけるようにする。
	実践結果	園長大学Ⓡ保育士大学を園内研修で取り入れることができた。 ただ、インプットの時間が多く、アウトプットとしてのディスカッションの時間が少なかった。
	次年度方向性	園長大学Ⓡ保育士大学を有効に活用していきながらも、大事なポイントのみで動画を活用し、ディスカッションの時間を多く取り入れていくようにする。

〈5〉環境実施目標

『これからの地球のことを考えた未来思考を育む』

1	計画・ねらい	地球にある資源を大切にし、自分たちの住む地球を大切にする。
	実践結果	様々な公園に行き、活動を開始する前に、点検、ゴミ拾いを行い、安全に子どもたちが戸外活動を送れるように努めた。ただ、スタッフが意識して拾うだけで、子どもたちにゴミ問題について、伝えることはできなかった。
	次年度方向性	この地域で生活する一員として、私たち子ども園のスタッフだけでなく、子どもたちにも地域をきれいに大切にすることを伝えるためにも、一緒にゴミ拾いをすることで、自分たちの地域、環境は自分たちできれいにして

		いくことを伝えていく。
2	計画・ねらい	海の豊かさを守る、また、大切さを知る。
	実践結果	海での活動は行うことができず、海の大切さを伝える機会を作ることができなかった。ただ、絵本等を通して、子どもたちが住んでいる地域について、知ってもらう機会は作ることができた。
	次年度方向性	海での活動を増やし、活動していく中で、子どもたちが感じたことを表現してもらうようにすることで、子どもたちが感じた上で、海の大切さを知り、それを守っていくためにはどうしていくかを一緒に考えていきたい。

〈6〉地域の特性を生かした保育

1	計画・ねらい	沖縄の歴史・食事・行事等を重んじ、後世にその素晴らしさを知ってもらう。
	実践結果	戦争体験を聞く活動や糸満大綱引きの参加、食育を通して、沖縄の郷土料理を作るなど様々な活動を通して、地域を知ることができた。
	次年度方向性	2024年度も地域との関わりを多く行ってきたが、その日だけの活動になってしまったものが多いので、そこで子どもたちが何を感じ、どういうことを学んだのかを表現する機会を作ることで、活動が継続したものになるようにしていく。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半：4~9月	15人	16人	26人	57人
年度後半：10~3月	15人	16人	24人	55人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	9人	7人	13人	30人	31人	31人	26人	24人	17人	25人	14人	20人	247人

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
うち0歳児	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人

〈2〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　（3月１日時点）

常勤スタッフ	保育士	6人	看護師	0人	栄養士	0人	調理員等	0人
パートスタッフ	保育士	0人	補助	0人	用務	0人	事務	1人

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・園運営に関わる報告及び検討・保育についてのディスカッション・ロールプレイング
給食運営会議	月1回	委託業者による給食のため、実施なし。
事故防止委員会	月1回	子どもの事故、ケガを未然に防止することを目的とする
ケース会議	月1回	個別配慮を要する子どもについて話し合う。
週案会議	週1回	その週の子どもの姿や保育の振り返りを行い、行った上で、次の週の保育を検討する。

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長

施設長勉強会	月1回	施設長
食育会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長
主任会議	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	係を中心に物品がなくなることのないように、発注し、物の場所も明確にすることで、どのスタッフでも対応ができるようにした。
安全対策係	係を中心に点検を実施。園舎が古い中での裸足保育に実践を行うため、子どもたちがケガすることのないように十分に注意した。
防火管理者	避難訓練などの防災訓練の毎月の実施を行い、合わせて、各消防点検も実施。 2024年度は小学校と合同で津波の避難訓練も実施することができた。
食品衛生責任者	外部委託給食のため、設置なし。
畑チーム	チームとして、活動することはできなかったが、係が中心となり、畑仕事を行った。年度の前半は畑の整備が追い付かず、備品もなかったため、満足いく畑仕事ができなかったが、年度の後半になり、備品が揃ったことで、年間の畑計画通りに畑仕事を行うことができるようになった。
地域関係構築チーム	チームとして、活動することはできなかったが、係としては活動をした。しかし、年度の後半になると、人員不足の影響から地域への広報活動を満足に行うことはできなかった。しかし、日頃の保育の中で、商店街ツアーなどを実施し、少しずつ地域との関わりを増やすことができた。次年度は、地域の子育て世代への発信を一年通して行い、子育て支援をする施設が近くにあることを知ってもらい、利用してもらえるようにする。

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	係を中心にどろんこ祭りを開催。多くの地域の方に来たもらう

	ことができた。次年度は広報活動を早めに行っていくことで、より多くの地域の方に来てもらえるようにしていく。

4. 保育支援

〈1〉保育･保育参加･保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	・新しい環境や友達に慣れ、関わりを深める。 ・基本的生活習慣の自立に向け、主体的に取り組む。 ・自然物や生き物・食・地域との関わりを体験する中で生命の大切さを知る。 ・遊びや日々の活動に主体的に取り組む力を育む。 ・様々な体験や生活に触れ合いを通して、友達同士の関わりを広げ、楽しむ。 ・遊びや日々の活動に主体的に取り組む力を育む。
保育参加	4～3月まで　合計5名　が参加済み　　(3月１日時点)
保護者面談および発達相談	4～3月まで　合計23名　が参加済み　　(3月1日時点)

〈2〉計画した年間行事の振返り

・別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	自分たちが育てた食材を調理し、食べることで『食』への興味関心を広げる。
	実践結果	年度の前半は、畑の整備が整っておらず、年間の畑計画通りに進んでいなかったため、満足いく食育を行うことができなかった。下期には設備も充実し、畑の環境が整ったことで、年間の畑計画通りに進めることができ、食育活動にもつなげることができた。
	次年度方向性	畑は年間の畑計画通りに進め、畑の作物が取れる前に食育の準備をすることで、食の循環を子どもたちに体験から伝えていくようにする。
2	計画・ねらい	空腹感を感じ、食べたい時に食べたい場所で食べたいものを食べたい人と食べたいだけ食べることのできる環境作り
	実践結果	縁側での給食では子どもたち自身が机を運び、子どもたち自身が準備する姿がある。一緒に食べたいスタッフを事務所に呼びに来て、一緒に食べるなど食事を楽しむ環境を自ら作っている。
	次年度方向性	縁側での給食の準備は引き続き、子どもたち自身で作ることができるようにする。また、机を運んだりする際、ケガをする可能性もあるので、そこも十分に考慮した上で、自らの食事の環境を自ら整えることができるようにしていく。

3	計画・ねらい	鶏を絞めて食す　命をいただく活動の実践
	実践結果	子どもたちには行っていないが、スタッフのみの鶏を絞めて食す活動を行った。スタッフの中でも行うことに関し、賛否両論があるため、自由参加とし、本当に興味があるスタッフのみ参加してもらうようにした。 子どもたちには、命の大切さを実際にさばいて伝えるのではなく、保育の中で命の大切さを伝え、『いただきます』『ごちそうさま』の意味を知ってもらうことにした。
	次年度方向性	命をいただく活動は次年度も継続して行っていくようにする。ただ、鶏をさばく活動を行うかをスタッフがしっかりと議論し、本当に必要な活動かどうかを議論する必要がある。まずは、次年度、魚をさばく活動を行い、今はスーパーで捌かれた状態での魚しか見たことのない子どもたちもいるので、魚を捌く活動を行うことで、体験から『いただきます』『ごちそうさま』の意味を知ってもらうようにする。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	7月3日／11月19日に実施
歯科検診	6月4日/11月12日園にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	季節の変わり目に手洗い指導を実施。 また、インフルエンザの感染症が発生する時期に合わせ、保育生活の中で、絵本などを通して、予防することの大切さを伝える。
流行した感染症	①　9月にインフルエンザ、園児2名。 ②　1月にインフルエンザ、園児3名感染報告有り。
発作・痙攣等の対応	なし
エピペン使用できるスタッフの状況	・2024 3月20日に西崎どろんこ保育園にて研修をし スタッフ計名9名受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ9名のうち、8名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	・5月18日に園にて心肺蘇生訓練をスタッフ8名、受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ9名のうち、8名が使用可能
その他保健に関する取組	インフルエンザおよび他ウイルス感染予防のため、手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（法定1回/3年）	業者による対象物の法定点検 2023年実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	給食施設がないため、対象外
	衛生管理点検表／毎週	給食施設がないため、対象外
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	給食施設と乳児の在籍がなく、調乳がないためがないため、対象外
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／6・1月 ⇒6月7日、1月29日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日　実施済み
	児童健康診断	内科健診　各年2回／7月3日、11月19日 歯科健診　各年2回／6月4日、11月12日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時 ⇒4月26日、10月25日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間　実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	子どもたちの遊びの姿に合わせた環境作り
	実践結果	子どもたちの遊びの姿、流行に合わせて、室内環境、戸外環境を整えるようにした。年度の前半は、園舎の仕様に悩み、どのように環境を設定したら、子どもたちに合った環境になるのか、試行錯誤し、何度も大幅な変更を重ねてきたが、年度の後半には徐々に子どもたちの動線も確立していったことで、環境が整ってきた。

	次年度方向性	引き続き、子どもたちの遊びに合った環境設定を行う。 玩具等も子ども同士の関わりを引き出せる量と質を意識して、環境設定を行い、子どもたちの興味関心に合わせて、棚の移動やおもちゃの入れ替えを行っていくことで、日々、変化のある環境にしていく。
2	計画・ねらい	保育者の声よりも子どもの声に溢れた保育園にする。
	実践結果	園舎の仕様にスタッフも子どもたちも慣れず、いろんなところに行ってしまう子どもたちに対し、制止などの言葉かけが多くなっていた。しかし、下期にかけて環境が整っていくのと同時に子どもたちの動きも予想できるようになり、それに伴い、スタッフの子どもの動きを制止する言葉かけも少なくなっていった。
	次年度方向性	環境から働きかけることは継続し、環境から働きかけることで、子どもたちだけでできるようにするにはどうするかを考え続ける。その先に、スタッフが言葉をかけなくても、活動が展開され、スタッフが黒子となれるようにしていく。
3	計画・ねらい	常に異年齢保育を意識した環境設定をする。
	実践結果	西崎どろんこ保育園での異年齢をどのように実践していくのか、できないではなく、できるようにするためにはどうするかを考え続け、環境や散歩、日課の取り組みを試行錯誤して進めた。子どもたちも自然と混ざり合い、日常の保育の中で異年齢での関わりが多くなり、そこでの学びも多く、タイムラインなどで発信することができた。
	次年度方向性	変わらず、西崎どろんこ保育園での異年齢保育はどういうものかを考え続ける。 生活の中での子ども同士の関わりを大事にし、保育者が関わるように設定するのではなく、自然と年下児は年上児に憧れ、年上児は年下児の手本となり、世話をする姿が見られるようにしていく。
4	計画・ねらい	就学を意識した「自らのことを自らができる」子どもを主体とした動線や環境の設定。
	実践結果	ロッカーの配置や棚の玩具の設定など保育者が関わることなく、子どもたちだけで生活が完了するよう、意識した。
	次年度方向性	環境を整え、自らのことを自らできるようにもなってきたが、まだ、帽子を置きっぱなしにしたりするなど整理できていないところもあるので、保育者が言葉をかけるのではなく、環境から働きかけ、子どもたち自身で、できるよう、環境を設定し続ける。
5	計画・ねらい	子どもたち自身が安全に、かつ、遊びを選択できる環境の中での統一されたルールの徹底。
	実践結果	年度の最初は、スタッフ同士でも認識の違いがあり、子どもたちに伝えることがスタッフによって変わることもあった。そのため、スタッフが子どもたちに伝える内容のズレが生じるたびに、話し合いをし、園として統一したルールにすることで、子どもたちが迷うことのないようにした。 年度の後半からは、園でのルールを子どもたちが交えて決めていくことで、「自らのことは自ら決める」ことができるようにした。
	次年度方向性	園内でのルールは統一されてきているが、スタッフで決めたルールも多くあるので、次年度は、一度、ルールを見直し、スタッフだけで決めるのではなく、子どもたちと一緒に話し合い、ルールを決めていくようにする。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	園会議、昼礼などを利用し、マニュアルの読み合わせを実施。 1回目の内部監査では、マニュアルを理解していないスタッフが多くいたが、2回目の内部監査ではマニュアル理解不足は減り、指摘個数が大幅に減少した。
2	実践結果	各避難訓練を毎月、実施し、不審者侵入訓練も年間の計画通り実施。 小学校との合同の津波の避難訓練も行うことができ、地域と連携した避難訓練を実施することができた。
3	実践結果	地域の情報収集に努め、必要な情報はアプリのおたより配信を利用し、保護者にも、通知するようにした。
4	実践結果	年度の前半はヒヤリハットのデータの収集に苦慮していたが、社用スマホを利用したアンケート方式を取り入れることで、ヒヤリハットのデータの収集が容易となり、データ化したものを使って、事故防止会議で話し合うことができた。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

今年度は、実習生や中高生の職場体験の受け入れはなし。

しかし、近隣の水産高校のお祭りに参加することができ、高校生との交流はおこなうことができた。

〈2〉実習生の受入

なし

〈3〉中高生の受入

なし

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	26日 11名	24日 11名	21日 10名	26日 10名	23日 9名	27日 9名	25日 9名	22日 9名	20日 9名	24日 9名	21日 9名	18日 9名
園内研修研修	26日 11名	24日 11名	21日 10名	26日 10名	23日 9名	27日 9名	25日 9名	22日 9名	20日 9名	24日 9名	21日 9名	18日 9名

<table>
<tr><td rowspan="4">鶏を捌き、命をいただく研修
講師：施設長</td><td colspan="4">1月19日に前原どろんこ保育園にて3名のスタッフが出席
収支報告</td></tr>
<tr><td colspan="2">事業計画にて計上した予算</td><td colspan="2">実際の支出</td></tr>
<tr><td>交通費（前原⇔西崎）</td><td>650×7</td><td>交通費（前原⇔西崎）</td><td>1950円</td></tr>
<tr><td>食材費</td><td>3000円</td><td>食材費</td><td>0円</td></tr>
<tr><td></td><td>合計</td><td>7550円</td><td>合計</td><td>1950円</td></tr>
</table>

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
e ラーニング期間:9月18日(水)～12月31日(火) zoom 研修: 1月22日(水) 13:30～16:30	沖縄県保育士等キャリアアップ研修	乳児保育	1名	無
e ラーニング期間:9月18日～12月31日 zoom 研修: 1月27日(月) 13:30～16:30	沖縄県保育士等キャリアアップ研修	マネジメント	1名	無
e ラーニング期間:9月18日～12月31日 zoom 研修: 2月22日(土) 14:30～17:30	沖縄県保育士等キャリアアップ研修	障害児保育	1名	無
e ラーニング期間:9月18日～12月31日 zoom 研修: 2月22日(土) 14:30～17:30	沖縄県保育士等キャリアアップ研修	食育・アレルギー対応	1名	無
e ラーニング期間:9月18日～12月31日 zoom 研修: 1月18日(土) 10:00～13:00	沖縄県保育士等キャリアアップ研修	マネジメント	1名	無
e ラーニング期間:9月18日～12月31日 zoom 研修: 2月1日(土) 10:00～13:00	沖縄県保育士等キャリアアップ研修	食育・アレルギー対応	1名	無
e ラーニング期間:9月18日～12月31日 zoom 研修: 2月1日(土) 14:30～17:30	沖縄県保育士等キャリアアップ研修	保護者支援・子育て支援	1名	無

e ラーニング期間:9月18日～12月31日 zoom 研修: 1月17日(金) 13:30～16:30	沖縄県保育士等キャリアアップ研修	障害児保育	1名	無

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	20日 1名	16日 1名	20日 1名	21日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	17日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	11月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	第1回：4月24日に web にて1名（主任）が出席 第2回：8月2日に web にて1名（主任）が出席 第3回：10月23日に web にて1名（主任）が出席 第4回：1月22日に web にて1名（主任）が出席											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	なし											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年１回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

各行事を行っていく中で、少しずつ、地域の方との関わりも増え、子どもたちも疑問に思ったこと、聞いてみたいことを自ら発信し、関り、質問することができてきていた。
今年度は、年度の最初は、積極的に戸外に出ることもできなかったため、関りは少なかったが、次年度は、戸外に出る土台が出来上がってきているため、年度の最初から積極的に戸外に出て、地域の人と関わっていくことで、人と関わることで、学べる事があるということを子どもたちに伝えていく。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（園主催）	月1回　　公園名：西崎親水公園にて　　参加延べ人数：4名

商店街ツアー	週1回　主な行き先：なかむら薬局、金城三味線店、かねひで、お魚センター、西崎郵便局、カインズ、道の駅いとまん、うまんちゅ広場、ラッキー交通、沖縄ヤマト運輸、おきなごころ、Ｂａｋｅステラ、マルカ水産等 熱中症の影響から夏季はあまり実施することはできなかったが、戸外活動がしやすい秋以降から計画通り実施。地域の方にも、顔を知ってもらえるようになり、散歩の途中などでも声をかけてもらえることが多くなった。
世代間交流	月1回デイサービスいちまんにて実施 交流先を2～3カ所変更し、子どもたちにとっても、シニア世代にとっても、よい影響を与える交流方法を模索し続け、1月に行ったデイサービスいちまんとの交流は、理想的なシニア交流を行うことができた。
異年齢交流	12月13日に沖縄水産高校にて交流を実施
その他活動	7月23日園にて地域交流を実施。地域の方から戦争体験の話を聞く
銭湯でお風呂の日	なし

9. 小学校との子ども間交流・スタッフ間交流

〈1〉今年度の振り返り

地域の繋がりがもともとあり、校区内での幼保小の連携を計画通りに行うことができた。
もともと予定していたものは行うことができたが、あくまでイベント化してしまい、子どもたちのスムーズな小学校への接続というねらいに対して、しっかりと達成できたかと考えると疑問が残る部分もあったので、次年度は、小学校が隣接していることもあり、もっと自然に交流ができるよう、小学校との連携を強固にする必要がある。
また、他の園とも、計画以外のところでも自然に公園先などで交流ができるようにしていく。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
4月17日	西崎小学校 1年1～3組	1名	授業参観（西崎小教室）	スタッフ間交流
5月23日	糸満市幼小連携支援事業	1名	連絡協議会(糸満市役所)	スタッフ間交流
6月17日	特別支援学校	48名	交流会(当園園庭)	こども間交流会
7月11日	糸満市幼小連携支援事業	1名	校長・幼児教育施設長等研修会	スタッフ間交流
11月18日	西崎小学校 5年生	25名	5年生交流会　(西崎小学校体育館)	子ども間交流
11月21日	糸満南こども園	2名	公開保育（当園園庭）	スタッフ間交流

11月22日	ミニ運動会の予定が雨天のため急遽くわのみ保育園と交流会	22名	交流会（当園園庭）	こども間交流

10.　要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

個別支援計画の作成を行い、ケース会議を月一回実施していくことで、要支援児の保育の方向性を見直していくようにした。
また、定期的に、保護者との面談や療育施設ともモニタリングも行い、多角的な面から児をみていくようにした。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・４～３月に計12回開催　参加者：9名
園会議内、もしくは昼の会議の時間にケース会議を行い、子どもの情報の共有に努めた。
なにより担当だけで悩むことのないように園全体で、課題に取り組むよう、意識した。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

幼保連携型子ども園園児指導要録を中心に小学校への子どもの情報の引継ぎ。
また、各小学校で、入学前情報交換会があるため、小学校に出向き、口頭でも就学児の様子を伝えるようにした。

次年度の進級に向けての引継ぎとして、幼保連携型子ども園園児指導要録を作成し、個別記録とともに記録を残し、引継ぎを行う。

11.　子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
17名	9名	9名	100名	29名	8名	10名	32名	10名	8名	7名	7名	246名

実施項目	詳細												
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　　来園延べ人数：43名												
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　⇒計０件相談実施済み												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計０回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	０名	０名	０名	０名	０名	０名	０名	０名	０名	０名	０名	０名	０名
どろんこ	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計0回実施済み												

芸術学校 どろんこ 自然学校	参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00　にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっぐだより	毎月1日発行												
青空保育 （支援センター主催）	月1回　　公園名：親水公園にて　以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	4名	0名	4名

12.　園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

2025年1月10日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：10時00分
自己評価終了時刻：11時00分
自己評価実施者：岩本　亮、名幸　舞、座喜味　真央、久貝　ゆま

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：8月25日
アンケート回収率：100％

（省察）園として、スタッフもどのように保育を進めていくか模索している中で、保護者の気持ち寄り添い、何を求めているのかヒアリングしきれていない部分が多かった。そのため、スタッフ数は国の基準に達しているものの、スタッフ数が足りていないという意見が多く挙げられている。
任意回答にも厳しい意見を多数いただいている。真摯に受け止め、改善のヒントにするよう、心がけた。保護者の不安を解消すべく、スタッフの受け入れ時、お迎え時の配置変更を行い、保護者の話や子どもの様子を余裕持って、聞き取れるように配置した。配置したことで、スタッフと保護者の会話も増え、家庭での子どもの様子の聞き取りや何気ないお迎え時の雑談もする余裕ができ、保護者から気軽に子育てや園の保育についての話をしてもらうことができるようになった。

13.　苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見　０件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む）　０件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年3月１５日　　作成者：西崎どろんこ保育園 施設長　岩本　亮

２０２４年度　発達支援つむぎ 荻窪ルーム
事業報告書
（発達支援つむぎにおける自己評価）

１．２０２４年度の概要　～2024年度の基本方針を受けて～

「にんげん力。育てます。」の理念に基づき、子どもが主体的に活動を選択し、思考すること、体験すること、表現することを引き出す支援を基本方針として実行に努めた。活動内容を子どもが選択できるような環境や活動の設定を行い、活動の中で子どもが自ら思考し実行する力を育めるよう、言葉がけや関わりを意識した。日課活動の中でも畑仕事に力を入れ、子どもが食べ物を育てる環境に興味関心や意識を向けられるよう、畑仕事から環境教育や食育へつなげていくように努めた。調理活動を子どもも保護者も楽しみにする姿が見られ、食育について子ども・保護者と一緒に考え体験する機会を多く持つことができた。

〈１〉支援内容の充実・質の向上

１	計画・ねらい	年間を通じた畑仕事から、実体験の中から様々な感触、運動を経験する（健康な心と体、思考力、数量や図形などへの関心）
	実践結果	畑仕事では、土づくりから子どもたちと一緒に取り組み、土の手入れ、種まき、草取り、収穫、調理を行った。戸外で季節を感じながら、子ども自身が主体的に作物の成長に関わり、友達や地域の方と協力しながら、思考し行動する経験を提供した。 種を撒くことや作物を間引く際、収穫をする際に数や量の概念を体感できるよう言葉がけや活動内容を意識した。年長児グループは、自分で数や量などを意識しながら畑仕事に取り組む姿が見られた。
	次年度方向性	畑仕事を通して、様々な感触や運動を経験する場面を設けていく。
２	計画・ねらい	生き物の飼育を通して生死を知る。命への理解、大切さや重みについて知り、思いやりの心を育てる（道徳性、共感性、責任感）
	実践結果	メダカの餌やり、カタツムリの飼育を通して命と触れ合う機会を設けた。メダカが死んだときやカタツムリの卵が孵化したときに、子どもが命の大切さを考えられるよう言葉がけを行った。子どもによってとらえ方は様々であり、興味を持ってじっくり観察する姿も見られた。子どもが命について考える機会は今後も設けて行きたい。
	次年度方向性	生き物の飼育を通して生死を知る機会を設けていく。
３	計画・ねらい	協働でひとつの物を創り上げる経験（協同性、達成感、豊かな感性と表現）

	実践結果	園入口やカフェの壁面を、子どもたちの製作物で飾り付けて掲示をした。共通の目的の実現に向けて考えたり、工夫したり、協力したり、諦めずにやり遂げた達成感や充実感を得られるよう支援を行った。
	次年度方向性	協働で一つの物を創り上げる活動を継続していく。

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	事業所内相談支援を活用し、子育てに関する相談や助言、支援方法についてアドバイスを随時行う
	実践結果	家族支援加算（個別、集団　各1回／月）の制度を保護者へ周知し、面談を行った。育児相談もかねて行うことで、毎月のように相談をする保護者もいた。「就学について」「子どもの発達について」などテーマを設定して、集団での説明会も実施した。
	次年度方向性	家族支援加算を利用して面談を定期的に設けていく。
2	計画・ねらい	スタッフが定期的に小学校に訪問をして現状を知り、保護者へ小学校の説明を卒園児の保護者を招いた座談会を開催し、情報交換の場を提供する
	実践結果	就学に向けた座談会を年二回実施した。就学までの流れや、小学校の現状を伝え、座談会の中で小学生のきょうだい児がいる保護者からも情報を提供してもらった。対象は年長児だけでなく、年中児にも声をかけて参加してもらった。
	次年度方向性	就学についての説明会や座談会を年二回実施していく。
3	計画・ねらい	当法人で行われている園長大学®保育士大学の動画にて、一般向けに配信されるものの情報発信をしていく
	実践結果	一般向けの講座があった場合保護者に周知した。
	次年度方向性	引き続き、当法人で行われている園長大学®保育士大学の動画にて、一般向けに配信されるものの情報発信をしていく

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	園との連携を強化する。保護者と相談しながら園訪問の時期を検討し、支援に活用していく
	実践結果	子どもの所属園に訪問し、生活の場面で子どもの姿を確認したり、つむぎでの様子を伝えたりし、園やつむぎでの支援方法についての話し合いを行った。園と話し合った内容を保護者にも報告を行い、家庭・園・つむぎで連携した支援方法の確立を目指した。
	次年度方向性	子どもの所属園との情報共有を継続し、必要時園訪問も行っていく。

2	計画・ねらい	日帰りショートステイ事業を活用し、子どもや保護者にとってつむぎが安心できる場所になる
	実践結果	保護者のレスパイトやきょうだい児の病院受診等、保護者の要望に応えられるように努めた。
	次年度方向性	日帰りショートステイ事業を継続していく。
3	計画・ねらい	自治体が開催する情報交換会・実務者協議会などへの参加、所属園への園訪問、他事業所等との事例検討会への参加や情報共有、関係機関との連携を強化する
	実践結果	自治体が開催する情報交換会や他事業所との事例検討会、研修会などには可能な限り参加した。所属園への園訪問も保護者や園から要望があれば実施した。
	次年度方向性	自治体や所属園と連携していく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	社内社外問わず、参加したい研修には積極的に参加を促す 園長大学®保育士大学の動画を個人だけでなく、ルーム内研修にもとりいれ、スタッフのコミュニケーション能力や支援の質の向上を目指す
	実践結果	スタッフが講座から学んだ知識や、個人の人生経験から得た知識等を園会議や日々の打ち合わせの中で共有をした。
	次年度方向性	園長大学®保育士大学を活用し、質の向上を目指す。
2	計画・ねらい	戸外活動でのスタッフの関わり方について、子どもの最善の利益を考慮し、スタッフ同士共通見解を持ちながら支援の質を高めていく
	実践結果	グループ支援の内容は他のスタッフと相談をしながら、多角的な視点で子どもの姿をとらえて支援を展開するように努めた。 個別支援においても、担当スタッフが一人で抱え込まず、他のスタッフと支援内容を相談して質を向上するように努めた。
	次年度方向性	スタッフ同士でコミュニケーションを取りながら、支援を展開していく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	虫を飼育することで、「命への理解や思い」「思いやり」を育む。また、飼育を通して他児と関わることで、「仲間関係」も育んでいく(生命尊重、協同性、言葉による伝え合い)。
	実践結果	グループ支援の中で実際に生き物に触れ、世話をしながら、変化を他児と共有し、土交換や餌あげなど定期的に作業できる環境を用意するよう努めた。

	次年度方向性	生き物との関わりを通して、命の大切さを伝えられるスタッフを育成していく。
2	計画・ねらい	生き物に触れる力をコントロールすることで、自分の身体の使い方を知る
	実践結果	小さな命を扱う上で「そっと」「優しく」「ゆっくり」など、子どもが自身の行動と合わせて考えざるを得ない状況を飼育下で作り出し、力をコントロールする経験を学べるよう支援を行った。
	次年度方向性	子どもが自分の身体の使い方を知る環境を設定していく。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

児童発達支援　利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	153人	138人	158人	165人	129人	153人	160人	136人	142人	150人	149人	150人	1783人
登録児数	37人	37人	39人	39人	38人	40人	40人	39人	39人	41人	42人	42人	473人

〈2〉開所時間

９時００分～１８時００分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

施設長1名
児童発達支援管理責任者1名
保育士2名
機能訓練担当1名（心理士）

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容

施設内会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー自己採点 ・保育の質向上に関わる勉強会 ・法人内の情報共有 ・児童発達支援管理責任者、各専門士による支援技術の共有 ・研究テーマ（造形、音楽、自然、食などを設け、資料を使った研修を行った。
事故防止委員会	月1回	・施設内で発生したヒヤリハット、インシデント、事故の分析と再発防止について共有 ・他園で発生した事故について共有 ・全国で発生した事故について事例検討
支援計画策定会議	回	・支援計画作成に伴い、開催時期を調整した。 ・個別支援・グループ支援それぞれの担当者と児童発達支援管理者が必ず参加して実施した。
虐待防止委員会 (施設内会議にて実施)	9月、2月	・虐待の定義の確認、虐待防止マニュアルを全員で確認した

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
児発管会議	月1回	児発管
併設園会議	年2回	施設長
食育会議	年4回 （5.8.11.2月）	施設長 調理スタッフ
保健会議	年4回 （5.8.11.2月）	施設長
子育ての質を上げる会議	月1回	スタッフ

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導を行った。

安全対策係	事業所内、または周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策を行った。 計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起を行った。
防火管理者	月1回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、近隣施設との連携の推進を行った。
食品衛生責任者	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食品サンプルの管理を行った。
畑係	野菜の植え付け、手入れ、収穫時期や道具の準備などを管理し、スタッフに伝えた。
生き物係	めだかの飼育管理、動物や植物に触れる機会の検討と実施を行った。
体験学習係	活動の立案、計画と実行を行った。

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
体験学習係	活動の立案、計画と実行を行った。
地域連絡会係	近隣の他事業所との情報交換会への参加、商店や公共施設との関係づくりに努めた。

4. 支援・処遇

〈1〉保護者面談 および発達相談・児童の保護者への支援および意見要望への対応

グループ支援	・畑仕事や公園活動で、直接土づくりや水遊びをするなど、自然の中で遊んで体験をする機会を設けた。 ・戸外活動を通して基礎体力づくりをねらいとし、積極的に戸外に行った。 ・友達と一緒に活動に参加する経験から、協働する楽しみを知ることができるよう、簡単なルールがある遊びや皆で一つの物を作る活動を行った。 ・畑仕事で農具の操作を通して、力加減や身体の動かし方を知る機会を設けた。一回の支援では理解することが難しくても、継続して畑仕事を行うことで、力加減や身体の使い方を意識する姿が見られた。 ・野菜を育てる過程で優しく触れたり、並べて植えたり、水を全体に撒いたりと、力や身体をコントロールする経験を積み、左右の手、上下肢、目と手など協調運動の力を養うよう努めた。 ・収穫した野菜を調理し、食への興味関心の幅が広がるよう努めた。

個別支援	・つむぎに来ることに慣れ、安心した環境で友達と一緒に活動を楽しむことができるよう支援を展開した。 ・様々な感触に触れる機会を設け、安心した場所で主体的に遊ぶ環境も設定した。 ・保護者の子育ての悩みや不安を受容しながら、子どもの成長を感じられるよう、保護者支援を行った。
家族支援加算	4～3月まで　合計ｌｌ名　が参加済み　　（3月ｌ日時点） ・子どもの家や園での様子、保護者の悩みなどを伺い助言などを行った。
保護者面談 発達相談	・家族支援にて実施。
関係機関との連携	4～3月まで　合計ｌ2名　が参加済み　　（3月ｌ日時点） ・子どもが所属する園に訪問し、情報共有や支援方法の検討を行った。

〈2〉計画した年間行事の振返り

別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育に関する実践結果

ｌ	計画・ねらい	子どもに合わせた食事形態、食具（手づかみ食べ）について、定期的に支援を行う
	実践結果	直接食事形態についての支援を行う機会はなかったが、保護者や訪問した園から食事の様子を聞き、適時助言などを行った。
	次年度方向性	家庭や園での食事の様子を把握し、助言などを行っていく。
2	計画・ねらい	子どもたちが育てた野菜を収穫しその場で食べたり、加工・調理を行い提供したりすることで、食への興味関心を育んでいく
	実践結果	畑で収穫した野菜を使い、ピザや芋餅などを作った。普段は食べない野菜を食べる姿が多く見られ、食への興味関心を育むよう努めている。
	次年度方向性	収穫した野菜を調理する活動を継続していく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
スタッフ健康診断	年ｌ回実施
スタッフ検便	毎月ｌ回（全スタッフ対象）

流行した感染症	11月頃　インフルエンザ。所属園で罹患しているため、つむぎでの感染拡大はなし。
発作・痙攣等の対応	該当なし
エピペン使用できるスタッフの状況	・2025年度キックオフにてエピペン研修を実施予定。 ・本日時点で、在籍スタッフ6名のうち、6名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	AED 設置なし。
その他保健に関する取組	適時換気や消毒を実施した。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回/15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック 4･7･10･1月の25日に計4回実施済み	
衛生管理	衛生管理点検表/毎日	毎日実施
	衛生管理点検表/毎週	毎週金曜日実施
	衛生管理点検表/毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿/毎日	毎日実施
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回/4･10月の施設内会議時に実施
	コンピテンシー自己採点	毎月1回/施設内会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	子どもが主体的に活動を選択する
	実践結果	戸外か室内活動か、その場所で何をするか等、その時に子どもが今やりたいことを確認し、主体的に活動を選択、実行できるよう努めた。
	次年度方向性	子どもが自らしたい遊び、経験を選べる環境を設定していく。
2	計画・ねらい	年間を通して畑仕事を実施する
	実践結果	収穫だけでなく、土づくり、種まき、堆肥づくり、間引きなど、畑が現在どのような状況で、どんな作業が残っているかをスタッフ全員で把握しながら管理するよう努めた。
	次年度方向性	年間を通した畑仕事を継続していく。
3	計画・ねらい	園の整理整頓
	実践結果	不要な備品、壊れている備品は使用しないよう整理整頓をした。
	次年度方向性	整理整頓清掃清潔を徹底していく。

〈7〉手作り遊具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	なし			

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	防災	危機管理マニュアルＮｏ．3の災害対策（P6～）に則り、消防訓練・避難訓練再開通知・自衛消防訓練通知・上級救急救命資格取得（継続）手引き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛消防組織と安全対策係の設置・緊急地震速報運用を行った。
2	ケガ事故防止	危機管理マニュアルＮｏ．3（P8～）のケガ事故防止策・安全点検と保全事故防止チェック及び設備点検チェックの実施、安全教育を行い、ケガ発生時には対応フローチャートに従って対応した。
3	不審者対策	危機管理マニュアルＮｏ．3の不審者対策（P14）に則り、不審者侵入訓練・笛の携帯・代理の送迎者の把握・不審者情報の収集と共有を行った。
4	光化学スモッグ	危機管理マニュアルＮｏ．3の光化学スモッグ対策（Ｐ15～）に則り、光化学スモッグの知識を身に着け、注意報発令の把握を行いながら、発生時

		には光化学スモッグ発生時の対応及び行政連絡に従って対応した。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

受け入れなし

7. スタッフ研修

〈1〉施設内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	19日 5名	10日 5名	17日 5名	16日 6名	2日 6名	13日 6名	11日 6名	20日 6名	6日 6名	10日 7名	7日 7名	日 6名

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
8月21～22日	公益財団法人　総合健康推進財団関東支部 東京都サービス管理責任者等研修事務局	児童発達支援管理責任者基礎研修	1名	有
10月8日	公益財団法人　総合健康推進財団関東支部 東京都サービス管理責任者等研修事務局	児童発達支援管理責任者更新研修	1名	有
1月29～30日	公益財団法人　総合健康推進財団関東支部 東京都サービス管理責任者等研修事務局	児童発達支援管理責任者基礎研修	1名	有

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月

業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	21日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	11月に動画視聴にて実施（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	該当なし											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	該当なし											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

区民農園での畑仕事の際に、地域の方と挨拶を交わしたり、野菜の育て方を教えてもらったりする交流があった。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育	月1回　　公園名：読書の森公園にて　　参加延べ人数：10
商店街ツアー	週1回　主な行き先 ：タウンセブン、西友、まいばすけっと等
世代間交流	畑仕事を通じて、地域の方との交流を図りコミュニケーションの楽しさや、保護者やスタッフ以外の大人とのやり取りを経験するよう努めた
異年齢交流	異年齢のグループでは、年下の子を手伝ってあげる経験や、年上に手伝ってもらう経験を大切にし、干渉し過ぎず見守る支援を心掛けた

9. 医療機関・幼稚園・保育園・小学校との連携の計画

〈1〉今年度の振り返り

アプローチカリキュラムおよびスタートカリキュラムへの理解を深め、小学校１年生の姿を逆算した支援が行えるよう努めた。職員が就学先の小学校の見学に行き、小学校の現状を把握する予定だったが、特別支援学校のみとなった。幼稚園、保育園、こども園、小学校の先生方と情報共有をおこなうと共に、就学後の相談先や相談方法について情報収集を行い、勉強会等を通じて保護者に伝える機会も設けた。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
6月19日	東京都小金井特別支援学校	1名	・学校見学	特別支援学校の現状を把握し、保護者へ情報共有をする。

10. 個別支援計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

児童発達支援管理責任者が、“子どもの最善の利益”を常に念頭に置きながら、保護者の意向、子どもの適正、特性を踏まえ、提供するサービスの適 切な支援内容等について検討し作成をしている。提示の２ヶ月前に保護者にモニタリングを実施し、子どもの家庭や園での様子、保護者のニーズなどについて適切に把握をした。１ヶ月前に児童発達支援管理責任者を中心とした策定会議を行い、多角的に子どもの発達を捉え、適切な支援を考えた。所属園に訪問し、担任らと共に支援に対する共通理解を持つための策定会議を行った場合は、速やかに支援計画の書き換えを行い、園訪問での話し合いをもとにした支援内容を書き加えた。

〈2〉進級引継、および小学校への引継状況

就学支援シートを用いて進級引継ぎおよび小学校への引継ぎを行った。当施設での子どもの様子、提供した支援内容、必要と思われる配慮事項などを伝えた。また、子どもの発達過程を踏まえ 「できること」「得意なこと」などを積極的に伝え、進級先および小学校での今後の見通しとなるような引継ぎを行う予定である。

11. 子育て支援事業

実施項目	詳細
施設開放	（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　地域の方の利用なし
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　今年度、利用児以外の相談なし

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉施設による自己評価の実施

２０２４年１１月３０日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：９時００分
自己評価終了時刻：１２時００分
自己評価実施者：施設長、児童発達管理責任者、当日出勤スタッフ

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月15日
アンケート回収率：97%

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

〈1〉報告すべきご意見

該当なし

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

該当なし

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：発達支援つむぎ 荻窪ルーム　施設長　中村大輔

２０２４年度　発達支援つむぎ 吉祥寺ルーム
事業報告書
（発達支援つむぎにおける自己評価）

１．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

「ジブンのことはジブンで～必要なモノ・コトを整理し「生活力」を体得しよう～」の方針のもと、子どもたち自身が主体的に活動に取り組む中で「ジブンで」「やりたい」気持ちを育んできた。具体的な活動としては、日々の活動の中で意欲をもてるような環境設定や促し、きっかけづくりなどを通じて「自ら必要な経験を選び取る」「自分が過ごす環境は自分で決め・自分でつくり上げる」ことへの理解やイメージを深めた。またスタッフは、子どもの気持ちを受けとめながら必要最低限の介入を意識し、「ジブンで」選び取る経験の積み重ねと過程、そこから得られる充実感や達成感から、次の意欲につながるよう適切な距離を保ち見守ることを意識した。また、地域での活動や見守り、学び合いの中から自分が必要とされている自己肯定感を育んだり、より良く生きるために必要なモノ・コトに対して考えたりする経験から、それぞれの「生きる力」を深化させた。次年度は丁寧に循環させた自分で取り組む意欲と必要な経験を活かし、原点に立ち返り、日々の時間を大事にしながら「生きる力」のその先を目指し、選び取る経験の循環を丁寧に積み重ねていく。

〈１〉支援内容の充実・質の向上

１	計画・ねらい	「生きる力＝生活力」を育む活動と支援の提供
	実践結果	・日々の活動時に日課に触れ経験を積み重ねることを意識し、活動のどこで経験できるかを子どもの様子などを見極めて提供した。 ・「火・水・土」に関わる活動の際には、事前学習や振り返りの時間も設け、適切な距離の取り方を学べるよう経験を設定した。 ・活動や支援の中から子どもたちがどのような「生活力」を身につけたかをブログやカフェ掲示のポートフォリオなどで発信した。
	次年度方向性	引き続き生活力の体得のため、ホンモノの経験の中から様々なものとのかかわり方や距離の取り方を学んでいけるよう環境を設定する。
２	計画・ねらい	人や植物、生き物など命あるものと関わり、生命を尊重する気持ちを育み生き物に関する興味、知的好奇心が湧くようなきっかけ作り
	実践結果	・畑仕事において、畑の土作りや畝作り、種まきや苗植え、水やりや雑草抜き、収穫や保存、調理まで活動を定期的に設け、食の循環や連続した活動の理解と経験の積み重ねを行った。 ・ミスジドロガメの世話や井の頭動物園・水生物園での活動においては、事前・事後学習の取り組みとともに、動物解説員とのやり取りの中から、生き物に対する興味関心や学びの深掘りができた。 ・系列園でのマグロの解体を見学し、その時の様子や動画を用いて資料とし、魚の調理活動時に子どもたちに「命をいただく」学びの時間を設けた。

	次年度方向性	様々な生命と関わり共存していく中で、動物や植物に対して知識を得ながら生命の尊重に定期的に触れていく。
3	計画・ねらい	子どもが自分自身で活動を選択できる環境設定の構築
	実践結果	・日課や戸外活動、地域での活動や調理活動、素材や道具を用いた活動など、様々な環境から子どもが自ら経験や活動を選択できるよう環境設定を行った。 ・子どもが決めた「やる」「やらない」「見る」「一緒に」などの気持ちは受け止め、どうしたらその思いが達成したり折り合いがついたりするかを共に考えていけるよう意図的に関わった。 ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」や、児童発達支援ガイドラインに基づく「5領域」を見据えた活動を行い、ねらいに対する子どもたちの学びや育ちを活動内容とともに定期的に振り返った。振り返った内容はルーム内でのケース会議、他ルームと合同ケース会議などで共有し、子育ての質の向上を図った。
	次年度方向性	自ら必要な経験を選び取る中で、そこから見える子どもたちの思いや学びを見逃さず、様々なツールで発信していく。

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	就園・就学に向けた具体的な見通しを定期的に設定できる環境づくり
	実践結果	・年３回就園・就学に向けた保護者懇談会を実施し、就園・就学における見通しや、必要な準備・心配事等を保護者とスタッフが共に話し合い共有できる場を設定した。 ・2024年9月に近隣の小学校を見学し、就学へのイメージや期待感、教職員との交流できる場を設定した。 ・日々の支援で就学相談の進捗や保護者の思いを確認する中で、必要に応じて適宜園訪問や就学支援シートの作成を行い、園や小学校との連携を図った。
	次年度方向性	地域の就学・就園情報を確認しながら、接続期に向けて見通しをもてるよう環境を設定する。
2	計画・ねらい	保護者が子どもを理解し、子育てを前向きに捉えられるような場の提供
	実践結果	・適宜家族支援の機会を設定し、現在の子どもの様子や今後の見通し等を伝えたり、子育てに関する悩みを整理したりするなど子どもの成長を共に喜んだりできるような場を提供した。 ・利用児保護者全員に向けて、年度途中に家族支援に関する案内を行った。また、利用のハードルが下がるように具体的な相談内容を例示して敷居低く利用できるよう仕組みづくりを行った。
	次年度方向性	報酬改定により、頻度高く家族支援を使用できるようになったため、必要な時に必要に応じて利用できるよう積極的活用を促す。
3	計画・ねらい	子育てについて共有し、学べる場の提供

	実践結果	・月1回程度、子育てにまつわる話ができる「おはなしの会」を継続して行い、保護者同士の交流につなげた。また吉祥寺南町のコミュニティセンターを借りて、年に2回地域でも開催した。 ・つむぎ吉祥寺ルームのカフェを活用し、子育てに関する講座を行った。また「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」については、他ルームと年に3回ケース検討会を行い、スタッフの学びを保護者へ日々のフィードバックや懇談会等でお伝えした。
	次年度方向性	ニーズに応じて、話をしたいタイミングや場所を都度検討しながら、学べる場の頻度と場を拡大していく。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	近隣の小学校とのつながりから継続した支援の先を知る
	実践結果	・学習指導要領・アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの内容について、園会議を活用してスタッフ間で共有した。 ・年2回程度近隣の小学校へ出向き、小学1年生の授業を観察し、接続期への学びと逆算した支援の在り方を検討した。 ・授業観察後に教職員間との交流の機会を設け、現状や課題などの意見交換を行い、より良い子どもの支援と接続期への学びを深めた。
	次年度方向性	子どもそれぞれの学びや育ちが活きる環境設定や接続期の在り方を継続して考え実行する機会を持つ。
2	計画・ねらい	地域へつむぎの取り組み・育ちを発信する
	実践結果	・武蔵野中央公園内の管理を「子ども管理人」として、秋のコスモス花壇植えや、冬の落ち葉集めなど植物や季節に応じて職員と共に交流しながら行った。 ・つむぎ吉祥寺ルームがある末広商店街や周辺の地域において、支援時に清掃活動をしたり、商店街の中にあるお店の手伝いや交流をしたりすることを通じて、生活の中で地域と関わりが持てるよう活動を行った。 ・地域での活動は武蔵野中央公園の掲示板やつむぎのカフェなどを活用し、活動からの学びや育ちを定期的に発信した。
	次年度方向性	地域に根付き愛される施設の構築に向けて、活動の深化を継続する。
3	計画・ねらい	法人内外との定期的なつながり強化
	実践結果	・三鷹どろんこ保育園・武蔵野どろんこ保育園と定期的に連携し、畑仕事や散歩などの活動に共に参加し、混ざりあいの機会を設けた。また利用児の園訪問は保護者からの依頼などに基づいて所属園に伺い、担任と連携や支援の方向性を共有した。 ・部内のつむぎ3ルームで年に3回程度ケース検討会を行い、多職種かつ様々な考えを持つスタッフ間のインクルーシブを図った。
	次年度方向性	混ざり合いを継続していく中で見えてくるインクルーシブの在り方を引き続き模索する。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	大人も主体性～考え、学び、動く、自律した集団～
	実践結果	・定期的な会議や朝夕礼などを活用し、集客の現状や新規問い合わせの対応を確認し、より「選ばれる施設になるため」の意識を持った対応をブラッシュアップした。 ・「好き」や「学び」をアウトプットする場をスタッフそれぞれが自己決定し、創園・おはなし会・法人内・地域講座にて、子どもの「生活力」を身につけるための支援・活動や育ち・学びについて考え発信した。
	次年度方向性	大人も自ら学び、生きる力を身につける循環を大事にしていく。
2	計画・ねらい	質の高いアセスメント力を身につけ伝える
	実践結果	・2024 年 6 月に「アセスメント」の本質を考える学びを児童発達支援管理責任者が行い、子どもの思いや行動から見立てる力について学び合う時間を設けた。 ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿」および児童発達支援ガイドラインに基づく 5 領域における定期的な学びから、日々の支援の記録や共有および個別支援計画書の作成につなげた。 ・活動や支援のねらいから得られた子どもの学びや育ちは、つむぎカフェにポートフォリオやドキュメンテーションなども活用して定期的に発信した。
	次年度方向性	質の高い子育てや支援において、わかりやすく様々な表現で伝えられるよう学びを深める。
3	計画・ねらい	幅広い支援の連携を考え、地域社会を知る
	実践結果	・市内の連絡会に参加し知りえた自治体の状況や情報は、スタッフに共有の上適切に活用されるよう定期的に確認を行った。 ・2024年6月・11月に近隣の小学校の教員との交流や学びの場を開催し、幅広い支援方法の獲得と保護者や子どもへの支援のイメージを共有した。
	次年度方向性	子どもたちの「その先」を意識しながら支援していくイメージを定期的に確認しながら、必要な情報を活用する。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食の循環を通じて環境への影響を知る
	実践結果	・畑の作物を収穫後調理や加工をし、食材の変化や食べた後についての食物の変化について調べ、自然へ還るまでのイメージを定期的に確認した。 ・調理や加工活動においては、季節に応じた食物を活用し、どの食物が旬でどのような栄養になるのかなどを調理活動の前後で学ぶ機会を設けた。
	次年度方向性	食の循環を十分に味わい、つながりに触れていけるよう子どもの発達に応じて環境を設定する。
2	計画・ねらい	身近な自然現象に触れる機会を持つ
	実践結果	・活動の中で「なぜ雨はふるのか」「雷が起こる仕組み」といった自然現象について図鑑や ICT 等にて知識を深め学ぶ機会を持った。

		・自然現象における天災等についても無理なく触れ、自分で自分の命を守ることや危機管理について学んだ。避難訓練や散歩を兼ねた定期的な避難経路確認を積み重ね、危険箇所の確認や地図作り等を行った。
	次年度方向性	日常の生活の中で有事に備える意識について無理なく触れる機会を設ける。
3	計画・ねらい	様々な環境の循環を経験する
	実践結果	・ルーム外に「勝手籠」を設置し、リサイクルやリユースについて触れる機会を設けた。 ・身近におけるエコとは何か？を子どもたちと一緒に調べ、活動や生活の中で取り入れるきっかけづくりを行った。
	次年度方向性	循環するモノ・コトに触れていきながら、主体的に取り組めるエコ活動について考える機会を設ける。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

児童発達支援　利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	204人	210人	217人	230人	213人	207人	236人	215人	212人	214人	198人	250人	2,606人
登録児数	43人	46人	45人	47人	46人	46人	48人	48人	48人	47人	47人	47人	558人

（解説）定員遵守しながら、積極的な振替の提案を行い、かつ振替提案時にも支援のねらいや目的をお伝えすることで、保護者の通所イメージや目標に沿った支援を実行することにつながった。

〈2〉開所時間

９時００分～１８時００分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

施設長1名
児童発達支援管理責任者1名（兼務）
保育士1名
機能訓練担当4名（公認心理師4名）
児童指導員1名

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
施設内会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・研修報告やその内容に関するディスカッション ・ケース検討 ・衛生管理手順の確認
事故防止委員会	月1回	・前月の施設内インシデントおよびヒヤリハット事案の確認および再発防止策に関する話し合い ・他園事故報告書の内容共有
支援計画策定会議	適宜	・支援計画の新規・更新および変更作成が生じる場合に開催 ・支援担当者と児童発達支援管理責任者が必ず参加する

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
児発管会議	年3回	児発管
食育会議	年4回 （5.8.11.2月）	施設長
保健会議	年4回 （5.8.11.2月）	施設長
子育ての質を上げる会議	月1回	スタッフ

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	定期的な消毒・換気の点検、感染対策の検討と提案、手洗い支援を法人の方針や感染状況に応じて行った。
安全対策係	事業所内または周辺の安全管理や清掃、危険箇所の点検や対策、定期的な安全点検の実施、利用者への注意喚起を行った。

防火管理者	月1回の防災訓練の計画立案および実施、消防計画の見直し、備蓄品の確認および補充を行った。
食品衛生管理係	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食品サンプルの管理を行った。
畑係	種まきや苗の選定や買い付け、畑仕事の計画と立案、収穫時期の検討や畑の様子をカフェに掲示し利用者へ周知した。
生き物係	アクアリウム（えび）の飼育管理、ミスジドロガメの世話、動物や植物の管理においての計画策定および実施を行った。

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
吉南まつり係	大人神輿や山車を支援時に見学した
地域連携係	地域資源の利用や情報の収集と連携を行った

4. 支援・処遇

〈1〉保護者面談 および発達相談・児童の保護者への支援および意見要望への対応

異年齢で構成された支援 （主に3～5歳児）	・安心安全に活動できる環境を用意した。 ・ゾーン保育を活用し、一人ひとりの好きなことを見極めて主体的な取り組みを促した。 ・活動に使う道具や素材は多種多様かつやや不足する程度に準備し、物の貸し借りから生まれる他者とのやり取りや気持ちの葛藤・折り合いのつけ方などを十分に味わえるよう環境設定した。 ・支援の中ではできうる限り「ホンモノ」に触れ、生活力の体得と汎化を意識した。 ・異年齢での活動から他者や年上・年下との関わりや協調性・思いやりの心を育めるよう環境設定を行った。 ・実体験から五感を使った表現や豊かな感性を引き出せるよう意識して支援を行った。 ・子どもたちが納得いくまで試行錯誤できるよう見守る時間を意識して支援を行った。 ・「できた」経験を積み重ね、子どもの達成感や自信につながりやすい支援を設定し、実施した。 ・畑仕事や生き物の世話や清掃を定期的に行い、生命の尊さや生きるために必要なことを共に学ぶ機会を作った。 ・商店街にて買い物やウォークラリーを実施し、自分の地域を知ることやお店

	の方々とのコミュニケーションを促した。 ・調理活動で火と関わる経験や土に触れる活動、色水遊び等火・土・水に関わる活動を行い、自然の反応や気づきについて共に学びを深めた。 ・保護者へ活動の意図やねらいを丁寧に説明し、身につけたい力や子どもの成長について相談の時間を設けた。
異年齢で構成された支援 （主に未就園児）	・安心安全に活動できる環境を用意した。 ・必要に応じて保護者と同室で関わる時間を設け、スキンシップや情緒の安定を図った。 ・規則正しい生活サイクルを身につけ、元気に活動できるよう時間設定を行った。 ・子どもたち同士の関わりに必要以上に介入せず見守ることで、感情のコントロールやコミュニケーションのやり取りを促した。 ・支援の中ではできうる限り「ホンモノ」に触れ、生活力の体得と汎化を意識した。 ・保護者との対話を繰り返し、共に子育てを考える時間を設けた。
家族支援	4～3月まで　合計154名が参加済み　　（3月1日時点） ・園訪問の事前共有や報告を行った。 ・日々の支援についての確認や子どもの様子について話し合った。 ・就学・就園についての相談や情報整理を行った。 ・子どもを取り巻く家族やその関係機関を含めた情報整理や関係機関連携を行った。 ・すべての支援に対し「家族支援記録」の保管を行った
保護者面談 発達相談	・支援の振り返りやカフェでのやり取り、上記「事業所内相談支援」において適宜相談を実施した。
関係機関との連携	4～3月まで　合計32名が参加済み　　（3月1日時点） ・就学や就園に関する各関係機関との連絡調整を実施した。 ・保育園・幼稚園等と連携し、自施設における支援内容の調整を行った。

〈2〉計画した年間行事の振返り

別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	自然の恵みをいただく活動の実施
	実践結果	・畑で野菜を育てるうえでの土づくりや種、苗植えも子どもとともに行い、野菜の育ちや成長を定期的に見守る環境を設定した。 ・スタッフが近隣園で行われた魚の解体を見学し、「命をいただく」活動について知識を深めると共に、魚を使用した調理活動時に子どもたちへ共有した。

		・畑で収穫した野菜を使用したぬか漬け、梅干しづくりなどを通じて、食品を加工し食す経験を提供した。
	次年度方向性	様々な調理形態や加工の工程、命をいただく活動を子どもたちと共に学び知ることで、食へのさらなる興味関心につなげていく。
2	計画・ねらい	季節の行事と連携した調理活動
	実践結果	・収穫した野菜等を調理し、自ら作ったものを食す経験を通じて、新たな食への興味関心のひろがりがみられた。 ・季節を感じる調理活動を行い、日本の四季についてともに学ぶ機会を設けた。
	次年度方向性	どの季節にどのようなものが旬を迎え、それによる体への影響や学びについても触れる機会を設ける。
3	計画・ねらい	食べた後の食の仕組みや体の成り立ちについて知る
	実践結果	・調理活動の前後に、食べたものは体にどのように吸収され、体が作られていくか学ぶため、栄養素の学びをまとめたものから知る機会を設けた。 ・朝食・昼食・間食・夕食といった毎日の食事時間に応じた食べ物について共に学び、必要な栄養やエネルギーについて買い物を通じて選択した。 ・栄養素が体でどのように消化吸収し、どのように排泄されるかを調理で使用した食材等を用いて学ぶ機会を設けた。
	次年度方向性	自分の体を健康に保つ意識付けと共に、必要な栄養やエネルギーにも興味関心が育っていけるよう学ぶ環境を整えていく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
流行した感染症	新型コロナウイルス・インフルエンザA型感染報告あり
エピペン使用できるスタッフの状況	・本日時点で、在籍スタッフ7名のうち、6名が使用可能 ルーム内研修にて共有した。
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み

	防災自主点検	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回/15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回/4･10月の施設内会議時 ⇒4月15日､10月11日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間　実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	遊びや道具を選択する力ややりこむ感覚を経験する
	実践結果	・部屋やコーナー等で自由に遊びこめる環境を設定し、自らの力で遊びを展開する経験を設定した。 ・様々な道具を置き、子どもたちがいつでも主体的に関われる環境、経験を選び取れる環境を用意する。また、決められた量や人数分の量ではなく、子どもたち同士の話し合いや調整が経験できる量の道具の提供を行った。 ・製作活動ができる常設の棚の設置および子どもたちが主体的におもちゃ棚を整理することで、自らの経験が選び取れる棚や環境構成を共に行った。
	次年度方向性	様々な道具や環境を設定する中で、子どもたちが必要性に基づいて自ら経験を選び取り、生活力につなげていけるよう意識していく。
2	計画・ねらい	素材から自由な発想を育む経験をする
	実践結果	・廃材や模造紙等を使用し、自ら決めた素材で自由に取り組む経験を定期的に実施した。 ・石や葉っぱ、枝や花など自然のものも使用しながら、見え方や配置等を工夫して、五感を活用して十分に取り組めるよう環境を設定した。
	次年度方向性	子どもたちの興味関心や発達に応じて、様々な視点から自然のものや素材に関われるよう機会を提供していく。
3	計画・ねらい	ルーム内の美観を保つ
	実践結果	・毎月の活動計画作成時に、来月活動で必要な物品について洗い出し、不足分は購入・発注し不足がないように対応した。 ・ルームの運営や支援等に必要な備品の見直しを行い、必要なもののみを置くサイクルを循環した。

		・定期的なメンテナンスや掃除については、年間計画に盛り込み、確実に必要回数実施できるよう日時を設定し実施した。
	次年度方向性	不要なものやいつか使うものなどの選別を行い、定期的に廃棄するサイクルから必要なモノ・コトを選別しやすくなるよう環境を設定する。

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

l	実践結果	武蔵野市からの防犯・防災メールを随時確認し、その他注意報や警報の発令を意識しながら戸外活動をすすめた。
2	実践結果	防犯を含めた避難訓練を実施し、スタッフの勤務体制にかかわらず、緊急時に誰でも最善の対応ができるよう努めた。スタッフ全員が避難場所、避難経路、避難方法および AED 設置場所についても定期的に共有している。
3	実践結果	全スタッフがケガや事故に対して常に危機感を持ちつつ指導した。起きたケガや事故に対しては原因の究明を怠らず、再発防止に務めた。また、未然に防げることへの気づきを忘れず、常にケガや事故の起こりにくい環境設定を行った。

6. 実習生・中高生の受入

〈l〉今年度の振返り

今年度は l 名保育士の実習を受け入れた。スタッフ全員で実習生に積極的に関わりながら、様々な知識経験が積み重なるよう育成を行った。来年度も引き続き次の世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材育成を担えるようにする。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
9月9日～24日	実践女子大学生活科学部生活文化学科	l人	責任実習

7. スタッフ研修

〈l〉施設内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	l0月	l l月	l2月	l月	2月	3月

コンピテンシー自己採点	15日 6名	2日 6名	5日 6名	3日 6名	1日 6名	2日 6名	2日 6名	1日 6名	4日 6名	8日 7名	1日 7名	3日 7名
エピペン研修												21日 6名
嘔吐研修				10日 6名				13日 6名				21日 6名
虐待防止研修	15日 6名						11日 6名					

〈2〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	19日 1名	21日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	20日 1名	19日 1名
全社員研修	11月に動画視聴にて実施（全スタッフ対象）											

〈3〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

近隣のお店や地域の方々との挨拶や清掃活動を通じて地域交流を深めることをテーマに実施した。お店での開店前準備等の職業体験を通じて、より地域とのつながりを深める活動を行い、さらに様々なお店や地域の方々との関係性を深化させていく。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育	月1回　　公園名：武蔵野中央公園にて　　参加延べ人数：71名

商店街ツアー	随時　買い物やウォークラリー等を通じて関係性を深める。
小学校探検	9月25日に武蔵野市内の小学校にて学校内探検を実施
教職員交流	6月25日・11月15日に武蔵野市内の小学校にて教員とスタッフとの交流会を実施

9. 医療機関・幼稚園・保育園・小学校との連携の計画

〈1〉今年度の振り返り

就学や就園および幼稚園・保育園等での子どもたちの姿をとらえて支援に活かすために定期的に所属園に複数回訪問した。また武蔵野どろんこ保育園や三鷹どろんこ保育園といった法人内系列園との定期的な混ざり合いや連携を通じて、保育や生活の場での支援や活動、子育てについてやり取りを行った。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
通年	該当児が通う幼稚園・保育園	原則1名	各幼稚園・保育園	行動観察 担当者と支援についての話し合い 必要に応じて個別支援計画書の変更
9月25日	武蔵野市立第三小学校	2名	武蔵野市立第三小学校	学校探検 副校長先生からのお話
6月13日 11月13日	武蔵野市立第一小学校	各日程1～2名	武蔵野市立第一小学校	小1の授業観察 休み時間・給食時の様子観察
6月24日 11月15日	武蔵野市立第一小学校	2名	武蔵野市立第一小学校	教職員間交流
不定期	三鷹どろんこ保育園 武蔵野どろんこ保育園	各回1～2名	三鷹どろんこ保育園 武蔵野どろんこ保育園つむぎ吉祥寺ルーム	行動観察 連携内容についての話し合い 畑仕事・散歩・焚火などの活動時の利用児との混ざり合い 子育て支援施設と利用児の混ざり合い

10. 個別支援計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

児童発達支援管理責任者が、保護者の意向、子どもの適性、特性を踏まえ、提供するサービスの適切な支援内容等について検討し作成した。おおよそ提示2ヶ月前に保護者へモニタリングを実施し、子どもの家庭や園での様子、保護者のニーズ等について把握し、1ヶ月前には児童発達支援管理責任者を中心とした策定会議を行い、多角的に子どもの発達をとらえ、適切な支援を考えた。
また子どもの成長や状況の変化等に柔軟に対応し、必要に応じて6ヶ月以下での個別支援計画の見直しと作成を行った。

〈2〉進級引継、および小学校への引継状況

10月頃より、保護者と相談の上、就学支援シートの作成を行った。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
10名	13名	9名	6名	2名	8名	9名	14名	11名	6名	11名	15名	114名

実施項目	詳細												
子育て相談	随時実施												
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00　にて実施												
青空保育	月1回　　公園名：武蔵野中央公園にて　以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	10名	10名	8名	3名	中止	6名	6名	10名	7名	3名	8名	10名	81名
おはなしの会	月1回　　実施場所：つむぎ吉祥寺ルームにて　以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	4名	4名	2名	2名	2名	2名	3名	2名	2名	0名	1名	4名	28名

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉施設による自己評価の実施

２０２４年５月３１日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：９時００分
自己評価終了時刻：１７時００分
自己評価実施者：森谷　太郎

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月15日
アンケート回収率：９８％

　スタッフ全員で利用者全員を把握し、受け入れられる体制の構築と、家族支援などを通じて保護者との相談体制を構築した。利用者アンケートでは子どもたち同士の関わりが成長につながっている、様々な経験からチャレンジしていく意欲が見られるようになった、などのご意見もいただき、大人も子どもも楽しんで活動しながら学び、育つことへの大切さを実感した。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告なし

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む）　0件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：発達支援つむぎ 吉祥寺ルーム施設長　石井　友貴

２０２４年度　発達支援つむぎ 阿佐ヶ谷ルーム
事業報告書
（発達支援つむぎにおける自己評価）

１．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

選ばれる施設を目指し、今年度は保護者支援に力を入れ、昨年よりも保護者座談会や保護者サロンの回数を増やしより多くの方に、保護者同士の繋がりや相談し合える場を提供することに努めた。

支援においては、支援を提供する場所を限定せず、子どもたちに必要な経験を踏まえ、地域開拓や支援内容の充実に力を入れた一年だった。デイサービスとの定期的な交流に加え、支援の一環として消防署や警察署、商店街の各店舗に協力をいただき、子どもたちの社会経験を広げる機会をつくることができた。

リスクマネジメントについては、事故やインシデントの全体の件数としては昨年より減っているものの、物的環境や職員配置の工夫で未然に防ぐことができたケースもあり課題が残った。次年度に向けて、引き続き様々な状況を想定し考えられる危険についてスタッフ同士で話し合いリスクヘッジすることで、子どもたちがより安全に過ごせるルーム運営を行っていく。

〈１〉支援内容の充実・質の向上

１	計画・ねらい	支援内容の充実
	実践結果	・今年度から新たに、近くのデイサービスとの連携を図り、夏から支援の中でデイサービスでの活動に子どもたちも参加させてもらった。年間で4回の訪問ができ、継続した交流を図ることができた。 ・消防署や警察署、商店街のケーキ屋、花屋、たい焼き屋、薬局に協力をいただき、子どもたちの社会経験を広げる機会をつくることに努めた。 ・子どもたちと一緒に畑カレンダーをつくり、スタッフだけでなく子どもと一緒に年間を通して継続した畑仕事を行うことができた。また、収穫した赤しそでジュース、しそおにぎりの調理や、じゃがいもでポテトチップスづくりを行った。また、焚き火体験では、じゃがバターやピザを自分で作って食べる活動を行い、調理工程や火の危険性を理解したうえで調理する大切さを知る機会を提供することができた。 ・年長児と一緒に就学予定の小学校に訪問し、オリジナルのビンゴカードを用いて小学校探検を実施した。 ・就学後の支援について、全スタッフが小学校の見学に行き、実際の授業風景や内容を確認した。また、卒園児の保護者を招いて同窓会を行い、様々な小学校の現状、担任の先生との連携方法や保護者の悩みを聞き、その情報をもとに、就学を見据えた支援や利用している保護者への助言や支援を行った。
	次年度方向性	・スタッフ間で、子どもとやってよかった支援内容についての共有を行い、スタッフ全員の支援の引き出しを増やしていく。 ・子どものアセスメント力を高めるために、グループに入っている子ども

		の策定会議の陪席を行い、子どもを多角的な視点で捉える力を身につけていく。
2	計画・ねらい	質の向上
	実践結果	・府中ルーム、吉祥寺ルームとのケース検討を年3回行い、スタッフ同士で学び合う機会を設けることができた。 ・杉並区主催の事例検討会にて事例発表を行い、他事業所からの様々な支援方法の提案をいただき、自ルームでの支援に活かすことができた。 ・保育の質を上げる会議に参加しているスタッフより、内容の共有とスタッフ全員で取り組む課題を設定し、支援において子どもの見立て方を学ぶことや、コンピテンシーを用いてルームの良さを伸ばしていくこと、弱点を強みに変えていけるよう努めた。 ・グループ支援では活動のねらいと予想される姿を事前に話し合い、グループ支援後にはスタッフ間で振り返りと次回の活動内容の話し合いも行い、質の高い支援を提供できるよう努めた。 ・インシデントが起こった後にも原因を追求し2回目が発生することがないよう全員で省みた。
	次年度方向性	・定期的なケース検討を行い、スタッフのアウトプットの場を設けると共に、スタッフ全員で多角的に支援の内容や子どもの見立てについて考える機会を設ける。 ・研修や文献で学んだ知識の共有を月1回必ず行う。 ・他ルームとのケース検討を年3回行い、他ルームに向けてのアウトプットの機会を増やす。また、他ルームの支援や子どもの見立てについて学び、自ルーム支援に活かしていく。

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者が安心して頼ることのできるルーム
	実践結果	・来所時は、担当スタッフ以外も声をかけ、どのスタッフにも相談しやすい雰囲気づくりに努めた。 ・保護者の要望があった際や、悩みを抱えていそうな保護者にはスタッフから事業所内相談支援を提案して場を設け、保護者の話を聴取し、子どもにとって必要な支援や関わりについてお伝えした。また、保護者の不安をキャッチし、一緒に子育てをするという意識で話を聞く時間を設けることで、保護者も安心して通えるルーム運営を目指した。 ・インシデントやヒヤリハットが起きた際には、起きた事柄を説明した上で謝罪を行い、次回来所時には必ずケガの確認と謝罪をすることを徹底することで、保護者の不安や不満の解消に繋がるように努めた。
	次年度方向性	・継続して全スタッフが子ども、保護者と面識をもつよう、日常的な支援として毎回のお出迎え・お見送り対応を丁寧に行う。 ・個別での相談支援だけでなく、集団での相談支援の一環として保護者サロンや対面で集まって話し合う機会を年に3回以上設ける。

2	計画・ねらい	保護者の学びとなる場の確立
	実践結果	・就学座談会を年3回、卒園児の同窓会を年1回実施し、保護者同士で交流する機会を提供することができた。 ・保護者サロンを年に2回開催し、保護者同士で子育てに関する悩みを共有する場を設けることができた。
	次年度方向性	・就学座談会、卒園児の同窓会は来年度も継続的に行っていく。 ・保護者同士で悩みを相談し合える保護者サロンの開催をより増やしていく。
3	計画・ねらい	相談支援の活用
	実践結果	・園訪問の実施後は保護者に内容を報告し、家庭やつむぎ、園での今後の対応方法について共有を行うことができた。 ・家族支援については月平均15件以上実施。園訪問以外でも適宜保護者が相談したいタイミングで、相談支援の実施をすることができた。
	次年度方向性	・保護者との信頼関係の構築に努め、いつでも相談しやすい環境づくりをする。 ・就学座談会、卒園児の同窓会は来年度も継続的に行っていく。 ・保護者同士で悩みを相談し合える保護者サロンの開催をより増やしていく。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	他事業所との連携、情報交換
	実践結果	・杉並区主催の情報交換会には必ず出席し、杉並区全体の児童発達支援の動向や他事業所の現状について知ることができた。 ・杉並区主催の事例検討会にて事例発表を行い、他事業所からの様々な支援方法の提案をいただき、自ルームでの支援に活かすことができた。
	次年度方向性	継続して他事業所との連携や情報交換をする場に出向いていく。
2	計画・ねらい	地域にむけた発信
	実践結果	・今年度から新たに、近くのデイサービスとの連携を図り、夏から支援の中でデイサービスでの活動に子どもたちも参加させてもらった。年間で4回の訪問ができ、継続した交流を図ることができた。 ・消防署や警察署、商店街のケーキ屋、花屋、たい焼き屋、薬局に協力をいただき、子どもたちの社会経験を広げる機会をつくることに努めた。 ・杉並区内の5校の小学校に見学に行き、小学校の先生や特別支援教室の先生と情報共有を行うことができた。 ・自ルームでの支援や取り組みを、ブログにて毎月発信することができた。 ・阿佐ヶ谷七夕祭りに向けてハリボテを作成し、商店街に作品の提出を行った。阿佐ヶ谷七夕祭り当日は、子どもたちと一緒にシールラリーを行いながら、阿佐ヶ谷ルームの作品を探す活動を行った。 ・成田図書館で行っているおはなし会に支援の一環で子どもと一緒に参加

		し、つむぎを知ってもらう機会をつくることができた。
	次年度方向性	・すでに繋がっている地域の商業施設やデイサービス、警察署との継続的な交流を増やしていく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

定期的にミーティングの時間を確保し、学び合いを深めていくことを継続する。学びの内容として、写真や動画を用いたケース検討や、多角的な視点から一人の子どもについての支援方法を検討する等、手法を用いたケース検討会議を実施していく。それぞれの専門性を高め、日々の支援の内容の振り返りに加え、児童発達支援ガイドライン、保育所保育指針などを読み解く時間としても活用する。また、継続して全職員が資格を超えて様々な研修に自主的に参加していく。

1	計画・ねらい	社会人としてのマナーを学ぶ
	実践結果	電話対応や契約時に必要な一般的な接遇やマナーについて、ルーム内で確認することができた。また、文章の書き方や言葉の使い方については、日々の文書作成の際に、必ず他のスタッフに目を通してもらってから施設長が最終確認を行うように徹底し、スタッフ間同士での意識の向上に努めた。
	次年度方向性	引き続き全スタッフが見学対応、電話対応、契約が行えるように定期的に学び合う機会やロールプレイングの場を設ける。
2	計画・ねらい	リスクマネジメントの徹底
	実践結果	毎月必ず、自ルームのヒヤリハットやインシデントについて全スタッフで振り返り、再発防止策の共有を行うことで、同じようなヒヤリハットやインシデントが起こらないように努めた。結果として、昨年度の事故・インシデント件数26件に対し、今年度は11件に減少させることができた。
	次年度方向性	スタッフによってリスクマネジメントのスキルに差があるため、ルーム会議の中で些細なヒヤリハットでも最悪の場合に想定される事故やケガについて考える機会を持つ。
3	計画・ねらい	時代の流れを知る
	実践予定内容	報酬改定により児童発達支援事業所としての在り方や算定基準が大きく変わったが、ルーム会議でこども家庭庁のQ&Aの共有や児童発達支援における5領域についての勉強会を行い、支援者として必要な知識の獲得ができるよう努めた。
	次年度方向性	自治体や他事業所との連携を取り、児童発達支援の役割やニーズの変化について知る機会を持つ。

〈5〉環境実施目標

小学校や法人外保育園の訪問に力を入れることのできた1年であったため、２０２３年度も継続して小学校への見学や教諭との情報交換、法人外保育園への訪問とケース検討に力を入れていく。また、家庭での生活で困りごとや悩みがある保護者には、家庭訪問を実施して具体的に家庭で取り組める支援方法を提案していく。

1	計画・ねらい	食の循環を知る
	実践結果	・ルーム内で苗づくりを行い、区民農園の畑に子どもたちと一緒に苗を植え、収穫まで追うことができた。また、収穫した赤しそでジュース、しそおにぎりの調理や、じゃがいもでポテトチップスづくりを行い、食への興味や食の循環について知る機会をつくることができた。
	次年度方向性	・苗づくり、収穫、加工の一連の流れを継続的に子どもたちと行い、食への意欲の向上を図っていく。
2	計画・ねらい	ISOを学ぶことで内部監査へ取り組む姿勢や日々の仕事効率化を図る。
	実践結果	ルーム会議にて、ISOについて学んだことをスタッフ間で共有し、日々の支援とどう繋がっていくのかを考える機会を持つことができた。
	次年度方向性	・環境目標についての理解を深め、支援に落とし込んでいく。

〈6〉“他人ごと”ではなく、“自分ごと”として物事を捉える

1	計画・ねらい	インシデントが起きた際に振り返りを実施する。
	実践結果	毎月必ず、自ルームのヒヤリハットやインシデントについて全スタッフで振り返り、再発防止策の共有を行うことで、同じようなヒヤリハットやインシデントが起こらないように努めた。結果として、昨年度の事故・インシデント件数26件に対し、今年度は11件に減少させることができた。
	次年度方向性	スタッフによってリスクマネジメントのスキルに差があるため、ルーム会議の中で些細なヒヤリハットでも最悪の場合に想定される事故やケガについて考える機会を持つ。
2	計画・ねらい	スタッフ同士の協力を強固なものにする。
	実践結果	日々の振り返りの中で、支援でうまくいったことや失敗したことを共有することで、スタッフ全員が子どもの全体像を把握することができるように努めた。また、業務量の偏りをなくすため、スタッフタスク管理表を用いて、それぞれのスタッフが抱えている業務の見える化を行った。
	次年度方向性	スタッフの適性を考えた業務分担を行い、それぞれのスタッフの強みを生かしたルーム運営を行っていく。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

児童発達支援　利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	178人	168人	198人	217人	223人	215人	235人	213人	221人	215人	216人	220人	2519人

登録児数	42人	45人	51人	55人	56人	56人	56人	56人	56人	57人	57人	57人	57人

〈2〉開所時間

9時00分～18時00分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

施設長1名
児童発達支援管理責任者1名
保育士2名
機能訓練担当2名（臨床心理士、言語聴覚士）
児童指導員2名

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
施設内会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・専門職による支援技術の共有 ・研究テーマ（造形、音楽、自然、食などを設け、資料を使った研修を行う。 ・つむぎ内外から講師を招いた研修を行う。
事故防止委員会	月1回	自ルームヒヤリハット、インシデント共有と対策の確認。 他園の事故共有と自園で気を付けるべきことの確認。
支援計画策定会議	適宜	・支援計画作成に伴い、開催時期を調整する。 ・個別支援・グループ支援それぞれの担当者と児童発達支援管理者が必ず参加する。

〈2〉出席した施設外会議（Web参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会／法人本部	月1回	施設長

児発管会議／法人本部	月1回	児発管
併設園会議／法人本部	年4回	施設長
食育会議／法人本部	年4回 （5.7.11.2月/5.8.11.2月）	施設長
保健会議／法人本部	年4回 （5.7.11.2月/5.8.11.2月）	施設長
子育ての質を上げる会議	月1回	スタッフ

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	嘔吐処理のフローの確認や、感染症についての対応フローを半期に1回ルーム会議にて確認を行っている。
防火管理者	月に1回避難訓練を実施し、子どもたちや保護者に協力を仰ぎ、実際に避難所まで歩く練習を実施している。
食品衛生管理係	月に1回冷蔵庫の食品の賞味期限の確認をしている。
畑係	月子どもたちと一緒に畑カレンダーをつくり、スタッフだけでなく子どもと一緒に年間を通して継続した畑仕事を行っている。
生き物係	エビとカブトムシの世話を実施。エビの餌やり当番表を設置し、子どもたちが主体的に生き物の世話できるようにしている。掃除表も新たに設置し、子どもたちと一緒に定期的な掃除の管理を行っていきたい。
体験学習係	1年に２～３回、全スタッフが順番に行う。今回は就労支援つむぎ武蔵野ルームでの職業体験やつむぎ目白ルームでの焚き火体験など、他ルームを巻き込んだ体験学習の企画・実施をおこなうことができた。

4. 支援・処遇

〈1〉保護者面談 および発達相談・児童の保護者への支援および意見要望への対応

親子グループ	・母体園以外でのコミュニティの場として、子どもも保護者も安心して活動できる支援を実施した。 ・スタッフや保護者とのふれあい遊びやリズム体操などのスキンシップを行う

	ことで情緒の安定や安全基地をつくること、基礎体力の基盤つくりを図った。 ・活動のねらいや目的、意図を丁寧に説明することや日々の子育ての悩み、不安に対する傾聴や助言を行うことで信頼を得られるよう努めた。 ・トイレトレーニングや母子分離を実施し、今後の生活で必要な身辺自立や親以外の信頼できる大人とのコミュニケーションを図ることに重きを置いた。 ・土に触れる畑仕事や絵具、氷遊び等を行い、実際に手や匂いで感じ、自然と混ざる楽しさを実体験で学んだ。
３～5歳児グループ	・新しい友達や環境で安心して自分らしく過ごせる支援を実施した。 ・異年齢で過ごし、年下の面倒を年上の子が見ることや年上の行っている活動を見て年下の子が真似してみるなど、普段の枠組みでは見ることのできない発見が多くみられた。 ・商店街にて買い物やスタンプラリーを実施したり、図書館や公園に行ったりすることで、自分の地域を知ることや地域の方々とのコミュニケーションを促した。 ・子どもたち同士の関わりを大切にし、見守る時間をつくることで子どもたちの力で問題解決ができるように進めた。保護者の方にも状況を説明し、詳しく起こった出来事を伝えることでどうして介入しなかったのか、なぜその場面では介入したのかを理解してもらい、安心できる場となるようにした。 ・保護者との面談や必ず全スタッフが挨拶することを心掛け、子どもをルーム全体で見ていることが伝わるよう配慮した。
個別支援・ペア支援	・興味関心のあるものを主体的に選択できるような活動を設定した。 ・保護者のニーズと子ども自身の様子、そしてスタッフの見立てを元に支援を実施。保護者のニーズが高い場合にはそこに向かうまでのスモールステップの方法を伝えるようにした。 ・個別支援をペア支援に替えることも行い、2人組ならではのやりとりの深さや同年齢の子とコミュニケーションを楽しめるように進めた。 ・「やってみたい」「嬉しい」「できた」などポジティブな経験を積み重ね、子どもの達成感や自信につながりやすい支援を目指した。
家族支援	4～3月まで　合計138件実施。　　（3月1日時点） ・園訪問後や検査後のフィードバック、家庭からの依頼、保護者座談会の実施。
関係機関との連携	4～3月まで　合計48件実施。　　（3月1日時点） ・保育園、幼稚園、こども園への園訪問の実施。 ・就学支援シートによる就学先の小学校への連携の実施。

〈2〉計画した年間行事の振返り

別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	食材や食の循環を認知する直接体験
	実践結果	収穫した赤しそでジュース、しそおにぎりの調理や、じゃがいもでポテトチップスづくりを行い、食への興味や食の循環について知る機会をつくることができた。
	次年度方向性	苗づくり、収穫、加工の一連の流れを継続的に子どもたちと行い、食への意欲の向上を図っていく。
2	計画・ねらい	保護者へ食に関する助言を行う
	実践結果	摂食嚥下に関する研修に参加し、スタッフの知見を深めることができた。また、支援の中でおやつやお弁当を持参いただき咀嚼や嚥下を見て食事評価を実施した。
	次年度方向性	咀嚼や嚥下に悩みがある保護者から話を聞き、適切な助言や支援を行っていく。必要に応じて、医療機関や専門機関に繋げていく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
流行した感染症	該当なし
発作・痙攣等の対応	該当なし
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月21日につむぎ阿佐ヶ谷ルームにてエピペン研修を計6名が新たに受講し習得済み。 ・本日時点で、在籍スタッフ7名のうち、5名が使用可能。
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	・7月1日に杉並消防署にて AED 研修を全スタッフが実施。 ・本日時点で、在籍スタッフ7名のうち、5名が使用可能
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回/15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み

	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
衛生管理	衛生管理点検表/毎日	毎日実施⇒実施していない日:日曜､祝日
	衛生管理点検表/毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日 日曜祝日
	衛生管理点検表/毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿/毎日	毎日実施⇒実施していない日 日曜､祝日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回/4･10月の施設内会議時 ⇒4月8日､10月13日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回/施設内会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月15日~9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	気持ちの良い環境つくり
	実践結果	カフェスペースにゴミが落ちているか確認すること、テーブルが汚れていた場合はすぐに拭き取ることを徹底した。製作物を飾る際には時期に合っているか常に考え、必要に応じて処分していた。
	次年度方向性	継続してカフェスペースが子ども、保護者が気持ちよく過ごせるように配慮していく。また、季節に合わせた製作物の掲示、子ども達自身に環境を考えてもらうことや整えてもらうことを視野に入れる。
2	計画・ねらい	戸外での療育の展開と発展
	実践結果	公園に行くことや図書館、商店街など戸外に行くことが増えた。しかし、ねらいを持って行うことはまだまだ難しい職員が多い。戸外に出ることはとても難易度の高いものと考える。
	次年度方向性	戸外に出ることで何がどう子どもにとってプラスに働くのか。見立てを保護者に説明できるようにする。果たして本当に戸外へ出ることが重要なのかを再度模索していく。

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	防災	非常災害に備えて消火設備などを点検するとともに、年間防災計画に沿って訓練を行い、避難経路や消防署への通報方法、災害緊急掲示板への書き込み方法の確認を行う。や関係機関・団体への通報及び連絡体制を確認する。また、避難訓練に子どもや保護者も参加してもらうことで、スタッフや利用者の防災に対する意識が高まるよう努める。

2	ケガ事故防止	支援の提供中に起きる事故やケガを防止するため、室内や屋外の環境の安全性について毎日点検する。また、月に一度全スタッフでルーム内の危険個所について見回りを行い、補修や破損した玩具の排除を行い、危険がない環境整備に努める。
3	不審者対策	外部からの不審者の侵入を含め、子どもが犯罪に巻き込まれないように事業所として防犯マニュアルを定期的に確認するとともに、年間計画に沿って不審者訓練を行い、対処法について全スタッフで適切な行動をとれるように努める。
4	光化学スモッグ	光化学スモッグが発令された際には戸外へ出ず、終了アナウンスを確認してから戸外に出るようにする。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

実習生やボランティアの来所がなかったため未実施。

7. スタッフ研修

〈1〉施設内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	1日 7名	1日 7名	3日 7名	1日 7名	1日 7名	2日 8名	1日 8名	1日 7名	2日 7名	1日 7名	3日 7名	3日 7名
ルーム研修	隔週 月曜 日 6名	隔週 月曜 日 6名	隔週 月曜 日 6名	隔週 月曜 日 6名	隔週 月曜 日 6名	隔週 月曜 日 7名	隔週 月曜 日 7名	隔週 月曜 日 6名	隔週 月曜 日 6名	隔週 月曜 日 6名	隔週 月曜 日 6名	隔週 月曜 日 6名

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
4月27日	一般社団法人ビジョンアセスメント教会	ビジョントレーニングとは？視機能とはなんだろう	2名	無
5月17日	杉並区要保護児童対策地域協議会	児童虐待対応基礎研修(乳幼児編)	2名	無

6月4日	杉並区こども発達センター	食べる機能を育むための支援講座	2名	無
7月1日	杉並消防署	応急訓練研修	6名	無
7月21日	杉並区こども発達センター	支援事例検討会	2名	無
7月28日	かわばた眼科・育視舎視覚発達支援センター	読み書きの困難さを抱える児童の評価と支援 合理的配慮の実際	3名	無
8月25日	一般社団法人ビジョンアセスメント教会	眼球運動の理解とビジョントレーニングの実践	2名	無
8月28日	杉並区こども発達センター	ことばやコミュニケーションの発達に寄り添う支援	1名	無
9月13日	杉並区こども発達センター	療育・保育現場で取り入れられる感覚統合の実践について	2名	無
10月31日～11月8日 ※配信期間	公益財団法人総合健康推進財団	児童発達支援管理責任者基礎研修	1名	有
11月5日	合同会社テラセル　療育のミカタ主催	支援プログラムの作成について	1名	無
11月5日	杉並区保健福祉障害者政策課児童支援係	第1回児童発達支援事業所情報交換会	1名	無
11月19日	杉並区要保護児童対策地域協議会	地域実務者会議	1名	無
11月27日	杉並区こども発達センター	子どもへの声かけQ&A	1名	無
12月12日～12月16日 ※配信期間	公益財団法人総合健康推進財団	児童発達支援管理責任者実践研修	1名	有
12月15日	杉並区こども発達センター	発達障害児支援講座実践報告会	1名	無
1月25日	三鷹市教育委員会	その子らしさを生かす子育て 発達障がいの理解と支援	1名	無
3月3日	杉並区保健福祉障害者政策課児童支援係	第2回児童発達支援事業所情報交換会	1名	無

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	21日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
リーダー養成研修	該当なし											
全社員研修	10月に動画視聴にて実施（全スタッフ対象）											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	該当なし											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施し、全スタッフの進捗状況の確認と目標達成に向けた具体的な取り組みについてフィードバックを行った。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

今年度から新たに、近くのデイサービスとの連携を図り、夏から支援の中でデイサービスでの活動に子どもたちも参加させてもらった。年間で4回の訪問ができ、継続した交流を図ることができた。また、消防署や警察署、商店街のケーキ屋、花屋、たい焼き屋、薬局に協力をいただき、子どもたちの社会経験を広げる機会をつくることに努めた。

その他の活動としては、昨年に引き続き、阿佐ヶ谷七夕祭りに向けてハリボテを作成し、商店街に作品の提出を行った。阿佐ヶ谷七夕祭り当日は、子どもたちと一緒にシールラリーを行いながら、阿佐ヶ谷ルームの作品を探す活動を行った。また、成田図書館で行っているおはなし会に支援の一環で子どもと一緒に参加するなど、新たな取り組みも行っている。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育	なし
商店街ツアー	月1回　主な行き先：ピーコック、HARMONICA、たい焼き屋、薬局、消防署、警察署。
世代間交流	なし

異年齢交流	つむぎ阿佐ヶ谷ルームにて毎月異年齢グループを実施。
その他活動	七夕祭りに向けてハリボテ作りを実施。 デイサービスとの交流を年4回実施。 成田図書館のおはなし会に利用児と一緒に参加。

9. 医療機関・幼稚園・保育園・小学校との連携の計画

〈1〉今年度の振り返り

小学校との連携については、計5校の小学校への見学・情報共有を行うことができた。また、支援学級の見学や学校公開には、利用児や利用児の保護者と一緒に行くことができた。幼稚園、保育園との連携については、利用児の園訪問に定期的に行くことができているため、継続していく。医療機関と直接的な関わりはないが、発達支援事業所として杉並区の地域交流研修会に参加することはできている。継続して、地域交流の一環として病院が主催している研修会に参加していけるように努める。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
5月14日	高円寺学園小学校	2名	授業見学	卒園児の見学・情報共有
6月5日	済美小学校	2名	授業見学	卒園児の見学・情報共有
7月1日	四宮小学校	1名	授業見学	特別支援学級の見学
7月11日	杉並第二小学校	2名	授業見学	卒園児の見学・情報共有
9月5日	浜田山小学校	2名	授業見学 特別支援教室の見学	国語の授業見学 特別支援教室見学

10. 個別支援計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

半年に1回は必ず更新することができている。また、保護者や園と連携を取り、必要に応じて園訪問を実施。訪問した際には、その都度個別支援計画書の見直し、作成を実施している。

〈2〉進級引継、および小学校への引継状況

次年度、通常級に通われるすべての利用児から就学支援シート（すばる）の依頼があり、2月末の時点で全員お渡しを完了している。

11. 子育て支援事業

実施項目	詳細
就学座談会	5月25日（土）15:00～16:00　⇒16名の保護者が参加。 7月27日（土）15:00～16:00　⇒11名の保護者が参加。 9月28日（土）15:00～16:00　⇒11名の保護者が参加。
保護者サロン	8月31日（土）15:00～16:00　⇒5名の保護者が参加。 10月25日（金）15:00～16:00　⇒5名の保護者が参加。 10月31日（木）15:00～16:00　⇒5名の保護者が参加。
卒園生同窓会	12月21日（土）14:00～15:00　⇒7名の卒園児とその保護者が参加。

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉施設による自己評価の実施

2024年4月15日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：9時00分
自己評価終了時刻：18時00分
自己評価実施者：田中　誠

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月15日
アンケート回収率：100%

（省察）自分の気持ちを言葉で伝えられるようになった、協調性が育っている、苦手な運動にも積極的にチャレンジするようになった、自信を持って楽しく過ごすことが増えた等、つむぎの支援を通して子どもの成長を実感しているというお声を多く頂いた。一方で、スタッフの支援力についてのご意見をいただいたため、来年度は、日々の振り返りや研修を通した支援の質の向上に加え、スタッフ育成にも力を入れていきたい。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

０件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

0件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年3月15日　　作成者：発達支援つむぎ 阿佐ヶ谷ルーム施設長　小坂　莉穂

２０２４年度　発達支援つむぎ駒沢ルーム
事業報告書
（発達支援つむぎにおける自己評価）

１．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

２０２４年度のつむぎ駒沢ルームでは、『子どもも大人も「全力で自然体」で居られるルーム』『駒沢ごとで考える』というテーマを大切に、活動を展開してきた。

受け入れを共に行うことで園、つむぎに捉われず関係を築くことや、行事や係りを共に担うなど深化があった１年となった。共に過ごすからこそ生まれる想いのすれ違いや、共有する難しさなど大変なこともあった１年だったが、その中でもスタッフが「駒沢ごと」としての意識を高く持ち、保育、支援にあたる姿勢が見られるようになり、併設園としては大きく前進ができた１年だったと考える。

２０２４年度の良かった点、さらに良くした方が良い点を振り返り、２０２５年度もさらなる駒沢としての深化を目指していきたいと考える。

〈１〉支援内容の充実・質の向上

１	計画・ねらい	【子どもの『やりたい』を叶えられる場所の提供】 子育てスローガンを達成する為に、子どもも大人も「やりたい」「やってみたい」気持ちを自由に表現できる場所にする。
	実践結果	公園の行き先マップを子どもたちと作成することができた。
	次年度方向性	引き続きマップを更新していき、行き先を子どもが選べるようにする。
２	計画・ねらい	【命をいただく活動の実践】 ・畑仕事を通して、自分たちで育て食すまで繋げていく。 ・生き物の世話を通して命を知る。
	実践結果	・全グループで畑仕事の実施できた。 ・調理活動を全グループ実施できた。
	次年度方向性	引き続き畑活動の充実を図る。

〈２〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

１	計画・ねらい	【他療育、園訪問の実施】 どろんこ会の活動を伝える。また、他機関と繋がりながら全員で子どもを育てる為に、他療育、園訪問の実施を行っていく。
	実践結果	園訪問：１０園実施

	次年度方向性	他療育との連携を深めていく。
2	計画・ねらい	【就学に向けての丁寧な保護者支援】 就学に向けての保護者の不安、疑問を少しでも軽減する。
	実践結果	・就学した先輩保護者を招き、既存の保護者に体験談を伝える機会を設けることができなかった。 ・新年度になったタイミングで就学相談の流れを保護者に共有した。
	次年度方向性	卒業生の保護者を招き、講座の場を設ける。
3	計画・ねらい	【接遇】 「どろんこ会を選んでよかった」と思われるよう、スタッフ、保護者への気持ちよい挨拶の徹底。
	実践結果	利用者アンケート結果で、4.5以上の満足度をいただくことができた。
	次年度方向性	引き続き、だれに対しても丁寧な対応を目指していく。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	【関係性の深化】 新規開拓を目指すのでは無く、現在繋がりがある施設とさらに深い関係性を目指す。
	実践結果	近隣施設とのイベント：年２回実施。
	次年度方向性	地域開拓係を設置し、新規開拓を目指していく。
2	計画・ねらい	【近隣施設をスタッフが知る、学ぶ、活かす】 ５歳児と１年生の年間連携計画を軸に、「生きる力」を具体化し小学校へ働き掛けていく為に小学校を知り、繋がる。
	実践結果	小学校見学：６校実施
	次年度方向性	引き続き小学校見学を実施していく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	【自分たちの思い、取り組みを次世代に繋いでいく】
	実践結果	・ケース検討会の実施達成。 ・マンスリー児の支援計画作成をつむぎスタッフ、園スタッフと共に作成。

	次年度方向性	・引き続き、支援計画作成やケース会議を共に実施していく。
2	計画・ねらい	【あなたならどうする～大人の主体性～(運営本部ｍｉｓｓｉｏｎより)】
	実践結果	・互いの個性や特技、苦手なことを補い合いながら支援にあたることができた。
	次年度方向性	・より良い支援について語り合える仲間を目指す。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	【『駒沢』としての気持ちの良い環境の提供】
	実践結果	・内部監査衛生面指摘０
	次年度方向性	・引き続き選ばれる園を目指していく。

〈6〉併設園としてのさらなる深化

1	計画・ねらい	【駒沢としてのインクルーシブのテーマの確定、実践】
	実践結果	・ケース会議への参加、月１回以上実施。
	次年度方向性	ケース会議に出るだけでなく、専門士としての視点をしっかりと伝えていく。
2	計画・ねらい	【つむぎからの発信】
	実践結果	・インクルーシブについての研修を実施。
	次年度方向性	・引き続き園と共にインクルーシブについての話し合いを実施していく。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

児童発達支援　利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	226人	234人	239人	240人	232人	226人	255人	229人	219人	222人	人	●●人	●●人
登録児数	40人	41人	40人	39人	41人	43人	42人	40人	38人	39人	●●人	●●人	●●人

稼働率を１１か月間９０％以上達成することができた。

〈2〉開所時間

８時３０分～１７時３０分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

施設長1名
児童発達支援管理責任者1名
保育士２名
機能訓練担当２名（臨床心理士２名）
児童指導員１名
その他指導員１名

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
施設内会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会
給食運営会議	月1回	議事内容の情報共有。
事故防止委員会	月1回	議事内容の情報共有。
支援計画策定会議	４１回	支援計画の見直しを実施。

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
児発管会議	月1回	児発管
併設園会議	年2回	施設長
食育会議	年4回 （5.8.11.2月）	施設長 調理スタッフ
保健会議	年4回 （5.8.11.2月）	施設長
子育ての質を上げる会議	月1回	スタッフ

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導
安全対策係	事業所内、または周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策 計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起
防火管理者	防災計画の立案、月１回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、近隣施設との連携の推進
畑係	ベランダのプランターの整備、計画的な活動の立案
生き物係	カブトムシの世話

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	駒沢どろんこ保育園や保護者と協働し、祭りを企画・実施

4．支援・処遇

〈Ｉ〉保護者面談 および発達相談・児童の保護者への支援および意見要望への対応

マンスリー	・8時30分の受け入れ開始。朝の職員の動きの確認。 ・「ジブンで歩く」ことや、食べることなどの「生活の中で必要な力」を育てる支援を実施。
キッズグループ	・やりたいこと、過ごした場所、人を自分で考え、自分で選ぶ支援の実施。
家族支援	4～3月まで　合計０名　が参加済み　　（3月Ｉ日時点）
保護者面談 発達相談	・事業所内相談Ｉ０件実施。
関係機関との連携	4～3月まで　合計Ｉ名　が参加済み　　（3月Ｉ日時点） ・世田谷区連絡会

〈2〉計画した年間行事の振返り

別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育に関する実践結果

Ｉ	計画・ねらい	【「食」を楽しいと感じる】
	実践結果	・友達と一緒に食す環境での実践。
	次年度方向性	・必要な食育を提供していく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
保健だより	毎月25日におたより配布
スタッフ健康診断	年Ｉ回実施
スタッフ検便	毎月Ｉ回（全スタッフ対象）
流行した感染症	特記なし。

発作・痙攣等の対応	使用無し
エピペン使用できるスタッフの状況	現在１名が使用可能。
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	・本日時点で、在籍スタッフ７名のうち、１名が使用可能
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底した。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回/15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（法定1回/3年）	無し
	フロン点検（簡易）	無し
衛生管理	衛生管理点検表/毎日	毎日実施
	衛生管理点検表/毎週	毎週金曜日実施
	衛生管理点検表/毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿/毎日	毎日実施
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回/4･10月の施設内会議時 ⇒4月12日、10月4日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回/施設内会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

l	計画・ねらい	【安全な環境】
	実践結果	毎月事故防止委員会を実施。
	次年度方向性	引き続き研修などを実施していく。

〈7〉手作り遊具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
l	看板	玄関	毎日	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

l	実践結果	法人の定める、マニュアルに則った行動の実施。
2	実践結果	安全対策係が中心になり、事故報告やインシデント、ヒヤリハットを分析し、再発防止に努めた。なお、個人の危機予測の力が高まるよう、子どもが遊んでいる写真などを用い、起こりうる事故やケガを協議した。
3	実践結果	防火管理者が中心となり、避難訓練・不審者進入訓練を行った。訓練の訓練 とならないよう、参加者が実際に起こりうるという意識を持ちながら参加 できるようにした。なお、全利用児が年に1回は訓練に参加できるようにし、有事に備えた。
4	実践結果	戸外活動の際に、気温の変化などに気を付けて支援を実施した。

6. 実習生・中高生の受入

〈l〉今年度の振返り

今年度受け入れることができなかった為、次年度は積極的に受け入れをしていきたい。

7．スタッフ研修

〈1〉施設内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	12日 6名	10日 6名	14日 6名	12日 6名	23日 6名	13日 6名	4日 6名	8日 6名	13日 6名	10日 6名	14日 6名	21日 6名

〈2〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	18日 1名	16日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	21日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	11月に動画視聴にて実施（全スタッフ対象）											

〈3〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8．地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

現関係が築けている公園管理事務所やコンビニなどと交流を深めた。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育	月1回　　公園名：深沢２丁目緑地にて　　参加延べ人数：０人
商店街ツアー	週1回　主な行き先：正和クラブ
世代間交流	３月６日に正和クラブにて音楽活動を実施
異年齢交流	実施無し

9. 医療機関・幼稚園・保育園・小学校との連携の計画

〈1〉今年度の振り返り

近隣小学校への見学を実施。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
9月24日	久我山青光小学校 1年	1名	久我山青光小学校	子ども間交流
11月21日	弦巻小学校 1年	1名	弦巻小学校	子ども間交流
12月4日	多聞小学校 1年	1名	多聞小学校	スタッフ間交流
1月14日	駒沢小学校 1年	1名	駒沢小学校	子ども間交流

10. 個別支援計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

・ルーム内会議の場でスタッフ全員が策定会議に参加。
・ケース会議に参加。

〈2〉進級引継、および小学校への引継状況

・就学支援シートの作製

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名

実施項目	詳細
施設開放	（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　来園延べ人数：0名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　⇒計0件相談実施済み

勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00　にて実施
ちきんえっぐだより	毎月1日発行

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審
今年度受審なし

〈2〉施設による自己評価の実施
２０２４年９月２７日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：９時００分
自己評価終了時刻：１０時００分
自己評価実施者：清水　郁、満永　友理

〈3〉利用者アンケートの実施
施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月15日
アンケート回収率：１００％

貴重な意見をいただくことができた。スタッフへ共有し、改善に努めた。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項
ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見
今年度ご意見無し

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）
報告すべきケガ（事故含む）　0件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：発達支援つむぎ 駒沢ルーム施設長　清水　郁

２０２４年度　発達支援つむぎ 目白ルーム
事業報告書
（発達支援つむぎにおける自己評価）

１．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

法人理念と2024年度運営本部ミッションに基づき、日々の日課・体験・環境を設定し、子どもの主体的な活動参加の中で、思考力・判断力・人間力・生活力が育まれるように支援してきた。

スタッフは「子どもが自己選択すべきこと」と「大人が伝えていくこと」を念頭におきながら計画的に環境設定を行い、「６つの力」を身に着けることや「10の姿の体得」を目指す支援を心掛けた。

様々な生き物と触れ合い、知り、食すことによって、食の循環や生命を尊重する心を育めるように支援を行うことができた。

質の高い子育て支援や最高品質の接遇を提供することで、「つむぎにきてよかった」「つむぎにまた行きたい」と思ってもらえるような施設を目指すことができた。

また、地域の未来を担う子どもたちが地域と共に成長できるように、近隣の学校、保育園、公共施設、福祉施設、寺など様々な人や場所と連携を取りながら、混ざり合い育ち合い学び合いのインクルージョンを実践することができた。

〈１〉支援内容の充実・質の向上

１	計画・ねらい	計画：日課・基本活動の徹底。 ねらい：どの年齢、どのグループ支援においても、さくらさくらんぼリズムや雑巾がけ、座禅などの日課を当たり前に実施し、継続して積み上げていく事で「強い心と体」の基盤を作っていく。
	実践結果	「強い心と体」を育てるべく心身の健康の基盤をつくるために、すべての年齢・すべてのグループ支援にて、日課を毎日当たり前に支援として取り入れることができた。
	次年度方向性	日課や基本活動をより丁寧に着実に実施し、「強い心と体」が育まれるように支援していく。
２	計画・ねらい	計画：自分で考えて動ける環境づくり。 ねらい：子ども一人ひとりが自分で考え、選択して動ける力（にんげん力）を付けるために、自己選択できる環境の中で、自分の意見を持ち、活動を考え、周りも巻き込みながら自分のやりたい事を選択できる仕組みづくりを行う。
	実践結果	やりたい事をやりたい時にやりたい人とやりたいだけ一緒に活動できる環境（自分で必要なものをいつでも自由に取り出せる環境）を設定し、自分で考えて選択・試行錯誤できる力を育むことができた。
	次年度方向性	引き続き、子どもが自ら選び取れる環境を整備し、思考力・判断力・人間力・生活力が育まれるように支援する。
３	計画・ねらい	計画：異年齢を主とした直接体験のグループ支援での育ちあい。 ねらい：①友だちとの協働②感情コントロール③目標の達成をトライアル

		＆エラーを繰り返しながら、子どもたちが育ちあいながら身につけていく。
	実践結果	ホンモノの経験ができる活動を通して、他者との関わり合いの中で、意見を共有し試行錯誤するグループ支援を行っている。
	次年度方向性	ホンモノの経験を軸に、協働性や道徳性・規範意識が育つように見守りながら支援にあたる。
4	計画・ねらい	計画：幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿を意識した支援と記録。 ねらい：幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿の視点から支援を考え、見守る支援を実践し、適宜ポートフォリオ等にて記録としてためていき、環境設定やスタッフが行う支援を更新していく。
	実践結果	スタッフは勉強会を通して、徹底的に幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿を学ぶことができた。実際の支援においても実践していき、幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿の育ちの検証と記録を積み重ねていくことができている。
	次年度方向性	10の姿の育ちを軸に支援にあたり、記録・考察・実行を繰り返すことで支援の質を高めていく。

〈２〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	計画：保護者同士や地域を繋げる場所になる。 ねらい：つむぎが保護者同士でつながる場、保護者と地域がつながる場になっていくために、ともに学び情報交換し、保護者もインクルージョンへ巻き込んでいく。
	実践結果	就学座談会や放課後等デイサービス座談会、保護者懇談会等で保護者同士のつながりを作ったり、社会福祉協議会などを中心に地域の方々を招待などしたりして縦も横も関係性を紡ぐ地域の子育て拠点づくりを目指して支援することができた。
	次年度方向性	座談会だけでなく、定期的にグループ内での保護者懇談会や卒園児の保護者との交流の場を設け、地域の子育て拠点を目指して実践していく。
2	計画・ねらい	計画：最高品質の接遇を目指していく。 ねらい：「つむぎって最高！」と常に感じられるような最高の接遇を心掛けていく。常に保護者の心に寄り添いながら、期待値を上回る保護者支援を目指す。
	実践結果	コンピテンシーに基づく最高品質の接遇と心に寄り添った支援を実践している。
	次年度方向性	現状の接遇を維持しながら、期待値を越える感動を提供できるように日々施設長・児童発達支援管理責任者・スタッフが研鑽をしていく。
3	計画・ねらい	計画：誰もが安心して一息つける空間にする。 ねらい：子育てに限らず、悩みがあって目白ルームに来ると、ホッと落ち着ける雰囲気にするために物的にも人的にも環境づくりをしていく。卒園してもまた来たくなる施設になる。

	実践結果	ほっと一息つけるカフェの物的・人的な環境づくりと、他者に安心感を与えられるような人材の育成をしている。
	次年度方向性	気軽に相談できる環境づくりを心掛け、人的な環境の向上も目指していく。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	計画：地域でのインクルージョンの実践。 ねらい：当たり前につむぎの子どもたちが街に溶け込んでいるようなインクルージョンが展開されることを目指していく。
	実践結果	池三商店街、椎名町商店街、目白図書館、近隣の区立公園、保育園、福祉施設などの地域資源を利用することだけではなく、共に活動を考えて実践していけるような活用をして地域と共に子育てを行うことができた。
	次年度方向性	皆が混ざり合いながら生きる力を獲得するためのインクルージョンを考え、アクションプランを立て、実践していく。
2	計画・ねらい	計画：気軽に相談できる拠点として認められる。 ねらい：「いつ」「どこで」「だれでも」気軽に相談できる地域の拠点になる。地域の方々に、特別な場所で特別なことをしているのではないと伝えられる環境や関係を築く。
	実践結果	図書館や自治会の掲示板などに目白ルームの活動の様子を掲示してもらったり、地域の方をカフェに招待したりして、特別な場所で特別なことをしているのではないと伝えられる環境や関係を築けている。また、地域の方の居場所としてのカフェづくりを目指して
	次年度方向性	つむぎ目白ルームの認知を広め、誰しもが気軽に相談できる場所として知られることで、困っている保護者の相談先として機能させていく
3	計画・ねらい	計画：ホンモノの経験ができる場所として地域の方々にも認知される。 ねらい：施設内やつむぎ利用児にとどまらず、地域の人たちと共に活動を展開させることで、目白ルームが火・水・土などホンモノの経験ができる場所として認知されるようにアウトリーチを進めていく。
	実践結果	近隣の保育園、福祉施設などと一緒に活動を展開することで、つむぎの良さを知ってもらい、地域に認められるルームになるよう取り組んできた。
	次年度方向性	ホンモノの経験ができる場所としての認知度をさらに高め、ワークショップや福祉施設・近隣園との交流などのアウトリーチを増やしていく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	計画：スタッフの「にんげん力。」のさらなる向上。 ねらい：経験をその場だけの出来事と捉えるのではなく、未来の経験や成長に繋がるものとして捉え、子どもたちの「にんげん力。」の向上につなげていけるような環境を常に考えることのできるスタッフの育成をしていく。
	実践結果	大人が背中を見せることを意識し、スタッフがまず経験する・学ぶ、という事を徹底してきた。

	次年度方向性	大人も気軽に挑戦できる環境づくりを行い、学びや経験を積み重ね、スタッフの「にんげん力。」も向上させていく。
2	計画・ねらい	計画：支援を楽しめる、好奇心やチャレンジ意欲をもったスタッフの育成。 ねらい：「楽しくなければつむぎじゃない」を根底に置き、子ども一人ひとりの「ワクワク」「ドキドキ」を追い求めていくことができるスタッフの育成をしていく。
	実践結果	園長大学®保育士大学をはじめとした研修の受講やスタッフがチームで支援内容を考えていけるようなチームビルディングの構築を目指してきた。
	次年度方向性	「どのようにしたら子どもがワクワク、ドキドキするか」を大人も試行錯誤しながら考え、実際に実行に移せるスタッフの人材育成を行っていく。
3	計画・ねらい	計画：機会を排除しないスタッフの育成。 ねらい：「危ないから子どもにやらせない」「子どもにはまだはやい」と安易に決めつけるのではなく、「どのようにすればよいか」という思考を持てるスタッフの育成。
	実践結果	園長大学®保育士大学によるリスクマネジメント研修の受講とルーム内研修、OJT 研修の実施を行った。
	次年度方向性	安全管理について研修やロールプレイなどを通して学び、再確認しながら子どもたちの「やりたい」気持ちを大事にしていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	計画：食の循環、環境への意識を育む ねらい：畑仕事や食材加工、生き物の世話などを通して食の循環や環境への意識を高めていく。
	実践結果	自園で育てた食材を使用した調理活動や生き物の世話などを通した環境教育を行うことができた。
	次年度方向性	引き続き畑仕事を通して、食の循環や自然のサイクルについて学べるように支援していく。
2	計画・ねらい	計画：園庭をはじめとした植樹などにおける木陰づくり ねらい：省エネ、省電力、カーボンニュートラルなどを理解するためのきっかけづくりを行う。
	実践結果	植栽はできたが植樹を実施すること出来なかった。
	次年度方向性	植樹や植栽をより充実させ、多くの子どもたちが関わることで、「自分たちが」という主体性に繋げていく。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

児童発達支援　利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	180人	184人	194人	176人	187人	188人	200人	198人	198人	210人	200人	200人	2315人
登録児数	46人	47人	49人	48人	50人	55人	56人	56人	57人	58人	61人	62人	62人

〈2〉開所時間

9時00分～18時00分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

施設長1名
児童発達支援管理責任者1名
保育士1名
機能訓練担当2名（作業療法士1名、理学療法士1名）

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
施設内会議	月1回120分	・専門士による支援技術の共有 ・研究テーマ（造形、音楽、自然、食などを設け、資料を使った研修を実施。 ・園長大学®保育園大学を活用し研修を実施。
給食運営会議	月1回	該当なし
事故防止委員会	月1回	自園や他園のヒヤリハット、インシデント、事故記録簿の検証を実施。
支援計画策定会議	適宜	・支援計画作成に伴い、開催時期を調整する。

		・個別支援・グループ支援それぞれの担当者と児 童発達支援管理者が必ず参加。
共有会議	月1回	グループ活動や子育ての質会議の共有。

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
児発管会議	年3回	児童発達支援管理責任者
食育会議	年4回	施設長
保健会議	年4回	施設長
子育ての質を上げる会議	月1回	児童発達支援管理責任者

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導
安全対策係	事業所内、または周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策 計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起
防火管理者	防災計画の立案、月2回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、近隣施設との連携の推進
食品衛生責任者	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食品サンプルの管理
畑係	園庭のプランター・樹木の整備、計画的な活動の立案
生き物係	めだかやドジョウ、ざりがに、金魚などの飼育管理、ビオトープの管理、動物や植物に触れる機会の検討立案
衛生管理係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察

アトリエ係	メジロックとのアート活動の窓口、交流活動の推進
異世代交流・目白協和会係	地域活動の窓口、各種地域行事の参加推進

4. 支援・処遇

〈1〉保護者面談 および発達相談・児童の保護者への支援および意見要望への対応

異年齢グループ	・日課・基本活動の実践 ・自分の気持ちを表現して楽しい気持ちを共有する ・友だちとのやり取りを楽しむ ・みんなで協力してひとつの事をやり遂げる ・人とのかかわりの場所を広げ、食の循環や環境への意識を高める ・異年齢ならではの育ちあいを経験する
親子グループ	・日課・基本活動の実践 ・つむぎが安心できる場所となるよう、保護者や友だちと一緒に楽しみながら活動する ・体づくりを中心に親子のかかわり、友だちとのかかわりを様々な場面で経験する ・楽しい場所に、いつもの友だちが来ているという安心感からお互いを意識しやり取りが増える ・保護者と離れても安心して活動に参加できる
個別支援	・それぞれにあったペースで活動をおこなう ・同じ時間に活動している友だちと場を共有したり一緒に活動したりする ・好きな活動を子どもが自分で選ぶ
家族支援	4～3月まで　合計4名　が参加済み　　（3月1日時点） ・随時、希望者に対し行った
保護者面談 発達相談	・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
関係機関との連携	4～3月まで　合計27名　が参加済み　　（3月1日時点） ・就学や就園に関する各関係機関との連絡調整を実施した。 ・保育園・幼稚園等と連携し、自施設における支援内容の調整を行った。 ・他事業所と連携会議を行った。

〈2〉計画した年間行事の振返り

別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	計画：自分で育てて自分で食べる。ねらい：種や苗を植えるところから収穫・調理までを経験すると同時に収穫した野菜から種を得ることを知る。
	実践結果	畑で土に触れ野菜の栽培を行った。日々の水やりなどの仕事を子どもたち自身が行い、自分で育てた野菜を自分で調理して食べることができた。
	次年度方向性	自分で育てて、自分で収穫・調理・加工をする経験を積み重ねることで食の循環について体験を通して学んでいく。
2	計画・ねらい	計画：食を通して様々な“楽しい”を経験する。ねらい：様々な形での食を楽しむ。
	実践結果	季節の食材を味わい行事に即した調理や加工（梅干し・夏野菜カレー・味噌・野菜出汁・漬物・干し椎茸）を経験する。
	次年度方向性	楽しみながら、実体験を通して、食の循環や食への意欲向上を図っていく。
3	計画・ねらい	計画：子どもと一緒に大人も食べる。ねらい：保護者やスタッフと一緒に食べることで、「ともに生きる＝食べること」についての意識を高め、どろんこ会の食育の観点が日々の生活に般化されることをめざす。
	実践結果	調理活動にてスタッフや保護者が率先して食べてみる。感想を共有し、様々な感情表出を促していく。
	次年度方向性	引き続き、大人が背中を見せながら食育活動に取り組んでいく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
流行した感染症	新型コロナウイルス・インフルエンザA型感染報告あり
発作・痙攣等の対応	対応例なし
エピペン使用できるスタッフの状況	本日時点で、在籍スタッフ5名のうち、5名が使用可能
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。 感染症発生の場合は速やかに本部に報告し感染拡大防止の対策を強化する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回/15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
衛生管理	衛生管理点検表/毎日	毎日実施
	衛生管理点検表/毎週	毎週金曜日実施
	衛生管理点検表/毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿/毎日	毎日実施
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回/4･10月の施設内会議時 ⇒4月10日､10月9日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回/施設内会議冒頭10分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	計画：室内・室外ともに自分で考えて、自分で選択する環境づくり。 ねらい：自分で考え、行動できるようになるために環境設定を行う。
	実践結果	自分で考え、行動できるようになるため、支援の内容や順番は大人が決めず、子どもがやりたい事をやりたい時にやりたいだけ自分で選択できるように設定。自らが選んだやりたいことに集中して取り組めている状況を作れるように環境の見直しを行ってきた。
	次年度方向性	自分だけでなく、他者も巻き込みながら意見をぶつけ合ったり協働して遊んだりできる環境を作っていく。
2	計画・ねらい	計画：みんなで考え、話し合い、自分たちで決めていく力を育てる。 ねらい：自ら行動する力を育てるとともに、友だちと試行錯誤しながら活動を展開できるようにする。
	実践結果	決まりきったルールにはめるのではなく、子どもたちがルールを決めたり、選択をしたりするなど、子ども主導の活動を当たり前に行うことができた。
	次年度方向性	道徳性・規範意識が育つように、子どもたち自身でぶつかり合いながら集団のルールや意思決定ができるように環境を整えていく。

3	計画・ねらい	計画：身近な生き物を通して生死が感じられる環境。 ねらい：生き物にとって良い飼育環境はどんなものかを考えたり、調べたりして、飼育物を自分の仲間のように身近に感じる。生き物へのより深い興味や理解、愛着が生まれ、生死に向き合うきっかけとする。
	実践結果	生き物の飼育を通し、ただ可愛がるだけではなく、命を育む活動として、全ての世話を子どもたちと共に行うことができた。
	次年度方向性	生き物にとっての快適な飼育環境を考えたり調べたり、エサやりや掃除当番など子どもたちが自ら主体的に生き物にかかわり愛着が持てるように、環境を調整していく。大人も生き物飼育の知識を深めていく。

〈7〉手作り遊具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
I	なし			

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

I	実践結果	緊急時における対応について「緊急時対応マニュアル」に従い、全スタッフが対応を理解し、それぞれが役割を実行できるように訓練した。
2	実践結果	非常災害に備えて消火設備等の点検をするとともに年間防災計画に沿って訓練を実施し、避難方法や関係機関・団体への通報及び連絡体制を確認した。また、それらを定期的に保護者へ周知する。特性ごとの災害対応についても理解した。
3	実践結果	不必要なケガや事故を防止するために、室内や屋外のハザードマップの作成と定期的な見直しを行った。他園で起きたものも含め、ヒヤリハットやインシデント、事故記録簿をスタッフ間で共有し改善策を出し合った。
4	実践結果	外部からの不審者の侵入など、子どもが犯罪に巻き込まれないように事業所としての防犯マニュアルを定期的に確認するとともに関係機関、団体と連携して見守り活動や防犯にかかわる安全確保への取り組みを行った。

6. 実習生・中高生の受入

〈I〉今年度の振返り

今年度は受け入れがなかったが、引き続き積極的に受け入れる体制をつくり、次の世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材育成を担えるようにする。

7. スタッフ研修

〈1〉施設内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	10日 6名	8日 6名	5日 6名	3日 6名	7日 6名	4日 6名	2日 6名	6日 6名	4日 6名	8日 6名	5日 6名	5日 5名
園内研修	10日 6名	2日 6名	12日 6名	10日 6名	14日 6名	11日 6名	9日 6名	13日 6名	4日 6名	8日 6名	5日 6名	12日 5名

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
10月31日～12月17日	公益財団法人総合健康推進財団	児童発達支援管理責任者基礎研修	1名	有

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	19日 1名	21日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	20日 1名	19日 1名
全社員研修	11月に動画視聴にて実施（全スタッフ対象）											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

地域の様々な人や施設と連携を図り、交流の方法を探るとともに合同活動の実現へつなげる取り組みを実施した。

商店街やギャラリーと協力し、つむぎが地域の一員になるような企画・運営を行った。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育	月1回　　公園名：上がり屋敷公園にて
商店街ツアー	適宜　主な行先：椎名町商店街、大山商店街など
世代間交流	9月9日にカフェらるごにて異世代交流を実施
異年齢交流	10月30日に上がり屋敷公園にて小学生交流を実施
その他活動	毎月第4水曜日に福祉作業所でのアートコラボ活動

9. 医療機関・幼稚園・保育園・小学校との連携の計画

〈1〉今年度の振り返り

区内の学校説明会、学校公開に関しての情報を適宜収集し、できる限りの参加を試み、実際の小学生たちの姿を見ることで就学後の姿を見据えた支援を目指していく。幼少接続プログラムを意識し、所属園を積極的に訪問し、生活に根付いた支援、就学を見据えた連携について模索し、考えていく。

また、相談支援事業所、併用事業所を見学し、連携を図るとともに、子ども家庭支援センター、発達支援センターとの連携を強化し、適切な支援について多角的に考えて行く。そして、近隣の発達に関する医療機関についても学び、必要なときに情報提供できるようにしていく。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
10月31日	池袋小学校 1年生	2名	上がり屋敷公園	子ども間交流
10月31日	池袋本町小学校 1年生	1名	上がり屋敷公園	子ども間交流
11月7日	王子特別支援学校	1名	王子特別支援学校	スタッフ間交流

10. 個別支援計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

６ヶ月に一度以上個別支援計画の作成を行い、子どもの状態や家庭状況などの変化に合わせて支援の見直しも行っている。

提示の2ヶ月前に保護者にモニタリングを実施し、子どもの家庭や園での様子、保護者のニーズなどについて適切に把握。1ヶ月前に児童発達支援管理責任者を中心とした策定会議を行い、５領域の視点で子どもの発達を捉え、適切な支援を考えることができていた。

所属園に訪問し、担任らと共に支援に対する共通理解を持つための策定会議を行った場合は、速やかに支援計画の書き換えを行い、園訪問での話し合いをもとにした支援内容を書き加え、保護者に提示している。

〈2〉進級引継、および小学校への引継状況

就学支援シートを活用し、小学校への引継ぎを行っている。当施設での子どもの様子、提供した支援内容、必要と思われる配慮事項などを伝えている。また、子どもの発達過程を踏まえ「できること」「得意なこと」などを積極的に伝え、進級先および小学校での今後の見通しとなるような引継ぎを行っている。

11. 子育て支援事業

実施項目	詳細
就学座談会	4月22日～25日（月～金）15:10～16:00 2月22日（土）15:30～17:00
保護者サロン	6月29日（土）14:00～15:30 8月30日（土）14:00～15:30 11月30日（土）14:00～15:30
保護者向け講座	5月29日（水）10:00～11:30 11月2日（土）10:30～11:30
卒園生同窓会	8月31日（土）14:00～15:30

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉施設による自己評価の実施

２０２４年８月２日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：９時３０分
自己評価終了時刻：１８時００分
自己評価実施者：平石友理、元住野花、櫻田幸乃

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月１５日
アンケート回収率：１００％

今年度はアンケート回収率100%を達成することができた。「すごい体験、素敵な出会い、自分らしくいられる場所」という施設目標の元、質の高い体験型の支援や地域とのつながりを心掛けてきた。保護者対応についても随時スタッフ間で情報共有を行い、対応力向上に努めた。利用者アンケートでは、様々なイベントや家ではできないような体験を経験し成長を感じられたとのご意見もいただくことができた。今後も、大人も子どもも楽しみながら自分らしく活動に取り組めるよう支援していきたい。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見　0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む）　0件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：発達支援つむぎ 目白ルーム施設長　平石　友理

２０２４年度　発達支援つむぎ ふじみ野ルーム
事業報告書

１．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

保育園に併設された児童発達支援事業所としてインクルーシブ保育の実践を行う中、更に混ざり合い、関わり合いをしていくための人的環境、物的環境を考え、実践し、改善し新たに実践することを強化した年であった。
現状の子どもの姿から読み取りどんな活動を取り入れていくか、どんな支援が必要か、どんなねらいを持ち参加していけると良いかをスタッフが同じ方向性でいけるよう努めてきたが、話し合いの抽出や話し合う内容の選さが必要と感じている。
次年度は支援内容の質の向上を図るための、スタッフ育成を強化していく。また、児童発達支援の他に相談支援事業、保育所等訪問支援事業がある多機能型事業所としても更に切れ目のない支援を提供していける事業所として機能の充実化を図りたい。

〈１〉支援内容の充実・質の向上

１	計画・ねらい	計画：子どもの姿、状況からの計画を立てる ねらい：「どう参加していくか」という子どもの姿を大切にし、子ども自身の持つ発達の可能性を高められるようにしていく
	実践結果	・マンスリーは子どもの情報共有を園と密に行っていき、ビジターは支援毎の振り返りをおこなった ・子どもの姿→読み取り→ねらい→環境構成・計画立て
	次年度方向性	・引き続き園との情報共有を適宜おこなっていくことと、ビジターは支援毎の振り返りより次週のねらいを立てていく
２	計画・ねらい	計画：支援の明確化を図る ねらい：支援内容の意図やどんな力や成長に繋がるかを明確化し、利用者の理解促進にも繋げる
	実践結果	・支援後都度のフィードバックを行い、懇談会や事業所内相談支援（Ⅰ）（Ⅱ）を利用し支援の様子を伝えてきた
	次年度方向性	・引き続き支援後都度のフィードバックを行うと共に、定期的に懇談会や事業所内相談支援（Ⅰ）（Ⅱ）を利用し、支援内容の意図やどんな力に繋がるかを明確に伝える
３	計画・ねらい	計画：安心できる環境のもと１０の姿や生活力を育む ねらい：幼児期の育ちに大切な経験を積む
	実践結果	・遊びこめる環境を年間通して話し合い、改善を行った。目の前の子どもの興味関心を広げる環境の構築には更に改善を重ねていく必要がある
	次年度方向性	・個々の支援計画を作成する際に個々に応じた１０の姿を獲得していくために必要な活動や支援を入れていく

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	計画：事業所内相談支援の充実 ねらい：個別に相談できる場を設ける、同じグループ保護者間で学び合う時間や家庭でも行える支援を学ぶ機会を設けることで、支援のねらいの共通理解を図ると共に、保護者同士が交流できる場を提供することで、横の繋がりを作り、保護者自身が安心して相談できる人間関係を築いていけるような環境の構築を行う
	実践結果	・事業所内相談支援（Ⅰ）（Ⅱ）の周知、お話会、勉強会、リフレッシュ企画等を開催 ・個別相談は随時受付、実施を行った
	次年度方向性	・引き続き保護者支援の企画開催を行う。また、個別相談は広く周知することでいつでも相談をすることのできる環境を図る
2	計画・ねらい	計画：関係機関との連携 ねらい：関係機関との連携を図ることで共通理解を得て相乗効果を図る
	実践結果	・保護者の同意のもと、所属園への訪問、就学先への就学支援シートの作成及び情報共有を行った ・自治体会議への出席、サービス担当者会議への参加を行った
	次年度方向性	・引き続き、関係機関との情報共有や自治体との連携を行う
3	計画・ねらい	計画：保護者の気持ちに寄り添った接遇を行う ねらい：保護者の不安や悩みに早期に気付く視線をもつ
	実践結果	・フィードバックは都度行い、子どもの様子や育ち、行った支援がどんな姿につながるかを伝えてきた ・コミュニケーション強化を図ることで、保護者の不安や悩みに早期に気付けるようにした
	次年度方向性	・小さな成長も共有していくことで、小さな悩みにも気付けるよう日々コミュニケーションを大切にしていく

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	計画：ちきんえっぐ、相談支援つむぎとの合同企画の開催 ねらい：地域の方が気軽に来られる場所となり、つむぎが行う支援の周知や相談場所、情報提供の場所となることで「地域に開かれた子育て支援」を目指す
	実践結果	・相談会、勉強会、交流会の開催を行った ・就学に向けての話について先輩保護者を招いて行った
	次年度方向性	・相談会や勉強会、交流会の機会を増やす ・引き続き就学に向けての内容を周知する機会を設ける
2	計画・ねらい	計画：支援室を利用する方への発達相談の機会の提供 ねらい：支援室と連携し子育てや発達の相談の窓口となる
	実践結果	・随時受付を行う 日頃から事務所廊下の窓をオープンにし気軽に声を掛けやすい雰囲気作りを行った

	次年度方向性	・子育て支援員との連携を図り、情報共有することで相談等の希望があった際にはすぐに対応できるようにする
3	計画・ねらい	計画：支援内容の発信 、発達支援情報の発信 ねらい：行っている支援の発信を行い、認知度を上げ地域の子育て力の向上を図る
	実践結果	・ちきんえっぐ、つむぎカフェ、園の保護者の方々の見えるスペースに活動内容を掲示し、ブログの発信を行った ・つむぎのパンフレットを関係機関 に配架、定期的に訪問し自治体からの情報の更新を行った
	次年度方向性	引き続き支援内容の発信、発達支援情報の発信を行っていく

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

I	計画・ねらい	計画：スタッフ勉強会 ねらい：学びの発信を各スタッフ自らに待っていくことで、チームの一員として自分の得意分野を発信することで、存在意義を高める
	実践結果	・つむぎ会議時にルーム内勉強会を開催した ・テーマを検討しての勉強会は園会議時に行った
	次年度方向性	・園会議時に勉強会の時間を設けことで園スタッフと共に学ぶ機会を設けていく
2	計画・ねらい	計画：子どもの姿から保育、支援を展開できるスタッフ育成 ねらい：保育や支援を通してやりがいを感じられるようにすることで、学ぶ意欲を高められるようにする
	実践結果	・業務の見える化、動きの見える化を図ることで業務効率を上げ、話し合える時間を抽出した ・子どもの姿や様子をスタッフ間で話す時間を設けてきた
	次年度方向性	・支援の振り返りを行い、子どもの姿を多面的に捉えたうえでの支援を提供できるようにしていく
3	計画・ねらい	計画：施設内外のＯＪＴ ねらい：保育士の視点を学ぶ事や、他ルームの支援を経験することで自園の良さや、他園の良さ、自園に取り入れられる技術を学ぶ
	実践結果	・園とつむぎのスタッフ同士は未実施 ・他ルームから連携をもらった際に、他ルームでの支援方法等を互いに共有する機会を設けた
	次年度方向性	保育所等訪問支援に同行する機会を設けることで他園の保育、環境、支援に触れる

〈5〉環境実施目標

I	計画・ねらい	計画：園庭、室内の整理整頓を徹底する ねらい：子どもたちが自然と片付けの習慣が身につくような環境を整える

	実践結果	大人が片付けている姿勢を見せた。モノの場所は更に子どもたちが分かりやすいように検討していく必要あり
	次年度方向性	引き続きまずは大人が環境整備や整理整頓を意識して行うことで綺麗な環境が心地良いことを子どもたちに伝えていく
2	計画・ねらい	計画：廃材を利用しての遊びを充実化する ねらい：ゴミとするか、工夫することでゴミではなく再利用し遊びの資源とするか、身近な「遊び」という環境の中で子どもたち自身が主体的にできる SDGs を行う
	実践結果	空の容器や空箱をすぐに捨ててしまうのではなく、自由制作の際に子どもが自由に使用できるようにした
	次年度方向性	自由な発想を形にできる環境や、自分の作った物で遊ぶことができる環境を整備していく
3	計画・ねらい	計画：必要な物を揃える ねらい：必要な物を考え、揃え、管理する姿勢を皆が持つことで過ごしやすい環境を作る
	実践結果	定期的な環境点検を行うことで必要なものを揃えてきたが、更に子どもの姿から環境を構成しそのために必要なものを検討する必要あり
	次年度方向性	定期的な環境点検の他に、子どもの遊びが展開していけるよう目の前の子どもの姿をみて見直ししていく

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

児童発達支援　利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	201人	205人	189人	192人	223人	221人	235人	223人	196人	216人	205人	205人	2511人
登録児数	24人	24人	26人	27人	27人	28人	27人	27人	27人	27人	28人	28人	28人

（解説）マンスリー、ビジター

保育所等訪問支援　実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	14人	14人	15人	17人	17人	17人	18人	18人	18人	18人	18人	18人	202人

（解説）訪問支援員1名＋児童発達支援管理責任者による訪問日あり

相談支援事業　実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規	0人	0人	0人	1人	0人	0人	1人	3人	1人	0人	0人	0人	6人
継続	86人	80人	79人	80人	79人	80人	83人	84人	84人	84人	84人	84人	987人

（解説）・利用と継続の値については計画作成及びモニタリング報告書作成人数の累計
・発達支援つむぎと合同で就学に関するおはなし会を1回実施

〈2〉開所時間

８時３０分～１７時３０分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

施設長1名
児童発達支援管理責任者1名
保育士２名
児童指導員２名
その他、相談支援員１名、保育所等訪問支援員１名

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
施設内会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・次月の行事確認、内容検討共有 ・各係からの共有、検討事項話し合い ・研修計画に基づいた園内研修の実施コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会
給食運営会議	月1回	・食育活動実践報告、喫食状況確認、配膳方法等
事故防止委員会	月1回	・インシデント、事故記録簿、ヒヤリハットの共有 ・再発防止に向けた検証
支援計画策定会議	適宜	・支援計画作成に伴い、開催時期を調整する。 ・個別支援・グループ支援それぞれの担当者と児童発達支援

		管理者が必ず参加する。
ケース会議	1回	・子どもの様子、状況の共有、対応について ・つむぎと園との連携、情報共有と検討 ・支援の現状や課題について、またはグループ支援のあり方についてなど切り口を変えて様々なケースを題材にし、支援の検証をする。

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
児発管会議	月1回	児発管
併設園会議	年2回	施設長
食育会議	年4回 （5.8.11.2月）	施設長 調理スタッフ
保健会議	年4回 （5.8.11.2月）	施設長
子育ての質を上げる会議	月1回	スタッフ

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導
安全対策係	・事故防止委員会で月ごとのヒヤリハット、事故記録簿についての検討を行った ・保育の中での事例を園会議で取り上げ、スタッフの立ち位置や再発防止等ディスカッションを行い、危機管理意識を高めることができた
防火管理者	・保育園と協働で消防計画を作成し、自衛消防組織を編成した
食品衛生管理係	・つむぎカフェ内の調理場の安全衛生点検を行った ・調理活動時に使う食材の検食分の管理 ・つむぎカフェの冷蔵庫内の衛生管理

畑係	・保育園と協働で年間農業計画を作成したが植え付けと収穫のみとなった。水やりや草取りなど、育てていく過程の体験をもっとできるようにしていきたい
生き物係	・ヤギとニワトリの飼育のほか、フナやめだか他多数の生き物の飼育環境 や仕組みづくりを行った
体験学習係	・体験学習の企画・運営

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	保育園と共に計画・実行を行う
大井町市民祭り係	地域との連携・連絡窓口

4. 支援・処遇

〈1〉保護者面談 および発達相談・児童の保護者への支援および意見要望への対応

マンスリー	・マンスリーは月～金まで送迎時に保護者の方と話をする時間を設けており、何か相談や悩みがあった際は都度伺える体制を整えた。希望される保護者や必要とされる保護者に関しては、事業所内相談支援加算制度を利用し、 別途面談を設けた
ビジター	・毎回の支援後に振り返りの時間を設けて支援のねらいや子どもの様子の共有をおこなった。そこから更に個々の様子や相談があった際には担当スタッフ が相談をお受けすることができる環境を設けてきた。希望される保護者や必要とされる保護者に関しては、事業所内相談支援加算制度を利用し、別途面談を設けた
体験学習	・様々な経験ができるよう体験を実施し、保護者の方と共に過ごす時間の提供を行ってきた
保護者面談 発達相談	・支援の振り返りやカフェでのやり取り、上記「事業所内相談支援」において適宜相談を実施した
事業所内相談支援	4～3月まで　合計２３名　が参加済み　　（3月３１日時点） ・要望があった際は迅速にお受けし対応した ・できる旨を周知し相談したい時にすぐに対応できる旨をお伝えした ・日々の支援について、子どもの様子について話し合った ・就学・就園についての相談を行った

関係機関との連携	4～3月まで 合計４名 が参加済み （3月31日時点） ・保護者より園訪問の要望があった際は先方に了解を得て訪問を行った その際様子の共有を行い個別支援計画にも反映させた

〈２〉計画した年間行事の振返り

別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載

〈３〉給食・食育に関する実践結果

ｌ	計画・ねらい	計画：おいしく楽しく食事をする ねらい：食を通して、皆で食べることの楽しさを体験し、食を通してのコミュニケーションを図る
	実践結果	縁側給食を通して、季節を感じながら食べる場所の提供 自分の食べたい物を自分で配膳できる環境設定をおこなってきた
	次年度方向性	引き続き縁側給食にて季節の移り変わりを感じながらの楽しくおいしく食事する経験を積んでいく
2	計画・ねらい	計画：食の循環 ねらい：０からの食を学ぶことで食を通して学ぶ
	実践結果	畑で野菜を育て、収穫、調理、食す、加工品をつくり調理に使用する等 畑仕事、調理活動を活動の中に取り入れてきた
	次年度方向性	園と共に畑仕事を行い、自分たちが育てた野菜を使用して調理活動をおこなっていく
3	計画・ねらい	計画：空腹感を感じることで、食べる事に期待を持つ ねらい：食事の時間だから食べるのではなく、お腹がすいたことを感じ食に対する意欲を高められるようにする
	実践結果	日々の日課、散歩、園庭遊び、畑仕事、生き物の世話など８：３０からの活動に参加し、沢山体を動かす活動を行った
	次年度方向性	引き続き天気の良い日は戸外で活動を行う時間を十分にとっていくことで太陽の下で体を動かしお腹がすく経験を積む

〈４〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
スタッフ健康診断	年ｌ回実施
スタッフ検便	毎月ｌ回（全スタッフ対象）
エピペン使用できるスタッフの状況	７月園会議にてエピペン使用の際の研修を全スタッフが受講済み 在籍スタッフ全員が使用可能

その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底するなど各園で記載

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の施設内会議時 ⇒４月５日、10月4日に実施済み
運営管理	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間　実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	計画：園庭、室内の整理整頓を徹底する ねらい：子どもたちが自然と片付けの習慣が身につくような環境を整える
	実践結果	大人が片付けている姿勢を見せていく モノの場所が分かるようにすることで片づけやすい環境作りを行う
	次年度方向性	大人が片付ける姿勢を見せることに加えて、子どもが気付いて行えた際の行動を言葉にして感謝を伝えるようにした
2	計画・ねらい	計画：廃材を利用しての遊びを充実化する ねらい：ゴミとするか、工夫することでゴミではなく再利用し遊びの資源とするか、身近な「遊び」という環境の中で子どもたち自身が主体的にできる SDGs を行う

	実践結果	空の容器や空箱をすぐに捨ててしまうのではなく、自由制作の際に子どもが自由に使用できるようにする
	次年度方向性	空き箱は子どもたちが使用したいと発信があった際に使えるようにした。更に自由に使用できるような環境を作っていけるとよい
3	計画・ねらい	計画：必要な物を揃える ねらい：必要な物を考え、揃え、管理する姿勢を皆が持つことで過ごしやすい環境を作る
	実践結果	必要な物を揃える、定期的な環境点検 教材の見直しを適宜おこなっていく
	次年度方向性	環境点検は定期的におこなった。今後は更に共有物を皆が意識して整える姿勢が浸透していくと良い

〈7〉手作り遊具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	現在なし			
2				

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	防災対策	非常災害時の対策として、相貌計画に基づいた毎月の消防避難訓練、消火訓練の実施
2	通報訓練	Twitter を利用し、保護者との緊急連絡掲示板の使用訓練実施
3	ケガ事故防止	事故防止チェックリスト、設備点検チェックの実施 ケガ発生時、対応フローチャートに従い迅速に対応する ケガを未然に防ぐためにヒヤリハットの共有やインシデント発生時の検証 を行い見直ししていく
4	防犯	年2回の不審者侵入訓練実施 笛の所持、インターホンでの確認、地域と連携し安全・防犯への意識付け をしていく
5	光化学スモック	光化学スモックの知識を身につけ、市からの注意情報を把握する 久化学スモックが発令された際は窓を閉め、室内で過ごす

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

数日ごとに日替わりで実習生が変わっていくため、一人の実習期間は２日間と短いため児童発達支援事業所としての基本サービスと、つむぎの支援について理解できるよう開始前の説明の時間や振り

返りの時間を丁寧に行った。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
1月20日～2月6日	東京首都医校専門学校	6人	観察実習

7. スタッフ研修

〈1〉施設内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	5日 6名	10日 7名	7日 7名	5日 7名	9日 7名	6日 7名	4日 6名	8日 6名	6日 6名	8日 7名	21日 7名	2日 7名
虐待防止研修	5日 6名						4日 6名					

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
8月6日 ～9月28日	スマートキッズ株式会社	強度行動障害要請研修	4名	㊕or 無
11月28日	株式会社プログレ総合研究所	児童発達支援管理責任者実践研修	1名	㊕or 無

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	17日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	日 1名
施設長勉強会	18日 1名	16日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	16日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
全社員研修	月に動画視聴にて実施（全スタッフ対象）											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年１回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

併設園であるふじみ野どろんこ保育園と共に地域との関係を深め、地域に開かれた子育て支援事業所として、近隣園や近隣施設との交流の機会をもった。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育	月1回　　公園名：亀久保氏に公園にて
商店街ツアー	週1回　主な行き先：セブンイレブン、西消防署、文教大学院大学、ベルク、ステラウエスト、横山青果店、中島かまぼこ店、ビバホーム、大井鋼板、アポロ歯科　　等
世代間交流	11月２６日に「針仕事を教えてもらう」を実施した
異年齢交流	６月１８日に文教大学学生を招いて「学生と作って遊ぼう」を実施した
その他活動	異文化交流としてセネガル出身の保護者を招いて「セネガルを学ぼう」を実施した

9. 医療機関・幼稚園・保育園・小学校との連携の計画

〈1〉今年度の振り返り

小学校を訪問する機会がもてなかった為、小学校との密な情報交換や、子どもたちの小学校への期待感を膨らませることができなかった。小学校までのルートを散歩コースに入れる等、できる限りで日中の活動に取り入れた。次年度は更に小学校に触れる機会を提供できるよう計画立てをおこなっていく。

10. 個別支援計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

最長６カ月とし、個別支援計画の見直しを図るため、モニタリングを実施。環境及び日常生活全般

の状況に応じて適切な支援目標を設定し、支援内容を検討し個別支援計画を作成した

〈2〉進級引継、および小学校への引継状況

進級引継に於いては必要に応じ、保護者を介して幼稚園・保育園の保育者と園訪問や電話にて様子 の共有等、連携を実施する。小学校への引継としては、就学支援シートを保護者からの要望がある家 庭

11. 子育て支援事業

実施項目	詳細
施設開放	（月）～（土）9:30～16:30　にて実施
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　⇒随時実施
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00　にて実施
青空保育（支援センター主催	月1回 亀久保公園にて実施

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉施設による自己評価の実施

２０２４年９月１７日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：１３時００分
自己評価終了時刻：１３時４５分
自己評価実施者：施設長、児童発達支援管理責任者

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月15日
アンケート回収率：１００％

全体的に利用者から支持を得られた結果であった。特に支援の質において、子どもの興味関心に寄り添った支援が行われていること、いろいろな体験ができること、スタッフの丁寧な言葉掛けに対しての満足度が高かった。その一方で、保護者同士の交流の機会がもっと増えるとよいという意見があった。今後は保護者の声を拾いながら、不足していることへの改善を行い、利用者の満足度が向上するようルーム運営を目指していく

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見　0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む）　0件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：発達支援つむぎ ふじみ野ルーム施設長　佐藤　愛香

２０２４年度　発達支援つむぎ 池尻ルーム
事業報告書
（発達支援つむぎにおける自己評価）

Ⅰ．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

子どもたちが「好きなこと、得意なこと」を中心とした支援を基本方針として運営してきた。

つむぎでの経験が日常生活の中で活きていくように、より生活場面に近い形で散歩や戸外活動ができた。今年度は特に、食育に力を入れ、今年度初めて、近隣の和食調理専門学校と連携した。実際に魚を捌いている様子を見てから、調理した魚を食べる活動を通して、食の循環を学ぶ機会となった。

地域に対しては、体験学習で近隣住民との関わりを持つことで、より地域からの認知度を上げることができ、地域とつながりを継続させることができた。

スタッフ育成に関しては、スタッフ自身が主体的に「自分ならどうするか」という考えをもって、日々の支援に従事してきた。自ら研修に参加するスタッフや、近隣園との連携に積極的な姿勢を見せるスタッフがいた。

〈１〉支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	「子どもが主体的に活動する」 子どもが自分で選び行動することで、自己効力感を得る。その中で、失敗しても立ち直る気持ちや新しいことに挑戦する気持ちも育てていく。
	実践結果	子どもの好きな遊びを中心に、公園の行き先を自分で選び、何をして遊びたいか選べる環境を整えることができた。子どものやりたい気持ちをかなえられたため、公園でやりたい遊びを最後まで遊びこむ姿が見られた。
	次年度方向性	引き続き、子どもがやりたいことを中心とした支援を展開し、大人主導ではない自分で考えて行動することができる子育てをしていく。
2	計画・ねらい	「子ども同士の関わりを中心とした支援」 自分の気持ちや意見が相手に伝わる喜びを感じ、相手のことも受け入れられる思いやりの心を育てる。また、相手とは異なる意見のため、ぶつかる場面では葛藤を経験し、自制心を養う。
	実践結果	子どもから表出された素直な感情を受け入れることで、子ども同士での葛藤場面や遊びを共有する姿がたくさん見られた。スタッフは必要以上に介入しないことで、子ども同士の学び合いができるようにした。
	次年度方向性	スタッフの人数を調整し、子ども同士での遊びや関わりが増えるようにしていきたい。子どもが他者への関心が向くように、スタッフは言葉をかけるタイミングや必要性を考え、介入していきたい。
3	計画・ねらい	「子どもが様々なものを選択できる環境を設定する」 大人が子どもの経験を制限することなく、子どもの発達段階に合わせた環境を設定し、子ども自身が選ぶことで自ら関わり感じて表現できるようにする。
	実践結果	昨年度に引き続き、玩具を部屋に常設し、自由に選択できる環境を作った。新たに、製作活動が自由にできるような道具があるスペースを常設

		し、子どもが自分で選んで製作活動に取り組む姿が見られた。
	次年度方向性	道具を常設している状態に留まっているため、その場所でできる製作の見本を用意したり、遊びの幅が広がるような本や仕掛け作りをしたりしていきたい。
4	計画・ねらい	「10の姿、生活力の体得」 幼児期に必要な体つくりをしてケガをしない強い体の基盤作りをする。労働について学び、自制心を養うための感情コントロールの経験をする。
	実践結果	のこぎりを使う工作や焚火で火を扱う活動を通して、危険なものとの距離の取り方を学ぶ姿があった。生き物の世話やプランター栽培の役割を担うことで、自分の仕事を理解する機会を作った。
	次年度方向性	すべての活動が単発的なものになってしまった。それぞれの活動や与えられた役割が継続的になるように、日常的な支援に取り入れていきたい。
5	計画・ねらい	「命をいただく活動、調理活動を行う」 食の循環を知り、食への興味関心を高める。また、食べ物には命があることを知り、感謝の気持ちをもって食することができるようになる。
	実践結果	育てた作物を使った調理活動は実践でき、野菜が苦手な子どもでも、自分の手で作った野菜を食べることに挑戦ができた。 和食調理専門学校にて、魚の解体を見学し、魚を使った料理をその場で食する経験ができ、食の循環について学ぶ機会となった。
	次年度方向性	引き続き、和食調理専門学校と連携し、食の循環を学ぶ機会を作りたい。また、見学に留まらず、来訪してもらう機会を作ったり、子どもが生きている魚を捌いたりする経験につなげていきたい。

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	「保護者同士のつながりを作る」 同じ悩みを持った保護者と話したり、先輩ママとの繋がりができたりするような場を提供する。
	実践結果	就学に関する相談会を開催した。保護者同士の相談し合える場や卒所生の先輩保護者からのアドバイスが聞ける機会となった。保護者交流会の開催を予定したが、希望者が集まらず開催が見送りとなった。
	次年度方向性	保護者が抱えているニーズの把握をする。支援中に座談会を開催するなど、日常から保護者同士の繋がりを作れるような機会を提供したい。
2	計画・ねらい	「園や他事業所との連携や共通理解を図る」 所属園や他事業所との連携を図り、子どもにかかわる機関全体で子どもを支援できるようにする。
	実践結果	7件の園訪問を実施。訪問後にも電話でのやりとりにて情報共有を行うことができた。他事業所と繋がりをつくり、別事業所からのご紹介により、つむぎの利用に繋げることができた。
	次年度方向性	園訪問に関しては、希望者のみに留まらず、こちらからも積極的に園との連携を勧めていく。地区の事業所や近隣の施設とコンタクトを取ることで、紹介しやすい関係性を築いていきたい。

3	計画・ねらい	「カフェの充実」 保護者が日常から解放されてゆっくりと過ごすことができ、気持ちをリフレッシュできるような場所にする。
	実践結果	ソファの配置や書籍を見直したことで、保護者同士の会話が増え、過ごしやすい空間作りを実現できた。人数が多くなると、座ることができない保護者がいることがあった。
	次年度方向性	ソファの配置やカフェの内容を常に見直し、より過ごしやすい空間を作っていく。人数が多くなった際には、新しく椅子を用意したり、別の部屋をご案内したりするようにしていく。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	「外部へつむぎの情報提供をする」 つむぎを知ってもらう機会を作り、地域の方との関係性を構築する。
	実践結果	近隣のクリニックへパンフレットの配布を依頼し、掲示をしていただいた。地域の支援者会議や保育園訪問等でパンフレットを配布した。
	次年度方向性	実際にクリニックや近隣の事業所を訪問し、関係性を構築する。 ブログなどの発信を周知させ、活動内容を知ってもらえるようにしたい。
2	計画・ねらい	「子育て支援ネットワークを構築する」 地域全体で子育て支援の力を高められるようにする。
	実践結果	地区社会福祉協議会が開催する、支援者ネットワーク会議に参加し、顔の見える関係性を構築することができた。まちづくりセンターが主催する「まちなか作品展」のワークショップに運営側として参加することができた。
	次年度方向性	引き続き、社会福祉協議会やまちづくりセンターとの繋がりを維持し、イベントへの参加や企画運営を積極的に行っていきたい。
3	計画・ねらい	「青空保育を行う」 公園で過ごす地域の子どもたちと接し、発達相談へのきっかけ作りをする。
	実践結果	定期的に青空保育を開催することができた。参加された方とコミュニケーションをとることはできたが、発達相談までは至るケースがなかった。
	次年度方向性	開催場所や時間を再検討した上で、定期的に実施する。参加した地域の方に知ってもらえるような工夫を考える。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	「高い質の支援を提供できる」 戸外活動でのスタッフの関わり方や遊びの広げ方について、スタッフ同士共通見解を持ちながら支援の質を高めていく。
	実践結果	戸外活動の必要性については、各スタッフ話し合いながら理解を深めていくことができた。戸外活動で得られた学びを保護者にも納得される説明をすることが難しいと感じるスタッフがいた。

	次年度方向性	戸外活動で得られる学びを保護者や外部にも発信できるように、説明する力を身につけていく必要がある。そのために、スタッフ間で研修を行い、さまざまな意見交換や、伝え方の練習を実施する。
2	計画・ねらい	「発信力をつける」 自分の頭で考えて「自分ならどうするか」ということを他のスタッフに伝えられるようになる。
	実践結果	すべてのスタッフに会議の場で発言する機会を設け、自分の考えを相手に伝えることができていた。一方で、歴の長いスタッフに判断を委ねてしまう傾向があったため、「自分ならどうするか」という視点が足りていない場面もあった。
	次年度方向性	歴の長さにかかわらず、自分自身で判断ができるようになっていくために、他のスタッフから助言を受けつつ、自分の考えを発信し続けていく。
3	計画・ねらい	「保育所保育指針、児童発達支援ガイドラインに精通する」。 支援を提供する上で大切な考え方の基礎を身に付ける。
	実践結果	それぞれのスタッフが個人的に学ぶ機会は作っていたが、スタッフ同士で共有する時間を設けることができなかった。
	次年度方向性	他のスタッフに自分が得た学びを共有する時間を作り、園全体のスキル向上を目指す。月ごとに研修担当者を決め、担当を中心として学びを深める機会を作っていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	「木に親しむ」 身近な自然のものを取り入れて、有効活用しながら日常の中で限りある資源について触れるようにする。
	実践結果	長崎建材店で加工前の木材を触る機会をいただき、木に親しむ活動を取り入れることができた。
	次年度方向性	次年度も、建材店で木の違いを触って感じたり、木を使った製作活動をしたりすることで、自然物を加工している循環を学ぶ経験を提供する。
2	計画・ねらい	「生き物や畑に触れる環境を作る」 自分たちの手で育てることで愛着を持ち、食への興味関心を高める。
	実践結果	生き物への興味関心は強く、子どもの目線の高さに合わせて設置したことで、餌をあげたい意欲に繋がり、生き物に触れる機会が増えた。 一方、畑は興味を持つ子どもはいたが、子どもが自ら世話をする意欲に繋げることが難しかった。
	次年度方向性	子どもたちが生き物や畑仕事を自分の役割として認識できるように、毎回の支援に取り入れたり、当番制にしたり、全員が自分事として捉えられる仕組みを作っていきたい。

〈6〉誰もが通いやすいルームつくり

1	計画・ねらい	「元気に明るく挨拶をする」 つむぎに来ただけで元気をもらえた、良かったと思えるようにする。

	実践結果	利用者、保護者、スタッフ、地域の方、すべての人に対して気持ちのいい挨拶を意識することができた。結果、「つむぎにまた来たい」という意見が多く寄せられた。
	次年度方向性	地域ですれ違うすべての人と挨拶をすることを目標に、まずはスタッフが挨拶をしている姿を見せる。
2	計画・ねらい	「積極的にコミュニケーションをとる」
	実践結果	スタッフから話しかけることを意識し、日常会話がしやすい環境を作ることができた。徐々に保護者の方から嬉しかった出来事や成長した姿を共有されるようになってきた。
	次年度方向性	引き続き、保護者がどんな話でもできる雰囲気作りやリラックスできる環境を用意する。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

児童発達支援　利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	82人	94人	122人	100人	96人	95人	93人	109人	94人	109人	100人	110人	1204人
登録児数	24人	26人	29人	27人	27人	27人	27人	29人	30人	31人	31人	31人	31人

〈2〉開所時間

9時00分～18時00分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

施設長1名
児童発達支援管理責任者1名
保育士2名
機能訓練担当2名（作業療法士2名）

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
施設内会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・各種イベント、保護者会などの企画、進捗状況の報告 ・ルーム内専門士による指導技術の共有 ・ケース検討
事故防止委員会	月1回	・法人保育園の重要事故を振り返る ・つむぎで起こった事故を振り返り、自園での発生を防ぐ ・自園のヒヤリハット、インシデントを振り返り、再発防止策を検討する
支援計画策定会議	適宜	・支援の担当者と児童発達支援管理責任者が参加し、課題や発達の見立てを共有して目標を設定した

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
児発管会議	月1回	児発管
併設園会議	年2回	施設長
食育会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長
保健会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長
子育ての質を上げる会議	月1回	スタッフ

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	・感染対策の検討と実施 ・嘔吐処理、エピペン、感染症の研修の実施 ・毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案
安全対策係	・事故防止委員会の開催

	・事故記録のファイリングとスタッフへの周知 ・ルーム内ヒヤリハットとインシデントの共有、再発防止 ・ハザードマップの作成と定期的な見直し
防火管理者	・防災計画の立案 ・月１回の防災訓練の実施 ・消防計画の見直し ・避難経路の確保に対する注意喚起 ・防災グッズの点検、確認
食品衛生管理係	・利用時のアレルギーに関する管理 ・冷蔵庫内・カフェエリアの清掃、整理 ・調理活動時の衛生点検と安全管理
畑係	・緑道の整備に関する管理、計画的な活動の立案 ・ベランダプランターの整備、計画的な活動の立案 ・作物の栽培計画 ・栽培活動に関する予算管理 ・子どもと共に活動することの提案 ・食育へ繋げることを前提とした活動の提案
生き物係	・生き物の世話に関する統括（カブトムシの世話、ザリガニの世話、蚕の飼育） ・新たな生き物との触れ合いの機会の充実 ・子どもたちと共に世話をしていくことへの提案 ・戸外での動物や植物に触れる機会の検討立案 ・「6つの力」⑤生死を知る、食の循環を知る　を考える
体験学習係	・企画の立案、運営、報告

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
地域連携係	・地域資源の利用や情報の収集と連携 ・地域と連携した体験学習企画、実施 ・商店会との連携 ・青空保育の実施計画
中目黒どろんこ保育園連携係	・保育園との連絡調整 ・保育園の行事などへの積極的な参加 ・要支援児対応会議への出席 ・各会議への参加

4. 支援・処遇

〈1〉保護者面談 および発達相談・児童の保護者への支援および意見要望への対応

リトルグループ	・戸外活動を中心に、全身を使って思い切りやりたいことができるように環境を設定した。散歩に行く距離を徐々に伸ばしていき、距離のある公園にも行けるようになった。 ・玩具や道具の貸し借りを通して、自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちに気づいたりすることができた。 ・並行遊びから少しずつ友達を意識する様子が見られ、後半では自ら友達がいる場所で模倣遊びをしたり、友達と遊びを共有したりする姿が見られるようになった。
キッズグループ	・子ども同士で話し合って活動場所や活動を決めることで、自分の気持ちを相手に伝える経験や相手の話に耳を傾ける必要性を学ぶことができた。 ・一番になりたい気持ちや相手との意見の違いからぶつかり合うこともあり、情動をコントロールする経験を多く重ねたことで、自制心を養うことができた。 ・地域での活動や戸外活動で、多様な人々との関わりを持ち、地域の資源を知る機会になり、地域住民と交流を図ることができた。
中目黒どろんこ保育園	・週に4回、中目黒どろんこ保育園にて活動。2024年4月時点で参加者は1名。2024年10月に参加者が2名となった。 ・就園経験のない子どもに対し、大規模な集団で生活を共にする活動ができた。「自分のことは自分で行う」と年長児から学ぶことができ、自己効力感を身につけることができた。 ・今後の就園を見据えて、生活面の身辺自立や食事への意識を高めることができた。
個別支援	・子どもの特性を専門士が見極め、必要に応じて提案、実施。 ・ふれあい遊び、音楽遊び、感覚遊びを中心に、五感を使った活動ができるように設定した。 ・全身を使った遊びを通して、運動機能の向上を促進できた。 ・家庭でもできる体操を紹介し、つむぎでの支援が家庭で汎化できるような保護者支援も行うことができた。
家族支援	4～3月まで　合計12名　が参加済み　　（3月1日時点） 内訳： ・家族支援加算（Ⅰ）　9件 ・家族支援加算（Ⅱ）　3件
関係機関との連携	4～3月まで　合計７名　が参加済み　　（3月1日時点）

〈2〉計画した年間行事の振返り

別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	「プランターで野菜を育てる」 食物を育てることから携わり、食材の変化や食の循環を知る。
	実践結果	プランターで季節ごとの作物を種から育て、収穫ができた。子どもが興味を持って、生でのかじり食べや素材の味を感じる体験ができた。
	次年度方向性	子ども自身が興味のある野菜や果物にも挑戦し、自分で育てているという感覚を養っていきたい。作物の成長を期待したり、自らすすんで水やりに取り組んだりすることができる工夫を考える。
2	計画・ねらい	「調理活動を行う」 食材の加工を経験し、その変化に気付き楽しむ。
	実践結果	梅干し作り、ナスやほうれん草のバターソテー、ほうれん草の味噌汁作りなど、食材を加工して食する活動ができた。収穫から調理までの一連の流れを経験することで、食への興味を持つことができる子どもがいた。
	次年度方向性	調理、加工のレパートリーを増やし、さまざまな食材に興味を持てるようにしていきたい。加工による変化や工程がわかるように、写真やイラストで掲示する。
3	計画・ねらい	「スタッフと一緒に食べる」 他者と食事をするという楽しさの体験をする。
	実践結果	給食や調理後の時間は、スタッフも一緒に食事をして、食べる楽しさやおいしく作ることができた喜びを分かち合うことができた。焼き芋体験では、完成した焼き芋を同じ空間で食べ、火の温かさや芋のおいしさを共有した。
	次年度方向性	引き続き、調理活動の際には、スタッフの分量まで想定して作り、完成後には一緒に食べられるようにする。
4	計画・ねらい	「命をいただく経験をする」 実際に生きた状態からお店に並ぶまでという一連の流れの中で、命をいただくということを体験する。
	実践結果	東京すし和食調理専門学校にご協力いただき、目の前で魚を捌く様子を見学し、その魚からできた食事を実際に食べる活動ができた。食べることは命をいただくことであることを、体験を通して学ぶことができた。
	次年度方向性	東京すし和食調理専門学校との連携を継続し、実際に子どもが魚を捌く経験などから、生き物を絞める活動につなげていきたい。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）

流行した感染症	なし
発作・痙攣等の対応	なし
エピペン使用できるスタッフの状況	・４月１５日に施設内にて研修を実施。計５名が受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ６名のうち、４名が使用可能
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底するなど各園で記載

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回/15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
衛生管理	衛生管理点検表/毎日	毎日実施
	衛生管理点検表/毎週	毎週金曜日実施
	衛生管理点検表/毎月	毎月25日に計12回実施済み
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回/4･10月の施設内会議時 ⇒4月25日、10月11日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回/施設内会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	「遊具や教材配置の工夫をする」 子どもが主体的に関わることができるようにする。
	実践結果	子どもが自由に遊具や玩具を選ぶことができるよう部屋の環境を見直し、玩具を常設する部屋を用意した。製作活動ができる道具を設置したことで、自分で遊びを選択して遊びこむ様子が見られるようになった。
	次年度方向性	環境構成を定期的に見直し、常に環境を更新し続ける。自由に選択できる環境を整えるだけでなく、じっくり遊びこむことができるような見本や道具を工夫して配置する。

2	計画・ねらい	「戸外活動の実施」 ホンモノに触れる機会を作り、生活に根付いた環境を大切にする。
	実践結果	戸外活動を中心として、公園の行き先を増やした。近隣の公園マップを作成し、子ども自身が行きたい公園を選べるようになった。活動前にマップを見て、子ども同士で行き先の相談をする様子が見られた。
	次年度方向性	公園の行き先を選べる環境にしたため、次には公園で何をして遊びたいか、自分の意見を考えて発信できるようにしていきたい。
3	計画・ねらい	「施設内すべての整理整頓をする」 どこの場所であっても子どもが活動の場として選択できるようにする。
	実践結果	すべての部屋のドアを開放し、行き来が自由にできるようにした。子どもが安全に出入りできるよう、子どもが不要なものはできる限り取り除き、室内環境の整理整頓を行った。
	次年度方向性	引き続き、すべての部屋を開放し、室内環境の整理整頓を行うことで、子どもが自分で過ごしたい場所を選択できるようにしたい。
4	計画・ねらい	「子どもを見守る関わりを大切にする」 子どもが自信をもって行動し、試行錯誤をする機会を保障する。
	実践結果	基本的には、子どもがやりたいことを最後まで見守る姿勢を意識し、「自分でやってみる」環境を作ることができた。時には、必要以上に言葉をかけすぎていたり、子どもが求めていない補助をしたりすることがあった。
	次年度方向性	子どもが本当に必要としていることは何か、大人が必要以上に介入していないか、各々のスタッフが必要に応じて関わることができるように、支援の方法を見直す時間を設けたい。

〈7〉手作り遊具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
Ｉ	なし			

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

Ｉ	避難訓練	毎月Ｉ回／子どもを含めた訓練をI2回実施。 避難経路である倉庫を整理することができた。避難のために必要な靴を取る際に危険な目に遭わないよう、予備の靴を用意し迅速な避難を想定した。
2	ヒヤリハットの共有	毎日２回／朝礼（昨日分）、終礼時（本日分）に実施。 徐々に危険予測が意識してできるようになった。
3	事故防止委員会	毎月Ｉ回／施設内会議にて実施。 自園の事故やヒヤリハットを振り返り、再発防止に努めた。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

今年度は、昨年度に引き続き、近隣の中学生のボランティア受け入れを実施した。子どもたちも初めて触れる花や出会う中学生に目を輝かせていた。次年度も引き続き、保育や福祉で働く人の次世代を担う人材を育成する場所となれるように、受け入れ体制を整えたい。

〈2〉実習生の受入

受け入れなし

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
8月29日	世田谷区立桜木中学校	5人

7. スタッフ研修

〈1〉施設内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	22日 5名	9日 4名	18日 6名	5日 6名	2日 6名	23日 5名	19日 6名	11日 6名	9日 6名	6日 6名	14日 6名	14日 6名

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
1月27日 1月28日	公益財団法人　総合健康推進財団	東京都 サービス管理責任者研修・児童発達支援管理責任者研修	1名	有

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	21日 1名

会議）												
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	12月に動画視聴にて実施（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	該当なし											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	該当なし											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

今年度は、訪問経験のない場所に足を運び、新規開拓を目標とした。ハロウィンのイベントでは近隣住民にご協力いただき交流ができた。その他にも、消防署見学や和食調理専門学校での活動、以前より続いている池尻大橋商店会の各店舗にも足を運んで交流する機会を設けることができた。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育	月1回　　公園名：世田谷公園にて　　参加延べ人数：15名
商店街ツアー	随時　　主な行き先：八百屋（フードショップ青伸）、八幡煎餅、石綿モーターズ、奥吉、理髪プリンス、長崎建材店
異年齢交流	7月31日　つむぎ池尻ルームにてつむぎ卒所生と交流会を実施
その他活動	6月29日　長崎建材店で木材を購入し、木工製作を実施 10月29日　東京すし和食調理専門学校にて食育（魚を捌く様子を見学し、食事する）を実施 10月30日　三宿消防署を見学 10月31日　ハロウィンイベントで地域住民と交流 2月8日　まちづくりセンター主催「まちなか作品展 外遊びワークショップ」に参加

9. 医療機関・幼稚園・保育園・小学校との連携の計画

〈1〉今年度の振り返り

目黒区立烏森小学校にご協力いただき、小学校見学を実施することができた。ランドセルを背負う体験やプリント学習などを通じて、子どもたちが実際に小学生と交流することで、自分たちが小学生になるイメージを持つ体験ができた。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
２月６日	烏森小学校 1年4組	1名	1年生教室	子ども間交流

10. 個別支援計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

半年に1回は保護者と面談をし、更新することができている。また、保護者や園と連携を取り、必要に応じて園訪問を実施。

〈2〉進級引継、および小学校への引継状況

次年度、小学校に通われる半数以上の方から就学支援シートの依頼があり、3月末の時点で全員お渡しを完了している。

11. 子育て支援事業

実施項目	詳細												
施設開放	随時												
子育て相談	随時												
青空保育	月1回　　公園名：世田谷公園にて　以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	実施無し	0名	0名	6名	1名	0名	1名	2名	10名

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審
今年度受審なし

〈2〉施設による自己評価の実施
2024年11月21日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：9時00分
自己評価終了時刻：17時00分
自己評価実施者：内部監査室　田中

〈3〉利用者アンケートの実施
施設利用保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月15日
アンケート回収率：98%

　多くの利用者から貴重なご意見をいただくことができた。その中でも、「友達との関わりが増えた」「語彙が増えてきた」というご意見をいただき、励みになった。今後も、子どもがやりたいこと、好きなことを中心とした支援を追求しながら保護者支援にも力を入れていきたい。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項
ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見
報告すべきご意見　0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）
報告すべきケガ（事故含む）　0件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：発達支援つむぎ 池尻ルーム施設長　恩田 奈央

２０２４年度　発達支援つむぎ 横浜東口ルーム
事業報告書
（発達支援つむぎにおける自己評価）

１．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

2024 年度の横浜東口ルームは、法人スローガン「あなたはどうするか」の下、スタッフ一人ひとりが大人として主体性を持ち、考え、動き、学び、自立することを目指した。

一人の大人として「これからの社会はこうあってほしい」、社会の成員として「自分はこういう人間でありたい」という自己の意見を持ち、そのために日々どうあるべきかを問い、行動し、変化していく。そして、子どもにとって最大の環境である大人として、「子どもとその保護者の現在、そして未来に大きな影響を及ぼす自分は、どういう大人であるべきか」という問いを常に持ち、日々を積み重ねた。

その結果、結果、これまでのやり方や考えに固執することなく、常に挑戦し、行動する気概が芽生え、食育活動や戸外活動、地域との関わりなど、新しい活動を数多く展開できたと考える。通所している保護者様からも、「家庭や園、他の療育では経験できない様々な活動を行ってもらえてありがたい」など嬉しい言葉をいただくことができた1年でもあった。

〈１〉支援内容の充実・質の向上

１	計画・ねらい	【自ら経験の選択ができる環境設定】 ・自分で決める力、自分の表現で発信するすべを育んでいく為に、大人は声や表情、態度などで子どもを誘導しない。 ・子どもたちが自分で感じ、考える機会を十分に取り入れた活動を提供する。 ・活動の内容や戸外活動の行き先などをすべて大人が先回りして決めるのではなく、子どもたちが自分でやりたい遊びや行きたい場所を決め、参加する力を育む。
	実践結果	・構成メンバーや発達段階、課題などを鑑みて複数の活動を想定準備し、子どもたちが主体的に選んだ、考えたと感じられるように提案やリードをしていった。 ・子どもの希望に任せて活動が「点」となってしまわないよう、子どもたちの興味や関心に呼応しつつ、活動が「線」として繋がるように活動を構成した。
	次年度方向性	引き続き、子ども達が自分たちでどんな風に過ごすかを決め、その気持ちを言葉で伝え合えるよう、子どもたちが自己決定力を育める環境設定を行っていく。
２	計画・ねらい	【地域との関わりを持てる活動の更なる充実】 ・活動を通じて築いた地域との関わりをより深め、ルーム内だけではなく地域との交流を通じて子どもたちの成長を育む。

	実践結果	・訪問や買い物といった一方向的な関わりだけでなく、つむぎイベントへの招聘や子どもたちが栽培した作物の提供など、双方向的な活動も並行して行った。
	次年度方向性	引き続き、子どもたちが活動を通じて地域との関わりを深められるよう、定期的に地域と交流できる機会を設けていく。
3	計画・ねらい	【食育活動の更なる充実】 ・子どもたちがより主体的、能動的に畑仕事に取り組み、より充実した経験と達成感を得られるようにする。
	実践結果	・活動日だけでなく、植える作物や担当する作業、料る品など、子どもたちが話し合って決めることまで含めた総合的な畑活動スケジュールを作成した。 ・畑仕事と調理だけでなく、自分たちが植える作物について調べるなど、より食材に興味関心を持てる工夫を行なった。 ・収穫した作物を地域の方々に提供する、調理した品を地域の方々と食べるなど、子ども達が自分たちの労働の成果物で他者と繋がれる機会を設けた。
	次年度方向性	子どもたちが興味関心を持って畑仕事に取り組めるよう、引き続き、年間を通じて作物の作付けや収穫のスケジュールを決め、グループごとに何を植えるか、調理するかを、子どもたちが決める。
4	計画・ねらい	【プロのチームになる。】 ・支援はチームで当たるもの。個々人はもちろん、チームでプロになり、子どもの最善の利益を目指す。 ・自分が成長するためにどういうチームであってほしいか、チームが成長するために自分はどういう役割を担い、果たせるかを考えて行動する。
	実践結果	・自分たちが一日を過ごす場所として、挨拶はもちろん、会話やコミュニケーションを取る時間を大切にすることで、気持ちよく働ける環境を自分たちで作るという意識を持つことができた。 ・振り返りや策定会議を子どもの様子や課題の共有だけで終わらせず、「目の前の子どもたちのために自分たちが」成長し合うための場という意識を持ち、忌憚のない意見や指摘を交わせるようになった。
	次年度方向性	引き続き、子どもたちに最善の利益を提供できるプロのチームになるため、スタッフそれぞれが成長し合うための率直な意見交換を継続する。

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	スタッフ一人ひとりが保護者の気持ちに寄り添った接遇ができるよう、保護者が抱く不安や悩みに気が付ける関係性を築いていく。
	実践結果	・振り返りで子どもの様子、活動を分かりやすく伝えるだけでなく、挨拶はもちろん、会話やコミュニケーションを取る時間を大切にすることで、保護者との関係性を築くことができた。 ・保護者との関係性を「サービスの受益者と提供者」といったビジネスの言葉づかいでくくらず、「子どもの最善の利益を共に模索する対等なパートナー」として捉える。保護者の心情や置かれた状況を慮りつつ、支援のプロとして、保護者の要望だけを適えるのではなく子どもの最善の利益と

		いう観点から適切な対応を行った。
	次年度方向性	引き続き、保護者一人ひとりの気持ちに寄り添えるよう、子どもだけでなく保護者の些細な様子の変化にも気付けるよう、日ごろからの関 係性作りに力を注いでいく。
2	計画・ねらい	保護者がルームを「この子の大切な、一つの社会」と感じられるよう、保護者同士の交流を深める。
	実践結果	・振り返りにおいて子ども同士の関わりやグループ全体の成長などを、個別だけではなく保護者全体に伝えていくことで、保護者同士の関係性が深まった。 ・就学の相談会を実施したことで、利用日以外の保護者と交流する場を持つことができた。 ・つむぎを卒業した保護者を招聘し、実際の学校生活の様子を聞ける場を設けたことで、年度を越えて保護者の関わりを持つことができた。
	次年度方向性	引き続き、在籍児の保護者同士の繋がりだけでなく、つむぎを卒業した保護者を招聘し、世代を超えた交流や情報共有ができるような企画を実施していく。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域の他事業所との連携を計るため、西区児童部会と療育教育福祉連携会を中心に、横の繋がりを築く。
	実践結果	施設長、児童発達支援管理責任者だけでなく、すべてのスタッフが研修や見学会に積極的に参加し、スタッフそれぞれが顔の見える関係性を作ることができた。
	次年度方向性	引き続き、他事業所との関係性を深め、子どもの最善の利益を目指した支援を行っていくためのスタッフ成長の貴重な場とする。
2	計画・ねらい	小学校を知り、長期的な視野を持った支援を行う。
	実践結果	すべてのスタッフが小学校、特別支援学校を訪問することができ、就学を見据えた支援を行なっていくための見識を広げることに繋がった。
	次年度方向性	次年度も戸部小学校・保土ヶ谷特別支援学校との関係性を維持し、就学を見据えた支援を行っていくためのスタッフ成長の貴重な場とする。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	・自分を出し、相手を知り、チームになる。 ・子どものために、侃々諤々の協議ができるようになる。 ・「子どもの将来に携わるプロのチーム」を目指す。
	実践結果	振り返りで率直な意見交換を行うことによって、子どもの支援記録と所感だけで終わらせるのではなく、大人が成長し合うための意見交換の場にすることができた。

	次年度方向性	次年度も、大人も一人ひとりがプロとして成長できるよう、次年度も積極的に意見交換や指摘がし合える機会を設けていく。
2	計画・ねらい	・専門分野や得意分野、興味あることを学びインプットして、スタッフに向けてアウトプットする。 ・自分が学び感じたことや吸収したことを多角的客観的に捉えることで、学びの定着を目指す。またそれを相互に行うことで、相乗効果や学びの深化を目指す。
	実践結果	・園長大学®保育士大学の講座を積極的に活用し、スタッフは年間で受講する数やテーマなどを決定し共有した。 ・スタッフで話し合ってテーマを設け、ルーム会議の時間を用いて園長大学®保育士大学の講座を視聴し、実際にどのように行動すれば自分たちの業務に落とし込めるかを話し合い、実践できる具体策を出し合った。
	次年度方向性	引き続き、より質の高い支援を行なえるよう、大人一人ひとりが成長するとともに、チームとして互いを高められるよう話し合いの場を積極的に活用していく。

〈5〉環境実施目標

I	計画・ねらい	食の循環サイクル
	実践結果	猛暑により紫蘇の収穫量が予想よりも少なかったため、地域に提供する分までシロップを作ることができなかった。
	次年度方向性	天候に注意しつつ、引き続き紫蘇の栽培を行ない、地域に提供できるだけ収穫を目指す。
2	計画・ねらい	食の循環サイクル
	実践結果	畑仕事で作付けした枝豆を大豆に栽培し、加工して味噌作りを行なうことができた。 その味噌を使って焼きおにぎりや五平餅を作り、野菜で収穫した野菜を食べることができた。
	次年度方向性	引き続き、自分たちが食べるものを自分たちで育てることで食への興味関心を育んでいく。
3	計画・ねらい	食の循環サイクル
	実践結果	飼育しているどじょうを調理して食べる活動を通じて、命をいただくということを考える機会を設けることができた。
	次年度方向性	次年度も引き続き、生きているものだけでなく、自分たちで野菜を育て食べることを通じて、食の循環サイクルを知る機会とする。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	166人	149人	166人	196人	197人	200人	193人	176人	217人	217人	196人	220人	2293人
登録児数	28人	28人	31人	35人	35人	36人	36人	38人	39人	39人	38人	38人	421人

（解説）4月から６月にかけては振替体制が整わず、利用総人数が１７０人を下回る結果となったが、それ以 降は 振替だけでなく個別提案なども行え、定期的にご来所いただけるようになった。引き続き、積極的に 振替や個別提案を行い、健全な運営状況となるよう目指していく。
2293

〈2〉開所時間

９時００分～１８時００分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

施設長1名
児童発達支援管理責任者1名
保育士1名
機能訓練担当3名（言語聴覚士2名、作業療法士1名）
児童指導員1名
その他指導員０名

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
施設内会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・専門士による支援技術の共有 ・研究テーマ（造形、音楽、自然、食などを設け、資料を使 った研修を行なった。
給食運営会議	月1回	・開催される会議に参加し、議事内容の情報を共有した。

事故防止委員会	月1回	・ヒヤリハット、インシデント、事故の共有をした。 ・再発防止策の確認を行った。
支援計画策定会議	適宜	・支援計画作成に伴い、開催時期を調整した。 ・個別支援・グループ支援それぞれの担当者と児童発達支援管理者が必ず参加し、実施した。

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
児発管会議	月1回	児発管
併設園会議	年5回	施設長
食育会議	年4回 （5.8.11.2月）	施設長
保健会議	年4回 （5.8.11.2月）	施設長
子育ての質を上げる会議	月1回	スタッフ

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導を行った。
安全対策係	・事業所内、周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策を行った。 ・計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起を行った。
防火管理者	・防災計画の立案、月1回の防災訓練を実施した。 ・消防計画の見直し、近隣施設との連携の推進を行った。
食品衛生管理係	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食品サンプルの管理を行った。
畑係	畑の整備や道具の管理、計画的な活動の立案をした。
生き物係	どじょうの飼育管理、子どもたちと定期的な水槽清掃などを行った。

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ夏祭り係	つむぎ利用者だけでなく、数多くの近隣施設や地域の方々にもご参加いただけ、盛況であった。
サツマイモを掘って、たき火で焼きイモを食べよう係	自分の手で掘ったサツマイモをその場で洗い、たき火で焼いて食べるという経験を通じ、子どもたちの食への関心や興味をさらに高めることができた。

4. 支援・処遇

〈1〉保護者面談 および発達相談・児童の保護者への支援および意見要望への対応

マンスリー	調理活動を多く実施したことで、保護者の方々からは「いつもは食べないものを食べる姿が見られた」「みんなと一緒だと楽しそうに食事をしていた」などのご意見をいただいた。
キッズグループ	戸外や畑活動を多く実施したことや、どじょうを食べる活動や銭湯での入浴などを行ったことで、保護者の方々から「家ではできない体 験ができて良い」「のびのび遊べていて楽しそう」などのご意見をいただいた。
個別支援	個別支援を1対1で完結する時間ではなく、集団に繋げる為のステップの時間とし、グループ活動と同じ空間で過ごし、お互いに活動の様子を見に行くなど、交流できる機会を頻繁に設けた。
事業所内相談支援	4～3月まで　合計47名　が参加済み　　（2月28日時点） 保護者と個別に話す時間を設けることで、子どもたちの家庭や母体園での様子を共有することができた。
保護者面談 発達相談	半年に1回モニタリングを実施
関係機関との連携	4～3月まで　合計7名　が参加済み　　（2月28日時点） 子どもたちの母体園での様子を共有することができた。

〈2〉計画した年間行事の振返り

別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	【食に対しての興味・関心を高める】 自らが畑で育てたものを収穫し、調理して食べる経験をする。
	実践結果	・1か月に1回以上の畑仕事の実施。 ・収穫した野菜をその場で、自分たちで作った調味料（しょうゆ麹・味噌）で食べることができた。
	次年度方向性	引き続き、自分たちで調理する食材を自分たちで育てるという食育活動に力を入れる。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
流行した感染症	６月～９月：手足口病・咽頭結膜熱・ヘルパンギーナ・とびひ １２月～３月頃･･･リンゴ病・インフルエンザ・ウイルス性胃腸炎・RS ウイル ス 感染症
エピペン使用できるスタッフの状況	３月１日時点で６名が研修受講し、修得済み。
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施

	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の施設内会議時 ⇒4月23日、10月16日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間　実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	子ども、保護者共に居心地が良く、また来たくなる環境を提供する。
	実践結果	日中の定期的な換気や消毒などの衛生管理を行い、整理整頓や清掃を日常的に取り入れた。
	次年度方向性	引き続き毎日および月１回の定期清掃を行い、定期的な棚卸で不用品の整理などを行っていく。
2	計画・ねらい	子どもたちが遊び込める、安心な環境をスタッフ全員で確保する。
	実践結果	・活動が始まったら子どもも大人も全力で遊べるよう、打ち合わせや準備を事前に入念に行なった。 ・戸外での活動では全体把握を法人ルールに沿って行うとともに、公園到 着時の危険物チェックの徹底、不審者などにも注意した。
	次年度方向性	引き続き、ルームミーティングの時間などを利用したマニュアルの読み合わせや、散歩ロールプレイングなどを行うことで、安全な活動を行えるように努めていく。

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	法人の定める、マニュアルに則って行動をした。
2	実践結果	安全対策係が中心になり、事故報告やインシデント、ヒヤリハットを分析し、再発防止に努めた。また、個人の危機予測の力が高まるよう、子どもが遊んでいる写真などを用い、起こりうる事故やケガを協議した。
3	実践結果	防火管理者が中心となり、避難訓練・不審者進入訓練を行う。訓練の訓練とならないよう、参加者が実際に起こりうるという意識を持ちながら参加できるようにした。また、全利用児が年に1回は訓練に参加できるようにし、有事に備えた。

4	実践結果	光化学スモッグについては、自治体の情報を職員に即座に伝達し、マニュアルに則って戸外活動を避けたり、戸外活動を切り上げて戻ってきたりという判断が迅速に行えるようにした。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

臨床心理実習をはじめとする外部からの実習受け入れの依頼については積極的に受け入れ、保育園訪問実習など法人全体を通して実習地とし学びの場を準備した。

7. スタッフ研修

〈1〉施設内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	25日 6名	25日 6名	25日 6名	25日 6名	25日 6名	25日 6名	25日 6名	25日 6名	25日 6名	25日 6名	25日 6名	25日 6名

〈2〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	21日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	9月に動画視聴にて実施（全スタッフ対象）											

〈3〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

全スタッフが東口ルーム周辺の地理、社会的資源に興味関心を持ち、探索する中で子どもと一緒に交流していける機会を設けた。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育	月1回　　公園名：石崎川公園にて　　参加延べ人数：4名
商店街ツアー	週1回
世代間交流	社会情勢を鑑みながらデイサービス施設訪問、銭湯で入浴など、世代を越えた交流を実践した。
異年齢交流	グループ支援の中で常に取り入れた。

9. 医療機関・幼稚園・保育園・小学校との連携の計画

〈1〉今年度の振り返り

就学支援シートを主な連絡ツールとし、利用児童がスムーズに就学先に適応できるように情報提供し、連携を図った。 また、近隣小学校の地域に公開する取り組みについてはスタッフと子どもが積極的に参加することで、 地域の一員として連携が図れるようコミュニケーションを取った。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
9月26日	保土ヶ谷特別支援学校	1名	見学会（神奈川県立保土ヶ谷特別支援学校）	学級見学
10月2日	保土ヶ谷特別支援学校	1名	見学会（神奈川県立保土ヶ谷特別支援学校）	学級見学
10月21日	保土ヶ谷特別支援学校横浜平沼文教室	1名	見学会（神奈川県立保土ヶ谷特別支援学校横浜平沼文教室）	学級見学
12月23日	横浜市立戸部小学校	4名	見学会・意見交換会	学級見学、意見交換

	通常学級、特別支援学級		（横浜市立戸部小学校）	

10. 個別支援計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

① 子どもや家族への面談等により専門的な視点からアセスメントを実施した。子どもの障害がいの状態だけでなく、子どもの適応行動の状況を適切な観点からみることができるツールを使って確認していき、子どもの発育状況、自己理解、心理的課題、これまで受けてきた支援などを鑑み、保護者 のニーズに照らして子ども自身の持つニーズを明確にしていくことに重点を置いた。
② アセスメントでの情報について課題を整理し、具体的な支援目標やその達成時期、生活全般の質を向上させる為の課題、児童発達支援の内容や具体的な手立てを検討し、個別の支援計画を作成した。
③ 支援内容については、「いつ」「だれが」「どこで」「どのように」「どれくらい」支援するということが計画の中で明確になるようにした。
④ 子どもや保護者に対し、ガイドラインに沿った児童発達支援の提供すべき支援を鑑みながらこれに基づき作成された「個別支援計画」を示して説明を行い、子どもに必要な支援が提供させる内容になっているかどうか、同意を得た。
⑤ 支援手法においては、個別支援・グループ支援などその子どもの課題に応じて適宜組み合わせて行なった。
⑥ 原則として6カ月に1回以上のモニタリングを実施するが、子どもの状態や家庭状況などに変化 20221226 版があった場合などは、改めて提供している支援の客観的評価を行い、支援計画の見直しをした。

〈1〉毎月のケース会議開催 （4～3月に計12回開催 参加者：6名）

策定会議だけでなくケース検討会を実施することで子どもへの理解をスタッフ全員で深めていき、支援内容の充実に繋げた。

〈2〉進級引継、および小学校への引継状況

就学支援シートの作成を行い、行ってきた支援や手立てを引き継いだ。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	1名	1名	7名	86名	7名	4名	9名	14名	0名	0名	0名	129名

実施項目	詳細												
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　⇒計47件相談実施済み												
青空保育（支援センター主催）	月1回　　公園名：石崎川公園にて　以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	1名	1名	0名	0名	0名	1名	1名	0名	0名	0名	0名	4名

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉施設による自己評価の実施

２０２４年６月２４日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：９時００分
自己評価終了時刻：１６時００分
自己評価実施者：森谷太郎

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月15日
アンケート回収率：１００％
・「他の療育にはない体験型の療育が受けられるのがありがたいです」「先生たちがとても親身になって下さる」「先生たちがポジティブで元気をもらえる」など、嬉しい言葉を頂くことができた。
・「伝えたことが他の先生に伝わっていなかった」「同じことを複数の先生から連絡された」といた職員間の情報共有不足の指摘があったので、２０２５年度は職員間の情報共有に力を入れていきたいと考える。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見　０件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む）　０件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：発達支援つむぎ 横浜東口ルーム施設長　田川 信政

２０２４年度　発達支援つむぎ 府中ルーム
事業報告書
（発達支援つむぎにおける自己評価）

Ⅰ．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

２０２４年度　運営本部スローガン「あなたはどうするか、大人も主体性」のもと、大人が自律し、生活力・選択力・思考力を育む教育・保育・支援のフロントランナーとして、子どもと共に「にんげん力」の更なる向上となることを目指した。そして、子どもが自ら五感を使って感じ取り、考え、伝え合い、表現できるような支援を提供し、生きる力を育める環境を自分で選べる支援となるように努めた。また、この地域社会の中で生きる力を育める子育て支援事業所としての役割を果たせるように努め、地域からも選ばれる事業所になることを目指した。

〈１〉支援内容の充実・質の向上

１	計画・ねらい	安定した食育活動の展開 ・食の循環や環境の理解　・畑作業の発展
	実践結果	・畑にコンポストを作り、畑仕事の度に子どもと一緒にコンポストを活用するように努めた。 ・畑の畝づくり体験や、魚捌き体験を通して、食の循環と環境について学ぶ機会を設けた。 ・焚火を使用した食育活動は日常となりつつある。火との距離の取り方を知ることができた。 ・子どもが主体的に畑の手入れを実施することができている。
	次年度方向性	・食育活動の場所を室内だけでなく、日常的に戸外でも実施していく。 ・コンポストの実践場所として、畑だけでなくルームでも行えるように取り組む。 ・畑仕事の一年間を意識し、子どもたちが主体となって作業できる力を育めるようにする。
２	計画・ねらい	戸外活動の展開 ・豊かな戸外活動の安定化　・戸外活動効果の実証
	実践結果	・つつじヶ丘どろんこ保育園と連携し、泥遊びを行うことができた。 ・田植え前の田んぼで泥遊びを実施した。 ・長距離散歩コースの拡大に至らなかった。原因としては、戸外活動として提案したい場所が決まっており、長距離の散歩となり得なかった。 ・健康な心と体を育める取り組みとして、見守る支援を意識して行うことができた。 ・「戸外支援のすすめ」と題して戸外活動の取り組みを児童発達支援乖離責任者が施設内研修で発表した。
	次年度方向性	・次年度もつつじが丘どろんこ保育園と連携を行い、満足できる泥遊びを提供していく。

		・豊かな戸外活動を実施できるように取り組む
3	計画・ねらい	リズム体操の発展 ・歌うさくらさくらんぼリズムの導入　・青空リズムの定着
	実践結果	・リズム体操の実施は定着したが、定番のリズムに留まってしまった。 ・ルーム内リズム研修を1回実施した。 ・外部のさくらさくらんぼリズム研修を2回参加した。
	次年度方向性	・青空リズムの定着 ・多様なリズムの実施
4	計画・ねらい	異年齢活動の展開 ・道徳心、規範意識、協同意識の向上　・生活力の体得
	実践結果	・造形、感覚、運動、相談、発表などの表現活動を実施した。 ・年上や年下を意識した取り組みができた。 ・「思考し判断する」「ホンモノを扱う」体験ができる環境設定を実施した。 ・コマづくり体験を行い、親子でも楽しめる時間を提供した。
	次年度方向性	・異年齢活動を通して、他児を意識して取り組める環境設定を行っていく

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	丁寧な保護者対応、接遇の実施 ・保護者の不安軽減　・保護者との信頼関係づくり　・安心できる環境
	実践結果	・来所時のお迎えや見送り時など、スタッフの丁寧な対応を徹底した。 ・常にカフェや廊下、室内が整理整頓されている環境を維持するように努めたが、継続できない場面があった。 ・リラックスできる雰囲気で待ち時間を過ごせるよう、言葉がけを丁寧に実施するように努めた。
	次年度方向性	・安心できる環境の徹底に向けて、より良い関わりや環境を見直していく。
2	計画・ねらい	保護者座談会の実施 ・情報の共有　・保護者の不安軽減　・保護者同士の繋がりづくり
	実践結果	・就学相談、就学、就園、放課後デイサービスの座談会を実施した。 ・戸外支援について座談会を実施し、保護者が戸外支援について理解を深めることができた。 ・伝統遊びやリズム体操についても座談会を実施した。
	次年度方向性	・つむぎ 府中ルームの支援の理解に繋がる座談会を定期的に実施していく。
3	計画・ねらい	事業所内相談支援の充実 ・保護者の不安軽減　・支援の共通理解　・家庭支援
	実践結果	・園訪問報告やモニタリングの聞き取り時に合わせて相談支援を実施した。 ・定期的に継続を希望される保護者も多く、相談支援が浸透してきている

		と感じることができた。
	次年度方向性	・定期的に相談支援を行っていく。 ・保護者との関係性を大切に普段から対話を行っていく。
4	計画・ねらい	所属園との連携の充実 ・支援の共通理解　・地域との連携
	実践結果	・子どもが所属する保育園や幼稚園、他事業所などへの訪問や電話での連携を継続的に行った。 ・就学を視野にいれた連携を実践できた。
	次年度方向性	・定期的に連携できるように、所属園との関係性を確立していく。 ・契約時や相談支援時に園訪問を提案していく。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	小学校との連携 ・就学を見据えた支援の提供
	実践結果	・武蔵台学園（特別支援学校）に訪問し、校内見学及び相談員より情報提供をいただいた。 ・府中第 1 小学校特別支援教室教員と、つむぎ利用児保護者の座談会を実施した。 ・府中第 2 小学校・府中第 5 小学校（特別支援学級）の学校公開にスタッフが参加し、小学一年生の学校生活ついて知り学んだ。 ・第 1 小学校の校庭開放を利用し、小学生との関わりを持つ。 ・府中市立若松小学校校内で体験学習を実施し、和太鼓クラブとの交流を持った。
	次年度方向性	・積極的に小学校に出向き、連携をしていく。 ・利用児に必要な情報を知り得ていく。
2	計画・ねらい	地域の子育て支援事業所との連携 ・地域資源としての自覚　・情報収集
	実践結果	・府中市児童発達支援センターの見学に行き、内部見学を行った。 ・府中市児童発達センター主催の研修に定期的に参加し、内容をルーム内研修で共有した。
	次年度方向性	・地域の研修や勉強会に積極的に参加する。 ・知り学んだ内容は必ずルーム内で共有する。
3	計画・ねらい	カフェの充実 ・情報共有　・身近な子育て支援事業所としての周知
	実践結果	・利用待機者には「いつでも行ける」場所としてカフェの利用を積極的に周知したが、実現には至らなかった。 ・子育て支援情報や、勉強会資料を設置した。 ・環境を見直し、設置する情報の見直しに努めた。
	次年度方向性	・保護者支援の一環としてカフェの環境を見直していく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	小学校との連携 ・学齢期を見据えた支援の提供　・小学校を知る
	実践結果	・小学校に実際に出向いた。 ・小学校学習指導要領の読み合わせを行った。 ・実際の小学一年生の教科書等を見る機会を設け、支援に展開するように努めた。
	次年度方向性	・スタッフ全員が小学校の見学を行う。
2	計画・ねらい	自己実現 ・やりたいことの実現　・支援者としての自覚と成長
	実践結果	・スタッフの「やりたいこと」を活動計画に取り入れた。 ・なんでだろう、どうしてだろう、という子どもと同じ目線で物事と捉えられることの大切さを理解した。 ・適宜、スタッフ同士で対話を行い自己実現に向けて話し合いを行った。
	次年度方向性	・主体的に且つ自己管理してやりたいことを実現できるように意識する。
3	計画・ねらい	スタッフ勉強会の充実 ・大人のにんげん力向上　・専門性の共有
	実践結果	・目の前の子どもや保護者にどのように役立つかを考えながら議題を考え、勉強会を実施した。 ・計画的に勉強会を実施することができなかった。 ・各自園長大学®保育士大学を受講しているものの、共有まで至らないこともあった。
	次年度方向性	・園長大学®保育士大学の積極的な受講と共に、必ず勉強会内で共有する。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食育残渣の削減 ・食材や食の循環理解　・環境教育の実践
	実践結果	・畑から収穫したものを使った食育活動を毎月実施した。 ・大人が盛付ける場面が多かった。野菜類の残渣削減は難しかった。 ・コンポスト場所が畑だったため、残渣の活用が難しかった。
	次年度方向性	・畑での食育活動ではコンポストを活用していく。 ・盛付は子どもが行い、食べられる量を意識できるようにする。
2	計画・ねらい	生き物の世話 ・生死の理解　・環境教育の実践
	実践結果	・畑で捕まえた魚やザリガニを子どもと一緒に飼育した。清掃や餌やりは子どもが自主的に行った。 ・夏にはカブトムシ成虫を20匹飼育した。最後の1匹が死ぬまで子どもたちで観察することができた。

	次年度方向性	・引き続き、畑で捕まえた生物の飼育を子ども主体で行えるようにする。 ・クワガタやカブトムシなどの生き物も飼育できるように取り組む。

〈６〉他園との連携

I	計画・ねらい	他園とのケース検討会実施 ・課題解決　・スタッフ同士の対話　・他園連携　・スタッフ育成
	実践結果	・つむぎ吉祥寺ルーム、つむぎ阿佐ヶ谷ルームと合同でケース検討会を定期的に実施した。 ・準備段階よりスタッフで検討を重ね、丁寧に発表を行うことができた。 ・法人内小規模保育園との連携やスタッフ交換 OJT は実施できなかった。
	次年度方向性	・他ルームとの合同ケース検討会は引き続き継続していく。 ・法人内小規模保育園とスタッフ交換 OJT を実施する。

2. 施設運営

〈１〉児童利用状況

児童発達支援　利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	209人	201人	223人	226人	223人	210人	222人	222人	218人	216人	202人	230人	2602人
登録児数	48人	49人	51人	52人	53人	53人	53人	56人	57人	58人	62人	63人	人

〈２〉開所時間

９時００分～１８時００分

〈３〉スタッフ構成　（３月１日時点）

施設長1名
児童発達支援管理責任者１名
保育士３名
児童指導員１名

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
全体会議	月1回 （第1月曜） 80分	・コンピテンシー ・施設内研修 ・支援内容検討会
部分会議	週1回 40分	・ケース会議：月1回以上 ・各会議、各委員会、研修、勉強会の報告：適宜 ・スタッフ勉強会：月1回 ・必要なテーマの会議や委員会：適宜
グループ支援ミーティング	週4回 5分	・当日グループ支援の打ち合わせ ・活動の目的、流れ、人員配置、配慮事項、見たい姿の確認
事故防止委員会	月1回 （第2火曜）	・ヒヤリハットや事故報告書の共有、検証 ・自ルームにおける事故防止についての検討
支援計画策定会議	適宜	・担当者と施設長、児童発達支援管理者は必ず参加した ・基本的には全員参加とし、全員が支援できる体制を整えた

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
児発管会議	月1回	児発管
併設園会議	年2回	施設長
食育会議	年4回 （5.8.11.2月）	施設長 調理スタッフ
保健会議	年4回 （5.8.11.2月）	施設長
子育ての質を上げる会議	月1回	スタッフ

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	・毎日の消毒の点検 ・感染対策の検討と提案
安全対策係	・ハザードマップの適宜見直し 更新月には、できる限りマップの改定に努めた。今後は、ヒヤリハットやインシデント発生時の振り返りで、どこで起こったかをハザードマップで確認しながら都度見直しを実施する必要がある。 ・施設内の安全確認 自身による危険を想定して適宜見直しを行った。見慣れてしまう事よる見逃しを防ぐ為、係を決めて俯瞰的に点検することが必要 である。
防火管理者	・防災計画の立案 防災訓練の実施はスタッフ全員実施計画を立て、振り返りや報告を行った。また、全員で取り組むことに よって、防災の視点が多様になり意識が高まったように思われる。支援で利用した消防署への訪問は今後も継続していく。
食品衛生責任者	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食品サンプルの管理
畑係	・畑管理者との連絡調整 ・畑仕事および食育活動の計画 畑係を中心に、一年間の収穫予定を見通せたことで、畑仕事を滞りなく行った。また、スケジュール調整しながら、スタッフ全員で畑仕事から食育活動に繋けるように検討を重ねた。
生き物係	・生き物に触れる機会の提供 エビ、魚、ザリガニを畑の水路で捕まえてルームで飼育している。夏にはカブトムシを譲り受けて初めて飼育を行った。昨年度の卒園児から引き継いだ今年度の年長児が中心となり行った。また子ども間で引き継いでいく。
広報係	・SNS およびブログ、創園の実践記録への発信 SNS およびブログは輪番制にて毎月発信することができた。実践記録への発信は未実施であった。
環境整備係	・事業所内の環境整備、清掃計画 ・備品在庫管理 MBO の目標に掲げたスタッフを中心に清掃・環境整備を実施した。定期全体清掃は月２回計画し、達成できた。今後は、輪番制として全員が把握 して取り組めるようにする。
教材絵本管理係	・教材や絵本の管理 ・修理、見直し 気づいたスタッフが適宜実施した。戸外支援が多いなか、真に必要なものを精査したうえで処分し整理した。

支援内容検討係	・グループ支援の活動内容の立案 ・施設内会議への議案提示 翌月のグループ支援活動内容を年間活動計画に基づきながら立案した。社会情勢や、地域情報を鑑みながら検討を重ね、子どもにとって必要な体験を提供できるよう取り組んだ。
実績及び稼働管理係	・実績および日報入力 ・稼働動向管理の実施 実績および日報入力は輪番制、稼働動向管理は児発管が中心となり行った。稼働動向確認は、スタッフ全員で周知し確認できるようになってきている。今後も全員で取り組めるように努力する。

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
体験学習係	６月、８月、１０月、１１月、１２月、２月、３月に体験学習を実施した。経験のある先輩スタッフが中心となって立案、計画、実行、振り返りを行っ た。今後は、スタッフ全員で体験学習に取り組み、立案から振り 返りまで担当できるようにする必要がある。
企画立案係	４月、７月、９月、１０月、１２月、１月、２月に保護者勉強会を実施した。家族支援Ⅱを利用しての参加となった。好評であったため、次年度はより計画的にテーマを決め実施していく必要がある。

4. 支援・処遇

〈1〉保護者面談 および発達相談・児童の保護者への支援および意見要望への対応

グループ支援	全て異年齢グループとして実施した。年長児が年少児を世話する姿や、リーダー的な姿は異年齢支援ならではの姿であったと考える。実際に、今年度の年長児は今までのリーダーを見て憧れており、やっと自分が担える喜びを感じながら日々の支援に取り組んでいた。今後は、発達支援における異年齢の必要性をより探求していくものとする。
個別支援	児の発達課題に応じた支援、また次のできることを強みに変えていく支援など、多角的な視点のもと支援を行った。今後は、感情コントロールエラーや合意形成エラーなどが経験できるよう、個別支援においても基本的には他児と一緒に過ごす時間や場面を用意し取り組んでいく。
家族支援Ⅰ・Ⅱ	4～3月まで　合計94名　が参加済み　　（3月1日時点） ・計画的に案内し、随時希望する保護者に対し実施する。

保護者面談 発達相談	家族支援加算を利用して保護者との面談を行った。家庭での困りごとに対 する保護者支援の必要性を知ると共に、今後は、ルームでの支援を家庭支援に どう繋げていくか、検討を重ねることが必要である。
関係機関との連携	4～3月まで　合計５４名が参加済み　　（3月1日時点） ・就学にむけて小学校と連絡調整を行った。 ・所属している保育園・幼稚園との連携し、自施設における支援内容の調整を行った。

〈2〉計画した年間行事の振返り

別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	子ども主体の食育活動 ・協同性　・自立心　・言葉による伝え合い
	実践結果	・収穫した野菜からどのような料理ができるか、どんな料理を作り食したいかを子どもが考えて計画した。 ・料理に必要な食材の買い物、役割分担、調理、そして食すまでを子ども主体で行った。食への関心を深めると共に「できた」「食べられた」経験を増やせるように努めた。
	次年度方向性	・子どもが主体となって毎月食育活動の内容を決めていく。
2	計画・ねらい	生を食す経験 ・命をいただくことの理解
	実践結果	・東京卸売りセンターに行ったが、時間的に精肉鮮魚店は閉まっており見学ができなかった。 ・８月、２月にいわしの手開き食育を実施した。 ・６月、乳しぼり体験学習を実施した。
	次年度方向性	・鮮魚店の見学実施 ・本を通して命をいただくことへの理解を深める体験を行う。
3	計画・ねらい	コンポストの充実 ・食材の循環理解　・自然を感じる
	実践結果	・畑の畝にコンポストを設置したが、コンポストとしての活用には至らなかった。 ・室内で食育活動する際のコンポスト運用の仕方が難しく、発展させることができなかった。 ・できあがった堆肥で作物を育てた。
	次年度方向性	・ペットボトルコンポストの運用（室内）。 ・畑コンポストの運用。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
スタッフ検便	年1回実施
流行した感染症	報告すべきスタッフの感染症なし
発作・痙攣等の対応	預かりなし
エピペン使用できるスタッフの状況	・本日現在6名が、研修受講し、修得済み 未受講者なし
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	AED 設置なし。非常時使用できるように、スタッフで使用方法の動画視聴済み。
その他保健に関する取組	ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また、必要時には消毒・換気を徹底した。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回/15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	個人衛生点検簿/適宜	食育活動の際は必ず実施済み
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回/4･10月の施設内会議時 ⇒4月13日、10月27日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回/施設内会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日~9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	教材や玩具の配置の整備 ・危機管理　・美観への取り組み　・子ども主体の活動

	実践結果	・必要なもの、不必要なものの整備や整理整頓を行った。 ・子どもが自分でやりたいことを考え、選択し、安全に取り組むためにはどうしたら良いかを判断して行動できる環境を整備した。
	次年度方向性	・子ども主体で選択できる環境でありつつ、安全に配慮した環境の徹底を行う。
2	計画・ねらい	子ども用マップの作成 ・子ども主体の活動　・危機管理
	実践結果	・戸外活動内容別に子ども用マップを作成し、マッチング方式で実施した。 ・危機管理ができるようなハザードマップ的なものの作成には至らなかった。
	次年度方向性	・子ども用マップに限らず、子どもが自ら戸外場所を選択しやすい環境を用意する。
3	計画・ねらい	清掃時間の確保 ・美観への取り組み　・危機管理
	実践結果	・日々の清掃だけではなく、月に 2 回 15 分間スタッフ全員で集中清掃の時間を作るように努めたが、年度後半は月 1 回となってしまった。
	次年度方向性	・エアコンや換気扇の清掃や確認日を決めて必ず実施するようにする。 ・室外機の清掃について検討する。 ・月２回の集中清掃時間は必ず確保する。
4	計画・ねらい	子どもを見守る関わり ・子どもが自分で考えて行動する機会の保障
	実践結果	・支援の振り返りではスタッフ同士で意見を出し合い、一定の距離を保って見守る関わりができたか話し合った。 ・スタッフの立ち位置や声かけなどの事例検討は未実施であった。

〈7〉手作り遊具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	靴箱	支援室入口	月1回	異常なし
2	椅子	北島体験農園	月1回	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	防災 ・毎月、防災避難訓練を実施し、反省会を行った。子どもの安全な移動に注力するとともに、子どもの不安が増幅しないような対応を心がけた。 ・保護者や子どもたちにも変化が現れ、防災避難訓練への協力、子どもたちの避難時間の短縮など、訓練の効果が得られている。

2	実践結果	ケガ防止 ・ヒヤリハットな出来事の検証を日々実施し、けがを未然に防ぐ意識を高め、再発防止に努めた。 ・事故防止委員会の内容は自ルーム内のインシデントやヒヤリハットの事案が主であった。今後は法人内またはつむぎ内での事故報告を、必要に応じて施設内会議の議題にあげ、間接体験として捉えて話し合う必要がある。
3	実践結果	防犯 ・年2回の不審者侵入訓練を実施した。 ・笛は常時所持した。 ・施設周辺の変化は、建物管理者であるオーナーに適宜伝えた。
4	実践結果	光化学スモック ・光化学スモックの発令日は室内で過ごした。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

市報や SNS 等で実習やボランティアを受け入れているという情報を発信した。府中市社会福祉協議会を介したボランティア２受け入れあり。

〈2〉実習生の受入

なし

〈3〉中高生の受入

なし

7. スタッフ研修

〈1〉施設内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	4日 6名	14日 5名	3日 5名	1日 6名	28日 5名	2日 5名	7日 5名	15日 5名	9日 4名	6日 4名	18日 3名	14日 3名
施設内研修	25日 6名	24日 5名	28日 5名	24日 4名	23日 3名	20日 4名	25日 4名	15日 5名	27日 4名	24日 4名	27日 3名	14日 3名

〈2〉外部研修への出席

なし

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	21日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	11月に動画視聴にて実施（全スタッフ対象）											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

多様な世代との交流を積極的に行えるように心がけた。また市役所や市報、文化センターなどを活用し、情報収集に努めた。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育	月1回　　公園名：美好町公園にて　　参加延べ人数：21名
商店街ツアー	近隣の商店街に出向き、食育で使用する食材購入や、保護者へのプレゼント、長距離散歩時のおやつ購入など、月1回以上のペースで実施した。昨年度に引き続き消防署の見学も実施した。 お世話になった店や消防署には支援内でお礼状を書き届けるなど、継続できる関わりとなっている。
世代間交流	市のイベントは未参加。 北島体験農園にて子どもの祖父母世代の方々との交流を行った。
異年齢交流	卒園児や小学生と交流は、北島体験農園や、利用児の兄姉とのふれあい

	のみであった。
その他活動	7月、３月、府中市児童発達支援事業所連絡会　スタッフ参加 11月、府中市　発達障害者母の会「虹色てんとうむし」　スタッフ参加 ８月、ママチャーリーズ主催　就学相談会　スタッフ参加

9. 医療機関・幼稚園・保育園・小学校との連携の計画

〈1〉今年度の振り返り

医療機関との連携は電話で行った。幼稚園や保育園など利用児の所属園への連携は継続的に実施するように努めた。引き続き「連携の効果、内容」について検証し、保護者への周知もより濃く行えるように取り組む。 小学校においては、就学支援シートだけでなく、今年度以上に校庭開放や学校公開に進んで参加し小学校側にもつむぎを身近に感じてもらえるような計画を行う。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
6月1日	府中第5小学校 特別支援学級	1名	学校公開	スタッフ見学 教員と談話
6月12日	都立武蔵野台学園 特別支援学校	1名	学校見学	スタッフ見学 相談員と対話
７月４日	府中第１小学校 特別支援教室	２名	特別支援教室見学	スタッフ見学 教員と座談会
９月５日	府中第1小学校	２名	保護者座談会	教員と保護者の座談会
１２月５日	府中第２小学校 特別支援学級	２名	学校見学	スタッフ見学 教員と対話
２月 17～21日	府中第１小学校	6	校庭解放	子どもと小学生の交流

10. 個別支援計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

個別支援計画書の作成や更新、園訪問による見直しなど、保護者への提示は遅滞なく実施することが引き続きできている。策定会議は担当者と児発管の二者だけでなく、子どもに関わるスタッフが多く参加することで多角的な意見のもと、ルーム全体で支援するという形が定着した。

〈2〉進級引継、および小学校への引継状況

今年度も小学校への引継ぎは就学支援シートによるものが主であった。合計２２名の就学支援シートを作成した。小学校特別支援教室教員との座談会内容を踏まえ、就学支援シートをコピーし、各支援先で共有できるよう保護者に伝えた。今後は、より一層小学校側視線での内容作成に努め取り組む。

11. 子育て支援事業

実施項目	詳細												
子育て相談	なし												
青空保育	月1回　　公園名：美好町公園にて　以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	２名	1名	２名	０名	３名	３名	1名	２名	３名	０名	２名	２名	21名

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉施設による自己評価の実施

２０２４年４月１８日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：９時３０分
自己評価終了時刻：１５時３０分
自己評価実施者：田中誠　青木友子

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月15日
アンケート回収率：１００％

全体的には利用者から高い支持を得られた結果ではあった。支援内容において、子どもの興味関心に寄り添い、調理活動や戸外活動などの体験ができていることにたくさんの支持の声をいただいた。特に畑仕事については、土や水に触れる機会が多く、実のある体験になっているというご意見を多数いただいた。一方で、スタッフの入れ替わりに対して不安に感じるといったご意見もあり、安心した引継ぎができていることや、ルーム全体で支

援する大切さを、より丁寧に説明する必要性を感じた。今後も、保護者の小さな声を必ず拾いながら、不足していることへの改善を実施し、利用者の満足度がより向上するようなルーム運営を目指していく。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見　０件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む）　0件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：発達支援つむぎ 府中ルーム施設長　上田　朋子

２０２４年度　発達支援つむぎ 桶川ルーム
事業報告書
（発達支援つむぎにおける自己評価）

１．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

２０２４年度は、併設されているメリー★ポピンズ 桶川ルームとの連携をより一層強化していくことで、地域におけるインクルーシブモデルを確立していくことを目指してきた。その中でも事業計画における方針として目指してきた、①子ども自ら「生きる力」を手に入れることができる発達支援、②「遊び」を通して主体的な自己選択スキルを身に付けていける環境の提供、③就学を見据えた支援に係る小学校との連携、④畑仕事を通した食の循環への意識、⑤地域向け講座や相談会の充実に関しては、下記に示す通り１年を通して提供することができた。特に、地域の中でインクルーシブ保育の先駆けとなるよう、子どもをまんなかにした併設園全体の物的環境と支援体制の構築、外部向けの子育て相談会の実施やスタッフの勉強会に力を入れた１年だった。全ての子どもと大人が共に暮らし協働的に関わりながら生涯にわたる「意欲」と「生きる力」を育むため、多くのホンモノの経験ができる支援を実践していく。

①子ども自ら「生きる力」を手に入れることができる発達支援の提供

戸外活動を中心に、自然や道具といったホンモノに触れ感じ学びとることのできる経験の機会を提供した。子ども自身が気候の変化や危険に気付き、自ら調整できるようになっていけるよう見守り、子どもの姿に応じた支援を行った。また、併設のメリー★ポピンズ 桶川ルームと協働し、全ての子ども、大人の動線、環境を整え、丁寧に日課を行えるようにしたことで、１日の生活の流れを理解し、見通しを持って主体的に行動する子どもの姿が多くみられるようになった。

②「遊び」を通して主体的な自己選択スキルを身に付けていける環境の提供

併設園全体を使用したゾーン保育を実践し、その環境下での支援を提供した。子ども自ら環境を理解し活動を選び取る姿がみられている。また、スタッフが適切な距離をとり見守る中で、子ども同士の葛藤やうまくいかないことを充分に経験できる機会を作ることで、他者と折り合いをつける力が育まれてきた。

③就学を見据えた支援に係る小学校との連携

近隣小学校への見学に関しては、子ども、園スタッフと合同で学校公開に参加し、実際の小学校１年生の活動、姿、環境を確認し、就学を見据えた支援の実践につなげた。また、近隣の特別支援学校の特別支援教育コーディネーターの協力を得て就学に向けた講座を開催し、スタッフ、保護者様が多様な学びの場と個に応じた学習環境の選択と就学後の過ごし方について理解を深め、将来を見据えた家族支援につなげることができた。

④畑仕事を通した食の循環への意識

年間を通して畑や屋上園庭のプランターで畑仕事に取り組む環境を提供した。作物への興味関心の拡がりから、子ども自ら必要な作業に気付き、水やりや収穫をする姿みられた。また、畑で作った作物を調理し食す経験や給食を全ての子ども、スタッフと共に食べる経験から、これまでには食べたことのなかったものへの興味が拡がり食す子どもの姿がみられた。

⑤子どもをまんなかにしたインクルーシブ保育の実践と地域向け講座や相談会の充実

障害の有無に関わらず子どもも大人もともに過ごす環境を提供した。互いの姿をみて興味関心が拡がり、学び合う姿がみられている。また、地域のセンター的役割を担っていくことを目指し、インクルーシブ保育の実践についての勉強会やスタッフの専門性を活かした保護者や地域の方を対象とした講座や相談会を定期的に実施することができた。

〈１〉支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	戸外活動を充実させ、ホンモノに触れる原体験から子ども自身が学び取ることのできる支援を提供する。
	実践結果	今年度のつむぎ利用児については併設のメリー★ポピンズ 桶川ルームと多くの時間を共に過ごし、戸外で土や水で遊び、火を知る経験をつめる機会を提供した。また、包丁やのこぎり等危険を伴う道具の扱い方も経験から学べる機会を設けることができた。 一方で、戸外活動の割合は前年度よりも下がる結果となり、よりよい環境構築と全てのスタッフのさらなるスキルアップが望まれる。
	次年度方向性	今の子どもの姿をとらえ、真に必要な経験が積めるよう、併設のメリー★ポピンズ 桶川ルームと協働し、子ども、スタッフ動線を整理し、施設内に留まらない周辺環境を充分に活用したダイナミックなゾーン保育を展開する中で支援を提供していく。
2	計画・ねらい	子ども自らがいつでも経験の選択をすることができる物的・人的環境を設定する。
	実践結果	併設園全体を使ったゾーン保育を構築し、子ども、スタッフ動線を整理することで、子どもが常に活動を選択できる環境を提供した。結果として自ら選択し遊び込む子どもの姿が増え、安心して過ごせるようになってきている。その一方で、ビジターで来所するつむぎ利用児にとっては、より多くの子どもと触れ合う機会が増えたことでの不安感や葛藤についてご相談いただくことがあった。
	次年度方向性	引き続き子ども一人ひとりの育ちと心情をとらえた上で、必要な物的・人的環境と子どもの心に寄り添った支援を併設園全体で提供していく。そのために、保護者様、スタッフ間で丁寧に情報交換していく。 また、大人と一緒に遊びを経験することで知れる遊びや絵本や歌など、子どもたちの選択肢を広げ、マインドマップの作成やサークルタイムなど子ども自ら発信して環境を開拓できる機会を提供していく。
3	計画・ねらい	事業所における支援内容を可視化し、子ども、保護者とともに子どもたちの成長を感じる。
	実践結果	スタッフの専門性を活かしたポートフォリオを作成し、子どもの運動発達について保護者と共有することができた。一方で、アプリを活用したタイムリーな子どもの姿の共有については、安定した運用には多くの課題が残る結果となった。
	次年度方向性	引き続き成長を子ども、保護者様に実感してもらえるよう、ポートフォリオ等視覚的にわかりやすい形で支援内容と提示していく。また、役割分担を整理し、アプリをより活用したタイムリーな子どもの姿の共有を継続的に行えるよう仕組みづくりをする。

〈２〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

Ｉ	計画・ねらい	相手の気持ちに寄り添った関わりをすることで、安心できる場を提供する。
	実践結果	保護者交流会の開催の他、家族支援や在籍園との関係機関連携を保護者様のニーズに合わせて実施し、スタッフが保護者様の悩みや話しを聞き対応する機会を提供することができた。
	次年度方向性	保護者交流会、家族支援や関係機関連携について広報し、より多くの保護者様にご利用いただける機会を提供していく。
2	計画・ねらい	保護者交流会の機会を提供し、安心して相談できる環境を設定する。
	実践結果	メリー★ポピンズ 桶川ルームと協働し、保護者交流会を年間ＩＩ回実施した。うち8回は、つむぎ保護者様だけではなく、地域の保護者向けにも実施した。保育士、各専門士のそれぞれの専門性に合わせて話題の提供を行った。
	次年度方向性	今年度同様、保護者交流会に関しては継続的に開催し、保護者様が気軽に相談できる環境を設定していく。
3	計画・ねらい	保護者様との相談を充実させ、保護者様の気がかりをタイムリーに知り支援につなげる。
	実践結果	今年度より、マンスリー、ビジター（グループ）について支援時間を延長し、スタッフの支援時間が前年比で倍増していることから、支援直後のフィードバックにかけられる時間は相対的に短くなる結果となった。一方で、保護者様の相談ニーズについてはとらえ次第速やかに丁寧にやり取りさせていただく時間を設定し、家族支援の件数は昨年度より倍増している。また、併設のメリー★ポピンズ 桶川ルームと協働し、園利用保護者様からの相談件数が増加し、今年度3件の契約につながっている。
	次年度方向性	今年度を踏襲しつつ、次年度も積極的に家族支援、子育て相談を実施することで保護者様のニーズに応じた支援を展開していく。

〈３〉地域の子育て支援事業

Ｉ	計画・ねらい	地域における子育て支援の重要性をスタッフ全員が理解し、実践する。
	実践結果	保育所保育指針を勉強会等で読み解き、スタッフ自身が地域における子育て支援の重要性の理解をはかった。保護者交流会の定期開催や「だれでもアトリエ」といった気軽に集まれるイベント開催につながった。
	次年度方向性	引き続き、全てのスタッフが自らの専門性を地域に活かす方法を模索し実行していく。継続して地域に向けた子育て情報を発信していく。
2	計画・ねらい	地域の子育てをしている保護者様の安らぎの場となる。
	実践結果	散歩、青空保育などでスタッフと語り合ったことをきっかけに、子育て支援室を知り、継続的に利用する保護者様の姿がみられた。子育ておはなし会をきっかけに来訪する地域保護者様も前年比で増加している。

	次年度方向性	引き続き、地域の子ども、保護者様に施設を知ってもらい、利用したいときに気軽に利用できるよう地域の方と積極的に関わっていく。定期的に地域向け保護者交流会を実施し、保護者様とスタッフがつながる機会を設ける。
3	計画・ねらい	地域の関係機関との連携
	実践結果	地域の子育て支援センターや保健センター、自治体の相談支援窓口などにパンフレットを持参し、事業内容、子育て支援室についてお知らせした。また、桶川市子育てコンシェルジュの協力を得て、子育ておはなし会について地域に向けた広報をした。
	次年度方向性	引き続き、地域の子育て支援関係機関とのつながりを保ち、地域の子育て支援ネットワークを強化していく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	スタッフ自身が自ら学び、施設内研修を行う機会を設けることで、スタッフの自身の発信力とスタッフ全体の支援の質の向上、及び獲得を図る。
	実践結果	半数以上のスタッフが自らの専門性に基づき研修を実施した。また、保護者交流会の機会に自らの学びをアウトプットする機会を作り、保護者にわかりやすく伝えることを意識する経験を積むことができた。 また、埼玉福祉保育医療製菓調理専門学校の障害児保育のゼミにスタッフ2名が参加し、保育士を学ぶ学生の視点について知り、当施設での実践等これまでの学びや視点について学生に伝えた。
	次年度方向性	次年度も継続してスタッフ自身の専門性に基づいた子育ての研修を、併設されたメリー★ポピンズ 桶川ルームのスタッフと協働して行うことで、桶川ルーム全体の支援スキルの向上を目指す。また、学びを施設内研修だけではなく、広く外部に向けて発信する機会を設け、アウトプットするスキルを高める。
2	計画・ねらい	小学校就学にむけたアプローチカリキュラム、スタートカリキュラムを理解する。
	実践結果	子育ての質を上げる会議に参加したメンバーを中心に、小学校接続について動画視聴やディスカッションをして学ぶ機会をもつことができた。
	次年度方向性	計画していた小学校訪問等の子ども交流、スタッフ交流が、実際には下回る結果となった。事前に自治体教育委員会、小学校と密接に連携を取り合うことで、スタッフ全員が特別支援学校を含む学校へ見学、連携に行くことができるようにする。
3	計画・ねらい	地域における各種会議、及び他施設見学の積極的参加
	実践結果	同法人内の児童発達支援、保育園の訪問を行い、スタッフの半数以上が他施設見学を行うことができた。一方で、地域の自立支援協議会への参加については、前年比で減少する結果となった。地域における各種会議の開催情報がタイムリーに把握できるよう上尾・桶川・伊奈基幹相談支援センターと連絡調整を行った。上尾市主催のサービス担当者会議に児童発達支援

		管理責任者が参加した。
	次年度方向性	次年度も引き続き、法人内での交換連携も含め、他施設への連携を積極的に実施する。他法人との交流も積極的に図り、地域で互いに学び合える土台を作っていく。連携して得た学びを自施設スタッフにアウトプットできる場を設け、全スタッフの学びにつなげる。地域における各種会議の開催情報を確実に取得し、可能な限り自治体の会議や研修に参加し、地域の現状を知り視野を広げ、自施設の地域での役割を考える機会をもつ。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	畑仕事、調理、食材加工、捌いて食べる等の活動を通し、食材や食の循環や環境への意識を育む環境教育を実践する。
	実践結果	野菜を畑やプランターで育て、収穫し、食する経験を通じ、食について考える機会を作った。自ら調理して食する活動を通して、これまで食べられなかった食材を食す子どもの姿が見られた。調理後の野菜くずから再生栽培することにも挑戦し、成長の様子を感じる共に、食材に対する意識の変化も感じられた。
	次年度方向性	畑仕事、調理活動を通して、食に関心が持てるように引き続き取り組みを強化する。魚の解体等を通して、食の循環や命をいただくことについても学べる環境設定を行っていく。
2	計画・ねらい	給食残渣を減らすことで、廃棄に係る環境負荷を減らし、食べ物を大切に消費する。
	実践結果	子どもの食事環境の見直しを行い、スタッフも子どもと食事を共にし、一人ひとり丁寧に関わることで、残渣削減に繋げた。
	次年度方向性	残渣を減らすことで環境負荷が減っていく仕組みを子どもと一緒に考え取り組みを行っていく。子どもの好みや食事量を把握し、スタッフ間で共有し、子ども自ら配膳する際に適切な量に調節できる力を育てていく。
3	計画・ねらい	木や竹、花等に触れる機会を作り、木育を行うことで、環境保全の意識を持つ。
	実践結果	どろんこ祭りで木工遊びを行ったり、竹でランタンを作ったりして、木と触れ合う機会を多く持つことで木育の推進を行った。 全国植樹祭の苗木のスクールステイを行い、水やりを行い、木を育てる経験を積むことができた。
	次年度方向性	引き続き、木や花とのふれあいの機会を増やし、森林保護について関心を持つことで緑を大切にする心を育んでいく。 また、関係機関とも積極的に関わり、環境について考える機会を持つ。

〈6〉インクルーシブ保育の実践

1	計画・ねらい	併設園の強みを活かしたインクルーシブ保育を実践する。

	実践結果	メリー★ポピンズ桶川ルームと協働し、スタッフの垣根なく、全ての子どもが自ら人・活動を選択して過ごせる環境を構築することができた。 スタッフそれぞれの専門的視点で、施設を利用する全ての子どもに対して随時アセスメントを行い、子どもの育ちをスタッフ、保護者様と共有した。
	次年度方向性	引き続き、子どもも大人も共に育つインクルーシブ保育が推進できるよう、併設園内での取り組みを整理し学びを深め実践していく。
2	計画・ねらい	全ての子どもの育ちを全てスタッフが共有する。
	実践結果	園会議や週会議で子どもの育ちについて共有し、アセスメントし支援することを継続して行うことができた。一方、タイムリーな支援目標の共有と深い理解という点に関しては、改善の余地がある結果となった。
	次年度方向性	引き続き、支援目標については、タイムリーにスタッフ全体で共有し、必要な環境構築ができる仕組みを作っていく。
3	計画・ねらい	スタッフ一人ひとりがチームとして意識を高める。
	実践結果	スタッフ一人ひとりが自らの専門性を併設園のチームの中で発揮する方法について模索し実行することができた。
	次年度方向性	スタッフ間の連携については、より一層強化していく。また、これまでの各自の実践を整理し共有することでチームとしての子育て力を高める。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

児童発達支援　利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	144人	148人	153人	161人	194人	167人	202人	193人	197人	201人	190人	188人	2138人
登録児数	32人	32人	32人	33人	33人	36人	34人	34人	35人	35人	35人	35人	406人

（解説）平日マンスリー、平日グループ、平日個別、土曜日グループ

〈2〉開所時間

８時３０分～１７時３０分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

施設長1名
児童発達支援管理責任者1名
保育士2名
機能訓練担当4名（作業療法士1名、理学療法士1名、心理指導担当職員2名）

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
施設内会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・施設長会議からの報告事項確認 ・各スタッフによる研修
給食運営会議	月1回	・給食計画実施内容の確認 ・喫食、残食状況の確認と共有 ・配膳、片付け方についての提案 ・離乳食・未食・アレルギーの確認と共有
事故防止委員会	月1回	・ヒヤリハット、インシデントの分析及び安全対策 ・自園及び系列園で起きた事故のケーススタディ ・ハザードマップの見直し
支援計画策定会議	適宜	児童発達支援管理責任者を中心に、支援に携わるスタッフが参加。基本人数3名以上で計画作成時期に合わせて開催。
つむぎ会議	月2回	マンスリー利用児の月間支援目標策定、環境調整に係る会議

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
児発管会議	月1回	児発管
併設園会議	年2回	施設長
食育会議	年4回 （5.8.11.2月）	施設長 調理スタッフ

保健会議	年4回 （5.8.11.2月）	施設長
子育ての質を上げる会議	月1回	スタッフ

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	・手洗い指導 　スタッフへの習慣づけを促し、そこから真似をする子どもたちへの促しを行った。 ・熱中症対策 　絵本や紙芝居等を用いて、熱中症に対する意識を持てるようにした。
安全対策係	・避難靴のサイズ確認を定期的に行い、保護者様に促した。 ・園内、公園で危険個所を洗い出し、ハザードマップに追記した。 ・毎月ヒヤリハットを集計分析し、事故防止を図った。 ・園内の修繕が必要な箇所には、適切に修繕を入れた。
防火管理者	・毎月の避難訓練の実施、消火訓練の実施。 ・訓練前は、ポスター掲示を行い、近隣に周知した。 ・毎日、毎月、必要時の点検を行った。
食品衛生管理係	・調理室の衛生管理 ・離乳食、未食、アレルギーの対応
畑係	・畑、屋上プランターの整備 ・作物栽培の計画、準備、購入 ・畑仕事に必要な物品の発注、管理

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係 （併設園合同）	保護者の主体性を尊重しながら、計画、準備、活動を共に行った。地域の方への広報も力を入れたことで、集客数も集まり、盛大に行うことができた。 秩父市から借りた木のボールプールを設置し、乳児も木との触れ合いを楽しめるコーナーを作り、木育の促進を行った。
運動会係 （併設園合同）	園庭で実施し、子どもたちは普段の様子をのびのび見せることができた。

生活発表会係 （併設園合同）	子どもたちの成長の様子を見ていただけるように、園内での開催とした。各クラスの発表の他、製作を自由にみていただける部屋を作り、成長を感じていただける機会とした。
入園式、卒園式係 （併設園合同）	手作りの入園式では、温かい雰囲気の中、子どもたちも落ち着いて参加し、入園に期待を持つことができた。

4．支援・処遇

〈1〉保護者面談 および発達相談・児童の保護者への支援および意見要望への対応

マンスリー	マンスリーに関しては、利用者アンケートも含め保護者の方々より概ね肯定的なご意見を頂くことができた。 以下、保護者に対する主な支援を記す。 〇送迎のタイミングで日々の活動のお伝えを丁寧に実施した。その中で、日々の悩みや成長した姿などの聴き取りを都度実施し、保護者からの希望に合わせて家族支援を提供した。 〇延長支援を提供することで、就労等の保護者の選択肢の幅を拡げることができた。 〇保護者交流会を定期的に開催することで、日々の子育てに必要とされる研修と保護者間での交流の機会を提供した。 〇つむぎ利用児の在籍する保育園、幼稚園、他事業所を訪問し、情報共有を行い、つむぎと関係機関のつながりのある支援を展開できた。
ビジター （グループ）	ビジター（グループ）に関しては、利用者アンケートも含め保護者の方々より概ね肯定的なご意見を頂くことができた。一方、併設園児と共にする環境構成、活動設定にはご相談を頂く機会があったため、今後の検討事案となる。 以下、保護者様に対する主な支援を記す。 〇グループでは、保護者様に対するフィードバックが全体に向けたものになることが多くあった。子どもたち一人ひとりの様子は適宜お伝えする等、時間を設けながら実施した。 〇活動内容に関しては、前年度に引き続き、戸外活動や併設園合同のインクルーシブな環境下での活動が中心になったことにより、保護者の方が見えない形での支援が展開されることが多かった。そのため、支援の内容を写真や動画などの映像媒体に収め、活動内容を適宜お伝えできるように実施した。 〇マンスリー同様、つむぎ利用児の在籍する保育園、幼稚園との園訪問や、つむぎふじみ野の保育所等訪問支援員と協働し、つむぎと在籍園とのつながりのある支援を展開できた。また、保護者様に安心感をもっていただけるよう連携内容については適宜丁寧なフィードバックを行った。

ビジター （個別）	ビジター（個別）に関しては、利用者アンケートも含め保護者の方々より概ね肯定的なご意見を頂くことができた。一方、インクルーシブな環境下で戸外活動中心の個別支援となったため、保護者様にとってわかりやすい支援の展開という点では前年度に引き続き難しい面が残った。 以下、保護者様に対する主な支援を記す。 〇周辺自治体相談支援担当者に対して、支援環境や基本方針について丁寧な説明を行い、利用を検討する地域保護者様が当事業所の特色を理解した上で選択していただけるよう情報を共有した。 〇問合せやアセスメント段階で保護者様に対しても当事業所の特色を丁寧にお伝えした。結果として、より当事業所の特色が伝わるマンスリーやビジター（グループ）を選択する家庭が増えた。
家族支援	4～3月まで　合計50名　が参加済み　　（3月1日時点） ・施設内掲示等でスタッフ側からも積極的にお話を聞く機会を設定することで、昨年度より多くの利用児保護者の方々に家族支援を提供することができた。 ・毎月実施した保護者交流会の機会にグループで家族支援を提供することができ、保護者同士の相互支援につながった。
保護者面談 発達相談	上記家族支援にて実施。
関係機関との連携	4～3月まで　合計30名　が参加済み　　（3月1日時点）

〈2〉計画した年間行事の振返り

別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	食を楽しめるような環境を設定し、食への興味・関心を拡げる。
	実践結果	親子で参加できる体験学習で調理実習を実施した。自ら調理することで、これまで食べられなかった野菜を食す姿がみられ、保護者様からも肯定的なご意見をいただいた。
	次年度方向性	メリー★ポピンズ 桶川ルームと協働し、日々の支援の中でも食育を実践し、食への興味・関心を拡げていく。
2	計画・ねらい	保育士、栄養士、専門士のすべてのスタッフが口腔発達を理解し、食事提供を行う。
	実践結果	口育士を講師に招いて、スタッフの勉強会を行い、口腔発達の理解を深めた。離乳食の実際の与え方なども学び、実践に活かすことができた。

	次年度方向性	次年度もスタッフの勉強会等を行い、口腔発達の理解を深め、適切な援助ができるようにする。
3	計画・ねらい	自然の恵み、命の大切さに気付く
	実践結果	畑で育てた野菜を収穫して食す経験や、野菜のリボベジにも挑戦した。
	次年度方向性	自分たちで育てた作物を調理する機会を多く作っていく。また、魚の解体や鶏の解体等、スタッフが学びを深め、子どもが命をいただいて食す経験ができる機会を提供していく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
流行した感染症	流行した感染症はなし
発作・痙攣等の対応	今年度該当対応は発生せず
エピペン使用できるスタッフの状況	・本日時点で、在籍スタッフ8名のうち、8名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	・10月5日にメリー★ポピンズ 桶川ルームにて救急救命講習を行い、1名のスタッフが参加。本日時点で、在籍スタッフ8名のうち、8名が使用可能
その他保健に関する取組	・新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。 ・5歳児に対し、胎児人形等を使って性教育を行った。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み

	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の施設内会議時 ⇒4月12日、10月11日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間　実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	整理整頓を徹底し「必要なもの以外置かない」施設づくり。
	実践結果	施設内全体で片付けの意識をもって運営に取り組むことができた。一方で、内部監査での指摘事項に関してはスタッフ動線を考慮した細かい部分での修正が求められる。
	次年度方向性	内部監査における指摘事項の是正を中心に、仕組みづくりを施設全体で取り組んでいく。
2	計画・ねらい	子どもの主体性を引き出す、自己選択、挑戦ができる環境づくり。
	実践結果	併設するメリー★ポピンズ桶川ルームと合同での環境づくりに取り組んだ。子ども、スタッフの動線を考え、施設内全体を使ったゾーンを展開することができた。目の前の子どもの姿に応じて物的環境を整えた。併設園全体の子どもが選び取って遊べる空間を提供したことで、子どもたちが遊び込み、落ち着いて過ごせる環境となった。また、様々な遊びが展開される環境下で支援を行うことで、興味関心の拡がりや自発的なやりとりが深まる姿が見られた。
	次年度方向性	引き続き、子どもを真ん中に、子どもとスタッフと協働しながら環境設定をしていく。
3	計画・ねらい	ホンモノに触れる経験のできる機会の提供。
	実践結果	昨年度に比べ支援時間を延長し、併設園との合同での活動を増やしたため、戸外での活動場所を拡げることができ、様々な環境で刺激に触れながら活動に取り組むことができた。また、木のボールプールや、竹のランタン、クラリネットなどの楽器に触れる機会を作った。
	次年度方向性	次年度は、全ての活動を園と合同で行い、より多くのホンモノに触れる機会を設け、桶川ルーム全体で活動選択の幅を拡げていくことを目指す。

〈7〉手作り遊具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
I	棚	支援室（収納内）	毎日	2024年3月3I日 解体・撤去
2	配線 BOX	事務室	毎日	2024年3月3I日撤去

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

I	安全管理	物的環境を含めた安全管理について、ディスカッション、インシデント、ヒヤリハット分析を丁寧に行い、結果を全スタッフで共有し、園会議を通してディスカッションする機会を設けることで、常にスタッフ全員が利用児の安全を鑑みた支援を提供できるように留意した。
2	危機管理	マニュアルの読み合わせ、BCP の説明を通し、受診を伴う事故発生時の対応の流れの理解、及び病院への付き添い等を実施した。
3	救命講習の実施	併設されたメリー★ポピンズ 桶川ルームと合同で救命講習を実施し、全スタッフが受講済みとなった。
4	防火管理	月I回の消火訓練、及び年2回の総合避難訓練を通じ、全スタッフが火災発生時の避難経路や避難体制の確認を定期的に確認することができた。
5	光化学スモッグ対応	光化学スモッグについての対応を確認し、発生時の動きについてスタッフ間で共有する機会を設けることができた。

6. 実習生・中高生の受入

〈I〉今年度の振返り

今年度は、実習生をI名、施設実習として受け入れており、事業計画に記載した受け入れ方針に基づいて実習指導を実施した。併設園ならではのインクルーシブな環境における児童発達支援の学びを提供することができた。また、多職種の視点に触れ、多角的なアセスメントやチームでの支援の実践に触れる機会を提供した。一方で、中高生の受け入れに関しては、今年度は受け入れ人数が0人であったことから、次年度以降、各自治体教育委員会、本社採用部と連携しながら積極的な受け入れを目指していく。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
I0月30日～II月I2日	埼玉福祉保育医療製菓調理専門学校	I人	施設実習

〈3〉中高生の受入

今年度該当なし

7. スタッフ研修

〈1〉施設内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	12日 8名	10日 8名	7日 7名	12日 8名	9日 8名	6日 8名	11日 7名	8日 7名	6日 6名	10日 8名	21日 8名	2日 8名
園内研修	12日 8名	10日 8名	7日 7名	12日 8名	9日 8名	6日 8名	11日 7名	8日 7名	6日 6名	10日 8名	21日 8名	2日 8名

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
8月1日～ 8月20日 8月20日～ 31日 12月20日	有限会社プログレ総合研究所	令和6年度埼玉県サービス管理責任者等基礎研修	1名	有
2月1日～ 2月14日 2月24日	有限会社プログレ総合研究所	令和6年度埼玉県サービス管理責任者等実践研修	1名	有

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	21日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	12月に動画視聴にて実施（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	今年度該当無し											

ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	今年度該当無し

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

近隣の保育園や幼稚園、小学校、商業施設等との関わりを持ち、コミュニケーションを大切に関わった。また、保護者や地域の方を対象とした子育て相談会を商業施設内にポスターを掲示し集客を行った。子育てに不安を抱える地域の方が集まり、話の出来る機会を作る、アートを介して幅広い世代に気軽に集っていただける機会の提供を行うことができた。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育	月1回　　公園名：駅西口公園にて　　参加延べ人数：14名
商店街ツアー	週1回　主な行き先：東武ストア、消防署、マクドナルド、中央図書館、保健センター、ひまわり堂、日本メディカル、稲荷神社、桶川駅、郵便局、市民ホール、ハートスマイル、ぷちとまと等
世代間交流	月1回にトミオ桶川べにばなテラスにてシニア交流を実施
異年齢交流	8月1日にメリー★ポピンズ 桶川ルームにて桶川西高校移動水族館を実施
その他活動	地域向け保護者交流会　全8回実施。 「だれでもアート」　全2回実施。 12月26日におけがわマインエンジョル広場にてクリスマスコンサートを実施

9. 医療機関・幼稚園・保育園・小学校との連携の計画

〈1〉今年度の振り返り

今年度は近隣の幼稚園、保育園に園訪問という形で連携をすることができた。また、つむぎふじみ野ルームにおける保育所等訪問事業につなげ、在籍園と協働した支援を展開することができた。前年

度課題となっていた近隣の特別支援学校との連携については、上尾特別支援学校の特別支援教育コーディネーターと連携し、保護者の方、スタッフ交流を行い、就学にむけて理解を深める機会をもつことができた。次年度も交流に関しては継続しつつ、他事業所との交流に関してはより一層強化し、地域の中で連携の幅を拡げていく。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
5月25日	桶川小学校	20名	運動会を見学しよう （桶川小校庭）	子ども間交流
6月11日	上尾特別支援学校	7名	就学相談について （当施設支援室）	保護者交流 スタッフ間交流
2月11日	桶川小学校 1年生	11名	授業参観 （桶川小教室）	子ども間交流
2月26日	朝日小学校	11名	通学路を歩こう （朝日小学校）	子ども間交流

※関係機関連携として園訪問、スタッフ間交流した具体的な連携内容については、利用児のプライバシーに配慮し未掲載とする（実施延べ人数については４〈1〉表、関係機関との連携参照）。

10. 個別支援計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

個別支援計画は、子どもの多様なニーズを総合的に把握するためにアセスメントを行い、特性や発達段階を丁寧に把握し、それに応じた支援目標を設定した。支援目標を達成するために必要な支援について「本人支援」「家族支援」「地域支援」などにおける具体的な支援内容を設定した。「本人支援」では本人の課題に応じて理学療法士等による専門的支援を計画的に実施した。策定会議では、支援計画のみではなく、日々の保育・支援状況の共有の場とし、多職種の視点からの意見が充実した会議を行った。

〈2〉進級引継、および小学校への引継状況

年長児に関しては希望する全ての利用児に対して就学支援シートを作成し、就学にむけた円滑な接続を目指した引継ぎを実施した。支援の必要な利用児に行ってきた援助、支援内容を引き継ぎ、入学後の円滑な学校生活に繋げることを目的に作成した。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
25名	39名	36名	439名	72名	107名	183名	117名	42名	67名	65名	70名	1262名

実施項目	詳細												
施設開放	（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　来園延べ人数：1262名												
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　⇒計2件相談実施済み												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週（水）10:00～12:00 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週（水）10:00～12:00 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00　にて実施												
ちきんえっぐだより	毎月1日発行												
青空保育 （支援センター主催）	月1回　　公園名：駅西口公園にて　以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	8名	4名	0名	0名	0名	0名	0名	2名	0名	2名	4名	20名

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉施設による自己評価の実施

２０２５年３月３日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：１４時００分
自己評価終了時刻：１４時３０分

自己評価実施者：糸賀若奈、吉見奈緒子、岡﨑勇也、矢ケ崎紗千恵

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月I５日
アンケート回収率：１００％

利用者アンケートに関しては１００％のご家庭にご回答をいただくことができた。また、結果に関しても概ね肯定的なご意見をいただいており、日頃の施設運営にご理解いただけていることがうかがえた。また、例年ご意見をいただいていた他関係機関との連携に関しては、連携を強化した結果を評価していただけた。次年度以降も継続しより一層の強化を図っていく。

I3. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈I〉報告すべきご意見

報告すべきご意見　０件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む）　０件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年3月I５日　　作成者：発達支援つむぎ 桶川ルーム施設長　糸賀 若奈

２０２４年度　発達支援つむぎ 北千住ルーム
事業報告書
（発達支援つむぎにおける自己評価）

１．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

今年度は、Doronko グループの2024年度運営方針に基づき、北千住どろんこ保育園と併設する児童発達支援事業所として、継続しているインクルーシブ保育の基盤を大切にし、にんげん力を育てる支援を展開した。園児と一緒に生活できるインクルーシブな環境を最大限に活かし、園児と利用児が一緒に生活し、多様性を認め合うことができる環境で継続して支援を提供した。

「生きる力」や10の姿を育むために生活に沿った支援を行い、また主体的に遊びを選択できる環境構成を行った。戸外活動ではセンスオブワンダー、人対人コミュニケーションを大切にし、子どもたちが活き活きと友達と遊びを広げる姿や、自然環境にじっくりと向き合う姿が見られ、実体験に基づいた支援を積み上げることができた。

〈１〉支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	インクルーシブな環境での見守る、選択できる支援
	実践結果	つむぎ利用児と保育園児が一緒に生活する環境を設定し、両施設のスタッフ間で双方の子どもを見守る意識が高まっている。つむぎと保育園の両方に登録がある利用児に関しては、生活の基盤としての園生活を一緒に見守りながら、自分で考えて行動する力や友達とのコミュニケーションを深める関わりを見守り、必要に応じて仲介する支援を行った。遊びの中では合意形成エラーやコミュニケーションを広げる場面が多く見られた。
	次年度方向性	日々の活動の中で遊ぶ場所、遊ぶ相手を選択できる環境を設定し、他者との関わりや活動への参加を見守り、主体的な関わりや行動が増えるように支援を行っていく。
2	計画・ねらい	「生きる力」を育む、生活に沿った支援
	実践結果	マンスリー支援、ビジター支援共に畑仕事やリズム体操、雑巾がけ等の生活に沿った支援を展開した。畑仕事に関しては、天候不良や日光不足などで不作ではあったが、子どもたちと一緒に野菜や食品の加工を経験する中で食に対する意識や、生活の中で必要な技能、やらなければならない仕事などの経験を積むことができた。
	次年度方向性	日課や日々の遊び等を継続して積み重ねることができ、成功体験や達成感を積み上げることができる支援を展開していく。
3	計画・ねらい	話し合い、選択する活動の充実
	実践結果	グループ支援では自分たちで遊びを決める時間ややることを話し合う環境を設定していった。その日だけで終わらず、次の週や長い期間での見通しを持ち、活動を選択し、主体的に取り組む姿が見られた。マンスリー支援において、遊びの選択や遊ぶ相手を選ぶ等、自分たちの主体性を発揮できるように友達との関わりを見守り、必要に応じて支援を行った。

	次年度方向性	引き続き、話し合い、選択する活動を充実させ、合意形成エラーや協働性、主体性を育む支援を展開していく。

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	日々の困りごとの解決、家庭でできる支援を一緒に考えていく
	実践結果	日々の支援の振り返りを保護者と行い、家庭での様子や母体園での様子を聞き取り、支援の中での狙いと繋げ、家庭でできる支援や関わりを一緒に考えることを実施した。必要に応じて家庭支援加算を算定し、保護者と困りごとの共有や子どもの考え、行動から類推できる気持ちを一緒に考え、適切な関わり方や保護者支援を実施した。
	次年度方向性	保護者との振り返りの時間や、家庭との連携を密に図りつつ、保護者同士の繋がりや地域との繋がりを広げていく。
2	計画・ねらい	丁寧な言葉遣い、所作を行い、最上級の接遇を提供する
	実践結果	受け入れから帰宅するまで、心地よいあいさつやコミュニケーションを心掛けて行った。門扉の出入りや保護者が子どもの対応に困る場面では必要に応じて、子どもの気持ちを立て直し、安全に帰宅できるように支援を行った。また保護者の困りごとや不安な気持ちが増さないように、家庭連携加算の支援制度を積極的に案内し、親身に話を聞く時間を設け、心地よい空間を提供することを心掛けた。
	次年度方向性	継続して心地よい空間や安心できる空間の提供を行い、保護者同士の安らぎの場所になるように保護者支援を行っていく。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域に根付いた事業所になる
	実践結果	併設する北千住どろんこ保育園と連携し、架け橋プログラムや足立区の幼保小連携について、資料を確認することや学校公開に参加し他機関との連携を図った。どろんこ祭りや園庭開放などでつむぎを知ってもらう機会を設け、新規の相談につなげていった。就学支援として、日々の支援について小学校に向けた就学支援シートで情報提供を行い、教育機関との連携を密に図っていった。
	次年度方向性	地域に開かれた事業所、相談がしやすい事業所として、発達相談会の開催や、卒園児保護者座談会など地域と繋がる支援を展開していく。
2	計画・ねらい	地域の発達支援事業所や相談支援事業所との連携を強固にしていく
	実践結果	地域の相談支援事業所と連携を密に図り、情報提供や利用児の見学を受け入れ、地域全体で支援を行っていく体制を図っていった。必要に応じて足立区との連携も図り、相談支援事業所の利用促進や包括的な支援を展開できるように連携を図った。
	次年度方向性	地域の発達支援事業所や相談支援事業所との密な連携を図り、利用児や保護者が安心して支援を受けられる体制づくりを行う。

3	計画・ねらい	誰もが自由に使えるカフェ、憩いの場所の提供
	実践結果	ちきんえっぐや園庭開放等の利用に伴い、カフェで過ごす地域の方の受け入れを行った。つむぎの利用希望の方でお待ちいただいている方にも積極的に声をかけ、園庭開放やカフェの利用につながっている。
	次年度方向性	地域の方の利用頻度はまだ少ない状況の為、より開かれた事業所として保護者同士の繋がりや、地域との繋がりを強化していく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	法人内のインクルーシブ保育・支援のモデル園になるための支援の質向上
	実践結果	法人内の研修や会議において自園の取り組みを発表することを行った。また併設する北千住どろんこ保育園と一緒に公開保育を行い、インクルーシブ保育・支援の形態を伝え、より良い保育・支援を検討し改善を図った。
	次年度方向性	スタッフ一人ひとりの支援の質を向上し、それぞれが連携を密に図り、自立・自律したチームの構築を行っていく。
2	計画・ねらい	生活力や接続期に必要な支援の質向上
	実践結果	法人内の会議において生活力を高めるための研修に参加し、園会議において共有を行い、スタッフの支援の質向上を図った。また園会議で専門知識を保育園スタッフと共有する研修を行い、併設園全体で支援の質を向上できるように図った。
	次年度方向性	それぞれの専門性や経験、知識を共有し、尊敬できる関係性を構築し、風通しの良いチーム構築を行っていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	必要な物のみがある選択しやすい美しい環境
	実践結果	支援室やカフェなど必要な物のみがあるように美観を意識した。幼児室や園庭、畑などの環境について保育園スタッフと一緒に考えながら、環境整備を行い、日々の清掃や美観を保てるように注力した。
	次年度方向性	引き続き美しい環境を整えながら、遊びや活動が選択しやすい環境設定を行っていく。
2	計画・ねらい	一人ひとりが美観、環境設定を意識する集団
	実践結果	支援室やカフェ、事務所などの美観を意識し、日々の清掃や必要に応じて環境設定を調整した。季節を感じられる壁面や子どもたちの成長を感じられる環境も調整し、子どもや保護者が過ごしやすい環境を設定した。
	次年度方向性	美観や環境設定を行い、心地よく過ごせる空間を意識して環境を設定していく。

〈6〉併設モデル園としてのチームビルディング

1	計画・ねらい	多職種の視点の理解、発達を理解した連携力の向上

	実践結果	園会議において研修を実施し、多職種の視点を共有する機会を設けた。また保育園の支援児会議に同席し、つむぎ利用児の状況の共有や、行動特性、発達の段階を園スタッフと共通認識を図った。
	次年度方向性	専門的な視点の理解、発達を理解した連携力の向上
2	計画・ねらい	業務の効率化、自律した集団の形成
	実践結果	利用児の休みや空き枠が出た際の振替の仕組み作りを強化し、日々利用定数が一定になるように支援を展開した。スタッフ一人ひとりが意識して利用児の最大限の利益が得られるように支援の量、質を高めていった。
	次年度方向性	子どものねらいを理解した双方向支援の実践

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

児童発達支援　利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	241人	234人	247人	258人	253人	230人	237人	222人	218人	202人	187人	200人	2729人
登録児数	33人	34人	35人	37人	37人	37人	37人	37人	36人	36人	36人	36人	37人

（解説）今年度は日々10名利用を厳守し、事前キャンセルや当日欠席の振替や、キャンセル待ちのスポット利用など、スタッフ一人一人が意識して利用者に声掛けを行った。また併設する北千住どろんこ保育園の園児でつむぎ利用希望の方に対して、事前に保護者に承諾を頂いたうえで、当日枠が空いた時にご案内し、支援をおこなった。下半期はスタッフ体制や支援体制確保の為、振替を行うことが難しい日があり、支援の質を保つことを優先に行った。

〈2〉開所時間

８時３０分～１７時３０分

〈3〉スタッフ構成　（３月１日時点）

施設長兼児童発達支援管理責任者1名
保育士2名
機能訓練担当１名（言語聴覚士１名）
児童指導員１名

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
施設内会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・美観や環境設定、散歩時のリスク管理、水辺の事故防止、全体研修など保育、支援に関する研修
給食運営会議	月1回	・食育計画策定、食育活動の実施報告 ・日々の給食の喫食状況の確認、配膳方法の検討を実施 ・アレルギー児の対応確認、支援が必要な利用児への配慮事項の検討
事故防止委員会	月1回	・事故報告書の分析、再発防止、ヒヤリハット、インシデントの報告
支援計画策定会議	適宜	・支援計画作成に伴い、開催時期を調整し実施 ・マンスリー支援、グループ支援それぞれの担当者と児童発達管理責任者が必ず参加できる時間帯に実施
要支援児会議	月1回	・個別支援計画を基に、園の保育者と共に子どもの姿を振り返り共有。その中で、子どもにとってよりよい関わり方について、見直し検討

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
児発管会議	月1回	児発管
併設園会議	年2回	施設長
食育会議	年4回 （5.8.11.2月）	施設長 調理スタッフ
保健会議	年4回 （5.8.11.2月）	施設長
子育ての質を上げる会議	月1回	スタッフ

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	日々の清掃、感染症予防及び情報提供、カフェや支援室、トイレなどの清潔が保てるように管理を行った
安全対策係	併設される北千住どろんこ保育園と協働し、事故防止に園内外に於けるリスク管理に努めることで重大インシデント防止に努めた。
防火管理者	併設される北千住どろんこ保育園と協働で消防計画を作成、毎月の避難訓練及び不審者侵入訓練を実施した。
食品衛生管理係	マンスリー利用児に於ける給食提供について、食事形態や食具などについて連携した。
畑係	併設する北千住どろんこ保育園およびメリー★ポピンズ北千住ルームの係同士で連携し、畑の配置、畝づくり、植える作物の確認など実施した。
生き物係	ヤギや鶏、亀、金魚の飼育管理、動物や植物に触れる機会の検討立案を行った。

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	併設園として一緒に企画、運営を行った。また保護者と協働的に準備・進行を行い、当日は約400名の来場者の方に楽しんでもらうことができた。
運動会係	併設の両施設のスタッフで協力し、当日の流れや前日までの準備物を確認しながら計画的に準備することができた。またマンスリー利用児や園児が参加しやすい取り組みを一緒に考え、実施することができた。
生活発表会係	併設園として日々の成長を保護者に伝える場として設定し、開催することができた。劇遊びやダンス、お店屋さんごっこなど、 日々の活動の延長線としての姿を保護者の方に見ていただくことができた。

4．支援・処遇

〈ｌ〉保護者面談 および発達相談・児童の保護者への支援および意見要望への対応

マンスリー	・併設する北千住どろんこ保育園と一緒に養護の視点を大切にしつつ、子どもの主体性が発揮できる支援を実施した。戸外活動で自然探索や子ども同士のやり取り、ルールのある遊びの展開など身の回りの自然や、他者と遊ぶ楽しさ、心地よさを経験できるように支援を行った。園児と生活を共にする環境で、生活に根付いた支援を実施し子どもの成長を共有できるよう、写真や動画を通して分かりやすく視覚的に伝える取り組みを実施した。
グループ支援	・子ども同士の関わりで主体的に考える力や協働性、合意形成エラーを形成する支援を展開した。活動を決める話し合いや、遊びの中で順番や役割を子ども同士で話し合う時間を多く取り入れ、コミュニケーションを広げる支援を実施した。子ども同士のやり取りや関わりから、気持ちの折り合いをつける経験や相手に自分の気持ちを伝える大切さ、伝わった喜びを感じられるように日々の支援を通して伝えた。戸外活動にも注力し、土手での自然体験や畑活動などを取り入れ、成長の様子を保護者に伝えた。
個別支援	・グループ支援を併用している子どもに関して、グループ支援での様子を踏まえて個別での関わりが必要な活動を提案し、本人が選択できる活動を展開した。子どもの発達段階に応じて現状と成長過程の姿を伝え、日々の生活に般化できることを共に考え寄り添う支援を実施した。 ・母体園での様子やご自宅での様子を聞き取り、園生活に取り入れられることや環境設定、言葉掛けについて共に考える支援を実施した。
家族支援	4～3月まで　合計9名　が参加済み　　（3月ｌ日時点） ・保護者から依頼があった際や支援後のフィードバックの時間だけでは話せなかった内容等に関して、別日に時間を設け、相談支援行った
保護者面談 発達相談	・保護者面談及び発達相談については、適宜実施。支援時間の裏で面談を実施することもあった。併設する北千住どろんこ保育園の保護者向けに子育て相談会を実施。保育園の保護者から別で相談を受け、利用につながるケースもあった。
関係機関との連携	4～3月まで　合計ｌ名　が参加済み　　（3月ｌ日時点） ・相談支援事業所との連携を図り、つむぎでの支援の様子を見学してもらい、情報交換を行った。

〈2〉計画した年間行事の振返り

別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育に関する実践結果

ｌ	計画・ねらい	食を豊かにする取り組みを展開することで豊かな心を育む

	実践結果	マンスリー支援において縁側の机で好きな人と好きな場所で食べる経験を積むことができた。グループ支援において野菜や味噌、梅の加工品を作成し、食材の風味や加工品の味を一緒に食す中で、共有する場面を多く作ることができた。
	次年度方向性	引き続き食を豊かにできるように他者と一緒に食べる喜びや、自分で食事を盛り付け、配膳する喜びを継続して積み上げていく。
2	計画・ねらい	食育から五感で感じる喜びを知り、生活の中で感じる感覚を豊かにする
	実践結果	マンスリー支援では日課での畑仕事や、食育活動を実施し、食材や加工品への興味関心が深まる支援を行った。グループ支援においても、畑活動や、加工品を作る活動を取り入れ、食への興味を高めることや、達成感を味わえるように支援を行った。土と関わる活動を多く展開したことや、好きな場所で食べることで、五感で感じながらスタッフや友達と共に食べることを行った。
	次年度方向性	畑仕事や調理活動、加工品調理の経験を積み上げ、様々な感覚を駆使して、食への興味や感覚の受け入れが広がる支援を実施する。
3	計画・ねらい	食への興味を広げる
	実践結果	鳥の解体を通して、食材になるまでの工程や、食事になるまでの過程を伝えた。また味噌づくりで加工する工程や出来上がったものを友達と一緒に食す経験も積むことができた。
	次年度方向性	今年度実施した鳥の解体や、長期で作物を育成し、調理を通じて食への興味を広げていく。また収穫したものを加工する工程を経験し、より食への興味を広げていく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
スタッフ健康診断	年Ｉ回実施
スタッフ検便	毎月Ｉ回（全スタッフ対象）
流行した感染症	①　4月にインフルエンザ、園児Ｉ名感染報告有り。 ②　5月に園児手足口病Ｉ名、溶連菌感染症5名、ヘルパンギーナＩ名 RS ウイルス5名感染報告有り。 ③　6月に園児溶連菌感染症4名、咽頭結膜熱7名感染報告有り。 ④　7月に手足口病園児Ｉ8名蔓延し7月2Ｉ日に終息、ヘルパンギーナＩ名感染報告あり。 ⑤　８月に手足口病2名、咽頭結膜熱Ｉ名、インフルエンザＡ型Ｉ名、新型コロナウイルスＩ名感染報告有り。 ⑥　9月に手足口病2名感染報告有り。 ⑦　Ｉ0月に手足口病2名、マイコプラズマ肺炎7名感染報告有り。 ⑧　ＩＩ月にマイコプラズマ肺炎2名、新型コロナウイルスＩ名感染報告有り。 ⑨　Ｉ2月に感染性胃腸炎Ｉ名、インフルエンザＡ型2名感染報告有

	り。
発作・痙攣等の対応	対応なし
エピペン使用できるスタッフの状況	・本日時点で、在籍スタッフ4名のうち、３名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	・本日時点で、在籍スタッフ4名のうち、２名が使用可能
その他保健に関する取組	ウイルス感染予防のため、スタッフの体調確認、手洗いうがいの徹底、室内の消毒・換気を徹底する

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回/15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表/毎日	毎日実施
	衛生管理点検表/毎週	毎週金曜日実施
	衛生管理点検表/毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿/毎日	毎日実施
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回/4･10月の施設内会議時 ⇒4月26日、10月24日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回/施設内会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	主体的に遊びを選択できる環境設定

	実践結果	マンスリー支援では、子どもが、やりたいことを選択できる環境構成を保育園のスタッフと都度見直しを行い設定した。見守る支援の実施については、マンスリー支援だけでなく、グループ支援でも適度な距離感での支援を意識した環境設定を行った。活動内容については、子どもたちが選択できるように本人たちの特性に応じた玩具や製作などを選択できるように設定した。
	次年度方向性	引き続き、子どもが活動を主体的に選択でき、遊びを展開できる環境設定を行っていく。
2	計画・ねらい	コミュニケーションを育む人的環境・物的環境の設定
	実践結果	支援の中で、活動を選択する際、友達との話し合いや順番決め等が生じやすいように設定を行った。自分たちで何がしたいのか、話し合うことで主体性を育むことや、相手との意見の衝突、折り合いのつけ方などコミュニケーションを育むことができた。
	次年度方向性	子ども同士での話し合いや、活動を決定するプロセスや方法が育めるように人的環境・物的環境の設定を引き続き行っていく。
3	計画・ねらい	子どもを取り巻く社会資源を活用し、生活に根付いた支援を実施する
	実践結果	地域の社会資源及び活用できる安全な環境を知り、支援で活用できるか検討した。ハザードマップの更新を定期的に行った。
	次年度方向性	北千住周辺の社会資源を活用した支援を継続して実施する。また商店街や施設等の生活に根付いた社会資源と関わりを深め、地域を知る支援を実施する

〈7〉手作り遊具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	ベンチ	園庭	毎日	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	消防訓練・避難訓練では、危機管理意識を高めるだけでなく、未曾有の事態に対応できるように訓練を実施した。また救急救命講習を受講し、緊急時の救急救命技能を取得し、非常時に迅速に対応できるようにした。
2	実践結果	保育品質マニュアルに基づき、重大インシデントに繋がる前のヒヤリハットをルームスタッフ間で共有を行った。ケガ・事故発生時には、ケガ事故発生時対応フローチャートに基づき、対応を実施し、再発防止策を検討した。
3	実践結果	戸外活動を展開する際、光化学スモッグの知識を持って、注意報が発令されているか否かの把握を行い、発生時には保育品質マニュアル光化学スモッグ注意報発令時対応に基づき対応した。

4	実践結果	不審者対応訓練を実施し、不審者発見時には保育品質マニュアル不審者侵入時対応フローチャートに基づき対応した。また、常時防犯意識を高めるため、特に戸外活動時など広い場所で子どもが活動していることを想定し、スタッフ間で活動場所に応じた対応を実施できるように共有を行った。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

今年度は２名の保育実習の受け入れを行った。２週間の間にマンスリー支援やグループ支援に入っていただき、個々の対応や、インクルーシブ保育についての知識を深められるように振り返りを行った。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
6月17～28日	東京未来大学福祉保育専門学校	1人	保育実習（施設実習）
10月15～28日	東京未来大学福祉保育専門学校	1人	保育実習（施設実習Ⅲ）

〈3〉中高生の受入

なし

7. スタッフ研修

〈1〉施設内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	26日 5名	24日 5名	28日 5名	26日 5名	23日 5名	27日 5名	25日 5名	22日 5名	20日 4名	24日 4名	20日 4名	19日 4名
園内研修	26日 5名	24日 5名	28日 5名	26日 5名	23日 5名	27日 5名	25日 5名	22日 5名	20日 4名	24日 4名	21日 4名	19日 4名

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦

7月24～8月14日	公益財団法人　総合健康推進財団 関東支部 東京都サービス管理責任者等研修事務局	令和6年度　第1回東京都サービス管理責任者基礎研修及び児童発達支援管理責任者基礎研修	1名	有

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	21日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	11月に動画視聴にて実施（全スタッフ対象）											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

併設する北千住どろんこ保育園と共に、地域交流を図った。青空保育は散歩先にチラシを配り周知し、毎回楽しみにしてくださる地域の方と交流を図った。併設園の周知を実施してきたことで園庭開放や見学などの来園者が増え、つむぎへの問い合わせにもつながった。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育	月1回　　公園名：千住旭公園にて　　参加延べ人数：168名
商店街ツアー	週1回　主な行き先：杉本青果店、フラワーショップアオキ、八百屋昇鈴荻野青果店、亀井畳内装、千住消防署、平井フルーツ、青山フラワーマーケット、千住神社、北千住郵便局等
世代間交流	日ノ出町デイサービスにて月に1度交流

	3月6日に自園にて陶芸体験を実施
異年齢交流	7月29日に自園にて小学校を知ろうを実施
その他活動	10月31日に自園におはなしかごを実施

9. 医療機関・幼稚園・保育園・小学校との連携の計画

〈1〉今年度の振り返り

併設する北千住どろんこ保育園との連携を密に図りながら、共同で地域の小学校との連携を図っていった。運動会を小学校の校庭で行ったり、給食体験、学校探検と学校から招いてもらったりする中で、小学校に対する期待や、あこがれを持つことができた。
職員間においても、公開保育での意見交換や交流を行った

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
6月7日	千寿双葉小学校	1名	第1回幼保小連携第一ブロック会議（千寿双葉小学校）	職員間交流
8月14日 8月31日	千寿常東小学校　他	12名	第一ブロック公開保育（当園保育室）	職員間交流
11月11日	千寿常東小学校	20名	給食体験（常東小教室）	子ども間交流
11月21日	千寿常東小学校	20名	音楽会リハーサル見学（常東小体育館）	子ども間交流

10. 個別支援計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

最長6カ月とし、個別支援計画の見直しを図るため、モニタリングを実施。環境及び日常生活全般の状況に応じて適切な支援目標を設定し、支援内容を検討し個別支援計画を作成した。

〈2〉進級引継、および小学校への引継状況

進級引継に於いては必要に応じ、保護者を介して幼稚園・保育園の保育者と連携を図った。小学校への引継ぎとしては、就学支援シートを保護者からの要望がある家庭には作成し、引継を行った。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
88名	161名	121名	140名	480名	143名	920名	151名	187名	136名	487名	150名	3164名

実施項目	詳細												
施設開放	（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　　来園延べ人数：83名												
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　⇒計0件相談実施済み												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計2回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	4名	0名	0名	4名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計２回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	1名	2名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	3名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00　にて実施												
ちきんえっぐだより	毎月1日発行												
青空保育 （支援センター主催）	月1回　　公園名：千住旭公園にて　以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	23名	16名	3名	20名	16名	20名	17名	16名	16名	20名	20名	20名	207名

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉施設による自己評価の実施

２０２４年９月２６日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：８時３０分

自己評価終了時刻：１７時３０分
自己評価実施者：奥秋優太、根本絵里、櫻庭菜々子、中川郁子

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月１５日
アンケート回収率：１００％

今年度は全利用者の方から回答を頂くことができた。前年度より全体の評価が上がり、保護者が他者に勧めたいという評価も上がっている。一方で保護者間の交流や、関係機関との連携をより多く望まれる意見を頂いた。来年度での保護者間の交流の機会を設けることや、関係機関との連携を密に図っていきたい。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見　0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む）　0件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：発達支援つむぎ 北千住ルーム施設長　奥秋 優太

２０２４年度　発達支援つむぎ 調布ルーム
事業報告書
（発達支援つむぎにおける自己評価）

１．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

今年度は Doronko が目指す社会として２０２４年度運営方針に基づき、主体的に新しいことへの挑戦・情報収集・発信力の向上を目指すと共に、知識を吸収し学び続けるスタッフを育成し、自律した園運営を一丸となり実施することができた。特に地域との関わりや地域への発信には力を入れて取り組むことができ、新しい地域資源の活用や今まで繋がりがあった地域資源に関しては、さらに進行を深めることができ、新しいイベントの実施や行事の検討を行うことができた。

〈１〉支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	自律した園運営を行う
	実践結果	コンピテンシーを毎月実施する中で、ルームとしての課題を抽出。毎月ルームの目標や美観目標を決め、振り返りを実施しながら、よりよい支援と環境設定が提供できるよう試行錯誤して取り組んだ。
	次年度方向性	スタッフ一人ひとりが、ルームの課題を見つけ、ルームとして課題を解決し続けることができるよう運営していく。
2	計画・ねらい	法人理念（日課）の追求を行い「生きる力」「生活力」を育む
	実践結果	保育の質を上げる会議参加者を中心として、生きる力や10の姿の体得ができるよう、ルーム会議の中で勉強会や共有を実施した。ルームとして取り組めることを考え実施し、課題が残る際はスタッフ全員で共有し合い改善を図ることができた。
	次年度方向性	新しいスタッフも含め、Doronko が大切にしている「生きる力」「生活力」を育むことができるよう、質上げ参加者を中心としてルームとしてできることを見つけ取り組必要がある。
3	計画・ねらい	10の姿の体得から自分で考えて行動できる子どもを育てる
	実践結果	子どもたちに自分で考え行動する力を獲得することができるよう、発達段階をみながら話し合いの機会を設けることや、自分で考え選択することができる機会を多く設け、大人は見守り子どもたちで解決して答えを出すことができる支援の実施を行った。
	次年度方向性	10の姿の体得を取り組む中で、なぜ必要なのか深堀し、どうしたよりできるかを物的環境・人的環境を中心として考えていく。
4	計画・ねらい	命をいただく活動の実践

	実践結果	魚の手開きを実施し、尾頭付きの魚を実際見て触れて、子ども・保護者と共に調理を行うことができた。取り組みを実施することにより、子どものみでなく保護者の食育への関心の声が多く出ており、来年度の調理活動への期待が高まっている。
	計画・ねらい	命をいただく経験により、子どもを始めとして大人の関心が高まる様子が見られている。つむぎの活動経験を通して、保護者の方にも食の循環・命の大切さを知る機会となるよう実施を検討していく。

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	選べる施設、推薦される事業所となる
	実践結果	対人調和力の向上を図ることができるよう、保護者の方にフィードバックをして感じたことをスタッフ同士で共有し合い、様々な考え方や見立てを出し合うことができた。ルーム会議や終礼を通して、ルームとしての課題を抽出し、ルームとして改善に努めた。
	次年度方向性	日々保護者に寄り添うと共に、利用者アンケートを実施しルームとしての課題を出し、改善に努めていく。
2	計画・ねらい	生活に根付いた支援の提案を行うことで、日々の生活に汎化させる
	実践結果	日頃のコミュニケーションをはじめとし、半期に1回のモニタリングを通し、つむぎ以外での困りごとを聞き取り、より実生活での困りごとの改善に努めてきた。そのため、保護者からコア事業所として選んでいただくことが増えている。
	次年度方向性	引き続き、保護者から選んでいただく施設となるよう、利用者を取り巻く園や事業所の中心となる施設となるよう運営していく。
3	計画・ねらい	保護者同士が繋がれる場の設定（ピア・カウンセリングの活用）
	実践結果	2024年度のプログラム調整の際に、同じ悩みを抱えた保護者同士が関わることや同年代または異年齢で様々な壁を越えた関わりが持てるよう編成を行った。
	次年度方向性	保護者同士が悩みを共有し、保護者にとってもつむぎに来ることで有意義な時間となるよう運営を行う。日々子育てをする中で少しでも足を運びやすくなる施設となることを目指していく。
4	計画・ねらい	共感力を育み、保護者支援に活かす
	実践結果	接遇への意識を高めることができるよう、毎月美観目標を設定しルームとして保護者の目線に立って考える機会を設けた。毎月目標を立てるとともに、改善と実施を繰り返しよりよい環境をなるようルームとして動いた。また、相手の立場に立って物事を考えることができるよう、ルーム会議や終礼・朝礼を通してスタッフ同士で意見を交換できる機会を設けた。
	次年度方向性	相手の立場に立って物事を考えることができるスタッフの育成ができるよう、自己覚知と共に相手の得意不得意を知る機会を設けていく。自分の得

		意を活かし相手の苦手をカバーすることができるルーム運営に努めていく。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	子育て相談などの実施をしている事業所として地域により周知され、地域に開かれた事業所へ（地域から選ばれる社会資源へ）
	実践結果	昨年度連携することができなかった、利用児が通う幼稚園との連携を始めとし、コア事業所として利用児を取り巻く施設の中核となり、連携会議の実施を行った。
	次年度方向性	コア事業所として保護者から選ばれる施設となってきているため、子どもを取り巻く施設の中核となる運営を行っていく。新しい取り組みでもあるため、役所や他事業所と共に作り上げることができるようにする。
2	計画・ねらい	地域に事業所の存在や方針を発信し、開かれた事業所へ
	実践結果	ブログを通して年間12回、地域との取り組みや法人の大切にしている考えを基にした活動と発信を行った。 地域の動向をつかむことができるよう、年2回ある調布市の連絡会全て参加し、他事業所との連携を図った。地域資源をより活用できるよう、支援に入れ子どもと共に活用に励んだ。
	次年度方向性	さらに地域資源の活用を広げることができるよう、ルームとして活用できる資源を抽出していき、活用方法を考えていく。また、地域とできる企画や行事を検討しさらに親交を深めることができるようにする。
3	計画・ねらい	地域小学校との連携、理解を深め発信する
	実践結果	地域小学校の学校公開に参加し、利用児が通う小学校の特色や実態を知ることに努めた。つむぎを利用する保護者を対象とし、地域小学校の情報について勉強会を主催した。
	次年度方向性	利用児の多くが所属する小学校への見学に出向いていく。また、保護者の方が就学先への選択肢を広げることができるよう、より深く就学について学び保護者の方へ学ぶ機会を設けていく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	自立したスタッフ集団の育成
	実践結果	スタッフ全員がグループリーダーや個別支援の担当を担うことで、子どもの生きる力を育むためにできることを考え実践することができた。 法人内会議・勉強会を行うことで、更なる知識の獲得ができた。
	次年度方向性	学び続けるルームとなり、より専門性を深め、保護者に質の高いフィードバックを提供できるようにする。また、地域の中核となる施設となり他事業所から信頼される存在となる。

2	計画・ねらい	更なる大人のにんげん力の向上により、保護者支援の幅を広げる
	実践結果	様々な自然物を使う支援を提供することで大人も自然への関わりが増える一年となった。また、多くの生き物の飼育を行うことで生き物に適した環境を学ぶことで、自然への地域を深めることができた。
	次年度方向性	次年度はさらに地域資源自然を感じることができる場所での活動を増やすと共に、行事やイベントなどで保護者にもセンス・オブ・ワンダーへの理解を深めることができるようにする。
3	計画・ねらい	コンピテンシー、人権チェックを活用することで自省する
	実践結果	毎月のコンピテンシーを実施し、個人としての目標・事業所としての目標を設定することができた。目標を設定すると共に、課題を見つけ自己覚知を深めることができた
	次年度方向性	毎月のコンピテンシーの実施後に、自らと向き合った後その中から、事業所としての課題を抽出することで、スタッフ全体一つの課題に向き合い、客観的に事業所を見つめ直す時間を設定していく。
4	計画・ねらい	スタッフの遊びや活動の幅を広げることで、支援の幅や提案が増える
	実践結果	担当スタッフ間での共有やスタッフの振り返りを行うことで、子どもの課題を考えると共に、どうしたらできるかを考え支援の幅を広げることができた。
	次年度方向性	子どもの支援に関して一人で抱えこむのではなく、担当間またはルーム一丸となり考えることができる運営を行い、様々な意見を取り入れ、支援に幅を持たせることができるようにする。 また、新しい活動の提案ができるよう、ルーム会議で誰もが提案できる風通しの良い職場の雰囲気づくりを行っていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	更なる SDGs の追求
	実践結果	・コンポストを行うことで、家庭で出るゴミをつむぎへ持ってきていただき、ゴミについて触れる機会を作ることができた。コンポストはどのようなものなのかを伝える機会ともなり、家庭ゴミだけでなくカブトムシの糞などを子どもたちとコンポストに入れることで、コンポストに親しみを持ち関わることができた。また、家庭で出るゴミとしてペットボトルキャップを収集するためのボックスを設置することができた。ボックスをカフェに設定することにより、利用者の子どもと保護者も巻き込み SDG s に関心を持っていただく機会を提供することができた。 ・畑仕事や調理活動を通して命の大切・食べ物の大切さを知ることができるよう、調理に使用する食べ物ができるまでの時間や過程を伝えると共に経験をできる機会を設けた。 ・性教育では実際の赤ちゃんの重さや大きさなどを感じながら学ぶことができる機会を設け、命の大切さを感じるとともに生命の誕生に関心を持つ

		きっかけとなった。 ・地域との関わりは、郵便局や飲食店を中心に関わりを持つことができた。関わりの中でどのような場所であるかを知る機会を設けると共に、施設のスタッフから仕事内容や普段は知ることができない情報などを教えていただく授業の企画を実施した。
	次年度方向性	SDGs への関心を子どもから大人まで広げることができるよう、支援の中での取り組みを増やし、つむぎに通う子が保護者に必要性を伝えることができるようにする。また、地域を巻き込む取り組みを検討し、SDGｓをつむぎから地域へ広げることができるように取り組んでいく。
2	計画・ねらい	子どもを取り組まく人的・物的な環境設定を行う
	実践結果	人的環境については、「見守る保育の実践」を行う。大人がサポートをするか迷った際は一度待つことや、子ども同士で解決することができるよう、発達段階を見極めて活動内容を検討していった。物的環境については、戸外や室内の場所を選ぶことややりたいことを選択することができるよう、カフェに掲示することなどを通して、子どもが選択できる環境を設定した。
	次年度方向性	より人的環境・物的環境をルームとして検討することが出来るよう、質上げ会議参加者が中心となり、ルーム課題として検討し改善し続けることができるよう運営を行っていく。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

児童発達支援　利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	225人	258人	224人	249人	245人	221人	250人	233人	234人	212人	250人	250人	2851人
登録児数	56人	57人	57人	60人	62人	62人	62人	64人	63人	62人	62人	62人	729人

（解説）昨年度と同様、4月から稼働が上がる＝量的質的支援の確保に向けて、昨年度から取り組みを開始。4月から稼働率を上げることができた。また、一人当たりの利用回数が増えたことで、より成果活に根付いた支援を提供することにも繋がった。
利用待機となっている方へも、スポット利用を勧めるなど、可能な限り支援することで繋がり続けることや、次年度へと繋がる関係性を築くことができた。

〈２〉開所時間

9時00分～１8時００分

〈3〉スタッフ構成　（３月１日時点）

施設長１名
児童発達支援管理責任者１名
保育士１名
機能訓練担当2名（臨床発達心理士１名・理学療法士１名）
児童指導員１名

3. 運営報告

〈１〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
施設内会議	月１回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・専門士による支援技術の共有 ・つむぎ内外から講師を招いた研修の実施
事故防止委員会	月１回	・毎月ルームと法人全体で起きた事故、インシデント、自やりハットの共有
支援計画策定会議	適宜	・支援計画作成に伴い、開催時期を調整して実施 ・個別支援、グループ支援それぞれの担当者と児童発達管理責任者が必ず参加し開催

〈２〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月１回	施設長
施設長勉強会	月１回	施設長
児発管会議	月１回	児発管
併設園会議	年2回	施設長
食育会議	年4回 （5.8.11.2月）	施設長 調理スタッフ

保健会議	年4回 （5.8.ｌｌ.2月）	施設長
子育ての質を上げる会議	月ｌ回	スタッフ

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	感染の防止に努め、日々の喚起・消毒の徹底を行い記録に残す。 子どもの来所時の手洗い・含嗽の言葉がけの実施。
安全対策係	園内外に於けるリスク管理に努めることで、日々のヒヤリハットの時点でスタッフ間での共有を行い、重大インシデントの防止に努めた。 ハザードマップの更新。
防火管理者	消防計画を作成、毎月の避難訓練および不審者侵入訓練を実施
畑係	畑仕事の年間計画を作成。年間計画に基づき畑仕事を子どもと共に実施。また畑仕事から食育へと繋がる活動への展開。冬野菜の収穫が終了した後の畑仕事、畝づくりについても子どもたちと共に実施。
生き物係	メダカや昆虫の世話を子どもと一緒に実施するために。どのように取り組むかを考え実施。
体験学習係	毎月、事業所としての課題を抽出し目標を設定。振り返りを実施し大人のにんげん力の向上へと繋がる仕組みを整えた。

4．支援・処遇

〈ｌ〉保護者面談 および発達相談・児童の保護者への支援および意見要望への対応

グループ支援	まずは安心して活動に参加することができるよう、大人との関係性を築き、いつでも助けを求めることができるよう支援を展開した。大人との関係性を築くと共に、子ども同士の関わりを楽しみ、心地よさを感じることができるよう、好きな物を題材に支援を行うことや、子どもの主体性を尊重し、子ども同士が意見を交換する場を多く設けた。 グループ支援を通して、母体の園で友達との関わりが増えたこと、年下の子の面倒を見る姿が増えたことを嬉しそうに話して下さる場面も多く見られた。
個別支援	・遊びの中で子どもたちが主体的に取り組むことができるよう、環境設定を展開。日々の支援を通して、発達段階を見極め、子ども一人一人に合わせた支援を提供した。

	・母体の所属への訪問、ご家庭での様子を聞き取り、園生活の中で取り入られたことや環境設定、言葉かけについて共に考える支援を実施。
家族支援	4～3月まで　合計3名　が参加済み　　（3月ｌ日時点） ・家庭や母体園である幼稚園・保育園での日々の悩みを聞き取り、家庭でできる支援について相談・助言を行う。
保護者面談 発達相談	・保護者面談および発達相談については、日々のフィードバックの時間や来所後支援まで時間を活用し実施。日々の何気ない会話から相談に発展するケースもあった。
関係機関との連携	4～3月まで　合計25名が参加済み　　（3月ｌ日時点） ・放課後等デイサービスおよび近隣小学校、利用児の母体園である幼稚園、保育園に訪問し、子どもの様子や事業内容を共有。 ・利用児の就学先である小学校に就学支援シートを20件提出し、直近の様子および成長過程を共有。

〈2〉計画した年間行事の振返り

別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育に関する実践結果

ｌ	計画・ねらい	食を豊かにする取り組みの展開をすることで、豊かな心を育む
	実践結果	・実際に食材に触れ、感じたことを自由に表現し合うこと、友達と一緒に食べる中で、豊かな心を育むことに繋がった。家庭では食べることができない食材なども、自分で収穫する体験や調理を行う経験を行うことで食べてみようという気持ちを育むことができた。
	次年度方向性	畑仕事を経験し食材になるまでの過程を見るとともに、調理活動を通して食への関心をさらに深めていく。
2	計画・ねらい	「食べる力」＝「生きる力」を育む
	実践結果	畑仕事を通して自分で野菜を育て、育つ過程を見る経験を行い、食べてみたいという気持ちを自分から持つことで、食への関心が深まり、食べることのできる物の幅が広がることに繋がった。自分で食べることができる物を選び取ることや興味関心を広げることができた。
	次年度方向性	自分で食べたい気持ちを育てると共に、どの野菜が美味しいかを選び取ることや、育て方を知り、実際に家庭での食育につなげていく。また、自分でできることを増やし、生きる力を育んでいく。
3	計画・ねらい	食育を通して五感で感じる喜びを知り、生活の中で感じる感覚を豊かにする
	実践結果	畑仕事の中で暑い時期に水やりを行うことで、水の冷たさや心地よさを知ることや、寒い時期に水の暖かさの変化などを感じることができた。土の

		湿り気を感じ、濡れている部分の色の変化などを視覚的に見て理解することへと繋がった。調理活動では素材そのままの味を感じることができるよう、できるだけ調味料を使わずに調理を行い、沢山噛む経験をして味の変化や触感の違いなどを感じる機会を設けた。
	次年度方向性	素材や性質など、生活の中で気づきにくいものをさらに深めることができるよう活動を展開していく。
4	計画・ねらい	食への興味を広げる
	実践結果	種まき・水やり・草むしり・収穫など一連の流れを経験し、食材に興味を持つことができた。食材への興味を持つことで、どのように食材が変化するかの動機づけとなり、調理活動への参加ができ、さらに調理したものを食べることができた。
	次年度方向性	畑仕事を経験すると共に、調理や食材の加工を経験することができる支援を展開する。
5	計画・ねらい	年間通して、畑仕事を実施し、食への興味関心、豊かな心を育む
	実践結果	畑仕事を継続的に取り組むことで、自分から仕事への関心を高めることや気にかけることへ繋がった。つむぎだけでなく、家庭でも食への関心を深めることができるようレシピの提供を行い、家庭で取り組み子どもと一緒に食べることができたという声をいただいた。
	次年度方向性	自園での活動を通して、家庭でも取り組める支援を対教師より生活に根付いた食育へと繋がるよう展開する。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
流行した感染症	通年、新型コロナウイルスや冬場にインフルエンザウイルス、胃腸炎が流行するものの、自治体報告までに至る感染症の拡大、流行はなかった。
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月19日につむぎ調布ルームにてキックオフ研修を実施。 ・本日時点で、在籍スタッフ7名のうち、7名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	・AED 未設置
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回/15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表/毎日	毎日実施
	衛生管理点検表/毎週	毎週金曜日実施
	衛生管理点検表/毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿/毎日	毎日実施
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回/4･10月の施設内会議時 ⇒4月17日、10月17日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回/施設内会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日~9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	子どもが主体的に遊びを選択し展開することができる空間設定
	実践結果	子どもがやりたいことを選択することができるよう、戸外室内の選択を始めとし、活動の選択も含めて選択できる環境を展開した。本児のやりたいということに対して耳を傾け、支援に取り入れていくことで本児の欲求を満たすと共に、支援に幅を持たせることで日々スタッフが子どもに向き合う支援をより考えることができた。 子どもたち同士のやりとりや関わりの大切さをまずスタッフに日々感じてもらえるよう、質上げ会議の参加者を中心に会議を開き、必要性をルーム全体に共有することを行った。自ルームはグループ支援・個別支援の形態を実施しているが、支援の形態問わずどの支援でも「自分でできるところを増やす」ことができるよう、大人のサポートを極力減らしていくように支援を展開した。
	次年度方向性	子どもの主体性・人との関わりをさらに深めることができるよう、スタッフの理解をさらに深めていく。

2	計画・ねらい	つむぎカフェの環境設定の見直し
	実践結果	同じ玩具であっても、使用用途を変化できるものや、玩具が複数ある中で遊びが展開できるものを設置した。また、子どもたちが自分からやりたい気持ちを持つことができるよう、おもちゃファイルを設置し、カフェに設置しきれなかった玩具を選択できるようにした。玩具も様々な物を使用することができるよう、ファイル中身を定期的に変更した。
	次年度方向性	カフェをより良いものにし、待っているという感覚が大人も子どもも少なくなる工夫を行う。また、やってみたいを増やすことのできる空間にできるよう、子どもたちの作品を展示することや作り方を掲示していく。
3	計画・ねらい	子どもを取り巻く社会資源の活用を行う中で、生活に根付いた支援の実施
	実践結果	・今年度より新しく活用することができた施設が2施設増え、以前より活用があった施設とはより関係性を深めることができた。例としては郵便局との定期的な関わりを持つことで、イベント企画・支援内での活用頻度の向上が図れ、子どもたちが郵便局に行くことが身近となり、施設の方の名前を覚え、家庭での使用頻度も増えたというお話をいただいた。 ・ハザードマップの更新を行い、危険な個所をスタッフで日々更新することを意識した。ルーム全体で危険個所を把握し、子どもたちにも危険を考えてもらうことへと展開した。
	次年度方向性	地域資源の活用をさらに広げ、飲食店との繋がりを持つことができきるよう展開していく。飲食店との繋がりを持ち、職業体験など職業への関心を深めることができる支援の展開を検討できるようにする。

〈7〉手作り遊具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	掲示板	カフェ	毎日	異常なし
2	下駄箱	廊下	毎日	異常なし
3	パソコン台	事務所	毎日 （2024.12.24撤去）	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	非常災害に備えて、消火設備などの設備点検をすると共に年間防災計画に沿って訓練を行い、避難方法や通報および消火器などの使用方法、連携体制の確認を実施し、スタッフ間でも動きを確認。
2	実践結果	発生した事故や、事故に繋がる事例を収集し、スタッフ間で共有。大きな事故を防ぐことができた。

3	実践結果	外部からの不審者侵入および戸外活動時に不審者に遭遇する場面を含め、子どもが犯罪に巻き込まれないよう不審者対応訓練を実施。防犯マニュアルを定期的に見直し、スタッフの防犯意識を上げることに繋がった。
4	実践結果	支援提供中に起こりうる事故や怪我を防止するために、室内外での安全性について環境を確認、点検に努め安全の担保を行った。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

今年度受け入れ無し。

※今年度初旬、実習生の受け入れに関する話をいただいていたが、学校側の都合により実習生の受け入れについては無くなった。

〈2〉実習生の受入

受入れなし

〈3〉中高生の受入

受入れなし

7. スタッフ研修

〈1〉施設内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	12日 6名	1日 6名	6日 6名	4日 7名	8日 7名	4日 7名	9日 7名	7日 7名	11日 7名	16日 6名	5日 6名	6日 6名
ルーム内研修	毎週 1回 6名	毎週 1回 6名	毎週 1回 6名	毎週 1回 7名	毎週 1回 7名	毎週 1回 7名	毎週 1回 7名	毎週 1回 7名	毎週 1回 7名	毎週 1回 6名	毎週 1回 6名	毎週 1回 6名

①虐待防止研修 ②水耕栽培研修 ③水リスク研修 ④熱中症研修 ⑤火リスク研修 講師：担当者	5月・7月・8月つむぎ調布ルームにて各研修に出勤者が出席			
	事業計画にて計上した予算		実際の支出	
	研修費	0円	研修費	0円
	交通費	0円	交通費	0円
	合計	0円	合計	0円

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	上長推薦
7月16日～ 8月12日 ※配信期間	東京都福祉局	東京都虐待防止研修	1名	有
12月12日～ 12月16日 ※配信期間	公益財団法人総合健康推進財団	児童発達支援管理責任者実践研修	1名	有
2月25日-26日	公益財団法人総合健康推進財団	児童発達支援管理責任者実践研修	1名	有

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	21日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	11月～12月に動画視聴にて実施（全スタッフ対象）											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

地域に根付いた、開かれた事業所となるべく地域の社会資源を活用し、地域交流を実施。青空保育や商店街ツアー、職業体験を通し、子どもが地域の方々と積極的に交流を持つ機会となるように設定し実施した。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容

青空保育	月1回　　公園名：高速下第5.6公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先：花屋、ドーナツ屋、コンビニエンスストア、肉屋、パン屋、交番、駅等、郵便局
世代間交流	11月13日・11月22日につむぎ調布ルームにて、一緒に遊ぶ中で育む支援を実施
異年齢交流	近隣公園に行く中で、近隣保育園児との交流。グループ支援の中で、異年齢グループを設定し異年齢交流を実施。また家族支援を通して、きょうだい児にも参加していただき、異年齢交流を実施。

9. 医療機関・幼稚園・保育園・小学校との連携の計画

〈1〉今年度の振り返り

今年度、子ども間交流を目的に地域の小学校と連携を図ったが、日程調整が難しく直接的な子ども間交流まで至らなかった。次年度は子どもが直接的に交流できるように設定。 スタッフに於いては、地域の小学校を訪問するだけでなく今年度は、訪問学校を増やし広げる取り組 みを実施。小学校の環境および授業内容等、先生から直接話を聞きスタッフ間で勉強会をした上で、 保護者勉強会へと繋げる。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
6月1日	府中市立第五小学校	1名	仲よし学級	学校見学・授業見学・職員との意見交換
6月12日	武蔵台学園	1名	教室内・体育館	学校見学・授業見学・職員との意見交換
10月15日	調布市八雲台小学校	1名	わかあゆ学級	学校見学
10月8日	調布市立第一小学校	1名	ひまわり学級	学校見学

10. 個別支援計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

最長期間を6か月とし、個別支援計画の見直しを図るため、モニタリングにて保護者と直近の子どもの様子、子どもを取り巻く環境の変化などを共有。その後、環境および日常生活全般の状況に応じて適切な支援目標を設定。支援内容について検討し個別支援計画を作成。計画書をもって保護者と共有を図った。

〈2〉進級引継、および小学校への引継状況

小学校への引継ぎと しては、就学支援シートを活用し引進級、引継ぎに於いては、必要に応じ保護者を介して幼稚園・保育園と連携。継ぎに変えて実施した。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

実施項目	詳細
子育て相談	（月）～（土）9:00～18:00　　⇒相談がある際にその都度実施
勝手籠設置	（月）～（土）9:00～18:00　にて実施

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉施設による自己評価の実施

２０２４年4月23日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：9時00分
自己評価終了時刻：18時00分
自己評価実施者：田中誠

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月15日
アンケート回収率：100%

利用者アンケートを実施し2025年10月に評価結果を掲示。同時にスタッフアンケートについても実施し、自己評価結果を開示。昨年度と比較して、アンケート結果から、つむぎ調布ルームを勧めたいかとの項目にて、勧めたいと回答いただく方が増加した結果 NPS の数値が向上。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

０件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

０件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：発達支調布援つむぎ ルーム施設長　山内優里奈

２０２４年度　発達支援つむぎ つつじヶ丘ルーム
事業報告書
（発達支援つむぎにおける自己評価）

Ⅰ．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

「子どもも大人も共に認め合い、共に育ち合い、にんげん力を育む」という事を心掛け、保育園と発達支援が併設されている施設としてつつじヶ丘どろんこ保育園と共に、子どもたちが安心して過ごせる「大きな家」を目指し、2024年度も子育てを行うことができた。

日課・基本保育活動を実施し、つむぎマンスリー児も保育園児と共に８時３０分に登園し、雑巾がけ、朝の会、戸外活動9時出発、生き物の世話、畑仕事などの日課を行い、子どもの成長に必要な体験を日常的に繰り返し、ホンモノの経験を通してにんげん力を身に着ける環境を用意することができた。

生きているものを捌く、解体する、焚き火で焼き、食べる経験を通して命の大切さや生死について考えるきっかけ作りになった。

各自治体・教育委員会・学校と連携を取り、近隣の滝坂小学校や調布特別支援学校へ、実際の授業を見に行った。今後、子ども間の交流・教職員間の交流が実施できるよう交渉を行っていく。

大人のにんげん力 UP を図るための、園内研修や園長大学®・保育士大学の講義を受けるなど、スタッフ一人ひとりが学びたい時に学べる環境を確保し、スタッフが学んだことを施設内・課内・部内・法人でアウトプットできる場を通して自己改革につなげた。また、園会議を通してインクルーシブ保育に対しての意識付けをつつじヶ丘どろんこ保育園と協働して行い、子どもの育ちあいに繋げることができた。

保育園との併設園であるつむぎつつじヶ丘ルームの強みを強化させるべく接遇・環境整備を継続して行い、誰にとっても居心地がよい「大きな家」を作り上げることができるよう、保護者や来訪者に対して大きな声で気持ち良い挨拶をし、相手の気持ちに寄り添い、「つむぎつつじヶ丘」に来て良かったと心から思っていただけるように心掛けて運営をすることができた。

〈１〉支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	子どもたちが安心して楽しく通うことができる。 子どもの発信を受け止め、応答的に関わる。
	実践結果	・大人都合で子どもを動かしたり、「危ないからダメ」を言ったりせずに子どもが過ごしやすく、安心できる環境を設定することができた。 ・子どもの主体性を第一に考え、子どもの気持ちや状況を考慮し、考え、言葉をかけ応答的に関わることができた。 ・主にフィードバックなどで家庭と連携を図りながら、子どもの様子や体調の変化、成長などを共有し、スタッフ間で対応の統一を図り、子どもの成長を見守ることができた。
	次年度方向性	子どもたちが安心して通い、好きな体験や遊び、仕事を沢山経験できる場所であり続けるよう、物的環境・人的環境を整えていく。
2	計画・ねらい	日課・基本保育活動の定着を図り、子どもの成長に繋げていく。 大人が子どもに背中を見せる。

	実践結果	・戸外活動や体験的な支援を多く行い、できるだけ多くの１０より１００の経験を計画・実施することができた。 ・個々の発達過程や個性、特性を理解し、見通しをもって意欲的に日課・基本活動に参加できるよう工夫することができた。 ・マンスリー児・ビジター児共に、常に子どもが選択できる環境を設け、自分で選び取り、経験する機会を提供することができた。
	次年度方向性	日々の日課・基本活動を軸にしながら、戸外活動や体験的な活動を通して、10より100のホンモノの経験を提供し続ける。
3	計画・ねらい	人と関わる力を育む。 子ども同士で伝え合い、関わり合える環境を用意する。
	実践結果	・見守ることを大切にし、過度に子ども同士の関りに入らずに育ちあい促すことができた。 ・Trial & Error がいつでもどこでも経験できる環境設定に取り組むことができた。 ・子どもたちが「挑戦したい」と思える環境設定に取り組むことができた。
	次年度方向性	子どもたちの育ちあいを見守りながら、いつでもどこでも「やってみたい」「挑戦したい」という環境設定を行っていく。

〈２〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者にとって居心地が良い場所となる。 全スタッフが自信を持って挨拶・お迎え対応する。
	実践結果	・スタッフ一人ひとりが手を止め、顔をあげて挨拶を行った。 ・お迎え時には、支援のねらいと子どもの様子を振り返り、今後の支援の方針と見立てを伝え、質問や疑問などに対して丁寧に誠意をもって答えることができた。 ・家庭での様子を聞き取り、相互の情報を共有しながら子育てをしていく「とも育て」を常に念頭に置きながら保護者対応することができた。
	次年度方向性	保護者も「つむぎに来てよかった」「本当に安心する」と感じられるように最高の接遇を目指していく。
2	計画・ねらい	安心して子どもを託すことができる場所となる。 保護者が知りたい情報を提供する。
	実践結果	・口頭の説明だけでなく、お知らせなど目でみてわかる情報の提供について定期的にアプリを使用して行うことができた。 ・支援の内容や意図を理解していただけるよう活動のねらいや個別の支援目標を分かりやすく伝えるように努めた。 ・保護者懇談会（就学に向けての座談会、放課後等デイサービス座談会など）を実施し、子どもの成長を共有・相談できる機会を設けた。
	次年度方向性	・日々の活動だけではなく、10の姿や6つの力、ホンモノの経験など子ども必要な事を保護者にスタッフ全員が自分の言葉で話せるようにしていく。 ・保護者懇談会や座談会をできる限り多く設定し、保護者の横のつながり

		を紡いでいく。
3	計画・ねらい	地域との連携を積極的に図る。 地域全体で子育てを共にし、子どもの成長につながるあらゆる手段を活用する。
	実践結果	・スタッフ間で、地域からの連絡や相談事項などの共有を行い、迅速かつ確実に対応することができた。 ・必要に応じて、行政、保育園、幼稚園、他事業所、就学先との連携を図り、子育てをサポートした。
	次年度方向性	あらゆる地域資源を活用し、地域全体で子育てをすることができるようにつむぎから積極的に働きかける。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	相談したい時に、いつでも相談できる場所となる。 誰でも子育てや発達に関する相談ができることを周知する
	実践結果	・行政機関や発達支援センターなどへのパンフレットの配布を継続的に行い、市報などを活用しながら、誰もが利用できる場所として周知を行った。 ・発達支援について地域の方々に知っていただけるよう園外掲示板やブログを活用して周知を行った。
	次年度方向性	引き続き、行政機関やや発達支援センターなどに働きかけ、つむぎつつじヶ丘ルームの存在を周知していく。また子育て相談会などを通して、発達に気になる子どもの保護者を地域の一員としてサポートしていく。
2	計画・ねらい	地域の人たちがつながる場所となる。 いつでも訪れたくなるような、安心できるつむぎカフェを目指す。
	実践結果	・子育てに関する情報を収集し、お知らせや雑誌などを置き、定期的に更新しながら情報を提供した。 ・つむぎカフェでくつろげるよう飲み物、絵本、玩具を充実させた。 ・いつでも安心して気持ちよく使っていただけるようカフェに置いてある物品（家電類・家具・絵本・おもちゃ）の整理整頓と消毒を定期的に行い、美観をきれいに保つことができた。 ・カフェにいる方に適宜お声がけをして、「きてよかった」「話せてよかった」と思えるように相談援助・接遇面の向上を図った。
	次年度方向性	地域の方や子育てを相談されたい方がいつ訪れても「来てよかった」「ためになった」と思ってもらえるように、情報収集や美観の向上に努めていく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	「子どもが自己選択すべきこと」「大人が教えねばならないこと」を理解・把握して支援を行うことができるようにする。 子どもの成長に必要な経験について学び直す場を設ける。

	実践結果	・保育所保育指針・児童発達支援ガイドラインを使って、保育・支援のねらいを再確認した。 ・園長大学・保育士大学を活用し、実際の支援に活かすことができた。 ・学習指導要領を把握し、長期的な目標を見通した日々の支援や見立てに繋げた。 ・定期的に「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を振り返りながら学習し、子どもの見立てに活用させた。
	次年度方向性	保育所保育指針・児童発達支援ガイドライン、園長大学・保育士大学、学習指導要領、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿などの資料や指針を読んで理解するだけでなく、スタッフ同士で教えて合うなど、理解度を深めて大人のにんげん力に繋げていく。
2	計画・ねらい	自身の意見や考えを持ち、主体的に動く。
	実践結果	・様々な研修に参加し、報告書や研修資料を回覧するようにして、全スタッフと共有し、それぞれのスキルアップに繋げた。 ・言いたい事や提案したい事をいつでも話せる職場づくりをそれぞれのスタッフ・施設長が心がけ、風通しのよい環境づくりができた。
	次年度方向性	自分の意見を相手にわかりやすく、かつ、しっかりと根拠を示しながら伝えることを目指し、伝えるだけではなく全体を巻き込めるようなスタッフの育成を目指す。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	誰もが心地よく過ごせる場所 大人も子どもも一緒に掃除・整理整頓を行う。
	実践結果	・日々の掃除に加えクリーンデイとして掃除と整理整頓を行う時間を週1回設けて、美観の向上を図った。 ・大人も子どもも使ったものを元の場所に戻せるように工夫した物の配置と掲示の仕方を工夫し、常にあるべき場所に物がある状態を保つことができた。
	次年度方向性	誰しもが心地よく過ごし、安心して過ごせる場所とするために大人も子どもも一緒に掃除・整理整頓を行っていく。
2	計画・ねらい	食材や食の循環・環境への意識を育む環境教育の実践。 日課である畑仕事を通して、子どもたちが食の循環を体験する。
	実践結果	・畑を耕し、土壌を整え、種をまき、水をやるなど、畑仕事に積極的に取り組む環境設定を行い、子どもたちが主体的に畑仕事を行うことができた。 ・火をおこし、収穫したものを調理し、食べる。調理する際に出たゴミはコンポストへ入れる一連のサイクルを体験することができた。
	次年度方向性	様々な食材や食の循環に触れ、子どもの環境認識を促していく。また、命に触れることで、生死や環境問題についても考えるきっかけ作りを行っていく。
3	計画・ねらい	室内環境・園庭環境の充実を図る。 子どもたちが遊び込める環境作りを行う。

	実践結果	・室内園庭にあるおもちゃの選別・メンテナンスを2ヵ月に1回、定期的に見直した。 ・子どもたちの発達に合わせたおもちゃや家具や遊具の配置を定期的に見直し、誰もが遊び込める環境設定を行った。
	次年度方向性	子どもが安心して遊びこめる環境設定を行うために、常に室内環境や園庭環境を子どもの様子や特性に合わせて見直していく。

〈6〉つつじヶ丘どろんこ保育園との連携

I	計画・ねらい	子どもの成長を共に喜び合う 保育園・つむぎスタッフがチームとして子育てをする
	実践結果	・保育園・発達支援の壁を乗り越え、1どろんこスタッフとして、チームで子どもたちの育ちあいを支えることができた。 ・スタッフ間の言葉がけや共有を徹底し、それぞれの意見を言葉にして伝え合うことができた。 ・互いの立場や役割を理解し、対等な立場で意見交換することができた。 ・行事は、計画から行事終了後の反省と記録まで、両スタッフで一緒に進めることができた。 ・支援を必要とする子どもに対し、多角的・多面的な視点で保育計画を作り、実践、振り返り、改善を重ねて、子どもにとって最適な環境を用意することができた。
	次年度方向性	保育園・つむぎ双方の子どもが当たり前のように混ざり、当たり前のように育ちあえる環境を作り出すために、それぞれのスタッフがチームとしてインクルーシブ保育を進めていく。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

児童発達支援　利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	129人	159人	170人	181人	171人	162人	191人	179人	168人	169人	171人	190人	2040人
登録児数	29人	30人	31人	36人	36人	35人	36人	37人	40人	41人	41人	41人	41人

（解説）振替等が難しく、体調不良からのお休みが多くなることで稼働率を伸ばすことが出来なかった。園児との交流機会は多く提供することができ、楽しみながら成長を促すことが出来ている。欠席時の振替等を考えていきながら利用総数増を目指す。

〈２〉開所時間

８時３０分～１７時３０分

〈３〉スタッフ構成　（３月１日時点）

施設長1名
児童発達支援管理責任者1名
保育士1名
児童指導員4名

3. 運営報告

〈１〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
施設内会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・事例検討会、園内研修、ケース会議、行事進捗
給食運営会議	月1回	献立、離乳の振り返り共有・アレルギー対応・衛生点検
事故防止委員会	月1回	他園自園の事故記録簿考察・インシデント考察・ヒヤリハット考察・分析・検証
支援計画策定会議	随時	・マンスリー、ビジターそれぞれの子どもの計画をスタッフと児童発達管理責任者が参加し、個々の目標を決めていく。

〈２〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
児発管会議	年4回	児発管
併設園会議	年2回	施設長
食育会議	年4回 （5.8.11.2月）	施設長 調理スタッフ
保健会議	年4回	施設長

	（5.8.11.2月）	
子育ての質を上げる会議	月1回	スタッフ

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	・子どもの健康維持・温度・湿度・換気確認 ・感染症発症の予防策を実施 ・園内の清潔区域（調乳室/調理室）と汚染区域（トイレ・オムツ交換場所　シャワー室・沐浴室・トイレ後の着替え場所・感染症流行時居室）の安全と衛生管理 ・職員の検便
安全対策係	・避難訓練（毎月）、不審者侵入訓練（6 月/11 月）の実施報告書確認 ・設備安全点検（5 月・7 月・9 月・11 月・1 月・3 月の 25 日） ・事故防止自主点検（4 月・7 月・10 月・1 月の 25 日） ・園内外、公園のハザードマップの更新（3月・随時）
防火管理者	・消防計画作成と届出 ・安全対策係の任命 ・自衛消防組織作成 ・防災用備蓄品の確認（6 月・12 月） ・自主点検チェック表（日常）
食品衛生管理係	・衛生管理、点検作業の実施 ・食育会議の計画、実践 ・「作業手順書」と「作業結果の記録」の作成
畑係	畑の年間計画の遂行、管理維持、子どもたちを巻き込み活動をおこなう。
生き物係	ヤギ、ニワトリをはじめとする飼育物全般の管理、維持、子どもたちへの働きかけを行う。
体験学習係	食育や焚き火など普段の支援ではできないことやリスクのある活動について、計画を立案して実行に移した。

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	園主体としながらも、保護者ボランティア（どろんこサポータ

	ー）とも連携し準備運営を行って行く
環境改良チーム	保育環境の発展、整備をどろんこサポーターズと連携した環境改良の計画と実行

4. 支援・処遇

〈1〉保護者面談 および発達相談・児童の保護者への支援および意見要望への対応

マンスリー	・安心して過ごせる場所と人がいる中で、集団での生活を経験し、発見や工夫を楽しめる遊びを展開することができた。 ・異年齢の関わりがいつでも持てるようゾーン保育や子ども自ら自主的に遊びが選択できる環境を設定した。 ・関わりの中、様々な葛藤を経験し自分で考え、工夫し自ら行動できるよう、また、自分たちで約束やルールを決めて活動を行った。
グループ	・戸外での活動や原体験を通して、豊かな感性や表現力が育まれるよう活動を設定した。 ・自分で考え工夫し行動できるよう、見守り、見届けることを大事にして、自分で選び取り、最後までやり遂げる経験を積み重ねられるよう支援を実施した。 ・戸外での活動を通して、社会生活を送る上で必要なルールを知り、対応の仕方を学ぶ機会を設けた。
個別支援	・戸外での活動を基本とし、個々に合わせたさまざまな体験を通して、非認知能力を育み、自己肯定感を高める支援を実施した。
家族支援	4～3月まで　合計21名　が参加済み　　（3月1日時点） ・発達についての個別相談に加え、就学座談会や放課後等デイサービス座談会を実施した。
保護者面談 発達相談	・随時、必要に応じて実施した。
関係機関との連携	4～3月まで　合計10名　が参加済み　　（3月1日時点） ・所属している保育園・幼稚園との連携し、自施設における支援内容の調整を行った。

〈2〉計画した年間行事の振返り

別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	子どもが食に対して興味・関心が持てるよう日々の保育の中で積極的に食育活動を取り入れていく。
	実践結果	旬な野菜を取り入れた調理活動や、畑で収穫した野菜を素材の味を活かして子どもたちに提供することができた。
	次年度方向性	自分たちが育てた野菜や果物などを、自ら「〇〇にしたい」と調理をすることを提案したり、加工したい気持ちを育んだりすることのできる環境設定を目指していく。
2	計画・ねらい	月1回の給食会議にて情報の共有を行う。
	実践結果	離乳食の進み具合や食事の状況を確認し、発達に合わせた援助を行った。
	次年度方向性	引き続き、給食会議にて発達に合わせた援助を行っていく。
3	計画・ねらい	火×食材
	実践結果	調理の原点、たき火を活用した調理活動（かまどでごはん、夏野菜でBBQ、やきいもなど）を複数回行うことができた。 たき火ならではの不便さや香ばしい匂いを感じると共に、火の温かみや適度な緊張感も味わうことができた。
	次年度方向性	焚き火で何が作れるのか、何を作ってみたいのかなどを子どもたちが話し合い、子ども主体で活動が展開できるようにスタッフはサポートしながら見守るようにしていく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
流行した感染症	12月にインフルエンザ、児童2名感染報告有り。12月31日に終息
発作・痙攣等の対応	ダイアップの使用はなし
エピペン使用できるスタッフの状況	・本日時点で、在籍スタッフ6名のうち、6名が使用可能
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回/15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（法定1回/3年）	業者による対象物の法定点検 2023年実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表/毎日	毎日実施⇒実施していない日
	衛生管理点検表/毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日
	衛生管理点検表/毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿/毎日	毎日実施⇒実施していない日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回/4･10月の施設内会議時 ⇒4月15日、10月15日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回/施設内会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	子どもが自分で選択して遊ぶ場所・遊ぶものを決めることが出来る環境を整備する。
	実践結果	環境整備担当を作り、月毎に振り返り・更新を行い、子どもが自分で経験を選択できる環境づくりを考えた。子どもたちの発達や、年間を見通した計画的な更新を行い、常に子どもに合った環境づくりを意識した。
	次年度方向性	子どもが自ら経験を選び取れるように、定期的に環境について見直しを行い、子どもたちのにんげん力を育んでいく。
2	計画・ねらい	生き物や植物が育つ力を持った園庭作り。
	実践結果	落ち葉やたい肥を子どもたちと一緒にすき込み、植物が育ち、虫が集まる園庭づくりを行った。
	次年度方向性	どのような園庭環境であれば、どの植物が育ち、どの昆虫が集まるのかということを子どもたちと一緒に遊びながら考えていく。

〈7〉手作り遊具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	図書館用の本棚	エントランス	毎日	
2	長椅子(4台)	縁側、エントランス	毎日	
3	おままごと机(1台)	ひえ組保育室	毎日	
4	ピーステーブル（2台）	エントランス	毎日	
5	お茶台(2台)	縁側	毎日	
6	飼育ケース台	縁側	毎日	

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	消防計画に基づき、自衛消防隊を編成し避難訓練を月1回実施。震度5弱以上の際は園が情報を発信し、安否・施設状況・避難先を情報共有する体制をとる。帰宅困難者対策を踏まえ、災害に備える。
2	実践結果	事故防止チェックリストについて、年 4 回設備点検 6 回を行い、事故防止の徹底を図る。
3	実践結果	インシデント・ヒヤリハット報告の分析
4	実践結果	法人内で事故報告を共有し、事故防止策を探る
5	実践結果	年 2 回防犯チェックリストに従い、確認し合わせて不審者訓練を実施。訓練は避難訓練・不審者訓練・通報訓練としスタッフ全員を対象とする
6	実践結果	光化学スモッグが発生しやすい気象条件・光化学スモッグ注意報を把握し、発令があった場合は内容にあった情報を発信する。園児・スタッフは室内で過ごす。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

地域の中の保育園という意識や次世代育成の観点から、積極的に受入れを行った。
実習指導者は学生の指導を通して、自身のリーダーとしてのアウトプットスキルやファシリテーションスキルを向上させ、実習生一人ひとりに合わせた温かい受入れ体制を整えた。
実習担当だけでなく、職員全体でコミュニケーションをとり育成に力を入れたことで、その日毎の気づきや疑問に対し、丁寧な振り返りを行い、翌日の実習に生かすことができた。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
2月3～5日	学校法人　日本教育財団　首都医校	6人	観察実習

〈3〉中高生の受入

中高生の受け入れはなし

7. スタッフ研修

〈1〉施設内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	18日 6名	16日 6名	20日 6名	18日 6名	15日 6名	19日 6名	17日 6名	21日 6名	19日 6名	23日 6名	20日 6名	19日 6名
園内研修	18日 6名	16日 6名	20日 6名	18日 6名	15日 6名	19日 6名	17日 6名	21日 6名	19日 6名	23日 6名	20日 6名	19日 6名

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
9月5～6日	公益財団法人　総合健康推進財団	令和６年度　第１回東京都サービス管理責任者基礎研修及び児童発達支援管理責任者基礎研修	1名	有
11月18～19日	公益財団法人　総合健康推進財団	令和６年度　第2回東京都サービス管理責任者基礎研修及び児童発達支援管理責任者基礎研修	1名	有
12月24～25日	公益財団法人　総合健康推進財団	令和６年度　第2回東京都サービス管理責任者基礎研修及び児童発達支援管理責任者基礎研修	1名	有
1月21～22日	公益財団法人　総合健康推進財団	令和６年度　東京都サービス管理責任者実践研修及び	1名	有

		児童発達支援管理責任者実践研修		
10月8日～ 1月25日	公益財団法人　総合健康推進財団	令和6年度東京都相談支援従事者初任者研修	1名	有

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	19日 1名	21日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	20日 1名	19日 1名
全社員研修	11月に動画視聴にて実施（全スタッフ対象）											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

月1回「ちきんえっぐだより」を発行し、年間計画をもとに地域交流を行った。
また積極的に園外に出かけ、地域の人々と様々な関わりを大切にすることができた。
今まで感染症の影響でなかなかできていなかった「商店街ツアー」と「シニア交流」は毎月十分に行うことができたと感じている。子どもたちの反応に、職員も新しい発見や学びがあり、次年度も継続して行っていきたいと思う。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育	月1回　　公園名：金子児童遊園にて　　参加延べ人数：5名
商店街ツアー	週1回　主な行き先：つつじヶ丘駅、消防署つつじヶ丘出張所、つつじヶ丘交番、調布市立図書館調和分館、植松種苗緑化株式会社、滝坂小学校

	等
世代間交流	1月15日に日本女子体育大学にて「大学生と一緒に身体を動かして遊ぼう」を実施
異年齢交流	7月26日に当園にて「小学生交流」を実施
その他活動	7月20日に当園にて「どろんこ祭り」を実施

9. 医療機関・幼稚園・保育園・小学校との連携の計画

〈1〉今年度の振り返り

幼保小連絡会に参加し、子どもたちが小学校へ安心して就学できるよう、アプローチカリキュラムと スタートカリキュラムを共有しながら積極な情報交換や意見交換を行う 。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
5 月 24 日	調布市立滝坂小学校	2 名	幼保小連携懇談会（調布市立国領小学校）	職員間交流
10 月 9 日	調布市立滝坂小学校 2 年生	7 名	町探検（当園保育室）	子ども職員間交流
2 月 14 日	調布市立滝坂小学校 調布市立調和小学校 調布市立若葉小学校 調布市立緑ケ丘小学校	2 名	幼保小連携懇談会（調布市立国領小学校）	職員間交流
2 月 18 日	調布市立深大寺小学校 調布市立上ノ原小学校 調布市立北ノ台小学校	2 名	幼保小連携懇談会（調布市立深大寺小学校）	職員間交流

10. 個別支援計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

半年間に一度更新を行っていく中で、５領域と子どもの発達成長度合いや支援内容に応じて更新を行っていった。自ルームだけで完結してしまうことが多く、通っている園、センター、他事業所への聞き取りをし、共に支援をしていくことが大切と改めて感じた。

〈2〉進級引継、および小学校への引継状況

年長児対し就学支援シートを活用し、児童発達支援事業所で行ってきた支援内容、子どもの特性や状況、配慮事項など、小学校生活がより豊かになるように情報提供を行った。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
29名	36名	35名	180名	62名	47名	117名	23名	34名	18名	25名	29名	635名

実施項目	詳細												
施設開放	（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　来園延べ人数：28名												
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　⇒計0件相談実施済み												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計13回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	7名	13名	7名	7名	2名	14名	4名	9名	0名	4名	6名	73名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計5回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	7名	0名	0名	0名	13名	0名	2名	0名	2名	0名	0名	4名	28名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00　にて実施												
ちきんえっぐだより	毎月1日発行												
青空保育 （支援センター主催）	月1回　　公園名：金子児童遊園にて　以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	5名	0名	0名	0名	0名	5名

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉施設による自己評価の実施

２０２５年３月１日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：９時００分
自己評価終了時刻：１６時００分
自己評価実施者：増田義之

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月15日
アンケート回収率：80%

利用する多くの保護者様に回答いただき、子ども成長を実感しているという声を多く頂くことができた。今後も原体験や子ども同士の関わり合いに重点を置いた、つむぎ独自の支援を提供していきたい。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見　0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ　0件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年3月１５日　　作成者：発達支援つむぎ つつじヶ丘ルーム施設長　増田 義之

２０２４年度　発達支援つむぎ 宮下ルーム
事業報告書
（発達支援つむぎにおける自己評価）

１．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～
【守る支援から、自分の足で人生を歩むための支援へ】

・併設園として、改めてインクルーシブ保育について、スタッフ一同で考え、取り組んでいく年になった。今現在の宮下として、何が出来るかを考え、話し合う機会も持つことが出来た。しかし、その中でも、悩むことや、うまくいかないこともあり、新たに課題も見えてきている。

・子どもとの関わり方も変わり、守る支援から、自分の足で、自分の考えで活動を決めることが出来る姿も多く見られてきた。離れて見守ることで、子ども一人ひとりの興味関心が広がっている姿も見られた。

〈１〉支援内容の充実・質の向上

１	計画・ねらい	意識的に「養護面」のねらい、及び内容を理解するとともに、子ども一人ひとりに最善の利益を保障していく。
	実践結果	一人ひとりの情緒面にも丁寧な関わりと共に、安心してのびのびと過ごせるよう、そばで見守ることを、大切にして支援出来ている。 保育指針を基にした学びの場が持てなかった。
	次年度方向性	保育指針においての「養護」について学びを深め、安心して生活が出来るようにしていく。
２	計画・ねらい	大人が決めてしまうのでなく、子どもが自分で活動を選び、生きる力を身に着けていく。
	実践結果	保育者が少しずつそばを離れ、大人が決めつけてしまうことなく、一人ひとりの成長に合わせた活動や、自分で選んだ体験が出来てきた。
	次年度方向性	引き続き、大人が決めつけてしまう活動ではなく、のびのびと過ごしていく中で、自分で選択して活動が決められるような働きかけをしていく。

〈２〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

１	計画・ねらい	日ごろの様子を丁寧に伝え、保護者との信頼関係を築き、相談しやすい環境を作っていく。
	実践結果	職員の変更が多く、保護者に大きな不安を与えてしまった。信頼関係を再び築きながら、丁寧な関わりを心掛けていった。話しやすい関りも大切にしながら、安心して利用できるよう努めた。

	次年度方向性	新しく利用する際の不安を丁寧に対応していきながら、新たに信頼関係を築いていく。
2	計画・ねらい	保育者同士が交流できる場を作り、情報交換をしながら、地域交流にもつなげていく。
	実践結果	親子イベントなどの活動が出来なかった。 保護者交流会をおこない、情報交換が出来た
	次年度方向性	積極的に、他事業所との関りを持ちながら、地域交流や、親子イベントにも取り組めるようにしていく。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	保護者の交流会を通じて、地域の方も参加できるようなイベントを開催していく。
	実践結果	地域交流に関しての活動が出来なかった。 交流会は行ってきたので、保護者との関係を深めることが出来た。
	次年度方向性	新規の保護者が増えるので、交流会を通して関係を作っていきながら、地域との関りも増やしていく。
2	計画・ねらい	他事業所との連携を図り、積極的に見学に行く。
	実践結果	他事業所との交流や、小学校、支援学校の見学を通して、就学に向けた連携をとることが出来た。
	次年度方向性	積極的に、小学校や他事業所との交流を広げていく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	インクルーシブ保育についての理解を深め、園職員と共に話し合い、勉強会をしていく。
	実践結果	つむぎのガイドラインの読み解きや、インクルーシブ保育についての話し合いを、多く持つことが出来た。
	次年度方向性	引き続き、読み解きや話し合いを行っていきながら、混ざり合った保育を目指していく。
2	計画・ねらい	報告・連絡・相談の徹底。
	実践結果	共有をしっかり行っていく中で、「伝えたはず、伝えたつもり」になってしまい、後追いが出来ていない場面がある。
	次年度方向性	報連相の徹底と主に、後追いをしっかりし、最後まで責任を持つ。また、発信するだけではなく、自ら考えて行動し、必要な情報を積極的に取りに行くことで、職員同士の円滑な連携、業務の効率化と質の向上につなげる。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	木材や樹木を知り、親しみを持つ。
	実践結果	日頃より木登りや木の葉を使用した製作などは行っているが、木の名前を覚えたり親しみをもったりするまでの活動は行えていない。
	次年度方向性	自然保育を実施しているからこそ、樹木に触れ親しみが持てるような活動を次年度も引き続き実施していく。
2	計画・ねらい	給食残差減少に向けて
	実践結果	給食残菜減少に向けて、日頃より畑仕事やクッキング、焚火で調理などをおこなった。日々の積み重ねにより子ども達の食べる意欲が向上し結果として残差も減っている。
	次年度方向性	次年度も引き続き、クッキングや畑仕事を通して子どもたちも食べたい意欲を向上させていく。

〈6〉インクルーシブ保育の実現

1	計画・ねらい	「インクルーシブ保育とは」を学び、考え、話し合う。
	実践結果	園スタッフとも話し合いの場をたくさん作り、考えていったが、なかなか思うような答えが見つかっていない。その中でも、混ざり合うを目指していくことが出来ている。
	次年度方向性	自分が思うインクルーシブ保育について、スタッフと語り合い、出来ることを見つけていくことで、同じねらいを持った混ざり合う保育を行っていく。
2	計画・ねらい	職員全体で、一人ひとりを理解し、同じ目標をもって関わっていくことで、全体で見守っていくチームになる。
	実践結果	情報の共有を丁寧に行っていくが、うまく伝え合うことが出来なかった。今後の課題として取り上げている。。
	次年度方向性	一人ひとりの発達段階や、成長の目標を共有し合い、ケース会議を改善していきながら、宮下の職員全員で、同じ目標をもって見守っていけるようにしていく。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

児童発達支援　利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	190人	199人	186人	201人	177人	185人	212人	187人	198人	179人	193人	190人	2297人
登録児数	22人	22人	23人	23人	23人	23人	23人	23人	23人	23人	25人	25人	278人

〈2〉開所時間

８時３０分～１７時３０分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

施設長1名
児童発達支援管理責任者1名
保育士１名
機能訓練担当１名（作業療法士１名）
児童指導員１名

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
施設内会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・つむぎのガイドラインの読み解き
給食運営会議	月1回	食育活動実施報告、喫食状況確認、配膳方法
事故防止委員会	月1回	事故のケーススタディ、改善策、各月のヒヤリハット、インシデント分析

支援計画策定会議	適宜	支援計画作成に伴い、開催時期を調整する。 個別支援・グループ支援それぞれの担当者と児童発達支援管理者が必ず参加する。
つむぎ定例会議	月２回	情報の共有と改善策について
夕礼	毎日	その日の確認と振り返り、情報共有

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
児発管会議	月1回	児発管
併設園会議	月1回	施設長(児発管)
食育会議	年4回 （5.8.11.2月）	施設長 調理スタッフ
保健会議	年4回 （5.8.11.2月）	施設長
子育ての質を上げる会議	月1回	スタッフ

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導
安全対策係	事業所内、または周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策 計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起
防火管理者	防災計画の立案、月１回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、近隣施設との連携の推進
食品衛生管理係	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食品サンプルの管理
畑係	園庭、玄関のプランターの整備、計画的な活動の立案、畑の環境整備
生き物係	魚の飼育管理、動物や植物に触れる機会の検討立案、ヤギや鶏の健

	康管理、飼育環境改善

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	どろんこ祭りの企画、調整
運動会係	運動会の企画、調整
生活発表会係	生活発表会の企画、調整

4. 支援・処遇

〈1〉保護者面談 および発達相談・児童の保護者への支援および意見要望への対応

マンスリー	・見守る支援を心掛け、子ども自身が自分で活動を選べるような働きかけをしていく。 ・職員配置の度重なる変更があり、不安な思いを与えてしまったので、丁寧な謝罪と対応、信頼関係の構築に努めていった。 ・就学に向け、一人ひとりの合わせた相談や就学先、放デイの案内などを行う。 ・保育園との連携を密にし、混ざり合う保育を目指していく。
ビジター	・一人ひとりの発達や特性に合わせた支援を話し合い、進めていった。 ・他事業所との連携を取りながら、支援をしていった。
個別支援 (ビジター)	・保護者のニーズに合わせ、個別支援を行った ・他事業所との連携を取りながら、支援をしていった。
保護者面談 発達相談	・フィードバックを通して、家庭での様子を伺いながら、一人ひとりに合った支援を目指していった。

〈2〉計画した年間行事の振返り

別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育に関する実践結果

ｌ	計画・ねらい	火×食材
	実践結果	冬季では日頃から定期的に焚火を行い、収穫した野菜を焼いて食べたり、味噌汁を作って食べたりしながら食育活動を行うことができた。また、職員や子どもに対して焚火の研修を行ったことで、子どもだけでマッチを使用して火をおこしたり、薪をくべたりすることができるようになり、発表会で保護者へお見せすることもできた。
	次年度方向性	次年度も、イベントではなく日常から焚き火を行い、子ども自身が経験として学びながら火との距離感や自然の楽しさや恐怖感といった２面性を知ることができる体験を用意していく。
2	計画・ねらい	命を頂く～鶏を捌く～
	実践結果	幼児クラスで希望者を募り、７割ほどの子どもが参加知ることができた。活動を通して命の大切さや食材のありがたみなどを感じ、給食の際に手を合わせて「いただきます」をする姿や、生き物の命を大切にする姿が見られるようになった。
	次年度方向性	次年度は捌く予定はないが、鶏以外に魚等を捌く活動を計画実施していくことで、命のありがたみを知る活動を続けていく。
3	計画・ねらい	お米を知る
	実践結果	園庭の田んぼを用いて、田植えから収穫までの流れを意図通り体験することができた。しかし、途中の手入れや収穫後の作業については保育者中心の作業となってしまったため、米作りの苦労までは伝わらなかったと感じた。
	次年度方向性	次年度は植えて収穫だけでなく、管理や維持の大変さを実感してもらえるような管理体制を整え、計画を立てている。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
スタッフ健康診断	年ｌ回実施
スタッフ検便	毎月ｌ回（全スタッフ対象）
流行した感染症	併設されている保育園にてインフルエンザが流行する。 児童ｌ名　スタッフｌ名感染 コロナウイルス　児童ｌ名感染
エピペン使用できるスタッフの状況	・キックオフでエピペン研修をスタッフ４名受講し習得 ・本日時点で、在籍スタッフ７名のうち、４名が使用可能

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日　0日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
健康管理	身長体重測定	毎月1回／20日　実施済み
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の施設内会議時 ⇒４月、10月に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間　実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	「やりたいことを止めない保育」を目指した環境作りをする。
	実践結果	自分でやりたいことが自由に出来る環境を、園と一緒に考え、作っていく。また、好きなものを遊び込めるようになってきている。
	次年度方向性	一人ひとりの発達を共有していきながら、園と一緒に環境作りをしていく。
2	計画・ねらい	一人ひとりの特性に合わせた、落ち着ける場所を工夫していく。
	実践結果	園と話し合いながら、安心できる場所を工夫し、落ち着いて過ごせるよう工夫していくことが出来た。
	次年度方向性	引き続き、共有していきながら、環境づくりを工夫していく。

〈7〉手作り遊具安全点検結果

なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	防災	非常災害に備えて消火設備等の必要な設備の点検や備蓄品の管理、また、年間消防計画に沿って訓練を行い、避難方法や関係機関などへの連絡体制の確認を行った。それらを定期的に保護者に周知した。 支援地経中に起きる事故や怪我を防止するために、室内や屋外の環境の安全性について毎日点検し、必要な補修等を行い、危険を排除することに努めた。
2	ケガ事故防止	発生した事故事例や、事故につながりそうな事例の情報を収集し、スタッフ間で共有した。 緊急時における対応方法について、マニュアルに従い、全スタッフが対応方法について理解し、予め計画された役割を実行できるように訓練を行った。
3	防犯	外部からの不審者の侵入を含め、子どもが犯罪に巻き込まれないように事業所として防犯マニュアルを定期的に確認するとともに、関係機関と連携して防犯に関わる安全確保への取り組みを行った。
4	光化学スモッグ	光化学スモッグ発生時には、自治体などにより発信される情報をチェックし、発声時には屋外での活動を控えた。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

地域の学校とるながり、作業療法士を目指すにあたり、発達支援の分野での作業療法士の役割や多職種との連携を学び、就職を考える際にこのような分野があるということを知ってもらうために、2020 年度より、見学実習を実施している。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
10月28日～ 11月1日	学校法人君津あすなろ学園 千葉医療福祉専門学校	11人	見学実習(マンスリー)
12月	学校法人君津あすなろ学園 千葉医療福祉専門学校	3人	見学実習(ビジター)

7. スタッフ研修

〈1〉施設内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	26日 4名	23日 4名	28日 5名	26日 5名	23日 4名	27日 3名	18日 4名	22日 4名	27日 4名	31日 4名	14日 4名	19日 4名
園内研修	26日 20名	24日 18名	24日 18名	26日 18名	23日 17名	27日 18名	25日 19名	22日 16名	27日 19名	31日 20名	28日 18名	28日 18名
インクルーシブ保育研修 講師：施設長	8月9日に内箕輪どろんこ保育園にて20名のスタッフが出席											

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
通年	キャリアアップ研修	キャリアアップ研修	1名	なし

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	22日 1名	18日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
全社員研修	9月に動画視聴にて実施（全スタッフ対象）											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

地域に根付いた園であることから、今後も近隣住民の方や、学校、老人ホーム施設等の交流を積極的に行っていく。地域を見守ると同時に見守られる園として近隣地域と密に連携を取りながら運営を行った

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育	月1回　公園名：宮下公園にて　　参加延べ人数：0名
商店街ツアー	週1回　主な行き先：ローソン、セブンイレブン、丸亀製麺、釣り具ランド、君津の湯、バーバー三原さん、郵便局　等
世代間交流	毎月1回、老人ホーム「みのり」にて交流実施
異年齢交流	散歩先で近隣の小学生や、中学生と交流を実施
その他活動	月1回　〈3～5歳児〉　実施

9. 医療機関・幼稚園・保育園・小学校との連携の計画

〈1〉今年度の振り返り

回数は少なかったが、小学校とも交流を実施することができた。

また、学校への通学路探検や学校についての話をするなど、小学校への期待感が持てるよう意識して活動を行った。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
９月２４日	周南小学校 1年生	２３名	周南小学校	子ども間交流
２月２０日	周南小学校 1年生	２３名	周南小学校	子ども間交流

10. 個別支援計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

子どもの発達の様子、環境及び日常生活全般に応じて、適切な療育目標を設定し、目標に応じた内容を検討する。今年度は、児発管不在だったため、面談等はできなかったが、振り返りなどで、丁寧に対応していった。

〈2〉進級引継、および小学校への引継状況

就学相談を利用して連携機関や小学校と、個々の細かな様子や情報の共有を行い、就学後も安心して生活ができるように努めた。

また、年長児には、就学支援シートを作成し、学校側に引継ぎを行った。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
30名	27名	20名	317名	30名	22名	324名	33名	75名	29名	285名	30名	1222名

実施項目	詳細
施設開放	（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　来園延べ人数：58名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　⇒計０件相談実施済み
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週（水）10:00～12:00　⇒計24回実施済み 参加者延べ人数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
8名	10名	9名	2名	23名	6名	16名	19名	30名	29名	０名	30名	182名

どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週（水）10:00～12:00　⇒計10回実施済み 参加者延べ人数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
０名	０名	０名	13名	７名	０名	２名	８名	12名	０名	０名	０名	52名

勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00　にて実施
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育	月1回　公園名：宮下公園にて　以下日程にて実施

（支援センター主催）	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	０名	０名	０名	０名	０名	０名	０名	０名	０名	０名	０名	０名	０名

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉施設による自己評価の実施

２０２４年10月18日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：13時00分
自己評価終了時刻：14時00分
自己評価実施者：羽澤佑太、佐藤宏美、髙橋美桜

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月25日
アンケート回収率：100%

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見　0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む）　0件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：発達支援つむぎ 宮下ルーム施設長　佐藤　宏美

２０２４年度　子ども発達支援センターつむぎ浦和美園
事業報告書
（発達支援つむぎにおける自己評価）

１．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

地域に根差し開かれた施設を目標に、積極的に地域に出かけていき地域連携を図った。商店街ツアーやシニア交流、近隣施設との子ども間交流を実施し、地域で生きていく子どもたちの活動の幅を広げていった。毎日の日課を充実させ、生き物の世話や畑仕事などから道具の使い方や野菜の収穫、食べるまでの工程などを学び、自分でできることを増やしていった。戸外活動などの実体験を通して、体力向上や人との距離の取り方などを知り、センターの目標である「心づくり、身体づくり、仲間づくり」を育んでいった。

大人は主体的に行動し、美観や接遇、講座の開催などを通してセンターの質の向上に努めた。地域に開かれた施設を目標に、継続して地域課題に取り組んでいく施設となっていく。

〈１〉支援内容の充実・質の向上

１	計画・ねらい	共通	生活力の体得 ・自分の足で人生を歩む力を育む（児発・放デイ）
	実践結果	児発	・戸外活動出発時や帰園時に、自分から準備をしたり着替えたりしようとする子どもが増えた。
		放デイ	・掃除に子どもから目が向くようになった。おやつの準備や片付けが定着してきた。 ・散歩先でトイレが不便なことを知り、自分たちで出発前のトイレや水分補給が定着してきた。
	次年度方向性	共通	・子どもたちの姿に合わせて、スモールステップでできることを増やしていく。 ・自分でできることに自信を持って取り組んでいく。
２	計画・ねらい	共通	自己選択・自己決定 ・守られず、分けられず、制御されず、指定されない支援
	実践結果	児発	・散歩先を選んだり、園庭や室内での遊びを子どもたちが選び取ったりすることができていた。おもちゃの量や室内の環境は、選び取りと遊びこむにはまだまだ課題がある。
		放デイ	・小さな選択をする機会が増え、自分たちで選び、実行することができている。自由な状況、0から何かを選び取れない児童もいる。
	次年度方向性	共通	・年齢にあったおもちゃや棚の配置等、子どもが選びとりやすい環境は今後も話し合って変化させていく。 ・個々に対応しながら自分で考える機会を増やしていき、自分で決められる力を育んでいく。
３	計画・ねらい	共通	食育活動の充実 ・食を通して環境教育を実施する

	実践結果	児発	月一回の食育活動は、ほぼ計画通り実施することができ、親子参加も回を重ねるごとに参加率が良くなっていった。また、夏以降、収穫後すぐに活動の中で食べることも定着してきている。
		放デイ	平日、土曜日グループ共食育が充実した。畑で収穫した野菜を使って食べることができてよかった。特にスイカは、種まきから収穫、スイカ割りが一連の流れでできてよかった。
	次年度方向性	共通	保護者との食育活動を継続することで、家庭から道具を持ち寄ったり、一緒に作ったりしながら、家庭でのお手伝いなど、食への関わりや興味関心を拡げていく。

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	共通	子育て相談・地域講座開催 ・保護者同士が繋がる場を作り、相談し学び合える施設になる
	実践結果	児発	・保護者の懇親会を開き、保護者同士の横のつながりの場を作り、同年代の保護者同士が繋がることができた。また「つむぎ de ほっとカフェ」では、個々の相談を専門的な角度から検証する機会となった。
		放デイ	保護者会を行うことで、各家庭の様子や、同世代の子どもたちの様子を聞くことができる良いきっかけになった。
	次年度方向性	共通	保護者同士が繋がる場として、保護者会等だけでなく、「つむぎ de ほっとカフェのみ利用可能です」等の張り紙をフェンス等にもつけていき、カフェでのつながりを進めていく。
2	計画・ねらい	共通	安心して過ごせる施設づくり ・不要なものを整理し、気持ちの良い環境を提供する。
	実践結果	児発	・子どもたちが遊びこめるゾーン保育を保証し、安心できる環境設定を行った。冬場になり、自分の荷物をロッカーに入れるようになったことで、子ども自身も見やすく、大人も把握しやすくなった。
		放デイ	・子どもと一緒に整理整頓を行い、年齢にあった物を出し入れして使うことを心がけ、定着しつつある。
	次年度方向性	共通	・子どもたち自らが安心できる環境を見つけられるよう、環境構成を工夫していく。 ・生活していくうえで必要なことを意識し、自分でできることを増やしていく。
3	計画・ねらい	共通	充実したフィードバック ・丁寧な対応を行い、子どもの成長を相談し合える関係づくり
	実践結果	児発	・リビング内で行っていたフィードバックをカフェで行うことで、話す内容や落ち着いた環境を作り考えをまとめて伝えていくことができた。短時間で内容のある話ができている。
		放デイ	・支援計画案を作成していく中で、保護者との共有がより明確になった。 ・つむぎでの様子や学校での連携などの情報共有ができているの

			で、継続的なフィードバックにつながった。
		訪問	・保育所等訪問支援を定期的に行い、所属園での様子だけでなく、家族での様子も伺い、子どもの成長や心配なことについて保護者の方と話す時間を作っている。来所以外でも電話で対応するなどフィードバック以外での相談が増えた。
	次年度方向性	共通	・環境を変えていくこと、勉強を重ね職員の意識を向上していくことでよりよいフィードバックへとつなげていける。日々の積み重ねが、信頼関係へとつながっていく。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	共通	地域講座開催 ・近隣施設や地域の方につむぎでの取り組みを発信していく
	実践結果	児発	・保護者の参加が定着し、コミュニティの場になっている。 ・保護者同士のつながりも見られ、地域の方の参加もあった。
		放デイ	・周知不足があり参加率は少ない。 ・継続して参加を促していく。
		訪問	・近隣の施設へチラシを配布し周知した。気軽に参加できることをお伝えしたが、午前中の開催は参加が難しそうだった。
	次年度方向性	共通	・年間予定を４月に掲示し、近隣施設などに配布する。 ・地域課題などを取り入れて内容の充実を図る。
		訪問	・訪問先への周知、課題の吸い上げなどを行い、地域講座で学び合える場を作っていく。
2	計画・ねらい	共通	青空保育～地域に開かれた子育て支援 ・青空保育を通して近隣施設や地域の方につむぎを知ってもらう
	実践結果	共通	・天候不良や猛暑で公園に人がいないことがあった。木陰のない公園なので検討が必要。参加しやすい雰囲気作りは出来ていた。 ・放デイの子どもたちと一緒に行くことができていないので、今後検討する必要あり。
	次年度方向性	共通	地域講座や勝手かごの周知を行い、地域の方に身近に感じてもらう機会としていく。
3	計画・ねらい	共通	他園交流 ・近隣施設や学校との連携を図り子ども間交流を行う
	実践結果	児発	・遍照浦和美園保育園、保育園大きなぞうさんとの交流を年長児中心に行うことができた。次年度も継続して行っていくとともに、交流の場を広げていく。
		放デイ	・今後検討する必要あり。
		訪問	訪問先の保育園の子どもたちが遊びに来たり、保育園に行ったりした。同世代の仲間づくりを目指し、今後も継続して交流の場を増やしていく。

	次年度方向性	共通	近隣園との交流が増え、互いに行きかうことができるようになった。継続してつむぎ以外の場所で同世代の仲間づくりを実践し、地域で共に生活していく子どもたちを育んでいく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	共通	地域講座 ・保護者、関係機関、地域に向けて講座を開催する
	実践結果	共通	・「つむぎ de ほっとカフェ」での講座が定着した。自身の言葉で保護者へお伝えする経験を重ね、内容や話し方の向上を図った。
	次年度方向性	共通	・児発から継続して講座に参加してくださる保護者が増えた。関係機関や地域の方への発信を広げ参加につなげる。
2	計画・ねらい	共通	自立運営 ・全スタッフが内部監査項目を理解し、実践する
	実践結果	共通	・監査内容の周知を行い各自の意識向上を図った。スタッフの主体的な行動が目に見えるようになってきた。
	次年度方向性	共通	・スタッフひとり一人が自分事として業務を担い、改善点や取り組み内容を実践するチームとなっていく。
3	計画・ねらい	共通	地域連携の充実 ・近隣施設、小学校等への訪問実施
	実践結果	児発	・遍照浦和美園保育園や保育園大きなぞうさんとの交流、ラスベガス、他園や施設の方が多く来られるようになった。
		放デイ	・保育所等訪問に同行したり、送迎時などに様子を聞いたりして学校との連携ができてきている。
		訪問	・小学校の訪問では放課後等デイサービスの職員も一緒に訪問し、担任の先生との関係づくりを行った。
	次年度方向性	共通	・積極的に保育所等訪問支援に同行し、地域の現状把握を行う。 ・地域課題の吸い上げを行い、幼保小の架け橋となっていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	共通	遊びこめる環境づくり ・自己選択・自己決定・自己実現につながる環境整備
	実践結果	児発	・1つのフロアの中で様々な活動の選び取りができるようになっている。 ・2階の部屋を利用して分散した活動を行った。
		放デイ	・ゾーン保育ができていない。子どもが自分で手に取ることができないことも多い。 ・玩具が年齢にあっていない ・外遊びグッズ（ボール等）の充実を図っていきたい。
	次年度方向性	共通	・環境の見直しを定期的に行い、安心して過ごせる場づくりを行っていく。

			・年齢発達に合わせた玩具や環境構成を検討し、自ら遊びを選択し仲間と過ごせるようになっていく。
2	計画・ねらい	共通	全身で感じられる経験 ・戸外活動の充実を図り、実体験からさまざまな経験を得る
	実践結果	児発	・散歩の選択を子どもと相談するサークル活動が充実した。下半期、遠方の公園に出かけ遊び込む時間が増え、午前中の戸外活動がとても広がった。
		放デイ	・畑、動物、おやつ、焚火など、いろいろな経験を積んでいくことができた。また、暑さなどもその場の実感や、空の様子や明暗なども伝え、そこで一緒に考える場面を多く持つことができた。
	次年度方向性	共通	・実体験を通してやりたいことの実現につなげていく。 ・危険なものとの距離の取り方、道具の使い方を学び、自分で身を守れる力を育んでいく。
3	計画・ねらい	共通	命をいただく活動の実践 ・肉や魚がどのように食材になるのかを知る体験
	実践結果	児発	実施できていない
		放デイ	今後検討していきたい。
	次年度方向性	共通	・大人が実践し子どもたちに伝えていく。 ・畑活動の充実から食を広げていく。

〈6〉地域連携から中核施設としての発信

1	計画・ねらい	共通	近隣施設、保護者への施設公開 ・発達支援の入り口として身近な存在になっていく。
	実践結果	児発	・近隣施設の方や地域の方が畑活動やヤギのエサやりに来ていた。 ・見学に来る方が多かった。 ・日中の食育活動などを通して、保護者に様子のお伝えができた。
		放デイ	・子どもの活動に保護者も一緒に体験できることもあった。 ・異文化交流や出前講座等を保護者参加にしてもよかったと思う。
		訪問	・近隣施設を対象とした「つむぎ説明会」を年1回実施した。 ・夏季休暇を利用して見学に来て頂く機会が増えた。
	次年度方向性	共通	・「つむぎ説明会」：年２回の実施を目指していく。 ・近隣園との子ども間交流を月1以上実施し、活動の場を広げる。
2	計画・ねらい	共通	地域講座の開催 ・子どもの育ちを共に考えながら支援に関する学びを深めていく
	実践結果	児発	・「つむぎ de ほっとカフェ」では地域の参加が少なかった。 ・保護者会への参加は増えていて、先輩保護者の話を聞こうでは具体的なイメージに繋がり、有意義な交流の場となった。
		放デイ	・「つむぎ de ほっとカフェ」や保護者懇談会を実施し、子どもの育ちを共有することができた。

	次年度方向性	共通	・青空保育や保育所等訪問支援先に開催を周知し、地域の課題を吸い上げて共に学べる場となっていく。
3	計画・ねらい	共通	地域交流 ・近隣施設との繋がりを広げ、商店街ツアーや施設訪問の拡充
	実践結果	児発	・遍照浦和美園保育園、越谷どろんこ保育園との交流。ラスベガス、商店街ツアーは夏場を除いて毎週実施できている。
		放デイ	・公共施設を利用することができた。 ・今後も広げていけるとよい。
	次年度方向性	共通	・交通ルールを守ることや関係機関との連携を充実させ、地域で過ごしていく生活力を身に付ける。

〈7〉実体験から生活力を体得し生きる力を育む

1	計画・ねらい	共通	自己選択・自己決定ができる環境づくり ・自分で選び決めていたことを知り実現していく
	実践結果	児発	・2F の倉庫にあった玩具をリビングに持ってきた。各コーナーを作ることで遊びこむ姿が見られた。戸外への促しも工夫していきながら、子どもが自己選択できる環境を提供した。
		放デイ	・小さな選択・決定から、他児と一緒に考え、1つの答えや、複数の決定をできるようになってきている。
	次年度方向性	共通	・引き続き、サークル活動から戸外の行き先を視覚的に提示して選択し、活動場所を広げていく。 ・他者を意識し、感情のコントロールや距離感を身に付けていく。
2	計画・ねらい	共通	日課の充実 ・大人と一緒に様々な活動に取り組む
	実践結果	児発	・一年を通して継続することが難しい時期もあるが、リズムやサークルは継続して行うことで、子どもたちの定着を図ることができた。
		放デイ	・畑、掃除、動物、おやつなどは定着してきている。 ・座禅は実施できるようになってきているので、定着していけるとよい。
	次年度方向性	共通	・大人が一緒に雑巾がけや動物の世話などのやり方を伝えていきながら、終わった後の心地よさを伝えていく。 ・継続して日課に取り組み、健康な心と体を育てていく。
3	計画・ねらい	共通	仲間づくり ・安心できる環境の中で互いの思いを伝え合う力を育む
	実践結果	児発	・個々の気持ちに寄り添った支援が前期に提供できた。後期は、他者を想いやる気持ちが芽生えてきて、仲間を意識できる子が増えてきた。
		放デイ	・子どもがお互いに他児を意識してきている。場合によっては、受け入れられない姿も見られるようになっているので、大人が見守っていく。子ども同士で声をかけている姿を認めながら、さまざまな

			関わりを経験していく。
	次年度方向性	共通	引き続き、子どもの気持ちを丁寧にくみ取り、思いを伝える力に加えて、相手の気持ちを受け入れる力を育んでいく。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

児童発達支援　利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	96人	97人	97人	100人	105人	105人	106人	109人	113人	117人	115人	113人	1273人
登録児数	99人	99人	100人	104人	106人	108人	109人	114人	117人	120人	119人	116人	1311人

（解説）マンスリー・個別支援・土曜日グループ

放課後等デイサービス　利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	50人	47人	47人	46人	45人	46人	47人	46人	47人	47人	46人	46人	560人
登録児数	51人	50人	50人	48人	48人	47人	48人	48人	47人	47人	47人	47人	578人

（解説）月～金グループ活動・土曜日個別支援・土曜日グループ

保育所等訪問支援　実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
訪問実数	34人	34人	38人	31人	30人	41人	45人	37人	34人	42人	45人	30人	441人

（解説）児発からの継続で小学校への訪問が増えている。関係機関との連携が深まり、支援の方向性を共有する機会が広がった。移行支援をスムーズに行っていく。

相談支援事業　実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	ＩＩ月	12月	Ｉ月	2月	3月	合計
新規	Ｉ人	2人	Ｉ人	0人	2人	0人	2人	0人	Ｉ人	Ｉ人	Ｉ人	0人	ＩＩ人
継続	28人	28人	28人	20人	27人	24人	20人	24人	24人	20人	23人	34人	300人

（解説）関係機関との連携を強化し、情報提供等の充実を図った。新規受け入れを柔軟に行った。

〈2〉開所時間

9時00分～ＩＳ時００分

〈3〉スタッフ構成　（3月Ｉ日時点）

施設長Ｉ名 児童発達支援管理責任者2名
保育士7名
機能訓練担当（言語聴覚士3名、作業療法士Ｉ名、理学療法士Ｉ名、心理担当職員Ｉ名）
児童指導員7名 栄養士2名 事務Ｉ名 用務Ｉ名 相談支援2名

3. 運営報告

〈Ｉ〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
施設内会議	月Ｉ回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・虐待研修・人権研修・感染症研修 ・情報共有
給食運営会議	月Ｉ回	喫食状況確認、献立検討、残渣削減に向けての検討、衛生管理、情報共有
事故防止委員会	月Ｉ回	ヒヤリハット、インシデント検証、重大事故検証
支援計画策定会議	適宜	支援計画に伴う情報共有、支援方針、目標設定
ケース会議	月Ｉ回	子どもの情報共有、支援計画、活動の検討及び見直し実施

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
児発管会議	月1回	児発管
併設園会議	年2回	施設長
食育会議	年4回 （5.8.11.2月）	施設長 調理スタッフ
保健会議	年4回 （5.8.11.2月）	施設長
子育ての質を上げる会議	月1回	スタッフ

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	書類（月末月初）の準備、設置、爪の確認、嘔吐処理バケツの定期的な確認。 園内研修などを活用して、実施することの基盤づくりを進めたい（現在はあまり実施できていない）。 業務全般を全員で分担して実施したい（現在は行えていない）。
安全対策係 （生き物・環境整備・畑）	生き物：餌の発注をより計画的に確実に行う。年度の初めから掃除を行ったことにより、下半期の子どもたちの活動につなげられた。
防火管理者	防災：係が状況の把握ができていないことがあった。避難訓練自体は全て行うことができ、子どもたちの避難もスムーズになった。消防車に来てもらうなど、水消火器での訓練も行えていないため、再度今年中に検討していく。
食品衛生責任者 （給食関係全般）	月一回の給食会議が月の中旬に定期的に実施できた。 その内容が給食に反映されることもあった（おかわりの提供の仕方）。衛生事故もなく、子どもたちの手洗いもよくできるようになった。
地域交流係	カフェ：地道に保護者にチラシを配ることで動員につなげることができた。 青空：7・8月の真夏は公園に子どもがいないので開催場所をセンター内にするなど検討していく（夕方にするなど）

写真係	・月ごとの担当が割り振れた ・写真販売マニュアルがよかった。 ・保護者に写真販売が周知できたことで販売につながった。

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	8/31実施。450名参加。多くの参加をいただき大盛況となった。昨年度の実施を踏まえ、2F ブースの混雑が回避できた。猛暑の開催になっているので、検討が必要。近隣からの参加が毎年増えていてつむぎを訪れるきっかけとなっている。

体験学習係	児発	親子の関わりが見られる機会になった。お神輿作りは祭りにつながりが持てた。
	放デイ	二つとも楽しい企画だったので盛り上がり、満足度も高かったように思える。児発と時間を分けて行うことでスムーズに進んだ。どちらの企画（運動会・すいか割り）もまたやりたい。

4. 支援・処遇

〈1〉保護者面談 および発達相談・児童の保護者への支援および意見要望への対応

マンスリー （2歳児）	・昨年度より利用者は少なかった。 ・異年齢で活動することができた。 ・年上の児童と一緒に散歩への活動に参加できた。
マンスリー （3歳児）	・次年度に向けて10月から9時登園にした。 ・子ども自身で活動を選択できる子が多かった。 ・他児や大人への興味・やりとりが広がった。
マンスリー （4,5歳児）	・4月～前期までは、4歳と5歳の各グループでねらいをたてていたが、後期は一緒にねらいを考えていくことができて、よりよい支援へと広げていけた。
土曜日グループ （児発）	・子どもの成長や保護者様のニーズに合わせて、途中でグループ編成を変えた。 ・小集団での活動に意識が向いてきている。 ・小学校就学に向けて戸外での活動経験を増やし、交通ルールを伝える活動を取り入れた。

個別支援 （児発）	・室内だけでなく、戸外活動や、他児とのかかわりの充実を図ることができた。
平日グループ （放デイ）	・支援目標に沿って良いことも悪いことも伝え、その上で成長段階を踏まえて今後の課題を捉え、伝えている。 ・服薬について共有し、児童の状況を把握できている
土曜日グループ （放デイ）	・その日のことだけでなく、継続的に線でつないでお話しすることができている。 ・学校での様子も含めて共有し、周りの様子とつなげて伝えられている。
個別支援 （放デイ）	・グループと個別の利用時は比較して話しができる。 ・個別で自信をつけ、グループに参加できる様子もある。 ・保護者からの話が拾いやすい。利用につながるよう保護者との関係性をつくり、その上で話をすることができている。
保育所等訪問支援 （児発・放デイ）	・所属先や保護者と相談したうえで、月1回～2,3か月に1回、小学生は学期に1回の頻度で定期的な訪問を実施した。小学校は8校の訪問を行った。 ・登録者数 児発：60名　放デイ：20名
事業所内支援	・ご希望に沿い随時実施。併用利用や移行支援などの相談に応じた。
家族支援	4～3月まで　合計22名　が参加済み　　（3月1日時点） ・ご希望に沿い随時実施
保護者面談 発達相談	・訪問のフィードバック以外にも、保護者の相談を受ける時間を随時設けている。
関係機関との連携	4～3月まで　合計延べ40名　が参加済み　　（3月1日時点） ・訪問支援や相談支援事業所を利用している児童の関係者会議に参加し、情報を共有した。 ・訪問支援とマンスリー職員の情報共有を仲介した。
意見・要望への対応	・訪問先、保護者の方、双方のご意見やご要望を伺い、丁寧に対応することに努めている。

〈2〉計画した年間行事の振返り

別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	共通	大人と一緒に食を楽しむ環境づくり ・温かく楽しい雰囲気で安心して食べられる場所を作る

	実践結果	児発	・各テーブルにスタッフがつき、孤食を防いだ。 ・食べられるものを食べられるように、子の気持ちを大切にし、食に興味が向きにくい子にも丁寧に関わった
		放デイ	・安心できる場を作り、一緒に食を楽しんだ。 ・おやつ作りや土曜日の活動で焚火調理を楽しんでいる。 ・季節のおやつ、行事のおやつ、郷土菓子なども楽しく食べている。
		給食室	・喫食時に各テーブルに職員がいる環境作り。 ・給食室も一緒に配膳を行い、盛り付けや下膳の言葉をかけ、落ち着いて食べられる環境作りを行った。
	次年度方向性	共通	・一人一人の喫食状況の確認、安心して食に向かえる環境を整えていく。 ・残渣の削減。
		給食室	・今年度同様に実施していく。 ・食への向き合い方、楽しい雰囲気を作りながら、食べる意欲を育んでいく
2	計画・ねらい	共通	縁側給食、バイキング給食の充実 ・季節を感じながら好きな人と好きなものを自分でよそって食す経験
	実践結果	児発	・風の強い日、雨以外は縁側で実施。 ・バイキングをするメニューを増やし、定着できた。汁の具、肉や魚の大きさをいくつか用意し、食材を選びやすくした。
		放デイ	・季節を感じながら、給食だけでなくおやつも縁側、バイキングを楽しむことができている。
		給食室	・縁側給食とバイキング給食はほぼ定着してきている。天気の状況で室内を選択して食事をするなど各自の選択に任せた。
	次年度方向性	共通	引き続き、縁側給食を継続し、暑さ寒さを感じ、旬の食べ物を知っていく
		給食室	・継続してバイキング給食を行い、主菜や汁（冬期は少し温かいと感じるくらい）などよそいやすいように道具を選んだり使い方を伝えたりしていく（子どもの様子を見て徐々に進めていく）。主菜の肉や魚は大きさを変えて用意し、個々の食欲や一口でも食べてみようという意欲につながるよう工夫していく。
3	計画・ねらい	共通	畑の収穫物を味わう ・畑仕事を通して日々育っていく過程を知り、収穫野菜を食べてみる
	実践結果	児発	・食育活動の充実を図った。畑に毎日足を運び、成長過程を知り、収穫し、各々が好きなタイミングで収穫物を味わっていた
		放デイ	・畑仕事から調理まで行うことができてよかった。ただ、日々を追っていけないことも多かったので今後していけるとよい。何を作るためにどの野菜を作る、育てたいかを考えていけるとよい。
		給食室	・実った野菜を子どもたちが採って、その都度、その日に新鮮な野菜を味わっていた。じゃがいもはどろんこ祭りのフライドポテトとして提供し、保護者にも喜んでいただけた。さつまいも餅、焼き

			芋、白菜スープなど、食育活動にも役立った。
	次年度方向性	共通	・引き続き、畑に出向いて季節の食べ物を知り、育てて食べる活動に繋げていく。
		給食室	ある程度の量が収穫できたら、給食での提供（食材の一部として）もできるとよい（計画的にまとまった量を収穫する）。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
児童健康診断	年2回（6月21日・12月11日） 児発マンスリー利用児対象
歯科検診	実施なし
保健だより	毎月25日におたより配布
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した児童への保健指導、又は、取組等	1月21日～1月28日につむぎ会場にて手洗いチェッカーを実施
流行した感染症	特になし
発作・痙攣等の対応	なし
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月21日につむぎ会場にてエピペン研修をスタッフ24名、４月２日までにスタッフ7名、スタッフ計31名受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ29名のうち、29名が使用可能
その他保健に関する取組	消毒・換気を徹底。手洗いチェッカー実施し手洗いへの意識を高めた。感染症予防、エピペンなどの研修を会議内で行った。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み

	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（法定1回/3年）	業者による対象物の法定点検 2023年実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月 ⇒4月30日、10月31日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日　実施済み
	児童健康診断	内科健診　各年2回／6月12日、12月11日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の施設内会議時 ⇒4月26日、10月25日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間　実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	共通	遊び込める環境づくり ・自身で様々なものに主体的に関わり、自己選択・自己決定・自己実現につながる環境整備。
	実践結果	児発	遊び込める環境を作る難しさを感じた。年齢や発達に合わせたコーナー作りが課題。
		放デイ	・おもちゃ等が年齢不相応のものが多い。自分たちで作っていく工夫とそのためにいつでも手に取れる環境を作っていけるとよい。
	次年度方向性	共通	おもちゃの数や棚の数を見直して、コーナーを増やす。年齢や発達など子どもの姿に合わせた環境をその都度作っていく
2	計画・ねらい	共通	全身で感じられる経験 ・戸外活動の充実を図り、実体験から生きる力の獲得を図る
	実践結果	児発	昨年に比べると長距離の散歩ができなかった。園外に出られなくても戸外に意識を向けて、年齢や発達に合わせた散歩の場所をよく話し合った。

		放デイ	・遠くの公園に行くことはできていない。近場の公園でも季節を感じることや、他児と遊ぶ姿が見られるようになってきた。 ・畑などを中心に遊んだり畑仕事をしたりしながら、役割意識も生まれてきている。継続できるとよい。
	次年度方向性	共通	近隣から始めて距離を伸ばしていく。昨年できなかったシニア交流が今年はできたので、引き続き、シニア交流や商店街ツアー等を通して、たくさんの経験を積めるようにしていく。
3	計画・ねらい	共通	清潔で快適な環境づくり ・必要なものが必要な場所にあり、整理整頓が行き届いた環境
	実践結果	児発	・外から見える範囲に脱ぎ捨てたオムツや散乱した着替えがあったが、荷物の場所を変えることで減少 ・汚染区域の備品を整える。現状は必要なものがすぐにないこともある。
		放デイ	・課題はあり子どもと一緒に掃除をしていきながら、大人の環境への意識、整理整頓を実践していく。
	次年度方向性	共通	雑巾や清掃用具の場所など、子どもたちにわかりやすいような工夫をする。 快適で清潔な施設を維持しながら大人の意識を上げていく。

〈7〉手作り遊具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	配膳台	1階室内	毎日	異常なし
2	机	1階室内	毎日	異常なし
3	下駄箱	玄関	毎日	異常なし
4	パーテーション	2階室内	毎日	8月31日撤去
5	荷物棚	2階室内	毎日	異常なし
6	ベンチ	園庭	毎日	異常なし
7	虫ハウス	園庭	毎日	異常なし
8	一本橋	園庭	毎日	異常なし
9	ヤギ小屋	園庭	毎日	異常なし
10	黒板	縁側	毎日	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	設備点検チェック 年４回/4，7，10，１月の２５日実施
2	実践結果	事故防止点検チェック 年４回/4，7，10，１月の２５日実施
3	実践結果	防災自主点検・備蓄品点検 年2回/6,12月の25日実施
4	実践結果	避難訓練（消火） 毎月/15日実施
5	実践結果	不審者侵入訓練 年2回/6,12月の25日実施
6	実践結果	事故防止委員会 毎月1回/15日実施
7	実践結果	光化学スモッグ さいたま市からの発令共有実施

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

安心して学べる環境を整え、積極的に受け入れを行った。毎日のねらいの共有や振り返り、就職相談などに応じながら丁寧に実習生に寄り添い関わった。
実習地訪問では担当教諭との意見交換を行い学生の把握と共に就職相談などを行った。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
5月2日～17日	東京こども専門学校	1人	保育実習
6月17日～29日	浦和大学	2人	保育実習
7月1日～12日	埼玉福祉保育医療製菓調理専門学校	1人	保育実習
7月22日～8月2日	東京未来大学福祉保育専門学校	1人	保育実習
8月5日～19日	武蔵野短期大学	2人	保育実習
8月29日～9月13	川口短期大学	1人	保育実習

9月19日	埼玉福祉保育医療製菓調理専門学校	2人	見学実習
10月7日～11月5日	埼玉福祉保育医療製菓調理専門学校	1人	臨床実習
10月15日～30日	東京未来大学	2人	保育実習
11月6日～21日	淑徳大学	2人	保育実習
11月22日～12月6日	浦和大学	1人	保育実習
2月5日～2月21日	川口短期大学	1人	保育実習
2月14日～2月28日	日本児童教育専門学校	1人	保育実習
2月25日26日	東京未来大学	1人	体験学習
3月3日～3月14日	越谷保育専門学校	2人	保育実習
3月17日～3月25日	帝京平成大学	1人	福祉施設実習

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
4月26日～3月	さいたま市立大宮国際中等教育学校	1人
8月14日	高崎市立八幡中学校	1人

7. スタッフ研修

〈1〉施設内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	26日 30名	24日 30名	23日 30名	21日 28名	25日 28名	22日 27名	20日 27名	24日 27名	22日 29名	19日 29名	16日 29名	2日 29名
人権・虐待研	21日 31名											

修												
感染症について		24日 30名										19日 31名
水の事故について			23日 30名									
エピペン研修				21日 28名								19日 31名
接遇研修					25日 28名							19日 31名
人権・虐待研修						22日 27名						
BCP 研修										19日 29名		

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
7月1日～9月30日	有限会社プログレ総合研究所	令和６年度埼玉県サービス管理責任者実践研修	1名	(有) or 無
8月1日～31日	有限会社プログレ総合研究所	令和６年度埼玉県サービス管理責任者基礎研修	1名	(有) or 無
11月23日～12月7日	有限会社プログレ総合研究所	令和６年度埼玉県サービス管理責任者実践研修	1名	(有) or 無
9月24日～10月4日	株式会社金登屋	令和６年度サービス管理責任者更新研修	1名	(有) or 無
11月1日～30日	東北福祉カレッジ	宮城県児童発達支援管理責任者基礎研修	1名	(有) or 無
12月18日～19日	有限会プログレ総合研究所	令和６年度サービス管理責任者更新研修	1名	(有) or 無
２月１８日～１９日	東京都サービス管理責任者等研修事務局	令和６年度サービス管理責任者実践研修	1名	(有) or 無

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	20日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	11月に動画視聴にて実施（全スタッフ対象）											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	該当者なし											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

途中入社スタッフは月次報告を通して子どもとの関わりや業務内容を見直し、先輩スタッフからのアドバイスを受け相談できる環境を整えた。実際の場面は写真を通して振り返り検証することで、具体的な気付きや支援の方向性を合わせる機会とした。ペアを組んで振り返りや業務内容を見直しすることで、互いに気付くことや全体への周知方法などに活かされている。

〈5〉つむぎ de ほっとカフェ（地域公開講座）の講師

2023年度の取り組みを継続し、スタッフ全員が講師となり地域公開講座を開催し、保護者様や関係機関への発信を行う。スタッフひとり一人が自身の言葉で伝える機会を設けることで、学び続けるチームになっていく。朝礼終礼、センター会議を利用して互いの学びを検討し、知識の共有だけでなく接遇や美観についても切磋琢磨していかれる施設を目指していく。

振り返り：各スタッフの専門性を生かした内容で毎月開催し、保護者同士のつながり、スタッフと保護者様の交流の場にもなった。参加する保護者様は定着し、少しずつ新しい方も参加するようになった。地域への広報が不十分のため、センター外からの参加者は少なく、地域公開講座としての役割は再度検討する必要がある。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

青空保育、「つむぎ de ほっとカフェ」が定着している。青空保育は、猛暑や悪天候と重なった月もあった。地域の方の、「つむぎ de ほっとカフェ」講座への参加もあり、引き続き状況を発信し、地域に開かれた施設を目指していく。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育	月1回　　公園名：美園台公園にて　　参加延べ人数：20組
商店街ツアー	週1回　主な行き先：イオンスタイル、シャトレーゼ、フラワーショップオリオン、郵便局、さいたま市美園図書館、イオンモール（フラワー＆ガーデンイオン浦和美園店）、浦和美園駅前交番、浦和美園駅　など
世代間交流	2月21日につむぎにて、学生よさこいチーム「おどりんちゅ」との交流を実施
異年齢交流	11月27日、12月25日、1月29日、2月26日、3月26日に遍照浦和美園保育園会場にてブーケタイムを実施 １月6日　つむぎ内で伝承行事「太鼓・獅子舞」開催　遍照浦和美園保育園、保育園おおきなぞうさんより５歳児園児参加 2月21日　つむぎ内で異世代交流　「おどりんちゅ」のよさこい開催　遍照浦和美園保育園より５歳児園児参加
その他活動	シニア交流　毎月実施　デイサービス「ラスベガス」訪問

9. 医療機関・幼稚園・保育園・小学校との連携の計画

〈1〉今年度の振り返り

保育所等訪問支援や相談支援事業所を通して関係機関との連携が広がった。双方を訪れて支援内容の共有や方向性のすり合わせを行い、連携強化に努めた。継続して、情報共有や相談を円滑に行い、協力体制を高め、より良い移行支援へとつなげていく。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
4/11,5/9,6/6,7/11,8/9,9/13,10/25,11/18,12/12,1/24,2/10	あいう園浦和美園ウイングシティ保育園	2名	保育所等訪問支援	保育所等訪問支援
4/19,5/16,7/10,9/18,11/27,1/16,1/27	あいう園美園浦和美園駅前保育園	2名	保育所等訪問支援	保育所等訪問支援
8/9,9/2,11/8	あけみ保育園	2名	保育所等訪問支援	保育所等訪問支援
4/9,5/23,7/29,10/29,1/6	あさひ保育所	1名	保育所等訪問支援	保育所等訪問支援

1/10	アルタキッズ美園駅前園	1名	保育所等訪問支援	保育所等訪問支援
5/14,9/24,11/27,2/4	岩槻ひまわり幼稚園	1名	保育所等訪問支援	保育所等訪問支援
1/22	岩槻幼稚園	1名	保育所等訪問支援	保育所等訪問支援
5/2,7/9,10/31,12/13,1/30	浦和明の星幼稚園	2名	保育所等訪問支援	保育所等訪問支援
4/10,5/22,6/19,8/21,10/3,10/30,12/4,12/6,2/12	浦和みその保育園	3名	保育所等訪問支援	保育所等訪問支援
5/2,7/4,9/5,11/13,1/15	浦和美園まりーな保育園	1名	保育所等訪問支援	保育所等訪問支援
8/26,9/27,12/10,2/3	片柳幼稚園	1名	保育所等訪問支援	保育所等訪問支援
5/10,7/2,9/9,11/29,1/27	きぞろ幼稚園	1名	保育所等訪問支援	保育所等訪問支援
4/11,6/13,12/4	北川口幼稚園	1名	保育所等訪問支援	保育所等訪問支援
4/15,5/17,7/4,9/17,10/17,11/6,2/5	木の実幼稚園	1名	保育所等訪問支援	保育所等訪問支援
4/12,4/17,4/24,5/8,5/15,5/20,6/12,6/20,6/26,7/5,7/18,7/24,8/7,8/29,9/4,9/24,10/9,10/17,11/6,11/20,12/13,12/20,1/8,1/14,2/5,2/17	きらりつばさ保育園	6名	保育所等訪問支援	保育所等訪問支援
4/26,5/23,6/10,7/17,8/23,9/12,12/17,1/6,2/6	きらり遊愛保育園	1名	保育所等訪問支援	保育所等訪問支援
11/21,1/20	恵泉幼稚園	1名	保育所等訪問支援	保育所等訪問支援
4/9,6/5,8/14,8/30,10/2,10/25,11/12,12/5,12/23,2/14,2/17	小鳩保育園	4名	保育所等訪問支援	保育所等訪問支援
4/5,5/28,7/31,8/28,10/28,12/16,2/6	さいたま市立常盤保育園	1名	保育所等訪問支援	保育所等訪問支援

4/16,4/23,5/24,6/18,7/19,8/20,9/10,10/4,10/24,11/11,12/11,1/24,2/10	しらさぎ幼稚園	5名	保育所等訪問支援	保育所等訪問支援
11/22,11/25,1/10	大東幼稚園	2名	保育所等訪問支援	保育所等訪問支援
4/19,4/25,4/30,5/9,6/3,6/4,6/20,7/1,7/11,9/2,9/3,9/5,9/13,10/8,10/10,11/5,11/7,11/19,12/5,1/14,1/21,1/29	大門幼稚園	9名	保育所等訪問支援	保育所等訪問支援
10/18,12/12,2/7	チャイルドルーム	1名	保育所等訪問支援	保育所等訪問支援
7/26,10/15,1/7	西町保育園	1名	保育所等訪問支援	保育所等訪問支援
9/6	ふじみ幼稚園	1名	保育所等訪問支援	保育所等訪問支援
4/25,5/30,6/27,7/31,8/1,8/28,9/6,9/25,,10,16,10/26,11/21,11/29,12/18,12/25,1/20,1/29,2/21,2/27	ブライト保育園　浦和美園	4名	保育所等訪問支援	保育所等訪問支援
5/21,6/6,9/12,11/26	ふるさと幼稚園	1名	保育所等訪問支援	保育所等訪問支援
4/12,5/20,6/24,7/23,8/19,10/3,11/1,12/19,12/26,2/14	保育園　大きなぞうさん浦和美園	3名	保育所等訪問支援	保育所等訪問支援
11/26,2/4	みう保育園	1名	保育所等訪問支援	保育所等訪問支援
5/1,7/3,9/11,,11/15,1/9	美園にじのこ保育園	1名	保育所等訪問支援	保育所等訪問支援
4/26,6/14,7/18,9/19,12/20,2/21	緑ヶ丘幼稚園	1名	保育所等訪問支援	保育所等訪問支援
4/8,5/30,6/17,6/25,7/25,7/30,8/6,8/23,8/29,10/21,12/6,12/24,1/15,2/20	みらい保育園	3名	保育所等訪問支援	保育所等訪問支援

5/31	ろりぽっぷ幼稚園	1名	保育所等訪問支援	保育所等訪問支援
4/18,4/22,5/16,5/27,7/12,7/16,8/22,10/11,11/28,12/2,2/13,2/17	若葉幼稚園	2名	保育所等訪問支援	保育所等訪問支援
6/27,9/18,1/9	川口私立安行東小学校	1名	保育所等訪問支援	保育所等訪問支援
6/10,12/3	さいたま市立尾間木小学校	1名	保育所等訪問支援	保育所等訪問支援
11/8,2/27	さいたま市立芝原小学校	1名	保育所等訪問支援	保育所等訪問支援
6/28,10/7,2/19	さいたま市立大門小学校	5名	保育所等訪問支援	保育所等訪問支援
9/20,2/26	さいたま市立美園北小学校	5名	保育所等訪問支援	保育所等訪問支援
6/11,10/4,1/28	さいたま市立美園小学校	6名	保育所等訪問支援	保育所等訪問支援

10. 個別支援計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

・計画を見直す際は、保護者や訪問先に現状とニーズの確認を行い、内容に反映させている。
・必要に応じて支援計画の見直しを行い、子どもの発達に即した提案を行っている。
・毎月ケース会議を開催し、センター会議内で共有している。
・保育所等訪問支援では、毎月訪問する児童の保護者の方への振り返りの仕方や、訪問先からの相談の内容を終礼等で共有している。家庭、所属先、つむぎとの連携に努めている。

〈2〉進級引継、および小学校への引継状況

進学や進級前に訪問支援を設定するようにし、どのような支援を受けているのか、どのような配慮をしているのかを所属先と共有し、報告書としてまとめ、保護者にお渡ししている。

進学、進級後の様子を保護者の方に伺うなどして切れ目のない支援に努めた。

11. 子育て支援事業

実施項目	詳細												
施設開放	（月）～（土）9:30～16:30　にて実施												
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　⇒随時実施												
勝手籠設置	（月）～（土）9:00～18:00　にて実施												
青空保育（支援センター主催）	月1回　　公園名：美園台公園にて　以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	1名	0名	4名	0名	0名	0名	3名	6名	2名	4名	0名	2名	22名

※雨天、猛暑、強風等で公園に人がいないことが多かった。時間帯などの検討をしていく。

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉施設による自己評価の実施

２０２５年2月10日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：8時30分
自己評価終了時刻：17時30分
自己評価実施者：田中誠

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月１５日
アンケート回収率：児発、放デイ、保育所等訪問支援　100%

（省察）児発、放デイ、今回から保育所等訪問支援のアンケートを実施し、３拠点とも1高評価をいただいた。気持ちの良い挨拶や清潔な環境、実体験を通しての活動の充実などに高評価をいただいた。継続して、「ホンモノの経験」を大切にし、質の向上に努めていく。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年3月１５日　　作成者：子ども発達支援センターつむぎ　浦和美園
施設長　橋本　千穂

２０２４年度　発達支援つむぎ八山田ルーム 事業報告書
（発達支援つむぎにおける自己評価）

Ⅰ．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

当事業所では、保育所保育指針、児童発達支援ガイドラインに則りどろんこ会グループの理念「にんげん力。育てます」「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」を基盤に地域に根ざす児童発達支援事業所を目標とした。

保育園と併設された児童発達支援事業所としてインクルージョンの実践、一人ひとりが受け止め、多様性を互いに認め合い、活かしあえるようなインクルーシブな保育を行っていった。また、日々の生活において守る支援・矯正する支援を終え、自分で経験を選択していける環境を用意し、生活の体得を目指した。

① 基本としている異年齢保育・座禅・雑巾がけ・さくらさくらんぼリズム体操、散歩９時出発・畑仕事・裸足保育・縁側給食・商店街ツアー・青空保育を実施した。
② 異年齢の関わりの中でホンモノの経験・体験をもとに他者との協働や感情のコントロールを繰り返し積み重ねていき、他者との思いや考えを共有する中で目標達成ができる環境を作った
③ 併設している八山田どろんこ保育園と混ざりながら共に過ごし、「やってみたい」という気持ちを大切にして、自然・物・人・事・生活に積極的、意欲的に関り生きる力を育んだ。
④ 開園４年目になり、現在よりも地域の方々とコミュニケーションを豊かにしていき、スタッフ一人ひとりが地域の一員である自覚を持ち、地域に根差した事業所となるよう努めた。
⑤ 日頃の挨拶や振る舞い気配りを大切にし、保護者、利用者、来訪者、誰が見ても綺麗な環境、気持ちの良い空間造りをしていき、地域に愛され選ばれる施設を目指した。

2024年度施設運営 mission である「生活力の体得」「10の姿の体得」「子ども自らがいつでも経験を選び取ることができる物的環境の設定」「命をいただく活動の実践」「自律運営」を意識し、自立した組織の形成を志した。

〈１〉支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	インクルーシブな環境の中で様々な経験を積む。
	実践結果	日課や保育活動から、子どもが主体的に取り組める活動を用意し、個々に合わせた配慮、支援をした。
	次年度方向性	多様な人たちと関わる中で、様々な葛藤を味わい過ごしていける場を作っていく。

2	計画・ねらい	生活力が身につけられるような関わりと、物的環境を整える。
	実践結果	様々な経験を自らが選択し実行していける環境を用意し、その中で葛藤やTrial&Error を繰り返し生活力の体得をした。
	次年度方向性	落ち着いて過ごせる空間や遊び込める環境を作る。
3	計画・ねらい	受け入れられた環境の中で自分の得意を伸ばす。
	実践結果	得意不得意を理解しながら、自分が挑戦できる環境を用意し自信を持って生活できる場を整えた。
	次年度方向性	引き続き受け入れられた環境を作っていき、自己発揮を行えるようにしていく。

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者へのフィードバックの内容・質の向上
	実践結果	子どもの様子をエピソードで話していき、連続した支援の中での成長や課題、支援しているポイントやアプローチの内容を分かりやすく保護者へ伝えることができた。
	次年度方向性	様子をお伝えするだけではなく、今後の見通しを知らせながら振り返りを行う。
2	計画・ねらい	事業所内相談支援を活用し、丁寧な保護者支援を行う
	実践結果	保護者の意向や気持ちを受け止め、障害の特性や発達の各段階に応じて「育ち」や「暮らし」を安定させることを基本に家族支援を行った。
	次年度方向性	引き続き、利用者のニーズを保護者と面談し、丁寧に支援することを心掛ける。
3	計画・ねらい	関連機関との連携（関係連携加算）
	実践結果	相談支援、保育園、幼稚園と他事業所と連携を図り、地域全体で支援し、小学校、放課後等デイサービスなど就学に向けてのアプローチも行った。
	次年度方向性	継続して他機関との連携を図り、地域を支える拠点となる。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	SNS・ブログによる外部への発信をしていく。
	実践結果	活動内容や取り組みを地域に発信し、子育てのヒントや活動内容の見える化を図った。

	次年度方向性	インスタグラム、ブログの発信を継続し、つむぎの発達支援を知らせ、利用に繋げる。
2	計画・ねらい	TSUMUGI カフェの周知・園庭開放し、地域に開かれた場所になる。
	実践結果	地域の方が気軽にカフェや園庭に集い、繋がる場を提供した。 地域の方同士が繋がれる場所を提供した。
	次年度方向性	カフェから繋がれる場となるように、誰もが集える場所として周知する。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

I	計画・ねらい	保育所保育指針、児童発達支援ガイドラインを理解し、支援の内容を充実させる。
	実践結果	研修会を開き、それぞれの理解を深め、再確認する場を設け、日々生活の中での支援のあり方を考えていき、個に合わせた手立てを考えた。
	次年度方向性	引き続き、保育所保育指針、児童発達支援ガイドラインを理解し、子育てで基盤を作る。
2	計画・ねらい	スタッフ一人ひとりが目標設定をしていく中で、自己分析、自己研鑽をしていき、プロとしの自覚を持つ。
	実践結果	コンピテンシーの追及、ＭＢＯにて目標の設定をした。また、都度振り返り面談を行い、目標に対して進捗確認を行った。自身で PDCA サイクルを回した。
	次年度方向性	目標を立てたうえで、適宜進捗を確認し達成していけるようバックアップする。
3	計画・ねらい	学ぶ姿勢を持ち、学び続ける集団にしていく。
	実践結果	園長大学・保育士大学を活用しながら自身のスキルアップを目指した。また研修会で学んだ事を事業所でアウトプットし、また学びに繋げた。
	次年度方向性	引き続き社内で学ぶ機会を設定し、外部研修にも積極的に参加できるように環境を整える。

〈5〉環境実施目標

I	計画・ねらい	食材や食の循環・環境への意識を育む環境教育の実践をしていく。
	実践結果	畑仕事・食材加工・命を頂く活動を行った。
	次年度方向性	引き続き畑仕事や食材加工の経験を重ねられるように努力する。
2	計画・ねらい	食材の循環サイクルの実行していく。

	実践結果	給食調理における廃棄を減らす、残渣の再利用など捨てるではなく有効活用をする。SDGs を意識した取り組みを目指した。
	次年度方向性	食材の循環サイクルに興味・関心を基盤に「学びの芽生え」を大事に協働的な学びを生み出す場を大事にする。

〈6〉インクルーシブな保育の実践

1	計画・ねらい	多様な子、大人との関わりの中で、受け入れられる経験を積み生活力の体得をしていく。
	実践結果	生活や遊びの中で、友だちや身近な大人から受け入れられる環境の中で、葛藤する経験を味わい、生きる力を身に着けた。
	次年度方向性	受け入れられる経験を積み、自分らしく過ごす中で、生活力の体得を行えるよう環境を整える。
2	計画・ねらい	一人ひとりの成長に合わせた支援内容の充実を図る。
	実践結果	一人ひとりの特性を理解し、支援の内容を考えその子に必要なアプローチを行った。
	次年度方向性	策定会議の質を深めていき、支援のねらいをその都度確認しながら支援に繋げていく。
3	計画・ねらい	併設園の機能の充実を図る。
	実践結果	保育園・つむぎ両機能の充実を測り連携の拡充を図り、専門性を生かし実践した。
	次年度方向性	引き続き併設園の強みを活かし、連携していきながら支援の質の向上を図る。

〈7〉食の循環への直接体験

1	計画・ねらい	子ども自らが食材や食の循環・環境への意識を身につける活動の実行を進める
	実践結果	食育3大方針「調理・保育士・施設長は子どもと一緒に食べる」「噛む力を育て、素材を味わえる状態で提供」「子どもが自分たちで盛り付け・配膳して食べる」を実践した。
	次年度方向性	食べる事に対しての理解を深め、子どもの発達の理解を深めながら食育に繋げていきたい。
2	計画・ねらい	SDGs を考える場を創る。
	実践結果	子ども自らが食材や食の循環・環境への意識を身につける活動を進めた。
	次年度方向性	コンポストの運用活用を更に充実させる。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

児童発達支援　利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	189人	182人	204人	219人	205人	199人	232人	218人	210人	239人	200人	210人	2717人
登録児数	15人	15人	17人	17人	18人	19人	20人	19人	19人	21人	21人	22人	223人

保育所等訪問支援　実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	0人	0人	0	0人	0人	2人	3人	4人	2人	3人	7人	5人	26人

〈2〉開所時間

８時３０分～１７時３０分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

施設長1名
児童発達支援管理責任者1名
保育士3名
精神保健福祉士１名
理学療法士１名
社会福祉士１名

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
施設内会議	月1回	・コンピテンシー

	※2,3月は策定会議にて実施	・保育の質向上に関わる勉強会 ・保育園と合同で行う。つむぎ及び保育園各クラスの様子、行事進捗、園内研修
給食運営会議	月1回	食育会議・アレルギー対応・衛生点検
事故防止委員会	月1回	危機管理・安全対策・検証・研修・ヒヤリハット・インシデント
支援計画策定会議	適宜	・支援計画作成に伴い、開催時期を調整する ・個別支援・グループ支援それぞれの担当者と児童発達支援管理者が必ず参加する
ルーム会議	適宜	利用者の様子・行事進捗・支援内容の検討
ケース会議	適宜	情報共有・支援内容の検討

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
児発管会議	月1回	児発管
併設園会議	年2回	施設長
食育会議	年4回 （5.8.11.2月）	施設長 調理スタッフ
保健会議	年4回 （5.8.11.2月）	施設長
子育ての質を上げる会議	月1回	スタッフ

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導
安全対策係	事業所内、または周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策 計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起
防火管理者	防災計画の立案、月2回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、近

	隣施設との連携の推進
食品衛生管理係	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、 食品サンプルの管理
畑係	プランターの整備、計画的な活動の立案

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	計画の立案・調整・実施
運動会係	計画の立案・調整・実施
生活発表会係	計画の立案・調整・実施

4. 支援・処遇

〈1〉保護者面談 および発達相談・児童の保護者への支援および意見要望への対応

マンスリー	・1日の生活に慣れ、安心して生活を送れるようにした。 ・戸外活動を通して異年齢や友だちとやり取りを楽しみ、遊びを見つけられるように環境を設定し、丁寧に関わった。 ・興味関心をもったことに、主体的にかかわり発見を楽しんだり考えたり遊びにとりいれた。
ビジターグループ	・環境に慣れ、安心して過ごせる場を作った。 ・見通しを持てるようにかかわり、身の回りの事を自分で行っていった。 ・興味関心をもったことに、主体的にかかわり発見を楽しんだり考えたりして遊びにとりいれた。 ・集団の中での簡単なルールや約束を守れるようにしていった。 ・遊びを通して興味関心を広げ、友だちとのかかわりを増やす。 ・友だちの様々な考えに触れる中で、自ら判断したり、考えたりし新しい考えを生み出した。
個別支援	・個々の発達課題に合わせ、就学に向けてアプローチを行った。
家族支援	4～3月まで　合計22名　が参加済み。　（3月31日時点）
保護者面談 発達相談	・随時、希望する保護者に対し実施した。

関係機関との連携	4～3月まで 合計　２回 （3月ｌ日時点） ・就学・就園に関する各関係機関との連絡調整 ・所属している保育園・幼稚園との連携し、自施設における支援内容の調整を行った。

〈２〉計画した年間行事の振返り

別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載

〈３〉給食・食育に関する実践結果

ｌ	計画・ねらい	調理員・保育士・施設長と子どもと一緒に食べる。
	実践結果	身近な人と食べて食事の楽しさや美味しさを味わう。
	次年度方向性	食の循環・SDGs を含め、子どもとスタッフが一緒に考える食育をする。
2	計画・ねらい	食べたいもの、好きなものが多い子を育てる。
	実践結果	食に旬があることを知り、季節を感じながら様々な地域の産物を生かした食事を体験した。
	次年度方向性	引き続き、縁側給食や園庭給食で子どもが心地よく食事できるよう整備に力を入れる。
3	計画・ねらい	様々な伝統食や行事食を体験する。
	実践結果	食の循環野菜等の栽培や収穫し自ら食べた。
	次年度方向性	梅仕事や七夕などの行事食で、子どもが食の旬を五感で感じることができるよう引き続き力を入れる。

〈４〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
スタッフ健康診断	年ｌ回実施
スタッフ検便	毎月ｌ回（全スタッフ対象）
流行した感染症	特になし
発作・痙攣等の対応	該当なし

エピペン使用できるスタッフの状況	３月に八山田どろんこ保育園にて研修をスタッフ7名受講済み。 本日時点で、在籍スタッフ8名のうち、7名が使用可能。 ４月末までに全員受講予定。
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	AED 設置なし
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底した。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（法定1回/3年）	業者による対象物の法定点検 2023年実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の施設内会議時 ⇒ ４月 12 日、10 月 4 日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間　実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

安心・安全で活動しやすい環境を整え、その中で一人ひとりが遊びを選択し遊び込める環境の場を作っていく。室内の整理整頓を心掛け、清掃・消毒・換気を丁寧に行うことで、安全に過ごせるようにする。

I	計画・ねらい	居心地の良い場を創る。
	実践結果	安心でき居心地の良い空間から隣り合う空間(0歳から5歳)の行き来を大切にした。夢中になる場・空間・時間・他者との共有を保障する。ありのままを受け止められている環境を考えた。
	次年度方向性	環境の再構成を目標に良い環境を目指す。
2	計画・ねらい	子どもの興味関心を引立てる環境を設定する。
	実践結果	子どもの興味関心を察知し必要な環境を設定し、また環境を再構成できるスタッフの育成をした。
	次年度方向性	環境の再構成を目標に良い環境を目指す。

〈7〉手作り遊具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
I	パーティション	各クラス	毎日	異常なし
2	丸テーブル	地域の窓	毎日	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

I	防災対策	防災：消防計画に基づき、自衛消防隊を編成し避難訓練を月I回実施。震度5弱以上の際は、園が情報を発信安否・施設状況・避難先・を情報共有する体制をとる。また、帰宅困難者対策をふまえ災害に備える。マニュアルの徹底
2	ケガ、事故防止対策	ケガ事故防止 事故防止チェックリスト年4回設備点検年6回を行い事故防止の徹底を図るまた、マニュアルにある園外保育・遊具等の保育士行動指針の徹底を図る インシデント・ヒヤリハット報告の分析 グループ内で状況を共有し日々の保育の中で事故防止策を探る
3	防犯対策	防犯：年2回防犯チェックリストに従い確認し、併せて不審者訓練を実施する。また、訓練は避難訓練確保・不審者撃退・通報の訓練でスタッフ全員を対象とする
4	光化学スモック	光化学スモッグ・光化学スモックが発生しやすい気象条件・影響・光化学スモッグ注意報を把握し発令があった場合は、内容にあった看板・貼紙等を提示する。園児・スタッフは室内で過ごすようにする。 発令無し。

5	危機管理	リスク管理委員会によるリスクマネジメント

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

児童発達支援事業所は地域の社会福祉の共有資源であり地域研修の場でもあるため、実習生・研修生を積極的に受け入れ、地域におけるボランティアの養成とともに、次の世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材を育成する。近隣中学校および高等学校、大学校、専門学校などから実習受け入れ依頼が来るよう、自治体や学校 に周知した。

〈2〉実習生の受入

受け入れなし

〈3〉中高生の受入

受入なし

7. スタッフ研修

〈1〉施設内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	12日 8名	10日 8名	14日 8名	12日 8名	16日 6名	13日 6名	4日 6名	8日 6名	13日 6名	17日 6名	21日 7名	19日 7名
虐待防止研修	12日 8名						4日 6名					

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
10月	社会福祉法人　福島県社会福祉事業団	福島県児童発達支援管理責任者基礎研修	1名	有

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	19日 1名	21日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	20日 1名	19日 1名
全社員研修	11月に動画視聴にて実施（全スタッフ対象）											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

核家族化や地域のつながりの希薄化、子育ての負担や不安、孤独感が高まっているため、保育園・地域・家庭が一体となって、子ども子育て支援を行い、子どもの健やかな成長を保障できるよう取り組んだ。地域の方が自由に園を利用し地域の相談しあえる仲間でいられるようにとの思いから、月1回「ちきんえっぐ」を発行し、年間計画のもと地域交流を行った。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育	月1回　　公園名：八山田子ども広場にて　　57名
商店街ツアー	週1回
世代間交流	老人施設訪問
異年齢交流	青空保育・体験活動参加・小学校交流
その他活動	子育て相談

9. 医療機関・幼稚園・保育園・小学校との連携の計画

〈1〉今年度の振り返り

小学校との交流活動（小 学校見学・運動会未就園児プログラムへの参加）を通じて小学校との交流を図った。また、幼保小連絡 会議への参加を通じての情報交換を行った。また、小学校へのスムーズな接続を実現するために、保育 所保育要録送付児童情報申し送りの面談を実施した。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
10月8日	総合教育センター	1名	行動観察（八山田どろんこ保育園）	要支援児の行動観察
10月9日	富田東小学校	1名	面接（情報共有）	要支援児の情報共有
11月6日	総合教育センター	1名	行動観察（八山田どろんこ保育園）	要支援児の行動観察

10. 個別支援計画

① 子どもや家族への面談等により専門的な視点からアセスメントを実施した。子どもの障害がいの状態だけでなく、子どもの適応行動の状況を適切な観点からみることができるツールを使って確認していき、子どもの発育状況、自己理解、心理的課題、これまで受けてきた支援などを鑑み、保護者のニーズに照らして子ども自身の持つニーズを明確にしていくことに重点を置いた。

② アセスメントでの情報について課題を整理し、具体的な支援目標やその達成時期、生活全般の質を向上させる為の課題、児童発達支援の内容や具体的な手立てを検討し、個別の支援計画を作成した。

③ 支援内容については、「いつ」「だれが」「どこで」「どのように」「どれくらい」支援するということが計画の中で明確になるようにした。

④ 子どもや保護者に対し、ガイドラインに沿った児童発達支援の提供すべき支援を鑑みながらこれに基づき作成された「個別支援計画」を示して説明を行い、子どもに必要な支援が提供させる内容になっているかどうか、同意を得た。

⑤ 支援手法においては、個別支援・グループ支援などその子どもの課題に応じて適宜組み合わせて行った。

⑥ 原則として 6 カ月に1回以上のモニタリングを実施するが、子どもの状態や家庭状況に変化があった場合などは、改めて提供している支援の客観的評価を行い、支援計画の見直しをした。

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

童発達支援管理責任者が保護者の意向を聞き、子どもの適正、特性を踏まえて適切な支援内容 を検討し作成した。また、6カ月以内に1回以上のモニタリングを保護者に実戦し、子どもの様子や保護者のニーズ、それに伴う適切な支援を提供した。

〈2〉進級引継、および小学校への引継状況

各自治体、関係機関と連携を図り、就学支援シートを作成し小学校への接続をスムーズにすると共 に放課後等デイサービスへの接続にも円滑に行った。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
18名	61名	35名	40名	51名	75名	48名	53名	86名	67名	82名	48名	664名

実施項目	詳細
施設開放	（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　来園延べ人数：156名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　⇒計2件相談実施済み
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00　にて実施
ちきんえっぐだより	毎月1日発行

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉施設による自己評価の実施

２０２５年３月１日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：９時００分
自己評価終了時刻：１２時００分
自己評価実施者：施設長・児童発達支援管理責任者

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月２５日
アンケート回収率：１００％

貴重なご意見をお寄せいただきまして、心より感謝申し上げます。今後の運営に生かしてまいります。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：発達支援つむぎ 八山田ルーム施設長　阿久津 祐太

２０２４年度　発達支援つむぎ 新羽ルーム
事業報告書
（発達支援つむぎにおける自己評価）

１．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

児童発達支援ガイドラインに基づき法人理念である「にんげんカ。育てます。」及び保育方針である「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」を鑑み、併設している新羽どろんこ保育園と共に生活を送りながら、インクルーシブな環境の中で子どもたちが育ちあうように共に協力しながら支援を行った。

大人も子どもも一緒に遊び、生活、労働を通してたくさんの経験が行えるように、一人ひとりの発達に合わせた支援を行ってきた。楽しかった経験やうまくいかなかった経験などを通して気持ちをコントロールする力を育み、活動を積み重ねていくことで「やってみたい」「これがしたい」という自己決定をしながら生きていく土台を培ってきた。次年度のステップに合わせた支援や保護者支援を行い、未来につながる生きる力を体得していった。

併設園として、子ども同士の育ちや保護者支援を強化しながら子どもたちが生きる力をつけられるような発達支援事業所になるように努めていきたい。

〈１〉支援内容の充実・質の向上

１	計画・ねらい	戸外活動の充実を図り、子どもたちが主体的に活動に参加する。
	実践結果	子どもたちが戸外活動を好んで選択する様子が増えた。子ども一人ひとりの対人関係や遊びの発達の様子などを多角的に捉え、スタッフ間で情報共有をすることで子どもたちが進んで活動に参加できる環境を作ることを行った。子どもの姿をとらえ支援していくスキルは継続して向上させていく必要がある。
	次年度方向性	大人との信頼関係を育みながら、子ども同士の関わり合いの中で自分らしく過ごしていけるようにする。それぞれの専門性を伝え合いながらインクルーシブな環境を充実させる。
２	計画・ねらい	好きなこと、興味のあることを探求する。
	実践結果	季節ごとの遊びを繰り返し満足するまで行うことで徐々に遊びの発展がみられた。対人でのルール遊びや一人で探求しながら遊ぶ様子を他児やスタッフがそれぞれ受け止め、見守り、一緒に行うことで経験の積み重ねをする様子が見られた。
	次年度方向性	一人ひとりの興味関心、発達に合わせてホンモノの経験を通して好きな活動が増えるような支援を行う。自分で考え行動できるように好きな活動を選択し、実施できるような環境を整える。
３	計画・ねらい	他者と過ごす時間を深め、子ども同士のやり取りが広がる。

	実践結果	まずスタッフとの信頼関係を築き、子ども自身のありのままを受け止めたことや生活の流れを覚えていくことで他児への意識の高まりがみられた。また、他児の名前を覚え、呼ぶ、一緒に遊ぶことが増える様子があった。スタッフ間で情報共有を行い、見守る距離や言葉かけを見極めることで子ども同士での育ち合いを考えていくことを行った。
	次年度方向性	子どもの表現、行動を受け止め、丁寧に応答できるように活動の振り返りを行い、スタッフのスキルアップを行う。子どもたちが人と関わることが自然となるような環境作りをする。

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者同士で関わりを持てるよう、保護者同士の交流を深める場所を提供する。
	実践結果	年3回保護者のみでのおはなし会を実施していくことで保護者同士の交流を持てる機会の提供を行った。毎月の体験学習でも保護者同士でコミュニケーションをとる様子が見られ、保護者参加行事のねらいが徐々に形になっている様子が見られる。一方で利用者アンケートではもっと保護者交流ができ情報交換をしたいとの希望が引き続きある。
	次年度方向性	テーマを決めたおはなし会や体験学習だけでなく、自由に集まれる場所の提供を周知していくことで保護者同士のつながりを持てる機会を作っていく。
2	計画・ねらい	子育ての悩みや不安を相談しやすい場所となるよう受け入れやフィードバック時に丁寧でわかりやすい会話を行い、事業所内相談支援を必要に応じて実施する。
	実践結果	保護者とも情報共有をすることで気づきの広がりが見られ、共に子どもの育ちを支えていくことができた。保護者の状況によっては事業所内相談支援を実施し、相談の機会を改めて設けることで子どもの成長の整理や次に一緒に取り組んでいくべきことを整理でき、子どもを真ん中にした子育ての実施ができた。
	次年度方向性	引き続き、受け入れやフィードバックで丁寧でわかりやすい説明を継続するとともに事業所内相談が実施できることの周知を行う。スタッフ間の連携を密に行い、保護者が安心して相談できる環境を作っていく。
3	計画・ねらい	地域の中で生活するため、保育園・幼稚園への移行支援や相談支援、小学校との連携を行う。
	実践結果	所属保育園・幼稚園の5か所と連携を取り、子どもの成長のための情報共有を行うことができた。連携ができることを保護者にも周知することで連携を進めていくことができた。一方で、小学校との連携を行うことができなかった。地域の小学校への連絡や就学にむけての地域特性を知っていくことを行っていきたい。
	次年度方向性	子どもにとってよりよい生活環境が整えられるよう、保護者連携しながら所属園や他療育との連携を進めていく。小学校との連携を取ることや就学に向けての知識を増やしていくことで保護者が感じる将来への不安を少なくし、子ども自身が未来を楽しめるような環境作りをしていきたい。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域の子育て支援事業所として地域に開かれたルーム運営を行う。
	実践結果	ルームパンフレットに園庭開放やチキンエッグの情報を載せ、見学時に合わせて案内することを実践した。また、園庭開放利用者にも声をかけ地域向けの講座の案内をすることで発達相談につながるケースも見られた。
	次年度方向性	地域への発信を継続。スタッフの専門性を活かしながら近隣のグループ園とも連携し、地域に根ざした拠点になるようにする。
2	計画・ねらい	地域連携会議に参加し、情報を地域に発信していく。新規利用者獲得に向けて支援のねらいや支援内容をブログで外部に発信する。
	実践結果	地域連携会議の参加は難しかったが、近隣グループ園への情報発信を行うことで問い合わせにつながることがあった。ブログはドキュメンテーションを使用しながら毎月継続して発信することができた。
	次年度方向性	近隣グループ園と協力しながら地域への情報を発信していく。地域の方が参加しやすいような環境作りを保育園と協力しながら実施していく。ドキュメンテーションはブログ作成に活用するのみになってしまったのでスタッフ向けや保護者向けなどに発信できる形にしていきたい。
3	計画・ねらい	誰が見ても気持ちの良い環境を目指すため、清掃や整理整頓・挨拶を行う。
	実践結果	清掃や整理整頓、挨拶を行い、ルーム利用者や地域の方、見学者が来た時にきれいで明るい印象になるように心がけた。環境を整えることで子どもたちの姿に合わせた環境設定も行う意識が高まった。
	次年度方向性	見学時やルーム利用時の印象が利用継続や新規利用者につながると思うので清掃や整理整頓、挨拶を継続していく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	インクルーシブ保育の中でのより良い支援を考え、実践し、学びを深める。スタッフ間の情報共有を自主的に行い質の高い支援につなげる。
	実践結果	園会議内でインクルーシブ保育・支援について理解を深める機会を作った。それぞれの考えを共有することで専門性の違いや子どもにとっての必要な環境を検討していくことができた。スタッフ間の情報共有も行っていったが情報共有に時間がかかりすぎる様子があった。
	次年度方向性	引き続き、今の環境の中で子どもたちが生きていく力をつけていけるようにする環境を作っていく。スタッフ同士の情報共有を効率よく行うために必要な情報を的確に伝えることや情報を自分で聞く、わからないことは専門性や知識を持っている人に聞くことでスキルアップを目指す組織にしていく。
2	計画・ねらい	子どもの気持ちに寄り添い、子どもに必要な言葉かけや関わり、見守る距離感を見極めることができるスタッフを目指す。
	実践結果	子どもの姿の共有を会議や次の日の計画を立てるとき、必要に応じて時間を取り相談していくことで子どもへの必要な関わりを検討していくことができた。まだ先回りをしてしまうことや子ども同士の関わりの中でどこ

		までスタッフが介入すべきか迷う部分もある。
	次年度方向性	引き続き、子どもの姿を適切に捉えながら必要な経験ができるよう試行錯誤しながら子どもへの関わり方の検討をしていく。子ども同士で育ち合えるような環境になるように事前準備や日々の姿の共有を密に行うことでスタッフのスキルアップを向上させていく。必要に応じて朝礼、終礼などを用いてスタッフスキルが向上するように日々検討していく。
3	計画・ねらい	来園者がまた来たいと思えるような接遇マナーを身に着ける。
	実践結果	来訪されたときだけでなく電話でも丁寧にルームの説明や応対を行うことでルーム見学に安心してくることができたと言っていただくことがあった。保護者にあった伝え方をすることで安心して相談していただける様子や満足度も高い状態を保つことができた。ルーム利用者が他者に紹介していただき利用が開始することにつながるケースがあった。
	次年度方向性	来訪者への対応だけでなく、ルーム利用者に対しても接遇を向上させることで紹介したいと思えるルーム作りを継続していく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	畑・食育活動の学びを深め、調理活動を通して食材加工を知る。
	実践結果	畑や堆肥についての勉強会を実施することが難しかった。畑でとれたものを使って調理を行う食材加工は体験学習を計画し、実施することができた。
	次年度方向性	堆肥や土づくりの知識を全員が学べるように会議の時間を使い、実践までつなげられる計画を立てる。
2	計画・ねらい	自然の恵みとして食材や食の循環教育。
	実践結果	畑に継続して通うことで畑仕事を進んで行う様子が増えた。ヤギの世話を継続することで小屋掃除だけでなく餌を与えることなどそれぞれが役割を考え関わる姿が出てきた。命をいただく活動は魚をさばく活動を実施する中で絵本や魚の種類を知りながら命をいただくとはどんなことかを知っていく様子が見られた。
	次年度方向性	畑仕事を継続できるような体制づくりを行い、畑で育てた作物を使用した調理活動を行う。ヤギの世話や魚をさばく活動などを用いて命をいただくことの大切さを知る活動を行っていく。
3	計画・ねらい	残菜のリサイクルややぎの糞の堆肥化をし、畑に還元する。
	実践結果	堆肥化を行い、畑にかんげんする活動を子どもたちと一緒に行うことができなかった。畑仕事に興味を持っているので堆肥や土づくりを計画的に行う体制を作る必要があった。
	次年度方向性	スタッフ自身も堆肥や土づくりの知識を増やし、畑仕事以外の時間を活用して子どもと一緒に堆肥づくりを行えるようにする。

〈6〉畑、調理活動の充実

1	計画・ねらい	年間を通して植物や食物を育てる。 マンスリー・ビジターともに畑活動を行う時間を取り入れ、全員で育てていく。畑仕事を行い新羽の強みにすることでルームの特徴にする。
	実践結果	マンスリー・ビジターともに畑仕事を行う時間を作ったことで子どもたちから「畑に行きたい」という声が聞かれ、畑での作業が上達する様子が見られた。体験学習で保護者も一緒に行き、つむぎには畑があるというルームの特徴を伝えていくことができた。
	次年度方向性	畑仕事を継続し、ルームの強みとして発信することを継続する。
2	計画・ねらい	調理活動を行う。 継続した活動になるように計画を立てることから子どもたちと一緒に行う。点ではなく線の支援になるように畑活動に力を入れ実践し、支援の質を高めていく。
	実践結果	日々の支援の中に畑仕事を継続的に入れることで畑仕事への意識が高まり、水やりだけでなく何が植わっているのかを覚えている子が増えた。
	次年度方向性	園内外の畑やプランターを活用し、畑仕事を定着させる。収穫から調理までつながる経験を継続して行う。

〈7〉インクルーシブ保育の充実

1	計画・ねらい	情報共有を密に行い、子どもの理解を深める。
	実践結果	クラス会議での情報共有や園会議をもちいて保育と発達支援の違いや同じ部分を学び、全スタッフでの学びを深めることで子どもたちへの関わりにつなげていくことができた。利用日数や対応の難しさによってはスタッフへの情報共有がしきれない部分やケース検討まで時間がかかる様子もあった。
	次年度方向性	日々の活動の組み立ての中で子どもの姿を適切に捉えスタッフがそれぞれ必要な情報を共有しながら支援を実施できる環境を作る。ケース会議やクラス会議などの場所で必要量の情報を発信する力をつけ、子どもの姿の理解につなげていく。
2	計画・ねらい	お互いを尊重し、共に活動する意識をつけ、双方の理解を深めながら環境を工夫し、新羽でできるインクルーシブ保育とは何かを考える。
	実践結果	インクルーシブへの学びを深める機会を作っていったのですべてのこどもをすべてのスタッフで見ていく視点作りは行うことができた。毎月振り返り、課題整理をすることは難しかったが一年を通して子どもたちが安心して遊べる環境を考えていくことを継続した。
	次年度方向性	子どもたちが安心して通い、成長できる場となるように支援の質を高めていくことや保育の知識を学ぶ。
3	計画・ねらい	将来を見据えたねらいについて保育園スタッフと共通認識を持てるよう目指したい姿について考察を深める。

	実践結果	支援計画作成時には普段かかわりのあるスタッフと共に一人ひとりの姿を見ながら目標やねらいを決め、活動を実施していくことができた。就学支援シートを活用しながら保護者が就学に向け準備できるようにした。
	次年度方向性	将来、小学校に就学していくことを見据えながら子ども同士で育ち合える環境を作っていく。引き続き就学支援シートなど就学に向けスムーズに接続できるような準備や小学校との連携を図っていく。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

児童発達支援　利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	170人	160人	177人	187人	205人	202人	230人	216人	210人	204人	187人	248人	2396人
登録児数	20人	22人	23人	28人	27人	27人	27人	27人	26人	27人	29人	29人	312人

〈2〉開所時間

８時３０分～１７時３０分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

施設長1名
児童発達支援管理責任者1名
保育士1名
機能訓練担当2名（作業療法士1名、臨床心理士１名）
児童指導員1名

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
施設内会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・支援・保育の質向上に関わる勉強会 ・専門士による支援技術の共有 ・子どもの姿の共有 ・行事について
給食運営会議	月1回	・給食内容、食事形態などの意見交換を行う。 ・給食残渣の現状と残渣軽減のためのアクションプランの立案と振り返り ・食育活動の立案・検討　他
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット報告書の共有、インシデント・事故報告書の改善策を検討する。
支援計画策定会議	66回 適宜	・支援計画作成に伴い、開催時期を調整する。 ・個別支援・グループ支援それぞれの担当者と児童発達支援管理者が必ず参加する。
ケース会議	月1回	要支援児のケース検討を行う。

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
児発管会議	月1回	児発管
併設園会議	年2回	施設長
食育会議	年4回 （5.8.11.2月）	施設長 調理スタッフ
保健会議	年4回 （5.8.11.2月）	施設長
子育ての質を上げる会議	月1回	スタッフ

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	利用児保健衛生管理、園内清掃、安全管理、環境衛生管理の常時点検など
安全対策係	避難訓練、不審者侵入訓練の計画と安全に関わる情報の掲示、園内外のハザードマップの作成・修正・追加、共有など
防火管理者	避難訓練計画の作成・消防計画に則り、火災・自身・自然災害時の対応、不審者対応の訓練の実践及び省察など
食品衛生管理係	年間食育計画の作成と食育活動の実施、食育会議への参加、給食運営会議計画や実施。
畑係	畑、プランターの管理。栽培・収穫・調理の実施。
生き物係	ヤギ小屋掃除、ヤギの世話、飼育全般の管理
体験学習係	体験学習の立案・準備・遂行

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	どろんこサポーターズの活性化の推進、計画、立案のとりまとめ、進行　他
運動会	保育園と合同にて新羽小学校体育館にて実施。参加利用児の参加方法の検討、運動会の計画、運営を実施。

4. 支援・処遇

〈1〉保護者面談 および発達相談・児童の保護者への支援および意見要望への対応

マンスリー	・戸外活動を通して、運動機能の向上を図る ・保育園児とも共に過ごしていくことで他児への意識が高まり、子ども同士での関わり合う場面が増えた ・おはなし会を通して、保護者同士の交流が深まった
平日グループ	・小集団での活動により子ども同士のやり取りが深まり、共に活動を行う意識が高まった ・話し合いを取り入れ、自分たちで活動を決めていくこと継続してやりきる経験を行った

土曜日グループ	・戸外活動を通して運動機能の向上を図る ・畑に継続して通うことで畑仕事の取り組みの活性化 ・ヤギの世話や散歩先での昆虫採集などの　活動を通して生き物の世話への意識が高まった ・体験学習に連動した活動を行うことで体験学習につながる活動ができた
個別支援	・子どもの課題を保護者と話し合い、必要に応じて実施 ・曜日によりグループでの支援を実施できない場合に個別支援を実施 ・子どもの様子に合わせてスタッフを配置した
家族支援	4～3月まで　合計36名　が参加済み　　（3月Ｉ日時点） ・子どもの発達や家での関わりについて保護者が悩んでいるときに実施 ・幼稚園、保育園の見学後に園の様子を報告
保護者面談 発達相談	・保護者の子どもへの対応の困り感や悩み、育児に関する相談を必要に応じて実施。 ・発達検査後の結果を共有していただき、検査結果の考察や今後の支援の方向性を検討する面談を実施
関係機関との連携	4～3月まで　合計7名　が参加済み　　（3月Ｉ日時点） ・併用利用の幼稚園・保育園に訪問し、情報の共有・支援の方向性・具体的な対応方法の検討を行った ・直接訪問ができない場合には電話連絡でのやり取りを実施し、子どもの姿の共有や支援の方向性、具体的な対応方法の検討を行った。

〈2〉計画した年間行事の振返り

別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育に関する実践結果

Ｉ	計画・ねらい	畑仕事を通して、食べ物への興味・関心を広げる
	実践結果	畑仕事を継続して取り組み、子どもたち自身で作物を観察する様子が増えた。体験学習を用いながら収穫から調理まで継続した活動を行うことができた。
	次年度方向性	植え付け、水やり、収穫だけでなく、堆肥づくりを行うこと土づくりから収穫までが連続した活動を実施していく。
2	計画・ねらい	他児と共に食事をする中で、食事への意欲を高める
	実践結果	食への興味関心が高い児童においては、他者と一緒に食べることで食事の内容の理解や食具への興味の伸びが見られた。食事に興味が低い児童でも一緒のテーブルで食べること（食べている姿を見ること）で食材への興味や食事場面への意欲が引き出される様子があった。

	次年度方向性	食べる、食べないではなく、自分の食べられるもの、食事場面で出来ることを見つけながら一人ひとりに合わせて食事を一緒に食べる楽しさを知っていく。食材への興味関心につなげていく。
3	計画・ねらい	食育活動を通して、五感を刺激し、感性を豊かにする
	実践結果	調理過程で出る食材の香りや食材を切るときの感覚、食材それぞれの触り心地などを感じ、言葉や体で表現しながら活動を行った。繰り返しの活動が経験となり、質問に積極的に答える様子や知識を他者に伝える様子なども見られた。
	次年度方向性	継続した活動を実施。成長過程も感じることができるように環境を整え、子どもの発見を大事にしながら活動を行えるようにする。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
流行した感染症	① 7月に手足口病、児童24名・スタッフ1名（保育園児、保育園スタッフ含む）蔓延し、横浜市へ報告する
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月につむぎ新羽ルームにてエピペン使用研修をスタッフ2名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ6名のうち、6名が使用可能
その他保健に関する取組	ウイルス感染予防のため、うがい・手洗い指導を行う。また、感染症の流行時には細部にわたる消毒清掃を実施し、換気を徹底した。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（法定1回/3年）	業者による対象物の法定点検 2023年実施済み

	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の施設内会議時 ⇒4月19日、10月18日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間　実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	子どもがやりたいこと・遊びたい場所、ものを選び主体的に戸外活動に参加する。
	実践結果	公園の写真カードや行先の選択を聞いて活動先を選択することや友達を誘ったり、遊びたいものを準備したりしながら戸外活動を実施していく姿が見られた。散歩先や遊びの選択が難しいときにはスタッフが子どもの興味関心をくみ取りながら遊びの環境設定をすることで経験につながる様子が見られた。
	次年度方向性	子どもたちの姿に合わせながら事前準備を進め子ども自らが選び取れる環境を作る。
2	計画・ねらい	子どもたちが安全に遊べる環境の確保
	実践結果	室内の玩具などの環境構成を見直すことで子ども自ら進んで制作を行うことや継続して遊びに取り組み、遊びが発展する様子が見られた。スタッフ同士の連携、情報共有が円滑に行えることで子どもが好きな場所で安心して遊べる環境構成の意識が高まった。
	次年度方向性	安全点検の実施。ヒヤリハットの共有や遊びの姿の共有を円滑に行い、子どもが安心して遊びを継続できる環境を整える。

〈7〉手作り遊具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検結果
1	ロフト	1・2歳児室保育室	8月末に解体 廃棄完了

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	避難訓練	・消防計画に基づき、自衛消防隊を編成し、非常災害時の対策として年間避難訓練計画に沿って紹介訓練、避難訓練を実施した。
2	洪水計画	・消防計画に基づき、大雨洪水警報の発令等、必要時には速やかに情報収集をし、被害の未然防止の為、対策を行う。防災設備点検実施
3	不審者侵入訓練	・自園の置かれた環境、社会情勢を反映させた不審者避難訓練を年２回実施し、安全・防犯への意識づけをする。
4	事故防止委員会	・事故防止委員会を設置し、ヒヤリハットやインシデントを活用し、再発防止と共に危機管理・危険予測をし、事故を未然に防ぐように努めた ・事故防止委員会による検討会議 ・園内外のハザードマップによる危険箇所の確認と安全確認の周知
5	光化学スモッグ	横浜市メール配信システムを活用し、発令があったときは速やかに対応、室内で過ごし健康状態の確認を行う。
6	救命救急講習	新年度キックオフミーティングにてエピペン講習、AED 講習を行い必要時には全職員が正しい知識の元で使用できるようにした。
7	事故防止、設備点検チェック	年4回の事故防止チェック・設備点検チェックはルーム会議内で見直しをしながら行い、新たなハザードやリスクは事故防止委員会を通して園内で共有した。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

実習生・中高生の受け入れがなかった。今後も実習を受けられる体制を整えておく。

〈2〉実習生の受入

なし

〈3〉中高生の受入

なし

7. スタッフ研修

〈1〉施設内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	19日 6名	17日 6名	21日 6名	19日 6名	23日 6名	20日 6名	18日 6名	15日 6名	20日 6名	17日 6名	21日 6名	19日 6名
園会議内研修	19日 6名	17日 6名	21日 6名	19日 6名	23日 6名	20日 6名	18日 6名	15日 6名	20日 6名	17日 6名	21日 6名	19日 6名

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
7月16日～ 7月30日	特定非営利活動法人かながわ障がいケアマネジメント従事者ネットワーク	令和6年度神奈川県サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者　補足研修	2名	有
8月30日～ 9月20日	社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会	令和6年度サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者　基礎研修	1名	有
9月11日～ 9月24日、 10月2日	社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会	令和6年度サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者　基礎研修	1名	有

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	18日 1名	16日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	21日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	12月に動画視聴にて実施（全スタッフ対象）											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

地域に開かれた子育て支援施設として、併設の新羽どろんこ保育園と共に地域交流を実施した。専門性を活かしたテーマを用いた地域保護者向けの講座や和太鼓体験など地域を巻き込んだ取り組みを行った。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育	月1回　　公園名：新田公園にて　　参加延べ人数：57
商店街ツアー	週1回　主な行き先：スーパーあおば、新羽駅、地区センター、イオン、西方寺、杉山神社、ケアプラザ、キリン工場、新田消防署、ヨネヤマプランテーション　等
世代間交流	11月29日に新羽どろんこ保育園・つむぎ新羽ルームにて昔遊び体験を実施
異年齢交流	通年を通し、新羽高校と交流を実施 2月18日に新田小学校を訪問し、1年生との交流を実施 2月21日に新羽どろんこ保育園・つむぎ新羽ルームにて新羽小学校6年生との交流を実施
その他活動	12月13日に新羽どろんこ保育園・つむぎ新羽ルームにて消防キッズ（消防への知識・体験）を実施

9. 医療機関・幼稚園・保育園・小学校との連携の計画

〈1〉今年度の振り返り

就学支援シートを作成し、児童発達支援の支援内容、子どもの特性や状況、配慮事項について情報提供を行う。幼稚園・保育園への移行支援として訪問及び児童連絡票の作成を行い、情報共有、配慮事項などについて話をした。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
7月29日	菊名記念病院　プスプス保育室	2名	保育園見学（菊名記念病院　プスプス保育室）	スタッフ間交流 様子の共有

8月27日	城郷幼稚園	1名	つむぎ新羽ルーム	スタッフ間交流 様子の共有
9月12日	ゆうゆうのもり幼保園	1名	保育園見学（ゆうゆうのもり幼保園）	スタッフ間交流 様子の共有
9月19日	新羽小学校	54名 保育園児含む	子ども間交流（丘陵公園）	子ども間交流
12月6日	港北幼稚園	1名	保育園見学（港北幼稚園）	スタッフ間交流 様子の共有
2月19日	新田小学校	18名 保育園児含む	小学校見学（新田小教室）	子ども間交流
2月21日	新羽小学校	36名 保育園児含む	子ども間交流（当園園庭）	子ども間交流

10. 個別支援計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

6か月に1回のモニタリングを保護者と行い、子どもの育ちや課題、保護者の困りごとや要望について話をする。計画内容と子どもの姿にずれが生じている際には6か月を待たずに計画書の更新を行う。

〈2〉進級引継、および小学校への引継状況

就学支援シート8名作成。児童連絡票を1名作成。小学校や幼稚園との引継ぎを保育園スタッフと共に行った。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
23名	37名	96名	56名	41名	70名	69名	59名	78名	34名	36名	40名	639名

実施項目	詳細												
施設開放	（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　来園延べ人数：94名												
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　⇒計1件相談実施済み												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週（水）10:00～12:00　⇒計21回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	12名	21名	22名	18名	7名	4名	8名	12名	12名	12名	28名	20名	176名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週（水）10:00～12:00　⇒計10回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	2名	2名	0名	0名	8名	0名	2名	4名	4名	4名	4名	30名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00　にて実施												
ちきんえっぐだより	毎月1日発行												
青空保育 （支援センター主催）	月1回　公園名：新田公園にて　以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	5名	6名	2名	0名	0名	6名	6名	6名	6名	8名	6名	8名	59名

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉施設による自己評価の実施

２０２４年１月２４日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：１４時００分
自己評価終了時刻：１７時００分
自己評価実施者：つむぎ施設長、保育園施設長、児童発達支援管理責任者、主任、スタッフ１名

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月15日
アンケート回収率：１００％

インクルーシブな環境や異年齢で過ごす中でコミュニケーションなど子ども自身の成長や変化を感じる記述が多く見られた。また、保護者同士で情報共有をする場の提供の希望がみられたため、次年度は保護者間で交流や情報交換できるような場の提供を行っていく。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見　０件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む）　０件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：発達支援つむぎ 新羽ルーム施設長　吉田 侑加

２０２４年度　発達支援つむぎ 生田ルーム
事業報告書
（発達支援つむぎにおける自己評価）

１．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

2024年度は、児童発達支援の中でマンスリー支援開始した。子どもたちの発達段階を見極め、よりその子に適した経験や環境を提供するための単独ルームとしての新たな試みを実践した一年であった。

１　「必要な経験が提供できる環境を用意する。大人が事前に危険を取り除くことなく、意欲的に取り組みたいと思える活動内容を複数設定する。」

曜日リーダーを立て、朝礼時に当日の支援のねらいを共有し全スタッフ支援の流れやねらいについて把握できるようにした。また発達段階にあった環境構成を設定できるよう施設内のルームツアーを実施。各支援室での日々の子どもの姿と環境を照らし合わせて、遊び込める環境や物資は何かを考える機会を設けた。だが、その設置した環境での子どもの様子等の振り返りを実施することができていない。環境構成や物資が発達にあっていないままの状態が多く、遊び込めていない、選び取りづらい環境のため、大人との関りを求める姿が見られた。

２「地域社会でのインクルーシブ保育の実践を増やし、人と関わりながら学びを深め、地域に根差し開かれた施設となるよう努める。」

読売ランド前どろんこ保育園でのマンスリー支援を開始した。自施設では小集団のなかで子ども同士が関り合う環境を用意しながらも、一人ひとりの発達に沿った物資や活動、環境を用意し、成長を促す支援を提供している。その中で発達が進み、より大きな集団でこども同士関わり合い、伝える楽しさを経験することや、伝わらないもどかしさ、自分のペースで進まない歯がゆさ、相手を気遣う大切さを体験、葛藤して、自分自身で考え選択し行動することができる環境のなかで支援を実施した。

集団生活の中でできる子どもたちへの関り方や環境設定について、園スタッフと話し合う時間を設定することや大人が壁にならないように支援を実施する難しさがあり、思考錯誤しながらインクルーシブ保育を実践した一年であった。

３「食材や食の循環を伝え、知る経験ができる環境を用意する。大人も「命をいただく」経験をし、子どもたちと実践する。」

命をいただく活動を支援の中で実施することができた。活動を迎えるまでに、食材への理解や家畜について、命をいただき生きていることを子どもたちに伝えた。スタッフ達もこの活動に対して葛藤しながら、大人も「命をいただく」ことに対して向き合い、命の尊さについて深く考える貴重な経験となった。

また自施設での食育活動や畑仕事、生き物の世話が繋がっていない現状もあるため、改めて点での活動ではなく命の循環、食の循環を伝え、連続性のある支援を常に考えながら実施していく。

４「保育所等訪問支援を地域に拡大」

子どもたちに関わる大人が共通理解できるように、訪問先の園や学校、家庭との連携を密に行い、必要な支援を実践することができた。子どもたちの気持ちやペースを大切にしたうえで、集団での過ごし方のサポートしながら、同時に保護者への不安軽減や、母集団の保育士、教育者に対しての専門的

視点でのアドバイスを実施した。また通所利用児の母体園、小学校側からのニーズが増えた。自施設の訪問支援が認知され必要とされた一年であった。

〈1〉支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	計画：主体的に選びとれる活動内容の充実 ねらい：自分で考え行動できる環境設定
	実践結果	・発達段階にあった環境構成について考え、自施設の環境を十分に機能させながら、過ごしやすくまた選び取れるのかをスタッフ全員で考え、実行した。だが実行した後の環境設定やそこで過ごす子どもの姿の振り返りをすることができていなかった。現状を維持することが多く、子どもたちの成長にあっていない環境であり、選び取れていないことが多くあった。 ・火・水・土に関わる活動や伝承遊び、食育活動については、読売ランド前どろんこ保育園での泥遊びや焚火を実践した。火起こしを行うことで、危険な物の扱い方を学ぶ機会を提供することができた。水に関わる活動内容が今年度も実施できていない。
	次年度方向性	・子どもの発達段階を見極め、適切な環境設定であるか検討、実践、振り返りを行いながら PDCA サイクルを実施し、子どもたちの姿を捉えたうえで遊び込める・選び取れる環境を用意する。 ・水と関わる遊びを実施できるよう、長期休暇を利用して川遊びを実施する。水に触れる気持ちよさや楽しさと同時に危険性があることを理解できる場を提供する。
2	計画・ねらい	計画：食材や食の循環を知る食育活動の実施 ねらい：食や食材が循環していることを知り、命の尊さや食を大切にする気持ちを育む
	実践結果	・季節や日本行事にまつわる食材や食事について、意味や願いを活動の中で伝え子どもの理解を深める時間を設けた。 ・命をいただく活動を実施した。当参加しない児童に向けても、「いただきます。」の意味を改めて理解するために食育の一環として、クイズ形式でお肉はなにかできているのか、食材には命があり、命をいただいて私たちは生きていることを丁寧に伝え、命の尊さについて考えるきっかけとなる機会を提供することができた。
	次年度方向性	・子ども同士で何を育て、何を食べたいのかを話し合い、計画を立てる。 ・必要なもの、ことを自分たちで考え、実行しながら、育てる～食すまでの連続性を経験し、食への興味関心や大切にする心を育む。
3	計画・ねらい	計画：地域社会との交流。 ねらい：人と関わり、働くことの楽しさを知る
	実践結果	・利用児の保護者や近隣園の園児を招待して「つむぎ祭り」を開催した。利用児が園児や利用児保護者をもてなし、自分たちが一生懸命作り上げたゲームを楽しそうに遊ぶ姿をみて、「来年もつむぎ祭りをしたい」と子どもたちから声が上がった。 ・地域の園や地域の子育て世代を招くことができていない。 ・商店街ツアーや地域行事に参加し、子ども自ら疑問に思ったことを尋ねる姿が多く見られるようになった。住んでいる地域の中にどのような仕事

		があり、どのように働いているのかを実際に目で見て、直接話しを聞く場を設け、「働く」を知るきっかけを提供することができた。
	次年度方向性	地域の方を自施設に招くなど地域社会との交流を設定し、人と関わり、働くことの楽しさを知る経験を積む

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	計画：事業所内相談の実施 ねらい：子どもの発達の共通理解を深め、保護者の不安感の軽減ができる場となる
	実践結果	事業所内相談全11件 毎月保護者に配布する利用予定カレンダーの中に事業所内相談の希望を記入できるようにした結果、定期的に申し込む保護者が増加した。
	次年度方向性	引き続き利用予定カレンダーを活用しながら、全ご家庭に事業所内相談についてのアナウンスを実施し、子育てについて不安や悩みを気軽に話せる場を提供していく。
2	計画・ねらい	計画：保育所等訪問支援、関係機関連携 ねらい：関係機関や家庭と密な情報共有を行う
	実践結果	今年度、利用児に関わり関係先への訪問や関係機関会議を実施した件数は全6件。直接園や小学校へ出向き、集団生活の様子を直接観察することができ、自施設では見られない子どもの姿や担任の先生と話し合い、情報共有を行うことで、より子どもの姿を捉えることができた。
	次年度方向性	・月2回以上の事業所内相談を設定し、子育てに関する悩みや不安を聞き、整理を行いながら、現在の子どもの姿や今後の見通しを伝え合い、子どもの成長を共に確認する場を設ける。 ・全保護者と相談支援が実施できるよう、月1回事業所内相談についての説明と案内を実施する
3	計画・ねらい	計画：保護者交流会、保護者勉強会 ねらい：保護者同士が繋がれる、学べる場の設定
	実践結果	・保護者交流会計3回 ・保護者勉強会計2回 日々感じるストレスに対しての向き合い方や対処法、子どもとの肯定的な関り方を学び、実践方法を勉強会の中で伝えた。 また保護者同士がざっくばらんに育児のことについて話し合える場を提供した。
	次年度方向性	・２か月に１回程度保護者交流会を実施。子育てに関する共通した話題や就学に向けて等、回毎にテーマを設定する。 ・就学相談や、長期休暇明けなどの子どもたちや保護者がストレスを感じやすい時期に、子育てに関する講座を年３回開催し、学べる環境を用意する。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	計画：毎月の発達相談会の開催 ねらい：発達相談会を開催し地域との繋がれる場を作る
	実践結果	・発達相談会　計２回 ・毎月実施までに至らなかった。原因としては自施設に見合っていない開催回数の設定や、SNS 等での周知が出来ていなかった。
	次年度方向性	・自施設にて年４回の発達相談会を実施する。また読売ランド前どろんこ保育園や出張相談会年４回実施し、悩みや困り感の軽減を図る。 ・マンスリー支援を発達相談会の中で説明を実施。より多くの方達にマンスリー支援について広め、支援を届けていき、地域全体の子育てに貢献する。
2	計画・ねらい	計画：青空保育 ねらい：地域の子育て世代と交流しながらともに、子育ての時間を共有する。またつむぎを知ってもらい、相談会に気軽に参加できるきっかけとなる
	実践結果	青空保育を実施し３年目となった今年度は、青空保育のリピーターの方も増えており、自施設の認知度が年々高くなっていることを実感することができた。パラバルーンやギターでの演奏などスタッフの個性をいかした活動内容ともあり、参加者が増加した。
	次年度方向性	・毎月第４土曜日の11：00～11：30に生田緑地で行う。絵本の 読み語り、手遊び歌やさくらさくらんぼリズム体操、季節の製作などを開催時期によって内容を変えながら実施する。また、参加者に当事業所のパンフレットを渡して、発達相談やカフェ利用のアナウンスを行う
3	計画・ねらい	計画：SNS、ブログによる発信 ねらい：活動内容を広く地域社会に伝え、つむぎへの関心度の増加へと繋げる。
	実践結果	毎月のブログ掲載は実施できたが。SNS 等を利用しての発信回数が例年と比べ減少した。今後はルーム全体で SNS による発信についての意識を高め、より多くの方に自施設の情報と届けていく。
	次年度方向性	・引き続き SNS で発信を行う。 ・地域の保育施設、小学校や大学と連携し、戸外先での共同活動や、子ども食堂等のイベントを実施する。自施設の支援内容や法人の理念を発信しながら、地域全体で地域の子育て支援を実施できる場を作る。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	計画：小学校を知る ねらい：小学校の学び、就学先を知る
	実践結果	・小1について学ぶための座学をルーム内で実施することができていない。また授業参観等を近隣小学校に打診するも、繋がることができなかったため、利用児と所属校に依頼をし、授業参観や担任との意見交換会ができる場を設定することができた。振り返り、スタッフ間で共有することはできていたが、逆算した支援について考える場を設けることができてない。

	次年度方向性	・引き続き全スタッフが学校に出向き、授業参観や担任や学校長との意見交換会を実施し、逆算した支援の必要性とその手立てを考え実践する。 ・また園長大学@保育士大学を活用し、小１を知るための座学をルーム内で実施し理解を深める。
2	計画・ねらい	計画：保育所保育指針の学び ねらい：子どもたちの発達過程を理解し、適切な時期に適切な関りができる
	実践結果	・幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿については子育ての質を上げる会議担当者とルーム内へのアウトプットと月のアクションプランを立てることはできていた。だがアクションプランへの取り組みの進捗を追えることができず、取り組めていないことが多くあった。発達段階についての理解を深め、成長してほしい姿から逆算した支援が提供できるように学ぶ環境の場を設定していく。
	次年度方向性	・アセスメントの基礎や５領域について学ぶ時間を設け、子どもたちの行動や成長または困り感を正確に捉える力を高める。 ・児童発達、放課後等デイサービス、保育所等訪問支援の各ガイドラインを学ぶ。
3	計画・ねらい	計画：子どもの発達と食育についての関係性を知る ねらい：食と発達の関連性を知り、食育の大切さを理解する
	実践結果	・年齢や発達にともなった調理活動を実施することができた。同じメニューであっても、子どもの発達段階によっては、使用する食具や食材の切り方、提供の仕方が異なることをスタッフたちも理解し、考えたうえで実施していた。 ・食と子どもの発達の関係性についての座学を実施できていないが、日頃の調理活動を通して、塩分や糖分の摂取量が気になる姿があった。そのため、子どもたちむけ座学として、一日にとってもよい塩分摂取量を学ぶ機会を用意し、実際に塩分を意識している姿が見られた。
	次年度方向性	身体の中の食の働き、食べることの大切さについて理解を深める

〈５〉環境実施目標

1	計画・ねらい	計画：子どもたちと取り組む SDGs ねらい：「衣」について考え、作り、形にする。
	実践結果	・読売ランド前どろんこ保育園と共同で、「羊の毛刈り」を実施した。 セーターや衣類の始まりが、羊毛であることを説明したうえでハサミ使用して実際に毛刈りを体験することができた。 刈った羊毛で、フェルトボール作りを実施。羊毛を丸める作業が難しく、上手く形にできず思考錯誤しながら、形にすることができた。
	次年度方向性	今年度「循環」を１年間のテーマとして、一からコンポスト作りを実施する。子どもたちが調べ、準備し、堆肥を作り、その堆肥を使った畑仕事を行い、食に関わる環境の循環を学び、取り組む環境を用意する。
2	計画・ねらい	計画：公共施設や活動のなかで、身の回りの資源について ねらい：身の回りにある生活資源について知る

	実践結果	身の回りにある生活資源について学ぶことができていない。 だが商店街ツアーで、消防署の他に郵便局や生田支所に出向き、実際の仕事内容を見学することや、そこで働く人たちから話しを聞き、身近にある施設についての理解を深めることができた。
	次年度方向性	メダカやザリガニの掃除や観察を行い、成長過程や生き物の生態に触れる経験を積み、生きていくために世話が必要なことを理解し、命の大切さを感じられるような活動を設定する。
3	計画・ねらい	計画：災害についての備えを知り、身に付ける ねらい：命を守る、生き抜く力を育む
	実践結果	避難訓練とは別に、実際に災害があった場合の身の守り方や逃げ方を紙芝居として説明を行い子どもたちの理解を深めた。
	次年度方向性	身近にある保存食を一から作る経験を行いながら、保存食についての文化を学び、食を大切にする気持ちを育む。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

児童発達支援　利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	39人	38人	70人	100人	96人	89人	106人	106人	98人	101人	96人	129人	1068人
登録児数	9人	10人	14人	16人	16人	16人	17人	18人	17人	17人	17人	19人	19人

（解説）今年度の登録児数は緩やかに伸びている。川崎市事業所一覧からの問い合わせから契約に繋がるケースが多いが、関係機関や知人からの紹介から繋がることもあった。また振替検討シートの運用を開始し、保護者から振替を積極的に希望されるため、継続した支援を提供することができている。

放課後等デイサービス　利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	104人	85人	96人	101人	103人	95人	97人	99人	100人	102人	109人	123人	1214人
登録児数	18人	18人	18人	18人	18人	19人	19人	19人	19人	19人	19人	19人	19人

（解説）今年度児童発達支援から進級し放課後等デイサービスに移行した人数が多いため、４月に登

録者数が増えて以降、登録者数が伸びていない。利用総人数については、振替検討シートを活用し保護者が積極的に振替を希望されるため、継続した支援を提供することができている。

保育所等訪問支援　実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	12人	20人	29人	20人	13人	23人	27人	27人	23人	21人	26人	26人	267人

（解説）法人内での保訪利用者が多く割合を占めていたが、今年度から通所利用児の母体園に繋がることができ、利用総人数が増加した。

〈2〉開所時間

9時00分～18時00分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

施設長1名
児童発達支援管理責任者1名
保育士1名
機能訓練担当1名（臨床心理士1名）
児童指導員4名

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
施設内会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・ケース会議 ・稼働、営業についての進捗状況や担当割り振り ・食育活動についての共有検討会義
週会議	月2回	・子どもや保護者についての共有、支援について検討。 ・業務改善についての話し合いとアクションプランの設定。
事故防止委員会	月1回	・法人全体での事故、インシデント、ヒヤリハットなどを共有した。 ・月に自ルームで起こったインシデント、ヒヤリハットについて、その要因分析を行い、対策を検討した。

支援計画策定会議	適時	・児童発達管責任者が、保護者にアセスメントモニタリングを行い、聞き取りした内容を共有。 ・各スタッフの子どもの対する視点や支援の手立てを考え、策定会議で意見を述べる。
リーダー会議	週1回	・運営にともなう原因分析と課題解決についての話し合い。（人材育成、営業、稼働について）

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
児発管会議	月1回	児発管
併設園会議	月1回	施設長
食育会議	年4回 （5.8.11.2月）	施設長 調理スタッフ
保健会議	年4回 （5.8.11.2月）	施設長
子育ての質を上げる会議	月1回	スタッフ

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	毎日の清掃や週一、月一掃除を実施。感染対策の検討と提案、保健指導などを行った。また受け入れ時に母集団でどの感染症が流行しているのかの確認を行った。その結果、ルーム内でのインフルエンザや新型コロナの感染拡大を防止できた。
安全対策係	事業所内または周辺の安全管理に努め、危険箇所や計画的な安全点検を行い、不備については都度改善を行った。その結果、施設内外の設備における利用児のケガや事故はなかった
防火管理者	防災計画の立案、月1回の防災訓練を実施した。都度、訓練実施の振り返りを行い、「実際に起こった場合はどうか」と言う視点で、防災訓練への向き合い方を強化した
食品衛生管理係	調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食品サンプルの管理

	などを行った。また、食材の管理や消費期限などにも配慮して調理活動を行った
畑係	読売ランド前どろんこ保育園の畑または自施設のプランターの管理を行う。概ね年間計画にそって作物を育て、少量だけだが収穫することができた。
生き物係	今年度は蚕、ザリガニ、メダカ、カブトムシの幼虫を飼育または羽化させることができた。 またヤギ・鶏の世話を開始した。これまでは触れ合うことしかできていなかったが、世話をしなければ生きていけないことを理解するきっかけとなる仕事を実施することができた。
体験学習係	・今年度は体験学習を3回実施。 住んでいる地域で生きている川魚等の生き物を観察する機会や、羊の毛刈り、公共交通機関を利用していつもとは異なる大きな公園での季節遊びを実施することができた。

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	読売ランド前どろんこ保育園のどろんこ祭りを共同で立案、計画、実行、振り返り
保護者会企画係	保護者会の立案、計画、実行、振り返り

4. 支援・処遇

〈1〉保護者面談 および発達相談・児童の保護者への支援および意見要望への対応

児童発達支援	母体園と家庭とつむぎでの姿の違いを相談されることが多くあった。 また進学に伴う環境の変化で不安を感じる保護者には、事業所内相談とは別に積極的園訪問を実施しながら、よりその子の姿を捉えた就学支援シートを作成し安心できるよう対応をおこなった。 また保護者様同士が繋がり合える場と子育てについての勉強会を実施した。
マンスリー	支援時の様子を電話や対面で説明を行う。保護者との日々のコミュニケーションの中で、育児や進級に伴う不安があった際は、子育て相談や事業所内相談を実施し、保護者支援を行った。

放課後等デイサービス	学校が終っても自施設で友達と過ごせることを楽しみに通所する姿が多く見受けられた年であった。 子どもたちから「つむぎに行きたい」という声を聞いた保護者が自施設への信頼と安心感に繋がっていき、利用児、保護者ともにつむぎがひとつの「居場所」となっている。そのため、学校生活での困りごとについて、退所した後の自施設で支援を受けられないことへの不安な思いについての相談が今年度も変わらずあった。そのため保育所等訪問支援に加え関係機関連携についての説明を行い、小学校に訪問し担任の先生と情報共有をした結果をお伝えすることや保育所等訪問支援の併用や移行することができ、継続した支援を提供することができた。 また保護者同士が繋がり合える場と子育てについての勉強会を実施した。
保育所等訪問支援	今年度も集団、つむぎ、家庭での子どもの様子が異なることについての相談から、保育所等訪問支援に繋がった。集団生活のなかで過ごしている子どもたちの様子を観察または直接的な支援を実施した。また保護者への振り返りや担任の先生達との情報共有を行うとともに、必要に応じて関係者会議を実施し、関係機関、家庭とより連携した支援を実施することができた。
家族支援	4～3月まで　合計11名　が参加済み　　（3月15日時点） ・振替カレンダーを活用しつつ、事業所内相談支援のサービスがあることを案内して以降、保護者様から面談を希望されることが増加した。 日々の子育てや母集団での様子を含めての不安や保護者の疲労や子どもに対しての接し方についての相談内容が多くあった。話を聞いていく中で不安が軽減し、保護者自身の捉え方が前向きになるなどの変化が見られた
保護者面談 発達相談	日々の育児や母集団での様子、就学への不安や悩みについて事業所内相談の枠組みの中で実施するケースや、来所することが難しい保護者には電話での発達相談を実施した。保護者と向き合いながら気持ちを受け止め、相談内容に応じて、保育所等訪問支援や関係機関との連携を行った
関係機関との連携	・4～3月まで 合計7名が参加済み 利用児の通学通園先での、情報共有を行いながら共通認識を図った。 また自施設の支援についての説明を行った。

〈2〉計画した年間行事の振返り

別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	計画：放課後等デイサービスの食育・調理活動 ねらい：食や食材の循環を理解し、自分を含めたすべての命を大切にする気持ちを養う。食事の大切さや食事の選び方について理解する。
	実践結果	・命をいただく活動を実施した。当日参加する利用児だけではなく、5歳以上の利用児に対して、食材について、家畜についての説明を行った。命

		をいただいて私たちが生きていること、全ての命は大切だということを伝える環境を設定した。 ・長期休暇でのお昼ご飯や日々のおやつについてのリクエストメニューを尋ねると、偏った食事を食べたがる傾向があるため、子どもたちが好きなものにはどれほどの塩分が入っているのか、また正しい塩分摂取量は何かを見える化し伝えることができた。バランスよく食べることについての説明を実施していくが実際には好きな物だけを食べる姿は変わらずあるため、伝え続けることが大切だと実感した。
	次年度方向性	・子どもたちで何を育て、何を食べたいのかを話し合い、計画を立てる。 ・必要なもの、ことを子ども自身で考え、実行しながら、育てる～食すまでの連続性を経験し、食への興味関心や大切にする心を育む。
2	計画・ねらい	計画：児童発達支援（乳児）の食育・調理活動 ねらい：様々な食べものを見る、触る、食べる経験を通して自分で進んで食べる楽しさを知る
	実践結果	今年度も畑での収穫物が多くはない中でも、種を植え、実る過程を知ることはできた。また調理活動を通して、自分たちで準備し図り、作り、食べることを経験していく環境を用意し、意欲的に取り組み、食べている姿をみることができた。
	次年度方向性	調理くずや提供後残渣を理解する。
3	計画・ねらい	他者と食べる楽しさを味わう。身近な食材を使って調理を楽しむ。食を通じて命の大切さ、循環を知る。
	実践結果	友達やスタッフと一緒に作り、食べる楽しさを実感できる環境づくりを行った。嫌いな野菜や食材を使っていてもおいしそうに友達が食べている姿をみて、「おいしい？」と興味を示す姿や実際に食べることで、新しいおいしさを知ることができた。 経験から食べる意欲、作る意欲へと繋がれるよう、畑仕事で野菜を育て、その収穫物を使って調理活動を行うことを計画していたが、収穫物が少なく調理活動に取り入れることができなかった。
	次年度方向性	・引き続き、経験から食べる意欲、作る意欲へと繋がり、意欲的に畑仕事に取り組むことができるような環境を用意していく。 ・なぜ野菜を食べるのか。なぜお菓子ばかりではいけないのかなど健康的に生きていくために必要な食への理解を深められるよう、収穫物についての栄養素などを視覚的に用意する。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
流行した感染症	なし

発作・痙攣等の対応	なし
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月21日に自施設にてスタッフ7名、受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ7名のうち、7名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	AED 設置なし
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の施設内会議時 ⇒4月18日、10月10日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間　実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	計画：自施設の環境設定 ねらい：子どもたちが自ら選び取れる環境
	実践結果	「好き」「たのしい」の探索ができる複数の環境や活動内容を用意できるように、活発に活動するエリア、静かに落ち着けるエリアをつくり、子ど

		もたちが過ごしたい場所を選択できる環境づくりを実施した。 だが振り返りができておらず、子どもたちの姿にあっていない環境や複数の活動を用意できていないことも多くあったため、次年度は振り返りを行い環境設定について考える一年とする。
	次年度方向性	引き続き、選び取り夢中になれる、関り合える環境構成を用意し、その環境に対しての子どもの姿を振り返り、環境を再設定し常に成長にあった環境を提供する。
2	計画・ねらい	計画：カフェの環境設定の見直し ねらい：居心地のよいカフェをつくり、保護者や地域の利用者の憩いの場となる
	実践結果	本、掲示物、音楽、植物を設置はしていたが、季節感のあるものなど定期的な更新することができていなかった。日々の育児や仕事から離れ、一息つける場所になるよう改めて環境設定を実施する。
	次年度方向性	・制作物や子育てに関する本や地域関連の情報などを設置し、「待った気がしない」お迎え時間、または一息つける憩いの場を提供する。 ・カフェの設置物やメンテナンス、掃除については定期的に実施する。またその日程回数を記録に残し美観を保つ。
3	計画・ねらい	計画：地域資源の活用 ねらい：地域を知り、地域に認知される
	実践結果	地域で働く人や場所に親しみをもち、地域で生活していることを意識できるよう、商店街ツアーの行先についてルーム内で検討した。近隣の保育園、小学校と交流するなどの活動を実施できていないが、青空保育で明治大学のボランティアサークルと繋がり、地域の大人と楽しく交流する時間を提供することができた。
	次年度方向性	普段何気なく活動している地域でのゴミ拾いを定期的に実施し、地域環境への意識と公園や商店街など自分たちが暮らしている街を大切にする気持ちを育む。

〈7〉手作り遊具安全点検結果

該当なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	防災への対応 地震や火災、河川の氾濫などを想定して月1回の避難訓練を行った。訓練の実施前計画、実施後の反省、次回の課題などを話し合い、スタッフ全員が防災の意識を高めた。また、防災に関する活動を支援内で行うなど、子ども及び保護者も防災への意識が高まるように働きかけた。
2	実践結果	ケガ事故防止への対応 活動前にはミーティングを適宜行い、予想されるケガやその対応について

		話し合う。また、ヒヤリハットをスタッフで出し合い、事故を未然に防ぐ物的及び人的環境や活動場所の検証を行った。
3	実践結果	防犯防止への対応 不審者訓練を年2回行った。笛の所持、インターホンの確認、ドアロックの解除、施設周辺の点検、合言葉の確認を適宜行った
4	実践結果	光化学スモックへの対応 光化学スモックの知識を身に付けた。実際に光化学スモック注意報は発令された際は、戸外活動を中止し室内活動に切り替え、安全を確保した。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

今年度、実習生や中高生の受け入れはなかった。だが、明治大学のボランティアサークルとの関りを持つことができた。今後は実習やボランティアを受け入れができることを周知して、積極的な受け入れを行う。

〈2〉実習生の受入

なし

〈3〉中高生の受入

なし

7. スタッフ研修

〈1〉施設内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	12日 6名	16日 8名	6日 8名	4日 8名	19日 7名	12日 7名	3日 6名	5日 7名	10日 8名	14日 5名	4日 7名	4日 8名
見失い防止研修 講師：施設長	12月2日に自施設にて6名のスタッフが出席											
理念方針研修 講師：松久保SVL 永田課長	１０月２４日、１１月2日、12月3日、２月10日に自施設にて8名のスタッフが出席											

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
7月29日	西部療育センター	地域療育講座	1名	有
10月12日、19日	川崎市健康福祉局 総合リハビリテーション推進センター 企画・連携推進課	強度行動障害養成研修 基礎研修	1名	有
11月19日～20日	スマートキッズ株式会社	強度行動障害養成研修 実践研修	1名	有
1月16日～17日	社会福祉法人神奈川県釈迦福祉協議会	神奈川県サービス責任者、児童発達管理責任者実践研修	2名	有

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	18日 1名	16日 1名	26日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	27日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	21日 1名
全社員研修	12月に動画視聴にて実施（全スタッフ対象）											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

実習受け入れやボランティア活動ができることを SNS で周知することができておらず、今年度の実習生やボランティアの受け入れることができていない。次年度も実習生を積極的に受け入れるために、SNSで周知を行う。引き続き、福祉に関心を向けるきっかけ作り、保育や福祉で活躍する人材を育成するための施設として認知されるように働きかけていく。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育	月1回　公園名：生田緑地中央広場公園 または生田支所下校庭広場にて参加延べ人数：137名
商店街ツアー	週1回　主な行き先：せせらぎ館、生田支所、郵便局、消防署等
異年齢交流	10月18日に自施設にてつむぎ祭りを実施
その他活動	3月4日に読売ランド前どろんこ保育園ちきんえっぐ内にて保護者勉強会を実施

9. 医療機関・幼稚園・保育園・小学校との連携の計画

〈1〉今年度の振り返り

小学校
自治体の幼小接続のアプローチカリキュラム及びスタートカリキュラムを実施することができなかったが、幼小接続の視点を踏まえ、就学支援シートを作成して連携を行った。
幼稚園・保育園との連携
利用児の母体園の園訪問を行い、大人の関わりや環境調整なども含め、支援の方向性等の連携を行った。利用児の発達課題の整理を行うとともに、保護者支援に繋げた。
医療機関
近隣のクリニックへの挨拶を行い、早期発達支援の重要性や不安や悩みを抱える保護者への支援の必要性を理解し、協力してくださるクリニックと繋がることできた。今後も地域全体での連携できるよう働きかけてく。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
2月17日	和光鶴川小学校	1名	授業参観	スタッフ間交流
2月26日	南生田小学校	2名	授業参観	スタッフ間交流

10. 個別支援計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

新規利用児及び個別支援計画書更新の際には、保護者の希望や「見たい姿」をモニタリングするとともに、利用児の発達段階を鑑み、利用児自身が「何に困っているか」「何が得意なのか」など、保

護者の言葉を借りて「利用児」に視点をあてたモニタリングを行った。モニタリングの策定会議では児童発達管理責任者及び担当スタッフ等で策定会議を行い、利用児のストレングスに焦点をあてた個別支援計画書を作成した。今後も達成可能な目標を設定して、生活に寄り添った支援を行うべく個別支援計画書の作成に努める

〈2〉進級引継、および小学校への引継状況

小学校への進学に向けて就学支援シートを作成するために、所属園、学校に訪問し、集団生活の様子を観察し、担任との情報共有を行った。それによって具体的な引継ぎ内容や配慮事項などを中心に連携することができた。放課後等デイサービス利用児、また児童発達支援から放課後等デイサービスに移行する利用児においては、保育所等訪問支援を希望する家庭が多く、園や小学校に訪問してコーディネーターの先生や担任との連携を行った。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
61名	10名	14名	4名	2名	9名	19名	24名	3名	9名	31名	5名	191名

<table>
<tr><th>実施項目</th><th colspan="12">詳細</th></tr>
<tr><td>子育て相談</td><td colspan="12">（月）～（土）13:00～16:30　　⇒計5件相談実施済み</td></tr>
<tr><td>勝手籠設置</td><td colspan="12">（月）～（土）9:00～17:30　にて実施</td></tr>
<tr><td rowspan="3">青空保育（支援センター主催）</td><td colspan="12">月1回　　公園名：生田緑地中央広場にて　以下日程にて実施</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>60名</td><td>10名</td><td>14名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>6名</td><td>18名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>24名</td><td>5名</td><td>137名</td></tr>
</table>

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉施設による自己評価の実施

2024年7月5日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：10時00分

自己評価終了時刻：12時00分
自己評価実施者：渡邊朋子、森谷太郎、辻美怜

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月15日
アンケート回収率：94%

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見
報告すべきご意見　０件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）
報告すべきケガ（事故含む）　0件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：発達支援つむぎ 生田ルーム施設長　辻美怜

２０２４年度　発達支援つむぎ 武蔵野ルーム
事業報告書
（発達支援つむぎにおける自己評価）

１．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

児童発達支援では、武蔵野どろんこ保育園とのインクルーシブ保育を継続し、子ども同士だけでなく、スタッフ間も混じりあい、「生活力の体得」「10の姿の体得」「子ども自らがいつでも経験を選び取ることが出来る物的環境の設定」「命をいただく活動の実践」を目指して支援を行ってきた。障害のあるなしに関わらず子ども同士が自然と混じりあい、差別なく助け合いながら、日中活動を共に過ごすことが出来るようになってきた。

放課後等デイサービスでは、公共施設の活用、武蔵野どろんこ保育園との交流、地域貢献と様々な経験を積むことができ、就労に向けての取り組みを行うことが出来てきている。

命をいただく経験を積むことは出来なかったが、畑仕事において一連の流れを子どもと一緒に行うことで食育に繋げていくことが出来た。命の大切さを伝えていくとともに、命をいただく意義を伝えて全員が前向きに取り組めるよう環境を作っていく。

〈１〉支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	児童発達支援、放課後等デイサービス共に、武蔵野どろんこ保育園、就労支援つむぎ武蔵野ルームとの交流
	実践結果	3年目を迎え、園児とつむぎ利用児ともに交わり、お互いに声をかけあう場面も多く見られるようになり、自然と集団の中にいることが多くなっている。 放課後等デイサービスでも園に行き、交流する機会やプログラムの一環として一緒に製作を行うなどすることで、異世代交流を行うことが出来ている。就労支援の仕事にも関り、就労支援利用者と共に活動を行うことで、様々な経験を積むことが出来ている。
	次年度方向性	継続して保育園だけでなく、就労支援、地域資源を活用して交流を行っていく。 児童発達支援では、マンスリーだけでなく、土曜活動でも園児との交流機会を多く行い、お互いを知る機会を提供していく。
2	計画・ねらい	支援内容の充実 遊び、労働を通した支援を中心に、生活力の体得、10の姿の体得、自立性、主体性へと繋げていく
	実践結果	マンスリー活動では、子ども同士はよく混ざりあい楽しむ様子が見られたが、園主導の活動が多く、つむぎ含めた支援プログラムというのがうまく構築できなかった。土曜活動含め多くの戸外活動を取り入れることで、生活力、社会性部分を学ぶことには繋がった。 放課後等デイサービスでは、地域貢献活動としてゴミ拾いを行うなど、地域に向けた活動も取り組めた。

	次年度方向性	継続して保育園との交流を多く行っていくとともに、園児、つむぎ利用児含めて一緒に楽しめる活動を行っていく。 地域との繋がりがまだ薄いため、地域資源を活用していくことを児童発達支援、放課後等デイサービス共に行い、地域との繋がりを強めていく。
3	計画・ねらい	様々な人との交流
	実践結果	地域にある高齢者施設や児童館、図書館など地域資源を活用し活動を行うことはでき、交流機会を持つことは出来た。現状行くのみで、こちらからの企画の提案実践までには至っていない。
	次年度方向性	基本である挨拶の徹底をしていくとともに、地域での活動の際には、ただ行くだけではなく、こちらからの企画の提案を行っていき、一緒に活動を行えるよう取り組んでいく。

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

Ｉ	計画・ねらい	関係機関との連携
	実践結果	就学支援シートや保育所訪問で関係機関との連携を取ることは出来た。相談支援先や自治体のセンターなどは情報収集のみで、連携とまでは至らなかった。
	次年度方向性	継続して、保育所訪問や就学支援シートを通して保育園、学校との連携を密に行っていく。また相談支援先などには、こちらからのアプローチを増やし、利用者の状態だけでなく、新規利用者獲得に向けた取り組みにも繋げていく。
2	計画・ねらい	保護者懇談会開催
	実践結果	年3回開催。 就学後福祉サービスや発達勉強会、懇親会を行い、スタッフと保護者だけでなく、保護者間での交流に繋げることが出来た。
	次年度方向性	継続して、懇談会を計画し、保護者同士での繋がりと学びに繋げていく。
3	計画・ねらい	おもてなしの心を持ち対応
	実践結果	日頃の清掃意識など、まだ全スタッフが意識を持って行うことは出来ていない。 支援中の保護者に定期的に声をかけていくことで、関係性構築と子どもの様子など聞き取り、通っている意義を感じられることを意識して行うことが出来た。
	次年度方向性	就労支援スタッフと共にカフェ利用者、地域の方への日頃の対応について改めて全員が考えていく。 支援時間中の待ち時間に発達相談会を開くなど、保護者にとって有意義な時間になるよう計画していく。 全員で清掃意識を高め、利用者、地域の方がまた来たいと思える場所にな

		る。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	保育園利用者へのつむぎ紹介、発達についての学び
	実践結果	毎月のつむぎだよりを保育園に貼り出して保護者に見てもらうことで声をかけてくれることも増えてきた。子どもの発達について悩んでいる方から声をかけてもらい、保育園スタッフとの面談に同席させてもらうことで、話を聞き不安軽減に繋げることが出来た。
	次年度方向性	つむぎ利用児理解促進と共に、定型発達について保育園保護者の学びになれるよう、たよりを発行していく。
2	計画・ねらい	つむぎカフェ利用者へつむぎ紹介
	実践結果	パンフレットをカフェスペースに配置することで、カフェ利用者から放課後等デイサービスについては声をかけてもらうことはあり、少しずつ浸透しつつある。
	次年度方向性	プログラムで作った制作物を置くなどして、放課後等デイサービスの宣伝をしていくとともに、児童発達支援事業についても伝えていく。
3	計画・ねらい	発達相談室開催
	実践結果	利用者へは適宜聞き取り、相談会をイベントとして開催することで、情報共有をすることが出来た。 保育園利用者も子どもの発達についての相談など、実績として3件面談に同席し話を聞くことが出来た。 地域からの相談には繋げることは出来なかった。
	次年度方向性	少しずつ保育園にもつむぎが定着してきているので、つむぎだよりを継続して掲示していくとともに、ちきんえっぐなどを活用し地域に向けても発信していく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	毎月施設内会議において、発達研修実施
	実践結果	園会議内で発達勉強会を行うことで、つむぎスタッフだけでなく、園スタッフの育成にも繋げた。つむぎ内でも就学後福祉サービス事業を調べアウトプットに繋げることで個々の質、知識向上に繋げた。
	次年度方向性	継続して園会議内での発達勉強会を行っていく。全スタッフがアウトプットに繋げ、各スタッフの質向上に繋げていく。
2	計画・ねらい	保育所保育指針、児童発達支援ガイドライン、小学校・中学校・高校の学習指導要領から支援の基礎を学ぶ

	実践結果	読み合わせを行うことは出来たが中身を理解するまでには至っていない。
	次年度方向性	保育所保育指針と児童発達支援ガイドラインをしっかり読み取り、就学に向けて必要なことを全員が把握できるようにしていく。
3	計画・ねらい	コンピテンシーから社会人として基盤を学び実践
	実践結果	毎月個々の目標を決め、翌月には結果を報告。個々の目標だけでなくルーム目標を合わせて行うことで、全員が同じ方向を持って支援に当たることが出来た。
	次年度方向性	継続して毎月の目標と振り返りを行っていく。振り返りの中で個々の得意不得意を見極め、自己成長へと繋げていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	自ら学びを求められる環境作り
	実践結果	主体性を大切にし、自らが選択し取り組める環境構成を園と共に考え、環境を整えていった。つむぎ施設内での自己選択出来る環境整備が出来なかった。
	次年度方向性	つむぎ施設内での自己選択できる環境をスタッフ間で話し合い、構築していく。 保育園では、定期的に環境を変え、子ども自身が考え学べる環境を構築していく。
2	計画・ねらい	生き物、農作物と触れ合える環境作り
	実践結果	メダカ、カブトムシ、ヤモリ、蚕など様々な生き物を飼い、子どもと共に日々の飼育に取り組んだ。 畑では夏野菜は子どもと共に取り組み、収穫まで行い、調理体験などに繋げることが出来た。冬野菜では、畑の使用が出来なくなったため、野菜はプランターのみでの栽培を行った。
	次年度方向性	上期は畑が使用できないため、プランターでの栽培、下期は畑を使って子どもと一緒に何を栽培していくか考えていく。 生き物は継続して飼育していき、子どもと一緒に見守っていく。
3	計画・ねらい	地域資源開拓
	実践結果	散歩時の挨拶、地域清掃を通して、地域の方から声をかけていただくことも少しずつ出てきた。地域の児童館や図書館、高齢者施設にも行く機会を今年度は作ることが出来た。
	次年度方向性	継続して公共施設を活用し、交流を行っていく。行くだけではなく、プログラムを提案し、現地の利用者と一緒に楽しみ交流できる機会を作っていく。地域清掃では、公園内清掃などにも取り組み、地域貢献からの達成感を持てるようにする。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

児童発達支援　利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	104人	101人	106人	122人	110人	121人	134人	123人	111人	116人	115人	110人	1373人
登録児数	18人	16人	16人	16人	16人	16人	16人	16人	16人	16人	16人	16人	194人

（解説）マンスリー児での振替等が難しく、体調不良からのお休みが多くなることで稼働率を伸ばすことが出来なかった。園児との交流機会は多く提供することができ、楽しみながら成長を促すことが出来ている。欠席時の振替等を考えていきながら利用総数増を目指す。

放課後等デイサービス　利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	27人	29人	30人	25人	21人	29人	34人	32人	32人	38人	32人	30人	359人
登録児数	6人	6人	7人	7人	7人	7人	8人	8人	8人	8人	8人	8人	88人

（解説）プログラムなど流れが出来てきたこともあり、より多くの社会貢献活動や地域との繋がりという部分でのサービス提供は出来るようになってきている。問い合わせは定期的に入ってはくるが、自主通所から通うことが難しいと見送る利用者も多い。送迎がない代わりに、社会貢献、就労にむけての取り組みを強みとして外部発信をしていき通いたいと思えるプログラムを構築していく。

〈2〉開所時間

８時３０分～１７時３０分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

施設長兼児童発達支援管理責任者1名
保育士　2名
児童指導員　3名

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
施設内会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・施設長会議、児童発達管理責任者会議、保育の質を上げる会議の内容報告など
給食運営会議	月1回	・保育園と共に実施。つむぎ利用児の食事状況共有
事故防止委員会	月1回	・毎月の自ルームとつむぎ全体で起きた事故、全園で起きた事故、インシデント、ヒヤリハットの共有
支援計画策定会議	随時	・マンスリー、グループ、放課後等デイサービスそれぞれの担当者と児童発達管理責任者が参加し、個々の目標を決めていく。
園会議	月1回	・行事打ち合わせ、リズム体操研修、つむぎスタッフによる研修等

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
児発管会議	月1回	児発管
併設園会議	年2回	施設長
食育会議	年4回 （5.8.11.2月）	施設長
保健会議	年4回 （5.8.11.2月）	施設長
子育ての質を上げる会議	月1回	スタッフ

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	毎日の掃除点検、感染対策の検討と提案、保健指導 省察：感染症流行時期前に、改めて注意喚起と自己管理の徹底を促すと共に手洗いうがいの重要性を伝えた。

安全対策係	事業所内、または周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起 ハザードマップを用いて危険カ所を出し、事前に注意喚起 省察：定期的にハザードマップの確認を行い、変わった場所、新たな危険個所などの共有を行った。
防火管理者	防災計画の立案、月１回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、近隣施設との連携の推進 就労支援との合同での防災訓練を実施。就労の利用者、放課後等デイサービスの利用者を含めて実施 省察：就労支援との合同防災訓練を主とし、かつ利用者を含めた防災訓練を行ったことで、実際に利用者を引き連れて階段を降りることへの対策などを考えることが出来た。
食品衛生管理係	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理 省察：調理活動時にスタッフだけでなく、利用者の衛生点検含め行い管理を行った。
畑係	畑の計画的な活動の立案 省察：夏野菜は計画的に行えた。冬野菜は畑が工事の関係で使えなかったが、プランターでの食育に繋げた動きは行った。
生き物係	動物や植物に触れる機会の検討立案 省察：園で飼っているうさぎやニワトリとの触れ合い、ルーム内ではメダカ、蚕、カブトムシの幼虫等、様々な生き物の成長を見守っている。

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	武蔵野どろんこ保育園と一緒に準備･進行を行う 省察：放課後等デイサービスの利用者も準備を一緒に行うことで、利用者にとって仕事の一環として祭に参加することが出来た。
運動会係	武蔵野どろんこ保育園と一緒に実施。子どもの日々の成長を、会を通して保護者に見てもらう。 省察：マンスリー児が参加し、園児との交流場面や日頃の散歩や運動の成果を見せることが出来た。
生活発表会係	武蔵野どろんこ保育園と一緒に日々の成長を保護者に伝える場として開催。 省察：マンスリー児が参加し、園児と一緒に取り組む姿を保護者に見せることが出来た。

4. 支援・処遇

〈1〉保護者面談 および発達相談・児童の保護者への支援および意見要望への対応

マンスリー	・支援終わりに、フィードバックを行い、出来たこと、課題となる点などを伝えたうえで、家で出来ることなどを伝えた。 ・希望者には別途面談を行い、不安軽減へと繋げていった。 ・保護者懇親会を行い、保護者間同士での繋がりを作った。
幼児グループ	・自園での困りごとなどを踏まえ、課題を抽出し、保護者と共に課題解決に臨む。 ・支援中に保護者との会話を大切にし、待ち時間を有意義の時間になるよう取り組んだ。 ・就学後説明会を行い、就学後の不安軽減に努めた。
放課後等デイサービス	・連絡帳を介して、ご家庭での様子、学校の様子、休日の過ごし方などを把握し、必要によっては相談支援先や病院等と連携を取り、利用者把握に努めた。
家族支援	4～3月まで　合計18名　が参加済み　　（3月1日時点） ・6月就学相談、8月日常生活動作、2025年2月意見交換会を実施。
保護者面談 発達相談	・支援計画作成に当たり、半年に1回モニタリングを実施。 ・希望者には随時相談実施。
関係機関との連携	4～3月まで　合計1名　が参加済み　　（3月1日時点） ・各関係機関と連絡を取り合い、会議を実施。ご利用者の状況を把握し、その後の支援に取り組んでいくことが出来た。

〈2〉計画した年間行事の振返り

別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	食を楽しむ
	実践結果	マンスリー：戸外活動で体を動かしたうえで、お腹を空かせ、給食を提供することが出来た。園児と一緒に机を囲んで食べることで、友だちとしゃべりながら楽しく食べる場面も増えてきている。 土曜活動：畑の食材を使った調理活動を行い、食育に繋げた。 放課後等デイサービス：畑の食材を使った調理活動を行い、自身で食べるだけでなく、スタッフに配るなどして、自分が作ったものを人に提供し褒めてもらえる経験を積んだ。
	次年度方向性	継続して食が楽しめるよう体を動かすことを大切にしていく。 土曜活動時にはお弁当を持ってきてもらうなどして、子どもとの交流だけ

		でなく、保護者との会話の場にも出来るよう行っていく。
2	計画・ねらい	畑仕事を通して食育
	実践結果	夏野菜では多くの野菜を収穫することができ、調理活動に繋げることが出来た。冬野菜は畑が工事の関係で利用が出来なくなったため、プランターのみでの栽培になってしまったが、バジル、紫蘇、ラディッシュ、小松菜などを栽培し調理に繋げることが出来た。
	次年度方向性	継続して畑仕事から調理へと繋げていくことで、食の循環を学べる環境を用意する。 夏場などスタッフが動いて畑管理をしてしまうことが多いため、子ども、利用者含めてどうしたら全体で管理が出来るかを考えていく。
3	計画・ねらい	命をいただく経験
	実践結果	保育園でニワトリを飼ってはいるが、絞めてさばくまでには至らなかった。
	次年度方向性	園長、施設長が絞めてさばくという経験の重要性、子どもへの伝え方、スタッフへの伝え方を考え、理解を持った上で全員で前を向いて取り組めるようにする。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
流行した感染症	該当なし
発作・痙攣等の対応	該当なし
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月21日に武蔵野どろんこ保育園にてエピペン研修を計1名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ6名のうち、6名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	AED 未設置
その他保健に関する取組	感染予防のため、衛生管理に努める 新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回/15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施
衛生管理	個人衛生点検簿/毎日	食育活動開始前
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回/4･10月の施設内会議時 ⇒4月10日、10月15日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回/施設内会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	自己選択できる環境作り
	実践結果	マンスリーでは子ども自身がやりたいことを選択できる環境を保育園と共に考え用意することが出来た。 土曜活動では、大人が提案したプログラムを行うことが多く、子ども自身が選択して取り組む機会は少なかった。 放課後等デイサービスでの活動では、いくつかプログラムを用意しておく中で、自身でやりたいことを選択し、その日やることを決めて行うことが出来た。
	次年度方向性	保育園の自己選択できる環境を固定化するのではなく、定期的に配置を変えることで、子ども自身が常に考えて動けるような環境作りを行う。 土曜活動ではいくつかプログラムを提案していく中で、自己選択し、友だちと話し合いをしたうえでやりたいことが出来る環境を作っていく。 放課後等デイサービスでは継続して就労に繋がるプログラムを用意し、その中からやりたいことを選択できるようにしていく。プログラム数を増やしていく。
2	計画・ねらい	室内環境整備
	実践結果	土曜活動時のみだが、製作物を子ども自身が見られるよう貼り出し達成感を持てるよう工夫した。 保護者には活動の待ち時間に見てもらえるよう、つむぎだよりや就学後サ

		ービス情報、発達についての本などを手に取りやすいよう工夫を行ってきた。
	次年度方向性	保護者に有意義に過ごしてもらえる環境が何かを考え、寄り添いながら環境整備に当たる。

〈7〉手作り遊具安全点検結果

該当なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	・防災 毎月避難訓練を実施。室内活動時、戸外活動時など様々な想定し行った。
2	実践結果	・ケガ事故防止 毎月施設長会議にて、前月起きた法人内の事故、インシデント、ヒヤリハットを共有。ヒヤリハットについては毎日ルーム内で起きたことを共有し意識し支援にあたることが出来た。
3	実践結果	・防犯 防犯訓練を年2回実施。室内時の防犯だけでなく、戸外活動時の防犯についても話し合うことができ、全員が意識することが出来た。
4	実践結果	・光化学スモッグ 危機管理マニュアルに則り、ルーム会議にて共有。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

実績なし。実績はないが、継続して受け入れ態勢は整えていき、今後の人材育成に繋げていく。

7. スタッフ研修

〈1〉施設内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	17日 6名	9日 6名	7日 6名	6日 6名	2日 6名	6日 6名	3日 6名	9日 6名	13日 6名	15日 6名	7日 6名	4日 6名
発達研修	19日 5名	17日 5名	21日 4名	26日 4名	16日 5名	20日 3名	18日 4名	15日 5名	20日 5名	24日 4名	8日 5名	8日 5名

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
10月24日	児童発達支援センターひいらぎ	集団指導の効果と支援の力	2名	無
12月11日	発達支援勉強会	ペアレントトレーニング研修	5名	無

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	20日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	21日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	21日 1名	20日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	11月に動画視聴にて実施（全スタッフ対象）											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

方針：地域に開かれた子育て支援事業所として、併設園である武蔵野どろんこ保育園と共に地域に根付くための支援を実施していく。放課後等デイサービスで、保育園、地域施設と連携していき、繋がりを意識したプログラムを実施していく。

振り返り：挨拶の徹底、地域貢献活動（ゴミ拾い）などは行い、地域につむぎ、武蔵野どろんこ保育園を知ってもらう動きは出来た。世代間交流や異年齢交流では高齢者施設訪問、放課後等デイサービス利用者と保育園児との交流を行った。

地域に根付くために継続して地域貢献活動や元気な挨拶を心掛けて行っていく。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容

青空保育	月1回　　公園名：おおぞら公園にて　　参加延べ人数：0名
商店街ツアー	週1回　主な行き先：消防署、駄菓子屋、カフェ等
世代間交流	10月19日に SOMPO ケア西東京新町と実施
異年齢交流	11月8日に発達支援つむぎ 武蔵野にて放課後等デイサービス利用者と園児との交流会を実施
その他活動	不定期開催：地域清掃

9. 医療機関・幼稚園・保育園・小学校との連携の計画

〈1〉今年度の振り返り

子どもと一緒に学校見学に行き、就学後の様子や学校の雰囲気を感じるのにいい経験となっている。継続して連携を取り、就学についての理解を深めていけるよう取り組んでいく。また保護者にも学校情報を提供することで、保護者の就学に向けての不安軽減に繋げた。

就学に向けて就学支援シートを作成することで、情報共有を行った。

利用児が通っている母体園に行き、情報共有を行うとともに、母体園での様子などを直接見ることで、より子どもの状態を把握できるよう努めた。

卒園児も増えてきているので、今まで卒園された子の学校の情報収集や学校公開時には見学しに行き、卒園後の様子を見ていくようにする。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
6月25日	田無特別支援学校	1名	田無特別支援学校	学校公開
12月19日	上向台小学校	18名	上向台小学校（1年クラス）	子ども間交流
2月21日	上向台小学校	19名	上向台小学校（1年クラス）	子ども間交流

10. 個別支援計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

半年間に一度更新を行っていく中で、５領域と子どもの発達成長度合いや支援内容に応じて更新を行っていった。自ルームだけで完結してしまうことが多く、通っている園、センター、他事業所への聞き取りをし、共に支援をしていくことが大切と改めて感じた。

〈2〉進級引継、および小学校への引継状況

年長児は2名。進学先の小学校、学童の先生と直接話をし、引継ぎは保育園と共に出来ている。就学支援シートも作成し、保育園、つむぎ利用状況を共有できている。卒園後も学校公開の参加や担任との連携を行っていく。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	0名	0名	1名	0名	0名	0名	1名	0名	0名	0名	0名	2名

実施項目	詳細												
施設開放	（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　来園延べ人数：0名												
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　⇒計2件相談実施済み												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週（土）12:00～13:00　　⇒計1回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	3名	0名	3名
つむぎだより	毎月1日発行												

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉施設による自己評価の実施

２０２４年１１月１４日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：９時０分
自己評価終了時刻：１６時０分
自己評価実施者：田中誠、森谷太郎

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月15日
アンケート回収率：78%

多くのご意見をいただく中で、まずは子どもが楽しく通えているとお声を多くいただきました。ご意見の中にはスタッフの支援力に差があるという声をいただき、ルーム内では研修会や個々での学びを深めていけるよう取り組み、個々の支援力向上に今後も繋げていく。放課後等デイサービスでは保護者懇親会の未開催、学校等との連携不足を指摘されているため、来年度は放課後等デイサービスでも就労にむけた懇親会などを企画し保護者にとって学びとなる機会を提供していく。
何よりも子ども自身が楽しく通える場所であることを大前提とし、保護者、地域の方にとっても行きたい場所と思える施設運営を目指していく。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見
報告すべきご意見0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）
報告すべきケガ（事故含む）０件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：発達支援つむぎ 武蔵野ルーム施設長　御殿谷　雄二

２０２４年度　発達支援つむぎ 内箕輪ルーム
事業報告書
（発達支援つむぎにおける自己評価）

１．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

今年度から鶏の飼育なども始まり、日課活動である生き物の世話に子どもたちが興味をもち主体的に行う姿が見られた。また散歩の出発時間などの見直しを行い、午前の戸外活動の充実を図ることができた。行事では園スタッフ・つむぎスタッフ間で連携し対話を重ね子どもの興味関心から内容を考え行事を立案することができ、子どもの主体性を大切にした保育・支援を行うことができた。
行事のみに留まらず、引き続き子どもの興味関心を大切にしながら環境構成を行い、保育・支援内容の充実を図っていきたい。
また、今年度実施した保護者交流会・体験学習など好評であったため、今年度のアンケートを元に次年度も取り入れていきたいと思う。

〈１〉支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	計画：好きな場所を選び、行き来できる「大きな家」づくり ねらい：遊びを通して Trial&Error を経験する
	実践結果	園庭に砂場をつくり、戸外用の玩具の置き場の見直しなど戸外での環境構成は年間で行うことができた。室内の環境に関しては課題が残った。
	次年度方向性	園全体を環境として構成していくために、各フロアのスタッフ間での対話の機会、環境の見直しの機会を増やしていく。また、玩具などを必要に応じて揃え環境を充実させていく。
2	計画・ねらい	計画：生活力を育む保育と支援の実施 ねらい：道具の使い方、様々な素材を使っての遊び方など、生活の中で体得し「やってみたい」という意欲を引き出す。
	実践結果	生活発表会をきっかけに保育の中で焚火を行うことができた。 また、保護者参加行事として鶏小屋づくりを行う中で工具など様々な道具に触れる機会をつくることができた。
	次年度方向性	行事の際だけでなく、日々の中で焚火など生活力を体得できる場を多く作っていく。また、工具などに興味がある子どもも多かったので活動などに取り入れていく。
3	計画・ねらい	計画：子どもの発達を理解し、個々に寄り添った保育と支援の実施 ねらい：一人ひとりの保育者が子どもの発達を理解し、受容的に関わり保育・支援を行う。
	実践結果	子どもの様子を共有するツールを作成し、運用することができた。各クラスの子どもたちだけでなく、様々な子の姿や発達への理解を深めることができた。
	次年度方向性	引き続きツールを活用しながら、子どもの姿の情報共有を行っていきたい。

		ツールの活用に留まらず、ケース会議など直接対話し考える機会も多く取り入れていきたい。

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	計画：保護者交流会や講座の実施 ねらい：園の懇談会やつむぎ利用の保護者のみでの交流を通して、気軽に会話できる場を提供していく。
	実践結果	保護者交流会を年２回実施。各回共に５～６名の方の参加となった。 保護者同士関わるきっかけに繋がった。
	次年度方向性	今年度の交流会の中で取り上げて欲しい議題など保護者の方よりあげて頂いたため、次年度も引き続き交流の機会を設けていきたい。
2	計画・ねらい	計画：整理整頓、常に清掃が行き届いた園内環境 ねらい：必要・不必要な物を精査し、誰が見ても心地良く感じるような美観を意識した環境をつくる。
	実践結果	用務スタッフが主となり、園内の環境を整えることができた。整った環境を維持することが難しかったため、心地よく思える美観を意識した環境をつくる必要がある。
	次年度方向性	業務を細分化し、清掃の役割などを立て日々整った環境が維持できるよう仕組化していく。
3	計画・ねらい	計画：親子参加型体験学習の実施 ねらい：参加対象をビジター・マンスリーとする中で様々な保護者の交流の場をつくる。つむぎでの活動を実際に保護者の方にも体験して頂き、つむぎの支援を知ってもらう。
	実践結果	年間で体験学習を 2 回企画・運営することができた。また、体験学習後のアンケートを 1 回実施することができた。親子での活動であったこともあり、普段とは違う子どもたちの姿が見られた。また、保護者支援などに繋げることができた。
	次年度方向性	アンケートの回答で次年度参加してみたい内容など多く挙げられていたため、アンケートを元に年２回以上体験学習を開催していきたい。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	計画：地域の事業所との連携を図る ねらい：地域の児童発達支援事業所との情報交換、支援の質向上を図るための連携を深める。
	実践結果	地域の児童発達支援事業所との連携を多くは取れなかったが、自治体や相談支援事業所との連携を強化することができた。
	次年度方向性	今年度自治体や相談支援事業所からの利用の問い合わせが多かったため、次年度も引き続きつむぎの支援を知って頂き、利用に繋げていきたい。
2	計画・ねらい	計画：ちきんえっぐとの共同企画の実施 （青空保育・芸術学校・寺親屋等） ねらい：地域の方が気軽に足を運ぶことができる場所となり、つむぎにつ

		いて認知度を高める。地域の中で気軽に相談できる場所となる。
	実践結果	年間で３回ちきんえっぐのイベント(寺親屋)を開催することができた。 資料が欲しいなどの声が聞かれた。意欲的に参加して下さる保護者様が多かった。
	次年度方向性	各スタッフの専門性を活かしたイベント年２回以上引き続き開催していきたい。

〈４〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	計画：つむぎでのルーム内研修の実施（年３回以上） ねらい：支援・保育に関する知識を高める。様々な分野の学びを深め、支援の質を向上させていく。
	実践結果	ルーム内研修を 4 回実施した（発達検査・児童発達支援の加算制度・表現活動）
	次年度方向性	学びたいと意欲のあるスタッフも多く、園長大学・保育士大学の動画などを活用しながら学びの機会をつくっていく。
2	計画・ねらい	計画：「生きる力」を育むための日課・保育・支援の実施 ねらい：大人が背中を見せて行う中で、子どもの興味や意欲を引き出していく。日課や保育に対する理解を深め実践していく。
	実践結果	実践していく中での課題などを感じ、スタッフ間で対話しながら日課活動の在り方を考えることができた。畑仕事に関して、夏季は充実していたが冬季はあまり取り組むことができなかった。
	次年度方向性	今年度上手く実践できなかった理由などをスタッフ間で話し合い、子どもたちに働きかけながら日課活動の充実を図っていく。
3	計画・ねらい	計画：建設的に対話ができる関係性の構築 ねらい：子どもだけでなく、スタッフ間での互いの理解を深める 対話を通して、学び直し学び続ける施設運営を行う
	実践結果	子育ての質を上げる会議の共有・園内研修の開催など施設長・主任以外のスタッフも主体となり学びの場をつくることができた。
	次年度方向性	引き続き各スタッフの強みを活かした学びの場などを創出し、各スタッフのリーダーシップが発揮できる環境をつくっていく。

〈５〉環境実施目標

1	計画・ねらい	計画：自然の豊かさを感じられる活動・行事の実施 ねらい：ホンモノの体験を通して自然との関わり方を知る。
	実践結果	園での遠足などで近隣の川や山に行き自然の豊かさを実際に体験することができた。
	次年度方向性	四季を感じることができる散歩のルート開拓を行い、日常の中にも自然を感じる活動を多く取り入れていく。

2	計画・ねらい	計画：循環を意識した環境教育の実施 ねらい：自らの体験を通して食材や食の循環・環境への意識を身に付ける。
	実践結果	下期にコンポストを作成したが、上手く活用することができなかった。 コンポストに入れるもの、入れる量など見直しが今後必要であると感じた。
	次年度方向性	循環という視点を大切にしながら、子どもたちとコンポストの運用を行っていきたい。また、実際に分解された土を利用し畑の土づくりを行っていく。

〈6〉インクルーシブ保育

1	計画・ねらい	計画：インクルーシブ、発達特性に関する研修を行い子どもの理解を深める ねらい：子どもの発達・特性を理解した上で保育・支援を行っていけるようになる。インクルーシブ保育についての理解を深め、スタッフ間での目線を合わせる。
	実践結果	年間で２回以上のインクルーシブに関する研修を園・エリア内で行った。 研修を通して、インクルーシブ保育を行う中での各スタッフの視点を揃えていくことができた。
	次年度方向性	発達特性など学びの場が欲しいという声が今年度の振り返りの場でも聞かれたため、次年度も引き続き園内研修にインクルーシブ保育という議題をとり入れ園全体での知識・スキルを高めていきたい。
2	計画・ねらい	計画：子どもを肯定的・多角的に捉えることができる視点をもつ ねらい：園・つむぎ関係なく、子どもの興味関心を理解し、一人ひとりの良い部分を引き出す保育、支援が行えるようになる。
	実践結果	子どものエピソードを共有する機会を子育ての質を上げる会議をきっかけに多く設けたこともあり、各スタッフの視点を共有することができた。また様々な場面での子どもの育ちの姿の共有を行うことができた。
	次年度方向性	ケース会議や策定会議の在り方を見直し、肯定的な捉え方から具体的にどのように子どもへアプローチしていくか考えていく。
3	計画・ねらい	計画：自然に協働する関係性の構築 ねらい：PDCA サイクルを意識し、対話しながら園、つむぎ連携し 行事・研修の企画運営を行う。
	実践結果	施設長・主任・リーダーだけでなく各スタッフが主となり行事の企画・運営を行うことができた。行事前に業務が多くなってしまうこともあったため、事前準備など細かなマネジメントがより必要であった。
	次年度方向性	行事で終わりではなく、行事からどう保育・支援に繋げていくかというPDCA サイクルを意識した視点で次年度も行事の企画・運営をしてく。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

児童発達支援　利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	215人	200人	210人	203人	184人	201人	239人	216人	214人	201人	218人	200人	2304人
登録児数	17人	16人	17人	17人	17人	20人	21人	21人	21人	21人	21人	21人	21人

（解説）マンスリー、ビジター

〈2〉開所時間

８時３０分～１７時３０分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

施設長兼児童発達支援管理責任者１名
児童指導員３名
機能訓練担当２名（臨床心理士１名、理学療法士１名）

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
施設内会議	月１回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・園運営に必要な情報の共有 ・各行事や係の進歩状況の共有 ・園内研修（６０分）
給食運営会議	月１回	・給食運営に関する情報の共有、課題の抽出・実行など

事故防止委員会	月１回	・ヒヤリハット・インシデント・事故の分析、時季で予測される事故の注意喚起など
支援計画策定会議	適宜	・支援計画作成に際してのケース会議 ・保護者とのモニタリング内容共有
ルーム内研修	年４回	・発達検査について ・受給者証取得までの各市の流れについて ・表現活動について

〈２〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月１回	施設長
施設長勉強会	月１回	施設長
児発管会議	月１回	児発管
併設園会議	年２回	施設長
食育会議	年４回 （5.8.11.2 月）	施設長 調理スタッフ
保健会議	年４回 （5.8.11.2 月）	施設長
子育ての質を上げる会議	月１回	スタッフ

〈３〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	手洗い・うがいの指導や歯磨き指導に加え、清掃面やチェックシートの記入確認を実施
安全対策係	避難訓練及び安全対策についての窓口となり、確実に実行できるように働きかけた。
防火管理者	火の取り扱いについて、日々の確認と焚火保育時の火の管理指導を実施
食品衛生管理係	食の安全に関わる管理の実践
畑係	年間計画に基づき、畑やプランターの整備・管理の責任者として子どもたちと共に収穫を行う

生き物係	生き物の世話や体調管理を実施

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	どろんこサポーターの保護者の方と打ち合わせを行い、企画運営を行った。昨年よりも多い来場者数となり、好評だった物に関しては次年度も取り入れ行っていきたい。
運動会係	子どもひとり一人の発達などに合わせ競技内容の立案、各スタッフの配置などを園スタッフと連携し行った。事前準備に時間を要してしまうことがあったので、次年度が事前準備を入念におこなっていきたい。
発表会係	保育の中で子どもたちの興味やスタッフの得意な事など組み合わせ活動を考えることができた。子どもひとり一人が主体的に参加できる発表会を創ることができた。
入園式・卒園式係	今年度つむぎ在籍の卒園児の卒園アルバムの作成を行った。 今後担当スタッフだけでなく全スタッフがアルバム作成手順を理解し作成していけると良い。

4. 支援・処遇

〈1〉保護者面談　および発達相談・児童の保護者への支援および意見要望への対応

マンスリー	・マンスリーは月～金まで送迎時に保護者の方と話をする時間を設けており、何か相談や悩みがあった際は都度伺うことができる体制を整えることができた。また、マンスリー支援内の要望等はその都度対応することができた。
個別支援	・毎回支援の後に振り返りの時間を設けて支援のねらいや子どもの様子の共有を写真など用いて行った。そこから更に個々の様子や相談があった際には事業所内相談支援加算制度などを説明し別途面談を設ける体制を整えた。
家族支援	4～3 月まで　合計 2 名　が参加済み　　（3 月 1 日時点） ・マンスリー利用者の方を主に土曜日に時間を設け事業所内での家族支援を行った。
保護者面談 発達相談	・支援計画の作成にあたり、半年に 1 回モニタリングを実施 ・都度フィードバックの際に発達等に関する相談に対応することができた。
関係機関との連携	4～3 月まで　合計 1 名　が参加済み　　（3 月 1 日時点） ・幼稚園などと連絡を取り合い会議の実施。ご利用者の状況を把握し、その後の支援に取り組んでいくことができた。

〈2〉計画した年間行事の振返り

別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育に関する実践結果

I	計画・ねらい	計画：戸外で目一杯遊び、空腹の延長で食事の時間を迎える ねらい：戸外で体を動かし、お腹が空き食事をとり、午睡を行うなど生活リズムの安定を図る。
	実践結果	昨年度あまり進まなかった、日課活動である長距離散歩を下期行うことができた。 日中の活動量が増えたことで、食の意欲や、身体を休めるなど安定した生活リズムで過ごすことができていた。
	次年度方向性	引き続き戸外活動の質を高め、子どもたちが楽しめる散歩先を開拓し、歩く楽しさを伝えていきたい。また、日中の活動からの延長で食の時間を迎えることができるよう環境を整えていきたい。
2	計画・ねらい	計画：循環を意識した食育体験の実施 ねらい：食材の加工などを通して、身近な食べ物への興味関心を高める
	実践結果	梅を使い梅干しをつくるなど加工を体験できる場をつくることができた。 また小麦粉を使いうどんを作るなど身近な素材を使っての食育体験を保育・支援の中で行うことができた。
	次年度方向性	引き続き畑で収穫した食材を使用しての食育体験を充実させていきたい。 また大根からたくわんを作るなど加工する体験も積極的に取り入れていけると良い。
3	計画・ねらい	計画：日常にかかわる食育の推進 ねらい：食との関わりを身近に感じる。
	実践結果	朝の時間を使い玉ねぎの皮むき等給食で使用する食材の下処理を調理スタッフが主となり行うことができた。
	次年度方向性	今年度実施した朝の時間に未登園の子も多かったため、様々な子どもたちが経験できるよう必要に応じて時間の見直しを行っていきたい。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
スタッフ健康診断	年 I 回実施
スタッフ検便	毎月 I 回（全スタッフ対象）
その他実施した児童への保健指導、又は、取組等	４月 I9 日に幼児室にて手洗い指導を実施
流行した感染症	感染症の流行は特になし
発作・痙攣等の対応	ダイアップ使用・救急車要請　なし

エピペン使用できるスタッフの状況	・本日時点で、在籍スタッフ７名のうち、６名が使用可能 ・２名に関しては３月 18 日の会議にてエピペン研修実施予定
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	設置なし
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行った。また消毒・換気を徹底し行った。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1 月の 25 日に計４回実施済み
	防災自主点検	6･12 月の 25 日に実施済み
	避難消火訓練	毎月１回／15 日に計 12 回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12 月の 25 日に実施済み
	情報セキュリティチェック	５月･11 月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1 月の 25 日に計４回実施済み
	フロン点検（法定 １ 回/3 年）	業者による対象物の法定点検 2023 年実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検 4･7･10･1 月の 25 日に計４回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日　０日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日　０日
	衛生管理点検表／毎月	毎月 25 日に計 12 回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日　０日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年２回／4･10 月の施設内会議時 ⇒4 月 10 日、10 月 10 日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月１回／施設内会議冒頭５分間　実施済み
	利用者アンケート調査	８月 25 日～９月５日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	計画：園内全体を通し、静と動を意識した環境づくり ねらい：個々の発達を理解し、誰もが安心し過ごすことができる環境を創

		っていく。
	実践結果	スタッフが参加した子育ての質を上げる会議をきっかけに、静と動を意識した環境構成をスタッフ間で対話しながら考えることができた。しかし、環境構成に関する話し合いが 1 回のみとなってしまったため継続性が足らなかった。
	次年度方向性	環境構成の重要性を各スタッフが理解し、子どもの興味・発達に合わせて都度変える意識を持っていけるようリーダーを主として園全体で取り組んでいきたいと思う。
2	計画・ねらい	計画：連続性のある遊びを行える環境づくり ねらい：明日やりたいことなど期待を持ち登園できるような保育環境を創っていく。
	実践結果	個別支援の中では 1 回で終わる内容だけでなく、数週間にわたって行うような活動(制作等)を取り入れ連続性を意識したプログラムを考え、各スタッフ支援を行うことができた。マンスリー支援の中では子どもたちの興味から遊びを持続していくようなスタッフの働きかけがあまりできなかった。
	次年度方向性	保育計画など立案する際に積極的につむぎスタッフも入り、多角的な視点から連続性のある保育計画を作成し、保育・支援を行っていきたいと思う。
3	計画・ねらい	計画：子どもが自ら主体的に関わることができる環境づくり ねらい：子どもの「やってみたい」という意欲を引き出す。ひとり一人が想像力を働かせ、遊びを展開・経験していける機会を増やしていく。
	実践結果	発表会など行事の際に、子どもの興味や声をひろい遊びを展開していくことができた。また、個別支援の際も興味のある遊びから環境構成を行い支援していくことができた。マンスリー支援内では、玩具や遊ぶゾーンが少なくなってしまった場面もあった。
	次年度方向性	主体的に選び取れる環境や素材を必要に応じて用意し、環境を整備し次年度を迎えたい。

〈7〉手作り遊具安全点検結果

手作り遊具なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	非常災害時の対策として、消防計画に基づいた毎月の消防避難訓練、消火訓練を実施した。
2	実践結果	園スタッフと連携し、防災設備点検の実施した（自動火災探知機、煙感知器、誘導灯、排煙窓）

3	実践結果	年２回の不審者訓練を実施した 警察との連携（不審者情報共有、交通安全教室　年10回実施）
4	実践結果	ヒヤリハット、インシデント、事故防止記録記載による事故の防止 事故防止委員会による検討会議 リスクマネジメント研修を実施した。
5	実践結果	園内外のハザードマップによる危険個所の確認と安全確認の周知 環境変化や状況によりその都度見直し、更新を図った。
6	実践結果	光化学スモッグ発生時には、自治体などより発信される情報をチェックし、発生時には屋外での活動を控えるよう子どもに伝え、対応した。

6．実習生・中高生の受入

〈１〉今年度の振返り

実績なし。
実績はないが、継続して受け入れ態勢は整えていき、今後の人材育成に繋げていく。

7．スタッフ研修

〈１〉施設内研修の開催

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月
コンピテンシー自己採点	19日 ５名	14日 ４名	21日 ５名	19日 ５名	23日 ５名	20日 ５名	18日 ５名	15日 ５名	20日 ５名	24日 ６名	28日 ５名	31日 ５名
園内研修	19日 ５名	14日 ４名	21日 ５名	19日 ５名	23日 ５名	20日 ５名	18日 ５名	15日 ５名	20日 ５名	24日 ６名	28日 ５名	31日 ５名

〈２〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
12月23日 12月24日	千葉県健康福祉障害福祉事業課	児童発達管理責任者 実践研修	１名	有

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	18日 1名	16日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	20日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	12月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。
また、今後のキャリアに関するキャリア面談を実施した。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

内箕輪どろんこ保育園と連携を図りながら、地域の学校や施設との関わりを深めることができた。
また、子育て支援センターちきんえっぐのスタッフと連携をとり、子どもの発達に関する寺親屋を年3回実施することができた。子どもの発達に関しての相談もあり、専門士の視点を活かして伝えることができた。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：内箕輪運動公園にて　　参加延べ人数：15名
商店街ツアー	週1回　主な行き先：青い鳥、マクドナルド、ガスト、ローソン、郵便局、市役所、消防署、ケンタッキー、丸亀製麺、セリア、ジョイフル本田、ブックオフ等
世代間交流	10月10日にウィステリアにて歌の披露と交流会を実施
異年齢交流	8月20日に内箕輪どろんこ保育園にて書道体験を実施

その他活動	12 月 16 日に内箕輪どろんこ保育園にて異文化交流を実施
銭湯でお風呂の日	月 1 回　〈3～5 歳児〉　実施

9. 医療機関・幼稚園・保育園・小学校との連携の計画

〈1〉今年度の振り返り

小学校の行事であるマラソン大会や運動会など行事の練習の際に、お声がけ頂き子どもたちと見学することができた。実際に学校の行事を見る中で子どもたちの就学への期待を高めることができた。
次年度も引き続き八重原小学校との連携を強化していきたいと思う。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
5 月 24 日	八重原小学校	27 名	運動会の表現種目見学（八重原小学校校庭）	子ども間交流
10 月 17 日	八重原小学校	30 名程度	町探検（内箕輪どろんこ保育園）	子ども間交流
12 月 11 日	八重原小学校	27 名	マラソン大会見学（八重原小学校校庭）	子ども間交流
1 月 28 日	八重原小学校	20 名	給食見学（八重原小学校 1 年生クラス）	子ども間交流

10. 個別支援計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

最長 6 ヶ月とし、個別支援計画書の見直しを図るため、モニタリングを実施。環境及び日常生活全般の状況に応じて適切な支援目標を設定し、支援内容を検討し個別支援計画書を作成した。

〈2〉進級引継、および小学校への引継状況

進級引継ぎに於いては、ご希望の家庭に就学支援シートを作成し支援内容の引継ぎを行った。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
101名	63名	65名	69名	14名	55名	81名	28名	49名	12名	27名	10名	473名

実施項目	詳細												
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　　来園延べ人数：567名												
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　⇒計0件相談実施済み												
自然食堂 親子ランチ交流	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計24回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	18名	14名	10名	10名	0名	10名	19名	10名	14名	8名	4名	10名	127名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計12回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	6名	0名	0名	17名	0名	2名	19名	10名	14名	8名	4名	10名	44名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00　にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっぐだより	毎月1日発行												

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審
今年度受審なし

〈2〉施設による自己評価の実施
２０２５年３月２７日、３月２８日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：9時00分
自己評価終了時刻：17時00分
自己評価実施者：園施設長、つむぎ施設長、主任

〈３〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月１５日
アンケート回収率：100%

自由記入欄など昨年度以上に好感的なコメントを多くいただくことができた。
どろんこ会の保育・支援を保護者様へ日々のフィードバックや行事、体験学習などの場を通してお伝えすることができた一年であった。次年度も引き続き保護者様の期待に沿えるルームとなれるようスタッフ育成・プログラム立案などに注力を注いでいきたいと思う。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見
報告すべきご意見　０件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）
報告すべきケガ（事故含む）　０件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：発達支援つむぎ 内箕輪ルーム施設長　榊原 里紗

２０２４年度　発達支援つむぎ 海老名ルーム
事業報告書
（発達支援つむぎにおける自己評価）

１．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

【基本方針】つむぎ海老名ルームスタッフは併設園利用児（以下、併用児）全員がお互いにぶつかり合い、支え合い、学び合う家族と考え、全ての子どもの成長が互いに繋がっている事を意識する。
　子どもの成長の為に何が出来るのか、園スタッフと一緒に考え、自分が持つ専門性を共有し、より広い支援の視点を持っていく。

【振り返り】メリーポピンズ海老名ルームと併用している児童に対しては積極的に策定会議を実施するなど園スタッフと一緒に考える下地を作ることができた一年だった。
　メリーポピンズ海老名ルーム以外から通所する児童に対しては情報共有等も含めて未だ課題が多く、一緒に考えていく方向性を次年度に構築していきたい。
　また、つむぎ利用児童への関わりが大人になりやすく、子供たち同士が関われる機会に繋げていく視点をスタッフ達にも浸透できるよう伝えていきたい。

〈１〉支援内容の充実・質の向上

１	計画・ねらい	【計画】 併設園の環境を活かす。日課や基本保育活動を通し子ども同士が学び合い、育ちあう経験を支援する。 【ねらい】 スタッフ全員が併設園の中で支援することを常に意識していく。
	実践結果	併用児が共に生活することを想定した取り組みはスタッフ間でも積極的に行われてきた。しかし、併用児では無い園児に対しての話し合い等は少なく、つむぎ利用児と園児との関わり合いは課題を残した。
	次年度方向性	併用児以外の児童の情報共有や園児への支援を強化することで併設園としてスタッフが行える可能性を広げていきたい。
２	計画・ねらい	【計画】 併用児童以外の子どもたち（以下、園外利用児と表記）の情報や支援方針の共有を行う。 【ねらい】 ビジターの支援を共有することで、園全体の障害への理解や支援を深めていく。
	実践結果	口頭での共有や個人間での情報共有などは行われてきていたがシステムの未構成に終わっている。
	次年度方向性	つむぎ利用児の全ての情報共有化を実施し、園スタッフもつむぎの問い合わせから、利用状況等の情報も確認できるシステムへ移行する。

3	計画・ねらい	【計画】園児全員の発達の様子に合わせて、必要な経験や活動につむぎスタッフとしての専門性や視点を取り入れていく。 【ねらい】 園の生活・経験に保育・療育の相互の視点をもった相互支援をおこなっていく。
	実践結果	園児全体とした対象範囲まで広がっていない。
	次年度方向性	運動や食事面などつむぎスタッフが担うのではなく改めて「一緒に考え、造る」姿勢の地盤を固めたい。

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	【計画】 送迎時に最高の接遇を行えるようになる。 【ねらい】 「安心して子どもを預けて仕事に行ける」「仕事で疲れたけど、気分が救われる」と思ってもらえるような送迎対応を意識する。
	実践結果	送迎対応は各個人で取り組み、気持ちの良い接遇を心がけることはできていた。
	次年度方向性	今年度も接遇面における各月の目標を設定し、個人差はあるものの接遇のサービス品質の向上と三分間対応の参加によりその幅を広げていきたい。
2	計画・ねらい	【計画】 保護者が相談しやすい環境を整え、専門性を生かした相談支援を行っていく。 【ねらい】 保護者支援の経験を積み、保護者と一緒に子そだてを行う視点を広げていく。
	実践結果	事業所内の相談支援や活動の振り返り場面を通して保護者への相談しやすい環境を整えることができた。
	次年度方向性	相談品質の更なる向上と地域の保護者向けの支援を広げる事で地域の保護者に対する支援の枠組みを広げていきたい。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	【計画】 専門性を生かした情報発信や地域の子育てを連携機関と持てる場を作る。 【ねらい】 専門性をルーム内に留めず、地域の子育てという広い視野で其々の専門性を地域に還元する意識を持つ。
	実践結果	地域への連携、発信力は弱く、貢献度に課題を残す年となった。
	次年度方向性	園スタッフと一緒に地域に向けた発信の場やツールを増やすことで貢献度を高めていきたい。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	【計画】 併設園を活かした自分の支援を実行することが出来る。 【ねらい】 併設園という環境を意識し、併設園にこだわった支援を年間通じて考えるようになる。その中には自分の持つ専門的視点を交え、目の前の児の支援から園全体の児の子育てが支援に繋がると支援と考えるようになる。
	実践結果	今の環境下で「つむぎ利用児」に何が必要か考えながら新しい支援の形も行うことができた。その結果、園の活動と離れる期間が生まれたがメリーポピンズ海老名ルームの全ての児童に関しても自分たちが関わる重要性を伝え軌道修正することができた。
	次年度方向性	改めて、園児全員にとって自分たちが関わることで「子そだて」の質が変わることを認識し、園スタッフと一緒に作り上げていく根底を理解し、支援につなげていく。

〈5〉内外に認められる園づくり

1	計画・ねらい	【計画】 選ばれる園になる為、法人で求められる基準に到達する。また、ルーム内で環境構成の振り返りの場を持つ。 【ねらい】 園環境のすべてがサービスの対象と捕らえ、全スタッフが内部監査項目で求められる視点と繋がる支援について理解する。
	実践結果	年度途中から人員配置が少なくなり、各個人で業務過多が起きやすい環境から帳票類等にエラーが生じやすい環境が続いた。そのため、内部監査前の見直しでは振り返りの中で修正する内容が生じた。
	次年度方向性	日々の業務の質を上げることでいつ監査を受けても指摘数の少ない園づくりを目指していく。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

児童発達支援　利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	223人	198人	213人	216人	206人	179人	219人	212人	191人	205人	195人	236人	2493人
登録児数	25人	26人	25人	26人	26人	26人	26人	27人	27人	27人	28人	28人	28人

〈2〉開所時間

８時３０分～１７時３０分

〈3〉スタッフ構成　（3月１日時点）

施設長1名
児童発達支援管理責任者1名
保育士2名
機能訓練担当1名（　理学療法士1名　）
その他指導員1名

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

施設内会議名	頻度	会議内容
施設内会議	月1回120分	・専門士による支援技術の共有 ・マニュアル読み合わせ ・支援方針の検討 ・つむぎ内外から講師を招いた研修を行う。
給食運営会議	月1回	・食育会議の策定 ・食育活動実施の内容検討 ・喫食状況（残渣記録）の確認 ・給食簿指摘事項の改善
事故防止委員会	月1回	・ヒヤリハット、インシデントの分析 ・ハザードマップの見直し ・自園及び系列園で起きた事故のケーススタディ及び改善策の策定 ・全事故防止委員会での内容共有
支援計画策定会議	適宜	・支援計画作成に伴い、開催時期を調整する。 ・乳児、幼児に配置されたそれぞれの担当者と児童発達支援管理者が必ず参加する。

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長

施設長勉強会	月1回	施設長
児発管会議	月1回	児発管
併設園会議	月2回	施設長
食育会議	年4回 （5.8.11.2月）	施設長 調理スタッフ
保健会議	年4回 （5.8.11.2月）	施設長
子育ての質を上げる会議	月1回	スタッフ

〈3〉係の設置状況

係名	職務内容・役割
衛生管理係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導
安全対策係	事業所内、または周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策 計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起
防火管理者	防災計画の立案、月1回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、近隣施設との連携の推進
食品衛生責任者	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食品サンプルの管理
畑係	室内の水耕栽培、計画的な畑仕事や田植えの立案
生き物係	めだかの飼育管理、動物や植物に触れる機会の検討立案
衛生保険係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導

〈4〉行事係の設置状況

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	保護者の協力を仰ぎながら、準備、活動を共に行う
運動会係	行事の計画、立案、実施
生活発表係	行事の計画、立案、実施

4. 支援・処遇

〈l〉保護者面談 および発達相談・児童の保護者への支援および意見要望への対応

マンスリー	園スタッフとつむぎスタッフが互い利用児について当たり前のように関わり、生活の中で互いに育ちあう姿を見守る事が出来た。
家族支援	4～3月まで　合計ll名　が参加済み　　（3月l日時点） 2回の懇談会を通し、食事・運動・就学等の情報提供や学びの場を作り家族を支援した。
保護者面談 発達相談	全てのご家族に日々の活動の振り返りや日常生活の様子を聞きながら、相談対応を行う事が出来た。
係機関との連携	4～3月まで　合計3名　が参加済み　　（3月l日時点） ・ハートフル保育園への訪問支援 ・海老名市事業所の合同説明会参加 ・海老名市特別支援学校に訪問見学

〈2〉計画した年間行事の振返り

別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育に関する実践結果

l	計画・ねらい	・自ら食べ物に食らいつく。食べることが大好きな子どもを増やす。
	実践結果	・気持ち良く食べる環境を見なす機会を持ち、改善につながった。 ・午前中の戸外活動を重要視し、空腹から食への意欲に繋げる事が出来た。
	次年度方向性	・気持ち良く食べる環境を引き続き見なしながら、より良い食環境を整えていく。
2	計画・ねらい	食の循環を知り、命を頂いていることを感じる。
	実践結果	・「命をいただく」活動の実施など、今年度新たに食の循環や命の尊さについて経験する機会を持つことが出来た。
	次年度方向性	今年度の経験を活かし、次年度も「命をいただく」活動を通し子どもの経験を準備していく。また、保護者への説明等を更に丁寧に行う事で家族で食に対して考えるきっかけとしてしていきたい。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
流行した感染症	12月にインフルエンザ、スタッフ3名が罹患した。
発作・痙攣等の対応	使用無し
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月21日にキックオフ会場にてエピペン研修をスタッフ6名、受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ6名のうち、6名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	・6月14日に園会議会場にて AED 研修をスタッフ6名が受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ6名のうち、6名が使用可能
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の施設内会議時 ⇒4月12日、10月11日に実施済み

	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間　実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	子どもたちが毎日、自発的に遊びを選択し、遊びこめる環境を整える。
	実践結果	環境担当のスタッフを中心に取り組み、改善できたことへの振り返りを通して次年度に繋げる体制がとれている。
	次年度方向性	引き続き、環境担当のスタッフを中心として、子どもが遊び込める環境を、年度によって興味関心が変わる子ども達に合わせて整えていく。

〈7〉手作り遊具安全点検結果

該当なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	安全管理 実践結果	安全管理マニュアルの内容をスタッフと共有し、マニュアルに基づいた運営管理を行うことができた。
2	危機管理 実践結果	事故発生時に危機管理マニュアルの内容をスタッフと共有し、マニュアルに基づいた危機管理を行うことができた。
3	救命講習会の実施実践結果	脱水症状、大きなけが、心臓マッサージなど応急処置に関する基礎的な知識を学び、事故発生時に適切な対応が出来るようになった。
4	防火管理 実践結果	防火管理者の選任と所轄消防署への届け出の提出をした。 消防計画を作成し、内容をスタッフと共有した。 法人が定めた防災訓練のスケジュールにそって訓練を実施した。
5	光化学スモッグ 実践結果	横浜市からの情報を確認し、スタッフへ共有する。戸外活動中であった場合は日陰への誘導や帰園など適切に判断し対応した。

6. 実習生・中高生の受入

受け入れなし

7. スタッフ研修

〈1〉施設内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	12日 6名	17日 6名	14日 6名	12日 6名	9日 6名	13日 6名	11日 6名	8日 6名	13日 5名	17日 5名	21日 4名	2日 4名

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
10月10日	東海大学	心理臨床に関する研修	1名	有
12月3-4日	KFC	神奈川県サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者研修　実践研修	1名	有

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	21日 1名
全社員研修	12月に動画視聴にて実施（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	参加なし											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	参加なし											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

【方針】近隣の保育園や幼稚園、商業施設との関りを持ち、コミュニケーションを大切に行っていく。海老名ルームが保護者や地域に開かれた講座や座談会などを開催し、地域に貢献できる事業所を目指す。

【振り返り】商店街ツアーやどろんこ祭り等を通して去年よりも地域との交流を意識して取り組むことが出来た。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育	月1回　　海老名市周辺の公園　参加延べ人数：園と同数
商店街ツアー	週1回　主な行き先：マクドナルド　ロピア　小田急電鉄　等
世代間交流	毎月　プラチナコミュニティ会場にて高齢者との交流を実施
異年齢交流	当園にて祖父母の保育参加を実施

9. 医療機関・幼稚園・保育園・小学校との連携の計画

〈1〉今年度の振り返り

医療機関から提案された勉強会の開催は未実施で終わったが、近隣保育園の訪問支援や特別支援学校への訪問を通し連携を広げる事が出来た。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
1月14日	海老名市特別支援学校	1名	施設見学	施設内の見学と環境や対応に関する情報交換

10. 個別支援計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

半年に1度の見直しを実施。併用児に関しては園スタッフと策定会議開き、より広い視点からの支援計画を作成し提示する事が出来た。

〈2〉進級引継、および小学校への引継状況

利用者の希望を確認し、就学支援シートを作成した。進学先をイメージし、併設園らしく生活を繋げる事を意識し、子どもの様子や進学後の配慮点について適切に情報提供をおこなった。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数
メリーポピンズ海老名ルームの報告と内容、数は同じ。

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉施設による自己評価の実施

２０25年2月7日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：15時00分
自己評価終了時刻：15時30分
自己評価実施者：森谷　太郎

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月15日
アンケート回収率：91％

（省察）回収率が100％に届かなかったが非常に高い満足度を得ていた。保護者同士の交流の場など去年度のアンケートからの改善が満足度に繋がったと考える。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見０件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ0件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年３月１日　　作成者：発達支援つむぎ 海老名ルーム施設長　庄司　宜史

２０２４年度　発達支援つむぎ 香取台ルーム
事業報告書
（発達支援つむぎにおける自己評価）

Ⅰ．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

利用者数の増加に伴い、所属園や学校、相談支援事業所との情報共有や連携の機会も増加している。施策として掲げた「幼保小の架け橋プログラム」や「スタートカリキュラム」を十分に理解し、実践するには努力が求められることを実感した。次年度以降はその目的を明確にし、スタッフが学ぶ機会を設ける必要がある。系列の園や保護者を対象にした講座を開催した。 次年度には定期的な開催を目指す。保育や支援の質をさらに向上させるため、会議や研修内容を現場で実践し、振り返りを繰り返すことが課題である。また、小学生の戸外活動が少ない現状を踏まえ、社会経験を積む機会を増やす取り組みが求められる。

〈１〉支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	計画：子どもに生きる力を育むための保育と支援の実施。 ねらい：戸外活動や自然体験、人とのコミュニケーションを経験する機会を提供し、非認知能力の向上を図った保育と支援を充実させる。
	実践結果	園会議や法人内の研修を通して、「生きる力」だけではなく、保育の質を高め合うことや支援内容の検討を行い、子どもたちの成長をスタッフ全員で支えている。また、子どもの成長に合わせ、活動や行事を企画し行った。
	次年度方向性	引き続き、子どもの成長を見据えた活動や支援を提供する必要があり、次年度は子どもの成長や様子を可視化したものを作成し、スタッフ間で共有を深めていく。
2	計画・ねらい	計画：子どもの気持ちに寄り添った保育と支援の実施。 ねらい：子どもの気持ち・行動を知ることに努め、一歩先またはその先も見据えた環境構成や遊びの提供を行う。
	実践結果	保育のスタッフと協力し、室内環境の構成を繰り返し行い、子どもの成長を見据えた活動や物品の準備を計画してきたが課題が残る結果となった。子どもが必要としている物品や準備が間に合わず、対応が遅くなってしまうことがあった。
	次年度方向性	子どもの様子や成長を見据え、物品や環境を再考していく必要がある。会議体だけではなく、日頃から子どもの様子を共有していく。
3	計画・ねらい	計画：食の循環を大切にした支援の実施。 ねらい：途切れない食育を支援に取り入れる。
	実践結果	畑仕事や日々の給食の時間を丁寧に行い、食べられるものが増えた子どもが増えている。しかし、畑仕事に関しては興味の有無の幅が広く、経験として少ない子どもがいるのが現状であり、次年度の課題でもある。小学生

		は日々調理活動を行うことで、食べることだけではなく、調理のスキル、刃物の扱いなどの経験が増えた。 体験学習として、小学生のおやつを保護者も一緒に調理し食す企画を実施し、子どもたちの成長を保護者と共有することができた。
	次年度方向性	畑仕事の内容を増やし、子どもの様子に合わせた仕事を提供していくことが必要である。また、スタッフが背中を見せ、参加する子どもを増やしていく。体験学習を増やし、食のサイクルを楽しめる企画を準備していく。
4	計画・ねらい	計画：子どもの将来を見据えた支援と学校との連携。 ねらい：幼児期の終わりまでに育って欲しい姿を増やす。
	実践結果	市内の小学校や支援学校の学校公開への参加。教職員と情報共有の他にケース会議を行ってきた。回数としては少ないため、次年度は月にＩ回以上などと高い目標を持って取り組む必要がある。
	次年度方向性	連携する小学校を増やし、共有の機会を増やしていく。

〈２〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

Ｉ	計画・ねらい	計画：安心して通うことのできる事業所。 ねらい：保護者とコミュニケーションを積極的にとり、丁寧な関わりを心掛け、保護者や利用者が安心して利用や相談をすることができる場を作っていく。
	実践結果	日々のフィードバックを丁寧に行うことに心掛け、保護者との信頼関係の構築を図った。保護者の口コミにより、契約や利用する方が増え、運営が安定している。
	次年度方向性	利用数の増加により、フィードバックの時間や場所を検討する必要がある。引き続き、丁寧な対応を行い、安心して利用していただける事業を目指す。
2	計画・ねらい	計画：保護者交流会や講座の実施。 ねらい：保護者同士の交流の機会として、子育てや就学をテーマにし、気軽に話すことのできる場を提供していく。
	実践結果	系列の保育園を対象にした交流会や利用者を対象にした行事を開催することができたが2回に留まった。次年度は開催頻度を増やし、興味の持ちやすいテーマを取り入れる必要がある。
	次年度方向性	季節や時期、その時の話題性を取り入れた活動内容にしていく。系列園や利用者だけではなく、地域まで広げた講座を実施する。
3	計画・ねらい	計画：発達や子育てに関する相談会の実施。 ねらい：地域の方も気軽に相談できる場として、ちきんえっぐ子育て相談「どーなつ」を活発化させ、つむぎや保育園の保護者、地域の方との関わりを広げていく。
	実践結果	子育て支援室の利用者や園庭解放の利用者からの相談も増えている。相談からつむぎの利用に繋がったケースもあり、引き続き利用しやすい環境と関わりを行っていく。
	次年度方向性	相談会のテーマを決め、定期的な開催を図る。ちきんえっぐのイベントの充実化とパンフレットやポスター掲示などを行い、参加率の向上を目指

		す。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	計画：発達や子育てに関する相談会の実施。 ねらい：地域の方も気軽に相談できる場として、ちきんえっぐ「どーなつ」を活発させ、つむぎや保育園の保護者、地域の方との関わりを広げていく。
	実践結果	過ごしやすい環境を図るためにカフェやイベントに関連したポスターを掲示。相談しやすい雰囲気作りとして、カフェ利用者への挨拶を行った。
	次年度方向性	相談会やちきんえっぐのイベントの充実化とパンフレットやポスター掲示などを行い、利用者数の増加を目指す。
2	計画・ねらい	計画：地域の方を交えた体験学習の実施。 ねらい：定期的に体験学習を行い、つむぎ利用者だけではなく、地域の方も参加ができる取り組みを行い、どろんこ会、発達支援、つむぎの存在を広めていく。
	実践結果	インクルーシブ保育をテーマにした講座を開催し、系列園の保護者などの参加があった。開催数が少なく、継続した講座が行えていないため、次年度の課題となる。
	次年度方向性	講座に限らず、定期的な青空保育の機会を活かす。地域の方も気軽に参加できる活動を企画していく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	計画：「生きる力」を育むための日課・保育・支援の実施。 ねらい：大人が背中を見せて一緒に行い、子どもが挑戦できる気持ちをつくる。子どもが自分で考え、選択し、実践しようとする機会を大切にする。
	実践結果	園会議や法人内の研修を通して、「生きる力」だけではなく、保育の質を高め合うことや支援内容の検討を行った。日々の保育や支援を丁寧に行い、子どもの成長に合わせ、活動や行事を行った。
	次年度方向性	会議や研修の場でスタッフの知識や専門性を発揮できる機会を増やす。子どもの様子や成長を見据えた環境を構成する。
2	計画・ねらい	計画：保護者と一緒に成長を楽しむことができる。安心できる発達支援 ねらい：日々の子どもの様子をスタッフ間で共有し、全体像を把握する。必要な支援や関わりから、子どもの様子を保護者に丁寧に伝えることを心掛け、「ここにしてよかった」と思うことのできる支援と接遇をする。 日々、保護者との信頼関係を築いていく。
	実践結果	日々のフィードバックを丁寧に行い、信頼関係の構築を図った。利用者アンケートにその結果が反映された。
	次年度方向性	言葉でのフィードバックに限らず、電子化の利用を活発化させるとともに視覚的な情報を検討していく。

3	計画・ねらい	計画：事業形態にとらわれないスタッフの連携と協働。 ねらい：スタッフ間のコミュニケーションを密にすることで、誰もがすべての子どもに関わり、寄り添っていく。４つの事業所がひとつ屋根の下にある香取台どろんこの保護者や地域の方が安心して利用ができる事業所を目指す。
	実践結果	会議や昼礼などの場以外にも対話しやすい雰囲気をつくり、共有に努めた。しかし、放課後等デイサービスや学童保育の共有は保育に比べると少なく、今後の課題である。
	次年度方向性	利用者数の増加が見込まれるため、より多くの共有機会が求められる。スタッフの知識や専門性を発揮できる場を準備する。

〈５〉環境実施目標

1	計画・ねらい	計画：「つくばらしさ」を活かした保育・支援の実施。 ねらい：自然・科学・文化・国際性を支援に取り入れ、様々な活動を通して、子どもの将来の可能性の幅を広げる。
	実践結果	つくばらしさを意識し、地域の特徴を知ることに努めた。保育や支援まで活かすことができず、次年度の課題となる。
	次年度方向性	つくばらしさを保育や支援にどのように活かすことができるのかスタッフ間で検討する必要がある。実践し、記録にしていく。
2	計画・ねらい	計画：ゾーン保育の実施。 ねらい： 子どもが集中して遊ぶことのできる環境の構築を図り、落ち着いた環境下で遊ぶことができるための室内環境の構築を図る。
	実践結果	保育のスタッフと協力し、室内環境の構成を繰り返し行い、子どもの成長を見据えた活動や物品の準備を計画してきたが課題が残る結果となった。子どもが必要としている物品や準備が間に合わず、対応が遅くなってしまうことがあった。
	次年度方向性	子どもの様子や成長を見据え、物品や環境を再考していく必要がある。会議体だけではなく、日頃から子どもの様子を共有していく。
3	計画・ねらい	計画：ホンモノに触れることのできる環境、すぐに手に取ることのできる道具と経験の場の提供。 ねらい：子どもたちに必要な経験が得られる環境を構築し、「やってみたい」を広げ、子どもの成長する機会を多く提供する。
	実践結果	室内活動や戸外活動を積極的に行ってきた。
	次年度方向性	散歩や戸外活動を積極的に行い、ホンモノに触れる機会を図る。 子どもたちの様子や成長を見据えた活動や環境を用意し、「やってみたい」を増やしていく。

〈６〉インクルーシブ保育・教育、インクルーシブな社会の実践

1	計画・ねらい	計画：互いを認め合い、多角的な視点で行う保育と支援の実践。 ねらい：スタッフ間の対話を深め、互いを認め合っていく。協働し合い、

		個人の個性や専門性を発揮し、多角的な視点から子どもの様子を捉えていく。
	実践結果	保育と支援、スタッフ間の連携を積極的に行ってきた。日々の情報共有や会議の議案など保育や支援に関する内容など多角的な視点を取り入れている。さらに保育や支援の質向上に向け、スタッフの主体性を導き出すことが必要となる。
	次年度方向性	質の高い保育や支援を提供していくために園会議の議案内容を工夫し、スタッフからの発信機会を増やす。外部や法人内の研修内容の共有・実践を積極的に行っていく。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

児童発達支援　利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	117人	149人	134人	164人	135人	152人	173人	147人	189人	188人	201人	230人	1979人
登録児数	15人	15人	15人	14人	15人	16人	17人	21人	21人	23人	25人	25人	222人

放課後等デイサービス　利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	135人	112人	122人	148人	157人	104人	120人	110人	118人	115人	107人	150人	1498人
登録児数	11人	11人	11人	13人	13人	13人	13人	13人	14人	14人	14人	15人	155人

保育所等訪問支援　実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人

相談支援事業　実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規	1人	1人	3人	5人	3人	2人	1人	1人	1人	1人	0人	1人	20人
継続	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人

〈2〉開所時間

８時３０分～１７時３０分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

施設長1名
児童発達支援管理責任者1名
保育士2名
機能訓練担当3名（言語聴覚士1名、作業療法士1名、公認心理士1名）
児童指導員2名

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
施設内会議	月1回 120分	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・スタッフによる勉強会の実施 ・活動の振り返り及び共有、子どもの姿の共有
給食運営会議	月1回	・食育計画実施内容の確認 ・喫食状況の確認 ・アレルギー児童への対応
事故防止委員会	月1回	・ヒヤリハット、インシデントの分析 ・自園及び系列園で起きた事故のケーススタディと改善策の検討 ・ハザードマップの見直し

支援計画策定会議	適宜	・対象児童の策定会議の実施 ・支援の方法、目標設定
つむぎ会議	週1回	・対象児童の様子の共有、支援の方向性の検討 ・個別計画の振り返りと、次月の課題抽出 ・活動内容の計画
虐待防止委員会	9月・2月	・適切な対応、支援の確認 ・身体拘束、虐待防止についての定義の確認、防止策の検討

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
児発管会議	月1回	児発管
併設園会議	年2回	施設長
食育会議	年4回 （5.8.11.2月）	施設長 調理スタッフ
保健会議	年4回 （5.8.11.2月）	施設長
子育ての質を上げる会議	月1回	スタッフ

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	・看護師スタッフや担任スタッフが主となり。健康面や衛生面に関する情報の共有。日々のうがいや手洗いを子どもやスタッフに対して清潔にすることの習慣を図った。
安全対策係	・園内、戸外活動先の危険箇所の抽出、ハザードマップの見直し定期的に変更を行ってきた。
防火管理者	・避難訓練の実施。消火訓練の実施。 ・焚火の見守り。 ・ポスター掲示をし、近隣の方へ周知。

生き物係	・生き物や植物の世話・管理 ・生き物や植物に触れる機会の計画

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係 （保育園合同）	・7月開催。どろんこサポーターズを筆頭につむぎ・保育園スタッフが協力し、地域に向けてのポスターによる周知、実施内容の立案、準備等を行った。祭り当日は多くの参加者が訪れた。
運動会係 （保育園合同）	・10月実施。園庭で行い、つむぎ利用児も運動会に参加。 今年度は多くのつむぎの利用者も参加することができた。
生活発表会係 （保育園合同）	・2月実施。つむぎ利用児のプログラム参加。 今年度は多くのつむぎの利用者も参加することができた。

4. 支援・処遇

〈1〉保護者面談 および発達相談・児童の保護者への支援および意見要望への対応

保育内支援（マンスリー）	・つむぎスタッフ、保育スタッフの連携により子どもたちへの関わりが増え、戸外での遊びや活動が広がり、子どもの興味関心の幅も広がった。 ・子どもの様子からスタッフに対する信頼関係の高まり、安心感が見られ、子どもの主体性や選択性が高まった。 ・子ども同士の関わりが積極的に行われ、子ども間のコミュニケーションが活発に見られた。
グループ活動 （放課後等デイサービス）	・学童スタッフとの連携から、長期休暇の活動の立案から実施まで行うことができた。 ・子ども同士の信頼関係の高まり、安心感が見られ、子どもの主体性や選択性が高まった。 ・子ども同士の関わりが積極的に行われ、子ども間のコミュニケーションや遊びが活発に見られた。
個別支援	・子どもの「やってみたい」を尊重し、用意された活動だけではなく、子どもの意見や思いを積極的に受け入れ支援を行うことができた。支援時間の制約の中でも室内だけではなく、散歩や園庭、戸外での支援を心掛けた。
家族支援	4～3月まで　合計22名　が参加済み　　（3月1日時点） ・家族支援と子育てサポートを行い、保育や支援の内容を共有を図ることができた。

保護者面談 発達相談	・子育て支援室利用者からの相談があり、つむぎの利用に繋がった。
関係機関との連携	4～3月まで　合計4名　が参加済み　　（3月1日時点） ・小学校とのケース会議や利用児の担当者会議の開催。

〈2〉計画した年間行事の振返り

別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	計画：空腹感を感じられる子ども、意欲的に食べられる子どもとなる。 ねらい：生活リズムの獲得、整える。
	実践結果	午前中の活動を散歩や園庭など、日々身体を動かすことを大切にし、空腹感を感じられるための活動を提供してきた。
	次年度方向性	散歩や戸外活動だけではなく、室内や保育の活動の中で絵本や知識等を活かし、子どもたちの空腹感を感じられることに繋げていく
2	計画・ねらい	計画：食への関心を広げる・食の循環を知る。 ねらい：作物や食への興味を広げていくことで新しいことにチャレンジする。
	実践結果	田植え・稲刈り、焚火などを積極的に行い、食への興味に繋がる活動を取り入れることができた。しかし、畑仕事が日課とはならず、子どもによって経験できる機会は個人差があった。
	次年度方向性	畑仕事は全スタッフが畑や農業に関する知識や技術を高め、積極的に取り組む姿勢を子どもたちに見せていく。地盤などは少し改善を図り、子どもたちが毎日畑仕事に取り組める環境を用意していく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した児童への保健指導、又は、取組等	① 6月10日に香取台どろんこ保育園にて手洗い指導を実施 ② 11月14日に香取台どろんこ保育園にてお腹元気教室を実施 ③ 2月27日に香取台どろんこ保育園にて歯磨き指導を実施
流行した感染症	特になし
発作・痙攣等の対応	特になし

エピペン使用できるスタッフの状況	・3月21日に香取台どろんこ保育園にてエピペン研修を保育園スタッフ16名、つむぎスタッフ8名、学童保育スタッフ2名、計26名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ32名のうち、27名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	・3月21日に香取台どろんこ保育園にて救命救急研修を保育園スタッフ7名、つむぎスタッフ4名、学童保育スタッフ1名、計12名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ32名のうち、27名が使用可能
その他保健に関する取組	ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（法定1回/3年）	業者による対象物の法定点検 2023年実施済み ※香取台どろんこ保育園実施
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施 ※香取台どろんこ保育園実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の施設内会議時 ⇒4月18日、10月17日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間　実施済み

	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	計画：「必要なモノ以外置かない」事業所。 ねらい：整理整頓を徹底し、利用する人、働く人が居心地のいいと思える環境作りを行い、安心して利用することのできる事業所を目指す。
	実践結果	整理整頓を心掛け、子どもたちが過ごしやすい環境構成を図った。今後必要なモノなどに関しては保育園スタッフと相談し、検討する必要がある。
	次年度方向性	様々な児童の利用が増え、児童の個性・興味に合わせ、今後も揃えていく必要がある。
2	計画・ねらい	計画：子どもの「やってみたい」が引き出せる室内環境。 ねらい：室内関係を充実化させ、子どもたちが自由に、そうぞう力を発揮できる環境を作る。
	実践結果	保育園のスタッフと連携し、遊びや活動のコーナーを構築し、会議などの場を用いて振り返り、再構築を図ってきた。必要な道具やモノに関しては揃っていないモノもあるため、設置、管理を含め次年度への課題でもある。
	次年度方向性	保育園のスタッフとの連携をさらに強め、つむぎスタッフの専門性や知識、子どもの発達を見据えた環境構成を積極的に取り入れていく。必要な道具やモノに関しては、つむぎのスタッフのアドバイスなどから、子どもの発達に見合ったモノを準備していく。

〈7〉手作り遊具安全点検結果

特になし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	〈ケガ事故防止〉 危機管理マニュアルに則り、事故防止チェック及び設備点検チェックの実施、安全教育、SIDS 防止策を行い、ケガ発生時には対応フローチャートに従う。
2	実践結果	〈防災〉 危機管理マニュアルに則り、消防訓練・避難訓練・避難訓練開催通知・自衛消防訓練通知・救命救急資格取得（継続）手続き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛消防組織と安全対策係の設置・緊急地震速報運用を行い、災害発生時には対応フローチャートに従う。
3	実践結果	〈防犯〉 危機管理マニュアルに則り、不審者侵入訓練の実施・笛の携帯・代理送迎者の把握・不審者情報の収集と共有を行い、不審者侵入時にはフローチャートに従う。

4	実践結果	〈光化学スモッグ〉 危機管理マニュアルに則り、光化学スモッグの知識を身に付け、注意報発令の把握を行いながら、発生時には光化学スモッグ発生時対応および行政連絡に従って対応する。 つくば市においては、「光化学スモッグ注意報」が発令された場合には市役所から保育園・幼稚園・義務教育学校・公共施設・駅・郵便局等に情報を流し、運動の自粛や看板の設置などの対策をとっている。人体への影響が心配される場合、光化学スモッグ警報が発令される。「光化学スモッグ注意報」連絡体制に伴い、香取台どろんこ保育園でもそれに従い、発令中の間の外出を自粛する。
5	実践結果	〈ケガ事故防止〉 危機管理マニュアルに則り、事故防止チェック及び設備点検チェックの実施、安全教育、SIDS 防止策を行い、ケガ発生時には対応フローチャートに従う。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

〈2〉実習生の受入

受入なし

〈3〉中高生の受入

受入なし

7. スタッフ研修

〈1〉施設内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	18日 8名	16日 9名	20日 9名	18日 9名	22日 9名	19日 10名	17日 10名	21日 11名	19日 11名	16日 10名	20日 10名	19日 9名
園内研修	18日 19名	16日 20名	20日 20名	18日 20名	22日 21名	19日 22名	17日 21名	21日 21名	19日 21名	16日 20名	20日 20名	19日 20名

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
6月12～24日	一般社団法人 茨城県心身障害者福祉協会	茨城県サービス管理責任者等研修（実践研修）	1名	有
10月25～11月11日	一般社団法人 茨城県心身障害者福祉協会	茨城県サービス管理責任者等研修（基礎研修）	1名	有
1月25日	東北福祉カレッジ	サービス管理責任者等研修（基礎研修）	1名	有

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	21日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	12月までに動画視聴にて実施（全スタッフ対象）											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

地域の拠り所となるべく、さらに交流の機会を増やし関係性を深めていく。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：吉祥公園にて　　参加延べ人数：4名
商店街ツアー	週1回　主な行き先：セブンイレブン・万博記念公園駅・幸楽園・カフェ

	バーディー・無印良品の家・ダイソー・カスミ・つくばキッズクリニック・わかすぎ整形外科・かとり台整骨院・アパホテル・アーデン音楽館・アート引っ越しセンター・日本測量協会測量技術センター・パワーコメリ・軽自動車検査協会・理想科学工業等
世代間交流	7月9日に園にてラグビー体験交流会を実施
異年齢交流	12月に香取台小学校にて「秋のテーマパーク」を実施
その他活動	1月14日に園にてどんど焼きを実施

9. 医療機関・幼稚園・保育園・小学校との連携の計画

〈1〉今年度の振り返り

保育園の幼保小連携により、香取台小学校への学校見学や1年生との交流の機会を得ることができた。また、香取台小が校とのケース会議の開催により、支援方法を共有している。次年度に向け、他の小学校との連携計画を作成する必要がある。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
7月31日	香取台小学校	1名	高山学園幼保小連絡会	職員間交流
11月7日	香取台小学校	20名	運動会見学	見学
11月22日	香取台小学校 2年2組	18名	香取台どろんこ保育園	子ども間交流
12月9日	香取台小学校 1年	21名	秋のテーマパーク	子ども間交流

10. 個別支援計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

児童発達支援管理責任者が主体となり、保護者に対してモニタリングを行い、対象児の支援に携わっているスタッフを含めて、策定会議を定期的に行うことができた。

計画書の期間にかかわらず、子どもの発達や支援の様子を必要に応じて適切な支援や目標の再設定を行い、適切な個別支援計画を作成することができた。

〈2〉進級引継、および小学校への引継状況

小学校と電話やお迎え時に共有を行った。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
45名	48名	100名	304名	86名	207名	216名	231名	59名	78名	45名	50名	1469名

実施項目	詳細												
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　にて実施												
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　⇒0件												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計22回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	5名	12名	7名	8名	28名	4名	27名	17名	21名	16名	3名	6名	154名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計12回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	4名	9名	0名	10名	4名	14名	0名	2名	43名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00　にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっぐだより	毎月1日発行												
青空保育 （支援センター主催）	月1回　　公園名：吉祥公園にて　以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	4名	4名	8名

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉施設による自己評価の実施

２０２４年１２月２７日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：１３時００分
自己評価終了時刻：１３時３０分

自己評価実施者：森田、本橋

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月１５日
アンケート回収率：１００％

昨年度と比較すると大幅に利用者数が増加した。全体的な数値に関しても上昇し、利用者からの期待が大きい。改善すべき点も明確になり、アンケート結果後に対応を図った。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見　０件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（自己含む）　０件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：発達支援つむぎ 香取台ルーム施設長　森田　隆之介

２０２４年度　発達支援つむぎ 北朝霞ルーム
事業報告書
（発達支援つむぎにおける自己評価）

１．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

開所して２年目となった２０２４年度は併設園として保育の質や支援の質を上げながら連携をとれる併設園を目指して１年取り組んできた。１年の中で施設内交換連携や、子どもの姿を共有するチャット等スタッフ間でのコミュニケーションや、やりとりを意図的に増やし施設内の雰囲気を話しやすくするための仕組みが出来た１年となった。２０２４年度の事業計画書にもあげていた『子どもについて大人同士で語り合い、保護者と共に子どもたちの成長を喜ぶ機会を大事にしていくこととする』といった目標もスタッフ間はもちろん保護者との共有においては日々のフィードバックも含め、１年間に２回の保護者会を実施し、子どもの成長や保護者間交流の場を広げるなどの取り組みを開所から初めて取り組むことが出来た。

『保育者、支援員問わず全てのスタッフが全ての子どもたちと関わりながら、子どもたちが自ら「混ざり」「自己決定」ができる環境を構成していく』を今後も施設全体で日々を振り返りながらより良い施設づくりを目指して併設園のモデル園となれるよう務めていきたい。

〈１〉支援内容の充実・質の向上

１	計画・ねらい	子どもの発達段階を捉え、スタッフの方向性を合わせた支援の取り組み
	実践結果	マンスリー支援は日々スタッフ全員が関わって支援を行い、都度振り返りを行うことが出来ていた。ビジター支援はその日毎に担当が行っていた。日々の振り返りを記録や各種ツールを使用しながらスタッフの方向性を合わせて支援を行うことが出来ていた。
	次年度方向性	引き続き、体制を見直しながら方向性を定め、支援に取り組んでいきたい。
２	計画・ねらい	日課・基本保育活動の促進
	実践結果	散歩9時出発や朝の会、座禅など日課に係る保育活動は都度体制を組み替えながら取り組むことが出来た。また、雑巾がけは時間を見定めながら取り組みを行ったり、系列園への移動保育にて広い縁側で雑巾掛けを行ったりするなど自園だけに関わらず、時には場所も変えて日課を行った。
	次年度方向性	子どもの日々の変化を見極めながら、ただ取り組むだけにならず意味のある日課や基本保育活動を促進していく。
３	計画・ねらい	スタッフ間の交流を大事にしながら子どもを真ん中に置いた環境の構築、子どもにとって最善な利益の獲得が出来る施設づくり
	実践結果	施設関連携の仕組み化を行うことで自然とやりとりが増え、互いの子どもを見るなどの取り組みを行った。また、振り返りの時間も作りながら全員

		が意識できるようグループチャットを作り、その都度の子どもの成長をみんなで気づいた視点を共有した。
	次年度方向性	今の仕組みを継続しながら、スタッフ間のやりとりを日々大事にしていきたい。

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	フィードバックの充実化
	実践結果	保護者からもその時間が日々の中での大事な時間とお言葉を頂戴できるほど、充実したフィードバックの時間をとること出来ていた。
	次年度方向性	異動スタッフや中途で入ってくるスタッフも方向性を合わせながら保護者満足度を日々上げられるフィードバックに務めていきたい。
2	計画・ねらい	利用者のニーズに応え、サービスの向上を図る
	実践結果	利用者アンケートの中では NPS スコア89の満足度を得ることが出来た。
	次年度方向性	引き続き利用者満足度を落とさず、サービス向上を図っていきたい。
3	計画・ねらい	所属園、就学先、相談支援事業所等、各関係機関との連携
	実践結果	利用者が増えてきたことから各所属園、各関係機関と訪問する機会が多かった。
	次年度方向性	発達支援つむぎ北朝霞ルームが今後も朝霞市の1事業所として在り続けるためにも各機関の交流や連携を引き続き行っていく。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	小学校、自治体、相談支援事業所等の関係機関の連携強化
	実践結果	朝霞市の子育て支援センターなかよしぱぁくとの意見交換会や相談支援事業所ひまわりさんとの利用者紹介など都度連携を行うことが出来た。小学校とは訪問のやりとり程度であったため、今後も交流を行いながら就学相談などにも関わっていけたら良い。
	次年度方向性	次年度就学に係る子どもが複数名いるため、支援級との直接のやりとりや必要であれば就学相談に係るなど児童発達支援としての役目を果たらせたら良い。
2	計画・ねらい	地域に根付いた子育て相談場所、情報提供の場となる
	実践結果	児童発達支援としての地域の役割はあまり機会として設けることが出来なかったためもう一度見直し、地域への相談場所や情報提供できる場を設けていきたい。

	次年度方向性	地域のニーズに応えるため、子育て支援センターとの情報交換や青空保育等で地域の保護者とやりとりする場を設けていく。
3	計画・ねらい	つむぎの取り組み内容を地域に発信
	実践結果	毎月のブログを発信していたがそのブログを地域の方に直接勧める機会や見て頂く機会までは設けていなかった。
	次年度方向性	青空保育と通して地域の方への発信や玄関口にブログを宣伝するなどの機会を設けていく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	研修、勉強会の充実
	実践結果	強度行動障害における研修や児童発達支援管理責任者の基礎研修など稟議をあげる研修を受ける機会を設けた。
	次年度方向性	稟議を上げる研修だけでなく自己研鑽で受けられる園長・保育士大学の研修動画を勧める機会を設けていく。
2	計画・ねらい	リーダーの育成
	実践結果	リーダー層のスタッフが2名配置されており、1名は次年度の児童発達支援管理責任者を見据え研修を受けた。もう1名は現場の指導に当たり、発達支援、保育園共に中堅～新人の指導する立場に回り質の向上に務めることが出来た。
	次年度方向性	スタッフの入れ替わりもあるため中堅層のスタッフをリーダー層への育成が出来るよう再度配置を見直し、指導をしていく。
3	計画・ねらい	子どもの成長を見逃さず一緒に喜びを分かち合えるスタッフの育成
	実践結果	子どもの成長が見られる度にスタッフ間で直接やりとりを重ね、グループチャットを通して共有するなどの姿が自然と見受けられた。
	次年度方向性	今の雰囲気ややりとりが途切れることなく次年度も続けていけたら良い。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	季節感ある環境づくり
	実践結果	季節に合わせた制作物やぬりえを準備し、アトリエコーナーの充実化を図るなど都度スタッフ間でやりとりを行っていた。
	次年度方向性	子どもたちが季節感を味わうために室内での遊びだけでなく戸外でも季節感あるものに興味関心を向けられるよう言葉がけを工夫するなどスタッフ間で工夫出来るよう指導をしていく。

2	計画・ねらい	畑仕事、食材加工、捌いて食べる命をいただく等の活動を通し、食材や食の循環へ意識を育む環境の配置、実践する
	実践結果	畑活動の充実化は畑係が率先して行うことが出来たため子どもたちも興味関心を都度持ちながら取り組むことが出来た。捌いて食すでは鯛や鯵など様々な食材に触れ、その場で加工される場を見る、触れるなどの機会を持ち実践まで行うことが出来た。
	次年度方向性	畑活動の促進は行えたが作物が不作だったためどう実りある畑活動になるかスタッフ間と子どもで向き合って活動出来たら良い。
3	計画・ねらい	散歩コース、公園等の地域清掃活動
	実践結果	行先の公園内での清掃活動等は行っていたが、散歩途中の清掃活動等まで行えなかったので子どもたちと地域の清掃活動に向き合いながら地域貢献に取り組めたら良い。
	次年度方向性	子どもたちが地域の汚れや清掃活動しようと気づきが持てるよう保育活動を行っていく。

〈6〉インクルーシブ保育の実践

1	計画・ねらい	子どもが混ざり合い、助け合って生活する仕組みづくりに取り組む
	実践結果	生活においてはスタッフの促しもありながら互いに助け合いながら過ごすことも出来ていたが子ども自身が自ら気づきを持って自然と助け合う姿は散見できなかったため、自然と混ざり合える環境を整えていく必要がある。
	次年度方向性	子どもが自ら気付きを持って互いに助け合い、子ども自身が子どもを引っ張っていけるような言葉がけや配置を作っていく。
2	計画・ねらい	子どもの成長に気づきを持ち、一人ひとりに合わせた支援を行う
	実践結果	子どもの成長や支援において都度スタッフ間で共有し、どのような支援に繋げていくかのやりとりは出来ていた。一人ひとりの個別化を図る支援を行えた。
	次年度方向性	継続的に支援を重ねながらより良い質の良い支援を行っていく。
3	計画・ねらい	併設園の機能性を活かした異年齢の関わりを充実化
	実践結果	施設内交換連携を行うことでスタッフそれぞれの視野が広がり、異年齢を活かした支援や遊びを展開することが出来た。また、併設園としての良さもより出せるよう、機能性を広げながら子どもの最善の利益を獲得できるよう日々務めていきたい。
	次年度方向性	常に機能性を広げながら施設としての充実化を図れるようスタッフ間でやりとりを重ねながら工夫した環境を提供していく。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

児童発達支援　利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	115人	120人	120人	122人	111人	104人	117人	144人	164人	175人	183人	220人	1573人
登録児数	10人	10人	9人	10人	10人	10人	11人	13人	14人	14人	15人	15人	15人

２０２４年度前期は登録児童数も停滞し、利用総人数も伸びなかったが後期に口コミが広がり知人の紹介等で登録児童数も増え、利用総人数も前期に比べ大幅に上がることが出来た。

〈2〉開所時間

８時３０分～１７時３０分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

施設長兼任
児童発達支援管理責任者１名
保育士２名
機能訓練担当２名（公認心理師１名、臨床心理士１名）
児童指導員１名

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
施設内会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・環境の見直し、振り返り
給食運営会議	月1回	丁寧な食事を課題に一年間見直し、残渣についての計画も都度振り返りながら保育体制等も見直しを行った。
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハットやインシデントを月ごとに洗い出し、振り返りながら事故防止等に務めた。事故記録簿があった場合は都度再発防止委員会を立て、再発防止の意識を上げると共にスタ

		ッフへの危機管理意識も高めた。

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
児発管会議	月1回	児発管
併設園会議	年2回	施設長
食育会議	年4回 （5.8.11.2月）	施設長 調理スタッフ
保健会議	年4回 （5.8.11.2月）	施設長
子育ての質を上げる会議	月1回	スタッフ

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
防火管理者	統括施設長が委任
畑係	立候補があったスタッフが畑係を率先して行った。保育園側スタッフとタッグを組んで子どもにも視覚的にわかりやすい畑カレンダーの作成、数字でわかりやすいよう作物の成長を定規で測るなど子どもたちも楽しく取り組めるような工夫、仕組みを作ることが出来ていた。

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	2023年度の反省を元に乳児棟、幼児棟を上手く活用した来訪者の動線の見直しを行いながら保護者も関わりを持てるよう手伝いの係を設け、保護者も参加できるようフォトスポットを制作して頂くなど昨年度より充実した内容の祭りを行うことが出来た。

4．支援・処遇

〈ｌ〉保護者面談 および発達相談・児童の保護者への支援および意見要望への対応

マンスリー	新規入所者からの契約希望も多いマンスリー枠だが併設園の中で全てのスタッフが関わりを持って支援にあたり充実化を図ってきた。保護者からの都度要望に応え、相談援助の面談や関係機関への連携を行った。契約希望が多い枠になるため今後も保護者のニーズに応えながら契約外でも振替等とれるよう配置を見直していく。
ビジターグループ	利用児童数は少ないが、所属園通園後に利用する児童が多い。マンスリー支援と違って時間が100分と限られた中での支援になるためよりスタッフ間での情報共有や支援の方向性を定めなければいけない枠になるため、2024年度内で改めて体制の見直し、支援の題材を何すべきか準備等の役割など明確化することでビジター支援がより充実を図れた支援と位置付けられた。
家族支援	4～3月まで　合計20名　が参加済み　　（3月ｌ日時点） ・開所当初から初めてのつむぎ保護者交流会を行った。ｌ回目の開催後にとった保護者アンケ―トの中でもっと時間が欲しかったなどのありがたい声を頂けたため、ニーズに応えて再度2回目の保護者交流会を企画することが出来た。
保護者面談 発達相談	・保護者から要望がある都度面談を行い、相談援助を行った。 ・要望があった家庭に発達検査の実施を行った。
関係機関との連携	4～3月まで　合計3名　が参加済み　　（3月ｌ日時点） ・所属園へ発達支援つむぎ ふじみ野ルームの保育所等訪問支援に同行し生活の基盤である幼稚園の様子を見に行き、情報交換を行った。 ・どろんこ会内の保育園へ関係機関連携として生活の基盤を見に行き、情報交換や連携の取り組みを行った。

〈2〉計画した年間行事の振返り

別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育に関する実践結果

ｌ	計画・ねらい	畑の野菜を使った食育活動
	実践結果	畑の実りは不作が続いたがその少ない中での収穫で食育活動を行った。実りある作物の中で印象的なのはシイタケの栽培が順調に実りあり、収穫から調理までスピード感を持って食育活動に取り組めたため、子どもたちの反応も良かったように感じた。
	次年度方向性	今年度の反省も含め、畑の場所を変えたり、園でのプランターを充実化させたりするなどの計画を行っていく。

2	計画・ねらい	子どもが好きなタイミングで好きな場所で食べることの楽しさを味わい、食への関心を広めていく
	実践結果	給食環境を2グループに分け、子どもの好きなタイミングでバイキングを行ったり、食事への関心が広がるよう様々な食材に触れ野菜の下処理を行ったりするなどの取り組みを行った。
	次年度方向性	継続的に取り組む。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月21日に発達支援 つむぎ北朝霞ルームにてエピペン研修をスタ計5名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ6名のうち、5名が使用可能

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（法定1回/3年）	業者による対象物の法定点検 2023年実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日　日曜日・祝日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日　祝日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日　日曜日・祝日
運営管理	児童・保護者の人権に関する	年2回／4･10月の施設内会議時

	チェック	⇒4月26日、10月25日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間　実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	園庭、室内の整理整頓を徹底する 子どもたちが自然と片付けの習慣が身につくような環境を整える
	実践結果	大人が片づける姿を見せて習慣化することやトイレのスリッパを揃えるなどの習慣的意識はついた。しかし全てではないので継続的に取り組めるよう大人が意識を持って行きたい。
	次年度方向性	継続的に上記、行っていく。
2	計画・ねらい	好きな遊びを気の合う友達と一緒に遊ぶ
	実践結果	好きな嗜好の遊びを子どもらが自然とキャッチして自然と集まっている姿が印象的であった。
	次年度方向性	より遊びの幅が広がるようスタッフが環境や言葉がけを工夫して行っていく。
3	計画・ねらい	生活の中で感じたもの、心を動かされたことを自由に描いたり作ったり表現できる環境を設定する
	実践結果	制作活動を自由に行えるようアトリエを作るなどの環境を配置したが関わっているスタッフが特定のスタッフだけになっている時期もあるため全てのスタッフが積極的に関われるよう仕組化を行う必要がある。
	次年度方向性	環境の工夫を行うと共に常駐化出来るようスタッフ間含め管理職が関わり、子どもの遊びの幅が広がるよう務めていく。

〈7〉手作り遊具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	設置なし			

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	非常災害時の対策として、消防計画に基づいた毎月の消防避難訓練、消火訓練の実施、危機管理マニュアルの整備、自衛消防組織と安全対策の配置を行った。

2	実践結果	事故防止チェックリスト、設備点検チェックの実施を行った。
3	実践結果	年2回の不審者侵入訓練実施を行った。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

今年度受け入れなし

7. スタッフ研修

〈1〉施設内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	26日 5名	24日 5名	21日 5名	26日 5名	23日 5名	27日 5名	25日 6名	22日 6名	27日 6名	24日 6名	21日 6名	21日 6名
虐待防止研修	26日 5名						25日 6名					

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
4月17日~19日	株式会社スマートキッズ	強度行動障害支援者養成研修	1名	有
8月~9月	有限会社プログレ総合研修所	児童発達支援管理責任者基礎研修	1名	有
8月1日~14日	有限会社プログレ総合研修所	児童発達支援管理責任者実践研修	1名	有

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	21日 1名
施設長勉強会	3日 1名	1日 1名	5日 1名	3日 1名	7日 1名	4日 1名	2日 1名	6日 1名	4日 1名	8日 1名	5日 1名	5日 1名
全社員研修	11月に動画視聴にて実施（全スタッフ対象）											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

併設園であるメリー★ポピンズ 北朝霞ルームと共に、地域との関係を深め、地域に開かれた子育て支援事業所として、近隣園や近隣施設との交流の機会を設けていく。地域に根付いた保育園、児童発達支援を目指した。地域に開かれた事業所としては地域の各関係機関との交流を深め、発達支援つむぎ 北朝霞ルームを近隣に知って頂く機会は設けることが出来た。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育	月1回　　公園名：北朝霞公園にて　　参加延べ人数：12人
商店街ツアー	週1回　主な行き先：ラビックス、オリンピック、松栄堂、図書館、消防署、交番、鳥しん等
世代間交流	毎月第3月曜日に多機能ホーム安心のおせわ～くと交流会を実施
異年齢交流	月2日に発達支援つむぎ 北朝霞ルームにて新座市立第4中学校と交流を実施 中学生職場体験を1月に実施

9. 医療機関・幼稚園・保育園・小学校との連携の計画

〈1〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
1月17日	朝霞市立第７小学校	1名	授業公開見学	就学を見据えた授業風景を見学
2月7日	朝霞市立第5小学校	1名	授業公開見学	就学を見据えた授業風景を見学

10. 個別支援計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

子どもや家族への面談を行い、専門的視点からアセスメントを実施した。『アセスメントでの情報を多面的に捉えて、課題を整理し具体的な手立てを検討し個別支援計画を作成する、支援内容について課題に着目しすぎずに、個の強みに注目し更に伸ばしていくことができるような支援計画の作成を行う』を計画に１年間取り組んできた。スタッフへの人材育成も視野に入れアセスメントやモニタリングなどＯＪＴとして携わってもらった。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
3名	3名	3名	3名	3名	3名	3名	3名	3名	3名	3名	3名	36名

実施項目	詳細												
施設開放	（月）～（土）9:30～16:30　にて実施												
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　にて実施												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週（水）10:00～12:00 参加者延べ人数　12名												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	3名	3名	3名	3名	3名	3名	3名	3名	3名	3名	3名	3名	36名
どろんこ 芸術学校	毎週（水）10:00～12:00 参加者延べ人数												

どろんこ自然学校	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	3名	3名	3名	3名	3名	3名	3名	3名	3名	3名	3名	3名	36名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00　にて実施												
ちきんえっぐだより	毎月1日発行												
青空保育（支援センター主催）	月1回　　公園名：北朝霞公園にて　以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	1名	1名	1名	1名	1名	1名	1名	1名	1名	1名	1名	1名	12名

12. 施設運営の向上

今年度受審なし

〈1〉施設による自己評価の実施

２０２４年７月１日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：８時３０分
自己評価終了時刻：１７時３０分
自己評価実施者：内部監査室　施設長・児童指導員

〈2〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月15日
アンケート回収率：１００％

昨年度に増して利用者数もあがり回答数も増えた。その分、様々なご意見を頂き改めて保護者とのやりとりや支援の充実化、施設としての満足度を継続していけるようスタッフ間とすり合わせた。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

該当なし

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

該当なし

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：発達支援つむぎ 北朝霞ルーム施設長　小酒井　菜央

２０２４年度　発達支援つむぎ 田無ルーム
事業報告書
（発達支援つむぎにおける自己評価）

１．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

「にんげん力。育てます」の理念に基づき、障害の有無、種別に関わらず、子どもが自ら考え行動できるように支援することを基本方針とした。苦手なことや危険なことに対して、スタッフがすぐ介入するのではなく、身の回りの事など自分でできることは自分で行うよう促し、サポートが必要であっても、部分的な介助にする、または段階的に行うように見守っていくことで、困難が生じた際に自分で乗り越えられる力を育くむと共に、助けが必要な場面では、適切に周りの人に助けてもらうための方法を身に付けるなど、生涯にわたって必要なスキルを支援の中で身に付ける支援を行った。

法人の特徴である戸外活動を主とする支援の中で、肌で感じる温度や風の匂い、虫の声など実体験を通して思考力や自然への興味を拡げ、言葉や数などの学びに繋げた。

現在、園で行っている畑仕事の規模を拡大し、実際に畑に行って土を踏みしめたり道具を使ったりなどホンモノの経験の中から身体の使い方など体得することを目指した。

更なる質の高い支援を目指し法人内のコンピテンシーを基盤に、自分たちの支援が子どもたちの「最善の利益」を保証しているか追及した。自ら学んだことを他のスタッフに向けてアウトプットすることや保護者向けの勉強会を行い、より理解を深めながら学ぶ習慣を定着させることができた。

これまで以上に地域の方々につむぎの理念や方針を理解して頂けるよう、積極的に地域に出向き、特色を知り、交流の機会を増やす。

来所してくださる全ての方にとって、安心できる場所、また通いたいと思って頂ける愛される事業所を目指した。

〈１〉支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	子どもたちに様々な環境を用意する。（社会生活との関わり）
	実践結果	地域の園や施設、公園など環境の見直しを行う。日課や体験学習で出かける先を増やすことができた。 地域と交流する中で、様々な大人や子どもたちと関わる機会を設けた。 自分の気持ちを伝える、助ける／助けられるといったコミュニケーションを通して、他者との関わり方を促した。 自我の芽生え、信頼関係の構築、感情のコントロールを促した。
	次年度方向性	子ども同士の学び合い、助け合い、など集団の力を活用した支援を行う
2	計画・ねらい	子どもの「したい」「やりたい」を実現する（自立心、言葉による伝えあい、豊かな感性と表現）
	実践結果	支援内容をスタッフが一方的に提示するのではなく、子ども同士話し合う時間を設け、言葉が難しい子には当番表などを活用するなど、一人ひとりの気持ちや意見を反映できるようにした。 やらされた経験ではなく、子ども自身が「やってみたい」と思った活動を思う存分経験できるよう計画、準備を心掛けた。

		集団場面であっても、一人に焦点を当てすぎないよう、それぞれが主体的に参加できるよう支援を行った。
	次年度方向性	子どもがやりたいことを実現できる環境づくり、子どもと合意形成を大切にする
3	計画・ねらい	生き物との触れ合いを通して生死を知る。命の理解。思いやりの心を育む（道徳性、共感性、責任感）
	実践結果	生き物との触れ合いなど、原体験を通して生死を知り、世話をすることで自立心を養うことができた。 小さな虫や魚を触れる際には、乱暴に触れると死んでしまうことを経験し、力のコントロール、命の尊さを学べる環境を用意した。
	次年度方向性	命をいただく機会を設ける

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	子育て全般に関わる相談、及び支援の様子を丁寧に共有する。
	実践結果	家族支援（月4回）の制度を保護者へ周知し、契約時に案内した 日々の振り返りでは、単に生活の様子を伝えるだけでなく、遊び方や心情の変化、第三者視点で見られた成長等を写真や動画等も活用しながら、子どもの様子を具体的にイメージできるよう丁寧に説明した また、家庭や所属園での過ごし方について、適宜アドバイスを行いながら、生活の中で般化していけるように支援を行った
	次年度方向性	保育等訪問支援の強化、拡大
2	計画・ねらい	関係機関との連携を通じて、多角的な支援を提供する。
	実践結果	所属園や他事業所と連携が可能なことを保護者に周知し、連携後は連携内容をスタッフ及び保護者と共有した。 連携内容を個別支援計画書に追記し、必要があれば支援方針を見直し保護者に丁寧に説明した。 他事業所の支援方針や支援方法を相談支援事業所を通じて共有し、本児のためにできることを様々な角度から検討した。
	次年度方向性	園訪問、保育所等訪問支援を活用し、質の高い支援に繋げる
3	計画・ねらい	保護者同士のつながりを強化する。
	実践結果	同年齢や同じ目標の子ども同士をグループ化し、共通の目標を目指す中で、スタッフが間に入り保護者同士の交流を深めた。 保護者向けの座談会や勉強会も開催し、子育てに悩む方々の情報共有の場になるように努めた。 卒園した保護者の方に協力をお願いし、就学前や就学後の実際の様子など

		当事者の話を聞く機会を提供することができた。
	次年度方向性	卒園児の保護者をお招きする、東京都のペアレントメンターのお話会を実施する

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	情報共有の場として、地域に開かれたカフェスペースを目指す。
	実践結果	利用いただく方の意見を取り入れながら、カフェスペースの機能を充実させることができた。 カフェ内には地域の子育て支援に関わる情報を集め、保護者同士が情報交換できる場として開放した。 契約の有無に関わらず子育てに関わる情報発信ができるよう、スタッフは地域の子育て資源や教育に関する情報収集を行い、理解を深めた。
	次年度方向性	来年度もカフェの充実と職員の知識向上に努める
2	計画・ねらい	青空保育の開催し、地域の方につむぎを知ってもらう
	実践結果	保育園と一緒に青空保育を検討していたが、合流場所となる公園までのルートが確保できなかったことと、利用するマンスリー児の体力差があったために実現はできなかった。
	次年度方向性	近隣の公園でつむぎ独自で開催できないか検討する
3	計画・ねらい	勝手籠の設置し、地域との交流を促進する
	実践結果	着られなくなった衣類を誰もが自由に提供でき、持ち帰ることができる勝手籠を設置することを予定していたが、施設管理の問題に設置はかなわなかった。
	次年度方向性	室内におけるスペースがないか検討する

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	保育所保育指針、児童発達支援ガイドライン、小学校学習指導要領から支援の基礎を学ぶ
	実践結果	児童発達支援事業に関わる者として正しい知識を全スタッフが持てるように勉強会を実施した。読み合わせと自分たちの支援がこれらの指針に沿った物になっているか、日々、振り返りながら質の高いサービスを目指す。
	次年度方向性	各スタッフが学ぶ意識を高めるために、それぞれが勉強会を主催する

2	計画・ねらい	リスク管理（事故、病気、怪我）の知識とその対応について理解する。
	実践結果	熱発、怪我、嘔吐など想定される子どもの状態に対して、全スタッフが落ち着いて対応できるようロールプレイングを実施した。 期の途中で入社したスタッフも、法人内の保育園で OJT 研修を実施し、入社後すぐに子どもと関わるためにスキルを獲得できるように育成した。
	次年度方向性	キックオフミーティングでマニュアルの再確認。4月から全員が同じように行動できるように育成する。
3	計画・ねらい	自分の行った支援について正しく根拠を述べられるようになる。
	実践結果	定期的に児童発達管理責任者と会議を行い、個別支援計画の目標に対してどの程度達成できているかを確認しながら活動を設定した。そのうえで目標に対してどうだったか、家庭や園でどのようなフォローが必要かなど正確に保護者に伝えられるように心掛けた。
	次年度方向性	マンスリー支援とビジター支援の特徴を職員が正しく理解し、そのうえで個別支援計画に沿ったものになるように勉強の機会を設ける

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	生き物や植物の世話を通して生命の尊さに気づき、労わる気持ちや大切にする心を育む
	実践結果	戸外活動で自然の変化など身近な事象に興味を持ち、自然のものを活用した支援を充実させた。 生き物や植物の世話を子どもが主体的に行えるよう環境調整を行った。 亡くなってしまった生き物をスタッフだけで処置せず、子どもと共に埋めるなど直接体験させることで、生命の尊さや子ども自身が心の動きに気が付けることを大切にする機会を設けた。
	次年度方向性	生き物との関わりは必ず行えるように、飼育する生き物を増やす
2	計画・ねらい	危険をすべて排除してしまうのではなく、怪我を通じて自分の身体の使い方や力のコントロールができる環境を用意する
	実践結果	子どもが自由に遊べる環境を用意するが、リスクを排除し過ぎてしまうのではなく、安全な環境な中で怪我をしても重大事故にならないような設定を意識することができた。 経験を通して、子どもが何度も挑戦し諦めずに達成することで、身体の使い方を知り、自己解決能力や成功体験できる環境を用意した。
	次年度方向性	静と動の空間を意識し、子どもたちがそれぞれやりたいことを安全な環境で行えるようにする

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

児童発達支援　利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	241人	247人	262人	295人	302人	288人	319人	322人	322人	318人	322人	350人	3588人
登録児数	41人	44人	46人	49人	52人	52人	52人	54人	57人	58人	60人	62人	627人

（解説）3月は見込み数を入力

保育所等訪問支援　実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	-人	-人	-人	-人	-人	1人	1人	2人	3人	3人	4人	4人	18人

（解説）3月は見込み数を入力

相談支援事業　実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規	1人	0人	0人	0人	0人	0人	2人	1人	0人	0人	0人	0人	4人
継続	2人	1人	0人	2人	1人	23人	4人	7人	5人	4人	0人	33人	82人

（解説）3月は見込み数を入力

〈2〉開所時間

８時３０分～１７時３０分

〈3〉スタッフ構成　（３月１日時点）

施設長兼児童発達支援管理責任者1名
保育士5名
機能訓練担当1名（言語聴覚士1名）
公認心理師1名
社会福祉士1名
栄養士1名
相談支援専門員1名

3. 運営報告

〈ｌ〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
施設内会議	月ｌ回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・各自勉強会テーマを決めての発表
給食運営会議	月ｌ回	月毎の献立の検討、食に関する子どもの情報共有
事故防止委員会	月ｌ回	ヒヤリハット、インシデント、事故報告の共有、改善検討
支援計画策定会議	適宜	支援計画作成に伴う支援内容の検討
ケース会議	適宜	ケースの情報共有、支援方法の検討

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月ｌ回	施設長
施設長勉強会	月ｌ回	施設長
児発管会議	月ｌ回	児発管
食育会議	年4回 （5.8.ｌｌ.2月）	施設長 調理スタッフ
保健会議	年4回 （5.8.ｌｌ.2月）	施設長
子育ての質を上げる会議	月ｌ回	スタッフ

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導
安全対策係	事業所内、または周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策 計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起
防火管理者	防災計画の立案、月１回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、 近隣施設との連携の推進

食品衛生責任者	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食品サンプルの管理
畑係	屋上、玄関のプランターの整備、計画的な活動の立案 花壇やプランターに水を撒くなど日課として取り入れることができた
生き物係	めだかの飼育管理、ビオトープ作成の指揮、動物や植物に触れる機会の検討立案 1年間継続して飼育することができた
体験学習係	体験内容の精査、企画の上程、準備、収支報告等

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
地域交流係	園との連携、企画の立案、遂行 ・遠足、散歩の行先の拡張、地域のゴミ拾いなど、様々なイベントを増やすことができた

4. 支援・処遇

〈1〉保護者面談 および発達相談・児童の保護者への支援および意見要望への対応

マンスリー	・つむぎに来ることに慣れること ・散歩や給食など生活に必要な力を育てること ・他の子どもを意識し、遊びや興味の幅を拡げること ・水、土など様々な感覚に触れること ・様々な体験を通じてイメージする力を育てること ・子ども同士の関わりを促し、協働する楽しさを学び、その中で成功体験を重ね、自己肯定感や自信を高めること ・散歩の距離を増やし、体力をつけること ・他の子どもと共通の目的を見いだし、工夫したり、協力したり、人間関係を円滑にする社会性の基礎を養うこと ・（希望者のみ）食育、性教育の機会を提供すること 以上の方針に沿って実施した
個別支援	・個別支援計画に基づき、子どもに合わせた支援を実施する ・活動は子どもの希望を尊重し、戸外を中心に行う ・個別支援であっても、他の子どもたちと関わる機会を設け、集団に場面における課題も合わせて支援する 以上の方針に沿って実施した

家族支援	4～3月まで　合計85名　が参加済み　　（3月ｌ日時点）
保護者面談 発達相談	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
関係機関との連携	4～3月まで　合計24名　が参加済み　　（3月ｌ日時点）

〈2〉計画した年間行事の振返り

別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育に関する実践結果

ｌ	計画・ねらい	食事を通じたコミュニケーション
	実践結果	スタッフは役職、資格関係なく、子どもと一緒に食事を取り、コミュニケーションの楽しさを共有することができた
	次年度方向性	バイキング形式にして、いつでも食べたい人と食べたい物をお腹いっぱい食べられるように支援する
2	計画・ねらい	畑仕事を通じて自然の興味、食への関心を拡げる
	実践結果	畑、またはプランターで野菜を育てた 土づくりから収穫後の堆肥づくりまで一貫して子どもたちと行い、自然への興味、食への関心を拡げることができた
	次年度方向性	原体験を大切にし、イベントではなく日課の中で畑仕事に関わる機会を用意する
3	計画・ねらい	子どもが「食」そのものを楽しめるように関わる
	実践結果	食への意欲を最大限に高められるよう、午前中は精一杯遊び、お腹を空かせられるように環境を用意した 障害児一人ひとりに口腔発達に合わせた食事形態にすることでリスク管理を徹底した 食具操作が未発達の段階では手づかみ食べを推奨しながら、発達に応じて食具操作を段階的に支援することができた
	次年度方向性	行儀よく食べることよりも、食への興味を引き出す支援を重視する。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
流行した感染症	なし
発作・痙攣等の対応	なし
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月17日キックオフミーティングにて佐野裕子 1名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ11名のうち、11名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	・3月17日にキックオフミーティングにて佐野裕子 1名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ11名のうち、11名が使用可能
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底した

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回/15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（法定1回/3年）	業者による対象物の法定点検 2023年実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表/毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表/毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表/毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿/毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
運営管理	児童・保護者の人権に関する	年2回/4･10月の施設内会議時に実施済み

	チェック	
	コンピテンシー自己採点	毎月1回/施設内会議冒頭5分間　実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	子どもが自己選択できる環境を目指す
	実践結果	決められた遊びだけをするのでなく、何がしたいか、どこでしたいか、誰としたいかなどを自ら選択できるように環境を用意することを心掛けた。ただ複数のおもちゃを用意するだけでなく、支援目標を達成できるようにスタッフが遊び方を工夫したり、仕掛けをしたりするなど、子どもにとって楽しい活動の中に支援目標達成の手段が含まれる形式を基本とした。
	次年度方向性	マンスリー支援ビジター支援共に、子どものやりたいを叶えられる支援を基本とする
2	計画・ねらい	清潔で快適に過ごせる環境づくり
	実践結果	毎日の清掃を行う際に、設備の欠損や汚れなど、気付いた箇所を施設長に報告し、必要に応じて改修を迅速に行うことができた。また経年劣化等による事故のリスクがある場合には、安全が確認されるまでは使用しないように徹底した。誰にとっても安心して過ごせる環境づくりを心掛けた。
	次年度方向性	引き続き、開園時の状態を維持できるよう環境を整備する

〈7〉手作り遊具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	取り扱いなし			
2				
3				

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	防災	・火災や地震が発生した場合を想定し、毎月防災訓練を行った。 ・非常時に備え、備蓄品の確認を行った
2	インシデント・ヒヤリハット	・インシデント、ヒヤリハットを毎月ルーム内で共有し、要因分析と防止対策を検討した。
3	防犯	・不審者対応訓練（室内時、戸外時）を年２回実施。笛の所持、合言葉の確認等を実施した。
4	光化学スモッグ	・光化学スモッグ発生時の対応をルームで共有した ・自治体から発令される注意報に従い、戸外活動の予定は室内活動へ変更した。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

児童発達支援事業所は地域の社会福祉の共有資源であり地域研修の場でもあるため、実習生・研修生を積極的に受け入れ、地域におけるボランティアの養成とともに、次の世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材を育成する。以上の方針のもと体制を整えた。

〈2〉実習生の受入

無し

〈3〉中高生の受入

無し

7. スタッフ研修

〈1〉施設内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	22日 6名	27日 8名	24日 6名	22日 8名	26日 7名	30日 7名	28日 8名	25日 8名	23日 8名	27日 8名	21日 8名	24日 8名
事業所内研修	22日 6名	27日 8名	24日 6名	22日 8名	26日 7名	30日 7名	28日 8名	25日 8名	23日 8名	27日 8名	21日 8名	24日 8名

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
6月4日	西東京市児童発達支援センターひいらぎ	こどもの発達と感情のコントロールを促すかかわり	1名	有
10月24日	西東京市児童発達支援センターひいらぎ	集団指導の効果と支援の力	1名	有
1月14日	西東京市児童発達支援センターひいらぎ	発達が気になる子の摂食機能と偏食	1名	有
9月9日～1月22日	東京都社会福祉保健医療研修センター	令和6年度東京都相談支援従事者初任者研修	2名	有
7月21日～10月21日	東京都福祉保健財団	令和6年度強度行動障害支援者養成研修	1名	有
12月3日～12月4日	東京都福祉保健財団	令和6年度　東京都サービス管理責任者基礎研修及び児童発達管理責任者基礎研修	1名	有

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	20日 1名	20日 1名	19日 1名
施設長勉強会	16日 1名	14日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	19日 1名	19日 1名	18日 1名
全社員研修	11月に動画視聴にて実施（全スタッフ対象）											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

地域に根差す事業所となるよう、交流を行った。世代間交流、異年齢交流、インクルーシブな交流、近隣交流など開かれた視点で地域に目を向け、戸外に積極的に出かけた。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
商店街ツアー	週1回　主な行き先：田無駅前
保育園交流	当法人内保育園、就労支援事業所へ訪問し、交流の機会を設けた
地域交流	事業所内にカフェを設置し、地域の方が自由に来所頂けるスペースを用意した。発達に関する相談や子ども同士の自由に交流できる機会を提供することができた。

9. 医療機関・幼稚園・保育園・小学校との連携の計画

〈1〉今年度の振り返り

①　子どもの事故やけが、健康状態の急変が生じた場合に備え、近隣の協力医療機関との連携を図る。

②　子どもの発達支援の連続性を図るため、保護者の了解を得た上で、子ども本人の発達の状況や障害の特性、児童発達支援として行ってきた支援内容が引き継がれるようにする。

③　保育所や認定子ども園、幼稚園、特別支援学校等との交流や同年代の障害のない子どもと活動する機会を確保する。

④　他の事業所を併せて利用する子どもについて、支援内容を相互に理解する為、保護者の了解を得た上で、他事業所との間で、相互の支援内容や個別の支援計画の内容等について情報共有を図る。

⑤　子どもの発達支援の連続性を図るため、保護者の了解を得た上で、小学校や特別支援学校と連携し、児童発達支援の内容だけでなく、子ども本人の発達の状況や障がいの特性、児童発達支援として行ってきた支援内容等について情報共有を図り、円滑に支援が引き継がれるようにする。

⑥　放課後等デイサービスを利用する際には、放課後等デイサービス計画が適切に作成されるよう、学校の場合と同様に情報の共有をし、連携体制を継続しながら必要な情報提供や助言を行う。

⑦　地域の子育て会議、要保護児童対策地域協議会等へ積極的に参加することで、関係機関、団体等と連携して地域支援体制を構築することに努める。

上記、方針に沿って実施した。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容

9月19日	東大和どろんこ保育園	8名	公共機関を使った遠足	子ども間交流
9月18日	調布特別支援学校	1名	学校見学	
11月8日	石神井特別支援学校	1名	学校見学	

10. 個別支援計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

① 子どもや家族への面談等により専門的な視点からアセスメントを実施する。子どもの障害がいの状態だけでなく、子どもの適応行動の状況を適切な観点からみることができるツールを使って確認していき、子どもの発育状況、自己理解、心理的課題、これまで受けてきた支援などを鑑み、保護者のニーズに照らして子ども自身の持つニーズを明確にしていくことに重点を置く。

② アセスメントでの情報について課題を整理し、具体的な支援目標やその達成時期、生活全般の質を向上させる為の課題、児童発達支援の内容や具体的な手立てを検討し、個別の支援計画を作成する。

③ 支援内容については、「いつ」「だれが」「どこで」「どのように」「どれくらい」支援するということが計画の中で明確になるようにする。

④ 子どもや保護者に対し、ガイドラインに沿った児童発達支援の提供すべき支援を鑑みながらこれに基づき作成された「個別支援計画」を示して説明を行い、子どもに必要な支援が提供させる内容になっているかどうか、同意を得る。

⑤ 支援手法においては、個別支援・グループ支援などその子どもの課題に応じて適宜組み合わせて行う。

⑥ 原則として6カ月に1回以上のモニタリングを実施するが、子どもの状態や家庭状況に変化があった場合などは、改めて提供している支援の客観的評価を行い、支援計画の見直しをする。

上記、方針に沿って実施した。

〈2〉進級引継、および小学校への引継状況

年長児対し就学支援シートを活用し、児童発達支援事業所で行ってきた支援内容、子どもの特性や状況、配慮事項など、小学校生活がより豊かになるように情報提供を行った。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育・カフェ利用者数を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
114名	89名	66名	48名	59名	71名	77名	45名	35名	48名	38名	30名	720名

実施項目	詳細												
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　⇒計-件相談実施済み												
親子ランチ交流	6/19 10:00～12:00　　⇒計1回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	-名	-名	8名	-名	-名	-名	-名	-名	-名	-名	-名	-名	8名

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉施設による自己評価の実施

２０２４年５月１３日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：９時００分
自己評価終了時刻：１７時００分
自己評価実施者：内部監査室　森谷太郎

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月15日
アンケート回収率：100%

利用するすべての保護者様に回答いただき、子ども成長を実感しているという声を多く頂くことができた。今後も原体験や子ども同士の関わり合いに重点を置いた、つむぎ独自の支援を提供していきたい。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見　0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む）　0件

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：発達支援つむぎ 田無ルーム施設長　井坂　僚

２０２４年度　子ども発達支援センターつむぎ 東大和
事業報告書
（発達支援つむぎにおける自己評価）

Ⅰ．２０２４年度の概要　～２０２４年度の基本方針を受けて～

地域に開かれ、地域に根ざし、頼られ必要とされる子ども発達支援センターとしての役割を担っていくことを目標に取り組んできた。法人が目指す完全なインクルーシブ保育の実現のため、東大和どろんこ保育園との連携や支援・保育の質の向上に努めた。保育・支援お互いの理解を深め、相互支援を目指して、保育園スタッフとの会議の設定、児童発達支援についての勉強会、日中活動の打ち合わせを丁寧に行った。保育園児と活動をする際は、戸外や制作等つむぎの子どもの目線も入れて話し合い、活動内容を計画・実行した。

関係機関との連携について、センターの中核的な役割として、東大和市内の他事業所や障害福祉課、保育課、子ども家庭支援センターを招いて情報交換会を実施した。次年度以降もセンターが中心となり、定期的に行う土台を作っていく。

東大和どろんこ保育園の子育て支援事業　ちきんえっぐに来訪された方とのコミュニケーションもとる。育児相談につながるケースも数件あり、今後さらに地域の方に来所していただき、育児相談の窓口を担っていきたい。

〈１〉支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	子ども一人ひとりに合わせた支援
	実践結果	・日々の終礼やルーム会議にて、子どもの情報共有を行い、月に一度目標を設定し共有することで、全員が同じ目線で支援を行う意識付けを行った。また、園会議にて就学の流れやインクルーシブについての勉強会を実施した。 ・子どもが安心して過ごせるよう、子どもの特性やペース合わせて散歩の距離や目的地、過ごす環境に配慮しながら支援を展開した。 ・初めて利用する子どもや保護者が安全で安心し、安定して過ごすための環境や関係の構築を目指した。支援の内容や子どもの様子を丁寧に伝え、保護者と関係性を気づくことに力を入れ、様々な保護者とスタッフとの関係性の土台はできている。
	次年度方向性	日々の情報共有、支援のねらい・目的を設定して共有することを継続し、皆が同じ目線で子どもを理解しながら適切な支援ができるようにしていく。
2	計画・ねらい	インクルーシブ保育を実践する環境を充実させる
	実践結果	・日課、戸外活動、経験できる環境、体験活動などに子どもが主体的に参加できるよう、一人ひとりに合わせた配慮・支援をし、自然に生活に入って行けるよう努めた。生活に自分のペース、自分のタイミングで参加する

		ことは定着してきている。
	次年度方向性	質の高いインクルーシブ保育を実践する環境を充実させていく
3	計画・ねらい	大人のにんげん力向上
	実践結果	・スタッフ一人ひとりの価値観や考え方、これまでの生き方などを把握し、知識や技術をアウトプットする場を設けた。どろんこ会の一員としてどのような支援をしていくのかを皆で考え実践することで、にんげん力の向上に努めた。 ・「～だろう」「～だと思った」「こうするもの」「こうすべき」という概念にとらわれないよう、定期的にスタッフへ注意喚起を促した。
	次年度方向性	子どものにんげん力を育むことと並行して、大人のにんげん力の向上にも努める。

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者の気持ちに寄り添う
	実践結果	・家庭での子どもの様子、保護者の悩みや不安などを日々のフィードバックの中で丁寧に聞き取るよう努めた。バス送迎で直接話す機会が少ない保護者に対しては、連絡帳の内容を丁寧に記入することや、電話でやり取りをすることを行った。保護者から小さなことでも質問や相談を受けることが増えており、保護者の気持ちに寄り添ってきたことで、身近な相談相手になれていると考える。
	次年度方向性	保護者の気持ちに丁寧に寄り添っていくことを継続する。
2	計画・ねらい	安心できる場の提供
	実践結果	・一般相談、相談支援事業、ちきんえっぐなどで来所される保護者や地域の方が、安心をしてスタッフや保護者同士で話をできる人間関係や環境を整えるよう努めた。ちきんえっぐやつむぎカフェを利用する方は徐々に増えており、土曜日に来所される方も増えている。
	次年度方向性	引き続き、保護者や地域の方が安心できる場を提供していく。
3	計画・ねらい	誰もが気持ちよく過ごせる環境
	実践結果	・いつでも落ちついてくつろげる環境を整備し、美観を維持するよう努めた。 ・急な来訪や忙しい中でも声をかけたたら手を止め丁寧に接する接遇は全スタッフが実施している。スタッフの整理整頓清潔清掃の意識を高めるよう努めているが、業務が多忙になると雑多な状況になることはある。

	次年度方向性	美観の維持、気持ちよく過ごせる環境整備、５Ｓの徹底を行う。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	子育て支援、相談支援
	実践結果	・問い合わせや一般相談が来た際には、保護者の話を丁寧に聞き、利用につなげることや子育て支援を行うことに努めた。
	次年度方向性	引き続き、保護者や地域の方への対応を丁寧に行っていく。
2	計画・ねらい	保育所等訪問支援
	実践結果	・9月から開始をする。定期的に訪問支援を実施する中で、専門的な助言をするよう努めている。
	次年度方向性	地域の園や小学校等と、関係の構築や連携の強化を行っていく。
3	計画・ねらい	地域に開かれた子育て支援のために、地域に情報を発信していく
	実践結果	・東大和どろんこ保育園の子育て支援事業ちきんえっぐで来訪された方が、子ども発達支援センターつむぎ 東大和のことを知り、利用につながるケースもあったが、まだまだ認知度は低いと考えている。 ・隣接する小学校との取り組みは東大和どろんこ保育園と合同で行った。保育園や幼稚園とは、園訪問や保育所等訪問支援の際に、当施設の説明も合わせて行った。 ・非常に多くの施設見学があったが、今後は子ども発達支援センターとして、主となって地域の方へ情報を発信していく。
	次年度方向性	地域への認知度を広め、より多くの方が一般相談を利用できるように発信していく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	保育所保育指針、児童発達支援ガイドライン、小学校学習指導要領の理解
	実践結果	・児童発達支援事業の制度や加算、記録などについて保育園と合同で勉強会を数回実施した。特に就学までの流れについては、誰もが保護者へ丁寧な説明ができるように資料を作成して実施した。
	次年度方向性	引き続き、保育所保育指針、児童発達支援ガイドライン、小学校学習指導要領の理解を深める取り組みを行っていく。
2	計画・ねらい	人財育成

	実践結果	・新人スタッフへはベテランスタッフにチューターの役割を担ってもらい、スタッフ育成を行った。 ・リーダースタッフを2名任命し、現場の課題や問題を吸い上げ早期に対処することで、気持ちよく働ける環境整備に努めた。 ・法人の理念、実践内容、インクルーシブ保育を語れるスタッフの育成について、見学対応やアセスメントができるスタッフを数名育成した。
	次年度方向性	リーダー的役割、アセスメント、見学対応ができるスタッフをさらに育成していく。
3	計画・ねらい	リスク管理(事故、怪我、病気)の知識と対応方法の理解を深める
	実践結果	・事故、病気、怪我が発生した際に、全スタッフが冷静に対処できるよう、フローチャートの読み合わせやロールプレイを行った。 ・他園や過去の事故事例などを検討する機会を設け、スタッフの立ち位置、報連相、コミュニケーション、子どもの動きを予測する力など、スタッフ一人ひとりの危機管理意識の向上に努めた。
	次年度方向性	引き続きリスク管理の知識と対応方法の理解を深めていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	子どもが経験を選び取ることができる環境
	実践結果	・園内、園外共に子どもが遊びや経験を選び取れる様々な物的環境をスタッフ全員で考え構成した。年度当初は玩具の数を制限することもあったが、年度途中からは玩具を出せるだけ出し、子どもが自由にやりたいことを選び取れる環境を維持することにつながっている。
	次年度方向性	子どもが必要な経験を自ら選び取れる環境設定を継続していく。
2	計画・ねらい	日課活動の実践
	実践結果	・さくらさくらんぼリズム体操、雑巾がけ、座禅、生き物の世話、9時散歩出発、裸足保育、畑仕事などの日課に積極的に参加をした。バス送迎で帰る時間が早い子どもたちは、別室でさくらさくらんぼリズム体操や雑巾がけ等を実施した。
	次年度方向性	筆禍活動の実践を継続していく。
3	計画・ねらい	食材や食の循環教育
	実践結果	・野菜の水やり、収穫、調理につむぎの子どもたちも参加した。日常的に行うことで、大人の言葉がけがなくても子どもが自ら野菜の皮むきや畑仕事に参加する姿が増えている。
	次年度方向性	食材や食の循環を知る活動を継続していく。

〈6〉インクルーシブ保育の実践

1	計画・ねらい	ゼロから環境と関係を作る
	実践結果	・インクルーシブ保育について、生活環境、生活方法、行事などについて、園のスタッフと計画を立てるところから始めるよう努めた。行事や環境の内容を精査していく中で、スタッフ間での意見が食い違いもあったが、子どもを主として考え、お互い尊重しながら混ざり合う環境や関係を構築するよう努めた。
	次年度方向性	子どもや大人が変わることで、まず当施設が目指すインクルーシブ保育について全スタッフと目指すべき姿の確認を行う。
2	計画・ねらい	多様性の受容
	実践結果	・園とつむぎの子ども、保護者、スタッフがお互いの存在を受け入れ認め合い、尊敬し合える保育と支援の実践に努めた。障害の有無・程度、保護者の特性等を配慮しながらも、分けたり守りすぎたりしない支援の実践に取り組んでいる。
	次年度方向性	多様性を受容できる環境と関係性を構築していく。
3	計画・ねらい	一人ひとりの成長に合わせた支援
	実践結果	・園児、つむぎの子ども一人ひとりに目を向け、専門性をもってチームで最善の利益を追求した支援をするよう努めた。子どもの特性や特徴、性格をスタッフ間で共有し、どのような保育・支援が適切なのかを皆で考え共通認識を持って実践するよう努めている。
	次年度方向性	引き続き一人ひとりの成長に合わせた支援を行っていく。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

児童発達支援　利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	334人	369人	338人	377人	349人	382人	434人	405人	414人	392人	443人	400人	4637人
登録児数	25人	34人	36人	43人	45人	50人	52人	57人	59人	62人	62人	62人	590人

保育所等訪問支援　実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	0人	0人	0人	0人	0人	1人	1人	2人	2人	4人	4人	1人	15人

相談支援事業　実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規	6人	3人	4人	2人	3人	4人	3人	5人	2人	2人	1人	1人	36人
継続	14人	17人	26人	23人	14人	24人	14人	21人	17人	21人	26人	20人	223人

〈2〉開所時間

８時３０分～１７時３０分

〈3〉スタッフ構成　（３月１日時点）

施設長1名
児童発達支援管理責任者1名
相談支援専門員1名
保育士5名
機能訓練担当１名（心理士1名）
児童指導員6名
看護師1名
調理師1名

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
施設内会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・園内研修 ・子どもの共有

給食運営会議	月1回	食育計画策定/食育活動実施内容/喫食状況確認/検食簿指摘事項改善/配膳方法など
事故防止委員会	月1回	自園及び系列園で起きた事故のｹｰｽｽﾀﾃﾞｨと改善策策定/全園事故防止委員会での内容共有/当月のヒヤリハット・インシデント分析
支援計画策定会議	随時	支援計画更新のため、モニタリング実施後に策定会議を行う
幼児会議	隔週	・園の保育者と共に子どもの姿と支援方法を共有
乳児会議	隔週	・園の保育者と共に子どもの姿と支援方法を共有
ケース会議	随時	・園の保育者と共に子どもの姿を振り返り、共有する。その中で、子どもへの支援について検討をする。

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
児発管会議	年2回	児発管
併設園会議	年2回	施設長
食育会議	年4回 （5.8.11.2月）	施設長 調理スタッフ
保健会議	年4回 （5.8.11.2月）	施設長 看護師
子育ての質を上げる会議	月1回	スタッフ

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導
安全対策係	事業所内、または周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策 計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起
防火管理者	防災計画の立案、月2回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、近隣施設との連携の推進

食品衛生管理係	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食品サンプルの管理
畑係	畑やプランターの整備、計画的な活動の立案
生き物係	山羊、鶏などの飼育管理、動物や植物に触れる機会の検討立案
行事係	園との合同の行事の役割分担、計画の立案と実行

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	保育園と一緒に企画、運営を行う。保護者と協働的に準備・進 行を行う。地域の方々が多く来ていただけるような企画を行う。
運動会係	会を通して子どもの日々の成長を通して見てもらい、保護者も一緒に参加できる運動会を開催する。
生活発表会係	日々の成長を保護者に伝える場として設定し、開催する。

4. 支援・処遇

〈1〉保護者面談 および発達相談・児童の保護者への支援および意見要望への対応

マンスリー	・まずは新しい環境やスタッフ、一日の生活の流れに慣れ、安心して通うことができるように努めた。 ・個々の発達特性や性格などを把握し、一人ひとりに合った支援を行った。子どもの共有や支援方法の検討では、専門士や様々な経験を持つスタッフが活発に意見を出し合えるように配慮した。 ・園児との触れ合う機会や環境を設定し、子どもたちが主体的に関われるよう、保育園と合同の遊びやつむぎが主となって遊びを展開する活動も行った。 ・一人ひとりの人権、生活、主張や要求を守ることで情緒の安定を図り、安定した生活を送れるように支援を行った。 ・日課については、子どもの発達状況を鑑みながら少しずつ取り組むことで、現在は子どもが主体的に日課に取り組む姿が増えている。 ・見たい、触りたい、やりたい、行きたいなどの意思や要求を表出し、主体的に行動する姿が増えるよう支援した。物や場所をあまり制限しないことで、子どもが自分のやりたいこと、やりたい場所を選択するようになっている。 ・園児や異年齢児と関わる中で、一緒に遊ぶ楽しさやコミュニケーションの楽しさを感じ、自ら表現する姿が増えるよう支援した。 ・園との合同行事や体験活動に主体的に参加できるよう環境を整え支援した。

ビジターグループ	・安心して通えるよう、子どもに合わせた環境設定や関係性の構築に努めた。 ・個々の発達特性や性格を把握し、一人ひとりを理解しながら小集団での活動を楽しめるよう活動を計画し実行した。 ・子どもが主体的に活動を選択して参加できるよう、園庭遊び、戸外遊び、感触遊び、感覚遊び、イメージ遊びなどを行った。つむぎに来ることが楽しみという言葉を多くいただいている。 ・戸外活動の際は、交通ルールの意識や歩き方を身に付けることができるよう支援を行った。
遊びの会	・親子で安心して楽しく通える環境設定や、スタッフとの関係性の構築に努めた。 ・戸外活動、生き物との触れ合い、畑仕事、触れ合い遊びなど様々な活動を通して、他児や保護者以外の大人と関わる機会を増やした。 ・子育てについての悩みなどを聞き、助言をした。また、保護者同士が交流や情報交換をする時間も設け、スタッフも会話に入った。 ・就園、就学や地域の社会資源について情報を提供した。
個別支援	・個別支援計画に基づき、個々の発達に合わせた支援や機能訓練を行っている。 ・フィードバックの際には、子どもの成長を保護者と一緒に感じられるように話をし、保護者の悩みや相談なども聞き、保護者支援も行った。
家族支援加算	今年度算定無し。
保護者面談 発達相談	・4月～3月まで　合計16回実施
関係機関との連携	4～3月まで　合計３名　が参加済み　　（3月１日時点） ・園訪問を行い、園と子どもの情報共有や支援方法についての助言を行った。

〈2〉計画した年間行事の振返り

別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	大人と一緒に食を楽しむ
	実践結果	・楽しい雰囲気で安心して食べられるよう、子どもの特性や状況に合わせて、提供方法や食べる環境の設定を行った。大人も一緒に食事に入り、会話ややり取りを楽しめるよう努めた。
	次年度方向性	食を楽しめる環境を設定していく。

2	計画・ねらい	児に合わせた食事の提供
	実践結果	子どもたちの摂食状況を把握しながら、食べることが訓練、苦痛にならならないように、支援を展開した。食形態については、保護者や栄養士と情報共有や相談をしながら、形態を変えていった。
	次年度方向性	引き続き児に合わせた食事の提供を行っていく。
3	計画・ねらい	収穫したものを調理
	実践結果	収穫した野菜を包丁で切る、塩もみする、カレーを作るという取り組みを行った。
	次年度方向性	収穫したものの調理は継続していく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
児童健康診断	6月25日／11月26日に実施
歯科検診	６月６日に東大和どろんこ保育園にて実施
保健だより	毎月25日におたより配布
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した児童への保健指導、又は、取組等 ※全て東大和どろんこ保育園と合同で実施。	①6月6日に自園にて内科検診指導を実施 ②6月25日に自園にて歯科指導を実施 ③7月4日に自園にて熱中症指導を実施 ④8月21日に自園にて爪指導を実施 ⑤9月30日に自園にて目の指導を実施 ⑥10月30日及び11月12日に自園にて手洗い指導を実施 ⑦12月19日に自園にてうんち指導を実施 ⑧12月21日に自園にて体幹運動指導を保護者希望者に実施 ⑨1月22日に自園にて性教育を実施 ⑩1月27日に自園にて冬の風邪について学ぶを実施
流行した感染症	①7月に手足口病、園児20名・スタッフ1名蔓延するも7月22日に終息 ②10月に手足口病、園児9名蔓延するも10月末に終息
発作・痙攣等の対応	計1名に対し、計1回ダイアップ使用

エピペン使用できるスタッフの状況	・2024年3月22日に自園にてエピペン研修をスタッフ15名、 ・本日時点で、在籍スタッフ17名のうち、14名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	AED 設置なし
その他保健に関する取組	感染症が流行した際は、換気、消毒(アルコールや次亜塩素酸ナトリウムなど、病気によって使い分ける)を徹底して行った。また、子どもの手洗いもスタッフが付き添って丁寧に行った。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回/15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（法定1回/3年）	業者による対象物の法定点検 2023年実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施
健康管理	身長体重測定	毎月1回/20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回/6月25日、11月26日 歯科健診 各年1回/6月6日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回/4･10月の園会議時 ⇒4月19日、10月11日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回/施設内会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日~9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	子どもが主体的に経験を選択できる環境
	実践結果	・生き物と触れ合う場所、身体を動かす場所、静かに遊びこむ場所、それらに必要な道具や玩具を常設し、いつでも子どもが主体的に経験を選択できるよう環境を構成した。 ・焚火等の危険が予測される活動において、子どもが危険なものとの距離の取り方、使い方を考え、学び、身に付けられるよう支援を行った。
	次年度方向性	子どもが自ら遊びや経験を選択できる環境設定を継続していく。
2	計画・ねらい	５S(整理、整頓、清掃、清潔、躾)に取り組む
	実践結果	・環境整備係を設定し、毎月皆で掃除をする時間を設けた。 ・整理(必要なものだけを用意し、不要なものは処分)、整頓(決められた場所で保管、原状復帰)、清掃(マニュアルに則って正しい掃除をする)、清潔(汚れがない状態を維持する)、躾(習慣やルールを作る)を徹底し、来所される方が気持ちよく過ごせる環境を維持に努めている。
	次年度方向性	５Ｓを継続していく。
3	計画・ねらい	地域との繋がり、社会資源の把握
	実践結果	・地域の社会資源、公共施設、関係機関、学校情報など様々な情報を収集するとともに、学校見学や東大和市の就学判定員会への参加も行った。得た情報を、保護者会や個別の面談の際に保護者に伝えた。
	次年度方向性	地域とのつながりをより強固にしていく。

〈7〉手作り遊具安全点検結果

該当なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	防災	消防計画に基づき、避難訓練を月１回行った。安全計画、業務継続計画を全スタッフへ周知した。
2	怪我防止	事故防止チェックリスト、設備点検チェックを年４回行った。怪我や事故が発生した際は、フローチャートに則って対応した。 事故や怪我を未然に防ぐために、ヒヤリハット報告書、インシデント報告書、自園・他園の事故記録簿を全スタッフが把握し、検証の機会も設けた。

3	不審者対策	不審者訓練を行う年２回行った。避難訓練に併せ、不審者確保・撃退、通報の訓練を全スタッフで実施した。
4	光化学スモッグ	東大和市からの注意情報を把握した。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

今年度は実習生の受け入れはなし。

小学生・高校生のボランティアの受け入れはあったが、僅かな数となっている。次年度は、地域に情報を発信していくことで、行事や夏休み期間のボランティアの数を増やしていく。

〈2〉実習生の受入

受け入れなし

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
7月23～8月22日	東大和市立東大和第六小学校	8人
7月24日～7月26日	東京都立多摩科学技術高等学校	2人
8月2日	小平市立小平第六小学校	1人
8月6日～8月22日	府中市立府中第三小学校	2人
8月8日～8月9日	東大和市立東大和第五小学校	2人
8月14日～8月27日	東大和市立東大和第三小学校	3人
8月14日～8月15日	東大和市立東大和第三中学校	2人
8月20日～8月22日	東大和市立東大和第二小学校	2人
8月22日～1月7日	東大和市立東大和第八小学校	3人
8月23日	小平市立小平第一小学校	1人

7. スタッフ研修

〈1〉施設内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	30日 24名	31日 23名	28日 25名	31日 26名	30日 26名	30日 27名	31日 28名	29日 28名	27日 28名	31日 27名	28日 27名	31日 27名

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
11月26日～27日	公益財団法人 総合健康推進財団 関東支部 東京都サービス管理責任者等研修事務局	児童発達支援管理者 基礎研修	1名	有
12月5日～6日	公益財団法人 総合健康推進財団 関東支部 東京都サービス管理責任者等研修事務局	児童発達支援管理者 基礎研修	1名	有
12月10日～11日	公益財団法人 総合健康推進財団 関東支部 東京都サービス管理責任者等研修事務局	児童発達支援管理者 基礎研修	1名	有
12月12日～13日	公益財団法人 総合健康推進財団 関東支部 東京都サービス管理責任者等研修事務局	児童発達支援管理者 基礎研修	1名	有
1月21日～22日	公益財団法人 総合健康推進財団 関東支部 東京都サービス管理責任者等研修事務局	児童発達支援管理者 実践研修	1名	有

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	21日 1名

施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	11月に動画視聴にて実施（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	該当なし											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	該当なし											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

併設園である東大和どろんこ保育園と共に、地域との関係を深め、地域に開かれた子ども発達支援センターとして、近隣住民や近隣の園、近隣施設との交流の機会を設けるよう努めた。子育て支援事業ちきんえっぐで来園された方との交流を積極的に行い、必要であれば児童発達支援の情報等も地域の方に伝えた。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育	月1回　　公園名：東大和南公園にて　　参加延べ人数：48名
商店街ツアー	週1回　主な行き先：りんりんベーカリー、橋本農園、指田青果店、肉の越木屋、南街交番、中央図書館、ヘアサロン ミント、北多摩西部消防署、八幡神社、駄菓子屋ランド 華屋、セブンイレブン東大和立野4丁目店等
世代間交流	アビリティーズ・気まま館 東大和→感染症流行のため未実施
異年齢交流	9.小学校との子ども間交流・職員間交流参照

9. 医療機関・幼稚園・保育園・小学校との連携の計画

〈1〉今年度の振り返り

地域の小学校や特別支援学級、特別支援学校について情報を集め、公開授業にも積極的に参加した。知り得た情報を、保護者や保育園スタッフへの発信も行った。就学について不安を抱く保護者もいたため、特別支援学校のコーディネーターと情報を共有し、保護者の気持ちに寄り添いながら特別支援学校の現状や、放課後等デイサービスの情報の提供も行った。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
12月10日	東大和市立第八小学校 5年2組	32名	モルックで遊ぼう（当園園庭）	子ども間交流
12月18日	東大和市立第八小学校 5年1組	33名	モルックで遊ぼう（当園園庭）	子ども間交流
1月29日	東大和市立第八小学校 5年1組	36名	バガスを土に還そう（当園園庭）	子ども間交流

10. 個別支援計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

概ね6カ月に1回モニタリングを実施し、支援計画の更新を行っている。モニタリングには児童発達支援管理責任者だけでなく、現場で担当をしているスタッフも同席し、多角的な視点で子どもの振り返りや支援目標の設定を行った。

また、児童発達支援管理責任者基礎研修を受講したスタッフが4名おり、ＯＪＴとしてモニタリングや下書きの作成にも着手している。最終的には、策定会議を行い、児童発達支援管理責任者が作成したものを保護者に提示している。

〈2〉進級引継、および小学校への引継状況

小学校への引継ぎに関しては、就学支援シートを作成し、保護者と内容を確認の後、小学校に提出する。就学の流れや必要な書類など、まずはつむぎスタッフがしっかり把握をし、就学の流れを保護者に説明できるように学んでおく。また、就学についての不安や心配な気持ちを受け止め、要望があれば事業所内相談支援などの形で保護者と一緒に就学について考えていくように努める。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
95名	69名	245名	576名	227名	516名	578名	600名	473名	539名	380名	500名	4798名

実施項目	詳細												
施設開放	（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　来園延べ人数：3870名												
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　⇒計88件相談実施済み												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週（水）10:00～12:00　⇒計24回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	6名	0名	0名	3名	30名	15名	36名	15名	23名	18名	14名	15名	175名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週（水）10:00～12:00　⇒計24回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	10名	0名	2名	4名	28名	4名	2名	13名	6名	9名	5名	5名	88名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00　にて実施												
ちきんえっぐだより	毎月1日発行												
青空保育 （支援センター主催）	月1回　公園名：東大和南公園にて　以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	6名	0名	2名	0名	2名	0名	10名	2名	6名	4名	16名	5名	51名

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉施設による自己評価の実施

２０２４年１１月３０日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：９時００分
自己評価終了時刻：１２時００分
自己評価実施者：施設長、当日出勤のスタッフ

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月15日
アンケート回収率：４８％

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

該当なし

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

該当なし

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年3月１５日　　作成者：子ども発達支援センターつむぎ 東大和
施設長　中村大輔

２０２４年度　発達支援つむぎ 見附ルーム
事業報告書
（発達支援つむぎにおける自己評価）

１．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

併設園の子どもたちと共に一緒に生活し、生きる力を育む日課に取り組んだ。リズム遊び、雑巾がけ、畑仕事、生き物の世話を通し、友だちとの言葉でやりとりする楽しさや協働し何かをやり遂げる喜び、日課を通して丈夫な体作りと生活力の体得へとつながった。

相談支援事業所とも繋がり、少しずつ併設園以外の園へも支援の幅が広がってきている。今後は更に近隣の施設との連携を深め、保護者だけでなく、近隣園の保育者が気軽に子どもの相談ができる、遊びに来られる施設を目指していく。

〈１〉支援内容の充実・質の向上

１	計画・ねらい	・保育所保育指針・児童発達支援ガイドラインの理解（どろんこ会が目指すもの）を深める園内研修。 ・どろんこ会が目指す保育の根拠となる保育所保育指針・児童発達支援ガイドラインの理解を深める。
	実践結果	園会議を利用し、学びの場を作った。 事例を上げるなどし、スタッフ同士でのディスカッションの場を設けることで理解を深めることができた。
	次年度方向性	ガイドラインの理解から、発達支援事業所としての役割理解へと発展させる。スタッフ一人ひとりが役割を担っていく。
２	計画・ねらい	・日課活動の充実と子どものスムーズな動線づくり。 ・日課活動の意味を捉え、日課活動の定着が保育の充実に繋がる事をスタッフが理解するとともに、実践していく。 ・子どもの動線への配慮の重要性について理解し、スムーズな保育の流れに導く環境を整える。
	実践結果	１年を通して、日課を積極的に行うことができた。雑巾がけ、リズム体操は子どもたちから取り組む姿が見られた。
	次年度方向性	後半、動物の世話へも積極的に取り組む姿が見えた。次年度は年間通して子どもたちが実践できる工夫や環境を作っていく。
３	計画・ねらい	・主体性を育む保育・支援とは何かを、理解する研修と実践。 ・子どもの主体性を育む保育・支援への理解を深め、保育の質の向上を図る。
	実践結果	園会議の議題に上げ、実際の場面を上げてディスカッションを行った。また、子どもの変化の事例を上げることで、イメージを共有することができた。

	次年度方向性	主体性を育む保育、支援をより深めるために人的、物的の環境つくり。大人の主体性を学んでいく。
4	計画・ねらい	・保育の安全管理体制づくり。 ・保育の安全管理への意識を高め、安全管理体制を作り、安全な保育環境を整備する。
	実践結果	都度、マニュアルの意義に立ち戻り確認を行った。 ヒヤリハットの収集と共に振り返りを行い、重大事故の防止に努めた。
	次年度方向性	引き続き、マニュアルの意義を確認し、マニュアルを遵守していく。 ヒヤリハットの収集、検討を行っていく。
5	計画・ねらい	・インクルーシブ保育の理解を深める研修の実施。 ・インクルーシブ保育は全ての子どもたちに必要な保育であることを深く理解し、実践に繋げる。
	実践結果	園会議を利用し、発達支援事業所について今までの事例等をもとに研修を行った。また、スタッフの専門性についてアウトプットする機会を作り、学びを深めた。
	次年度方向性	次年度は園内だけでなく、地域に向けてもインクルーシブ保育の実践内容や専門士の役割などをつむぎカフェを通して広げていく。
6	計画・ねらい	・内部監査を活用した保育の質を担保し、指摘数ゼロを目指す。
	実践結果	内部監査項目をスタッフ一人ひとりが担当し責任を持って他スタッフに指導したことで保育の標準化を図ることができた。
	次年度方向性	引き続き、内部監査項目の意味、意図を深め保育の質を担保していく。

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	・子どもの成長や子育ての感動を保護者に伝える「お迎え3分対応」の充実。 ・保護者の立場に立ち、支援者としての役割を認識し、さらに子どもの育ちを共有することで、保育の質の向上につなげる。 ・保護者へのフィードバック内容・質の向上。
	実践結果	園での様子を写真や動画を使いお伝えした。また、子ども同士のやり取りや言葉かけでの変化なども伝え、園だけでなく家庭でも活かせる関わり方をフィードバックの中に盛り込み家族支援に努めた。
	次年度方向性	写真や動画は継続して利用しながら、前後の背景やどのような育ちに繋がるのか、繋がったのかを伝えていく。また保護者の方の話を傾聴し、より家庭と連携して支援を行えるようなフィードバックを展開していく。
2	計画・ねらい	・「うちのこアプリ」のタイムライン、連絡帳の充実。 ・「うちのこアプリ」は、保育者と保護者がつながるツールであるため、伝える技術を磨く。
	実践結果	・保育園のタイムラインは毎日上げることができた。「うちのこアプリ」を利用できない利用者の方にもブログを通して日常の活動を知っていただけるような工夫をした。

		・毎日、連絡帳を書き文章で様子を伝える書き方を学び、ブログを使っての発信へと繋げた。
	次年度方向性	「うちのこアプリβ」を活用し、より保護者の方に活動内容を広めると共につながりを持てるようなツールを増やしていく。
3	計画・ねらい	・子どもの成長の姿を伝える、感動あふれる行事の開催。（運動会、どろんこ祭り、生活発表会） ・子どもの成長は保護者にとって何よりの励みであることから、子どもの成長を伝える行事は、感動あふれる内容になるようにする。
	実践結果	子どもたち一人ひとりの発達や保護者の方の意向に合わせた形の参加ができた。
	次年度方向性	今年度の参加の仕方を受けて、どのような形で参加するのか、子どもたち主体的に参加できるよう、保育園のスタッフとより密な情報共有、連携を行っていく。
4	計画・ねらい	・インクルーシブ保育の保護者理解と周知への取り組み。 ・インクルーシブ保育の本質について、全ての子どもに、必要な保育であることを発信し広めていく。
	実践結果	インクルーシブ保育の中でどのような経験をし、どのような力を育んでいくのかを利用希望の保護者の方や見学者の方に、事例を交えて伝えることができた。
	次年度方向性	利用者や利用希望者だけでなく、つむぎカフェを通して市内や近隣の市の施設や保護者の方にもインクルーシブ保育について発信していく。
5	計画・ねらい	・どろんこサポーターズ募集と「どろんこ祭り」共催。 ・どろんこサポーター活動の活性化と活動の基盤づくり。
	実践結果	・どろんこサポーター主催で「どろんこ祭り」の開催ができた。 ・保護者の方同士のつながりにもつなげることができた。
	次年度方向性	引き続き、どろんこサポーターズと協力しながらサポーター活動の活性化へとつなげていく。
6	計画・ねらい	・関係機関との連携を密にしていき、地域資源を活用しながら、地域全体で支援を考えていく。
	実践結果	市内の相談支援事業所や障害福祉課と密に連携を取ることで、利用児、保護者に支援を提供することができた。
	次年度方向性	次年度は利用児の保育園、幼稚園や小学校、放課後等デイサービスとの連携に力を入れ地域に根差した施設を目指す。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	・子育て支援センター「ちきんえっぐ」を地域に広め、気軽な利用を図るための広報活動。 ・開園初年度は見附どろんこ保育園の子育て支援センター「ちきんえっぐ」という名前を広め、利用促進を図る。
	実践結果	近隣の方々が気軽に立ち寄れる場を提供することができた。

2	計画・ねらい	・出前保育における勝手籠（子ども服フリーマーケット）の有効活用。 ・勝手籠は子育て親子が繋がり交流するきっかけとなるため、出前保育に勝手籠を持参し広める。
	実践結果	出前保育で勝手籠を知った方や園の前を通りがかった方などから広がり、活用する方が増えた。
3	計画・ねらい	・広い園庭環境を活かした親子交流、地域交流の促進。 ・広い園庭環境で様々な人が交流できる機会を持ち、地域に開かれた園となる。
	実践結果	今年度園庭開放はできなかったが、近隣の方がヤギに餌を持ってきたり、近くの事業所の方がヤギに会いに来たりと交流が生まれた。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	・組織づくりに取り組む。 ・開園初年度に重要なのは組織づくりであることを理解し、自身が目指したいものを実現していくという見通しを持つ。
	実践結果	・スタッフ一人ひとりの役割を明確にし、タスクの可視化をおこなった。 ・毎月の園会議でコンピテンシーを活用し、自分の強みや課題に向き合う機会を設けた。
	次年度方向性	支援方針、目標をもとに子ども理解に努め、責任を持って業務に携われるよう引き続き、組織作りに力を入れる。
2	計画・ねらい	・保育所保育指針が目指す日本の教育の方向を理解する。 ・保育所保育指針への理解を深め、目指すべき日本の教育について考え、保育の見通しを持つ。
	実践結果	毎月の園会議の中で、学ぶ場を作った。 日常の保育が保育所保育指針や法人の理念の何につながっているのかを研修やディスカッションをもとに行った。
	次年度方向性	引き続き、園会議を利用して、法人の理念、保育所保育指針、児童発達支援ガイドラインの理解を深める。どのような力を育むのか、そのためにどのような環境が必要なのかの研修を行っていく。
3	計画・ねらい	・どろんこ会が目指す「いきる力」のキーワードの理解 ・非認知能力・主体性・インクルーシブ保育など、どろんこ会が目指す保育のキーワードを理解する。
	実践結果	毎日15分、保育園スタッフとつむぎスタッフの共有、連携会議を開催した。その日の振り返りや明日の保育計画、子どもの様子の共有をすることで園、つむぎ一緒に保育、支援にあたることができた。
	次年度方向性	次年度は更に、保育の月案、週案、つむぎのモニタリング、策定会議も連携して行い子どもも大人もインクルーシブな施設を目指す。
4	計画・ねらい	・業務過多と言われる保育業界は自分たちで変える。 ・子どもたちに真に必要な業務を精査し、無駄な業務を洗い出し、業務改善に努める。
	実践結果	業務の洗い出しを行い、役割分担を行った。仕事の可視化を行い時間の使い方を見直した。

	次年度方向性	引き続き、スタッフ一人ひとりの業務を洗い出し、可視化してタスク管理を行っていく。自身で気付きスタッフ皆で連携しながら時間の使い方を見直していく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	・給食残渣の有効活用と堆肥づくり。 ・適切な給食食材量の把握で残渣を減らし、残渣は有効に活用する。
	実践結果	・今年度はたい肥作りはできなかった。 ・日々の子どもたちの喫食状況を把握し残渣状況を確認し残渣を減らす取り組みをした。
	次年度方向性	・今年度は残渣でたい肥作りなどに活用する。 ・引き続き、給食の喫食状況、残渣を把握していく。
2	計画・ねらい	・本物の食の循環を知る活動。 ・畑づくり、稲づくりは土壌づくりから苗の栽培、収穫まで本物の食の循環を通して、協同性、社会性、規範意識の芽生えへと導く。
	実践結果	・年長児を主体に田おこし、田植え、収穫を行うことができた。子ども同士で相談し収穫後の藁の使い方などを決め、活動に活かすことができた。
	次年度方向性	年間農業計画に基づき大人と子ども一緒に畑仕事、稲づくりを行っていく。
3	計画・ねらい	・様々な食品の加工体験。 ・食品を加工する意義を知り、食品加工技術を体験する。
	実践結果	梅干し、切り干し大根、味噌と食品加工の体験をすることができた。
	次年度方向性	・今年度の体験を活かし、子どもたちが主体的に取り組める環境を作っていく。 ・食品加工の意義を理解し深めていく。
3	計画・ねらい	・樹木を保育環境に取り入れる。 ・様々な木に関心を持ち、木に触れる遊び環境を作る。
	実践結果	散歩を通して、季節ごとの木々の変化を楽しむことができた。子どもたちから散歩先へのリクエストも出てくるなど興味を持って触れることもあった。
	次年度方向性	薪づくり体験など遊びだけでなく、生活に繋がる活動を取り入れていきたい。

〈6〉地域とのネットワークの構築

1	計画・ねらい	・近隣の方々との交流の機会を持つ。 ・地域の社会資源としての役割を担うため、初年度は地域に受け入れて頂けるような関係づくりに取り組む。

	実践結果	・毎週商店街ツアーに出かけ、地域の方との交流を持つことができた。 ・散歩の際も近隣の方と挨拶や言葉を交わすなどの交流をもつことができた。 ・「塞の神」を地域の方と一緒に開催し、近隣の方を招待した。
	次年度方向性	・引き続き、商店街ツアーや散歩などを通して地域の方と交流する機会を作る。 ・「塞の神」をはじめ様々な行事を地域の方と一緒に行っていく。
2	計画・ねらい	・教育、福祉関係機関とのネットワークの構築。 ・保育に関わる関係機関とのつながりを明確にしながら、基盤づくりに取り組む。
	実践結果	・相談支援事業所と連携を密に取ることができた。 ・市の障害福祉課とも繋がり、事業所の基盤つくりに努めた。
	次年度方向性	・さらに近隣の市とも連携を取りながら、支援を広げていく。 ・利用児の保育園、幼稚園とも繋がり包括的な支援を行う。
3	計画・ねらい	・ご近所付き合いの輪を作る。 ・近隣住民の方々との良好な関係づくり。
	実践結果	散歩で、園外に出たときに近隣の方たちに挨拶をしたり、会話を交わしたりすることで、自然と交流が生まれるようになった。
	次年度方向性	良好な関係を保ちながら、地域の方との交流を深めることに努める。

〈7〉保育の質を担保するスタッフの働き方改革

I	計画・ねらい	・保育業界の当たり前を見直す。 ・保育業務の在り方について再考し、業務のスリム化と保育の質を担保するための業務改革に取り組む。
	実践結果	業務の洗い出し、可視化をしたことでタスク管理をすることができた。
	次年度方向性	・業務を見直したことでできた時間を研修や他事業所の見学などを行い、支援内容の向上に充てる。
2	計画・ねらい	・適正なスタッフ配置とタスク管理。 ・シフトの適正管理とスタッフの業務を管理し、無駄な超過勤務の無い風土づくり。
	実践結果	時間内に業務を終えることが定着した。
	次年度方向性	引き続き、業務時間内に仕事を終えることを基本に業務内容の充実を図る。
3	計画・ねらい	・働きやすい職場環境は自分たちで作る。 ・保育の質を担保する、業務のスリム化でワークライフバランスを実現する。
	実践結果	業務を洗い出し、一人ひとりタスク管理を行ったことで、しっかりと休憩時間を取り、子どもたちに向き合うことができた。

	次年度方向性	引き続き、一人ひとりがタスク管理を行い、休む時間、子どもたちと向き合う時間とメリハリをつけ保育、真の質を高めていく。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

児童発達支援　利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	0人	44人	71人	93人	101人	12人	153人	154人	174人	159人	201人	220人	1492人
登録児数	0人	6人	8人	10人	13人	15人	15人	16人	16人	17人	17人	17人	17人

（解説）マンスリー・個別支援

〈2〉開所時間

８時３０分～１７時３０分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

施設長・児童発達支援管理責任者１名
保育士２名
機能訓練担当３名（言語聴覚士１名、作業療法士２名）

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
施設内会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・専門士による勉強会
給食運営会議	月1回	喫食状況、嗜好、アレルギー児等に係ることの共有、検討。

事故防止委員会	月ｌ回	・法人から発信された事故の情報や自園のヒヤリハット・インシデント・事故分析の結果から改善の検討。 ・発生した自園の事故は都度実施。
支援計画策定会議	適宜	・支援計画作成に伴い、開催時期を調整する。 ・個別支援・グループ支援それぞれの担当者と児童発達支援管理者が必ず参加する。
ケース会議	月ｌ回	支援児に対しての現状や情報の共有。

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月ｌ回	施設長
施設長勉強会	月ｌ回	施設長
児発管会議	月ｌ回	児発管
併設園会議	年2回	施設長
食育会議	年4回 （5.8.ll.2月）	施設長 調理スタッフ
保健会議	年4回 （5.8.ll.2月）	施設長
子育ての質を上げる会議	月ｌ回	スタッフ

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	看護師を中心として子どもの健康管理・衛生管理に関わる事項全般を行った。
安全対策係	・事故防止に関する事項　ヒヤリハット集計・分析　改善策の検討と周知を行った。 ・施設設備点検及び管理行った。
防火管理者	園長：若杉絵里子　　防火設備点検管理　消防計画作成を行った。
食品衛生管理係	調理師：関口理絵　　食品衛生管理が行った。
畑係	畑・田んぼ・ビオトープに関わる管理運営を行った。
生き物係	山羊・鶏・飼育コーナー小動物に関わる管理運営行った。

ハザードマップ係	散歩コース・園内外のハザードマップ作成（4・7・10・1月改定）を行った。
環境整備係	園舎内外の清掃、整理整頓に関わる事項の運営を行った。
保育環境係	ゾーン保育のための室内・園庭の環境を構成するを行った。
仕組み化委員	保育業務全般に渡り、リーダー的な視点で園全体の運営に関わる委員 保育の質の向上・研修・内部監査項目理解・内部監査項目理解などを主に担当し全スタッフに周知した。

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	どろんこサポーターズを中心として、7月に開催した。
運動会係	運動会開催に関わる計画運営を行った。
生活発表会係	生活発表会に関わる計画運営を行った。

4. 支援・処遇

〈1〉保護者面談 および発達相談・児童の保護者への支援および意見要望への対応

マンスリー	・併設の見附どろんこ保育園と共に生活し、子ども同士の関わりや学びが広がる環境作りに努めた。 ・保育園と連携し、情報の交換を密に行うことができ支援へと繋げることができた。本人支援だけでなく、家族支援を行うことにも尽力した。
個別支援	・日常の生活と繋げ遊びを通して、体の使い方や思考力、判断力を育むことができる活動を提供した。「できた」という気持ちから成功体験を積み、集団生活の中でも活かせる力を育んだ。
家族支援	4～3月まで　合計８名　が参加済み　　（3月15日時点） ご希望に沿い随時実施
保護者面談 発達相談	随時実施 ちきんえっぐ利用の保護者の方の希望で、2件ほど発達相談を行う。
関係機関との連携	4～3月まで　合計10名　が参加済み　　（3月15日時点） ・相談支援事業所、他事業所の他に名木野保育園、スマイル保育園とも連携会

	議を行う。

〈2〉計画した年間行事の振返り

別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	・子どもたちと全スタッフが共に味わう縁側給食の実施。 ・園庭や景色を眺めながら、共に味わう縁側給食を日常の食事風景とする。
	実践結果	・園スタッフ、つむぎスタッフ、給食室、事務、全スタッフで子どもたちと縁側からの景色を眺め給食を味わうことができた。
	次年度方向性	・日常生活の景色として引き続き、縁側給食実施。 ・縁側に限らず、季節を感じながらの給食体験を行う。
2	計画・ねらい	・素材の味を噛みしめて味わい、噛む力を育てる給食提供。 ・発達に配慮しながら、給食の素材の旨味を味わうことができる調理に配慮し、噛む力を育てることに配慮する。
	実践結果	毎月の給食会議で、食材の大きさや方さの検討を行った。
	次年度方向性	引き続き、子どもたちの発達状況、喫食状況をもとに検討しながら噛みしめて味わい、噛む力を育てる給食を提供していく。
3	計画・ねらい	・バイキング給食の実施で、食べることが好きになる。 ・自分で盛付・配膳をスムーズに行える食事環境を作り、好きな人と食べる給食で食への意欲を育てる。
	実践結果	自分で盛り付けをすることにより、食への興味が広がった。食事の時間が楽しい時間へとかわった。
	次年度方向性	子どもたちが自分で盛り付けることで、自分がおいしく食べられる量を知ることに繋げていく。
4	計画・ねらい	・計画的に食育を推進し、豊かな食の経験を大切にする。 ・生きるために必要な食についての関心を高め、食べる意欲を育てるために必要な経験を盛り込んだ計画的な食育の実施。
	実践結果	年間食育計画に即して食育体験を行うことができた。
	次年度方向性	ねらいを持って計画的に食育に関する体験活動を実施する。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月22日に見附どろんこ保育園にてエピペン研修を計4名が受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ6名のうち、4名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	・５月19日に見附市消防本部にて普通救命講習を3名、10月5日に見附どろんこ保育園にて普通救命講習を1名、10月13日に見附市消防本部にて2名、計6名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ6名のうち、6名が使用可能
その他保健に関する取組	・感染防止のため、手洗い・うがいの指導を行う。感染状況をみながら消毒・換気方法を変えるなど臨機応変に対応した。 ・5歳児を対象に命の教育を行った。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（法定1回/3年）	業者による対象物の法定点検 2024年実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日

運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の施設内会議時 ⇒4月16日、10月15日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間　実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	・自分でやりたい遊びを選べる室内コーナー保育環境。 ・自分でやりたいコーナー遊びの玩具が十分に整えられ、子どもたちが毎日、意欲を持って遊べる環境設定。
	実践結果	・コーナー毎に遊びが充実していた。 ・子ども自身で遊びの選び取りをすることができた。
	次年度方向性	子どもたちの発信からコーナー遊びの環境設定を行っていく。
2	計画・ねらい	・探索行動が十分に行え、子どもの興味を引き出す園庭。 ・子どもたちの探索意欲を高めるために保育者が意図とねらいを持って、園庭の環境を整備する。
	実践結果	泥遊びゾーン、虫取りゾーンなど子どもたちが興味を持って遊ぶことができる環境を作った。
	次年度方向性	子どもたちと遊びながら園庭の環境を作っていく。
3	計画・ねらい	・園庭の広さを有効に活かして、子どもたちの探索意欲を高める環境設定においては、安全管理を基盤として、保育者が明確な意図とねらいを持って設定する。 ・子どもたちが夢中で遊び試行錯誤する環境づくり。
	実践結果	園庭整備で全体を使って遊ぶことができなかった。
	次年度方向性	改めてハザードの確認を行い、子どもたちの安全を守り、楽しめる環境を設定する。

〈7〉手作り遊具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	設置なし			

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	・非常事態発生の場合は法人のマニュアルに従い迅速な対応が出来るよう、緊急時の連絡体制などを掲示するなど対応に最善を期すことができる体制作りをした。
2	実践結果	・毎月の避難訓練を基本に、日ごろより、火災・地震・風水害等に対する意識を高める。災害は突然に起こるものであり、日ごろよりシミュレーションを行い、避難訓練の動作を基本として、どんな状況でも最善を尽くす意識を高めた。 ・風水害については、刈谷田川の側に位置する浸水地域内にあるため水害対策マニュアルに従い、移動が困難な乳幼児であることに配慮し、早めの情報キャッチを心掛けた。
3	実践結果	・事故・怪我においては、法人ルールに従い迅速かつ的確な対応した。 ・園内に事故防止委員会設置した。 ・ヒヤリハットの収集に努め、園内で集計・分析・改善・実行の PDCA サイクルで重大事故防止に努めた。 ・開園初年度は園内外のハザードのスタッフ間共有と園庭でのタスキルール、園内のリスクなど安全管理には十分な配慮をした。 ※ケガ・ケーススタディ研修　４月に実施済
4	実践結果	・防犯、不審者に対する訓練は年２回実施した。 ・散歩時における対応や園内における対応の仕方など、会議などで意識統一をした。
5	実践結果	・Ｊアラートが発令された際に備え、避難場所は屋内幼児室と定めた。
6	実践結果	・個人情報漏洩や管理については万全を期し、定期的にスタッフの意識を高めるための啓発を行った。
7	実践結果	・広域災害によるライフライン停止、調理担当者感染症発生による給食提供停止などを想定した、外注による食事提供訓練を実施した。《広域災害食訓練の実施》 ・その他、年１回、非常時の炊き出し訓練を実施。 ・備蓄品の点検は定期的に行った。 （業務継続計画　作成）
8	実践結果	・新潟県柏崎市に原子力発電所があることを踏まえ、災害対策重点区域（半径30キロ圏内）にあるため、影響を受けやすい乳幼児の安全に最大限配慮し、屋内にとどまって待機する。原子力事故の際には見附市の対応マニュアルに従い、速やかに行動する。ヨウ素剤の服用、圏外への移動などが必要となる避難勧告が出された場合は、保護者へ緊急連絡アプリまたはで速やかな迎えを要請する体制を作った。
9	実践結果	・熊出没情報を把握し、熊出没時は園外保育を見合わせた。
10	実践結果	・コロナウイルス等の地域の感染状況を把握し、法人や県市町村からの指示に従い、対応しつつ、園内での感染対策を万全に行った。

11	実践結果	・雪害についての意識を高め、降雪量などの気象状況の情報収集に努め、こまめな除雪で安全を確保した。 ・気象状況を把握し、落雪、陥没、転落事故などの防止に努めた。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

受け入れなし

7. スタッフ研修

〈1〉施設内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	16日 5名	21日 5名	18日 5名	16日 5名	20日 6名	17日 6名	15日 6名	19日 6名	17日 6名	21日 6名	20日 6名	3日 6名
虐待防止研修	16日 5名						15日 6名					
児童発達支援ガイドライン・保育所保育指針を深める研修	16日 5名	21日 5名	18日 5名	16日 5名	20日 5名	17日 6名	15日 6名	19日 6名	17日 6名	21日 6名	20日 6名	3日 6名

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
2月27日～2日間	新潟県中央福祉相談センター	サービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者更新研修	1名	(有)or 無

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	22日 1名	20日 1名	21日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	11月に動画視聴にて実施（全スタッフ対象）											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	該当者なし											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

併設の見附どろんこ保育園と共に積極的に地域に出向き、地域の方と挨拶をしたり、会話を交わしたりと交流の基盤つくりに努めた。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育	月1回公園名：なかよし公園にて　　参加延べ人数：11名
商店街ツアー	週1回　主な行き先：みっけセンター、セブンイレブン、今井青果、ドルチェ小川、等
世代間交流	1月17日に見附どろんこ保育園にて塞の神を実施
異年齢交流	10月26日に見附どろんこ保育園にてどろんこ運動会を実施
その他活動	6月11日に見附どろんこ保育園にて絵本の読み聞かせを実施

9. 医療機関・幼稚園・保育園・小学校との連携の計画

〈1〉今年度の振り返り

開所1年目ということもあり、事業所を知っていただくことから始め、連携体制の基盤つくりに努めた。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
6月4日	見附市子ども課子ども課、障害福祉課、ネウボラみつけ（発達相談）	5名	母子保健センター	発達の気になるお子さんの健診から支援へ繋げる連携体制について
8月7日	見附市立見附小学校	5名	見附どろんこ保育園	就学相談

10. 個別支援計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

計画的に保護者の方からモニタリングを実施し、スタッフモニタリング、策定会議を通して目標、支援の手立ての見直しを行った。必要に応じて6か月の期間を待たずに見直しを行い、子どもの発達に即した計画の提案を行っている。保護者の方のニーズをもとに子どもの育ち、願いを鑑みて支援を行いながら、次回の支援計画の内容をスタッフ間で検討し内容の充実に努めた。

〈2〉進級引継、および小学校への引継状況

就学相談への同席や就学支援シートの作成をし、就学先への引継ぎを行った。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
117名	54名	69名	95名	50名	53名	97名	95名	50名	37名	45名	60名	822名

実施項目	詳細
施設開放	（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　来園延べ人数：822名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　⇒計5件相談実施済み

<table>
<tr><td rowspan="3">自然食堂
親子ランチ
交流</td><td colspan="13">毎週（水）10:00～12:00　　⇒計24回実施済み
参加者延べ人数</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>0名</td><td>6名</td><td>2名</td><td>8名</td><td>6名</td><td>6名</td><td>6名</td><td>2名</td><td>4名</td><td>0名</td><td>2名</td><td>4名</td><td>46名</td></tr>
<tr><td rowspan="3">どろんこ
芸術学校
どろんこ
自然学校</td><td colspan="13">毎週（水）10:00～12:00　　⇒計24回実施済み
参加者延べ人数</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>0名</td><td>2名</td><td>0名</td><td>8名</td><td>2名</td><td>10名</td><td>4名</td><td>8名</td><td>2名</td><td>2名</td><td>2名</td><td>4名</td><td>44名</td></tr>
<tr><td>勝手籠設置</td><td colspan="13">（月）～（土）7:00～20:00　にて実施</td></tr>
<tr><td>ちきんえっぐだより</td><td colspan="13">毎月1日発行</td></tr>
<tr><td rowspan="3">青空保育
（支援センター主催）</td><td colspan="13">月1回　　公園名：なかよし公園にて　以下日程にて実施</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>3名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>4名</td><td>0名</td><td>0名</td><td>2名</td><td>2名</td><td>11名</td></tr>
</table>

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉施設による自己評価の実施

２０２４年１１月２９日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：１５時００分
自己評価終了時刻：１７時００分
自己評価実施者：若杉絵里子、大塚由美子、河原神那、貝瀬亜紀子

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月15日
アンケート回収率：１２０％

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見　0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）0件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年3月１５日　　作成者：発達支援つむぎ 見附ルーム施設長　大塚 由美子

２０２４年度　発達支援つむぎ　袖ケ浦ルーム
事業報告書
（発達支援つむぎにおける自己評価）

Ⅰ．　２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

併設されている袖ケ浦どろんこ保育園と一つ屋根の下で共に生活を送り、子ども同士が混ざり合えるよう、双方のスタッフが同じ方向を向きインクルーシブ保育の実現を目指した１年になった。

施設目標はみんなの『やりたい』をやってみようと掲げていたが、新規園の環境下でその日のことについていくだけで精一杯のスタッフが多い中ではあったが、子どもを真ん中においた支援を念頭に、子どものやりたい気持ちを引き出すには何ができるかを考えている。スタッフのこの子と一緒にやってみたいことをやってみようと思う姿勢を育むことができた。

① 応答的な関わりの中で、１０よりも１００の実体験の積み重ねができるよう、子どもの様子の共有や環境面の見直しを幾度も重ねた。子どもの好きなことを探ったり提案したりする中で、好きなことからやりたい気持ちを引き出すことができている。
② 日中活動は発達に応じて自ら選択したり、スタッフが気持ちを読み取ったりしながら集団の中の一人という意識を持たせながら過ごせるようにしていた。周りの子どもからの刺激が受けられるよう配慮し、基本的生活動作の獲得や心身の行動調整力の向上を図った。
③ 子どもを真ん中においた支援を念頭につむぎとしての専門性を生かし、利用家族への丁寧なフィードバックや併設園スタッフへ気になる子どもへの援助方法などの助言を行った。症例発表ができなかったため、次年度は併設園を巻き込んだ形で事例を基にした勉強会などを開催していきたい。
④ 今の状況のありのままを受け止め、施設としての風通しの良さを大事に利用家族に寄り添い仲間を増やしている。利用者アンケートでは好意的な意見が多かった。今後は保護者同士の繋がりも持てるような企画を準備していく。

支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	好きな遊びを見つけ、繰り返し遊びこむことを楽しむ。
	実践結果	保護者へのヒアリングを行いながら好きな遊びを提供できるよう環境を整えることで子どもが好きな遊びを見つけ、繰り返し遊ぶことができていた。
	次年度方向性	好きな遊びの幅を広げ様々な刺激が受けられるよう支援していく。
2	計画・ねらい	友だちとの関わりを楽しみ、相手の気持ちに気づく。 気持ちや行動を調整する力をつける。
	実践結果	特性上子ども同士の関わりが難しい子どもの姿が見られ、保育者との距離が近すぎることでおおよそ達成ができなかった。しかし、保育者との関わりの中で気持ちや行動を調節する力をつけることができていた。スタッフが子ども同士の関わりの壁になることがないよう距離感に留意しながら支援していく。

	次年度方向性	子どもの特性を活かしながら子ども同士の関わりが持てるような支援方法を模索していく。
3	計画・ねらい	・保育者と信頼関係を作り、安心して園生活を楽しむ。 ・ペアレントトレーニングについて学習する機会を作る。
	実践結果	・保護者も安心して登園できるよう丁寧なフィードバックを心掛け、関係を構築することができている。 ・ペアレントトレーニングはスタッフ４名が受講できている。子どもとの関わりにおいて現場に活かしている。
	次年度方向性	・保護者への丁寧なフィードバックの継続 ・ペアレントトレーニングについて掘り下げ、より実践に繋げる。

事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	子どもを真ん中に置いた支援内容を子育ての伴走者として相談してもらえる関係を作っていく。
	実践結果	帰りのフィードバックで情報共有をする中で相談してもらえる関係の構築ができた。個別支援計画更新の際は保護者の困り感の傾聴を行うこともできた。
	次年度方向性	継続していく。
2	計画・ねらい	子どもの発達におけるつまずきや困り感の理解を深められるようなフィードバック、きょうだい児支援の実施
	実践結果	躓きと思う事象に対して、家庭と施設とで対応が同じようにできる様にフィードバックを行うことができた。きょうだい児も保護者参加行事に誘うことができ、支援に繋がるきっかけができた。
	次年度方向性	きょうだい児も楽しんで参加できる体験活動を計画したい。
3	計画・ねらい	保護者同士の交流の場を作り、楽しみや悩みを共有することができるようにしていく。
	実践結果	３月に実施できた。
	次年度方向性	保護者交流の機会を増やし、ニーズに合った話題が提供できるようにしていきたい。

地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	施設の知名度を向上させ、来園者を増やす。
	実践結果	袖ケ浦市、木更津市の役所へ行き、パンフレットを渡しながら施設の概要説明を行った。地域の子育てセンターからの紹介で見学に来る方が増えた。袖ケ浦市の事業所交流会に参加したことで、事業所同士の繋がりを作ることができた。

	次年度方向性	広報活動や交流会の参加を続けていく。
2	計画・ねらい	ちきんえっぐ企画を一緒に行う。
	実践結果	未実施
	次年度方向性	年間行事に盛り込み、企画段階から一緒に進めていく。

次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	どろんこ会の保育の理解と実践からわくわくする保育を提供する保育者になる。
	実践結果	法人の理念に則り、日課や長距離散歩、だめと言わない保育を実践する中で、つむぎの支援の強みを理解してきている。わくわくする保育の提供はまだできるとはいえない。
	次年度方向性	維持継続し、より内容を深めることができるようにしていく。日常の中で子どもの興味関心にあったわくわくする保育を提供できる保育者の育成を行っていく。
2	計画・ねらい	つむぎ内研修の実施、子どもの発達について理解する。
	実践結果	研修の実施には至らなかったが、毎日の終礼で子どもの発達状況や定型発達の流れなどの説明をし、発達理解の促進ができている。
	次年度方向性	職員の興味のある分野や子ども理解に繋がる内容を1人1テーマ設け、研修会を開く。

環境実施目標

1	計画・ねらい	食の循環を意識した環境を作る。
	実践結果	日々の中で、もったいないばあさんの絵本の読み聞かせを行い『もったいない』の意味を伝えた。コンポスト未実施のため食の循環を意識できる環境づくりはできなかった。
	次年度方向性	コンポストの実施を目指し、食の循環を体感し、興味が持てる様に進めていく。

症例研究と発表

1	計画・ねらい	症例研究を通して専門的な視点や支援の質の向上を図っていく。
	実践結果	症例研究は実施できなかった。月に一度タイムラインで子どもの様子や成長についての気づきなどを記入したものを保護者へ配信し、子どもの育ち

		に気づく視点が身に付くようにしていた。
	次年度方向性	月に一度のタイムラインの継続を行い、スタッフの育ちに気づく視点の強化を図る。

ユニバーサルデザインを意識した環境づくり

I	計画・ねらい	ユニバーサルデザインについての理解
	実践結果	ユニバーサルデザインの取り組み未実施。子どもが日中活動を目で見てわかるような環境や、余計なものを置かず目からの刺激が少ない意識した。
	次年度方向性	子どもが日中活動を目で見てわかるような環境や、余計なものを置かず目からの刺激が少ない環境の設定を行っていく。

2. 施設運営

〈I〉児童利用状況

児童発達支援　利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	I0月	II月	I2月	I月	2月	3月	合計
利用総人数		58人	I09人	I34人	I08人	II4人	I35人	I25人	I37人	I26人	I32人	II8人	I296人
登録児数		9人	I2人	I2人	I2人	I2人	I2人	I3人	I3人	I3人	I3人	I4人	I35人

（解説）マンスリー時間

〈2〉開所時間

8時30分～I7時30分

〈3〉スタッフ構成　（3月I日時点）

施設長I名
児童発達支援管理責任者I名

保育士１名（施設長兼務）
児童指導員２名
その他指導員１名（社会福祉士）

3.　運営報告

〈１〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
施設内会議	月１回 ※２，３月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・利用児の姿共有
給食運営会議	月１回	食事形態や食べ具合、残渣をなくすためのエ夫など
事故防止委員会	月１回	ヒヤリハット、インシデント、事故記録の分析共有
支援計画策定会議	半年に１回 利用児毎	アセスメント共有、計画内容の見直し
クラス会議	週１回	併設園との子どもの姿共有
終礼	毎日	子の姿の共有、伝達事項確認

〈２〉出席した施設外会議（Ｗｅｂ参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月１回	施設長
施設長勉強会	月１回	施設長
児発管会議	年３回	児発管
併設園会議	月１回	施設長
食育会議	年４回 （５．７．１１．２月）	施設長 調理スタッフ
保健会議	年４回 （５．７．１１．２月）	施設長
子育ての質を上げる会議	月１回	スタッフ

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	毎日の清掃、感染対策の検討と提案、保健指導を行った。
安全対策係	事業所内、または周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策 計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起を行った。 園内・外のハザードマップを作成した。
防火管理者	防災計画の立案、月１回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、近隣施設との連携の推進を図った。
食品衛生管理係	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食品サンプルの管理を行った。
体験学習係	保護者向けの座談会と子ども向けの製作、親子クッキングを行った。

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	保護者と企画運営を行い、家族で楽しめる行事になった。各コーナーを回るだけではなく、お仕事体験なども楽しめていたため来年度も継続していきたい。
運動会係	企画運営を行い、普段の様子や成長を見てもらえた機会になった。つむぎサーキットが好評だったため、来年度も企画したい。
生活発表会係	生活発表会の企画を行った
卒園・入園式係	企画、調整を行った

4.　支援・処遇

〈1〉保護者面談　　および発達相談・児童の保護者への支援および意見要望への対応

マンスリー	送迎時のフードバックや個別支援計画更新時、保護者アンケートにて出た内容は迅速に対応するようにしている。支援時間の延長の要望があったため、来年５月を目途に１６時まで延長支援を行う予定になっている。

〈2〉計画した年間行事の振返り

別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	食べる楽しさや心身が満たされる感覚を味わい、食べる意欲や関心につなげる
	実践結果	一緒に食事を摂る中で、食材への興味に繋げることができた。食事に興味のない子、偏食の子どもへは子どものタイミングに合わせながら食事の習慣が身に付くよう支援にあたった。
	次年度方向性	偏食の子どもへも食事の場の雰囲気を楽しめるような取り組みを実施していく。
2	計画・ねらい	自分の食べられる適量を知り、満足いくまで食べる
	実践結果	バイキング給食の定着化を図り、自分が食べることのできる量が身をもってわかるように支援した。食べ過ぎてしまう子どもも居たが、経験していくうちに徐々に適量がわかるようになっている。
	次年度方向性	引き続き、適量の理解ができる様継続していく。
3	計画・ねらい	３色食品群を身近にした食育の推進
	実践結果	３色食品群の話はしたものの継続して話ができていない。
	次年度方向性	昼食前などに３色食品群がわかるような働きかけを行う。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
児童健康診断	６月１９日／１１月１３日に実施（併用児）
歯科検診	６月２５日に袖ケ浦どろんこ保育園にて実施（併用児）
保健だより	毎月２５日におたより配布
スタッフ健康診断	年１回実施
スタッフ検便	毎月１回（全スタッフ対象）
その他実施した児童への保健指導、又は、取組等	①　６月１０日に幼児保育室にて歯磨き指導を実施 ②　７月１日に幼児保育室にて手洗い指導を実施 ③　１月９・１０日に園舎にて性教育を実施

流行した感染症	特になし
エピペン使用できるスタッフの状況	・３月２２日に袖ケ浦どろんこ保育園にてエピペン研修を計４名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ５名のうち、４名が使用可能
ＡＥＤ使用できるスタッフの状況（ＡＥＤ設置施設のみ）	・８月３Ｉ日に幼児保育室にて普通救命講習を計２名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ５名のうち、２名が使用可能
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また流行時は消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	４・７・１０・１月の２５日に計４回実施済み
	防災自主点検	６・１２月の２５日に実施済み
	避難消火訓練	毎月１回／１５日に計１２回実施済み
	不審者侵入訓練	６・１２月の２５日に実施済み
	情報セキュリティチェック	５月・１１月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	４・７・１０・１月の２５日に計４回実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検４・７・１０・１月の２５日に計４回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒非営業日は実施なし
	衛生管理点検表／毎週	毎週固定曜日実施
	衛生管理点検表／毎月	毎月２５日に計１２回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒非営業日は実施なし
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年２回／４・１０月の施設内会議時 ⇒４月２６日、１０月２５日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月１回／施設内会議冒頭５分間　実施済み
	利用者アンケート調査	８月２５日～９月５日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	遊びを選び取れるゾーンが充実した園舎づくり。
	実践結果	定期的にゾーンの見直しを行い、遊びが選び取れるようにしていた。
	次年度方向性	玩具の充実化を図り、より子どもの発達にあったゾーンの提供ができるようにしていく。
2	計画・ねらい	「外で遊びたい」気持ちをかき立てる園庭づくり。
	実践結果	園庭工事が長引き、１０月末から園庭の開放ができるようになった。園庭の環境を十分に活用し遊びを展開している。現在は余計なものは置かず体が沢山動かせる環境にしている。
	次年度方向性	泥遊びが沢山できる環境を作り、より自然物に触れて遊べるような園庭づくりを行う。
3	計画・ねらい	子どもたちの「今」を大事にした室内環境づくり。
	実践結果	子どもたちの成長発達の理解に努め、その時々に必要な遊びを提供できるように保育園とすり合わせながら環境を作った。玩具の種類が少ないため、難しさも感じた。
	次年度方向性	子どもの発達や興味に合わせた玩具の購入を進め、遊びに幅が持てるようにしていく。

〈7〉手作り遊具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	鶏小屋	園庭	毎日	異常なし

5.　危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	事故防止委員会 実践結果	事例検討を通じて再発防止策や日頃の危機管理に繋がるよう毎月の会議で事故防止委員会を実施した。
2	避難訓練・不審者侵入訓練 実践結果	・事故防止委員会、避難訓練係を中心に、防犯・防災に対する意識を高めた。不審者侵入・災害は突然起こることを十分に意識し、日ごろより防犯・防災に対する意識を高め、シミュレーションを行い、避難訓練・不審者侵入訓練を有効に活用した。 ・非常災害時の対策として、消防計画に基づいた毎月の消防避難訓練、消火訓練の実施、年二回の不審者訓練の実施を行った。 ・防犯設備点検の実施（自動火災探知機、煙感知器、誘導灯、排煙窓）

3	光化学スモッグ実践結果	光化学スモッグ発生時には、市役所などが発信する情報をこまめにチェックし、屋外の活動を控えるなど対応した。
4	ハザードマップ実践結果	園内外のハザードマップを作成し、危険箇所の確認と安全確認の周知を都度更新していく。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

実習生や中高生の受け入れ実施なし

7. スタッフ研修

〈1〉施設内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	26日 5名	24日 6名	28日 6名	26日 5名	23日 5名	27日 5名	25日 5名	22日 5名	27日 5名	24日 5名	14日 5名	19日 5名
10の姿研修		24日 6名	28日 6名	26日 5名	23日 5名	27日 5名	25日 5名	22日 5名	27日 5名	24日 5名	14日 5名	19日 5名

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
8月21～9月13日	千葉県	令和6年度千葉県サービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者基礎研修	1名	有

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	21日 1名

施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	11月に動画視聴にて実施（全スタッフ対象）											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

まずは近隣に施設の存在を知ってもらうところから始め、役所や事業所へ行きパンフレットと共に施設の説明を行った。相談事業所の方にも積極的に施設の案内を行い、支援の方針などの理解をしてもらえるよう努めた。

日々の散歩時にすれ違う近隣の方々や商店街ツアーなどの園外活動中に出会うすべての方に、スタッフ自ら笑顔で挨拶をし、その背中を見て子どもたちも元気よく挨拶をすることを習慣化するようにした。散歩先で出会った方との交流から見学に繋がるケースがあった。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育	月1回　公園名：袖ケ浦駅海側地区近隣公園にて　参加延べ人数：7人
商店街ツアー	週1回　主な行き先：ファミリーマート、ウェルシア、丸亀製麺、袖ケ浦駅前交番、袖ケ浦消防署、せんどう、としまや、袖ケ浦駅、モーモーズカフェ、マイケル、千葉銀行、業務スーパー、薬のアオキ、ゴルフ場等
世代間交流	シニア交流　毎月1回
その他活動	小学生ボランティアの受け入れ1月6，7日

9. 医療機関・幼稚園・保育園・小学校との連携の計画

〈1〉今年度の振り返り

利用児の就学先の選択肢をイメージできるよう槇の実特別支援学校の見学を行った。また、教育委員会から依頼された就学先の判断に必要なシートの作成や発達検査の会場を準備するなど利用児がス

ムーズに就学へ向かえるような情報や場の提供を行った。子どもたちと一緒に近隣の小学校の見学へ行くことが叶わなかったため、もう少し足を運んだ小学校にアポイントメントをとり、交流の機会を作っていきたい。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
１０月１８日	奈良輪小学校	１名	運動会見学	運動会の見学交流
６月２４日	千葉県立槇の実特別支援学校	２名	学校見学会	職員間交流

10. 個別支援計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

子どもアセスメント及び保護者からの聞き取りを行い、個別支援計画を作成。半年に１回見直しを行った。

〈2〉進級引継、および小学校への引継状況

今年度は３名の小学校への引継ぎを行った。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	合計
95名	43名	71名	63名	563名	79名	110名	88名	88名	54名	50名	50名	1354名

実施項目	詳細
施設開放	（月）～（土）９：３０～１６：３０　にて実施　来園延べ人数：１３４２名
子育て相談	（月）～（土）１３：００～１６：３０　⇒計０件相談実施済み
自然食堂 親子ランチ	毎週（水）１０：００～１２：００　⇒計２４回実施済み 参加者延べ人数

交流	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	12名	16名	11名	5名	7名	10名	8名	20名	13名	16名	14名	16名	148名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週（水）10：00～12：00　　⇒計12回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	8名	0名	8名	12名	3名	7名	2名	11名	6名	4名	4名	6名	71名
勝手籠設置	（月）～（土）7：00～20：00　にて実施												
ちきんえっぐだより	毎月1日発行												
青空保育（支援センター主催）	月1回　　公園名：袖ケ浦駅海側地区近隣公園にて　以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	7名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	7名

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉施設による自己評価の実施

２０２４年６月３日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：１２時００分
自己評価終了時刻：１４時００分
自己評価実施者：施設長

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用　保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月１５日
アンケート回収率：７５％

アンケートの回収率が低かったため利用者アンケートの説明をより丁寧に行い、次年度は回収率が上げられるようにしていく。回答いただいた結果に甘んじず、満足度が高い面は継続していき、比較的低いところはより満足度が上げられるホスピタリティのある支援を行っていく。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見　0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む）　0件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：発達支援つむぎ　袖ケ浦ルーム施設長　坂井 直子

２０２４年度　発達支援つむぎ 前原ルーム
事業報告書
（発達支援つむぎにおける自己評価）

Ⅰ．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

沖縄県内では初めてとなる、保育園と併設される発達支援事業所「つむぎ前原ルーム」は、法人理念である「にんげん力。育てます。」及び保育方針である「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」を鑑みて、併設された前原どろんこ保育園と共に生活を送り、一つの組織として共に協力し合いながらインクルーシブ保育を推進していく。

前原どろんこ保育園の広大な園庭環境を生かし、障害の有無に関わらず日課の基本活動、保育プログラム、課外活動を通して「自然の中での体験」を共にし、子どもが身近な経験を通してやりたいことを自ら選び、「生きる力」が身に着く環境を設けていきます。

そして、インクルーシブ保育・支援をスタンダードとして行くために、つむぎ前原ルームの周知活動を行う。利用する子ども・保護者支援、併設園だからこそできる支援を計画し、一人ひとりに最善の支援ができるように、研修を行いスタッフの支援の質、アプローチ内容等を積み上げていく。

また、２０２４年度の運営本部 mission である「生活力の体得」「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿の体得」「子ども自らがいつでも経験を選びとることができる物的環境の設定」「命を頂く活動の実践」を保育園と協働し達成するために、開所初年度から全スタッフが対話し支援を振り返り、常に改善し実践を繰り返し行える環境や、支援員配置の仕組み作りを行っていく。

〈１〉支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	保育所保育指針・児童発達ガイドラインの理解（どろんこ会が目指すもの）を深める園内研修。 ・どろんこ会が目指す保育の根拠となる保育所保育指針・児童発達ガイドラインの理解を深める。
	実践結果	保育所保育指針・児童発達ガイドラインを活用した学びを毎月園会議にて実施。また日々の振替時に対話することで理解を深めたが、開所初年度のため部分的な学びとなってしまった。
	次年度方向性	次年度も引き続き理解を深めるため園会議や自主勉強会などを設け、全体で意識をあげられるよう計画を立て取り組む。
2	計画・ねらい	他者と過ごす時間を深め、子ども同士のやり取りが広がる。
	実践結果	園児と生活することでお互いを意識し、名前を覚え、興味をもち関わることが増えつつある。
	次年度方向性	日々の生活を通してより関わりが持てるようスタッフの位置などどのようにしたらよいか話し合い、関わりが増えるための工夫、仕掛けを考えて実施する。

3	計画・ねらい	・保育の安全管理体制づくり ・保育の安全管理への意識を高め、安全管理体制を作り、安全な保育環境を整備する。
	実践結果	豊かな体験を保証するための安全管理意識が高まり、スタッフからの意見、提案がでる。
	次年度方向性	スタッフが業務に慣れ安定してきたが、慣れたからこそのミスが起きないよう、終会議等ではマニュアルを活用に振り返る習慣をつくる。

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	・「うちのこアプリ」のタイムライン、連絡帳の充実。 ・「うちのこアプリ」は、保育者と保護者がつながるツールであるため、伝える技術を磨く。
	実践結果	・うちのこアプリの登録案内、アプリの活用が思うようにできなかった。できなかった原因としては施設長が理解し、スタッフへおろすことができなかった。
	次年度方向性	・次年度はアプリの活用を充実するため、再度利用方法をスタッフと学び、全体で取り組める仕組みをつくる
2	計画・ねらい	・インクルーシブ保育の保護者理解と周知への取り組み。 ・インクルーシブ保育の本質について、すべての子どもに必要な保育であることを発信し広めていく。
	実践結果	日々の関わりを通して利用児、併設園児の一部の保護者から関わりを喜ぶ声が届いていることからご理解を得られていると感じている。
	次年度方向性	利用児の保護者、併設園の保護者からの声が増え、インクルーシブ保育の良さを保護者同士で話し合う姿見られる 保護者や地域の方へブログや口コミが広がるよう、掲示や配布を行う
3	計画・ねらい	・関係機関との連携を密にしていき、値域資源を活用しながら、地域全体で支援を考えていく。
	実践結果	関係機関とつながり少しずつ連携を取れる関係性ができてきた
	次年度方向性	行政、他事業所、他保育園、地域へとより密に連携が取れるよう見学会や、交流会などを計画し実施する

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	・地域の子育て支援事業として地域に開かれたルーム運営を行う
	実践結果	会議等をつむぎ前原ルームで行うことで、関係機関の方、保護者の来所が増えた。また地域の学童が来所された
	次年度方向性	利用児の保護者を中心に保護者交流会などを開催し、つむぎカフェの尊大を知ってもらい利用児以外のご家庭も参加できるようひろげていく

2	計画・ねらい	・広い園庭環境を活かした親子交流、地域交流の促進。 ・広い園庭環境で様々な人が交流できる機会を持ち、地域に開かれたルームとなる。
	実践結果	地域の学童が来所されたが継続的な来所はない。また、他事業所、見学者の反応は良いが再度来所する確率は低い
	次年度方向性	今年度は交流会計画を立てることができなかったので、次年度は計画を立て、実施する。利用児以外のご家庭への周知にも力を入れる

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	・組織づくりに取り組む。 ・開園初年度に重要なのは組織づくりであることを理解し、自身が目指していたものを実現していくという見通しを持つ。
	実践結果	開所当初は園、つむぎスタッフ間での連携が取れずお互いの業務を理解することに時間がかかったが、たくさん対話することで現在は仕組みができてきた
	次年度方向性	お互いを理解し仕組みはできてきたが、本音で話し合う、ぶつかり合ってお互い折り合いをつけることが少ない。こどもだけではなくスタッフもよりよい支援のためにぶつかり合い、折り合いをつける経験ができる場をつくる。役割分担については今後さらに明確に示していく。
2	計画・ねらい	・インクルーシブ保育の中でのより良い支援を考え、学びを深める。スタッフ間の情報共有を自主的に行い質の高い支援につなげる。
	実践結果	毎日の終会議を通して疑問に思ったことや支援の在り方にについて話す場を設け、自身の意見、思いを伝えることができていた
	次年度方向性	支援時間の変更から終会議の在り方を考え直し短時間で具体的に話せる会議をなるよう工夫していく。またスタッフによっては個別で話す場をつくる。 ・園長大学®保育士大学など楽しく、自主的に学び合える雰囲気をつくる。しかしスタッフの負担、義務にはならないよう十分注意して行う

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	・生き物の世話を行う。
	実践結果	園児と一緒に生き物の世話をする姿が見られる。また散歩先ではテントウムシなどに興味をもち触れる姿が見られる
	次年度方向性	興味をもち触れるだけではなく、観察、調べるなどより追及したい気持ちを引き出させる関わり方をしていく
2	計画・ねらい	・本物の食の循環を知る活動。 ・畑づくり、稲づくりは土壌づくりから苗を栽培、収穫まで本物の食の循環を通して、協同性、社会性、規範意識の芽生えへと導く。
	実践結果	畑仕事、稲づくりを通して子ども竹でなく、スタッフも経験することができた

	次年度方向性	全スタッフ、全利用児が関われる工夫が必要。どうしたらできるのかスタッフと考えていく

〈6〉インクルーシブ保育の実践（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

1	計画・ねらい	・職種の違いを超えた連携。 ・スタッフの専門性を活かした保育が実践できるように、職種の理解を深める。
	実践結果	子どもの姿を通して意見交換することができ、互いの専門性を理解し助言をもらうなど職種の理解が深まってきた
	次年度方向性	より職種の理解が深まり、より深い話し合いができる関係性をつくっていく。またそれぞれが専門職であることに自信をもち意見できるよう育てていく

〈7〉地域とのネットワークの構築（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

1	計画・ねらい	・教育、社会福祉機関とのネットワークの構築。 ・保育に関わる関係機関とのつながりを明確にしながら、基盤づくりに取り組む。
	実践結果	自治体、近隣保育園、母体園とのつながりができ、見学を行った
	次年度方向性	ネットワーク確立のために営業を始め、訪問する回数を増やし、見学に来てもらえるような機会をつくる
2	計画・ねらい	・ご近所付き合いの軸を作る。 ・近隣住民の方々との良好な関係づくり。
	実践結果	地主の方への挨拶、散歩時に地域の方への挨拶、地域の公民館への感謝の気持ちを丁寧にお伝えする
	次年度方向性	地域行事への参加、地域の方との挨拶など継続的に取り組む

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

児童発達支援　利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	0人	41人	56人	91人	101人	86人	93人	85人	84人	66人	80人	114人	897人
登録児	0人	5人	10人	11人	12人	12人	12人	12人	12人	12人	14人	15人	15人

数													

〈2〉開所時間

８時３０分～１７時３０分

〈3〉スタッフ構成　（３月１日時点）

施設長1名
児童発達支援管理責任者1名
保育士１名
機能訓練担当３名（言語聴覚士０名、作業療法士２名、理学療法士１名）
児童指導員１名
その他指導員０名

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
施設内会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・専門士による支援技術の共有 ・研究テーマ（造形、音楽、自然、食などを設　　け、資料を使った研修を行う。 ・つむぎ内外から講師を招いた研修を行う。
給食運営会議	月1回	・喫食状況確認、アレルギー児確認、食育指導
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット、インシデントの前月分検証、法人内で起きた事故の共有、危機管理、安全対策
支援計画策定会議	適宜	・支援計画作成に伴い、開催時期を調整する。 ・個別支援・グループ支援それぞれの担当者と児童発達支援管理者が必ず参加する。
ケース会議	月１回	気になる子についての状況共有、支援計画書の見直し
リーダー会議	月２回	園の課題を抽出し、解決策を検討
週会議	週１回	各クラスの情報共有、行事の検討
週案会議	週１回	全クラスの保育計画の調整と連携

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
児発管会議	月1回	児発管
併設園会議	年11回	施設長
食育会議	年4回 （5.8.11.2月）	施設長 調理スタッフ
保健会議	年4回 （5.8.11.2月）	施設長
子育ての質を上げる会議	月1回	スタッフ

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導
安全対策係	事業所内、または周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策 計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起
防火管理者	防災計画の立案、月2回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、近隣施設との連携の推進
食品衛生管理係	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食品サンプルの管理
畑係	屋上、玄関のプランターの整備、計画的な活動の立案
生き物係	めだかの飼育管理、ビオトープ作成の指揮、動物や植物に触れる機会の検討立案
体験学習係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	祭りの計画・実行、地域への広報

運動会係	運動会の計画・実行、地域への広報
生活発表会係	生活発表会の計画・実行、地域への広報

4. 支援・処遇

〈1〉保護者面談 および発達相談・児童の保護者への支援および意見要望への対応

マンスリー	1日の生活に慣れ、安心して生活を送れるようにする ・スタッフとの愛着形成を行い、安心して過ごせるようになる ・戸外活動を通して身体の土台作りを行う ・他者への興味・関心を育てる ・自分の気持ちを他者に伝えようとする意欲を育む ・戸外活動を通して身体の土台作りを行い、異年齢や友だちとのやり取りを楽しむ。 ・様々な体験を通して感性を豊かにし創造性の芽生えを育てる

〈2〉計画した年間行事の振返り

別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	実体験を通して食や食の循環について興味関心を持つ
	実践結果	畑や散歩先で季節の野菜を見たり、触れることができた 食材の加工は今年度実施できていないが、スタッフ向けの鶏さばき研修を実施した
	次年度方向性	畑仕事をもっと積極的に取り組み、食材を育てる喜び、食する喜びなどの体験が年間通してできるようにする
2	計画・ねらい	食べる意欲を育てる
	実践結果	友だちやスタッフと食することで食への興味がひろがり、苦手な食材を口にする姿がみられる。またバイキング給食を通して自分が食べたいものを自分で取りに行く習慣がついた
	次年度方向性	たくさん活動し、空腹感を感じて食事ができるよう日々の活動を充実させる。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
流行した感染症	①　２月にインフルエンザ、児童名２名・スタッフ０名 2月26日終息
発作・痙攣等の対応	対応無し
エピペン使用できるスタッフの状況	・４月１２日に前原どろんこ保育園にてエピペン研修を実施。伊保、屋宜、東江、小渡　計４名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ６名のうち、６名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	
その他保健に関する取組	特に無し

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（法定1回/3年）	業者による対象物の法定点検 2024年実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日　休園日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日　休園日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日　休園日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の施設内会議時 ⇒４月12日、10月11日に実施済み

	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間　実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	一人ひとりにあった教育的意図を持った環境構成（室内・戸外）を考察し続ける
	実践結果	一人一人にあった環境を考える力がついてきた
	次年度方向性	環境を考えどうしたらよいかを話し合い実践し振り返ることが定着する
2	計画・ねらい	防犯、防災、怪我防止の視点での事故防止チェック、設備点検を定期的に行い、破損などは速やかに修繕する
	実践結果	見つけたときは即、報告、共有する流れができてきた
	次年度方向性	自ら全スタッフへ注意喚起できるようスタッフを育てていく
3	計画・ねらい	保護者、来訪者が見ても、気持ちの良い環境を維持する
	実践結果	4月から取り組み徐々に環境が整い、チェック体制もできてきた
	次年度方向性	維持管理ができるよう継続し、スタッフの意識が上がるよう工夫し取り組む

〈7〉手作り遊具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	マルチ棒	屋上園庭倉庫	毎日	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	【防災】 ・危機管理マニュアルの災害対策に則り、月1回の避難訓練を行い、火災・地震の避難方法を確認する ・アプリの災害時緊急掲示板を使って、安否情報（園児数・保育者数・ケガ人・建物の被害状況・避難場所）を書き込み、保護者と情報共有する体制をとる

2	実践結果	【ケガ事故防止】 ・ヒヤリハット・インシデント報告書の運用を徹底し、事故防止委員会で検証を行い、事故を未然に防ぐ ・事故防止委員会を毎月行い、同グループ内で起こった事故状況を共有し、事故防止策を探る ・ハザートマップを作成・更新し、ケガや事故防止に努めていく
3	実践結果	【防犯】 ・年2回不審者侵入訓練を行う ・日々の生活の中でも常に不審者を意識することが大切であり、散歩時における対応も意識統一しておく（笛の携帯・代理送迎者の把握など）
4	実践結果	【光化学スモッグ PM2.5】 ・光化学スモッグ、ＰＭ２．５の知識を身に着け、発生時には光化学スモッグ発生時対応、および行政連絡に従い対応する

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

今年度は地域の中学校から職場体験依頼を受け積極的に行った。その他の依頼はなかったが次年度により多くの実習生を受入れ支援の向上に役立てる。

〈2〉実習生の受入

依頼無し

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
1月30～31日	うるま市立具志川東中学校	３人

7. スタッフ研修

〈1〉施設内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	12日 6名	17日 4名	14日 4名	12日 4名	9日 5名	13日 6名	11日 6名	8日 6名	13日 6名	17日 6名	14日 6名	2日 6名
園内研修	12日	17日	14日	12日	9日	13日	11日	8日	13日	17日	14日	2日

	6名	4名	4名	4名	5名	6名	6名	6名	6名	6名	6名	6名
事例検討会研修 講師：今城衣利子	2月22日につむぎ前原ルームにて5名のスタッフが出席 収支報告											
	事業計画にて計上した予算						実際の支出					
	交通費			0円			交通費			0円		
	宿泊費			0円			宿泊費			0円		
	合計			0円			合計			0円		

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
11月20～22日	社会福祉法人どろんこ会	他園実地研修(よみうりランド前どろんこ保育園・新羽どろんこ保育園)	1名	有

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	15日 1名	20日 1名	21日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	11月に動画視聴にて実施（全スタッフ対象）											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

散歩時に地域の方と挨拶する中で、地域の様子、歴史などの情報を教えていただいた。より地域の方との関わりが増える関係性の構築のためにも、青空保育や商店街ツアーへを
習慣する。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育	月1回　　公園名：前原公民館にて　　参加延べ人数：0名
商店街ツアー	週1回　主な行き先：地域の公民館、スターバックスコーヒー、うるマルシェ、花の店びおら、ミスタードーナツ、イオン具志川　等
世代間交流	シニア交流　毎月1回
その他活動	特に無し

9. 医療機関・幼稚園・保育園・小学校との連携の計画

〈1〉今年度の振り返り

今年度は特に無し

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
11月28日	わくわく保育園	2名	利用児の様子見学	スタッフ間交流
11月29日	中原こども園	2名	利用児の様子見学	スタッフ間交流
11月11日	親子通園ぽかぽか	2名	見学・情報共有	スタッフ間交流
11月14日	中部圏域障害者自立支援連絡会	1名	研修・情報共有	スタッフ間交流

10. 個別支援計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

日々の子どもの姿の共有、保護者からの聞き取りを行い、半年に1回見直しをおこなった。

〈2〉進級引継、および小学校への引継状況

安心して進級・進学できるよう必要な情報を開示及び交流を積極的に行い、引継ぎを行っている。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
29名	35名	13名	407名	45名	81名	407名	43名	29名	42名	342名	50名	1525名

実施項目	詳細												
施設開放	（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　来園延べ人数：18名												
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　⇒計0件相談実施済み												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計6回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	5名	0名	0名	7名	0名	6名	0名	2名	0名	8名	11名	0名	39名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計3回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	3名	0名	0名	0名	0名	4名	0名	4名	0名	0名	11名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00　にて実施												
ちきんえっぐだより	毎月1日発行												
青空保育 （支援センター主催）	月1回　　公園名：前原公民館にて　以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉施設による自己評価の実施

２０２４年1月31日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：14時00分
自己評価終了時刻：16時00分
自己評価実施者：内部監査員、統括施設長、施設長、児発管

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月15日
アンケート回収率：100%

（省察）開所初年度ということで回答者は少なかったが、皆さんに回答していただき嬉しい言葉を多くいただいた。引き続き、丁寧な関わり、保護者とのコミュニケーションを大切に行っていく。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：発達支援つむぎ 前原ルーム施設長　山田 千秋

２０２４年度　発達支援つむぎ 篠栗ルーム
事業報告書
（発達支援つむぎにおける自己評価）

Ⅰ．２０２４年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

保育理念「にんげん力。育てます。」および、法人保育方針「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」に鑑み、つむぎ篠栗ルーム及び篠栗どろんこ保育園の乳幼児・職員・地域が相互的かつ協働的にかかわれるようにし、それぞれ一人ひとりの自主性に重んじ、篠栗町の地域に密着した教育機関・福祉施設を目指すことを心掛けて運営することができた。

つむぎ 篠栗ルームが様々な背景のあるこどもたちが集まる場であり、篠栗どろんこ保育園の子どもたちと共に安心して過ごせる「大きな家」での生活がスムーズで安定し充実した時間になるよう、お互いがやさしさや思いやり、常に感謝する心もちをもって、子どもたちとの生活を丁寧に紡ぎだしながら相互扶助をすることを十分に心掛けて運営することができた。

〈１〉支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	つむぎ 篠栗ルーム併設開所に際しては、子ども一人ひとりの姿に応じた養護をきめ細やかにし、実質的な体験を大切にしながら毎日の保育内容を丁寧に実践する。
	実践結果	四季を感じられる散歩や戸外活動を主体とした実践について、大自然に恵まれた地域や広い園庭の有効活用、異年齢での関りを大切に展開した。
	次年度方向性	つむぎ篠栗ルーム・篠栗どろんこ保育園、両方のスタッフ間で、“丁寧な関わり”とは何かを子どもの姿を共有し語り合いながら実践していく。
2	計画・ねらい	園内にとどまらず、様々な環境（ひと・もの・とき）に慣れ親しみ、子どもも大人も豊かな経験をする。
	実践結果	近隣の散歩、シニア交流等の様々な戸外活動を通して、子どもたちが自ら経験・体験できることが増えてきている。
	次年度方向性	地域の中で共に育ちつつある、つむぎ篠栗ルーム・篠栗どろんこ保育園の確立のために、積極的に地域を知り、経験を積んでいく。
3	計画・ねらい	温かい言葉、温かい食事といった、子どもにとってうれしい人と温かい心配りに囲まれる、深い愛情を基本とした生活を送る。
	実践結果	個々の発達特性などを十分に理解して、歌やリズム運動、食育の活動など興味関心のある活動に参加できるように工夫することが出来た。
	次年度方向性	子ども一人ひとりに応じた言葉がけや、一人ひとりを尊重した対応を意識しながら支援の向上を目指していく。

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	つむぎ 篠栗ルーム開所に際し、保育内容や保育目標、保育理念についての説明を丁寧にし、不安なく利用してもらえるように特に気を配る。
	実践結果	日々のフィードバックを丁寧に、そしてその中での対話を大切に丁寧に行うことができた。
	次年度方向性	何故、インクルーシブな環境が必要なのかを引き続き丁寧に説明していく。
2	計画・ねらい	幼保連携型認定こども園である篠栗どろんこ保育園・つむぎ 篠栗ルームの併設園として、養護と教育が一体となった生活を丁寧に担保しながら、その様子を保護者と共有していく。
	実践結果	運動会、生活発表会などの行事には保護者も積極的に参加し、子どもの成長を喜び合うことができた。ポートフォリオなどのヴィジブルな情報については不十分さが残る。
	次年度方向性	保護者に、施設の取り組みを積極的に発信するためにはどのような方法が良いのか検討していく。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域に開かれた子育て支援を実現すべく、保育園の園庭を活用した支援活動を行う。
	実践結果	園庭開放や保育室の開放など、地域へのアナウンスの仕方が充分ではなかったため、充分な集客は望めなかった。
	次年度方向性	散歩や商店街ツアーなどの積極的な活用、地域の方の資源などを活用しながら親子の方々に施設を利用してもらえるよう工夫する。
2	計画・ねらい	子育て世帯を取り巻く様々な人とのつながりのきっかけを見つけ、実際につながり広がっていくためのフィールド作りを始める。
	実践結果	ささぐり Doronko＋Tumuide パークは、実践できずじまいになってしまった。
	次年度方向性	異世代交流の場としてどのような取り組みを行っていくのか、再検討して、決定したことを実践していく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	乳幼児の発達や道筋や連続性をとらえ、生活や遊びを明るく楽しく穏やかに展開しながら、子ども一人ひとりを大切にできる保育教諭や支援員として成長していく。
	実践結果	乳幼児期の育ちと5領域や10の姿についての学びについて日々、子どもへの対応は適切だったかを確認しながら対応してきたが、まだまだ不十分な部分もある。
	次年度方向性	日々の子どもの姿を的確に捉え、様々な手法を用いて子どもにとっての応答的な対応は何かを追求していく。

2	計画・ねらい	子どもも大人も一人ひとりが尊重される園を目指し、その人の持ち味やチームワークが生かされる支援を行う。
	実践結果	畑や動物飼育の役割分担、コンポストで堆肥づくり＋ヴィジュアルな支援評価など幅広い取り組みを行うという点について、子どもが主体となった仕事の位置づけに苦戦をした結果になった。
	次年度方向性	畑や生き物の世話は子どもが行うべき仕事として位置づけ、スタッフ主体で行うものではないということを意識しなおし、子どもとともに“労働”として行うことの意義を再度、確認する。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	発達支援事業、保育事業および子育て事業の双方を通し、つむぎ 篠栗ルーム・篠栗どろんこ保育園の環境そのものが地域における総合的な学びの場、相互的な育ちの場になることを目指す。
	実践結果	温かく美しいうるおいのある園になっていく実践予定については、子どもの意欲や意識を巻き込みながら試行錯誤をしながら、スタッフ同士が意識し合いながら前進していくことができた。
	次年度方向性	計画した事柄については、すべてのスタッフの意思統一を図りながら見通しを持って実践していく。
2	計画・ねらい	食材や食の循環、環境への意識を育む環境教育を実践する。
	実践結果	子どもが自らの種まき、水やり、雑草抜き、収穫、加工などを経験するという基本的な行動は年度末になるにしたがって寒さで土が凍ってしまい、生長しようとする苗を鳥に食べられるというアクシデントがあり、それに対して子どもの意識が希薄だった姿勢が見られ、畑仕事を継続的に行えていなかったことを猛省する。
	次年度方向性	スタッフ一人ひとりが畑仕事に意識を持って子どもと取り組むことを念頭に置いて、継続的に日々の日課として行っていく。
3	計画・ねらい	食の循環サイクルの実践を行う。
	実践結果	食の残渣を記録して、コンポストを設置し、野菜くずやヤギの糞等で堆肥を作る経験をする点において、堆肥になっていく過程をスタッフが子どもと一緒に確認する作業に不十分さが残る。
	次年度方向性	係を設置して、日々子どもと一緒に作業を行うことにより、真のリサイクルの意識を培っていく。

〈6〉インクルーシブ保育の実践

1	計画・ねらい	つむぎ 篠栗ルーム、篠栗どろんこ保育園の子ども一人ひとりを多面的に捉え、肯定的に子どもを理解しようとする。
	実践結果	園内研修で、子どものエピソードを基にした考察の機会を設け、話し合いの場を多く持ち、子どもの発達理解に努めるという実践予定については、リフレクションする機会が少なくなり、スタッフの意識統一については不

		十分さが残った。
	次年度方向性	リフレクションなどの手法を大いに用いて、子どもを多面的に捉え、子どもの長所や潜在している力を培っていくことを意識しながら、つむぎ篠栗ルーム・篠栗どろんこ保育園両方のスタッフで進めていく。
2	計画・ねらい	自然に協働するチームを構築する。
	実践結果	ち共に協力し合う体制を取り、互いの専門性を活かしながら高めていくという点において、併設園としてスタッフ同士が混ざっていく意識はあるものの、もう一歩踏み込んだところでの協働が必要である。
	次年度方向性	日々の支援、保育、行事等、すべてにおいて一つの組織としての意識を持ち互いに高めながら進めていく。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

児童発達支援　利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数		18人	45人	68人	88人	89人	120人	122人	130人	156人	148人	191人	1173人
登録児数		4人	3人	1人	2人	0人	2人	0人	3人	0人	0人	0人	15人

（解説）5月開所。マンスリー利用児のみで稼働。地道ながら登録児、稼働率ともには増加している。併設園としてインクルージョンを展開して、多くの混ざり合いの場面があり、交流機会は多い。生活を共にして楽しみながら成長を促すことができている。引き続き毎日の定員10人を目指していく。

〈2〉開所時間

８時３０分～１７時３０分

〈3〉スタッフ構成　（３月１日時点）

施設長1名
児童発達支援管理責任者1名
保育士１名
機能訓練担当１名（作業療法士１名）
児童指導員２名

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
施設内会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・行事などについての話し合い
給食運営会議	月1回	子供の喫食状況、食具の確認、アレルギー児確認
事故防止委員会	月1回	インシデント・ヒヤリハットなどの分析及び対応策の検討等
支援計画策定会議	随時	利用児それぞれの計画をスタッフと児童発達支援責任者が参加し個々の目標を決めていく。

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
児発管会議	年4回	児発管
併設園会議	年2回	施設長
食育会議	年4回 （5.8.11.2月）	施設長 調理スタッフ
保健会議	年4回 （5.8.11.2月）	施設長
子育ての質を上げる会議	月1回	スタッフ

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	児童保健衛生に係る身体測定・定期健康・歯科検診などの実施と保護者との連携、施設の清掃と衛生管理・消耗品・備品管理・感染症予防対策、園内外の環境状況の管理など、役割を明確にして、ほぼ滞りなく進めることができた。

安全対策係	避難訓練の実施、防災自主点検の実施管理、園内外の設備点検及び事故防止点検の実施など計画に合わせて行うことができた。
防火管理者	施設内外の火元の管理、消防計画の作成と届出、防災・消火についての毎月１回のスタッフ訓練と日常的な啓もうを行うなど、計画に基づいて実施する。
食品衛生管理係	給食食材及び提供食材の衛生管理と在庫状況の管理を実施。
畑係	畑状況の管理、道具類の維持補充、乳幼児や職員の畑活動の把握や課題検討におけるイニシアチブの係であったが、子どもと一緒に行うことが充分にできず、来年度の課題である。
生き物係	飼育動物の健康管理、乳幼児や職員の生き物飼育活動の把握や課題検討を行う係として役割分担を行ったが、子どもと一緒に仕事をするという点においては不十分だった。

〈４〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	どろんこサポーターズがまだ存在していないため、スタッフがどろんこ祭りを開催する。次年度は、早めにどろんこサポーターズを募集して、スタッフとともに開催する。

4. 支援・処遇

〈１〉保護者面談 および発達相談・児童の保護者への支援および意見要望への対応

マンスリー	・リズム遊び、運動遊び、戸外活動を積極的に行いながら丈夫な体を作れるような環境作りの工夫を行った。 ・豊かな環境の中、子どもが主体的に活動する中で好奇心や探究心や考える力を育てられるような環境を設定した。 ・仲間や異年齢児と遊ぶ楽しさを経験する中で、友だちへの関心や優しさ、思いやりの心を育てることができた。
家族支援	５～3月まで　合計１９名　が参加済み　　（3月１５日時点） ・発達についての個別相談に加え、つむぎ利用児の保護者様向けに懇親会を行った。
保護者面談 発達相談	・随時、必要に応じて実施した。

関係機関との連携	５～3月まで　合計７名　が参加済み　　（3月１日時点） ・所属しているこども園や他の児童発達支援事業所と連携して、自施設における支援内容の情報提供、調整を行った。

〈2〉計画した年間行事の振返り

別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	どろんこ会の食育方針（（1）調理員・保育士・施設長は子どもと一緒に食べる（2）噛む力を育て素材の味を味わえる状態で提供する。（3）子どもが自分たちで盛付・配膳して食べる）を基本として食欲と意欲を育てる。
	実践結果	特に（3）においては、食べられる量を食べたい友だち同士で食べるという点において一人ひとりへの丁寧な関わりがもう少し必要だった。
	次年度方向性	子どもが主体的に行動できるように、スタッフ同士で一人ひとりの子どもの状態を把握し合い、丁寧に関わる。
2	計画・ねらい	日常の生活に密着した楽しい食育を充実させる。 分かち合う事の素晴らしさや大切さを感じられるように工夫する。
	実践結果	異年齢児の中で、食べたい子どもたちから食事に向かうというスタイルが徐々に定着し、子どもが自主的に行動する姿が見られるようになる。
	次年度方向性	年齢が低くても子どもが楽しんで食に向かうにはどのような方法があるかをスタッフ同士で考え実践していく。
3	計画・ねらい	1年を通して安心できる環境の下、縁側や戸外で気持ちよく食べる。友だちや身近なおとなと親しみをもって楽しく食べる。
	実践結果	施設の構造上、夏は暑く、冬は寒い中で1年を通して縁側で食事をすることが難しい面があった。
	次年度方向性	なるべく戸外での楽しい食事をするために、どのような工夫ができるかを検討していく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
流行した感染症	３月にウイルス性胃腸炎、児童２名感染報告有り。３月15日に終息
発作・痙攣等の対応	ダイアップの預かり無し

エピペン使用できるスタッフの状況	本日時点で、1名が研修し習得済
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、元気な体づくりの体操・うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回/15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（法定1回/3年）	業者による対象物の法定点検 2024年実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回
衛生管理	衛生管理点検表/毎日	毎日実施
	衛生管理点検表/毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表/毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿/毎日	毎日業務開始前
運営管理	児童･保護者の人権に関するﾁｪｯｸ	年2回/4･10月の施設内会議時
	ｺﾝﾋﾟﾃﾝｼｰ自己採点	毎月1回/施設内会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	子どもたち自身の生活やあそびは子どもたち自身でまかなう事ができるよう、乳幼児の育ちをとらえ児童処遇を考察し、環境設定や環境構成を具体的かつ意図的に整え、継続的に点検と整備、改善を具体的に行う。

	実践結果	認定こども園への移行期間の工事個所について安全の確保を第一に考慮していくことができた。
	次年度方向性	広い敷地内において、改善すべき点もあるため、計画的に粛々と進めていく。
2	計画・ねらい	新型コロナウイルスに係る外出自粛要請などの特別な措置が講じられた場合、活動内容の縮小や制限により子どもの育ちや学びが大きく阻害されないように特に配慮し、新たな工夫や構想を以て健全な成長発達に確実に寄与していく。
	実践結果	活動自粛もなくなり、園庭など戸外での活動を主とした感染しない環境と体づくりという点においては自然が充実している地域での戸外遊びを満喫することができ、感染症の拡大もなくＩ年間を過ごすことができた。
	次年度方向性	子どもの主体性を重んじ、更なるい地域での活動の幅を広げていく。

〈7〉手作り遊具安全点検結果

手作り遊具一覧
該当なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

Ｉ	実践結果	防災管理マニュアルの災害対策に則り、有事の際にはフローチャートに従うことをスタッフに周知して備えることができた。また、毎月の避難訓練などは滞りなく遂行することができた。
2	実践結果	危機管理マニュアルの怪我防止策・安全点検と保全に則り設備点検のチェックの実施、安全教育、SIDS 防止策などを徹底して行った。
3	実践結果	危機管理マニュアルの不審者対策に則り、訓練の実施(ＩＩ月には管轄の警察署の署員に来園してもらい訓練の監修、防犯に対する講話も子どもや送迎に遭遇した保護者に対してしていただいた)、笛の携帯、代理送迎者の把握、不審者情報の招集と共有などを確実にした。
4	実践結果	危機管理マニュアルの光化学スモッグ対策に則り、光化学スモッグに対しての正しい知識を身につけ、注意報の発令の把握をスタッフに周知した。

6. 実習生・中高生の受入

〈Ｉ〉今年度の振返り

要望があった学校からの実習生はすべて受け入れることができた。また、責任実習で来園した実習生２名は、そのまま、来年度保育園職員として入職予定である。

〈2〉実習生の受け入れ

日程	学校名	人数	実習内容
5月27日～6月7日	中村学園短期大学	1人	責任実習
7月1日～7月12日	九州産業大学人間科学部	1人	責任実習
2月12日～26日	三幸学園福岡子ども専門学校	1人	見学実習
3月3日～3月14日	純真短期大学	1人	見学実習

〈3〉中高生の受入
該当なし

7．スタッフ研修

〈1〉施設内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	26日 29名	24日 29名	21日 31名	26日 27名	23日 28名	27日 28名	25日 29名	15日 26名	26日 22名	24日 26名	21日 26名	19日 26名
園内研修	26日 29名	24日 29名	21日 31名	26日 27名	23日 28名	27日 28名	25日 29名	15日 26名	26日 22名	24日 26名	21日 26名	19日 26名

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
9月13～10月4日	公益社団法人　福岡県社会福祉士会	２０２４年度　福岡県サービス管理責任者・児童発達支援責任者基礎研修（後期）	1名	有
9月25日～10月31日	公益社団法人　福岡県社会福祉士会	２０２４年度　福岡県相談支援従事者初任者研修（後期）講義部分	1名	有

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	21日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	12月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	該当なし											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	該当なし											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

法人理念における保育方針「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」にある通り、園外に出かけ近隣住民や身近な人と様々な関わりを経験し、子どもたち一人ひとりが地域に愛される存在になるよう計画し実践するという点において、商店街ツアー、世代間交流など計画的に実施し、つむぎ篠栗ルーム、篠栗どろんこ保育園の存在を知ってもらう機会になった。また、年度末には近隣の農家の方からの申し入れで、登園の畑の管理など協力依頼があるなど、関わりの広がりを見せている。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：中町区健康広場にて
商店街ツアー	週1回　主な行き先等：篠栗駅、村島饅頭店、ライト紙工、西日本新聞店、大師饅頭店、社会教育センター等
世代間交流	10月31日に篠栗どろんこ保育園にて泯江宛の方を招いて実施
異年齢交流	該当なし

その他活動	該当なし

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

子ども園における遊びや生活を通しての体験を中心とした総合的な指導と、小学校における時間割に基づき教科・教材を用いて学習を行う教育への円滑な接続に向け、アプローチカリキュラムを策定していくという予定ではあったが、小学校との交流に苦戦し、なかなか広がることがなかったので来年度は年度当初より、積極的に小学校の交流を明確にしていく。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
6月4日	篠栗小学校	23名	篠栗小学校（校庭）	子ども間交流
9月30日	篠栗小学校	2名	当園幼児保育室	子ども間交流
11月21日	北勢門小学校	1名	支援会議	職員間交流
3月18日	篠栗小学校	25名	小学校見学	子ども間交流
3月19日	勢門小学校	1名	園児情報交換会	職員間交流
3月21日	篠栗小学校	1名	園児情報交換会	職員間交流

10. 個別支援計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

6ヶ月に1回更新していく中で（利用から初回は3か月に1回）、5領域と子どもの発達成長度合いや支援内容、保護者様の思いに応じて更新を行っていった。

〈2〉進級引継、および小学校への引継状況

保護者様からの要請あれば、就学支援シートを活用して情報提供する準備有。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名

実施項目	詳細
施設開放	（月）～（土）9:30～16:30　にて実施　来園延べ人数：７名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週（水）10:00～12:00 参加者延べ人数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名

どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週（水）10:00～12:00 参加者延べ人数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名

勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00　にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育 （支援センター主催）	月1回　　公園名：中町区健康広場にて　以下日程にて実施

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉施設による自己評価の実施

２０２５年３月２５日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定。
自己評価開始時刻：14時00分
自己評価終了時刻：17時00分
自己評価実施者：黒川 裕子、藤井 美香、川原 英樹、中島 静香

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月15日
アンケート回収率：100%

利用するすべての保護者様に回答いただき、お子さまの成長を実感しているという声を多くお聞かせいただくことができた。今後も保護者様に寄り添い、また、どろんこ会ならではのたくさんの子どもたちの中に身を置き、実際に体験して様々な感情を抱く経験を積んでいくという、つむぎ独自の支援を提供していきたい。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

該当なし

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

「報告すべきケガ（事故含む）　0件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：発達支援つむぎ 篠栗ルーム施設長　藤井 美香